NetBackup™ 状態コードリファレンスガイド

UNIX、Windows および Linux

リリース 11.2.0.1

COHESITY

NetBackup™ 状態コードリファレンスガイド

最終更新日: 2026-10-07

法的通知と登録商標

Copyright © 2026 Cohesity, Inc. All rights reserved.

© 2026 Cohesity, Inc. All Rights Reserved.Cohesity、Cohesity ロゴ、その他の Cohesity マークは、Cohesity, Inc. の米国における、および/または国際的な商標です。ここで提供される情報は、Cohesity の機密情報および専有情報であり、(a) 意図された受信者により、(b) 有効なライセンスを受けた Cohesity ソフトウェアおよびサービスと共にのみ使用することができます。Cohesity ライセンスの条項については、www.cohesity.com/agreements を参照してください。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

Cohesity サポート

Cohesity サポートへのお問い合わせ

Cohesity サポートケースを作成するには、いくつかの方法があります。

- Cohesity サポートに移動してベリタスのナレッジベースで検索するか、電話で問い合わせます (米国およびカナダ: 1-855-9CO-HESI (926-4374)、オプション 2)。
- Cohesity サポートポータルにログインして、新しいケースを作成します。
- Cohesity UI の (?) アイコンをクリックし、[サポートポータル (Support Portal)]を選択します。

サポートおよびサービスアシスタンス

最初に、サービスおよびサポートを契約したサービスプロバイダにお問い合わせください。Cohesity と直接連携している場合や、製品の保証や資格、修理の価格設定、またはテクニカルサポートに関連する質問がある場合は、以下のオプションを参照してください。

- 製品の問題に対するソリューションや、提案およびベストプラクティスを見つけるには、Cohesity ナレッジベースを参照してください。
- Cohesity サポートポータルにログインして、新しいケースを作成します。
- オープン中のケースを監視するには、ポータルにログインし、ホームページの[ケース (Cases)]タブをクリックします。このページには、すべてのケースの状態と更新が表示されるはずです。個々のケースの状態を表示することもできます。

パートナーのハードウェアで実行されている Cohesity ソフトウェア

認定されたサードパーティ製ハードウェアで動作する Cohesity ソフトウェアの場合、次のサポートワークフローが適用されます。

1. ハードウェアの問題であると判断できない場合は、まず Cohesity サポートにお問い合わせください。

   メモ: Cohesity はパートナーのハードウェアの交換要求を処理できません。

2. Cohesity サポートは問題の優先順位を判断します。ソフトウェアの問題の場合、Cohesity サポートは引き続きこの問題に取り組みます。
3. ハードウェアまたはファームウェアの問題であるかその可能性がある場合、Cohesity は問題に関する情報をお客様に提供し、適切なパートナーに対するサポートチケットを発行するようお客様に依頼します。
4. Cohesity サポートは必要に応じて、パートナーとお客様との三者通話に参加できます。
5. お客様がパートナーのケースの進捗状況を Cohesity サポートに通知します。

目次

第 1 章 NetBackup の状態コード 88

NetBackup の状態コード 88
NetBackup の状態コード: 0 88
NetBackup の状態コード: 1 89
NetBackup の状態コード: 2 95
NetBackup の状態コード: 3 96
NetBackup の状態コード: 4 96
NetBackup の状態コード: 5 96
NetBackup の状態コード: 6 98
NetBackup の状態コード: 7 101
NetBackup の状態コード: 8 101
NetBackup の状態コード: 9 102
NetBackup の状態コード: 10 102
NetBackup の状態コード: 11 102
NetBackup の状態コード: 12 104
NetBackup の状態コード: 13 106
NetBackup の状態コード: 14 110
NetBackup の状態コード: 15 111
NetBackup の状態コード: 16 111
NetBackup の状態コード: 17 111
NetBackup の状態コード: 18 111
NetBackup の状態コード: 19 112
NetBackup の状態コード: 20 113
NetBackup の状態コード: 21 116
NetBackup の状態コード: 22 116
NetBackup の状態コード: 23 117
NetBackup の状態コード: 24 118
NetBackup の状態コード: 25 119
NetBackup の状態コード: 26 123
NetBackup の状態コード: 27 123
NetBackup の状態コード: 28 124
NetBackup の状態コード: 29 124
NetBackup の状態コード: 30 125
NetBackup の状態コード: 31 125
NetBackup の状態コード: 32 125
NetBackup の状態コード: 33 126

NetBackup の状態コード: 34 126
NetBackup の状態コード: 35 126
NetBackup の状態コード: 36 127
NetBackup の状態コード: 37 127
NetBackup の状態コード: 38 129
NetBackup の状態コード: 39 129
NetBackup の状態コード: 40 129
NetBackup の状態コード: 41 130
NetBackup の状態コード: 42 134
NetBackup の状態コード: 43 134
NetBackup の状態コード: 44 135
NetBackup の状態コード: 45 135
NetBackup の状態コード: 46 136
NetBackup の状態コード: 47 137
NetBackup の状態コード: 48 138
NetBackup の状態コード: 49 139
NetBackup の状態コード: 50 139
NetBackup の状態コード: 51 141
NetBackup の状態コード: 52 142
NetBackup の状態コード: 53 142
NetBackup の状態コード: 54 143
NetBackup の状態コード: 55 144
NetBackup の状態コード: 56 144
NetBackup の状態コード: 57 145
NetBackup の状態コード: 58 146
NetBackup の状態コード: 59 146
NetBackup の状態コード: 60 148
NetBackup の状態コード: 61 149
NetBackup の状態コード: 63 149
NetBackup の状態コード: 64 149
NetBackup の状態コード: 65 150
NetBackup の状態コード: 66 151
NetBackup の状態コード: 67 151
NetBackup の状態コード: 68 152
NetBackup の状態コード: 69 152
NetBackup の状態コード: 70 153
NetBackup の状態コード: 71 154
NetBackup の状態コード: 72 155
NetBackup の状態コード: 73 155
NetBackup の状態コード: 74 155
NetBackup の状態コード: 75 155
NetBackup の状態コード: 76 156
NetBackup の状態コード: 77 156

NetBackup の状態コード: 78 157
NetBackup の状態コード: 79 157
NetBackup の状態コード: 80 158
NetBackup の状態コード: 81 158
NetBackup の状態コード: 82 159
NetBackup の状態コード: 83 159
NetBackup の状態コード: 84 160
NetBackup の状態コード: 85 162
NetBackup の状態コード: 86 163
NetBackup の状態コード: 87 164
NetBackup の状態コード: 88 165
NetBackup の状態コード: 89 165
NetBackup の状態コード: 90 166
NetBackup の状態コード: 91 167
NetBackup の状態コード: 92 168
NetBackup の状態コード: 93 169
NetBackup の状態コード: 94 169
NetBackup の状態コード: 95 170
NetBackup の状態コード: 96 170
NetBackup の状態コード: 97 172
NetBackup の状態コード: 98 173
NetBackup の状態コード: 99 173
NetBackup の状態コード: 100 174
NetBackup の状態コード: 101 174
NetBackup の状態コード: 102 175
NetBackup の状態コード: 103 175
NetBackup の状態コード: 104 176
NetBackup の状態コード: 105 176
NetBackup の状態コード: 106 176
NetBackup の状態コード: 108 177
NetBackup の状態コード: 109 177
NetBackup の状態コード: 110 178
NetBackup の状態コード: 111 178
NetBackup の状態コード: 112 179
NetBackup の状態コード: 114 180
NetBackup の状態コード: 116 180
NetBackup の状態コード: 117 181
NetBackup の状態コード: 118 183
NetBackup の状態コード: 120 184
NetBackup の状態コード: 121 185
NetBackup の状態コード: 122 185
NetBackup の状態コード: 123 185
NetBackup の状態コード: 124 186

NetBackup の状態コード: 125 186
NetBackup の状態コード: 126 186
NetBackup の状態コード: 127 187
NetBackup の状態コード: 128 187
NetBackup の状態コード: 129 188
NetBackup の状態コード: 130 189
NetBackup の状態コード: 131 190
NetBackup の状態コード: 132 191
NetBackup の状態コード: 133 191
NetBackup の状態コード: 134 192
NetBackup の状態コード: 135 193
NetBackup の状態コード: 136 193
NetBackup の状態コード: 140 194
NetBackup の状態コード: 141 194
NetBackup の状態コード: 142 194
NetBackup の状態コード: 143 195
NetBackup の状態コード: 144 195
NetBackup の状態コード: 145 196
NetBackup の状態コード: 146 196
NetBackup の状態コード: 147 197
NetBackup の状態コード: 148 197
NetBackup の状態コード: 149 197
NetBackup の状態コード: 150 198
NetBackup の状態コード: 152 198
NetBackup の状態コード: 153 198
NetBackup の状態コード: 154 199
NetBackup の状態コード: 155 199
NetBackup の状態コード: 156 200
NetBackup の状態コード: 157 201
NetBackup の状態コード: 158 201
NetBackup の状態コード: 159 202
NetBackup の状態コード: 160 203
NetBackup の状態コード: 161 204
NetBackup の状態コード: 162 204
NetBackup の状態コード: 163 204
NetBackup の状態コード: 164 205
NetBackup の状態コード: 165 205
NetBackup の状態コード: 166 205
NetBackup の状態コード: 167 206
NetBackup の状態コード: 168 206
NetBackup の状態コード: 169 206
NetBackup の状態コード: 170 207
NetBackup の状態コード: 171 208

NetBackup の状態コード: 172 209
NetBackup の状態コード: 173 209
NetBackup の状態コード: 174 210
NetBackup の状態コード: 175 211
NetBackup の状態コード: 176 212
NetBackup の状態コード: 177 213
NetBackup の状態コード: 178 213
NetBackup の状態コード: 179 213
NetBackup の状態コード: 180 214
NetBackup の状態コード: 181 214
NetBackup の状態コード: 182 214
NetBackup の状態コード: 183 215
NetBackup の状態コード: 184 216
NetBackup の状態コード: 185 216
NetBackup の状態コード: 186 217
NetBackup の状態コード: 189 218
NetBackup の状態コード: 190 218
NetBackup の状態コード: 191 218
NetBackup の状態コード: 192 220
NetBackup の状態コード: 193 221
NetBackup の状態コード: 194 221
NetBackup の状態コード: 195 222
NetBackup の状態コード: 196 222
NetBackup の状態コード: 197 223
NetBackup の状態コード: 198 223
NetBackup の状態コード: 199 224
NetBackup の状態コード: 200 224
NetBackup の状態コード: 201 225
NetBackup の状態コード: 202 226
NetBackup の状態コード: 203 227
NetBackup の状態コード: 204 228
NetBackup の状態コード: 205 230
NetBackup の状態コード: 206 231
NetBackup の状態コード: 207 232
NetBackup の状態コード: 209 233
NetBackup の状態コード: 210 233
NetBackup の状態コード: 212 233
NetBackup の状態コード: 213 234
NetBackup の状態コード: 215 235
NetBackup の状態コード: 216 236
NetBackup の状態コード: 217 236
NetBackup の状態コード: 218 237
NetBackup の状態コード: 219 237

NetBackup の状態コード: 220 238
NetBackup の状態コード: 221 239
NetBackup の状態コード: 222 239
NetBackup の状態コード: 223 239
NetBackup の状態コード: 224 240
NetBackup の状態コード: 225 240
NetBackup の状態コード: 226 240
NetBackup の状態コード: 227 241
NetBackup の状態コード: 228 241
NetBackup の状態コード: 229 241
NetBackup の状態コード: 230 242
NetBackup の状態コード: 231 242
NetBackup の状態コード: 232 242
NetBackup の状態コード: 233 242
NetBackup の状態コード: 234 243
NetBackup の状態コード: 235 243
NetBackup の状態コード: 236 244
NetBackup の状態コード: 237 244
NetBackup の状態コード: 238 244
NetBackup の状態コード: 239 245
NetBackup の状態コード: 240 245
NetBackup の状態コード: 241 245
NetBackup の状態コード: 242 246
NetBackup の状態コード: 243 246
NetBackup の状態コード: 245 246
NetBackup の状態コード: 246 246
NetBackup の状態コード: 247 247
NetBackup の状態コード: 248 247
NetBackup の状態コード: 249 247
NetBackup の状態コード: 250 247
NetBackup の状態コード: 251 248
NetBackup の状態コード: 252 248
NetBackup の状態コード: 253 248
NetBackup の状態コード: 254 249
NetBackup の状態コード: 256 249
NetBackup の状態コード: 257 249
NetBackup の状態コード: 258 250
NetBackup の状態コード: 259 250
NetBackup の状態コード: 260 250
NetBackup の状態コード: 261 250
NetBackup の状態コード: 262 251
NetBackup の状態コード: 263 251
NetBackup の状態コード: 265 251

NetBackup の状態コード: 266 252
NetBackup の状態コード: 267 252
NetBackup の状態コード: 268 253
NetBackup の状態コード: 269 253
NetBackup の状態コード: 270 253
NetBackup の状態コード: 271 254
NetBackup の状態コード: 272 254
NetBackup の状態コード: 273 254
NetBackup の状態コード: 274 255
NetBackup の状態コード: 275 255
NetBackup の状態コード: 276 255
NetBackup の状態コード: 277 255
NetBackup の状態コード: 278 256
NetBackup の状態コード: 279 256
NetBackup の状態コード: 280 256
NetBackup の状態コード: 281 256
NetBackup の状態コード: 282 257
NetBackup の状態コード: 283 257
NetBackup の状態コード: 284 258
NetBackup の状態コード: 285 258
NetBackup の状態コード: 286 258
NetBackup の状態コード: 287 259
NetBackup の状態コード: 288 259
NetBackup の状態コード: 289 259
NetBackup の状態コード: 290 260
NetBackup の状態コード: 291 260
NetBackup の状態コード: 292 261
NetBackup の状態コード: 293 261
NetBackup の状態コード: 294 262
NetBackup の状態コード: 295 263
NetBackup の状態コード: 296 263
NetBackup の状態コード: 297 264
NetBackup の状態コード: 298 264
NetBackup の状態コード: 299 265
NetBackup の状態コード: 300 265
NetBackup の状態コード: 301 266
NetBackup の状態コード: 302 267
NetBackup の状態コード: 303 267
NetBackup の状態コード: 304 268
NetBackup の状態コード: 305 268
NetBackup の状態コード: 306 268
NetBackup の状態コード: 307 269
NetBackup の状態コード: 308 269

NetBackup の状態コード: 309 270
NetBackup の状態コード: 310 270
NetBackup の状態コード: 311 270
NetBackup の状態コード: 312 271
NetBackup の状態コード: 313 271
NetBackup の状態コード: 314 271
NetBackup の状態コード: 315 272
NetBackup の状態コード: 316 272
NetBackup の状態コード: 317 273
NetBackup の状態コード: 318 273
NetBackup の状態コード: 319 273
NetBackup の状態コード: 320 274
NetBackup の状態コード: 321 274
NetBackup の状態コード: 322 275
NetBackup の状態コード: 323 275
NetBackup の状態コード: 324 275
NetBackup の状態コード: 325 276
NetBackup の状態コード: 326 276
NetBackup の状態コード: 327 277
NetBackup の状態コード: 328 277
NetBackup の状態コード: 329 277
NetBackup の状態コード: 330 278
NetBackup の状態コード: 331 278
NetBackup の状態コード: 332 278
NetBackup の状態コード: 333 279
NetBackup の状態コード: 334 279
NetBackup の状態コード: 335 279
NetBackup の状態コード: 336 280
NetBackup の状態コード: 337 280
NetBackup の状態コード: 338 280
NetBackup の状態コード: 339 280
NetBackup の状態コード: 340 281
NetBackup の状態コード: 341 281
NetBackup の状態コード: 342 281
NetBackup の状態コード: 343 282
NetBackup の状態コード: 344 282
NetBackup の状態コード: 345 282
NetBackup の状態コード: 346 282
NetBackup の状態コード: 347 283
NetBackup の状態コード: 348 283
NetBackup の状態コード: 349 283
NetBackup の状態コード: 350 284
NetBackup の状態コード: 351 284

NetBackup の状態コード: 400 284
NetBackup の状態コード: 401 285
NetBackup の状態コード: 402 285
NetBackup の状態コード: 403 285
NetBackup の状態コード: 404 286
NetBackup の状態コード: 405 286
NetBackup の状態コード: 406 287
NetBackup の状態コード: 407 287
NetBackup の状態コード: 408 288
NetBackup の状態コード: 409 288
NetBackup の状態コード: 410 288
NetBackup の状態コード: 411 289
NetBackup の状態コード: 412 289
NetBackup の状態コード: 413 289
NetBackup の状態コード: 501 290
NetBackup の状態コード: 502 290
NetBackup の状態コード: 503 290
NetBackup の状態コード: 504 291
NetBackup の状態コード: 505 291
NetBackup の状態コード: 506 292
NetBackup の状態コード: 507 293
NetBackup の状態コード: 508 293
NetBackup の状態コード: 509 294
NetBackup の状態コード: 510 295
NetBackup の状態コード: 511 295
NetBackup の状態コード: 512 296
NetBackup の状態コード: 513 296
NetBackup の状態コード: 514 297
NetBackup の状態コード: 516 297
NetBackup の状態コード: 517 298
NetBackup の状態コード: 518 298
NetBackup の状態コード: 519 299
NetBackup の状態コード: 520 299
NetBackup の状態コード: 521 300
NetBackup の状態コード: 522 300
NetBackup の状態コード: 523 300
NetBackup の状態コード: 525 301
NetBackup の状態コード: 526 301
NetBackup の状態コード: 527 302
NetBackup の状態コード: 537 302
NetBackup の状態コード: 538 302
NetBackup の状態コード: 552 303
NetBackup の状態コード: 555 303

NetBackup の状態コード: 600 303
NetBackup の状態コード: 601 304
NetBackup の状態コード: 602 304
NetBackup の状態コード: 603 305
NetBackup の状態コード: 604 305
NetBackup の状態コード: 605 306
NetBackup の状態コード: 606 306
NetBackup の状態コード: 607 306
NetBackup の状態コード: 608 307
NetBackup の状態コード: 609 307
NetBackup の状態コード: 610 308
NetBackup の状態コード: 611 308
NetBackup の状態コード: 612 308
NetBackup の状態コード: 613 309
NetBackup の状態コード: 614 309
NetBackup の状態コード: 615 310
NetBackup の状態コード: 616 310
NetBackup の状態コード: 617 310
NetBackup の状態コード: 618 311
NetBackup の状態コード: 619 311
NetBackup の状態コード: 620 311
NetBackup の状態コード: 621 312
NetBackup の状態コード: 622 312
NetBackup の状態コード: 623 312
NetBackup の状態コード: 624 313
NetBackup の状態コード: 625 313
NetBackup の状態コード: 626 314
NetBackup の状態コード: 627 314
NetBackup の状態コード: 628 314
NetBackup の状態コード: 629 315
NetBackup の状態コード: 630 315
NetBackup の状態コード: 631 316
NetBackup の状態コード: 632 316
NetBackup の状態コード: 633 317
NetBackup の状態コード: 634 317
NetBackup の状態コード: 635 317
NetBackup の状態コード: 636 318
NetBackup の状態コード: 637 318
NetBackup の状態コード: 638 319
NetBackup の状態コード: 639 319
NetBackup の状態コード: 640 320
NetBackup の状態コード: 641 320
NetBackup の状態コード: 642 320

NetBackup の状態コード: 643 321
NetBackup の状態コード: 644 321
NetBackup の状態コード: 645 322
NetBackup の状態コード: 646 322
NetBackup の状態コード: 647 323
NetBackup の状態コード: 648 323
NetBackup の状態コード: 649 324
NetBackup の状態コード: 650 324
NetBackup の状態コード: 651 325
NetBackup の状態コード: 652 325
NetBackup の状態コード: 653 326
NetBackup の状態コード: 654 326
NetBackup の状態コード: 655 326
NetBackup の状態コード: 656 327
NetBackup の状態コード: 657 327
NetBackup の状態コード: 658 328
NetBackup の状態コード: 659 328
NetBackup の状態コード: 660 329
NetBackup の状態コード: 661 329
NetBackup の状態コード: 662 329
NetBackup の状態コード: 663 330
NetBackup の状態コード: 664 330
NetBackup の状態コード: 665 331
NetBackup の状態コード: 667 331
NetBackup の状態コード: 668 331
NetBackup の状態コード: 669 332
NetBackup の状態コード: 670 332
NetBackup の状態コード: 671 332
NetBackup の状態コード: 800 333
NetBackup の状態コード: 801 333
NetBackup の状態コード: 802 334
NetBackup の状態コード: 803 335
NetBackup の状態コード: 805 335
NetBackup の状態コード: 806 336
NetBackup の状態コード: 807 337
NetBackup の状態コード: 811 337
NetBackup の状態コード: 812 337
NetBackup の状態コード: 813 338
NetBackup の状態コード: 818 338
NetBackup の状態コード: 819 338
NetBackup の状態コード: 823 338
NetBackup の状態コード: 830 339
NetBackup の状態コード: 831 340

NetBackup の状態コード: 832 340
NetBackup の状態コード: 833 340
NetBackup の状態コード: 859 341
NetBackup の状態コード: 860 341
NetBackup の状態コード: 861 341
NetBackup の状態コード: 867 342
NetBackup の状態コード: 868 342
NetBackup の状態コード: 900 343
NetBackup の状態コード: 901 343
NetBackup の状態コード: 902 343
NetBackup の状態コード: 903 344
NetBackup の状態コード: 904 344
NetBackup の状態コード: 905 345
NetBackup の状態コード: 906 345
NetBackup の状態コード: 907 345
NetBackup の状態コード: 908 346
NetBackup の状態コード: 912 346
NetBackup の状態コード: 914 347
NetBackup の状態コード: 915 347
NetBackup の状態コード: 916 347
NetBackup の状態コード: 917 348
NetBackup の状態コード: 918 348
NetBackup の状態コード: 925 348
NetBackup の状態コード: 927 349
NetBackup の状態コード: 928 349
NetBackup の状態コード: 930 349
NetBackup の状態コード: 1000 350
NetBackup の状態コード: 1001 350
NetBackup の状態コード: 1002 351
NetBackup の状態コード: 1004 351
NetBackup の状態コード: 1005 351
NetBackup の状態コード: 1006 352
NetBackup の状態コード: 1007 352
NetBackup の状態コード: 1008 353
NetBackup の状態コード: 1009 353
NetBackup の状態コード: 1010 353
NetBackup の状態コード: 1011 354
NetBackup の状態コード: 1012 354
NetBackup の状態コード: 1013 354
NetBackup の状態コード: 1014 355
NetBackup の状態コード: 1019 355
NetBackup の状態コード: 1020 355
NetBackup の状態コード: 1021 356

NetBackup の状態コード: 1022 356
NetBackup の状態コード: 1023 357
NetBackup の状態コード: 1024 357
NetBackup の状態コード: 1026 358
NetBackup の状態コード: 1057 358
NetBackup の状態コード: 1058 358
NetBackup の状態コード: 1227 358
NetBackup の状態コード: 1229 359
NetBackup の状態コード: 1260 360
NetBackup の状態コード: 1288 360
NetBackup の状態コード: 1289 361
NetBackup の状態コード: 1290 361
NetBackup の状態コード: 1291 362
NetBackup の状態コード: 1292 362
NetBackup の状態コード: 1293 363
NetBackup の状態コード: 1294 363
NetBackup の状態コード: 1295 363
NetBackup の状態コード: 1296 364
NetBackup の状態コード: 1297 364
NetBackup の状態コード: 1298 364
NetBackup の状態コード: 1299 365
NetBackup の状態コード: 1304 365
NetBackup の状態コード: 1305 366
NetBackup の状態コード: 1306 366
NetBackup の状態コード: 1307 366
NetBackup の状態コード: 1308 367
NetBackup の状態コード: 1309 367
NetBackup の状態コード: 1310 367
NetBackup の状態コード: 1311 368
NetBackup の状態コード: 1312 368
NetBackup の状態コード: 1313 368
NetBackup の状態コード: 1314 369
NetBackup の状態コード: 1315 369
NetBackup の状態コード: 1316 369
NetBackup の状態コード: 1317 370
NetBackup の状態コード: 1318 370
NetBackup の状態コード: 1401 371
NetBackup の状態コード: 1402 371
NetBackup の状態コード: 1403 371
NetBackup の状態コード: 1405 371
NetBackup の状態コード: 1407 372
NetBackup の状態コード: 1408 372
NetBackup の状態コード: 1409 372

NetBackup の状態コード: 1410 372
NetBackup の状態コード: 1411 373
NetBackup の状態コード: 1412 373
NetBackup の状態コード: 1413 373
NetBackup の状態コード: 1414 373
NetBackup の状態コード: 1415 373
NetBackup の状態コード: 1416 374
NetBackup の状態コード: 1417 374
NetBackup の状態コード: 1418 374
NetBackup の状態コード: 1419 374
NetBackup の状態コード: 1420 375
NetBackup の状態コード: 1421 375
NetBackup の状態コード: 1422 375
NetBackup の状態コード: 1423 375
NetBackup の状態コード: 1425 376
NetBackup の状態コード: 1426 376
NetBackup の状態コード: 1500 376
NetBackup の状態コード: 1501 377
NetBackup の状態コード: 1502 377
NetBackup の状態コード: 1503 378
NetBackup の状態コード: 1504 378
NetBackup の状態コード: 1505 379
NetBackup の状態コード: 1506 379
NetBackup の状態コード: 1507 380
NetBackup の状態コード: 1508 380
NetBackup の状態コード: 1509 380
NetBackup の状態コード: 1510 381
NetBackup の状態コード: 1511 381
NetBackup の状態コード: 1512 381
NetBackup の状態コード: 1513 381
NetBackup の状態コード: 1514 382
NetBackup の状態コード: 1515 382
NetBackup の状態コード: 1516 383
NetBackup の状態コード: 1517 383
NetBackup の状態コード: 1518 383
NetBackup の状態コード: 1519 384
NetBackup の状態コード: 1521 384
NetBackup の状態コード: 1522 384
NetBackup の状態コード: 1523 385
NetBackup の状態コード: 1524 385
NetBackup の状態コード: 1525 385
NetBackup の状態コード: 1526 386
NetBackup の状態コード: 1527 386

NetBackup の状態コード: 1528 386
NetBackup の状態コード: 1529 387
NetBackup の状態コード: 1530 388
NetBackup の状態コード: 1531 388
NetBackup の状態コード: 1532 389
NetBackup の状態コード: 1533 389
NetBackup の状態コード: 1534 390
NetBackup の状態コード: 1535 390
NetBackup の状態コード: 1536 390
NetBackup の状態コード: 1537 391
NetBackup の状態コード: 1538 391
NetBackup の状態コード: 1539 392
NetBackup の状態コード: 1540 392
NetBackup の状態コード: 1541 393
NetBackup の状態コード: 1542 393
NetBackup の状態コード: 1543 393
NetBackup の状態コード: 1545 394
NetBackup の状態コード: 1546 394
NetBackup の状態コード: 1547 394
NetBackup の状態コード: 1548 394
NetBackup の状態コード: 1549 395
NetBackup の状態コード: 1552 396
NetBackup の状態コード: 1553 396
NetBackup の状態コード: 1554 397
NetBackup の状態コード: 1556 397
NetBackup の状態コード: 1557 397
NetBackup の状態コード: 1558 398
NetBackup の状態コード: 1559 398
NetBackup の状態コード: 1560 398
NetBackup の状態コード: 1561 399
NetBackup の状態コード: 1562 399
NetBackup の状態コード: 1563 400
NetBackup の状態コード: 1564 400
NetBackup の状態コード: 1565 400
NetBackup の状態コード: 1566 400
NetBackup の状態コード: 1567 401
NetBackup の状態コード: 1568 401
NetBackup の状態コード: 1569 401
NetBackup の状態コード: 1570 402
NetBackup の状態コード: 1571 402
NetBackup の状態コード: 1572 403
NetBackup の状態コード: 1573 403
NetBackup の状態コード: 1574 403

NetBackup の状態コード: 1575 404
NetBackup の状態コード: 1576 404
NetBackup の状態コード: 1577 404
NetBackup の状態コード: 1578 405
NetBackup の状態コード: 1579 405
NetBackup の状態コード: 1580 405
NetBackup の状態コード: 1581 405
NetBackup の状態コード: 1582 406
NetBackup の状態コード: 1583 406
NetBackup の状態コード: 1584 406
NetBackup の状態コード: 1585 407
NetBackup の状態コード: 1586 407
NetBackup の状態コード: 1587 407
NetBackup の状態コード: 1588 408
NetBackup の状態コード: 1589 408
NetBackup の状態コード: 1590 408
NetBackup の状態コード: 1591 409
NetBackup の状態コード: 1592 409
NetBackup の状態コード: 1593 409
NetBackup の状態コード: 1594 410
NetBackup の状態コード: 1596 410
NetBackup の状態コード: 1597 410
NetBackup の状態コード: 1598 411
NetBackup の状態コード: 1599 411
NetBackup の状態コード: 1600 411
NetBackup の状態コード: 1601 412
NetBackup の状態コード: 1602 412
NetBackup の状態コード: 1603 412
NetBackup の状態コード: 1604 413
NetBackup の状態コード: 1608 413
NetBackup の状態コード: 1609 413
NetBackup の状態コード: 1610 414
NetBackup の状態コード: 1611 414
NetBackup の状態コード: 1612 414
NetBackup の状態コード: 1613 415
NetBackup の状態コード: 1614 415
NetBackup の状態コード: 1615 415
NetBackup の状態コード: 1616 416
NetBackup の状態コード: 1617 416
NetBackup の状態コード: 1618 416
NetBackup の状態コード: 1630 417
NetBackup の状態コード: 1633 417
NetBackup の状態コード: 1634 417

NetBackup の状態コード: 1635 418
NetBackup の状態コード: 1636 418
NetBackup の状態コード: 1637 418
NetBackup の状態コード: 1641 419
NetBackup の状態コード: 1642 419
NetBackup の状態コード: 1643 419
NetBackup の状態コード: 1645 420
NetBackup の状態コード: 1646 420
NetBackup の状態コード: 1800 420
NetBackup の状態コード: 1850 421
NetBackup の状態コード: 1851 421
NetBackup の状態コード: 1915 421
NetBackup の状態コード: 1916 422
NetBackup の状態コード: 1917 422
NetBackup の状態コード: 1918 422
NetBackup の状態コード: 1919 423
NetBackup の状態コード: 1920 423
NetBackup の状態コード: 1921 424
NetBackup の状態コード: 1922 424
NetBackup の状態コード: 1924 424
NetBackup の状態コード: 1925 425
NetBackup の状態コード: 1926 425
NetBackup の状態コード: 1927 425
NetBackup の状態コード: 1928 425
NetBackup の状態コード: 1932 426
NetBackup の状態コード: 1933 426
NetBackup の状態コード: 1946 427
NetBackup の状態コード: 1952 427
NetBackup の状態コード 1953 427
NetBackup の状態コード: 1954 427
NetBackup の状態コード: 1955 428
NetBackup の状態コード: 1956 428
NetBackup の状態コード: 1957 428
NetBackup の状態コード: 1958 429
NetBackup の状態コード: 1960 429
NetBackup の状態コード: 1961 430
NetBackup の状態コード: 1962 430
NetBackup の状態コード: 1967 430
NetBackup の状態コード: 1968 431
NetBackup の状態コード: 1969 431
NetBackup の状態コード: 1970 431
NetBackup の状態コード: 1974 432
NetBackup の状態コード: 2000 433

NetBackup の状態コード: 2001 434
NetBackup の状態コード: 2002 434
NetBackup の状態コード: 2003 435
NetBackup の状態コード: 2004 435
NetBackup の状態コード: 2005 435
NetBackup の状態コード: 2006 436
NetBackup の状態コード: 2007 436
NetBackup の状態コード: 2008 437
NetBackup の状態コード: 2009 437
NetBackup の状態コード: 2010 437
NetBackup の状態コード: 2011 438
NetBackup の状態コード: 2012 438
NetBackup の状態コード: 2013 438
NetBackup の状態コード: 2014 439
NetBackup の状態コード: 2015 439
NetBackup の状態コード: 2016 439
NetBackup の状態コード: 2017 440
NetBackup の状態コード: 2018 440
NetBackup の状態コード: 2019 440
NetBackup の状態コード: 2020 441
NetBackup の状態コード: 2021 441
NetBackup の状態コード: 2022 441
NetBackup の状態コード: 2023 442
NetBackup の状態コード: 2024 442
NetBackup の状態コード: 2025 442
NetBackup の状態コード: 2026 443
NetBackup の状態コード: 2027 443
NetBackup の状態コード: 2028 443
NetBackup の状態コード: 2029 444
NetBackup の状態コード: 2030 444
NetBackup の状態コード: 2031 445
NetBackup の状態コード: 2032 445
NetBackup の状態コード: 2033 445
NetBackup の状態コード: 2034 446
NetBackup の状態コード: 2035 446
NetBackup の状態コード: 2036 446
NetBackup の状態コード: 2037 447
NetBackup の状態コード: 2038 447
NetBackup の状態コード: 2039 447
NetBackup の状態コード: 2040 448
NetBackup の状態コード: 2041 448
NetBackup の状態コード: 2042 448
NetBackup の状態コード: 2043 448

NetBackup の状態コード: 2044 449
NetBackup の状態コード: 2045 449
NetBackup の状態コード: 2046 449
NetBackup の状態コード: 2047 449
NetBackup の状態コード: 2048 450
NetBackup の状態コード: 2049 450
NetBackup の状態コード: 2050 450
NetBackup の状態コード: 2051 451
NetBackup の状態コード: 2052 451
NetBackup の状態コード: 2053 451
NetBackup の状態コード: 2054 451
NetBackup の状態コード: 2055 452
NetBackup の状態コード: 2056 452
NetBackup の状態コード: 2057 452
NetBackup の状態コード: 2058 453
NetBackup の状態コード: 2059 453
NetBackup の状態コード: 2060 453
NetBackup の状態コード: 2061 453
NetBackup の状態コード: 2062 454
NetBackup の状態コード: 2063 454
NetBackup の状態コード: 2064 454
NetBackup の状態コード: 2065 455
NetBackup の状態コード: 2066 455
NetBackup の状態コード: 2067 455
NetBackup の状態コード: 2068 456
NetBackup の状態コード: 2069 456
NetBackup の状態コード: 2070 456
NetBackup の状態コード: 2071 457
NetBackup の状態コード: 2072 457
NetBackup の状態コード: 2073 457
NetBackup の状態コード: 2074 458
NetBackup の状態コード: 2075 458
NetBackup の状態コード: 2076 458
NetBackup の状態コード: 2078 459
NetBackup の状態コード: 2079 459
NetBackup の状態コード: 2080 459
NetBackup の状態コード: 2081 460
NetBackup の状態コード: 2082 460
NetBackup の状態コード: 2083 460
NetBackup の状態コード: 2084 461
NetBackup の状態コード: 2085 461
NetBackup の状態コード: 2086 461
NetBackup の状態コード: 2087 462

NetBackup の状態コード: 2088 462
NetBackup の状態コード: 2089 462
NetBackup の状態コード: 2090 463
NetBackup の状態コード: 2091 463
NetBackup の状態コード: 2092 464
NetBackup の状態コード: 2093 465
NetBackup の状態コード: 2094 466
NetBackup の状態コード: 2095 466
NetBackup の状態コード: 2096 466
NetBackup の状態コード: 2097 467
NetBackup の状態コード: 2098 467
NetBackup の状態コード: 2099 467
NetBackup の状態コード: 2100 468
NetBackup の状態コード: 2101 468
NetBackup の状態コード: 2102 468
NetBackup の状態コード: 2103 469
NetBackup の状態コード: 2104 469
NetBackup の状態コード: 2105 469
NetBackup の状態コード: 2106 470
NetBackup の状態コード: 2107 470
NetBackup の状態コード: 2108 471
NetBackup の状態コード: 2109 471
NetBackup の状態コード: 2110 472
NetBackup の状態コード: 2111 472
NetBackup の状態コード: 2112 472
NetBackup の状態コード: 2113 473
NetBackup の状態コード: 2114 473
NetBackup の状態コード: 2205 474
NetBackup の状態コード: 2206 474
NetBackup の状態コード: 2213 475
NetBackup の状態コード: 2228 475
NetBackup の状態コード: 2229 475
NetBackup の状態コード: 2230 476
NetBackup の状態コード: 2231 476
NetBackup の状態コード: 2232 476
NetBackup の状態コード: 2233 476
NetBackup の状態コード: 2250 477
NetBackup の状態コード: 2251 477
NetBackup の状態コード: 2252 478
NetBackup の状態コード: 2300 478
NetBackup の状態コード: 2301 478
NetBackup の状態コード: 2302 478
NetBackup の状態コード: 2303 479

NetBackup の状態コード: 2304 479
NetBackup の状態コード: 2305 479
NetBackup の状態コード: 2306 480
NetBackup の状態コード: 2307 480
NetBackup の状態コード: 2308 480
NetBackup の状態コード: 2309 480
NetBackup の状態コード: 2310 481
NetBackup の状態コード: 2311 481
NetBackup の状態コード: 2312 481
NetBackup の状態コード: 2313 481
NetBackup の状態コード: 2314 482
NetBackup の状態コード: 2317 482
NetBackup の状態コード: 2318 482
NetBackup の状態コード: 2319 482
NetBackup の状態コード: 2320 483
NetBackup の状態コード: 2322 483
NetBackup の状態コード: 2323 484
NetBackup の状態コード: 2324 484
NetBackup の状態コード: 2325 484
NetBackup の状態コード: 2326 485
NetBackup の状態コード: 2328 485
NetBackup の状態コード: 2329 485
NetBackup の状態コード: 2330 486
NetBackup の状態コード: 2331 486
NetBackup の状態コード: 2334 486
NetBackup の状態コード: 2335 487
NetBackup の状態コード: 2336 487
NetBackup の状態コード: 2337 487
NetBackup の状態コード: 2339 488
NetBackup の状態コード: 2340 488
NetBackup の状態コード: 2341 488
NetBackup の状態コード: 2342 489
NetBackup の状態コード: 2343 489
NetBackup の状態コード: 2344 490
NetBackup の状態コード: 2345 490
NetBackup の状態コード: 2346 490
NetBackup の状態コード: 2347 491
NetBackup の状態コード: 2348 491
NetBackup の状態コード: 2349 491
NetBackup の状態コード: 2351 492
NetBackup の状態コード: 2352 492
NetBackup の状態コード: 2353 492
NetBackup の状態コード: 2354 492

NetBackup の状態コード: 2355 493
NetBackup の状態コード: 2356 493
NetBackup の状態コード: 2357 493
NetBackup の状態コード: 2358 493
NetBackup の状態コード: 2359 494
NetBackup の状態コード: 2360 494
NetBackup の状態コード: 2361 494
NetBackup の状態コード: 2362 495
NetBackup の状態コード: 2363 495
NetBackup の状態コード: 2364 496
NetBackup の状態コード: 2365 496
NetBackup の状態コード: 2367 496
NetBackup の状態コード: 2368 497
NetBackup の状態コード: 2369 497
NetBackup の状態コード: 2370 497
NetBackup の状態コード: 2372 497
NetBackup の状態コード: 2373 498
NetBackup の状態コード: 2374 498
NetBackup の状態コード: 2375 498
NetBackup の状態コード: 2376 499
NetBackup の状態コード: 2377 499
NetBackup の状態コード: 2378 499
NetBackup の状態コード: 2379 499
NetBackup の状態コード: 2380 500
NetBackup の状態コード: 2381 500
NetBackup の状態コード: 2382 500
NetBackup の状態コード: 2383 501
NetBackup の状態コード: 2384 501
NetBackup の状態コード: 2385 501
NetBackup の状態コード: 2386 501
NetBackup の状態コード: 2387 502
NetBackup の状態コード: 2388 502
NetBackup の状態コード: 2389 502
NetBackup の状態コード: 2390 503
NetBackup の状態コード: 2391 503
NetBackup の状態コード: 2392 503
NetBackup の状態コード: 2393 503
NetBackup の状態コード: 2395 504
NetBackup の状態コード: 2396 504
NetBackup の状態コード: 2397 504
NetBackup の状態コード: 2398 505
NetBackup の状態コード: 2399 505
NetBackup の状態コード: 2400 505

NetBackup の状態コード: 2401 506
NetBackup の状態コード: 2402 506
NetBackup の状態コード: 2450 506
NetBackup の状態コード: 2451 507
NetBackup の状態コード: 2504 507
NetBackup の状態コード: 2505 507
NetBackup の状態コード: 2517 508
NetBackup の状態コード: 2520 508
NetBackup の状態コード: 2521 508
NetBackup の状態コード:2522 509
NetBackup の状態コード: 2523 509
NetBackup の状態コード: 2524 509
NetBackup の状態コード: 2525 510
NetBackup の状態コード: 2526 510
NetBackup の状態コード: 2527 511
NetBackup の状態コード: 2528 511
NetBackup の状態コード: 2531 511
NetBackup の状態コード: 2532 512
NetBackup の状態コード: 2547 512
NetBackup の状態コード: 2549 512
NetBackup の状態コード: 2607 513
NetBackup の状態コード: 2610 513
NetBackup の状態コード: 2611 514
NetBackup の状態コード: 2612 514
NetBackup の状態コード: 2613 514
NetBackup の状態コード: 2800 515
NetBackup の状態コード: 2801 515
NetBackup の状態コード: 2802 516
NetBackup の状態コード: 2803 517
NetBackup の状態コード: 2804 519
NetBackup の状態コード: 2805 520
NetBackup の状態コード: 2806 520
NetBackup の状態コード: 2807 521
NetBackup の状態コード: 2808 522
NetBackup の状態コード: 2809 522
NetBackup の状態コード: 2810 523
NetBackup の状態コード: 2811 525
NetBackup の状態コード: 2812 525
NetBackup の状態コード: 2813 526
NetBackup の状態コード: 2814 526
NetBackup の状態コード: 2815 527
NetBackup の状態コード: 2816 527
NetBackup の状態コード: 2817 528

NetBackup の状態コード: 2818 529
NetBackup の状態コード: 2819 529
NetBackup の状態コード: 2820 530
NetBackup の状態コード: 2821 532
NetBackup の状態コード: 2822 532
NetBackup の状態コード: 2824 533
NetBackup の状態コード: 2826 539
NetBackup の状態コード: 2827 539
NetBackup の状態コード: 2828 539
NetBackup の状態コード: 2829 540
NetBackup の状態コード: 2830 540
NetBackup の状態コード: 2831 540
NetBackup の状態コード: 2832 541
NetBackup の状態コード: 2833 541
NetBackup の状態コード: 2834 542
NetBackup の状態コード: 2835 542
NetBackup の状態コード: 2836 542
NetBackup の状態コード: 2837 543
NetBackup の状態コード: 2838 543
NetBackup の状態コード: 2839 543
NetBackup の状態コード: 2840 544
NetBackup の状態コード: 2841 544
NetBackup の状態コード: 2842 544
NetBackup の状態コード: 2843 545
NetBackup の状態コード: 2844 545
NetBackup の状態コード: 2845 545
NetBackup の状態コード: 2846 546
NetBackup の状態コード: 2847 546
NetBackup の状態コード: 2848 546
NetBackup の状態コード: 2849 547
NetBackup の状態コード: 2850 547
NetBackup の状態コード: 2864 548
NetBackup の状態コード: 2865 549
NetBackup の状態コード: 2866 549
NetBackup の状態コード: 2869 549
NetBackup の状態コード: 2870 549
NetBackup の状態コード: 2877 550
NetBackup の状態コード: 2880 550
NetBackup の状態コード: 2881 550
NetBackup の状態コード: 2882 551
NetBackup の状態コード: 2883 551
NetBackup の状態コード: 2887 552
NetBackup の状態コード: 2888 552

NetBackup の状態コード: 2889 552
NetBackup の状態コード: 2890 553
NetBackup の状態コード: 2891 553
NetBackup の状態コード: 2892 554
NetBackup の状態コード: 2893 554
NetBackup の状態コード: 2894 554
NetBackup の状態コード: 2897 555
NetBackup の状態コード: 3000 555
NetBackup の状態コード: 3002 555
NetBackup の状態コード: 3003 556
NetBackup の状態コード: 3004 556
NetBackup の状態コード: 3005 556
NetBackup の状態コード: 3006 556
NetBackup の状態コード: 3007 557
NetBackup の状態コード: 3008 557
NetBackup の状態コード: 3009 557
NetBackup の状態コード: 3010 557
NetBackup の状態コード: 3011 558
NetBackup の状態コード: 3012 558
NetBackup の状態コード: 3013 558
NetBackup の状態コード: 3014 558
NetBackup の状態コード: 3016 559
NetBackup の状態コード: 3017 559
NetBackup の状態コード: 3018 559
NetBackup の状態コード: 3019 559
NetBackup の状態コード: 3021 560
NetBackup の状態コード: 3022 560
NetBackup の状態コード: 3023 560
NetBackup の状態コード: 3024 561
NetBackup の状態コード: 3025 561
NetBackup の状態コード: 3026 561
NetBackup の状態コード: 3027 561
NetBackup の状態コード: 3028 562
NetBackup の状態コード: 3030 562
NetBackup の状態コード: 3031 562
NetBackup の状態コード: 3032 562
NetBackup の状態コード: 3033 563
NetBackup の状態コード: 3034 563
NetBackup の状態コード: 3035 563
NetBackup の状態コード: 3036 563
NetBackup の状態コード: 3037 564
NetBackup の状態コード: 3041 564
NetBackup の状態コード: 3042 564

NetBackup の状態コード: 3043 565
NetBackup の状態コード: 3044 565
NetBackup の状態コード: 3045 565
NetBackup の状態コード: 3047 565
NetBackup の状態コード: 3049 566
NetBackup の状態コード: 3050 566
NetBackup の状態コード: 3052 567
NetBackup の状態コード: 3053 567
NetBackup の状態コード: 3054 567
NetBackup の状態コード: 3200 568
NetBackup の状態コード: 3201 568
NetBackup の状態コード: 3202 568
NetBackup の状態コード: 3203 569
NetBackup の状態コード: 3204 569
NetBackup の状態コード: 3205 569
NetBackup の状態コード: 3206 569
NetBackup の状態コード: 3207 570
NetBackup の状態コード: 3208 570
NetBackup の状態コード: 3209 570
NetBackup の状態コード: 3210 571
NetBackup の状態コード: 3211 571
NetBackup の状態コード: 3212 571
NetBackup の状態コード: 3213 571
NetBackup の状態コード: 3214 572
NetBackup の状態コード: 3215 572
NetBackup の状態コード: 3216 572
NetBackup の状態コード: 3217 572
NetBackup の状態コード: 3218 572
NetBackup の状態コード: 3219 573
NetBackup の状態コード: 3220 573
NetBackup の状態コード: 3221 573
NetBackup の状態コード: 3222 574
NetBackup の状態コード: 3223 574
NetBackup の状態コード: 3224 574
NetBackup の状態コード: 3225 574
NetBackup の状態コード: 3232 575
NetBackup の状態コード: 3234 575
NetBackup の状態コード: 3235 576
NetBackup の状態コード: 3236 576
NetBackup の状態コード: 3245 576
NetBackup の状態コード: 3246 576
NetBackup の状態コード: 3251 577
NetBackup の状態コード: 3252 577

NetBackup の状態コード: 3253 578
NetBackup の状態コード: 3254 578
NetBackup の状態コード: 3255 579
NetBackup の状態コード: 3256 579
NetBackup の状態コード: 3257 579
NetBackup の状態コード: 3258 580
NetBackup の状態コード: 3259 580
NetBackup の状態コード: 3260 581
NetBackup の状態コード: 3261 581
NetBackup の状態コード: 3262 581
NetBackup の状態コード: 3263 582
NetBackup の状態コード: 3264 582
NetBackup の状態コード: 3265 583
NetBackup の状態コード: 3266 583
NetBackup の状態コード: 3267 583
NetBackup の状態コード: 3268 584
NetBackup の状態コード: 3269 584
NetBackup の状態コード: 3270 585
NetBackup の状態コード: 3271 585
NetBackup の状態コード: 3272 586
NetBackup の状態コード: 3273 586
NetBackup の状態コード: 3274 586
NetBackup の状態コード: 3275 587
NetBackup の状態コード: 3276 587
NetBackup の状態コード: 3277 588
NetBackup の状態コード: 3280 588
NetBackup の状態コード: 3281 588
NetBackup の状態コード: 3282 588
NetBackup の状態コード: 3283 589
NetBackup の状態コード: 3284 589
NetBackup の状態コード: 3286 589
NetBackup の状態コード: 3287 590
NetBackup の状態コード: 3288 590
NetBackup の状態コード: 3289 590
NetBackup の状態コード: 3290 591
NetBackup の状態コード: 3291 591
NetBackup の状態コード: 3292 591
NetBackup の状態コード: 3293 592
NetBackup の状態コード: 3294 592
NetBackup の状態コード: 3295 592
NetBackup の状態コード: 3296 592
NetBackup の状態コード: 3297 593
NetBackup の状態コード: 3298 593

NetBackup の状態コード: 3299 593
NetBackup の状態コード: 3300 594
NetBackup の状態コード: 3301 594
NetBackup の状態コード: 3304 594
NetBackup の状態コード: 3306 594
NetBackup の状態コード: 3307 595
NetBackup の状態コード: 3308 595
NetBackup の状態コード: 3309 595
NetBackup の状態コード: 3310 595
NetBackup の状態コード: 3311 596
NetBackup の状態コード: 3312 596
NetBackup の状態コード: 3313 596
NetBackup の状態コード: 3314 597
NetBackup の状態コード: 3315 597
NetBackup の状態コード: 3316 597
NetBackup の状態コード: 3317 598
NetBackup の状態コード: 3318 598
NetBackup の状態コード: 3319 598
NetBackup の状態コード: 3321 598
NetBackup の状態コード: 3322 599
NetBackup の状態コード: 3323 599
NetBackup の状態コード: 3324 599
NetBackup の状態コード: 3325 599
NetBackup の状態コード: 3326 600
NetBackup の状態コード: 3327 600
NetBackup の状態コード: 3328 600
NetBackup の状態コード: 3329 601
NetBackup の状態コード: 3330 601
NetBackup の状態コード: 3331 601
NetBackup の状態コード: 3332 603
NetBackup の状態コード: 3333 604
NetBackup の状態コード: 3335 604
NetBackup の状態コード: 3336 604
NetBackup の状態コード: 3337 604
NetBackup の状態コード: 3340 605
NetBackup の状態コード: 3341 605
NetBackup の状態コード: 3342 605
NetBackup の状態コード: 3346 605
NetBackup の状態コード: 3361 606
NetBackup の状態コード: 3362 606
NetBackup の状態コード: 3363 606
NetBackup の状態コード: 3364 607
NetBackup の状態コード: 3365 607

NetBackup の状態コード: 3366 607
NetBackup の状態コード: 3367 608
NetBackup の状態コード: 3600 608
NetBackup の状態コード: 3601 609
NetBackup の状態コード: 3602 609
NetBackup の状態コード: 3603 609
NetBackup の状態コード: 3605 610
NetBackup の状態コード: 3606 610
NetBackup の状態コード: 3607 610
NetBackup の状態コード: 3608 610
NetBackup の状態コード: 3609 611
NetBackup の状態コード: 3612 611
NetBackup の状態コード: 3613 611
NetBackup の状態コード: 3614 612
NetBackup の状態コード: 3615 612
NetBackup の状態コード: 3616 612
NetBackup の状態コード: 3617 613
NetBackup の状態コード: 3618 613
NetBackup の状態コード: 3619 613
NetBackup の状態コード: 3620 614
NetBackup の状態コード: 3621 614
NetBackup の状態コード: 3622 614
NetBackup の状態コード: 3623 615
NetBackup の状態コード: 3624 615
NetBackup の状態コード: 3625 616
NetBackup の状態コード: 3626 616
NetBackup の状態コード: 3627 616
NetBackup の状態コード: 3628 617
NetBackup の状態コード: 3629 618
NetBackup の状態コード: 3630 618
NetBackup の状態コード: 3633 619
NetBackup の状態コード: 3634 619
NetBackup の状態コード: 3635 620
NetBackup の状態コード: 3636 620
NetBackup の状態コード: 3637 620
NetBackup の状態コード: 3638 621
NetBackup の状態コード: 3639 621
NetBackup の状態コード: 3640 621
NetBackup の状態コード: 3641 622
NetBackup の状態コード: 3642 622
NetBackup の状態コード: 3643 623
NetBackup の状態コード: 3644 623
NetBackup の状態コード: 3645 623

NetBackup の状態コード: 3646 623
NetBackup の状態コード: 3647 624
NetBackup の状態コード: 3648 624
NetBackup の状態コード: 3649 624
NetBackup の状態コード: 3650 625
NetBackup の状態コード: 3651 625
NetBackup の状態コード: 3652 625
NetBackup の状態コード: 3653 626
NetBackup の状態コード: 3654 626
NetBackup の状態コード: 3655 626
NetBackup の状態コード: 3656 627
NetBackup の状態コード: 3657 627
NetBackup の状態コード: 3658 627
NetBackup の状態コード: 3660 628
NetBackup の状態コード: 3661 628
NetBackup の状態コード: 3662 628
NetBackup の状態コード: 3675 629
NetBackup の状態コード: 3676 629
NetBackup の状態コード: 3677 629
NetBackup の状態コード: 3678 629
NetBackup の状態コード: 3700 630
NetBackup の状態コード: 3701 630
NetBackup の状態コード: 3702 631
NetBackup の状態コード: 3703 631
NetBackup の状態コード: 3704 631
NetBackup の状態コード: 3705 631
NetBackup の状態コード: 3706 632
NetBackup の状態コード: 3707 632
NetBackup の状態コード: 3708 633
NetBackup の状態コード: 3709 633
NetBackup の状態コード: 3710 633
NetBackup の状態コード: 3711 633
NetBackup の状態コード: 3712 634
NetBackup の状態コード: 3713 634
NetBackup の状態コード: 3725 634
NetBackup の状態コード: 3726 634
NetBackup の状態コード: 3727 635
NetBackup の状態コード: 3800 635
NetBackup の状態コード: 3801 635
NetBackup の状態コード: 3802 635
NetBackup の状態コード: 3803 636
NetBackup の状態コード: 3804 636
NetBackup の状態コード: 3805 636

NetBackup の状態コード: 3806 637
NetBackup の状態コード: 3807 637
NetBackup の状態コード: 3808 637
NetBackup の状態コード: 3809 638
NetBackup の状態コード: 3810 638
NetBackup の状態コード: 3811 638
NetBackup の状態コード: 3812 638
NetBackup の状態コード: 3813 639
NetBackup の状態コード: 3814 639
NetBackup の状態コード: 3815 639
NetBackup の状態コード: 3816 639
NetBackup の状態コード: 3817 640
NetBackup の状態コード: 3818 640
NetBackup の状態コード: 3819 640
NetBackup の状態コード: 3820 641
NetBackup の状態コード: 3821 641
NetBackup の状態コード: 3822 641
NetBackup の状態コード: 3823 641
NetBackup の状態コード: 3824 642
NetBackup の状態コード: 3825 642
NetBackup の状態コード: 3826 642
NetBackup の状態コード: 3827 643
NetBackup の状態コード: 3828 643
NetBackup の状態コード: 3829 643
NetBackup の状態コード: 3830 643
NetBackup の状態コード: 3831 644
NetBackup の状態コード: 3832 644
NetBackup の状態コード: 3883 644
NetBackup の状態コード: 3834 645
NetBackup の状態コード: 3835 645
NetBackup の状態コード: 3836 645
NetBackup の状態コード: 3837 646
NetBackup の状態コード: 3838 646
NetBackup の状態コード: 3839 646
NetBackup の状態コード: 3840 646
NetBackup の状態コード: 3841 647
NetBackup の状態コード: 3842 647
NetBackup の状態コード: 3843 647
NetBackup の状態コード: 3844 647
NetBackup の状態コード: 3845 648
NetBackup の状態コード: 3846 648
NetBackup の状態コード: 3847 648
NetBackup の状態コード: 3849 649

NetBackup の状態コード: 3851 649
NetBackup の状態コード: 3852 649
NetBackup の状態コード: 3854 649
NetBackup の状態コード: 3900 650
NetBackup の状態コード: 3901 650
NetBackup の状態コード: 3902 650
NetBackup の状態コード: 3903 651
NetBackup の状態コード: 3904 651
NetBackup の状態コード: 3905 651
NetBackup の状態コード: 3906 651
NetBackup の状態コード: 3907 652
NetBackup の状態コード: 3908 652
NetBackup の状態コード: 3909 653
NetBackup の状態コード: 3910 653
NetBackup の状態コード: 3911 653
NetBackup の状態コード: 3912 654
NetBackup の状態コード: 3913 654
NetBackup の状態コード: 4000 654
NetBackup の状態コード: 4001 655
NetBackup の状態コード: 4002 655
NetBackup の状態コード: 4003 655
NetBackup の状態コード: 4004 655
NetBackup の状態コード: 4005 656
NetBackup の状態コード: 4006 656
NetBackup の状態コード: 4007 656
NetBackup の状態コード: 4008 657
NetBackup の状態コード: 4011 657
NetBackup の状態コード: 4012 657
NetBackup の状態コード: 4013 657
NetBackup の状態コード: 4014 657
NetBackup の状態コード: 4015 658
NetBackup の状態コード: 4016 658
NetBackup の状態コード: 4017 658
NetBackup の状態コード: 4019 659
NetBackup の状態コード: 4020 659
NetBackup の状態コード: 4021 659
NetBackup の状態コード: 4022 659
NetBackup の状態コード: 4023 660
NetBackup の状態コード: 4024 660
NetBackup の状態コード: 4025 660
NetBackup の状態コード: 4026 660
NetBackup の状態コード: 4027 661
NetBackup の状態コード: 4028 661

NetBackup の状態コード: 4029 661
NetBackup の状態コード: 4030 661
NetBackup の状態コード: 4031 662
NetBackup の状態コード: 4032 662
NetBackup の状態コード: 4033 662
NetBackup の状態コード: 4034 663
NetBackup の状態コード: 4035 663
NetBackup の状態コード: 4036 663
NetBackup の状態コード: 4037 663
NetBackup の状態コード: 4038 663
NetBackup の状態コード: 4039 664
NetBackup の状態コード: 4040 664
NetBackup の状態コード: 4041 664
NetBackup の状態コード: 4042 664
NetBackup の状態コード: 4043 665
NetBackup の状態コード: 4044 665
NetBackup の状態コード: 4045 665
NetBackup の状態コード: 4046 665
NetBackup の状態コード: 4047 666
NetBackup の状態コード: 4048 666
NetBackup の状態コード: 4049 666
NetBackup の状態コード: 4050 666
NetBackup の状態コード: 4105 667
NetBackup の状態コード: 4200 667
NetBackup の状態コード: 4201 668
NetBackup の状態コード: 4202 668
NetBackup の状態コード: 4203 669
NetBackup の状態コード: 4204 669
NetBackup の状態コード: 4205 669
NetBackup の状態コード: 4206 670
NetBackup の状態コード: 4207 670
NetBackup の状態コード: 4208 670
NetBackup の状態コード: 4209 671
NetBackup の状態コード: 4210 671
NetBackup の状態コード: 4211 672
NetBackup の状態コード: 4212 672
NetBackup の状態コード: 4213 672
NetBackup の状態コード: 4214 673
NetBackup の状態コード: 4215 673
NetBackup の状態コード: 4216 674
NetBackup の状態コード: 4217 674
NetBackup の状態コード: 4218 674
NetBackup の状態コード: 4219 675

NetBackup の状態コード: 4220 675
NetBackup の状態コード: 4221 675
NetBackup の状態コード: 4222 676
NetBackup の状態コード: 4223 676
NetBackup の状態コード: 4224 676
NetBackup の状態コード: 4225 677
NetBackup の状態コード: 4226 677
NetBackup の状態コード: 4227 678
NetBackup の状態コード: 4228 678
NetBackup の状態コード: 4229 679
NetBackup の状態コード: 4230 679
NetBackup の状態コード: 4231 679
NetBackup の状態コード: 4232 680
NetBackup の状態コード: 4233 680
NetBackup の状態コード: 4234 680
NetBackup の状態コード: 4235 680
NetBackup の状態コード: 4236 681
NetBackup の状態コード: 4237 681
NetBackup の状態コード: 4238 681
NetBackup の状態コード: 4239 682
NetBackup の状態コード: 4240 682
NetBackup の状態コード: 4241 682
NetBackup の状態コード: 4243 683
NetBackup の状態コード: 4245 683
NetBackup の状態コード: 4246 683
NetBackup の状態コード: 4248 684
NetBackup の状態コード: 4249 684
NetBackup の状態コード:4250 684
NetBackup の状態コード: 4251 685
NetBackup の状態コード: 4252 685
NetBackup の状態コード: 4253 685
NetBackup の状態コード: 4254 685
NetBackup の状態コード: 4255 686
NetBackup の状態コード: 4256 686
NetBackup の状態コード: 4257 687
NetBackup の状態コード:4258 687
NetBackup の状態コード: 4259 687
NetBackup の状態コード:4260 688
NetBackup の状態コード:4261 688
NetBackup の状態コード:4262 688
NetBackup の状態コード:4263 688
NetBackup の状態コード:4264 689
NetBackup の状態コード:4265 689

NetBackup の状態コード:4266 689
NetBackup の状態コード: 4267 690
NetBackup の状態コード:4268 690
NetBackup の状態コード:4269 690
NetBackup の状態コード:4270 690
NetBackup の状態コード:4271 691
NetBackup の状態コード:4272 691
NetBackup の状態コード:4273 691
NetBackup の状態コード:4274 692
NetBackup の状態コード:4275 692
NetBackup の状態コード:4276 692
NetBackup の状態コード:4277 692
NetBackup の状態コード:4278 693
NetBackup の状態コード:4279 693
NetBackup の状態コード:4280 693
NetBackup の状態コード:4281 693
NetBackup の状態コード:4282 694
NetBackup の状態コード:4283 694
NetBackup の状態コード: 4287 694
NetBackup の状態コード: 4290 695
NetBackup の状態コード: 4292 696
NetBackup の状態コード: 4293 696
NetBackup の状態コード: 4294 696
NetBackup の状態コード: 4295 697
NetBackup の状態コード: 4296 697
NetBackup の状態コード: 4297 697
NetBackup の状態コード: 4298 697
NetBackup の状態コード: 4299 698
NetBackup の状態コード: 4301 698
NetBackup の状態コード: 4302 698
NetBackup の状態コード: 4307 699
NetBackup の状態コード: 4308 699
NetBackup の状態コード: 4309 699
NetBackup の状態コード: 4310 699
NetBackup の状態コード: 4311 700
NetBackup の状態コード: 4312 700
NetBackup の状態コード: 4313 701
NetBackup の状態コード: 4315 701
NetBackup の状態コード: 4500 701
NetBackup の状態コード: 4501 702
NetBackup の状態コード: 4502 702
NetBackup の状態コード: 4503 702
NetBackup の状態コード: 4504 702

NetBackup の状態コード: 4505 703
NetBackup の状態コード: 4506 703
NetBackup の状態コード: 4507 703
NetBackup の状態コード: 4508 703
NetBackup の状態コード: 4509 704
NetBackup の状態コード: 4510 704
NetBackup の状態コード: 4511 704
NetBackup の状態コード: 4512 705
NetBackup の状態コード: 4513 705
NetBackup の状態コード: 4514 705
NetBackup の状態コード: 4515 705
NetBackup の状態コード: 4516 706
NetBackup の状態コード: 4517 706
NetBackup の状態コード: 4518 706
NetBackup の状態コード: 4519 706
NetBackup の状態コード: 4520 707
NetBackup の状態コード: 4521 707
NetBackup の状態コード: 4604 707
NetBackup の状態コード: 4605 707
NetBackup の状態コード: 4606 708
NetBackup の状態コード: 4607 708
NetBackup の状態コード: 4608 708
NetBackup の状態コード: 4609 709
NetBackup の状態コード: 4610 709
NetBackup の状態コード: 4611 709
NetBackup の状態コード: 4612 710
NetBackup の状態コード: 4700 710
NetBackup の状態コード: 4701 710
NetBackup の状態コード: 4702 711
NetBackup の状態コード: 4703 711
NetBackup の状態コード: 4704 711
NetBackup の状態コード: 4705 711
NetBackup の状態コード: 4706 712
NetBackup の状態コード: 4707 712
NetBackup の状態コード: 4708 712
NetBackup の状態コード: 4709 713
NetBackup の状態コード: 4710 713
NetBackup の状態コード: 4711 713
NetBackup の状態コード: 4712 714
NetBackup の状態コード: 4713 714
NetBackup の状態コード: 4714 714
NetBackup の状態コード: 4715 714
NetBackup の状態コード: 4716 715

NetBackup の状態コード: 4718 715
NetBackup の状態コード: 4719 715
NetBackup の状態コード: 4720 716
NetBackup の状態コード: 4721 716
NetBackup の状態コード: 4722 716
NetBackup の状態コード: 4723 716
NetBackup の状態コード: 4724 717
NetBackup の状態コード: 4725 717
NetBackup の状態コード: 4726 717
NetBackup の状態コード: 4727 717
NetBackup の状態コード: 4728 718
NetBackup の状態コード: 4729 718
NetBackup の状態コード: 4730 718
NetBackup の状態コード: 4731 719
NetBackup の状態コード: 4732 719
NetBackup の状態コード: 4733 719
NetBackup の状態コード: 4734 720
NetBackup の状態コード: 4735 720
NetBackup の状態コード: 4736 720
NetBackup の状態コード: 4737 720
NetBackup の状態コード: 4739 721
NetBackup の状態コード: 4740 721
NetBackup の状態コード: 4741 721
NetBackup の状態コード: 4743 721
NetBackup の状態コード: 4744 722
NetBackup の状態コード: 4745 722
NetBackup の状態コード: 4746 722
NetBackup の状態コード: 4747 723
NetBackup の状態コード: 4748 723
NetBackup の状態コード: 4749 723
NetBackup の状態コード: 4750 723
NetBackup の状態コード: 4751 724
NetBackup の状態コード: 4755 724
NetBackup の状態コード: 4769 724
NetBackup の状態コード: 4770 724
NetBackup の状態コード: 4771 725
NetBackup の状態コード: 4772 725
NetBackup の状態コード: 4773 725
NetBackup の状態コード: 4774 726
NetBackup の状態コード: 4775 726
NetBackup の状態コード: 4776 726
NetBackup の状態コード: 4777 726
NetBackup の状態コード: 4778 727

NetBackup の状態コード: 4779 727
NetBackup の状態コード: 4780 727
NetBackup の状態コード: 4781 728
NetBackup の状態コード: 4782 728
NetBackup の状態コード: 4783 728
NetBackup の状態コード: 4784 728
NetBackup の状態コード: 4785 729
NetBackup の状態コード: 4786 729
NetBackup の状態コード: 4787 729
NetBackup の状態コード: 4788 730
NetBackup の状態コード: 4789 730
NetBackup の状態コード: 4790 730
NetBackup 状態コード: 4793 731
NetBackup 状態コード: 4794 731
NetBackup 状態コード: 4795 731
NetBackup の状態コード: 4900 731
NetBackup の状態コード: 5100 732
NetBackup の状態コード 5101 732
NetBackup の状態コード: 5400 733
NetBackup の状態コード: 5401 733
NetBackup の状態コード: 5402 733
NetBackup の状態コード: 5403 734
NetBackup の状態コード: 5404 734
NetBackup の状態コード: 5405 734
NetBackup の状態コード: 5406 735
NetBackup の状態コード: 5407 735
NetBackup の状態コード: 5408 735
NetBackup の状態コード: 5409 736
NetBackup の状態コード: 5410 736
NetBackup の状態コード: 5411 736
NetBackup の状態コード: 5412 737
NetBackup の状態コード: 5413 737
NetBackup の状態コード: 5414 737
NetBackup の状態コード: 5415 738
NetBackup の状態コード: 5416 738
NetBackup の状態コード: 5417 738
NetBackup の状態コード: 5418 739
NetBackup の状態コード: 5419 739
NetBackup の状態コード: 5420 739
NetBackup の状態コード:5421 739
NetBackup の状態コード:5422 740
NetBackup の状態コード:5423 740
NetBackup の状態コード:5424 741

NetBackup の状態コード:5425 741
NetBackup の状態コード:5426 742
NetBackup の状態コード:5427 742
NetBackup の状態コード:5428 742
NetBackup の状態コード:5429 743
NetBackup の状態コード:5430 743
NetBackup の状態コード: 5431 743
NetBackup の状態コード: 5432 744
NetBackup の状態コード: 5433 744
NetBackup の状態コード: 5434 744
NetBackup の状態コード: 5435 745
NetBackup の状態コード: 5436 745
NetBackup の状態コード: 5437 745
NetBackup の状態コード: 5438 745
NetBackup の状態コード: 5439 746
NetBackup の状態コード: 5440 746
NetBackup の状態コード: 5441 746
NetBackup の状態コード: 5442 747
NetBackup の状態コード: 5443 747
NetBackup の状態コード: 5444 747
NetBackup の状態コード: 5445 747
NetBackup の状態コード: 5446 748
NetBackup の状態コード: 5447 748
NetBackup の状態コード: 5448 748
NetBackup の状態コード: 5449 748
NetBackup の状態コード: 5450 749
NetBackup の状態コード: 5451 749
NetBackup の状態コード: 5452 749
NetBackup の状態コード: 5453 750
NetBackup の状態コード: 5454 750
NetBackup の状態コード: 5455 750
NetBackup の状態コード: 5456 751
NetBackup の状態コード: 5457 751
NetBackup の状態コード: 5458 752
NetBackup の状態コード: 5459 752
NetBackup の状態コード: 5461 753
NetBackup の状態コード: 5462 753
NetBackup の状態コード: 5464 753
NetBackup の状態コード: 5500 754
NetBackup の状態コード: 5501 754
NetBackup の状態コード: 5502 754
NetBackup の状態コード: 5503 754
NetBackup の状態コード: 5504 755

NetBackup の状態コード: 5505 755
NetBackup の状態コード: 5506 755
NetBackup の状態コード: 5507 756
NetBackup の状態コード: 5508 756
NetBackup の状態コード: 5509 756
NetBackup の状態コード: 5510 757
NetBackup の状態コード: 5511 757
NetBackup の状態コード: 5512 757
NetBackup の状態コード: 5513 757
NetBackup の状態コード: 5514 758
NetBackup の状態コード: 5517 758
NetBackup の状態コード: 5532 759
NetBackup の状態コード: 5533 759
NetBackup の状態コード: 5534 759
NetBackup の状態コード: 5535 760
NetBackup の状態コード: 5536 760
NetBackup の状態コード: 5537 760
NetBackup の状態コード: 5538 760
NetBackup の状態コード: 5540 761
NetBackup の状態コード: 5541 761
NetBackup の状態コード: 5542 761
NetBackup の状態コード: 5543 762
NetBackup の状態コード: 5544 762
NetBackup の状態コード: 5545 762
NetBackup の状態コード: 5546 762
NetBackup の状態コード: 5547 763
NetBackup の状態コード: 5548 763
NetBackup の状態コード: 5549 763
NetBackup の状態コード: 5576 764
NetBackup の状態コード: 5577 764
NetBackup の状態コード: 5578 765
NetBackup の状態コード: 5579 765
NetBackup の状態コード: 5580 765
NetBackup の状態コード: 5581 766
NetBackup の状態コード: 5582 766
NetBackup の状態コード: 5583 767
NetBackup の状態コード: 5626 767
NetBackup の状態コード: 5631 768
NetBackup の状態コード: 5761 768
NetBackup の状態コード: 5762 769
NetBackup の状態コード: 5763 769
NetBackup の状態コード: 5764 769
NetBackup の状態コード: 5765 769

NetBackup の状態コード: 5766 770
NetBackup の状態コード: 5767 770
NetBackup の状態コード: 5768 770
NetBackup の状態コード: 5769 771
NetBackup の状態コード: 5770 771
NetBackup の状態コード: 5771 771
NetBackup の状態コード: 5772 771
NetBackup の状態コード: 5773 772
NetBackup の状態コード: 5774 772
NetBackup の状態コード: 5775 772
NetBackup の状態コード: 5776 772
NetBackup の状態コード: 5777 773
NetBackup の状態コード: 5778 773
NetBackup の状態コード: 5779 773
NetBackup の状態コード: 5780 773
NetBackup の状態コード: 5781 774
NetBackup の状態コード: 5782 774
NetBackup の状態コード: 5783 774
NetBackup の状態コード: 5784 774
NetBackup の状態コード: 5786 775
NetBackup の状態コード: 5787 775
NetBackup の状態コード: 5788 775
NetBackup の状態コード: 5789 775
NetBackup の状態コード: 5790 776
NetBackup の状態コード: 5794 776
NetBackup の状態コード: 5796 776
NetBackup の状態コード: 5798 777
NetBackup の状態コード: 5799 777
NetBackup の状態コード: 5800 777
NetBackup の状態コード: 5801 777
NetBackup の状態コード: 5803 778
NetBackup の状態コード: 5804 778
NetBackup の状態コード: 5805 778
NetBackup の状態コード: 5806 778
NetBackup の状態コード: 5807 779
NetBackup の状態コード: 5808 779
NetBackup の状態コード: 5809 779
NetBackup の状態コード: 5811 779
NetBackup の状態コード: 5812 780
NetBackup の状態コード: 5813 780
NetBackup の状態コード: 5814 780
NetBackup の状態コード: 5815 780
NetBackup の状態コード: 5816 781

NetBackup の状態コード: 5817 781
NetBackup の状態コード: 5819 781
NetBackup の状態コード: 5820 781
NetBackup の状態コード: 5821 782
NetBackup の状態コード: 5902 782
NetBackup の状態コード: 5903 782
NetBackup の状態コード: 5904 783
NetBackup の状態コード: 5905 783
NetBackup の状態コード: 5906 783
NetBackup の状態コード: 5907 783
NetBackup の状態コード: 5908 784
NetBackup の状態コード: 5909 784
NetBackup の状態コード: 5910 784
NetBackup の状態コード: 5913 784
NetBackup の状態コード: 5914 785
NetBackup の状態コード: 5915 785
NetBackup の状態コード: 5916 785
NetBackup の状態コード: 5917 785
NetBackup の状態コード: 5918 786
NetBackup の状態コード: 5919 786
NetBackup の状態コード: 5920 786
NetBackup の状態コード: 5921 786
NetBackup の状態コード: 5922 787
NetBackup の状態コード: 5925 787
NetBackup の状態コード: 5926 787
NetBackup の状態コード: 5927 787
NetBackup の状態コード: 5929 788
NetBackup の状態コード: 5930 788
NetBackup の状態コード: 5931 789
NetBackup の状態コード: 5932 789
NetBackup の状態コード: 5933 789
NetBackup の状態コード: 5934 789
NetBackup の状態コード: 5936 790
NetBackup の状態コード: 5938 790
NetBackup の状態コード: 5939 790
NetBackup の状態コード: 5940 790
NetBackup の状態コード: 5941 791
NetBackup の状態コード: 5942 791
NetBackup の状態コード: 5943 791
NetBackup の状態コード: 5944 792
NetBackup の状態コード: 5945 792
NetBackup の状態コード: 5946 792
NetBackup の状態コード: 5947 792

NetBackup の状態コード: 5948 793
NetBackup の状態コード: 5949 793
NetBackup の状態コード: 5950 793
NetBackup の状態コード: 5953 793
NetBackup の状態コード: 5954 794
NetBackup の状態コード: 5955 794
NetBackup の状態コード: 5956 794
NetBackup の状態コード: 5957 794
NetBackup の状態コード: 5958 795
NetBackup の状態コード: 5959 795
NetBackup の状態コード: 5960 795
NetBackup の状態コード: 5962 796
NetBackup の状態コード: 5963 796
NetBackup の状態コード: 5964 797
NetBackup の状態コード: 5965 797
NetBackup の状態コード: 5966 797
NetBackup の状態コード: 5967 797
NetBackup の状態コード: 5968 798
NetBackup の状態コード: 5969 798
NetBackup の状態コード: 5970 798
NetBackup の状態コード: 5971 799
NetBackup の状態コード: 5972 799
NetBackup の状態コード: 5973 799
NetBackup の状態コード: 5974 799
NetBackup の状態コード: 5976 800
NetBackup の状態コード: 5977 800
NetBackup の状態コード: 5978 800
NetBackup の状態コード: 5979 801
NetBackup の状態コード: 5980 801
NetBackup の状態コード: 5982 802
NetBackup の状態コード: 5983 803
NetBackup の状態コード: 5986 804
NetBackup の状態コード: 5987 804
NetBackup の状態コード: 5988 808
NetBackup の状態コード: 5989 808
NetBackup の状態コード: 5990 809
NetBackup の状態コード: 5991 809
NetBackup の状態コード: 5992 810
NetBackup の状態コード: 5993 810
NetBackup の状態コード: 5994 810
NetBackup の状態コード: 5995 811
NetBackup の状態コード: 5996 811
NetBackup の状態コード: 5997 811

NetBackup の状態コード: 5998 812
NetBackup の状態コード: 5999 812
NetBackup の状態コード: 6000 813
NetBackup の状態コード: 6026 813
NetBackup の状態コード: 6027 813
NetBackup の状態コード: 6028 814
NetBackup の状態コード: 6029 814
NetBackup の状態コード: 6030 814
NetBackup の状態コード: 6031 815
NetBackup の状態コード: 6032 815
NetBackup の状態コード: 6071 815
NetBackup の状態コード: 6072 815
NetBackup の状態コード: 6073 816
NetBackup の状態コード: 6074 816
NetBackup の状態コード: 6075 816
NetBackup の状態コード: 6078 817
NetBackup の状態コード: 6079 817
NetBackup の状態コード: 6080 817
NetBackup の状態コード: 6082 818
NetBackup の状態コード: 6083 818
NetBackup の状態コード: 6084 818
NetBackup 状態コード: 6085 818
NetBackup の状態コード: 6100 819
NetBackup の状態コード: 6101 819
NetBackup の状態コード: 6102 819
NetBackup の状態コード: 6103 819
NetBackup の状態コード: 6104 820
NetBackup の状態コード: 6105 820
NetBackup の状態コード: 6106 821
NetBackup の状態コード: 6107 821
NetBackup の状態コード: 6108 821
NetBackup の状態コード: 6109 821
NetBackup の状態コード: 6405 822
NetBackup の状態コード: 6172 822
NetBackup の状態コード: 6173 822
NetBackup の状態コード: 6174 823
NetBackup の状態コード: 6175 823
NetBackup の状態コード: 6176 823
NetBackup の状態コード: 6406 824
NetBackup の状態コード: 6416 824
NetBackup の状態コード: 6423 824
NetBackup の状態コード: 6430 825
NetBackup の状態コード: 6431 825

NetBackup の状態コード: 6435 826
NetBackup の状態コード: 6437 826
NetBackup の状態コード: 6438 826
NetBackup の状態コード: 6440 827
NetBackup の状態コード: 6441 827
NetBackup の状態コード: 6459 827
NetBackup の状態コード: 6530 828
NetBackup の状態コード: 6531 828
NetBackup の状態コード: 6600 828
NetBackup の状態コード: 6601 829
NetBackup の状態コード: 6602 829
NetBackup の状態コード: 6603 829
NetBackup の状態コード: 6604 830
NetBackup の状態コード: 6605 830
NetBackup の状態コード: 6606 830
NetBackup の状態コード: 6607 831
NetBackup の状態コード: 6608 831
NetBackup の状態コード: 6609 831
NetBackup の状態コード: 6610 831
NetBackup の状態コード: 6612 832
NetBackup の状態コード: 6614 832
NetBackup の状態コード: 6616 832
NetBackup の状態コード: 6617 832
NetBackup の状態コード: 6618 833
NetBackup の状態コード: 6619 833
NetBackup の状態コード: 6620 833
NetBackup の状態コード: 6621 834
NetBackup の状態コード: 6622 834
NetBackup の状態コード: 6623 834
NetBackup の状態コード: 6625 835
NetBackup の状態コード: 6626 835
NetBackup の状態コード: 6628 835
NetBackup の状態コード: 6629 836
NetBackup の状態コード: 6630 836
NetBackup の状態コード: 6631 836
NetBackup の状態コード: 6633 836
NetBackup の状態コード: 6634 837
NetBackup の状態コード: 6635 837
NetBackup の状態コード: 6640 837
NetBackup の状態コード: 6641 837
NetBackup の状態コード: 6642 838
NetBackup の状態コード: 6643 838
NetBackup の状態コード: 6644 838

NetBackup の状態コード: 6646 838
NetBackup の状態コード: 6647 839
NetBackup の状態コード: 6649 839
NetBackup の状態コード: 6650 839
NetBackup の状態コード: 6652 840
NetBackup の状態コード: 6653 840
NetBackup の状態コード: 6654 840
NetBackup の状態コード: 6655 841
NetBackup の状態コード: 6656 841
NetBackup の状態コード: 6657 841
NetBackup の状態コード: 6658 841
NetBackup の状態コード: 6659 842
NetBackup の状態コード: 6661 842
NetBackup の状態コード: 6662 842
NetBackup の状態コード: 6663 843
NetBackup の状態コード: 6664 843
NetBackup の状態コード: 6665 844
NetBackup の状態コード: 6666 844
NetBackup の状態コード: 6667 844
NetBackup の状態コード: 6668 844
NetBackup の状態コード: 6669 845
NetBackup の状態コード: 6670 845
NetBackup の状態コード: 6671 845
NetBackup の状態コード: 6672 846
NetBackup の状態コード: 6673 846
NetBackup の状態コード: 6674 846
NetBackup の状態コード: 6675 846
NetBackup の状態コード: 6676 847
NetBackup の状態コード: 6677 847
NetBackup の状態コード: 6678 847
NetBackup の状態コード: 6679 848
NetBackup の状態コード: 6680 848
NetBackup の状態コード: 6681 848
NetBackup の状態コード: 6682 848
NetBackup の状態コード: 6683 849
NetBackup の状態コード: 6684 849
NetBackup の状態コード: 6685 849
NetBackup の状態コード: 6686 849
NetBackup の状態コード: 6687 850
NetBackup の状態コード: 6688 850
NetBackup の状態コード: 6689 850
NetBackup の状態コード: 6690 850
NetBackup の状態コード: 6691 851

NetBackup の状態コード: 6692 851
NetBackup の状態コード: 6693 851
NetBackup の状態コード: 6694 852
NetBackup の状態コード: 6695 852
NetBackup の状態コード: 6696 852
NetBackup の状態コード: 6697 853
NetBackup の状態コード: 6698 853
NetBackup の状態コード: 6699 853
NetBackup の状態コード: 6700 853
NetBackup の状態コード: 6701 854
NetBackup の状態コード: 6702 854
NetBackup の状態コード: 6703 854
NetBackup の状態コード: 6704 855
NetBackup の状態コード: 6705 855
NetBackup の状態コード: 6706 855
NetBackup の状態コード: 6707 856
NetBackup の状態コード: 6708 856
NetBackup の状態コード: 6709 856
NetBackup の状態コード: 6710 857
NetBackup の状態コード: 6711 857
NetBackup の状態コード: 6712 858
NetBackup の状態コード: 6713 858
NetBackup の状態コード: 6714 859
NetBackup の状態コード: 6715 859
NetBackup の状態コード: 6716 859
NetBackup の状態コード: 6717 860
NetBackup の状態コード: 6718 860
NetBackup の状態コード: 6719 860
NetBackup の状態コード: 6720 861
NetBackup の状態コード: 6721 861
NetBackup の状態コード: 6722 861
NetBackup の状態コード: 6723 862
NetBackup の状態コード: 6724 862
NetBackup の状態コード: 6725 862
NetBackup の状態コード: 6726 863
NetBackup の状態コード: 6727 863
NetBackup の状態コード: 6728 863
NetBackup の状態コード: 6729 864
NetBackup の状態コード: 6730 864
NetBackup の状態コード: 6731 864
NetBackup の状態コード: 6732 865
NetBackup の状態コード: 6733 865
NetBackup の状態コード: 6734 865

NetBackup の状態コード: 6735 865
NetBackup の状態コード: 6736 866
NetBackup の状態コード: 6737 866
NetBackup の状態コード: 6738 866
NetBackup の状態コード: 6739 867
NetBackup の状態コード: 6740 867
NetBackup の状態コード: 6741 867
NetBackup の状態コード: 6742 867
NetBackup の状態コード: 6743 868
NetBackup の状態コード: 6744 868
NetBackup の状態コード: 6745 868
NetBackup の状態コード: 6746 869
NetBackup の状態コード: 6747 869
NetBackup の状態コード: 6748 869
NetBackup の状態コード: 6749 870
NetBackup の状態コード: 6750 870
NetBackup の状態コード: 6751 870
NetBackup の状態コード: 6752 871
NetBackup の状態コード: 6753 871
NetBackup の状態コード: 6754 871
NetBackup の状態コード: 6755 872
NetBackup の状態コード: 6756 872
NetBackup の状態コード: 6757 872
NetBackup の状態コード: 6758 873
NetBackup の状態コード: 6759 873
NetBackup の状態コード: 6760 874
NetBackup の状態コード: 6761 874
NetBackup の状態コード: 6762 874
NetBackup の状態コード: 6763 874
NetBackup の状態コード: 6764 875
NetBackup の状態コード: 6765 875
NetBackup の状態コード: 6766 875
NetBackup の状態コード: 6767 876
NetBackup の状態コード: 6768 876
NetBackup の状態コード: 6772 876
NetBackup の状態コード: 6773 877
NetBackup の状態コード: 6774 877
NetBackup の状態コード: 6775 877
NetBackup の状態コード: 6776 878
NetBackup の状態コード: 6777 878
NetBackup の状態コード: 6778 879
NetBackup の状態コード: 6779 879
NetBackup の状態コード: 6780 880

NetBackup の状態コード: 6781 880
NetBackup の状態コード: 6782 881
NetBackup の状態コード: 6783 881
NetBackup の状態コード: 6784 882
NetBackup の状態コード: 6785 882
NetBackup の状態コード: 6786 883
NetBackup の状態コード: 6787 883
NetBackup の状態コード: 6788 884
NetBackup の状態コード: 6789 885
NetBackup の状態コード: 6791 886
NetBackup の状態コード: 6792 886
NetBackup の状態コード: 6793 887
NetBackup の状態コード: 6794 887
NetBackup の状態コード: 6795 888
NetBackup の状態コード: 6797 889
NetBackup の状態コード: 6798 889
NetBackup の状態コード: 6800 890
NetBackup の状態コード: 6801 890
NetBackup の状態コード: 6802 890
NetBackup の状態コード: 6803 890
NetBackup の状態コード: 6804 891
NetBackup の状態コード: 6805 891
NetBackup の状態コード: 6806 891
NetBackup の状態コード: 6807 892
NetBackup の状態コード: 6808 892
NetBackup の状態コード: 6809 892
NetBackup の状態コード: 6810 893
NetBackup の状態コード: 6811 893
NetBackup の状態コード: 6812 893
NetBackup の状態コード: 6813 894
NetBackup の状態コード: 6814 894
NetBackup の状態コード: 6815 894
NetBackup の状態コード: 6816 895
NetBackup の状態コード: 6817 895
NetBackup の状態コード: 6818 896
NetBackup の状態コード: 6819 896
NetBackup の状態コード: 6820 896
NetBackup の状態コード: 6821 897
NetBackup の状態コード: 6822 897
NetBackup の状態コード: 6823 897
NetBackup の状態コード: 6824 898
NetBackup の状態コード: 6831 898
NetBackup の状態コード: 6832 898

NetBackup の状態コード: 6833 899
NetBackup の状態コード: 6882 900
NetBackup の状態コード: 7100 900
NetBackup の状態コード: 7101 900
NetBackup の状態コード: 7102 901
NetBackup の状態コード: 7103 901
NetBackup の状態コード: 7104 901
NetBackup の状態コード: 7105 901
NetBackup の状態コード: 7106 902
NetBackup の状態コード: 7107 902
NetBackup の状態コード: 7108 902
NetBackup の状態コード: 7109 903
NetBackup の状態コード: 7110 903
NetBackup の状態コード: 7112 903
NetBackup の状態コード: 7113 903
NetBackup の状態コード: 7114 904
NetBackup の状態コード: 7115 904
NetBackup の状態コード: 7116 904
NetBackup の状態コード: 7117 905
NetBackup の状態コード: 7118 905
NetBackup の状態コード: 7119 905
NetBackup の状態コード: 7120 905
NetBackup の状態コード: 7121 906
NetBackup の状態コード: 7122 906
NetBackup の状態コード: 7123 906
NetBackup の状態コード: 7125 907
NetBackup の状態コード: 7126 907
NetBackup の状態コード: 7127 907
NetBackup の状態コード: 7128 907
NetBackup の状態コード: 7129 908
NetBackup の状態コード: 7130 908
NetBackup の状態コード: 7131 908
NetBackup の状態コード: 7132 909
NetBackup の状態コード: 7133 909
NetBackup の状態コード: 7134 909
NetBackup の状態コード: 7135 910
NetBackup の状態コード: 7136 910
NetBackup の状態コード: 7137 910
NetBackup の状態コード: 7138 911
NetBackup の状態コード: 7139 911
NetBackup の状態コード: 7140 911
NetBackup の状態コード: 7141 911
NetBackup の状態コード: 7142 912

NetBackup の状態コード: 7143 912
NetBackup の状態コード: 7144 912
NetBackup の状態コード: 7146 913
NetBackup の状態コード: 7147 913
NetBackup の状態コード: 7148 913
NetBackup の状態コード: 7149 914
NetBackup の状態コード: 7151 914
NetBackup の状態コード: 7152 914
NetBackup の状態コード: 7153 914
NetBackup の状態コード: 7154 915
NetBackup の状態コード: 7155 915
NetBackup の状態コード: 7156 915
NetBackup の状態コード: 7157 916
NetBackup の状態コード: 7158 916
NetBackup の状態コード: 7159 916
NetBackup の状態コード: 7160 917
NetBackup の状態コード: 7161 917
NetBackup の状態コード: 7162 917
NetBackup の状態コード: 7163 917
NetBackup の状態コード: 7164 918
NetBackup の状態コード: 7165 918
NetBackup の状態コード: 7166 918
NetBackup の状態コード: 7167 919
NetBackup の状態コード: 7168 919
NetBackup の状態コード: 7200 919
NetBackup の状態コード: 7201 919
NetBackup の状態コード: 7202 920
NetBackup の状態コード: 7203 920
NetBackup の状態コード: 7204 920
NetBackup の状態コード: 7205 921
NetBackup の状態コード: 7206 921
NetBackup の状態コード: 7207 921
NetBackup の状態コード: 7208 922
NetBackup の状態コード: 7209 923
NetBackup の状態コード: 7210 923
NetBackup の状態コード: 7211 924
NetBackup の状態コード: 7212 924
NetBackup の状態コード: 7213 924
NetBackup の状態コード: 7214 925
NetBackup の状態コード: 7215 926
NetBackup の状態コード: 7216 926
NetBackup の状態コード: 7217 926
NetBackup の状態コード: 7218 927

NetBackup の状態コード: 7219 927
NetBackup の状態コード: 7220 927
NetBackup の状態コード: 7221 927
NetBackup の状態コード: 7222 928
NetBackup の状態コード: 7223 928
NetBackup の状態コード: 7224 928
NetBackup の状態コード: 7225 929
NetBackup の状態コード: 7226 929
NetBackup の状態コード: 7227 930
NetBackup の状態コード: 7228 930
NetBackup の状態コード: 7229 931
NetBackup の状態コード: 7230 931
NetBackup の状態コード: 7231 931
NetBackup の状態コード: 7232 932
NetBackup の状態コード: 7233 932
NetBackup の状態コード: 7234 932
NetBackup の状態コード: 7235 933
NetBackup の状態コード: 7236 934
NetBackup の状態コード: 7237 934
NetBackup の状態コード: 7238 934
NetBackup の状態コード: 7239 935
NetBackup の状態コード: 7240 935
NetBackup の状態コード: 7241 935
NetBackup の状態コード: 7242 936
NetBackup の状態コード: 7243 936
NetBackup の状態コード: 7245 936
NetBackup の状態コード: 7246 937
NetBackup の状態コード: 7247 937
NetBackup の状態コード: 7248 937
NetBackup の状態コード: 7249 938
NetBackup の状態コード: 7250 938
NetBackup の状態コード: 7251 938
NetBackup の状態コード: 7252 938
NetBackup の状態コード: 7253 939
NetBackup の状態コード: 7254 939
NetBackup の状態コード: 7255 939
NetBackup の状態コード: 7256 940
NetBackup の状態コード: 7258 940
NetBackup の状態コード: 7259 940
NetBackup の状態コード: 7260 941
NetBackup の状態コード: 7261 941
NetBackup の状態コード: 7262 942
NetBackup の状態コード: 7263 942

NetBackup の状態コード: 7264 942
NetBackup の状態コード: 7265 943
NetBackup の状態コード: 7266 943
NetBackup の状態コード: 7267 943
NetBackup の状態コード: 7268 943
NetBackup の状態コード: 7269 944
NetBackup の状態コード: 7270 944
NetBackup の状態コード: 7271 944
NetBackup の状態コード: 7272 945
NetBackup の状態コード: 7273 945
NetBackup の状態コード: 7274 945
NetBackup の状態コード: 7275 946
NetBackup の状態コード: 7276 946
NetBackup の状態コード: 7277 946
NetBackup の状態コード: 7278 947
NetBackup の状態コード: 7279 947
NetBackup の状態コード: 7281 947
NetBackup の状態コード: 7282 948
NetBackup の状態コード: 7283 948
NetBackup の状態コード: 7284 948
NetBackup の状態コード: 7285 948
NetBackup の状態コード: 7286 949
NetBackup の状態コード: 7287 949
NetBackup の状態コード: 7288 949
NetBackup の状態コード: 7289 950
NetBackup の状態コード: 7290 950
NetBackup の状態コード: 7291 950
NetBackup の状態コード: 7292 951
NetBackup の状態コード: 7293 951
NetBackup の状態コード: 7294 951
NetBackup の状態コード: 7295 952
NetBackup の状態コード: 7296 952
NetBackup の状態コード: 7297 953
NetBackup の状態コード: 7298 953
NetBackup の状態コード: 7299 954
NetBackup の状態コード: 7300 954
NetBackup の状態コード: 7301 954
NetBackup の状態コード: 7302 955
NetBackup の状態コード: 7303 955
NetBackup の状態コード: 7304 955
NetBackup の状態コード: 7305 955
NetBackup の状態コード: 7306 956
NetBackup の状態コード: 7307 956

NetBackup の状態コード: 7311 956
NetBackup の状態コード: 7312 957
NetBackup の状態コード: 7313 957
NetBackup の状態コード: 7314 958
NetBackup の状態コード: 7400 959
NetBackup の状態コード: 7401 959
NetBackup の状態コード: 7402 959
NetBackup の状態コード: 7403 960
NetBackup の状態コード: 7404 960
NetBackup の状態コード: 7405 960
NetBackup の状態コード: 7406 960
NetBackup の状態コード: 7407 961
NetBackup の状態コード: 7408 961
NetBackup の状態コード: 7409 961
NetBackup の状態コード: 7410 962
NetBackup の状態コード: 7411 962
NetBackup の状態コード: 7412 962
NetBackup の状態コード: 7413 962
NetBackup の状態コード: 7414 963
NetBackup の状態コード: 7415 963
NetBackup の状態コード: 7416 963
NetBackup の状態コード: 7417 963
NetBackup の状態コード: 7418 964
NetBackup の状態コード: 7419 964
NetBackup の状態コード: 7420 964
NetBackup の状態コード: 7421 965
NetBackup の状態コード: 7422 965
NetBackup の状態コード: 7423 965
NetBackup の状態コード: 7424 965
NetBackup の状態コード: 7425 966
NetBackup の状態コード: 7426 966
NetBackup の状態コード: 7427 966
NetBackup の状態コード: 7428 967
NetBackup の状態コード: 7429 967
NetBackup の状態コード: 7430 967
NetBackup の状態コード: 7431 967
NetBackup の状態コード: 7432 968
NetBackup の状態コード: 7433 968
NetBackup の状態コード: 7434 968
NetBackup の状態コード: 7435 969
NetBackup の状態コード: 7436 969
NetBackup の状態コード: 7437 969
NetBackup の状態コード: 7450 970

NetBackup の状態コード: 7451 970
NetBackup の状態コード: 7452 970
NetBackup の状態コード: 7453 971
NetBackup の状態コード: 7454 971
NetBackup の状態コード: 7455 971
NetBackup の状態コード: 7456 972
NetBackup の状態コード: 7457 972
NetBackup の状態コード: 7458 972
NetBackup の状態コード: 7459 973
NetBackup の状態コード: 7460 973
NetBackup の状態コード: 7461 973
NetBackup の状態コード: 7462 974
NetBackup の状態コード: 7463 974
NetBackup の状態コード: 7464 974
NetBackup の状態コード: 7465 974
NetBackup の状態コード: 7466 975
NetBackup の状態コード: 7467 975
NetBackup の状態コード: 7468 975
NetBackup の状態コード: 7469 976
NetBackup の状態コード: 7472 976
NetBackup の状態コード: 7473 976
NetBackup の状態コード: 7476 977
NetBackup の状態コード: 7477 977
NetBackup の状態コード: 7600 978
NetBackup の状態コード: 7601 978
NetBackup の状態コード: 7603 978
NetBackup の状態コード: 7604 978
NetBackup の状態コード: 7607 979
NetBackup の状態コード: 7609 979
NetBackup の状態コード: 7610 979
NetBackup の状態コード: 7611 979
NetBackup の状態コード: 7612 979
NetBackup の状態コード: 7613 980
NetBackup の状態コード: 7614 980
NetBackup の状態コード: 7617 980
NetBackup の状態コード: 7618 980
NetBackup の状態コード: 7619 981
NetBackup の状態コード: 7622 981
NetBackup の状態コード: 7623 981
NetBackup の状態コード: 7624 982
NetBackup の状態コード: 7625 982
NetBackup の状態コード: 7627 983
NetBackup の状態コード: 7628 984

NetBackup の状態コード: 7631 984
NetBackup の状態コード: 7632 984
NetBackup の状態コード: 7633 984
NetBackup の状態コード: 7634 985
NetBackup の状態コード: 7635 985
NetBackup の状態コード: 7636 985
NetBackup の状態コード: 7637 986
NetBackup の状態コード: 7638 986
NetBackup の状態コード: 7639 986
NetBackup の状態コード: 7640 987
NetBackup の状態コード: 7641 987
NetBackup の状態コード: 7642 987
NetBackup の状態コード: 7643 988
NetBackup の状態コード: 7645 988
NetBackup の状態コード: 7647 988
NetBackup の状態コード: 7648 989
NetBackup の状態コード: 7649 989
NetBackup の状態コード: 7650 989
NetBackup の状態コード: 7651 989
NetBackup の状態コード: 7652 990
NetBackup の状態コード: 7653 990
NetBackup の状態コード: 7654 991
NetBackup の状態コード: 7655 991
NetBackup の状態コード: 7656 992
NetBackup の状態コード: 7657 992
NetBackup の状態コード: 7658 993
NetBackup の状態コード: 7659 993
NetBackup の状態コード: 7660 993
NetBackup の状態コード: 7662 994
NetBackup の状態コード: 7663 994
NetBackup の状態コード: 7720 995
NetBackup の状態コード: 7721 995
NetBackup の状態コード: 7722 995
NetBackup の状態コード: 7723 996
NetBackup の状態コード: 7724 996
NetBackup の状態コード: 7725 996
NetBackup の状態コード: 7726 997
NetBackup の状態コード: 7727 997
NetBackup の状態コード: 7728 998
NetBackup の状態コード: 7729 998
NetBackup の状態コード: 7730 998
NetBackup の状態コード: 7731 998
NetBackup の状態コード: 7732 999

NetBackup の状態コード: 7733 999
NetBackup の状態コード: 7734 1000
NetBackup の状態コード: 7750 1000
NetBackup の状態コード: 7751 1001
NetBackup の状態コード: 7752 1001
NetBackup の状態コード: 7800 1001
NetBackup の状態コード: 7801 1001
NetBackup の状態コード: 7802 1002
NetBackup の状態コード: 7803 1002
NetBackup の状態コード: 7804 1002
NetBackup の状態コード: 7805 1002
NetBackup の状態コード: 7806 1003
NetBackup の状態コード: 7807 1003
NetBackup の状態コード: 7808 1003
NetBackup の状態コード: 7809 1003
NetBackup の状態コード: 7810 1004
NetBackup の状態コード: 7811 1004
NetBackup の状態コード: 7812 1004
NetBackup の状態コード: 7813 1004
NetBackup の状態コード: 7814 1005
NetBackup の状態コード: 7815 1005
NetBackup の状態コード: 7850 1006
NetBackup の状態コード: 7851 1006
NetBackup の状態コード: 7852 1006
NetBackup の状態コード: 7853 1007
NetBackup の状態コード: 7854 1007
NetBackup の状態コード: 7855 1007
NetBackup の状態コード: 7856 1007
NetBackup の状態コード: 7857 1008
NetBackup の状態コード: 7858 1008
NetBackup の状態コード: 7859 1008
NetBackup の状態コード: 7860 1008
NetBackup の状態コード: 7861 1009
NetBackup の状態コード: 7862 1009
NetBackup の状態コード: 7863 1009
NetBackup の状態コード: 7864 1009
NetBackup の状態コード: 7865 1010
NetBackup の状態コード: 7866 1010
NetBackup の状態コード: 7867 1010
NetBackup の状態コード: 7868 1010
NetBackup の状態コード: 7869 1011
NetBackup の状態コード: 7870 1011
NetBackup の状態コード: 7871 1011

NetBackup の状態コード: 7872 1012
NetBackup の状態コード: 7873 1012
NetBackup の状態コード: 7874 1012
NetBackup の状態コード: 7875 1012
NetBackup の状態コード: 7876 1013
NetBackup の状態コード: 7877 1013
NetBackup の状態コード: 7878 1013
NetBackup の状態コード: 7879 1014
NetBackup の状態コード: 7880 1014
NetBackup の状態コード: 7881 1014
NetBackup の状態コード: 7882 1014
NetBackup の状態コード: 7883 1015
NetBackup の状態コード: 7884 1015
NetBackup の状態コード: 7885 1015
NetBackup の状態コード: 7886 1015
NetBackup の状態コード: 7887 1016
NetBackup の状態コード: 7888 1016
NetBackup の状態コード: 7889 1016
NetBackup の状態コード: 7890 1017
NetBackup の状態コード: 7891 1017
NetBackup の状態コード: 7892 1017
NetBackup の状態コード: 7893 1018
NetBackup の状態コード: 7894 1018
NetBackup の状態コード: 7895 1018
NetBackup の状態コード: 7896 1018
NetBackup の状態コード: 7897 1019
NetBackup の状態コード: 7898 1019
NetBackup の状態コード: 7899 1019
NetBackup の状態コード: 7900 1019
NetBackup の状態コード: 7901 1020
NetBackup の状態コード: 7902 1020
NetBackup の状態コード: 7903 1020
NetBackup の状態コード: 7905 1020
NetBackup の状態コード: 7907 1021
NetBackup の状態コード: 7910 1021
NetBackup の状態コード: 7911 1021
NetBackup の状態コード: 7912 1022
NetBackup の状態コード: 7913 1022
NetBackup の状態コード: 7914 1022
NetBackup の状態コード: 7915 1022
NetBackup の状態コード: 7927 1023
NetBackup の状態コード: 7928 1023
NetBackup の状態コード: 7929 1023

NetBackup の状態コード: 7930 1024
NetBackup の状態コード: 7932 1024
NetBackup の状態コード: 7934 1024
NetBackup の状態コード: 7935 1024
NetBackup の状態コード: 7937 1025
NetBackup の状態コード: 8000 1025
NetBackup の状態コード: 8001 1025
NetBackup の状態コード: 8002 1025
NetBackup の状態コード: 8009 1026
NetBackup の状態コード: 8016 1026
NetBackup の状態コード: 8018 1026
NetBackup の状態コード: 8019 1026
NetBackup の状態コード: 8021 1027
NetBackup の状態コード: 8051 1027
NetBackup の状態コード: 8053 1028
NetBackup の状態コード: 8054 1028
NetBackup の状態コード: 8055 1028
NetBackup の状態コード: 8056 1028
NetBackup の状態コード: 8100 1029
NetBackup の状態コード: 8101 1029
NetBackup の状態コード: 8102 1029
NetBackup の状態コード: 8103 1030
NetBackup の状態コード: 8104 1030
NetBackup の状態コード: 8105 1030
NetBackup の状態コード: 8106 1030
NetBackup の状態コード: 8107 1031
NetBackup の状態コード: 8200 1031
NetBackup の状態コード: 8201 1031
NetBackup の状態コード: 8203 1032
NetBackup の状態コード: 8204 1032
NetBackup の状態コード: 8205 1032
NetBackup の状態コード: 8207 1033
NetBackup の状態コード: 8208 1033
NetBackup の状態コード: 8209 1033
NetBackup の状態コード: 8211 1033
NetBackup の状態コード: 8212 1034
NetBackup の状態コード: 8216 1034
NetBackup の状態コード: 8217 1034
NetBackup の状態コード: 8220 1035
NetBackup の状態コード: 8221 1035
NetBackup の状態コード: 8224 1035
NetBackup の状態コード: 8226 1035
NetBackup の状態コード: 8227 1036

NetBackup の状態コード: 8228 1036
NetBackup の状態コード: 8229 1036
NetBackup の状態コード: 8234 1037
NetBackup の状態コード: 8235 1037
NetBackup の状態コード: 8236 1037
NetBackup の状態コード: 8237 1038
NetBackup の状態コード: 8238 1038
NetBackup の状態コード: 8240 1039
NetBackup の状態コード: 8250 1039
NetBackup の状態コード: 8251 1039
NetBackup の状態コード: 8252 1040
NetBackup の状態コード: 8253 1040
NetBackup の状態コード: 8300 1040
NetBackup の状態コード: 8301 1041
NetBackup の状態コード: 8302 1041
NetBackup の状態コード: 8303 1042
NetBackup の状態コード: 8304 1042
NetBackup の状態コード: 8305 1043
NetBackup の状態コード: 8306 1043
NetBackup の状態コード: 8307 1044
NetBackup の状態コード: 8308 1045
NetBackup の状態コード: 8310 1046
NetBackup の状態コード: 8311 1046
NetBackup の状態コード: 8312 1047
NetBackup の状態コード: 8313 1048
NetBackup の状態コード: 8314 1049
NetBackup の状態コード: 8315 1049
NetBackup の状態コード: 8316 1049
NetBackup の状態コード: 8350 1050
NetBackup の状態コード: 8351 1050
NetBackup の状態コード: 8352 1050
NetBackup の状態コード: 8401 1051
NetBackup の状態コード: 8402 1051
NetBackup の状態コード: 8403 1052
NetBackup の状態コード: 8404 1053
NetBackup の状態コード: 8405 1053
NetBackup の状態コード: 8406 1054
NetBackup の状態コード: 8407 1055
NetBackup の状態コード: 8408 1055
NetBackup の状態コード: 8409 1056
NetBackup の状態コード: 8410 1057
NetBackup の状態コード: 8411 1057
NetBackup の状態コード: 8412 1058

NetBackup の状態コード: 8413 1058
NetBackup の状態コード: 8414 1059
NetBackup の状態コード: 8415 1060
NetBackup の状態コード: 8416 1061
NetBackup の状態コード: 8417 1061
NetBackup の状態コード: 8418 1062
NetBackup の状態コード: 8419 1063
NetBackup の状態コード: 8420 1064
NetBackup の状態コード: 8421 1064
NetBackup の状態コード: 8422 1065
NetBackup の状態コード: 8423 1065
NetBackup の状態コード: 8424 1066
NetBackup の状態コード: 8425 1067
NetBackup の状態コード: 8426 1067
NetBackup の状態コード: 8427 1068
NetBackup の状態コード: 8428 1068
NetBackup の状態コード: 8429 1069
NetBackup の状態コード: 8430 1069
NetBackup の状態コード: 8431 1070
NetBackup の状態コード: 8432 1070
NetBackup の状態コード: 8433 1071
NetBackup の状態コード: 8434 1071
NetBackup の状態コード: 8435 1072
NetBackup の状態コード: 8436 1072
NetBackup の状態コード: 8437 1073
NetBackup の状態コード: 8438 1073
NetBackup の状態コード: 8439 1074
NetBackup の状態コード: 8440 1075
NetBackup の状態コード: 8441 1075
NetBackup の状態コード: 8442 1076
NetBackup の状態コード: 8443 1076
NetBackup の状態コード: 8444 1077
NetBackup の状態コード: 8445 1077
NetBackup の状態コード: 8446 1078
NetBackup の状態コード: 8453 1078
NetBackup の状態コード: 8454 1080
NetBackup の状態コード: 8455 1081
NetBackup の状態コード: 8456 1081
NetBackup の状態コード: 8459 1082
NetBackup の状態コード: 8460 1083
NetBackup の状態コード: 8469 1084
NetBackup の状態コード: 8500 1085
NetBackup の状態コード: 8503 1086

NetBackup の状態コード: 8504 1086
NetBackup の状態コード: 8505 1086
NetBackup の状態コード: 8506 1087
NetBackup の状態コード: 8507 1087
NetBackup の状態コード: 8508 1087
NetBackup の状態コード: 8509 1088
NetBackup の状態コード: 8510 1088
NetBackup の状態コード: 8511 1088
NetBackup の状態コード: 8512 1089
NetBackup の状態コード: 8516 1089
NetBackup の状態コード: 8517 1089
NetBackup の状態コード: 8604 1090
NetBackup の状態コード: 8611 1090
NetBackup の状態コード: 8617 1091
NetBackup の状態コード: 8618 1091
NetBackup の状態コード: 8619 1091
NetBackup の状態コード: 8620 1092
NetBackup の状態コード: 8621 1092
NetBackup の状態コード: 8622 1092
NetBackup の状態コード: 8623 1093
NetBackup の状態コード: 8625 1093
NetBackup の状態コード: 8629 1094
NetBackup の状態コード: 8630 1094
NetBackup の状態コード: 8631 1094
NetBackup の状態コード: 8632 1095
NetBackup の状態コード: 8633 1095
NetBackup の状態コード: 8634 1095
NetBackup の状態コード: 8635 1096
NetBackup の状態コード: 8636 1096
NetBackup の状態コード: 8638 1097
NetBackup の状態コード: 8639 1097
NetBackup の状態コード: 8640 1097
NetBackup の状態コード: 8641 1098
NetBackup の状態コード: 8642 1098
NetBackup の状態コード: 8656 1099
NetBackup の状態コード: 8657 1099
NetBackup の状態コード: 8658 1100
NetBackup の状態コード: 8676 1101
NetBackup の状態コード: 8677 1101
NetBackup の状態コード: 8678 1102
NetBackup の状態コード: 8679 1102
NetBackup の状態コード: 8680 1102
NetBackup の状態コード: 8700 1102

NetBackup の状態コード: 8701 1103
NetBackup の状態コード: 8702 1103
NetBackup の状態コード: 8703 1104
NetBackup の状態コード: 8704 1104
NetBackup の状態コード: 8705 1104
NetBackup の状態コード: 8706 1105
NetBackup の状態コード: 8707 1105
NetBackup の状態コード: 8708 1105
NetBackup の状態コード: 8709 1105
NetBackup の状態コード: 8710 1106
NetBackup の状態コード: 8711 1106
NetBackup の状態コード: 8712 1106
NetBackup の状態コード: 8713 1106
NetBackup の状態コード: 8714 1107
NetBackup の状態コード: 8715 1107
NetBackup の状態コード: 8716 1107
NetBackup の状態コード: 8717 1107
NetBackup の状態コード: 8718 1108
NetBackup の状態コード: 8719 1108
NetBackup の状態コード: 8720 1108
NetBackup の状態コード: 8722 1108
NetBackup の状態コード: 8723 1109
NetBackup の状態コード: 8724 1109
NetBackup の状態コード: 8725 1109
NetBackup の状態コード: 8727 1109
NetBackup の状態コード: 8728 1110
NetBackup の状態コード: 8729 1110
NetBackup の状態コード: 8730 1110
NetBackup の状態コード: 8731 1111
NetBackup の状態コード: 8732 1111
NetBackup の状態コード: 8733 1112
NetBackup の状態コード: 8739 1112
NetBackup の状態コード: 8740 1112
NetBackup の状態コード: 8743 1113
NetBackup の状態コード: 8744 1113
NetBackup の状態コード: 8745 1113
NetBackup の状態コード: 8747 1114
NetBackup の状態コード: 8748 1114
NetBackup の状態コード: 8749 1114
NetBackup の状態コード: 8753 1115
NetBackup の状態コード: 8754 1115
NetBackup の状態コード: 8755 1116
NetBackup の状態コード: 8756 1116

NetBackup の状態コード: 8757 1117
NetBackup の状態コード: 8759 1117
NetBackup の状態コード: 8760 1117
NetBackup の状態コード: 8761 1117
NetBackup の状態コード: 8762 1118
NetBackup の状態コード: 8763 1118
NetBackup の状態コード: 8764 1118
NetBackup の状態コード: 8765 1119
NetBackup の状態コード: 8766 1119
NetBackup の状態コード: 8767 1120
NetBackup の状態コード: 8768 1120
NetBackup の状態コード: 8769 1120
NetBackup の状態コード: 8770 1121
NetBackup の状態コード: 8771 1121
NetBackup の状態コード: 8772 1121
NetBackup の状態コード: 8773 1122
NetBackup の状態コード: 8774 1122
NetBackup の状態コード: 8775 1122
NetBackup の状態コード: 8776 1122
NetBackup の状態コード: 8777 1123
NetBackup の状態コード: 8778 1123
NetBackup の状態コード: 8779 1123
NetBackup の状態コード: 8787 1133
NetBackup の状態コード: 8788 1134
NetBackup の状態コード: 8789 1134
NetBackup の状態コード: 8790 1134
NetBackup の状態コード: 8791 1135
NetBackup の状態コード: 8792 1136
NetBackup の状態コード: 8793 1136
NetBackup の状態コード: 8794 1136
NetBackup の状態コード: 8798 1137
NetBackup の状態コード: 8799 1142
NetBackup の状態コード: 8800 1142
NetBackup の状態コード: 8813 1142
NetBackup の状態コード: 8814 1143
NetBackup の状態コード: 8816 1143
NetBackup の状態コード: 8817 1143
NetBackup の状態コード: 8818 1144
NetBackup の状態コード: 8819 1144
NetBackup の状態コード: 8820 1144
NetBackup の状態コード: 8821 1145
NetBackup の状態コード: 8822 1145
NetBackup の状態コード:8823 1145

NetBackup の状態コード: 8824 1146
NetBackup の状態コード: 8825 1146
NetBackup の状態コード: 8836 1146
NetBackup の状態コード: 8837 1146
NetBackup の状態コード: 8842 1147
NetBackup の状態コード: 8900 1147
NetBackup の状態コード: 8901 1148
NetBackup の状態コード: 8902 1148
NetBackup の状態コード: 8903 1148
NetBackup の状態コード: 8904 1148
NetBackup の状態コード: 8951 1149
NetBackup の状態コード: 8952 1149
NetBackup の状態コード: 8953 1149
NetBackup の状態コード: 8954 1150
NetBackup の状態コード: 8955 1150
NetBackup の状態コード: 8956 1150
NetBackup の状態コード: 8957 1150
NetBackup の状態コード: 8958 1151
NetBackup の状態コード: 8959 1151
NetBackup の状態コード: 8960 1151
NetBackup の状態コード: 8962 1151
NetBackup の状態コード: 8963 1152
NetBackup の状態コード: 9032 1154
NetBackup の状態コード: 9050 1154
NetBackup の状態コード: 9051 1154
NetBackup の状態コード: 9052 1154
NetBackup の状態コード: 9053 1155
NetBackup の状態コード: 9101 1155
NetBackup の状態コード: 9102 1155
NetBackup の状態コード: 9103 1155
NetBackup の状態コード: 9104 1156
NetBackup の状態コード: 9108 1156
NetBackup の状態コード: 9126 1157
NetBackup の状態コード: 9128 1159
NetBackup の状態コード: 9129 1160
NetBackup の状態コード: 9130 1160
NetBackup の状態コード: 9131 1160
NetBackup の状態コード: 9132 1160
NetBackup の状態コード: 9134 1161
NetBackup の状態コード: 9135 1161
NetBackup の状態コード: 9136 1162
NetBackup の状態コード: 9139 1162
NetBackup の状態コード: 9140 1163

NetBackup の状態コード: 9141 1163
NetBackup の状態コード: 9142 1164
NetBackup の状態コード: 9143 1164
NetBackup の状態コード: 9144 1165
NetBackup の状態コード: 9145 1165
NetBackup の状態コード: 9146 1166
NetBackup の状態コード: 9147 1166
NetBackup の状態コード: 9148 1167
NetBackup の状態コード: 9149 1167
NetBackup の状態コード: 9150 1168
NetBackup の状態コード: 9151 1168
NetBackup の状態コード: 9152 1168
NetBackup の状態コード: 9201 1169
NetBackup の状態コード: 9202 1169
NetBackup の状態コード: 9250 1170
NetBackup の状態コード: 9251 1171
NetBackup の状態コード: 9252 1171
NetBackup の状態コード: 9253 1172
NetBackup の状態コード: 9270 1172
NetBackup 状態コード: 9271 1173
NetBackup の状態コード: 9300 1174
NetBackup の状態コード: 9301 1174
NetBackup の状態コード: 9302 1175
NetBackup の状態コード: 9303 1175
NetBackup の状態コード: 9304 1175
NetBackup の状態コード: 9305 1176
NetBackup の状態コード: 9306 1176
NetBackup の状態コード: 9307 1177
NetBackup の状態コード: 9308 1177
NetBackup の状態コード: 9309 1178
NetBackup の状態コード: 9310 1179
NetBackup の状態コード: 9311 1179
NetBackup の状態コード: 9312 1179
NetBackup の状態コード: 9313 1180
NetBackup の状態コード: 9314 1180
NetBackup の状態コード: 9315 1180
NetBackup の状態コード: 9316 1181
NetBackup の状態コード: 9317 1181
NetBackup の状態コード: 9318 1181
NetBackup の状態コード: 9319 1182
NetBackup の状態コード: 9324 1182
NetBackup の状態コード: 9325 1182
NetBackup の状態コード: 9326 1183

NetBackup の状態コード: 9327 1183
NetBackup の状態コード: 9328 1183
NetBackup の状態コード: 9329 1184
NetBackup の状態コード: 9330 1184
NetBackup の状態コード: 9331 1185
NetBackup の状態コード: 9332 1185
NetBackup の状態コード: 9333 1185
NetBackup の状態コード: 9334 1186
NetBackup の状態コード: 9335 1186
NetBackup の状態コード: 9336 1186
NetBackup の状態コード: 9337 1187
NetBackup の状態コード: 9338 1187
NetBackup の状態コード: 9339 1187
NetBackup の状態コード: 9340 1188
NetBackup の状態コード: 9350 1188
NetBackup の状態コード: 9351 1188
NetBackup の状態コード: 9352 1188
NetBackup の状態コード: 9353 1189
NetBackup の状態コード: 9354 1189
NetBackup の状態コード: 9355 1189
NetBackup の状態コード: 9356 1189
NetBackup の状態コード: 9357 1190
NetBackup の状態コード: 9380 1190
NetBackup の状態コード: 9381 1190
NetBackup の状態コード: 9382 1191
NetBackup の状態コード: 9383 1191
NetBackup の状態コード: 9384 1191
NetBackup の状態コード: 9385 1192
NetBackup の状態コード: 9386 1192
NetBackup の状態コード: 9387 1192
NetBackup の状態コード: 9388 1193
NetBackup の状態コード: 9389 1193
NetBackup の状態コード: 9391 1193
NetBackup の状態コード: 9392 1194
NetBackup の状態コード: 9400 1194
NetBackup の状態コード: 9401 1194
NetBackup の状態コード: 9402 1194
NetBackup の状態コード: 9403 1195
NetBackup の状態コード: 9404 1195
NetBackup の状態コード: 9405 1195
NetBackup の状態コード: 9480 1195
NetBackup の状態コード: 9481 1196
NetBackup の状態コード: 9482 1196

NetBackup の状態コード: 9483 1196
NetBackup の状態コード: 9484 1197
NetBackup の状態コード: 9490 1197
NetBackup の状態コード: 9491 1197
NetBackup の状態コード: 9492 1198
NetBackup の状態コード: 9509 1198
NetBackup の状態コード: 9550 1198
NetBackup の状態コード: 9551 1199
NetBackup の状態コード: 9552 1199
NetBackup の状態コード: 9553 1200
NetBackup の状態コード: 9554 1200
NetBackup の状態コード: 9555 1200
NetBackup の状態コード: 9556 1201
NetBackup の状態コード: 9600 1201
NetBackup の状態コード: 9616 1201
NetBackup の状態コード: 9700 1201
NetBackup の状態コード: 9701 1202
NetBackup の状態コード: 9702 1202
NetBackup の状態コード: 9703 1202
NetBackup の状態コード: 9704 1203
NetBackup の状態コード: 9705 1203
NetBackup の状態コード: 9706 1203
NetBackup の状態コード: 9708 1203
NetBackup の状態コード: 9709 1204
NetBackup の状態コード: 9710 1204
NetBackup の状態コード: 9711 1204
NetBackup の状態コード: 9712 1205
NetBackup の状態コード: 9713 1205
NetBackup の状態コード: 9714 1205
NetBackup の状態コード: 9715 1205
NetBackup の状態コード: 9716 1206
NetBackup の状態コード: 9717 1206
NetBackup の状態コード: 9718 1206
NetBackup の状態コード: 9719 1206
NetBackup の状態コード: 9720 1207
NetBackup の状態コード: 9722 1207
NetBackup の状態コード: 9723 1207
NetBackup の状態コード: 9724 1208
NetBackup の状態コード: 9725 1208
NetBackup の状態コード: 9726 1208
NetBackup の状態コード: 9731 1208
NetBackup の状態コード: 9732 1209
NetBackup の状態コード: 9733 1209

NetBackup の状態コード: 9734 1209
NetBackup の状態コード: 9735 1210
NetBackup の状態コード: 9736 1210
NetBackup の状態コード: 9737 1210
NetBackup の状態コード: 9738 1211
NetBackup の状態コード: 9739 1211
NetBackup の状態コード: 9740 1211
NetBackup の状態コード: 9741 1212
NetBackup の状態コード: 9743 1212
NetBackup の状態コード: 9744 1213
NetBackup の状態コード: 9745 1213
NetBackup の状態コード: 9746 1213
NetBackup の状態コード: 9747 1214
NetBackup の状態コード: 9748 1214
NetBackup の状態コード: 9749 1214
NetBackup の状態コード: 9751 1215
NetBackup の状態コード: 9752 1215
NetBackup の状態コード: 9760 1216
NetBackup の状態コード: 9764 1216
NetBackup の状態コード: 9765 1216
NetBackup の状態コード: 9766 1216
NetBackup の状態コード: 9767 1217
NetBackup の状態コード: 9768 1217
NetBackup の状態コード: 9769 1217
NetBackup の状態コード: 9770 1218
NetBackup の状態コード: 9771 1218
NetBackup の状態コード: 9773 1218
NetBackup の状態コード: 9778 1219
NetBackup の状態コード: 9781 1219
NetBackup の状態コード: 9783 1219
NetBackup の状態コード: 9784 1220
NetBackup の状態コード: 9785 1220
NetBackup の状態コード: 9786 1220
NetBackup の状態コード: 9787 1221
NetBackup の状態コード: 9788 1221
NetBackup の状態コード: 9789 1221
NetBackup の状態コード: 9794 1222
NetBackup の状態コード: 9795 1222
NetBackup の状態コード: 9796 1222
NetBackup の状態コード: 9800 1223
NetBackup の状態コード: 9801 1223
NetBackup の状態コード: 9802 1223
NetBackup の状態コード: 9803 1224

NetBackup の状態コード: 9804 1224
NetBackup の状態コード: 9805 1224
NetBackup の状態コード: 9806 1224
NetBackup の状態コード: 9807 1225
NetBackup の状態コード: 9808 1225
NetBackup の状態コード: 9809 1225
NetBackup の状態コード: 9810 1225
NetBackup の状態コード: 9811 1226
NetBackup の状態コード: 9812 1226
NetBackup の状態コード: 9813 1226
NetBackup の状態コード: 9814 1227
NetBackup の状態コード: 9815 1227
NetBackup の状態コード: 9816 1227
NetBackup の状態コード: 9818 1227
NetBackup の状態コード: 9819 1228
NetBackup の状態コード: 9820 1228
NetBackup の状態コード: 9821 1228
NetBackup の状態コード: 9822 1229
NetBackup の状態コード: 9823 1229
NetBackup の状態コード: 9830 1229
NetBackup の状態コード: 9833 1230
NetBackup の状態コード: 9834 1230
NetBackup の状態コード: 9835 1230
NetBackup の状態コード: 9836 1230
NetBackup の状態コード: 9837 1231
NetBackup の状態コード: 9838 1231
NetBackup の状態コード: 9839 1231
NetBackup の状態コード: 9841 1231
NetBackup の状態コード: 9842 1232
NetBackup の状態コード: 9843 1232
NetBackup の状態コード: 9844 1232
NetBackup の状態コード: 9845 1232
NetBackup の状態コード: 9846 1233
NetBackup の状態コード: 9847 1233
NetBackup の状態コード: 9848 1233
NetBackup の状態コード: 9849 1233
NetBackup の状態コード: 9850 1234
NetBackup の状態コード: 9851 1234
NetBackup の状態コード: 9853 1234
NetBackup の状態コード: 9854 1234
NetBackup の状態コード: 9855 1235
NetBackup の状態コード: 9856 1235
NetBackup の状態コード: 9857 1236

NetBackup の状態コード: 9858 1236
NetBackup の状態コード: 9859 1236
NetBackup の状態コード: 9860 1236
NetBackup の状態コード: 9861 1237
NetBackup の状態コード: 9862 1237
NetBackup の状態コード: 9863 1237
NetBackup の状態コード: 9865 1238
NetBackup の状態コード: 9866 1238
NetBackup の状態コード: 9867 1239
NetBackup の状態コード: 9868 1239
NetBackup の状態コード: 9869 1240
NetBackup の状態コード: 9870 1240
NetBackup の状態コード: 9871 1241
NetBackup の状態コード: 9872 1241
NetBackup の状態コード: 9873 1241
NetBackup の状態コード: 9874 1242
NetBackup の状態コード: 9876 1242
NetBackup の状態コード: 9877 1242
NetBackup の状態コード: 9878 1243
NetBackup の状態コード: 9879 1243
NetBackup の状態コード: 9882 1243
NetBackup の状態コード: 9883 1244
NetBackup の状態コード: 9884 1244
NetBackup の状態コード 9885 1244
NetBackup の状態コード: 9886 1245
NetBackup の状態コード: 9888 1245
NetBackup の状態コード: 9890 1245
NetBackup の状態コード: 9891 1246
NetBackup の状態コード: 9894 1246
NetBackup の状態コード: 9895 1246
NetBackup の状態コード: 9896 1246
NetBackup の状態コード: 9897 1247
NetBackup の状態コード: 9901 1248
NetBackup の状態コード: 9902 1248
NetBackup の状態コード: 9903 1248
NetBackup の状態コード: 9904 1248
NetBackup の状態コード: 9905 1249
NetBackup の状態コード: 9906 1249
NetBackup の状態コード: 9907 1249
NetBackup の状態コード: 9909 1250
NetBackup の状態コード: 9910 1250
NetBackup の状態コード: 9911 1250
NetBackup の状態コード: 9912 1250

NetBackup の状態コード: 9913 1251
NetBackup の状態コード: 9914 1251
NetBackup の状態コード: 9915 1251
NetBackup の状態コード: 9916 1251
NetBackup の状態コード: 9917 1252
NetBackup の状態コード: 9918 1252
NetBackup の状態コード: 9919 1252
NetBackup の状態コード: 9920 1252
NetBackup の状態コード: 9921 1253
NetBackup の状態コード: 9922 1253
NetBackup の状態コード: 9923 1253
NetBackup の状態コード: 9926 1253
NetBackup の状態コード: 9928 1254
NetBackup の状態コード: 9929 1254
NetBackup の状態コード: 9930 1254
NetBackup の状態コード: 9931 1254
NetBackup の状態コード: 9934 1255
NetBackup の状態コード: 9935 1255
NetBackup の状態コード: 9936 1255
NetBackup の状態コード: 9937 1256
NetBackup の状態コード: 9938 1256
NetBackup の状態コード: 9939 1256
NetBackup の状態コード: 9940 1256
NetBackup の状態コード: 9941 1257
NetBackup の状態コード: 9942 1257
NetBackup の状態コード: 9944 1257
NetBackup の状態コード: 9946 1257
NetBackup の状態コード: 9947 1258
NetBackup の状態コード: 9948 1258
NetBackup の状態コード: 9949 1258
NetBackup の状態コード: 9968 1258
NetBackup の状態コード: 9969 1259
NetBackup の状態コード: 9970 1259
NetBackup の状態コード: 9971 1259
NetBackup の状態コード: 9972 1259
NetBackup の状態コード: 9973 1260
NetBackup の状態コード: 9974 1260
NetBackup の状態コード: 9975 1260
NetBackup の状態コード: 9976 1261
NetBackup の状態コード: 9977 1261
NetBackup の状態コード: 9978 1261
NetBackup の状態コード: 9979 1262
NetBackup の状態コード: 9980 1262

NetBackup の状態コード: 9981 1262
NetBackup の状態コード: 9982 1262
NetBackup の状態コード: 9983 1263
NetBackup の状態コード: 9984 1263
NetBackup の状態コード: 9986 1263
NetBackup の状態コード: 9990 1264
NetBackup の状態コード: 9991 1264
NetBackup の状態コード: 9992 1264
NetBackup の状態コード: 9993 1264
NetBackup の状態コード: 9997 1265
NetBackup の状態コード: 9998 1265
NetBackup KMS の状態コード 1265
NetBackup KMS の状態コード: 1 1266
NetBackup KMS の状態コード: 2 1266
NetBackup KMS の状態コード: 3 1266
NetBackup KMS の状態コード: 4 1266
NetBackup KMS の状態コード: 5 1267
NetBackup KMS の状態コード: 6 1267
NetBackup KMS の状態コード: 7 1267
NetBackup KMS の状態コード: 8 1267
NetBackup KMS の状態コード: 9 1267
NetBackup KMS の状態コード: 10 1267
NetBackup KMS の状態コード: 11 1268
NetBackup KMS の状態コード: 12 1268
NetBackup KMS の状態コード: 13 1268
NetBackup KMS の状態コード: 14 1268
NetBackup KMS の状態コード: 15 1268
NetBackup KMS の状態コード: 16 1269
NetBackup KMS の状態コード: 17 1269
NetBackup KMS の状態コード: 18 1269
NetBackup KMS の状態コード: 19 1269
NetBackup KMS の状態コード: 20 1269
NetBackup KMS の状態コード: 21 1270
NetBackup KMS の状態コード: 22 1270
NetBackup KMS の状態コード: 23 1270
NetBackup KMS の状態コード: 24 1270
NetBackup KMS の状態コード: 25 1270
NetBackup KMS の状態コード: 26 1270
NetBackup KMS の状態コード: 27 1271
NetBackup KMS の状態コード: 28 1271
NetBackup KMS の状態コード: 29 1271
NetBackup KMS の状態コード: 30 1271
NetBackup KMS の状態コード: 31 1271

NetBackup KMS の状態コード: 32 1271
NetBackup KMS の状態コード: 33 1272
NetBackup KMS の状態コード: 34 1272
NetBackup KMS の状態コード: 35 1272
NetBackup KMS の状態コード: 36 1272
NetBackup KMS の状態コード: 37 1272
NetBackup KMS の状態コード: 38 1272
NetBackup KMS の状態コード: 39 1273
NetBackup KMS の状態コード: 40 1273
NetBackup KMS の状態コード: 41 1273
NetBackup KMS の状態コード: 42 1273
NetBackup KMS の状態コード: 44 1273
NetBackup KMS の状態コード: 45 1274
NetBackup KMS の状態コード: 46 1274
NetBackup KMS の状態コード: 47 1274
NetBackup KMS の状態コード: 48 1274
NetBackup KMS の状態コード: 49 1274
NetBackup KMS の状態コード: 50 1275
NetBackup KMS の状態コード: 51 1275
NetBackup KMS の状態コード: 52 1275
NetBackup KMS の状態コード: 53 1275
NetBackup KMS の状態コード: 54 1275
NetBackup KMS の状態コード: 55 1275
NetBackup KMS の状態コード: 56 1276
NetBackup KMS の状態コード: 57 1276
NetBackup KMS の状態コード: 58 1276
NetBackup KMS の状態コード: 59 1276
NetBackup KMS の状態コード: 60 1276
NetBackup KMS の状態コード: 61 1277
NetBackup KMS の状態コード: 62 1277
NetBackup KMS の状態コード: 63 1277
NetBackup KMS の状態コード: 1287 1278

第 2 章 Media Manager の状態コード 1279

Media Manager の状態コード 1279
Media Manager の状態コード 1 1279
Media Manager の状態コード 2 1279
Media Manager の状態コード 3 1280
Media Manager の状態コード 4 1280
Media Manager の状態コード 5 1281
Media Manager の状態コード 6 1281
Media Manager の状態コード 7 1281

Media Manager の状態コード 8 1281
Media Manager の状態コード 9 1282
Media Manager の状態コード 10 1282
Media Manager の状態コード 11 1283
Media Manager の状態コード 12 1283
Media Manager の状態コード 13 1284
Media Manager の状態コード 14 1284
Media Manager の状態コード 15 1284
Media Manager の状態コード 16 1285
Media Manager の状態コード 18 1285
Media Manager の状態コード 19 1285
Media Manager の状態コード 20 1286
Media Manager の状態コード 21 1286
Media Manager の状態コード 22 1287
Media Manager の状態コード 23 1287
Media Manager の状態コード 25 1287
Media Manager の状態コード 26 1287
Media Manager の状態コード 27 1288
Media Manager の状態コード 28 1288
Media Manager の状態コード 32 1289
Media Manager の状態コード 34 1289
Media Manager の状態コード 35 1289
Media Manager の状態コード 36 1290
Media Manager の状態コード 37 1290
Media Manager の状態コード 39 1291
Media Manager の状態コード 40 1291
Media Manager の状態コード 41 1291
Media Manager の状態コード 42 1292
Media Manager の状態コード 43 1292
Media Manager の状態コード 44 1293
Media Manager の状態コード 45 1294
Media Manager の状態コード 46 1294
Media Manager の状態コード 47 1294
Media Manager の状態コード 48 1295
Media Manager の状態コード 49 1295
Media Manager の状態コード 50 1295
Media Manager の状態コード 51 1296
Media Manager の状態コード 52 1296
Media Manager の状態コード 53 1297
Media Manager の状態コード 54 1297
Media Manager の状態コード 55 1298
Media Manager の状態コード 57 1298
Media Manager の状態コード 58 1298

Media Manager の状態コード 59 1299
Media Manager の状態コード 60 1299
Media Manager の状態コード 61 1300
Media Manager の状態コード 62 1300
Media Manager の状態コード 63 1300
Media Manager の状態コード 64 1301
Media Manager の状態コード 65 1301
Media Manager の状態コード 67 1301
Media Manager の状態コード 68 1302
Media Manager の状態コード 69 1302
Media Manager の状態コード 70 1303
Media Manager の状態コード 71 1304
Media Manager の状態コード 72 1304
Media Manager の状態コード 73 1305
Media Manager の状態コード 74 1305
Media Manager の状態コード 75 1306
Media Manager の状態コード 76 1306
Media Manager の状態コード 78 1306
Media Manager の状態コード 79 1307
Media Manager の状態コード 80 1307
Media Manager の状態コード 81 1308
Media Manager の状態コード 82 1308
Media Manager の状態コード 83 1309
Media Manager の状態コード 84 1309
Media Manager の状態コード 85 1310
Media Manager の状態コード 86 1310
Media Manager の状態コード 87 1311
Media Manager の状態コード 88 1311
Media Manager の状態コード 89 1311
Media Manager の状態コード 90 1312
Media Manager の状態コード 92 1312
Media Manager の状態コード 93 1313
Media Manager の状態コード 94 1313
Media Manager の状態コード 95 1314
Media Manager の状態コード 96 1314
Media Manager の状態コード 97 1315
Media Manager の状態コード 101 1315
Media Manager の状態コード 102 1316
Media Manager の状態コード 104 1316
Media Manager の状態コード 105 1317
Media Manager の状態コード 109 1317
Media Manager の状態コード 110 1318
Media Manager の状態コード 111 1318

Media Manager の状態コード 112 1319
Media Manager の状態コード 113 1319
Media Manager の状態コード 114 1319
Media Manager の状態コード 115 1319
Media Manager の状態コード 116 1320
Media Manager の状態コード 117 1320
Media Manager の状態コード 118 1321
Media Manager の状態コード 119 1321
Media Manager の状態コード 121 1321
Media Manager の状態コード 122 1322
Media Manager の状態コード 126 1322
Media Manager の状態コード 127 1323
Media Manager の状態コード 129 1323
Media Manager の状態コード 130 1324
Media Manager の状態コード 131 1324
Media Manager の状態コード 132 1324
Media Manager の状態コード 133 1325
Media Manager の状態コード 134 1325
Media Manager の状態コード 135 1326
Media Manager の状態コード 136 1326
Media Manager の状態コード 137 1326
Media Manager の状態コード 138 1327
Media Manager の状態コード 139 1327
Media Manager の状態コード 140 1327
Media Manager の状態コード 141 1328
Media Manager の状態コード 142 1328
Media Manager の状態コード 143 1328
Media Manager の状態コード 144 1328
Media Manager の状態コード 145 1329
Media Manager の状態コード 146 1329
Media Manager の状態コード 147 1329
Media Manager の状態コード 148 1330
Media Manager の状態コード 149 1330
Media Manager の状態コード 150 1331
Media Manager の状態コード 152 1331
Media Manager の状態コード 153 1331
Media Manager の状態コード 155 1332
Media Manager の状態コード 160 1332
Media Manager の状態コード 162 1332
Media Manager の状態コード 163 1333
Media Manager の状態コード 164 1333
Media Manager の状態コード 165 1333
Media Manager の状態コード 166 1334

Media Manager の状態コード 167 1334
Media Manager の状態コード 168 1334
Media Manager の状態コード 169 1335
Media Manager の状態コード 171 1335
Media Manager の状態コード 172 1335
Media Manager の状態コード 173 1336
Media Manager の状態コード 175 1336
Media Manager の状態コード 176 1336
Media Manager の状態コード 177 1336
Media Manager の状態コード 181 1337
Media Manager の状態コード 182 1338
Media Manager の状態コード 185 1338
Media Manager の状態コード 186 1338
Media Manager の状態コード 187 1339
Media Manager の状態コード 188 1340
Media Manager の状態コード 189 1341
Media Manager の状態コード 190 1341
Media Manager の状態コード 191 1342
Media Manager の状態コード 192 1342
Media Manager の状態コード 193 1342
Media Manager の状態コード 194 1342
Media Manager の状態コード 195 1343
Media Manager の状態コード 196 1343
Media Manager の状態コード 198 1343
Media Manager の状態コード 199 1344

第 3 章 デバイス構成の状態コード 1345

デバイス構成の状態コード 1345
デバイス構成の状態コード 0 1345
デバイス構成の状態コード 1 1345
デバイス構成の状態コード 2 1346
デバイス構成の状態コード 3 1346
デバイス構成の状態コード 7 1346
デバイス構成の状態コード 8 1347
デバイス構成の状態コード 9 1347
デバイス構成の状態コード 10 1347
デバイス構成の状態コード 11 1348
デバイス構成の状態コード 13 1348
デバイス構成の状態コード 14 1348
デバイス構成の状態コード 15 1349
デバイス構成の状態コード 16 1349
デバイス構成の状態コード 17 1350

デバイス構成の状態コード 18 1350
デバイス構成の状態コード 19 1350
デバイス構成の状態コード 21 1351
デバイス構成の状態コード 22 1351
デバイス構成の状態コード 24 1352
デバイス構成の状態コード 25 1352
デバイス構成の状態コード 27 1352
デバイス構成の状態コード 28 1352
デバイス構成の状態コード 29 1353
デバイス構成の状態コード 30 1353
デバイス構成の状態コード 31 1353
デバイス構成の状態コード 33 1354
デバイス構成の状態コード 34 1354
デバイス構成の状態コード 35 1354
デバイス構成の状態コード 36 1355
デバイス構成の状態コード 37 1355
デバイス構成の状態コード 38 1355
デバイス構成の状態コード 39 1355
デバイス構成の状態コード 40 1356
デバイス構成の状態コード 41 1356
デバイス構成の状態コード 42 1356
デバイス構成の状態コード 44 1357
デバイス構成の状態コード 48 1358
デバイス構成の状態コード 49 1358
デバイス構成の状態コード 51 1358
デバイス構成の状態コード 52 1358
デバイス構成の状態コード 53 1359
デバイス構成の状態コード 55 1359
デバイス管理の状態コード 56 1359
デバイス構成の状態コード 57 1360
デバイス構成の状態コード 58 1360
デバイス構成の状態コード 59 1360
デバイス構成の状態コード 60 1361
デバイス構成の状態コード 61 1361
デバイス構成の状態コード 62 1362
デバイス構成の状態コード 63 1362
デバイス構成の状態コード 64 1362
デバイス構成の状態コード 65 1362
デバイス構成の状態コード 66 1363
デバイス構成の状態コード 67 1363
デバイス構成の状態コード 68 1363
デバイス構成の状態コード 69 1363
デバイス構成の状態コード 70 1364

デバイス構成の状態コード 71 1364
デバイス構成の状態コード 72 1364
デバイス構成の状態コード 73 1364
デバイス構成の状態コード 74 1365
デバイス構成の状態コード 75 1365
デバイス構成の状態コード 76 1365
デバイス構成の状態コード 77 1366
デバイス構成の状態コード 78 1366
デバイス構成の状態コード 79 1366
デバイス構成の状態コード 81 1367
デバイス構成の状態コード 82 1367
デバイス構成の状態コード 83 1367
デバイス構成の状態コード 84 1368
デバイス構成の状態コード 85 1368
デバイス構成の状態コード 86 1368
デバイス構成の状態コード 87 1369
デバイス構成の状態コード 88 1369
デバイス構成の状態コード 89 1370
デバイス構成の状態コード 90 1370
デバイス構成の状態コード 91 1370
デバイス構成の状態コード 92 1371
デバイス構成の状態コード 93 1371
デバイス構成の状態コード 95 1371
デバイス構成の状態コード 96 1371
デバイス構成の状態コード 97 1372
デバイス構成の状態コード 98 1372
デバイス構成の状態コード 99 1372
デバイス構成の状態コード 100 1372
デバイス構成の状態コード 101 1373

第 4 章 デバイス管理の状態コード 1374

デバイス管理の状態コード 1374
デバイス管理の状態コード 1 1374
デバイス管理の状態コード 2 1374
デバイス管理の状態コード 3 1375
デバイス管理の状態コード 4 1375
デバイス管理の状態コード 5 1375
デバイス管理の状態コード 6 1376
デバイス管理の状態コード 7 1376
デバイス管理の状態コード 8 1377
デバイス管理の状態コード 10 1377
デバイス管理の状態コード 12 1378

デバイス管理の状態コード 13 1378
デバイス管理の状態コード 14 1378
デバイス管理の状態コード 15 1379
デバイス管理の状態コード 16 1379
デバイス管理の状態コード 17 1379
デバイス管理の状態コード 19 1380
デバイス管理の状態コード 20 1380
デバイス管理の状態コード 21 1380
デバイス管理の状態コード 22 1381
デバイス管理の状態コード 23 1381
デバイス管理の状態コード 24 1381
デバイス管理の状態コード 25 1382
デバイス管理の状態コード 26 1382
デバイス管理の状態コード 27 1382
デバイス管理の状態コード 28 1383
デバイス管理の状態コード 30 1383
デバイス管理の状態コード 32 1383
デバイス管理の状態コード 33 1384
デバイス管理の状態コード 35 1384
デバイス管理の状態コード 36 1385
デバイス管理の状態コード 37 1385
デバイス構成の状態コード 38 1386
デバイス管理の状態コード 39 1386
デバイス管理の状態コード 40 1386
デバイス管理の状態コード 41 1387
デバイス管理の状態コード 42 1387
デバイス管理の状態コード 44 1387
デバイス管理の状態コード 46 1388
デバイス管理の状態コード 47 1388
デバイス管理の状態コード 48 1389
デバイス管理の状態コード 49 1389
デバイス管理の状態コード 50 1389
デバイス管理の状態コード 52 1390
デバイス管理の状態コード 53 1390
デバイス管理の状態コード 55 1390
デバイス管理の状態コード 56 1390
デバイス管理の状態コード 58 1391
デバイス管理の状態コード 59 1391
デバイス管理の状態コード 60 1391
デバイス管理の状態コード 61 1392
デバイス管理の状態コード 62 1392
デバイス管理の状態コード 63 1392
デバイス管理の状態コード 64 1393

デバイス管理の状態コード 65 1393
デバイス管理の状態コード 66 1393
デバイス管理の状態コード 69 1393
デバイス管理の状態コード 70 1394
デバイス管理の状態コード 71 1394
デバイス管理の状態コード 72 1394
デバイス管理の状態コード 73 1395
デバイス管理の状態コード 74 1395
デバイス管理の状態コード 75 1395
デバイス管理の状態コード 76 1395
デバイス管理の状態コード 77 1396
デバイス管理の状態コード 78 1396
デバイス管理の状態コード 79 1397
デバイス管理の状態コード 80 1397
デバイス管理の状態コード 81 1397
デバイス管理の状態コード 82 1398
デバイス管理の状態コード 83 1398
デバイス管理の状態コード 84 1398

第 5 章 ロボットの状態コード 1399

ロボットの状態コード 1399
ロボットの状態コード 200 1399
ロボットの状態コード 201 1399
ロボットの状態コード 202 1400
ロボットの状態コード 203 1401
ロボットの状態コード 204 1401
ロボットの状態コード 205 1401
ロボットの状態コード 206 1402
ロボットの状態コード 207 1402
ロボットの状態コード 208 1402
ロボットの状態コード 209 1403
ロボットの状態コード 210 1403
ロボットの状態コード 211 1404
ロボットの状態コード 212 1404
ロボットの状態コード 213 1405
ロボットの状態コード 214 1405
ロボットの状態コード 215 1405
ロボットの状態コード 216 1406
ロボットの状態コード 217 1406
ロボットの状態コード 218 1406
ロボットの状態コード 219 1407
ロボットの状態コード 220 1407

ロボットの状態コード 221 1407
ロボットの状態コード 222 1408
ロボットの状態コード 223 1408
ロボットの状態コード 224 1409
ロボットの状態コード 225 1409
ロボットの状態コード 226 1409
ロボットの状態コード 228 1410
ロボットの状態コード 229 1410
ロボットの状態コード 230 1411
ロボットの状態コード 232 1411
ロボットの状態コード 233 1412
ロボットの状態コード 234 1412
ロボットの状態コード 235 1412
ロボットの状態コード 236 1413
ロボットの状態コード 237 1413
ロボットの状態コード 238 1413
ロボットの状態コード 239 1413
ロボットの状態コード 240 1414
ロボットの状態コード 242 1414
ロボットの状態コード 243 1414
ロボットの状態コード 244 1415
ロボットの状態コード 245 1415
ロボットの状態コード 246 1416
ロボットの状態コード 249 1416
ロボットの状態コード 250 1416
ロボットの状態コード 251 1416
ロボットの状態コード 252 1416
ロボットの状態コード 253 1417
ロボットの状態コード 254 1417
ロボットの状態コード 255 1417
ロボットの状態コード 256 1417
ロボットの状態コード 257 1418
ロボットの状態コード 258 1418
ロボットの状態コード 259 1418
ロボットの状態コード 260 1419
ロボットの状態コード 261 1419
ロボットの状態コード 262 1419

第 6 章 ロボットのエラーコード 1420

ロボットのエラーコード 1420
ロボットエラーの状態コード 1 1420
ロボットエラーの状態コード 2 1420

ロボットエラーの状態コード 3 1421
ロボットエラーの状態コード 4 1421
ロボットエラーの状態コード 5 1422
ロボットエラーの状態コード 6 1422
ロボットエラーの状態コード 7 1422
ロボットエラーの状態コード 8 1422
ロボットエラーの状態コード 9 1423
ロボットエラーの状態コード 10 1423
ロボットエラーの状態コード 11 1423
ロボットエラーの状態コード 12 1424
ロボットエラーの状態コード 13 1424
ロボットエラーの状態コード 14 1424
ロボットエラーの状態コード 16 1425
ロボットエラーの状態コード 17 1425

第 7 章 セキュリティサービスの状態コード 1426

セキュリティサービスの状態コード 1426
セキュリティサービスの状態コード 93 1426
セキュリティサービスの状態コード 94 1426
セキュリティサービスの状態コード 95 1427
セキュリティサービスの状態コード 96 1427
セキュリティサービスの状態コード 97 1427
セキュリティサービスの状態コード 98 1427
セキュリティサービスの状態コード 99 1428
セキュリティサービスの状態コード 100 1428
セキュリティサービスの状態コード 101 1428
セキュリティサービスの状態コード 102 1428
セキュリティサービスの状態コード 103 1429
セキュリティサービスの状態コード 104 1429
セキュリティサービスの状態コード 105 1429
セキュリティサービスの状態コード 106 1429
セキュリティサービスの状態コード 107 1429

第 8 章 NetBackup アラート通知の状態コード 1431

NetBackup アラート通知の状態コード 1431

1

NetBackup の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup の状態コード
- NetBackup KMS の状態コード

NetBackup の状態コード

NetBackup の状態コード (番号順) の完全なリストを次に示します。

メモ: NetBackup サーバー製品に対して、マスターサーバーやサーバーという用語は使用されますが、メディアサーバーという用語は使用されません。NetBackup Server がインストールされているコンピュータのトラブルシューティングを行う場合、メディアサーバーについての説明は無視してください。(この注意は、NetBackup Enterprise Server には適用されません。)

NetBackup の状態コード: 0

メッセージ**:** 要求された操作は正常に完了しました。(the requested operation was successfully completed.)

説明**:** 要求された操作では、問題は検出されませんでした。

推奨処置**:** Database Extension 製品 (NetBackup for Oracle や NetBackup for SQL Server など) を使用してデータベースがバックアップされた場合を除き、処置は不要です。この場合、コード 0 (ゼロ) は、(バックアップを開始した) バックアップスクリプトの実行時にエラーが発生しなかったことを示しています。ただし、データベースのバックアップが正常に行われたかどうかを確認するには、関連する NetBackup マニュアルの説明に従って、他の状態コードを調べる必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1

メッセージ: 要求された操作は部分的に成功しました。(The requested operation was partially successful.)

説明: 要求された操作の実行中に、処置が必要な問題が検出されました。

推奨処置: [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートおよび進捗ログ (存在する場合) を確認します。

状態コード 1 で示される問題の例を次に示します。

- ファイルパスまたはディレクトリパスが、1023 文字を超える。
  NetBackup Snapshot Client の場合、スナップショットバックアップに対するパス名の最大長は、1023 文字ではなく、1000 文字です。スナップショットが作成されると、新しいマウントポイントがファイルパスの最初に追加されます。新しいマウントポイントと元のファイルパスの合計が 1023 文字を超える場合、バックアップが失敗して、状態コード 1 が表示されます。進捗ログには、次のエントリが表示されます。

  ```
  ERR-Skipping long dir path.
  ```

- ファイルを開くことができない。
  なんらかの理由でファイルがロックされた可能性があります。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  NetBackup でファイルのリンク名を取得できません。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  NetBackup でスパースファイルを処理できません。
- ファイル内で読み込みエラーが発生した。
- ファイル形式が不明であるか、または隠しファイルである。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  バックアップを実行可能なファイルで `lstat` システムコールが失敗した場合。このエラーは、権限に問題がある可能性があります。
- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  強制ロックが有効になっているファイルをロックできません。
- 次の場合、合成バックアップジョブは状態コード 1 を表示して終了する場合があります。
  - 合成するイメージが見つからなかった (状態コード = 607)。
  - TIR 情報がコンポーネントイメージから削除された (状態コード = 136)。
  - イメージ形式がサポートされていない (状態コード = 79)。

合成バックアップジョブによって、実際の状態コードが NetBackup エラーログに記録されます。修正処置については、対応する NetBackup エラーコードの説明を参照してください。

- BMR ジョブは次の状況で状態コード 1 を表示して終了する場合があります。
  BMR 構成の保存でエラーが戻された (子ジョブが正常に完了した場合でも)。詳細を調べるには、[ジョブの詳細 (Job Details)]ダイアログボックスの[状態の詳細 (Detailed Status)]タブ、または nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) を確認します。
- UNIX のデータベース拡張クライアントのスケジュールバックアップが、複数のバックアップスクリプトを含むポリシーによって開始されている。このバックアップが状態コード 1 で失敗した場合、いくつかのバックアップスクリプトによって失敗の状態が戻されます。
- 開いた状態のファイルまたは使用中のファイルをバックアップする Windows Open File Backup (WOFB) を使用しているクライアント上で、次のような状況になる場合があります。
  バックアップに対してボリュームスナップショットが正常に機能しません。
  次のログメッセージが bpbkar32 ログに表示されます。
  複数ストリームが許可されているバックアップジョブの場合、複数ストリームが許可されているバックアップジョブに対してボリュームスナップショットが無効になっていることを示す、次のようなログメッセージが表示されます。

  ```
  11:05:44.601 AM: [1536.724] <4> tar_backup::V_AddToFI_XBSAObj:
  INF - Volume snapshots not enabled for: D:¥Directory1
  ```

  複数ストリームが許可されていないバックアップジョブの場合、ストリームが許可されていないバックアップジョブに対してボリュームスナップショットが無効になっていることを示す、次のようなログメッセージが表示されます。

  ```
  1:59:41.229 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF -
  ================================
  1:59:41.229 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF - Attempting to
  create snapshots for D:¥Directory1
  1:59:41.229 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF - CREATE request:
  C:¥Program Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥bin¥bpfis create
  -fim VSP
  "D:¥ Directory1"
  1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
  V_Snapshot::V_Snapshot_ParseBpfisOutput: INF - Snapshot
  creation, FIS_ID: 1058813981
  1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
  ```

```
V_Snapshot::V_Snapshot_ParseBpfisOutput: INF - Snapshot creation
EXIT STATUS 11: system call failed
1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF - Snapshot creation
was not successful
1:59:41.799 PM: [2076.2088] <4>
V_Snapshot::V_Snapshot_CreateSnapshot: INF -
==============================
```

この場合、スナップショット作成の失敗に関するエラーメッセージについて、bpfis のログを調べてください。bpfis ログの詳細が利用可能です。

『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

bpfis ログには、Windows Open File Backup のスナップショット作成が失敗した場合、次のメッセージが表示されます。

最初のメッセージ:

```
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: VfMS error 11; see
following messages:
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: Fatal method error
was reported
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: vfm_freeze_commit:
method: VSP, type: FIM, function: VSP_make
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: VfMS method error
3; see following message:
04:01:14.168 [376.2364] <32> onlfi_fi_split: snapshot services:
snapshot creation failed: invalid argument(s).
```

原因: バックアップの VSP スナップショットが、VSP の[ビジー状態のファイルを待機 (Busy file wait)]設定で指定された最短時間を満たさなかったため、VSP を有効にできませんでした。

VSP の[ビジー状態のファイルのタイムアウト (Busy file timeout)]の設定値を増やすか (推奨値は 300 秒以上)、またはボリューム上での動作が少ないときにバックアップジョブを開始します。

2 番目のメッセージ:

```
04:17:55.571 [1636.3224] <2> onlfi_vfms_logf: snapshot services:
(null): There was an unexpected error while preparing the VSP
snapshot transaction. Dumping the parameter array to provide
more information: Error 112 from VSP_Prepare
```

原因: VSP スナップショットキャッシュファイル用のクライアントに十分な空きディスク領域が存在しないため、バックアップに対して VSP を有効にできませんでした。

バックアップ対象のボリュームでディスク領域を解放します。

3 番目のメッセージ:

Windows Open File Backup スナップショットプロバイダとして Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) が使用されている場合にスナップショットの作成が失敗したときは、イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログのエラー情報を参照してください。

- スナップショットエラーが発生した可能性があります。また、一部のクライアントで、開いた状態のファイルまたは使用中のファイルをバックアップする Windows Open File Backup オプションが使用されている可能性があります。この場合、スナップショットエラーが発生したことを示すログメッセージが bpbkar32 デバッグログに表示されます。次に示すのはスナップショットエラーの例です。

  ```
  8:51:14.569 AM: [1924.2304] <2> tar_base::V_vTarMsgW: ERR -
  Snapshot Error while reading test.file
  ```

  状態コード 156 の「推奨処置」を参照してください。

- Microsoft Exchange Server のバックアップに複数のデータベースが含まれていますが、すべてのデータベースのバックアップが正常に完了しているわけではありません。ジョブの詳細を調べ、バックアップされなかったデータベースに関するステートメントを確認してください。完全または差分バックアップでは、バックアップに成功したデータベースのトランザクションログは省略されます。その他のデータベースのバックアップに失敗した場合でも、トランザクションログはバックアップイメージから復元できます。警告: バックアップに失敗したデータベースはこのバックアップによっては保護されません。

- 個別バックアップが有効な Microsoft Exchange Server はデータベースのバックアップに成功していますが、メールボックスレベルの情報をキャプチャする第 2 GRT フェーズは失敗しました。ジョブ詳細を調べて失敗の原因を確認してください。完全または差分バックアップでは、GRT フェーズが成功したかどうかにかかわりなく、バックアップに成功したデータベースのトランザクションログは省略されます。バックアップに成功したデータベースは、GRT フェーズが失敗していてもバックアップイメージから復元できます。

- VMware バックアップの間、ストレージマイグレーションを許可するために仮想マシンをロック解除できません。
  仮想マシンはこのバックアップからリストアできます。ただし、この問題を次回のバックアップの前に修正することもできます。

- VMware バックアップの間、仮想マシンのスナップショットは削除できません。
  仮想マシンはこのバックアップからリストアできます。ただし、この問題を次回のバックアップの前に修正することもできます。

- VMware リストアの間、仮想マシンは vCloud にインポートできません。アクティビティモニターのジョブの詳細を示す[状態の詳細 (Detailed Status)]タブには、vCloud Director が生成したエラーの理由を示すメッセージが表示されます。
  リストアされた仮想マシンはリストア先の vCenter に存在します。ただし、手動で vCloud にインポートする必要があります。

NetApp NDMP アクセラレータバックアップは、状態コード 1 で次のようなボリュームのクロック不一致警告を表示して終了する場合があります。

- `Clock discrepancy detected between NDMP filer and NetBackup Media Server.`
- `If this is not expected, please perform a backup with Accelerator forced rescan enabled.`
- `In order to stop seeing these messages, please address clock discrepancy.`

次のいずれかの状況が原因で、クロックの不一致の問題が発生する可能性があります。

- NetApp ファイラと NetBackup NDMP バックアップホストとの間に 1 時間を超える時差がある場合、クロックの不一致警告が表示されます。この警告は、すべてのボリュームに対して表示されます。
  影響を受けるボリュームの時差を確認し、必要に応じて更新します。または、ファイラと同じタイムゾーンのメディアサーバーを使用します。

  メモ: 正しい時間を保証するために、NTP サーバーを使用することをお勧めします。

- SnapMirror (データ保護) ボリュームに 1 時間以上の遅延時間がある場合、そのボリュームに警告が表示されます。
  次のコマンドを使用して、ボリュームがデータ保護ボリュームか、遅延時間が 1 時間を超えているかを調べます。
  - NetApp Clustered Data ONTAP (cDOT) の場合:
    `snapmirror show -fields lag-time`
  - NetApp 7 モードの場合:
    `snapmirror status`

  ファイラにデータ保護ボリュームがある場合、次のいずれかの操作を実行します。
  - NetBackup ポリシーのバックアップの選択でバックアップ用のボリュームを参照し、選択します。
  - ミラーボリュームを除外するには、VOLUME_EXCLUDE_LIST を ALL_FILESYSTEMS 指示句と併用します。

VMware エージェントレスリストアの実行時に次の問題が発生することがあります。

- クリーンアップで、vmdk %s または SCSI コントローラ (%s の VMDK を接続済み) を宛先 VM %s から接続解除できませんでした。(Failed to detach the vmdk %s or

the SCSI controller to which %s vmdk is attached from the destination VM %s during cleanup.)
vmdk またはコントローラを手動で接続解除してください。(Manually detach the vmdk or the controller.)

- 一時 VM %s の削除がエラー %d で失敗しました。(Deletion of temporary VM %s failed with error %d.)
(Manually delete the specified VM.)
- ステージング場所 %s (宛先 VM %s) のクリーニングに失敗しました。(Failed to clean the staging location %s on destination VM %s.)
ステージング場所を手動で削除してください。(Manually delete the staging location.)
- エラー %d によって、一時 vmdk %s を宛先 VM %s に接続できませんでした。(Failed to attach the temporary vmdk %s to the destination VM %s with error %d.)
利用可能な LUN がある準仮想コントローラがターゲット VM に少なくとも 1 つあることを確認してください。(Make sure that the target VM has at least one Paravirtual controller with available LUNs.)
- エラー %d によって、プロセスの rename ファイルを宛先 VM %s にアップロードできませんでした。(Failed to upload the process rename file to the destination VM %s with error %d.)
ターゲット VM に十分な容量があることを確認してください。(Make sure there is sufficient space available in target VM.) この問題ついて詳しくは、ターゲット VM の `bpVMutil` のログファイルを確認してください。(Review the bpVMutil log file on the target VM for additional information on this issue.)
- 選択したファイルとフォルダのリストアに失敗しました。(Failed to restore the selected files and folders.)
この問題のトラブルシューティング情報については、`tar` のログを確認してください。
- 宛先 VM %s で新しく接続されたデバイスを特定できません。(Failed to identify the newly attached device on destination VM.) 宛先 VM のユーザークレデンシャルに十分な権限が設定されていないことが原因である場合があります。(One possible cause is that the destination VM user credentials have insufficient permissions.)
宛先 VM のユーザークレデンシャルに root 権限または管理権限を付与することを推奨します。(It is recommended destination VM user credentials have root or administrative privileges.)

NetBackup は SQL Server ポリシーのインテリジェントグループで指定された SQL Server データベースを 1 つも見つけませんでした。次のようなメッセージがエラーログに含まれます。

```
08:31:05.561 [5736.15584] <2> debuglog: <16> bphdb do_script: ERR -

exit status: 5465 Could not find database objects during backup.
08:31:05.561 [5736.15584] <2> debuglog: <16> bphdb do_script: INF -
```

```
Partial success status so switch status from <5465> to <1>
```

問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ポリシーのインテリジェントグループを確認し、問い合わせを調整します。何も操作を行わない場合、以降のバックアップ中に NetBackup が見つけることができなかったデータベースはスキップされ、それらのデータベースの[データベースの状態 (Database state)]は[削除済み (Deleted)]に変更されます。
- 引き続きデータベースにアクセスする必要がある場合は、NetBackupを使用してデータベースをリカバリできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2

メッセージ**:** 要求されたファイルのバックアップは実行されませんでした (none of the requested files were backed up)

説明**:** バックアップまたはアーカイブで、ファイルリスト内のファイルのバックアップが実行されませんでした。

この状態コードは、Lotus Notes データベースエージェントまたは SQL Server データベースエージェントを使用する自動バックアップに主に適用され、ジョブに関連するすべてのバックアップが失敗した場合に発生します。または、Enterprise Vault のバックアップが失敗しています。これは、通常のファイルシステムバックアップでは発生しません。

UNIX、Linux または Windows ファイルシステムバックアップ、あるいは SQL Server または Lotus Notes 以外のデータベースエージェントでこのエラーが発生した場合、NetBackup サポート事例を確認します。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 次の説明は、Lotus Notes だけに適用されます。
  このエラーは、UNIX 上の Lotus Domino サーバーでアーカイブログが有効でない場合に発生します。また、このエラーは、トランザクションログに対して別のバックアップが実行中の場合に発生します。
- トラブルシューティング手段について詳しくは、適切なマニュアルのトラブルシューティングに関する項を参照してください。
  - 『NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド』
  - 『NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド』
  - 『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3

メッセージ: 有効なアーカイブイメージが作成されましたが、致命的ではない問題が原因で、ファイルは削除されませんでした (valid archive image produced, but no files deleted due to non-fatal problems)

説明: アーカイブコマンドのバックアップ処理で問題が発生したため、ファイルが削除されませんでした。

推奨処置: クライアントのアーカイブの進捗ログまたは状態を調べ、問題を修正後、アーカイブを再試行する必要があるかどうかを判断します。問題が重大でなく、ファイルのバックアップが行われている場合、ファイルを手動で削除できます。バックアップが行われたファイルを確認するには、リストアモードで、NetBackup のクライアントユーザーインターフェースを使用して、アーカイブ内のファイルを参照します。

ファイルが削除されない原因として、必要な権限を所有していないことが考えられます。NetBackup では、ファイルを所有するユーザー、スーパーユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Windows の場合) でない場合、ファイルを削除できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4

メッセージ: アーカイブファイルの削除に失敗しました (archive file removal failed)

説明: 完了したアーカイブのバックアップ処理は正常に完了しましたが、削除に失敗しました。

推奨処置: ユーザーがファイルを削除する権限を所有し、読み取り専用フラグがファイルに設定されていないことを確認します。UNIX クライアントの場合、ファイルが格納されているディレクトリに対して、書き込み権限を所有していることを確認します。バックアップは正常に行われたため、バックアップされたファイルを削除できます。(必要な権限を所有していない場合、システム管理者にそのファイルの削除を依頼します。)

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5

メッセージ: リストアが完全に失敗しました。(Restore failed completely.)

説明: この問題は次のことが原因で発生することがあります。

- Azure の vCPU が、しきい値の制限を超えて使用されました。
- レプリケートした EC2 インスタンスのコピーを代替の場所にリストアするときは、レプリケーション元とレプリケーション先の領域で鍵ペアの名前が同じである必要があります。

- ソーススナップショットはクラウドプロバイダから削除されます。
- 個別リストアのエラーについて考えられる原因は次のとおりです。
  - LVM、LDM、ストレージプール、FAT のすべてのバリアント、ドライブ文字のないボリュームで作成されたファイルシステムおよび宛先ホストでは、個別リストアはサポートされません。
  - ターゲットの空きディスク容量。
  - ターゲットのファイルシステムが読み取り専用。
  - ターゲットのパスが無効。
  - NetBackup Snapshot Manager 10.0 より前のバージョンでは、vxms のインデックス付けはサポートされていません。ソースディスクに lvm が構成されている場合に、個別リストア (GRT) を NetBackup Snapshot Manager の古いバージョンから実行しようとすると、GRT は失敗していました。

推奨処置: この問題を修正するには、状況に応じて次の解決策を試します。

- Azure を使用している場合は、クラウドプロバイダに問い合わせて、しきい値の上限を増やすように依頼します。
- レプリケートした EC2 のコピーをリストアする場合は、レプリケーション先の領域で新しい鍵ペアを作成します。レプリケーション元の領域の鍵ペアと一貫性がある鍵ペアを作成する必要があります。
- ソーススナップショットは、イメージの有効期限が保護計画で選択されるまでクラウドプロバイダで保持する必要があります。

VMware エージェントレスリストアの実行時に次の問題が発生することがあります。

- エラー %d によって、リカバリツールを宛先 VM %s にアップロードできませんでした。(Failed to upload recovery tool on destination VM %s with error %d.)
  ステージング場所に十分な容量または権限があることを確認してください。(Make sure there is sufficient space or permissions available at the staging location.)
- 宛先 VM でリカバリツールの抽出に失敗しました。(Failed to extract the recovery tool on the destination VM.)
  ターゲット VM のステージング場所 %s に十分な容量があることを確認してください。(Confirm there is sufficient space available at the staging location %s in the target VM.)

個別リストアが失敗した場合は、次の手順を実行します。

- ldm ディスクと lvm ディスクの個別リストアの場合は、Snapshot Manager をバージョン 10.0 にアップグレードします。
- リストア先のパスにアクセスするための適切な権限があり、リストア先に十分なディスク容量があることを確認します。

- ファイルごとのリストアエラーと警告に関するレポートは、ソースホスト (Windows または Linux) の次の場所で利用可能です。
  - Windows ホストパス:
    `C:¥ProgramData¥Veritas¥CloudPoint¥restore¥<job-id>/`
  - Linux ホストパス: `/root/veritas/<job-id>/`
    これらの場所に、リストアされたファイルの状態に関するディスクごとの詳細が用意されています。
    例:

```
D#.log -> Existing log file which shows higher level failure
D#-Error.log ->This file is generated only when an error
(at least one) is displayed during the copy process.

This file logs the Actual Exception / OS exception.
D#-Warning.log -> This file is generated only when a warning
message
(at least one) is displayed during the restore task.
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6

メッセージ**:** ユーザーバックアップに失敗しました

説明**:** このエラーは、次の理由により発生する可能性があります。

- クラウドプロバイダのクレデンシャルが更新されていません。
- リストア操作が失敗する原因となる状況の例:
  - ディスクのスナップショットを同じインスタンスにリストアしたり、既存のディスクがまだインスタンスに接続されていたりする場合に、リストア操作は失敗します。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 適切なプラグインが適切なクレデンシャルを使用して Web UI に構成されていることを確認します。クレデンシャルが変更された場合は、Web UI から確実に更新します。
- ターゲットインスタンスからディスクを切断します。

表 1-1 SSL 証明書の問題、または Snapshot Manager と Azure または Azure Stack 間の接続の問題により、リストアが失敗しました

(Restore failed due to SSL certificate issues or connectivity issues between Snapshot Manager and Azure or Azure Stack)

メッセージ	推奨処置
証明書の CRL を取得できません。ECA_CRL_PATH を構成している場合は、有効な CRL がその場所に存在することを確認してください。CRL の URL に Snapshot Manager からアクセスできるかどうかを確認してください。(Unable to retrieve the certificate CRL. If you have configured the ECA_CRL_PATH, ensure that valid CRLs are present at the location. Check if the CRL URL is accessible from the Snapshot Manager.)	最新の CRL を ECA_CRL_PATH パスにコピーするか、それぞれのホスト証明書の CRL 配布ポイントの URL に Snapshot Manager からアクセスできることを確認します。
Azure サーバーまたは Azure Stack サーバーの証明書が失効しています。認証局によって証明書が取り消されていないことを確認してください。(The Azure or Azure Stack servers' certificate is revoked. Ensure that the certificates are not revoked by certificate authority.)	セキュリティ管理者に問い合わせて、サーバーで有効な証明書を提示する必要があります。 ■ エラーが発生して証明書が無効化された場合は該当ホストの証明書を再発行します。 ■ 意図的に証明書が無効になった場合はセキュリティ違反の操作が試行された可能性があります。
証明書失効リスト (CRL) が期限切れです。最新の CRL で ECA_CRL_PATH が更新されていることを確認してください。(The certificate revocation list (CRL) is expired. Ensure that the ECA_CRL_PATH is updated with the latest CRL.)	最新の CRL が ECA_CRL_PATH のパスにアップロードされていることを確認します。 Snapshot Manager で次のコマンドを使用して、NetBackup CRL キャッシュを手動で更新できます。 `docker exec -i flexsnap-certauth bash -c '/usr/openv/pdde/pdopensource/nbcertcmdtool/nbcertcmdtool -atLibPath /usr/openv/pdde/pdopensource/nbcertcmdtool -updateCRLCache'`
証明書失効リスト (CRL) がまだ有効ではありません。(The certificate revocation list (CRL) is not yet valid.)	Snapshot Manager のシステム時刻を確認するか、有効な CRL を指定します。

メッセージ	推奨処置
証明書失効リスト (CRL) の最終更新日が有効な形式ではありません。(The date of last update of the certificate revocation list (CRL) is not in a valid format.)	openssl コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
証明書失効リスト (CRL) の次回更新日が有効な形式ではありません。(The date of next update of the certificate revocation list (CRL) is not in a valid format.)	openssl コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
Azure サーバーまたは Azure Stack サーバーの証明書の期限が切れています。サーバーに有効な証明書があることを確認してください。(The Azure or Azure Stack server certificate is expired. Ensure that the server has a valid certificate.)	証明書の終了日が有効であることを証明書でチェックして、証明書の有効性を確認します。 Snapshot Manager のクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。
Azure サーバーまたは Azure Stack サーバーの証明書がまだ有効ではありません。(The Azure or Azure stack servers certificate is not yet valid.)	Snapshot Manager のクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。
Azure Stack サーバーのパブリックルート証明書と中間証明書が見つかりません。(Unable to find the public root and intermediate certificates of the Azure Stack server.)	Snapshot Manager の bp.conf ファイルにある ECA_TRUST_STORE_PATH で、証明書ファイルが正しく構成されていることを確認します。 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。
CRL キャッシュからの証明書失効リスト (CRL) のロードに失敗しました。(Failed to load the Certificate Revocation List (CRL) from CRL cache.) Azure または Azure Stack の Snapshot Manager で、ECA_CRL_PATH によって有効な CRL ファイルが構成されていることを確認してください。(Failed to load the Certificate Revocation List (CRL) from CRL cache. Ensure that the valid CRL file is configured on the Snapshot Manager for Azure or Azure Stack by ECA_CRL_PATH.)	Azure または Azure Stack の Snapshot Manager で、ECA_CRL_PATH によって有効な CRL ファイルが構成されていることを確認します。

メッセージ	推奨処置
Azure または Azure Stack サーバーへの接続に失敗しました。Snapshot Manager と Azure または Azure Stack サーバー間のネットワーク接続を確認してください。(Failed to connect to the Azure or Azure Stack server. Ensure network connectivity between Snapshot Manager and the Azure or Azure Stack server.)	Snapshot Manager と Azure または Azure Stack サーバー間のネットワーク接続を確認します。
Azure または Azure Stack サーバー用に指定された SSL 暗号を使用できません。(Cannot use the specified SSL cipher for Azure or Azure Stack server.)	Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。
cURL エラーにより操作が失敗しました。(Operation failed with cURL error:)	操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7

メッセージ: アーカイブは、要求されたファイルのバックアップに失敗しました (the archive failed to back up the requested files)

説明: エラーが発生したため、ユーザーアーカイブが失敗しました。

推奨処置: ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。クライアントの進捗ログまたは状態を調べて、アーカイブが失敗した理由に関するメッセージを確認します。問題を修正して、アーカイブを再試行します。

Windows クライアントの場合、NetBackup サービスを起動するために使用したアカウントが、ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8

メッセージ: rbak の状態を判断できません (unable to determine the status of rbak)

説明: DomainOS クライアントでは、`rbak` はリストアを行うために使用されます。`rbak` の終了時に状態メッセージが表示されない場合には、NetBackup はリストアが成功したかどうかを判断できません。

推奨処置: 新しい core ファイルを調べて、rbak が異常終了したかどうかを確認します。ps 出力で、rbak がハングアップしているかどうかを確認します。ハングアップしている場合、強制終了し、再試行します。進捗ログで、rbak からの異常メッセージを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9

メッセージ: 必要な拡張機能パッケージがインストールされていないか、正しく構成されていません (a necessary extension package is not installed or not configured properly)

説明: 要求された操作を実行するには、NetBackup 拡張機能製品がインストールおよび構成されている必要があります。

推奨処置: 必要な拡張機能製品がインストールおよび構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 10

メッセージ: 割り当てに失敗しました (allocation failed)

説明: 利用可能なシステムメモリが不足しているため、システムメモリの割り当てが失敗しました。原因として、過剰なプロセス、および物理メモリや仮想メモリの不足のために、システムに過大な負荷が生じていることが考えられます。

推奨処置: メモリを消費する不要なプロセスを終了して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 11

メッセージ: システムコールに失敗しました (system call failed)

説明: システムコールが失敗しました。この状態コードは、対応する状態コードが存在しない、一般的なシステムコールが失敗した場合に使用されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートおよび[問題 (Problems)]レポートを参照して、失敗したシステムコールを特定し、エラーに関する他の情報を確認します。
- nbjm および nbproxy で例外処理が実行された場合 (nbproxy がポリシーまたは構成情報を取得しようとした場合など)、状態コード 11 が戻されます。nbjm の統合ログ

(オリジネータ ID 117) または nbproxy のレガシーログで、エラーの原因の詳細を調べます。

- 頻出する原因として、サーバーのファイルシステムに空きがない場合があります。たとえば、[問題 (Problems)]レポートまたは bpdbm のデバッグログに、次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
06/27/95 01:04:00 romb romb  db_FLISTsend failed: system call
failed (11)
06/27/95 01:04:01 romb romb  media manager terminated by parent
process
06/27/95 01:05:15 romb romb backup of client romb that exited with
status 11 (system call failed)
```

  UNIX システムの場合、df ディレクトリで df コマンドを実行します。
  df コマンドを実行しても問題が判明しない場合、bpdbm のデバッグログを確認するか、次のメッセージに対して grep を実行します。

```
system call failed
```

  これは、/usr/openv/netbackup/db/error/ ディレクトリ内の関連ファイルに存在します。
  Windows システムの場合、NetBackup をインストールしているディスクパーティション内に十分な空き領域が存在することを確認します。

- システムの仮想メモリが不足していないことを確認します。仮想メモリに問題がある場合、使用していないアプリケーションを終了するか、仮想メモリの量を増やします。

  Windows で仮想メモリを増やすには、示されている順で次の操作を行います。

  - [コントロール パネル]を表示します。
  - [システム]をダブルクリックします。
  - [パフォーマンス]タブで、[仮想メモリ]の設定値を増やします。

- 次の説明は、UNIX クライアントだけに適用されます。
  セマフォの問題を確認します。このエラーは、システムに十分な割り当て済みセマフォがないことが原因で発生する場合があります。Solaris サーバー上で RDBMS も実行している場合に、最も頻繁に発生します。
  問題の現象は場合によって異なります。たとえば、NetBackup ログ内のエラーメッセージで、セマフォ操作のエラーによるバックアップの失敗が示される場合があります。また、他の現象として、NetBackup Device Manager デーモン ltid が、必要なセマフォを取得できなくなる場合があります。
  システム要件は場合によって異なるため、確実な推奨事項はありません。Solaris サーバーで NetBackup と ORACLE の両方を実行しているお客様が、/etc/system

ファイルに次の変更を加え、システムを再起動します (`boot -r`)。/etc/system ファイルに次の変更を加え、システムを再起動 () すると、問題が解決する場合があります。

```
set semsys:seminfo_semmni=300
set semsys:seminfo_semmns=300
set semsys:seminfo_semmsl=300
set semsys:seminfo_semmnu=600
```

システムのすべてのアプリケーションにリソースを提供できるように、これらの属性には十分な大きさの値を設定します。

- クライアントの他のデバッグログ、進捗ログまたは状態を調べます。`nbjm` の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。

NetApp ストレージの場合は、NetApp System Manager で次の構成が完了していることを確認します。

- ［Make snapshot directory (.snapshot) visible］オプションを有効にします。
- ［Automatically delete older Snapshot copies］を無効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 12

メッセージ**:** ファイルを開けませんでした (file open failed)

説明**:** ファイルを開くことができませんでした。

ディスクストレージユニットが、NetBackup サーバーまたはメディアサーバーのルートデバイスのディレクトリに書き込みを実行しようとしたか、またはルートデバイスにディレクトリを作成しようとしました。この場合、アクティビティモニターのジョブの詳細ログには、［ルートデバイスにはバックアップが許可されていません (backups not permitted to root device)］というメッセージが記録されます。デフォルトでは、ディスクストレージユニットの絶対パスまたは指定するディレクトリは、ルートファイルシステム (またはシステムディスク) 上に存在できません。ストレージユニットの作成時に、ディスクストレージユニットがルートファイルシステム上に存在することを明示的に許可しておく必要があります。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- ディスクストレージユニットのパスがルートファイルシステム上に存在することを許可する場合は、NetBackup 管理コンソールで［ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)］ダイアログボックスを開き、［このディレクトリは、ルートファイルシステムまたはシステムディスク上に存在できます。(This directory can exist on the root file system or system disk.)］チェックボックスをチェックします。

- ディスクストレージユニットに指定したパスが、ルートファイルシステムまたはシステムデバイス上に存在しない場合は、そのパスが、マウントされているファイルシステム上に存在することを確認します。
- ディスクストレージユニットに指定したパスが、ルートファイルシステムまたはシステムデバイス上に存在する場合、その位置に存在する必要がなければ、[ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)]ダイアログボックスを使用して、マウントされているファイルシステム上の (ルート以外の) 別のパスを指定します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認します。ファイルおよびエラーの発生原因を特定します。原因として、ファイルに対する権限の問題が考えられます。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- NetBackup Lotus Notes では、特定の時点へのリストアジョブが失敗し、状態コード 12 が表示される場合があります。これらのジョブは、NetBackup 管理コンソールまたはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、マスターサーバーから開始されたものです。この失敗は、NetBackup の tar ログファイルで通知されます。(Windows の場合、このファイルは、*install_path*¥NetBackup¥logs¥tar フォルダに存在します。UNIX の場合、このファイルは、/usr/openv/netbackup/logs/tar フォルダに存在します)。NetBackup マスターサーバーのインストールパスが NetBackup クライアントのインストールパスと異なる場合、Lotus データベースのリカバリ中の Lotus トランザクションログエクステントの自動リストアは失敗します。アクティビティモニターでは、状態コード 0 (正常終了) が表示されることに注意してください。ただし、クライアントの tar ログでは、リストアは正常終了していても、Lotus データベースのリカバリには失敗したこと (状態コード 12) が示されます。
  NetBackup クライアントでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、リストアジョブを実行します。
- NetBackup Snapshot Client では、状態コード 12 は、次のようなメッセージとともに /usr/openv/netbackup/logs/bptm または bpdm のログに表示される場合があります。

  ```
  tpc_read_config failed: cannot open file
  /usr/openv/volmgr/database/3pc.conf
  ```

  この状態コードは、ポリシーがオフホストバックアップ方式として[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]または[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]のいずれかを使用して構成されていて、3pc.conf ファイルが存在しないか不適切な場所にあることを示します。
  3pc.conf ファイルの作成手順を参照できます。
  『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

- FlashBackup ポリシーでは、ソースデータエントリの後に CACHE= エントリがあると、バックアップが失敗して状態コード 12 が表示されます。クライアント上の /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ログ内に次のようなメッセージが表示されます。

```
09:55:33.941 [6092] <16> bpfsmap: ERR - open_snapdisk: NetBackup
snapshot enable failed error 3
09:55:33.942 [6092] <32> bpfsmap: FTL - bpfsmap: can't open
snapshot disk /dev/rdsk/c4t1d0s3 errno 0
09:55:33.950 [6092] <16> bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit
status = 12: file open failed
09:55:33.956 [6092] <4> bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 12: file
open failed
09:55:33.957 [6092] <2> bpbkar Exit: INF - Close of stdout
complete
```

  CACHE エントリがソースデータエントリの前になるように、バックアップ対象リストの順序を変更します。(ソースデータエントリでは、バックアップ対象のファイルシステムを含む raw パーティションを指定します。)

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 13

メッセージ: ファイルの読み取りに失敗しました (file read failed)

説明: ファイルまたはソケットの読み込みに失敗しました。

考えられる原因は、次のとおりです。

- マスターサーバー、メディアサーバー、またはいずれかのクライアントで発生したネットワーク通信問題。
- ファイルシステムからの読み込み時の I/O エラー。
- 不完全なファイルまたは壊れたファイルの読み込み。
- ネットワークの問題またはソケットに書き込みを行っているプロセスの問題が原因で発生したソケットの読み込みの失敗。
- NetBackup Snapshot Client に固有の問題 (「推奨処置」を参照)。
- NetBackup インストール後の最初の EV-SQL バックアップの失敗。『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- Windows の場合、NetBackup でスナップショットのコピー操作用に生成されたファイルリストに十分な情報がないため tar32 コピーからリストアできない。たとえば、

tar32 コピーがまだ作成されておらずブロック番号の情報が正しくない場合があります。

- NetBackup はデュアルブート VM のためのポリシーの[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションをサポートしません。
- VMware VDDK でタイムアウトをロックすると、同じ VMware バックアップホストからの同時 hotadd バックアップが失敗する場合があります。
  NetBackup アクティビティモニターの詳しいステータスログに、次のようなメッセージが含まれることがあります。

```
12/05/2014 06:43:53 - begin writing
12/05/2014 06:48:53 - Error bpbrm (pid=2605) socket read failed:
errno = 62 - Timer expired
12/05/2014 06:48:55 - Error bptm (pid=2654) media manager
terminated
by parent process
```

  /netbackup/logs/vxms ログに、次のような VDDK メッセージが繰り返し含まれる可能性があります。

```
12/08/2014 05:11:35 : g_vixInterfaceLogger:libvix.cpp:1844 <DEBUG>
 :
[VFM_ESINFO] 2014-12-08T05:11:35.146-06:00 [7F1B1163F700 info
Libs']
FILE: FileLockWaitForPossession timeout on
'/var/log/vmware/hotAddLock.
dat.lck/M34709.lck' due to a local process
'15882-26732358(bpbkarv)'
```

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が発生した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。
- ネットワーク通信が正しく動作していることを確認します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- FlashBackup クライアントの場合、/var/adm/messages ログで、次のようなエラーを確認します。

```
Mar 24 01:35:58 bison unix: WARNING: sn_alloccache: cache
/dev/rdsk/c0t2d0s3 full - all snaps using this cache are now
unusable
```

このエラーは、キャッシュパーティションの大きさが不十分であることを示しています。可能な場合、キャッシュパーティションのサイズを大きくします。または、複数のバックアップで同じキャッシュを使用している場合、並列実行バックアップの数を減らします。並列実行バックアップの数を減らすには、並列実行バックアップの一部を再スケジュールするか、ファイルシステムの動作が少ない時間帯にすべてのバックアップを再スケジュールします。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- すべての製品とコンポーネント (SQL Server、Exchange、Notes など) の最新の Service Pack が インストールされていることを確認します。
- 環境全体のすべてのネットワークハードウェア (NIC、ハブ、スイッチ、ルーターなど) が半二重モードではなく全二重モードに設定されていることを確認します。
- システムの NIC に関する次の項目を確認します。
  - システム全体で 最新の NIC ドライバにアップグレードします。
  - すべての NIC が半二重モードではなく全二重モードに設定されていることを確認します。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワークインターフェースカードのパフォーマンスのトラブルシューティング」を参照してください。
  - NIC のタイムアウト設定を大きくします。
  - NIC チーミングが実装されている場合は、テストのために無効にします。
  - 対象となるクライアントまたはサーバーの NIC 自体を置き換えます。
- NetBackup Snapshot Client では、状態コード 13 は、`/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar` ログに表示される場合があります。

  このログは、次の内容を示している可能性があります。

  - バックアップを行うファイルが、SCSI ドライブではなく IDE ドライブに存在します。オフホストバックアップ方式が、[NetBackup メディアサーバー (NetBackup media server)] または [サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)] のいずれかに設定されています。オフホストバックアップを使用する場合、クライアントファイルを格納するディスクは、SCSI デバイスまたはファイバーチャネルデバイスである必要があります。
    IDE ドライブのディスクでは、`/usr/openv/netbackup/logs/bpfis` ログ内に次のように表示される場合があります。

    ```
    get_disk_info: FTL - /var/tmp/caa026fEU disk_inquiry failed.
    Errno = 25: Inappropriate ioctl for device
    ```

/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ログ内には次のように表示される場合があります。

```
bpbkar: INF - Processing /var
bpbkar: ERR - get_disk_info() failed, status 13
bpbkar: ERR - tpc_get_disk_info() failed: err 13
bpbkar: ERR - bpbkar FATAL exit status = 13: file read failed
bpbkar: INF - EXIT STATUS 13: file read failed
```

- バックアップを行うファイルが、マウントされていないファイルシステム上に存在します。スナップショットソースとして指定するファイルシステムは、マウントされている必要があります。スナップショットソースがマウントされていない状態で、マウントポイントが存在する場合、NetBackup では、スナップショットソースとして指定したディレクトリより 1 階層上のディレクトリのスナップショットの取得が試行されます。
- NetBackup メディアサーバー方式では、クライアントの読み込みタイムアウト値を大きくする必要がある場合があります。ある環境では、NetBackup はデフォルト値より長い読み込み時間を要求することがあります。クライアントの読み込みタイムアウトが不十分な場合、バックアップが失敗してこのエラーが発生する可能性があります。
  すべてのクライアントに対してクライアントの読み込みタイムアウトを大きくするには、NetBackup 管理コンソールで、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>に移動し、マスターサーバーをダブルクリックして[プロパティ (Properties)]>[タイムアウト (Timeouts)]に移動します。その後、クライアントの読み込みタイムアウトを大きくします。

- Windows の場合、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]のクライアントコンソールを更新し、リストアを再試行します。この処理はクライアントコンソールに表示されるファイルリストを更新し、選択したファイルについての正しい情報を渡します。
- 同じ VMware バックアップホストからの同時実行の hotadd バックアップが失敗する原因となる VMware VDDK でのタイムアウトを回避するには、次のいずれかを実行します。
  - 同時に動作する hotadd バックアップの数を減らします。
  - メディアサーバーのクライアント読み込みのタイムアウトを適宜 (15 分以上まで) 増やします。
    NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ホストプロパティ (Host Properties)]の順に選択し、メディアサーバーをダブルクリックし、[タイムアウト (Timeouts)]、[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]を選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 14

メッセージ: ファイルの書き込みに失敗しました (file write failed)

説明: ファイルまたはソケットへの書き込みに失敗しました。

考えられる原因は、次のとおりです。

- ファイルシステムへの書き込み時の I/O エラー。
- ソケットへの書き込みの失敗。この失敗は、ネットワークの問題またはソケットから読み込みを行っているプロセスの問題が原因である場合があります。
- 空きがなくなったディスクパーティションへの書き込み。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が発生した位置と原因についての情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- ルーター、ブリッジおよび他のネットワークデバイスが完全に二重化されていることを確認します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワークインターフェースカードのパフォーマンスのトラブルシューティング」を参照してください。
- 「Sniffer」プログラムを使用して、拒否または再要求されたパケット数を判断します。
- Windows システムの場合、クライアントの `bpbkar` のログに、10054［接続リセットエラー (Connection Reset Error)］というエラー (通常は、ハードウェアのエラーを示します) が含まれる場合があります。この場合、NetBackup クライアントとサーバーの間で、接続が初期状態に戻されています。NetBackup はこのエラーを受信した場合、バックアップを継続できません。このエラーが発生する原因は、次のとおりです。
  - ネットワークで一時的な問題が発生している。
  - NetBackup クライアントのネットワークインターフェースカードに問題がある。
  - NetBackup サーバーのネットワークインターフェースカードに問題がある。
  - ルーターに問題がある。
  - 他のアプリケーションが NetBackup の接続を妨害している。
- NetBackup Java インターフェースの使用中にこのエラーが発生した場合は、NetBackup Java インターフェースのアプリケーションサーバー (`bpjava` プロセス) で、`/usr/openv/netbackup/logs/user_ops` が含まれるファイルシステムのディスク領域が不足している可能性があります。アプリケーションサーバーでは、一時ファイルを `/user_ops` ディレクトリのサブディレクトリに書き込みます。ファイルシステムのディスク領域を整理して空き領域を増やしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 15

メッセージ: ファイルを閉じることができませんでした (file close failed)

説明: ファイルまたはソケットを閉じることができませんでした。

推奨処置: 問題が発生した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 16

メッセージ: 実装されていない機能 (unimplemented feature)

説明: 指定した操作が実装されていません。NetBackup を通常の方法で使用しているかぎり、このエラーは発生しません。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 17

メッセージ: パイプを開けませんでした (pipe open failed)

説明: NetBackup のクライアントメニューおよび Vault の領域で発生します。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 18

メッセージ: パイプを閉じることができませんでした (pipe close failed)

説明: あるプロセスによって子プロセスの起動が試行されたときに、パイプを閉じることができませんでした。

推奨処置: 失敗した原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 19

メッセージ: getservbyname が失敗しました (getservbyname failed)

説明: `getservbyname()` の呼び出しが失敗しました。`getservbyname()` 関数では、サービス名を使用して、`services` ファイル内のサービスエントリが検索されます。(または、UNIX で NIS サービスのマップが構成されている場合、そのマップ内のサービスエントリが検索されます。)

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。
- UNIX または Linux システムの場合、`/etc/services` および NIS サービスのマップ (該当する場合) に、NetBackup サービス `bpcd`、`bpdbm` および `bprd` のエントリが存在することを確認します。
- Windows システムの場合、`%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services` ファイルに、NetBackup インターネットプロセス `bpcd`、`bpdbm` および `bprd` の正しいエントリが存在することを確認します。
  [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[ネットワーク (Network)]タブの[NetBackup Client サービスポート (NetBackup Client Service Port)]番号および[NetBackup Request サービスポート (NetBackup Request Service Port)]番号が、`services` ファイルの設定と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。[ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると `services` ファイルに書き込まれます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ホスト名およびサービスエントリの検証」を参照してください。
- ネットワークの動作のレベルを確認します。ネットワークの過大な負荷が原因で、このエラーが発生する場合があります。
- これらの操作で問題が判明しない場合、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 20

メッセージ: コマンドのパラメータが無効です (invalid command parameter)

説明: 次の問題が原因でこのエラーが発生する場合があります。

- 1 つ以上のコマンドパラメータが無効です。マスターサーバーとそのメディアサーバーまたはクライアントに、互換性のないバージョンの NetBackup がインストールされている場合、このエラーが発生することがあります。たとえば、NetBackup マスターサーバーに NetBackup 10.0、メディアサーバーまたはクライアントに NetBackup 8.0 がインストールされている場合です。
- コマンドラインから、不正なパラメータを使用してコマンドを実行した場合にも発生することがあります。
- VSO FIM スナップショット方式を使用して NAS アレイを保護する場合、オフホストバックアップの実行でデータムーバーはサポートされません。
- メディアサーバーとバックアップホストは、BigData ポリシーに同じ NetBackup バージョンを使用する必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで情報を確認します。
- コマンドラインでコマンドを実行したときにエラーが発生した場合、パラメータが有効であることを確認します。
- この状態コードは、nbjm からパラメータが渡された際に必要なパラメータが不足している場合に発生する可能性があります。渡されたパラメータのリストについては、nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) を確認します。
- 次の情報は NetBackup Snapshot Client に関係します。
  - /usr/openv/netbackup/logs/bptm のログに次のようなメッセージが表示される場合、サードパーティコピーのバックアップで、多重化が有効になっています。

    ```
    bptm: cannot perform Third-Party-Copy for multiplexed backups
    send_brm_msg: ERROR 20

    bptm: EXITING with status 20
    ```

    サードパーティコピーデバイスオフホストバックアップ方式では、多重化 (同じストレージデバイスへの複数の並列実行バックアップジョブの書き込み) を行うことはできません。すべてのサードパーティコピーのバックアップで、多重化を無効にする必要があります。多重化を有効にすると、バックアップが失敗する場合があります。

- バックアップに必要なクライアントディスクの正しい 3pc.conf ファイルエントリが、メディアサーバーに存在しない可能性があります。
  /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ログ内に次のように表示される場合があります。

```
14:45:00.983 [15773] <4> bpmap_mm_get_devid: GET_DEVICE_INDEX
1
EMC:SYMMETRIX:601092014000
14:45:00.986 [15773] <4> bpbkar child_send_keepalives: keepalive

child started, pid = 15822
14:47:02.029 [15773] <4> bpmap_mm_get_devid: keepalive child:
15822 killed
14:47:02.030 [15773] <4> bpmap_mm_get_devid: DEVICE_INDEX -1
14:47:02.031 [15773] <16> bpmap_send_extend: ERR - can't obtain

device id string EMC:SYMMETRIX:601092014000
14:47:33.167 [15773] <16> bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit

status = 227: no entity was found
14:47:33.167 [15773] <4> bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 227:
no
entity was found
14:47:33.168 [15773] <2> bpbkar Exit: INF - Close of stdout
complete
```

  ここでは、特定のデバイスがメディアサーバー上の 3pc.conf ファイルで検出できないことが示されています ([14:47:02.031 [15773] <16> bpmap_send_extend: ERR - デバイス ID 文字列 EMC:SYMMETRIX:601092014000 を取得できません (14:47:02.031 [15773] <16> bpmap_send_extend: ERR - can't obtain device id string EMC:SYMMETRIX:601092014000)])。

  次のいずれかの問題があります。

  - メディアサーバー上の 3pc.conf ファイルが最新のものではない。3pc.conf ファイルを再作成してください。
  - メディアサーバーが、サードパーティコピーデバイスおよびクライアントディスクと異なるファイバーチャネルネットワークに存在している。その結果、3pc.conf ファイルにクライアントディスクの正しいエントリが含まれていません。-x *client_name* オプションを指定して bptpcinfo コマンドを実行します。このオプションによって、クライアントディスクが 3pc.conf ファイルに追加されます。bptpcinfo -x *client_name* を実行して各ディスクをファイルに追加する場合、デバイスのワールドワイド名 (WWN=) の追加が必要になる場合があります。

オンラインマニュアル『NetBackup Snapshot Client Configuration』を参照してください。

Snapshot Client の補足情報については、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

- HP VxFS スナップショット機能では、スナップショットごとに専用のキャッシュパーティションが必要となります。キャッシュパーティションが使用中でないことを確認するために、マウントテーブルのチェックが行われます。キャッシュパーティションがすでに使用中の場合は、状態コード 20 が発生します。

  `/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar` のログで、次のメッセージを確認します。

  ```
  bpfsmap: FTL - bpfsmap: snapshot cache already in use,
  /dev/arrayvg/vol4c
  bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit status = 20: invalid
  command parameter
  bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 20: invalid command parameter
  ```

  スナップショットキャッシュパーティションが使用中の場合、異なる時間に実行されるようにポリシーのスケジュールを設定するか、バックアップごとに異なるキャッシュパーティションを使用します。

  [複数のデータストリームの許可 (Allow multiple data streams)]オプションが有効な場合、各ストリームにはそれぞれ専用のキャッシュパーティションが必要です。

- 次のようにして、サーバーとクライアントの NetBackup バージョンを比較します。
  - UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーおよびクライアントの場合、`/usr/openv/netbackup/bin/version` ファイルを確認します。
  - Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*install_path*¥NetBackup¥version.txt ファイルまたは[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup のバージョン情報 (About NetBackup)]項目を確認します。
  - Microsoft Windows クライアントの場合、[ヘルプ (Help)]メニューの[NetBackup クライアントのバージョン情報 (About NetBackup Client)]項目を確認します。
  - Java インターフェースによってエラーが表示される場合、Java 起動ファイルのデバッグ出力マネージャを有効にします。再試行し、Java ログに記録されているパラメータをコマンドの使用方法に表示されているパラメータと比較します。
- VMware バックアップ用の[バックアップメディアサーバー (Backup Media Server)]オプションでは、ポリシーに指定されているストレージユニットがメディアサーバーに一意である必要があります。ストレージユニットが別のメディアサーバーでも利用可能な場合、スナップショットジョブは成功しません。
- VSO FIM スナップショット方式を使用して NAS アレイを保護する場合、代替クライアントを使用してオフホストバックアップを実行します。

- メディアサーバーとバックアップホストは、BigData ポリシーに同じ NetBackup バージョンを使用する必要があります。
- これらの操作で問題が判明しない場合、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します (プロセスでレガシーログが使用されている場合)。その後、操作を再試行して、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 21

メッセージ: ソケットを開けませんでした (socket open failed)

説明: ソケットが開きませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。
- NetBackup メディアサーバーにネットワークファイルシステム (NFS) 用サービスをインストールしていない可能性があります。その結果、メディアサーバーは Portmapper サービスに接続できません。+ネットワークファイルシステムがインストールされていないので、NFS サービスを手動で起動できません。
  メディアサーバーにネットワークファイルシステム用サービスをインストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 22

メッセージ: ソケットを閉じることができませんでした (socket close failed)

説明: ソケットが閉じませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、こ

の状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 23

メッセージ: ソケットの読み込みに失敗しました (socket read failed)

説明: ソケットからの読み込み操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 壊れたバイナリが、このエラーの原因の 1 つとして考えられます。
  この場合、インストールメディアから新しい `bptm` をロードすると、問題が解決する場合があります。
- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。
- NetBackup メディアサーバーは 8.0 以前のバージョンです。NetBackup では安全でない通信が無効にされています。ホストの接続を続行する場合は、次のいずれかの操作を行います。
  - マスターサーバーホスト上の NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ (Global Security)]、[NetBackup 8.0 以前のホストとの安全でない通信を有効にする (Enable insecure communication with NetBackup 8.0 and earlier hosts)]オプションの順に選択します。

- nbseccmd -setsecurityconfig -insecurecommunication on コマンドを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 24

メッセージ: ソケットの書き込みに失敗しました

説明: ソケットへの書き込み操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。失敗の原因を[問題 (Problems)]レポートから判断できない場合、この状態コードを戻すプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 原因として、ネットワークの高負荷が考えられます。たとえば、ネットワーク負荷を監視する Windows システムによって高負荷が検出された場合、この問題が Cannot write to STDOUT で発生します。他のシステムが使用しているルートが切断されたことを知らせる ICMP パケットがそれらのシステムに送信されます。次のようなログメッセージが表示されます。

```
01/31/22 14:05:23 ruble crabtree.null.com from client
crabtree.null.com: ERR - Cannot write to STDOUT. Err no= 242: No
route to host
01/31/22 14:05:48 ruble crabtree.null.com successfully wrote
backup id crabtree.null.com_1643637900, copy 1, fragment 1,
440864 Kbytes at 628.538 Kbytes/sec
01/31/22 14:05:51 netbackup crabtree.null.com CLIENT
crabtree.null.com POLICY Remote3SysFullW  SCHED Sirius  EXIT
STATUS 24 (socket write failed)
```

- 次の説明は、Sun Solaris だけに適用されます。
  オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
  推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 25

メッセージ: ソケットに接続できません (cannot connect on socket)

説明: 特定の操作のために他のプロセスに接続中、プロセスでタイムアウトになりました。このエラーは、起動されていない NetBackup Request デーモン (bprd) または NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) に対して、プロセスによる接続が試行されたときに発生する場合があります。(Windows の場合にはこれらのデーモンは、NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスです。)

また、ネットワークまたはサーバーの負荷が大きいために応答時間が長くなる場合、あるいは NetBackup の評価版のライセンスキーの期限が切れている場合にも発生します。ただし、このエラーの最も一般的な原因は、ホスト名解決の問題です。

RHV の場合、仮想化サーバーに接続できないときにエラーが発生する可能性があります。

VMware の場合、機能 VIRTUALIZATION_HOSTS_SECURE_CONNECT_ENABLED が有効で、仮想化サーバーの CA 証明書が ECA の構成済みトラストストアに追加されていないときにこのエラーが発生する可能性があります。

ネットワーク接続の問題、または pbx_exchange などの必要なプロセスが実行されていないことによって引き起こされるこのエラーの原因としては、他に次のことが考えられます。

- nbjm がメディアサーバー上の bpcd に接続できない。
- nbpem が nbproxy に接続できない。
- メディアサーバー上の bptm がマスターサーバー上の nbjm に接続できない。
- 即時バックアップ操作を実行できない。

これらのエラーは、ネットワーク接続の問題、または pbx_exchange などの必要なプロセスが実行されていないことによって引き起こされます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- bpcompatd、vnetd および Private Branch Exchange (PBX) が実行中であることを確認します。PBX の起動方法に関する情報を参照できます。『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PBX の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、次のコマンドを実行して、NetBackup を停止してから再起動します。
  - UNIX システムの場合、次を入力します。

    ```
    /usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all
    /usr/openv/netbackup/bin/bp.start_all
    ```

  - Windows システムの場合、次を入力します。

install_path¥NetBackup¥bin¥bpdown
install_path¥NetBackup¥bin¥bpup

- 次の情報は UNIX または Linux の NetBackup マスターサーバーにのみ適用されます。
  bprd および bpdbm プロセスが実行中であることを確認します。実行中でない場合、これらのプロセスを起動します。Windows のマスターサーバーの場合には、NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。実行中でない場合、これらのサービスを起動します。
  これらのプロセスまたはサービスが実行中である場合、失敗したときの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認して、その失敗した位置を判断します。
  次のいずれかを実行します。
  - レポートを参照できない場合またはレポートの参照時にcannot connect on socketというエラーが表示される場合には、NetBackup Database Manager サービスまたはデーモンが実行中であることを再度確認します。次に、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行し、デバッグログの結果を確認します。
  - レポートを参照し、この問題に関連するエントリが見つからない場合には、エラーが最初に表示されたときに実行中であった関連プロセスのデバッグログディレクトリを作成します。(多くの場合、このプロセスは bpbrm です。) その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- サーバーリストによって適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。
  - 次の説明は、Windows システムだけに適用されます。
    マスターサーバーは、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスの[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンメニューで指定します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。
  - 次の情報は UNIX と Linux システムにのみ適用されます。
    マスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。
  - Cohesity Technical Support Web サイトで、NetBackup の推奨パッチがすべてインストールされていることを確認します。
  - ユーザー主導バックアップをクライアントから実行したときに失敗した場合、ユーザー主導バックアップのスケジュールが、マスターサーバーに存在することを確認します。
  - NetBackup Database Extension を使用している場合は、次のようにします。

該当するデータベース製品が、NetBackup によってクライアントの進捗ログに書き込みを行うことができる適切な権限を所有していることを確認します。

- 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
  メディアサーバーで shutdown スクリプトを実行したときに bpdbm が終了していた場合、K77netbackup スクリプトを注意深く確認してください。そこにはこの問題を回避する方法の詳細が含まれています。このスクリプトは、/usr/openv/netbackup/bin/goodies に存在します。

UNIX または Linux のマスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、その変更を有効にするために、NetBackup Request デーモン (bprd) と NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) を停止し、再起動します。Windows の場合、NetBackup Request Manager サービスおよび NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。

- services ファイルを確認します。
  - 次の説明は、UNIX システムだけに適用されます。
    /etc/services ファイル (および NIS を使用する場合は NIS サービス) に、NetBackup サービス bpcd、bpdbm および bprd のエントリが存在することを確認します。

  Windows の場合、%SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイルに、bpcd、bpdbm および bprd の正しいエントリが存在することを確認します。
  また、次の数が services ファイルの設定と一致していることを確認します。
  [NetBackup Client サービスポート (NetBackup Client Service Port)]と[NetBackup Request サービスポート (NetBackup Request Service Port)]([ネットワーク (Network)]タブを[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックス内)。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。[ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「NetBackup のホスト名およびサービスエントリの検証」を参照してください。

- Sun Solaris の場合、オペレーティングシステムのすべてのパッチがインストールされていることを確認します。
  『NetBackup リリースノート』の操作上の注意事項に関する項を参照してください。
- Windows の場合、推奨の Service Pack がインストールされていることを確認します。
- NetBackup の基本ライセンスキーの期限が切れている場合、デーモン (bprd、bpdbm など) は、NetBackup サーバーで停止します。これらのデーモンが実行中でない場合、管理コンソールで状態コード 25 のエラーが発生する場合があります。NetBackup の有効な基本ライセンスキーをインストールし、デーモンを再起動した後、コンソールを再起動してください。

- NetBackup Snapshot Client では、次のことが適用されます。メディアサーバー上に多数のデバイスが構成されている場合、bptpcinfo コマンドによる 3pc ファイルの生成に長い時間がかかります。初めてバックアップを実行する場合、バックアップが失敗し、状態コード 25 が表示されることがあります。/usr/openv/volmgr/database/3pc.conf ファイルが存在することを確認してください。存在する場合は、バックアップを再度実行します。バックアップが再度失敗したら、bptpcinfo を手動で実行して 3pc ファイルを生成し、その後バックアップを再度実行します。
- 自動イメージイメージレプリケーション (A.I.R.) のシナリオでは、8.1 と 8.0 のマスターサーバー間の信頼関係を確立した後に NetBackup で安全でない通信を無効にすると、エラーが発生する場合があります。ホストの接続を続行する場合は、次のいずれかの操作を行います。
  - マスターサーバーホスト上の NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ (Global Security)]、[安全な通信 (Secure Communication)]、[NetBackup 8.0 以前のホストとの安全でない通信を有効にする (Enable insecure communication with NetBackup 8.0 and earlier hosts)]オプションの順に選択します。
  - nbseccmd -setsecurityconfig -insecurecommunication on コマンドを指定します。
- RHV:
  - RHV クレデンシャルが正しく、仮想化サーバーにアクセスできることを確認します。
- VMware の場合:
  - VIRTUALIZATION_HOSTS_SECURE_CONNECT_ENABLED オプションが有効な場合、証明書と CRL の配置を確認する必要があります。VMware 仮想化サーバー (vCenter、ESX、ESXi) の証明書と CRL が、ECA の構成済みトラストストアと CRL パスにそれぞれ追加されていることを確認します。
  - 証明書と CRL ファイルが正しい形式で、トラストストアファイルと CRL ファイルが破損していないことを確認します。
  - 仮想化サーバーでサポートされるのは、ファイルベースのトラストストアと Windows トラストストアの PEM 証明書形式のみです。P7b または DER 形式のファイルベースのトラストストアは、サポートされません。この機能が有効な場合、証明書 ECA ストアは、Windows 証明書ストアかファイルベースの PEM 形式ストアである必要があります。
- Nutanix AHV の場合:
  - NetBackup トラストストアに、CA 証明書が追加されたことを確認します。詳しくは、『Nutanix AHV 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 26

メッセージ: クライアント / サーバーの組み合わせに失敗しました (client/server handshaking failed)

説明: クライアントとの通信中、サーバー上の処理でエラーが発生しました。このエラーは、クライアントとサーバーの通信を開始することはできましたが、問題が発生し、通信が完了しなかったことを示します。この問題は、バックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

このエラーは、公開鍵基盤 (PKI) のアーティファクトが有効でない場合は、証明書の登録時にも発生する可能性があります。たとえば、NetBackup 8.2 以降のマスターサーバーでホスト証明書の発行者を識別できない場合に、このエラーが発生する可能性があります。

推奨処置: [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、ハンドシェークが失敗した動作を判断します。ハンドシェークが失敗したクライアントおよびサーバーを判断します。

詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

証明書の登録処理中にエラーが発生した場合は、次のことを確認します。

- 次のコマンドを実行して PKI のアーティファクトを確認します。
  - `nbcertcmd -listAllCertificates [-jks]` - Java キーストアの Web サーバー証明書情報を表示するために、マスターサーバーで実行します。
  - `nbcertcmd -listCACertDetails -ECA` - トラストストアに格納されている CA 証明書の詳細を一覧表示するために、ホストで実行します。
- クライアントとサーバーの証明書の発行者が、互いのトラストストアで利用可能なことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 27

メッセージ: 子プロセスはシグナルによって強制終了されました。(child process killed by signal)

説明: このエラーを通知したプロセスの子プロセスが終了されました。このエラーは、バックアップジョブが終了されたか、子プロセスが他のエラーによって終了されたために発生

する場合があります。また、この問題は、NetBackup プロセスが、タスクマネージャまたは他のユーティリティを介して終了された場合に発生することもあります。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 28

メッセージ: プロセスを fork しようとして失敗しました (failed trying to fork a process)

説明: 子プロセスの fork (UNIX の場合) または `CreateProcess` (Windows の場合) が失敗しました。

この失敗の原因は、次のとおりです。

- システムで過大な負荷が発生している。
- スワップ領域または物理メモリが不足している。
- システムで過剰なプロセスが実行中である。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 29

メッセージ: コマンドを実行しようとして失敗しました (failed trying to exec a command)

説明: コマンドが実行されませんでした。このエラーは、コマンドの権限で実行が許可されていない場合に発生する可能性があります。または、メモリやスワップ領域などのシステムリソースが不足している場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。
- 実行するコマンドの権限を確認します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 30

メッセージ: パスワード情報を取得できません (cannot get passwd information)

説明: ユーザーの `passwd` エントリを取得できませんでした。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 31

メッセージ: プロセスのユーザー ID を設定できませんでした (could not set user ID for process)

説明: プロセスのユーザー ID を、要求を発行しているユーザーのユーザー ID に設定できませんでした。NetBackup は、要求を発行しているユーザーで、クライアントプロセスを実行します。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 32

メッセージ: プロセスのグループ ID を設定できませんでした (could not set group ID for process)

説明: プロセスのグループ ID を、要求を発行しているユーザーグループに設定できませんでした。NetBackup は、要求を発行しているユーザーのグループ ID で、クライアントプロセスを実行します。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 33

メッセージ: メール送信の試行中に失敗しました (failed while trying to send mail)

説明: バックアップ、アーカイブまたはリストアの結果についての電子メール通知に失敗しました。電子メールのグローバル属性で指定された管理者のアドレスに電子メールが送信されませんでした。UNIX または Linux クライアントの場合、クライアントの `bp.conf` ファイルの USEMAIL で指定された電子メールアドレスに電子メールが送信されませんでした。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 34

メッセージ: 子プロセスの待機に失敗しました (failed waiting for child process)

説明: 子プロセスの完了を待機中、NetBackup プロセスが失敗しました。

推奨処置: 失敗した位置と原因についての情報を、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻した可能性があるプロセスのデバッグログを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 35

メッセージ: 要求されたディレクトリを作成できません (cannot make required directory)

説明: 必要なディレクトリを作成できませんでした。

考えられる原因は、次のとおりです。

- プロセスにディレクトリを作成する権限がない。

- ディレクトリへのパスが無効である。
- I/O エラーが発生した。
- ディレクトリが含まれるデバイスに利用可能な領域が存在しない。

Hyper-V の場合、IPv6 アドレスを持つ Hyper-V サーバーまたは SCVMM サーバーはサポートされません。VMware の場合、NetBackup クライアントを参照するための IPv6 アドレスの使用はサポートされません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認して、作成されなかったディレクトリとその理由を判断します。特に、ディスクパーティションに空きがなくなっていないかどうかを確認します。
- 親ディレクトリの権限を確認します。ディレクトリを作成する権限を所有する[ログオン]アカウントで NetBackup サービスが起動されていることを検証します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 36

メッセージ: メモリを割り当てようとして失敗しました (failed trying to allocate memory)

説明: システムメモリの割り当てが失敗しました。このエラーは、利用可能なシステムメモリが不足している場合に発生します。過剰なプロセス、物理メモリと仮想メモリの不足のためにシステムが過負荷になることがあります。

推奨処置: 多くのメモリを消費する不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 37

メッセージ: 無効なサーバーによって操作が要求されました (operation requested by an invalid server)

説明: 無効なメディアサーバーまたは Windows 版 NetBackup リモート管理コンソールが、NetBackup Request デーモン (bprd) または NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) に要求しました。Windows の場合には、これらのデーモンは NetBackup Request Manager サービスと NetBackup Database Manager サービスです。

推奨処置: このエラーが発生したときの NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認して、マスターサーバーに接続を試行したシステムを特定します。

サーバーが有効なメディアサーバーである場合、そのメディアサーバーのストレージユニットが定義されていることを確認します。また、そのサーバーまたは Windows 版 NetBackup リモート管理コンソールに、マスターサーバーのサーバーリストのエントリが存在することを確認します。

必要な場合、サーバーリストを更新します。

UNIX または Linux のマスターサーバーの場合、`bp.conf` ファイルに `SERVER = media_server_name` を追加します。*media_server_name* は、メディアサーバーのホスト名です。Windows マスターサーバーの場合、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]を選択し、[メディアサーバー (Media Servers)]のリストにメディアサーバーを追加します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

サーバーまたは NetBackup リモート管理コンソールが複数のホスト名を持つ場合 (たとえば、複数のネットワークインターフェースが存在する場合) には、マスターサーバーに、それぞれのホスト名のサーバーリストエントリが存在することを確認します。

UNIX または Linux のマスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、その変更を有効にするために、NetBackup Request デーモン (`bprd`) と NetBackup Database Manager デーモン (`bpdbm`) を停止し、再起動します。Windows の場合、NetBackup Request Manager サービスおよび NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。

VMware エージェントレスリストアの実行時に次の問題が発生することがあります。

- ファイルのバックアップを作成したオペレーティングシステムと NetBackup がファイルのリストアを試行したオペレーティングシステムが一致しません。(The operating system where the files were backed up does not match the operating system where attempted to restore the files.)
  バックアップ用の仮想マシンと同じオペレーティングシステムの仮想マシンをリストア用に選択してください。ターゲット VM のプロパティで指定されているオペレーティングシステムの種類がターゲット VM にインストールされているオペレーティングシステムと一致していることを確認してください。(Confirm that the operating system type that is specified in target VM properties matches to the operating system that is installed in the target VM.)

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 38

メッセージ: グループ情報を取得できませんでした (could not get group information)

説明: UNIX または Linux ユーザーグループを記述するグループエントリを取得できませんでした。

推奨処置: エラーが発生した原因についての情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 39

メッセージ: クライアント名が一致しません (client name mismatch)

説明: クライアントが NetBackup サーバーへの要求に使用した名前が、サーバーのポリシーで構成されている名前と一致しませんでした。

推奨処置: クライアントの NetBackup クライアント名の設定を変更するか (該当する NetBackup ユーザーガイドを参照)、サーバーのポリシー構成のクライアント名を変更して、2 つの名前を一致させます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 40

メッセージ: ネットワークの接続が解除されました (network connection broken)

説明: クライアントとサーバー間の接続が切断されました。また、この状態コードは、バックアップ中にマスターサーバーとメディアサーバー間の接続が切断された場合に表示されることがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーからクライアントに ping を実行します。ping を実行できない場合、接続が適切かどうかを確認するか、他のネットワークの問題を確認します。
- クライアントとサーバーの両方で、サーバーリストの設定が適切であることを確認します。バックアップにメディアサーバーを使用する場合、マスターサーバーとメディアサーバーの両方でこれらのエントリが正しいことを確認します。たとえば、メディアサーバーに、マスターサーバーのサーバーリストのエントリが存在しない場合、マスターサーバーからの接続がメディアサーバーで許可されません。

- Windows の場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- UNIX、および Linux システムの場合、マスターサーバー名は、SERVER ファイルの最初の SERVER エントリです。

UNIX または Linux のマスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、その変更を有効にするために、NetBackup Request デーモン (bprd) と NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) を停止し、再起動します。Windows の場合、NetBackup Request Manager サービスおよび NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。

- また、状態コード 40 は、オペレータによってマウント要求が拒否された場合にも発生することがあります。
- この状態コードは、nbjm が bpbrm または bpmount に接続できなかった場合に発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117)、あるいは bpbrm または bpmount のレガシーログで、エラーの原因の詳細を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 41

メッセージ: ネットワークの接続でタイムアウトが発生しました (network connection timed out)

説明: 考えられる原因は、次のとおりです。

- サーバーがクライアントからの情報を長時間受信しませんでした。
- 高速バックアップを有効にした状態で、FSCP (ファイルレベル高速単一コピーバックアップ) を使用してバックアップを試行したファイル数が多すぎました。
- NetBackup は利用可能な最大の帯域幅を使用し、相応の要求をプッシュしますが、Amazon S3 対応クラウドが多数の要求を処理できません。
  クラウドベンダーは要求の速度を低下させる 503 エラーを返し、バックアップジョブは次のエラーで失敗します。
  メディアサーバーで bptm は次のログを記録します。

```
bptm:4940:<media_server_name>: AmzResiliency:
AmzResiliency::getRetryType cURL error: 0, multi cURL error: 0,
HTTP status: 503, XML response: SlowDown, RetryType:
RETRY_EXHAUSTED
```

メディアサーバーで bpbrm は次のログを記録します。

```
bpbrm Exit: client backup EXIT STATUS 41: network
connection timed out
```

この問題は、NetBackup とクラウドストレージ間で高帯域幅が利用可能な場合にのみ発生します。

- マスターサーバーと NAT クライアント間の接続に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 大量のファイルにバックアップを作成する場合には、NetBackup サーバーの[ホストプロパティ (Host Properties)]を使用して、[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]を十分大きい値 (たとえば 4000) に変更します。これらの設定は、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[ユニバーサル設定 (Universal Settings)]にあります。このタイムアウトのデフォルトは 300 秒です。
  また、[タイムアウト (Timeouts)]タブの[ファイル参照のタイムアウト (File browse timeout)]を 4000 より大きい値に設定します。
  その後、操作を再試行します。/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリ内のデバッグログファイルにファイル名が記録された後、bpbkar によってファイルが処理されます。ログ内の最後のファイルが、問題の原因となっているファイルです。
- UNIX、Linux または Windows クライアントの場合、次に示す bpbkar クライアントプロセスの問題を確認します。
  Windows クライアントの場合、bpbkar クライアントプロセスはハングアップしていません。bpbkar によってスキャンされているファイルおよびディレクトリが原因で、[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]での設定時間内にサーバーに応答していません。このエラーは、増分バックアップで非常に多くの変更されていないファイルがディレクトリ内に存在する場合に発生します。
  この場合、NetBackup サーバーの[ホストプロパティ (Host Properties)]を使用して[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]の値を変更します。この設定は、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[ユニバーサル設定 (Universal Settings)]にあります。このタイムアウトのデフォルトは 300 秒です。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
  また、CPU の使用率を監視すると、この状況が発生しているかどうかを確認できます。

  次の情報は UNIX または Linux クライアントにのみ適用されます。

  - bpbkar クライアントプロセスが、必須のロックが設定されているファイルでハングアップしている。この場合、クライアントの bp.conf ファイルに次のエントリを追加します。

    ```
    VERBOSE
    ```

クライアントの root ユーザーとして次のコマンドを実行します。

```
touch /usr/openv/netbackup/bpbkar_path_tr
/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar
```

その後、操作を再試行します。/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリ内のデバッグログファイルにファイル名が記録された後、bpbkar によってファイルが処理されます。ログ内の最後のファイルが、問題の原因となっているファイルです。

メモ: また、他の原因不明の bpbkar のハングアップにも、この手順を使用します。

強制ファイルロックが問題の原因である場合、NetBackup では、ロックされたファイルをスキップすることが可能です。クライアントの SKIP ファイル内の LOCKED_FILE_ACTION を SKIP に設定します。

- bpbkar クライアントプロセスはハングアップしていません。bpbkar によってスキャンされているファイルおよびディレクトリが原因で、CLIENT_READ_TIMEOUT または CLIENT_CONNECT_TIMEOUT での設定時間内にサーバーに応答していません。このエラーは、バックアップで非常に多くの変更されていないファイルがディレクトリに存在する場合、または非常に多くのホールが存在するスパースファイルのリストア中に発生します。この場合、サーバーの /usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルの CLIENT_READ_TIMEOUT の値を追加または変更します。指定しない場合、CLIENT_READ_TIMEOUT のデフォルトは 300 秒です。

これらのいずれの状況が発生しているのかを判断するには、システムの ps コマンドを実行して、CPU の使用率を監視します。
ログファイルは非常に大きくなる可能性があり、また自動的に削除されないため、問題の検証が終了したら、/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリを削除します。また、/usr/openv/netbackup/bpbkar_path_tr も削除すると、/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar ディレクトリを次に作成するとき、ログファイルは必要以上に大きくなりません。

- Windows システムの場合、次のように実行します。
  - 次のファイルを無効にします。

    install_path¥NetBackup¥bin¥tracker.exe

  - ハードドライブのフラグメンテーションを修復します。Diskeeper Lite というアプリケーションを使用してみてください。これは、Windows Resource Kit の一部です。
  - 利用可能な十分な領域が ¥temp 内に存在することを確認します。

- サーバーからクライアントに接続できない場合、bpcd または bpbkar(UNIX、Linux および Windows の場合のみ) のデバッグログディレクトリをクライアントに作成します。その後、操作を再試行して、ログの結果を確認します。ログから原因が判明しない場合、サーバーに bpbrm のデバッグログを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
  bpbrm のログに、次のようなエントリが表示されている場合、サーバーのルーティング構成に問題があります。

  ```
  bpbrm hookup_timeout: timed out waiting during the client hookup
  bpbrm Exit: client backup EXIT STATUS 41: network connection
  timed out
  ```

  使用中のネームサービスで、クライアントの IP アドレスが正しいことを確認します。UNIX クライアントで NIS ファイルと DNS ファイルの両方を使用している場合、これらのファイルが一致することを確認します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- AIX トークンリングアダプタの使用中に routed デーモンを実行した場合、トークンリングアダプタによって動的ルートが作成されるため、タイムアウトになります。その後、routed デーモンが正常に動作しなくなります。
- FlashBackup クライアントで、バックアップするファイルシステムが非常に大きく、ファイル数が非常に多い場合、このエラーが発生します。また、このエラーは、多数の並列実行データストリームが同時に動作中である場合にも発生します。この問題を解決するには、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに CLIENT_READ_TIMEOUT を追加し、タイムアウトの間隔が大きくなるように設定します。
- Cohesity Technical Support Web サイトで、NetBackup の推奨パッチがすべてインストールされていることを確認します。
- NetBackup Database Extension 製品をインストールしている場合、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントに、CLIENT_READ_TIMEOUT の値を追加します。値は、各サーバーですべて同じである必要があります。設定する値は、バックアップを行うデータベースの大きさによって異なります。CLIENT_READ_TIMEOUT について、詳細情報を参照できます。
  『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。
- 拡張認証が正しく構成されていることを確認します。たとえば、ホスト A がホスト B に対して拡張認証を使うように構成されているときに、ホスト B がホスト A に対して拡張認証を使うように構成されていない場合、状態コード 41 が表示されることがあります。この場合、ホスト B からホスト A への接続が失敗して、状態コード 41 が表示される可能性があります。また、ホスト A からホスト B への接続が失敗して、認証エラー (状態コード 160) が発生する可能性があります。
- Amazon S3 対応クラウドが多数の要求を処理できない場合は、次のいずれかを実行します。

- 帯域幅の調整を構成して要求の数を減らします。『NetBackup クラウド管理者ガイド』の「NetBackup Cloud Storage Server の接続のプロパティ」を参照してください。
- 読み取り/書き込みバッファの数を減らします。『NetBackup クラウド管理者ガイド』の「NetBackup Cloud Storage Server 帯域幅スロットルのプロパティ」を参照してください。
- クラウドベンダーに問い合わせて並列要求の上限数を増やします。

- マスターサーバーと NAT クライアント間の接続に失敗した場合は、次の操作を行います。
  - クライアントのサブスクライバサービスが実行中であることを確認します。
  - 問題が解決しない場合は、クライアントサービスを再起動し、サブスクライバサービスが NetBackup Messaging Broker (または `nbmqbroker`) サービスに接続されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 42

メッセージ: ネットワークの読み込みに失敗しました (network read failed)

説明: ソケットからのデータの読み込みが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントとサーバーの両方が稼働中であることを確認します。
- ネットワーク通信の問題を解決します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- [問題 (Problems)]レポートで情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 43

メッセージ: 予期しないメッセージを受け取りました (unexpected message received)

説明: クライアントとサーバーのハンドシェークが正しくありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアント上およびサーバー上で、適切なバージョンのソフトウェアが実行されていることを確認します。

- 詳細なデバッグログを有効にするには、次の手順を実行します。
  - サーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - ログに含めるデバッグ情報の量を増やします。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。
  UNIX、Linux または Windows クライアントで bpstart_notify スクリプトを使用する場合、標準出力 (stdout) または標準エラー出力 (stderr) にメッセージが書き込まれていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 44

メッセージ: ネットワークの書き込みに失敗しました (network write failed)

説明: ソケットへのデータの書き込みに失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- [問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する情報を確認します。
- クライアントおよびサーバーが稼働中で、ネットワークに接続されていることを確認します。
- 問題およびその操作を通知したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。デバッグログファイルの結果で、詳細なトラブルシューティングの情報を調べます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 45

メッセージ: 予約されていないポートで要求が試行されました (request attempted on a non reserved port)

説明: 予約されていないポートからクライアントへのアクセスが試行されました。

推奨処置: クライアントおよびサーバーに、最新のソフトウェアがインストールされていることを確認します。

- UNIX の場合、NetBackup のサーバーとクライアントで
  /usr/openv/netbackup/bin/version ファイルを確認します。

- Windows 版 NetBackup サーバーの場合、
  install_path¥netbackup¥version.txt ファイルまたは[NetBackup のバージョン情報 (About)]項目を[ヘルプ (Help)]メニューで確認します。
- Microsoft Windows クライアントの場合、[NetBackup のバージョン情報 (About)]項目を[ヘルプ (Help)]メニューで確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 46

メッセージ: サーバーはアクセスが許可されていません (server not allowed access)

説明: サーバーからクライアントにアクセスを試行しましたが、アクセスがブロックされています。

考えられる原因は、次のとおりです。

- サーバーが、有効なサーバーとしてクライアント上でリストに表示されていない。
- 暗号化されたバックアップを必要とするようにクライアントが構成されているが、サーバーでバックアップポリシーの暗号化属性が選択されていない。
- サーバーで、NetBackup Encryption 製品の評価版のライセンスの期限が切れているが、暗号化されたバックアップを必要とするように NetBackup クライアントが構成されている。その結果、サーバーでは暗号化されていないクライアントバックアップの作成が試行されます。クライアントでは暗号化を必要とするように構成されているため、バックアップが失敗します。
- リモートホストの外部証明書を登録するサーバーが、リモートホストの SERVER 構成オプションの一覧に表示されていない。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーは有効なサーバーであるが、クライアント上でリストに表示されていない場合、そのサーバー名をクライアントのサーバーリストに追加します。
  - Windows クライアントの場合、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify Machines and Policy Type)]ダイアログボックスの[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンリストでサーバーを追加します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify Machines and Policy Type)]を選択します。
  - UNIX、および Linux クライアントの場合、SERVER ファイルに SERVER エントリを追加します。

  問題が解決しない場合、詳細情報を参照できます。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ホスト名およびサービスエントリの検証」を参照してください。

- 暗号化されていないクライアントバックアップを作成するには、クライアントの CRYPT_OPTION を allowed または denied に設定します。
  『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- サーバーで、NetBackup Encryption の評価版のライセンスの期限が切れていて、クライアントの暗号化バックアップを継続する場合、正規の暗号化ライセンスキーを購入して、そのキーをサーバーに追加します。正規の暗号化ライセンスキーを追加したら、バックアップポリシーの属性に暗号化が選択されていることを確認します。
  評価版のライセンスキーの妥当性を確認するには、次のように実行します。
  Windows の場合、NetBackup サーバーの NetBackup 管理コンソールの[ヘルプ (Help)]メニューから[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。評価版のライセンスキーが[NetBackup のライセンスキー (License Keys)]ウィンドウに表示されない場合、そのライセンスキーの期限は切れています。このウィンドウを使用して、新しい正規の暗号化ライセンスキーを追加します。
  UNIX では、サーバーでコマンド /usr/openv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key を実行します。
  メニューから f オプションを選択して、有効なライセンスキーおよび機能を表示します。評価版のライセンスキーが表示されない場合、そのライセンスキーの期限は切れています。このコマンドを実行して、新しい正規の暗号化ライセンスキーを追加します。
- すべての名前解決サービス (一次、負荷分散、二次) を NetBackup ホストの一貫した正引き名前解決と逆引き名前解決に正しく設定します。
  詳細情報は次の技術情報の記事に記載しています。
  https://support.cohesity.com/s/article/article-100029136
- 外部証明書の登録中にエラーが発生した場合は、次の操作を行います。
  - リモートホストの外部証明書を登録するサーバー名を、リモートホストの SERVER 構成オプションに追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 47

メッセージ: ホストはアクセスできません (host is unreachable)

説明: 他のコンピュータへの接続が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントで使用されるネームサービスが、NetBackup サーバーのホスト名を正しく解決するように構成されていることを確認します。
- サーバーで使用されるネームサービスが、NetBackup クライアントのホスト名を正しく解決するように構成されていることを確認します。
- サーバーとクライアント間で、相互に ping を試行します。
- 問題が解決しない場合は、次の操作を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 48

メッセージ: クライアントホスト名が見つかりませんでした (client host name could not be found)

説明: システム関数 `gethostbyname()` で、クライアントのホスト名の検索に失敗しました。

推奨処置: 次の位置で、クライアント名が適切であることを確認します。

- マスターサーバーの NetBackup ポリシー構成。
- [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスと[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックス (Microsoft Windows 非ターゲットクライアントの場合) の[一般 (General)]タブ。これらのダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。[一般 (General)]タブを表示するには、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を選択します。または、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。
- UNIX、および Linux クライアントの `bp.conf` ファイル。
- クライアントおよびサーバーで、NetBackup クライアント名を正しく解決するようにネームサービスが設定されていることを確認します。
  UNIX クライアントの場合、`/etc/hosts` ファイル、YP ホストファイルまたは NIS のマップにクライアントのホスト名が存在することを確認します。
- クライアント名には、NetBackup クライアントがインストールされているホストが反映されます。NetBackup は、NetBackup クライアントがインストールされていないエージェントレスホストからログを収集しません。エージェントレスホストの場合、エラーログに `Failed to collect logs (EC: 48 - Client hostname could not be found)` というメッセージが表示されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 49

メッセージ: クライアントは起動しませんでした (client did not start)

説明: クライアントを正常に起動できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ソフトウェアがクライアントにインストールされており、そのソフトウェアのバージョンが正しいことを確認します。必要に応じて、クライアントソフトウェアを再インストールします。
- クライアントのファイルシステムに空き領域があるかどうかを確認します。
- 次のいずれかを実行して、クライアントの詳細なデバッグログを有効にします。
  - `bpcd` および `bpbkar` (UNIX、Linux および Windows の場合のみ) のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルに `VERBOSE` (詳細) オプションを追加します。
  - Windows クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

  操作を再試行し、ログの結果を調べます。
- UNIX または Linux システムの場合、UNIX の `sum` コマンドを実行して、壊れたバイナリがないかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 50

メッセージ: クライアントのプロセスは異常終了しました (client process aborted)

説明: 次のいずれかの状態が発生しています。

- クライアントバックアップが異常終了します。たとえば、バックアップやリストアの実行中に NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーが停止または再起動されます。
- 管理者は、OS 提供のコマンドライン (kill コマンドなど) を使ってアクティブなプロセスを強制終了します。ジョブ状態が完了に変わり、この状態コードを生成するとジョブ状態に 1 時間後までの変更を反映しません。

- AKS に NBUX を配備すると、ノードあたりの最大ポッド数の設定によって、ユーザーとシステムがノードプールからのノードに作成できるポッドの数が制限されます。この数は、次の計算に基づいて設定する必要があります。
  - ノードあたりの最大ポッド数 = (RAM サイズ * 2) + kube システムポッド数 [10] + ノード数 + 2
- NBUX を AKS に配備する場合は、vnet に十分な数の空き IP アドレスが必要です。
  - ノードあたりの最大ポッド数 = (RAM サイズ * 2) + kube システムポッド数 [10] + ノード数 + 2
- ファイルハッシュ検索が異常終了します。たとえば、ファイルハッシュ検索の実行中に、ファイルハッシュサーバーが停止または再起動されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 詳細なデバッグログを有効にします。
  - bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します (UNIX、Linux および Windows クライアントの場合のみ)。
  - bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX クライアントの場合、VERBOSE ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

  操作を再試行し、ログの結果を調べます。
- このエラーは、バックアップジョブの実行中に nbjm が終了した場合に発生する可能性があります。NetBackup サーバーの nbjm (オリジネータ ID 117) の統合ログファイルで、エラーの詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- UNIX クライアントの場合には、/ (ルート) ディレクトリの core ファイルを確認します。
- UNIX クライアントの場合、システムログ (Solaris の場合、/usr/adm/messages) でシステムの問題を確認します。
- この問題は、壊れたバイナリが原因で発生する場合があります。
  UNIX クライアントの場合、UNIX の sum コマンドを実行して、クライアントの bpcd 内に含まれる bpbkar、tar、tar バイナリを確認します。これらのバイナリが、サーバーの /usr/openv/netbackup/client 下にある各クライアント向けディレクトリ内のバイナリと異なる場合、バイナリを再インストールします。

Windows クライアントの場合、クライアントの install_path¥NetBackup¥bin フォルダ内に含まれるファイル bpinetd.exe、bpcd.exe、bpbkar32.exe および tar32.exe を確認します。

これらのファイルが次のような場合、クライアントを再インストールします。

- 他の Windows クライアントのファイルとサイズが異なる。
- 他の Windows クライアントとバージョンが異なる。
- 他の Windows クライアントと異なる NetBackup のパッチを適用している。

- NetBackup を Kubernetes 配備に配備する場合は、次を確認します。
  - 保留中のポッドの数を確認します。それをポストして、ノードプールレベルの最大ポッド設定が原因で問題が発生したことを確認し、ワークフローランナーまたは datamover ポッドが保留中の状態かどうかを確認します。ノードプールを削除し、次の式を使用して最大ポッド数を下回る適切な数のノードプールを再作成します。
    - ノードあたりの最大ポッド数 = (RAM サイズ * 2) + kube システムポッド数 [10] + ノード数 + 2
- 保留中のポッドの数を確認します。それをポストして、十分な数の空き IP が利用可能であることを確認します。管理者は、十分な数の IP を利用できるようにする必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 51

メッセージ**:** データベース情報の待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for database information)

説明**:** カタログプロセスが 5 分以内に応答しませんでした。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Database Manager (bpdbm) が実行中であることを確認します。
- NetBackup カタログを含むファイルシステムに十分な領域が存在することを確認します。
- サーバーに bpbrm および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。
- デバッグログファイルを参照して、問題の詳細を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 52

メッセージ: Media Manager のボリュームのマウントを待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for media manager to mount volume)

説明: タイムアウトになるまでに、要求されたボリュームがマウントされませんでした。また、ボリュームがクリーニングテープの場合、クリーニングテープとして指定されていないと、このエラーが発生することがあります。

他の原因として、利用可能な最後のドライブに対してバックアップ以外 (リストアなど) のマウントが要求され、そのマウントが完了する前に、同じドライブを必要とするバックアップが開始された場合が考えられます。このエラーは、マウントが完了するまで、ドライブがビジー状態として通知されないことが原因です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 要求したボリュームが利用可能で、適切なドライブの準備が完了し、起動状態であることを確認します。
- 読み込み操作 (リストア、複製、検証) 中にこのエラーが発生した場合、ドライブがビジー状態である可能性があります。NetBackup のグローバル属性で指定するメディアのマウントタイムアウトを大きくし、メディアのマウントおよび位置設定を行うための時間を長くします。
- テープが、通常のボリュームとして構成されたクリーニングテープではないことを確認します。
- ロボットが自動カートリッジシステムによって制御されている場合、ACSLS システムが稼働状態であることを確認します。
- 初回インストールの場合、手順が利用可能です。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「構成の問題のトラブルシューティング」を参照してください。
- Windows の場合、イベントビューアのアプリケーションログで、テープのマウントが完了しなかった理由を示すエラーメッセージを確認します。UNIX の場合、システムログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 53

メッセージ: Backup Restore Manager が、ファイルリストの読み込みに失敗しました (backup restore manager failed to read the file list)

説明: Backup Restore Manager (bpbrm) で、バックアップまたはリストアを行うファイルのリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: すべての NetBackup サーバーに、サーバーソフトウェアが適切にインストールされていることを確認します。それが問題でない場合、次のように実行します。

- サーバーに bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
- UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、VERBOSE ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[ログ (Logging)]ノードで[グローバルログレベル (Global logging level)]を設定します。
  このダイアログボックスを表示するには、次の項を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
  次の手順で説明されているように、vxlogcfg コマンドを使用して統合ログのレベルを上げます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行し、デバッグログの結果で詳細なトラブルシューティングの情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 54

メッセージ: クライアントへの接続中にタイムアウトが発生しました (timed out connecting to client)

説明: サーバーからクライアントへの接続が完了しませんでした。accept システムコールまたは Winsock コールで 60 秒後にタイムアウトになりました。

サードパーティ製ソフトウェアパッケージ (たとえば、ファイアウォール製品) は Windows の TCP/IP スタックに影響を与える可能性があります。この処理により、NetBackup サーバーと、クライアントの bpcd プロセスとの間の接続が切断される場合があります。
NetBackup は、ポートを bpinetd.exe (NetBackup Client Service) から bpcd.exe に渡すことができるように、インバウンドソケット接続に SO_REUSEADDR (ローカルアドレスの再利用の許可) を設定しようとします。さまざまな方法でシステムセキュリティが侵害されるおそれがあるため、一部の製品ではこの機能が許可されないことがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。uxhelp;winhelp

- UNIX クライアントの場合、正しいサイズの /usr/openv/netbackup/bin/bpcd バイナリが存在することを確認します。
- /etc/inetd.conf ファイルを調べて、次のエントリの bpcd パスが正しいことを確認します。

  ```
  bpcd stream tcp nowait root /usr/openv/netbackup/bin/bpcd bpcd
  ```

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントを含むシステムの場合 (NetBackup Database Extension 製品が 1 つ以上のクライアントにインストールされている場合)、クライアント名がマスターサーバーの /etc/hosts ファイルに存在することを確認します。
- エラーを引き起こすクライアントのサードパーティ製ソフトウェアパッケージを完全にアンインストールします。他の構成オプションまたは回避策があるかどうかについては、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 55

メッセージ: rcmd 中にクライアントからアクセス権が拒否されました (permission denied by client during rcmd)

説明: UNIX または Linux クライアントの /.rhosts ファイル内にサーバー名が存在しません。

推奨処置: UNIX または Linux クライアントの /.rhosts ファイルにサーバー名を追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 56

メッセージ: クライアントのネットワークへ到達できません (client's network is unreachable)

説明: クライアントは、システムコールのホスト (Windows の WSAENETUNREACH または UNIX の ENETUNREACH) にアクセスできません。

推奨処置: サーバーからクライアントに ping を実行します。クライアントの IP アドレスを確認します。問題が解決しない場合、ネットワーク管理者に連絡してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 57

メッセージ: クライアントの接続が拒否されました (client connection refused)

説明: bpcd のポート番号での接続が、クライアントで拒否されました。

このエラーは、次の原因で発生する場合があります。

- bpcd ポートで待機しているプロセスが存在しない。
- bpcd ポートに対する通信数が、ネットワークのサブシステムが listen() の呼び出しによって処理できる通信数より多い。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Windows 版 NetBackup サーバーの場合、次のように実行します。
  - NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされていることを確認します。
  - サーバーの bpcd ファイル内の bprd ポート番号および bprd ポート番号が、クライアントの設定と一致することを確認します。
  - [NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[ネットワーク (Network)]タブの[NetBackup Client サービスポート (NetBackup Client Service Port)]番号および[NetBackup Request サービスポート (NetBackup Request Service Port)]番号が、bpcd 設定および bprd 設定 (services ファイル) と一致していることを確認します。このダイアログボックスを表示するには、サーバー上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。
    [ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。
  - NetBackup Client Service が実行中であることを確認します。
  - 次のコマンドを実行して、マスターサーバーからクライアントに正しい情報が戻されるかどうかを確認します。

    install_path¥NetBackup¥bin¥bpclntcmd -pn

- UNIX サーバーの場合、次の操作を実行します。
  - NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされていることを確認します。
  - サーバーの bpcd ポート番号 (NIS サービスのマップまたは /etc/services に含まれる) が、クライアントの services ファイル内の番号と一致していることを確認します。
- 追加のヘルプが利用可能です。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 58

メッセージ: クライアントに接続できません

説明: 次の原因により問題が発生した可能性があります。

- サーバーからクライアントに接続できませんでした。
- tpconfig コマンドを使用してクレデンシャルを指定したときに、Hadoop または HBase アプリケーションサーバーのポートが正しく指定されていません。

推奨処置: ネットワーク通信の問題を解決します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

Hadoop または HBase を使用する場合、tpconfig コマンドを使用する際に、アプリケーションサーバーのポート番号が正しく更新されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 59

メッセージ: クライアントへのアクセスが拒否されました。(access to the client was not allowed)

説明: マスターサーバーまたはメディアサーバーからクライアントへのアクセスが試行されましたが、そのサーバーは、クライアントで有効なサーバーとして認識されていません。

Enterprise Vault Agent の場合、Enterprise Vault サーバー間のすべてのメディアサーバーの名前がクライアント構成で指定されているとはかぎりません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーが有効なサーバーである場合、そのサーバーがクライアントのサーバーリストに存在することを確認します。必要に応じて、次の手順を実行してサーバーを追加します。
  - Windows クライアント上: サーバーを[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンメニューで[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスから追加します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。

- UNIX クライアントの場合には、SERVER ファイルに SERVER エントリを追加します。

UNIX または Linux のマスターサーバーのサーバーリストを変更する場合には、その変更を有効にするために、NetBackup Request デーモン (bprd) と NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) を停止し、再起動します。Windows の場合、NetBackup Request Manager サービスおよび NetBackup Database Manager サービスを停止し、再起動します。

- Windows クライアントの場合、次の手順を実行して、bpinetd のデバッグログを有効にします。
  - クライアントに、bpinetd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - バックアップを再試行し、ログの結果を調べて、エラーの原因を特定します。
- すべてのクライアントで、次の手順を実行して、bpcd のデバッグログを有効にします。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、第 3 章の「デバッグログ」の項の説明に従って、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
  - バックアップを再試行し、ログの結果を調べて、エラーの原因を特定します。
- bpcd のデバッグログを確認して、サーバーのピアネームおよび実行された比較操作を判断します。
  bpcd プロセスでは、NetBackup サーバーリストのエントリと接続を試行するサーバーのピアネームが比較されます。名前が異なる場合、接続が拒否されます。必要に応じて、クライアントのサーバーリストのエントリを変更して、ピアネームと一致させます。
- Windows クライアントの場合、次の内容を確認します。
  - Windows 版 NetBackup ソフトウェアが、Windows の管理者アカウントでインストールされていることを確認します。
    他のアカウントで NetBackup がインストールされている場合、管理者アカウントで再インストールします。管理者以外のアカウントでもインストールは正常に完了しますが、NetBackup Client Service が Windows に追加されず、NetBackup サーバーからクライアントにアクセスできません。
  - Windows の TCP/IP サービスによって、NetBackup サーバーを含むサブネットの名前を解決するドメインサーバーが指定されていることを確認します。
    多くの場合、UNIX、Linux および Windows クライアントは異なるサブネット上に存在し、異なるドメインサーバーを使用します。この場合、NetBackup サーバー

および Windows クライアントは相互に ping を実行できますが、サーバーから Windows クライアントにアクセスできません。

- 前述の手順で問題が解決しない場合があります。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- NetBackup で、メディアサーバーを含む複数のネットワークインターフェースを使用する場合、クライアントの `/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルに、インターフェース名が存在することを確認します。
- Enterprise Vault Agent の場合:『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- すべての名前解決サービス (一次、負荷分散、二次) を NetBackup ホストの一貫した正引き名前解決と逆引き名前解決に正しく設定します。
詳細情報は次の技術情報の記事に記載しています。
https://support.cohesity.com/s/article/article-100029136

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 60

メッセージ: クライアントはマウントテーブルを読み込めません (client cannot read the mount table)

説明: クライアントのバックアップ処理で、マウントされたファイルシステムのリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `df` を実行して、システムからマウントテーブルを読み込むことができるどうかを確認します。
- SCO システムの場合、マウントポイントのパス名が 31 文字 (SCO システムでの最長文字数) を超えると、コード 60 が発生する場合があります。クライアントの `bpbkar` のデバッグログに、次のようなメッセージが表示されます。

```
bpbkar build_nfs_list: FTL - cannot statfs net Errno: 42406
```

今後のバックアップの際にこのようなエラーを回避するには、より短い名前でマウントポイントを作成し、長い名前はその短い名前へのシンボリックリンクにします。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`bpbkar` のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 61

メッセージ: VNETD プロキシでエラーが発生しました

説明: コマンドまたはジョブは、安全な通信操作を実行できませんでした。NetBackup が、76*xx* の範囲のコード内の関連コードに詳細情報を報告している可能性があります。

推奨処置: 状態コード 61 の前にある 76*xx* コードについて次のいずれかを確認してから、その 76*xx* コードの説明を調べます。

- コマンドの詳細出力またはデバッグ出力。
- NetBackup 管理コンソールの[ジョブの詳細 (Job Details)]の[状態の詳細 (Detailed Status)]。
- 状態 61 を報告したコマンドまたはプロセスのログファイル。

詳しくは、https://support.cohesity.com/s/article/article-100039945 の技術情報の記事を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 63

メッセージ: プロセスは、シグナルによって強制終了されました (process was killed by a signal)

説明: クライアントプロセスに強制終了 (kill) シグナルが送信されました。

推奨処置: 通常、このエラーは、意図的にバックアップを終了することで発生します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 64

メッセージ: クライアントバックアップの開始を待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for the client backup to start)

説明: クライアントからの準備完了メッセージが、割り当て時間内にサーバーに送信されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- すべてのクライアントで、次の手順を実行して、bpcd のデバッグログを有効にします。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。

- PC クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

- UNIX、Linux または Windows クライアントの場合、クライアントに bpbkar デバッグログディレクトリを作成します。
- Windows クライアントの場合、NetBackup Client Service が実行中であることを確認します。
- UNIX または Linux クライアントの場合、ps コマンドを実行して、CPU 時間を過剰に消費しているクライアントプロセスを確認します。
- バックアップを再試行し、失敗した原因についての情報をデバッグログで調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 65

メッセージ: クライアントは Media Manager からの続行メッセージの待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for the continue message from the media manager)

説明: Tape Manager (bptm) で、割り当て時間内にメディアのロードおよび位置設定を実行できなかったことが通知されました。

推奨処置: 要求したボリュームが利用可能で、必要なデバイスが起動状態にあることを確認します。

- サーバーに、bptm のデバッグログディレクトリを作成します。
- UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、VERBOSE ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[ログ (Logging)]タブで[詳細 (Verbose)]ログレベルを設定します。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- 操作を再試行し、タイムアウトの原因となっているドライブ、ロボットおよびテープに関する情報を bptm のデバッグログファイルで確認します。
- Windows 版 NetBackup サーバー (マスターサーバーまたはメディアサーバー) の場合、イベントビューアのアプリケーションログで、テープのマウントが完了しなかった理由を示すエラーメッセージを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 66

メッセージ: クライアントバックアップが CONTINUE BACKUP メッセージの受信に失敗しました (client backup failed to receive the CONTINUE BACKUP message)

説明: クライアントの bpbkar プロセスで、サーバーで処理を継続する準備が完了していることを示すサーバーからのメッセージが受信されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーがクラッシュしていないことを確認します。
- UNIX、Linux および Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログを有効にします。
  - bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX または Linux クライアントの場合、bp.conf ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。Windows クライアントの場合、[詳細 (Verbose)]を[トラブルシューティング (Troubleshooting)]タブで[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスから設定します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。
- 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 67

メッセージ: クライアントバックアップが、ファイルリストの読み込みに失敗しました (client backup failed to read the file list)

説明: クライアントで、バックアップを行うファイルのリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーがクラッシュしていないことを確認します。
- デバッグログを設定します。

- サーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
- UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
- 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。

ログに表示される情報量を増やします。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。

- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 68

メッセージ: クライアントはファイルリストの待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for the file list)

説明: クライアントで、バックアップを行うファイルのリストが割り当て時間内に受信されませんでした。ファイルリストは、サーバーから送信されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーがクラッシュしていないことを確認します。
- デバッグログを設定します。
  - サーバーに、bpbrm のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。

  ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 69

メッセージ: ファイルリストの指定が無効です (invalid filelist specification)

説明: 次のいずれかの条件に該当する場合です。

- VMware インテリジェントポリシー: *VM_name* が同じバックアップコンポーネントが複数あり、情報が競合しています。
- サーバーのポリシーのファイルリストに無効なエントリがあります。
- Enterprise Vault Agent: ポリシーに同じポリシーで同時に指定できない指示句があります。
- NetBackup Snapshot Client: オフホストバックアップ ([NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]または[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]) で、ファイルリストに ALL_LOCAL_DRIVES エントリが含まれています。NetBackup では、オフホストバックアップの ALL_LOCAL_DRIVES エントリはサポートされていません。
- Red Hat Virtualization のバックアップで使用されたバックアップホストで、Solaris、AIX、HP のオペレーティングシステムがサポートされていません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- VMware インテリジェントポリシー: ポリシーで VM の*VM_name* の重複を確認します。
- ポリシーのファイルリストの問題: ポリシーのファイルリストを確認します。ワイルドカードを使用している場合、リストで角カッコ ([と]) が対になっていることを確認します。ファイルリストに UNC (Universal Naming Convention: 汎用名前付け規則) 名が含まれている場合、適切な形式であることを確認します。
  このエラーは、nbjm の実行中に SharePoint ジョブの再検出で 0 または 1 が戻され、さらにポリシーのファイルリストが空である場合に発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。
- Enterprise Vault Agent: 詳しくは、『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。
- NetBackup Snapshot Client: ALL_LOCAL_DRIVES エントリをファイルリストから削除します。
- バックアップホストでサポートされるオペレーティングシステムについて詳しくは、『NetBackup Web UI RHV 管理者ガイド』を参照してください。
- Hypervisor ポリシーと Nutanix AHV に関連するエラーについては、『Nutanix AHV 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 70

メッセージ**:** ファイルリストのエントリ文字が多すぎます (an entry in the filelist expanded to too many characters)

説明: ファイルリスト内のいずれかのエントリで使用されているワイルドカードによって、非常に多くのファイルが指定されました。

推奨処置: ファイルリスト内のワイルドカードを変更し、指定するファイル数を減らします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 71

メッセージ: ファイルリストにファイルが存在しません (none of the files in the file list exist)

説明: ファイルリスト内のファイルが、クライアントのいずれのファイルにも一致しませんでした。このエラーは、ファイルリスト内に存在するファイルが 1 つだけで、I/O エラーのためにファイルのバックアップを実行できない場合に発生することがあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントに対して、適切なファイルリストを指定していることを確認します。
- Windows クライアントの場合、NetBackup Client Service を起動するために使用したアカウントが、ファイルの読み込み権限を所有していることを確認します。
  ネットワークドライブまたは UNC (Universal Naming Convention の略で汎用名前付け規則の意味) パスのバックアップを作成する場合には、Windows の[管理ツール]の[サービス]を使って、NetBackup Client Service が SYSTEM アカウントで開始されないことを確認します。SYSTEM アカウントでは、ネットワークドライブにアクセスできません。
  ネットワークドライブまたは UNC パスのバックアップを作成するには、NetBackup Client Service の起動時に、ネットワークドライブにアクセスする権限を持つユーザーとしてログインします。
- [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで情報を確認します。
- デバッグログを設定するには、次のいずれかを実行します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
- ログに表示される情報量を増やします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- NDMP ポリシー形式の場合は、NDMP ホストのクレデンシャルが追加されたことを検証します。追加されていない場合には追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 72

メッセージ: クライアント形式は、構成データベース内で正しくありません (the client type is incorrect in the configuration database)

説明: ポリシー構成内のポリシー形式属性で指定されているクライアントの形式と、インストールされているソフトウェアの形式が異なります。

推奨処置: ポリシーのポリシー形式属性が適切であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 73

メッセージ: bpstart_notify が失敗しました (bpstart_notify failed)

説明: `bpstart_notify` スクリプトから 0 (ゼロ) 以外の終了コードが戻されました。

推奨処置: クライアントの `bpstart_notify` スクリプトを調べて、想定どおりに実行されたかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 74

メッセージ: クライアントは bpstart_notify の完了を待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for bpstart_notify to complete)

説明: クライアントの `bpstart_notify` スクリプトの処理に時間がかかりすぎました。

推奨処置: `bpstart_notify` スクリプトの処理を高速化するか、サーバーの BPSTART_TIMEOUT にデフォルトより大きい値を設定します。UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、`bp.conf` ファイルの BPSTART_TIMEOUT を設定します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[ホストプロパティ (Host Properties)]を使用して、[バックアップ開始の通知タイムアウト (Backup start notify timeout)]を設定します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 75

メッセージ: クライアントは bpend_notify の完了を待機中にタイムアウトしました (client timed out waiting for bpend_notify to complete)

説明: クライアントの bpend_notify スクリプトの処理に時間がかかりすぎました。

推奨処置: bpend_notify スクリプトの処理を高速化するか、サーバーの BPEND_TIMEOUT にデフォルトより大きい値を設定します。UNIX または Linux 版 NetBackup サーバーの場合、bp.conf ファイルの BPEND_TIMEOUT を設定します。Windows 版 NetBackup サーバーの場合、[ホストプロパティ (Host Properties)]を使用して、[バックアップ終了の通知タイムアウト (Backup end notify timeout)]を設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 76

メッセージ: クライアントはファイルの読み込み中にタイムアウトしました (client timed out reading file)

説明: ファイルリストで FIFO が指定され、割り当て時間内に FIFO でデータが作成されませんでした。

推奨処置: 指定した FIFO でデータを作成するプロセスが正しく起動されることを確認します。サーバー上の /usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルにエントリを追加して、CLIENT_READ_TIMEOUT にデフォルトより大きい値を設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 77

メッセージ: 指定したシステムコマンドが実行され、0 以外の状態を戻しました (execution of the specified system command returned a nonzero status)

説明: 直前に実行したコマンドから 0 (ゼロ) 以外の状態が戻されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- コマンドを正しく指定していることを確認します。
- NetBackup Snapshot Client の場合のみ、次の手順を実行します。
  ポリシーのファイルリストに、スナップショットソースとして指定したファイルシステム内に存在しないファイルが含まれている場合があります。個別のファイルのバックアップにスナップショット方式を適用するには、スナップショットソースがファイルシステムである必要があります。(スナップショットソースに raw パーティションや Volume Manager ボリュームは使用できません)。ポリシーのファイルリスト内のファイルは、このファイルシステム内に存在する必要があります。
- コマンドを手動で実行して、目的の結果が得られるかどうかを確認します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、次のようにデバッグログを設定します。
  - UNIX クライアント、Linux クライアントおよび Windows クライアントの場合、bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 他の PC クライアントの場合、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - ログに表示される情報量を増やします。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 78

メッセージ: afs/dfs コマンドが失敗しました (afs/dfs command failed)

説明: AFS の vos コマンドが失敗したことを示します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- コマンドが失敗した理由についての追加情報を、NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで確認します。
- bpbkar のデバッグログに、実行したコマンドが表示されます。bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- vos コマンドを手動で実行して、問題を再現します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 79

メッセージ: 要求されたデータベース問い合わせに対してサポートされていないイメージ形式 (unsupported image format for the requested database query)

説明: 合成対象となる 1 つ以上のイメージが暗号化されています。これらのイメージは合成できません。

推奨処置: いずれのイメージも暗号化されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 80

メッセージ: Media Manager device デーモン (ltid) が動作していません (Media Manager device daemon (ltid) is not active)

説明: サーバーが UNIX または Linux の場合、NetBackup Device Manager デーモン ltid が実行されていません。サーバーが Windows の場合、NetBackup Device Manager サービスが実行されていません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Windows の場合、アクティビティモニターまたは Windows の[管理ツール]の[サービス]を使用して、NetBackup Device Manager サービスが実行中であるかどうかを確認します。実行中でない場合、起動します。詳細ログを有効にするために、install_path¥Volmgr¥vm.conf ファイル内の 1 行に VERBOSE だけを入力して、サービスを起動します。VERBOSE
- UNIX の場合、を使って、が実行中であるかどうかを確認し、必要に応じて、次のコマンドを実行して詳細モードで ltid を起動します。vmpsltidltid

  ```
  /usr/openv/volmgr/bin/ltid -v
  ```

  または、VERBOSE エントリを /usr/openv/volmgr/vm.conf ファイルに追加します。必要に応じて、vm.conf ファイルを作成します。
- UNIX の場合、システムログを確認して、ltid が起動されていることを検証します。

メモ: UNIX システムの ltid と Windows システムの NetBackup Device Manager サービスは、デバイスがシステムに接続されている場合だけに使われます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 81

メッセージ: Media Manager Volume デーモン (vmd) が動作していません (Media Manager volume daemon (vmd) is not active)

説明: Tape Manager (bptm) が、NetBackup Volume Manager (vmd) と通信できませんでした。この通信は、ほぼすべての操作に必要です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合、Media Manager device デーモン (ltid) と NetBackup Volume Manager (vmd) が実行中であることを確認します。必要に応じて起動します。
- Windows の場合、NetBackup Device Manager サービスおよび NetBackup Volume Manager サービスが実行中であることを確認します。必要に応じて起動します。

メモ: ltid または NetBackup Device Manager サービスは、デバイスがシステムに接続されている場合だけに使用されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 82

メッセージ: Media Manager がシグナルによって強制終了されました (media manager killed by signal)

説明: Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) が、他のプロセスまたはユーザーによって終了されました。

推奨処置: このエラーは、通常の操作では発生しません。動作中のバックアップを終了する場合、NetBackup アクティビティモニターを使用します。

DomainOS クライアントのバックアップ中に、サーバーのソケットが 300 秒以上何も受信しないと、このエラーが発生する場合があります。この場合、クライアントの読み込みタイムアウトが発生して、接続が切断されます。bpbkar のデバッグログには、次のようなエントリが表示されます。

```
13:22:49 [1347] <16> bpbkar: ERR - Extra output - - ECONNRESET
Connection reset by peer (UNIX/errno status)
```

この問題を解決するには、CLIENT_READ_TIMEOUT の値を増やします。この場合は、値を 900 に設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 83

メッセージ: メディアのオープンエラー (media open error)

説明: Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) で、バックアップまたはリストアで使用するデバイスまたはファイルが開かれませんでした。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポート
- イベントビューアのアプリケーションログ (Windows の場合)
- システムログ (UNIX の場合)
- 通常、この状態コードは、ドライブ構成で複数のプロセスが同時にデバイスを開くことが許可されるドライブ構成の問題を示します。UNIX の場合、次の 1 つ以上の原因が考えられます。

- 2 つ以上のデバイスが構成されているが、同じ物理デバイスである (密度が異なる場合もある)。デバイスに使用されるどの /dev ファイルにも、同じメジャー番号またはマイナー番号が存在しないことを確認します。
- ファイルシステム内に、ユーザーにドライブへのアクセスを許可するリンクが存在する。
- ドライブの構成を (管理者インターフェースまたは vm.conf で) 変更したが、Media Manager device デーモン ltid を再起動していない。構成を確認して、ltid を起動します。

Windows の場合、メディアおよびデバイスの管理のデバイス構成を変更しても、NetBackup Device Manager サービスを再起動していないことが問題である可能性があります。構成を確認して、NetBackup Device Manager サービスを再起動します。

- Windows の場合、テープが書き込み禁止でないことを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、次のように実行します。
  - bpdm (デバイスがディスクの場合) または bptm (デバイスがテープの場合) のデバッグログディレクトリを作成します。
  - UNIX の場合、次のコマンドを実行して、詳細モードで ltid を再起動します。

    ```
    /usr/openv/volmgr/bin/ltid -v
    ```

    または、VERBOSE エントリを /usr/openv/volmgr/vm.conf ファイルに追加します。必要に応じて、vm.conf ファイルを作成します。
  - Windows の場合には、install_path¥Volmgr¥vm.conf ファイル内の 1 行に VERBOSE を追加して、詳細ログを有効にします。VERBOSE その後、NetBackup Device Manager サービスを停止して、再起動します。
  - 操作を再試行して、デバッグログファイルの結果を確認します。
  - Windows システムの場合、*install_path*¥NetBackup¥db¥media¥errors ログで、頻繁にエラーが生成されているドライブを調べます。
    UNIX システムの場合、/usr/openv/netbackup/db/media/errors ログで、頻繁にエラーが生成されているドライブを調べます (このログは /usr/openv/netbackup/bin/support/nbsu スクリプトの出力にも含まれます)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 84

メッセージ: メディアの書き込みエラー (media write error)

説明: NetBackup によるリムーバブルメディアまたはディスクファイルへの書き込み中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Snapshot Client の場合のみ:
  /usr/openv/netbackup/bptm のログに次のメッセージが表示され、key、asc および ascq の値が次に示すとおり 0 (0x0) であるかどうかを確認します。

  ```
  tape error occurred on extended copy command, key = 0x0, asc =
  0x0, ascq = 0x0
  ```

  NetBackup Snapshot Client は、ご使用のホストバスアダプタとそのドライバをサポートしない可能性があります。『NetBackup リリースノート』に、今回のリリースでサポートされているホストバスアダプタが記載されています。
- 追加情報については、次のものを確認します。
  - エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の［問題 (Problems)］レポート
  - システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
  - イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- NetBackup がディスクファイルにバックアップを書き込む場合には、そのディスクストレージユニットに設定しているフラグメントサイズが、オペレーティングシステムに指定しているファイルの最大サイズ以下であることを確認します。
- Windows の場合、テープが書き込み禁止でないことを確認します。
- UNIX または Linux システムのディスクパスに bpbackupdb カタログをバックアップするために NetBackup が使用されていた場合は、書き込みを試行したイメージが、そのオペレーティングシステムによって指定されている最大ファイルサイズより大きい可能性があります。テープファイルにはこのような制限はありません。テープにカタログをバックアップする場合があります。
- メディアがテープの場合、次のことを確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (ロボットドライブの場合、tpclean コマンドを参照)。
  - メディア形式が適切でない。メディアが、使用するドライブ形式と一致することを確認します。
  - メディアに問題がある。メディアに問題がある場合、bpmedia コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、以後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。

- ドライブ構成が適切でない。ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
  たとえば、UNIX でドライブが可変モードである必要がある場合に固定モードで構成されている場合があります。
  詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。
  多くの場合、この構成によって、メディアは凍結状態となり、次のメッセージが表示されます。

  ```
  too many data blocks written, check tape and drive block size
  configuration
  ```

  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。

- GLACIER または LIFECYCLE のバックアップジョブが失敗したときにこのエラーメッセージを受信した場合、エラーは Amazon ライフサイクルポリシーに関連し、次の状況で発生します。
  - NetBackup が使用する Amazon ライフサイクルポリシーを適用できない。バケットが所属する領域で、Amazon GLACIER または LIFECYCLE のストレージクラスがサポートされていません。サポート対象領域のバケットにディスクプールを再作成します。
  - NetBackup が使用する以外の Amazon ライフサイクルポリシーがすでに存在する。NetBackup が使用しないポリシーを削除し、ジョブを再度実行します。
  - Amazon にデータのバックアップを作成する際に NetBackup が使用する Amazon ライフサイクルポリシーの作成中にエラーが発生した。詳しくは bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 85

メッセージ: メディアの読み込みエラー (media read error)

説明: NetBackup によるテープまたはディスクファイルからの読み込み中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の[問題 (Problems)]レポート
- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)

- 次の内容を確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (クリーニングについては、tpclean コマンドを参照)。
  - ドライブ構成が適切でない。ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
    たとえば、UNIX でドライブが可変モードである必要がある場合に固定モードで構成されている場合があります。詳細情報が利用可能です。
    『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。
  - メディアに問題がある。この場合、メディア上のすべてのデータのリカバリを実行できない可能性があります。bpmedia コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、今後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。
  - メディア形式が適切でない。メディアが、使用するドライブ形式と一致することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 86

メッセージ: メディアの配置エラー (media position error)

説明: NetBackup によるテープメディアの配置中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の[問題 (Problems)]レポート
- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- 次の内容を確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (クリーニングについては、tpclean コマンドを参照)。
  - ドライブ構成が適切でない。ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
    たとえば、UNIX でドライブが可変モードである必要がある場合に固定モードで構成されている場合があります。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。

- メディアに問題がある。この場合、データの一部が失われる可能性があります。bpmedia コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、今後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
  『NetBackupトラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。
- メディア形式が適切でない。メディアが、使用するドライブ形式と一致することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 87

メッセージ: メディアのクローズエラー (media close error)

説明: NetBackup でテープのクローズ中に、システムのデバイスドライバから I/O エラーが戻されました。

推奨処置: 追加情報については、次のものを確認します。

- エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の[問題 (Problems)]レポート
- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)
- 次の内容を確認します。
  - ドライブに問題があるか、ドライブが汚れている。この場合、デバイスを修復するか、デバイスのクリーニングを行います (クリーニングについては、tpclean コマンドを参照)。
  - メディアに問題がある。この場合、データの一部が失われる可能性があります。bpmedia コマンドを実行して、ボリュームを凍結状態に設定し、今後のバックアップでそのボリュームを使用しないようにします。
    『NetBackupトラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。

Amazon AWS がクラウドストレージとして使用されている場合:

- 通信が SSL で有効になっていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 88

メッセージ: OpenStorage WORM のロックエラー。

説明: OpenStorage プラグインで、WORM ロック操作中にエラーが発生しました。

推奨処置: OpenStorage ストレージサーバーを確認し、ストレージデバイスの構成が NetBackup と一致していることを確認します。これらのエラーについて詳しくは、bptm と bpdm のログで、詳細なメッセージと OST エラーコードを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 89

メッセージ: 共有メモリの設定中に問題が発生しました (problems encountered during setup of shared memory)

説明: NetBackup プロセスは、いくつかの操作で共有メモリを使用します。この状態は、オペレーティングシステムの API を介して共有メモリを初期化する際にエラーが発生した場合に戻されます。

推奨処置: 共有メモリの問題を確認します。このエラーは、システムが十分な共有メモリを割り当てることができない場合に発生します。これは、通常、多重化を行う場合に発生します。多重化を行うと、操作に必要な共有メモリの量が増加します。NetBackup ログまたはレポート内に次のようなエントリが表示される場合があります。

```
system cannot allocate enough shared memory
```

このようなメッセージが表示された場合、ご使用のプラットフォームの各ベンダーが提供するマニュアルで、システムの共有メモリ量を増やす手順を参照してください。

以前のバージョンの Solaris の場合: メモリ割り当てメッセージが表示されてジョブが失敗することを回避するために、次の手順に従って、System V 共有メモリの 1 つ以上のデフォルト設定を変更することが必要な場合があります。

- Solaris 9 の場合、デフォルトの shminfo_shmmax 値は 8 MB です。/etc/system ファイルに次の行を指定すると、この設定を増やすことができます。この例では、値として 32 MB を使用しています。NetBackup の多重化パラメータの値が高い場合など、状況によっては、ご使用のシステムでより大きい値が必要な場合があります。Sun Microsystems のマニュアルには、このパラメータを指定可能な最大値に設定しても問題はないと記載されています。(このパラメータは Solaris 10 には適用されません)。

  ```
  set shmsys:shminfo_shmmax=33554432
  ```

- Solaris 9 では、デフォルトの shminfo_shmmni 値は 100 です。/etc/system ファイルに次の行を指定すると、この設定を増やすことができます。NetBackup では、通常はこのデフォルト値で十分です。ただし、NetBackup メディアサーバーを大規模な

データベースサーバーにインストールする場合など、状況によっては、この設定を増やすことが必要となる場合があります。この例では、値として 220 を使用しています。(このパラメータは Solaris 10 には適用されません)。

```
set shmsys:shminfo_shmmni=220
```

メモ: /etc/system ファイルでこれらいずれかの値を変更する場合、新しい設定を有効にするために、boot -r を実行してシステムを再ブートする必要があります。

これらの値を変更する方法について詳しくは、各ベンダーが提供するマニュアルを参照してください。これらの shminfo パラメータは Solaris 10 には適用されないことに注意してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 90

メッセージ**:** Media Manager はバックアップイメージ用データを受信しませんでした (media manager received no data for backup image)

説明**:** バックアップ、アーカイブまたは複製の実行中、Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) でデータが受信されませんでした。このエラーは、増分バックアップで、ファイルが変更されなかったためにバックアップを行うデータが存在しない場合に発生する可能性があります。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認します。
- 詳細なデバッグ情報を入手するには、bpdm または bptm のデバッグログディレクトリをサーバーに作成します。また、クライアントが Windows の場合、クライアントに bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- 追加情報については、次のものを確認します。
  - エラーの原因となったデバイスまたはメディアを判断するための、NetBackup の [問題 (Problems)]レポート
  - システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
  - イベントビューアのアプリケーションログ (Windows の場合)
- ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。たとえば、NetBackup で可変モードのドライブが必要とされている場合に、UNIX では、そのモードに設定されていないことがあります。

ドライブ構成について詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。

- バックアップデバイスに対するメディアおよびデバイスの管理の構成が、NetBackup のポリシーでストレージユニットに対して指定した構成と一致していることを確認します。
- ドライブで、適切なメディアを使用していることを確認します。
- 詳細なデバッグ情報を入手するには、bpdm または bptm のデバッグログディレクトリ (いずれか該当する方) をサーバーに作成します。また、クライアントが Windows の場合、クライアントに bpbkar のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
- このエラーが、複製中、または代替読み込みサーバーを使用して複製を行う Vault セッションの実行中に発生した場合、代替読み込みサーバーがソースメディアへのアクセス権限を持っていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 91

メッセージ: 致命的な NetBackup メディアデータベースのエラー (fatal NB media database error)

説明: メディアカタログの読み込み中または更新中に、Tape Manager (bptm) でエラーが受信されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 詳しくは、[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認します。
- NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートで、カタログが消失していないかどうかを確認します。カタログが消失している場合、最新の NetBackup カタログバックアップのボリュームからカタログを再ロードできます。
- カタログが存在するディスクパーティションに、十分な領域が存在することを確認します。
- これらの操作で問題が解決しない場合、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、サーバーに bptm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログファイルの結果を確認します。
- (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当する問題とデバッグログを送信してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 92

メッセージ: Media Manager が tar 形式以外のイメージを検出しました (media manager detected image that was not in tar format)

説明: リストアの実行中に、Tape Manager (bptm) または Disk Manager (bpdm) が、想定されたオフセットで tar ヘッダーを検出しませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 対象となるイメージの bpverify を実行して、正常に書き込みが行われているかどうかを判断します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- ドライブに対するメディアおよびデバイスの管理とシステム構成を確認します。
  たとえば、一部の UNIX システムでは、可変ブロックサイズモードで書き込むようにドライブを構成しないでバックアップイメージをメディアに書き込んだ場合、バックアップイメージのリストアを試行すると、このエラーが生成される場合があります。

  次の順序でイベントが発生します。

  - バックアップが正常に実行されます。
  - 検証が成功します。
  - リストアが失敗します。

  bptm のデバッグログに、次のようなエラーが表示されます。

  ```
  00:58:54 [2304] <16> write_data: write of 32768 bytes indicated
  only 29696 bytes were written, errno = 0
  ```

  この場合、ドライブを可変ブロックサイズモードで書き込むように構成して、そのデバイスで書き込みを行うメディアを一時停止します。
  『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。
  これらのメディアに書き込まれたイメージは、リストア可能である場合があります (プラットフォームに依存します)。ただし、1 つのファイルだけをリストアしようとしても、ほぼ確実に失敗します。これらのメディアを期限切れにしてから、バックアップを再生成できます。または、これらのメディアから他のデバイスにイメージを複製した後に、元のメディアを期限切れにできます。
- このエラーは、ドライブのマイクロコードで SCSI コマンド forward space record (レコード単位のテープの先送り) が不正に処理された場合、ラベルが付け直され、値が追加された 8MM テープドライブで発生する場合があります。

- 問題がこれらの説明のいずれにも該当しない場合、bpdm または bptm のいずれかのデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログファイルの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 93

メッセージ: Media Manager がドライブ内で誤ったテープを見つけました (media manager found wrong tape in drive)

説明: バックアップまたはリストアを行うためにボリュームをロードしたとき、ロードされたボリュームに想定されたテープヘッダーが存在しないことが Tape Manager (bptm) で検出されました。このエラーは、ロボット内のボリュームが、メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成で示されるスロットに存在しないことを示す場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ボリュームがロボット内に存在し、そのロボットがバーコードをサポートしている場合には、[内容とボリュームの構成の比較 (Compare contents with volume configuration)] ロボットインベントリ (Windows) または[内容とボリュームの構成の比較 (Compare robot contents with volume configuration)]ロボットインベントリ (UNIX) を実行します。結果レポートには、検出されたメディア ID が表示され、ボリューム構成の内容を使用してスロット番号が検証されます。その後、ロボット内の物理的な場所を変更するか、ボリューム構成を変更して正しいスロットを表示します。
- ボリュームを非ロボットドライブにマウントした場合、適切なボリュームのマウントおよび割り当てが行われていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 94

メッセージ: 正しいイメージに配置できません。(cannot position to correct image)

説明: Tape Manager (bptm) によって、リストアを行うバックアップイメージが検索されましたが、ボリューム上の想定された位置で、適切なバックアップ ID が検出されませんでした。このエラーは、ドライブのハードウェア上の問題を示す場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 可能な場合、他のドライブでリストアを試行します。
- 追加情報については、次のものを確認します。
  - エラーの原因となったデバイスまたはボリュームを判断するための、NetBackup の[問題 (Problems)]レポート

- システムのシステムログとエラーログ (UNIX の場合)
- イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログ (Windows の場合)

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。デバッグログファイルの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 95

メッセージ: 要求されたメディア ID が EMM データベースでこのホストに割り当てられていません (requested media id is not assigned to this host in the EMM database)

説明: 要求元サーバーに割り当てられたレコードが NetBackup に存在しないメディア ID に対して操作が要求されました。たとえば、存在しないか、または要求元サーバーに割り当てられていないメディア ID を一時停止または凍結するために、bpmedia を使う場合などです。

推奨処置: NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを実行して、有効なメディア ID とその ID が割り当てられているホストを判断します。その後、有効なメディア ID および割り当てられたホストを使用して、コマンドを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 96

メッセージ: バックアップに新しいメディアを割り当てることができません。ストレージユニットに利用可能なメディアがありません (unable to allocate new media for backup, storage unit has none available)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) は、バックアップに新しいボリュームを割り当てませんでした。このエラーは、バックアップに指定したストレージユニットのボリュームプール内に利用可能なボリュームが存在しないことを示します。NetBackup では、バックアップ中にストレージユニットが変更されないことに注意してください。

推奨処置: NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認して、メディアが存在しないストレージユニットを特定します。

- ストレージユニットがロボットで、空のスロットが存在する場合、ボリュームを追加します (適切なボリュームプールを指定します)。
  - 空のスロットが存在しない場合、一部のメディアを非ロボットドライブに移動させてから、新しいボリュームを追加します。
  - 利用可能なボリュームのトラッキングが困難な場合、available_media スクリプトを実行します。

UNIX の場合、スクリプトは次の位置に存在します。

```
/usr/openv/netbackup/bin/goodies/available_media
```

Windows の場合、スクリプトは次の位置に存在します。

```
install_path¥NetBackup¥bin¥goodies¥available_media.cm
d
```

このスクリプトでは、ボリューム構成内のすべてのボリューム、および NetBackup に現在割り当てられているボリュームの情報が表示されます。

- スクラッチボリュームプールを設定し、割り当てられていないテープを用意します。NetBackup で新しいテープが必要な場合に利用可能なテープが現在のボリュームプールに存在しないときは、スクラッチプールからバックアップで使っているボリュームプールにテープを移動します。
- ストレージユニットおよびボリュームプールにメディアが存在する場合、次の内容を確認します。
  - ボリュームが凍結または一時停止されていない。
    NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使用して、ボリュームの状態を確認します。ボリュームが凍結または一時停止されている場合は、bpmedia コマンドを実行して、ボリュームの凍結の解除または一時停止の解除を行います (必要な場合)。
    『NetBackupトラブルシューティングガイド』の「凍結されたメディアのトラブルシューティングについての注意事項」を参照してください。
  - ボリュームの期限が切れておらず、最大マウント数を超えていない。
  - デバイスの EMM データベースホスト名が適切である。
    EMM データベースホスト名を変更する場合には、Media Manager Device デーモン ltid (サーバーが UNIX または Linux の場合) または NetBackup Device Manager サービス (サーバーが Windows の場合) を停止し、再起動します。
  - NetBackup 構成で、適切なホストをストレージユニットに指定している。
    ホスト接続は、ドライブが接続されているサーバー (マスターサーバーまたはメディアサーバー) である必要があります。
  - メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成でメディアが適切なボリュームプール内に存在する。また、割り当てられていないメディアまたは有効なメディアが要求された保持レベルで利用可能である。
    NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使用して、すべてのボリュームの保持レベル、ボリュームプールおよび状態 (有効など) を表示します。
    NetBackup の[メディアの概略 (Media Summary)]レポートを使用して、適切な保持レベルで有効なボリュームを確認します。

- vmd プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) からのメディアの要求時に、NetBackup の bptm プロセスが拒否される場合があります。この問題の原因は、vmd プロセスまたは NetBackup Volume Manager サービスが要求を行ったホスト名を判断できないことです。

  このエラーは、次のような不適切なネットワーク構成が原因として考えられます。

  - 複数のネットワークインターフェースに問題がある。
  - UNIX または Linux システムで使用する /etc/resolv.conf に問題がある。
  - DNS を実行しているが、逆引きができるように構成していない。
- bptm および vmd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。
- bptm のデバッグログを調べて、bptm が適切なシステムに接続されていることを確認します。エラーが記録されている場合、vmd のログを調べます。

  UNIX の場合、vmd のログは次の位置に存在します。

  ```
  /usr/openv/volmgr/debug/daemon/log.xxxxxx
  ```

  Windows の場合、vmd のログは次の位置に存在します。

  ```
  install_path¥Volmgr¥debug¥daemon¥xxxxxx.log
  ```

- 新しいストレージユニットを初めて使用する場合、マスターサーバー上の NetBackup を停止し、再起動します。

メモ: mds の統合ログファイル (OID 143) では、通常、NetBackup のメディア選択プロセスが表示されます。

この状態コードについては、ウィザード形式のより多くのトラブルシューティング情報が利用可能です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 97

メッセージ**:** 要求されたメディア ID は使用されているため、要求を処理できません (requested media id is in use, cannot process request)

説明**:** 使用中のメディア ID に対する操作が要求されました。たとえば、バックアップまたはリストアで使用中のボリュームを、一時停止または凍結しようとした場合などです。

推奨処置**:** ボリュームを使用していないときに、コマンドを再試行します。デバイスモニターを使用して、ボリュームが使用中であるかどうかを判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 98

メッセージ: メディア要求 (tpreq) エラー (error requesting media (tpreq))

説明: NetBackup Device Manager サービス (Windows の場合) または Media Manager Device デーモン (`ltid`) (UNIX の場合) からメディアのマウントを要求したときに、Tape Manager (`bptm`) でエラーが表示されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認して、失敗の原因を判断します。最も一般的な原因として、Windows の NetBackup Device Manager サービスまたは UNIX の Media Manager device デーモン (`ltid`) が実行中でないことが考えられます。必要に応じて起動します。
- このエラーは、バックアップの複製または Vault を使用してバックアップの複製を行う場合に、元のバックアップが存在するテープにアクセスする権限を代替読み込みサーバーが持たない場合に表示されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 99

メッセージ: NDMP バックアップの失敗 (NDMP backup failure)

説明: NDMP ポリシーのファイルリスト内のパスが正常にバックアップされませんでした。次のいずれかの状態が発生しています。

- バックアップパスが NDMP ホストに存在しません。
- NDMP バックアップで、ファイルパスではなく、ファイルを指すワイルドカード文字を使っています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- 詳しくは、NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを参照してください。
- 別のマスターサーバーまたはメディアサーバーで次のコマンドを試します。

```
# tpautoconf -verify ndmp_filer
# tpautoconf -probe ndmp_host
```

ファイラで、NDMP サービスが動作していることを確認します。検証プロセスはファイラによって異なります。

NetApp の場合、ndmpd status を実行して NDMP デーモンが動作していることを確認します。動作していない場合は、ndmpd on を実行してから再び ndmpd status を実行して確認します。

- パス名だけを指定するように NDMP のワイルドカードを変更します。ファイル名にも一致するワイルドカード文字を使うことはできません。たとえば、NDMP のバックアップ対象として /vol/vol_archive_01/autoit* と指定したとします。これは、パス名 /vol/vol_archive_01/autoit_01/ に一致しますが、ファイル名 /vol/vol_archive_01/autoit-v1-setup.exe にも一致します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 100

メッセージ: ユーザーコマンドの処理中にシステムエラーが発生しました (system error occurred while processing user command)

説明: bparchive、bpbackup、bplist、bprestore で、システムコールが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- bparchive、bpbackup、bplist または bprestore のデバッグログディレクトリを (必要に応じて) 作成して、デバッグログを有効にします。
  UNIX で、root 以外のユーザーに問題がある場合、作成されたディレクトリにモード 666 が存在することを確認します。エラーが通知されている場合、修正します。
- 操作を再試行し、ログの結果を確認します。
  ログで問題が判明しない場合、コマンドをコマンドラインから実行して、stderr で通知される問題を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 101

メッセージ: メールパイプを開けませんでした (failed opening mail pipe)

説明: メールを送信するプロセスによって、サーバーへのパイプが開かれませんでした。

推奨処置: メールがクライアント上で構成されていることを確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpcd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。bpcd のデバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 102

メッセージ: メールパイプを閉じることができませんでした (failed closing mail pipe)

説明: メールを送信する処理でサーバー接続に使うパイプを閉じることができません。

推奨処置: メールがクライアント上で構成されていることを確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpcd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。bpcd のデバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 103

メッセージ: 初期化中にエラーが発生しました。構成ファイルを確認してください (error occurred during initialization, check configuration file)

説明: NetBackup Snapshot Client は NetBackup メディアサーバー方式またはサードパーティコピーデバイス方式のデータムーバーを使って、2 種類のオフホストバックアップを実行できます。いずれの方式の場合も、オフホストデータムーバーバックアップは SAN 上の次のデバイスを識別するために設定ファイル (3pc.conf ファイル) を必要とします。

- バックアップ対象のクライアントディスク
- データの保存先デバイス

メディアサーバーに SAN 上の多くのディスクとストレージデバイスへのアクセス権がある場合、SAN からデバイス情報を取得するために長時間かかることがあります。その結果、3pc.conf ファイルがメディアサーバーに存在しなければ、データムーバー方式を使う最初の複数ストリームのバックアップは失敗することがあります。

推奨処置: 最初の複数ストリームのデータムーバーバックアップを実行する前に 3pc.conf ファイルを手動で作成します。3pc.conf ファイルを作成する次のコマンドを使います。

```
# bptpcinfo -a
```

3pc.conf ファイルは /usr/openv/volmgr/database/3pc.conf に作成されます。

3pc.conf ファイルおよびその作成方法についての詳細情報を参照できます。

『NetBackup Snapshot Client Configuration Guide』でオフホストデータムーバーバックアップ用の NetBackup の設定に関する項を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 104

メッセージ: ファイルのパス名が無効です (invalid file pathname)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 105

メッセージ: ファイルのパス名は、許可された最大長を超えています (file pathname exceeds the maximum length allowed)

説明: 現在の作業ディレクトリを使用して作成されたパス名が、システムで利用可能なパスの最大長を超えています。

推奨処置: 現在の作業ディレクトリパスの長さを短くします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 106

メッセージ: 無効なファイルのパス名が見つかりました。要求を処理できません (invalid file pathname found, cannot process request)

説明: バックアップまたはアーカイブを実行するファイルパスのいずれかが無効です。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- フルパス名を使用しており、フルパス名がシステムで利用可能なパスの最大長を超えないことを確認します。(UNIX の場合は、フルパス名はスラッシュ文字 (/) で始まります。)
- ファイルが存在し、NetBackup によってファイルにアクセスできる権限を所有していることを確認します。
- 一部の NDMP サーバーはディレクトリレベルの拡張をサポートしていません。一部の NDMP ファイラベンダーには、ボリュームレベルよりも下位のワイルドカード文字をサポートするために使用される API がありません。たとえば、EMC のファイラではバックアップ対象として /fs1/dir* と指定することはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 108

メッセージ: 処理に成功しましたが監査に失敗しました (Action succeeded but auditing failed)

説明: 監査されているプライマリの処理は成功しましたが、対応する監査レコードは作成されなかったため失敗しました。

たとえば、ポリシーを作成する bppolicynew コマンドを使い、状態コード 108 が戻されたとします。ポリシーは正常に作成されていますが、関連付けられた監査レコードは nbauditreport コマンドが生成する監査レポートに表示されません。

このエラーは、監査が nbemmcmd コマンドを使って有効になっている場合にのみ戻される可能性があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- nbaudit デーモン (NetBackup Audit Manager) が動作していること確認します。
- エラーの原因の詳細について、プライマリの処理に関係するログと nbaudit ログを調べます。たとえば、ポリシー作成の場合は bpdbm ログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 109

メッセージ: 指定された日付が無効です (invalid date specified)

説明: コマンドラインで日付オプションを含むコマンドを実行した場合、このエラーが発生することがあります。日付オプションの形式は、マスターサーバーのロケールによって異なります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- コマンドラインでエラーが発生した場合、コマンドの標準エラー出力で説明メッセージを確認します。
- コマンドの使用方法に示されている日付オプションの形式を参照します。マスターサーバーのロケールを調べます。このロケールでの日付形式と、コマンドの使用方法で示されている日付形式を比較します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで情報を確認します。
- Java インターフェースにエラーが表示される場合、Java 起動ファイルのデバッグ出力マネージャを有効にします。再試行し、Java ログに記録されているパラメータをコマンドの使用方法に表示されているパラメータと比較します。
- これらの操作で問題が判明しない場合、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

- Microsoft SQL Server のリストアの実行中に web UI にエラーが表示された場合は、指定した日付を確認します。日付は ISO 8601 形式である必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 110

メッセージ: NetBackup 構成情報が見つかりません (Cannot find the NetBackup configuration information)

説明: Windows で、インストール時に作成されたレジストリエントリが NetBackup で読み込まれませんでした。UNIX の場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルが存在しません。

推奨処置: Windows の場合、NetBackup ソフトウェアをクライアントに再インストールします。UNIX の場合、少なくとも次の行を含む `/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルを作成します。

```
SERVER = server_name
CLIENT_NAME = client_name
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 111

メッセージ: サーバーリストでエントリが見つかりませんでした (No entry was found in the server list)

説明: UNIX の場合、`bp.conf` ファイル内に `SERVER = server_name` 行が存在しません。Windows の場合、サーバーリストにエントリが存在しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントの場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルの 1 行目に、次の行を追加します。

  ```
  SERVER = server_name
  ```

- Microsoft Windows クライアントでは、[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログボックスの[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]ドロップダウンメニューでサーバー名を追加します。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動します。次に、[ファイル (File)]メニューから[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]を選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 112

メッセージ: 未定義のエラー、またはポリシーのバックアップ対象にファイルが指定されていません。(Undefined error or there are no files specified in the policy backup selection.)

説明: このコードは、次の理由で表示されます。

- ファイルリストにファイルを指定せずにリストアが要求された
- ポリシーのバックアップ対象が正しく指定されていない
- 指定されたバックアップ対象でバックアップする VM がない

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- リストアを行うファイルを 1 つ以上指定します。
- この状態コードは、nbjm の実行中に、ストリームの検出ですべてのストリームファイルを検出できない場合に発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。
- 適切なバックアップ対象がポリシーで指定されており、それらが正しい形式であることを確認します。

  サポートされるバックアップ対象は次のとおりです。

  - サブスクリプションの場合: /サブスクリプション ID。サブスクリプション ID が 1950a258-227b-4e31-a9cf-717495945fc2 の場合、バックアップ対象を - /1950a258-227b-4e31-a9cf-717495945fc2 と指定します。
  - リソースグループの場合: /サブスクリプション ID/リソースグループ。サブスクリプション ID が 1950a258-227b-4e31-a9cf-717495945fc2 でリソースグループ名が TestRG の場合、バックアップ対象を - /1950a258-227b-4e31-a9cf-717495945fc2/TestRG と指定します。
  - VM 名の場合: /サブスクリプション ID/リソースグループ/VM 名。サブスクリプション ID が 1950a258-227b-4e31-a9cf-717495945fc2、リソースグループ名が TestRG、VM 名が MyVM の場合、バックアップ対象を - /1950a258-227b-4e31-a9cf-717495945fc2/TestRG/MyVM と指定します。

Cassandra データベースのバックアップまたはリストアを行うときは、必要に応じて次を実行します。

- Cassandra ノードの sudoers リストから次の設定がコメントアウトされていることを確認します。

  ```
  #Defaults:!requiretty
  ```

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 114

メッセージ: 実装されていないエラーコード (unimplemented error code)

説明: このエラーは通常は発生しません。nbjm が負のエラー番号を受け取ると、状態コード 114 が発行されます。

推奨処置: nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117) で、エラーの原因の詳細を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 116

メッセージ: VxSS の認証に失敗しました (VxSS authentication failed)

説明: ソケットの接続の両端のパーティが相互に認証しませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Product Authentication Service がインストールされ、構成されていることを確認してください。
  インストール手順について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』を参照してください。
- 両方のパーティに有効な証明書があることを確認します。bpnbat -WhoAmI を実行して表示される有効期限を調べます。次に例を示します。

  ```
  bpnbat -WhoAmI
  Name: JDOG
  Domain: MYCOMPANY
  Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
  Expiry Date: Sep 19 12:51:55 2009 GMT
  Authentication method: Microsoft Windows
  ```

  操作は正常に完了しました。
  有効期限は 2009 年 9 月 19 日であることがわかります。12:51:55 GMT を過ぎるとこのクレデンシャルは無効になり、新しいクレデンシャルが必要になります。
- NetBackup 管理コンソールで実行している場合、コンソールを閉じて再度開きます。可能な場合、コンソールでは、現在ログインしている識別情報のクレデンシャルが自動的に取得されます。デフォルトでは、これらの証明書は 24 時間有効です。次に、クレデンシャルを 24 時間から 30 日 (2592000 秒) に延長する方法について例を示します。

Windows の場合: `<install path>¥netbackup¥sec¥at¥bin¥vssat setexpiryintervals -p <plugin_name> -t <user> -e 2592000`
UNIX の場合: `usr/openv/netbackup/sec/at/bin/vssat setexpiryintervals -p <plugin_name> -t <user> -e 2592000`

- 両方のパーティの証明書で同じブローカーが使っているか、または同じルートブローカーの子であるか、あるいは両方のパーティ間に信頼関係が確立されていることを確認します。
  ブローカーの階層およびブローカー間に信頼関係を確立する方法については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 対象となる物理システムの間で、接続が可能であることを確認します。コンピュータ間に一般的なソケット (`ping`、`telnet` など) を接続できない場合、この問題は、NetBackup とは関連のないネットワーク内の問題が原因である可能性があります。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - `/home/username`
  - `/usr/openv/netbackup/logs`
  - `/tmp`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 117

メッセージ**:** VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明**:** 考えられる理由は次のとおりです。

- ユーザーは操作を実行する必要な権限を持っていません。
- プライマリサーバーでフリーズモードが有効になっているため、操作を実行できません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- デフォルトのグループを使用している場合、ユーザーが実行しようとしている操作が、そのグループにとって適切であることを確認します。たとえば、NBU_Operators のメンバーは、ポリシー情報の変更を行うことができません。ポリシー情報を変更する権限は、管理者ロールに限定されています。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - `/home/username`
  - `/usr/openv/netbackup/logs`
  - `/tmp`

- 独自の定義済みグループおよびアクセス権を使用している場合、まず、操作を関連付けるオブジェクトを判断します。その後、その操作に関連する権限を追加します。たとえば、ドライブの起動および停止の操作を必要とするユーザーが現在その権限を所有していないとします。この場合は、ユーザーが適切な認可グループに属することを確認します。
  必要に応じて、[グループの権限 (Group Permissions)]タブで、グループがドライブオブジェクトに対する起動および停止権限を所有していることを確認します。また、必要に応じて、NetBackup の詳細度レベルを上げて、失敗した要求に必要とされるオブジェクトおよび権限を特定します。デバッグログの該当する行に、次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  17:19:27.653 [904.872] <2> GetAzinfo: Peer Cred Info.
  Name: JMIZZLE
  Domain: MYCOMPANY
  Expiry: Sep 24 21:45:32 2003 GMT
  Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
  AuthType: 1
  17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5082:
  Function: VssAzAuthorize. Object
  NBU_RES_Drives
  17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5083:
  Function: VssAzAuthorize. Permissions Up
  17:19:40.171 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5166:
  Function: VssAzAuthorize. 20 Permission denied.
  ```

  この例では、ユーザー JMIZZLE は、ドライブオブジェクトに対して起動権限が必要な操作を実行しようとしています。問題を診断するには、JMIZZLE が属するグループを調べて、該当するグループが起動権限を所有していることを確認する必要があります。(起動権限は、ドライブに対する操作権限セットに含まれています。)
- ディザスタリカバリを実行済みで、リモート管理コンソールを使用してカタログリカバリを実行中の場合、マスターサーバーのサービスを再起動する必要があります。再起動後、リモート管理コンソールからログアウトせずに[セキュリティ管理 (Security Management)]タブにアクセスしようとする場合は、このエラーメッセージが表示され再度ログインする必要があります。
- プライマリサーバーでフリーズモードが有効になっている場合は、フリーズモードを無効にして、操作を再試行します。それ以外の場合は、NetBackup の管理者に連絡してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 118

メッセージ: VxSS 認可に失敗しました (VxSS authorization failed)

説明: NetBackup は認可サービスとの認可の確認を完了できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Cohesity Product Authorization Service (デーモン) が実行中であることを確認します。
  認証デーモンおよび認可デーモンについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 適切なマスターサーバーと通信していることを確認します。ローカルサーバー上の bp.conf ファイルのエントリ AUTHORIZATION_SERVICES に認可サービスを実行する適切なホスト名 (完全修飾名) が指定されていることを確認します。たとえば、AUTHORIZATION_SERVICE = machine2.mycompany.com 0 を指定すると、サーバーは認可の実行時に machine2 に接続することになります。このエントリがマスターサーバーのエントリと一致することを確認してください。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - /home/userName
  - /usr/openv/netbackup/logs
  - /tmp
- マスターに接続するサーバーに有効な証明書があることを確認します。コンピュータの証明書を調べるには、次のように入力します。
  UNIX の場合:

  ```
  # bpnbat -WhoAmI -cf
  /usr/openv/var/vxss/credentials/machine3.mycompany.com
  ```

  Windows の場合:

  ```
  Bpnbat WhoAmI -cf  "c:¥Program
  Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥machine3.my
  company.com"
  ```

  いずれの場合も、次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  Name: machine3.mycompany.com
  Domain: NBU_Machines@machine2.mycompany.com
  Issued by: /CN=broker/OU=root@machine2.mycompany.com/O=vx
  Expiry Date: Sep  2 19:25:29 2004 GMT
  Authentication method: Veritas Private Security
  Operation completed successfully.
  ```

有効期限が過ぎている場合は、bpnbat -LoginMachine を実行して、そのコンピュータの新しいクレデンシャルを取得します。

bpnbat について詳しくは『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

認可の確認を試行するサーバーには、認可データベースを検証するための権限がありません。bpnbaz -ShowAuthorizers を実行して、コンピュータの識別情報が表示されることを確認します。次のディレクトリにコンピュータのクレデンシャルがあることを確認します。

Program Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials (Windows の場合)、/usr/openv/var/vxss/credentials (UNIX の場合)

このクレデンシャルには、machine1.company.com などのコンピュータの完全修飾名が含まれている必要があります。

- 認可データベースに対するオープンソケットの最大数が使い果たされていないことを確認します。netstat を使用して、認可サーバーのポート 4032 に対してオープンされ、次の構成を参照するソケットの数を判断します。

  Windows の場合:

  HKLM¥SOFTWARE¥VERITAS¥Security¥Authorization¥Communication¥ClientMaxConnections

  UNIX の場合: etc/vx/vss/VRTSaz.conf のエントリ ClientMaxConnections

  オープンしている接続が最大数に達している場合、オープンしている接続の最大数を増やす必要があります。オープンしている接続の最大数を増やすと、認可サービスまたは認可デーモンのメモリの使用量が増加します。最大接続数を極端に増やすと、パフォーマンスが低下する場合があることに注意してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 120

メッセージ: 要求された NetBackup データベースのバックアップ構成データベースレコードが見つかりません (cannot find configuration database record for requested NB database backup)

説明: NetBackup の内部カタログのバックアップを行うプログラムで、使用するメディア ID またはバックアップを行うパスを示す属性が検出されませんでした。このエラーは、通常の状況では発生しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

- (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当する問題とエラーの詳細が表示されているデバッグログを送信してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 121

メッセージ: 要求された NetBackup データベースのバックアップにメディアが定義されていません (no media is defined for the requested NB database backup)

説明: NetBackup によって内部カタログのバックアップが試行されましたが、カタログバックアップ構成にメディア ID が定義されていませんでした。

推奨処置: カタログバックアップ構成にメディア ID を追加します。メディア ID が NetBackup ボリュームプール内に存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 122

メッセージ: 指定されたデバイスのパスが存在しません (specified device path does not exist)

説明: `bpbackupdb` コマンドラインを使い、存在しないデバイスパス (Windows の場合) または raw デバイスファイル (UNIX の場合) を指定して、NetBackup 内部カタログのバックアップが行われました。

推奨処置: 有効なデバイスファイル名を使用してコマンドを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 123

メッセージ: 指定されたディスクのパスはディレクトリではありません (specified disk path is not a directory)

説明: NetBackup が内部カタログのバックアップを試行したときに、バックアップ属性はディスクにダンプするように設定されていました。ディスクのファイルパスはすでに存在し、ディレクトリではありません。

推奨処置: カタログバックアップに異なるディスクパスを指定するか、既存のファイルを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 124

メッセージ: NetBackup データベースのバックアップに失敗しました。パスが見つからなかったか、アクセスできませんでした (NB database backup failed, a path was not found or is inaccessible)

説明: カタログバックアップ構成で指定した 1 つ以上のパスのバックアップが作成されません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。

  考えられる原因は、次のとおりです。

  - パスが存在しない。
  - UNIX システムの場合、パスのいずれかにシンボリックリンクが存在する。
- アクセスできないパスを特定して、カタログバックアップ構成内のパス名を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 125

メッセージ: NetBackup カタログバックアップを実行中です (a NetBackup catalog backup is in progress)

説明: 一度に実行可能な NetBackup カタログバックアップは 1 つだけです。オンラインカタログバックアップの実行中、特定の操作は許可されません。(このような操作には、カタログアーカイブ、カタログの圧縮、およびイメージの最後のコピーの期限切れが含まれます。)

推奨処置: カタログバックアップが完了した後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 126

メッセージ: NetBackup データベースバックアップヘッダーが大きすぎます。指定されたパスが多すぎます (NB database backup header is too large, too many paths specified)

説明: NetBackup カタログバックアップ構成で指定されたパスが多すぎるため、固定サイズのメディアヘッダーに格納できませんでした。このエラーは、通常の状況では発生しません。

推奨処置: カタログバックアップ構成からパスの一部を削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 127

メッセージ: 指定されたメディアまたはパスは、有効な NetBackup データベースのバックアップヘッダーを含んでいません (specified media or path does not contain a valid NB database backup header)

説明: `bprecover` コマンドが発行されましたが、指定されたメディア ID には有効なカタログバックアップデータが存在しません。

推奨処置: 適切なメディア ID を使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 128

メッセージ: NetBackup データベースのリカバリに失敗しました。プロセスで例外的な条件が発生しました (NB database recovery failed, a process has encountered an exceptional condition)

説明: リカバリを実行するように指定されたカタログで、1 つ以上のカタログをリストアできません。詳しくは、`bprecover` コマンドの出力で、この状態コードの直前のエラーメッセージを参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `bprecover` 出力内のエラーメッセージで通知された問題を修正します。
- 停止する NetBackup サービスを識別し、NetBackup データベースのリカバリを試行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「NetBackup カタログのリカバリについて」を参照してください。
  NetBackup Client Service(データベースのリカバリを正常に行うために実行する必要がある) 以外の NetBackup サービスは停止する必要があります。
- NetBackup の［問題 (Problems)］レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
  考えられる原因は、次のとおりです。
  - ディスクに空きがなくなっている。
  - NetBackup カタログのテープが破損している。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 129

メッセージ: ディスクストレージユニットに空きがありません (Disk storage unit is full)

説明: NetBackup によるディスクストレージユニットのファイルシステムへの書き込み中に、領域が不足しました。ファイルシステムで利用可能な領域が増加するまで、サイズが同等以上のイメージは、このディスクストレージユニットへの書き込みに失敗し、このエラーが表示されます。

(このディスクストレージユニットが含まれる) ストレージユニットグループに書き込みを行うスケジュールバックアップジョブで、ジョブの再試行時に、利用可能な領域が最も多いストレージユニットが NetBackup スケジューラによって要求されます。

再試行時に、利用可能な領域が最も多いストレージユニットがスケジューラによって要求される場合は、次のことに注意してください。

- ストレージユニットグループでは、ディスクストレージユニットよりもテープストレージユニットの方が優先されます。これは、通常、テープストレージユニットの容量の方が大きいためです。
- 未使用の領域が最も多いストレージユニットがビジー状態の場合は、NetBackup はそのストレージユニットをスキップします。次に NetBackup は、未使用の領域が多く、利用可能なストレージユニットを選択します。
- ジョブが最初に失敗した際に領域が不足していたストレージユニットが、ジョブの再試行時に未使用の領域が最も多いストレージユニットであった場合、スケジューラによってそのストレージユニットが再度使用されます。そのストレージユニットは、ジョブが失敗したときよりも未使用の領域が増加している場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 十分な空き領域を確保するか、またはこのストレージユニットのファイルシステムに領域を追加します。
- このディスクストレージユニットの高領域水準の設定値を小さくします。このディスクストレージユニットへストレージユニットグループからアクセスできるようにポリシーを構成します。このストレージユニットの空き領域がなくなると、ストレージユニットグループから代替ストレージが提供されます。ファイルシステムの高領域水準を上回ったイメージでも正常に完了することが理想です。このイメージによって、ストレージユニットは空きなしの状態 (高領域水準を上回る状態) となります。この結果、領域が高領域水準を下回るまでストレージユニットが他のジョブに割り当てられないようになります。
- 領域が不十分であったディスクストレージユニットにステージング属性が設定されている場合、空き領域を作成することができない場合があります。これは、ディスクにステージングされたバックアップが再配置されていない (ステージングストレージユニットから削除することができない) ためです。ステージングの再配置ジョブ (複製ジョブ) によって、新しいバックアップ用に十分な空き領域が提供されるように、イメージが正常にコピーされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 130

メッセージ: システムエラーが発生しました (system error occurred)

説明: エラーが発生し、製品の一貫性のある動作が妨げられました。このエラーは、通常、システムコールに関連しています。このエラーは、要求の処理中に予期しない内部エラーが発生した場合に NetBackup API によって報告される場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- 通知された問題をシステムログで確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに `bpdbm`、`bptm` および `bprd` のデバッグログディレクトリを作成します。`vxlogcfg` コマンドを使用して、統合ログレベルを上げます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

ポリシー検証が失敗した場合は、次のいずれかが原因です。

- クライアントの証明書が一致していない。次の場所から Snapshot Manager の CA 証明書を削除し、もう一度、ポリシーを検証します。
  install_location`/var/global/cloudpoint/certificates`
- Snapshot Manager にアクセスできない。
- このエラーが NetBackup API によって報告される場合、マスターサーバー上の `nbwebservice` の統合ログを確認します。Web サービスのログについて詳しくは、『NetBackup ログリファレンスガイド』の NetBackup Web サービスのログ記録に関するセクションを参照してください。

VMware エージェントレスリストアの実行時に次の問題が発生することがあります。

- エラー %d によって、リカバリツールをパス %s (宛先 VM %s) にステージングできませんでした。(Failed to stage recovery tool on path %s in destination VM %s with error code %d.)
  使用するステージング場所のパスが存在し、指定したターゲット VM のクレデンシャルに root または admin の権限があることを確認してください。(Make sure that the staging location path that is used exists and the provided target VM credentials have root or admin privileges.)
- エラーコード %d によって、宛先 VM %s のステージング場所を取得できませんでした。(Failed to get the staging location for destination VM %s with error %d.)

ターゲット VM に利用可能な TMP または TEMP 環境パスがあることを確認するか、指定したターゲット VM のクレデンシャルに root または admin の権限があることを確認してください。(Make sure that there is TMP or TEMP environment path available in the target VM or provided target VM credentials has root or admin privileges.)

- エラーコード %d によって、ゲスト VM %s のオペレーティングシステム (OS) の詳細を取得できませんでした。(Failed to retrieve the guest VM%s operating system (OS) details with error code %d.)
  ターゲット VM に最新の VMware Tools がインストールされて実行されていることを確認してください。(Make sure that latest VMware Tools are installed and running in the target VM.)

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 131

メッセージ: クライアントはサーバーを使用できることを検証されていません (client is not validated to use the server)

説明: サーバーへの接続によって決定されるクライアント名が NetBackup 構成内のいずれのクライアント名にも一致しませんでした。また、マスターサーバーにこのクライアントの `altnames` 構成が存在しませんでした。複数のネットワーク接続が存在するクライアントとサーバーで、クライアントの構成に使用されている名前と、サーバーへの接続の指示に使用されているルーティングテーブル内のクライアントの名前が異なるとき、この問題が発生する可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを調べます。
- `bprd` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認して、接続およびクライアントの名前を判断します。

  要求の種類 (リストア、バックアップなど) に応じて、次の操作を実行します。

  - クライアントの構成名を変更します。
  - クライアントのルーティングテーブルを変更します。
  - マスターサーバーで、このクライアントの `altnames` ディレクトリおよびファイルを設定します。
    『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
    または
  - UNIX マスターサーバーの場合、NetBackup イメージカタログ内にソフトリンクを作成します。

- 『NetBackup トラブルシューティングガイド』のホスト名およびサービスエントリの検証を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 132

メッセージ: ユーザーは、このクライアントからサーバーを使用できることを検証されていません (user is not validated to use the server from this client)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 133

メッセージ: 要求が無効です (invalid request)

説明: 次のいずれかの状態が発生しています。

- 認識不能な要求をしています。この認識のエラーは、通常、異なるバージョンの NetBackup ソフトウェアを同時に使用しているために発生します。
- クライアントが一覧要求またはリストア要求に対してこのエラーを受信した場合は、クライアントが一覧要求またはリストア要求に対してこのエラーを受信した場合は、UNIX 版 `DISALLOW_CLIENT_LIST_RESTORE` サーバーの `bp.conf` ファイルまたは Windows 版 `DISALLOW_CLIENT_RESTORE` サーバーのレジストリに NetBackup または NetBackup オプションが存在することを示します。これらのオプションは、すべての NetBackup クライアントからの一覧表示要求およびリストア要求を拒否します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ソフトウェアのバージョンが問題である可能性がある場合、すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。
  - UNIX の場合、NetBackup のサーバーとクライアントで `/usr/openv/netbackup/bin/version` ファイルを確認します。
  - Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*`install_path`*`¥NetBackup¥version.txt` ファイルまたは[NetBackup のバージョン情報 (About NetBackup)]項目を[ヘルプ (Help)]メニューで確認します。
  - Microsoft Windows クライアントの場合、[NetBackup のバージョン情報 (About)]項目を[ヘルプ (Help)]メニューで確認します。

- サーバーが一覧要求またはリストア要求を否定した場合は、次のいずれかを実行します。
  - NetBackup 管理コンソールに移動します。左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ホストプロパティ (Host Properties)]、[マスターサーバー (Master Servers)]を展開します。右ペインで、変更するマスターサーバーをダブルクリックします。[プロパティ (Properties)]ダイアログボックスの左ペインで、[クライアント属性 (Client Attributes)]を選択し、[クライアントによる参照を許可する (Allow client browse)]オプションと[クライアントによるリストアを許可する (Allow client restore)]オプションにアクセスします。
  - UNIX NetBackup サーバーの `bp.conf` ファイルまたは Windows NetBackup サーバーのレジストリから `DISALLOW_CLIENT_LIST_RESTORE` オプションと `DISALLOW_CLIENT_RESTORE` オプションを削除します。その後、NetBackup Request デーモン (UNIX の場合) または NetBackup Request Manager サービス (Windows の場合) を停止し、再起動します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`bpdbm`、`bprd` および `admin` のデバッグログディレクトリを作成します。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 134

メッセージ: サーバーリソースがビジーなため、要求を処理できません (unable to process request because the server resources are busy)

説明: 状態コード 134 は、ストレージユニット内のすべてのドライブが現在使用中であることを示す通知メッセージです。すべてのドライブが使用中である場合、NetBackup では、他のストレージユニットの使用が自動的に試行されます。利用可能なストレージユニットが存在しない場合、NetBackup によってジョブがキューに再投入されて状態コード 134 が表示され、後で再試行されます。

推奨処置: なし

状態コード 134 は、単なる通知メッセージであり、エラーではありません。これは、多数の理由によって通常の操作で発生します。状態コード 134 は、SSO 環境で、より頻繁に発生します。処置は必要ありません。

状態コード 134 はエラーログに記録されません。状態コード 134 によって、アクティビティモニターに新しい試行が示されます。再試行許可数に関連する再試行回数は増えません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 135

メッセージ: クライアントは要求された操作を実行できることを検証されていません (client is not validated to perform the requested operation)

説明: root ユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Administrator) (Windows の場合) 以外のユーザーが代替クライアントにリストアを試行しました。

推奨処置: root ユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Administrator) (Windows の場合) として、マスターサーバー上で操作を再試行します。状態コード 131 も参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 136

メッセージ: TIR 情報はイメージファイルから削除されました (tir info was pruned from the image file)

説明: 合成中の (差分または累積) バックアップイメージの 1 つ以上のコンポーネントから TIR 情報が削除されています。

この状況は、次の場合に発生します。

- クライアントの最新のバックアップイメージが合成完全バックアップまたは合成累積バックアップである。
- その合成完全 (または合成累積) バックアップを行う前に 1 つ以上のコンポーネントイメージから TIR 情報が削除されている。

合成 (完全または累積) バックアップイメージを期限切れにし、クライアントの合成バックアップジョブを再度実行すると、TIR 情報は自動的にイメージカタログにリストアされます。ただし、メディアが不適切、不明または Vault 処理されているか、またはドライブが不適切であるために TIR のリストアが失敗した場合には、合成バックアップジョブは失敗し、このエラーが表示されます。

推奨処置: (TIR 情報が削除されている) 各コンポーネントイメージのカタログに TIR 情報を再インポートします。その後、合成バックアップジョブを再度実行します。TIR 情報は、このコンポーネントイメージからファイルの True Image Restore を開始することによって、イメージカタログにインポートできます。また、このリストア処理によって、イメージカタログの TIR 情報もリストアされます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 140

メッセージ: ユーザー ID はスーパーユーザーではありませんでした (User ID was not superuser)

説明: root 権限 (UNIX の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を所有しないユーザーまたはプロセスによって、プロセスが起動されました。

推奨処置: 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに、root 権限 (UNIX の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 141

メッセージ: 指定されたファイルパスは絶対パスではありません (file path specified is not absolute)

説明: ファイルの指定は、絶対パスである必要があります。

推奨処置: ファイルの指定を修正して、コマンドを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 142

メッセージ: ファイルは存在しません (file does not exist)

説明: Snapshot Client を使用して VxFS ファイルシステムのバックアップを行うには、クライアント上の VxFS ファイルシステムに適切なダイナミックリンクライブラリのパッチがインストールされている必要があります。適切な VxFS ライブラリがインストールされていない場合、バックアップは失敗し、状態コード 142 が表示されます。

次がログに表示されます。

- ほとんどのスナップショットバックアップでは、クライアントの `/usr/openv/netbackup/logs/bpfis` ログに次のようなメッセージが表示されます。

  ```
  09:36:48.299 [527] <32> fs_dev_rt_check: FTL - snapshot method:
  nbu_snap abort - required VxFS dynamic linked libraries for
  NetBackup are not installed. Please visit the Cohesity support
  website, and refer to Technote number 262225 for further
  information.
  ```

- FlashBackup ポリシーから実行されたバックアップの場合、クライアントの `/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar` のログに次のようなメッセージが表示されます。

```
10:09:56.566 [1146] <32> bpfsmap: FTL - bpfsmap: FlashBackup
abort - required VxFS dynamic linked libraries for NetBackup are
not installed. Please visit the Cohesity Technical Support website,
 and
refer to Technote number 262225 for further information.
10:09:56.571 [1146] <16> bpbkar Exit: ERR - bpbkar FATAL exit
status = 142: file does not exist
10:09:56.573 [1146] <4> bpbkar Exit: INF - EXIT STATUS 142: file
does not exist
```

- ディスクプール、ディスクボリューム、ディスクプールボリューム、ディスクメディア ID、サーバー形式の情報を収集できない場合には、bpexpdate、bpimmedia、bpimport および bpverify のコマンドがこの状態コードを返すことがあります。
- チェックポイントクローンが見つからない場合、または Frozen Image バックアップがスナップショットの情報を返さない場合に、bpbkar がこの状態コードを返すことがあります。

推奨処置: NetBackup クライアントに VxFS ダイナミックライブラリをインストールし、バックアップを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 143

メッセージ: コマンドのプロトコルが無効です (invalid command protocol)

説明: NetBackup Request デーモン (UNIX の場合) または Request Manager サービス (Windows の場合) に不適切な形式の要求が行われました。このエラーは、製品のバージョンが異なる場合、ネットワーク通信で障害が発生している場合、または NetBackup 以外のプロセスからデーモンまたはサービスのポートを介してデータが送信された場合に発生することがあります。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べて、データソースのシステムを特定します。そのシステムで、要求を開始したプロセスを特定します。要求を開始したプロセスが NetBackup のプロセスである場合、そのプロセスまたはコマンドが、サーバーのソフトウェアバージョンと互換性があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 144

メッセージ: コマンドの使用方法が無効 (invalid command usage)

説明: この状態コードは、不適切なオプションを指定して NetBackup のプロセスが開始されたか、製品に互換性がないために発生します。

推奨処置: コマンドを修正するか、すべての NetBackup のバイナリが、同じバージョンレベルであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 145

メッセージ: デーモンはすでに実行されています (daemon is already running)

説明: そのプロセスはすでに実行中です。

推奨処置: 現在実行中のプロセスを終了した後、プロセスを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 146

メッセージ: バインドしたソケットを取得できません (cannot get a bound socket)

説明: サービスまたはデーモンがソケットにバインドされませんでした。デーモン (UNIX の場合) またはサービス (Windows の場合) が、構成されたポート番号へのバインドを試行したときに、システムコールが失敗しました。このエラーは、通常、デーモンまたはサービスの起動前に他のプロセスがポートを取得したことによって発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートおよび[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを調べます。
- bprd および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。ログの結果で、バインドを試行したことによって発生したシステムエラーのメッセージを確認します。
  他のプロセスがポートを使用している場合、他のシステムコマンドを実行してそのプロセスを判別します。この調査に基づいて、services ファイル内のポート番号を変更するか、マッピングし直すか、ポートを取得しているプロセスを終了します。
  UNIX の場合、このエラーの他の原因として、kill コマンドの使用により bprd または bpdbm を終了した可能性があります。bpdbm を停止するには、/usr/openv/netbackup/bin/bpdbm -terminate コマンドを実行します。これらのプロセスを停止するために kill コマンドを実行すると、次にプロセスを起動したときに、割り当てられたポートにバインドできない場合があります。
  bprd または bpdbm の問題を識別するには、それぞれのプロセスのデバッグログで次のような行を確認します。

```
<16> getsockbound: bind() failed, Address already in use (114)
<32> listen_loop: cannot get bound socket. errno = 114
<4> terminate: termination begun...error code = 146
```

類似したエントリが、レポートに表示される場合もあります。

- 10 分経過しても問題が解決しない場合にはサーバーの再起動が必要なことがあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 147

メッセージ: 必要なコピーまたは指定されたコピーが見つかりませんでした (required or specified copy was not found)

説明: 要求されたコピー番号のバックアップイメージまたはアーカイブイメージが検出されません。

推奨処置: 要求を修正して、存在するコピー番号を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 148

メッセージ: デーモンの fork に失敗しました (daemon fork failed)

説明: システムから受け取ったエラーのため、NetBackup のサービスによって子プロセスが作成されませんでした。多くの場合、これは、システムリソースの可用性に基づく一時的なエラーです。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 後でサービスを再起動するか、プロセス数を制限している、システムの問題を調べます。
- Windows システムの場合、イベントビューアのアプリケーションログおよびシステムログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 149

メッセージ: マスターサーバーの要求に失敗しました (master server request failed)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 150

メッセージ: 管理者から終了が要求されました (termination requested by administrator)

説明: GUI を使って管理者はアクティブなプロセスを終了します。ジョブの状態が「失敗」に変わります。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 152

メッセージ: 必要な値が設定されていません (required value not set)

説明: `bpdbm` プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) に、不完全な要求が行われました。このエラーは、通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用しているために発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- すべての ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、`bpdbm` および `admin` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 153

メッセージ: サーバーは、マスターサーバーではありません (server is not the master server)

説明: この状態コードは、今後の使用のために予約されています。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 154

メッセージ: ストレージユニットの特徴が要求と一致しません (storage unit characteristics mismatched to request)

説明: バックアップが試行されましたが、使用するように選択されたストレージユニットの特徴とバックアップ形式に互換性がありません。

推奨処置: 選択したストレージユニットの特徴が、試行したバックアップに対して適切であることを確認します。

- NetBackup Snapshot Client の場合、ポリシーのストレージユニットを[任意 (Any_available)]に設定し、オフホストバックアップ方式を[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]または[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]に設定しています。[任意 (Any_available)]は選択しないでください。特定のストレージユニットは、[サードパーティコピーデバイス (Third-Party Copy Device)]または[NetBackupメディアサーバー (NetBackup Media Server)]をオフホストバックアップ方式として指定する場合に指定する必要があります。
- NDMP ポリシータイプでは、次を検証してください。
  - NDMP タイプのストレージユニットを定義していること。
  - NDMP ホスト値がクライアントのホスト名と一致すること。たとえば、NDMP ポリシーでクライアントとして `toaster` を指定した場合、ストレージユニットの構成には、NDMP ホストとして `toaster` を指定する必要があります。
  - ストレージユニットのメディアサーバーが NetBackup の正しいバージョンを実行していること。
- 非 NDMP のポリシー形式の場合、ポリシーで Media Manager またはディスク形式のストレージユニットを指定していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 155

メッセージ: ディスクに空きがありません (disk is full)

説明: カタログデータベースが存在するディスクに空きがない、またはトラックログフォルダに空きがないのでカタログファイルに書き込めませんでした。

推奨処置: NetBackup カタログまたはトラックログフォルダが存在するディスクの領域を解放して操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 156

メッセージ**:** スナップショットエラーが発生しました (Snapshot error encountered)

説明**:** 次に示すのはこの状態コードの考えられる原因です。

- クラウドプロバイダのクレデンシャルが更新されていません。
- クラウドプロバイダのスナップショットの制限を超過しました。
- Snapshot Manager サーバーにアクセスできません。
- ユニバーサル共有は WORM 対応ストレージにあり、インスタントアクセスを使用した Oracle Copilot バックアップはこのストレージオプションではサポートされません。
- 新しいディスクがホストに接続されており、必要な資産の検出が完了していません。
- スナップショットは、シャドウコピーストレージが対応するドライバに存在しないため失敗します。
- スナップショットは `asset hierarchy is incomplete` エラーで失敗する場合があります。これは、ブートディスクについて `ebsnvme-id` が `sda` ではなく `/dev/sda` を返すことが原因で発生することがあります。
- 資産が削除されています。
- 資産が更新中です。(例: VM が起動中または停止中)
- スナップショットは次のエラーメッセージで失敗します:「NetBackup Snapshot Manager API が失敗しました。戻り値: 9126 (NetBackup Snapshot Manager API failed with return value: 9126)」

推奨処置**:** 必要に応じて次を実行します。

- 適切なプラグインが適切なクレデンシャルを使用して Web UI に構成されていることを確認します。クレデンシャルが変更された場合は、Web UI から確実に更新します。
- クラウドプロバイダのスナップショットの制限が十分であることを確認します。
- `ncfnbcs` のログを確認します。
- インスタントアクセスを使用した Oracle Copilot バックアップ用の別のストレージオプションを選択します。
  詳しくは、『NetBackup Oracle 管理者ガイド』の「Oracle Copilot でのインスタントアクセスとユニバーサル共有」の章を参照してください。
- 資産が次回の検出サイクルで検出されると、スナップショットは成功します。または、新しい資産が追加されたときに、ユーザーが手動で検出を開始することもできます。
- シャドウコピーサービスを再起動します。
  - C ドライブを右クリックし、[Configure Shadow Copies…]を選択します。
  - C ドライブを選択し、[設定]をクリックします。

- [スケジュール]をクリックし、[OK]をクリックします。
- 別のドライブを選択して同じ手順を繰り返します。他にドライブがない場合は、[OK]をクリックします。
- 詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager インストール/アップグレードガイド』の「元のドライブのシャドウコピーを格納するための VSS の構成」を参照してください。

- 資産から保護計画のサブスクライブを解除します。
- 資産を検出するには手動検出を開始します。そうしない場合は、次回の自動検出で検出されます。
- スナップショットがエラー `asset hierarchy is incomplete`で失敗した場合は、次の技術情報の記事を参照してください。
  - ブートディスクの sda ではなく ebsnvme-id が誤って /dev/sda を返すと、Snapshot Manager スナップショットはエラー「資産階層が不完全であるために実行できません (The host level snapshot of cannot be performed as asset hierarchy is incomplete)」で失敗します。
- p.1157 の「NetBackup の状態コード: 9126」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 157

メッセージ: 管理者から一時停止が要求されました (suspend requested by administrator)

説明: 状態コード 157 は、管理者がアクティビティモニターからジョブを一時停止したことを示す通知メッセージです。ジョブは、アクティビティモニターで一時停止状態として表示されます。管理者は、最後のチェックポイントからこのジョブを再開することができます。

推奨処置: 管理者は、アクティビティモニターで、最後のチェックポイントからジョブを再開することができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 158

メッセージ: デーモンロックファイルのアクセスに失敗しました (failed accessing daemon lock file)

説明: システムコールからのエラーが受信されたため、プロセスでロックファイルをロックできません。このロックファイルによって、プロセスの動作の同期化を行います (たとえば、複数のデーモンが同時に実行されることを防ぎます)。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup エラーログを調べて、システムコールが失敗した原因を判断します。その後、問題を修正します。権限に問題がある可能性もあります。
- エラーログにエラーが表示されない場合、bprd または bpdbm(エラーが発生したプロセスによって異なる) のデバッグログディレクトリを作成します。nbpem、nbjm または nbrb でエラーが発生した場合は、統合ログレベルを上げます。次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 159

メッセージ: ライセンスを受けた使用範囲を超えています (licensed use has been exceeded)

説明: 構成の制限を超えました。

たとえば、次を指定するポリシーが設定されている場合、ジョブは失敗し、このエラーコードが表示されます。

- SAN メディアサーバー上にあるストレージユニット
- SAN メディアサーバー以外のクライアント

SAN メディアサーバーでは、それ自体のバックアップしか行うことができません。

この状態コードは、[オンデマンドのみ (On demand only)]が選択されていないために、SAN メディアサーバー上でのストレージユニットの作成が失敗した場合に表示されます。SAN メディアサーバー上のストレージユニットを指定する場合は、[オンデマンドのみ (On demand only)]が選択されている必要があります。

推奨処置: 実行したコマンドについて NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを調べて、エラーの原因を判断します。また、アクティビティモニターの詳細ペインには、情報メッセージが表示されます。

SAN メディアサーバーのストレージユニットでジョブが失敗した場合、ローカルクライアントだけがポリシー内で指定されていることを確認します。リモートクライアントがポリシーで指定されている場合、リモートクライアントを削除し、異なるストレージユニットを指定するポリシーに置き換えるか、そのポリシーのストレージユニットを変更します。

SAN メディアサーバーを使用してリモートクライアントのバックアップを行う場合、通常の NetBackup メディアサーバーのライセンスを購入できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 160

メッセージ**:** 認証に失敗しました (Authentication failed)

説明**:** 次のいずれかが発生しています。

- 2 つのシステムが相互に認証しようとしています。
- 認証ライブラリの初期化に失敗しました。
- 認証デーモンへの通信 (`nbatd`) が失敗しました。
- 保存されたクレデンシャルの認証が失敗しました。
- Snapshot Manager を使用している場合: Snapshot Manager との認証に失敗しました。
- Snapshot Manager を構成している場合: Snapshot Manager との認証に失敗しました。
- ストレージプロバイダを構成している場合は、ストレージのクレデンシャルの検証が失敗しました。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- 削除した名前を再度追加して、操作を再試行します。
- NetBackup システム間の認証に関連するプロセスに以下のデバッグログディレクトリを作成します。
  - サーバー: `bprd`、`bpdbm`、`bpcd`
  - クライアント: `bpbackup`、`bprestore`、`bpbkar`

  操作を再試行して、デバッグログを調べます。

以下は Snapshot Manager に関連する処理です。

- Snapshot Manager のクレデンシャルが正しいことを確認します。
- 登録中に入力されたクレデンシャルが有効であることを確認します。
- クレデンシャルと Snapshot Manager のポート番号が更新された場合は、NetBackup でそれらが更新されたことを確認します。
- Snapshot Manager のクレデンシャルが正しいことを確認します。
- Snapshot Manager の登録中に入力されたクレデンシャルが有効であることを確認します。
- ストレージプロバイダの構成中に入力されたクレデンシャルが有効であることを確認します。
- クレデンシャルと Snapshot Manager のポート番号が更新された場合は、NetBackup でそれらが更新されたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 161

メッセージ: 評価版ソフトウェアの使用期限が切れました。(Evaluation software has expired.)

説明: 評価版の NetBackup ソフトウェアの使用期間が終了しました。

推奨処置: ライセンス製品版の NetBackup を入手します。ライセンスの情報については、NetBackup の営業部門またはパートナー企業ご相談窓口までお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 162

メッセージ: ライセンスに対するサーバープラットフォームが不正です (incorrect server platform for license)

説明: ライセンスキーのプラットフォーム識別子が、ライセンスキーがインストールされているプラットフォームの種類と一致しません。

推奨処置: インストールするプラットフォーム用のライセンスキーを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 163

メッセージ: 再開する前に、メディアブロックサイズが変更されています (media block size changed prior resume)

説明: 状態コード 163 は通知メッセージです。この状態コードは、最後のチェックポイントからバックアップジョブを再開する前にメディアのブロックサイズが変更されたことを示します。メディアのブロックサイズの一貫性を保つ必要があるため、そのジョブは最初から再度実行されました。

推奨処置: アクティビティモニターの[ジョブの詳細 (Job Details)]で、再度実行されたジョブの ID を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 164

メッセージ: 停止しているドライブ内にあるか、不適切な場所に配置されているため、メディアをマウントできません (unable to mount media because it is in a DOWN drive, misplaced, or otherwise not available)

説明: リストアが試行されましたが、リストアに必要なボリュームがロボット内の停止状態のドライブに存在していました。または、ボリュームが存在する必要があるスロットが空でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ボリュームが停止状態のドライブに存在する場合、ボリュームを取り外して、指定したスロットに配置します。その後、リストアを再試行します。
- ボリュームが不適切なスロットに存在する場合、ロボットインベントリオプションを使用して、ロボットの内容とボリューム構成を一致させます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 165

メッセージ: NetBackup イメージデータベースに、要求されたバックアップ ID/ コピー番号に対するイメージフラグメントが含まれていません (NB image database contains no image fragments for requested backup id/copy number)

説明: リストアが試行されましたが、ファイルが含まれるバックアップ ID に関連付けられたフラグメントのレコードが NetBackup に存在しません。

推奨処置: NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdm または bptm のいずれか (該当する方) のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 166

メッセージ: メディアをまたがったバックアップは実行できません (backups are not allowed to span media)

説明: バックアップイメージの書き込み中に、メディアの最後 (EOM) に達しました。bp.conf (UNIX の場合) またはレジストリ (Windows の場合) に、NetBackup の DISALLOW_BACKUPS_SPANNING_MEDIA オプションが存在するため、バックアップは終了しました。bp.conf で表示される NetBackup のグローバル属性構成の[バックアップ試行

(backup tries)]属性で許可されている場合、バックアップは自動的に別のボリュームで再試行されます。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 167

メッセージ: EMM データベースで、要求されたボリュームプールが見つかりません (cannot find requested volume pool in EMM database)

説明: 非ロボットドライブへのバックアップが試行されましたが、指定されたボリュームプールが Tape Manager (bptm) によって検出または追加できません。

推奨処置: メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成を確認します。NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 168

メッセージ: メディアを上書きできません。データが保護されています (cannot overwrite media, data on it is protected)

説明: 上書きできないボリューム (NetBackup がデフォルトで上書きできないデータを含むため) に対してバックアップを試行しました。(このようなデータには、tar、cpio および ANSI が含まれます。)

推奨処置: 新しいボリュームと交換するか、NetBackup の ALLOW_MEDIA_OVERWRITE オプションを適切な値に設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 169

メッセージ: メディア ID は期限切れか、最大マウント数を超えています (Media ID is either expired or will exceed maximum mounts)

説明: バックアップまたはカタログバックアップが試行されましたが、使用するように選択されたボリュームは、最大マウント数に達しています。この最大数は、メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成で指定されています。通常のバックアップの場合、ボリュー

ムは自動的に一時停止状態に設定され、今後のバックアップでそのボリュームは使用されません。NetBackup カタログバックアップの場合、操作が異常終了します。

推奨処置: ボリュームが一時停止された場合、ボリュームの期限が切れたら交換します。NetBackup カタログバックアップの場合、メディアを交換します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 170

メッセージ: サードパーティコピーのバックアップの失敗 (third party copy backup failure)

説明: 通常、このコードは、3pc.conf ファイルまたは mover.conf ファイルに問題があることを示します。(原因について詳しくは、「推奨処置」を参照。)

これらのファイルについて詳しくは、『NetBackup Snapshot Client Configuration Guide』を参照してください。

このマニュアルにアクセスする方法については、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』の Snapshot Client の補足情報を参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サードパーティコピーデバイス以外のデバイスが 3pc.conf ファイルに記載されている場合、サードパーティコピーデバイス以外のデバイスのエントリを修正するか、削除します。
- 不適切な LUN が 3pc.conf ファイルに指定されているか、またはデバイスが存在しない場合は、3pc.conf ファイルを適切に修正します。
- 適切な mover.conf ファイル (拡張子あり、またはなし) が検出されなかった場合は、/usr/openv/netbackup/logs/bptm のログに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
09:51:04 [22281] <2> setup_mover_tpc: no
mover.conf.vertex_std_tpc or mover.conf file exists, cannot
perform TPC backup
09:51:04 [22281] <16> bptm: unable to find or communicate with
Third-Party-Copy mover for policy vertex_std_tpc
```

適切な mover.conf ファイルが、メディアサーバーの /usr/openv/netbackup 内に存在することを確認します。このファイルは、次のいずれかです。

- mover.conf.*policy_name* ファイル。***policy_name*** は、ポリシー名と完全に一致します。
- mover.conf.*storage_unit_name*。***storage_unit_name*** は、[バックアップポリシーの管理 (Backup Policy Management)]ダイアログボックスにあるポリシー属性のストレージ名と完全に一致します。

- mover.conf ファイル (拡張子なし)。1 つのサードパーティコピーデバイスだけが存在する構成の場合。

NetBackup では、この順序で、適切な mover.conf ファイルが検索されることに注意してください。

- mover.conf ファイルに入力されたサードパーティコピーデバイスの SCSI パススルーパスが存在しない場合は、bptm ログに次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
09:50:12 [22159] <16> setup_mover_tpc: open of passthru path
/dev/sg/cXtXlX failed, No such file or directory
09:50:12 [22159] <16> bptm: unable to find or communicate with
Third-Party-Copy mover for policy vertex_std_tpc
```

mover.conf ファイルに入力するサードパーティコピーデバイスの SCSI パススルーパスを修正します。

- サードパーティコピーデバイスによって、エラーが戻される場合は、/usr/openv/netbackup/logs/bptm のログに、次のいずれかのメッセージが表示されることがあります。

```
cannot process extended copy error due to truncated sense data,
may be HBA problem
disk error occurred on extended copy command, key = 0x0, asc =
0x0, ascq = 0x0
```

(ここで、key、asc および ascq はすべて 0 (ゼロ) です)
この場合、ご使用のホストバスアダプタ (HBA) およびそのドライバを更新する必要があるか、これらが NetBackup Snapshot Client でサポートされていない可能性があります。サポートされているホストバスアダプタが表示されます。
『NetBackup リリースノート』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 171

メッセージ: メディア ID は 6 文字以下である必要があります (media ID must be 6 or less characters)

説明: メディア ID を一時停止するか、凍結する操作 (bpmedia など) が試行されました。メディア ID は 6 文字より長い英数字です。

推奨処置: 有効なメディア ID を使用して、コマンドを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 172

メッセージ: メディアヘッダーを読み込めません。NetBackup のメディアでないか、メディアが破損している可能性があります (cannot read media header, may not be NetBackup media or is corrupted)

説明: バックアップまたはリストアを行うためにボリュームをロードしたとき、想定されたテープヘッダーが Tape Manager (bptm) によって検出されませんでした。このエラーは、ロボットデバイスのボリュームが、メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成で示されたスロット番号内に存在しないことを示す場合があります。また、読み込みエラー (I/O エラー) が発生したことを示す場合もあります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- バーコードがサポートされているロボット内にボリュームが存在する場合、ロボットインベントリオプションを使用して、ロボットの内容を検証します。
- ボリュームを非ロボットドライブにマウントした場合、適切なボリュームのマウントおよび割り当てが行われていることを確認します。
- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認します。重大な読み込みエラーが通知されている場合、可能であれば、他のドライブを使用して操作を再試行します。
- 構成内に、テープサービスにアクセスする複数のサーバーまたは HBA が存在する場合、SCSI RESERVE/RELEASE が正しく構成されていることを確認します。(多くの場合、テープサービスの構成は SSO 構成です。)
  ストレージサーバーについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 173

メッセージ: バックアップヘッダーを読み込めません。メディアが破損している可能性があります (cannot read backup header, media may be corrupted)

説明: リストアを行うバックアップイメージの検索中、NetBackup によって想定されたメディア上の位置で、Tape Manager (bptm) によって正しいバックアップ ID が検出されませんでした。この状態コードは、ドライブのハードウェア上の問題を示す場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生した原因についての情報を、NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで確認します。
- 可能な場合、他のドライブでリストアを試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 174

メッセージ: Media Manager - システムエラーが発生しました (media manager - system error occurred)

説明: 異常な状態が発生したため、テープマネージャ (bptm) またはディスクマネージャ (bpdm) でエラーが発生しました。

UNIX で、NetBackup がスナップショットのコピーのために生成するファイルリストに NetBackup の tar コピーからリストアするべき十分な情報がないことがあります。たとえば、ブロック番号の情報は NetBackup の tar のコピーがまだ作成されていないので正しくありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、問題の原因が表示されているかどうかを確認します。[問題 (Problems)]レポートに次のようなメッセージが表示される場合、すべてのログを保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

  ```
  attempted to write 32767 bytes, not a multiple of 512
  ```

- UNIX で、このエラーがリストア中に発生した場合、テープドライブの構成が不適切である可能性があります。また、可変長モードで書き込む必要があるときに固定長モードで書き込むようにドライブが構成されている可能性があります。
  ドライブの構成を『NetBackup デバイス構成ガイド』で推奨する構成と比較し、検証します。
  構成で固定長モードを誤って指定している場合、可変長モードに変更し、そのデバイスで書き込まれたメディアを一時停止します。これらのメディアに書き込まれたイメージは、リストア可能である場合があります (プラットフォームに依存します)。ただし、1 つのファイルだけをリストアしようとしても、失敗する可能性が高くなります。
- 問題が特定の 1 つのクライアントで発生する場合、クライアントのバイナリ (特に bpcd のバイナリ) が適切であることを確認します。
- そのメディア上で、他のイメージの読み込みまたは書き込みが可能である場合、次のレポートで情報を確認します。
  - [メディア上のイメージ (Images on Media)]レポート
  - [メディアの内容 (Media Contents)]レポート
- 次のことを検証します。
  - メディア (NetBackup イメージ検証オプションを使用)。

- デバイスに対して適切なメディア形式を使用していること。

- システムログまたはコンソールログでエラーを確認するか (UNIX の場合)、イベントビューアのアプリケーションログを確認します (Windows の場合)。
- 詳細なデバッグ情報を入手するには、bptm または bpdm のいずれか (該当する方) のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。
  UNIX の場合、bptm のデバッグログに次のようなエラーが表示された場合、可変長モードの代わりに固定長モードで書き込むようにテープドライブが構成されている可能性があります。

  ```
  00:58:54 [2304] <16> write_data: write of 32768 bytes indicated
  only 29696 bytes were written, errno = 0
  ```

  書き込み中のイメージでメディアの最後 (EOM) に達しています。
- バックアップが OpenStorage ディスクストレージユニットで構成されていた場合、ストレージユニットのメディアサーバーリストに、OpenStorage ベンダーのプラグインがインストールされていないメディアサーバーが含まれる可能性があります。ベンダーのプラグインをすべてのメディアサーバーにインストールするか、またはプラグインがインストールされていないサーバーをリストから削除します。
- UNIX でリストア中にこのエラーが発生した場合は、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]のクライアントコンソールを更新し、リストアを再試行します。この処理はクライアントコンソールに表示されるファイルリストを更新し、選択したファイルについての正しい情報を渡します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 175

メッセージ**:** 要求されたすべてのファイルがリストアされたわけではありません (not all requested files were restored)

説明**:** イメージからのファイルのリストアを実行中、bptm または bpdm プロセスで重大なエラー状態が検出され、リストアが完了前に終了されました。このエラーは、通常の状況では発生しません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートおよびクライアントの状態ログまたは進捗ログを調べて、エラーに関する追加情報を確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm または bpdm のいずれか (該当する方) のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 176

メッセージ: 指定されたメディアのインポート操作を実行できません (cannot perform specified media import operation)

説明: 特定のバックアップイメージのインポートを試行したときに、Tape Manager (bptm) でエラー状態が検出されました。

考えられる原因は、次のとおりです。

- サーバーの NetBackup メディアカタログでメディア ID がすでに有効である。
- ボリューム構成内にメディア ID が存在しない。
- 重大な Tape Manager (bptm) エラーが発生した。
- インポートのフェーズ 1 から全体のイメージが取得されなかった。
- バーコードとメディア ID がボリュームデータベースで一致しない。不一致の原因の 1 つとして、以前に異なるバーコードで書き込まれたテープを使った場合、ラベルが新しいバーコードラベルを使って ACSLS ライブラリに配置されていることが考えられます。もう 1 つの原因としては、管理者が (vmchange を使って) RVSN と一致するようにメディア ID フィールドを変更しようとしたことが考えられます。インベントリが更新されるときに、バーコードとメディア ID は同期化されます。

推奨処置: NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認して、失敗の正確な原因を判断し、次の操作を試行します。

- メディア ID がすでに有効である場合、元のメディア ID 上のすべてのイメージを別のボリュームに複製します。その後、手動で元のメディアを期限切れにして、インポートを再度実行します。
- ボリューム構成内にメディア ID が存在しない場合、メディア ID を追加します。
- bptm に重大なエラーが発生した場合、UNIX の NetBackup Volume Manager (vmd) または Windows の NetBackup Volume Manager が実行中であることを確認します。
- 全体のイメージが存在しない場合、残りのイメージを含むメディア ID でインポートのフェーズ 1 を実行します。
- バーコードとメディア ID が一致しない場合、記録されたメディア ID に一致するバーコードラベルを使用します。AVRD が実行されているドライブにテープをマウントして、記録されたメディア ID を表示できます。その後、そのラベルを持つバーコードをテープに配置する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 177

メッセージ: Media Manager エラーのためメディアの割り当てを解除できませんでした (could not deassign media due to Media Manager error)

説明: Tape Manager (bptm) で、メディア ID の割り当てを正常に解除できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、問題の原因を確認します。
- UNIX の NetBackup Volume Manager (vmd) または Windows の NetBackup Volume Manager サービスが実行中であることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 178

メッセージ: メディア ID は NetBackup ボリュームプールにありません (Media ID is not in NetBackup volume pool)

説明: NetBackup によってカタログのバックアップが試行されましたが、NetBackup ボリュームプール内に、カタログバックアップ用に指定されたメディア ID が存在しませんでした。カタログバックアップ用のボリュームは、NetBackup ボリュームプール内に存在する必要があります。

推奨処置: メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成を調べて、メディア ID が NetBackup ボリュームプール内に存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 179

メッセージ: メディア ID の密度が不正です。(density is incorrect for the media id)

説明: [メディアの内容 (Media Contents)]などの操作が、無効なメディア ID (クリーニングテープなど) で試行されました。または、NetBackup カタログバックアップ構成内のメディア ID が、ボリューム構成内に入力されているメディア形式と一致しない可能性があります。

推奨処置: ボリューム構成および NetBackup カタログバックアップ構成を確認して、見つかった問題を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 180

メッセージ: tar は正常に終了しました (tar was successful)

説明: `tar` から正常な終了状態が戻されました。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 181

メッセージ: tar において無効な引数を受信しました (tar received an invalid argument)

説明: `tar` に渡されたいずれかのパラメータが無効でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントの場合:
  - `nbtar` 内の `nbtar` コマンドが、NetBackup によって提供されているコマンドであることを確認します。不明な場合、コマンドを再インストールします。
  - クライアントの `/usr/openv/netbackup/bin/version` を確認して、クライアントで適切なバージョンのソフトウェアを実行していることを確認します。ソフトウェアのバージョンが適切でない場合、『NetBackup リリースノート』の指示に従ってソフトウェアを更新します。
- Windows クライアントの場合、`tar` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行し、ログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 182

メッセージ: tar において無効なファイル名を受信しました (tar received an invalid file name)

説明: `-f` パラメータで指定されたファイルに `tar` で書き込めません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントに、`bpcd` のデバッグログディレクトリを作成します。
- Windows クライアントの場合、`tar` のデバッグログディレクトリを作成します。

- クライアントのログレベルを上げます。
  - UNIX クライアントの場合、VERBOSE ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。
  - PC クライアントの場合、デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 操作を再度実行して、デバッグログの結果で tar に渡されたパラメータを確認し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 183

メッセージ: tar において無効なアーカイブを受信しました (tar received an invalid archive)

説明: tar に渡されたデータが破損していました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントに問題がある場合、クライアントに /usr/openv/netbackup/logs/tar のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再度実行します。
  - tar のデバッグログファイルで、問題を説明するエラーメッセージを確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。
  - 問題の調査が終了したら、クライアントの /usr/openv/netbackup/logs/tar ディレクトリを削除します。
- Microsoft Windows クライアントに問題がある場合は、次の操作を順番に実行します。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - Windows クライアントの場合、tar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - 操作を再度実行して、デバッグログの結果を確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 184

メッセージ: tar において予期しないエラーが発生しました (tar had an unexpected error)

説明: `tar` でシステムエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントに問題がある場合、クライアントに `/usr/openv/netbackup/logs/tar` のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再度実行します。
  - `tar` のデバッグログファイルで、問題を説明するエラーメッセージを確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。
  - 問題の調査が終了したら、クライアントの `/usr/openv/netbackup/logs/tar` ディレクトリを削除します。
- Microsoft Windows クライアントに問題がある場合、次のように実行します。
  - クライアントに、`bpcd` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - Windows クライアントの場合、`tar` のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。
  - クライアントを再起動して、問題が解決するかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 185

メッセージ: tar では、リストアするすべてのファイルが見つかりませんでした (tar did not find all the files to be restored)

説明: `tar` ファイルリストに、イメージ内に存在しないファイルが含まれていました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX クライアントに問題がある場合、次のように実行します。
  - クライアントに `bpcd` ディレクトリを作成して、`bpcd` のデバッグログを有効にします。

- 操作を再度実行して、bpcd のログファイルの結果で nbtar に渡されたパラメータを確認し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

- Microsoft Windows クライアントに問題がある場合、次のように実行します。
  - クライアントに、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - デバッグレベルまたはログレベルを上げます。『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
  - Windows クライアントの場合、tar のデバッグログディレクトリを作成します。
  - 操作を再試行します。
  - デバッグログの結果で tar に渡されたパラメータを確認し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 186

メッセージ: tar においてデータを受信していません (tar received no data)

説明: NetBackup によって、tar にデータが送信されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 操作を再試行して、クライアントの状態または進捗ログを調べ、問題を示すエラーメッセージを確認します。
- テープが利用可能で、読み込み可能であることを確認します。
- ドライブが起動状態であることを確認します。デバイスモニターを使用します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、次のように実行します。
  - サーバーに bptm のデバッグログを作成します。
  - Windows クライアントの場合、tar のデバッグログを作成します。
  - 操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 189

メッセージ: サーバーはクライアントのファイルシステムへの書き込みを許可されていません (the server is not allowed to write to the client's filesystems)

説明: クライアントで、サーバーからの書き込みが許可されていません。

推奨処置: 次の操作を実行してリストアを行うか、サーバーからソフトウェアをインストールします。

- UNIX クライアントの場合、`/usr/openv/netbackup/bp.conf` ファイルから DISALLOW_SERVER_FILE_WRITES を削除します。
- Microsoft Windows クライアントの場合は、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[一般 (General)]タブで[サーバー主導リストアを許可する (Allow server-directed restores)]を選択します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをクライアントで起動し、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 190

メッセージ: 選択条件に一致するイメージまたはメディアが見つかりません (found no images or media matching the selection criteria)

説明: 検証、複製またはインポートが試行されましたが、検索条件と一致するイメージが NetBackup カタログ内で検出されませんでした。

推奨処置: 検索条件を変更して、再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 191

メッセージ: 正常に処理されたイメージはありませんでした (no images were successfully processed)

説明: 次のいずれかの状態が発生しています。

- 検証、複製、自動イメージレプリケーション、自動インポートまたはインポートが試行されましたが、選択されたすべてのイメージで失敗しました。
- STS_EFILESYSTEM エラーコードに BasicDisk または AdvancedDisk の (error 2060063) が表示される場合は、ファイルシステムを正しく構成していません。NTFS ファイルシステムのアロケーションユニットサイズは、BasicDisk または AdvancedDisk

のデータを書き込むには小さすぎます。または、NetBackup に設定した最大フラグメントサイズが大きすぎます。

- バックアップまたは複製ジョブが、25 よりも大きい保持レベルで構成され、ポリシーに指定されたストレージユニットが、NetBackup 8.0 以前の NetBackup のバージョンを実行するメディア サーバーによって管理されている場合、ポリシーに関連付けられているバックアップジョブは失敗します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーの原因を確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。
- 25 より大きい保持レベルが構成されているポリシーのバックアップまたは複製ジョブが失敗した場合は、メディアサーバーを NetBackup 8.0 以降にアップグレードするか、保持レベルを 0 から 25 の間に設定します。レベル 25 の保持期間は常にすぐに期限が切れるように設定されていて、この値は変更できないことに注意してください。
- バックアップの複製中にエラーが発生した場合は、複製の進捗ログを確認し、問題の原因を判断してください。
- 自動イメージレプリケーションジョブでこのエラーが発生することがあります。ストレージライフサイクルポリシーの名またはデータ分類が、要求元のドメインおよびターゲットドメインと一致しない場合、インポートジョブは失敗します。インポートがターゲットマスターサーバーで実行されている場合、失敗したインポートの情報が[問題 (Problems)]レポートに表示されます。イメージは期限切れになり、カタログクリーンアップ時に削除されます。元のドメインでは失敗したインポートは追跡されないことに注意してください。
  この問題のトラブルシューティングについての詳細情報を参照できます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Windows クライアントのログレベルの変更」に関する項を参照してください。
- 自動インポートジョブは、このエラーを引き起こすことがあります。このジョブは、ストレージライフサイクルポリシーの名前を示すインポートジョブです。
  この問題のトラブルシューティングについての詳細情報を参照できます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
- 複製を実行する Vault ジョブでエラーが発生した場合、次の sidxxx ディレクトリにある duplicate.log ファイルを確認し、問題の原因を判断してください。

  ```
  UNIX:
  /usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx
  Windows:
  install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx
  ```

  (ここで、*xxx* はセッション ID です。)

- このファイルシステムに書き込むストレージユニットの最大フラグメントサイズを減らします。この値は通常、20 GB 未満です。ただし、STS_EFILESYSTEM エラーが起きなくなるまで必要に応じて最大フラグメントサイズの調整が必要な場合もあります。値は、ストレージユニットがイメージに書き込むデータ量に基づきます。
  この値を変更するには、[NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]の左ペインで[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ストレージ (Storage)]を展開します。右ペインで、このファイルシステムのストレージユニットをダブルクリックします。[ストレージユニットの変更 (Change Storage Unit)]ダイアログボックスで[フラグメントサイズの縮小 (Reduce fragment size)]チェックボックスを確認し、新しい値を入力して最大断片化サイズの値を 20480 MB (20 GB) に変更します。
- ファイルシステムを再構成してアロケーションユニットのサイズを増やします。通常、サイズを増やすにはファイルシステムをフォーマットする必要があるので、この処理は既存のファイルシステムには適さないことがあります。BasicDisk イメージまたは AdvancedDisk イメージ用に新しいファイルシステムを作成するときにこの処理を検討してください。この値の設定は各 OS ファイルシステムによって異なるので、手順については適切な OS またはファイルシステムのマニュアルを参照してください。
- 論理ストレージユニット (LSU) 名またはドメインボリューム名が、ハイフン (-) とアンダースコア (_) を含む 50 文字未満の ASCII 文字で、空白を含まないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 192

メッセージ: VxSS 認証が必要ですが、利用できません (VxSS authentication is required but not available)

説明: NetBackup ネットワーク接続の一端にあるシステムでは、VxSS 認証が必要です。接続のもう一端にあるシステムは、VxSS を使用するように構成されていません。VxSS 認証は、NetBackup アクセス制御機能 (NBAC) で使用されます。VxSS 認証を完了できなかったため、接続が切断されました。

推奨処置: 両方のシステムが相互に NetBackup アクセス制御機能の VxSS 認証を使用するように構成されていることを確認します。または、両方のシステムが相互に VxSS を使用しないように構成されていることを確認します。最初に、[アクセス制御 (Access Control)]プロパティダイアログボックスで、各システムの[Veritas Security Services (VxSS)]の値を確認します。一方が[必須 (Required)]に構成されている場合は、もう一方を[必須 (Required)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。一方が[禁止 (Prohibit)]に構成されている場合は、もう一方を[禁止 (Prohibit)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。

アクセス制御機能関連のホストのプロパティを設定する方法、およびアクセス制御機能を使用したシステムの構成方法については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 193

メッセージ: VxSS 認証が要求されましたが、許可されていません (VxSS authentication is requested but not allowed)

説明: NetBackup ネットワーク接続の一端にあるシステムでは、VxSS 認証が必要です。接続のもう一端にあるシステムは、VxSS を使用するように構成されていません。VxSS 認証は、NetBackup アクセス制御機能 (NBAC) で使用されます。VxSS 認証を完了できなかったため、接続が切断されました。

推奨処置: 両方のシステムが相互に NetBackup アクセス制御機能の VxSS 認証を使用するように構成されていることを確認します。または、両方のシステムが相互に VxSS を使用しないように構成されていることを確認します。最初に、[アクセス制御 (Access Control)]プロパティダイアログボックスで、各システムの[Veritas Security Services (VxSS)]の値を確認します。一方が[必須 (Required)]に構成されている場合は、もう一方を[必須 (Required)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。一方が[禁止 (Prohibit)]に構成されている場合は、もう一方を[禁止 (Prohibit)]または[自動 (Automatic)]に構成する必要があります。

アクセス制御機能関連のホストのプロパティを設定する方法、およびアクセス制御機能を使用したシステムの構成方法については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 194

メッセージ: 1 クライアントあたりの最大ジョブ数は 0 に設定されています。(the maximum number of jobs per client is set to 0)

説明: NetBackup のグローバル属性の[1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]が、現在 0 (ゼロ) に設定されています。バックアップおよびアーカイブを無効にする場合、値を 0 (ゼロ) に設定します。

推奨処置: [1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]の値を 0 (ゼロ) 以外の任意の値に変更し、バックアップおよびアーカイブを実行可能にします。この属性は、[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[NetBackup のグローバル属性 (Global NetBackup Attributes)]タブで設定します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 195

メッセージ: クライアントバックアップが試行されませんでした (client backup was not attempted)

説明: NetBackup スケジューラ内のバックアップジョブが試行されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 手動バックアップですぐにバックアップを再試行するか、通常のスケジューラでバックアップを再試行します。
- 追加情報については、[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを確認します。詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、nbpem、nbjm および nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  バックアップを再試行してから、ログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 196

メッセージ: バックアップ処理時間帯でないため、クライアントバックアップが試行されませんでした (client backup was not attempted because backup window closed)

説明: すでにバックアップ処理時間帯を過ぎているため、バックアップスケジューラによってキューに投入されたバックアップまたはアーカイブ操作が試行されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 可能な場合、スケジュールを変更して、ポリシーとスケジュールのこの組み合わせに対するバックアップ処理時間帯を延長します。これによって、今後この状態コードが発生することを防ぎます。
- バックアップを行う必要がある場合、[バックアップポリシーの管理 (Backup Policy Management)]ウィンドウの[ポリシー (Policy)]メニューで[手動バックアップ (Manual Backup)]コマンドを使用して、バックアップを実行します。手動バックアップでは、バックアップ処理時間帯は無視されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 197

メッセージ: 指定されたスケジュールが、指定されたポリシーに存在しません (the specified schedule does not exist in the specified policy)

説明: ユーザーバックアップまたはアーカイブで、バックアップ時に使用される正確なポリシーおよびスケジュールが指定されましたが、存在するポリシー内にそのスケジュールは含まれていません。

- Microsoft Windows クライアントの場合、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックスの[バックアップ (Backups)]タブで、ポリシーまたはスケジュールを指定できます。このダイアログボックスを表示するには、クライアント上でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。
- UNIX クライアントの場合、`bp.conf` ファイルのオプション BPBACKUP_POLICY または BPBACKUP_SCHED を使用して、ポリシーまたはスケジュールを指定できます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- クライアントの進捗ログで (存在する場合)、指定したポリシーおよびスケジュールを特定します。
- マスターサーバーの構成を確認して、スケジュールがポリシーに対して有効かどうかを判断します。スケジュールが無効な場合、ポリシー構成にスケジュールを追加するか、クライアントで有効なスケジュールを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 198

メッセージ: このクライアント用に要求された形式のスケジュールを含む有効なポリシーが存在しません (no active policies contain schedules of the requested type for this client)

説明: ユーザーバックアップまたはアーカイブが要求されましたが、クライアントは、ユーザーバックアップまたはアーカイブのスケジュールが存在するポリシー内に含まれていません。

推奨処置: クライアントが適切な形式のスケジュール (ユーザーバックアップまたはアーカイブ) が存在する任意のポリシー内に含まれているかどうかを判断します。

- クライアントがそのようなポリシー内に存在する場合、ポリシーの一般属性を確認して、ポリシーが有効に設定されていることを検証します。
- クライアントがそのようなポリシー内に存在しない場合、次のいずれかを実行します。

- クライアントが存在する既存のポリシーに適切な形式のスケジュールを追加する。
- クライアントおよび適切な形式のスケジュールを含む新しいポリシーを作成する。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 199

メッセージ: この期間内では許可されない操作です (operation not allowed during this time period)

説明: ユーザーバックアップまたはアーカイブが要求されましたが、このクライアントは、バックアップ処理時間帯が開いているユーザーバックアップまたはアーカイブのスケジュールが存在するポリシーに属していません。このエラーは、クライアントに対して適切なポリシーとスケジュールの組み合わせが存在することを示します。

推奨処置: 適切な形式のスケジュール (ユーザーバックアップまたはアーカイブ) が存在する、クライアントが属するポリシーを判断します。

- 可能な場合、バックアップ処理時間帯の間に、操作を再試行します。
- 適切な期間にバックアップ処理時間帯を過ぎている場合、いずれかのポリシーのスケジュールで、バックアップ処理時間帯を調整します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 200

メッセージ: スケジューラでは実行する予定のバックアップが見つかりませんでした。または、ターゲットホストをアップグレードする必要はありません。(The scheduler found that no backups are due. Or, the target hosts do not need to be upgraded.)

説明: NetBackup スケジューラプロセス (nbpem) によってポリシーおよびスケジュールの構成が確認されたとき、バックアップを行うクライアントが検出されませんでした。

考えられる原因は、次のとおりです。

- バックアップ処理時間帯の時間でない (完全バックアップスケジュールおよび増分バックアップスケジュールだけに適用)。
- ポリシーが無効に設定されている。
- 最近、クライアントのバックアップを行ったため、(スケジュールの間隔設定に基づく) 別のバックアップを行う予定がない。
- ポリシーにクライアントが存在しない。
- インテリジェントグループを使用する SQL Server ポリシーの場合、クレデンシャルルールに関連付けられたクレデンシャルが無効である可能性があります。または、SQL

Server 管理者にインスタンスまたはデータベースへのアクセスに必要な権限がありません。この問題は NetBackup 11.0 以降に該当します。

推奨処置: 通常、このメッセージは情報を提供するもので、問題を示すものではありません。ただし、問題があると考えられる場合、次のように実行します。

- NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートを調べて、スケジューラによって実行される予定の作業が存在しないことを示すメッセージの他に、メッセージが表示されていないかどうかを確認します。
- ポリシー構成で、すべてのポリシーまたは問題があると考えられる特定のポリシーを調べて、「説明」で示されている原因のいずれかに該当するかどうかを判断します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、診断ログとデバッグログの統合ログレベルを上げます。
  次の手順で説明するとおり、`vxlogcfg` コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行し、ログの結果を確認します。
- インテリジェントグループを使用する SQL Server ポリシーの場合は、ポリシーに含まれる SQL Server インスタンスまたはデータベースに対してクレデンシャルが有効であることを確認します。
  このエラーについて詳しくは、『NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 201

メッセージ: ハンドシェークはサーバーの Backup Restore Manager で失敗しました (handshaking failed with server backup restore manager)

説明: マスターサーバーのプロセスで、メディアホスト (マスターサーバーまたはメディアサーバーのいずれか)との通信中に、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーとメディアサーバーのプロセス間の通信を開始することはできましたが、通信を完了できなかったことを示します。この問題は、1 つあるいは複数のサーバー構成内でのバックアップ、リストアまたはメディアのリストを取得中に発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup の[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、ハンドシェークが失敗した動作を特定します。メディアサーバーが存在する場合、次のどちらに該当するかを判断します。
  - ハンドシェークの失敗がマスターサーバーとメディアサーバーの間で発生した。
    または
  - マスターサーバーだけの問題である。

- 必要に応じて、次のデバッグログディレクトリを作成し、ログレベルを上げます。
  - NetBackup メディアホスト (マスターサーバーまたはメディアサーバーのいずれか) に、bpcd のデバッグログディレクトリを作成します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、nbpem、nbjm および nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
    次の手順で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  - マスターサーバーに、bprd のデバッグログディレクトリを作成します (リストア操作中にエラーが発生した場合)。
  - マスターサーバーの NetBackup の admin ディレクトリ内に、admin のデバッグログディレクトリを作成します (メディアの一覧表示操作中にエラーが発生した場合)。
- bpbrm または bpmount に接続した後、ポリシーのファイルリストが送信される前に nbjm が失敗した場合、状態コード 201 が発生する可能性があります。nbjm の統合ログ (オリジネータ ID 117)、あるいは bpbrm または bpmount のレガシーログで、エラーの原因の詳細を調べます。
- 操作を再試行して、エラーが発生した原因に関する情報を、デバッグログの結果から調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 202

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager への接続中にタイムアウトが発生しました (timed out connecting to server backup restore manager)

説明: メディアホスト (マスターサーバーまたはメディアサーバーのいずれか) との通信の開始を試行中に、マスターサーバーのプロセスでタイムアウトになりました。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのバックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、通信のタイムアウトの失敗が発生した動作を特定します。メディアサーバーが存在する場合、タイムアウトが、マスターサーバーとメディアサーバーの間で発生したか、マスターサーバーだけの問題であるかを判断します。

- スケジュールで正しいストレージユニットを指定していることを確認します。
- 次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。
  - マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーとすべてのメディアサーバーに ping を実行します。

- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

- マスターサーバーが、ストレージユニットが存在するホストの bpcd と通信可能であることを確認します。
- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、次のプロセスのデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、nbpem、nbjm および nbrb の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
    次の手順で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
    『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
    また、bpcd のレガシーデバッグログも確認します。
  - リストア操作中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 203

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager のネットワークに接続できません (server backup restore manager's network is unreachable)

説明: メディアホストとの通信の開始を試行中に、マスターサーバーのプロセスがネットワーク上に存在する特定のホストに接続できません。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのバックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、このエラーが発生した動作を判断します。複数の NetBackup サーバー (1 つ以上のメディアサーバー) が存在する場合、エラーがマスターサーバーとメディアサーバーの間で発生したか、マスターサーバーだけの問題であるかを判断します。次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーホストに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- 必要に応じて、bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。リストア中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 204

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager によって接続が拒否されました (connection refused by server backup restore manager)

説明: bpcd のポート番号での接続がメディアホストによって拒否されました。このエラーは、バックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: 次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、このマスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。次の項では、このダイアログボックスにアクセスする方法について説明します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、すべてのサーバー上の bpcd または NIS に含まれる bpcd エントリが一致していることを確認します。メディアホストが適切なポートで bpcd への接続を待機していることを確認します。確認するには、次のいずれかのコマンド (プラットフォームおよびオペレーティングシステムによって異なる) を実行します。

  ```
  netstat -a | grep bpcd
  ```

  ```
  netstat -a | grep 13782(またはインストール中に指定した値)
  rpcinfo -p | grep 13782(またはインストール中に指定した値)
  ```

  UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、bpcd および NIS サービスのマップ内の bpcd のサービス番号を変更して、クライアントの SIGHUP プロセスに inetd シグナルを送信する必要がある場合があります。

  ```
  /bin/ps -ef | grep inetd
  kill -HUP the_inetd_pid
  ```

  または

  ```
  /bin/ps -aux | grep inetd
  kill -HUP the_inetd_pid
  ```

  メモ: Hewlett Packard 社の UNIX プラットフォームの場合、inetd -c を実行して、inetd に SIGHUP を送信します。

- Windows サーバーの場合、次の操作を実行します。
  - 次のファイルの bpcd エントリが正しいことを確認します。

    ```
    %SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services
    ```

  - services ファイルの設定が、[NetBackup Client サービスポート (NetBackup Client Service Port)]番号および[NetBackup Request サービスポート (NetBackup Request Service Port)]番号と一致していることを、[ネットワーク (Network)]タブ ([NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックス) で確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。
    [ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。
  - NetBackup サービスを停止して、再起動します。
- 次の手順を実行します。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

- 必要に応じて、bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、vxlogview コマンドを使用して、nbpem、nbjm および nbrb のログを確認します。
  - リストア操作中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 205

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager に接続できません (cannot connect to server backup restore manager)

説明: マスターサーバーのプロセスがネットワーク上に存在するホストのプロセスに接続できません。このエラーは、プロセスが、ストレージユニットが存在するサーバーとの通信を開始しようとしているときに発生します。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのバックアップ中またはリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: 次の組み合わせを使用して、ホスト間で ping コマンドを実行します。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、このマスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、すべてのサーバー上の bpcd または NIS に含まれる bpcd エントリが一致していることを確認します。メディアホストが適切なポートで bpcd への接続を待機していることを確認します。確認するには、次のいずれかのコマンド (プラットフォームおよびオペレーティングシステムによって異なる) を実行します。

```
netstat -a | grep bpcd
```

```
netstat -a | grep 13782(またはインストール中に指定した値)
rpcinfo -p | grep 13782(またはインストール中に指定した値)
```

- Windows サーバーの場合、次の操作を実行します。
  - 次の services ファイルの bpcd エントリが正しいことを確認します。

    ```
    %SystemRoot%¥system32¥drivers¥etc¥services
    ```

  - services ファイルの設定が、[NetBackup Client サービスポート (NetBackup Client Service Port)]番号および[NetBackup Request サービスポート (NetBackup Request Service Port)]番号と一致していることを、[ネットワーク (Network)]タブ ([NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]ダイアログボックス) で確認します。このダイアログボックスを表示するには、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動し、[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]を[ファイル (File)]メニューから選択します。
    [ネットワーク (Network)]タブの値は、NetBackup Client Service が起動されると services ファイルに書き込まれます。
  - NetBackup サービスを停止して、再起動します。
- 次の手順を実行します。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「メディアサーバーおよびクライアントの検証」を参照してください。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。
- ストレージユニットが存在するサーバーに bpcd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、デバッグログで追加情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 206

メッセージ: サーバーの Backup Restore Manager へのアクセスは拒否されました (access to server backup restore manager denied)

説明: マスターサーバーから他のサーバー (またはマスターサーバー自身) のプロセスの起動が試行されましたが、そのサーバーの NetBackup サーバーリストにマスターサーバーが存在していません。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。

『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーが、自身のサーバーリストおよびすべてのメディアサーバーにおいて、サーバーとして登録されていることを確認します。
  マスターサーバーリストを変更した場合は、該当するすべての NetBackup プロセスで新しいサーバーエントリが使われるように、NetBackup Database Manager デーモン (bpdbm) と NetBackup Request デーモン (bprd) を停止して再起動します。
- 必要に応じて、bprd のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、マスターサーバーのデバッグログの結果を確認します。
  - バックアップ操作中にエラーが発生した場合、vxlogview コマンドを使用して、nbpem、nbjm および nbrb のログを確認します。
  - リストア操作中にエラーが発生した場合、bprd のデバッグログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 207

メッセージ: クライアントに対する最後のバックアップ日付の取得のエラー (error obtaining date of last backup for client)

説明: nbpem による、クライアント、ポリシーおよびスケジュールの特定の組み合わせの最後のバックアップ日付の取得中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Database Manager (bpdbm) が実行中であることを確認します。
- [すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、失敗に関する詳細な情報を収集します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに bpdbm のログディレクトリを作成します。nbpem の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 209

メッセージ: メッセージキューの作成または取得エラー (error creating or getting message queue)

説明: NetBackup プロセスで、プロセス間通信用の内部メッセージキューを作成しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーに問題があることを示します。UNIX システムおよび Linux システムでは、このエラーは System V プロセス間通信用のシステムリソースが不足しているために発生する場合があります。

推奨処置: マスターサーバーにデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、ログを調べて、システムの失敗の種類を判断します。最初に、bprd のデバッグログを調べます。

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のシステムリソースを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 210

メッセージ: メッセージキューの情報の受信エラー (error receiving information on message queue)

説明: NetBackup プロセスで、内部メッセージキューに入っている bprd を使用して、NetBackup デーモンからのメッセージを受信しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバーに問題があることを示します。UNIX システムおよび Linux システムでは、このエラーは System V プロセス間通信用のシステムリソースが不足しているために発生する場合があります。

推奨処置: マスターサーバーにデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、ログを調べて、システムの失敗の種類を判断します。最初に、bprd のデバッグログを調べます。

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のシステムリソースを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 212

メッセージ: メッセージキューの情報の送信エラー (error sending information on message queue)

説明: NetBackup プロセスで、すでに存在しているプロセス間通信用の内部メッセージキューに接続しようとしたときに、エラーが発生しました。このエラーは、マスターサーバー

に問題があることを示します。UNIX システムおよび Linux システムでは、このエラーは System V プロセス間通信用のシステムリソースが不足しているために発生する場合があります。

推奨処置: マスターサーバーにデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。その後、ログを調べて、システムの失敗の種類を判断します。最初に、bprd のデバッグログを調べます。

UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のシステムリソースを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 213

メッセージ: 利用可能なストレージユニットがありません (no storage units available for use)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) によって、利用可能なストレージユニットが検出されませんでした。または、すべてのストレージユニットが[オンデマンドのみ (On demand only)]に構成されています。また、ポリシーおよびスケジュールに特定のストレージユニットは必要ありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- [バックアップの状態 (Status of Backups)]レポートおよび[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートで該当する期間を調べて、エラーを受け取ったポリシーまたはスケジュールを判断します。
- 利用不能なストレージユニットに対してメディアサーバーが無効になっていないことを確認します。
- ストレージユニットのドライブが停止状態ではないことを確認します。
- すべてのストレージユニットで、次の属性の設定を確認します。
  - ディスクストレージユニットの[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]が 0 (ゼロ) に設定されていない。
  - Media Manager ストレージユニットの[最大並列書き込みドライブ数 (Maximum concurrent write drives)]が 0 (ゼロ) に設定されていない。
- ストレージユニット構成内のロボット番号とホスト名が、メディアおよびデバイスの管理のデバイス構成と一致することを確認します。
- ポリシーとスケジュールの組み合わせで特定のストレージユニットを必要としない場合、そのポリシーとスケジュールの組み合わせに対して、すべてのストレージユニットが[オンデマンドのみ (On demand only)]に設定されていないかどうかを判断します。設定されている場合、ポリシーとスケジュールの組み合わせに対してストレージユ

ニットを指定するか、ストレージユニットの[オンデマンドのみ (On demand only)]を解除します。

- ストレージユニットが UNIX または Linux 版 NetBackup メディアサーバーに存在する場合、bpcd に問題がある場合があります。メディアサーバーの /etc/inetd.conf で、bpcd エントリが正しいことを確認します。
  ストレージユニットが Windows 版 NetBackup メディアサーバーに存在する場合、NetBackup Client Service が Windows 版 NetBackup メディアサーバーで起動されていることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーの nbrb および mds のログレベルを上げます。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 215

メッセージ: グローバル構成データベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading global config database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbproxy でグローバル構成パラメータを読み込むことができませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- NetBackup 管理インターフェース (UNIX および Linux システムの場合) または[ホストプロパティ (Host Properties)](Windows システムの場合) を使用して、グローバル構成の設定を表示します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに nbproxy および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。これらのプロセスのデバッグログの結果を確認します。また、vxlogview コマンドを使用して、nbpem のログも確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 216

メッセージ: 保持データベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading retention database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbpem で保持レベルおよび値のリストが読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows マスターサーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。
  次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用して、nbpem のログレベルを上げます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。
  操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 217

メッセージ: ストレージユニットデータベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading storage unit database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbpem でストレージユニット構成が読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux サーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows サーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- NetBackup 管理インターフェースを使用して、ストレージユニット構成を表示します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに nbproxy および bpdbm のデバッグログを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。また、vxlogview コマンドを使用して、nbpem のログも確認します。
  接続を行うために適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 218

メッセージ: ポリシーデータベース情報の読み込みに失敗しました (failed reading policy database information)

説明: NetBackup 構成の定期的な確認を実行中、nbpem でバックアップポリシー構成が読み込まれませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX または Linux サーバーの場合、NetBackup Database Manager (bpdbm) プロセスが実行中であることを確認します。Windows サーバーの場合、NetBackup Database Manager サービスが実行中であることを確認します。
- NetBackup 管理インターフェースを使用して、ポリシー構成を表示します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、マスターサーバーに nbproxy および bpdbm のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。また、vxlogview コマンドを使用して、nbpem のログも確認します。
  接続を行うために適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 219

メッセージ: 必要なストレージユニットが利用できません (the required storage unit is unavailable)

説明: バックアップのポリシーまたはスケジュールには特定のストレージユニットが必要ですが、現在利用できません。また、このエラーは、現行のバックアップセッション中にそのストレージユニットの使用が試行された場合にも発生します。

推奨処置: [ジョブの詳細 (Job Details)]ウィンドウで、失敗したジョブを調べます。

- スケジュールで適切なストレージユニットを指定しており、そのストレージユニットが存在することを確認します。
- Media Manager device デーモン ltid (UNIX または Linux サーバーの場合) または NetBackup Device Manager サービス (Windows サーバーの場合) が実行中であることを確認します。UNIX および Linux の bpps および Windows のアクティビティモニター、または Windows の[管理ツール]の[サービス]を使用します。
- 次の属性の設定を確認します。
  - ディスクストレージユニットの[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]が 0 (ゼロ) に設定されていない。

- Media Manager ストレージユニットの[最大並列書き込みドライブ数 (Maximum concurrent write drives)]属性が 0 (ゼロ) に設定されていない。

- ストレージユニットがテープの場合、1 つ以上のドライブが起動状態にあることを確認します。デバイスモニターを使用します。
- ストレージユニット構成内のロボット番号およびホスト名が、メディアおよびデバイスの管理のデバイス構成内での指定内容と一致していることを確認します。
- マスターサーバーが、ストレージユニットが存在するサーバーの bpcd プロセスと通信可能であることを確認します。
  - bpcd がポートで接続を待機していることを確認します。
    ストレージユニットが接続されている UNIX または Linux サーバーで netstat -a | grep bpcd を実行すると、次のような応答が戻されます。

    ```
    *.bpcd    *.*          0       0      0       0 LISTEN
    ```

    ストレージユニットが接続されている Windows 版 NetBackup サーバーで netstat -a を実行すると、複数行の出力が表示されます。bpcd が待機している場合、次のような行が表示されます。

    ```
    TCP     myhost:bpcd            0.0.0.0:0                LISTENING
    ```

  - vxlogview コマンドを使用して、nbrb および mds のログを確認します。
  - 問題の原因が不明な場合、次の手順を実行します。
    『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 220

メッセージ: データベースのシステムエラーです (database system error)

説明: bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) で、構成カタログのディレクトリパスが作成されませんでした。このエラーはシステムコールの失敗が原因で、通常、権限に問題があるか、容量不足であるために発生します。

推奨処置: bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。nbemm の診断ログとデバッグログのログレベルを上げます。

次の項で説明するとおり、vxlogcfg コマンドを使用します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「統合ログについて」を参照してください。

操作を再試行し、ログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 221

メッセージ: 続行 (continue)

説明: この状態コードは、さまざまな NetBackup プロセス間通信の調整に使用され、通常は発生しません。この状態コードがそれ以降のエラーに関連することがログで示された場合、一般的に、通信に問題があることを示します。この場合、後続のエラーのトラブルシューティングを行います。

推奨処置: このエラーの後に表示されている状態コードの原因を判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 222

メッセージ: 完了 (done)

説明: この状態コードは、さまざまな NetBackup プロセス間通信の調整に使用され、通常は発生しません。この状態コードがそれ以降のエラーに関連することがエラーログで示された場合、一般的に、通信に問題があることを示します。この場合、後続のエラーのトラブルシューティングを行います。

推奨処置: このエラーの後に表示されている状態コードの原因を判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 223

メッセージ: 無効なエントリが入力されました (an invalid entry was encountered)

説明: bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) への要求に、無効な情報または矛盾する情報が含まれていました。このエラーは通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用することによって発生します。また、コマンドの不正なパラメータが原因で発生する場合もあります。

推奨処置: すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンレベルであり、適切なコマンドパラメータが指定されていることを確認します。問題がいずれにも該当しない場合、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成し、詳細なトラブルシューティングの情報を入手します。その後、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 224

メッセージ: 競合する指定が存在しました (there was a conflicting specification)

説明: bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) への要求に、無効な情報または矛盾する情報が含まれていました。このエラーは通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用することによって発生します。また、コマンドの不正なパラメータが原因で発生する場合もあります。

推奨処置: すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンレベルであることを確認します。問題が該当しない場合、bpdbm および admin のデバッグログディレクトリを作成し、詳細なトラブルシューティングの情報を入手します。その後、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 225

メッセージ: テキストが最大長を超えています (text exceeded allowed length)

説明: 要求に含まれるテキストがバッファサイズを超えています。この要求は、bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) に対して行われたものです。このエラーは通常、異なるバージョンのソフトウェアを同時に使用することによって発生します。

推奨処置: すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンレベルであることを確認します。問題が該当しない場合、bpdbm および admin のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 226

メッセージ: エンティティがすでに存在します (the entity already exists)

説明: 同じ名前または定義のエンティティが、構成内にすでに存在しています。たとえば、既存のポリシーと同じ名前または定義 (属性、クライアントなど) で新しいポリシーを追加すると、この状態コードが表示されます。

推奨処置: 要求を修正して、コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 227

メッセージ: エンティティが見つかりませんでした (no entity was found)

説明: 保護用に構成された資産が、NetBackup データベースに見つかりません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- Web UI から適切なプラグインが構成されていることを確認します。
- 資産の検出が完了しており、適切な資産が Web UI に表示されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 228

メッセージ: 要求を処理できません (unable to process request)

説明: カタログに一貫性がないか、不適切な要求が行われました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- この状態がメディアサーバーで発生した場合、サーバーリストに適切なマスターサーバーが指定されていることを確認します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、マスターサーバーは SERVER ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「[ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウを使用した構成設定へのアクセス」を参照してください。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成し、操作を再試行します。その後、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 229

メッセージ: イベントがシーケンス内に存在しません - イメージの不整合 (events out of sequence - image inconsistency)

説明: 実行するとイメージカタログの一貫性が失われるタスクが要求されました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行し、デバッグログの結果を保存して、(日

本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 230

メッセージ: 指定されたポリシーが構成データベースに存在しません (the specified policy does not exist in the configuration database)

説明: 指定されたポリシー名が存在しません。

推奨処置: パラメータまたはオプションを修正して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 231

メッセージ: スケジュール時間帯が重なっています。(schedule windows overlap)

説明: ある日のスケジュールとして指定された開始時刻および継続時間が、別の日のスケジュールと重複しています。

推奨処置: スケジュールを修正して、バックアップ処理時間帯の重複を解消します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 232

メッセージ: プロトコルエラーが発生しました (a protocol error has occurred)

説明: このエラーは中間的な状態コードであり、通常は他の状態コードの前に表示されます。この状態コードは、bpdbm プロセス (UNIX および Linux の場合)、NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) またはこのプロセスと通信中のプロセスのいずれかで、予想外の情報が受信されたことを示します。

推奨処置: bpdbm のデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行し、デバッグログを保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 233

メッセージ: 想定しない EOF が発生しました (premature eof encountered)

説明: これは中間的な状態コードであり、通常は他の状態コードの前に表示されます。また、ネットワーク通信の問題と関連しています。

推奨処置: この状態コードは、リストア中に、予想外のデータストリームが (クライアントの) tar で受信されたことを示しています。リストアが新しい構成の場合、テープドライブが可変モードで構成されていることを確認します。

『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。

通信の失敗の原因がクライアントシステムの中断でない場合、すべてのエラー情報を保存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 234

メッセージ: 通信が割り込まれました。(communication interrupted)

説明: これは中間的な状態コードであり、通常は他の状態コードの前に表示されます。また、ネットワーク通信の問題と関連しています。サーバープロセスまたはクライアントプロセスで中断 (interrupt) シグナルが受信されました。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 235

メッセージ: バッファ領域が不十分です。(inadequate buffer space)

説明: このコードは、通常、サーバーとクライアントのソフトウェアのバージョンが一致していないことを示します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- すべての NetBackup ソフトウェアが同じバージョンであることを確認します。以前のバージョンの NetBackup ソフトウェアを更新します。
  - UNIX および Linux の場合、NetBackup のサーバーおよびクライアントで /usr/openv/netbackup/bin/version ファイルを確認します。
  - Windows 版 NetBackup サーバーの場合、*install_path*¥NetBackup¥version.txt ファイルまたは[NetBackup のバージョン情報 (About)]項目を[ヘルプ (Help)]メニューで確認します。

- Microsoft Windows クライアントの場合、[NetBackup のバージョン情報 (About)] 項目を[ヘルプ (Help)]メニューで確認します。

- 問題が継続する場合は、すべてのエラー情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 236

メッセージ: 指定されたクライアントが、構成データベースの有効なポリシーに存在しません (the specified client does not exist in an active policy within the configuration database)

説明: クライアント名が指定されていないか、指定されたクライアントが存在しません。

推奨処置: 目的のポリシーを有効にするか、クライアント名を修正するか、目的のポリシーにクライアントを追加します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 237

メッセージ: 指定されたスケジュールが、構成データベースの有効なポリシーに存在しません (the specified schedule does not exist in an active policy in the configuration database)

説明: 指定されたスケジュールが NetBackup 構成内に存在しません。

推奨処置: 目的のポリシーを有効にするか、スケジュール名を修正するか、目的のポリシーにスケジュールを作成します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 238

メッセージ: データベースに、競合しているエントリまたはエラーがあるエントリが含まれています。(the database contains conflicting or erroneous entries)

説明: 一貫性がないエントリまたは壊れたエントリが、カタログに存在します。

推奨処置: `bpdbm` (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) の詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、デバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行し、デバッグログの結果を保

存して、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 239

メッセージ: 指定されたクライアントが、指定されたポリシーに存在しません (the specified client does not exist in the specified policy)

説明: 指定されたクライアントが、指定されたポリシーに含まれていません。

推奨処置: クライアント名の指定を修正するか、異なるポリシーを指定するか、必要なクライアント名をポリシーに追加します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 240

メッセージ: このポリシーには正しい形式のスケジュールが存在しません (no schedules of the correct type exist in this policy)

説明: 適切なスケジュールが、指定されたポリシー内で検出されませんでした。たとえば、ユーザーバックアップでポリシー名が指定されていますが、そのポリシー内にユーザーバックアップスケジュールが存在していない場合があります。0

推奨処置: 異なるポリシーを指定するか、必要な形式のスケジュールをポリシー内に作成します。修正後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 241

メッセージ: 指定されたスケジュールの形式はこの要求には不適切です (the specified schedule is the wrong type for this request)

説明: 即時手動バックアップで指定されたスケジュールは、完全バックアップのスケジュールでも、増分バックアップのスケジュールでもありません。スケジュールは、いずれかに該当する必要があります。

推奨処置: 手動バックアップでは、完全バックアップまたは増分バックアップのスケジュールだけを指定します。ポリシー内にスケジュールが存在しない場合、スケジュールを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 242

メッセージ: 不正な複製の原因となる可能性がある操作です (operation would cause an illegal duplication)

説明: 要求が処理されると、(たとえば、カタログまたは構成データベース内で) エントリが重複します。カタログエントリの重複は、通常、NetBackup カタログバックアップ用のメディア ID の指定が不適切であるために発生します。

推奨処置: エラーメッセージを確認して、発生する可能性がある特定の重複を判断します。操作の設定を修正して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 243

メッセージ: クライアントは構成に含まれていません。(the client is not in the configuration)

説明: 指定されたクライアント名がカタログ内に存在しませんでした。

推奨処置: クライアント名を修正するか、目的のポリシーにクライアントを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 245

メッセージ: 指定されたポリシーは正しいクライアント形式ではありません (the specified policy is not of the correct client type)

説明: ユーザーバックアップで、クライアントに必要な形式のポリシーが指定されませんでした。

推奨処置: クライアントに対して適切な形式のポリシーを指定して、操作を再試行します。適切な形式のポリシーが存在しない場合、ポリシーを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 246

メッセージ: 構成データベースに正しいクライアント形式の有効なポリシーが存在しません (no active policies in the configuration database are of the correct client type)

説明: クライアントに必要な形式の有効なポリシーが存在しないため、ユーザーバックアップ要求が実行されませんでした。

推奨処置: ユーザーバックアップ要求を実行できるように、適切なポリシーを作成するか、有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 247

メッセージ: 指定されたポリシーが有効ではありません (the specified policy is not active)

説明: 指定されたポリシーが有効でないため、そのポリシーのバックアップは実行できません。

推奨処置: ポリシーを有効にして、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 248

メッセージ: 構成データベースに有効なポリシーが存在しません (there are no active policies in the configuration database)

説明: 要求を満たす有効なポリシーが検出されませんでした。

推奨処置: 適切なポリシーを有効にして、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 249

メッセージ: ファイルリストが不完全です。(the file list is incomplete)

説明: クライアントによるファイルリストの送信が終了するのを待機しているときに、サーバーでタイムアウトが発生したか、シーケンスに問題が発生しました。

推奨処置: 最初に、デバッグログを作成し、追加情報を入手します。その後、エラーの再現を試行します。作成するデバッグログは、次のとおりです。

- サーバーには、`bptm`、`bpbrm` および `bpdbm`
- UNIX、Linux および Windows クライアントの場合は、`bpbkar`
- それ以外のクライアントの場合は、`bpcd`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 250

メッセージ: イメージは、TIR 情報で作成されませんでした (the image was not created with TIR information)

説明: これは内部エラーを意味し、通常は表示されることはありません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm または bpdbm のデバッグログをサーバーに作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 251

メッセージ: TIR 情報の長さは 0 です (the tir information is zero length)

説明: True Image Backup で、クライアントからマスターサーバーにファイル情報が送信されませんでした。この状態は、メディアへの TIR 情報の書き込みを試行したときに NetBackup で検出されました。

推奨処置: ポリシーのファイルリスト、およびクライアントのエクスクルードリストとインクルードリストを調べて、バックアップを実行可能なファイルがクライアントに存在することを確認します。たとえば、クライアントのエクスクルードリストですべてのファイルがエクスクルードされている場合、この状態コードが表示されることがあります。

詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、bptm または bpdbm のデバッグログをサーバーに作成します。その後、操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 252

メッセージ: 拡張エラー状態が発生しています。状態の詳細を確認してください (extended error status has been encountered, check detailed status)

説明: プロセスで、拡張エラー状態をジョブの最終的な状態として報告できなかった場合、ジョブは状態コード 252 で終了します。(拡張エラーの状態コードは、256 以上です)。

推奨処置: 実際のエラーを確認するには、ジョブの詳細表示を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 253

メッセージ: カタログのイメージ .f ファイルがアーカイブされました (the catalog image .f file has been archived)

説明: カタログのイメージ .f ファイルがアーカイブされました。

推奨処置: アーカイブされたカタログのイメージ .f ファイルをリストアするには、カタログのアーカイブに関するヘルプ情報を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 254

メッセージ: NetBackup 構成にサーバー名が見つかりませんでした (server name not found in the configuration)

説明: NetBackup を通常の方法で使用しているかぎり、このエラーは発生しません。

推奨処置: すべてのエラー情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 256

メッセージ: 論理エラーです (logic error encountered)

説明: Vault 内部エラーが発生しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 257

メッセージ: ジョブのデータの取得に失敗しました (failed to get job data)

説明: このエラーは、次のいずれかを示す場合があります。

- Job Manager (nbjm) との接続が切断されたため、Vault でジョブのデータの取得に失敗しました。
- Vault で空のジョブのデータが受信されました。このエラーは、vltrun -haltdups コマンドでユーザーが指定したジョブ ID が範囲外である場合に発生します。(つまり、指定したジョブ ID が Job Manager によって作成された ジョブ ID に含まれていない場合です。)

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 258

メッセージ: Vault 複製が管理者の要求によって中断されました (vault duplication was aborted by administrator request)

説明: 管理者が、実行中の Vault 複製ジョブの中断要求を開始しました。

推奨処置: 中断要求が意図的に行われたものであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 259

メッセージ: Vault 構成ファイルが見つかりませんでした (vault configuration file not found)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 260

メッセージ: シグナルの送信に失敗しました (failed to send signal)

説明: vltrun で、Vault 複製ジョブへのシグナルの送信に失敗しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 261

メッセージ: Vault 内部エラー 261 (vault internal error 261)

説明: このエラーコードは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 262

メッセージ: Vault 内部エラー 262 (vault internal error 262)

説明: このエラーコードは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 263

メッセージ: セッション ID の割り当てが失敗しました (session ID assignment failed)

説明: Vault セッションに割り当てられている一意の識別子が破損しています。

推奨処置: `session.last` ファイルに格納されているセッション ID が有効であることを確認します。

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/session.last
```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥session.last
```

ファイルシステムに空きがあり、`session.last` ファイルが間違って編集されていないことを確認します。問題を解決するには、この Vault のセッションに割り当てられている最大のセッション ID を `session.last` ファイルに格納します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 265

メッセージ: セッション ID ファイルは空であるか、破損しています (session id file is empty or corrupt)

説明: 次のファイルに格納されているセッション ID が破損しています。

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/session.l
    ast
```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥session
    .last
```

推奨処置: session.last ファイルに格納されているセッション ID が破損していないことを確認します。ファイルシステムに空きがあり、ファイルが間違って編集されていないことを確認します。問題を解決するには、この Vault のセッションに割り当てられている最大のセッション ID を session.last ファイルに格納します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 266

メッセージ: Vault 構成ファイルに、ロボット、Vault、プロファイルが見つかりません (cannot find robot, vault, or profile in the vault configuration)

説明: NetBackup は、*profile_name* または *robot_name*/*vault_name*/*profile_name* の組み合わせ (Vault コマンド (vltrun、vlteject、vltoffsitemedia) または vltopmenu 内で指定) を Vault 構成内で見つけられません。

推奨処置: 正しい *profile_name* または *robot_name*/*vault_name*/*profile_name* の組み合わせを指定して、コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 267

メッセージ: ローカルホスト名が見つかりません (cannot find the local host name)

説明: Vault ジョブでは、OS コールを介してローカルホスト名が取得されます。このエラーは、Vault ジョブによってローカルホスト名が取得されない場合に発生します。

推奨処置: OS コマンドプロンプトで hostname コマンドを発行します。hostname コマンドが失敗する原因については、hostname (または gethostbyname) のマニュアルページを参照してください。

詳しくは、オペレーティングシステムのシステム管理者ガイドを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 268

メッセージ: Vault セッションディレクトリが不明であるか、ディレクトリにアクセスできません (the vault session directory is either missing or inaccessible)

説明: このエラーは、Vault ジョブが次のセッションディレクトリにアクセスできない場合に発生します。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/vault/sessions`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥vault¥sessions`

このディレクトリは、Vault のインストール時に作成されます。

推奨処置: Vault がインストールされて設定されているマスターサーバー上で操作を行っていることを確認します。また、セッションディレクトリが誤って削除されたり、ディレクトリパスの権限が変更されても、Vault ジョブがディレクトリにアクセス可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 269

メッセージ: Vault セッション ID が見つかりませんでした (no vault session ID was found)

説明: このエラーは、指定されたプロファイルに対するセッション ID ディレクトリ sid*xxx* が `vltopmenu` によって検出されない場合に発生します。このプロファイルに対して実行されている Vault ジョブが存在しないか、または対応するセッション ID ディレクトリ sid*xxx* が次のディレクトリから削除されています。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name`

推奨処置: Vault ジョブが実行されている別のプロファイルを指定するか、`vltopmenu` を終了して、目的のプロファイルに Vault ジョブを実行します。その後、`vltopmenu` を再度実行して、そのプロファイルを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 270

メッセージ: プロセス ID を取得できません。getpid が失敗しました (unable to obtain process id, getpid failed)

説明: このエラーは、OS システムコール getpid() を使用して Vault プロセスのプロセス ID を取得できない場合に発生します。

推奨処置: システムログでシステムの異常を調べます。しばらく待機して、システムリソースが解放された後でプロセスの実行を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 271

メッセージ: Vault XML バージョンが一致していません (vault XML version mismatch)

説明: Vault のアップグレード処理が失敗しました。

推奨処置: ログを有効にしてから nbvault を起動し、nbvault のログを調べてエラーの原因を特定します。アップグレード処理を再度実行しても失敗する場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡してください。

nbvault のログの場所は次のとおりです。

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/netbackup/logs/nbvault/

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥nbvault

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 272

メッセージ: Vault 通知スクリプトの実行に失敗しました (execution of a vault notify script failed)

説明: このエラーは、権限またはスクリプトのコーディングに問題があるために、Vault プロセスが Vault 通知スクリプトを実行できない場合に発生します。また、スクリプトからエラーが戻された場合にも発生します。

推奨処置: 通知スクリプトが実行可能で、エラーが発生しないことを確認します。コーディングのエラーを修正するには、スクリプトを手動で実行してデバッグを行う必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 273

メッセージ: 無効なジョブ ID (invalid job id)

説明: このエラーは、次のいずれかの状況で発生する場合があります。

- 指定されたジョブが有効な Vault ジョブではない。
- 指定された有効な Vault ジョブが複製手順ではない。

推奨処置: 現在複製手順または複製操作である有効な Vault ジョブのジョブ ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 274

メッセージ: プロファイルが指定されていませんでした (no profile was specified)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 275

メッセージ: この Vault 用に、セッションはすでに実行しています (a session is already running for this vault)

説明: このエラーは、Vault のセッションが開始されたときに、その Vault に対してすでに別のセッションが実行中である場合に発生します。Vault に対して一度に実行可能なセッションは 1 つだけです。

推奨処置: 実行中のセッションが完了してから、Vault セッションを開始します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 276

メッセージ: 無効なセッション ID (invalid session ID)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 277

メッセージ: レポートを印刷できません (unable to print reports)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 278

メッセージ: API ロボットから取り出しの事前情報を収集できません (unable to collect pre eject information from the API robot)

説明: このエラーは、取り出しを実行する前にロボット情報を取得できない場合に発生します。

推奨処置: すべてのメディアおよびデバイスの管理デーモンが実行中であること、またはロボットが稼働中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 279

メッセージ: 取り出し処理が完了しました (eject process is complete)

説明: このエラーは、取り出し処理が正常に完了した場合に発生します。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 280

メッセージ: 取り出すボリュームがありません (there are no volumes to eject)

説明: このエラーは、取り出し対象のメディアがライブラリに存在しない場合に発生します。

推奨処置: 取り出し対象のメディアがライブラリから手動で取り出されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 281

メッセージ: Vault コアエラー (vault core error)

説明: Vault 内部エラーが発生しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 282

メッセージ: nbvault サーバーに接続できません (cannot connect to nbvault server)

説明: Vault ジョブから NetBackup Vault Manager サービス (UNIX および Linux の場合 `nbvault`、Windows の場合 `nbvault.exe`) に接続できません。

考えられる原因は、次のとおりです。

- Private Branch Exchange サービス (`VRTSpbx`) または NetBackup Request Manager (`bprd`) が停止しています。
- NetBackup Vault Manager サービスが停止しています。この原因としては、Vault のライセンスを取得していないこと、`vault.xml` 構成ファイルが破損していること、アップグレード時に `vault.xml` 構成ファイルのアップグレードが失敗していることなどが考えられます。

推奨処置: エラーの原因を判断するには、停止しているサービスのログおよびオペレーティングシステムのログ (Windows のイベントログ) を調べます。問題を解決した後に、停止しているサービスを再起動します。

nbvault のログの場所は次のとおりです。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/nbvault/`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nbvault`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 283

メッセージ: Vault レポートの生成中にエラーが発生しました (error(s) occurred during vault report generation)

説明: Vault のレポートの生成フェーズでエラーが発生しました。

推奨処置: ログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 284

メッセージ: Vault レポートの配布中にエラーが発生しました (error(s) occurred during vault report distribution)

説明: Vault のレポートの配布フェーズでエラーが発生しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- `vault.xml` ファイル内の電子メールアドレスの形式が不正であるなどの理由で、レポートが電子メールで送信されませんでした。
- Windows で、サードパーティのメールクライアント (Blat など) が正しく構成されていません。
- レポートの宛先ディレクトリが存在しないか、または宛先ディレクトリに適切な権限がありません。
- プリンタが正しく設定されていないか、または `vault.xml` 内のプリンタコマンドが不適切です。

推奨処置: ログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 285

メッセージ: Vault ディレクトリが見つかりません (unable to locate vault directory)

説明: このエラーは、Vault ジョブまたはコマンドでセッションの対象のディレクトリが存在しないか、破損している場合に戻されます。

推奨処置: Vault パッケージをマスターサーバー上にインストールすると、`Vault` ディレクトリが作成されます。Vault ジョブまたはコマンドが root ユーザーでマスターサーバー上で開始されていることを確認します。また、`Vault` ディレクトリが誤って削除されたり、root ユーザーからアクセスできなくなっていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 286

メッセージ: Vault 内部エラー (vault internal error)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 287

メッセージ: Vault の取り出しに失敗しました (vault eject failed)

説明: このエラーは、Vault セッションの実行中に取り出し対象として識別されているメディアの取り出しに失敗した場合に発生します。考えられる原因として、メディアおよびデバイスの管理サービスまたはロボットが停止しているか、メディアアクセスポート (MAP) に利用可能な空のスロットが存在しないなどがあります。

推奨処置: メディアおよびデバイスの管理サービスが実行中であること、ロボットが稼働中であること、およびメディアアクセスポート (MAP) に利用可能な空のスロットが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 288

メッセージ: Vault の取り出しは、部分的に成功しました (vault eject partially succeeded)

説明: このエラーは、Vault セッションの実行中に取り出し対象として識別されているメディアをすべて取り出せなかった場合に発生します。

考えられる原因は、次のとおりです。

- いくつかのメディアが NetBackup で使用されている。
- いくつかのメディアがドライブに存在する。
- メディアアクセスポート (MAP) の利用可能な空のスロットが不足している。

推奨処置: メディアがドライブにロードされていないこと、およびメディアが他のプロセスで使用されていないことを確認します。または、メディアアクセスポート (MAP) に利用可能な空のスロットが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 289

メッセージ: コンテナおよびスロットに基づいた Vault のセッションのレポートは統合できません (cannot consolidate reports of sessions from container and slot-based vaults)

説明: このエラーは、レポートの統合を行う際に、スロットを使用するセッションとコンテナを使用するセッションのレポートが統合されている場合に発生します。

推奨処置: スロットまたはコンテナのいずれかの Vault 操作のレポートだけを統合するように、レポートの統合を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 290

メッセージ: 取り出し処理中に、複数のエラーを検出しました (one or more errors detected during eject processing)

説明: このエラーは、vltopmenu を介した取り出し処理中に複数のエラーが発生した場合に発生します。取り出しが行われているセッションのいずれかで、291 から 300 の範囲の取り出しエラーが発生する場合があります。

推奨処置: 詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題を特定して修正した後、vlteject または vltopmenu を実行して、取り出されなかったメディアを手動で取り出すことが必要となる場合があります。

多くの場合、このエラーは、メディアがオフサイト Vault ボリュームグループに存在していても、物理的にはロボット内またはロボット MAP 内に存在していることを示します。

この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- オフサイト Vault ボリュームグループに存在するが、物理的にはまだロボットライブラリ内に存在しているすべてのメディアを手動で取り外す。
- ロボットライブラリのインベントリを実行する。インベントリによって、オフサイト Vault ボリュームグループに存在するすべてのメディアがロボットボリュームグループに戻されます。その後、失敗した Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 291

メッセージ: メディア数が MAP の許容サイズを超えました。vltopmenu、または vlteject を使用して、手動で取り出す必要があります。(number of media has exceeded capacity of MAP; must perform manual eject using vltopmenu or vlteject)

説明: このエラーは、自動取り出しモードを選択するプロファイルに対して Vault ジョブを実行したときに、取り出されるメディアの数が MAP の容量を超えると発生します。

推奨処置: vltopmenu を使用して、選択したプロファイルおよびセッション ID に対するメディアを手動で取り出します。vltopmenu では、MAP 内に存在するすべての (またはそれ以下の数の) 選択したメディアを一度に取り出しできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 292

メッセージ: 取り出し処理の開始に失敗しました (eject process failed to start)

説明: このエラーは、Vault ジョブ、vlteject コマンドまたは vltopmenu の使用によって取り出し処理を開始できない場合に発生します。

推奨処置: 問題について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/netbackup/logs/vault

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx *ディレクトリの* summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sid*xxx*

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sid*xxx*

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

robtest ユーティリティを使用して、Vault ロボットライブラリとの通信が可能であることを確認します。問題を解決した後、Vault セッション、vlteject コマンドまたは vltopmenu コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 293

メッセージ: 取り出し処理が異常終了しました (eject process has been aborted)

説明: このエラーは、取り出し処理が取り消された場合に発生します。このエラーは、Vault ジョブの実行中、あるいは vlteject または vltopmenu 取り出しコマンドで発生する場合があります。

このエラーは、次のいずれかの原因によって発生します。

- vmchange -verify_eject コールへのパイプを開くことができなかった。
- vmchange -verify_eject コールから予期せぬ出力が行われた。
- メディアの取り出し先の MAP 要素が存在しない。

- ロボットライブラリで、MAP へのメディアの配置で問題が発生した。
- ユーザーが、MAP からメディアを取り外さずに、対話モードで Return キーを押した。この場合、MAP に存在したメディアは、ロボットライブラリの元のスロットに戻されます。

推奨処置: 処理が取り消された理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:

`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合:

install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

多くの場合、このエラーは、メディアがオフサイト Vault ボリュームグループに存在していても、物理的にはロボット内またはロボット MAP 内に存在していることを示します。

この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- オフサイト Vault ボリュームグループに存在するが、物理的にはまだロボットライブラリ内に存在しているすべてのメディアを手動で取り外す。
- ロボットライブラリのインベントリを実行する。インベントリによって、オフサイト Vault ボリュームグループに存在するすべてのメディアがロボットボリュームグループに戻されます。その後、失敗した Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 294

メッセージ: Vault カタログバックアップに失敗しました (vault catalog backup failed)

説明: Vault ジョブの実行中にカタログバックアップの処理が失敗しました。

推奨処置: 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

カタログバックアップ (bpbackupdb) の失敗の原因となった実際の問題を確認するには、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題を修正し、Vault ジョブを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 295

メッセージ**:** 取り出しプロセスはロボットの情報を取得できませんでした。(eject process could not obtain information about the robot)

説明**:** このエラーは、取り出し処理で、ロボットライブラリおよび関連する MAP やボリュームの情報を収集できない場合に発生します。

推奨処置**:** 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/netbackup/logs/vault

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX および Linux の場合:
/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題を解決した後、Vault セッション、vltеject コマンドまたは vltopmenu 取り出しコマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 296

メッセージ**:** プロセスがコールされましたが、実行する対象がありません (process called but nothing to do)

説明**:** このエラーは、次の場合に発生します。

- -eject を使用して vlteject を呼び出したが、取り出すテープがシステムに存在しない。
- -eject を使用して vlteject を呼び出したが、取り出しはすでに完了している。
- -report を使用して vlteject を呼び出したが、レポートはすでに完了している。
- -eject および -report を使用して vlteject を呼び出したが、取り出しおよびレポートの両方がすでに完了している。

推奨処置: このエラーは情報メッセージであり、処置は不要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 297

メッセージ: すべてのボリュームを取り出しに利用できるわけではありません (all volumes are not available to eject)

説明: このエラーは、Vault セッション、vlteject コマンドまたは vltopmenu コマンドの取り出し処理で、存在しないメディア ID または不適切なメディア ID の取り出しが試行された場合に発生します。

考えられる原因は、次のとおりです。

- vlt_ejectlist_notify スクリプトを使用して、不適切なメディア ID が追加された。
- 不適切なメディア ID がすでに MAP に存在しているか、またはロボットライブラリに存在していない。
- 不適切なメディア ID がロボットドライブに存在している。
- 不適切なメディア ID がロボットライブラリで移動中である。

推奨処置: vlt_ejectlist_notify スクリプトから問題があるメディア ID を削除または修正し、Vault セッションを再度実行します。不適切なメディア ID が MAP かドライブに存在しているか、または移動中の場合、構成に誤りがあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 298

メッセージ: ライブラリは、ボリュームを取り出す準備ができていません (the library is not ready to eject volumes)

説明: このエラーは、ロボットライブラリがメディアの取り出しをサポートできない状態である場合に発生します。

考えられる原因は、次のとおりです。

- 現在、ライブラリがメディアを取り出している。
- ライブラリがメディアの取り出しを待機している。
- 現在、ライブラリがメディアを取り込んでいる。
- ライブラリがメディアの取り込みを待機している。

推奨処置: ロボットライブラリが取り出し操作をサポートできる状態になるまで待機して、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 299

メッセージ: 取り出しに使用できる MAP がありません (there is no available MAP for ejecting)

説明: Vault 処理を行っているロボットライブラリに、利用可能な MAP が存在せず、メディアを取り出しできません。

推奨処置: ロボットライブラリの MAP が利用可能になるまで待機して、Vault セッション、`vlteject` コマンドまたは `vltopmenu` コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 300

メッセージ: vmchange の取り出し検証の応答がありません (vmchange eject verify not responding)

説明: 取り出し処理中、要求されたすべてのボリュームが MAP に移動するまで、`-verify_eject` コールを使用して `vmchange` コマンドが呼び出されます。このコマンドコールが失敗しました。または、適切な情報が Vault 取り出し処理へ戻されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

  ```
  UNIX: /usr/openv/netbackup/logs/vault
  Windows: install_path¥NetBackup¥logs¥vault
  ```

- また、問題が発生した次の各 `sidxxx` ディレクトリの `summary.log` を参照してください。
  UNIX の場合:`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合:

install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

多くの場合、このエラーは、メディアがオフサイト Vault ボリュームグループに存在していても、物理的にはロボット内またはロボット MAP 内に存在していることを示します。この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- オフサイト Vault ボリュームグループに存在するが、物理的にはまだロボット内に存在しているすべてのメディアを手動で削除する。
- ロボットのインベントリを実行する。インベントリによって、オフサイト Vault ボリュームグループに存在するすべてのメディアがロボットボリュームグループに戻されます。その後、失敗した Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 301

メッセージ: vmchange api_eject コマンドは失敗しました (vmchange api_eject command failed)

説明: 取り出し処理中、メディアの取り出し処理を開始するために、-api_eject コールを使用して vmchange コマンドが呼び出されます。このコマンドコールが失敗しました。

推奨処置: 処理が失敗した理由について詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/vault

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX の場合:/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

問題が解決したら、Vault セッション、vlteject コマンドまたは vltopmenu コマンドを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 302

メッセージ: カタログのバックアップ (複数テープのカタログバックアップ) を試行して、エラーが発生しました (error encountered attempting backup of catalog (multiple tape catalog backup))

説明: このエラーは、2 段階のカタログバックアップの第 1 段階で使用された NetBackup コマンドが失敗した場合に発生します。

推奨処置: 失敗の原因となった実際のエラーについては、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥vault`

問題が発生した次の各 `sidxxx` ディレクトリの `summary.log` を参照してください。

UNIX の場合:`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx`

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

また、次のディレクトリの admin のデバッグログを参照してください。

```
UNIX: /usr/openv/netbackup/logs/admin
Windows: install_path¥NetBackup¥logs¥admin
```

問題を修正し、Vault セッションを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 303

メッセージ: Media Manager コマンドの実行中にエラーが発生しました (error encountered executing Media Manager command)

説明: このエラーは、Vault ジョブの実行中にメディアおよびデバイスの管理コマンドが失敗した場合に発生します。

推奨処置: コマンドの失敗の原因となった実際のエラーについては、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥vault`

また、問題が発生した次の各 `sidxxx` ディレクトリの `summary.log` を参照してください。

UNIX の場合:`/usr/openv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx`

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx

(ここで、*xxx* はセッション ID です。)

(ログファイルと同じ引数を使用して) コマンドの実行を試行して、実際のエラーを確認します。メディアおよびデバイスの管理デーモンが実行中であることを確認します。また、ロボットが機能しており、通信可能であることを (GUI を介したロボットのインベントリなどで) 確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 304

メッセージ: 指定したプロファイルが見つかりません (specified profile not found)

説明: このエラーは、Vault コマンドで指定されたプロファイル名が、Vault 構成に定義されていない場合に発生します。

推奨処置: Vault 構成に定義されているプロファイル名を指定して、Vault コマンドを再度実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 305

メッセージ: 複数のプロファイルが存在します (multiple profiles exist)

説明: このエラーは、複数の Vault 構成で重複するプロファイル名が定義されているとき、Vault コマンドにプロファイル名だけが指定されている場合に発生する可能性があります。

推奨処置: *robot_name*/*vault_name*/*profile_name* の 3 つの項目を指定して、Vault コマンドを再度実行します。これによって、Vault 構成のプロファイルが一意に識別されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 306

メッセージ: Vault の複製は、部分的に成功しました (vault duplication partially succeeded)

説明: このエラーは、選択したすべてのイメージが正常に複製されない場合に発生します。

推奨処置: vault ディレクトリの Vault ログと、admin ディレクトリの bpduplicate ログを確認してエラーの原因を探ってください。これらのログディレクトリは、UNIX の場合は /usr/openv/netbackup/logs、Windows の場合は *installed-dir*¥NetBackup¥logs¥ にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 307

メッセージ: 要求された Vault セッションの取り出し処理はすでに実行されています (eject process has already been run for the requested vault session)

説明: このエラーは、すでにメディアが取り出されたセッション ID のメディアを取り出すために vlteject を実行した場合に発生します。

推奨処置: メディアが取り出されていない別のセッション ID に対して、vlteject を再度実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 308

メッセージ: イメージは複製されていません (no images duplicated)

説明: このエラーは、Vault によるイメージの複製が失敗した場合に発生します。

推奨処置: 詳しくは、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/vault

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥vault

また、問題が発生した次の各 sidxxx ディレクトリの summary.log を参照してください。

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/vault/sessions/<vault_name/>sidxxx

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥vault¥sessions¥*vault_name*¥sidxxx

(ここで、*vault_name* は、Vault の名前です。また、*xxx* はセッション ID です。)

処理されたイメージの合計数を示すログエントリを調べます。失敗の一般的な原因は、リソースの不足 (複製に指定されたプールに利用可能なメディアが存在しないなど) です。問題を修正し、Vault ジョブを再度実行します。このエラーで終了した Vault ジョブは NetBackup スケジューラによって再試行されます。admin デバッグログと bptm デバッグログで複製に関するエントリを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 309

メッセージ: 取り出しを実行せずにレポートが要求されました (report requested without eject being run)

説明: このエラーは、最初にメディアの取り出しを必要とするレポートが実行された場合に発生します。

推奨処置: 次のいずれかの操作を実行します。

- レポートを生成する前に、`vlteject` または `vltopmenu` を実行して、セッションのメディアを取り出す。
- プロファイルを再構成して、このプロファイルの次の Vault セッションが実行されるときに取り出し手順を実行できるようにする。
- プロファイルでメディアの取り出しを必要とするレポートのレポート生成を無効にする。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 310

メッセージ: Media Manager データベースの更新に失敗しました (Updating of Media Manager database failed)

説明: このエラーは、Vault での物理的なテープの取り出しには成功したが、この取り出し操作を反映する EMM データベースの更新に失敗した場合に発生します。この失敗の一般的な原因は、EMM でメディア形式とそのボリュームグループの不一致が検出されたことです。

推奨処置: エラーの根本原因を判断するには、次のディレクトリの Vault のデバッグログを参照してください。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/logs/vault`

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥vault`

問題を解決するために、構成の変更が必要となる場合があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 311

メッセージ: このセッション用の Iron Mountain レポートはすでに作成されています (Iron Mountain Report is already created for this session)

説明: このエラーは、セッション用の Iron Mountain レポートがすでに作成されている場合に発生します。

推奨処置: なし。このレポートを再度生成することはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 312

メッセージ: 無効なコンテナデータベースエントリ (invalid container database entry)

説明: NetBackupVault によるコンテナデータベースの読み込み中に、無効なエントリが検出されました。コンテナデータベース内の各コンテナエントリは、想定された形式に従っている必要があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: コンテナデータベースにおける無効なレコードの行番号を取得するには、ディレクトリ netbackup/logs/vault のログファイルを参照してください。エラーが発生する前にディレクトリ netbackup/logs/vault が作成されていないと、Vault ログは作成されません。コンテナデータベースファイル cntrDB を開き、無効なエントリを修正します。無効なエントリを削除または修正しないかぎり、Vault が cntrDB のこのエントリを読み込むたびにこのエラーが発生します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 313

メッセージ: コンテナデータベースにコンテナが存在しません (container does not exist in container database)

説明: コンテナデータベース内に、指定されたコンテナのエントリが存在しません。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: このコンテナにメディアが含まれていることを vltcontainers コマンドを使用して確認します。メディアが vltcontainers -delete コマンドを使用して削除されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 314

メッセージ: コンテナデータベースの切り捨て処理に失敗しました (container database truncate operation failed)

説明: コンテナデータベースの切り捨て中にエラーが発生しました。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault のログファイルを参照してください。netbackup/logs/vault ディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 315

メッセージ: コンテナデータベースへの追加に失敗しました (failed appending to container database)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生する場合があります。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ *install_path*/netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 316

メッセージ: container_id はコンテナデータベースで一意ではありません (container_id is not unique in container database)

説明: NetBackup Vault によるコンテナデータベースへのエントリの追加中に、このコンテナ ID の既存のエントリがコンテナデータベース内に検出されました。コンテナデータベース内の各コンテナレコードには、一意のコンテナ ID が必要です。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 適切なコンテナ ID を指定していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 317

メッセージ: コンテナデータベースのクローズ操作に失敗しました (container database close operation failed)

説明: このエラーは、コンテナデータベースのクローズ中に発生します。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの読み込み、追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 318

メッセージ: コンテナデータベースのロック操作に失敗しました (container database lock operation failed)

説明: このエラーは、コンテナデータベースのロック中に発生します。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

コンテナデータベースが他の Vault 操作で使用中のためロックされている場合は、その操作が完了してコンテナデータベースのロックが解除されるまで待機してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 319

メッセージ: コンテナデータベースのオープン操作に失敗しました (container database open operation failed)

説明: このエラーは、コンテナデータベースのオープン中に発生します。このエラーは、コンテナデータベースのエントリの読み込み、追加、変更または削除中に発生する場合があります。コンテナデータベースは、install_path/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB 内に存在します。

推奨処置: 詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 320

メッセージ: 指定されたコンテナは空ではありません (the specified container is not empty)

説明: まだメディアを保持しているコンテナをコンテナデータベースから削除しようとすると、このエラーが発生します。削除できるのは空のコンテナだけです。

推奨処置: 適切なコンテナ ID を指定していることを確認します。

このコンテナをコンテナデータベースから削除する場合は、まず、次のいずれかを実行してコンテナデータベースを空にします。

- コンテナデータベースに含まれているすべてのメディアをロボットに取り込みます。
- 値 - を使用して vmchange -vlt cid を実行し、メディアの Vault コンテナ ID フィールドを EMM データベースから消去します。

その後、コンテナを再度削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 321

メッセージ: 指定されたロボットのメディアをコンテナに入れることができません (container cannot hold any media from the specified robot)

説明: このエラーは、想定外の EMM データベースホストのメディアをコンテナに入れようとしたときに発生します。コンテナに入れるメディアはすべて、同じ EMM データベースホストに属している必要があります。たとえば、ある EMM データベースホストに属するロボットのメディアがあるとします。このメディアを、別の EMM データベースホストに属するロボットのメディアをすでに保持しているコンテナに入れようとすると、このエラーが発生します。

推奨処置: 適切なコンテナ ID およびメディア ID を指定していることを確認します。詳しくは、ディレクトリ *install_path*/netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 322

メッセージ: Vault 構成ファイルに Vault が見つかりません (cannot find vault in vault configuration file)

説明: NetBackupVault で、指定した Vault 名のエントリが Vault 構成ファイル内に検出されません。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: 適切な Vault 名を指定していることを確認します。詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 323

メッセージ: Vault 構成ファイルにロボットが見つかりません (cannot find robot in vault configuration file)

説明: NetBackup Vault で、指定したロボット番号のエントリが Vault 構成ファイル内に検出されません。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: 適切なロボット番号を指定していることを確認します。詳しくは、ディレクトリ netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 324

メッセージ: 複製用の保持マップファイルに無効なデータが見つかりました (invalid data found in retention map file for duplication)

説明: このエラーは、(一般または特定の Vault 用のいずれかの) 保持マップファイルに無効なデータが存在する場合に発生します。ファイル内にデータが多すぎたり少なすぎるか、またはユーザーがファイル内に無効な保持レベルを定義した場合に、このエラーが発生します。

Vault プロファイルの複製が、複製用コピーの 1 つに対して構成されている[マッピングを使用する (Use mappings)]の保持レベルで構成されている場合、保持マップファイルが Vault セッションで使用されます。製品によって、retention_mappings という名前のマップファイルのテンプレートが *install_path*/netbackup/db/vault にインストールされます。

1 つの Vault に対して特定のマップファイルを使用するには、retention_mappings テンプレートを別のファイルにコピーし、Vault の名前をその後ろに付けます。たとえば、/usr/openv/netbackup/db/vault/retention_mappings.V1 のようになります。

推奨処置: retention_mappings ファイルのエントリを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 325

メッセージ: 保持マッピングを使用してイメージのポリシー / スケジュールを検出することができません (unable to find policy/schedule for image using retention mapping)

説明: このエラーは、Vault によるイメージのバックアップポリシーまたはスケジュールの複製で発生します。[プロファイル (Profile)]ダイアログボックスの[複製 (Duplication)]タブで[マッピングを使用する (Use mappings)]オプションが選択されていますが、ポリシーまたはスケジュールは存在しません。

推奨処置: イメージを作成したバックアップポリシーまたはスケジュールがまだ存在するかどうかを確認します。これらのいずれか一方または両方が存在しない場合は、Vaultプロファイルを使用したイメージの複製は実行されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 326

メッセージ: 指定されたファイルに、有効なエントリがありません (specified file contains no valid entry)

説明: 指定したファイルには、メディア ID またはそれに相当するバーコードの英数字の有効なエントリがありません。通常、各行には、想定される形式に従って、メディア ID またはそれに相当するバーコードの英数字のいずれかを表す文字列が 1 つだけ存在します。

推奨処置: 指定したファイルの各エントリは、メディア ID の場合には 6 文字、それに相当するバーコードの数値の場合には 16 文字という文字列のサイズ制限を超えていないことを確認します。指定したファイル内の無効なエントリを修正して、同じ操作を再試行します。詳しくは、ディレクトリ *install_path*/netbackup/logs/vault の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 327

メッセージ: 指定された Vault セッションのために取り出されたメディアがありません (no media ejected for the specified vault session)

説明: このエラーは、指定した Vault セッションで取り出されたメディアをコンテナに移動しているときに発生します。指定した Vault セッションでメディアが取り出されていないか、または誤った Vault 名またはセッション ID を指定したかのいずれかです。

推奨処置: Vault 名とセッション ID の正しい組み合わせを指定していることを確認します。指定した Vault セッションで少なくとも 1 つのメディアが取り出されていることを確認します。詳しくは、ディレクトリ `netbackup/logs/vault` の関連ログファイルを参照してください。エラーが発生する前に上記のディレクトリが作成されていないと、ログファイルは作成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 328

メッセージ: コンテナ ID が無効です (invalid container ID)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。コンテナ ID が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*`/netbackup/vault/sessions/cntrDB` のファイル `cntrDB` に存在することに注意してください。

推奨処置: コンテナ ID に空白文字が含まれず、文字列のサイズが最大 29 文字であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 329

メッセージ: 再呼び出し状態が無効です (invalid recall status)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。コンテナの再呼び出し状態が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*`/netbackup/vault/sessions/cntrDB` のファイル `cntrDB` に存在することに注意してください。

推奨処置: 再呼び出し状態が 1 または 0 のいずれかであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 330

メッセージ: 無効なデータベースホスト (invalid database host)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。EMM データベースホスト名が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB に存在することに注意してください。

推奨処置: EMM データベースホスト名に空白文字が含まれず、文字列のサイズが最大 256 文字であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 331

メッセージ: コンテナの説明が無効です (invalid container description)

説明: このエラーは、コンテナデータベースへのコンテナレコードの追加中に発生します。コンテナの説明が無効であることが検出されました。コンテナデータベースは、*install_path*/netbackup/vault/sessions/cntrDB のファイル cntrDB に存在することに注意してください。

推奨処置: コンテナの説明の文字列のサイズが最大 25 文字であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 332

メッセージ: EMM データベースから情報を取得する際にエラーが発生しました (error getting information from EMM database)

説明: このエラーは、バックアップ処理で情報を取得するために EMM データベースへの通信を行ったときに発生する可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合、NetBackup Volume Manager デーモン (vmd) が実行中であることを確認します。Windows の場合、NetBackup Volume Manager サービスが実行中であることを確認します。
- プロセス固有のエラーログディレクトリで詳細を確認します。
  UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/process_name
  Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥process_name
  たとえば、Vault コマンド (vltcontainers や vltopmenu など) の実行時にこのエラーが発生した場合は、/usr/openv/netbackup/logs/vault 内のログを参照して、エラーの原因を判断します。

メモ: エラーが発生する前に適切なログディレクトリ (`/usr/openv/netbackup/logs/vault` など) が作成されていないと、ログファイルは作成できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 333

メッセージ: Media Manager のコマンドラインから情報を取得する際にエラーが発生しました (error getting information from media manager command line)

説明: このエラーは、Vault でロボット情報 (マッピング情報、ボリューム情報、ライブラリの状態など) を取得できない場合に発生します。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 334

メッセージ: ロボットから応答を受信することができません。ロボットの準備ができていません。(unable to receive response from robot; robot not ready)

説明: このエラーは、ロボットに問題がある場合に発生します。

推奨処置: すべてのメディアおよびデバイスの管理デーモンが実行中であること、またはロボットが稼働中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 335

メッセージ: メディアを取り出すための一時停止処理中にエラーが発生しました (failure occurred while suspending media for eject)

説明: このエラーは、Vault でメディアを一時停止できない場合に発生します。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 336

メッセージ: セッション情報を更新中にエラーが発生しました (failure occurred while updating session information)

説明: Vault でセッションファイルを更新できません。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 337

メッセージ: eject.mstr ファイルを更新中にエラーが発生しました (failure occurred while updating the eject.mstr file)

説明: Vault で取り出しリストファイルを更新できません。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 338

メッセージ: Vault の取り出しでタイムアウトが発生しました (vault eject timed out)

説明: このエラーは、ロボットに問題がある場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- MAP に空きがない場合は、MAP からメディアを取り外します。
- MAP が正しく閉じられていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 339

メッセージ: Vault 構成ファイルのフォーマットエラー (vault configuration file format error)

説明: Vault 構成ファイルの形式が不正です。ファイルを手動で変更していない場合、これは内部エラーです。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 340

メッセージ: Vault 構成タグが見つかりません (vault configuration tag not found)

説明: 任意の属性が Vault 構成ファイルに存在しない可能性があります。通常、この内部エラーで Vault の操作に問題が発生することはありません。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: Vault の操作が影響を受けている場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 341

メッセージ: Vault 構成のシリアル化に失敗しました (vault configuration serialization failed)

説明: Vault で、Vault 構成ファイルを書き出せませんでした。これは内部エラーです。Vault 構成ファイルは、*install_path*/netbackup/db/vault/vault.xml に存在します。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 342

メッセージ: 変更できません - ビューは最新ではありません (cannot modify - stale view)

説明: このエラーは、管理インターフェース ([NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]または[Vault 管理 (Vault Administration)]メニューのユーザーインターフェース) で次の内容を変更しようとした場合に発生する可能性があります。

- 読み込み中のロボット、Vault またはプロファイル
- 同じロボットまたは Vault の操作
- 別のインスタンスの管理インターフェースによるプロファイル

推奨処置: ロボット、Vault またはプロファイルの最新の属性を確認します。確認するには、[NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]のビューを更新するか、[Vault 管理 (Vault Administration)]メニューのユーザーインターフェースで属性を再度取得します。その後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 343

メッセージ: ロボットはすでに存在しています (robot already exists)

説明: このエラーは、ロボットの追加時に同じ名前のロボットがすでに存在している場合に発生する可能性があります。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールのビューを更新するか、Vault 管理のメニュー方式のユーザーインターフェースで属性を再度取得し、ロボットを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 344

メッセージ: Vault はすでに存在しています (vault already exists)

説明: このエラーは、Vault の追加時に同じ名前の Vault がロボット内にすでに存在している場合に発生する可能性があります。

推奨処置: Vault に異なる名前を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 345

メッセージ: プロファイルはすでに存在しています (profile already exists)

説明: このエラーは、プロファイルの追加時に同じ名前のプロファイルが Vault 内にすでに存在している場合に発生する可能性があります。

推奨処置: プロファイルに異なる名前を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 346

メッセージ: MAP の複製 (duplicate MAP)

説明: MAP の複製が Vault 構成ファイルに追加されました。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 347

メッセージ: Vault 構成キャッシュは初期化されていません (vault configuration cache not initialized)

説明: このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 348

メッセージ: 指定されたレポートは存在しません (specified report does not exist)

説明: 無効な Vault レポートの生成が要求されました。これは内部エラーです。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 349

メッセージ: カタログバックアップポリシーが不正です (incorrect catalog backup policy)

説明: このエラーは、Vault セッションでカタログバックアップを実行しようとした場合に発生する可能性があります。Vault プロファイルでカタログバックアップ用に指定されているポリシーが空白であるか、または NBU-Catalog 形式ではありません。

推奨処置: Vault プロファイルでカタログバックアップ用のカタログバックアップポリシーが指定されていること、およびポリシーが NBU-Catalog 形式であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 350

メッセージ: Vault カタログバックアップスケジュールが不正です (incorrect vault catalog backup schedule)

説明: このエラーは、Vault セッションでカタログバックアップを実行しようとした場合に発生する可能性があります。Vault プロファイルでカタログバックアップ用に指定されている Vault カタログバックアップスケジュールが空白であるか、または Vault カタログバックアップ形式ではありません。

推奨処置: Vault プロファイルでカタログバックアップ用の Vault カタログバックアップスケジュールが指定されていることを確認します。また、スケジュールが Vault カタログバックアップ形式であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 351

メッセージ: Vault のすべての構成済みの手順が失敗しました (all configured vault steps failed)

説明: このエラーは、セッションに複数の Vault の手順が構成されていて、これらのすべての手順が失敗した場合に発生します。

推奨処置: 複製およびカタログバックアップの手順の場合は、アクティビティモニターを使用して、Vault で開始された各ジョブの状態を確認します。取り出しの手順の状態については、Vault ジョブの[ジョブの詳細 (Job Details)]ダイアログボックスの[状態の詳細 (Detailed Status)]タブで確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 400

メッセージ: サーバーグループ形式が無効です (Server Group Type is Invalid)

説明: サーバーグループ形式が無効であるため、サーバーグループを作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 有効なサーバーグループ形式 (MediaSharing、、または AltServerRestore) を選択します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については統合ログを使用するnbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 401

メッセージ: サーバーグループはすでに存在しています (Server Group Already Exists)

説明: サーバーグループの作成を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループはすでに存在しています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したサーバーグループ名が使用中でないことを確認します。
- 現在使用されていない名前を指定して、サーバーグループを作成します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 402

メッセージ: サーバーグループは、異なる形式としてすでに存在しています (Server Group Already Exists with a different type)

説明: サーバーグループの作成を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループ名は、異なるグループ形式のサーバーグループによってすでに使用されています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したサーバーグループ名が使用中でないことを確認します。
- 現在使用されていない名前を指定して、サーバーグループの作成を試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 403

メッセージ: サーバーグループのアクティブな状態は無効です (Server Group Active State is not valid)

説明: サーバーグループの作成を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループの状態が無効でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 有効なサーバーグループの状態は、ACTIVE および INACTIVE です。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 404

メッセージ: サーバーグループは存在しません (Server Group does not exist)

説明: 存在しないサーバーグループを使用して操作が試行されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したメディアが正しいことを確認します。
- メディアの所有権を確認します。
- サーバーグループが存在することを確認します。
- 操作が実行されるサーバーが、所有しているサーバーグループに含まれていることを確認します。含まれていない場合、所有しているサーバーグループに含まれているサーバーから操作を試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 405

メッセージ: メンバーのサーバー形式はサーバーグループと互換性がありません (Member's server type not compatible with Server Group)

説明: サーバーグループの追加または更新を試行しましたが、失敗しました。メンバーのサーバー形式は、指定されたサーバーグループ形式で無効でした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- メディア共有サーバーグループには、マスター、メディア、NDMP、およびクラスタの各サーバー形式を含めることができます。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 406

メッセージ: 指定されたコンピュータは、指定されたサーバーグループのメンバーではありません (The computer specified is not a member of the server group specified)

説明: メディアを所有するサーバーグループに含まれていないサーバーが、メディアに対して操作を実行しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したメディアが正しいことを確認します。
- メディアの所有権を確認します。
- 操作が実行されるサーバーが、所有しているサーバーグループに含まれていることを確認します。含まれていない場合、所有しているサーバーグループに含まれているサーバーから操作を試行します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 407

メッセージ: メンバーの NetBackup バージョンはサーバーグループと互換性がありません (Member's version not compatible with Server Group)

説明: サーバーグループの追加または更新を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループのいずれかのメンバーの NetBackup バージョンが、指定されたサーバーグループ形式で無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 各メンバーサーバーに、指定したサーバーグループ形式の有効な NetBackup バージョンがあることを確認します。

- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 408

メッセージ: サーバーグループは使用中です (Server Group is in use)

説明: サーバーグループの削除を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループが 1 つ以上のメディアを所有しています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーから `bpmedialist -owner group_name` を実行し、サーバーグループがいずれのメディアも所有していないことを確認します。
- 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、admin のデバッグログディレクトリを作成して、操作を再試行します。デバッグログの結果を確認します。追加デバッグ情報については、nbemm (オリジネータ ID 111 および 143) のログを確認します。このプロセスは統合ログを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 409

メッセージ: メンバーがサーバーグループ内にすでに存在しています (Member already exists in server group)

説明: サーバーグループの追加または更新を試行しましたが、失敗しました。サーバーグループのいずれかのメンバーと同じサーバーを追加しようとしています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 追加しようとしているサーバーグループのメンバーがすでにグループ内に存在していないことを確認します。
- この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 410

メッセージ: この名前のバックアップホストプールはすでに存在します。(A backup host pool with this name already exists.)

説明: 同じ名前のバックアップホストプールがすでに存在します。

推奨処置: バックアップホストプールに一意の名前を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 411

メッセージ: バックアップホストプールのグループの状態が有効ではありません。(The backup host pool group state is not active.)

説明: バックアップホストプールを作成するときは、グループの状態が有効である必要があります。

推奨処置: バックアップホストプールを作成するときに、パラメータ値として `-grpstate ACTIVE` を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 412

メッセージ: バックアップホストプールが存在しません。(The backup host pool does not exist.)

説明: 指定されたバックアップホストプール名が存在しません。

推奨処置: `nbsvrgrp -list` コマンドを使用して、バックアップホストプールが存在するかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 413

メッセージ: バックアップホストプールにホストエントリがすでに存在します。(The host entry in the backup host pool already exists.)

説明: バックアップホストプールにホストエントリがすでに存在します。

推奨処置: 指定されたホストはすでにバックアップホストプールの一部になっています。ユーザー操作は必要ありません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 501

メッセージ: このアプリケーションを使用する権限がありません。(You are not authorized to use this application.)

説明: ユーザーが、ログインダイアログボックスで指定されたホストの NetBackup Java 管理ユーティリティのいずれかを使用する権限を所有していません。

推奨処置: NetBackup Java ログインダイアログボックスで指定したホストの `auth.conf` ファイルで、適切な権限の有無を確認します。`auth.conf` ファイルが存在しない場合、ユーザー名の適切なエントリを使用してファイルを作成する必要があります。`auth.conf` ファイルについて、詳細を参照できます。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 502

メッセージ: ユーザー名 *username* の認可エントリが auth.conf ファイルに存在しません。(No authorization entry exists in the auth.conf file for user name username.)NetBackup-Java アプリケーションを利用できません。(None of the NB-Java applications are available to you.)

説明: ユーザー名が、ログオンダイアログボックスで指定されたホストの NetBackup Java アプリケーションを使用する権限を所有していません。

推奨処置: NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定したコンピュータ (ホスト名) の `auth.conf` ファイルで、適切な権限の有無を確認します。ファイルが存在しない場合、ユーザー名の適切なエントリを使用してファイルを作成します。`auth.conf` ファイルについて、詳細を参照できます。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 503

メッセージ: 無効なユーザー名です (Invalid user name)

説明: UNIX ホストへのログオンの場合、ログオンが要求されたホストの NetBackup Java アプリケーションサーバーでユーザー名が認識されていません。

Windows ホストへのログオンの場合、ログオンが要求されたホストの NetBackup Java 認証サービスに、要求を許可する権限がありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX ホストの場合、ユーザー名は、ログオンダイアログボックスで指定したホストの passwd ファイルに含まれる有効なユーザー名である必要があります。
- Windows ホストの場合、『プラットフォーム SDK ドキュメント』の「クライアント/サーバーアクセス制御」の章の LogonUser 関数を参照して、必要な権限を判断します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 504

メッセージ: パスワードが不正です。(Incorrect password.)

説明: UNIX ホストへのログオンの場合、ログオンが要求されたホストでユーザー名は認識されていますが、入力されたパスワードが正しくありません。

Windows ホストへのログオンの場合、ユーザーのログオンに失敗しました。この失敗は、指定されたドメインでユーザーが認識されないために発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 正しいパスワードを入力します。
- Windows ホストの場合、bpjava-msvc ログファイルで正確なエラー内容を確認できます。

詳しくは、『プラットフォーム SDK ドキュメント』の「クライアント/サーバーアクセス制御」の章の LogonUser 関数を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 505

メッセージ: 構成ポート (*port_number*) のホスト上の NetBackup Java 認証サービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java authentication service on host on the configured port - (port_number)) 詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明: NetBackup Java インターフェースからホスト (*host*) 上の認証サービスへの初期接続は、エラーメッセージに示されている構成ポート (port_number) で行われましたが、そのポートは他のアプリケーションによって使用されているか、NetBackup Java インターフェースとそのアプリケーションサーバーが同じポートに構成されていません。デフォルトのポートは 13722 です。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合、bpjava-msvc ファイルの bpjava-msvc エントリと、/usr/openv/java/nbj.conf ファイルの BPJAVA_PORT エントリを比較します。
  Windows の場合、bpjava-msvc エントリを %systemroot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイル内で *install_path*¥java¥setconf.bat ファイル (Windows) と比較します。これらのエントリは一致している必要があります。
- 他のアプリケーションによって、NetBackup Java インターフェース用に構成されているポートが使用されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 506

メッセージ: ポート *port_number* 上の *host* の NetBackup Java ユーザーサービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java user service on host on port port_number.) すでに正常にログインしている場合は、同じ操作をもう一度実行してください。(If successfully logged in before, retry your last operation.) 詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明: NetBackup Java 認証サービスによってユーザー名が検証されると、NetBackup Java インターフェースからの他のすべてのサービス要求に NetBackup Java ユーザーサービスが使用されます。NetBackup Java インターフェースとホスト (*host*) のユーザーサービスの間の通信が、エラーメッセージに示されているポート番号で試行されました。各種ポート構成オプションについて、詳細情報を参照できます。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

- UNIX の場合: ポート構成オプションは、/usr/openv/netbackup/bp.conf ファイルに指定されているか、またはNetBackup 管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)]を使って指定されています。
- Windows の場合: NetBackup 管理コンソールで、[ホストプロパティ (Host Properties)]を選択します。[処理 (Actions)]メニューから[プロパティ (Properties)]を選択します。[ポートの範囲 (Port Ranges)]タブにポートオプションが含まれています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Java インターフェースを再起動して、再度ログインします。
- 問題が解決しない場合、詳細なデバッグログを有効にします。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 507

メッセージ: NetBackup Java ユーザーサービスへのソケットの接続が解除されました。(Socket connection to the NetBackup Java user service has been broken.) 最後の操作を再試行してください。(Retry your last operation.) 詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明: ログインした NetBackup ホストで実行中の NetBackup Java アプリケーションサーバーへの接続が切断されました。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 最後に行った操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、Media Manager のデバッグログをより高いレベルに設定します。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

メモ: NetBackup とは関係のない問題がネットワークまたはシステムに存在する場合があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 508

メッセージ: ファイルを書き込むことができません (Cannot write file.)

説明: このエラーの原因は、次のいずれかです。

- NetBackup Java ユーザーサービスで、書き込み権限がないファイルへの書き込みが試行されました。解決するには、書き込み権限を有効にします。
- NetBackup Java ユーザーサービスで、一意の名前を構成できない一時ファイルへの書き込みが試行されました。この状況はまれですが、システムリソースが不足すると (ネームスペースに空きがなくなると) 発生する場合があります。

推奨処置: ユーザーサービスのログファイルから詳細を入手します。

Media Manager のデバッグログを上位レベルに設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 509

メッセージ: プログラムを実行できません (Cannot execute program.)

説明: NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスによって、ジョブの子プロセスの作成 (または終了) に関連したエラーが通知されました。NetBackup Java サービスプログラムでは、特定のタスクを実行するために、別々のジョブが次のとおり作成されます。NetBackup Java 認証サービスが NetBackup Java ユーザーサービスを作成します。NetBackup Java ユーザーサービスが作成されて接続されると、NetBackup Java インターフェースからの要求のために、Java ユーザーサービスによって他のすべての子プロセスが作成されます。

状態コード 509 の原因は、bpjava-msvc、bpjava-susvc または bpjava-usvc のいずれか該当するログファイルで確認できます。

原因は、次のいずれかです。

- (NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスのいずれかによって開始された) ジョブが存在しなくなったため、終了状態が通知されなかった。
- (NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスのいずれかによって開始された) ジョブを、NetBackup Java サービスで監視できない。多くの場合、ジョブを監視できない原因は、システムリソース不足 (メモリ不足) です。
- 最大数 (101 以上) の一時的でないアクティビティモニタージョブがすでに開始されている。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「 のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログを有効にすると、bpjava-msvc、bpjava-susvc または bpjava-usvc のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 510

メッセージ: ファイルはすでに存在します: *file_name* (File already exists: file_name)

説明: NetBackup Java ユーザーサービスで、すでに存在するファイルの作成が試行されました。

推奨処置: ファイルを削除します。ファイルは、ユーザーサービスのログファイルに示されます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「NetBackup 管理コンソールのエラーメッセージのトラブルシューティング」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 511

メッセージ: NetBackup Java アプリケーションサーバーインターフェースのエラー。(NB-Java application server interface error.)

説明: 場合によっては、次のメッセージが表示される場合もあります。

```
Check the log file for more details.
```

このエラーは、すべてのソケット以外の I/O 関連エラーまたは接続の切断に関するエラー (状態コード 507) の一般的なエラーで、NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスからデータが処理される場合に発生する可能性があります。Java の例外では、エラーに関する詳細な追加情報が提供されます。

このエラーは、通常、システムまたはネットワークに問題があるために発生します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログを有効にすると、`bpjava-msvc`、`bpjava-susvc` または `bpjava-usvc` のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 512

メッセージ: 内部エラー - 終了状態コードを含まない、誤った状態パケットが、NetBackup Java アプリケーションサーバーによって戻されました。(Internal error - a bad status packet was returned by NetBackup Java application server that did not contain an exit status code.)

説明: エラーを示すデータパケットが NetBackup Java 認証サービスまたはユーザーサービスによって戻されましたが、状態コードまたはエラーメッセージが含まれていませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログを有効にすると、`bpjava-msvc`、`bpjava-susvc` または `bpjava-usvc` のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 513

メッセージ: bpjava-msvc: クライアントには、このサーバーのバージョン (*server_version*) との互換性がありません (bpjava-msvc: the client is not compatible with this server version (server_version))

説明: (ログインしているリモートホストの) NetBackup Java アプリケーションサーバーのバージョンが、ローカルホストの NetBackup Java インターフェースのバージョンと異なります。そのため、この 2 つには互換性がありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 別の NetBackup リモートホストにログインします。
- ログオンダイアログボックスで指定したコンピュータまたは NetBackup-Java インターフェースを起動したローカルホストのいずれかで、NetBackup ソフトウェアをアップグレードします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 514

メッセージ: NetBackup Java: bpjava-msvc には、このバージョン (*application_version*) のアプリケーションとの互換性がありません。(NetBackup-Java: bpjava-msvc is not compatible with this application version (application_version).) 別の NetBackup ホストへのログインを試みるか、アプリケーションを終了してください。(The remote NetBackup host has to be configured with the same version of NetBackup as the host you started the application on.)

説明: 場合によっては、次のメッセージが表示される場合もあります。

```
Check the log file for more details.
```

(ログインしているリモートホストの) NetBackup Java アプリケーションサーバーのバージョンが、ローカルホストの NetBackup Java インターフェースのバージョンと異なります。そのため、この 2 つには互換性がありません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 別の NetBackup リモートホストにログインします。
- ログオンダイアログボックスで指定したコンピュータまたは NetBackup-Java インターフェースを起動したローカルホストのいずれかで、NetBackup ソフトウェアをアップグレードします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 516

メッセージ: 要求されたロケール - (*locale_NetBackup Java_was_started_in*) を認識できないか、初期化できませんでした。(Could not recognize or initialize the requested locale - (locale_NetBackup Java_was_started_in).)

説明: この状態コードは、NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定されたホストで定義されている UNIX のロケール構成 (または Windows の地域設定) に関連します。ロケール構成は、ログオン時に NetBackup Java 認証サービスに渡されます。状態コード 516 は、ロケールが認識されない場合またはユーザーサービスのロケールを初期化できない場合に生成されます。

有効なロケールは、UNIX の `/usr/openv/msg/.conf` ファイルと Windows の *install_path*`¥msg¥lc.conf` ファイル内の規則によって認識されます。ロケールが確認されると、ユーザーサービス環境のロケールの初期化が (`setlocale` を使用して) 試行されます。

推奨処置: NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定したホストで、構成ファイルを参照して、指定したロケールでマッピングが利用可能であることを確認します。

ロケールの構成およびマッピングについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

マッピングが存在する場合、NetBackup Java ログオンダイアログボックスで指定したホストで、マッピングされているロケールの設定を試みます。このシステムは、適切に構成できない場合もあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 517

メッセージ: ポート *configured_port_number* のホストの VNETD を介して NetBackup Java ユーザーサービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java user service by VNETD on host on port configured_port_number.) すでに正常にログインしている場合は、最後の操作を再試行してください。(If successfully logged on beforehand, retry your last operation.) 詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明: NetBackup Java 認証サービスによってログオンダイアログボックスのユーザー名のアクセス権が検証されると、管理コンソールのすべてのサービス要求で NetBackup Java ユーザーサービスが使用されます。管理コンソールとユーザーサービスの間の通信が、VNETD を使用して、エラーメッセージに示されているポート番号でホスト (host) に対して試行されました。(NetBackup Java 構成オプション NBJAVA_CONNECT_OPTION が 1 に設定されています)。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合: `/etc/services` ファイルの VNETD エントリと、`/usr/openv/java/nbj.conf` ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  Windows の場合: VNETD エントリと *`install_path`*`¥java¥setconf.bat` ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  これらのエントリは一致している必要があります。
- 他のアプリケーションが VNETD 用に構成されたポートを使用していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 518

メッセージ: NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW 構成オプションで、(*port_number*) から (*port_number*) の範囲に利用可能なポートが存在しません。(No ports available in range (port_number) through (port_number) per the NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW configuration option.)

説明: 指定された範囲のすべてのポートは使用中です。NetBackup Java インターフェースの (並列実行) ユーザーが多すぎるか、または構成されているポートが少なすぎると、このエラーが発生する可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合、`/usr/openv/java/nbj.conf` ファイル (UNIX の場合) または *install_path*¥java¥setconf.bat ファイル (Windows の場合) の NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW オプションを変更して、ポートの範囲を広げます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 519

メッセージ: NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW 構成オプションの無効な値: (*option_value*) (Invalid NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW configuration option value: (option_value).)

説明: NetBackup Java 構成オプション NBJAVA_CLIENT_PORT_WINDOW の値が無効です。

推奨処置: `/usr/openv/java/nbj.conf` ファイル (UNIX の場合) または *install_path*¥java¥setconf.bat ファイル (Windows の場合) の値を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 520

メッセージ: NetBackup Java 構成オプション (*option_name*) の無効な値: (*option_value*)。(Invalid value for NetBackup Java configuration option (option_name): (option_value).)

説明: 指定された NetBackup Java 構成オプションの値が無効です。

推奨処置: `/usr/openv/java/nbj.conf` ファイル (UNIX の場合) または *install_path*¥java¥setconf.bat ファイル (Windows の場合) の値を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 521

メッセージ: NetBackup Java 構成ファイル (*file_name*) は存在しません。(NetBackup Java Configuration file (file_name) does not exist.)

説明: NetBackup Java インターフェースの構成ファイルが見つかりませんでした。

推奨処置: NetBackup Java インターフェースの構成ファイルが存在し、適切な形式であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 522

メッセージ: 次のエラーのために、NetBackup Java 構成ファイル (*file_name*) を読み取れません: (*message*)。(NetBackup Java Configuration file (file_name) is not readable due to the following error: (message).)

説明: 指定された NetBackup Java 構成ファイルは存在しますが、読み取れません。

推奨処置: メッセージの指示に従ってファイルを修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 523

メッセージ: NetBackup-Java アプリケーションサーバープロトコルのエラー。(NB-Java application server protocol error.)

説明: 場合によっては、次のメッセージが表示される場合もあります。

```
Check the log file for more details.
```

NetBackup Java インターフェースが、アプリケーションサーバーから不適切な形式のプロトコルシーケンスを受信しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 問題が解決しない場合、NetBackup Java インターフェースを再起動して、再試行します。
- それでも問題が解決しない場合は、次の項で説明するとおり、詳細なデバッグログを有効にします。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NetBackup Java インターフェースを再起動して、ログを調べます。

メモ: 多くの場合、このエラーは、システムリソースの問題によって発生します。詳細なデバッグログ ID を有効にすると、bpjava-msvc、bpjava-susvc, または bpjava-usvc のログファイルから詳細な情報を入手できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 525

メッセージ: ポート (*vnetd_configured_port_number*) で (*host*) 上の VNETD を介して NetBackup Java 認証サービスに接続できません。(Cannot connect to the NetBackup Java authentication service by VNETD on (host) on port (vnetd_configured_port_number).) 詳しくは、ログファイルを確認してください。(Check the log file for more details.)

説明: NetBackup Java 認証サービスは、ログオンダイアログボックスに入力されたユーザー名の認証を行います。NetBackup 管理コンソールと認証サービスの間の通信が、エラーメッセージに示されている構成された VNETD ポート番号でホスト (*host*) に対して試行されました。このエラーの詳細は、NetBackup 管理コンソールのログファイルに記録されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- UNIX の場合: /etc/services ファイルの VNETD エントリと、/usr/openv/java/nbj.conf ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  Windows の場合: VNETD エントリと *install_path*¥java¥setconf.bat ファイルの VNETD_PORT エントリを比較します。
  これらのエントリは一致している必要があります。
- 他のアプリケーションが VNETD 用に構成されたポートを使用していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 526

メッセージ: bpjava 認証サービスに接続できません (bpjava authentication service connection failed)

説明: ポート 1556 (デフォルト) で NetBackup PBX を介して bpjava 認証サービスに接続できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ターゲットサーバーが無効なバージョンの NetBackup を実行している場合、Java GUI は VNETD ポート 13724 でさらに接続を試みます。処置は必要ありません。

- PBX サービスかデーモンがサーバーで起動されていること、そして NetBackup サービスが動作していることを確認します。
- Java GUI のプロパティ (`java/nbj.conf`) が 1556 以外の PBX ポートに接続するように設定されているかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 527

メッセージ: ポート 1556 で pbx を使用して bpjava ユーザーサービスに接続できません (bpjava user service connection if connection to pbx on port 1556 fails)

説明: ポート 1556 (デフォルト) で NetBackup PBX を使用して bpjava ユーザーサービスに接続できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- PBX サービスかデーモンがサーバーで起動されていること、そして NetBackup サービスが動作していることを確認します。
- ターゲットサーバーが無効なバージョンの NetBackup を実行している場合、Java GUI は VNETD ポート 13724 でさらに接続を試みます。処置は必要ありません。
- Java GUI のプロパティ (`java/nbj.conf`) が 1556 以外の PBX ポートを試行するように変更されているかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 537

メッセージ: NetBackup データベースへの接続が失敗しました。データベースサービスが実行されていることを確認します。

説明: アカウントのロックアウトオプションを有効にする場合は、NetBackup データベースサービスを実行している必要があります。

推奨処置: NetBackup データベースサービスを開始します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 538

メッセージ: ログインできません (unable to login)

説明: ホスト上の bpjava ユーザーに接続するときに X.509 証明書の検証が失敗しました。このエラーは、NetBackup ホストとこのコンピュータ間でのクロックスキューにより発生

する場合があります。この問題は、リモート管理コンソールの呼び出しを行ったホストと、マスターサーバー間で生じている時差が 24 時間を超えている場合に発生します。

推奨処置: 両方のホストで時間を同期させるか、時差を 24 時間未満にしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 552

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) をダウンロードできないため、証明書の失効状態を検証できませんでした。詳しくは、NetBackup ログを参照してください。

説明: 証明書失効リスト (CRL) をダウンロードできませんでした。考えられる原因は、次のとおりです。

- `certmapinfo.json` ファイルが見つからない
- `certmapinfo.json` ファイルに CRL パスが含まれていない
- CRL ファイルが見つからない
- CRL ファイルが破損している
- CRL ファイルをロックできない
- CRL ファイルをロック解除できない

推奨処置: 詳しくは、`bpjava` ログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 555

メッセージ: ログオンできません。(Unable to logon.)

説明: ユーザーがスマートカードまたはSAMLシングルオン認証を使用してサインインを試行しました。ただし、NBAC がホストで有効になっており、これらの認証形式はサポートされません。

推奨処置: 別の認証機構を使用します。たとえば、ユーザー名とパスワード、または Windows Active Directory のログオンクレデンシャルを使用して認証します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 600

メッセージ: 例外条件が発生しました (an exception condition occurred)

説明: 合成バックアップジョブで例外状況が発生しました。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマサポートに連絡して、該当するデバッグログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 601

メッセージ: listen ソケットを開けません (unable to open listen socket)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバー上でバックアップイメージの読み込みまたは合成イメージの書き込みを行うために起動された bptm または bpdm プロセスからの着信接続要求を待機するソケットをオープンできません。

推奨処置: bpsynth が NetBackup エラーログに記録したエラーメッセージ内にある OS エラーを確認します。このエラーを参照して、問題を診断します。bpsynth バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 602

メッセージ: listen ソケットで非ブロッキングモードに設定することができません (cannot set non-blocking mode on the listen socket)

説明: bpsynth プロセスが、listen ソケットに非ブロッキングソケットオプションを設定できません。

推奨処置: NetBackup エラーログに記録されたエラーメッセージ内にある OS エラーを確認します。このエラーを参照して、問題を診断します。bpsynth バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。問題が解決しない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 603

メッセージ: 新しい接続を受け入れるのためのハンドラを登録できません (cannot register handler for accepting new connections)

説明: `bpsynth` プロセスが、listen ソケットを ACE リアクタに登録できません。

推奨処置: `bpsynth` バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 604

メッセージ: 新しいジョブにターゲットストレージユニットが指定されていません (no target storage unit specified for the new job)

説明: NetBackup によって認識されているストレージユニットと指定されたターゲットストレージユニットとの間で不一致が発生しました。

推奨処置: 合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 605

メッセージ: ジョブに対するエラー通知を受信しました (received error notification for the job)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 606

メッセージ: メディアを読み込むことができるロボットがありません (no robot on which the media can be read)

説明: このエラーは、合成対象のバックアップイメージが存在する特定のメディア ID の読み込みを行うロボットが検出されない場合に、bpsynth によって戻されます。メディア ID は、bpsynth によって記録されるメッセージに書き込まれます。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 607

メッセージ: 合成するイメージが見つかりませんでした。(no images were found to synthesize)

説明: 指定されたポリシーの合成対象のイメージを取得するデータベース問い合わせによって、イメージが戻されませんでした。

推奨処置: 合成完全バックアップの場合、合成する 1 つの完全イメージ (実または合成) とそれに続く 1 つ以上の増分イメージ (差分または累積) が存在することを確認します。合成累積増分バックアップの場合には、合成する 2 つ以上の増分イメージ (差分または累積) が存在する必要があります。合成バックアップジョブを実行する前に、該当するバッ

クアップジョブが完了するようにスケジュールを調整します。失敗してこのエラーコードが表示された場合には、この合成バックアップジョブはスケジューラによって再試行されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 608

メッセージ: ストレージユニットの問い合わせに失敗しました (storage unit query failed)

説明: すべてのストレージユニットを取得するデータベース問い合わせが失敗しました。

推奨処置: bpdbm プロセスが実行中であり、NetBackup エラーログに記録されたエラーがないことを確認します。bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) を再起動し、合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 609

メッセージ: リーダーでエラーが発生しました (reader failed)

説明: bptm または bpdm リーダープロセスにエラーが発生して終了しました。

推奨処置: NetBackup エラーログで、bpsynth および bptm または bpdm リーダーが記録したエラーを参照してください。エラーメッセージには、bptm または bpdm リーダーが通知した実際のエラーが含まれています。

bptm または bpdm リーダーが通知したエラーについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。メディアが存在しないか、メディアに問題があるか、またはメディアの読み込みに使用されたドライブに問題がある可能性があります。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 610

メッセージ: 終点はエラーで終了しました。(end point terminated with an error)

説明: bptm または bpdm プロセスへの接続時にエラーが表示されました。

推奨処置: NetBackup エラーログで、bpsynth および bptm または bpdm プロセスが記録したエラーを確認します。詳しくは、これらのプロセスのデバッグログを参照してください。bptm または bpdm プロセスが検出したエラー状態またはマスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワークの問題が原因で、接続が切断された可能性があります。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。ジョブを再試行し、それでも問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 611

メッセージ: リーダーに接続できません (no connection to reader)

説明: リーダーと通信するための bptm または bpdm リーダープロセスとの接続が存在しません。

推奨処置: このエラーは通常は発生しません。問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 612

メッセージ: bpsynth へエクステントを送信できません (cannot send extents to bpsynth)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 613

メッセージ: メディアサーバーへの読み取り接続ができません。(cannot connect to read media server)

説明: bpsynth プロセスが、バックアップイメージの読み取りを行うためにメディアサーバーに接続できませんでした。

推奨処置: マスターサーバーと指定したメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpsynth が記録したエラーメッセージを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd と bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 614

メッセージ: メディアサーバー上でリーダーを起動できません (cannot start reader on the media server)

説明: bpsynth プロセスが、合成対象のバックアップイメージを読み取るために bptm または bpdm プロセスを起動できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup エラーログを調べ、bpsynth が記録したエラーを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd と bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。メディアサーバー上の bptm または bpdm バイナリが実行可能であり、破損していないことを確認します。メディアサーバー上で bptm または bpdm コマンドをローカルで実行して、このバイナリが実行可能であり破損していないことを確認します。たとえば、次のコマンドを実行します。

  ```
  /bp/bin/bptm -count -rn 0 -rt 8
  ```

  ここで、ロボット番号は 0、ロボット形式は 8 です。ロボット番号に対応するロボット形式は、bptm のデバッグログに記録されるコマンドラインから取得できます。このコマン

ドでは、ロボット内で起動、共有および割り当てが行われたドライブの数が表示されます。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 615

メッセージ: 内部エラー 615 (internal error 615)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 616

メッセージ: 内部エラー 616 (internal error 616)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 617

メッセージ: リーダー処理の開始に使用できるドライブがありません (no drives available to start the reader process)

説明: 合成対象のバックアップイメージを読み込むための bptm プロセスを起動できるドライブがありません。

推奨処置: ジョブを再度実行する前に、十分な数のドライブが利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 618

メッセージ: 内部エラー 618 (internal error 618)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 619

メッセージ: 内部エラー 619 (internal error 619)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 620

メッセージ: 内部エラー 620 (internal error 620)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 621

メッセージ: bpcoord に接続できません (unable to connect to `bpcoord`)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 622

メッセージ: ピアプロセスへの接続が存在しません (connection to the peer process does not exist)

説明: `bptm` または `bpdm` ピアプロセスへの基礎となる接続が存在しません。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 623

メッセージ: fork されたプロセスでのコマンドの実行に失敗しました (execution of a command in a forked process failed)

説明: この失敗は、通常、`bpcd` を介してメディアサーバー上でコマンドを実行しているときに発生します。NetBackup エラーログを調べ、他のエラーメッセージを確認します。また、失敗の原因を特定する場合は、マスターサーバー上の `bpsynth` およびメディアサー

バー上の bpcd のデバッグログを参照してください。この失敗の一般的な原因は、メモリ不足、空きのないファイルシステムまたはスワップ領域不足です。

推奨処置: ジョブを再試行し、それでも問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 624

メッセージ: メディアサーバーでのリーダー/ライターのプロセスに対して、開始コマンドを送信できません (unable to send a start command to a reader/writer process on media server)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスにコマンドを送信できません。

推奨処置: マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。他のエラーメッセージについては、NetBackup エラーログを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 625

メッセージ: データのマーシャリングエラー (data marshalling error)

説明: ネットワーク接続を介したデータの送信中に、問題が発生しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 626

メッセージ: データのアンマーシャリングエラー (data un-marshalling error)

説明: `bpsynth` が受信したメッセージの解析中に問題が発生しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 627

メッセージ: bpsynth から予期しないメッセージを受信しました (unexpected message received from bpsynth)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 628

メッセージ: 受信したデータが不十分です (insufficient data received)

説明: このエラーは、次の場合に発生します。入力ソケットからデータが部分的に読み込まれ、メッセージを構成する残りのデータが読み込まれるまで解析が不可能な場合。このエラーは下位層で発生し、プロセスが終了する原因にはなりません。

推奨処置: このエラーが原因で bpsynth バイナリがハングアップしたり正常に実行されない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 629

メッセージ: bptm から受信したメッセージはありません (no message was received from bptm)

説明: このエラーは、bptm を使用して実行したコマンドまたは問い合わせに対して、bptm プロセスからのメッセージが受信されない場合に戻されます。

推奨処置: 他のエラーメッセージについては、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm の NetBackup エラーログと、デバッグログを確認します。メディアサーバーのシステムの状況 (メモリ不足、空きのないファイルシステム、スワップ領域不足など) によって、bptm プロセスが応答を送信できない可能性があります。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。エラーの原因が特定できず、問題が解決しない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 630

メッセージ: bptm から予期しないメッセージを受信しました (unexpected message was received from bptm)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 631

メッセージ: メディアの一時停止を要求する bptm からエラーを受け取りました (received an error from bptm request to suspend media)

説明: bpsynth プロセスが、合成対象のイメージが 1 つ以上存在するメディアを一時停止できませんでした。bpsynth のレガシーログのメッセージに、一時停止されるメディア ID が示されます。また、bpsynth のログには、リスト内のどのメディアが一時停止されなかったかを示すエラーメッセージが表示されます。`media (ordinal)` に、リスト内の順序を使用して、一時停止されなかったメディアが示されます。たとえば、一時停止されなかったメディアがリスト内の 2 番目のメディアである場合、エラーメッセージには `media (1)` と示されます。

推奨処置: `bptm` デバッグログを調べ、一時停止の失敗の原因に関する情報を確認します。`bpsynth` プロセスは、このエラーを無視して処理を継続します。読み込み対象のイメージが含まれるメディアを別のバックアップジョブまたはリストアジョブに割り当てる場合に失敗する可能性があります。合成バックアップジョブが失敗した場合は、一時停止できなかった原因となる状況を修正し、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 632

メッセージ: メディアの一時停止解除を要求する bptm からエラーを受け取りました (received an error from bptm request to un-suspend media)

説明: `bpsynth` プロセスが、合成バックアップジョブを開始するときに bpsynth によって一時停止されたメディアについて、一時停止を解除できませんでした。bpsynth のレガシーログのメッセージに、一時停止を解除されるメディア ID が示されます。また、`bpsynth` のログには、リスト内のどのメディアが一時停止を解除されなかったかを示すエラーメッセージも表示されます。`media (ordinal)` に、リスト内の順序を使用して、メディアが示されます。たとえば、一時停止が解除されなかったメディアがリスト内の 2 番目のメディアである場合、エラーメッセージには `media (1)` と示されます。

推奨処置: メディアサーバー上の `bptm` プロセスのデバッグログで、一時停止解除の失敗の原因およびメディア ID を確認します。`bpmedia` コマンドを使用して、手動でテープの一時停止解除を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 633

メッセージ: vnetd によるサービスの listen および登録ができません (unable to listen and register service by vnetd)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 634

メッセージ: ライター処理の開始に使用できるドライブがありません (no drives available to start the writer process)

説明: ライターのターゲットストレージユニットに利用可能なドライブがないため、bpsynth プロセスが合成バックアップジョブを開始できません。このストレージユニットを使用しているリストアジョブまたは別の合成バックアップジョブが存在する可能性があります。

推奨処置: 合成バックアップスケジュールに構成されているターゲットストレージユニットに、合成バックアップイメージの書き込みに使用できるドライブが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 635

メッセージ: リアクタのハンドルを登録できません (unable to register handle with the reactor)

説明: ハンドル上のイベントを監視するために、ハンドルを ACE リアクタに登録することができません。このエラーは、bpsynth で発生する場合があります。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、このジョブについて記録されたエラーを確認します。詳しくは、bpsynth のデバッグログを参照してください。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 636

メッセージ: 入力ソケットからの読み取りに失敗しました (read from input socket failed)

説明: 入力ソケットからの読み込みに失敗しました。基礎となる接続が切断されています。

推奨処置: 入力ソケットからの読み込み中に、bpsynth プロセスでエラーが発生しました。このソケットは、bpsynth と、bptm または bpdm の間にある可能性があります。

NetBackup エラーログに記録される errno には、失敗の原因が示されます。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上のリーダーまたはライタープロセス bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 637

メッセージ: 出力ソケットへの書き込みに失敗しました (write on output socket failed)

説明: 出力ソケットへの書き込みが失敗しました。基礎となる接続が切断されています。

推奨処置: 出力ソケットへの書き込み中に、bpsynth プロセスでエラーが発生しました。このソケットは、bpsynth と、bptm または bpdm の間にあります。

NetBackup エラーログに記録される errno には、失敗の原因が示されます。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上のリーダーまたはライタープロセス bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。マスターサーバーとメディアサーバーの間の接続を確認します。合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 638

メッセージ: 無効な引数が指定されました (invalid arguments specified)

説明: 不適切な引数を指定すると、bpsynth コマンドは失敗して、このエラーコードが表示されます。

推奨処置: 適切な引数の指定について詳しくは、bpsynth のコマンドライン引数 (-help を使用) を参照してください。コマンドラインから手動で合成バックアップジョブを開始した場合は、bpsynth の引数を修正してジョブを再度実行します。合成バックアップジョブがスケジュールされていたか、またはコンソールから開始された場合は、bpsynth および nbjm バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 639

メッセージ: 指定されたポリシーが存在しません (specified policy does not exist)

説明: bpsynth コマンドで指定されたポリシーがデータベースに存在しません。bpsynth コマンドは、コマンドラインまたは nbjm から実行されました。bpsynth が nbjm によって起動された場合、bpsynth が nbjm によって起動された後、かつ bpsynth がデータベース問い合わせを発行する前に、ポリシーが削除された可能性があります。

推奨処置: コマンドラインを使用して bpsynth を起動した場合は、既存のポリシーでこのコマンドを再度実行します。次の内容を確認しても問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

- 合成バックアップジョブがスケジュールされていたか、または NetBackup 管理コンソールを使用して (手動で) 開始された。
- bpplist コマンドの構成内にポリシーが存在している。
- nbjm のログを確認します。このプロセスは統合ログ (OID 117) を使用します。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 640

メッセージ: 指定されたスケジュールが見つかりませんでした (specified schedule was not found)

説明: bpsynth コマンドのスケジュールが、次のいずれかの原因で、データベース内の指定されたポリシーの定義に存在しません。

- bpsynth コマンドがコマンドラインから実行された。
- bpsynth が nbjm によって起動された後、かつ bpsynth がデータベース問い合わせを発行する前に、指定したスケジュールがポリシーから削除された。

推奨処置: コマンドラインから bpsynth を実行した場合は、実行する合成バックアップジョブのポリシーで定義した正しい合成スケジュールラベルを使用して、コマンドを再度実行します。合成バックアップジョブがスケジュールされていたか、または NetBackup 管理コンソールを使用して開始された場合は、ポリシー内に新しいスケジュールを定義して、ジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 641

メッセージ: ストレージユニットで無効なメディア形式が指定されました (invalid media type specified in the storage unit)

説明: ターゲットストレージユニットで指定されたメディア形式が、合成バックアップに対して無効です。合成バックアップイメージは、ディスク、ディスクステージングおよび Media Manager 形式のストレージユニットだけに書き込むことができます。

推奨処置: 合成バックアップ用に構成されているターゲットストレージユニットが、(NDMP 形式ではなく) ディスク、ディスクステージングまたは Media Manager 形式であることを確認します。適切なストレージユニットを使用して合成バックアップを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 642

メッセージ: 重複したバックアップイメージが検出されました (duplicate backup images were found)

説明: データベース問い合わせによって、重複したバックアップ ID が戻されました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 643

メッセージ: `bpcoord` から予期しないメッセージを受け取りました (unexpected message received from bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 644

メッセージ: エクステント指示句に不明なメディア ID が含まれていました (extent directive contained an unknown media id)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 645

メッセージ: メディアサーバー上でライターを開始できません (unable to start the writer on the media server)

説明: bpsynth プロセスが、合成イメージを書き込むために、ターゲットストレージユニットに関連付けられたメディアサーバー上で bptm プロセスまたは bpdm プロセスを起動できませんでした。

推奨処置:

NetBackup エラーログを調べ、bpsynth が記録したメッセージを確認します。詳しくは、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bpcd と bptm または bpdm のデバッグログを参照してください。メディアサーバー上の bptm または bpdm バイナリが実行可能であり、破損していないことを確認します。メディアサーバー上で bptm または bpdm コマンドをローカルで実行して、このバイナリが実行可能であり破損していないことを確認します。たとえば、次のコマンドを実行します。

```
install_path/netbackup/bin/bptm -count -rn 0 -rt 8
```

ここで、ロボット番号は 0、ロボット形式は 8 です。ロボット番号に対応するロボット形式は、bptm のデバッグログに記録されるコマンドラインから取得できます。このコマンドでは、ロボット内で起動、共有および割り当てが行われたドライブの数が表示されます。合成イメージがディスクストレージユニットに書き込まれる場合、次のコマンドを実行して bpdm バイナリを確認します。

```
install_path/netbackup/bin/bpdm
```

次のように表示されます。

```
bpdm: media manager operation not specified
```

合成バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 646

メッセージ: ローカルの listen ソケットのアドレスを取得できません (unable to get the address of the local listen socket)

説明: bpsynth プロセスが、オープンした listen ソケットのアドレスを取得できません。bpsynth プロセスは、ソースイメージの読み込みのために起動された bptm または bpdm プロセスから着信接続要求を受信するためにこのアドレスが必要です。このエラーは通常は発生しません。listen ソケットのアドレスを取得するために使用したライブラリコールは、ソケットのアドレスを取得するための内部で使用しているシステムコールに依存しています。エラーメッセージにはシステムコールが通知する errno が含まれ、このエラーを参照して問題を診断します。

推奨処置: 合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 647

メッセージ: 合成イメージの検証に失敗しました (validation of synthetic image failed)

説明: このエラーは、bpsynth が、合成イメージを検証するデータベース呼び出しからエラーを受信した場合に戻されます。

推奨処置: このエラーは、合成バックアップ処理に問題があることを示します。NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm プロセスが記録したエラーを確認します。これらのプロセスのデバッグログで、追加情報を確認します。問題が解決しない場合は、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) カスタマサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 648

メッセージ: BPXM にエクステントメッセージを送信できません (unable to send extent message to BPXM)

説明: bpsynth プロセスが、合成対象に指定されたバックアップイメージを読み込むために起動された bptm または bpdm プロセスにエクステント情報を送信できません。

推奨処置: このエラーは、bpsynth とメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスの間の通信に問題があることを示します。メディアサーバーがアクセス可能であること、および bptm または bpdm プロセスがメディアサーバー上で実行中であることを確認します。NetBackup エラーログを調べ、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスが記録したエラーを確認します。bpsynth および bptm または bpdm のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて)テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 649

メッセージ: BPXM から予期しないメッセージを受け取りました (unexpected message received from BPXM)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 650

メッセージ: bpcoord にエクステントメッセージを送信できません (unable to send extent message to bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: 問題レポートと該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 651

メッセージ: ポリシーのデータベース問い合わせを発行できません (unable to issue the database query for policy)

説明: bpsynth プロセスが、ポリシーのデータベース問い合わせを送信できませんでした。

推奨処置: このエラーは、bpsynth と bpdbm の間の通信に問題があることを示します。bpdbm が実行中で、bpdbm バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpdbm および bpsynth が記録したエラーを確認します。bpsynth および bpdbm のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) を再起動し、合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 652

メッセージ: ポリシー情報のデータベース問い合わせを発行できません (unable to issue the database query for policy information)

説明: bpsynth プロセスが、ポリシーの詳細情報のデータベース問い合わせを送信できませんでした。

推奨処置: このエラーは、bpsynth と bpdbm の間の通信に問題があることを示します。bpdbm が実行中で、bpdbm バイナリが、インストールされている NetBackup バージョンと一致していることを確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpdbm および bpsynth が記録したエラーを確認します。bpsynth および bpdbm のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。bpdbm プロセス (UNIX の場合) または NetBackup Database Manager サービス (Windows の場合) を再起動し、合成バックアップジョブを再度実行します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 653

メッセージ: bpcoord にメッセージを送信できません (unable to send a message to `bpccord`)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 654

メッセージ: 内部エラー 654 (internal error 654)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 655

メッセージ: コマンドラインでターゲットストレージユニットが指定されていませんでした (no target storage unit was specified by command line)

説明: bpsynth コマンドライン (-S) でターゲットストレージユニットが指定されていませんでした。

推奨処置: -S オプションを使用してターゲットストレージユニットを指定し、bpsynth を再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 656

メッセージ: 合成の開始メッセージを bpcoord に送信できません (unable to send start synth message to bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 657

メッセージ: リーダーからの接続を受け入れることができません (unable to accept connection from the reader)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバーで実行中の bptm または bpdm リーダープロセスからの接続を許可できませんでした。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm リーダープロセスが記録したエラーを確認します。bpsynth が記録したメッセージには、システムコールが通知したエラー (errno) が含まれます。マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスのデバッグログで、詳細を確認します。マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 658

メッセージ: ライターからの接続を受け入れることができません (unable to accept connection from the writer)

説明: bpsynth プロセスが、メディアサーバーで実行中の bptm または bpdm ライタープロセスからの接続を許可できませんでした。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm ライタープロセスが記録したエラーを確認します。bpsynth が記録したメッセージには、システムコールが通知したエラー (errno) が含まれます。また、マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスのデバッグログで、詳細を確認します。マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 659

メッセージ: ライターの子プロセスにメッセージを送信できません (unable to send a message to the writer child process)

説明: bpsynth プロセスが、bptm または bpdm ライターに、bptm または bpdm リーダーのホスト名とポート番号を含むメッセージを送信できませんでした。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm ライタープロセスが記録したエラーを確認します。マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm プロセスのデバッグログで、詳細を確認します。マスターサーバーとメディアサーバーとの間のネットワーク接続を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 660

メッセージ: メディアリソースの合成バックアップ要求が失敗しました (a synthetic backup request for media resources failed)

説明: NetBackup 内部エラーのため、リソースの要求が失敗しました。

推奨処置: 次の項で説明するとおり、ログを作成します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

ジョブを再実行し、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートにログを送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 661

メッセージ: 終了メッセージを BPXM リーダーに送信できません (unable to send exit message to the BPXM reader)

説明: bpsynth プロセスが、エクステントメッセージの終わりを示す終了メッセージをメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスに送信できません。マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続が切断されているか、あるいは bptm または bpdm リーダープロセスが終了している可能性があります。

推奨処置: マスターサーバーとメディアサーバーの間のネットワーク接続を確認します。NetBackup エラーログを調べ、bpsynth および bptm または bpdm リーダープロセスが記録したエラーを確認します。マスターサーバー上の bpsynth およびメディアサーバー上の bptm または bpdm リーダープロセスのデバッグログを調べ、追加情報を確認します。問題が解決しない場合、(日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 662

メッセージ: BPXM からの合成コンテキストメッセージで、不明なイメージが参照されています (unknown image referenced in the synth context message from BPXM)

説明: bpsynth プロセスが、bpsynth にとって不明なメディア ID への参照を持つエクステントメッセージを bptm または bpdm リーダーから受信しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 663

メッセージ: イメージにフラグメントマップがありません (image does not have a fragment map)

説明: bpsynth プロセスが、bpdbm からフラグメントマップのないイメージを受信しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 664

メッセージ: 合成イメージの中に 0 エクステントがあるため、処理できません (zero extents in the synthetic image, cannot proceed)

説明: bpsynth プロセスが、bpdbm から 0 エクステントを受信しました。このエラーは通常は発生しません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 665

メッセージ: bpcoord により終了が要求されました (termination requested by `bpcoord`)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 667

メッセージ: bpsynth と bpcoord の間のパイプを開くことができません (unable to open pipe between bpsynth and bpcoord)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 668

メッセージ: bpcoord からの pipe を使った fgets のコールに失敗しました。(pipe fgets call from bpcoord failed)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 669

メッセージ: bpcoord の起動の検証に失敗しました。(bpcoord startup validation failure)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 670

メッセージ: 送信バッファに空きがありません (send buffer is full)

説明: このエラーコードは現在は使用されていません。

推奨処置: (日本にてご購入の場合は、ご購入先を通じて) テクニカルサポートに連絡して、該当するログを送付してください。

必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「合成バックアップの問題レポートに必要なログ」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 671

メッセージ: コンポーネントイメージのリストの問い合わせに失敗しました (query for list of component images failed)

説明: 必要なコンポーネントイメージに問題があるため、新しい合成イメージを作成できません。たとえば、日曜日の前回の完全イメージ、および月曜日から金曜日までの 5 つの差分増分イメージを使用して、新しい合成完全バックアップの作成が試行されるとします。そのいずれかのイメージ (金曜日の最新のイメージを除く) の期限が切れていると、このエラーが発生します。

推奨処置: 失敗したバックアップの形式に応じて、非合成バックアップ (新しい完全バックアップまたは新しい累積増分バックアップ) を実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 800

メッセージ: リソース要求が失敗しました (resource request failed)

説明: `nbjm` プロセスが、ジョブに必要なリソースを取得できませんでした。この状態コードは、アクティビティモニターのジョブの詳細表示および `nbjm` のデバッグログに示される EMM 原因文字列とともに表示されます。EMM 原因文字列には、リソースの要求が失敗した原因が示されます。

推奨処置: EMM 原因文字列を確認し、問題を修正してからジョブを再度実行します。

一般的ないくつかの EMM 原因文字列 ([ディスクボリュームが停止しています (`Disk volume is down`)]など) では、失敗の原因を判断するために、レポートの生成が必要な場合があります。`bperror` またはさまざまなログエントリのレポートのいずれかを使用してレポートを生成します。たとえば、NetBackup 管理コンソールで[レポート (Reports)]、[ディスクのレポート (Disk Reports)]、[ディスクのログ (Disk Logs)]を選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

https://docs.cohesity.com/search?searchString=status+code+800

NetBackup の状態コード: 801

メッセージ: JM 内部エラー (JM internal error)

説明: `nbjm` プロセスで内部エラーが発生しました。

推奨処置: 問題が解決しない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの `nbpem` (オリジネータ ID 116)、`nbjm` (117)、`nbrb` (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、`/usr/openv/logs` (UNIX の場合) または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs` (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの `bpbrm, bpjobd, bpcompatd, bpdbm,`、`nbproxy`、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの `bpcd, bpbrm,`、`bptm` および `bpdm` または bpdm
  - クライアントの `bpcd` および `bpbkar`

レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。

- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 802

メッセージ: JM 内部プロトコルエラー (JM internal protocol error)

説明: このエラーは、nbjm と通信しようとした外部プロセスでプロトコルエラーが発生した場合に、nbjm によって戻されます。外部プロセスは、 bptm, tpreq, bplabel, dqts, vmphyinv, 、nbpem、bplabel、dqts、vmphyinv、nbpem などです。

推奨処置: マスターサーバーおよびメディアサーバー上の NetBackup ソフトウェアが、正規版の NetBackup であることを確認します。

問題が解決しない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm, bpjobd, bpcompatd, bpdbm, 、nbproxy、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd, bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 803

メッセージ: JM を終了しています (JM terminating)

説明: 既存のジョブまたは新しいジョブに対するサービス要求を受信しましたが、nbjm プロセスは停止していました。

推奨処置: (/usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all コマンド (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥bin¥bpdown (Windows の場合) を入力して) nbjm が明示的に終了されていない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm, bpjobd, bpcompatd, bpdbm,、nbproxy、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd, bpbrm,、bptm および bpdm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 805

メッセージ: ジョブ ID が無効です (invalid jobid)

説明: nbjm プロセスが受信した要求に指定されているジョブ ID が無効です。

推奨処置:

要求された操作は、すでに存在しないジョブまたは nbjm で認識されないジョブである可能性があります。または、ジョブ ID が無効 (0 以下) です。ジョブの開始に使用するコマンドで、他のジョブがすでに使用しているジョブ ID を指定していないことを確認します。

問題が解決しない場合、レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd、bpbrm および bptm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行する必要があります。
- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 806

メッセージ: この mpx グループは結合できません (this mpx group is unjoinable)

説明: このエラーはタイミングの問題です。エラー状態が原因で bpbrm が停止したときにジョブが多重化グループに追加されると、このエラーが発生する可能性があります。Resource Broker (nbrb) によって多重化グループの割り当てが行われ、Job Manager (nbjm) によって bpbrm プロセスの開始と監視が行われます。

推奨処置: 失敗したジョブがスケジュールジョブである場合、再試行が可能なときは、nbpem によってジョブが再度実行されます。失敗したジョブが手動で開始されたジョブである場合、再度実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 807

メッセージ: 外部化されていません (not externalized)

説明: 該当なし

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 811

メッセージ: リソース要求元との通信に失敗しました (failed to communicate with resource requester)

説明: Job Manager (nbjm) がプロセス (通常は bptm) に、そのプロセスが要求したリソースの状態を通知しようとしました。通信に問題があるため、その通知は失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーとメディアサーバーの間の接続を確認します。
- PBX (Private Branch Exchange) の構成および権限を確認します。PBX の詳細情報を参照できます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PBX の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 812

メッセージ: Resource Broker との通信に失敗しました (failed to communicate with Resource Broker)

説明: Job Manager (nbjm) が、Resource Broker (nbrb) に対して要求を実行しようとしました。通信に問題があるため、その要求は失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーと EMM サーバーの接続を検証します。
- PBX (Private Branch Exchange) の構成および権限を確認します。PBX の詳細情報を参照できます。
  『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「PBX の問題の解決」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 813

メッセージ: 重複する参照文字列が指定されました (duplicate reference string specified)

説明: 参照文字列は、tpreq コマンドの -f オプションで指定したファイル名です。tpreq に指定されたファイル名が、他の tpreq ですでに使われています。

推奨処置: 使用されていない一意の名前を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 818

メッセージ: 保持レベルの不一致 (retention level mismatch)

説明: 割り当て済みメディアの保持レベルがポリシーで構成されている保持レベルと一致しない場合、ジョブは失敗し、このエラーコードが表示されます。

推奨処置: Cohesity Technical Support に問い合わせて、関連するサポート資料を送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 819

メッセージ: JM プロキシと通信できません (unable to communicate with JM proxy)

説明: Job Manager が nbproxy と通信できません。

推奨処置: Job Manager を再起動します。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、関連するサポート資料を送付してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 823

メッセージ: 結合する BRMComm が存在しません (no BRMComm to join)

説明: ジョブを多重化グループに追加できませんでした。このエラーは内部エラーです。

推奨処置: レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。

- NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
- メディアサーバーの bpcd, bpbrm,、bptm および bpdm または bpdm
- クライアントの bpcd および bpbkar

レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。

- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 830

メッセージ**:** ドライブは使用不可か、停止しています (drive(s) unavailable or down)

説明**:** このジョブのために使用できるすべての構成されたドライブが停止しています。

次のいずれかの状態が発生しています。

- ジョブに対して要求されたメディアのドライブが構成されていません。
- ジョブは NDMP ドライブパスを必要としますが、NDMP ドライブパスは起動していないか、または構成されていません。
- ジョブは NDMP ドライブパスを使うことができませんが、ドライブの起動しているか、設定されているドライブパスはこれのみです。

推奨処置**:** 次の手順を実行します。

- ドライブとドライブパスが起動していて、構成するメディアに対して適切であることを確認してください。
- ltid が必要なメディアサーバーで動作していること、そしてそのメディアサーバーがテープに対してアクティブであることを検証します。
- ドライブパスが停止している場合は、起動するためにデバイスモニターを使います。
- ドライブが再度停止した場合は、ドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 831

メッセージ: イメージが検証されました (image has been validated)

説明: ジョブの再試行は、前回の試行からのイメージがすでに検証されているため失敗します。このエラーは、ジョブの成功状態を受信する前に nbjm が終了した場合に発生する可能性があります。この状態コードはタイミングの問題のみを示します。

推奨処置: 修正処置は不要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 832

メッセージ: 検出データのファイルへの書き込みに失敗しました (failed to write discover data to a file)

説明: Job Manager (nbjm) は、netbackup/bin/bpsched.d ディレクトリ内の一時ファイルに書き込めません。

推奨処置: ファイルシステムに空きがあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 833

メッセージ: 検出された XML データの解析エラー (error parsing discovered XML data)

説明: Job Manager は検出から戻された XML ドキュメントを解析できませんでした。このエラーは内部エラーです。

推奨処置: レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの nbpem (オリジネータ ID 116)、nbjm (117)、nbrb (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの bpbrm、bpjobd、bpcompatd、bpdbm および nbproxy
  - メディアサーバーの bpcd, bpbrm,、bptm および bpdm または bpdm
  - クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在し

ます。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。

- `/usr/openv/db/jobs/trylogs` (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- `bpdbjobs` の出力。`bpdbjobs` を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 859

メッセージ: 最大再試行回数を超えました。配備ホストを無効化できません。(Exceeded maximum number of retries, unable to deactivate deployment host.)

説明: NetBackupJob Manager サービスは、メディアサーバーが非アクティブになって配備ジョブが中止されるまで 3 分間待機しました。

推奨処置: ターゲットホストで配備ジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 860

メッセージ: 最大再試行回数を超えました。配備ホストを有効化できません。(Exceeded maximum number of retries, unable to activate deployment host.)

説明: NetBackup Job Manager サービスは、メディアサーバーがアクティブになって配備ジョブが中止されるまで 3 分間待機しました。

推奨処置: ホストがアクティブになるまで待機するか、`vmoprcmd -activate_host -h` *hostname* を実行してホストをアクティブ化します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 861

メッセージ: `job param` ファイルに `exclude_file_list` パラメータのエントリが存在しません。(The entry for exclude_file_list parameter in the job param file is not present.)

説明: NetBackup は `job param` ファイル内に `exclude_file_list` エントリを見つけられません。

推奨処置: バックアップジョブを再試行します。問題が解決しない場合は、バックアップポリシーを更新して除外対象を再構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 867

メッセージ: [1 クライアントあたりの最大ジョブ数]オプションをカタログバックアップの最大ストリーム数以上の値に設定する必要があります。(The 'Maximum jobs per client' option should be set to a value that is greater than or equal to the maximum number of streams for catalog backup.)

説明: カタログバックアップのポリシー構成が無効です。1 クライアントあたりのジョブの最大数は、最大ストリーム数以上にする必要があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- [ホストプロパティ (Host properties)]の[グローバル属性 (Global attributes)]にある[1 クライアントあたりの最大ジョブ数 (Maximum jobs per client)]オプションに設定されている値が、カタログバックアップポリシーで設定されている最大ストリーム数以上であることを確認します。問題が解決しない場合は、次の手順を実行します。
  - 1 クライアントあたりのジョブの最大数を最大ストリーム数以上の値に設定します。
  - バックアップジョブを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 868

メッセージ: ポリシー属性 UI の[ポリシーごとにジョブ数を制限する]オプションをポリシーの最大ストリーム数以上の値に設定する必要があります。(The 'Limit jobs per policy' option on the policy attributes UI should be set to a value that is greater than or equal to the maximum number of streams for policy.)

説明: : カタログバックアップのポリシー構成が無効です。ポリシーごとのジョブの最大数 ([ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)]オプション) は、最大ストリーム数以上にする必要があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- [ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)]オプションに設定されている値が、カタログバックアップポリシーで設定されている最大ストリーム数より大きい値であることを確認します。問題が解決しない場合は、次の手順を実行します。
  - [ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)]オプションを最大ストリーム数以上の値に設定します。
  - バックアップジョブを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 900

メッセージ: nbrb 要求を後で再試行してください (retry nbrb request later)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) が、要求に応答できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 901

メッセージ: RB 内部エラー (RB internal error)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) で、内部エラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 902

メッセージ: 無効な RB 引数 (RB invalid argument)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) サービスで、無効な引数が検出されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 903

メッセージ: RB 通信エラー (RB communication error)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb サービス) で、通信エラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 904

メッセージ: RB の再割り当ての最大試行回数を超えています (RB max reallocation tries exceeded)

説明: マウントが失敗すると再試行される場合がありますが、リソース要求の再試行回数を超えています。

推奨処置: NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) および nbemm (オリジネータ ID 111) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。また、bptm のレガシーログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 905

メッセージ: RB メディアサーバーが一致していません (RB media server mismatch)

説明: 複数のコピー用に指定するストレージユニットは、同じメディアサーバー上に存在する必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 同じメディアサーバー上で実行できるように、ストレージユニットまたはストレージユニットグループを指定して、バックアップスケジュールを構成します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 906

メッセージ: RB オペレータがマウント要求を拒否しました (RB operator denied mount request)

説明: オペレータが、NetBackup 管理コンソールの[デバイスの管理 (Device Management)]ノードまたは vmoprcmd コマンドを使用して、マウント要求を拒否しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マウント要求が拒否された原因を判断し、ジョブを再試行します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 907

メッセージ: RB ユーザーがリソースリクエストをキャンセルしました (RB user canceled resource request)

説明: ユーザーが開始した操作によって、Resource Broker (nbrb) の要求が取り消されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- リソース要求が取り消された原因となった操作を特定します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 908

メッセージ: RB がリセットされました (RB was reset)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) のリソースおよびデータベースがリセットされました。RB がリセットされると、未処理の nbrb への要求が失敗する場合があります。(たとえば、カタログリカバリなどの処理によって、データベースがリセットされます。)

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- nbrb リソースおよび nbemm データベースがリセットされた操作を特定します。
- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。すべての統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 912

メッセージ: RB ディスクボリュームのマウントに失敗しました (RB disk volume mount failed)

説明: ディスクボリュームのマウントを試行しましたが、失敗しました。考えられる原因は、ハードウェアの問題、EMM データベースの非一貫性、または NetBackup Resource Broker (nbrb) のエラーです。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルで、詳細を調べます。統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 914

メッセージ: RB メディアの予約が見つかりません (RB media reservation not found)

説明: 複製ジョブまたは合成バックアップジョブ用の読み込みメディアは、ジョブの開始時に予約する必要があります。状態コード 914 は、NetBackup Resource Broker (nbrb) が、予約されていない読み込みメディアの割り当て要求を受信した場合に発生します。この状況は、bpduplicate, nbjm、nbrb または nbrb の内部エラーが原因で発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーの nbrb サービス (オリジネータ ID 118) の統合ログファイルを調べます。統合ログは、/usr/openv/logs (UNIX の場合) または *install_path*¥NetBackup¥logs (Windows の場合) に書き込まれます。
- 必要に応じて、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]>[プロパティ (Properties)]>[ログ (Logging)]を使用して、グローバルログレベルを上げます。操作を再試行し、nbrb のログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 915

メッセージ: RB ディスクボリュームのマウントを再試行する必要があります (RB disk volume mount must retry)

説明: 共有ディスクのジョブは RB がディスクボリュームをマウントできないので失敗しました。共有ディスクは、他のメディアサーバーがボリュームのファイルシステムを使う前にそれらをマウント解除し、再マウントすることを必要とします。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マウント解除されることを防ぐディスクボリュームのマウントディレクトリに、処理がないことを検証します。問題が解決しない場合、メディアサーバーで NetBackup を再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 916

メッセージ: リソース要求がタイムアウトしました (Resource request timed out)

説明: ジョブのリソース要求は、設定された制限時間に達する前にリソースが利用できなくなったため失敗しました。一部のジョブはドライブまたは他のリソースを要求するときにタイムアウトを指定することがあります。ジョブが一貫してこのエラーを引き起こす場合は、利用可能なドライブの数より多くのジョブがスケジュールされている可能性があります。リソー

スブローカージョブのキューにあるドライブが、新しいジョブの開始がタイムアウトする前までに完了していません。

推奨処置: スケジュールされたジョブの開始時間を長期間に分散してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 917

メッセージ: RB 多重化グループが見つかりません (RB multiplexing group not found)

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) が不明な多重化グループ ID の要求を受信しました。このエラーは、RB が強制終了され、再起動されたときのタイミングの問題により発生する場合があります。nbjm または nbrbの内部エラーが原因で発生する場合もあります。

推奨処置: nbjm と nbrb を再起動します。問題が解決されない場合は、nbjm と nbrb のログを含む適切なログを添えて問題のレポートを作成してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 918

メッセージ: RB にはこのメディア ID またはドライブ名を使用する多重化グループがありません。

説明: NetBackup Resource Broker (nbrb) が割り当て解除されたメディアまたはドライブの要求を受信しました。

推奨処置: nbrbutil コマンドがこのエラーの原因である可能性があります。割り当てられたメディア ID またはドライブを指定して、コマンドを再度実行します。これは内部エラーである場合もあります。問題が解決されない場合は、nbjm と nbrb を含む適切なログを添えて問題のレポートを作成してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 925

メッセージ: バックアップホストプール名が Resource Broker の要求で指定されていません。(Backup host pool name is not provided in the Resource Broker request.)

説明: バックアップホストプールが構成されていないか、見つかりません。

推奨処置: バックアップポリシーでバックアップホストプールが構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 927

メッセージ: 構成済みのバックアップホストプールにはジョブの実行のためのバックアップホストがありません。(No backup host from configured backup host pool is available for job execution.)

説明: すべてのバックアップホストが使用中でジョブの実行の制限に達しているか、すべてのバックアップホストが停止しています。

推奨処置: バックアップホスト上ですべての NetBackup サービスが起動し、実行中であることを確認します。サービスがすでに実行されている場合、バックアップホストはフル稼働で動的ストリーミングを処理しています。実行中のジョブが完了するまで待機する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 928

メッセージ: バックアップホストと構成済みのバックアップホストプールの NetBackup バージョンは同じである必要があります。(The NetBackup version of the backup hosts and the configured backup host pool must be of the same version.)

説明: バックアップホストプール内のすべてのバックアップホストは、同じ NetBackup バージョンである必要があります。

推奨処置: バックアップホストプール内のすべてのバックアップホストが同じ NetBackup バージョンであることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 930

メッセージ: ジョブを実行するためのバックアップホストとして利用可能なサポート対象のメディアサーバーが All_Media_Server_Pool にありません。(No supported media server available, in the All_Media_Server_Pool, as backup host to run the job.)

説明: サポートされている NetBackup とオペレーティングシステムのバージョンが利用可能なメディアサーバーがないか、サーバーがビジー状態か、停止している可能性があります。

推奨処置: SMB プロトコルを使用して NAS 共有をバックアップする場合は、Windows メディアサーバーがあることを確認します。NFS プロトコルを使用して NAS 共有をバックアップする場合は、Linux メディアサーバーがあることを確認します。

推奨処置: Windows メディアサーバーの場合、NetBackup Client Service および NetBackup Legacy Network Service の各サービスにドメインユーザーとしてログオンする必要があります。

推奨処置: NAS データ保護ポリシーの次のパラメータに基づいて、NetBackup メディアサーバーのバージョンが必要な最小バージョン以上であることを確認します。

- 複数のバックアップホストを使用したスナップショットからのボリュームバックアップ: NetBackup 10.4
- スナップショットからの VCT 対応インデックス: NetBackup 10.3
- スナップショットからの VCT 対応バックアップ: NetBackup 10.2
- その他のすべてのシナリオ: NetBackup 10.1.1

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1000

メッセージ: クライアントがオフラインです (Client is offline)

説明: オフラインであるクライアントに対して手動ジョブを実行する試みが行われました。

推奨処置: クライアントがオンラインになるまで待つか、手動ジョブを送信する前に GUI か `bpclient` コマンドを使用して手動でクライアントをオンラインにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1001

メッセージ: 検出文書エラーです (discovery document error)

説明: Policy Execution Manager (`pem`) は検出処理から戻された XML ドキュメントを解析できません。このエラーは内部エラーです。

推奨処置: レポートと次のデータを送付してください。

- NetBackup サーバーの `nbpem` (オリジネータ ID 116)、`nbjm` (117)、`nbrb` (118) および PBX (103) の統合ログファイル。すべての統合ログは、`/usr/openv/logs` (UNIX および Linux の場合) または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs` (Windows の場合) に書き込まれます。
- 次のレガシーログ。
  - NetBackup マスターサーバーの `bpbrm`、`bpjobd`、`bpcompatd`、`bpdbm` および `nbproxy`
  - メディアサーバーの `bpcd`, `bpbrm`,、`bptm` および `bpdm` または bpdm

- クライアントの bpcd および bpbkar

  レガシーログは、/usr/openv/netbackup/logs/ (UNIX および Linux の場合) または install_path¥NetBackup¥logs¥ (Windows の場合) のサブディレクトリに存在します。これらのディレクトリが存在しない場合、前述の各プロセス用のディレクトリを作成し、ジョブを再度実行します。

- /usr/openv/db/jobs/trylogs (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥NetBackup¥db¥jobs¥trylogs (Windows の場合) の内容。
- bpdbjobs の出力。bpdbjobs を実行して、すべてのジョブの状態を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1002

メッセージ: 検出で、失敗したクライアントが見つかりました (discovery detected a failed client)

説明: 問い合わせ規則では 1 つ以上のクライアントを除外できず、これらのクライアントはバックアップ対象として選択できません。ホスト名の問題がこのエラーの原因である可能性があります。

推奨処置: 詳しくは、ジョブの詳細ログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1004

メッセージ: Snapshot Manager 名を取得できませんでした。(Failed to get the Snapshot Manager name.)

説明: スナップショットまたはバックアップジョブで、ジョブを開始するために関連付けられた Snapshot Manager が見つかりません。この問題は、必要な NetBackup サービスにアクセスできない場合に発生する可能性があります。

推奨処置: NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc) が実行中であることを確認します。その後、必要に応じてサービスを停止して再起動します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1005

メッセージ: unix_eca_cert_path、unix_eca_trust_store_path、または unix_eca_private_key_path に必要なポリシー値が 1 つ以上不明です。(Missing

one or more of the required policy values for unix_eca_cert_path, unix_eca_trust_store_path, or unix_eca_private_key_path.)

説明: 構成されているポリシーフィールド unix_eca_crl_path、unix_eca_crl_check_level、または unix_eca_key_passphrasefile が存在しますが、必須フィールドのいずれかが除外されています (必須フィールド: unix_eca_cert_path、unix_eca_trust_store_path、または unix_eca_private_key_path)。

推奨処置: Windows クライアントのみの場合は、ポリシーフィールド unix_eca_crl_path、unix_eca_crl_check_level、unix_eca_key_passphrasefile をリセットします。それ以外の場合は、必須フィールド unix_eca_cert_path、unix_eca_trust_store_path、unix_eca_private_key_path を設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1006

メッセージ: win_eca_cert_path、win_eca_trust_store_path、または win_eca_private_key_path に必要なポリシー値が 1 つ以上不明です。(Missing one or more of the required policy values for win_eca_cert_path, win_eca_trust_store_path, or win_eca_private_key_path.)

説明: 構成されているポリシーフィールド win_eca_crl_path、win_eca_crl_check_level、または win_eca_key_passphrasefile が存在しますが、必須フィールドのいずれかが除外されています (必須フィールド: win_eca_cert_path、win_eca_trust_store_path、win_eca_private_key_path)。

推奨処置: UNIX クライアントのみの場合は、ポリシーフィールド win_eca_crl_path、win_eca_crl_check_level、win_eca_key_passphrasefile をリセットします。それ以外の場合は、必須フィールド win_eca_cert_path、win_eca_trust_store_path、win_eca_private_key_path を設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1007

メッセージ: ポリシー値 win_eca_cert_store を指定した場合、win_eca_cert_path、win_eca_trust_store_path、win_eca_private_key_path、win_eca_key_passphrasefile のポリシー値は指定できません。(Cannot specify policy values for win_eca_cert_path, win_eca_trust_store_path, win_eca_private_key_path, and win_eca_key_passphrasefile when the policy value win_eca_cert_store is specified.)

説明: ポリシーフィールド win_eca_cert_store にはポリシーフィールド win_eca_crl_check_level を指定する必要があります。win_eca_cert_path、win_eca_trust_store_path、win_eca_private_key_path、win_eca_key_passphrasefile フィールドを設定する必要はありません。

推奨処置: 必要なポリシーフィールド win_eca_crl_check_level を設定して、ポリシーフィールド win_eca_cert_path、win_eca_trust_store_path、win_eca_private_key_path、win_eca_key_passphrasefile をリセットするか、ポリシーフィールド win_eca_cert_store をリセットします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1008

メッセージ: 必須フィールド unix_eca_crl_path が不明です。(Missing required field unix_eca_crl_path.)

説明: unix_eca_crl_check_level が use_path の場合のみ、ポリシーフィールド unix_eca_crl_path が必要です。

推奨処置: ポリシーフィールド unix_eca_crl_path を設定するか、unix_eca_crl_check_level を use_cdp または disabled に変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1009

メッセージ: 必須フィールド win_eca_crl_path が不明です。(Missing required field win_eca_crl_path.)

説明: win_eca_crl_check_level が use_path の場合のみ、ポリシーフィールド win_eca_crl_path が必要です。

推奨処置: ポリシーフィールド win_eca_crl_path を設定するか、win_eca_crl_check_level を use_cdp または disabled に変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1010

メッセージ: フィールド unix_eca_crl_path が指定されている場合、unix_eca_crl_check_levelフィールドは use_path である必要があります。(Field unix_eca_crl_check_level must be use_path if field unix_eca_crl_path is specified.)

説明: unix_eca_crl_path が指定されている場合、ポリシーフィールド unix_eca_crl_check_level は use_path に設定する必要があります。

推奨処置: ポリシーフィールド unix_eca_crl_check_level を use_path に設定するか、ポリシーフィールド unix_eca_crl_path をリセットします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1011

メッセージ: フィールド win_eca_crl_path が指定されている場合、win_eca_crl_check_levelフィールドは use_path である必要があります。(Field win_eca_crl_check_level must be use_path if field win_eca_crl_path is specified.)

説明: win_eca_crl_path が指定されている場合、ポリシーフィールド win_eca_crl_check_level は use_path に設定する必要があります。

推奨処置: ポリシーフィールド win_eca_crl_check_level を use_path に設定するか、ポリシーフィールド win_eca_crl_path をリセットします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1012

メッセージ: 必須フィールド win_eca_crl_check_level が不明です。(Missing required field win_eca_crl_check_level.)

説明: ポリシーフィールド win_eca_cert_store が指定されている場合は、win_eca_crl_check_level も指定する必要があります。

推奨処置: ポリシーフィールド win_eca_crl_check_level を設定し、win_eca_crl_check_level が use_path の場合はポリシーフィールド win_eca_crl_path も設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1013

メッセージ: deployment_cert_source の値が無効です。file を指定する必要があります。(Invalid deployment_cert_source value, file must be specified.)

説明: win_eca_cert_store が指定されていない場合は、cert_store 値を deployment_cert_source に指定できません。

推奨処置: deployment_cert_source 値を cert_store から file に変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1014

メッセージ: deployment_cert_source の値が無効です。cert_store を指定する必要があります。(Invalid deployment_cert_source value, file must be specified.)

説明: win_eca_cert_store が指定されている場合は、file 値を deployment_cert_source に指定できません。

推奨処置: deployment_cert_source 値を file から cert_store に変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1019

メッセージ: Snapshot Manager 機能を取得できませんでした。(Failed to get Snapshot Manager capability.)

説明: NetBackup が EMM データベースから Snapshot Manager 機能のパラメータを取得できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup サービス - nbemm が実行中であることを確認します。
- tpconfig コマンドを使用して Snapshot Manager の構成の更新操作を実行し、EMM の機能パラメータをリセットします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1020

メッセージ: 前回のバックアップスナップショット ID を取得できませんでした。(Failed to get the last backup snapshot ID.)

説明: ベンダー変更追跡 (VCT) ベースのバックアップの場合、NetBackup は前回の参照スナップショットイメージのスナップショット識別子を見つけられません。

推奨処置: VCT ベースの増分バックアップを再試行する前に、最後の参照スナップショットイメージが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1021

メッセージ: 指定したメンテナンスバージョンが、インストール済みのバージョンのベースバージョンと同じではありません。(The maintenance version that is specified is not the same base version as installed version.)

説明: `nbinstallcmd -package option` または `bpplinfo -deployment_package` オプションを使用して指定するパッケージ名は、インストールされているパッケージの最初の 3 つのバージョン番号と一致する必要があります。

例:

- パッケージの名前が `maint.nbclient_8.2.2.2` の場合、インストールされたパッケージバージョンは `8.2.2` で始まるはずです。

推奨処置: パッケージ名を基本バージョンと一致するように変更します。

例:

- パッケージ名が `maint.nbclient_8.2.3.2` の場合は、`maint.nbclient.8.2.2.2` に変更します。これは、インストール済みパッケージ `maint.nbclient.8.2.2.1` の基本リリースバージョン `8.2.2` と一致します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1022

メッセージ: インストール済みのバージョンより古いバージョンをメンテナンスバージョンに指定できません。または、更新が不要です。

説明: `nbinstallcmd -package option` または `bpplinfo -deployment_package` オプションを使用して指定するパッケージ名は、インストールされているパッケージと同じか、それよりも新しい必要があります。

例:

- インストールされているパッケージ名が `maint.nbclient_8.2.2.2` の場合、新しい `maint.nbclient` パッケージ名に指定されるバージョンは `8.2.2.[2-9]` である必要があります。

次の理由により、更新が不要な場合があります。

- 指定したメンテナンスリリースには、ターゲットホストに適用可能な更新がありません。
- メンテナンスリリースは、ターゲットホストにすでにインストールされています。

推奨処置: `maint.client` または `maint.nbserver` のパッケージ名バージョンを、インストールされているパッケージバージョンと同じか、それよりも新しいバージョンに変更します。例:

例:

- インストールされているパッケージが maint.nbclient_8.3.0.5 の場合、すべての新しい maint.nbclient パッケージ名バージョンは 8.3.0.[5-9] である必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1023

メッセージ: 無効なパッケージ名が指定されました。(Invalid package name specified.)

説明: nbinstallcmd -package option または bpplinfo -deployment_package オプションを使用して指定したパッケージ名が無効です。

推奨処置: パッケージ名を必要な形式 <name>_<version> と一致するように変更します。ここで <version> は有効な NetBackup リリース (8.2.1 など) です。

パッケージ名の形式は、次のいずれかである必要があります。

- nbclient_<version>
- nbserver_<version>
- nbeeb_<version>
- nbeeb.client_<version>
- nbeeb.server_<version>
- maint.nbclient_<version>
- maint.nbserver_<version>

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1024

メッセージ: NetBackup バージョン 8.3 以降のバックアップホストを使用する Nutanix AHV VM の保護に BigData ポリシーは使用できません。(The BigData policy cannot be used to protect Nutanix AHV VMs using a backup host with NetBackup version 8.3 or later.)

説明: NetBackup 9.0 以降、NetBackup では Nutanix AHV 仮想マシンの保護に Bigdata ポリシーがサポートされません。BigData ポリシーを Hypervisor ポリシーに変換する必要があります。

推奨処置: 既存の BigData ポリシーを編集し、ポリシー形式を Hypervisor として選択してポリシーを移行します。『NetBackup for Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) 管理者ガイド』で、BigData ポリシーの Hypervisor ポリシーへの移行に関するトピックを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1026

メッセージ: バックアップジョブを開始できません。同じポリシーを使用して同じ資産の別のバックアップジョブがすでに実行されています。(Cannot start the backup job, as another backup for the same asset, using the same policy is already running.)

説明: このエラーは、PaaS 資産のバックアップジョブを開始するときに、その資産の別のバックアップジョブがすでに同じポリシーで実行されている場合に発生します。

推奨処置: 同じポリシーを使用して、同じ資産に対して新しいバックアップを開始する前に、現在のバックアップが完了するまで待機します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1057

メッセージ: データの破損が検出されました。

説明: データ一貫性チェックがメディアサーバー重複排除プール (MSDP) でデータ損失またはデータの破損を検出して影響のあるバックアップを報告しました。

推奨処置: サーバー上で `storaged.log` を実行して影響を受けたバックアップを探し、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1058

メッセージ: データの不整合が検出され、自動的に修正されました。(A data inconsistency has been detected and corrected automatically.)

説明: データ一貫性チェックで潜在的なデータ損失が検出され、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) で自動的に修正されました。

推奨処置: 当該メディアサーバー上で `storaged.log` ファイルを検索します。問題が解消しない場合は、サポートに問い合わせて根本的な原因の調査を依頼します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1227

メッセージ: キーグループに有効なキーがありません。

説明: キーマネージメントサービス (KMS) からキーグループの有効なキーレコードの詳細を取得しませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。

次のコマンドを実行して、キーマネージメントサービス (KMS) に必要なキーが存在するかどうかを確認します。

- 次のコマンドを実行して、キーレコードがアクティブな状態にあることを確認します。`nbkmscmd -listkeys -name <kms name> -keyGroupName <key_group_name>`
- キーがグループ内に存在しない場合は、次のコマンドを実行して新しいキーを作成します。`nbkmscmd -createKey -name <configuration name> -KeyName <name of the key to be created> -keyGroupName < key group name>`
- キーレコードのいずれかがグループ内で有効な状態でない場合は、次のコマンドを実行してキーを有効にします。`nbkmsutil -modifykey -keyname <key_name> -kgname <key_group_name> -activate`

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1229

メッセージ: キーグループが見つかりませんでした。

説明: キーマネージメントサービス (KMS) からキーグループの詳細を取得しませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。

- 次のコマンドを実行して、グループが KMS サーバーに存在するかどうかを確認します。`nbkmscmd -listkeys -name <kms name> -keyGroupName <key_group_name>`
- KMS サーバーでキーグループを作成するには、次のコマンドを実行します。`nbkmscmd -createKey -name <configuration name> -KeyName <name of the key to be created> -keyGroupName <name of the key group associated with the key>`

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1260

メッセージ: キーレコードが見つかりませんでした。

説明: キーマネージメントサービス (KMS) からキーレコードの詳細を取得しませんでした。この問題は、グループ内で有効なキーレコードが見つからないことが原因である可能性があります。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。

次のコマンドを実行して、キーマネージメントサービス (KMS) に必要なキーが存在するかどうかを確認します。

1. 次のコマンドを実行して、構成済み KMS の情報を取得します。`nbkmscmd -listKMSConfig -name <kms_configuration_name>`
   - 既存の KMS サーバーの[**バックアップに有効** `(Enabled for Backup)`]オプションが false に設定されている場合は、次のコマンドを実行して true 状態に設定します。`nbkmscmd -updateKMSConfig`
   - KMS サーバーの KMS 構成が存在しない場合は、次のコマンドを実行して、[**バックアップに有効** `(Enabled for Backup)`]オプションを設定した新しい KMS 構成を追加します。`nbkmscmd -configureKMS`

   目的のキーグループが、[**バックアップに有効** `(Enabled for Backup)`]が true に設定されている KMS サーバーにあることを確認します。
2. 次のコマンドを実行してキーのリストを取得します。`nbkmscmd -listKeys -name <kms_configuration_name>`
3. キーが存在しない場合は、`nbkmscmd -createKey -name <configuration name> -KeyName <name of the key to be created> -keyGroupName <name of the key group associated with the key>` を実行してキーレコードを KMS サーバーに追加します。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1288

メッセージ: KMS (キーマネージメントサービス) の詳細を取得できませんでした。

説明: 構成された KMS (キーマネージメントサービス) の詳細を取得できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。

このエラーは、NetBackup キーマネージメントサービス (KMS) が実行されていないか、NetBackup キーマネージメントサービス (KMS) が構成されていないことが原因で発生する場合があります。

次のコマンドを実行して、NetBackup キーマネージメントサービス (KMS) が実行中で構成されているかどうかを確認します。

1. コマンド `nbkmscmd -listKMSConfig -name <kms_configuration_name>` を実行して、`nbkms` サービスが構成されているかどうかを確認します。
2. `nbkms` サービスが構成されていない場合は、`nbkmscmd -configureKMS` を実行して NetBackup KMS サービスを構成します。
3. コマンド `nbkmscmd -configureKMS` で推奨された場合は、コマンド `nbkmscmd -discoverNBkms` を実行します。
4. コマンド `nbkmscmd -listKMSConfig -name <kms_configuration_name>` を実行して、`nbkms` サービスが構成されていることを確認します。
5. コマンド `nbkmscmd -validateKMSConfig -name <kms_ configuration_name>` を実行して、`nbkms` サービスが起動し、実行中の状態になっていることを確認します。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1289

メッセージ**:** KMS (キーマネージメントサービス) の構成を作成できませんでした。

説明**:** 指定された構成で KMS (キーマネージメントサービス) を作成できませんでした。

推奨処置**:** 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1290

メッセージ**:** KMS 構成の更新に失敗しました。

説明: KMS 構成の更新が正常に行われなかった理由として考えられる項目は、次のとおりです。

- 属性が 1 つも指定されていません。
- NetBackup KMS の構成を更新する予定でしたが、KMIP 属性が提供されています。KMIP 属性は NetBackup KMS 構成の更新には有効ではありません。

推奨処置: KMS の構成を更新する場合は、次のことを確認します。

- 少なくとも 1 つの属性を指定します。
- NetBackup KMS の構成を更新するには、KMIP 属性が指定されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1291

メッセージ: NetBackup キーマネージメントサービス (NBKMS) はすでに構成されていますが、登録されていません。(The NetBackup Key Management Service (NBKMS) is already configured, but not registered.)

説明: NetBackup KMS はアップグレード中に自動的には登録されません。

推奨処置: `nbkmscmd` コマンドを実行して NetBackup KMS を検出します。`nbkmscmd` コマンドの使用について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1292

メッセージ: NetBackup キーマネージメントサービス (NBKMS) は、構成されていないため登録できません。(The NetBackup Key Management Service (NBKMS) cannot be registered because it is not configured.)

説明: NetBackup KMS を登録しようとしましたが、NetBackup KMS はまだ構成されていません。登録する前に、NetBackup KMS が構成されており、サービスが実行中であることを確認します。

推奨処置: `nbkmscmd` コマンドを実行して、NetBackup KMS を構成します。この手順では、NetBackup KMS が自動的に登録されます。`nbkmscmd` コマンドの使用について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1293

メッセージ: JSON 文字列を処理できません。

説明: 外部キーマネージメントサービス (EKMS) から受信した出力に、解析上の問題があります。

推奨処置: 詳しくは、応答の JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。同じ操作を再試行すると、問題が解決するはずです。詳しくは `nbkmiputil` および `nbwebservice` のログを確認してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1294

メッセージ: NetBackup キー管理ユーティリティへの JSON 文字列の送信でタイムアウトが発生しました。

説明: タイムアウトは、外部キーマネージメントサービス (EKMS) からキーレコードの詳細を取得するときに発生します。このタイムアウトは、EKMS サーバー名またはポートが KMS 構成に構成されていないことが原因で発生する場合があります。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。

`nbkmscmd -listKMSConfig` コマンドを使用して、KMS 構成内の KMS サーバー名とポート番号を確認します。KMS の構成ですべての設定を確認したら、`nbkmscmd -validateKMSConfig -name <KMS Configuration Name>` コマンドを実行します。

同じ操作を再試行すると、問題が解決する場合があります。詳しくは `nbkmiputil` および `nbwebservice` のログを確認してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1295

メッセージ: NetBackup キー管理ユーティリティが実行中であるため、このユーティリティから JSON 文字列を読み取ることができません。

説明: 外部キーマネージメントサービス (EKMS) から受信した出力に、解析上の問題があります。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。同じ操作を再試行すると、問題が解決する場合があります。詳しくは `nbkmiputil` および

nbwebservice のログを確認してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1296

メッセージ: KMS 構成を検証できません。(The KMS configuration cannot be validated.)

説明: 検証の前に、NetBackup KMS が構成され、サービスが実行中であることが必要です。

推奨処置: nbkms サービスが起動され実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1297

メッセージ: KMS キーを作成できません。(The KMS key cannot be created.)

説明: KMS キーを作成するために必要な属性が見つからないか、正しくありません。

推奨処置: 必要な KMS キーの属性が指定されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1298

メッセージ: 1 つ以上の Key Management Server と通信できません。(Cannot communicate with one or more key management servers.)

説明: 1 つ以上の KMS サーバーが、指定された NetBackup ドメインで設定されています。キーは、バックアップまたはリストアジョブの一部として nbwmc に問い合わせられます。KMS サーバーからキーが取得される間、一部の通信エラーが表示されます。KMS に到達できないエラーや、KMS サーバーへの接続に使用されているクレデンシャルが無効である可能性があります。

推奨処置: nbkmscmd -validateKMSConfig -name <KMS Configuration Name> コマンドを実行して、エラーの詳細を取得して確認します。nbkmscmd -listKMSConfig コマンドを使用して、構成されている KMS サーバーと <KMS Configuration Name> を表示できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1299

メッセージ: KMS 構成の事前チェックに失敗しました。

説明: このエラーは、次のいずれかの条件が満たされていない場合に発生します。

- credId または pkiAttributes を指定する必要があります。両方を同時に指定しないでください。
- 次のいずれかのフィールドは必須です: credId または pkiAttributes。
- kmsServerAttributes フィールドは必須で、空にできません。
- 証明書は必須で、空にできません。
- CA 証明書は必須で、空にできません。
- 秘密鍵は必須で、空にできません。
- この操作は、次の KMS の種類ではサポートされていません: NBKMS。

推奨処置: 必要に応じて次を確認します。

- credId または pkiAttributes を指定する必要があります。両方を同時に指定しないでください。
- 次のいずれかの必須フィールドがあることを確認します: credId または pkiAttributes。
- 必須フィールド kmsServerAttributes が空白でないことを確認します。
- 証明書の日付を確認します。証明書は必須で、空にできません。
- CA 証明書を確認します。CA 証明書は必須で、空にできません。
- 秘密鍵を確認します。秘密鍵は必須で、空にできません。
- NBKMS が使用されていないことを確認します。この操作は、KMS の種類ではサポートされません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1304

メッセージ: KMS のキーを更新できませんでした。(Failed to update key in KMS.)

説明: NetBackup KMS でキーの更新操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- 操作が REST API を使用して実行される場合、要求ペイロードが無効である可能性があります。API のマニュアルで正しい要求ペイロードを確認してください。

- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1305

メッセージ: KMS のキーグループを更新できませんでした。(Failed to update key group in KMS.)

説明: NetBackup KMS でキーグループの更新操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- 操作が REST API を使用して実行される場合、要求ペイロードが無効である可能性があります。API のマニュアルで正しい要求ペイロードを確認してください。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1306

メッセージ: KMS のキーを削除できませんでした。(Failed to delete key in KMS.)

説明: NetBackup KMS でキーの削除操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1307

メッセージ: KMS のキーグループを削除できませんでした。(Failed to delete key group in KMS.)

説明: KMS でキーグループの削除操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。

- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1308

メッセージ: KMS のキーグループを作成できませんでした。(Failed to create key group in KMS.)

説明: KMS でキーグループの作成操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- 操作が REST API を使用して実行される場合、要求ペイロードが無効である可能性があります。API のマニュアルで正しい要求ペイロードを確認してください。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1309

メッセージ: ホストマスターキーの変更に失敗しました。(Failed to modify Host Master Key.)

説明: ホストマスターキーを変更する操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1310

メッセージ: キーの保護キーの変更に失敗しました。(Failed to modify Key Protection Key.)

説明: キーの保護キーを変更する操作に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1311

メッセージ: KMS からのキーのリカバリに失敗しました。(Failed to recover key from KMS.)

説明: KMS でキーのリカバリ操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- 操作が REST API を使用して実行される場合、要求ペイロードが無効である可能性があります。API のマニュアルで正しい要求ペイロードを確認してください。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1312

メッセージ: KMS からのキーグループのフェッチに失敗しました。(Failed to fetch key group from KMS.)

説明: KMS からキーグループをフェッチする操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup KMS が構成されていることを確認します。
- それでも操作が失敗する場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1313

メッセージ: 指定されたクラウド KMS のクレデンシャルは有効ではありません。(The specified credentials of cloud KMS are not valid.)

説明: クラウドクレデンシャルが NetBackup に存在しないか、無効です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- Web UI にログオンし、[クレデンシャルの管理 (Credential management)]ページに移動します。有効な[Cloud KMS]クレデンシャルエントリが NetBackup に存在することを確認します。
- 誤った詳細が指定されている場合は、エントリを削除して再作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1314

メッセージ: クラウド KMS プロキシサーバーの指定されたクレデンシャルが存在しません。(The specified credentials of cloud KMS proxy server do not exist.)

説明: 指定されたプロキシサーバークレデンシャルが NetBackup に存在しません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- Web UI にログオンし、[クレデンシャルの管理 (Credential management)]ページに移動します。有効な[プロキシサーバー (Proxy Server)]クレデンシャルエントリが NetBackup に存在することを確認します。
- 誤った詳細が指定されている場合は、エントリを削除して再作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1315

メッセージ: クラウド KMS 構成が有効ではありません。(The cloud KMS configuration is not valid.)

説明: NetBackup は、指定された構成情報を使用してクラウド KMS に接続できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 有効な既存のクラウドクレデンシャルがクラウド KMS 構成にマッピングされていることを確認します。
- プロキシサーバークレデンシャルが指定されている場合は、有効な既存のプロキシサーバークレデンシャルがクラウド KMS 構成にマッピングされていることを確認します。プロキシサーバーが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1316

メッセージ: データを解読できませんでした。(Failed to decrypt data.)

説明: NetBackup は、クラウドで作成された KMS キーを使用してデータを復号できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- クラウド KMS に有効な KMS キーが存在し、NetBackup でクレデンシャルが指定されているサービスアカウントがそのキーにアクセスできることを確認します。
- KMS キーエントリが NetBackup に存在してアクティブであることを確認します。
- サービスアカウントに KMS 復号権限があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1317

メッセージ: 指定されたキーでは、データを暗号化できませんでした。(Failed to encrypt data using the specified key.)

説明: NetBackup は、クラウドで作成された KMS キーを使用してデータを暗号化できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- クラウド KMS に有効な KMS キーが存在し、NetBackup でクレデンシャルが指定されているサービスアカウントがそのキーにアクセスできることを確認します。
- KMS キーエントリが NetBackup に存在することを確認します。
- サービスアカウントに KMS 暗号化権限があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1318

メッセージ: 指定された KMS 構成を削除できません。(The specified KMS configuration cannot be deleted.)

説明: NetBackup は指定された KMS 構成を削除できません。このエラーの原因の 1 つは、他のリソースが KMS 構成に依存していることです。

推奨処置: この KMS 構成に関連付けられているすべての KMS キーを削除します。その後、KMS 構成を削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1401

メッセージ: 無効な引数が受信されました (Invalid arguments received)

説明: 無効な入力引数は保留サービスに渡されます。

推奨処置: 必要なすべてのパラメータは必ず正しい値を指定して渡してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1402

メッセージ: 保留 ID または保留名の引数が無効です (Hold id or Hold name argument is invalid)

説明: `nbholdutil` コマンドが、ルートの保留サービスに渡される無効な `-holdid` または `-holdname` オプションを含んでいます。

推奨処置: `-holdid` または `-holdname` オプションの有効な値を調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1403

メッセージ: バックアップ ID の引数が無効です (Backup id argument is invalid)

説明: `nbholdutil` コマンドが、ルートの保留サービスに渡される無効な `-backupid` オプションを含んでいます。

推奨処置: `-backupid` オプションの有効な値を調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1405

メッセージ: イメージが見つかりませんでした (No images are found)

説明: `nbholdutil` コマンドに含まれる `-backupid` に対応するイメージが見つかりません。

推奨処置: `-backupid` オプションに有効なイメージが指定されているか調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1407

メッセージ: 無効な保留状態 (Invalid hold state)

説明: 保留状態が無効です。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1408

メッセージ: データベースエラー (Database error)

説明: 保留サービスは、保留関連情報を取得できません。

推奨処置: 保留データベースサービスと DBM サービスが動作していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1409

メッセージ: データベースに接続できません (Unable to connect to database)

説明: 保留サービスが保留データベースに接続できません。

推奨処置: 保留データベースサービスと DBM サービスが動作していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1410

メッセージ: データが見つかりません (No data found)

説明: 指定された値に対してイメージや保留コピーが見つかりません。

推奨処置: 必要なすべてのパラメータは必ず正しい値を指定して渡してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1411

メッセージ: カタログエラー (Catalog error)

説明: イメージカタログを更新しようとしています。

推奨処置: 保留操作が適用されるイメージコピーが期限切れになっておらず有効か調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1412

メッセージ: 保留レコードの更新中 (Hold record is being updated)

説明: 保留操作で更新が実行中です。

推奨処置: 操作を後で再試行するか、nbim サービスを再起動してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1413

メッセージ: 要求された保留が見つかりません (Requested hold is not found)

説明: nbholdutil コマンドが、存在しない保留を要求しています。

推奨処置: -holdname オプションと -holdid オプションを調べてください。nbholdutil -list コマンドを使うことができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1414

メッセージ: 複製の保留が見つかりました (Duplicate hold found)

説明: 別の保留によって名前が使われている保留を作成しようとしています。

推奨処置: 異なる名前で試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1415

メッセージ: 複製イメージが見つかりました (Duplicate image found)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1416

メッセージ: 複製イメージがあるため、一部が失敗しました (Partially failed due to duplicate image)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1417

メッセージ: 保留されていないイメージがあるため、一部が失敗しました (Partially failed due to unhold image)

説明: バックアップイメージコピーが、指定された保留からすでに削除されています。

推奨処置: 必ず現在の保留に存在する正しいバックアップ ID を指定してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1418

メッセージ: 要求されたイメージが見つかりません (Requested image is not found)

説明: 指定されているバックアップ ID のバックアップイメージが見つかりません。イメージが期限切れになっているか、または指定されているバックアップ ID が無効です。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1419

メッセージ: 無効なイメージコピーがあるため、一部が失敗しました (Partially failed due to invalid image copy)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1420

メッセージ: 保留されているイメージコピーを期限切れにすることはできません (Cannot expire on hold image copy)

説明: (bpexpdate または NetBackup 管理コンソールを使用して) 保留中のイメージコピーを期限切れにしようとしています。

推奨処置: このバックアップイメージからすべての保留を削除します。または、このバックアップ ID のすべてのイメージから保留を削除して、バックアップイメージを期限切れにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1421

メッセージ: 有効な保留を変更することはできません (Active holds cannot be changed)

説明: 有効な状態の保留を更新しようとしています。

推奨処置: NBIM サービスを再起動してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1422

メッセージ: 保留中のメディアを割り当て解除することはできません (Cannot deassign media on hold)

説明: ユーザーが保留中のイメージコピーがあるメディアを割り当て解除しようとしています。

推奨処置: 割り当て解除するメディアでバックアップされるイメージコピーの保留を解除してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1423

メッセージ: イメージコピーの保留状態を取得できません (Unable to retrieve hold status of the image copies)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1425

メッセージ: 要求された保留が見つかりません (Requested hold is not found)

説明: 保留サービスは、指定されている保留名または保留 ID の保留を見つけることができません。

推奨処置: すべての保留をリストするには、`nbholdutil -list` を実行してください。指定した `-holdname` オプションと `-holdid` オプションが有効であることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1426

メッセージ: 破棄された保留を変更することはできません (Retired holds cannot be changed)

説明: 今後の使用のために予約済みです。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1500

メッセージ: 指定された場所にストレージユニットが存在しないか使用できません (Storage unit does not exist or cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定したストレージユニットまたはストレージユニットグループが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したストレージユニットまたはストレージユニットグループが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーは[BasicDisk]や[ステージング (Staging)]形式をサポートしないため、指定したストレージユニットがこの形式でないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでストレージユニットがスナップショットの宛先に指定されていないことを確認します。ストレージライフサイクルポリシーではスナップショットの宛先にストレージユニットは必要ありません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1501

メッセージ: 指定された場所でソース操作を使用できません (source operation cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の複製先に指定したソースが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したソースがストレージライフサイクルポリシーの宛先リスト内の有効な宛先を参照していることを確認します。
- [バックアップ (Backup)]または[スナップショット (Snapshot)]宛先形式にソースが指定されていないことを確認します。nbstl を使ってストレージライフサイクルポリシーを構成する場合は、バックアップまたはスナップショットの宛先形式にソースとして値ゼロ (0) を使います。
- 指定したソースを参照する宛先が[スナップショット (Snapshot)]宛先形式ではないことを確認します。NetBackup では、ソースとしてスナップショットコピーを使用するバックアップイメージを複製できません。
- 指定したソースが、そのソースの宛先自体を参照していないことを検証します。
- ストレージライフサイクルの指定した宛先リストで、ソースの依存関係が循環していることを確認します。
- クラウドスナップショットレプリケーションのソースはスナップショット操作である必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1502

メッセージ: 指定された場所で保持形式を使用できません (retention type cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定した保持形式が無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ストレージライフサイクルポリシーで指定した保持形式が[固定 (Fixed)]、[管理対象のステージング容量 (Staged capacity managed)]、または[複製後に期限切れにする (Expire after duplication)]であることを確認します。

- ［複製後に期限切れにする (Expire after duplication)］保持形式が、ストレージライフサイクルポリシーの他の宛先のソースとして指定されている場合にのみ宛先に使用されていることを確認します。
- ［管理対象のステージング容量 (Staged capacity managed)］保持形式が［容量管理 (Capacity management)］機能をサポートするディスクの宛先に対してのみストレージライフサイクルポリシーで使われていることを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーの［スナップショット (Snapshot)］宛先形式で、［固定 (Fixed)］保持形式のみが使用されていることを確認します。
- 固定保持形式はクラウドスナップショットレプリケーションでのみサポートされます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1503

メッセージ: 指定された場所にボリュームプールが存在しないか使用できません (Volume pool does not exist or cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定したボリュームプールが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したボリュームプールが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでボリュームプールが［バックアップ (Backup)］宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでボリュームプールが［スナップショット (Snapshot)］宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでディスクストレージユニットを使う［複製 (Duplication)］宛先形式にボリュームプールが指定されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1504

メッセージ: 指定された場所にサーバーグループが存在しないか使用できません (Server group does not exist or cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定したメディアサーバーグループが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定したメディアサーバーグループが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでメディアサーバーグループが[バックアップ (Backup)]宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでメディアサーバーグループが[スナップショット (Snapshot)]宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーでディスクストレージユニットを使う[複製 (Duplication)]宛先形式にメディアサーバーグループを指定していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1505

メッセージ: 指定された場所に代替読み込みサーバーが存在しないか使用できません (alternate read server does not exist or cannot be used where specified)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定した代替読み込みサーバーが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 指定した代替読み込みサーバーが NetBackup データベースに存在することを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーで代替読み込みサーバーが[バックアップ (Backup)]宛先形式に指定されていないことを確認します。
- ストレージライフサイクルポリシーで代替読み込みサーバーが[スナップショット (Snapshot)]宛先形式に指定されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1506

メッセージ: データの分類は存在しません (data classification does not exist)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定したデータの分類が無効です。

推奨処置: 指定したデータ分類が NetBackup データベースに存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1507

メッセージ: 遅延操作フラグが無効です (Invalid deferred operation flag)

説明: 遅延操作フラグが SLP 操作に対して無効になっています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- `nbstl -defop` コマンドを使用した場合、指定した引数が f、F、t、T のいずれかであることを確認します。
  `nbstl` コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。
- プライマリ SLP 操作 (バックアップ、スナップショット、インポート) にフラグが設定されないことを確認します。
- ソースコピーに固定保持があるかを確認します。
- 詳細については詳細ログメッセージを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1508

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーが最大コピーを超えています (Storage lifecycle policy exceeds maximum copies)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した宛先のリストが許可したバックアップコピーの最大数 10 を超えています。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで指定した宛先の数が 10 を超えていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1509

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーが最大バックアップ操作を超えています (storage lifecycle policy exceeds maximum backup operations)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した[バックアップ (Backup)]形式の宛先の数が許可した同時コピーの最大数を超えています。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで指定した[バックアップ (Backup)]形式の宛先の数が 4 以下であることを検証します ([許容される同時コピーの最大数 (maximum number of allowed simultaneous copies)]パラメータのデフォルト値は 4 です)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1510

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーに複数のスナップショット操作を含めることはできません (storage lifecycle policy cannot have more than one snapshot operation)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した宛先のリストが許可したスナップショットの宛先の最大数を超えています。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーが複数のスナップショット形式の宛先を含むように構成されていません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1511

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーには少なくとも 1 つの固定保持またはスナップショットのローテーション操作を含める必要があります (storage lifecycle policy must have at least one fixed retention or snapshot rotation operation)

説明: 指定したストレージライフサイクルポリシーに、保持形式が[固定 (Fixed)]の宛先が含まれていません。

推奨処置: 指定したストレージライフサイクルポリシーが[固定 (Fixed)]保持形式で構成された宛先を少なくとも 1 つ含むことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1512

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーには 1 つ以上のバックアップ、インポート、またはスナップショット操作を含める必要があります (storage lifecycle policy must have at least one backup, import, or snapshot operation)

説明: 指定したストレージライフサイクルポリシーにバックアップの宛先が含まれていません。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーに、[バックアップ (Backup)]形式の宛先が少なくとも 1 つ含まれていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1513

メッセージ: 優先度が無効です (invalid priority)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定した複製の優先度が無効です。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで指定した複製の優先度が 0 から 99999 の範囲内であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1514

メッセージ: 操作形式が無効です (invalid operation type)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定した宛先形式が無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ストレージライフサイクルポリシーの各宛先に指定した宛先形式が[バックアップ (Backup)]、[複製 (Duplication)]、[スナップショット (Snapshot)]のいずれかであることを確認します。
- nbstl コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成する場合、宛先形式の有効な値は次のとおりです。0 は[バックアップ (Backup)]、1 は[複製 (Duplication)]、2 は[スナップショット (Snapshot)]を示します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1515

メッセージ: 指定された場所で、多重化値が無効か使用できません (multiplexing value is not valid or cannot be used where specified)

説明: 1 つ以上の宛先に指定した多重化の維持フラグが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- nbstl コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成する場合は、各宛先の多重化維持フラグを示すために有効な値が使用されていることを確認します。値「T」または「t」は True (多重化を維持する) を示します。値「F」または「f」は false (多重化を維持しない) を示します。
- [バックアップ (Backup)]形式の宛先が多重化を維持するように構成されていないことを確認します。
- [スナップショット (Snapshot)]形式の宛先が多重化を維持するように構成されていないことを確認します。
- ディスクストレージユニットを使用する[複製 (Duplication)]形式の宛先が多重化を維持するように構成されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1516

メッセージ: すべてのストレージユニットまたはグループは同じメディアサーバー上に存在している必要があります (all storage units or groups must be on the same media server)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで指定された[バックアップ (Backup)]形式の宛先には、同じメディアサーバーからアクセスできません。

推奨処置: [バックアップ (Backup)]形式のすべての宛先に、少なくとも 1 つの共通のメディアサーバーからアクセスできることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1517

メッセージ: 保持レベルが無効です (invalid retention level)

説明: ストレージライフサイクルポリシーで 1 つ以上の宛先に指定された保持レベルが無効です。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーで各宛先に指定した保持レベルが 0 から 100 の範囲内であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1518

メッセージ: バックアップイメージはストレージライフサイクルポリシーでサポートされていません (backup image is not supported by storage lifecycle policy)

説明: 構成したストレージライフサイクルポリシーはこのバックアップイメージをサポートしません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- スナップショットバックアップを実行するように NetBackup ポリシーが構成され、ポリシーでストレージの宛先としてストレージライフサイクルポリシーが使用される場合は、指定したストレージライフサイクルポリシーにスナップショットの宛先が構成されている必要があることを確認します。スナップショットの宛先が構成されていない場合は、それらの NetBackup ポリシーによって作成されるバックアップイメージがストレージライフサイクルポリシーでライフサイクル操作用に処理されなくなります。

- ストレージの宛先としてストレージライフサイクルポリシーを使う NetBackup ポリシーが、スナップショットのみの操作を実行するように構成されていないことを確認します。ストレージの宛先としてストレージライフサイクルポリシーを使う NetBackup ポリシーはスナップショットに加えてバックアップを作成する必要があります。ストレージライフサイクルポリシーは、スナップショットの宛先を構成した場合でも、少なくとも 1 つのバックアップコピーを含んでいる場合にのみ、このようなイメージに対してライフサイクル操作を実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1519

メッセージ: イメージは処理中です (images are in process)

説明: イメージの SLP 処理が未完了のため、処理中の操作は完了できません。

推奨処置: イメージ処理が完了するまで待ってから、操作を再試行してください。または、必要なイメージの SLP 処理を終了してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1521

メッセージ: データベースは使用できません (Database not available)

説明: インポートマネージャが NetBackup データベースにアクセスできません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- データベースサービスが実行中であることを確認します。
- ディスクに空きがあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1522

メッセージ: データベース問い合わせ実行中のエラー (Error executing database query)

説明: インポートマネージャ内に SQL エラーがあります。

推奨処置: 詳しくは、ログファイルで `nbstserv` プロセスまたはオリジネータ ID 369 を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1523

メッセージ: 無効なフラグメント (Invalid fragment)

説明: NetBackup はストレージデバイスから、認識できない形式のレプリケーション通知イベントを受信しました。

推奨処置: NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1524

メッセージ: イメージレコードが重複しています (Duplicate image record)

説明: NetBackup はストレージデバイスから NetBackup カタログにすでに存在するバックアップ ID のレプリケーション通知イベントを受信しました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで詳細を確認します。
- NetBackup によって削除されないので、ストレージから重複したイメージを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1525

メッセージ: LSU が無効です (Invalid lsu)

説明: NetBackup は不明または未構成のディスクボリューム (LSU) にイメージが存在することを示すレプリケーション通知イベントを受信しました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- LSU を有効なディスクプールの有効なディスクボリュームとして構成し、その有効なストレージユニットを作成します。インポートストレージライフサイクルポリシーとこのストレージユニットを関連付けます。
- NetBackup が認識するレプリケーションターゲットのディスクボリューム (LSU) を使うためにストレージデバイスのレプリケーションを再構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1526

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーが最大インポート操作を超えています (Storage lifecycle policy exceeds maximum import operations)

説明: ストレージライフサイクルポリシー定義は 1 つのインポート先しか含むことができないので、指定したとおりに作成、または修正できません。

推奨処置: 1 つのインポート先のみを含むストレージライフサイクルポリシーを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1527

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーには 1 つだけのバックアップ、インポート、またはスナップショット操作を含めることができます (storage lifecycle policy can have only one of backup, import, and snapshot operations)

説明: インポート先を指定したストレージライフサイクルポリシーは同時にバックアップ先またはスナップショット先を含むことができないため、ストレージライフサイクルポリシー定義は指定したとおりに作成または修正できません。

推奨処置: 1 つのインポート先のみと複製タイプの追加の宛先のみを指定したストレージライフサイクルポリシーを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1528

メッセージ: 自動イメージレプリケーションのソースコピーがレプリケーションに対応していません (The source copy for an Auto Image Replication is not capable of replication)

説明: ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 定義を指定どおりに作成または変更できません。自動イメージレプリケーションの宛先に、マスターサーバー間の複製が不可能なコピーを複製する宛先を選択したためです。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- コマンドラインを使う場合は、ソースコピーの正しい SLP の宛先インデックス番号を指定したことを確認します。
- GUI で正しいソースストレージライフサイクルポリシーの宛先を示す適切なインデントを使います。
- コピー元が複製が可能であるストレージユニットを使っていることを確認します。ストレージユニットは、CLI の SLP 宛先インデックスまたは GUI のインデントによって指

定されます。ストレージユニットが指定するディスクプール内のディスクボリュームのプロパティを調べます。

- レプリケーションターゲットを設定した後、ディスクプールを更新する必要があります。NetBackup 管理コンソールの左ペインで、[メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]>[デバイス (Devices)]>[ディスクプール (Disk Pools)]を展開します。右ペインで、更新するディスクプールを選択します。[ディスクプールの変更 (Change Disk Pool)ダイアログボックスで、[更新 (Refresh)]をクリックして、ディスクプールのレプリケーションを設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1529

メッセージ: 自動イメージレプリケーションのソースコピーにストレージユニットを指定している必要があります (The source copy for Auto Image Replication must specify a storage unit)

説明: 次のいずれかの状態が発生している可能性があります。

- ストレージライフサイクルポリシー定義を指定とおりに作成または変更できません。自動イメージレプリケーションの宛先に、マスターサーバー間の複製が不可能なコピーを複製するおそれがある宛先が選択されているためです。
- ストレージユニットグループを使用して複製しようとしています。自動イメージレプリケーションは、ストレージユニットグループからのレプリケートもストレージユニットグループへのレプリケートもサポートしません。すなわち、ソースコピーはストレージユニットグループにはなく、ターゲットはストレージユニットグループではありません。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- コマンドラインを使う場合は、ソースコピーの正しいストレージライフサイクルポリシーの宛先インデックス番号を指定したことを確認します。
- GUI で正しいソースストレージライフサイクルポリシーの宛先を示す適切なインデントを使っていることを確認します。
- CLI のストレージライフサイクルポリシーの宛先インデックス、または GUI のインデントによって指定されるソースが、レプリケーション可能なストレージユニット (ストレージユニットグループ、ストレージライフサイクルポリシーまたは任意ではなく) を使っていることを確認します。ストレージユニットが指定するディスクプール内のディスクボリュームのプロパティを調べます。
- 複製でストレージユニットグループを使用していないことを確認してください。ソースコピーの場合、ストレージユニットグループにないストレージユニットを選択します。ターゲットの場合、ストレージユニットグループは選択しません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1530

メッセージ: 自動イメージレプリケーションは各コピーにつき 1 つのみ許可されます (Only one Auto Image Replication allowed per copy)

説明: ストレージライフサイクルポリシー定義を指定どおりに作成または変更できません。自動イメージレプリケーションの宛先に、自動イメージレプリケーションがすでに存在し、ソースコピーとして指定されているコピーを複製する宛先が選択されているためです。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- コマンドラインを使う場合は、ソースコピーの正しいストレージライフサイクルポリシーの宛先インデックス番号を指定したことを確認します。
- GUI で正しいソースストレージライフサイクルポリシーの宛先を示す適切なインデントを使っていることを確認します。
- CLI のストレージライフサイクルポリシー宛先インデックス、または GUI のインデントにより指定されたソースには、ソースコピーを指定している自動イメージレプリケーション宛先が複数存在しないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1531

メッセージ: インポートストレージライフサイクルポリシーにはリモート保持形式のコピーが 1 つ必要です (An import storage lifecycle policy requires one copy with remote retention type)

説明: (インポートされた) リモート保持形式を使用して、インポートされたイメージの少なくとも 1 つのコピーを作成する必要があるので、ストレージライフサイクルポリシー定義を指定したとおりに作成または修正できません。

推奨処置: リモート保持形式を使う宛先をストレージライフサイクルポリシーに追加します。

次のいずれかを実行します。

- ストレージライフサイクルポリシーの宛先の 1 つを、リモート保持形式を使うように変更します。ストレージライフサイクルポリシーにインポートの宛先が 1 つしかない場合、その宛先はリモート保持形式である必要があります。
- リモート保持形式を使う宛先をストレージライフサイクルポリシーに追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1532

メッセージ: インポートされたイメージが存在しない SLP 名を指定しているため、インポートは失敗しました (Import failed because the imported image specifies an SLP name which does not exist)

説明: インポートされたイメージは、構成されたどのストレージライフサイクルポリシーとも一致せず、ただちに期限切れになりました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインのストレージライフサイクルポリシーが、インポートを構成した宛先ドメインのストレージライフサイクルポリシーと一致することを確認します。一致は大文字と小文字の区別ありです。
- ソースドメインのストレージライフサイクルポリシーと同じ名前を使って、インポート先を指定したストレージライフサイクルポリシーを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1533

メッセージ: インポートされたイメージデータクラスが SLP データクラスと異なるため、インポートは失敗しました (Import failed because the imported image data class is different than the SLP data class)

説明: インポート済みであるイメージは、インポートのストレージライフサイクルポリシーのデータ分類のどれとも一致しないデータ分類を含んでいるため、すぐに期限切れとされました。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- インポートを構成した宛先ドメインのデータ分類と一致するように、自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインのストレージライフサイクルポリシーのデータ分類を変更します。一致は大文字と小文字の区別ありです。
  自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインのストレージライフサイクルポリシーが、インポートを構成した宛先ドメインのストレージライフサイクルポリシーと一致することを確認します。一致は大文字と小文字の区別ありです。
- インポートを構成したソースドメインのデータ分類と一致するように、自動イメージレプリケーションを構成した宛先ドメインのストレージライフサイクルポリシーのデータ分類を変更します。一致は大文字と小文字の区別ありです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1534

メッセージ: インポートされたイメージがインポート操作のない SLP 名を指定しているため、インポートは失敗しました (Import failed because the imported image specifies an SLP name with no import operation)

説明: インポートされたイメージは、インポートのストレージライフサイクルポリシーではないストレージライフサイクルポリシー名を指定しているため、すぐに期限切れとされました。

推奨処置: 自動イメージレプリケーションを構成したソースドメインにある異なるストレージライフサイクルポリシー名を使ってください。この名前は、インポートを構成した宛先ドメインをインポート先とするストレージライフサイクルポリシー名と一致する必要があります。一致は大文字と小文字の区別ありです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1535

メッセージ: インポートするイメージのバックアップ ID が既存のイメージと競合しているため、インポートに失敗しました (Import failed because the imported image backup id conflicts with an existing image)

説明: NetBackup は、イメージカタログにすでに存在するバックアップ ID を持つイメージをインポートするように試みました。

推奨処置: NetBackup によって削除できないので、ストレージから重複したイメージを削除します。次のコマンドを使用します。

```
# bpimage -deletecopy # -backupid backupid
```

は、削除するイメージのコピー番号です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1536

メッセージ: ストレージユニットまたはストレージユニットグループは、SLP で参照されているため削除できません (The storage unit or storage unit group cannot be deleted because an SLP references it)

説明: ストレージライフサイクルポリシー (SLP) が参照しているストレージユニットまたはストレージユニットグループは削除できません。SLP のバージョンが古い可能性があります。NetBackup 管理コンソールには SLP の最新バージョンが表示されますが、ストレージユニットまたはストレージユニットグループへの参照が古いバージョン内で行われている可能性があります。

推奨処置: nbstl コマンドを使用して、古い SLP バージョンを表示、変更してください。以下の操作を記載されている順序で行ってください。

- 各 SLP のすべてのバージョンを表示する次のコマンドを実行します。

```
# nbstl -L -all_versions
```

- ストレージユニットまたはストレージユニットグループを参照する各 SLP の名前とバージョンを特定します。
- 削除するストレージユニット (グループ) を別のストレージユニットの名前に置換する次のコマンドを実行します。

```
# nbstl <SLP_name> -modify_version <version_number>...
```

Storage Lifecycle Policy (SLP) のバージョンについて詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1537

メッセージ: バックアップポリシーとストレージライフサイクルポリシーの構成が競合しています (Backup policy and storage lifecycle policy have conflicting configurations)

説明: バックアップポリシーの特性の一部が、ポリシー属性またはポリシースケジュールで参照される SLP 特性の 1 つと互換性がありません。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールで、疑わしい SLP について[ストレージライフサイクルポリシーの変更 (Change Storage Lifecycle Policy)]ダイアログを選択します。次に、SLP に関係する特定の競合を表示するために検証レポートを実行します。それらの競合を訂正してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1538

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーのデータ分類がバックアップポリシーと競合しています (Data Classification in storage lifecycle policy conflicts with backup policy)

説明: SLP に指定されたデータ分類がバックアップポリシーに指定されたデータ分類と一致しません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 一致するデータ分類を持つ SLP を参照するようにバックアップポリシーを変更します。

- バックアップポリシーのデータ分類か SLP のデータ分類を変更して、それらが一致するようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1539

メッセージ: バックアップポリシーはスナップショットを生成しますが、ストレージライフサイクルポリシーはそれらを処理しません (Backup policy generates snapshots but storage lifecycle policy does not handle them)

説明: ［ポリシーの変更 (Change Policy)］ダイアログボックスで［スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)］と［インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management)］が選択されているため、バックアップポリシーによってスナップショットが生成されます。参照される SLP はスナップショット操作を含んでいないためスナップショットを処理できません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- スナップショットサポートを提供する SLP を使うようにバックアップポリシーを変更します。
- スナップショットを生成しないようにバックアップポリシーを変更します。
- スナップショット操作を含むように SLP を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1540

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーはスナップショットを想定していますが、バックアップポリシーは、SLP 管理を有効にした状態でスナップショットを作成しません (Storage lifecycle policy expects snapshots but backup policy does not create them with SLP management enabled)

説明: このポリシーの最大スナップショット数の限度に達し、ローテーションの対象となる既存のスナップショットがありません。

推奨処置: 不要になった既存のスナップショットを見つけて、期限切れにしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1541

メッセージ: スナップショットの作成に失敗しました。ポリシーの最大スナップショット数を超え、また既存のスナップショットは期限切れの対象になりません。(Snapshot creation failed. The maximum snapshot limit for the policy has been exceeded and no existing snapshots are eligible for expiration.)

説明: 次のいずれかの条件に該当する場合です。

- 既存のすべてのスナップショットコピーは、スナップショット複製保留中モードにあるため、期限切れの対象にはできません。
- 既存のスナップショットコピーは、まだ保持期間 (固定された保持期間) が終了していないため、期限切れの対象にできます。

推奨処置: まだ保留中か保持期間が終了していないスナップショットコピーを期限切れにしようとしないでください。[バックアップポリシー (Backup Policy)] > [属性 (Attributes)] > [スナップショットのオプション (Snapshot Options)]で、最大のスナップショットの限度の設定を調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1542

メッセージ: 既存のスナップショットは有効でなくなったか、以降の操作でマウントできません (An existing snapshot is no longer valid or cannot be mounted for subsequent operations)

説明: 既存のスナップショットが破損しているか、必要な一部のデータを含んでいません。そのスナップショットは、マウントできないだけでなく、そのスナップショットかリストアからのバックアップを含む追加の NetBackup 操作に使うことができません。保留中のすべての SLP 操作が自動的にキャンセルされました

推奨処置: 新しいスナップショットを生成する新しいバックアップジョブを実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1543

メッセージ: ポリシー形式はストレージライフサイクルポリシー操作と互換性がありません (Policy type is not compatible with storage lifecycle policy operations)

説明: 指定した形式のポリシーは、スナップショット操作などの SLP 特性を含む SLP 操作をサポートしていないため、参照されている SLP と併用できません。

推奨処置: ポリシー形式と互換性がある別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1545

メッセージ: スケジュール形式はストレージライフサイクルポリシー操作と互換性がありません (Schedule type is not compatible with storage lifecycle policy operations)

説明: ポリシーのスケジュールはストレージの宛先として SLP を参照していますが、スケジュール形式が SLP によって実行される操作と互換性がありません。

推奨処置: スケジュール形式と互換性がある別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1546

メッセージ: 管理対象の容量の保持形式は SLP 操作と互換性がありません (Capacity managed retention type is not compatible with SLP operations)

説明: SLP 操作の保持形式として管理対象容量の保持が選択されました。この保持形式では SLP 操作はサポートされていません。

推奨処置: スケジュール形式と互換性がある別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1547

メッセージ: コピー保持後、期限切れには依存コピーが必要です (Expire after copy retention requires a dependent copy)

説明: SLP 操作の保持形式が[コピー後に期限切れにする (Expire after copy)]の場合には、その操作の依存コピーはソースとして[コピー後に期限切れにする (Expire after copy)]操作を使用する必要があります。

推奨処置: このスナップショットで操作を実行できません。カタログから期限切れにしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1548

メッセージ: 保持形式はスナップショット操作と互換性がありません (Retention type is not compatible with snapshot operation)

説明: SLP のスナップショット操作用に選択した保持形式がスナップショットでサポートされていません。

考えられる状況: Replication Director のバックアップポリシーを構成し、[属性 (Attributes)]タブで[ポリシーストレージ (Policy storage)]に[任意 (Any Available)]を選択する場合。バックアップポリシーのスケジュールで、[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]を選択し、ドロップダウンメニューから SLP を選択します。この SLP は[固定 (Fixed)]の保持形式を使うストレージユニットを含んでいます。バックアップポリシーの検証は失敗し、[SLP 保持による管理 (Managed by SLP retention)]に[スナップショットの最大限度 (Maximum snapshot limit)]を設定するよう求められます。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 別の保持形式を選択してください。
- Replication Director 用にバックアップポリシーを構成している場合、そのバックアップポリシーを開いてください。[属性 (Attributes)]タブで[オプション (Options)]をクリックして、Replication Director オプションを表示します。[最大スナップショット数 (Maximum Snapshots)]の値が[SLP 保持による管理 (Managed by SLP Retention)]に含まれていない場合、代わりに 0 (ゼロ) を選択してください。0 の値は[SLP 保持による管理 (Managed by SLP Retention)]の選択を示します。
- 固定保持形式はクラウドスナップショットレプリケーションでのみサポートされます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1549

メッセージ: TIR 情報の選択はストレージライフサイクルポリシー操作と互換性がありません (TIR information selection is not compatible with storage lifecycle policy operations)

説明: バックアップポリシーが、TIR 情報の収集を有効にして、ストレージの宛先として SLP を使っています。SLP の操作の 1 つ以上で TIR 情報の収集がサポートされていません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- バックアップポリシーから TIR 情報の選択を削除します。
- バックアップポリシーとともに使う SLP を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1552

メッセージ: ソースおよびターゲットストレージユニットは有効なレプリケーションパートナーではありません (The source and target storage units are not valid replication partners)

説明: nbstl コマンドにより、ライフサイクルポリシーが構成されました。次のいずれかの条件に該当する場合です。

- レプリケーション操作向けに指定済みのターゲットストレージユニット/グループが、ソースストレージユニット/グループのレプリケーションパートナーではありません。
- ターゲットのストレージユニットまたはグループで構成されるボリュームはコピー元のストレージユニットかグループで構成されるボリュームのレプリケーションターゲットではありません。
- ストレージサーバーの完全修飾名を使います。ストレージサーバーの作成プロセスは bpstsinfo -li の出力に表示されているように短縮版の名前を必要とします。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 次のコマンドを実行して、特定のソースストレージユニット/グループに一致するターゲットストレージユニット/グループのリストを取得します。

  ```
  # nbdevquery -listreptargets -stunit source_stu_or_group
  ```

- nbdevquery コマンドによって表示されたリスト内のターゲットストレージユニット/グループに対して nbstl コマンドを実行します。
- bpstsinfo -li コマンドを実行し、出力上でストレージサーバー名を確認します。ストレージサーバーを作成するのに使う名前は、この名前と一致する必要があります。
- ストレージサーバーの構成が完了したら、必ず NetBackup を構成してください。そうしない場合は、NetBackup 管理コンソールの[ディスクプールの変更 (Change Disk Pool)]ダイアログか、nbdevconfig -updatedp コマンドを使用して、ストレージサーバーの各ディスクプールを更新してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1553

メッセージ: チェックポイントはストレージライフサイクルポリシー操作で使用できません (Checkpoints are not allowed with storage lifecycle policy operations)

説明: バックアップポリシーが、[チェックポイントから再開 (Checkpoint Restart)]機能を有効にして、ストレージの宛先として SLP を使っています。この SLP は、[チェックポイントから再開 (Checkpoint Restart)]機能をサポートしない 1 つ以上の操作を含んでいます。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- バックアップポリシーから[チェックポイントから再開 (Checkpoint Restart)]の選択を削除します。
- バックアップポリシーとともに使う SLP を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1554

メッセージ: ストレージユニットのスナップショット機能には操作特性との互換性がありません (Storage unit snapshot capability is not compatible with operation characteristics)

説明: ストレージユニットのスナップショット機能が、それを使用する SLP 操作をサポートしていません。

推奨処置: 正しい機能をサポートするストレージユニットを選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1556

メッセージ: バックアップポリシーによって参照されているため、SLP の削除に失敗しました。(The SLP deletion failed because a backup policy refers to it.)

説明: SLP が依然として 1 つ以上のバックアップポリシーで参照されているため、この SLP を削除する試行は失敗しました。

推奨処置: 他の SLP かストレージユニットを使うようにバックアップポリシーを変更してください。その後で、SLP の削除を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1557

メッセージ: ターゲットストレージユニットがミラー対応である場合に、ミラー保持を指定する必要があります (Must specify mirror retention when target storage unit is mirror capable)

説明: ストレージライフサイクルポリシーのレプリケーション操作でミラー対応のターゲットストレージユニットを指定しましたが、保持がミラー形式ではありません。

推奨処置: `nbstl` コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成した場合は、次の処理の後にコマンドを再実行します。ミラー対応のストレージユニットに対応するレプリケーション操作に対してミラー保持形式を指定します。`bpstulist -U` コマンドを使用して、ストレージユニットのプロパティを表示します。GUI を使用したストレージライフ

サイクルポリシーの構成時にエラーが発生した場合、問題レポートを提出し、適切なログを提供してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1558

メッセージ: ターゲットストレージユニットがミラー対応でない場合、ミラー保持は使用できません (Mirror retention is not allowed when target storage unit is not mirror capable)

説明: ストレージライフサイクルポリシーのレプリケーション操作を構成したときに、ミラーに対応していないターゲットストレージユニットにミラーの保持を指定しました。

推奨処置: `nbstl` コマンドを使用してストレージライフサイクルポリシーを構成した場合は、次の処理の後にコマンドを再実行します。ミラーに対応していないストレージユニットに対応するレプリケーション操作に対して適切な保持形式 (ミラー保持以外) を指定します。`bpstulist -U` コマンドを使用して、ストレージユニットのプロパティを表示します。GUI を使用したストレージライフサイクルポリシーの構成時にエラーが発生した場合、問題レポートを提出し、適切なログを提供してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1559

メッセージ: ポリシーまたはスケジュールで参照されているストレージライフサイクルポリシーが見つかりません (Storage lifecycle policy referenced in policy or schedule not found)

説明: バックアップポリシーの属性またはポリシースケジュールの 1 つに指定されている SLP が見つかりません。

推奨処置: ポリシーで使われている SLP のスペルを調べてください。定義済みの SLP のリストは、NetBackup 管理コンソールまたは `nbstl` コマンドを使って表示できます。バックアップポリシーで使うために定義済みの SLP の 1 つを選択するか、必要な名前を持つ SLP を作成してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1560

メッセージ: レプリケーション操作なしで、固定またはローテーション保持が必要です (Fixed or rotation retention required without a Replication operation)

説明: 自動イメージレプリケーション操作を含む SLP は、保持形式が[固定 (Fixed)]スナップショットか[最大 (Maximum)]スナップショットである 1 つ以上の操作を含む必要があります。

推奨処置: 必要な保持形式を持つ操作を追加するか、既存の操作の保持形式を変更してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1561

メッセージ: NDMP を使用するポリシーが、ストレージライフサイクルポリシー内の複数の[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]操作と競合しています (Policy using NDMP conflicts with multiple Backup From Snapshot operations in storage lifecycle policy)

説明: バックアップポリシーは、ポリシー形式かデータムーバーの形式で NDMP を使用する場合には、複数の[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]操作を含む SLP を使用できません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- ポリシー形式またはデータムーバーの形式を NDMP 以外に変更してください。
- 複数の[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]操作を含まない別の SLP を使ってください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1562

メッセージ: バックアップスケジュールはスナップショットを生成しますが、ストレージライフサイクルポリシーはそれらを処理しません (Backup schedule generates snapshots but storage lifecycle policy does not handle them)

説明: バックアップポリシーのスケジュールはスナップショットを生成しますが、そのスケジュールによって参照される SLP が[スナップショット (Snapshot)]操作を含んでいません。このため、SLP はスナップショットを処理できません。

推奨処置: バックアップポリシーとスケジュールによって生成されるスナップショットを処理できるように、スナップショット操作から始まる SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1563

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーではスナップショットが想定されますが、バックアップスケジュールでスナップショットは作成されません (Storage lifecycle policy expects snapshots but backup schedule does not create them)

説明: バックアップポリシーのスケジュールはスナップショット操作で開始される SLP を参照しているため、スナップショットを処理する必要があります。バックアップポリシーおよび関連スケジュールはスナップショットを生成しません。

推奨処置: [スナップショット (Snapshot)]操作で始まらない SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1564

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーにエラーが含まれています (Storage lifecycle policy contains errors)

説明: NetBackup は `bpdbm` の SLP 検証関数を呼び出します。他のエラー状態の値が戻されます。

推奨処置: 表示される他のエラーを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1565

メッセージ: ポリシースナップショット方式はストレージライフサイクルポリシースナップショット操作と互換性がありません (Policy snapshot method is not compatible with storage lifecycle policy snapshot operations)

説明: バックアップポリシーで選択されたスナップショット方式は、参照された SLP で定義されているスナップショット操作にサポートを提供しません。

推奨処置: サポート外の操作を含んでいない別の SLP を使ってください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1566

メッセージ: 他の操作が存在しない場合に、スナップショット操作にストレージユニットが必要です (Storage unit required for snapshot operation when no other operation present)

説明: SLP に他の操作がある場合、NetBackup は[スナップショット (Snapshot)]操作に使うストレージユニットを判断できます。SLP の操作がスナップショット操作のみの場合は、ストレージユニットが提供される必要があります。

推奨処置: [スナップショット (Snapshot)]操作にストレージユニットを追加してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1567

メッセージ: バックアップ ID あたりに許可されるスナップショットの NDMP バックアップは 1 つだけです。(Only one NDMP backup of a snapshot per backupid is allowed)

説明: 形式 NDMP のバックアップポリシーがスナップショットからの複数のバックアップ操作を含む SLP を参照しています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- スナップショットからの 1 つのバックアップ操作のみを含むように SLP を変更します。
- 別の SLP を使うようにバックアップポリシーを変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1568

メッセージ: 1 つのストレージライフサイクルポリシーあたり 1 つのスナップショットからのインデックス操作のみ許可されます (Only one Index From Snapshot operation is allowed per storage lifecycle policy)

説明: 複数のスナップショットからのインデックス操作を含む SLP が定義されています。SLP では 1 つのスナップショットからのインデックス操作のみ許可されます。

推奨処置: 他の SLP かストレージユニットを使うようにバックアップポリシーを変更してください。その後で、SLP の削除を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1569

メッセージ: スナップショットストレージユニットがプライマリスナップショット用に構成されていません。(Snapshot storage unit is not configured for primary snapshots.) このストレージユニットはスナップショット操作で使用できません。(Snapshot storage unit is not configured for primary snapshots. It cannot be used in snapshot operation.)

説明: SLP で[スナップショット (Snapshot)]操作を使用する場合は、プライマリスナップショットを処理するようにスナップショット可能なストレージユニットを構成する必要があります。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- [スナップショット (Snapshot)]操作で使うため、スナップショット可能な別のストレージユニットを選択してください。
- プライマリスナップショット操作をサポートするように必要なストレージユニットの構成を変更してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1570

メッセージ: ポリシー形式がスナップショットからのインデックスをサポートしていません (Policy type does not support Index from Snapshot)

説明: バックアップポリシー形式がスナップショットからのインデックス操作をサポートしていません。ポリシーによって参照されている SLP はスナップショットからのインデックス操作を含んでいます。

推奨処置: スナップショットからのインデックス操作を含まない別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1571

メッセージ: ポリシーで指定したデータムーバーの形式がスナップショットからのインデックスをサポートしていません (Data mover type specified in policy does not support Index from Snapshot)

説明: バックアップポリシーで選択されたデータムーバーの形式がスナップショットからのインデックス操作をサポートしていません。ポリシーによって参照されている SLP はスナップショットからのインデックス操作を含んでいます。

推奨処置: スナップショットからのインデックス操作を含まない別の SLP を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1572

メッセージ: この操作ではストレージユニットを指定する必要があります (Storage unit must be specified for this operation)

説明: SLP 操作がストレージユニットなしで定義されています。特定の状況における[スナップショット (Snapshot)]操作を除いて、SLP 操作ではストレージユニットを定義する必要があります。

推奨処置: SLP 操作にストレージユニットを追加してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1573

メッセージ: バックアップイメージの SLP 処理が完了していないため、バックアップイメージを期限切れにできません (Backup image cannot be expired because its SLP processing is not yet complete)

説明: SLP 管理イメージの 1 つ以上のコピーを期限切れにしようとしています。それらのコピーに依存する SLP 処理が完了していません。イメージは期限切れにできません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- そのイメージの SLP 処理が完了するまで待ってから、期限切れ操作を再試行してください。
- このイメージへの処理をキャンセルする場合は、`nbstlutil -cancel` コマンドを使います。その後、期限切れ操作を再試行します。
- イメージコピーの SLP 処理が未完了でも期限切れ操作を強制する場合は、`bpexpdate` コマンドを `-force_not_complete` オプション付きで実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1574

メッセージ: 新しいデータ分類を作成する際にデータ分類名を「Any」に指定することはできません (Data Classification name cannot be 'Any' while creating new data classification)

説明: 新しいデータの分類を作成するときは、「Any」をデータの分類名として使用することはできません。

推奨処置: 異なる名前を使用して、再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1575

メッセージ: データの分類の自動登録に失敗しました (Data Classification auto creation failed)

説明: インポートされているイメージのデータの分類と同じ新しいデータの分類を自動作成しています。イメージのデータの分類は、イメージがインポートされているマスターサーバーに存在する必要があります。

推奨処置: インポートされているイメージのデータの分類と同じ名前のマスターサーバーで、データの分類を手動で作成してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1576

メッセージ: トポロジーの検証に失敗しました (Topology validation failed)

説明: SLP のトポロジー検証に失敗します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ストレージサーバーに関連付けられているメディアサーバーが動作していること確認してください。
- メディアサーバー (またはクライアント) とストレージサーバー (NetApp OnCommand サーバー) 間の接続を確認してください。
- ベンダー固有のエラーを判断するために、このエラーの詳細メッセージを確認してください。
  この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1577

メッセージ: SLP のストレージユニットが、ポリシーのアクセラレータ属性と一致しません (Storage unit in the SLP does not match the accelerator attribute in policy)

説明: SLP に対して選択したストレージユニットは、アクセラレータバックアップをサポートしていません。

推奨処置: アクセラレータバックアップ処理をサポートする、異なるストレージユニットを SLP に対して選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1578

メッセージ: 時間帯終了オプションが無効です (Invalid window close options)

説明: 時間帯終了オプションが SLP 操作に対して無効です。

推奨処置: `nbstl -wcopt` コマンドを使用した場合、指定された引数が SFN または SHN であることを確認してください。

`nbstl` コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1579

メッセージ: 時間帯が終了したため、1 つまたは複数のイメージが処理されませんでした (One or more images were not processed because the window closed)

説明: すべてのイメージが処理される前に処理時間帯が終了しました。残りの未処理イメージは、ウィンドウが再び開くと処理されます。

推奨処置: これは想定されていた動作で、処理は必要ありません。次のウィンドウが開くと処理が再開します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1580

メッセージ: PFI が有効な VMware ポリシーには SLP が必要です (VMware policy with PFI enabled requires an SLP)

説明: 「Persistent Frozen Image」が VMware ポリシーで有効になると、Replication Director が仮想マシンを保護します。このポリシー構成には SLP が必要です。このエラーメッセージは、ポリシー検証時間に表示されます。

推奨処置: VMware ポリシーを Replication Director なしで使用するか、少なくともスナップショット操作がある SLP を提供してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1581

メッセージ: アプリケーションに一貫性がない VMware ポリシーは SnapDupe 操作に対応しません (Non-application consistent VMware policy is not compatible with snapdupe operations)

説明: スナップショット操作のバックアップは、Replication Director ベースの VMware ポリシーで[アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)]が無効になっているとサポートされません。このエラーメッセージは、ポリシー検証時間に表示されます。

推奨処置: [アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)]を有効にするか、SLP 定義で[スナップショットからのバックアップ (Backup From Snapshot)]を無効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1582

メッセージ: アプリケーションに一貫性がある VMware ポリシーには VM 静止が必要です (Application consistent VMware policy requires VM quiesce)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーは、[アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)]が有効である場合に仮想マシンの静止を必要とします。このエラーメッセージは、ポリシー検証時間に表示されます。

推奨処置: [アプリケーションとの整合性 (Application Consistent)]を無効にするか、仮想マシンの静止を有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1583

メッセージ: PFI が有効な VMware ポリシーには VIP 自動検出が必要です (VMware policy with PFI enabled requires VIP auto discovery)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーの PFI (Persistent Frozen Image) は、仮想マシンの自動検出を必要とします。仮想マシンの手動選択はサポートされません。NetBackup 管理コンソールで、自動検出を選択できます。ユーザーは CLI を使用して設定を変更できますが、ポリシー検証はそれを検出し、次のエラーメッセージを表示します。

推奨処置: 仮想マシンの自動検出を有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1584

メッセージ: 「Persistent Frozen Image」が有効な VMware ポリシーにはスケジュール形式の完全バックアップが必要です (VMware policy with 'Persistent Frozen Image' enabled requires schedule type of Full Backup)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーは、現時点では完全スケジュールのみをサポートします。

推奨処置: 完全スケジュールを使い、すべての段階的なスケジュールを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1585

メッセージ: すべての従属コピーが期限切れになってないため、バックアップイメージは期限切れになりません (Backup image cannot be expired because not all dependent copies are expired)

説明: NetBackup カタログにある他のイメージが、現在期限切れを要求されているイメージに依存しています。選択したイメージは現時点で期限切れにすることができません。通常のカタログクリーンアップおよび期限切れ操作はこれを正しく処理します。依存イメージが最初に期限切れになります。しかしそれらがまだ SLP 処理の実行中であれば、期限切れにすることはできません。したがって選択したイメージを期限切れにすることができません。

推奨処置: 依存イメージの SLP 状態の遷移が IMAGE_COMPLETE 状態になり、期限切れになるまで待ちます。また、依存イメージの SLP 操作をキャンセルすることもできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1586

メッセージ: SLP 操作がキャンセルされました (SLP operation was canceled)

説明: SLP 操作の実行をキャンセルしました。他のユーザーがコピーの検証を試行しています。

推奨処置: 処置は不要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1587

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーにはリモートマスターへのターゲットレプリケーションとアンターゲットレプリケーションの両方を含めることができません (Storage lifecycle policy cannot have both target and untarget replication to remote master)

説明: ターゲットレプリケーション操作とアンターゲットレプリケーション操作の組み合わせによる SLP を定義しないでください。

推奨処置: ターゲットレプリケーション操作とアンターゲットレプリケーション操作をリモートマスターに混在させないでください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1588

メッセージ: ターゲットマスターサーバーがリモートマスターへのレプリケーションの 1 つにすでに使われています (Target master server is already used in one of the replication to remote master)

説明:

推奨処置: すべてのターゲットレプリケーション操作を個別のターゲットマスターサーバーとともに定義します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1589

メッセージ: 指定したターゲットマスターサーバーに接続できません (Cannot connect to specified target master server)

説明: すべてのサービスがソースドメインとターゲットドメインで動作している必要があります。

推奨処置: すべてのサービスがソースドメインとターゲットドメインで動作しているかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1590

メッセージ: 指定したターゲットインポート SLP を見つけられません (Cannot find specified target import SLP)

説明: このエラーは一般に `nbstl` コマンドを実行すると発生します。

推奨処置: ソースドメインの SLP のターゲットレプリケーション操作で、インポート操作とともにターゲットドメイン SLP の有効な名前を入力します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1591

メッセージ: 互換性のあるレプリケーションターゲットデバイスのインポート SLP が見つかりませんでした (No import SLP(s) found with compatible replication target device)

説明: ターゲットドメインに、インポート SLP はありますが、レプリケーションターゲットデバイスの互換性がありません。

推奨処置: 1 つ以上の発生しうる問題を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1592

メッセージ: 信頼できるマスターサーバーは、ソースドメインまたはターゲットドメイン上の 1 つ以上の Storage Lifecycle Policy (SLP) によって参照されています。(Trusted master servers are being referred by one or more Storage Lifecycle Policies (SLPs) on the source or target domain.)

説明: 信頼できるマスターサーバーをシステムから削除しようとしています。たとえば、ユーザーがドメイン A (ソースドメイン) とドメイン B (ターゲットドメイン) 間で対象設定された自動イメージレプリケーションを構成する場合は、ドメイン A の信頼できるマスターサーバーとしてドメイン B を識別する必要があります。SLP はドメイン A からドメイン B にイメージをレプリケートするように構成されています。SLP がドメイン B を参照している場合にユーザーがドメイン A の信頼できるマスターエントリを削除しようとすると、このエラーコードが表示されます。

推奨処置: SLP がドメイン B を参照しないように、SLP を削除または変更してから、再びドメイン A からドメイン B を削除してみてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1593

メッセージ: VMware ポリシーの Replication Director にはマッピングされたバックアップが必要です (Replication Director for VMware policy requires mapped backups)

説明: Replication Director ベースの VMware ポリシーは、すべての保護仮想マシンのための個々のファイルとフォルダのリカバリをサポートします。したがって、仮想マシンのマッピングは、NetBackup 管理コンソールで自動的に選択されます。ユーザーは CLI を使用してその設定を変更できますが、ポリシー検証はそれを検出し、次のエラーメッセージを表示します。

推奨処置: マッピングを有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1594

メッセージ: ディスクメディア ID の決定に失敗しました (Failed to determine disk media Id)

説明: ターゲットドメインのイメージをインポートしている間、操作はディスクのメディア ID を決定できませんでした。ストレージサーバー、ディスクプール、ストレージユニットにはそれぞれ有効な設定が必要です。

推奨処置: ストレージサーバー、ディスクプール、ストレージユニットの設定を再確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1596

メッセージ: ポリシーのストレージ宛先としてのスナップ操作を含まないストレージライフサイクルポリシーを選択してください (Select a storage lifecycle policy that has no snapshot operation as a policy's Storage Destination)

説明: 標準ストレージユニットまたはスナップショット操作を持たないストレージライフサイクルポリシーがポリシーのストレージの宛先として想定されています。

推奨処置: スナップショット操作を持たないストレージライフサイクルポリシーをポリシーストレージの宛先として選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1597

メッセージ: Oracle ポリシーの Replication Director には SLP が必要です (Replication Director for Oracle policy requires an SLP)

説明: Oracle ポリシーの[Replication Director を使用 (Use Replication Director)]を選択している場合、完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする(Override policy storage selection)]にスナップショット SLP を指定する必要があります。

推奨処置: 最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を設定し、後続の操作としてレプリケーションを設定します。完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にこの SLP を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1598

メッセージ: PFI および FI が有効な Oracle ポリシーには SLP が必要です (Oracle policy with PFI and FI enabled requires an SLP)

説明: Oracleのポリシーの[スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)]および[インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management)]を選択している場合、完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]として SLP を設定する必要があります。

推奨処置: 最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を設定します。完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にこの SLP を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1599

メッセージ: アプリケーションスケジュールのストレージ選択をスナップショット SLP にすることはできません (Application schedule storage selection cannot be a snapshot SLP)

説明: アプリケーションスケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]に対する最初の処理としてスナップショットを持つ SLP を指定しました。

推奨処置: 非 SLP ストレージ (基本ディスク、テープ、拡張ディスクなど) またはバックアップを持つ SLP を、アプリケーションスケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]に対する最初の操作として指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1600

メッセージ: ポリシーストレージは SLP です。アプリケーションスケジュールは、ポリシーストレージ選択に対して優先されません。(The Policy storage is a snapshot SLP and the Application schedule does not override the policy storage selection.) スナップショット SLP ストレージは、アプリケーションスケジュールで許可されません。(Snapshot SLP storage is not allowed on an Application schedule.)

説明: [属性 (Attributes)]タブでポリシーストレージに対する最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を選択しましたが、アプリケーションスケジュールはポリシーストレージを上書きしません。

推奨処置: 非 SLP ストレージ (基本ディスク、テープ、拡張ディスクなど) またはバックアップを持つ SLP を、アプリケーションスケジュールのポリシーストレージまたは[ポリシース

トレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]に対する最初の操作として指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1601

メッセージ: 完全スケジュールにはスナップショット SLP が必要です (Full schedule requires a snapshot SLP)

説明: 現在のポリシー構成には完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にスナップショット SLP が必要です。

推奨処置: 最初の操作としてスナップショットを持つ SLP を設定します。完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]にこの SLP を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1602

メッセージ: ポリシーストレージは SLP ではありません。完全スケジュールは、ポリシーストレージ選択に対して優先されません。(The Policy storage is not a snapshot SLP and the Full schedule does not override the policy storage selection.) 完全スケジュールにはスナップショット SLP ストレージが必要です。(Snapshot SLP storage is required on the Full schedule.)

説明: [属性 (Attributes)]タブでポリシーストレージに対する最初の操作としてバックアップを持つ SLP を指定しましたが、完全スケジュールはポリシーストレージを上書きしません。

推奨処置: スナップショットを持つ SLP をポリシーストレージに対する最初の操作として指定するか、完全スケジュールの[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]として指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1603

メッセージ: ターゲット SLP ボリューム情報の保存に失敗しました (Failed to save target SLP volume information)

説明: このエラーは、NetBackup がターゲットレプリケーション操作でストレージライフサイクルポリシーの作成を試みる際に内部で発生します。レプリケーション操作の構成時

に、選択された対象ドメインの SLP ボリューム情報がソースドメインの EMM にキャッシュされます。キャッシュできない場合、nbemm ログに適切なメッセージが記録されます。

推奨処置: EMM ログの指示に従って操作してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1604

メッセージ: 互換性のあるデータクラスのインポート SLP が見つかりませんでした (No import SLP(s) found with compatible data class)

説明: 互換性のあるデータ分類のインポート SLP が見つからないか、対象にインポート SLP がありません。

推奨処置:

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1608

メッセージ: クラウドスナップショットのレプリケーション先として使用する領域資産が存在しません。(The region asset that is used as a cloud snapshot replication destination does not exist.) (The region asset that is used as a cloud snapshot replication destination does not exist.)有効な領域資産を入力してください。

説明: 指定した領域資産が NetBackup 資産データベースにありません。このエラーは、指定した領域がクラウドプロバイダプラグインで構成されていない場合にも発生することがあります。

推奨処置: 領域資産 ID を確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1609

メッセージ: 領域資産は、クラウドスナップショットのレプリケーション先としてすでに使用されています。(The region asset is already used as a cloud snapshot replication destination.) 別の領域資産を入力してください。(Provide a different region asset.)

説明: 単一のスケジュールにおいて、領域資産をクラウドスナップショットの複数のレプリケーション先に使用することはできません。

推奨処置: 複数のスケジュールを使用するか、別の領域資産を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1610

メッセージ: 指定した領域資産は、別の Snapshot Manager と関連付けられています。(The provided region assets associate with a different Snapshot Managers.) 指定した領域資産は、同じ Snapshot Manager と関連付ける必要があります。

説明: このエラーは、保護計画の作成時や変更時に、指定した領域資産が別の Snapshot Manager に関連付けられていると発生します。

推奨処置: 指定した領域資産を同じ Snapshot Manager に関連付けます。クラウドプロバイダプラグインの構成の詳細をそれに合わせて更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1611

メッセージ: 保護計画にサブスクライブした資産は、別の Snapshot Manager に属しています。サブスクライブした資産は、同じ Snapshot Manager に属する必要があります。(The assets that are subscribed to the protection plan belong to different Snapshot Managers. Subscribed assets must belong to the same Snapshot Manager.)

説明: 単一の保護計画で複数の Snapshot Manager に関連付けられている資産を保護することはできません。

推奨処置: 別の Snapshot Manager に関連付けられている資産に対しては、別の保護計画を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1612

メッセージ: 選択した資産の一部が、スナップショットのレプリケーション先である領域資産の Snapshot Manager ではない Snapshot Manager に属しています。資産は、同じ Snapshot Manager に属する必要があります。(Some of the selected assets belong to a Snapshot Manager other than the Snapshot Manager of the snapshot replication destination region asset. The assets must belong to the same Snapshot Manager.)

説明: 別の Snapshot Manager に関連付けられているスナップショットのレプリケーション先の領域に資産をレプリケートすることはできません。

推奨処置: 領域資産を同じ Snapshot Manager に関連付けます。クラウドプロバイダプラグインの構成の詳細をそれに合わせて更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1613

メッセージ: 選択した資産の一部で、クラウドスナップショットのレプリケーション元の領域がレプリケーション先の領域と同じです。(For some of the selected assets, the source region is same as the cloud snapshot replication destination region.) クラウドスナップショットのレプリケーション元とレプリケーション先の領域は、別の領域にする必要があります。

説明: 保護する資産の領域とクラウドスナップショットのレプリケーション先の領域を同じにすることはできません。

推奨処置: クラウドスナップショットのレプリケーション元とレプリケーション先の領域は、別の領域にする必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1614

メッセージ: クラウドスナップショットレプリケーションはAmazonクラウド資産でのみサポートされています。(Cloud snapshot replication is supported only for Amazon cloud assets.)

説明: クラウドスナップショットレプリケーションは Amazon クラウド資産でのみサポートされています。

推奨処置: Amazon クラウドプロバイダに属していない資産をスキップします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1615

メッセージ: クラウドスナップショットレプリケーションは資産タイプ `region` でサポートされていません。(Cloud snapshot replication is not supported for the asset type region.)

説明: 領域資産をレプリケートまたは保護できません。

推奨処置: タイプが `region` の資産をスキップします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1616

メッセージ: チェックポイントは、スナップショットからのバックアップストレージライフサイクルポリシー操作でのみ使用できます。(Checkpoints are only allowed for the Backup from Snapshot storage lifecycle policy operation.)

説明: NAS データ保護ポリシーの場合、チェックポイント機能を有効にするには、ポリシーでスナップショットからのバックアップストレージライフサイクル操作を構成する必要があります。

推奨処置: チェックポイント機能が有効になる前に、スナップショットからのバックアップストレージライフサイクル操作を使用するようにバックアップポリシーを更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1617

メッセージ: 指定した資産に対して、クラウドスナップショットのインデックス処理はサポートされていません。

説明: 考えられる原因は次のとおりです。

- 指定した資産が、Snapshot Manager と同じ領域にない。
- サポート対象外のファイルシステムは、インデックス付けするホストマシンで構成されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- Snapshot Manager が、指定された資産と同じ領域に配備されるようにします。
- インデックス付けをサポートする Snapshot Manager のバージョンを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1618

メッセージ: この保持期間は WORM ストレージの使用期限に対応していません。ロックの最小期間と最大期間はディスクプールのプロパティで確認できます。基になるストレージの構成を変更した場合、ディスクプールのプロパティの更新が必要になることがあります。(This retention period is incompatible with WORM storage expiration duration. The lock minimum and maximum duration can be found in disk pool properties. An update to disk pool properties may be needed if configuration changes have been made to the underlying storage.)

説明: WORM ストレージデバイスでは、ロック時間に制限が課されることがあります。ストレージボリュームの許容範囲外の保持期間 (または保持レベル) を選択すると、WORM ロックできないイメージが生成されます。

推奨処置: 基盤となるストレージボリュームで許可されている範囲に保持レベルを確実に一致させるには、次の手順の実行が必要になる場合があります。この手順は、ポリシーの作成に NetBackup 管理コンソールを使用している場合にのみ適用されます。

保持レベルを調整するには

1 必要な保持レベルでポリシースケジュールを保存します。ただし、ストレージには[任意 (any available)]を選択します。

2 ポリシーを再度編集し、ここではポリシー属性で目的のストレージユニットを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1630

メッセージ: Cohesity スナップショットオプション (VSO) FIM を使用して NetBackup ポリシーを構成する際は、SLP をポリシーストレージの宛先として選択する必要があります。

説明: FIM の Cohesity スナップショットオプション (VSO) を使用するポリシーでは、STU はポリシーストレージとしてサポートされません。NetBackup では SLP (ストレージライフサイクルポリシー) のみがポリシーストレージとしてサポートされます。

推奨処置: ポリシーストレージとしてストレージライフサイクルポリシーを選択します。ポリシーストレージとして STU を選択した場合は、[SLP] オプションで[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]を選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1633

メッセージ: API 要求で無効なメディアサーバーが指定されました。(Invalid media server is provided in the API request.)

説明: API 要求で指定されたメディアサーバー名が無効です。

推奨処置: 有効な NetBackup メディアサーバー名を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1634

メッセージ: EMM 要求を処理できません。(Unable to process the EMM request.)

説明: この状況で EMM プロセスが失敗する理由は複数あります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- EMM サービスが起動して実行中であるかどうかを確認します。
- 問題を診断するには、EMM サーバーのログで問題を確認し、必要に応じてトラブルシューティングを行います。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1635

メッセージ: EMM サーバーに接続できません。(Unable to connect with the EMM server.)

説明: EMM サーバーの接続エラーには複数の理由があります。

推奨処置: EMM サーバー接続エラーの問題をトラブルシューティングします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1636

メッセージ: API 要求では、バックアップ時間範囲のフィルタはサポートされていません。(Backup time range filter is not supported in the API request.)

説明: API 要求では、両方の値 (指定値を上回る値と下回る値) を一度に使用することはできません。

推奨処置: バックアップの時間範囲フィルタ (指定値を上回るまたは下回る設定) を使用しないように API 要求を変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1637

メッセージ: API 要求では、フィルタの重複はサポートされていません。(Duplicate filters are not supported in the API request.)

説明: 同じフィルタは、API 要求で 1 回のみ使用できます。

推奨処置: API 要求で同じフィルタを 2 回使用することはできません。API 要求を確認し、2 回使用されたフィルタを削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1641

メッセージ: True Image Restore は、スナップショットからのバックアップがある SLP についてのみサポートされます。(True image restore is supported only for SLPs with backup from snapshot.)

説明: True Image Restore は、スナップショットのみの SLP があるポリシーではサポートされません。

推奨処置: スナップショットからのバックアップがある SLP を使用してポリシーを構成し、True Image Restore オプションを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1642

メッセージ: ISM オンプレミスレプリケーションでは、ポリシーで構成されたクライアントまたは代替クライアントはサポートされません。(For ISM on-premises replication, the client or alternate client configured in the policy is not supported.)

説明: ポリシーで構成されているクライアントまたは代替クライアントのバージョンが、ISM のオンプレミスレプリケーション操作でサポートされているバージョンよりも古いバージョンになっています。

推奨処置: クライアントまたは代替クライアントを選択して、NetBackup 10.5 以上のバージョンにポリシーを更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1643

メッセージ: スナップショットからのインデックスが含まれる SLP では、アクセラレータオプションはサポートされていません。(Accelerator option is not supported for SLPs with index from snapshot.)

説明: ポリシーでアクセラレータオプションが有効にされており、ポリシーに構成されている SLP で、スナップショットからのインデックスが有効になっています。この組み合わせはサポートされません。

推奨処置: ポリシー構成の[アクセラレータを使用 (Use Accelerator)]オプションのチェックマークをはずします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1645

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーでは、ストレージユニットグループを SpanFS ストレージユニットと一緒に使用することはできません。(Storage unit group cannot be used with SpanFS storage unit in a storage lifecycle policy.)

説明: SpanFS ストレージユニットを使用するストレージライフサイクルポリシーにストレージユニットグループを含めることはできません。SpanFS では、ボリュームとボリュームを直接ペアリングする必要があるため、ストレージユニットグループを使用することはできません。

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーからストレージユニットグループを削除するか、代わりに個々の SpanFS ストレージユニットを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1646

メッセージ: ストレージライフサイクルポリシーの SpanFS ボリュームのペアリングに失敗しました。(SpanFS volume pairing failed for the storage lifecycle policy.)

説明: NetBackup がストレージライフサイクルポリシーで構成されているソースストレージユニットとターゲットストレージユニット間で SpanFS ボリュームをペアリングできません。ストレージライフサイクルポリシーは保存できますが、1 つ以上の SpanFS ボリュームのペアリング操作に失敗します。影響を受けたソースストレージユニットとターゲットストレージユニットの詳細が表示されたエラーの概略が表示されます。

推奨処置: エラーの詳細を確認し、報告された問題を解決してから、ストレージライフサイクルポリシーを編集および保存し、ペアリングを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1800

メッセージ: クライアントリストが無効です (invalid client list)

説明: Enterprise Vault 形式のポリシーでは、バックアップ対象に次の Enterprise Vault 8.0 の指示句のいずれかを指定する場合、複数のクライアントがクライアントのリストに追加されていないことを確認します。

- EV_INDEX_LOCATION=
- EV_VAULT_STORE_DB=
- EV_OPEN_PARTITION=
- EV_CLOSED_PARTITIONS=

- EV_FINGERPRINT_DB=
- EV_READY_PARTITIONS=

推奨処置: ポリシーで 1 つのクライアントのみを指定するか、複数のクライアントをサポートしないバックアップ対象から指示句を削除します。

『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』のトラブルシューティングに関する項を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1850

メッセージ: ネットワークアクセス制御の構成が有効ではありません。

説明: ネットワークアクセス構成の要求に失敗し、無効な構成エラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 要求元のホスト IP アドレスが、指定したネットワークアクセス制御構成でアクセスが許可されていることを確認します。
- ネットワークアクセス制御構成の要求データが正しい形式であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1851

メッセージ: ネットワークアクセス制御でホストアクセスが拒否されました。

説明: ホストの IP アドレスがネットワークアクセス制御構成でアクセスが許可されていない場合、NetBackup にこのエラーメッセージが表示されます。

推奨処置: ホストのアクセスを変更するには、管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1915

メッセージ: インスタンスを含んでいるインスタンスグループを削除できません (インスタンスを最初に削除または移動します) (Cannot delete instance group that contains instances (delete or move instances first))

説明: ユーザーがインスタンスを含んでいるインスタンスグループを削除しようとしています。

推奨処置: 最初に NetBackup 管理コンソールでインスタンスノードの下にあるインスタンスを選択するか、nboraadm -delete_instances コマンドを使用してインスタンスを個々に削除します。グループ内のすべてのインスタンスを削除した後、グループの削除をもう一度試します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1916

メッセージ: データベースエラーにより、インスタンスリポジトリにアクセスできません (Database error, cannot access the instance repository)

説明: ユーザーが NetBackup 管理コンソールにインスタンスのリストを表示しようとしていますが、Sybase データベースがダウンしています。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動しており、nbdb が正しくインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1917

メッセージ: インスタンスグループを追加できません。このグループ名はすでに使われています。(Cannot add instance group, this group name is already in use)

説明: ユーザーは既存のグループと同じ名前でインスタンスグループを追加しようとしています。すべてのインスタンスに一意の名前が必要です。

推奨処置: 別のグループ名を適切なフィールドに入力し、グループの追加をもう一度試してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1918

メッセージ: この名前ではグループが見つかりません (Cannot find a group by this name)

説明: ユーザーが存在しないインスタンスグループを削除または修正しようとしています。このエラーがコマンドラインで発生した場合、グループ名のスペルが間違っている場合があります。NetBackup 管理コンソールのキャッシュにより、インスタンスグループ名はそのグループが存在していなくても、インスタンスグループのリストに表示される場合があります。

推奨処置: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1919

メッセージ: 別のプロセスがこのインスタンス、データベース、またはインスタンスグループを変更しました。(Another process modified this instance, database, or instance group.)

説明: NetBackup 管理コンソールで、別のプロセスで変更されたインスタンス、データベース、またはインスタンスグループをユーザーが編集、変更、または削除しようとしました。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールのビューを更新 (F5 キー) します。

必要に応じて次の操作を実行します。

- Oracle API が使用されている場合、If-Match ヘッダー値は、変更しようとしているオブジェクトに対して返される ETag 値と一致しません。オブジェクトの ETag の最新バージョンを取得して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1920

メッセージ: この名前とクライアントのインスタンスがすでに存在します (An instance with this name and client already exists)

説明: ユーザーが、名前がリポジトリ (ORACLE SID)、クライアント、およびホームディレクトリにすでに存在するインスタンスを追加しようとしています。これらの 3 つの識別子はインスタンスを一意にするため、1 つ以上を変更してから別のインスタンスを追加する必要があります。

GUI で、ユーザーが新しいインスタンスを未更新のディスプレイに追加しようとしているため、識別子がそのインスタンスを再度追加しようとします。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: すでに存在するインスタンスを表示するには、nboracmd list instances または nbsqlcmd list instances を使用します。
- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1921

メッセージ: 指定したインスタンスまたはデータベースが見つかりません。(The specified instance cannot be found.)

説明: ユーザーが存在しないインスタンスまたはデータベースを修正または削除しようとしています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: インスタンス名またはデータベース名のスペルが正しいことを確認してください。RAC データベースを使用している場合、データベースの一意の名前では大文字と小文字が区別されます。
  Windows では、インスタンス名は大文字と小文字が区別されません。UNIX では、インスタンス名は大文字と小文字が区別されます。
- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1922

この名前とクライアントのインスタンスがすでに登録されています (An instance with this name/client is already registered)

説明: ユーザーが重複するインスタンスを登録しようとしています。同じ名前、クライアント、およびホームディレクトリのインスタンスがリポジトリ (ORACLE SID) にすでに登録されています。これらの 3 つの識別子はインスタンスを一意にするため、1 つ以上の識別子を変更してから別のインスタンスを登録する必要があります。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- CLI: どんなインスタンスがすでに存在しているかを表示するには、`nboracmd list instances` を実行します。
- GUI: 表示を更新してください (F5 キー)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1924

メッセージ: ドメインは Windows インスタンスの必須フィールドです (Domain is a required field for Windows instances)

説明: ユーザーが Windows インスタンスを登録しようとしていますが、ドメインが指定されていません。

推奨処置: ドメインフィールドにドメインを指定してから、インスタンスの登録をもう一度試します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1925

メッセージ: 要求された操作は失敗しました (The requested operation(s) failed)

説明: 一般的な、未指定のエラーが発生しました。異なるバージョンの NetBackup がクライアントおよびサーバーにある可能性があります。

推奨処置: コマンドライン引数をもう一度確認します。エラーが解決しない場合、デバッグログにヒントがないかを確認するか、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1926

メッセージ: 指定されたエントリはすでに存在します (The entry specified already exists)

説明: ユーザーは、既存の SQL または Oracle エントリを NetBackup に追加しようとしています。

推奨処置: DBA はすでに追加されているため、処理は不要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1927

メッセージ: 指定したエントリは存在しません (The entry specified does not exist)

説明: ユーザーは、存在しない SQL または Oracle エントリにアクセスしようとしています。

推奨処置: このエントリはすでに削除されているため、処理は不要である可能性があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1928

メッセージ: 1 つまたは複数のインスタンスのクレデンシャルを検証できませんでした (The credentials for 1 or more instances could not be verified)

説明: 検証は失敗しました。原因を説明する特定の情報は戻されませんでした。ユーザー名またはパスワードが誤っているか、クライアントへの接続に問題があります。

推奨処置: クライアントが少なくともこのバージョンの NetBackup を実行しており、正しいマスターサーバーを使用するように構成されていることを確認します。ユーザー名、パスワード、およびドメイン (Windows) または TNS (Oracle または RMAN) などの補助フィールドに正しく入力されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1932

メッセージ: インスタンス、データベース、またはインスタンスグループがポリシーに含まれている場合は、それらの削除や名前変更を実行できません。(An instance, database, or instance group cannot be deleted or renamed when it is included in a policy.)

説明: インスタンス、データベース、またはインスタンスグループが NetBackup ポリシーに含まれている場合は、それらの削除や名前変更を実行できません。

ポリシーに含まれている場合、最後のクレデンシャルの削除 (登録解除)、クレデンシャルの変更、または RAC または Oracle インスタンスのクレデンシャルの削除はできません。

推奨処置: すべてのポリシーからインスタンス、データベース、またはインスタンスグループを削除します。インスタンス、データベース、またはインスタンスグループがすべてのポリシーから削除されると、削除または変更プロセスを再試行できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1933

メッセージ: クレデンシャルなしではインスタンスまたはデータベースの状態を変更できません。

説明: インスタンスまたはデータベースは、アクティブまたは非アクティブに変更する前に登録する必要があります。

推奨処置: データベースの状態を変更する前に、データベースが登録されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1946

メッセージ: クライアントに存在する NetBackup の現在のバージョンが、要求されたクレデンシャル形式の検証に対して不正です。(The current version of NetBackup on the client is incorrect for the validation of the requested credential type.)

説明: このエラーは、クライアントが必要な NetBackup のバージョンをサポートしていない場合に、Oracle インスタンスを登録しようとすると発生する可能性があります。次の方法で登録を試行すると、エラーが表示されます。

- OS クレデンシャルを使用しない場合
- Oracle ウォレットのクレデンシャルを使用した場合

推奨処置: NetBackup クライアントを最新バージョンの NetBackup にアップグレードしてください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1952

メッセージ: 可用性グループがポリシーに含まれている場合は削除できません。(An availability group cannot be deleted when it is included in a policy.) 最初に、すべてのポリシーから可用性グループを削除します。(First remove the availability group from all policies.)

説明: 1 つ以上のポリシーに含まれている可用性グループを削除しようとしました。

推奨処置: 可用性グループを含まれているポリシーから削除します。その後、可用性グループの削除を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード 1953

メッセージ: 資産のメタデータが存在するため、資産を削除できません。資産を含むバックアップイメージを期限切れにして、再試行します。

説明: バックアップイメージによって参照されている資産を削除することはできません。

推奨処置: 資産を含むバックアップイメージを期限切れにして、再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1954

メッセージ: インスタンスを別の RAC クラスタに移動することはできません。

説明: RAC インスタンスは、RAC クラスタから別の RAC クラスタに移動することはできません。

推奨処置: インスタンスを削除して別の RAC クラスタに追加する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1955

メッセージ: RAC インスタンスの登録は許可されていません。

説明: RAC クラスタのインスタンスは登録できません。

推奨処置: RAC クラスタのすべてのノードに対して、データベースレベルでクレデンシャルを指定する必要があります。RAC クラスタ内のノードを単一インスタンスとしてバックアップする必要がある場合は、インスタンスを削除する必要があります。そのインスタンスを削除した後、それを単一インスタンスとして追加し、単一インスタンスをバックアップポリシーに追加する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1956

メッセージ: 登録済みの単一インスタンスを RAC クラスタに移動することはできません。

説明: すでに登録されている 1 つのインスタンスを既存の RAC クラスタに移動することはできません。

推奨処置: 既存のインスタンスを既存の RAC クラスタに追加するには、そのインスタンスを削除してから RAC クラスタに追加する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1957

メッセージ: RAC クラスタに RAC インスタンスがないため、登録できませんでした。(Unable to register a RAC cluster as it does not contain any RAC instances.)

説明: RAC インスタンスを含んでいない RAC クラスタは NetBackup に登録できません。

推奨処置: NetBackup 内の RAC クラスタに少なくとも 1 つの RAC インスタンスを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1958

メッセージ: Oracle ウォレットのクレデンシャルは Oracle または OS のクレデンシャルと併用できません。(Oracle Wallet credentials cannot be used with Oracle or OS credentials.)

説明: 実行されている操作では、Oracle ウォレットのクレデンシャルを OS クレデンシャルまたは Oracle クレデンシャルと組み合わせて使用しています。

推奨処置: この操作で使用できるクレデンシャルの種類を再評価して、操作を再試行します。

1 つのインスタンスとインスタンスグループに対して有効なクレデンシャルの使用例は次のとおりです。

- Oracle ウォレット
- Oracle ウォレットおよび RMAN
- OS
- OS および RMAN
- OS および Oracle
- OS、Oracle、RMAN
- Oracle
- Oracle および RMAN

Oracle RAC の有効なクレデンシャルの使用例:

- ウォレット
- Oracle ウォレットおよび RMAN
- Oracle
- Oracle および RMAN

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1960

メッセージ: Oracle エイリアスの追加に失敗しました。

説明: NetBackup は指定されたインスタンスに指定されたエイリアスを追加できません。

推奨処置: 提供されたパラメータが適格な Oracle インスタンスおよびエイリアスに対応していることを確認します。

ファイルシステムのマウントパス。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1961

メッセージ: Oracle エイリアスの削除に失敗しました。

説明: NetBackup は指定されたインスタンスに指定されたエイリアスを削除できません。

推奨処置: 提供されたパラメータが適格な Oracle インスタンスおよびエイリアスに対応していることを確認します。インスタンスの NetBackup にエイリアスが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1962

メッセージ: Oracle ウォレットに格納された RMAN カタログのクレデンシャルは Oracle または OS のクレデンシャルと併用できません。

説明: ユーザーの Oracle ウォレットに格納されている RMAN カタログクレデンシャルを使用しようとしたか、既存のクレデンシャル設定を修正しました。ユーザーは、ウォレットの RMAN クレデンシャルを含められるサポート対象のクレデンシャル構成から切り替えられました。

推奨処置: 既存のクレデンシャル設定を確認し、切り替えるか追加しようとしている構成がサポートされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1967

メッセージ: Oracle Data Guard の追加に失敗しました。(Addition of an Oracle Data Guard did not succeed.)

説明: `nbars` プロセスによって、Oracle Data Guard を NetBackup データベースに追加できませんでした。

推奨処置: 詳しくは `nbars` のデバッグログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1968

メッセージ: Oracle Data Guard の削除に失敗しました。(Deletion of an Oracle Data Guard did not succeed.)

説明: nbars プロセスによって、Oracle Data Guard を NetBackup データベースに追加できませんでした。

推奨処置: 詳しくは nbars のデバッグログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1969

メッセージ: 指定された Oracle Data Guard は見つかりません。(The specified Oracle Data Guard cannot be found.)

説明: プロセス bprd によって、指定された Oracle Data Guard が NetBackup データベース内に見つかりませんでした。

推奨処置: Oracle Data Guard が NetBackup データベースに入力されていることを確認してください。bprd および nbars のデバッグログを調べ、追加情報を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1970

メッセージ: Oracle Data Guard 構成の更新に失敗しました。(Update of an Oracle Data Guard configuration did not succeed.)

説明: nbars プロセスによって、Oracle Data Guard 構成に Oracle インスタンスまたは RAC データベースを関連付けられませんでした。

推奨処置: 次の手順を実行します。

Oracle Data Guard 構成の更新をトラブルシューティングするには

1. Oracle Data Guard が NetBackup データベースに存在することを確認します。
2. Oracle インスタンスまたは RAC データベースが NetBackup データベースに存在することを確認します。
3. 詳しくは nbars のデバッグログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 1974

メッセージ: REDO ログの有効なセットがないと、クローンが失敗する場合があります。(Clone may fail without a valid set of redo logs.)

説明: この問題は、潜在的な Data Guard スタンバイバックアップに未使用とマーク付けされているオンラインバックアップが含まれているため、クローンが失敗する可能性があることを示すクローン前エラーです。

推奨処置: 詳しくは、『NetBackup for Oracle 管理者ガイド』の「Oracle のクローン作成」の章を参照してください。

次の RMAN の手順例では、クローン後に問題が解決する場合があります。

```
SQL> alter database drop standby logfile group 1;

Database altered.

SQL> alter database drop standby logfile group 2;

Database altered.

SQL> alter database drop standby logfile group 3;

Database altered.

SQL> ALTER DATABASE ADD LOGFILE group 1 ('c:¥clone¥REDO01.LOG') size
 5M;

Database altered.

SQL> ALTER DATABASE ADD LOGFILE group 2 ('c:¥clone¥REDO02.LOG') size
 5M;

Database altered.

SQL> alter database activate standby database;

Database altered.

SQL> alter database open;

Database altered.

SQL>
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2000

メッセージ: バックアップに新しいメディアを割り当てることができません。ストレージユニットに利用可能なメディアがありません (unable to allocate new media for backup, storage unit has none available)。

説明: NetBackup のメディアおよびデバイスの選択コンポーネント (MDS) がバックアップに新しいテープボリュームを割り当てませんでした。このバックアップに利用可能なボリュームが、ストレージユニットのボリュームプール内に存在しません。NetBackup では、バックアップ中にストレージユニットが変更されません。

推奨処置: 次のように実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートを確認して、メディアが存在しないストレージユニットを特定します。
- ストレージユニットがロボットで、空のスロットが存在する場合は、ボリュームを追加し、適切なボリュームプールを指定します。空のスロットが存在しない場合は、一部のメディアを非ロボットドライブに移動し、新しいボリュームを追加します。利用可能なボリュームのトラッキングが困難な場合は、次のディレクトリにある available_media スクリプトを実行します。

  UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/bin/goodies/available_media`

  Windows の場合:

  `install_path¥NetBackup¥bin¥goodies¥available_media.cmd`

  このスクリプトでは、ボリューム構成内のすべてのボリュームと、NetBackup に現在割り当てられているボリュームの情報が表示されます。
- スクラッチボリュームプールを設定し、割り当てられていないテープを用意します。NetBackup で新しいテープが必要であり、利用可能なテープが現在のボリュームプールに存在しない場合、スクラッチプールからバックアップで使用されているボリュームプールに、テープが移動されます。
- ストレージユニットおよびボリュームプールにメディアが存在する場合、次の内容を確認します。
  - ボリュームが凍結または一時停止されているかどうかを調べるには、NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使います。その場合、`bpmedia` コマンドを実行して、ボリュームの凍結の解除または一時停止の解除を行います (必要な場合)。
  - ボリュームの期限が切れておらず、最大マウント数を超えていない。
  - デバイスの EMM データベースホスト名が適切である。EMM データベースホスト名を変更する場合、Media Manager device デーモン (UNIX サーバーの場合

ltid) または NetBackup Device Manager サービス (Windows サーバー) を停止し、再起動します。

- NetBackup 構成で、適切なホストをストレージユニットに指定している。ホスト接続は、ドライブが接続されているサーバー (マスターサーバーまたはメディアサーバー) である必要があります。
- メディアおよびデバイスの管理のボリューム構成でメディアが適切なボリュームプール内に存在する。また、割り当てられていないメディアまたは有効なメディアが要求された保持レベルで利用可能である。NetBackup の[メディアリスト (Media Lists)]レポートを使用して、すべてのボリュームの保持レベル、ボリュームプールおよび状態を表示します。NetBackup の[メディアの概略 (Media Summary)]レポートを使用して、適切な保持レベルで有効なボリュームを確認します。

- bptm のデバッグログディレクトリを作成し、MDS VxUL ログ (OID 143) をデバッグレベル 2 に設定します。その後、操作を再試行します。
- 新しいストレージユニットを初めて使用する場合、マスターサーバー上の NetBackup を停止し、再起動します。デバッグレベル 2 の MDS の統合ログファイル (OID 143) では、通常、NetBackup のメディア選択プロセスが表示されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2001

メッセージ**:** このジョブで利用可能なドライブがありません (No drives are available for this job)

説明**:** ジョブはテープドライブを要求しましたが、適切なドライブパスがジョブに対して構成されませんでした。

推奨処置**:** 次のように実行します。

- 必要なドライブとロボットが構成され、起動されていることを検証します。
- ltid がアクティブであり、ストレージユニットで必要なメディアサーバーのドライブに構成されているドライブパスが存在することを検証します。
- ジョブが NDMP ドライブパスを必要とする場合は、このドライブパスが存在することを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2002

メッセージ**:** STU 識別子形式が無効です (Invalid STU identifier type)

説明: ジョブは無効なストレージユニット識別子形式を使って割り当てを要求しました。有効なストレージユニット識別子形式は 0 (特定の STU)、1 (グループ) または 2 (任意) のみです。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2003

メッセージ: ドライブが割り当てられていません (Drive is not allocated.)

説明: MDS は割り当てられていないドライブの割り当て解除を要求されました。

推奨処置: このエラーは NetBackup の MDS コンポーネントの内部エラーです。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの MDS の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2004

メッセージ: ドライブがすでに割り当てられています (Drive is already allocated)

説明: MDS はすでに割り当てられているドライブの割り当てを誤って要求されました。

推奨処置: ドライブはジョブに割り当てられる間にリセットされた可能性があります。ドライブを使うジョブが完了するまで待ちます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2005

メッセージ: MDS はメディアサーバーから無効なメッセージを受信しました (MDS has received an invalid message from a media server)

説明: メディアサーバーの か が MDS に不適切な形式のメッセージを送りました。
Explanation:bptmbpdm

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。
- メディアサーバーからの bptm のレガシーログ (VERBOSE=5)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2006

メッセージ: NDMP クレデンシャルが EMM で定義されていません (NDMP credentials are not defined in EMM)

説明: NDMP ストレージユニットにアクセスするための NDMP クレデンシャルで構成されている適切なメディアサーバーがありません。または、メディアサーバーに有効なバージョンの NetBackup がないときに、NetBackup がディスクストレージユニットから NDMP イメージをリストアしようとしました。

推奨処置: ジョブが NDMP デバイスを使う場合は、メディアサーバーにファイラに対して構成された NDMP クレデンシャルがあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2007

メッセージ: ストレージユニットには要求されたジョブと互換性がありません (Storage unit is not compatible with requesting job)

説明: ジョブがそのジョブのために使うことができないストレージユニットを要求しました。

推奨処置: NetBackup の古いバージョンを実行しているメディアサーバーでジョブを実行しようとしています。要求されるメディアサーバーで利用可能ではない機能がジョブで必要であることがあります。ポリシーとストレージユニットによって呼び出されるストレージユニット形式とメディアサーバーで機能がサポートされていることを検証します。

このエラーは、実行されているポリシーがそのポリシーによって要求されるストレージユニットと互換性がないときに発生する可能性があります。

- カタログバックアップが共有ディスクストレージユニットに送信される。
- 多重化されたジョブが多重化機能が構成されていないストレージユニットに送信される。
- NDMP バックアップポリシーが非 NDMP ストレージユニットに送信される。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2008

メッセージ: 互換性のあるすべてのドライブパスが停止しています (All compatible drive paths are down)

説明: このジョブのために使うことができるすべての構成されたドライブが停止しています。

推奨処置: `ltid` が必要なメディアサーバーで動作していることと、そのメディアサーバーがテープに対してアクティブであることを検証します。ドライブパスが停止している場合は、デバイスモニターを使って起動します。ドライブが再度停止した場合は、ドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2009

メッセージ: 互換性のあるすべてのドライブパスが停止していますが、メディアは利用可能です (All compatible drive paths are down but media is available)

説明: このジョブのために使うことができるすべての構成されたドライブが停止しています。

推奨処置: `ltid` が必要なメディアサーバーで動作していることと、そのメディアサーバーがテープに対してアクティブであることを検証します。ドライブパスが停止している場合は、デバイスモニターを使って起動します。ドライブが再度停止した場合は、ドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2010

メッセージ: ジョブ形式は無効です (Job type is invalid)

説明: Resource Broker への割り当て要求で指定されているジョブ形式が、要求される操作に対して無効です。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2011

メッセージ: メディアサーバーでシステムエラーが報告されました (The media server reported a system error)

説明: メディアサーバーの割り当てが一貫性のない状態にあります。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2012

メッセージ: メディアは EMM で競合しています (Media has conflicts in EMM)

説明: 要求されたメディアは、nbemm データベースで競合が発生しているとマーク付けされているため使用できません。

推奨処置: メディアは競合が発生しているとマーク付けされています。NetBackup 5.x からのアップグレードで、異なるボリュームのデータベースの 2 つのテープが同じメディア ID を持つ複数のボリュームデータベースを見つけました。このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2013

メッセージ: エラーレコードの挿入に失敗しました (Error record insert failed)

説明: データベースレコードの挿入が失敗しました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2014

メッセージ: メディアは割り当てられていません (Media is not assigned)

説明: ジョブは割り当て済みのメディアを必要としますが、要求されたメディアは割り当て済みではないです。

推奨処置: ジョブが目的のメディアを要求したことを検証します。たとえば、メディアの内容を表示する場合は、正しいメディア ID を指定したことを確認してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2015

メッセージ: メディアが期限切れです (Media is expired)

説明: すでに期限切れになってしまったメディアにジョブが書き込みを試みています。

推奨処置: 期限切れでないメディアがジョブのために利用可能であることを確認してください。

次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2016

メッセージ: メディアが別のサーバーに割り当てられています (Media is assigned to another server)

説明: ジョブはストレージサーバーのメディアを使用できません。そのメディアが別のストレージサーバーに割り当て済みであるためです。

推奨処置: 次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。

- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2017

メッセージ: メディアをドライブからマウント解除する必要があります (Media needs to be unmounted from a drive)

説明: 要求されたメディアは、別のジョブのために使う前に格納先のドライブからマウント解除される必要があります。

推奨処置: このエラーを戻すジョブによって要求されるメディアを識別します。それが別のジョブによって使われている場合は、そのジョブが完了するのを待ちます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2018

メッセージ: クリーニング数が無効です (Number of cleanings is invalid)

説明: クリーニングメディアに残っているクリーニングの数が無効です。

推奨処置: [メディアの変更 (Change Media)]画面で、クリーニングメディアに残っているクリーニングの数を 0 (ゼロ) 以上に設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2019

メッセージ: ローカルシステムに構成されていないドライブ内にメディアが存在します (Media is in a drive that is not configured on the local system)

説明: ジョブに適したメディアサーバーに対して構成されたドライブパスがないメディアボリュームを使うようにジョブが構成されています。メディアボリュームが不適切な場所に配置されているか、またはジョブのために構成されたストレージユニットでアクセス可能なメディアサーバーに対してすべてのドライブが停止しています。

推奨処置:ドライブパスが停止している場合は、ストレージユニットで使用するために構成されたメディアサーバーを識別し、そのメディアサーバーに対するドライブパスを起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2020

メッセージ: ロボットライブラリがサーバーで停止しています (Robotic library is down on server)

説明: NetBackup が必要なメディアサーバーに対してロボットを停止とマーク付けしました。

推奨処置: この割り当てに必要なメディアサーバーが動作していることを検証し、ltid がそのメディアサーバーで起動されていることを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2021

メッセージ: 割り当てレコードの挿入に失敗しました (Allocation record insert failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがデバイスの割り当てのためにデータベースを更新できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。次のログを確認します。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2022

メッセージ: 割り当て状態レコードの挿入に失敗しました (Allocation status record insert failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがデバイス割り当て状態の情報でデータベースを更新できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2023

メッセージ: 割り当て識別子は EMM に認識されていません (Allocation identifier is not known to EMM)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがこのジョブにデバイスを割り当てるのに必要なデバイス割り当てレコードを見つけることができません。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2024

メッセージ: 割り当て要求の更新に失敗しました (Allocation request update failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがデバイスの割り当てのためにデータベースを更新できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2025

メッセージ: 割り当て要求の削除に失敗しました (Allocation request delete failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがデバイスの割り当てをデータベースから削除できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2026

メッセージ: 割り当て状態要求の削除に失敗しました (Allocation status request delete failed)

説明: NetBackup の mds コンポーネントがこのジョブの割り当て状態レコードを修正できませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2027

メッセージ: メディアサーバーが動作していません (Media server is not active)

説明: このジョブは現在利用できないメディアサーバーを必要とします。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- この割り当てに必要なメディアサーバーが動作していることを検証します。
- これがテープジョブの場合は、ltid がメディアサーバーで動作していることを検証します。メディアサーバーがオフラインになったりオンラインに戻ったりする場合は、ジョブがそのメディアサーバーを使うことができるまで数分の遅延が発生することがあります。
- メディアサーバーの状態を示すために vmoprcmd コマンドを使います。ジョブがディスクストレージユニットにアクセスしようとしたら、nbrmms 処理がメディアサーバーで実行中であることを検証します。ジョブがテープストレージユニットにアクセスしようとしたら、ltid がメディアサーバーで実行中であることを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2028

メッセージ: メディアが予約されています (Media is reserved)

説明: 別のジョブがそのメディアを専用に予約しているため、NetBackup の mds コンポーネントがメディアを割り当てられません。

推奨処置: 複数の複製ジョブが読み込みのために同じテープメディアを使うことを試みている場合は、各ジョブがメディアを予約します。NetBackup は複数のジョブがテープメディアの予約を取得できるようにする必要があります。

このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2029

メッセージ: EMM データベースが不整合です (EMM database is inconsistent)

説明: NetBackup データベースの不一致がこのジョブのための割り当てを妨げています。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

NetBackup の割り当てデータベースを一貫した状態に戻すために nbrbutil -resetall コマンドを実行します。このコマンドは現在動作しているジョブを含むすべてのジョブを取り消すことに注意してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2030

メッセージ: ディスク領域が不十分であるか、高水準点を超過します (Insufficient disk space or high water mark would be exceeded)

説明: このジョブを実行するには利用可能なディスク容量が不十分です。

推奨処置: 次の解決策を試みてください。

- ディスクに期限切れにできるイメージがあれば期限切れにして、nbdelete を実行し、ディスクからイメージを削除します。
- NetBackup は、期限切れになる前にディスクイメージを作成することがあります。その場合、ディスクのイメージの作成または期限切れの速度を変更するようにポリシーの修正が必要なことがあります。
- ディスクグループの高水準点や低水準点を下げることは有用なことがあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2031

メッセージ: メディアが EMM で定義されていません (Media is not defined in EMM)

説明: このジョブに必要なメディアは EMM データベースで定義されていません。

推奨処置: リストアジョブに必要なメディアボリュームは EMM データベースから削除されました。メディアが利用可能な場合は、それをインポートするために `bpimport` を使います。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2032

メッセージ: EMM によると、メディアは使用中です (Media is in use according to EMM)

説明: NetBackup データベースは、メディアが使用中であるが別のジョブに割り当てられていないことを示します。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2033

メッセージ: メディアが不適切な場所に配置されています (Media has been misplaced)

説明: ジョブは、想定されたロボットスロットにないメディアを必要とします。

推奨処置: ジョブに必要なメディアが `vmquery` によって示されるとおり適切なロボットスロットにあることを検証します。

エラーが解決しない場合、次のログは問題の理解に有用なことがあります。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。
- このメディアにアクセスするメディアサーバーの詳細な `bptm` ログ。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2034

メッセージ: 後で割り当て要求を再試行してください (Retry the allocation request later)

説明: ジョブに必要なリソースは現在使用中です。

推奨処置: このエラーはジョブの終了時の状態として表示されません。mds と nbrb vxul の VxUL ログでは、リソースがビジー状態であるのでジョブがキューに投入される必要があることを示します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2035

メッセージ: 要求は保留にする必要があります (Request needs to pend)

説明: ジョブが続行するには、オペレータの介入を必要とします。

推奨処置: このエラーはジョブの終了時の状態として表示されません。mds と nbrb vxul の VxUL ログでは、ジョブが NetBackup のデバイスモニターにオペレータの介入の要求を送信する必要があることを示します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2036

メッセージ: ドライブは、起動しているロボットライブラリ内にあります (Drive is in a robotic library that is up)

説明: オペレータは稼働中のロボットにあるドライブに、保留中のテープマウントの要求を割り当てるように試みました。

推奨処置: 非ロボットメディアに対する要求がデバイスモニターで保留中の要求を引き起こした可能性があり、オペレータはスタンドアロンドライブではないドライブにその要求を割り当て済みです。このエラーは致命的ではありません。要求は NetBackup のデバイスモニターで再び保留されます。スタンドアロンドライブまたは AVR モードにある (非ロボットの) ドライブに、保留中のマウントを割り当てます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2037

メッセージ: ドライブの準備ができていません (Drive is not ready)

説明: 必要なテープはドライブにありますが、ドライブは準備完了状態にありません。

推奨処置: このエラーは、非ロボットメディアに対する要求がデバイスモニターで保留中の要求を引き起こし、オペレータが、準備完了状態にないドライブにその要求を割り当てた場合に発生します。このエラーは致命的ではありません。要求は NetBackup のデバイスモニターで再び保留されます。割り当てられるドライブに必要なテープがあることと、準備完了を示すドライブの表示灯がついていることを確認します。テープが挿入された後、ドライブが準備完了になるまで時間がかかることがあります。テープが挿入された後、ドライブが準備完了状態にならなければ、ドライブに問題があることがあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2038

メッセージ: ドライブにロードされたメディアは書き込み可能ではありません (Media loaded in drive is not write-enabled)

説明: このエラーは、非ロボットメディアに対するストレージユニットの要求によりデバイスモニターで保留中の要求が発生した場合に、オペレータが書き込み可能ではないメディアをドライブに挿入すると発生することがあります。

推奨処置: このエラーは致命的ではありません。要求は NetBackup のデバイスモニターで再び保留されます。このテープへの書き込みができることを確認したら、必要なテープの書き込み可能のスイッチが書き込みを許可するように設定されていることを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2039

メッセージ: SCSI 予約の競合が検出されました (SCSI reservation conflict detected)

説明: NetBackup の `bptm` コンポーネントは、別のジョブが予想外にドライブの SCSI RESERVE を保持するので、テープドライブの読み取りまたは書き込みができませんでした。

推奨処置: このエラーは、ジョブのリソース割り当て時には発生しませんが、テープジョブの I/O の間に起きることがあります。メディアサーバーの詳細な `bptm` ログは問題の理解に有用なことがあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2040

メッセージ: ストレージユニットの最大ジョブ数に達しました (Maximum job count has been reached for the storage unit)

説明: 最大ジョブ数を超過するのでストレージを割り当てることができません。最大ジョブ数は各ストレージユニットに設定可能です。ストレージユニットが構成されていたコピーの数よりも多くのコピーがストレージユニットの対象とされている場合、複数のコピージョブでこれと同じエラーが発生することがあります。

推奨処置: コピーの 1 つで異なるストレージユニットを対象とするか、ストレージユニットの最大ジョブ数を増やします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2041

メッセージ: ストレージユニットが停止しています (Storage unit is down)

説明: ディスクストレージユニットは停止として指定されているため、使用できません。

推奨処置: ディスクが停止とみなされている理由を示す `bperror -disk` コマンドを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2042

メッセージ: 密度の不一致が検出されました (Density mismatch detected)

説明: このエラーは NetBackup の内部エラーです。ジョブは間違った密度でメディアを要求しました。イメージカタログとメディアデータベースの間に不一致が存在する可能性があります。

推奨処置: メディア ID の密度でジョブが要求するテープメディアをリストアします。要求された密度は、メディアの構成された密度と一致しなければ、割り当てることができません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2043

メッセージ: 要求されたスロットは空です (Requested slot is empty)

説明: メディアはロボット内の想定されたスロットにありません。

推奨処置: ロボットをインベントリ処理する必要がある可能性があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2044

メッセージ: メディアは別のアプリケーションに割り当てられています (Media is assigned to another application)

説明: 要求されたメディアは NetBackup 以外のアプリケーションに割り当て済みであるので割り当てることができません。

推奨処置: ジョブに必要なメディアが NetBackup に割り当て済みであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2045

メッセージ: 最大ジョブ数が 1 より小さいため、ストレージユニットが無効です (Storage unit is disabled since max job count is less than 1)

説明: ストレージユニットは最大ジョブ数が 0 に設定されているため使用できません。

推奨処置: 0 より大きい値に最大ジョブ数 (または最大並列実行ドライブ数) を増やします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2046

メッセージ: メディアをマウントできません (Media is unmountable)

説明: メディアはマウントエラーが原因で使用不能としてマーク付けされました。

推奨処置: メディアのロボット内のドライブをクリーニングします。不良メディアがないかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2047

メッセージ: メディアは書き込み保護されています (Media is write protected)

説明: メディアは書き込み禁止であるため書き込みジョブに使用できません。

推奨処置: スクラッチプールのメディアが書き込み禁止でないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2048

メッセージ: メディアは ACS ロボットライブラリによって使用されています (Media is in use by the ACS robotic library)

説明: このジョブに必要な ACS メディアは別のシステムで使用中です。

推奨処置: 必要なメディアが別のアプリケーションによって使用中でないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2049

メッセージ: メディアは ACS ロボットライブラリ内で見つかりませんでした (Media not found in the ACS robotic library)

説明: このジョブに必要なメディアが ACS ロボットライブラリに見つかりません。

推奨処置: 必要なメディアが ACS ロボットで利用可能であることを確認してください。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2050

メッセージ: ACS メディアには、読み込み不可能な外部ラベルがあります (ACS media has an unreadable external label)

説明: このジョブは、外部ラベルかバーコードが読み取り不能であるために使うことができない ACS メディアを必要とします。

推奨処置: このメディアのバーコードラベルの問題を修正します。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2051

メッセージ: ACS メディアはドライブのドメイン内にはありません (ACS media is not in the drive's domain)

説明: このジョブに必要なメディアはアクセスできない ACS ロボットにあります。

推奨処置: 必要なメディアを含んでいるロボットが NetBackup メディアサーバーにアクセス可能であることを検証します。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2052

メッセージ: ACS ライブラリストレージモジュール (LSM) はオフラインです (An ACS Library Storage Module (LSM) is offline)

説明: 必要な ACS LSM はオフラインです。

推奨処置: ACS LSM をオンラインにします。

詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド』の ACSLS ロボットの構成に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2053

メッセージ: メディアはアクセスできないドライブに存在します (Media is in an inaccessible drive)

説明: 必要なメディアは、停止しているかアクセス不能なドライブに現在ロードされています。

推奨処置: メディアを特定し、ドライブかドライブパスが停止する原因となった問題を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2054

メッセージ: メディアは、現在停止状態のドライブ内にあります (Media is in a drive that is currently in a DOWN state)

説明: 必要なメディアは、停止しているドライブに現在ロードされています。

推奨処置: メディアを特定し、ドライブかドライブパスが停止する原因となった問題を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2055

メッセージ: ACS 物理ドライブは利用できません (ACS physical drive is not available)

説明: メディアサーバーは、ドライブが利用可能ではないので ACS メディアをロードできません。

推奨処置: ACS ドライブを検索し、インストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2056

メッセージ: マウント要求に使用したファイル名はすでに存在しています (The file name used for the mount request already exists)

説明: `tpreq` コマンドは、指定のファイル名がすでに存在するのでこのメディアをロードできません。

推奨処置: 異なるファイル名を `tpreq` に指定するか、`tpreq` を使用してロードされた競合しているファイル名を持つメディアに対して `tpunmount` コマンドを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2057

メッセージ: ドライブのスキャンホストは動作していません (The scan host of the drive is not active)

説明: スタンドアロンドライブのスキャンホストはオフラインです。したがってドライブは割り当てることができません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、このドライブへのパスを持つ NetBackup メディアサーバーを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2058

メッセージ: デバイスを使用する前に、LTID をメディアサーバー上で再起動する必要があります (LTID needs to be restarted on media servers before the device can be used)

説明: `ltid` の再起動が必要であるためドライブを使用できません。このエラーは、設定変更がメディアサーバーで行われた後に `ltid` が再起動されていない場合に発生することがあります。

推奨処置: メディアサーバーがビジー状態ではないときに、そのメディアサーバーで `ltid` を停止し、再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2059

メッセージ: ロボットライブラリは利用できません (The robotic library is not available)

説明: ドライブに必要なロボットを `nbemm` データベースで見つけることができません。

推奨処置: ジョブに必要なロボットが正しく構成されていることを確認します。エラーが解決しない場合、デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143) は問題の理解に有用なことがあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2060

メッセージ: メディアは、巻き戻すか、ドライブからマウント解除する必要があります (Media needs to be rewound or unmounted from a drive)

説明: NetBackup の `mds` コンポーネントは、テープがアンロードされる必要があることを Resource Broker に知らせるためにこのエラーを内部的に使用します。これはジョブのエラー状態としては表示されません。

推奨処置: 該当なし。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2061

メッセージ: ホストは、クラスタのアクティブノードではありません (The host is not an active node of a cluster)

説明: クラスタのフェールオーバーはジョブが動作している間に起きました。ジョブはフェールオーバーしたメディアサーバーのスパンを待機中であることがあります。

推奨処置: 失敗したジョブを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2062

メッセージ: ストレージユニットで抑制されたジョブ数に達しました (Throttled job count has been reached for the storage unit)

説明: このエラーはジョブ状態としては返されません。

推奨処置: 該当なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2063

メッセージ: サーバーには、リモートクライアントオプションのライセンスがありません (Server is not licensed for Remote Client Option)

説明: このジョブに必要なメディアサーバーでリモートクライアントオプションが有効になっていません。SAN メディアサーバーが、メディアサーバーではないクライアントのバックアップを要求されたか、SAN メディアサーバーで VMware バックアップが試行されました。

推奨処置: ライセンスを交付されているメディアサーバーでこのクライアントのバックアップを実行します。ライセンスを追加した場合、そのメディアサーバーにマスターサーバーへの接続があることを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2064

メッセージ: ジョブ履歴によると、利用可能なメディアはありません (Job history indicates that no media is available)

説明: 無効な NetBackup ソフトウェアがインストールされたメディアサーバーでジョブを実行すると、ジョブを開始しても、メディアがそのジョブに対して利用可能ではない場合があります。この場合、マスターサーバーは一定期間 (12 時間) そのストレージユニットの使用を停止し、そのストレージユニットを要求したジョブに対してこのエラーを戻します。

推奨処置: メディアがストレージユニットに対して利用可能であることを確認してください。必要に応じて、メディアサーバーのソフトウェアをアップグレードします。必要に応じてメ

ディアを追加します。メディアが利用可能な場合は、ストレージユニットを再び使うことができるまで12時間待ちます。ストレージユニットをすぐに利用できるようにするには、マスターサーバーで次のコマンドを実行して保留を解除します。

```
nbrbutil -releaseAllocHolds
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2065

メッセージ: ジョブ履歴によると、利用可能なドライブはありません (Job history indicates that no drives are available)

説明: 無効な NetBackup ソフトウェアがインストールされたメディアサーバーでジョブを実行すると、ジョブを開始しても、ジョブのために指定されたドライブがビジー状態または利用不能で、ジョブが失敗する原因となる場合があります。この場合、NetBackup マスターサーバーは一定期間 (数分) そのドライブの使用を停止し、そのドライブを要求しているジョブに対してこのエラーを戻します。

推奨処置: メディアサーバーソフトウェアをアップグレードします。ストレージユニットのドライブすべてが起動していて、使用可能であることを確認してください。クリーニングする必要があるすべてのドライブをクリーニングします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2066

メッセージ: ディスクプールが見つかりません (Disk pool not found)

説明: ジョブは nbemm データベースに存在しないディスクプールの対象となっています。

推奨処置: このジョブが使うストレージユニットが、正しく構成されたディスクプールで使用されるように構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2067

メッセージ: ディスクボリュームが見つかりません (Disk volume not found)

説明: 読み込みジョブは nbemm データベースに存在しないディスクボリュームを必要とします。または、書き込みジョブは構成されたボリュームがないディスクプール用に構成されています。

推奨処置: このジョブが使うディスクストレージが、ボリュームが構成されているディスクプールで使用されるように構成されていることを確認します。読み込みジョブの場合は、読み込みに必要なボリュームが nbemm データベースに存在することを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2068

メッセージ: ディスクボリュームのマウントポイントが見つかりません (Disk volume mount point not found)

説明: ディスクボリュームにマウントポイントが構成されていないか、nbemm データベースでの構成が不完全です。

推奨処置: ディスクグループとディスクグループのディスクボリュームの構成が正しいことを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2069

メッセージ: ディスクボリュームのマウントポイントレコードの挿入に失敗しました (Disk volume mount point record insert failed)

説明: データベースの更新はディスクジョブの割り当てを試みている間に失敗しました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2070

メッセージ: 指定されたマウントパスは、割り当てられた領域に適合しません (The specified mount path will not fit in the allocated space)

説明: ディスクボリュームのマウントポイントパスは許容される最大値より大きい値です。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2071

メッセージ: 要求に対してストレージサーバーが見つかりません (Unable to find any storage servers for the request)

説明: NetBackup はこのディスクジョブのストレージサーバーを見つけることができませんでした。

推奨処置: ジョブに必要なディスクグループを処理するストレージサーバーが構成されており、有効であることを確認します。それらが起動状態にあることを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2072

メッセージ: 静的なマウントポイントの無効な操作 (Invalid operation on static mount point)

説明: ディスクボリュームで、正しく構成されていないマウントポイントが見つかりました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2073

メッセージ: ディスクプールが停止しています (Disk pool is down)

説明: 必要なディスクプールは停止状態にあるため使用できません。

推奨処置: ディスクプールが停止状態に入った原因を判断する bperror -disk コマンドを実行します。問題を修正し、nbdevconfig コマンドを使ってディスクプールを起動状態に戻します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2074

メッセージ: ディスクボリュームが停止しています (Disk volume is down)

説明: 必要なディスクボリュームは停止状態にあるため使用できません。

推奨処置: `bperror -disk` を実行することで、ディスクボリュームが停止状態になった理由を確認できる場合があります。問題を修正し、`nbdevconfig` を使ってディスクボリュームを起動状態に戻します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2075

メッセージ: ファイバートランスポートリソースが利用できません (Fibre Transport resources are not available)

説明: ジョブはこの SAN クライアントでファイバートランスポートを使用するように構成されていますが、利用可能なファイバートランスポート接続は存在しません。

推奨処置: ファイバートランスポートが利用可能でなければ LAN トランスポートに切り替えるようにジョブを構成します。動作するジョブの形式がファイバートランスポートと互換性があることを検証します。`nbdevquery` を使って、要求されるディスクプールがファイバートランスポートで使用できるようになっていることを検証します。ジョブに必要なクライアントとメディアサーバー間に有効なファイバートランスポート接続があることを検証します。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの `mds` の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの `nbrb` の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2076

メッセージ: DSM によって、予期しないエラーが戻されました (DSM returned an unexpected error)

説明: NetBackup の Disk Service Manager コンポーネントが予想外のエラーを戻しました。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2078

メッセージ: ディスクボリュームの最大マウント数を超えています (The maximum number of mounts for the disk volume have been exceeded)

説明: ディスクボリュームは、他の多くのユーザーによってマウントされているため、ジョブで使用できません。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2079

メッセージ: DSM は、ボリュームに無効なファイルシステムがマウントされていることを検出しました (DSM has detected that an invalid filesystem is mounted on the volume)

説明: NetBackup は、想定したファイルシステムをディスクボリュームで見つけませんでした。

推奨処置: NetBackup が使用するディスクボリュームとそれに関連付けられたマウントポイントが他のアプリケーションによって使用されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2080

メッセージ: ディスクボリュームに最大ライター数が指定されていません (Disk volume has no max writers count)

説明: ディスクボリュームは、利用可能なマウントポイント数に対して正しく構成されていません。

推奨処置: nbdevquery を使用して適切なディスク構成を確認します。このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2081

メッセージ: ディスクボリュームに最大リーダー数が指定されていません (Disk volume has no max readers count)

説明: ディスクボリュームは、利用可能なマウントポイント数に対して正しく構成されていません。

推奨処置: nbdevquery を使用して適切なディスク構成を確認します。このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、解決方法について NetBackup のサポートに連絡してください。問題の特定に役立てるために次のログを調べてください。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2082

メッセージ: ドライブは、利用可能としてマークされている必要があります (The drive needs to be marked as available)

説明: ドライブは、メディアがロードされて割り当てられていますが、MDS がそれを利用可能にしていないため使用できません。

推奨処置: マスターサーバーで、このジョブの割り当てを示す nbrbutil -dump コマンドを実行します。問題が解決しない場合、ドライブを使うことができるように、ドライブの割り当てを解除する nbrbutil -releaseMDS コマンドを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2083

メッセージ: メディア親和性グループが EMM で定義されていません (The media affinity group is not defined in EMM)

説明: MDS はこのメディアの予約グループを見つけようとしましたが、想定された予約のグループを見つけませんでした。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、問題の特定に役立てるために次のログを調べます。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2084

メッセージ: メディア親和性グループレコードの挿入に失敗しました (Media affinity group record insert failed)

説明: MDS はこのテープメディアの予約グループの情報を更新できません。

推奨処置: このエラーは内部エラーです。問題が解決しない場合、問題の特定に役立てるために次のログを調べます。

- デバッグレベル 2 のマスターサーバーからの mds の統合ログファイル (OID 143)。
- デバッグレベル 3 のマスターサーバーからの nbrb の統合ログファイル (OID 118)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2085

メッセージ: ディスクボリュームは利用できません (Disk volume is not available)

説明: ジョブは、現在構成されているより多くのディスクボリュームを必要とします。

推奨処置: ディスクグループでディスクボリュームが構成されていることを確認してください。複数のコピージョブは同じディスクボリュームの 2 つのコピーを対象にすることはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2086

メッセージ: ディスクボリュームは、同じジョブの複数のコピーに使用できません (Disk volume cannot be used for more than one copy in the same job)

説明: この複数のコピージョブに使用できる十分なディスクボリュームが構成されていません。

推奨処置: 想定するディスクボリュームが構成されていることを検証するために nbdevquery -listdv コマンドを使用します。複数のコピージョブでは、固有の使用可能なディスクボリュームが各コピーのために存在することを確認します。複数のコピージョブは同じディスクボリュームの 2 つのコピーを対象にすることはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2087

メッセージ: メディアの割り当てによって、部分的に使用されているメディアの最大数の制限を超えます (Media allocation would exceed maximum partially full media limit)

説明: 部分的に空きのないメディアの最大数の設定限度を超えているため、このジョブを実行できません。

推奨処置: このエラーは複数のコピージョブか複製ジョブで発生することがあります。問題が解決しない場合、ディスクプールで、部分的に空きのないメディアの最大数の設定を増やす必要がある場合もあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2088

メッセージ: クリーニングメディアが利用できません (Cleaning media is not available)

説明: クリーニングメディアがドライブに構成されていないのでクリーニングジョブを実行できません。

推奨処置: ドライブを含んでいるロボットにクリーニングボリュームを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2089

メッセージ: FT クライアントは実行されていません (FT client is not running)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートクライアントはこのジョブに必要なクライアントで動作していません。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- PBX (Private Branch Exchange) サービスがインストールされ、動作していることを検証します。動作している処理に pbx_exchange がリストされていることを確認するために bpps -x コマンドを実行します。

- クライアントが SAN クライアントとして構成されていることを検証します。SAN クライアントの現在の状態を戻す `bpclntcmd -sanclient` コマンドを実行します。0 (ゼロ) の応答は SAN クライアントが構成されていないことを示します。`bpclntcmd -sanclient 1` としてコマンドを再実行します。
- クライアントがメディアサーバー、マスターサーバー、または EMM サーバーではないことを検証します。SAN クライアントの処理は NetBackup クライアントでのみ動作します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。
- SAN クライアントのサーバーエントリが NetBackup マスターサーバーに存在しないことを検証します。SAN クライアントのマスターサーバーの `SERVER=clientname` エントリを削除します。マスターサーバーが SAN クライアントをサーバーとしてもリストしている場合、SAN クライアントは終了することがあります。
- SAN クライアントサービスを再起動します。SAN クライアントはサーバーの再ブート時に再起動されますが、`bpclntcmd` コマンドの実行後は自動的に再起動されません。SAN クライアントサービスを起動するには、クライアントの起動スクリプトを実行するか、または Windows のサービスマネージャを使います。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2090

メッセージ: FT クライアントには構成されたデバイスが存在しません (FT client has no devices configured)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なクライアントに構成されていません。

推奨処置: ファイバートランスポートデバイスがクライアントにインストールされていることを確認します。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2091

メッセージ: FT クライアントのデバイスはオフラインです (FT client devices are offline)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なクライアントでオフラインになっています。

推奨処置: 次の 1 つ以上を実行します。

- PBX (Private Branch Exchange) サービスがインストールされ、動作していることを検証します。動作している処理に pbx_exchange がリストされていることを確認するために bpps -x コマンドを実行します。
- クライアントが SAN クライアントとして構成されていることを検証します。SAN クライアントの現在の状態を戻す bpclntcmd -sanclient コマンドを実行します。0 (ゼロ) の応答は SAN クライアントが構成されていないことを示します。bpclntcmd -sanclient 1 としてコマンドを再実行します。
- クライアントがメディアサーバー、マスターサーバー、または EMM サーバーではないことを検証します。SAN クライアントの処理は NetBackup クライアントでのみ動作します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。
- SAN クライアントのサーバーエントリが NetBackup マスターサーバーに存在しないことを検証します。SAN クライアントのマスターサーバーの SERVER=clientname エントリを削除します。マスターサーバーが SAN クライアントをサーバーとしてもリストしている場合、SAN クライアントは終了することがあります。
- SAN クライアントサービスを再起動します。SAN クライアントはサーバーの再ブート時に再起動されますが、bpclntcmd コマンドの実行後は自動的に再起動されません。SAN クライアントサービスを起動するには、クライアントの起動スクリプトを実行するか、または Windows のサービスマネージャを使います。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2092

メッセージ: クライアント用の FT サーバーのデバイスはオフラインです (FT server devices for client are offline)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なメディアサーバーでオフラインになっています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- マーク付きの QLogic ターゲットポートがサーバーに存在することを確認します。システムにターゲットモードで利用可能なポートがなければ、nbftsrvr と nbfdrv64 プロセスは終了します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。ファイバートランスポートサーバーは起動の間にライセンスの検査を実行します。
- 再ブートがファイバートランスポートサーバーのインストールに必要かどうかを判断します。Solaris のインストールでは、マーク付きのターゲットポートにファイバートランスポートドライバをロードするためにファイバートランスポートをインストールした後、メディアサーバーを再ブートする必要があります。さらに、ファイバートランスポートのインストール時に既存の QLogic ドライバをアンロードしない場合は、Linux サーバーを再ブートします。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』のトラブルシューティングの章を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2093

メッセージ: このクライアント用の FT サーバーが実行されていません (No FT servers for this client are running)

説明: このジョブはファイバートランスポートを必要としますが、ファイバートランスポートデバイスはこのジョブに必要なメディアサーバーへの接続で構成されていません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- マーク付きの QLogic ターゲットポートがサーバーに存在することを確認します。システムにターゲットモードで利用可能なポートがなければ、nbftsrvr と nbfdrv64 プロセスは終了します。
- SAN クライアント機能の有効なライセンスがマスターサーバーに存在することを検証します。SAN クライアントはマスターサーバーで「SAN Client」と呼ばれるキーを必要とする別ライセンスの機能です。ファイバートランスポートサーバーは起動の間にライセンスの検査を実行します。
- 再ブートがファイバートランスポートサーバーのインストールに必要かどうかを判断します。Solaris のインストールでは、マーク付きのターゲットポートにファイバートランスポートドライバをロードするためにファイバートランスポートをインストールした後、メディアサーバーを再ブートする必要があります。さらに、ファイバートランスポートのインストール時に既存の QLogic ドライバをアンロードしない場合は、Linux サーバーを再ブートします。

詳しくは、『NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2094

メッセージ: STU でライフサイクルバックアップを実行できません (STU cannot run Lifecycle backups)

説明: ストレージライフサイクルジョブは、ターゲットディスクプールがストレージライフサイクルに対して有効になっていないので動作しません。

推奨処置: ディスクプールの構成を調べるために `nbdevquery -listdp` コマンドを実行します。ライフサイクル属性がディスクプールに対して有効になっていなければ、それを有効にするために `nbdevconfig -changedp -setattribute` コマンドを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2095

メッセージ: STU で VMware バックアップを実行できません (STU cannot run VMware backup)

説明: このジョブのストレージユニットのために構成されているメディアサーバーは VMware バックアップを実行できません。

推奨処置: VMware バックアップを実行するには、メディアサーバーが有効なバージョンの NetBackup を実行する必要があります。有効なバージョンの NetBackup が実行されていることを検証するか、または有効なバージョンの NetBackup を実行するメディアサーバーのバックアップを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2096

メッセージ: NDMP 処理では複数のインラインコピーはサポートされません (NDMP operation does not support multiple inline copies)

説明: バックアップが NDMP ポリシーで、複数コピーに対して構成されているので、バックアップを実行できません。

推奨処置: NetBackup は NDMP ポリシーの複数コピーを作成できません。単一のストレージユニットの宛先にバックアップを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2097

メッセージ: ストレージユニットグループが EMM 構成に存在しません (Storage unit group does not exist in EMM configuration)

説明: NetBackup 構成に存在しないストレージユニットグループを使うように構成されているのでこのジョブを実行できません。

推奨処置: 構成に存在するストレージユニットかストレージユニットグループを使うようにポリシーを再設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2098

メッセージ: メディアプールはこのジョブに使用できません (Media pool is not eligible for this job)

説明: このジョブは NetBackup 構成に存在しないプールを使うように構成されています。

推奨処置: 構成されているプールをジョブが使うように構成済みのメディアプールを変更するか、必要なメディアプールを作成します。ジョブのために構成したメディアプールがスクラッチプールではないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2099

メッセージ: 必要なドライブまたはドライブパスが構成されていません (Required drive or drive path is not configured)

説明: このジョブは NetBackup 構成に存在しないドライブを必要とします。

推奨処置: ドライブ構成を検証するために `vmoprcmd` コマンドを実行します。使われているメディア形式に必要なドライブを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2100

メッセージ: テープメディアのマウントの最大数を超えています (Maximum number of mounts has been exceeded for tape media)

説明: 必要なメディアが、構成されている最大マウント数を超えたので、ジョブを実行できません。

推奨処置: メディアに対して許可されている最大マウント数を増やします。このメディアが構成したマウントの最大数を超えた場合、メディアを解除する必要がある場合もあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2101

メッセージ: メディアサーバーが EMM データベースに見つかりません (Media server not found in EMM database)

説明: 考えられる原因は、次のとおりです。

- テープバックアップの場合、バックアップを実行したメディアサーバーが EMM データベースにありません。
- OpenStorage の最適化された複製ジョブの場合、ソース環境とターゲット環境間で共通のメディアサーバーは両方のストレージサーバーのクレデンシャルを備えていません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- テープからのリストアの場合、NetBackup で存在しないメディアサーバーを新しいメディアサーバーに置き換えるために[Force Media Server Restore]オプションを使うことができます。
- 最適化された複製の場合、共通のメディアサーバーが両方のストレージサーバーのクレデンシャルを備えていることを確認します。OpenStorage の最適化された複製についての詳細な情報を参照できます。
  『NetBackup ディスクの OpenStorage のソリューションガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2102

メッセージ: 複数のストレージユニットにまたがって使用することはできません (Storage unit does not support spanning)

説明: ディスクのジョブはスパンをサポートしないディスク形式に対してスパンを要求しました。

推奨処置: 一部のディスク形式はスパンをサポートしません。ディスクグループがスパンをサポートするかどうかを判断するには nbdevconfig -listdg コマンドを実行します。このエラーが持続する場合は、実行中の新しいジョブのための十分なスペースがディスクストレージユニットで利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2103

メッセージ: メディアサーバーが一致していません (Media server mismatch)

説明: このエラーは複数コピージョブが共通のメディアサーバーを備えていないストレージユニットのために構成されている場合に発生することがあります。

推奨処置: 複数コピージョブのすべてのコピーは同じメディアサーバーで実行する必要があります。共通のメディアサーバーからのドライブパスかディスクアクセスがあるストレージユニットを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2104

メッセージ: ストレージユニットは利用できません (Storage units are not available)

説明: このエラーは、有効なストレージユニットの組み合わせを使うことができないように構成されている複数コピージョブで発生することがあります。

推奨処置: 構成されているストレージユニットを含むポリシーですべての条件が満たされていることを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2105

メッセージ: レプリケーションジョブに要求されたストレージユニットはレプリケーション対応ではありません (Storage unit requested for replication job is not replication capable)

説明: このエラーは、レプリケーションジョブが書き込み用のストレージユニットを要求しているのに、ストレージユニットが呼び出すディスクがレプリケーションではない場合に起きる可能性があります。

推奨処置: レプリケーションジョブにストレージユニット指定子でレプリケーション対応ディスク用に構成された状態が含まれることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2106

メッセージ: ディスクストレージサーバーが停止しています (Disk storage server is down)

説明: このエラーはディスクグループが NetBackup でマークされたストレージサーバーにあるディスクストレージユニットをジョブが使用する場合に発生することがあります。また、このエラーは、クラウドストレージのバックアップが失敗したときに発生する可能性があります。

推奨処置: ストレージサーバー用に構成されたすべてのメディアサーバーがストレージサーバーと通信できることを確認してください。コマンドはストレージサーバーを定期的にクエリーします。したがって、メディアサーバーで ログを詳細レベル 5 に設定することができます。bpstsinfobpstsinfo

エラーがクラウドストレージのバックアップ失敗に関連している場合、次の情報を確認する必要があります。

- NetBackup CloudStore サービスがマスターサーバーとメディアサーバーで実行されている。サービスを起動する方法について詳しくは、『NetBackup Cloud 管理者ガイド』の「NetBackup CloudStore Service Container の起動とシャットダウンのトラブルシューティング」セクションを参照してください。
- 構成済みのメディアサーバーの NetBackup 証明書が最新でないか使用できないため、ストレージサーバーの停止を引き起こす可能性がある。ストレージサーバーの起動状態を維持するには、必要なすべての証明書をそのメディアサーバーに配備していることを確認します。詳しくは『NetBackup セキュリティ暗号化ガイド』を参照してください。
- メディアサーバーがバージョン 8.0 以前の場合、NetBackup マスターサーバーで [8.0 以前のホストとの安全でない通信を有効にする (Enable insecure communication with 8.0 and earlier hosts)]オプションが選択されている。このオプションは、NetBackup 管理コンソールの[セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ設定 (Global Security Settings)]、[安全な通信 (Secure Communication)]の順に選択したタブで利用できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2107

メッセージ: 要求されたメディアサーバーにクレデンシャルがないか、ストレージサーバー用に構成されていません (Requested media server does not have credentials or is not configured for the storage server)

説明: ジョブはディスクストレージサーバーにアクセスするクレデンシャルを備えていないメディアサーバーのディスクメディアを要求しました。同じ形式の 2 つのストレージサーバー間の最適化された複製の間に、書き込み側のストレージユニット用に構成されたメ

ディアサーバーに読み込み側のストレージサーバーにアクセスするための資格情報がない場合があります。

推奨処置: 最適化された複製には読み込み側と書き込み側の両方のストレージサーバー用のクレデンシャルを備えたメディアサーバーが必要です。必要なクレデンシャルを追加するか、または書き込み側のストレージユニットが読み込みメディア用のクレデンシャルを備えたメディアサーバーを呼び出すようにメディアサーバーを限定してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2108

メッセージ: 要求された NDMP マシンにクレデンシャルがないか、NetBackup で構成されていません

説明: ジョブが NetBackup で構成されていない NDMP マシンの使用を要求しています。

推奨処置: NDMP ポリシーのためのジョブは、ポリシーでクライアントとして指定された NDMP ホストが NetBackup で構成されていることを要求します。どのサーバーに対しても、定義された資格情報は NDMP ホストにアクセスする必要があります。

要求される NDMP ホストが構成されているかを検証してください。構成済みの NDMP ホストが完全修飾名で、ポリシーの NDMP のホスト名がそうでない場合は、次のコマンドを実行して NDMP ホストにエイリアスを追加してください。

```
# nbemmcmd -machinealias -addalias -alias string -machinename string
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2109

メッセージ: 要求されたファイバートランスポートのクライアントマシンが NetBackup の構成で見つかりません (Requested Fibre Transport client machine was not found in NetBackup configuration)

説明: ジョブが NetBackup の構成にないファイバートランスポートのクライアントマシンを要求しています。

推奨処置: ファイバートランスポートのバックアップおよびリストア操作は、ファイバートランスポートの各クライアントが NetBackup で構成されていることを要求します。ジョブのために要求されるクライアントが、ファイバートランスポートのクライアントとして構成されているかを検証してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2110

メッセージ: 要求されたマシンが NetBackup で構成されていません

説明: ジョブが NetBackup で構成されていないマシンを要求しました。

推奨処置: ジョブを実行するのに使用するポリシーは、どのサーバーをジョブが要求するかを示すことがあります。示されていない場合は、MDS VxUL ログ (OID 143) をデバッグレベル 2 に設定してジョブを再試行することにより、ジョブの検索対象のサーバーを見つけます。通常は、この問題の原因となったホスト名が MDS ログに示されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2111

メッセージ: すべてのストレージユニットはオンデマンドのみで構成されているため、ストレージユニットを要求するジョブの対象になりません (All storage units are configured with On Demand Only and are not eligible for jobs requesting ANY storage unit)

説明: ジョブは利用可能なストレージユニットを要求しましたが、すべてのストレージユニットが[オンデマンドのみ (On Demand Only)]に設定されています。

推奨処置: 利用可能な任意のストレージユニットではなく特定のストレージユニットを使用するようにポリシーを変更するか、[オンデマンドのみ (On Demand Only)]ではないストレージユニットを最低でも 1 つ設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2112

メッセージ: NetBackup メディアサーバーのバージョンが、この操作を実行するには低すぎます (NetBackup media server version is too low for the operation)

説明: ストレージユニットまたはストレージユニットグループは、マスターサーバーより前のバージョンのソフトウェアを実行するメディアサーバーをポイントします。そのため、メディアサーバーではより新しい NetBackup バージョンのすべての機能を使えるわけではありません。ソフトウェアのこの不一致は、バックアップ操作、複製書き込み操作などの多くの書き込み操作に影響します。

推奨処置: ソフトウェアのより新しいバージョンのメディアサーバーにストレージユニットをポイントします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2113

メッセージ: vserver 用に無効なクレデンシャルが追加されているか、ディスクアレイクレデンシャルが追加されていません (Invalid or no disk array credentials are added for vserver)

説明: 管理アクセスが有効になっている NetApp ストレージ仮想マシンのインターフェース名の［ディスクアレイホスト (Disk Array Hosts)］クレデンシャルセクションで無効なクレデンシャルが検出されたか、クレデンシャルが検出されませんでした。

推奨処置: ［ディスクアレイホスト (Disk Array Hosts)］のクレデンシャルセクションで、管理アクセスが有効になっている NetApp ストレージ仮想マシンのインターフェースの管理者クレデンシャルを追加します。インデックス化されるスナップショット/レプリカを保持する適切なストレージ仮想マシンのインターフェース名を入力していることを確認します。ONTAPi アプリケーションを持つストレージ仮想マシン（SVM）ユーザーアカウントがロック解除されている状態であることを確認します。

詳しくは、『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2114

メッセージ: メディアサーバーが認識されません。(Media server is not recognized.)

説明: マスターサーバーによって、nbemm への不正な接続試行が検出されました。試行回数がしきい値に達しました。マスターサーバーの良好なパフォーマンスを維持するために、構成を変更する必要があるかどうかを判断する必要があります。

推奨処置: このエラーは、構成の変更が必要であることを意味しているわけではありません。ただし、このエラーが繰り返される場合は、マスターサーバーのパフォーマンスを良好に維持するために構成の変更を考慮する必要があることを示しています。

必要に応じて次を実行します。

- マスターサーバーにメディアサーバーの認可を追加し、メディアサーバーの NetBackup サービスを再起動します。
- マスターサーバーの PBX BLOCK_SERVER_SERVICE リストにメディアサーバーを追加します。遮断する必要があるサービスは EMM と NBREM です。
  着信接続の遮断について詳しくは、Cohesity Technical Support Web サイトの次の記事を参照してください。https://support.cohesity.com/s/article/article-100048495
- メディアサーバーソフトウェアをアンインストールします。
- メディアサーバーを停止します。

警告: NetBackup DNAT 環境では、識別された IP アドレスとホスト名が、メディアサーバーではなくゲートウェイを指している場合があります。追加の手順を実行して問題を解決する前に、ホスト情報を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2205

メッセージ**:** 指定した詳細に対して、スナップショットレプリケーションはサポートされていません。(Snapshot replication is not supported for the specified details.)

説明**:** この問題は、次の点が原因で発生することがあります。

- クラウド資産グループの構成の不一致が原因で、スナップショットレプリケーションジョブをトリガできない。この問題は、レプリケーション領域がソース領域と同じ場合に発生する可能性があります。
- クロスアカウントレプリケーションがホストスナップショットでサポートされていない。
- Amazon EBS 用の、デフォルトのサービスキーで暗号化されたディスクスナップショットのクロスアカウントレプリケーションがサポートされていない。
- クロスアカウントレプリケーションが、自動化された RDS スナップショットでサポートされていない。

推奨処置**:** これらの問題を修正するには、保護計画の構成を変更する必要があります。NetBackup はレプリケーションジョブを再試行しません。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2206

メッセージ**:** Snapshot Manager が、指定されたプラグインインスタンスに対して、ネットワークセキュリティグループを取得できませんでした。(Snapshot Manager failed to retrieve network security groups against the specified plug-in instance.)

説明**:** クラウド資産グループの構成が一致していないため、Snapshot Manager でネットワークセキュリティグループを一覧表示できません。この問題は、クラウドプロバイダに応じて、領域の誤り、`subnetId`、または `subscriptionId` が原因で発生する場合があります。

推奨処置**:** クラウドプロバイダの構成に記載されているいずれかの領域から、有効な `subnetId` を選択する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2213

メッセージ: Snapshot Manager で構成済みプラグインインスタンスを削除できませんでした。(Failed to delete configured plug-in instance in Snapshot Manager.)

説明: プラグインの削除要求が Snapshot Manager で失敗しました。この問題は、プラグインで作成された資産スナップショットがある場合に発生する可能性があります。

推奨処置: プラグインの削除が必要な場合は、すべてのアクティブなスナップショットを削除し、プラグインの削除を再試行します。スナップショットを消去せずにプラグインを削除する必要がある場合は、`X-NetBackup-Force-Plugin-Delete` ヘッダーを `TRUE` として渡します。スナップショットはクラウドに残るので、手動で削除する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2228

メッセージ: クラウド VM リストアのためにネットワーク構成を保持している場合は、セキュリティグループまたはサブネットの構成を指定できません。(Security Group or Subnet configuration cannot be provided when you retain the network configuration for cloud VM restore.)

説明: 元のネットワーク構成のみを保持するか、宛先サブネットまたはセキュリティグループを指定できます。両方を実行するように選択することはできません。

推奨処置: 元のネットワーク構成を保持するか、宛先サブネットまたはセキュリティグループを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2229

メッセージ: クラウドサービスプロバイダ間でのリストア中はネットワーク構成を保持できません。(Cannot retain network configuration while restoring across cloud service providers.)

説明: ユーザーは、クラウドサービスプロバイダ間でのリストア中にネットワーク構成を保持するように指定しました。たとえば、AWS から Azure、またはその逆です。このシナリオはサポートされません。

推奨処置: API を使用して、`retainNetworkConfig` フラグを削除するか、リカバリまたはリカバリ前のペイロードで False に設定します。UI で、[ネットワーク構成のリストア (Restore network configuration)]オプションの選択を解除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2230

メッセージ: 資産が見つからないためスナップショットの作成に失敗しました。(Failed to create snapshot due to a missing asset.)

説明: 見つからない資産があるため、スナップショットを作成できません。

推奨処置: 保護計画から資産のサブスクライブを解除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2231

メッセージ: ホストに十分な空き領域がありません。(Not enough free space on host.)

説明: NetBackup プライマリサーバーに遠隔測定ファイルをアップロードするのに十分な領域がありません。

推奨処置: NetBackup プライマリサーバーがインストールされているホストに一定の領域を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2232

メッセージ: ファイルはすでに存在しています。(File already exists.)

説明: 指定した名前の遠隔測定ファイルは、NetBackup ホストにすでに存在します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アップロードされるファイルが重複ファイルであるかどうかを判断します。
- アップロードするファイルの名前を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2233

メッセージ: 遠隔測定ファイルのアップロードに失敗しました。(Failed to upload telemetry file.)

説明: 遠隔測定ファイルのアップロードを試行したときにエラーが発生しました。

推奨処置: 遠隔測定ファイルの作成またはアップロードを試行したときに発生した、`nbwebservice` ログで見つけたエラーを修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2250

メッセージ: NetBackup でエラーログ結果ページの取得中に要求がタイムアウトしました。(The request has timed out while NetBackup retrieved the error log results page.)

説明: エラーログの要求に多数の結果が含まれる場合、要求に 30 秒より長い時間がかかることがあります。その場合、要求はタイムアウトします。

推奨処置: 日付範囲を絞り込んでから、問い合わせをもう一度実行します。API を使用する場合は、ページサイズを変更することもできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2251

メッセージ: カーソル値が無効です。(The cursor value is invalid.)

説明: API 要求に無効なカーソル値が含まれています。次に示す要求の例では、`page[after]` 値が次のカーソル値です。この値が正しくない場合、サーバーがカーソルを見つけられないため、NetBackup は次のページをロードできません。

カーソル値を指定した API 要求の例:

```
https://localhost/netbackup/troubleshooting/error-logs?page[after]=
28002872c601fd648f3154e58532558e429c9632035c3bf042a6accdd77d8356&page
[limit]=5
```

Web UI は応答から次の値を取得し、それを次のページの `page[after]` 値として使用するため、Web UI ではこの問題は発生しません。ただし、API を使用する場合は、この `page[after]` 値を変更できます。

推奨処置: 以前の API 応答を確認し、`page[after]` 値に正しい値を使用します。要求に無効な値が含まれている場合、エラーログで、応答内の `pagination` メタタグを見つけます。`"next"` の値は、`page[after]` に使用する値です。

```
"meta": {
"pagination":

{ "next": "28002872c601fd648f3154e58532558e429c9632035c3bf042a6accdd77d8356", "limit":
 5 }
}
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2252

メッセージ: エラーログの同時要求数が超過しました。

説明: 長時間実行中のエラーログ要求は、NetBackup サーバーのパフォーマンスに影響を与える場合があります。このため、NetBackup では同時要求の数が制限されています。

推奨処置: 1 つ以上のアクティブなエラーログ要求が完了するまで待ちます。その後、新しいエラーログ要求を再度実行してみます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2300

メッセージ: リカバリ要求では「vmRecoveryDestination」フィールドを指定する必要があります。(The vmRecoveryDestination field must be specified in the recovery request.)

説明: リカバリ要求の vmRecoveryDestination フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: vmRecoveryDestination フィールドが指定されており、空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2301

メッセージ: 「alternateLocationDirectory」フィールドは空白にできません。(The alternateLocationDirectory field must not be blank.)

説明: リカバリ要求の alternateLocationDirectory フィールドには、ディレクトリの値を含める必要があります。

推奨処置: alternateLocationDirectory フィールドは省略可能です。alternateLocationDirectory フィールドを含める場合は、空でないディレクトリの値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2302

メッセージ: 「instanceUuid」フィールドは空白にできません。(The instanceUuid field must not be blank.)

説明: 要求の instanceUuid フィールドには、仮想マシンインスタンス UUID の値を含める必要があります。

推奨処置: リカバリ前チェック要求の instanceUuid フィールドが指定されており、空でないことを確認します。リカバリ要求の instanceUuid フィールドは省略可能です。このフィールドを含める場合は、空でない値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2303

メッセージ: 「stagingLocation」フィールドは空白にできません。(The stagingLocation field must not be blank.)

説明: リカバリ要求およびリカバリ前チェック要求の stagingLocation フィールドには、ステージング場所のパスの値を含める必要があります。

推奨処置: stagingLocation フィールドは省略可能です。このフィールドを含める場合は、空でないパスの値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2304

メッセージ: 「datastore」フィールドは空白にできません。(The datastore field must not be blank.)

説明: 要求の「datastore」フィールドには、datastore の値を含める必要があります。

推奨処置: リカバリ前チェック要求の datastore フィールドが指定されており、空でないことを確認します。リカバリ要求の datastore フィールドは省略可能です。このフィールドを含める場合は、空でない値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2305

メッセージ: 仮想マシンのユーザー名またはパスワードが無効です。(Invalid virtual machine user name or password.)

説明: リカバリ要求およびリカバリ前チェック要求の vmUsername フィールドと vmPassword フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: vmUsername フィールドと vmPassword フィールドが指定されており、空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2306

メッセージ: 「vmFiles」フィールドは空白にできません。(The vmFiles field must not be blank.)

説明: リカバリ要求の vmFiles フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: vmFiles フィールドが指定されており、空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2307

メッセージ: 仮想マシンファイルの「source」フィールドは空白にできません。(The source field of virtual machine files must not be blank.)

説明: リカバリ要求のファイルの source フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: ファイルの source フィールドが指定されており、空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2308

メッセージ: 仮想マシンファイルの「destination」フィールドは空白にできません。(The destination field of virtual machine files must not be blank.)

説明: リカバリ要求のファイルの destination フィールドには、宛先パスの値を含める必要があります。

推奨処置: destination フィールドは省略可能です。このフィールドを含める場合は、空でない宛先パスの値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2309

メッセージ: エージェントレスリカバリリストアの指定の作成に失敗しました。(Failed to create the agentless recovery restore specification.)

説明: エージェントレスリカバリリストアの指定の生成に失敗しました。

推奨処置: JSON 要求の構文が無効です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2310

メッセージ: 「size」フィールドは空白にできません。(The size field must not be blank.)

説明: リカバリ前チェック要求の size フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: size フィールドが指定されており、空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2311

メッセージ: ゲスト仮想マシンのクレデンシャルの追加に失敗しました。(Failed to add guest virtual machine credentials.)

説明: ゲスト仮想マシンのクレデンシャルの追加に失敗しました。

推奨処置: マスターサーバーで NetBackup サービスが実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2312

メッセージ: 「alternateLocationDirectory」は「/」から始まる必要があります。(The alternateLocationDirectory must begin with a /)

説明: alternateLocationDirectory パスはスラッシュ (/) で始める必要があります。

推奨処置: alternateLocationDirectory パスの先頭にスラッシュ (/) を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2313

メッセージ: 仮想マシンファイルの「source」パスは「/」から始まる必要があります。(The source path of virtual machine files must begin with /.)

説明: ファイルの source パスはスラッシュ (/) で始める必要があります。

推奨処置: ファイルの source パスの先頭にスラッシュ (/) を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2314

メッセージ: 仮想マシンファイルの「destination」パスは「/」から始まる必要があります。(The destination path of virtual machine files must begin with /.)

説明: ファイルの destination パスはスラッシュ (/) で始める必要があります。

推奨処置: ファイルの destination パスの先頭にスラッシュ (/) を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2317

メッセージ: ゲスト仮想マシンのクレデンシャルの削除に失敗しました。(Failed to remove guest virtual machine credentials.)

説明: ゲスト仮想マシンのクレデンシャルの削除に失敗しました。

推奨処置: ゲスト仮想マシンからクレデンシャルを手動で削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2318

メッセージ: 「appendString」フィールドは空白にできません。(The appendString field must not be blank.)

説明: 要求の appendString フィールドには、ファイル名に付加する文字列の値を含める必要があります。

推奨処置: appendString フィールドは省略可能です。appendString フィールドを含める場合は、空でない文字列の値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2319

メッセージ: ファイル名への文字列の追加は、ディレクトリでサポートされていません。(Append string to file names is not supported for directories.)

説明: リカバリ要求の appendString フィールドは、ディレクトリではサポートされていません。

推奨処置: リカバリ要求の appendString フィールドは、ファイルでのみサポートされています。リストア対象のエントリのリストで指定されているディレクトリをすべて削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2320

メッセージ: ディレクトリ構造のフラット化は、ディレクトリでサポートされていません。(Flatten directory structures is not supported for directories.)

説明: リカバリ要求の flattenDirectoryStructure フィールドは、ディレクトリではサポートされていません。

推奨処置: リカバリ要求の flattenDirectoryStructure フィールドは、ファイルでのみサポートされています。リストア対象のエントリのリストで指定されているディレクトリをすべて削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2322

メッセージ: ステージング場所のパスの作成に失敗しました。(Failed to create the staging location path.)

説明: NetBackup がステージング場所のパスの作成に失敗しました。

推奨処置: デフォルトのステージング場所のパスを使用するか、ユーザー構成のステージング場所のパスが有効であることを確認します。

ステージング場所の設定情報:

- ステージングの場所は、デフォルトで /usr/openv/var/stagingloc または *NB_APPLICATION_FOLDER*¥NetBackup¥var¥stagingloc に設定されています。この場所は、**制限されたリストアモード**のリストア中にファイルをステージングするために使用されます。
- リカバリホストに構成されている bp.conf のパラメータ AGENTLESS_RHOST_STAGING_PATH = "path" を使用して、パスを上書きできます。リカバリホストにパスが存在しない場合、NetBackup は適切な権限で自動的にパスを作成します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2323

メッセージ: ステージング場所は存在しますが、ACL またはアクセス権ビットが on に設定されているため安全ではありません。(The staging location exists but ACLs and or permission bits set to on are insecure.)

説明: リカバリホストのステージングファイルに使用されるパスに誰でもアクセスできます。または ACL が明示的に定義されていません (継承された ACL を使用)。このチェックは、デフォルトの場所と、bp.conf ファイル設定内の上書きされたパスに対して行われます。

推奨処置: ステージング場所のパスが安全であることを確認します。

- Windows の場合: ACL は明示的に定義されている必要があり、親フォルダから継承された権限に依存できません。
- UNIX の場合: 所有者またはグループのみアクセスできるようにします。other のアクセス権ビットは、07?0 または drxw???--- のように表示されている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2324

メッセージ: リカバリホストに残っているステージング場所とファイルを削除できませんでした。(Failed to remove the staging location and any files that are left on the recovery host.)

説明: NetBackup はリカバリホストからステージングされたファイルとフォルダを削除しませんでした。ファイルはリカバリホストに残っているため、手動で削除する必要があります。

推奨処置: 残っているステージング場所のフォルダから、すべてのファイルとフォルダを削除します。ログを確認して、NetBackup がフォルダを削除できなかった理由を判断します。NetBackup がこのフォルダを削除するのを、他のプロセスやユーザーが遮らないようにしてください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2325

メッセージ: **制限されたリストアモード**のリストアをサポートするには、指定したリカバリホストが NetBackup バージョンが 9.0 以降である必要があります。(Specified recovery host needs to be at NetBackup version 9.0 or greater to support Restricted Restore Mode restores.)

説明: リカバリホストは、この機能のサポートされていない NetBackup のバージョンです。

推奨処置: NetBackup 9.0 以降のリカバリホストを選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2326

メッセージ: リカバリ状態のファイルの更新に失敗しました。(Failed to update the recovery state file.)

説明: NetBackup がリカバリ状態のファイルの読み取りまたは書き込みに失敗しました。リストアを続行できません。

推奨処置: ログを確認して、NetBackup がリカバリ状態のファイルの読み取りまたは書き込みを実行しなかった理由を判断します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2328

メッセージ: 「communicationType」フィールドは空欄にできません。(The communicationType field cannot be empty.)

説明: 要求の「communicationType」フィールドは、SSH または WMI に設定する必要があります。

推奨処置: 「communicationType」フィールドは必須です。値は、SSH または WMI に設定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2329

メッセージ: 「targetHost」フィールドが空か、名前が無効です (The targetHost field is either empty or the name is invalid)

説明: 要求の「targetHost」フィールドには、ターゲットホストの有効なホスト名または IP アドレスを指定する必要があります。

推奨処置: 「targetHost」フィールドは必須です。ターゲットホストの有効なホスト名または IP アドレスを指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2330

メッセージ: 「sshFingerprint」フィールドは空欄にできません。(The sshFingerprint field cannot be empty.)

説明: 要求の「sshFingerprint」フィールドに有効な値を指定し、ターゲットホストの SSH 鍵指紋を含める必要があります。

推奨処置: 「sshFingerprint」フィールドは必須です。ターゲットホストの SSH 鍵指紋を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2331

メッセージ: エージェントレスリストアをサポートするには、指定したリバカリホストが NetBackup 9.1 以降である必要があります。(The specified recovery host must be at NetBackup version 9.1 or later to support agentless restores.)

説明: ファイルまたはフォルダのエージェントレスリストアには、NetBackup バージョン 9.1 以降のリカバリホストが必要です。

推奨処置: リカバリホストの NetBackup のバージョンを確認します。バージョンは 9.1 以降である必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2334

メッセージ: リカバリホストのステージング場所が存在しません。(Recovery host staging location does not exist.)

説明: エージェントレスリストア用のリカバリホストにステージング場所のパスが存在しません。

推奨処置: リカバリホストのデフォルトのステージング場所のパス、またはユーザー構成のステージング場所のパスが有効であることを確認します。

NetBackup は、リカバリホストの次の場所をデフォルトのステージング場所として使用します。

- Windows の場合:

  installpath¥NetBackup¥var¥tmp¥staging

- UNIX の場合:

  /usr/openv/var/tmp/staging/

使用されるステージング場所のパスが存在することを確認します。ユーザー構成のステージング場所については、リカバリホストの有効なパスが bp.conf のパラメータ AGENTLESS_RHOST_STAGING_PATH = ¥"path¥" で指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2335

メッセージ: リカバリホストのステージング場所に tar イメージが見つかりませんでした。(A tar image was not found at the staging location on the recovery host.)

説明: リカバリホストのステージング場所に tar イメージが見つかりませんでした。エージェントレスリストアには tar イメージが必要です。

推奨処置: リカバリホストのステージング場所に tar イメージが見つかりませんでした。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2336

メッセージ: 内部エラーにより、リカバリの検証が失敗しました。(Internal error has caused failure of recovery validation.)

説明: エージェントレスリストアのリカバリ前検証の実行中に内部エラーが発生しました。

推奨処置: リカバリホストで bpVMutil ログを保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2337

メッセージ: リカバリホストに利用可能な十分な領域がありません。(Not enough space available on recovery host.)

説明: リカバリホストのエージェントレスリストアのステージング場所に、選択したファイルを保持するための十分な領域がない可能性があります。

推奨処置: 選択したファイルまたはフォルダの合計サイズと比較して、リカバリホストのステージング場所に利用可能な空き領域が十分に確保されていることを確認します。または、エージェントレスリストアを実行するための十分な空き領域がある別のリカバリホストを選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2339

メッセージ: ターゲットホストに十分な空き領域がありません。(Not enough space available on target host.)

説明: ターゲットホストのエージェントレスリストアのステージング場所に十分な領域がない可能性があります。

推奨処置: 明示的に指定されていない場合、NetBackup はターゲットホストのデフォルトのステージング場所としてユーザーのホームディレクトリを使用します。ターゲットホストに十分な空き領域があることを確認するか、同じターゲットホスト上で十分な空き領域がある別のステージング場所を選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2340

メッセージ: ターゲットホストに tar が存在しません。(Tar is not present on the target host.)

説明: ターゲットホストで、エージェントレスリストアに必要な tar ユーティリティが見つかりませんでした。

推奨処置: ターゲットホストに tar ユーティリティが存在しません。NetBackup を使用してエージェントレスリストアを実行するには、UNIX オペレーティングシステムを搭載したターゲットホストにシステムの tar ユーティリティが必要です。tar ユーティリティを配備した後、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2341

メッセージ: ユーザーは、ターゲットホストのステージング場所に対して必要な権限がありません。(The user does not have required permission on the target host staging location.)

説明: ステージング場所にアクセスするために必要な権限がユーザーに付与されていないか、指定したステージング場所がターゲットホストに存在しません。

推奨処置: ステージング場所にアクセスするための十分な権限がユーザーに付与され、ターゲットホストのステージング場所が存在することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2342

メッセージ: ユーザーに root 権限または管理者権限が付与されていません。(The user does not have root or administrator privileges.) ファイルとフォルダをリストアするには、ユーザーに root 権限または管理者権限を付与します。

説明: ターゲットホストでリストアを続行するために必要な権限がユーザーに付与されていません。

推奨処置: 指定されたクレデンシャルには、ターゲットホストでファイルまたはフォルダのエージェントレスリストアを実行するために必要な権限がありません。Windows の場合、ターゲットホストのローカル管理者グループに属するクレデンシャルを使用する必要があります。UNIX ターゲットホストの場合、ALL 権限を持つ root または sudo アカウントであるクレデンシャルを使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2343

メッセージ: リカバリホストからターゲットホストの管理共有にアクセスできません。(The administrator share of the target host is not accessible from the recovery host.)

説明: エージェントレスリストアを実行するために、リカバリホストからターゲットホストの管理共有にアクセスできません。次の理由により、ターゲットホストにアクセスできない可能性があります。

- ファイアウォールの例外が正しく設定されていない。
- ファイルとプリンタの共有が無効になっている。
- GPO/ソフトウェア制限ポリシーまたはウイルス対策ソフトウェアによってアクセスが遮断されています。
- ターゲットホストがアクセス可能であることをチェックして、クレデンシャルを確認します。

推奨処置: このエラーは通常、エージェントレスリストアのターゲットホストで Windows OS が使用されているときに発生します。次の項目がターゲットホストで正しく設定されていることを確認します。

- ファイアウォールの例外が正しく設定されている。
- ファイルとプリンタの共有が有効になっている。
- GPO/ソフトウェア制限ポリシーまたはウイルス対策ソフトウェアによってアクセスが遮断されていない。

- 有効なクレデンシャルでターゲットホストにアクセスできる。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2344

メッセージ: 指定されたクレデンシャルはローカル管理者ユーザー用です。(The provided credentials are for a local administrator user.)

説明: 指定されたクレデンシャルはローカル管理者ユーザー用です。管理者グループのドメインユーザーのクレデンシャルを指定するか、ターゲットホストで UAC を無効にする必要があります。

推奨処置: UAC (ユーザーアクセス制御) 環境でのエージェントレスリストアの場合、ドメインユーザーのクレデンシャルを指定する必要があります。Windows のターゲットホストでは、ローカル管理者グループに属するドメインユーザーを使用する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2345

メッセージ: エージェントレスリストアを実行できません。(Agentless restore is not possible.)

説明: NetBackup で予期しないエージェントレスリストアエラーが発生しました。

推奨処置: エージェントレスファイルまたはフォルダのリストアは、予期しない理由により失敗しました。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2346

メッセージ: オペレーティングシステムが一致しません。リカバリホストのオペレーティングシステムとバックアップされた VM のオペレーティングシステムが一致していることを確認してください。(Operating systems do not match. Ensure that the operating system of recovery host matches with the backed-up VM operating system.)

説明: エージェントレスリストアは、リカバリホストとバックアップされた VM のオペレーティングシステムが同じ場合にのみ可能です。

推奨処置: バックアップされた VM とオペレーティングシステムが同じである代替リカバリホストを使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2347

メッセージ: バックアップイメージのオペレーティングシステムの取得に失敗しました。(Failed to retrieve the backup image operating system.)

説明: エージェントレスリストアを実行するためのバックアップイメージのオペレーティングシステムを取得できません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2348

メッセージ:リカバリホストのオペレーティングシステムは、指定した通信モードとの互換性がありません。(Recovery host operating system is not compatible with the provided communication mode.)

説明: エージェントレスリカバリまたはリカバリ前チェック要求で指定されたリカバリホストの OS の種類と通信の種類に互換性がありません。

推奨処置: リカバリホストの OS の種類と通信の種類に互換性がある必要があります。リカバリホストが UNIX OS の場合、通信の種類は SSH である必要があります。リカバリホストが Windows OS の場合、通信の種類は WMI である必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2349

メッセージ: ターゲットホストの SSH 秘密鍵が無効です。(Target host SSH private key is invalid.)

説明: エージェントレスリカバリまたはリカバリ前チェック要求の「`sshKey`」フィールドには有効な値を指定する必要があり、空欄にはできません。

推奨処置: 認証形式が `SSH_KEY` の場合は「`sshKey`」フィールドが指定され、空欄ではないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2351

メッセージ: サービスの操作の構成に無効な入力を受信しました。(Invalid input received for configuring the service operation.)

説明: CDP サービス操作の入力 JSON の解析中に、予期しないエラーが発生しました。

推奨処置: API に渡された入力 JSON が、API の仕様に合った正しいものであることを確認します。詳しくは `nbwebservice` のログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2352

メッセージ: 指定されたサービスの操作に対する応答の生成に失敗しました。(Failed to generate response for the specified service operation.)

説明: 操作の実行中に予想外のエラーが報告されたときに、内部エラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは `bpVMutil` ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2353

メッセージ: サービスの操作でシステムコールの実行に失敗しました。(System call execution fails for the service operation.)

説明: NetBackup がシステムコールの実行を試み、その呼び出しが失敗しました。

推奨処置: `bpVMutil` ログを確認して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2354

メッセージ: サービスの操作の要求を処理中に不明なエラーが発生しました。

説明: 操作の実行中に予想外のエラーが報告されたときに、内部エラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2355

メッセージ: 指定されたホストで nbcctd を開始できませんでした。(Failed to start nbcctd for the specified host.)

説明: この問題は、bpVMutil が CDP ゲートウェイで nbcctd サービスの起動を試みると発生します。

推奨処置: bpVMutil ログでエラーを確認して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2356

メッセージ: 指定されたディレクトリパスは存在しません。(The specified directory path does not exist.)

説明: CDP ゲートウェイの構成要求で指定されているステージングディレクトリが存在しません。

推奨処置: CDP ゲートウェイの構成要求で指定されているステージングディレクトリパスが、CDP ゲートウェイに存在することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2357

メッセージ: SQLite データベースエラーが発生しました。(SQLite database error occurred.)

説明: 操作の実行中に予想外のエラーが報告されたときに、内部エラーが発生しました。nbcctd サービスは、SQLite を内部データベースとして使用します。

推奨処置: ステージング領域のファイルシステム IO を確認します。また、並列 CDP 操作がある場合は、その数を最小限に抑えるようにします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2358

メッセージ: 指定されたステージングサイズの検証に失敗しました。(The specified staging size validation failed.)

説明: CDP ゲートウェイの追加時に、ステージング場所に十分な領域が割り当てられませんでした。

推奨処置: API で指定された内容に応じて、ステージングディレクトリのサイズを増やす必要があります。ステージングディレクトリのサイズは 100 GB 未満である必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2359

メッセージ: 指定された仮想マシンをバックアップホストに登録できませんでした。(Failed to register the specified virtual machine to the backup host.)

説明: この問題は不明な、または処理されていないエラーが発生した場合に発生します。

推奨処置: 詳しくは、次のログを参照してください。

- マスターサーバー上の `nbwebservice` ログ。
- CDP ゲートウェイの `bpVMutil` ログと `nbcctd` ログ

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2360

メッセージ: サービス構成の事前チェックの条件を満たしていません。(Service configuration pre-checks are not met.)

説明: この問題は、次の状況で発生します。

- CDP ゲートウェイのステージングディレクトリで十分な領域が利用可能になっていません。ゲートウェイのステージング領域には、最小で 100 GB が必要です。
- メモリサイズの検証が失敗したため、CDP ゲートウェイサービスの開始に失敗しました。CDP ホストの最小メモリは 4 GB である必要があります。
- MSDP が同じ CDP ホストで構成されているかどうかの確認に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ステージングデータベースのサイズを 100 GB より大きくします。
- 4 GB を超えるようにメモリを増やします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2361

メッセージ: 指定されたバックアップホストの構成に失敗しました。(Failed to configure the specified backup host.)

説明: この問題は、要求が CDP ゲートウェイに送信されて bprd との通信が失敗した場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- すべての NetBackup プロセスが実行中かを確認します。
- 指定した CDP ゲートウェイが正しく、到達可能かを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2362

メッセージ: サービス構成の取得に失敗しました。(Failed to retrieve the service configuration.)

説明: この問題は、次の状況で発生します。

- 指定したパスに構成ファイルが見つかりません。
- 構成ファイルを読み込めません。

推奨処置: /usr/openv/netbackup/nbcct/nbcct.conf ファイルが存在し、nbcctd サービスからアクセス可能なことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2363

メッセージ: サービス構成の削除に失敗しました。(Failed to remove the service configuration.)

説明: 次のような状況で発生します。

- CDP サービス構成の削除に失敗しました。
- システムエラーのため設定データベースファイルの削除に失敗しました。システムエラーの例には、ファイルが使用されている、またはファイルがロックされているなどの場合があります。
- ファイルシステムの問題のため、CDP サービス構成ファイルの削除に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ファイルのリンク解除が失敗した理由を確認します。
- NBCCTD サービスが実行中です。サービスを停止します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2364

メッセージ: サービスの停止に失敗しました。(Failed to stop the service.)

説明: nbcctd サービスの停止に失敗した場合に発生します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- nbcctd プロセスの状態を確認します。
- nbcctd サービスを手動で停止します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2365

メッセージ: 水準点の検証に失敗しました。(Watermark(s) validation failed.)

説明: この問題は、次の状況で発生します。< 高水準点

- 低水準点の値が 0 から 99 の範囲内にありません。
- 高水準点の値が 1 から 100 の範囲内にありません。
- 低水準点が高水準点より大きくなっています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. 低水準点と高水準点に指定した値を確認します。
2. 指定した範囲の値を指定します。
   - 低水準点 - (0-99)
   - 高水準点 - (1-100)
   - 低水準点の値が高水準点の値より低いことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2367

メッセージ: 指定されたホストに有効な構成がすでに存在します。(The specified host already has an active configuration.)

説明: この問題は、現在構成されている CDP ゲートウェイを構成しようとするときに発生します。

推奨処置: 現在構成されている CDP ゲートウェイを削除し、新しいゲートウェイを構成します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2368

メッセージ: この VM のホストは実行状態ではありません。(The host of this VM is not in running state.)

説明: この問題は、実行中ではない VM をサブスクライブしようとするときに発生します。

推奨処置: VM をオンにし、手動で実行状態にします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2369

メッセージ: 指定された VM をバックアップホストから登録解除できませんでした。(Failed to unregister the specified VM from the backup host.)

説明: `IOTAPPING` の VM を登録解除中にエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、CDP ゲートウェイの `bpVMutil` ログと `nbcctd` ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2370

メッセージ: CDP が有効な別のバックアップがこの VM で実行中です。(Another CDP enabled backup is running for this VM.)

説明: 同じクライアントに対する同時 CDP バックアップジョブはサポートされません。並列実行ジョブが検出された場合、以降のバックアップジョブは失敗します。

推奨処置: 同じ VM に対して並列実行ジョブが実行されていない場合、スケジュール設定されたジョブまたは手動でトリガされたジョブは成功します。ジョブが失敗し続ける場合は、バックアップスケジュールを確認し、この VM の並列実行ジョブを削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2372

メッセージ: 同じ VM でのみ CDP ポリシーを更新できます。(You can update CDP policy only with the same VM.)

説明: この問題は、ポリシー更新要求にインスタンス UUID の不一致がある場合に発生します。

推奨処置: ポリシーの更新要求の UUID に正しいインスタンスを指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2373

メッセージ: ステージングディレクトリは空ではありません。(Staging directory is not empty.)

説明: CDP ゲートウェイの構成要求で指定されているステージングディレクトリは空である必要があります。

推奨処置: CDP の構成要求で指定されているステージングディレクトリのパスが空になっていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2374

メッセージ: NetBackup アクセラレータが CDP ポリシーで有効になっている必要があります。(NetBackup Accelerator must be enabled for CDP policies.)

説明: CDP ポリシーはアクセラレータが有効になっているバックアップのみをサポートします。有効でない場合、ポリシーの作成は失敗します。

推奨処置: ポリシーのアクセラレータオプションを有効にします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2375

メッセージ: インテリジェントポリシーが CDP ポリシーでサポートされていません。(Intelligent policy is not supported for CDP policies.)

説明: CDP は VMware インテリジェントポリシーをサポートしていません。

推奨処置: CDP が含まれないように VMware ポリシーを変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2376

メッセージ: CDP ポリシーではバックアップ対象として複数の VM を選択できません。(You cannot select multiple VMs for backup in CDP policies.)

説明: CDP ポリシーのバックアップ対象では、複数の VM は許可されません。

推奨処置: CDP ポリシー作成要求で単一の VM を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2377

メッセージ: この VM はすでに別のポリシーにサブスクライブされています。(The VM is already subscribed to another policy.)

説明: 2 つの異なる CDP ポリシーによって単一の VM を同時に保護することはできません。

推奨処置: VM を現在の CDP 保護計画からサブスクライブ解除し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2378

メッセージ: 指定された CDP ホスト構成の削除に失敗しました。(Failed to remove the specified CDP host configuration.)

説明: ゲートウェイに関連付けられている保護計画に有効なポリシーがある場合は、CDP ゲートウェイを削除できません。

推奨処置: CDP ゲートウェイを使用しているすべての保護計画から CDP ゲートウェイのサブスクライブを解除し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2379

メッセージ: メモリサイズの検証が失敗したため、CDP ゲートウェイサービスの開始に失敗しました。(Failed to start the CDP gateway service because the memory size validation failed.)

説明: CDP の構成時、CDP ゲートウェイホストのメモリが 4 GB 未満でした。

推奨処置: CDP ホストメモリのサイズを 4 GB より大きくなるように増やします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2380

メッセージ: CDP ゲートウェイサービスの開始に失敗しました。(Failed to start the CDP gateway service.)

説明: CDP の構成時に CCT_POOL_SIZE_QUOTA_PERCENTAGE から計算されたプールサイズが 1 GB 未満の場合、CDP ゲートウェイは起動に失敗します。

推奨処置: nbcct.conf ファイルの CCT_POOL_SIZE_QUOTA_PERCENTAGE の値を確認し、CCT_POOL_SIZE_QUOTA_PERCENTAGE を 1 GB を超えるように増やします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2381

メッセージ: CDP ポリシーでは完全バックアップスケジュールのみがサポートされています。(Only full backup schedule is supported for CDP policies.)

説明: CDP ポリシーに、サポートされていないスケジュール形式が含まれています。CDP ポリシーでは完全バックアップスケジュールのみがサポートされています。

推奨処置: ポリシー作成ペイロードから完全以外のバックアップスケジュールを削除し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2382

メッセージ: 継続的なデータ保護ゲートウェイのステージングパスで、利用可能な領域が不足しています。(Insufficient space available on the staging path for the CDP gateway.)

説明: CDP ゲートウェイのステージングディレクトリで十分な領域が利用可能になっていません。

推奨処置: ステージングディレクトリのサイズを 100 GB 以上に増やします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2383

メッセージ: 指定したホストに対して、NBCCTD が停止しています。(NBCCTD is down for the specified host.)

説明: 指定された CDP ゲートウェイで NBCCTD サービスが実行されていません。

推奨処置: CDP ゲートウェイで NBCCTD サービスが実行されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2384

メッセージ: ストレージパスにサポート対象のファイルシステムがありません。(Storage path does not have a supported filesystem.)

説明: 提供されたステージング領域のパスのファイルシステムはサポートされません。

推奨処置: サポートされているファイルシステムタイプ (XFS、EXT3、EXT4、NFS、VxFS) を使用して、ステージングパスをルート以外のファイルシステムに変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2385

メッセージ: 指定したパスはルートファイルシステムを示しています。(Provided path is to the root file system.) ルートではないファイルシステム上の CDP ステージング領域のパスを指定してください。

説明: 指定したステージングパスはルートファイルシステムへのパスです。

推奨処置: ステージングディレクトリパスをルート以外のファイルシステムに変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2386

メッセージ: 指定されたステージング領域のパスにマウントポイントが見つかりません。(No mount point found for the provided staging area path.)

説明: ホスト上にマウントポイントが見つかりません。

推奨処置: ステージングパスを、有効なマウントポイントを持つルート以外のファイルシステムに変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2387

メッセージ: CDP ポリシーに対する、アクセラレータ強制再スキャンのプロパティを更新できません。(Cannot update accelerator forced rescan property, for the CDP policy.)

説明: この問題は、ポリシーの作成後に CDP ポリシーのアクセラレータ強制再スキャン属性が更新された場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- CDP ポリシーのスケジュールのアクセラレータ強制再スキャン属性の更新は許可されません。
- 更新 (PUT) API を使用して現在のスケジュールを削除し、設定するアクセラレータ強制再スキャン属性値を使用して新しいスケジュールを作成します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2388

メッセージ: 継続的なデータ保護ポリシーでは、アクセラレータ強制再スキャンのスケジュールは 1 つのみサポートされます。(Only one accelerator force rescan schedule is supported for continuous data protection policies.)

説明: CDP ポリシーが作成されると、acceleratorForcedRescan が TRUE に設定されたスケジュールが複数含まれるようになります。acceleratorForcedRescan が有効なスケジュールは 1 つだけサポートされます。

推奨処置: acceleratorForcedRescan が有効になっている余分なスケジュールがある場合は削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2389

メッセージ: 継続的なデータ保護ポリシーでは、アクセラレータ強制再スキャンのスケジュールが 1 つのみ、およびアクセラレータ強制再スキャンのない完全バックアップスケジュールが少なくとも 1 つ必要です。(Only one accelerator force rescan schedule, and at least one full backup schedule with no accelerator force rescan, are required for Continuous data protection policies.)

説明: このエラーは、次の要件を満たしていない場合に CDP ポリシーが作成されると発生します。

- アクセラレータ強制再スキャンスケジュールは 1 つのみである必要があります。
- 少なくとも 1 つの通常の完全バックアップスケジュールが必要です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- acceleratorForcedRescan が有効になっている余分なスケジュールがある場合は削除します。
- CDP ポリシーに少なくとも 1 つの通常の完全バックアップスケジュールを追加します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2390

メッセージ: 無効なバックアップホストです。(Invalid backup host.)

説明: 指定されたバックアップホストが無効です。

推奨処置: 正しいバックアップホストまたは到達可能なバックアップホストを指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2391

メッセージ: VM をサブスクライブできません。(Cannot subscribe the VM.) ステージング領域に利用可能な領域がありません。(No space available in the staging area.)

説明: VM サブスクリプションが開始され、サブスクライブする VM に利用可能な VM クォータがありません。

推奨処置: VM を別のゲートウェイにサブスクライブします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2392

メッセージ: VM をサブスクライブできません。(Cannot subscribe the VM.) 利用可能なメモリが不足しています。(Insufficient memory available.)

説明: VM をサービスするのに利用可能なメモリが十分ではありません。

推奨処置: VM を別のゲートウェイにサブスクライブします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2393

メッセージ: CDP ホストの nbcctd サービスユーザーに、ステージングディレクトリに対する十分な権限がありません。

説明: nbcctd ユーザーに、ステージングディレクトリに対する読み取り権限と書き込み権限が付与されていません。

推奨処置: nbcctdユーザーには、ステージングディレクトリにアクセスするために十分な権限を付与する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2395

メッセージ: CDP 構成で VM クォータのサイズ (GB) の検証に失敗しました。

説明: このエラーは、CDP ホスト構成の VM クォータのサイズが VM クォータのサイズの範囲内にない場合に発生します。VM クォータのサイズ (GB) の値が推奨制限値の 10 GB から 1024 GB の範囲内にありません。

推奨処置: 10 GB から 1024 GB の範囲内の VM クォータのサイズ (GB) の値を入力する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2396

メッセージ: CDP 構成で VM クォータの予約割合の検証に失敗しました。

説明: このエラーは、CDP ホスト構成の VM の予約割合が、VM の予約割合の制限範囲内にない場合に発生します。VM クォータの予約割合の値が、推奨制限値の 25 から 50 の範囲内にありません。

推奨処置: VM クォータの予約割合には、25 から 50 の範囲内の値を入力する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2397

メッセージ: CDP 構成で最大完全同期の検証に失敗しました。

説明: このエラーは、CDP ホスト構成の最大完全同期が、最大完全同期の制限範囲内にない場合に発生します。最大完全同期の値が、推奨制限値の 2 から 25 の範囲内にありません。

推奨処置: 最大完全同期には、2 から 25 の範囲内の値を入力する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2398

メッセージ: CDP 構成が原因で VM クォータのサイズ (GB) 検証に失敗しました。VM クォータのサイズ (GB) はステージング領域より小さい必要があります。

説明: このエラーは、CDP ホスト構成で、ステージング領域のサイズよりも VM クォータのサイズ (GB) の方が大きい場合に発生します。

推奨処置: ステージング領域のサイズより小さい VM クォータのサイズ (GB) の値を入力する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2399

メッセージ: CDP サービス構成は正常に完了しましたが、CDP ゲートウェイの `bp.conf` ファイルに CDP ホスト構成のエントリを追加できませんでした。

説明: この問題は、`bp.conf` ファイルに次の問題がある場合に発生する可能性があります。

- ファイルが *`install_path`*`/openv/netbackup` にない
- ファイルが破損している
- NetBackup サービスユーザーにファイルを編集する権限がない

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- `bp.conf` ファイルが *`install_path`*`/openv/netbackup` にあり、サービスユーザーに変更する権限があることを確認します。
- `CCT_IS_HOST_CONFIGURED=YES` エントリを手動で追加し、構成操作を再試行することもできます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2400

メッセージ: CDP 構成の移行が完了していません。まず、CDP サービスを手動で開始し、移行を完了してください。

説明: この問題は、`nbcctd` デーモンのアップグレードが進行中で、サービスの再起動が要求された場合に発生する可能性があります。

推奨処置: まず、CDP サービスを手動で開始してから移行 (アップグレード) を完了してください。次に、必要に応じて構成の更新操作を試します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2401

メッセージ: プライマリサーバーまたは CDP ゲートウェイのバックエンドサービスに接続できません。

説明: このエラーは、メディアサーバー (CDP ゲートウェイ) の NetBackup サービスが実行されていないか、プライマリサーバーで bprd が実行されていないことを示しています。

推奨処置: bp.start_all を使用して、CDP ゲートウェイとプライマリサーバーでサービスを起動します。また、プライマリサーバーと CDP ゲートウェイ間にネットワーク接続があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2402

メッセージ: 内部エラーが発生したため、要求された CDP 操作を実行できませんでした。

説明: このエラーは、操作中に内部エラーが発生したことを示しています。

推奨処置: nbwebservice、bprd、bpVMutil、nbcctd のログで詳細を確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2450

メッセージ: ファイルまたはフォルダのエージェントレスリストアでターゲットホストオペレーティングシステムがサポートされていません。(Target host operating system is not supported for the agentless files or folders restore.)

説明: ターゲットホストオペレーティングシステムがサポートされません。エージェントレスリストアでは、リカバリパッケージをターゲットホストに配備する必要があります。

推奨処置: SUSE Linux Enterprise Server、Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) がサポート対象のプラットフォームです。エージェントレスリストアでサポートされるプラットフォームについては、NetBackup クライアントの互換性リストを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2451

メッセージ: ターゲットホストのユーザー名またはパスワードが無効です。(Invalid target host user name or password.)

説明: エージェントレスリカバリまたはリカバリ前チェック要求の認証の詳細で、ユーザー名とパスワードのフィールドを指定する必要があります。

推奨処置: エージェントレスリカバリまたはリカバリ前チェック要求の認証の詳細で、ユーザー名とパスワードのフィールドが指定され、空欄ではないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2504

メッセージ: ミラーコピーの直接の期限切れは使用できません (Direct expiration of a mirror copy is not allowed)

説明: ミラーコピーは単独で期限切れにできません。ミラーコピーは親コピーが期限切れになると期限切れになります。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2505

メッセージ: データベースに接続できません。

説明: バックアップジョブがアクティブになってバックアップリソースを割り当てますが、次のようなエラーで失敗し、ジョブの詳細に報告されることがあります。

```
Error bpbrm(pid=27145) db_FLISTsend failed: Unable to connect
to the database (2505)
```

さらに、bptm プロセスが次のエラーを報告する場合があります。

```
Warning bptm(pid=27162) cannot update image database to add
completed fragment, error = Unable to connect to the database
Info bptm(pid=27162) EXITING with status 252 <----------
```

このエラーは、カーネル内にセマフォのチューニングがないことが原因で発生する場合があります。このエラーは NetBackup では解決できません。

推奨処置: このケースでは、semmni 値は 128 では不十分でした。この値を 1024 に増やすことで、ODBC 接続は成功し、NetBackup は正常に実行されました。これは他のプラットフォームに影響を及ぼす可能性があるものの、このエラーはさまざまな RHEL

(RedHat Enterprise Linux) 環境で見られます (通常は、RHEL システムが NetBackup マスターサーバーである場合)。NetBackup のすべてのサポート対象バージョンは、この環境に起因する問題の影響を受ける可能性があります。一般的な推奨事項については、次の場所にある NetBackup UNIX / Linux セマフォのチューニング推奨値 (Linux、Solaris、HP-UX、AIX) に関する記事や、プラットフォームベンダーのサポート情報を参照してください。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100023842

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2517

メッセージ: バックアップセットの識別子には a-z、A-Z、0-9、および特殊文字 .-+_ のみを使うことができます (Backup set identifier may only contain a-z, A-Z, 0-9 and .-+_)

説明: Oracle のバックアップセットの識別子 (TAG) には、a-z、A-Z、0-9、および次の特殊文字 .-+_ が含まれます。

推奨処置: バックアップセットの識別子から無効な文字を削除します。この値は、GUI ポリシーユーティリティの［属性 (Attributes)］タブで指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2520

メッセージ: 別のカタログバックアップが実行中であるため、現在のカタログバックアップをトリガできません。(The current catalog backup cannot be triggered as another catalog backup is in progress.)

説明: 別のカタログバックアップが実行中です。

推奨処置: 実行中のカタログバックアップが終了するまで待機します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2521

メッセージ: データファイルコピータグには a-z、A-Z、0-9 .-+_ のみを含めることができます (Datafile copy tag may only contain a-z, A-Z, 0-9 and .-+_)

説明: データファイルコピータグに、a-z、A-Z、0-9、.-+_ 以外の無効な文字が含まれています。

推奨処置: データファイルコピータグから無効な文字を削除してください。この値は、GUI ポリシーユーティリティの［Oracle］タブで指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:2522

メッセージ: Oracle ポリシーには、FRA バックアップを使用したプラグ可能なデータベースを含めることはできません。

説明: NetBackup は Oracle 12c のプラグ可能なデータベースで FRA をサポートしません。

推奨処置: Oracle インテリジェントポリシーを確認します。ポリシーに選択したインスタンスとデータベースの保護があり、プラグ可能なデータベースが含まれている場合は、バックアップ対象を[高速リカバリ領域 (FRA) (Fast Recovery Area (FRA))]にすることはできません。異なるバックアップ対象を選択するか、Oracle 12c インスタンスと[高速リカバリ領域 (FRA) (Fast Recovery Area (FRA))]を選択できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2523

メッセージ: NetBackup 構成へのクライアントの追加に失敗しました。

説明: クライアントが構成に追加された時点で、内部エラーが発生しました。この種類のエラーは、ドメイン名の変更後に発生する場合があります。

推奨処置: `nbemm` と `bpdbm` のログを保存し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2524

メッセージ: ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズが設定されていないため、カタログのバックアップが失敗しました。

説明: カタログのバックアップ時に、ディザスタリカバリパッケージが作成されます。NetBackup では、ディザスタリカバリパッケージの作成時にパスフレーズが必要です。パスフレーズが設定されていない場合、カタログのバックアップは失敗します。

推奨処置: ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定するには、次のいずれかの操作を行います。

- NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ設定 (Global Security Settings)]の順に展開します。[ディザスタリカバリ (Disaster Recovery)]タブで、パスフレーズを設定します。

- nbseccmd -drpkgpassphrase コマンドを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2525

メッセージ: ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズが設定されていません。カタログのバックアップを正常に実行するには、パスフレーズを設定する必要があります。

説明: カタログのバックアップ時に、ディザスタリカバリパッケージが作成されます。NetBackup では、ディザスタリカバリパッケージの作成時にパスフレーズが必要です。パスフレーズが前に設定されていない場合、カタログのバックアップは失敗します。

カタログバックアップポリシーの構成時にエラーメッセージが表示されます。カタログバックアップポリシーを構成する前に、パスフレーズを設定する必要があります。

推奨処置: ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定するには、次のいずれかの操作を行います。

- NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ設定 (Global Security Settings)]の順に展開します。[ディザスタリカバリ (Disaster Recovery)]タブで、パスフレーズを設定します。
- nbseccmd -drpkgpassphrase コマンドを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2526

メッセージ: カタログバックアップ中は Windows 証明書ストアからマスターサーバー証明書のバックアップを作成できません。(The master server certificate cannot be backed up from Windows Certificate Store during catalog backup.)

説明: 次のいずれかの理由で、マスターサーバーの証明書を Windows 証明書ストアからバックアップできません。

- ECA_DR_BKUP_WIN_CERT_STORE 構成オプション (Windows レジストリから) が NO に設定されています。
- マスターサーバーの証明書ファイルの秘密鍵がエクスポート可能としてマークされていません。

推奨処置: 問題を解決するため、次を確認してください。

- マスターサーバーの証明書ファイルの秘密鍵が、Windows 証明書ストアに格納するときにエクスポート可能としてマークされていること。

- 証明書がファイルシステムでファイルとして利用可能であり、ECA_CERT_PATH、ECA_TRUST_STORE_PATH、ECA_PRIVATE_KEY_PATH の各構成オプションが適切な値に設定されていること。NetBackup 構成オプションについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2527

メッセージ: 保護計画で管理するテンプレートの変更は許可されません。(Changes are not allowed for a template that a protection plan manages.)

説明: テンプレートポリシーは、保護計画で使用される内部 NetBackup リソースです。ユーザーはテンプレートを直接修正することはできません。

推奨処置: 保護計画の更新または削除には NetBackup Web UI を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2528

メッセージ: 保護計画で管理する SLP の変更は許可されません。(Changes are not allowed for an SLP that a protection plan manages.)

説明: 指定されたストレージライフサイクルポリシー (SLP) は、保護計画で使用される内部 NetBackup リソースです。ユーザーは SLP を直接修正することはできません。

推奨処置: 保護計画の更新または削除には NetBackup Web UI を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2531

メッセージ: ディザスタリカバリパッケージが正常に作成されました。ただし、パッケージ内の ID ファイルに対する権限を持つ 1 人以上のユーザーがシステムに存在しません。(The disaster recovery package was successfully created. However, one or more users who have permissions to the identity files from the package do not exist on the system.)

説明: 現在ホストに存在しないユーザーを含む 1 つ以上の ID ファイルがディザスタリカバリパッケージに含まれています。このようなユーザーは、過去のホストから削除される可能性があるセキュリティ識別子 (SID) の形式の場合があります。

推奨処置: これらの存在しないユーザーのアクセス制御リスト (ACL) が必要かどうかを判断します。NetBackup を新しくインストールしたホスト上の同じ ID ファイルの ACL を

確認して比較します。これらのユーザーが ID ファイルに対する権限を持つ必要がない場合は、関連付けられている ID ファイルの ACL を削除します。

操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2532

メッセージ: スケジュールのコピーに、異なるメディアサーバーからのストレージユニットがあります。(Schedule copies have storage units from different media servers.)

説明: 複数のコピーで構成されるポリシースケジュールに、異なるメディアサーバーのストレージユニットを含めることはできません。

推奨処置: 複数のコピーをスケジュールに使用する場合は、各スケジュールに割り当てられたストレージユニットが同じメディアサーバーに存在することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2547

メッセージ: 増分バックアップの最大ストリーム数は、最後の完全バックアップの最大ストリーム数と一致している必要があります。(The maximum number of streams for the incremental backup should match that of the last full backup.)

説明: 増分バックアップと最後の完全バックアップとで最大ストリーム数のオプション値が一致していません。このエラーは、ポリシーで[最大ストリーム数 (Maximum number of streams)]オプションを変更し、完全バックアップを実行する前に増分バックアップジョブを実行した場合に発生します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- 増分バックアップと完全バックアップの最大ストリーム数のオプションが同じ値に設定されていることを確認します。問題が解決しない場合は、完全バックアップを実行してから、増分バックアップジョブを実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2549

メッセージ: カタログバックアップ構成は変更されています。(The catalog backup configuration is modified.)

説明: カタログバックアップ構成が変更されていると、増分カタログバックアップジョブを実行する前に、完全カタログバックアップを実行する必要があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ［複数のデータストリームを許可する (Allow multiple data streams)］および［最大ストリーム数 (Maximum number of streams)］オプションが適切に設定されていることを確認します。問題が解決しない場合は、増分カタログバックアップジョブを実行する前に、完全カタログバックアップを実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2607

メッセージ: サーバー情報を使用できません。(Server information is not available.)

説明: このエラーは、NetBackup クライアントコンピュータに MySQL サーバーがない場合に発生します。

推奨処置: MySQL のインストール環境が存在し、サービスが起動していることを確認します。

Cohesity Technical Supportに問い合わせる場合は、NetBackup クライアントホストにある `ncfnbcs` ログが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2610

メッセージ: MySQL ライフラリパスが、バックアップ対象と環境変数に存在しません。(MySQL library path is not present in Backup Selection as well as environment variables.)

説明: MySQL ライブラリパスが環境変数で設定されていない場合、このエラーが発生する可能性があります。

推奨処置: 環境変数の `LIB_MYSQL_CLIENT` パスとパス変数を Windows と Linux 用にそれぞれ設定します。また、MySQL クライアントライブラリのシンボリックリンクが同じ `LIB_MYSQL_CLIENT` ディレクトリに正しく作成されていることを確認してください。

Cohesity Technical Supportに問い合わせる場合は、NetBackup クライアントホストにある `ncfnbcs` ログと `bphdb` ログが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2611

メッセージ: MySQL バックアップダンプのデータベース名が見つかりません。(Database name was not found for the MySQL backup dump.)

説明: このエラーは、バックアップするデータベースの保護計画が正しく接続されていない場合に発生します。

推奨処置: 保護計画がバックアップ対象のデータベースに正しく接続されていることを確認します。

Cohesity Technical Supportに問い合わせる場合は、NetBackup クライアントホストにある `ncfnbcs` ログと `bphdb` ログが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2612

メッセージ: 無効なライブラリパスが MySQL バックアップに指定されています。(Invalid library path was given for MySQL backup.)

説明: このエラーは、MySQL ライブラリパスが環境変数に設定されておらず、MySQL クライアントライブラリのシンボリックリンクが存在しない場合に発生します。

推奨処置: 環境変数の `LIB_MYSQL_CLIENT` パスとパス変数を Windows と Linux 用にそれぞれ設定します。また、MySQL クライアントライブラリのシンボリックリンクが同じ `LIB_MYSQL_CLIENT` ディレクトリに正しく作成されていることを確認してください。

Cohesity Technical Supportに問い合わせる場合は、NetBackup クライアントホストにある `ncfnbcs` ログと `bphdb` ログが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2613

メッセージ: MySQL クレデンシャルを取得できません。(Unable to obtain MySQL credentials.)

説明: このエラーは、バックアップするデータベースのクレデンシャルが無効な場合に発生します。

推奨処置: 特定のクレデンシャルが正しいことを確認します。

Cohesity Technical Supportに問い合わせる場合は、NetBackup クライアントホストにある `bphdb` ログが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2800

メッセージ: 標準ポリシーリストアエラー (Standard policy restore error)

説明: リストア操作ファイルの一部または全部が失敗しました。スナップショットクライアントのリストアを実行するときに、ポリシーの[バックアップ対象 (Backup Selections)]リストから誤ったパスを選択した可能性があります。

たとえば、vol6 は /mnt/vol6、vol7 は/mnt/vol7 にマウントされています。これらのマウントポイントは、バックアップ対象に指定します。親ディレクトリ (/mnt) のみを選択した場合、リストアは状態コード 2800 で失敗します。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- 次のログで追加のエラー情報がないか調べます。
  - NetBackup の tar ログ
  - マスターサーバー: bprd、nbjm
  - メディアサーバー: bpbrm、bptm、bpdm
  - クライアント: tar
- リストアに必要なメディアサーバーがあることを確認します。または、[メディアホストの上書き (Media Host Override)]オプションを使います。
- リストアに必要なメディアがあること、そしてロボットにインベントリを実行していることを確認します。
- メディアサーバーとクライアントの間にネットワーク上の問題がないことを確認します。
- [バックアップ対象 (Backup Selections)]タブに表示されている元のパスを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2801

メッセージ: Oracle ポリシーリストアエラー (Oracle policy restore error)

説明: エラーにより、Oracle データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストアする Oracle インスタンスの所有権と権限を確認します。
- NetBackup の `dbclient` と `user_ops` ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- RMAN を使用している代替クライアントに復元する場合、次の技術文書でより多くの情報を利用できます。
  https://support.cohesity.com/s/article/article-100022605
  `bpclntcmd -pn` コマンドを使用して、クライアントの Oracle ユーザーがマスターサーバーと正常に通信できることを確認します。
- `bplist` コマンドを使用して、クライアントの Oracle ユーザーがマスターのバックアップイメージを参照できることを確認します。
- UNIX ホストと Linux ホストについては、Oracle ユーザーが `/etc/services`、`/etc/nsswitch.conf`、`/usr/openv/netbackup/bp.conf`を読み込む十分な権限を持っていることを確認してください。
- 『NetBackup for Oracle 管理者ガイド』に従って、Oracle データベースが正しくリンクされていることを確認します (たとえば、`$ORACLE_HOME/lib/libobk.so`)。
  詳細情報は次の技術情報の記事に記載しています。
  https://support.cohesity.com/s/article/article-100021454
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2802

メッセージ: Informix-On-BAR ポリシーリストアエラー (Informix-On-BAR policy restore error)

説明: エラーにより、Informix データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。

- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストアする Informix インスタンスに対する所有権および権限を確認します。
- クライアントの NetBackup の `infxbsa` および `user_ops` ログとマスターサーバーの `bprd` ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- Informix の BAR_ACT_LOG、BAR_DEBUG_LOG および MSGPATH ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- 大規模なデータベースリストアの場合は、クライアントの読み込みタイムアウト値を増加させる必要があることもあります。
- 代替クライアントへリストアする場合は、次の記事にあるチェックリストを見直します。
  https://support.cohesity.com/s/article/article-100010442
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2803

メッセージ**:** Sybase ポリシーリストアエラー (Sybase policy restore error)

説明**:** エラーにより、Sybase データのリストアに失敗しました。

推奨処置**:** 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストア対象の Sybase インスタンスと、ファイルをリストアするディレクトリに対する所有権と権限を確認してください。
- NetBackup の `sybackup` ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 次のログフォルダを作成し、リストアを再試行します。
  クライアント上:

```
/usr/openv/netbackup/logs/bphdb
/usr/openv/netbackup/logs/bprestore
```

```
/usr/openv/netbackup/logs/tar
/usr/openv/netbackup/logs/sybackup
```

メディアサーバー上:

```
/usr/openv/netbackup/logs/bptm
/usr/openv/netbackup/logs/bpbrm
```

マスターサーバー上:

```
/usr/openv/netbackup/logs/bprd
```

- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

UNIX クライアントと Linux クライアントでデバッグレベルを設定するには、bp.conf ファイルに次の行を入力します。

```
VERBOSE = 5
```

Sybase の代替クライアントのリストアでは、リストアしたい Sybase のバックアップサーバーのユーザー ID (UID) はコピー元ホストの Sybase バックアップサーバーの UID と一致する必要があります。

代替クライアントのリストアでは、代替クライアントを認証して元のクライアントのイメージにアクセスできるようにします。

代替クライアントが元のクライアントのバックアップイメージを参照できることを確認します。

```
# /usr/openv/netbackup/bin/bplist -C <origClient> -t 7 -l -R /
```

```
# install_path¥netbackup¥bin¥bplist -t 7 -l -R /
```

代替クライアントで、bpclntcmd コマンドを使って、接続性と名前解決をテストします。コマンドは、1 行目にマスターサーバーの名前を表示するはずです。2 行目には、代替クライアントがマスターサーバーとの通信時に使用したネットワークインターフェースの IP アドレスが表示されます。2 行目の最初の単語は、IP アドレスを基にマスターサーバー上で解決された代替クライアントの名前です。代替クライアントがバックアップされていない場合は、2 行目の 2 番目の単語は「NULL」となる場合があります。NULL と表示されない場合は、マスターサーバーのバックアップポリシーで定義された代替クライアント (またはエイリアス) の名前です。

```
# /usr/openv/netbackup/bin/bpclntcmd -pn
```

代替クライアントとメディアサーバー上の CLIENT_READ_TIMEOUT が十分な余裕をもって設定してあり、テープの読み込み、データの転送、データベースインスタンスによるディスクへのデータ書き込みに支障がないことを確認してください。

Sybase の代替クライアントのリストア操作の手順について詳しくは、次の技術情報の記事を参照してください。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100016002

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2804

メッセージ: MS-SharePoint ポリシーリストアエラー (MS-SharePoint policy restore error)

説明: エラーにより、SharePoint データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- SQL Server、フロントエンドの Web サーバー、メディアサーバー、マスターサーバー上に次のログフォルダを作成します。

  install_path¥NetBackup¥logs¥tar
  install_path¥NetBackup¥logs¥bpresolver
  install_path¥NetBackup¥logs¥bpbrm (media server)
  install_path¥NetBackup¥logs¥bprd (master server)

  個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用する場合は、次のログフォルダも該当します。

  install_path¥NetBackup¥logs¥ncf
  install_path¥NetBackup¥logs¥ncflbc
  install_path¥NetBackup¥logs¥ncfgre
  install_path¥NetBackup¥logs¥nbfsd
  install_path¥NetBackup¥logs¥spsv2ra

- SharePoint サーバーのすべてのイベントビューア (アプリケーションとシステム) でエラーがないか確認します。
- SharePoint フロントエンドサーバーが実行されているサーバーに接続し、バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI を使用してリストアを起動します。
- リストアが正しく起動されていることを確認します。
  『NetBackup for Microsoft SharePoint 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

- VMware ジョブをリストアする必要がある場合は、追加サーバーリストにメディアサーバーが追加されていることを確認する必要があります。NetBackup 管理コンソールでこのリストにアクセスするには、[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]を展開します。プロパティを表示するサーバーの名前をダブルクリックします。[サーバー (Servers)]タブを選択して、サーバーリストを表示します。[サーバー (Servers)]プロパティダイアログボックスで、[追加サーバー (Additional Servers)]タブを選択し、サーバーリストにメディアサーバーを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2805

メッセージ: MS-Windows ポリシーリストアエラー (MS-Windows policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI で正しいリストア形式を選択していることを確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 次のログで追加のエラー情報がないか調べます。
  - マスターサーバー: `bprd`、`nbjm`
  - メディアサーバー: `bpbrm`、`bptm`、`bpdm`
  - クライアント: `tar`
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2806

メッセージ: NetWare ポリシーリストアエラー (NetWare policy restore error)

説明: エラーにより NetWare データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `tar` のログで、エラーに関する追加情報を確認します。また、`bpcd`、`bpsrv`、`bprest`、`user_ops` の各ログファイルを調べます。
- ターゲットリストアの場合は、リストアするボリュームに対する作成および書き込み権限を所有していることを確認します。`BP.INI` ファイルで、Allow_Server_Write パラメータが yes に設定されていることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールから非ターゲットリストアを起動した場合は、[サーバー主導リストアを許可する (Allow server directed restores)]パラメータが選択されていることを確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2807

メッセージ: SQL-BackTrack ポリシーのリストアエラー (SQL-BackTrack policy restore error)

説明: エラーにより、SQL-BackTrack データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルがリストアされているディレクトリと、リストアを試みている SQL-BackTrack のインスタンスに関する所有権と権限を確認してください。
- NetBackup バックトラックログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2808

メッセージ: Windows File System ポリシーのリストアエラー (Windows File System policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI で正しいリストア形式を選択していることを確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストア先のディレクトリまたはファイルが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] GUI の[既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)]オプションを選択します。
- 次のログで追加のエラー情報がないか調べます。
  - マスターサーバー: `bprd`、`nbjm`
  - メディアサーバー: `bpbrm`、`bptm`、`bpdm`
  - クライアント: `tar`
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2809

メッセージ: MS-SQL-Server ポリシーリストアエラー (MS-SQL-Server policy restore error)

説明: エラーにより、SQL Server のデータのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルがリストアされるディレクトリと、リストアする SQL インスタンスの所有権と権限を確認します。
- リストア対象の SQL Server インスタンスと、ファイルをリストアするディレクトリの所有権と権限を確認します。
- 次のログで、失敗に関するクライアント側の追加情報を確認します。

```
install_path¥NetBackup¥logs¥dbclient
install_path¥NetBackup¥logs¥bpbkar (Snapshot Client)
install_path¥NetBackup¥logs¥bpfis (Snapshot Client)
install_path¥NetBackup¥logs¥bppfi (instant recovery)
```

- リストア操作に関連したエラーやメッセージがないか、SQL Server のイベントビューア (アプリケーションとシステム) を確認します。
- リストアの詳細レベルを上げます。
  詳しくは、『NetBackup for SQL Server 管理者ガイド』を参照してください。
  このガイドを参照して、リストアを正しく起動したことを検証します。
- SQL が実行されているサーバーに接続し、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] GUI を使用してそのサーバーからリストアを起動します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2810

メッセージ: MS-Exchange ポリシーのリストアエラー (MS-Exchange policy restore error)

説明: エラーにより、Exchange データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。

- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストアする Exchange のインスタンスと、ファイルをリストアするディレクトリの所有権と権限を確認します。
- 実行されるリストアの形式に応じて、次のログファイルを検証します。すべてのログフォルダは *install_path*¥NetBackup¥logs フォルダにあります。
  - beds - すべてのリストア操作。
  - tar - すべてのリストア操作。

  個別リカバリテクノロジ (GRT) を使用したリストア:
  - nbfsd - このログは、クライアントおよびメディアサーバーに表示されます。
  - ncf - このログには統合ログが使用され、宛先クライアントまたはプロキシクライアントに表示されます。
  - ncflbc - nblbc.exe 用のログです。これは宛先クライアントまたはプロキシクライアントに表示されます。
  - ncfgre - nbgre.exe 用のログです。これは宛先クライアントまたはプロキシクライアントに表示されます。

  インスタントリカバリとインスタントリカバリのオフホスト:
  - bpbkar - オフホストインスタントリカバリリストアでは、bpbkar は代替クライアントにログを記録します。
  - bpfis - このログはインスタントリカバリのロールバックリストアに適用されます。オフホストインスタントリカバリバックアップでは、bpfis ログは、プライマリクライアントと代替クライアントの両方に格納されます。
  - bppfi - オフホストインスタントリカバリリストアでは、bppfi ログはプライマリクライアントと代替クライアントの両方にあります。
- Exchange Server のイベントビューアを調べて、リストア操作に関連するアプリケーションやシステムのメッセージを確認します。
- Exchange が実行されているサーバーに接続し、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive and Restore)]GUI を使用して、そのサーバーからリストアを起動します。
- リストアを正しく起動したこと検証します。
  『NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2811

メッセージ: SAP ポリシーリストアエラー (SAP policy restore error)

説明: エラーにより、SAP データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストアする SAP インスタンスおよびファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- `backint`、`tar`、`dbclient`、`bprestore`、`user_ops` ログで、追加のエラー情報がないか調べます。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2812

メッセージ: DB2 ポリシーリストアエラー (DB2 policy restore error)

説明: エラーにより、DB2 データのリストアに失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- リストアする DB2 インスタンスおよびファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `bpdb2` ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- リダイレクトリストアを許可するようにクライアントが設定されていることを確認します。詳しくは『NetBackup for DB2 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2813

メッセージ: NDMP ポリシーリストアエラー (NDMP policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権と権限を確認します。
- 宛先 NDMP ホストが DAR をサポートしていることを確認します。そうでなければ、DAR を無効にします。
- `ndmpagent` (オリジネータ ID 134) ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- NetBackup の `bptm` ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 指定した時点へのロールバックリストアの[スナップショットが破壊されても強制的にロールバックする (Force rollback even if it destroy snapshots)]オプションが設定されている (チェックマークが付いている)、または設定されていない (チェックマークがはずされている) こと確認します。
  ロールバックリストアについて詳しくは、『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2814

メッセージ: FlashBackup ポリシーリストアエラー (FlashBackup policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。

- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、エラーに関する追加情報を確認します。
- VxMS ログを有効にし、追加のエラー情報がないか検証します。
- VMware リストアの場合は、bpvmutil ログを有効にします。
- VMware リストアを実行する場合は、VMware の資格情報で指定済みのユーザーアカウントにターゲットの vCenter および ESX サーバーに対する完全な管理者権限があることを確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2815

メッセージ: AFS ポリシーリストアエラー (AFS policy restore error)

説明: エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、エラーに関する追加情報を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2816

メッセージ: DataStore ポリシーリストアエラー (DataStore policy restore error)

説明: エラーにより、DataStore データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。1 つの PureDisk のディザスタリカバリを実行した場合は、PureDisk ノードの `/opt/pdinstall/DR_Restore_all.sh` スクリプトからの出力を調べます。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- リストアするデータベースインスタンスに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `exten_client` ログで追加のエラー情報がないか調べます。
- Netezza 装置をリストアする場合は、`/nz/kit/log/restoresvf/*` からログファイルを収集します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2817

メッセージ**:** FlashBackup-Windows ポリシーリストアエラー (FlashBackup-Windows policy restore error)

説明**:** エラーにより、一部またはすべてのファイルのリストア操作が失敗しました。

推奨処置**:** 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `tar` のログで、エラーに関する追加情報を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2818

メッセージ: NetBackup カタログポリシーリストアエラー (Catalog policy restore error)

説明: エラーにより、NetBackup カタログのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- NetBackup が、カタログイメージの作成に使用したコンピュータと同じバージョンで同じパッチレベルであることを確認します。
- カタログのリストア時のパスがバックアップ時のパスと同じであるか確認します。
- リストアを実行するターゲットシステム上に十分なディスク領域があるか確認します。
- 現在のマスターサーバーホスト名が、カタログイメージが作成されたコンピュータのホスト名と一致することを確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の `tar`、`admin`、`bptm`、`bpbrm` の各ログで、失敗に関する追加情報を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2819

メッセージ: Enterprise Vault ポリシーリストアエラー (Enterprise Vault policy restore error)

説明: エラーにより、Enterprise Vault データのリストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。

- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- NetBackup の tar のログで、エラーに関する追加情報を確認します。また、Enterprise Vault サーバーのイベントビューア (アプリケーションとシステム) を調べて、エラーやその原因を確認します。
- Enterprise Vault のフロントエンドが稼働しているサーバーに接続します。バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI を使用してリストアを起動します。
- リストアを正しく起動したこと検証します。
『NetBackup for Enterprise Vault Agent Server 管理者ガイド』を参照してください。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2820

メッセージ: NetBackup VMware ポリシーリストアエラー (VMware policy restore error)

説明: エラーにより、VMware ポリシーデータのリストアが次のように失敗しました。

- 仮想マシンをリストアするホストで仮想 CD または仮想 DVD の ISO が利用できない場合、リストアは失敗します。vCenter インターフェースが次のメッセージを含んでいる可能性があります。

```
Invalid configuration for Device '1'.
```

- リストアする仮想マシンと hotadd リストアホストを含む仮想マシンが同じデータセンターに存在しないと、リストアは失敗します。
- リストアホストは、選択したトランスポートモードを使用して VMware データストアにアクセスできません。リストアホストのジョブログには、次の例のようなメッセージが含まれる場合があります。

```
FTL - Virtual machine restore: VxMS initialization failed.
```

- 1023 文字より長いパス名があるファイルをリストアしようとしました。Linux 仮想マシンのバックアップでは、1023 文字より長いパス名のファイルを含む、すべてのファイルがバックアップされます。ただし、長いパス名のファイルを個別にリストアすることはできません。
- リストアの場合に、仮想マシンのハードウェアバージョン (7 など) が、ターゲットサーバーがサポートするハードウェアバージョンより新しい。VMware ツールで仮想マシンのハードウェアバージョンを以前のバージョンに変換できない場合、リストアは失敗します。次のようなメッセージが詳細ステータスログに表示されます。

```
Info bpVMutil(pid=6268) INF - vmwareLogger: WaitForTaskCompleteEx:

The virtual machine version is not compatible with the version of
 the
host <hostname>.
```

- シックプロビジョニング (Eager Zeroed)としてフォーマットされた 1 つ以上の VMDK で仮想マシンをリストアしようとしました。仮想マシンまたは VMDK のサイズのせいで、仮想マシンの作成に 2 時間以上かかる場合があります。その結果、リストアが失敗しました。

推奨処置: このエラーの解決策を次のリストに示します。

アクティビティモニターのジョブの詳細を調べ、次のようにその詳細に規定されている処理を実行してください。

- バックアップ中に仮想 CD または DVD として仮想マシンに示された .ISO ファイルが、宛先ホストで利用可能であることを確認します。
- hotadd リストアが成功するよう、2 つの仮想マシンが同じ VMware データセンターにあることを確認します。
- 別のトランスポートモードを選択し、リストアを再試行します。
- 1023 文字より長いパス名があるファイルをリストアすることはできません。
- 可能な場合は、VM のハードウェアバージョンをサポートする VMware サーバーに VM をリストアしてください。
- バックアップ、アーカイブ、リストアで、リストアされる仮想ディスクを シックプロビジョニング (Lazy Zeroed)またはシックプロビジョニングに変更します。

VMware エージェントレスリストアの実行時に次の問題が発生することがあります。

- 宛先 VM %s で新しく接続されたデバイスを特定できません。(Failed to identify the newly attached device on destination VM %s.) 宛先 VM のユーザークレデンシャルに十分な権限が設定されていないことが原因である場合があります。(One possible cause is that the destination VM user credentials have insufficient permissions.) ターゲット VM のユーザークレデンシャルに root 権限または管理者権限を設定することをお勧めします。(It is recommended target VM user credentials with root or administrative privileges.)
- エラー %d によって、一時 vmdk %s を宛先 VM %s に接続できませんでした。(Failed to attach the temporary vmdk %s to the destination VM %s with error %d.) 利用可能な LUN がある準仮想コントローラがターゲット VM に少なくとも 1 つあることを確認してください。(Make sure that the target VM has at least one paravirtual controller with available LUNs.)

- エラー %d によって、プロセスの rename ファイルを宛先 VM %s にアップロードできませんでした。(Failed to upload the process rename file to the destination VM %s with error %d.)
  ターゲット VM に十分な容量があることを確認してください。(Make sure there is sufficient space available in target VM.)
- 選択したファイルとフォルダのリストアに失敗しました。(Failed to restore the selected files and folders.)
  この問題のトラブルシューティング情報については、tar のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2821

メッセージ: Hyper-V ポリシーリストアエラー (Hyper-V policy restore error)

説明: Hyper-V のリストア操作で、Hyper-V のホストとメディアサーバー間の接続の問題により、bptm がソケットへの書き込みに失敗します。

推奨処置: 次のように実行します。

- NIC のドライバおよびファームウェアを必要に応じて更新してください。
- メディアサーバーとクライアント間のネットワークハードウェアが正しく動作するか確認してください。
- ウイルス対策アプリケーションが接続確立されたソケットを閉じる場合があるため、ウイルス対策の除外リストに NetBackup の処理およびディレクトリを追加してください。
- 10 の値を TcpMaxDataRetransmissions レジストリキーを設定することにより、Windows ホスト(マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアント)の TCP の耐性を高めてください。デフォルトの値は 5 です。
  TcpMaxDataRetransmissions レジストリキーに関する詳細情報は Microsoft から提供されています。
  https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa915651.aspx

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2822

メッセージ: Hypervisor ポリシーリストアエラー。(Hypervisor policy restore error.)

説明: 次の理由により、Hypervisor ポリシーを使用してバックアップされたデータをリストアできません。

- リストアされたディスクをターゲット VM に接続できません。

- 指定のディスクで VM の作成に失敗しました。
- VM 名にサポートされていない文字が含まれています。
- VM 名の長さが、サポートされている最大長を超えています。

推奨処置: 特定の作業負荷で次の情報を確認してください。

- アクティビティモニターのジョブの詳細で、問題の詳細を確認します。詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。
- ディスクのリストア先ストレージドメインで、十分な容量を利用できることを確認します。ディスクの作成が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- rename ファイル内のエントリが正しい形式であることを確認します。
- 詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

RHV:

- RHV_CREATEDISK_TIMEOUT 構成エントリを確認し、必要に応じて更新します。
- リストアのターゲットストレージドメイン形式が、NetBackup によるリストアでサポートされていることを確認します。
- 詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。
- サポート対象 VM の表示名の文字と長さについては、RHV のマニュアルを参照してください。

Nutanix AHV の場合:

- サポート対象 VM の表示名の文字と長さについては、Nutanix AHV のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2824

メッセージ: クラウドポリシーのリストアエラー。(Cloud policy restore error.)

説明: クラウドポリシーを使用してバックアップされたデータをリストアできません。このエラーは、複数の問題が原因で発生する場合があります。

推奨処置: 次の表に、アクティビティモニターの[ジョブの詳細 (Job Details)]に表示される nbcs レベルのエラーメッセージと、この問題を解決するために必要な措置を示します。

表 1-2 資産に対するリストア操作の前提条件が満たされなかったため、リストアが失敗しました (Restore failed as the pre-requisites for restore operation were not satisfied for the asset)

メッセージ	推奨処置
ディスクの**リソースグループ** <RG> が存在しません。(Disk Resource group <RG> does not exist.)	ディスクの宛先パスにあるリソースグループが存在しません。クラウドに存在するリソースグループを選択します。
ディスクの**サブスクリプション** ID <> は、ホストのサブスクリプション ID と同じである必要があります。(Disk subscription ID <> must be same as the host subscription ID.)	ディスクの宛先パスの一部として指定されたサブスクリプション ID が、VM の宛先パスのサブスクリプション ID と一致する必要があります。
名前が <> の VM はすでに存在します。(VM with name <> already exists.)	表示名を変更した後、操作を再試行します。
VM の**表示名** <> はサポートされていません。(VM display name <> is unsupported)	VM 名がクラウドプロバイダの命名規則に準拠していることを確認します。
選択した構成に対して**宛先パス** <> が構成されていません。(DestinationPath <>: is not configured for selected config.)	指定したサブスクリプションが、指定した宛先構成で構成されていません。構成済みのクラウドプロバイダに存在するサブスクリプションを指定します。
サブネット <id> が存在しません。(Subnet <id> does not exist.)	選択した宛先ネットワークが選択したサブスクリプションに存在しません。クラウド上に存在するネットワークを選択します。新しいサブネットの作成後に検出を実行したことを確認します。
宛先の**リソースグループ** <RG> が存在しません。(Destination Resource group <RG> does not exist.)	VM の宛先パスにあるリソースグループが存在しません。クラウドに存在するリソースグループを選択します。
領域 <> が構成されていません。(Region <> is not configured.)	選択した領域が宛先の構成の一部である必要があります。
指定したホストで sqlpackage クライアントユーティリティが見つかりませんでした。	メディアサーバーに必要な sqlpackage ユーティリティをインストールします。

メッセージ	推奨処置
ユニバーサル共有アクセラレータの構成およびマウントに失敗しました。(Configure and mount Universal Share Accelerator failed.)	■ VM ベースの配備で、外部ディスクが NetBackup Snapshot Manager ホストに接続され、/datamover_storage としてマウントされている場合は、少なくとも 500 GB のディスク容量が利用可能であることを確認します。 ■ VM ベースの配備で、外部ディスクが NetBackup Snapshot Manager ホストに接続されていない、または /datamover_storage としてマウントされていない場合は、ルートパーティションで少なくとも 500 GB のディスク容量が利用可能であることを確認します。
エクスポートパスと vpfs サーバーの取得に失敗しました。(Configure and mount Universal Share Accelerator failed.)	■ Cloud Scale の配備で、すべての MSDP ポッドに 500 GB 以上の利用可能なディスク容量があることを確認します。 ■ VM ベースの配備で、ストレージサーバーに、構成されたストレージパスで利用可能な 500 GB 以上のディスク容量があることを確認します。
以下は、バックアップからの Azure Stack のリストアにのみ適用されます。 ステージング場所が正しく指定されていないためリストアに失敗しました。/cloudpoint/azurestack.conf にステージング場所の正しいエントリが指定されていることを確認してください。(Restore failed due to the staging location not correctly specified. Verify that the /cloudpoint/azurestack.conf has a correct entry for the staging location.)	
サブスクリプション： {id} のステージング場所の取得に失敗しました。(Failed to get a staging location for the subscription: {id}.)	選択したターゲットサブスクリプションに関するステージング場所の詳細 (ストレージアカウントやコンテナなど) がファイル /cloudpoint/azurestack.conf に追加されていることを確認します。
ストレージアカウント： <**アカウント名**> が存在しません。(The storage account:<account name>, does not exist.)	ターゲットサブスクリプションにストレージアカウントが存在することを確認します。
コンテナ： {**コンテナ名**} が**ストレージアカウント：** {**アカウント名**} に存在しません。(The container: {container name}, does not exist in the storage account: {account name}.)	ストレージアカウントのコンテナがストレージアカウントに存在することを確認してください。

表 1-3 資産のリカバリ操作の実行に失敗しました (Failed to perform a recovery operation for the asset)

メッセージ	推奨処置
資産 <ディスク/ホスト> の作成に失敗しました。(Failed to create an asset <disk/host>.)	考えられる原因の 1 つに、クォータ制限の超過があります。必要なリソースの制限があるかどうかを確認します。
資産 <> が見つかりませんでした。(Asset <> not found.)	資産がクラウドに存在して、検出されていることを確認します。

表 1-4 SSL 証明書の問題、または Snapshot Manager と Azure または Azure Stack 間の接続の問題により、リストアが失敗しました (Restore failed due to SSL certificate issues or connectivity issues between Snapshot Manager and Azure or Azure Stack)

メッセージ	推奨処置
証明書の CRL を取得できません。ECA_CRL_PATH を構成している場合は、有効な CRL がその場所に存在することを確認してください。CRL の URL に Snapshot Manager からアクセスできるかどうかを確認してください。(Unable to retrieve the certificate CRL. If you have configured the ECA_CRL_PATH, ensure that valid CRLs are present at the location. Check if the CRL URL is accessible from the Snapshot Manager.)	最新の CRL を ECA_CRL_PATH パスにコピーするか、それぞれのホスト証明書の CRL 配布ポイントの URL に Snapshot Manager からアクセスできることを確認します。
Azure サーバーまたは Azure Stack サーバーの証明書が失効しています。認証局によって証明書が取り消されていないことを確認してください。(The Azure or Azure Stack servers' certificate is revoked. Ensure that the certificates are not revoked by certificate authority.)	サーバーの証明書が無効です。サポートが必要な場合は、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

メッセージ	推奨処置
証明書失効リスト (CRL) が期限切れです。最新の CRL で ECA_CRL_PATH が更新されていることを確認してください。(The certificate revocation list (CRL) is expired. Ensure that the ECA_CRL_PATH is updated with the latest CRL.)	最新の CRL が ECA_CRL_PATH のパスにアップロードされていることを確認します。 Snapshot Manager で次のコマンドを使用して、NetBackup CRL キャッシュを手動で更新できます。 `docker exec -i flexsnap-certauth bash -c '/usr/openv/pdde/pdopensource/nbcertcmdtool/nbcertcmdtool -atLibPath /usr/openv/pdde/pdopensource/nbcertcmdtool -updateCRLCache'`
証明書失効リスト (CRL) がまだ有効ではありません。(The certificate revocation list (CRL) is not yet valid.)	Snapshot Manager のシステム時刻を確認するか、有効な CRL を指定します。
証明書失効リスト (CRL) の最終更新日が有効な形式ではありません。(The date of the last update of the certificate revocation list (CRL) is not in a valid format.)	openssl コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
証明書失効リスト (CRL) の次回更新日が有効な形式ではありません。(The date of the next update of the certificate revocation list (CRL) is not in a valid format.)	openssl コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
Azure サーバーまたは Azure Stack サーバーの証明書の期限が切れています。サーバーに有効な証明書があることを確認してください。(The Azure or Azure Stack server certificate is expired. Ensure that the server has a valid certificate.)	証明書の終了日が有効であることを証明書でチェックして、証明書の有効性を確認します。 Snapshot Manager のクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。
Azure サーバーまたは Azure Stack サーバーの証明書がまだ有効ではありません。(The Azure or Azure stack servers certificate is not yet valid.)	Snapshot Manager のクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

メッセージ	推奨処置
Azure Stack サーバーのパブリックルート証明書と中間証明書が見つかりません。(Unable to find the public root and intermediate certificates of the Azure Stack server.)	Snapshot Manager の bp.conf ファイルにある ECA_TRUST_STORE_PATH で、証明書ファイルが正しく構成されていることを確認します。 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。
CRL キャッシュからの証明書失効リスト (CRL) のロードに失敗しました。(Failed to load the Certificate Revocation List (CRL) from the CRL cache.) Azure または Azure Stack の Snapshot Manager で、ECA_CRL_PATH によって有効な CRL ファイルが構成されていることを確認してください。(Failed to load the Certificate Revocation List (CRL) from the CRL cache. Ensure that the valid CRL file is configured on the Snapshot Manager for Azure or Azure Stack by ECA_CRL_PATH.)	Azure または Azure Stack の Snapshot Manager で、ECA_CRL_PATH によって有効な CRL ファイルが構成されていることを確認します。
Azure または Azure Stack サーバーへの接続に失敗しました。Snapshot Manager と Azure または Azure Stack サーバー間のネットワーク接続を確認してください。(Failed to connect to the Azure or Azure Stack server. Ensure network connectivity between Snapshot Manager and the Azure or Azure Stack server.)	Snapshot Manager と Azure または Azure Stack サーバー間のネットワーク接続を確認します。
Azure または Azure Stack サーバー用に指定された SSL 暗号を使用できません。(Cannot use the specified SSL cipher for Azure or Azure Stack server.)	Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。
cURL エラーにより操作が失敗しました。(Operation failed with cURL error:)	操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2826

メッセージ: マスターサーバーがリストアのためにメディアサーバー上の Backup Restore Manager に接続できませんでした (Master server failed to connect to backup restore manager on media server for restore)

説明: マスターサーバーのプロセスがネットワーク上に存在するホストのプロセスに接続できません。このエラーは、プロセスが、ストレージユニットが存在するサーバーとの通信を開始しようとしているときに発生します。このエラーは、1 つ以上のサーバー構成内でのリストア中に発生する場合があります。

推奨処置: 次の解決策を、示される順序で試みてください。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- 各メディアサーバーから、NetBackup サーバーリスト内に指定されているホスト名を使用して、マスターサーバーに ping を実行します。UNIX サーバーまたは Linux サーバーの場合、このマスターサーバーは bp.conf ファイル内の最初の SERVER エントリです。Windows サーバーの場合、マスターサーバーは[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ダイアログボックスの[サーバー (Servers)]ノードで指定されています。
- すべてのサービスがメディアサーバーで動作していることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2827

メッセージ: クライアントがリストアのためにメディアサーバーに接続できませんでした (Client failed to connect to the media server for restore)

説明: クライアントがリストア操作のためにメディアサーバーに接続できません。

推奨処置: 次の解決策を、示される順序で試みてください。

- マスターサーバーから、ストレージユニット構成内のホスト名を使用して、マスターサーバーおよびすべてのメディアサーバーに ping を実行します。
- すべてのサービスがメディアサーバーで動作していることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2828

メッセージ: MS-SQL-Server サービスが停止したため、リストアに失敗しました (Restore failed because the MS-SQL-Server services are down)

説明: NetBackup クライアントと NetBackup for SQL Server エージェントが実行中のシステムで、SQL Server サービスが停止しています。このため、NetBackup for SQL Server エージェントは SQL Server に接続できません。

推奨処置: SQL Server インスタンスサービスが実行中であることと、NetBackup プロセスが SQL Server インスタンスサービスにアクセスする権限を持っていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2829

メッセージ: MS-SQL-Server データベースが使用中のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to MS-SQL-Server database in use)

説明: SQL サーバーのデータベースが別の操作でビジー状態であるため、SQL Server エージェントの NetBackup クライアントと NetBackup for SQL Server エージェントが実行中のシステムで、要求されたデータベースをリストアできません。

推奨処置: データベースによる現在の操作が終了した後で、データベースのリストアを試してください。または、データベース管理者は、データベースがビジー状態かどうか、およびどんな操作が実行されているかを確認する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2830

メッセージ: MS-SQL-Server MOVE スクリプト内の不正なパスのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to an incorrect path in the MS-SQL-Server MOVE script)

説明: NetBackup MS SQL クライアントを使用するデータベースリストアに対して生成された MOVE テンプレートで、キーワード TO に対するデータベースまたはログファイルに指定されたパスが正しくありません。

推奨処置: MOVE スクリプトを確認し、キーワード TO に対するデータベースログファイルに指定したパスを修正してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2831

メッセージ: リストアエラー (Restore error)

説明: エラーが発生したため、リストアが失敗しました。

推奨処置: 示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントのサーバーリストに、マスターサーバーのエントリ、およびバックアップやリストアの実行中に使用された可能性があるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。
- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2832

メッセージ: 名前を変更したファイルのフォーマットエラーのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to rename file format error)

説明: ファイル名の変更を記述するファイルは、仮想マシン代替クライアントの場所の詳細を指定するために使用されます。無効な形式があると読み取ることができません。

推奨処置: `nbrestorevm` コマンドを実行して、ファイル名の変更を記述するファイルを手動で入力する場合は、ファイルが『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で指定されている形式に従っていることを確認してください。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、およびマスターサーバーの `bprd` ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2833

メッセージ: パーティションリストアエラーのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to partition restore error)

説明: このエラーは raw パーティションのリストア時に発生します。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの `bprd` ログ、およびメディアサーバーの `bptm` ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2834

メッセージ: 変更ブロックビットマップの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read change block bitmap)

説明: NetBackup がバックアップイメージの変更ブロックのビットマップヘッダーを読み込めません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2835

メッセージ: イメージが破損しているため、リストアに失敗しました (Restore failed due to corrupt image)

説明: NetBackup が無効なバックアップイメージのヘッダータイプを読み込みます。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2836

メッセージ: イメージヘッダーから読み込まれたビットマップサイズが、想定されるサイズと異なるため、リストアに失敗しました (Restore failed because the bitmap size read from the image header differs from the expected size)

説明: バックアップイメージのヘッダーのビットマップサイズが NetBackup 内部データベースで見つかったビットマップのサイズに一致しません。このエラーはバックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2837

メッセージ: 無効なメタデータのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to invalid metadata)

説明: 無効なメタデータはバックアップイメージのヘッダーに追加できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2838

メッセージ: raw パーティションが見つからなかったため、リストアに失敗しました (Restore failed because no raw partitions were found)

説明: バックアップイメージで raw パーティションが見つかりません。バックアップイメージに不具合がある可能性があります。

推奨処置: バックアップイメージに raw パーティションのリストが含まれていることを確認してください。このエラーはバックアップイメージに不具合がある可能性を示しています。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2839

メッセージ: 無効な raw パーティション ID のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to invalid raw partition ID)

説明: NetBackup が raw パーティション ID を識別できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2840

メッセージ: 順序の範囲外の raw パーティションのため、リストアに失敗しました (Restore failed due to out of sequence raw partitions)

説明: raw パーティションのファイル番号が範囲内にありません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2841

メッセージ: バックアップイメージからのヘッダーの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read the header from the backup image)

説明: リストアでバックアップイメージのヘッダーを読み込めません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2842

メッセージ: vmware ビットマップの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read the VMware bitmap)

説明: リストア操作でバックアップイメージから VMware ビットマップを取得できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2843

メッセージ: VxMS の起動の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to start VxMS)

説明: リストアで VxMS をロードできません。VxMS はファイルとボリュームの物理アドレスのマッピングに使用するライブラリです。

推奨処置: メディアサーバーおよびリカバリホスト環境に十分なメモリおよび正しいアクセス権があることを確認してください。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、およびマスターサーバーの bprd ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2844

メッセージ: FIID ファイルの読み込みの失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to read the FIID file)

説明: リストア操作で FID ファイルを読み込めません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2845

メッセージ: ビットマップの取得の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to retrieve the bitmap)

説明: リストア操作で NetBackup 内部データベースからバックアップイメージのビットマップを取得できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2846

メッセージ: fsmap の取得の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to retrieve the fsmap)

説明: リストア操作で NetBackup 内部データベースからバックアップイメージのファイルシステムマップを取得できません。バックアップイメージに不具合があることを示しています。

推奨処置: 別のバックアップコピーがある場合は、それをプライマリコピーにしてリストアを試みます。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2847

メッセージ: bptm ライターの起動の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to start the bptm writer)

説明: リストア操作で bptm ライターのプロセスを開始できません。

推奨処置: メディアサーバーおよびリカバリホスト環境に十分なメモリおよび正しいアクセス権があることを確認してください。追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、およびマスターサーバーの bprd ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2848

メッセージ: 仮想マシンの作成の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to create the virtual machine)

説明: 次の原因が考えられます。

- VMware サーバーの資格情報に仮想マシンを作成するのに必要なアクセス権がありません。
- データストアの不十分な領域。
- 互換性のない VM の構成または vmdk の構成。
- VMware サーバーのエラーまたはタスクのキャンセル。

追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの bprd ログ、およびメディアサーバーの bptm ログを確認してください。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- VMware サーバーに必要なアクセス権があること確認してください。
- データストアに使用可能な領域を増やしてください。
- 構成の非互換性を解決してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2849

メッセージ: 仮想マシンスナップショットの削除の失敗のため、リストアに失敗しました (Restore failed due to failure to delete the virtual machine snapshot)

説明: 仮想マシンスナップショットの削除中にエラーが発生し、リストア処理が失敗しました。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- VMware サーバーに仮想マシンスナップショットを削除する適切なアクセス権があるかを確認してください。
- データストアに使用可能な領域を増やしてください。
- VMware サーバーのエラーまたはタスクのキャンセル。

追加情報について詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、マスターサーバーの `bprd` ログ、およびメディアサーバーの `bptm` ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2850

メッセージ: リストアエラー (Restore error)

説明: エラーが発生したため、リストアが失敗しました。

推奨処置: この状態コードは、複数の作業負荷に対して表示される場合があります。特定の作業負荷で次の情報を確認してください。

一般的なトラブルシューティングを行うには、示されている順序で次の解決策を試みてください。

- クライアントサーバーリストに、マスターサーバーのエントリと、バックアップやリストアの実行中に使用できるすべてのメディアサーバーのエントリが含まれていることを確認します。
- クライアントの状態または進捗ログを調べて、リストアが失敗した理由に関するメッセージを確認します。また、そのサーバーの[すべてのログエントリ (All Log Entries)]レポートも確認します。

- ファイルのリストア先のディレクトリに対する所有権および権限を確認します。
- 検出された問題を修正し、リストアを再試行します。

Hadoop と HBase の場合:

- イメージのインポートを使用してカタログエントリを作成した後でリストアをトリガすると、このエラーが発生します。このエラーのトラブルシューティングを行うには、次の手順を参照してください。

リストアのエラーをトラブルシューティングするには:

1. アプリケーションサーバー名として `ALT_APPLICATION_SERVER` を使用し、rename ファイルを作成します。(代替名ノードではなく)プライマリ名ノードのみを指定します。プライマリ名ノードのクレデンシャルがすでに存在することを確認します。
2. `bprestore` コマンドを使用してリストアを実行します。

Azure Stack と OpenStack の場合:

- AIR のリストアシナリオにおいてエラーが発生した場合は、AIR イメージをリストアする前にカタログをリストアします。

Kerberos を使用する Hadoop の場合:

- この問題は、`HDFS` 所有者がファイルとディレクトリの所有権を設定していない場合、または Kerberos の構成に問題がある場合に発生します。リストアする前に、次のことを確認します。
  - Kerberos のバックアップに `HDFS` 所有者ユーザーが使用されていることを確認します。
  - 現在の Kerberos ユーザーで、`chown` や `setfacl` などの `HDFS` コマンドを使用して、**所有者**/`ACLS` を手動で設定できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2864

メッセージ**:** ディザスタリカバリパッケージをインポートできませんでした。

説明**:** ディザスタリカバリパッケージが壊れているため、操作に失敗しました。

推奨処置**:** 電子メールで受信したディザスタリカバリパッケージまたは同一のパッケージのコピーを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2865

メッセージ: データベーステーブルをロードできませんでした。

説明: NetBackup データベースにホストの識別情報をリストアできないため、操作に失敗しました。

推奨処置: NetBackup データベース処理の実行時に、NetBackup データベースにアクセスできることを確認します。次のコマンドを使用して、データベースがアクセス可能かどうかを確認できます。

- UNIX の場合: `/usr/openv/db/bin/nbdb_ping`
- Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥bin¥nbdb_ping`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2866

メッセージ: 指定したパスフレーズが正しくありません。

説明: パスフレーズがカタログバックアップ時に設定したパスフレーズと一致しないため、操作に失敗しました。

推奨処置: 指定したパスフレーズがディザスタリカバリパッケージに関連付けられているカタログバックアップの実行時に設定したパスフレーズと同じであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2869

メッセージ: ID パッケージが破損しています。(The identity package is corrupt.)

説明: ディザスタリカバリ (DR) の ID パッケージが誤って変更された可能性があります。

推奨処置: 別の DR ID パッケージを使用するか、https://support.cohesity.com/s/article/article-100033743 の記事で説明する手順を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2870

メッセージ: DR パッケージから Windows 証明書ストアにマスターサーバー証明書をインポートできません。(The master server certificate cannot be imported from the DR package to Windows Certificate Store.)

説明: Windows 証明書ストアで内部エラーが発生した、または PFX ファイルが破損しています。

推奨処置: ディザスタリカバリ (DR) パッケージを代替ディレクトリにリストアして、Windows 証明書ストアに PFX ファイルを手動でインポートしてください。次の場所の PFX ファイルをダブルクリックすることで、ファイルを手動でインポートできます。

- 代替ディレクトリへのインポート用の PFX ファイルのパス:
  - *alternate_directory*¥*directory_name*¥usr¥openv¥netbackup¥tmp¥tempWinCredStore¥*.pfx
- PFX ファイルのファイルパスのパスワード:
  - *alternate_directory*¥*directory_name*¥usr¥openv¥netbackup¥tmp¥tempWinCredStore¥pfxPwdFile.txt

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2877

メッセージ: Hypervisor のリストア前操作が失敗しました。(Hypervisor pre-restore operation failed.)

説明: Hypervisor のリストア前操作が失敗しました。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2880

メッセージ: リストア指定のリカバリホストは仮想マシンディスクのインプレースリストアをサポートしていません。(The recovery host in the restore specification does not support in-place virtual machine disk restores.)

説明: リカバリホストはインプレースリストアをサポートしていません。インプレースディスクリストアの場合、リカバリホストは NetBackup 8.3 以降を実行している必要があります。

推奨処置: インプレースディスクリストアを実行するには、NetBackup バージョン 8.3 以降のリカバリホストを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2881

メッセージ: ディザスタリカバリパッケージ固有のデータの問い合わせに失敗しました。(Failed to query the data specific to disaster recovery package.)

説明: ディザスタリカバリパッケージに固有の要求された情報を取得できません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2882

メッセージ: 指定したディザスタリカバリパッケージは、パッケージが作成されたホストと異なる名前のホストにリストアされています。(The specified disaster recovery package is being restored on a host with a name that is different from the one where the package was created.)

説明: ディザスタリカバリパッケージが作成されたホストの名前が、パッケージのリストア先と一致しません。

推奨処置: ディザスタリカバリパッケージのバックアップとリストアの両方の場合に、ホスト名が一致していることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2883

メッセージ: DR パッケージの一部としてバックアップする必要がある ID ファイルに対する権限を持つ 1 人以上のユーザーがシステムに存在しません。(One or more users who have permissions to the identity files that need to be backed up as part of the DR package do not exist on the system.)

説明: ホストに存在しないユーザーを含む 1 つ以上の ID ファイルがディザスタリカバリパッケージに含まれています。このエラーは、ディザスタリカバリモードで NetBackup をインストールしているとき、またはディザスタリカバリパッケージをインポートするために `nbhostidentity` コマンドを使用しているときに表示される場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 存在しないユーザーをホストの適切なユーザーにマッピングするか、再試行中にスキップします。
- ディザスタリカバリモードで NetBackup をインストールする場合は、`DR_PKG_MAPUSER` 環境変数をマッピングで設定します。
- `-mapuser` オプションを使用してマッピングを指定するか、ユーザーの ACL をスキップします。詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2887

メッセージ: vApp への VM のインポートに失敗しました。(Import of VM to vApp failed.)

説明: VM は vApp に自動的にインポートできません。VM は正常に削除されました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- VM の最大数を超えていないことを確認します。
- 十分なストレージが割り当てられていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2888

メッセージ: インポートの失敗後、VM は vCenter に残されました。(VM has been left at vCenter after import failure.)

説明: VM を vApp に自動的にインポートできず、vCenter 側で作成された VM は削除されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- VM を手動で削除またはインポートする必要があります。
- VM の最大数を超えていないことを確認します。
- 十分なストレージが割り当てられていることを確認します。
- NetBackup はインポートエラーが発生したときに VM を自動的に削除できます。このオプションを有効にするには、`bp.conf` ファイルまたはマスターサーバー上のレジストリで `DELETE_VM_ON_IMPORT_FAILURE = 1` を設定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2889

メッセージ: Kubernetes のリストア前操作が失敗しました。(Kubernetes pre restore operation failed.)

説明: Kubernetes は、Kubernetes クラスタへのデータのリストアに使用する datamover ポッドの作成に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データムーバーのイメージがデータムーバーの ConfigMap で正しく設定され、ユーザーにリポジトリからイメージをプルする権限があるかどうかを確認します。
- ストレージクラスに必要な NetBackup ラベルがあることを確認します。
- ポッドを量産するための十分なリソースがクラスタにあることを確認します。
- NetBackup Kubernetes Operator のログで、エラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2890

メッセージ: Kubernetes のデータリストア操作が失敗しました。(Kubernetes restore data operation failed.)

説明: ストレージユニットから datamover ポッドへのデータ移動中に問題が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データムーバーが正しく実行されていることを確認します。
- メディアサーバーに datamover ポッドからアクセスできることを確認します。
- 短い名前が使用されている場合は、ホストエイリアスがデータムーバーの ConfigMap に存在することを確認します。
- Kubernetes Operator クラスタで、`backupservercert` が正しい方法で構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2891

メッセージ: Kubernetes のリストア後操作が失敗しました。(Kubernetes post restore operation failed.)

説明: NetBackup が宛先の名前空間でメタデータまたは PVC のリストア中に問題が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 元の名前空間に PVC をリストアするには、リストア操作を開始する前に、PVC が元の名前空間に存在しないことを確認します。

- NetBackup Kubernetes Operator のログで、エラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2892

メッセージ: バックアップ操作からの Kubernetes のリストアが失敗しました。(Kubernetes restore from backup operation failed.)

説明: 名前空間メタデータが正常にリストアされませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 名前空間に NetBackup のサポート対象のリソースがあることを確認します。
- Kubernetes Operator のログで、エラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2893

メッセージ: NetBackup FIPS モードが有効になっており、指定したディザスタリカバリパッケージが、FIPS モードが無効になっていたホストで作成されています。(FIPS mode is enabled and the specified disaster recovery package was created on a host where FIPS mode was disabled.)

説明: NetBackup で FIPS が有効になっている状態で、FIPS が無効なシステムで作成されたディザスタリカバリパッケージをインポートしようとすると、インポートは失敗します。

推奨処置: FIPS が無効になっているシステムからディザスタリカバリパッケージをインポートする場合は、現在の NetBackup システムで FIPS を無効にします。その後、ディザスタリカバリパッケージのインポートを試してください。

NetBackup での FIPS の無効化について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2894

メッセージ: クラウドバックアップイメージのインスタントアクセスマウントを作成できませんでした。(Failed to create the instant access mount for cloud backup image.)

説明: NetBackup が、インスタントアクセスマウントの最大数に達しました。そのため、NetBackup は、インスタントアクセスマウントの作成に失敗しました。

推奨処置: インスタントアクセスマウントの数を減らし、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 2897

メッセージ: インスタントアクセスマウントポイントはすでに存在します。(Instant access mount point already exists.)

説明: インスタントアクセスマウントポイントはすでに存在します。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、マスターサーバーで `bprd` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3000

メッセージ: [動的マルチストリームを許可する (Allow dynamic multi-streaming)]オプションを使用するには、スナップショットオプションで VSO FIM を選択する必要があります。(To use the Allow dynamic multi-streaming option, the VSOFIM should be selected in snapshot options.)

説明: ポリシー構成のスナップショット方式として、VSO オプションが選択されていません。

推奨処置: スナップショット方式として、VSOオプションを選択するようにポリシー構成を更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3002

メッセージ: ファイルシステムクローラによる共有メモリの**ファイルリスト**への入力を待機中にクライアントがタイムアウトしました。

説明: ファイルシステムのクローラは、共有メモリのバックアップに**ファイルリスト**を入力できません。

推奨処置: バックアップホストとボリューム間のネットワーク接続が一貫していることを確認します。ポリシーのバックアップを再開するか、再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3003

メッセージ: 共有メモリへのストリームのアタッチを待機中に、ファイルシステムクローラプロセスがタイムアウトしました。

説明: バックアップストリームは共有メモリにアクセスできません。

推奨処置: バックアップホストのネットワーク接続が一貫していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3004

メッセージ: NAS データ保護ポリシーのオフホストバックアップが選択されていません。

説明: NAS データ保護ポリシーは、バックアップホストを使用してボリュームを保護します。オフホストポリシーパラメータを選択する必要があります。

推奨処置: オフホストバックアップを有効にするようにポリシーを構成し、バックアップホストプールを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3005

メッセージ: インスタントリカバリのスナップショットのみオプションは、チェックポイントオプションが選択されている場合はサポートされません。

説明: NAS データ保護ポリシーは、スナップショットのみオプションをサポートしません。

推奨処置: ポリシー形式をストレージライフサイクルポリシーに変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3006

メッセージ: NAS データ保護ポリシーでは、ポリシーストレージが[ストレージライフサイクルポリシー (Storage Lifecycle Policies)]であるか、ストレージの構成時に[ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]オプションを選択する必要があります。

説明: NAS データ保護ポリシーは、ポリシーストレージとして SLP のみをサポートします。

推奨処置: ポリシー形式をストレージライフサイクルポリシーに変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3007

メッセージ: NAS データ保護ポリシーでは、宛先クライアントをリストアで使用できません。

説明: NAS データ保護ポリシーのリストア操作では、ソースクライアントと宛先クライアントを同じにできません。

推奨処置: ボリュームまたは共有をマウントするバックアップホストとして、NAS アレイヘッドと宛先クライアントとしてソースクライアントを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3008

メッセージ: MediaDescription から必要な値を取得できませんでした。

説明: MediaDescriptionフィールドには、必要な値が含まれていません。

推奨処置: イメージデータの部分的な取り込みを回避するために、マスターサーバーへの接続が一貫していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3009

メッセージ: NAS データ保護ポリシーに対し、[ポリシーごとのジョブの最大数 (Maximum jobs per policy)] 属性の値が[ボリュームあたりの最大ストリーム数 (Maximum number of streams per volume)] 属性の値よりも大きくなければなりません

説明: [ポリシーごとのジョブの最大数 (Maximum jobs per policy)]は、ポリシー内に構成された[ボリュームあたりの最大ストリーム数 (Maximum number of streams per volume)]の値未満である必要があります。

推奨処置: 選択したストリームに対応するために、ホストプロパティの [ポリシーごとのジョブの最大数 (Maximum jobs per policy)]の値を更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3010

メッセージ: NAS データ保護ポリシーでは、オフホストバックアップとバックアップホストプールの使用オプションを選択する必要があります。

説明: NAS データ保護ポリシーは、バックアップホストプールを使用してボリュームを保護します。このポリシーでは、オフホストバックアップの実行ポリシーパラメータを選択する必要があります。

推奨処置: オフホストバックアップを有効にするようにポリシーを構成し、バックアップホストプールを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3011

メッセージ: NAS データ保護ポリシーでは、ポリシーでバックアップホストプール名を構成する必要があります。

説明: NAS データ保護ポリシーは、バックアップホストプールを使用してボリュームを保護します。

推奨処置: オフホストバックアップを有効にするように NAS データ保護ポリシーを構成し、バックアップホストプールを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3012

メッセージ: ローカルホスト名の取得に失敗しました。

説明: NetBackup バックアップホストはローカルホスト名を取得できません。

推奨処置: バックアップホスト上ですべての NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3013

メッセージ: スナップショットのみ SLP は、NAS データ保護ポリシーにはサポートされません。

説明: NAS データ保護ポリシーに対し、スナップショットのみ SLP はサポートされません。

推奨処置: 2 番目の操作として、スナップショットからのバックアップを既存の SLP に構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3014

メッセージ: ベンダー変更追跡情報を生成できませんでした。

説明: ベンダー変更追跡情報を生成するための要求は失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、flexsnap ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3016

メッセージ: ベンダー変更追跡タスクの詳細をフェッチできませんでした。

説明: ベンダー変更追跡情報タスク詳細のフェッチの要求は失敗しました。

推奨処置: サービスが起動し実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3017

メッセージ: スナップショットの**差分**をフェッチできませんでした。

説明: NetBackup はベンダー変更追跡情報を取得できません。

推奨処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、flexsnap ログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3018

メッセージ: スナップショットでは、**差分**機能はサポートされていません。

説明: プロバイダは、ベンダー変更追跡機能をサポートしません。

推奨処置: ポリシー構成の[増分バックアップ用のベンダー変更追跡を有効化 (Enable vendor change tracking for incremental backups)]チェックボックスのチェックマークをはずします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3019

メッセージ: **差分**を取得するためのベーススナップショット ID が不明です。

説明: ベンダー変更追跡情報を取得するための完全バックアップスナップショット ID はありません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 完全バックアップを作成するようにポリシースケジュールを更新してから、増分バックアップを作成します。
- NAS データ保護ポリシーで、新しい NAS ボリュームが追加されたまたは検出された場合は、完全スケジュールを使用してバックアップを実行します。
- スナップショットコピーの保持設定を調整して、増分バックアップの開始時にスナップショットが利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3021

メッセージ: すべてのスナップショットの**差分**はフェッチできませんでした。

説明: NetBackup はベンダー変更追跡情報を取得できません。

推奨処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、`flexsnap` ログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3022

メッセージ: ベンダー変更追跡情報の作成レスポンスを解析できませんでした。

説明: NetBackupベンダー変更追跡情報を解析できません。

推奨処置: インストールされている Snapshot Manager のバージョンがサポートされていることを確認するには、NetBackup 互換性リストを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3023

メッセージ: **ベンダー変更の取得**追跡情報のレスポンスを解析できませんでした。

説明: NetBackupベンダー変更追跡情報を解析できません。

推奨処置: インストールされている Snapshot Manager のバージョンがサポートされていることを確認するには、NetBackup 互換性リストを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3024

メッセージ: **すべてのスナップショットの差分の取得**レスポンスを解析できませんでした。

説明: NetBackupベンダー変更追跡情報を解析できません。

推奨処置: インストールされている Snapshot Manager のバージョンがサポートされていることを確認するには、NetBackup 互換性リストを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3025

メッセージ: 指定されたスナップショットの既存の**差分**を見つけられませんでした。

説明: NetBackup は選択されたスナップショットに対して作成された既存の**差分**を見つけられません。

推奨処置: 最初に完全バックアップを作成するようにポリシースケジュールを更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3026

メッセージ: NAS データ保護ポリシーに対し、スナップショット方式引数 `max_snapshots` はサポートされません。

説明: NAS データ保護ポリシーは、スナップショットの限度ベースの保持をサポートしません。

推奨処置: スナップショットの引数を構成し、ポリシーに構成を再度追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3027

メッセージ: NAS データ保護ポリシーに対し、SLP で[スナップショットの最大限度 (Maximum snapshot limit)]保持オプションはサポートされません。

説明: NAS データ保護ポリシーは、スナップショットの限度ベースの保持をサポートしません。

推奨処置: SLP で時間ベースの保持またはコピー後に期限切れにする保持を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3028

メッセージ: NAS データ保護ポリシーに対し、[増分バックアップ用のベンダー変更追跡を有効化 (Enable vendor change tracking for incremental backup)]オプションが有効になっている場合、[コピー後に期限切れにする (Expire after copy)]オプションの保持はサポートされません。

説明: NAS データ保護ポリシーに対し、[増分バックアップ用のベンダー変更追跡を有効化 (Enable vendor change tracking for incremental backup)]オプションを使用する場合、[コピー後に期限切れにする (Expire after copy)]保持オプションは選択できません。

推奨処置: 時間ベースの保持を設定するには、SLP を更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3030

メッセージ: 動的データストリームバックアップのチェックポイントディレクトリを作成できませんでした。

説明: NetBackupバックアップホストにチェックポイントのディレクトリを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3031

メッセージ: 共有メモリの状態を保存するためのチェックポイントファイルの作成に失敗しました。

説明: NetBackup はバックアップホストにチェックポイントファイルを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3032

メッセージ: チェックポイントファイルに共有メモリの状態を保存できませんでした。

説明: NetBackup はバックアップホストにチェックポイントファイルを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3033

メッセージ: 一時チェックポイントファイルの名前を変更できませんでした。現在のジョブの再開操作では、チェックポイント情報を使用できない可能性があります。

説明: NetBackup はバックアップホストにチェックポイントファイルを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3034

メッセージ: チェックポイントディレクトリにアクセスできませんでした。最初から現在のジョブの再開操作が開始されます。

説明: NetBackup はバックアップホストにチェックポイントファイルを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3035

メッセージ: チェックポイントファイルからデータを読み取れませんでした。最初から現在のジョブの再開操作が開始されます。

説明: NetBackup はバックアップホストにチェックポイントファイルを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3036

メッセージ: マスターサーバーから共有メモリの状態を読み取るためのチェックポイントファイルのフェッチに失敗しました。

説明: NetBackup はマスターサーバーからバックアップホストのチェックポイント情報を取得できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3037

メッセージ: 共有メモリ状態ファイルをマスターサーバーに保存するためのチェックポイントファイルのプッシュに失敗しました。

説明: NetBackup はマスターサーバーからバックアップホストのチェックポイント情報を取得できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3041

メッセージ: 共有メモリの識別子を取得できませんでした。

説明: NetBackup は、ファイルシステムのクローラを開始するための共有メモリの識別子を取得できません。

推奨処置: バックアップホストで共有メモリを作成するのに十分なメモリが利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3042

メッセージ: 共有メモリの識別子に添付できませんでした。

説明: NetBackup は識別子を使用して共有メモリを接続できません。

推奨処置: バックアップ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3043

メッセージ: 動的データストリームバックアップの共有メモリ構成ディレクトリを作成できませんでした。

説明: NetBackup はバックアップホストの共有メモリ情報にアクセスまたは格納するためのディレクトリを作成できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3044

メッセージ: 共有メモリ構成ファイルを開けませんでした。

説明: NetBackup はバックアップホストの共有メモリ情報を開けません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3045

メッセージ: 共有メモリの情報を構成ファイルに保存できませんでした。

説明: NetBackup はバックアップホストの共有メモリ情報を保存できません。

推奨処置: バックアップホストへの接続が一貫し、NetBackup サービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3047

メッセージ: NAS-Data-Protection ポリシーの場合、ストレージユニットのディスクタイプは AdvancedDisk または PureDisk にする必要があります。

説明: NAS データ保護ポリシーでは、次のディスクタイプのストレージユニットのみがサポートされます。

- AdvancedDisk
- PureDisk

推奨処置: ストレージライフサイクルポリシーの宛先ストレージが AdvancedDisk、PureDisk、またはこれらのディスク形式のストレージユニットグループであることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3049

メッセージ: NetApp ストレージアレイでは、ベンダー変更追跡を有効にしたバックアップはサポートされていません。(Vendor change tracking enabled backups are not supported for NetApp storage array.)

説明: VCT (ベンダー変更追跡) を使用した NAS-Data-Protection ポリシーの場合、SLP はスナップショットからのバックアップ操作を有効にします。NetBackup はバックアップに NetApp アレイボリュームを使用するため、スナップショット操作がブロックされます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ポリシーで[ベンダー変更追跡 (Vendor Change Tracking)](VCT) チェックボックスのチェックマークがはずされているか、NetApp アレイボリュームのバックアップを実行するときにスナップショット操作からのバックアップが SLP から削除されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3050

メッセージ: スナップショットジョブのベンダー変更追跡が有効なインデックスはカタログの合成に失敗しました。(Vendor change tracking enabled index from snapshot job failed to synthesize the catalog.)

説明: VCT (ベンダー変更追跡) が有効になっている NAS-Data-Protection ポリシーの場合、完全スケジュールの間、NetBackup は、アレイベンダーが指定した以前のカタログおよび VCT レコードから統合カタログを作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ポリシーの VCT を無効にし、完全スケジュールでスナップショットからのインデックスジョブを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3052

メッセージ: ホストの NetBackup バージョンを取得できません。(Unable to retrieve the NetBackup version for the host.)

説明: NetBackup ホストのバージョンを取得できません。

推奨処置: 正しい宛先サーバーを選択していること、およびプライマリサーバーサービスが起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3053

メッセージ: スナップショットコピーによる並列リストアを使用するには、マウントホストが NetBackup 10.5 以上である必要があります。(The mount host must be at NetBackup version 10.5 or greater to support Parallel Restore using Snapshot Copy.)

説明: スナップショットまたはレプリカコピーからの並列リストアを実行するために使用したマウントホストが、NetBackup 10.5 未満です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 単一ストリームを使用して、スナップショットまたはレプリカコピーからデータをリストアします。
- 並列ストリームを使用してリストアを実行するには、既存のマウントホストを NetBackup バージョン 10.5 以上にアップグレードします。マウントホストは、スナップショット操作の実行に使用するバックアップホストです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3054

メッセージ: スナップショットコピーによる並列リストアを使用するには、宛先クライアントが NetBackup 10.5 以上である必要があります。(The destination client must be at NetBackup version 10.5 or greater to support Parallel Restore using Snapshot Copy.)

説明: スナップショットまたはレプリカコピーからの並列リストアを実行するために使用した宛先クライアントが、NetBackup バージョン 10.5 未満です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 単一ストリームを使用して、スナップショットまたはレプリカコピーからデータをリストアします。

- 並列ストリームを使用してリストアを実行するには、既存の宛先クライアントを NetBackup バージョン 10.5 以上にアップグレードします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3200

メッセージ: ファイルはバックアップ処理中のため、スキップされました。

説明: ファイルはバックアップ処理中のため、スキップされました。

推奨処置: バックアップファイルが使用中でないことと、バックアップの準備ができていることを確認します。また、ファイルがバックアップ処理中であることも確認できます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3201

メッセージ: Cassandra のバージョンがサポートされていません。

説明: NetBackup では、Cassandra のこのバージョンはサポートされていません。

推奨処置: インストールされている Cassandra バージョンが NetBackup でサポートされているか確認します。

NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3202

メッセージ: OS プラットフォームバージョンがサポートされていません。

説明: NetBackup では Cassandra クラスタの OS プラットフォームバージョンはサポートされていません。

推奨処置: 以下の項目を確認して、NetBackup で Cassandra クラスタの OS プラットフォームバージョンがサポートされているか確認します。

NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3203

メッセージ: tpconfigコマンドと Cassandra 構成の CBR ノードハッシュが一致しません。

説明: tpconfigコマンドと Cassandra 構成の CBR ノードハッシュが一致しません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルと tpconfigコマンドの CBR ノードハッシュが一致することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3204

メッセージ: データステージングサーバーのノードのパラメータが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーのノードのパラメータが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーのノードのエントリが利用可能であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3205

メッセージ: Secure Shell 接続用にデータステージングサーバーのノードのユーザー名が指定されていません。

説明: tpconfig コマンドで、Secure Shell 接続用にデータステージングサーバーのノードのユーザー名が指定されていません。

推奨処置: tpconfig コマンドで、データステージングサーバーのノードのユーザー名が指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3206

メッセージ: Secure Shell 接続用にデータステージングサーバーのノードのパスワードが指定されていません。

説明: tpconfig コマンドで、Secure Shell 接続用にデータステージングサーバーのノードのパスワードが指定されていません。

推奨処置: tpconfig コマンドで、データステージングサーバーのノードのパスワードが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3207

メッセージ: データステージングサーバーのノードの構成でデータフォルダが指定されていません。

説明: データステージングサーバーの Cassandra 構成で Cassandra データフォルダが指定されていません。

推奨処置: データステージングサーバーのノードの Cassandra 構成で、Cassandra データフォルダが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3208

メッセージ: データステージングサーバーのノードの keyhashes が指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーのノードの keyhashes が指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーのノードの keyhashes が指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3209

メッセージ: データステージングサーバーの Cassandra クラスタのユーザー名が指定されていません。

説明: tpconfig コマンドで、データステージングサーバーの Cassandra クラスタのユーザー名が指定されていません。

推奨処置: tpconfig コマンドで、データステージングサーバーの Cassandra クラスタのユーザー名が指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3210

メッセージ: データステージングサーバーの Cassandra クラスタのパスワードが指定されていません。

説明: *tpconfig* コマンドで、データステージングサーバーの Cassandra クラスタのデータステージングサーバーの**パスワード**が指定されていません。

推奨処置: `tpconfig` コマンドで、データステージングサーバーの Cassandra クラスタのパスワードが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3211

メッセージ: データステージングサーバーのノードの Cassandra クラスタ名が指定されていません。

説明: `tpconfig` コマンドで、データステージングサーバーのノードの Cassandra クラスタ名が指定されていません。

推奨処置: `tpconfig` コマンドで、データステージングサーバーのノードの Cassandra クラスタ名が指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3212

メッセージ: スナップショット名が指定されていません。

説明: 構成ファイルでスナップショット名が指定されていません。

推奨処置: `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3213

メッセージ: バックアップ形式が指定されていません。

説明: バックアップ形式が指定されていません。

推奨処置: `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3214

メッセージ: バックアップファイル名が指定されていません。

説明: バックアップファイル名が指定されていません。

推奨処置: nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3215

メッセージ: コントローラ ID が指定されていません。

説明: コントローラ ID が指定されていません。

推奨処置: nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3216

メッセージ: claimコマンドのコントローラ ID が、upload doneコマンドのコントローラ ID と一致しませんでした。

説明: claimコマンドのコントローラ ID が、upload doneコマンドのコントローラ ID と一致しませんでした。

推奨処置: nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3217

メッセージ: 構成設定に CBR ノードが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルで CBR ノードが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで CBR ノードが指定されてることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3218

メッセージ: ディレクトリの作成に失敗しました。

説明: アクセス権限が不正なため、ディレクトリの作成に失敗しました。

推奨処置: データステージングサーバーの Cassandra クラスタと実稼働 Cassandra クラスタの両方にあるすべてのノードにアクセスできることを確認します。またユーザーに対して、Cassandra 構成ファイルに指定されているディレクトリを作成するための正しいアクセス権限を付与されていることを確認します。

nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3219

メッセージ: ファイルがコピーされたときにエラーが発生しました。

説明: ファイルがコピーされたとき、ユーザーに適切なアクセス権限が付与されていないと、このエラーが発生します。

推奨処置: ユーザーに、ファイルと宛先パスの両方に対する適切なアクセス権限が付与されていることを確認します。nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3220

メッセージ: データディレクトリの削除に失敗しました。

説明: ユーザーに適切なアクセス権限が付与されていないため、NetBackup でデータディレクトリを削除できませんでした。

推奨処置: ユーザーにデータディレクトリを削除するための適切なアクセス権限が付与されていることを確認します。nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3221

メッセージ: 実稼働 Cassandra クラスタのパスワードがコマンドで指定されていません。

説明: 実稼働 Cassandra クラスタのパスワードが tpconfig コマンドで指定されていません。

推奨処置: 実稼働 Cassandra クラスタのパスワードが tpconfig コマンドで指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3222

メッセージ: Message:実稼働 Cassandra クラスタのユーザー名がコマンドで指定されていません。

説明: 実稼働 Cassandra クラスタのユーザー名が `tpconfig` コマンドで指定されていません。

推奨処置: 実稼働 Cassandra クラスタのユーザー名が `tpconfig` コマンドで指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3223

メッセージ: セキュリティモードが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルで有効なセキュリティモードが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで有効なセキュリティモードが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3224

メッセージ: 進捗ファイルを開いて読み取ることができません。

説明: アクセス権限が適切ではないため、NetBackup で進捗ファイルを開いて読み取ることができません。

推奨処置: 進捗ファイルに対するユーザーアクセス権限が正しいことを確認します。詳しくは、`nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3225

メッセージ: コピーするデータが見つかりません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに有効なパスが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに有効なパスが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3232

メッセージ: データステージングサーバーのデータディレクトリストレージに十分なストレージがありません。

説明: データステージングサーバーのデータディレクトリストレージに十分なストレージがありません。考えられる原因は、次のとおりです。

- データステージングサーバーのデータディレクトリに十分な領域がない。
- データステージングサーバーの `ScriptHome` に十分な領域がない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データステージングサーバーのデータディレクトリに十分なストレージ領域があり、以前のジョブの内容が含まれていないことを確認します。
- データステージングサーバーの Cassandra データディレクトリに、以前のジョブの内容が含まれていないことを確認します。
- データステージングサーバーの `ScriptHome` ディレクトリに、リストア操作を実行するのに十分なストレージ領域があることを確認します。
- データステージングサーバーに、Cassandra 構成ファイルで指定された `ScriptHome` ディレクトリがあることを確認します。ファイルが存在しない場合は、データステージングサーバーに `ScriptHome` ディレクトリを作成し、リストア操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3234

メッセージ: 解析エラー。

説明: この問題の原因として、Cassandra のアプリケーション構成ファイルの JSON パラメータが正しくないことが考えられます。

推奨処置: `cassandra.conf` ファイルに指定されたすべてのパラメータと属性が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3235

メッセージ: 停止中のノードのしきい値が許容可能な制限を超えています。

説明: Cassandra クラスタ内で、複数のノードが停止しています。

推奨処置: 実稼働ノードを増強するか、停止中のノードのしきい値を上げて、停止中のノードの割合と一致させます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3236

メッセージ: JSON 形式が無効です。

説明: この問題の原因として、Cassandra のアプリケーション構成ファイルの JSON パラメータが正しくないことが考えられます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- `cassandra.conf` ファイルに含まれるすべてのパラメータと属性が正しいことを確認します。
- `cassandra.conf` ファイルの形式が有効な JSON 形式であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3245

メッセージ: 実稼働 Cassandra クラスタの IP アドレスの取得に失敗しました。

説明: 実稼働 Cassandra クラスタの IP アドレスの取得に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。

推奨処置: 指定されたクラスタ名について、クラスタノードが稼働中であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3246

メッセージ: 実稼働 Cassandra クラスタの検証中に例外が発生しました。

説明: 実稼働 Cassandra クラスタの検証中に例外が発生しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- Cassandra のバージョンがサポートされていない。
- OS プラットフォームがサポートされていない。
- クラスタノードが停止している。
- CBR ノードが他のノードとの接続を確立できない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 指定されたクラスタ名について、クラスタノードが稼働中であることを確認します。
- CBR ノードからノードにアクセスできることを確認します。
- 実稼働クラスタに、サポート対象の Cassandra バージョンがインストールされていることを確認します。
- 実稼働クラスタノードがサポート対象の OS プラットフォームに配備されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3251

メッセージ: 実稼働 Cassandra クラスタ名が構成設定と一致しませんでした。

説明: `cassandra.yaml`ファイルにある実稼働 Cassandra クラスタ名が、アプリケーション構成ファイルに記載されている名前と一致しませんでした。

推奨処置: `cassandra.yaml` ファイルにある Cassandra クラスタ名が正しいことを実稼働ノードで確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3252

メッセージ: CQL (Cassandra Query Language) シェルコマンドの実行に失敗しました。

説明: CQL (Cassandra Query Language) シェルコマンドの実行に失敗しました。

この問題の原因として、次のことが考えられます。

- Cassandra のユーザー名とパスワードが無効である可能性がある。
- クラスタノードが停止している可能性がある。
- スクリプトのホームディレクトリに設定されている権限が正しくない。

- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリのアプリケーション構成ファイルで提供された Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいか確認します。
- Cassandra ノードの状態を確認します。データステージングサーバーと実稼働クラスタ上のすべてのノードが稼働している必要があります。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3253

メッセージ: リストアする有効なノードが見つかりません。

説明: この問題の原因として、次のことが考えられます。

- 指定した Cassandra ノードが停止している可能性がある。
- アプリケーションの構成ファイルで指定されているノードの IP アドレスが正しくない可能性がある。

推奨処置: 実稼働クラスタノードが稼働中であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3254

メッセージ: Cassandra サービスの開始に失敗しました。

説明: Cassandra サービスの開始に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- `cassandra.yaml` ファイル内のノードのユーザー名やパスワードの詳細が正しいことを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3255

メッセージ: Cassandra サービスの停止に失敗しました。

説明: Cassandra サービスを停止できません。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- `cassandra.yaml` ファイル内のノードのユーザー名やパスワードの詳細が正しいことを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3256

メッセージ: Cassandra サーバーの起動に失敗しました。

説明: Cassandra サーバーの起動に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: Cassandra クラスタのノードが起動して正常な状態にあることを確認します。また、クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3257

メッセージ: Cassandra サーバーの停止に失敗しました。

説明: Cassandra サーバーの停止に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: Cassandra クラスタのノードが起動して正常な状態にあることを確認します。また、クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3258

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタで Cassandra `yaml` ファイルの設定に失敗しました。

説明: データステージングサーバーのクラスタで Cassandra `yaml` ファイルの設定に失敗しました。

推奨処置: データステージングサーバーのノードが稼働しているか確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3259

メッセージ: Cassandra スキーマのフェッチ中に例外が発生しました。

説明: Cassandra スキーマのフェッチ中に例外が発生しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- スキーマが存在するクラスタノードが稼働中であることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3260

メッセージ: データベーススキーマをフェッチできません。

説明: データベーススキーマをフェッチできません。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3261

メッセージ: クラスタで CQL (Cassandra Query Language) の問い合わせの実行に失敗しました。

説明: 実稼働クラスタで CQL (Cassandra Query Language) の問い合わせを実行できませんでした。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3262

メッセージ: テーブルのスキーマが見つかりません。

説明: この問題の原因として、次のことが考えられます。

- keyspace にカラムファミリーが存在しない。
- keyspace に属さないテーブルを取得しようとしている。

推奨処置: カラムファミリーやテーブルが keyspace の一部として識別されていないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3263

メッセージ: keyspaces の作成に失敗しました。

説明: keyspaces の作成に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3264

メッセージ: テーブルの作成に失敗しました。

説明: テーブルの作成に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。

- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3265

メッセージ: テーブルの変更に失敗しました。

説明: テーブルの変更に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3266

メッセージ: CQL (Cassandra Query Language) コマンドが空です。

説明: CQL (Cassandra Query Language) コマンドが空です。

推奨処置: `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログでこのエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3267

メッセージ: `keyspaces` の削除に失敗しました。

説明: `keyspaces` の削除に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。

- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3268

メッセージ: Cassandra クラスタからデータセンターをフェッチできません。

説明: Cassandra クラスタからデータセンターをフェッチできません。考えられる原因は、次のとおりです。

- データセンターのエントリがアプリケーションの構成ファイルに存在しない。
- 適切なデータセンターが `cassandra.conf` ファイルに存在しない。
- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの `cassandra.conf` に適切なデータセンターのエントリが存在することを確認します。
- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。
- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3269

メッセージ: データセンターをフェッチしようとしたときに例外が発生しました。

説明: データセンターをフェッチしようとしたときに例外が発生しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- データセンターのエントリがアプリケーションの構成ファイルに存在しない。

- 適切なデータセンターが cassandra.conf ファイルに存在しない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アクティビティモニターの[状態の詳細 (Detailed status)]を確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3270

メッセージ: ノードのデータセンターをフェッチできません。

説明: Cassandra クラスタからデータセンターをフェッチできません。考えられる原因は、次のとおりです。

- データセンターのエントリがアプリケーションの構成ファイルに存在しない。
- 適切なデータセンターが cassandra.conf ファイルに存在しない。
- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリのアプリケーション構成ファイルのデータセンター設定が正しいことを確認します。クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3271

メッセージ: Cassandra クラスタのバックアップの設定に失敗しました。

説明: Cassandra クラスタのバックアップの設定に失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- Cassandra のユーザー名またはパスワードが無効である。
- クラスタノードが停止している。
- クラスタノードのポートのファイアウォールが開いていない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 実稼働クラスタの Cassandra のユーザー名とパスワードが正しいことを確認します。
- Cassandra クラスタノードが起動して正常な状態にあることを確認します。

- クラスタノードのファイアウォール設定が正しいことを確認します。ポート 7000/9042 が開いている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3272

メッセージ: Cassandra クラスタのバックアップの `keyspace` が見つかりません。

説明: Cassandra クラスタのバックアップの `keyspace` が見つかりませんでした。

推奨処置: `cqlsh` を使用して実稼働ノードにアクセスし、クラスタ内に空でない `keyspace` が 1 つ存在することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3273

メッセージ: ジョブのクリーンアップタイムアウトが無効です。

説明: ジョブのクリーンアップタイムアウトが無効です。考えられる原因は、次のとおりです。

- クリーンアップタイムアウトの値が整数ではない。
- `jobCleanupTimeoutSec` 設定の値が 0 (ゼロ) より大きくない。

推奨処置: `cassandra.conf`ファイルの `jobCleanupTimeoutSec` の値が、以下の条件を満たしていることを確認します。

- 整数である
- 0 (ゼロ) より大きい

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3274

メッセージ: バックアップの準備に失敗しました。

説明: `prepare` バックアップコマンドが失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。

- 実稼働サーバーまたはデータステージングサーバーへの SSH 接続が失敗した。
- DSS クラスタの検証に失敗した。
- 実稼働クラスタの検証に失敗した。
- テーブルのスキーマが見つかりません。

- データステージングサーバーのクラスタの作成中にエラーが発生した。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アクティビティモニターの[状態の詳細 (Detailed status)]を確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3275

メッセージ: 指定されたイメージの選択が複数のイメージグループからの完全バックアップイメージで構成されているため、BigData バックアップイメージグループの検証に失敗しました。

説明: 指定されたイメージの選択が複数のイメージグループからの完全バックアップイメージで構成されているため、bprestore コマンドで指定されたバックアップイメージは無効です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- bprestoreコマンドで指定されたイメージグループが正しいことを確認します。
- bprestoreコマンドで指定された開始日時と終了日時が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3276

メッセージ: 指定されたイメージの選択にイメージグループからのバックアップイメージの一部が含まれていないため、BigData バックアップイメージグループの検証に失敗しました。

説明: 指定されたイメージの選択にイメージグループからのバックアップイメージの一部が含まれていないため、bprestore コマンドで指定された時刻範囲は無効です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- bprestore コマンドにイメージグループが指定されていることを確認し、正しいイメージグループであることを確認します。
- bprestore コマンドによって返される開始時刻と終了時刻を確認し、これらの時刻が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3277

メッセージ: 古いデータベーススキーマの削除に失敗しました。

説明: データステージングサーバーで keyspaces またはカラムファミリーの削除処理が失敗しました。

推奨処置: DSS ノードのデータディレクトリの内容を消去して、ジョブを再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3280

メッセージ: データステージングサーバーのノードに十分な領域がありません。

説明: データステージングサーバーのストレージ領域が不十分なため、ジョブを完了できませんでした。

推奨処置: データステージングサーバーのノードに十分な領域があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3281

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタの解体に失敗しました。

説明: データステージングサーバーで、Cassandra クラスタを個々のノードに分割するプロセスが失敗しました。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. すべての DSS ノードで Cassandra サービスを停止します。
2. すべての DSS ノードの Cassandra yaml ファイルで、シードノードの IP アドレスをそれぞれの IP アドレスに変更します。
3. すべての DSS ノードで Cassandra サービスを起動します。
4. ジョブを再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3282

メッセージ: バックアップ状態の取得に失敗しました。

説明: バックアップ状態を確認するプロセスが失敗しました。この問題は、バックアップジョブが突然終了した場合、またはジョブが応答しない場合に発生する可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アクティビティモニターの[状態の詳細 (Detailed status)]を確認します。
- 詳しくは、nbaapireq_handler のログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3283

メッセージ: 増分バックアップフラグの設定に失敗しました。

説明: Cassandra yaml ファイルの増分フラグを更新するプロセスが失敗しました。このエラーは、Cassandra yaml ファイルに対してデフォルト以外のパスが使用された場合、または yaml ファイルに対する適切な書き込み権限がない場合に発生します。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで指定されている Cassandra yaml パスが有効で、適切な権限があることを確認します。

詳しくは、nbaapireq_handler のログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3284

メッセージ: nodetool バッファの消去に失敗しました。

説明: nodetool プロセスでの増分バックアップ中に、memtables の 1 つ以上のテーブルを実稼働 Cassandra クラスタの SSTables にフラッシュできませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- nodetool が正しく動作することを確認します。
- Cassandra サービスがアクティブで、CQLSH が実行中であることを確認します。
- Cassandra yamlファイルの incremental_backupパラメータが「true」に設定されていることを確認します。
- nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3286

メッセージ: 無効な入力により Backup Prepare 中にエラーが発生しました。

説明: 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリの Cassandra 構成ファイルで、無効な入力パラメータが指定されています。

推奨処置: 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリの Cassandra 構成ファイルの設定が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3287

メッセージ: 実稼働 Cassandra クラスタに `keyspace` または `column family` がすでに存在します。

説明: 実稼働 Cassandra クラスタに `keyspace` または `column family` がすでに存在しているため、リストア処理中にそれを作成するプロセスが失敗しました。

推奨処置: 名前を変更したファイルで上書きパラメータが `true` に設定されていることを確認します。`false` に設定されている場合は、リストアジョブの前に `keyspace` および `column family` を削除したことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3288

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに最小限必要な RAM が指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルのデータステージングサーバーに最小限必要な RAM が指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで `dssMinRam` パラメータが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3289

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタにバックアップノードあたりの`Minimum Storage`が指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーにバックアップノードあたりの`Minimum Storage`が指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで `dssMinStoragePerBkupNode` パラメータが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3290

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに Cassandra `yaml` ファイルパスが指定されていません。

説明: データステージングサーバーの Cassandra `yaml` ファイルパスが、Cassandra 構成ファイルで指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルに Cassandra `yaml` パスが指定されていること、そしてそのファイルパスが正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3291

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに `concurrent_compactors` パラメータが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに `concurrent_compactors` パラメータが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで `concurrent_compactors` パラメータが指定されていて空ではないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3292

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに `sstableloaderMemsize` パラメータのメモリサイズが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに `sstableloaderMemsize` パラメータのメモリサイズが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで `sstableloaderMemsize` パラメータが指定されていて空ではないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3293

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに同時転送パラメータが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに同時転送パラメータが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで同時転送パラメータが指定されていて空ではないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3294

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタにスクリプトホームが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーにスクリプトホームのパスが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで有効なスクリプトホームのパスが指定されているか確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3295

メッセージ: Cassandra のバックアップおよびリストアノードに作業ディレクトリパスが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに作業ディレクトリパスが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで作業ディレクトリパスが指定されているか確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3296

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに `dssDist` パスが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに `dssDist` パスが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで有効な dssDist パスが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3297

メッセージ: データステージングサーバーのクラスタに cph パラメータが指定されていません。

説明: Cassandra 構成ファイルでデータステージングサーバーに cph パラメータが指定されていません。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルで cph パラメータが指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3298

メッセージ: バックアップが失敗しました。

説明: バックアップジョブ中に問題が発生しました。詳しくは、ログを参照してください。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アクティビティモニターの[状態の詳細 (Detailed status)]を確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3299

メッセージ: 再試行後のバックアップに失敗しました。

説明: 再試行後にバックアップジョブが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アクティビティモニターの[状態の詳細 (Detailed status)]を確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3300

メッセージ: バックアップタスクの実行中に例外が発生しました。

説明: バックアップタスクの実行中に例外が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アクティビティモニターの[状態の詳細 (Detailed status)]を確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3301

メッセージ: バックアップタスクに完了状態が指定されていません。

説明: バックアップタスクに backup_finalize 状態が指定されていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- backup_finalize のパラメータを確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3304

メッセージ: リストアの準備中に例外が発生しました。

説明: リストアの準備中に例外が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- リストアの組み合わせから、選択ファイルと名前が変更されたファイルの有効な組み合わせを使用していることを確認します。
- nbaapireq_handler の nbcbr ログでこのエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3306

メッセージ: ファイルの状態の取得に失敗しました。

説明: ファイルの状態の取得に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- DSS ノードの workingDir パスの権限が正しいことを確認します。
- nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3307

メッセージ: upload done ファイルの作成に失敗しました。

説明: upload done ファイルの作成に失敗しました。

推奨処置: CBR に workingDir パスが存在することを確認し、そのパスが存在する場合はその情報が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3308

メッセージ: upload failed ファイルの作成に失敗しました。

説明: upload failed ファイルの作成に失敗しました。

推奨処置: CBR に workingDir パスが存在することを確認し、そのパスが存在する場合はその情報が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3309

メッセージ: ターゲットファイルの準備ができていません。

説明: ターゲットファイルの準備ができていません。

推奨処置: バックアップジョブが完了していることを確認します。nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログでこの問題の詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3310

メッセージ: ファイルのロックに失敗しました。

説明: ファイルのロックに失敗しました。

推奨処置: CBR に workingDir パスが存在することを確認し、そのパスが存在する場合はその情報が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3311

メッセージ: ファイルがすでにロックされています。

説明: ファイルがすでにロックされています。

推奨処置: CBR に workingDir パスが存在することを確認し、そのパスが存在する場合はその情報が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3312

メッセージ: 永続タスクリストが空です。

説明: 永続タスクリストが空です。

推奨処置: Cassandra クラスタに増分バックアップ用の新しいデータが存在したかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3313

メッセージ: ジョブ状態が無効です。

説明: DSS ノードと実稼働ノードのクリーンアッププロセスに失敗しました。

推奨処置: DSS ノードと実稼働ノードのバックアップまたはリストアのクリーンアッププロセスを確認します。nbaapidiscv ログまたは nbaapireq_handler ログで詳細を確認します。

クリーンアップを正常に実行するには、次の項目が正常に完了していることを確認します。

- すべての DSS ノードと実稼働ノード上の workingDir と scriptHome を削除した。
- すべての DSS ノードと実稼働ノード上のロックファイルを削除した。
- すべての DSS ノードと実稼働ノードで Cassandra サービスを開始または停止した。
- DSS ノード上のみのデータディレクトリを削除した。
- シードノードをそれぞれの IP に置き換えることで、DSS クラスタを解体した。

- 実稼働ノードのデータディレクトリパス内にあるバックアップディレクトリとスナップショットディレクトリを削除した。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3314

メッセージ: 完了の実行中に例外が発生しました。

説明: DSS ノードと実稼働ノードのクリーンアッププロセスに失敗しました。

推奨処置: クリーンアップが正常に完了したことを確認します。

クリーンアップを正常に実行するには、次の項目が正常に完了していることを確認します。

- すべての DSS ノードと実稼働ノード上の `workingDir` と `scriptHome` を削除した。
- すべての DSS ノードと実稼働ノード上のロックファイルを削除した。
- すべての DSS ノードと実稼働ノードで Cassandra サービスを開始または停止した。
- DSS ノード上のみのデータディレクトリを削除した。
- シードノードをそれぞれの IP に置き換えることで、DSS クラスタを解体した。
- 実稼働ノードのデータディレクトリパス内にあるバックアップディレクトリとスナップショットディレクトリを削除した。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3315

メッセージ: 要求されたファイルはすでに所有されています。

説明: 要求されたファイルはすでにバックアップ用に所有されています。

推奨処置: ファイルパスに含まれているファイルがバックアップで要求されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3316

メッセージ: カラムファミリーの切り捨てに失敗しました。

説明: DSS ノードのクリーンアッププロセスに失敗しました。

推奨処置: DSS で切り捨て操作を実行します。`nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3317

メッセージ: 指定されたホストがデータセンターまたはクラスタに見つかりません。

説明: 指定された実稼働ノードがデータセンターに見つかりません。

推奨処置: 指定された実稼働ノードがデータセンターに存在することを確認します。クレデンシャルや構成が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3318

メッセージ: `nodeDownThresholdPercentage` パラメータの値が無効です。

説明: Cassandra 構成ファイルで、`nodeDownThresholdPercentage` パラメータに無効な値が指定されています。

推奨処置: Cassandra 構成ファイルの `nodeDownThresholdPercentage` の値が、0 より大きいか 100 未満であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3319

メッセージ: タスクの 1 つがバックアップの開始に失敗したため、バックアップが失敗しました。

説明: タスクの 1 つがバックアップの開始に失敗したため、バックアップが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。
- `SStableloader` ユーティリティが、実稼働ノードとデータステージングサーバーの間で動作することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3321

メッセージ: 指定されたダウンロードディレクトリパスは存在しません。

説明: 指定されたダウンロードデータディレクトリパスは存在しません。

推奨処置: データディレクトリパスが実稼働ノードに存在しないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3322

メッセージ: 指定されたダウンロードディレクトリは空です。

説明: 指定されたダウンロードデータディレクトリは空です。

推奨処置: データディレクトリパスの内容が実稼働ノードに存在しないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3323

メッセージ: SSTable (Sorted Strings Table) の転送に失敗しました。

説明: 実稼働ノードからのデータ転送プロセスが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- `backups` および `snapshots` という名前のディレクトリが、データステージングサーバーまたは実稼働ノードに存在することを確認します。
- `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3324

メッセージ: 並列転送タスクに失敗しました。

説明: 並列転送タスクに失敗しました。

推奨処置: `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3325

メッセージ: バックアップの最適化タスクが失敗しました。

説明: バックアップの最適化タスクが失敗しました。

推奨処置: `nbaapidiscv` ログまたは `nbaapireq_handler` ログで詳細を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3326

メッセージ: バックアップの転送タスクが失敗しました。

説明: Cassandra クラスタからデータステージングサーバーへのデータ転送操作が失敗しました。この問題は、NetBackup のデータステージングサーバーや Cassandra クラスタに対する設定が一部無効であることが原因で発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- Cassandra クラスタノードがアクセス可能で起動していることを確認します。
- 指定したユーザーアカウントが正しいことと、Cassandra クラスタノードに対するアクセス権があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3327

メッセージ: 無効なコマンドパラメータが原因で、実稼働データ転送でのバックアップ中にエラーが発生しました。

説明: Cassandra クラスタからデータステージングサーバーへのデータ転送操作が失敗しました。この問題は、NetBackup のデータステージングサーバーや Cassandra クラスタに対する設定が一部無効であることが原因で発生します。

推奨処置: 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリのアプリケーション構成ファイルのアプリケーション設定が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3328

メッセージ: 無効なコマンドパラメータが原因で、データ転送でのリストア中にエラーが発生しました。

説明: Cassandra クラスタからデータステージングサーバーへのデータ転送操作が失敗しました。この問題は、NetBackup のデータステージングサーバーや Cassandra クラスタに対する設定が一部無効であることが原因で発生します。

推奨処置: 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリのアプリケーション構成ファイルのアプリケーション設定が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3329

メッセージ: 無効なコマンドパラメータが原因で、最適化タスクでのバックアップ中にエラーが発生しました。

説明: NetBackup のデータステージングサーバーの設定が一部無効なため、データステージングサーバーのバックアップデータの最適化が失敗しました。

推奨処置: 指定された Cassandra クラスタおよび関連するエントリのアプリケーション構成ファイルのアプリケーション設定が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3330

メッセージ: この Cassandra クラスタで現在ジョブを実行中です。

説明: Cassandra クラスタまたはデータステージングサーバーで、1 つ以上のバックアップまたはリストア操作が実行されてます。一度に実行できる操作は 1 つのみです。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データステージングサーバーまたは Cassandra クラスタノード上で、他の並列操作を実行中でないことを確認します。
- 現在のジョブが終了するのを待ってから、ジョブを再試行します。
- 並列して実行中のジョブがない場合は、`cassandra.conf` ファイルの settings キーに、次のように設定を作成します。

  ```
  "jobCleanupTimeoutSec": 0
  ```

  ジョブを再試行します。
  ジョブの実行が再開したら、この設定を削除します。デフォルトのタイムアウトは 8 時間です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3331

メッセージ: リストア用の 1 つ以上の入力パラメータまたは引き数が無効です。

説明: オプションが無効なため、選択した入力をリストアできません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- restoreSelections ファイルと alternateRecoveryOptions ファイルを確認します。ファイルには有効な keyspace と alternate column family 名を含む必要があります。
- alternate column family または keyspace が指定されている場合は、これらがリストア対象の一部として指定されているか、restoreSelections が完全クラスタ用であることを確認します。

次の表は、リストアでサポートされていない組み合わせと、問題の解決方法を示しています。

表 1-5 サポートされていない組み合わせ

エラーの詳細	シナリオ	解決方法
keyspace とそのカラムファミリーの名前をまとめて変更することはできません。	キースペースとそのカラムファミリーを両方とも新しい名前でリストアする場合。	alternateRecoveryOptions に、keyspace の newName またはカラムファミリーの newName のいずれかを指定します。
ALL KEYSPACES のリカバリ時には選択対象を指定できません。	完全リカバリを実行し、keyspaces が選択された場合。	selectionCriteria を restoreSelections から削除します。
選択中の keyspace がない、または空です	選択的なリカバリを実行し、keyspaceを指定せずにカラムファミリーを選択する場合。	selectionCriteria に keyspace を追加して、対応するキースペースに属する columnFamilies を識別します。
keyspace が GRANULAR リカバリで選択されていない場合、名前を変更できません。	選択的なリカバリを実行し、restoreSelections に keyspace 名がない場合。	alternateRecoveryOptions に指定されているのと同じ keyspace を selectionCriteria に追加します。
名前を変更している、対応するカラムファミリーの keyspace がないか、keyspace 名が空です。	keyspace を指定せずに column family の名前を変更する場合。	keyspace を alternateRecoveryOptions に追加して、どの columnFamilies がどの対応する keyspace に属するかを識別します。

次の表は、入力の検証エラーと、問題の解決方法を示しています。

表 1-6 基本的な入力の検証エラー

エラーの詳細	シナリオ	解決方法
選択中の keyspace がない、または空です。	restoreSelections に無効な keyspace 名が含まれている場合。	有効な keyspace 値を selectionCriteria に追加します。
空の column family が選択されています。	restoreSelections に無効な column family 名が含まれている場合。	有効な column family 値を selectionCriteria に追加します。
名前の変更で、keyspace がないか keyspace 名が空です。	alternateRecoveryOptions に無効な keyspace 名が含まれている場合。	有効な keyspace 名の値を alternateRecoveryOptions に追加します。
名前の変更で、column family の名前がない、または空です。	alternateRecoveryOptions に無効な column family 名が含まれている場合。	有効な column family 名の値を alternateRecoveryOptions に追加します。
strategy name は SIMPLE または NETWORK でなければなりません。	alternateRecoveryOptions に無効な strategy name 値が含まれている場合。	SIMPLE または NETWORK を値としてレプリケーション戦略の strategy name に追加します。これは、対応する alternateRecoveryOptions の keyspace に必要です。
strategy name がありません。SIMPLE または NETWORK でなければなりません。	alternateRecoveryOptions に strategy name 値が含まれていない場合。	SIMPLE または NETWORK を値としてレプリケーション戦略の strategy name に追加します。これは、対応する alternateRecoveryOptions の keyspace に必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3332

メッセージ: Cassandra Query Language シェルコマンドの無効な問い合わせが原因でバックアップに失敗しました。

説明: Cassandra クラスタとデータステージングサーバーの構成に不一致があります。

推奨処置: データステージングサーバーの Cassandra のバージョンと構成が Cassandra 実稼働ノードのものと一致していることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3333

メッセージ: リストアに失敗しました。

説明: 選択した入力をリストアできません。

推奨処置: Cassandra のマニュアルに記載されている `restoreSelections` と `alternateRestoreOptions` での選択が正しいことを確認します。リストアの前提条件を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3335

メッセージ: ファイルの名前を変更するときにカラムファミリーを選択する必要があります。

説明: 選択したカラムファミリーの名前は変更できません。

推奨処置: カラムファミリーの名前を変更する場合は、`restoreSelections` でカラムファミリーの名前を選択します。Cassandra のマニュアルでリストアの前提条件を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3336

メッセージ: カラムファミリーを選択している場合は、キースペースを変更できません。

説明: キースペース名を変更できません。

推奨処置: キースペースの名前を変更する場合は、カラムファミリーの個別リストアを選択しないでください。キースペースを選択して名前を変更し、キースペース全体をリストアします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3337

メッセージ: カラムファミリーを選択している場合は、戦略を変更できません。

説明: 戦略を変更できません。

推奨処置: 戦略を変更する場合は、リストアするキースペースのみを選択し、そのキースペース内の個々のカラムファミリーは選択しないようにします。戦略を変更する場合は、リストアするキースペース全体を選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3340

メッセージ: 詳細が指定されていません。

説明: `cassandra.conf` ファイルで詳細な設定が見つかりませんでした。

推奨処置: `cassandra.conf` ファイルで詳細な設定を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3341

メッセージ: 最大ログサイズが指定されていません。

説明: `cassandra.conf` ファイルで最大ログサイズが指定されていません。

推奨処置: `cassandra.conf`ファイルの設定で最大ログサイズを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3342

メッセージ: 実稼働 Cassandra クラスタのクリーンアップに失敗しました。

説明: 実稼働 Cassandra クラスタのクリーンアップに失敗しました。

推奨処置: Cassandra クラスタノードの設定で指定されているフォルダを手動で消去する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3346

メッセージ: オプションのしきい値が指定されていません。

説明: オプションのしきい値が指定されていません。

推奨処置: `cassandra.conf`ファイルで、オプションのしきい値を最大の 32 に設定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3361

メッセージ: MongoDB Ops Manager のリカバリに失敗しました。(MongoDB Ops Manager recovery failed.)

説明: MongoDB Ops Manager が制御する MongoDB クラスタをリカバリしようとしたときに、NetBackup のリカバリ操作中にこのエラーが表示されます。1 つ以上のサードパーティ製 API に問題があるか、内部 NetBackup コマンドの実行に問題がある可能性があります。

推奨処置: `bprd`、`tar`、`nbaapireq_handler` など、追加情報を示すログを収集して確認します。問題が解決しない場合は、示されているログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

ログは、Windows の場合は *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥`、UNIX および Linux の場合は `/usr/openv/netbackup/logs/` にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3362

メッセージ: リカバリに必要な MongoDB `oplogs` が見つかりません。(The missing MongoDB oplogs are required for recovery.)

説明: NetBackup のリカバリ操作中に、NetBackup が指定した時点へのリカバリ操作を続行する前に、選択した NetBackup イメージにすべての MongoDB `oplogs` が存在するかどうかを検証すると、このエラーが発生します。

推奨処置: 別のバックアップイメージと増分イメージのセットを選択して、リカバリ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3363

メッセージ: クラスタか、そのノードの 1 つが停止しています。(Either the cluster or one of its nodes is down.)

説明: NetBackup のリカバリ操作中に、選択したターゲット MongoDB クラスタまたはクラスタ内のノードが起動して実行中であるかどうかを NetBackup が検証すると、このエラーが発生します。

推奨処置: MongoDB Ops でクラスタとクラスタのすべてのノードが[アクティブ (Active)]状態になっていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3364

メッセージ: 選択したクラスタはサードパーティが管理するクラスタではありません。(The selected cluster is not a third party managed cluster.)

説明: NetBackup のリカバリ操作中に、選択したターゲット MongoDB クラスタが MongoDB Ops Manager でサードパーティ管理としてマーク付けされているかどうかを NetBackup が検証すると、このエラーが発生します。

推奨処置: ターゲット MongoDB クラスタが MongoDB Ops Manager でサードパーティ管理になっていることを確認し、リカバリ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3365

メッセージ: スナップショットを完了としてマークできませんでした。(Failed to mark the snapshot as FINISHED.)

説明: NetBackup のバックアップ操作中に、NetBackup が MongoDB スナップショットに[完了 (FINISHED)]とマーク付けしようとしてエラーが発生したときに、このエラーが発生します。

推奨処置: `bpbrm`、`nbaapidiscv`、`bpbkar` など、追加情報を示すログを収集して確認します。問題が解決しない場合は、示されているログを収集し、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

ログは、Windows の場合は *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥`、UNIX および Linux の場合は `/usr/openv/netbackup/logs/` にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3366

メッセージ: スナップショットを失敗としてマークできませんでした。(Failed to mark the snapshot as FAILED.)

説明: NetBackup のバックアップ操作中に、NetBackup が MongoDB スナップショットに[失敗 (FAILED)]とマーク付けしようとしてエラーが発生したときに、このエラーが発生します。

推奨処置: bpbrm、nbaapidiscv、bpbkar など、追加情報を示すログを収集して確認します。問題が解決しない場合は、示されているログを収集し、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

ログは、Windows の場合は *install_path*¥NetBackup¥logs¥、UNIX および Linux の場合は /usr/openv/netbackup/logs/ にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3367

メッセージ: NetBackup が MongoDB oplogs にギャップを検出しました。(NetBackup found a gap in the MongoDB oplogs.)

説明: このエラーは、NetBackup のバックアップ操作中に、NetBackup が MongoDB oplogs にギャップを検出すると発生します。

推奨処置: 完全バックアップを開始し、oplog が oplog の場所にダンプされることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3600

メッセージ: COSP 操作を実行できません。(Cannot perform the COSP operation.)

説明: この問題は COSP デーモン側のエラーです。

推奨処置: 詳しくは、次の COSP ログを参照してください。

バックアップ操作の場合:

- /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar
- /usr/openv/netbackup/logs/nbcosp

リストア操作の場合:

- /usr/openv/netbackup/logs/tar
- /usr/openv/netbackup/logs/bptm
- /usr/openv/netbackup/logs/nbcosp

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3601

メッセージ: クラウド操作を完了できません。(Cannot complete the cloud operation.)

説明: ポリシーの作成中、バックアップ中、またはリカバリ中に、バケットの一覧表示で問題が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストまたはリカバリホストがクラウドエンドポイントに接続できることを確認します。
- COSP アカウントに有効なクレデンシャルがあることを確認します。
- バケットまたはコンテナが存在し、指定したクレデンシャルにアクセスするために必要な権限があることを確認します。

クラウドプロバイダの CLI または cURL コマンドを使用して、バックアップホストまたはリカバリホストからのクラウド操作について REST API を検証できます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3602

メッセージ: 権限が不十分なため、操作を実行できません。(Cannot run the operation because of insufficient permissions.)

説明: 指定されたクレデンシャルには、バックアップおよびリストア中に操作を実行するための十分な権限がありません。

推奨処置: バックアップ操作とリストア操作を実行するためのすべての適切な権限を持つクレデンシャルを使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3603

メッセージ: 指定したコンテナまたはバケットにオブジェクトが見つかりません。(Cannot find the object in the specified container or bucket.)

説明: ポリシーで指定されたオブジェクトが指定されたコンテナに存在しません。

推奨処置: ポリシーの構成時に、選択したバケットまたはコンテナに存在するオブジェクトを指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3605

メッセージ: NetBackup COSP プロセスへの接続に失敗しました。(Failed to connect to NetBackup COSP process.)

説明: この問題は、バックアップまたはリストア処理と npcosp プロセスとの間の通信が切断された場合、または nbcosp が停止している場合に発生します。

推奨処置: bpps コマンドを使用して、nbcosp が実行されていることを確認します。

nbcosp プロセスは次のコマンドを使用して手動で開始できます。

```
/usr/openv/pdde/pdcr/bin/nbcosp start
```

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3606

メッセージ: 値の指定に使用されるバックアップ対象の形式が無効です。(Invalid backup selection format was used to specify the value.)

説明: 形式の問題のため、問い合わせが無効です。

推奨処置: 値を指定するためのバックアップ対象の形式が適切であり、正しいことを確認してください。値は、バックアップ対象で一重引用符で囲んで指定されています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3607

メッセージ: バックアップ対象の形式が無効です。(Invalid backup selection format.)

説明: 形式の問題のため、問い合わせが無効です。

推奨処置: バックアップ対象の形式が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3608

メッセージ: フィルタの問い合わせの種類またはバックアップ対象の形式が無効です。(Invalid filter query type or backup selection format.)

説明: 形式の問題のため、問い合わせが無効です。

推奨処置: バックアップ対象の形式が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3609

メッセージ: COSP プロセスからの応答を処理できません。(Cannot process response from the COSP process.)

説明: この問題は、libobjectops ライブラリで COSP 応答処理が失敗した場合の内部エラーです。

推奨処置: 詳しくは、次の COSP ログを参照してください。

バックアップ操作の場合:

- /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar
- /usr/openv/netbackup/logs/nbcosp

リストア操作の場合:

- /usr/openv/netbackup/logs/tar
- /usr/openv/netbackup/logs/bptm
- /usr/openv/netbackup/logs/nbcosp

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3612

メッセージ: バケットまたはコンテナが存在しません。(Bucket or container does not exist.)

説明: 指定したコンテナが、選択したアカウントに存在しません。

推奨処置: ポリシー構成から既存のコンテナまたはバケットのみを追加します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3613

メッセージ: バケットで ACL が有効になっておらず、リストアを行ってもオブジェクトまたは Blob に対して ACL が設定されません。(ACLs are not enabled in the bucket and the restore does not attempt to set ACLs for the object or blob.)

説明: ポリシーに追加されたバケットで ACL が有効になっていません。

推奨処置: 選択したプロバイダについて ACL を有効にする必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3614

メッセージ: オブジェクトの ACL を設定できません。(Cannot set ACL on the object.)

説明: オブジェクトで ACL を設定できません。

推奨処置: バケットの ACL が有効になっていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3615

メッセージ: オブジェクト/BLOB へのアップロードを確認できません。(Cannot confirm upload to the object or blob.)

説明: `Commit Stream Call` が失敗しました。

推奨処置: メタデータが有効であり、クラウドプロバイダによってサポートされていることを確認します。詳しくは、次の COSP ログを参照してください。

バックアップ操作の場合:

- `/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar`
- `/usr/openv/netbackup/logs/nbcosp`

リストア操作の場合:

- `/usr/openv/netbackup/logs/tar`
- `/usr/openv/netbackup/logs/bptm`
- `/usr/openv/netbackup/logs/nbcosp`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3616

メッセージ: BLOB のメタデータをフェッチできませんでした。(Failed to fetch metadata for the blob.)

説明: この問題は、`nbcosp` が特定の blob のメタデータのフェッチに失敗した場合に発生します。

推奨処置: 詳しくは、次の COSP ログを参照してください。

バックアップ操作の場合:

- /usr/openv/netbackup/logs/bpbkar
- /usr/openv/netbackup/logs/nbcosp

リストア操作の場合:

- /usr/openv/netbackup/logs/tar
- /usr/openv/netbackup/logs/bptm
- /usr/openv/netbackup/logs/nbcosp

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3617

メッセージ: 空のメタデータを受け取りました。(Empty metadata received.)

説明: 受信したメタデータが空です。

推奨処置: 最低限必要なメタデータフィールドをバックアップする必要があります。例: Stats

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3618

メッセージ: オブジェクトの ACL フェッチ中にエラーが発生しました。(An error occurs during ACL fetch for object.)

説明: このエラーは、nbcosp が特定のオブジェクトの ACL をフェッチしようとすると発生します。

推奨処置: 該当するログを確認します。また、バケットで ACL が有効になっているかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3619

メッセージ: オブジェクト/BLOB の空の ACL はリストアできません。(Cannot restore empty ACLs of the object or blob.)

説明: このエラーは、空の ACL JSON が受信された、またはオブジェクトについてバックアップが作成された場合に nbcosp から返されます。

推奨処置: ACL がバックアップされているかどうかを確認します。バックアップされていない場合は想定どおりの動作です。バケットで ACL を有効にしてからバックアップを実行する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3620

メッセージ: プロバイダは、オブジェクトのタグをサポートしていません。(Provider does not support tag on objects.)

説明: 選択したクラウドプロバイダがタグ付けをサポートしていません。

推奨処置: タグを削除して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3621

メッセージ: 不整合なデータのためオブジェクトまたは BLOB をバックアップできません。

説明: このエラーは、バックアップ中に別のプロセスによってオブジェクトが変更された場合に発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]で、バックアップから一貫性のないオブジェクトをすべて書き留めます。バックアップ中にこれらのオブジェクトを変更したプロセスを特定します。この問題が今後のバックアップで発生するのを防ぐため、適切な対策を講じます。完全バックアップを実行します。一貫性のないオブジェクトが正常にバックアップされたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3622

メッセージ: NetBackup COSP サービスを起動できません。(Cannot start the NetBackup COSP service.)

説明: nbcosp サービスがバックアップホストまたは検出ホストで起動されなかったか、予期せずに停止しました。この問題のため、NetBackup がクラウドオブジェクトストア操作を開始できません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- 影響を受けたホストで nbcosp プロセスが実行されているかどうかを確認します。次のコマンドを実行します。

  ```
  ps -ef | grep nbcosp
  ```

- サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを使用してサービスを起動します。
  `/usr/openv/pdde/pdcr/bin/nbcosp start`
- 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3623

メッセージ: オブジェクトまたは BLOB のコンテンツの長さを取得できません。(Cannot retrieve the content length of the object or blob.)

説明: NetBackup がクラウドストレージプロバイダからのオブジェクトまたは BLOB のコンテンツの長さを判断できません。この問題は、オブジェクトメタデータが利用不能であるか破損している場合、または要求中にストレージサービスが必要なヘッダー情報を返さなかった場合に発生する場合があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- クラウドストレージバケットまたはコンテナにオブジェクトが存在し、アクセス可能であることを確認します。
- ストレージプロバイダのログを確認し、オブジェクトメタデータが破損していないことを確認します。
- また、NetBackup サービスアカウントにオブジェクトのプロパティを読み取るための十分な権限があることを確認します。
- アクセスおよび接続性を検証します。
- 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3624

メッセージ: バケットのオブジェクトロックが有効になっていないため、リストア操作を行ってもオブジェクトまたは BLOB のプロパティの設定は試行されません。(Object lock is not enabled for the bucket, so the restore operation did not attempt to set properties for the object or blob.)

説明: リストア操作でオブジェクトロックのプロパティをオブジェクトまたは BLOB に適用しようとしましたが、宛先バケットでオブジェクトロックが有効になっていません。

推奨処置: リストアを実行する前に、宛先バケットでオブジェクトロックを有効にします。それ以外の場合は、オブジェクトロックのプロパティなしでリストアを続行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3625

メッセージ: ディレクトリはすでに存在し、上書きできません。(The directory already exists and cannot be overwritten.)

説明: リストア操作中に、NetBackup がすでに宛先の場所に存在するディレクトリを作成しようとしました。リストア処理では、既存のディレクトリを上書きできません。

推奨処置: リストア先を確認し、ディレクトリがすでに存在するかどうかを確認します。必要に応じて、既存のディレクトリを削除または名前を変更するか、別の場所にデータをリストアします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3626

メッセージ: 操作を実行するためのアクセスが拒否されたため、オブジェクトのオブジェクトロックを設定できません。(Cannot set Object Lock on the object because access to perform the operation was denied.)

説明: NetBackup がオブジェクトロックの設定をオブジェクトまたは BLOB に適用しようとしましたが、権限が不十分であったため、クラウドストレージサービスによって操作が拒否されました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup で使用されているクレデンシャルに、オブジェクトにオブジェクトロックの設定を適用するのに必要な権限があることを確認します。
- 必要に応じて、アクセスポリシーまたは IAM 権限を更新します。
- NetBackup により適用されたオブジェクトロックのプロパティが有効であることを確認します。保持日が期限切れになっていないこと、適用されている保持日が既存のオブジェクトロックのプロパティより前の日付になっていないことを確認します。
- 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3627

メッセージ: オブジェクト/BLOB の空の ACL のリストア、およびオブジェクトロックの設定はできません。(Cannot restore empty ACLs and set Object lock on the object/blob.)

説明: NetBackup がオブジェクトロックの設定をオブジェクト/BLOB に適用しようとしましたが、権限が不十分であったため、クラウドストレージサービスによって操作が拒否されました。リストア操作中に、NetBackup により空の ACL が検出されました。その結果、ACL の適用がスキップされました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 空の ACL がバックアップされ、その空の ACL のためにリストアに失敗しました。バックアップまたはリストア操作に関連付けられた ACL 構成を確認します。
- NetBackup で使用されているクレデンシャルに、オブジェクトにオブジェクトロックの設定を適用するのに必要な権限があることを確認します。
- 必要に応じて、アクセスポリシーまたは IAM 権限を更新します。
- NetBackup により適用されたオブジェクトロックのプロパティが有効であることを確認します。保持日が期限切れになっていないこと、適用されている保持日が既存のオブジェクトロックのプロパティより前の日付になっていないことを確認します。
- 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、次の URL にアクセスしてください。

NetBackup の状態コード: 3628

メッセージ: ACL 入力が無効なため、リストア操作を行ってもオブジェクトに対して ACL またはオブジェクトロックの設定は試行されません。(Invalid ACL input, so the restore operation does not attempt to set ACLs or Object Lock on the object.)

説明: リストア操作中に、NetBackup により無効または不正な ACL 入力が検出され、ACL の適用がスキップされました。また、NetBackup がオブジェクトロックの設定をオブジェクトまたは BLOB に適用しようとしましたが、権限が不十分であったため、クラウドストレージサービスによって操作が拒否されました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- バックアップまたはリストア操作に関連付けられた ACL 構成を確認します。
- ACL のリストアが必要な場合は、ACL 入力形式または権限を修正します。
- NetBackup で使用されているクレデンシャルに、オブジェクトにオブジェクトロックの設定を適用するのに必要な権限があることを確認します。
- 必要に応じて、アクセスポリシーまたは IAM 権限を更新します。
- NetBackup により適用されたオブジェクトロックのプロパティが有効であることを確認します。

- 保持日が期限切れになっていないこと、適用されている保持日が既存のオブジェクトロックのプロパティより前の日付になっていないことを確認します。
- リストア操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3629

メッセージ: バケットで ACL が有効になっていないため、リストア操作を行ってもオブジェクトに対して ACL またはオブジェクトロックの設定は試行されません。(ACLs are not enabled on the bucket, so the restore operation does not attempt to set ACLs or Object Lock on the object.)

説明: 宛先バケットで ACL がサポートされていないか、ACL が有効になっていないため、NetBackup が ACL の設定をリストアできません。また、NetBackup がオブジェクトロックの設定をオブジェクトまたは BLOB に適用しようとしましたが、権限が不十分であったため、クラウドストレージサービスによって操作が拒否されました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- バケットで ACL サポートが有効になっているかどうかを確認します。
- ACL のリストアが必要な場合は、バケットで ACL サポートを有効にするか、ACL をサポートするバケットにオブジェクトをリストアします。
- NetBackup で使用されているクレデンシャルに、オブジェクトにオブジェクトロックの設定を適用するのに必要な権限があることを確認します。
- 必要に応じて、アクセスポリシーまたは IAM 権限を更新し、操作を再試行します。
- NetBackup により適用されたオブジェクトロックのプロパティが有効であることを確認します。保持日が期限切れになっていないこと、適用されている保持日が既存のオブジェクトロックのプロパティより前の日付になっていないことを確認します。
- リストア操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3630

メッセージ: オブジェクトの ACL とオブジェクトロックを設定することはできません。(Cannot set ACL and Object lock on the object.)

説明: NetBackup が ACL とオブジェクトロックの両方の設定をオブジェクトまたは BLOB に適用しようとしましたが、操作に失敗しました。このエラーは、権限が不十分である、バケット構成がサポートされていない、またはストレージプロバイダに制限があるために発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 宛先バケットで ACL とオブジェクトロックがサポートされていることを確認します。
- NetBackup で使用されているクレデンシャルに、ACL およびオブジェクトロックの設定を変更するのに必要な権限があることを確認します。
- 詳しくは、ストレージプロバイダのログを確認してください。
- NetBackup により適用されたオブジェクトロックのプロパティが有効であることを確認します。保持日が期限切れになっていないこと、適用されている保持日が既存のオブジェクトロックのプロパティより前の日付になっていないことを確認します。
- リストア操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3633

メッセージ: 共有メモリの識別子を取得できません。(Cannot retrieve the shared memory identifier.)

説明: ストリームに対して SHM ID が生成されない場合に発生します。NetBackup は、必要な領域または権限を持つ共有メモリを作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域があることを確認します。
- コンピュータを再起動して、使用されていない共有メモリを消去します。
- 詳しくは、`ncfnbcs` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3634

メッセージ: 共有メモリの識別子を添付できません。(Cannot attach the shared memory identifier.)

説明: SHM 接続操作が失敗した場合に発生します。NetBackup が、作成された共有メモリに接続できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup ユーザーに必要なアクセス権を付与します。
- 詳しくは、`ncfnbcs` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3635

メッセージ: 動的データストリームバックアップの共有メモリ構成ディレクトリを作成できません。(Cannot create the shared memory configuration directory for dynamic data stream backups.)

説明: NetBackup が動的データストリームバックアップのディレクトリを作成するときに発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域またはノード数があることを確認します。
- NetBackup に、次の場所のファイルおよびフォルダの作成権限があることを確認します: *install_path*/db/config/。
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3636

メッセージ: 共有メモリ構成ファイルを開けません。(Cannot open the shared memory configuration file.)

説明: NetBackup が、共有メモリ構成ファイルを読み込めません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域またはノード数があることを確認します。
- NetBackup に、次の場所のファイルおよびフォルダの作成権限があることを確認します: *install_path*/db/config/shm/。
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3637

メッセージ: 共有メモリの情報を構成ファイルに保存できません。(Cannot save the shared memory information in the configuration file.)

説明: 共有メモリ構成ファイルにデータ SHM についての詳細を書き込めません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域またはノード数があることを確認します。

- NetBackup に、次の場所のファイルおよびフォルダの作成権限があることを確認します: *install_path*/db/config/shm/*parent_job_stream_number*。
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3638

メッセージ: ストリームのアタッチを待機中に、クローラがタイムアウトしました。(The crawler timed out waiting for the streams to attach.)

説明: NetBackup は共有メモリ制限を超えたので、動的マルチストリームプロセスを開始できません。

推奨処置: ポリシー構成の[並列実行ジョブの最大数 (Maximum number of concurrent jobs)]パラメータの値が 1 より大きいことを確認します。共有メモリの状態を確認し、操作を実行するのに十分な共有メモリがあることを確認します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3639

メッセージ: 動的データストリームバックアップのオブジェクトプロパティディレクトリを作成できません。(Cannot create object property directory for dynamic data stream backups.)

説明: NetBackup が、動的データストリームバックアップのプロパティファイルを作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域またはノード数があることを確認します。
- NetBackup に、次の場所のファイルおよびフォルダの作成権限があることを確認します: *install_path*/db/config/nbcosp/
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3640

メッセージ: オブジェクトプロパティ構成ファイルを開けません。(Cannot open the object property configuration file.)

説明: NetBackup が、動的データストリームバックアップのプロパティファイルを開けません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域またはノード数があることを確認します。
- NetBackup に、次の場所のファイルおよびフォルダの作成権限があることを確認します: *install_path*/db/config/nbcosp/*parent_job*
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3641

メッセージ: オブジェクトプロパティの情報を構成ファイルに保存できません。(Cannot save the object property information in the configuration file.)

説明: NetBackup が、動的データストリームバックアップのオブジェクトプロパティファイルにメタデータを書き込めません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 十分なストレージ領域またはノード数があることを確認します。
- NetBackup に、次の場所にあるファイルに対する書き込み権限があることを確認します:
  install_path/db/config/nbcosp/*parent_job*/*stream_number*/*batch_number*/*filename*。
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3642

メッセージ: オブジェクトを一覧表示できません。(Cannot list the objects.)

説明: クローラの開始時に、NetBackup が動的データストリーム用にバケット内のオブジェクトを一覧表示できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- nbcosp デーモンが動作していることを確認します。
- バケットまたはコンテナが存在することを確認します。
- 詳しくは、nbcosp および ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3643

メッセージ: バックアップ操作の開始に失敗しました。

説明: このエラーを引き起こす可能性がある問題は複数あります。バックアップ操作の開始に失敗する原因には、次のようなものがあります。

- API 呼び出しが無効な応答を受け取った場合。
- すべてのストリームによるアクセラレータの初期化の待機時間を超過した場合。

推奨処置: nbcosp サービスが有効であることを確認します。[アクティビティモニター (Activity monitor)]のメッセージを確認し、必要に応じて訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3644

メッセージ: ポリシーで指定されたステージングパスが無効です。

説明: ポリシーで指定された一時的なステージングパスが無効です。

推奨処置: ポリシーに有効なパスを指定して、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3645

メッセージ: データベースの作成またはデータベースへの挿入に失敗しました。

説明: 権限が不十分であるため、NetBackup が一時的な格納場所にオブジェクトを作成または挿入できません。

推奨処置: 一時的なステージング場所に一時データベースが存在することを確認します。NetBackup サービスユーザーがそのデータベースに対する必要な読み取りおよび書き込み権限を持っていることを確認します。その後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3646

メッセージ: ステージング場所のディレクトリを作成できません。

説明: 権限が不十分であるため、NetBackup が一時的な格納場所にディレクトリを作成できません。

推奨処置: NetBackup サービスユーザーが、一時的なステージング場所にディレクトリを作成するために必要な読み取りおよび書き込み権限を持っていることを確認します。バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3647

メッセージ: オブジェクトのダウンロードに失敗しました。

説明: NetBackup がクラウドオブジェクトストアプロバイダから 1 つ以上のオブジェクトをバックアップ用にダウンロードできません。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因の詳細を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。エラーの原因が API 呼び出しである場合は、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3648

メッセージ: ファイルがステージング領域に見つかりません。

説明: NetBackup が 1 つ以上のダウンロード済みデータファイルにアクセスできません。このエラーは、ファイルの削除またはファイルシステムへのダウンロードおよび書き込みに失敗したオブジェクトが原因で発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの詳細を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3649

メッセージ: クラウド API からの応答の解釈に失敗しました。

説明: クラウドオブジェクトストアのメタデータを解析できません。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3650

メッセージ: 多要素認証の状態トークンが無効か失効している、あるいはユーザーが存在しないか、指定されたトークンに関連付けられたユーザーがいません。(The multi-factor authentication state token is invalid or expired or no user exists or is associated with the specified token.)

説明: このエラーメッセージは、ユーザー認証の一部として受信した状態トークンが無効または期限切れである場合に表示されます。また、状態トークンに関連付けられているユーザーが存在しない場合にも表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ユーザー名とパスワードを使用して再認証し、新しい状態トークンを受信します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3651

メッセージ: 認証ヘッダーがない、トークンが無効、またはこの操作の権限がありません。(Authorization header is missing, the token is invalid, or you do not have permission for this action.)

説明: このエラーメッセージは、多要素認証 Web API が明示的に呼び出された場合にのみ表示されます。このような多要素認証 Web API が認証ヘッダーなしで呼び出された場合、Web サーバーはこのエラーを返します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

必要な認証ヘッダーを使用して、多要素認証 Web API が呼び出されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3652

メッセージ: ワンタイムパスワードの認証に失敗しました。(Failed to validate the one time password.)

説明: このエラーメッセージは、ユーザーが指定したワンタイムパスワードをサーバーで検証できない場合に表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

新しいワンタイムパスワードを入力します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3653

メッセージ: 多要素認証 (MFA) 要求を処理できません。(The multi-factor authentication (MFA) request cannot be processed.)

説明: このメッセージは、認証に指定された状態トークンが無効または期限切れである場合に表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

新しい状態トークンが生成されるように、多要素認証を再構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3654

メッセージ: 多要素認証 (MFA) の構成に失敗しました。(Failed to configure multi-factor authentication (MFA).)

説明: このエラーメッセージは、ユーザーが多要素認証の構成に失敗した場合に表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ユーザーアカウントに多要素認証がすでに登録されているか、入力シークレットキーが有効かを判断します。シークレットキーは、認証アプリケーションと NetBackup の間の共有シークレットです。画面に QR コードの形式で表示されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3655

メッセージ: 操作を実行する権限がありません。(You do not have permissions to perform the operation.)

説明: このエラーメッセージは、あるユーザーが必要な RBAC 権限を持たずに他のユーザーをリセットしようとすると表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ユーザーが他のユーザーをリセットできるように、ユーザーアカウントに正しい RBAC 権限を設定します。RBAC 権限について詳しくは、NetBackup API のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3656

メッセージ: ユーザーアカウントが多要素認証 (MFA) に登録されていません。(Your user account is not registered for the multi-factor authentication (MFA).)

説明: このエラーメッセージは、サーバーデータベース内のユーザーアカウントの入力シークレットキーがサーバーで検出されなかった場合に表示されます。シークレットキーは、認証アプリケーションと NetBackup の間の共有シークレットです。画面に QR コードの形式で表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

このエラーは、Web API を直接実行する場合にのみ発生します。通常の操作でこのエラーが表示される場合は、Cohesityではそのユーザーアカウントの多要素認証の状態を確認することをお勧めします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3657

メッセージ: ユーザーアカウントで多要素認証が有効になっているかどうかを確認できませんでした。(Failed to check whether multi-factor authentication is enabled for the user account or not.)

説明: このエラーメッセージは、NetBackup 管理コンソールが特定のユーザーアカウントの多要素認証状態をプライマリサーバーからフェッチできない場合に表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

詳しくは、プライマリサーバーの `bpjava-msvc` ログファイルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3658

メッセージ: ドメインで多要素認証が適用されていますが、ユーザーアカウントで多要素認証が構成されていません。(Multi-factor authentication is enforced in the domain, however your user account is not configured for multi-factor authentication.)

説明: このエラーメッセージは、ドメインで多要素認証が適用されている場合に、ユーザーがワンタイムパスワードなしでログオンしようとすると表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

特定のユーザーアカウントの多要素認証を構成し、ユーザー認証を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3660

メッセージ: 改ページフィルタ文字列が正しい形式ではありません。(Pagination filter string is not in correct format.)

説明: このエラーメッセージは、NetBackup Web API を呼び出して多要素認証の構成済みユーザーを一覧表示するときに、OData フィルタが正しい形式でない場合にのみ表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

NetBackup Web API を呼び出して多要素認証の構成済みユーザーを一覧表示するときに、OData フィルタを正しい形式で指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3661

メッセージ: 指定された操作はこの NetBackup ソリューションでは許可されていません。(The specified operation is not allowed on this NetBackup solution.)

説明: このエラーメッセージは、ユーザーが NetBackup Flex Scale などの NetBackup ソリューションで多要素認証構成 NetBackup Web API を呼び出すと表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

NetBackup Flex Scale のマニュアルセットなど、多要素認証を構成するための適切な NetBackup ソリューションのガイドを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3662

メッセージ: 多要素認証の構成中にワンタイムパスワードの検証に失敗しました。(Failed to validate the one-time password during configuration of multi-factor authentication.)

説明: このエラーメッセージは、認証アプリケーションのクロックと NetBackup プライマリサーバーのクロック間に時差がある場合に、多要素認証の構成中に表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

プライマリサーバー、または認証アプリケーションが実行されているハンドヘルドスマートデバイスの現在の時刻に従って、クロックを正しく設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3675

メッセージ: 多要素認証要求の ID が存在しません。(The multifactor authentication request ID does not exist.)

説明: API を使用して送信した多要素認証要求の ID が存在しません。

推奨処置: API で有効な多要素認証要求 ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3676

メッセージ: このホストを使用して構成を変更することはできません。(The configuration cannot be changed using this host.)

説明: ユーザーアカウントに多要素認証が構成されていますが、このホストで多要素認証がサポートされていません。

推奨処置: NetBackup Web UI を使用して操作を実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3677

メッセージ: 多要素認証要求がタイムアウトしました。(The multifactor authentication request has timed out.)

説明: 指定可能な時間枠内にワンタイムパスワードが入力されませんでした。

推奨処置: 多要素認証時には、180 秒以内にワンタイムパスワードを入力するようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3678

メッセージ: 多要素認証要求が無効です。(The multifactor authentication request is not valid.)

説明: 後続の API 呼び出しに使用される JWT トークンが、以前のものと異なります。

推奨処置: 両方の API 呼び出しに同じ JWT トークンを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3700

メッセージ: NetBackup でハードウェアセキュリティモジュールの構成または既存の構成の更新に失敗しました。(Failed to configure the Hardware Security Module in NetBackup or to update the existing configuration in NetBackup.)

説明: NetBackup でハードウェアセキュリティモジュールの構成または更新に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- HSM を構成するときに、すべての入力パラメータが有効であることを確認します。
- サービスユーザーにトークンディレクトリと PKCS#11 ライブラリへのアクセス権があることを確認します。
- HSM がインストールされ、キーが作成されたことを確認して、HSM にログオンできます。
- 正しい PKCS#11 ライブラリが使用されており、HSM キーが有効で、適切な HSM トークンが使用中であることを確認します。
- 構成で、サポートされているキーアルゴリズムが使用されていることを確認します。
- *install_path*/netbackup/logs/nbhsmcmd のログでデバッグ情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3701

メッセージ: 要求されたハードウェアセキュリティモジュール操作を実行できません。(The requested Hardware Security Module operation cannot be performed.)

説明: 内部エラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- HSM を構成するときに、すべての入力パラメータが有効であることを確認します。
- サービスユーザーにトークンディレクトリと PKCS#11 ライブラリへのアクセス権があることを確認します。
- HSM がインストールされ、キーが作成されたことを確認して、HSM にログオンできます。
- 正しい PKCS#11 ライブラリが使用されており、HSM キーが有効で、適切なトークンが使用中であることを確認します。
- 構成で、サポートされているキーアルゴリズムが使用されていることを確認します。
- *install_path*/netbackup/logs/nbhsmcmd のログでデバッグ情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3702

メッセージ: 指定されたパスに PKCS ライブラリが見つかりませんでした。(Failed to find the PKCS library on the specified path.)

説明: PKCS ライブラリのロードに失敗しました。

推奨処置: パス情報が正しく、サービスユーザーが PKCS#11 ライブラリに必要なアクセス権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3703

メッセージ: ハードウェアセキュリティモジュールのログインが失敗しました。(The Hardware Security Module login failed.)

説明: ハードウェアセキュリティモジュールへのログオンが失敗しました。ピンまたはトークンのラベルが正しくありません。

推奨処置: 正しいピンまたはトークンのラベルを指定します。サービスユーザーが HSM トークンオブジェクトにアクセスするための適切な権限を持っていることを確認します。詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3704

メッセージ: 指定されたキーがハードウェアセキュリティモジュールに存在しません。(The specified key does not exist in the Hardware Security Module.)

説明: キーがハードウェアセキュリティモジュールに存在しません。

推奨処置: ハードウェアセキュリティモジュールで利用可能なキーを確認し、正しいキーを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3705

メッセージ: 目的の暗号化処理が失敗しました。(The desired cryptographic operation failed.)

説明: このエラーコードは、暗号化操作に問題があることを示します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- HSM を構成するときに、すべての入力パラメータが有効であることを確認します。
- サービスユーザーにトークンディレクトリと PKCS#11 ライブラリへのアクセス権があることを確認します。
- HSM がインストールされ、キーが作成されたことを確認して、HSM にログオンできます。
- 正しい PKCS#11 ライブラリが使用されており、HSM キーが有効で、適切なトークンが使用中であることを確認します。
- 構成で、サポートされているキーアルゴリズムが使用されていることを確認します。
- *install_path*/netbackup/logs/nbhsmcmd のログでデバッグ情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3706

メッセージ: NetBackup でハードウェアセキュリティモジュールの構成の取得に失敗しました。(Failed to retrieve the Hardware Security Module configuration in NetBackup.)

説明: ハードウェアセキュリティモジュールの構成のロードに失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ハードウェアセキュリティモジュールが構成されていることを確認します。
- *install_path*/netbackup/logs/nbhsmcmd のログでその他のデバッグ情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3707

メッセージ: NetBackup でハードウェアセキュリティモジュールが構成されていません。(Hardware Security Module is not configured in NetBackup.)

説明: NetBackup でハードウェアセキュリティモジュールが構成されていません。

推奨処置: ハードウェアセキュリティモジュールを構成し、目的の操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3708

メッセージ: 指定された PKCS ライブラリパスが無効です。(The specified PKCS library path is invalid.)

説明: PKCS ライブラリパスが無効です。

推奨処置: PKCS ライブラリの場所を確認し、正しい PKCS ライブラリパスを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3709

メッセージ: ハードウェアセキュリティモジュールの指定されたトークンラベルが無効です。(The specified token label of the Hardware Security Module is invalid.)

説明: トークンラベルが存在しません。

推奨処置: ハードウェアセキュリティモジュールのトークンラベルを確認し、有効な HSM トークンラベルを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3710

メッセージ: 指定されたキー識別子が無効です。(The specified key identifier is invalid.)

説明: キー識別子が存在しません。

推奨処置: 有効な一意の HSM キー識別子を入力します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3711

メッセージ: ハードウェアセキュリティモジュールの指定されたキーラベルが無効です。(The specified key label of the Hardware Security Module is invalid.)

説明: キーラベルが存在しません。

推奨処置: 有効な HSM キーラベルを入力します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3712

メッセージ: 指定されたキーアルゴリズムが無効です。(The specified key algorithm is invalid.)

説明: キーアルゴリズムが無効です。

推奨処置: サポートされているキーアルゴリズムを指定します。詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3713

メッセージ: 指定されたキー識別子はすでに存在します。(The specified key identifier already exists.)

説明: キー識別子がすでに存在します。

推奨処置: HSM キーの一意の識別子を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3725

メッセージ: NetBackup でフリーズモードが有効になっているため、この操作は制限されています。(This operation is restricted, because freeze mode is enabled in NetBackup.)

説明: 関連付けられているプライマリサーバーの NetBackup でフリーズモードが有効になっているため、指定した操作は許可されません。

推奨処置: 関連付けられているプライマリサーバーのフリーズモードを無効にするか、NetBackup の管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3726

メッセージ: NetBackup NBAC (アクセス制御) が現在有効になっているため、フリーズモードオプションを構成することはできません。(The freeze mode option cannot be configured because NetBackup access control (NBAC) is currently enabled.)

説明: NBAC が有効な場合、フリーズモードへの変更は許可されません。

推奨処置: NBAC を無効にしてから、NetBackup でフリーズモードを有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3727

メッセージ: ターゲットプライマリサーバーでフリーズモードが有効になっているため、この操作は制限されています。(This operation is restricted because freeze mode is enabled on the target primary server.)

説明: 関連付けられているプライマリサーバーの NetBackup でフリーズモードが有効になっているため、指定した操作は許可されません。

推奨処置: 関連付けられているプライマリサーバーのフリーズモードを無効にするか、NetBackup の管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3800

メッセージ: 操作形式を取得できません。(Cannot retrieve the operation type.)

説明: `DbAgent` が `Expected Operation` の形式を読み取れません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3801

メッセージ: 要求された操作を完了できません。(Cannot complete the requested operation.)

説明: `dbutility` のエラーのため、要求された操作を完了できませんでした。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3802

メッセージ: コマンドを実行できません。(Cannot run the command.)

説明: 要求された操作のコマンドを実行できません。

推奨処置: 要求された操作で使用されるユーティリティがインストールされているかどうかを確認します。

詳細なトラブルシューティングの情報については、メディアサーバーの dbagentsutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3803

メッセージ: データベースへの接続をテストできません。(Cannot test the connection to the database.)

説明: 必要なデータベースクレデンシャルを使用してメディアサーバーとデータベース間の接続を確立できません。

推奨処置: メディアサーバーとデータベース間の接続が失敗した場合は、次の手順を実行します。

- データベースに必要なクレデンシャルが有効であることを確認します。
- メディアサーバーがデータベースにアクセスできることを確認します。

詳細なトラブルシューティングの情報については、メディアサーバーの dbagentsutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3804

メッセージ: 引数を解析できません。(Cannot parse the argument.)

説明: dbagentsutil から送信されたコマンドの解析に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで dbagentsutil ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3805

メッセージ: メモリ不足です。(Out of memory.)

説明: 要求された操作を実行するためのメモリがありませんでした。

推奨処置: データベースサーバーのメモリ使用状況と構成を確認し、メモリを増やしてから操作を再試行します。

詳細なトラブルシューティングの情報については、メディアサーバーの dbagentsutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3806

メッセージ: バックアップ前操作を完了できません。データベースが存在しません。(Cannot complete pre-backup operation, the database does not exist.)

説明: データベースが存在しないため、バックアップ前操作を完了できません。

推奨処置: データベースが存在することを確認します。検出を再度実行し、要求された操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3807

メッセージ: バックアップ後操作を完了できません。(Cannot complete the post-backup operation.)

説明: バックアップ実行後の、リソースのクリーンアップ中にエラーが発生しました。

推奨処置: バックアップ後操作でどのリソースがクリーンアップされていないかをログで確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3808

メッセージ: データベースが存在するかどうかを確認できません。(Cannot check if the database exists.)

説明: データベースが存在しないため、要求された操作は失敗します。

推奨処置: 要求された操作を実行する前に、データベースが存在することを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3809

メッセージ: バックアップコマンドを実行できません。(Cannot run the backup command.)

説明: 要求されたデータベースに対してバックアップコマンドを実行できません。

推奨処置: コマンドとその属性を確認するには、ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3810

メッセージ: 指定した場所にバックアップファイルが見つかりません。(Cannot find the backup file at the specified location.)

説明: バックアップファイルが指定された場所にないため、取得に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3811

メッセージ: PIT リストアを実行できません。(Cannot perform the PIT restore.)

説明: 要求されたデータベースのバックアップを作成するための PIT リストア操作を実行できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- PIT リストア操作を実行するためのクラウドストレージが利用可能であることを確認します。
- エラーの正確な原因については、`dbagentsutil` のログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3812

メッセージ: リストア前操作を実行できません。データベースがすでに存在します。(Cannot perform pre-restore operation, database already exists.)

説明: 同じ名前のデータベースがすでに存在するため、リストア前操作を完了できません。

推奨処置: データベース名が一意であり、他に存在していないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3813

メッセージ: リストアコマンドを実行できません。(Cannot run the restore command.)

説明: 要求されたデータベースのリストア操作に対してリストアコマンドを実行できません。

推奨処置: コマンドとその属性を確認するには、dbagentsutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3814

メッセージ: 空のデータベースを作成できません。(Cannot create empty database.)

説明: 新しいデータベース名でデータベースをリストアしている間は、空のデータベースを作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 新しい名前のデータベースが存在しないことを確認します。
- 新しいデータベースを作成するための十分な権限があることを確認します。
- 新しいデータベースを作成するための十分なストレージ領域があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3815

メッセージ: リストア後操作を完了できません。(Cannot complete the post-restore operation.)

説明: リストア実行後の、リソースのクリーンアップ中にエラーが発生しました。

推奨処置: リストア後操作でどのリソースがクリーンアップされていないかをログで確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3816

メッセージ: データベースのリストを取得できません。(Cannot retrieve the list of databases.)

説明: RDS データベースサーバーのデータベースのリストを取得できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データベースサーバーのすべてのデータベースのリストを取得するのに十分な権限があることを確認します。
- 詳しくはログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3817

メッセージ: バックアップ前操作を完了できません。(Cannot complete the pre-backup operation.)

説明: バックアップ前操作を完了できません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3818

メッセージ: リストア前操作を完了できません。(Cannot complete the pre-restore operation.)

説明: リストア前操作を完了できません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3819

メッセージ: リストア操作を完了できません。(Cannot complete the restore operation.)

説明: リストア操作を完了できません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3820

メッセージ: 内部サーバーエラーが発生しました。(Internal server error.)

説明: 内部サーバーエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3821

メッセージ: クレデンシャルの検証操作を完了できません。(Cannot complete the credential validate operation.)

説明: サーバーのクレデンシャルの検証に失敗しました。

推奨処置: サーバーのクレデンシャルが正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3822

メッセージ: データベースを削除できません。(Cannot delete the database.)

説明: 一時データベースを削除できなかった、または一時データベースが存在しません。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `dbagentsutil` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3823

メッセージ: サポート対象外のクラウドプロバイダ形式です。(The cloud provider type not supported.)

説明: 1 つ以上のデータベースに対し、要求された操作を完了できませんでした。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで dbagentsutil ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3824

メッセージ: CMS からのクレデンシャルのフェッチに失敗しました。(Failed to fetch credentials from CMS.)

説明: CMS からのクレデンシャルの取得に失敗しました。

推奨処置: 要求された操作が開始される前に、必要な資産について正しいクレデンシャルが追加され、検証されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3825

メッセージ: 一致するデータベースエージェントが見つからないため操作を実行できません。(Cannot perform the operation because no matching database agent found.)

説明: 要求された操作はサポートされていません。

推奨処置: dbutiliy (内部呼び出し) で無効なエージェントが検出されました。サポートされている構成を使用して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3826

メッセージ: 要求された操作を実行できません。関連付けられたクレデンシャルが見つかりませんでした。(Cannot perform the requested operation because the associated credentials were not found.)

説明: 関連付けられたクレデンシャルが見つかりませんでした。

推奨処置: 正しいクレデンシャルが追加され、検証されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3827

メッセージ: リストアを実行できません。データベース名が無効です。(Cannot perform the restore due to an invalid database name.)

説明: クラウドプロバイダが、指定されたデータベース名をサポートしていません。

推奨処置: クラウドプロバイダがサポートするデータベース名を、サポートされている文字を使用して入力します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3828

メッセージ: データベースサーバーホストにアクセスできません。(Unable to reach the database server host.)

説明: データベースサーバーに接続できません。

推奨処置: ネットワーク接続またはファイアウォールルールを確認して、バックアップおよびリストア操作中に使用される、NetBackup メディアサーバーからデータベースサーバーへの接続があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3829

メッセージ: 要求された操作を実行できません。指定したホストにネイティブクライアントユーティリティがありません。(Cannot perform the requested operation because the native client utility does not exist on the provided host.)

説明: 指定したホスト上に、クレデンシャルの検証、バックアップ、およびリカバリ中に使用されるネイティブクライアントユーティリティが存在しません。

推奨処置: DBPaaS Native Client ユーティリティパッケージがメディアサーバーにインストールされていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3830

メッセージ: NetBackup Windows プライマリサーバーでは、名前にマルチバイト文字や英字以外の文字が含まれるデータベースのバックアップやリストアはサポートされません。(NetBackup Windows primary server does not support the backup and restore of the databases that have multi-byte or non-English characters in their name.)

説明: Windows プラットフォームで実行されているプライマリサーバーで、データベース名にマルチバイトまたは英語以外の文字が含まれる AWS RDS インスタンスデータベースのバックアップジョブが失敗します。

推奨処置: Linux プラットフォームで実行されているプライマリサーバーを使用して、表示名にマルチバイトまたは英語以外の文字が含まれる AWS RDS インスタンスのバックアップを実行できます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3831

メッセージ: DBPaaS に対してインスタントアクセスを作成できません。(Cannot create instant access for DBPaaS.)

説明: インスタンスのアクセスパスの取得に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、マスターサーバーで bprd ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3832

メッセージ: DBPaaS インスタントアクセスの詳細を取得できません。(Cannot retrieve details of DBPaaS instant access.)

説明: インスタントアクセス API のレスポンスの解析に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、マスターサーバーで bprd ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3883

メッセージ: DBPaaS インスタントアクセスのエクスポートパスを削除できません。(Cannot delete the DBPaaS instant access export path.)

説明: インスタントアクセスパスの削除に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、マスターサーバーで bprd ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3834

メッセージ: Snapshot Manager からクラウドプラグインのクレデンシャルをフェッチできませんでした。(Failed to fetch cloud plug-in credentials from Snapshot Manager.)

説明: NetBackup で、Snapshot Manager からクラウドプラグインのクレデンシャルをフェッチできませんでした。

推奨処置: NetBackup が Snapshot Manager からクラウドプラグインのクレデンシャルを取得しようとするとこのエラーが発生するため、Snapshot Manager が起動して実行中であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3835

メッセージ: インスタントアクセスパスのマウント解除に失敗しました。(Failed to unmount instant access path.)

説明: インスタントアクセスパスのマウント解除に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、メディアサーバーで `nbtar` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3836

メッセージ: DBPaaS インスタントアクセスのすべてのマウントを取得できません。(Cannot retrieve all the DBPaaS instant access mounts.)

説明: 利用可能なすべてのインスタントアクセスマウントポイントの取得に失敗しました。

推奨処置: 詳細なトラブルシューティングの情報を入手するには、この状態コードを戻したプロセスのデバッグログディレクトリを作成します。その後、操作を再試行して、マスターサーバーで `bprd` ログの結果を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3837

メッセージ: Azure マネージド ID のアクセストークンの取得に失敗しました。(Failed to get Azure Managed Identity Access token.)

説明: Azure マネージド ID のアクセストークンの取得に失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3838

メッセージ: データベースユーザーにスーパーユーザー権限があるかどうかのチェックに失敗しました。(Failed to check if the database user has superuser privileges.)

説明: スーパーユーザーの確認クエリーが失敗しました。

推奨処置: `dbagents` ログで、スーパーユーザーの確認コマンドとその属性を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3839

メッセージ: データベースユーザーにスーパーユーザー権限がありません。(The database user does not have superuser privileges.)

説明: スーパーユーザー権限を持つデータベースユーザーが指定されませんでした。

推奨処置: データベースユーザーにはスーパーユーザー権限が必要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3840

メッセージ: 一時リストアファイルの作成に失敗しました。(Failed to create the temporary restore file.)

説明: バックアップファイルのロードに失敗しました。

推奨処置: リストアジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3841

メッセージ: ユニバーサル共有の処理を完了できません。(Cannot complete the universal share operation.)

説明: データムーバーコンテナで vpfs CLI 操作を実行できません。

推奨処置: データムーバーコンテナのストレージパスにある vpfs ログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3842

メッセージ: 対応する dbpaas 資産に対して要求されたバックアップ形式はサポートされていません。(The requested backup type for the corresponding dbpaas asset is unsupported.)

説明: DBPaaS 資産は、要求されたバックアップ形式をサポートしていません。

推奨処置: 対応する DBPaaS 資産のバックアップ形式がサポートされていることを確認します。サポートされていない場合は、そのバックアップ形式を修正する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3843

メッセージ: CDC の有効化に失敗しました。(Failed to enable CDC.)

説明: DBPaaS 資産ユーザーが CDC を有効にするためのアクセス権を持っていません。

推奨処置: DBPaaS 資産のユーザーが CDC を有効にするアクセス権を持っていることを確認します。持っていない場合、ユーザーに DBPaaS 資産の CDC に対して有効なアクセス権を付与する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3844

メッセージ: CDC の無効化に失敗しました。(Failed to disable CDC.)

説明: DBPaaS 資産ユーザーが CDC を無効にするためのアクセス権を持っていません。

推奨処置: DBPaaS 資産のユーザーが CDC を無効にするアクセス権を持っていることを確認します。持っていない場合、ユーザーに DBPaaS 資産の CDC を無効にするためのアクセス権を付与する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3845

メッセージ: データベースサーバーで Azure マネージド ID がサポートされていません。(The database server does not support Azure Managed Identity.)

説明: MySQL および PostgreSQL Flex Server では、管理対象 ID はサポートされません。

推奨処置: データベースクレデンシャルを使用して操作を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3846

メッセージ: 可変長の重複排除アルゴリズムのバージョン 2 を有効にできません。(Cannot enable version 2 of the variable length deduplication algorithm.)

説明: ストレージサーバーで `vldv2` コマンドを有効にできませんでした。

推奨処置: 次の例に従って、ストレージサーバーで `vpfs_actions` コマンドを手動で実行して、`vldv2` を有効にします。

```
/usr/openv/pdde/vpfs/bin/vpfs_actions -a tune
--imageId <ushare-id> --segment vldv2 --sw_min 16 --sw_max 32
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3847

メッセージ: 必要な権限がないため、S3 バケットを作成できません。(Cannot create the S3 bucket because you do not have the required permissions.)

説明: ユーザーに必要な `createbucket` 権限がないため、SQL Server と DynamoDB の RDS バックアップで S3 バケットをプロビジョニングできません。

推奨処置: S3 バケットを作成する必要があるユーザーに権限 `createbucket` を追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3849

メッセージ: GCP サービスオブジェクトを取得できません。(Cannot retrieve GCP Service object.)

説明: `service` オブジェクトは、Google Cloud Platform で SQL Server インスタンスを管理するためのメソッドとリソースを提供します。NetBackup では、このオブジェクトを使用して、SQL Server インスタンスとそれに関連するリソースの作成、削除、管理、問い合わせなどのさまざまな操作を実行できます。

推奨処置: 使用するサービスアカウントに適切な権限を関連付けます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3851

メッセージ: 操作を完了できません。別の操作がすでに進行中です。(Cannot complete the operation, another operation was already in progress.)

説明: GCP SQL インスタンスに対して他の操作が進行中のため、現在の操作を実行できません。

推奨処置: 現在のジョブが完了するまで待機して、最初のジョブを再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3852

メッセージ: dbpaas インスタントアクセスステージングパスをクリーンアップできません。(Cannot cleanup the dbpaas instant access staging path.)

説明: NetBackup は Amazon Elastic ファイルシステムのステージングパスをクリーンアップできませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

有効な AWS Elastic ファイルシステムが、対応するステージングパスにマウントされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3854

メッセージ: 要求された操作を実行できません。ネイティブクライアントユーティリティに必要な実行権限がありません。(Cannot perform the requested operation as the native client utility does not have the required permissions to run.)

説明: ネイティブクライアントユーティリティに十分な権限がありません。

推奨処置: クレデンシャルの検証、バックアップ、リストアに使用されるすべてのサードパーティユーティリティに対して、メディアサーバーのサービスユーザーに実行可能な権限を割り当てます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3900

メッセージ: ページオフセットが無効です。(The page offset is invalid.)

説明: ページオフセットが無効です。

推奨処置: 外部資格情報管理システムプロバイダのパラメータを確認して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3901

メッセージ: 指定された構成名に、外部資格情報管理システムプロバイダの詳細が見つかりませんでした。(The External Credential Management System provider details were not found with the supplied configuration name.)

説明: 外部資格情報管理の構成が NetBackup データベースに存在しません。

推奨処置: NetBackup Web UI で[クレデンシャルの管理 (Credential management)]を使用して、指定された名前で構成を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3902

メッセージ: クレデンシャル名が存在しません。(The credential name does not exist.)

説明: 外部資格情報管理システムサーバーの構成中または更新中、またはエージェントクレデンシャルの構成中に指定されたクレデンシャル名が CMS に存在しません。

推奨処置: 外部資格情報管理システムサーバーを構成または更新する前に、必要な外部資格情報管理システムサーバーのクレデンシャルを作成します。外部クレデンシャルが作成されたときにこのエラーが表示された場合は、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3903

メッセージ: 外部資格情報管理システムのプロバイダ形式が無効です。(The External Credential Management System provider type is invalid.)

説明: 外部資格情報管理システムサーバーの構成中に指定されたプロバイダ形式が NetBackup でサポートされていません。

推奨処置: サポートされるプロバイダ形式は CyberArk のみです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3904

メッセージ: 指定されたクレデンシャル名またはポート番号を使用して、外部資格情報管理システムサーバーに接続できませんでした。(Connection to the External Credential Management System server fails using the provided credential name or port number.)

説明: ホスト名、ポート、クレデンシャル、または証明書などの指定された情報が正しくないために、外部資格情報管理サーバーへの接続が失敗しました。

推奨処置: ホスト名、ポート、証明書、またはクレデンシャルが有効で、外部資格情報管理システムサーバーとの接続を確立できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3905

メッセージ: 外部資格情報管理システムサーバーから無効なクレデンシャルレスポンスを受信しました。(Invalid credential response was received from the external credential management system server.)

説明: 外部資格情報管理システムプロバイダのパスワード取得の応答に含まれるポリシー ID が、NetBackup でサポートされているポリシー ID と一致しません。

推奨処置: CyberArk で作成されたクレデンシャルが、NetBackup でサポートされている作業負荷にマッピングされていることを確認します。たとえば、CyberArk の MSSQL クレデンシャルは、NetBackup の Microsoft SQL 資産のみで使用する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3906

メッセージ: 選択した[指定したクレデンシャル]は、外部資格情報管理システムサーバーの[構成名]に関連付けられているため削除できません。(Deleting the selected Named

credential is not possible as it is associated with the Configuration name of the External Credential Management System server.) 最初に、関連付けられているエントリを削除してください。(Delete the associated entry first.)

説明: このエラーは、ユーザーが指定したクレデンシャルを削除しようとしたときに、外部資格情報管理システムサーバーがそのクレデンシャルを参照している場合に発生します。

推奨処置: 指定したクレデンシャルを削除するには、外部資格情報管理システムサーバーの構成を最初に削除する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3907

メッセージ: 選択した外部資格情報管理システムサーバーは、[指定したクレデンシャル]に関連付けられているため削除できません。(Deleting the selected External Credential Management System server is not possible as it is associated with the Named credentials.) 最初に、関連付けられているエントリを削除してください。(Delete the associated entry first.)

説明: エージェントのクレデンシャルの 1 つで使用されているため、外部資格情報管理システムプロバイダの構成を削除できません。

推奨処置: 外部資格情報管理システムサーバーを削除するには、まず、その外部資格情報管理システムサーバーを使用する[指定したクレデンシャル (Named credentials)]を削除する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3908

メッセージ: 外部資格情報管理システムのエージェント詳細が見つかりません。(The agent details of the External Credential Management System are not found.)

説明: 外部資格情報管理システムプロバイダのエージェント構成が NetBackup データベースに存在しません。

推奨処置: 指定した名前で新しい外部クレデンシャルを作成するか、削除するクレデンシャルの ID を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3909

メッセージ: 外部資格情報管理システムプロバイダの情報更新要求が無効です。(The request to update the information of External Credential Management System provider is invalid.)

説明: このエラーは、値が空に設定されているか、次のフィールドの値がない場合に表示されます。

- configName
- ecmsHostName
- credentialName

推奨処置: 次のフィールドに有効な値が設定されていることを確認します。

- configName
- ecmsHostName
- credentialName

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3910

メッセージ: **アプリケーション** ID が定義されていません。(Application ID is not defined.)

説明: このエラーは、指定された**アプリケーション** ID が無効であるか、指定された**アプリケーション** ID が CyberArk に存在しない場合に発生します。

推奨処置: **アプリケーション** ID が CyberArk サーバーに存在することを確認します。

メモ: アプリケーション ID - パスワード要求を発行するアプリケーションの一意の ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3911

メッセージ: **オブジェクト名**または Safe が定義されていません。(ObjectName or safe is not defined.)

説明: このエラーは、指定された Object または Safe 名が無効であるか、指定された Object または Safe が CyberArk に存在しない場合に発生します。

推奨処置: Object または Safe が CyberArk サーバーに存在することを確認します。

メモ: `Object` - 取得するパスワードオブジェクトの名前を指定します。

`Safe` - パスワードが格納されている Safe の名前を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3912

メッセージ**:** 証明書の一般名またはサブジェクトの別名にサーバーのホスト名が含まれていないか、証明書が無効です。

説明**:** ホストの検証で CyberArk のような ECMS サーバーへの HTTPS を使用した接続が失敗します。

推奨処置**:** ECMS サーバーに配備されている証明書に、ホスト名と一致する一般名またはサブジェクトの別名があることを確認する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 3913

メッセージ**:** クレデンシャルの形式が無効です。(The credential type is invalid.)

説明**:** この問題は、ECMS サーバーの構成時に指定されたクレデンシャルのカテゴリが CyberArk の形式でない場合に発生します。

推奨処置**:** EMCS サーバーを構成するときに使用するクレデンシャルのカテゴリが CyberArk のクレデンシャルであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4000

メッセージ**:** ストレージ Web サーバーへのログインが失敗しました。

説明**:** ログインに失敗しました。

推奨処置**:** NBU 重複排除ストレージサーバーのクレデンシャル (NetBackup データベースに保存) が、最新であり、指定したストレージサーバーに対して有効であることを確認します。これらのクレデンシャルは、Java GUI からアクセスするクレデンシャルです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4001

メッセージ: インスタントアクセスマウントの作成に失敗しました。

説明: システムがインスタントアクセスマウントの作成に失敗しました。

推奨処置:

1. アクティビティモニターでリカバリジョブの状態とトラブルシュータの分析情報を確認して、失敗の原因を特定します。
2. ストレージサーバーが利用可能で、十分な領域があり、インスタントアクセスをサポートしていることを確認します。
3. 同じバックアップイメージのマウントがすでに存在するかどうかを確認します。必要に応じて既存のマウントを再利用します。マウントが無効で使用中でなくなった場合は、マウントを削除して操作を再試行します。
4. 原因が特定されない場合は、NetBackup nbwebservice ログで SPWS エラーを確認します。
5. この問題が解決しない場合、ベリタスのサポートまでお問い合わせください。

NetBackup の状態コード: 4002

メッセージ: インスタントアクセスマウントリストのフェッチに失敗しました。

説明: システムがマウントリストの取得に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4003

メッセージ: インスタントアクセスマウントの詳細のフェッチに失敗しました。

説明: システムがマウントの詳細を取得できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4004

メッセージ: インスタントアクセス仮想マシン (VM) の作成に失敗しました。

説明: システムが仮想マシンの作成に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ネットワーク構成が正しく、ファイアウォールの設定で NFS ポートが開かれていることを確認します。ESXi ホストで IPv6 が有効な場合は、ESXi ホストとストレージサーバー間の IPv6 接続も確認します。
- VM 名が、ESXi ホスト/クラスタ内の既存の VM と競合していないことを確認します。
- vCenter/ESXi ホストに VM を作成することがユーザーに許可されていることを確認するために、VMWare ユーザー権限を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4005

メッセージ: サポートされないポリシー形式からのバックアップイメージが指定されました。「PureDisk」のみがサポート対象です。

説明: システムは、稼働中のマウントの作成に失敗しました。

推奨処置: インスタントアクセス機能は、MSDP ストレージサーバーでのみサポートされるため、ポリシーで適切なストレージサーバーが選択されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4006

メッセージ: サポートされないポリシー形式からのバックアップイメージが指定されました。VMware ポリシー形式のみがサポートされます。

説明: システムは、稼働中のマウントの作成に失敗しました。

推奨処置: インスタントアクセス機能は、VMware 作業負荷でのみサポートされるため、適切なポリシー形式が選択されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4007

メッセージ: ストレージサーバー名のフェッチに失敗しました。

説明: システムは、稼働中のマウントを一覧表示できません。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4008

メッセージ: ストレージ Web サーバーからの予期しない応答です。

説明: ストレージ Web サーバーから予期しない応答がありました。

推奨処置: アプライアンス上のストレージ Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4011

メッセージ: 指定された仮想マシン (VM) への単一ファイルのリストアに失敗しました。

説明: シングルファイルリストア中に、指定したファイルが仮想マシンにリストアされませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4012

メッセージ: インスタントアクセスマウントディレクトリの一覧表示に失敗しました。

説明: 参照を試みているときに、システムはディレクトリを一覧表示できません。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4013

メッセージ: インスタントアクセスマウントの削除に失敗しました。

説明: システムは稼働中のマウントを削除できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4014

メッセージ: 無効なインスタントアクセスマウント ID です。

説明: マウント ID が存在しません。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4015

メッセージ: インスタントアクセスマウントの準備が完了していません。後で再試行してください。

説明: この時点で、マウントを削除できません。

推奨処置: 作成されている VM を削除できません。VM の作成プロセスが完了するのを数分間待ってから再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4016

メッセージ: インスタントアクセスマウントからのダウンロード URL の取得に失敗しました。

説明: 1 つのファイルのダウンロードを実行している間に、URL が利用可能になりません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ダウンロードファイルが存在することを確認してください。存在しないファイルはダウンロードできません。
- ダウンロードユーザーが、ファイルをダウンロードするために十分なアクセス権を持っていることを確認します。
- ブラウザとメディアサーバー間のネットワーク接続が動作していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4017

メッセージ: ストレージ Web サーバーからの RSA 公開鍵の取得に失敗しました。

説明: 公開鍵を利用できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- サーバーが正しく動作していることを確認します。
- 証明書が有効であることを確認します。
- 証明書にホスト名の不一致がないことを確認します。

公開鍵がまだ利用可能にならない場合は、Web サーバーのログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4019

メッセージ: ストレージサーバーのクレデンシャルのフェッチに失敗しました。

説明: ストレージサーバーのクレデンシャルのフェッチに失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web 管理コンソールがストレージサーバーのクレデンシャルを読み取れることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4020

メッセージ: VMware サーバーのクレデンシャルのフェッチに失敗しました (Failed to fetch VMware server credentials)

説明: VMware サーバーのクレデンシャルのフェッチに失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web 管理コンソールが VMware サーバーのクレデンシャルを読み取れることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4021

メッセージ: 無効なファイルパスが指定されました。(Invalid file path specified.)

説明: ファイルパスが正しくないか、存在しません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ダウンロードファイルが存在することを確認します。存在しないファイルはダウンロードできません。
- ダウンロードユーザーが、ファイルをダウンロードするために十分なアクセス権を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4022

メッセージ: 仮想マシン (VM) のユーザー名またはパスワードが無効です。

説明: シングルファイルリストア API が、ユーザー名またはパスワードが空の要求を受信しました。

推奨処置: ユーザー名とパスワードを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4023

メッセージ: 必要なパラメータ (BIOS UUID、インスタンス UUID、VM 名) のいずれかが無効です。

説明: シングルファイルリストア API が、BIOS UUID、インスタンス UUID、または VM 名が空の要求を受信しました。

推奨処置: 必須パラメータ (BIOS UUID、インスタンス UUID、VM 名) を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4024

メッセージ: 指定された仮想マシン (VM) 名が無効です。

説明: VM の作成を試行するときに、無効な名前が指定されました。

推奨処置: VMを作成するときに、80 文字を超えない、空白以外の名前を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4025

メッセージ: イメージの詳細をフェッチできませんでした。

説明: NetBackup カタログ API から、バックアップ ID に対応する VMware イメージの詳細を取得できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4026

メッセージ: バックアップイメージはインスタントアクセスをサポートしていません。(Backup image does not support instant access.)

説明: バックアップイメージはインスタントアクセスをサポートしていません。イメージがサポート対象のストレージにあることを確認してください。

推奨処置: サポート対象のストレージ (メディアサーバー重複排除プール (MSDP)) にイメージをバックアップしてください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4027

メッセージ: インスタントアクセスマウントの作成に失敗しました。

説明: インスタントアクセスマウントの作成に失敗しました。インスタントアクセスマウントの最大数に達しました。

推奨処置: インスタントアクセスマウントの数を減らし、操作を再試行してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4028

メッセージ: メディアサーバー重複排除プールのメタデータの再ロードに失敗しました。(Failed to reload Media Server Deduplication Pool metadata.)

説明: システムはメディアサーバー重複排除プールのメタデータを再ロードしませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4029

メッセージ: Amazon S3 からのイメージの取得に失敗しました。

説明: システムは Amazon S3 からイメージを取得しませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4030

メッセージ: 内部 API コールが失敗しました。

説明: 内部 API コールが失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4031

メッセージ: カタログへの内部 API コールが失敗しました。

説明: カタログへの内部 API コールが失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4032

メッセージ: ストレージプラットフォーム Web サービス (SPWS) からのバージョンの取得に失敗しました。選択した MSDP ストレージサーバーで、NGINX が実行され、正しく構成されていることを確認してください。(Failed to get version from the Storage Platform Web Service (SPWS). Ensure that NGINX is running and configured correctly on the selected MSDP storage server.)

説明: NetBackup マスターは MSDP ストレージサーバーで実行している SPWS サービスからバージョンを取得できません。

推奨処置: NetBackup Appliance について、NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。独自構築 NetBackup ストレージサーバーについては、NGINX がインストールされ、実行されていることを確認してください。作業負荷に応じて、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』または『NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド』を参照して、インスタントアクセスの詳細な手順を確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4033

メッセージ: JSON Web トークンの署名の検証が失敗しました。

説明: JSON Web トークンの署名の検証が失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4034

メッセージ: インスタントアクセス操作の NetBackup ジョブの作成に失敗しました。

説明: インスタントアクセス操作の NetBackup ジョブの作成に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4035

メッセージ: インスタントアクセス操作の NetBackup ジョブの更新に失敗しました。

説明: インスタントアクセス操作の NetBackup ジョブの更新に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4036

メッセージ: NetBackup インスタントアクセスジョブの詳細のフェッチに失敗しました。

説明: NetBackup インスタントアクセスジョブの詳細のフェッチに失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4037

メッセージ: インスタントアクセス仮想マシン (VM) の削除に失敗しました。

説明: インスタントアクセス仮想マシン (VM) の削除に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4038

メッセージ: インスタントアクセスフォルダの属性の取得に失敗しました。

説明: インスタントアクセスフォルダの属性の取得に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4039

メッセージ: 必要なパラメータパスが無効です。

説明: 必要なパラメータパスが無効です。

推奨処置: パスパラメータを修正し、操作を再試行してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4040

メッセージ: ストレージサーバーに以前のバージョンの NetBackup があります。

説明: ストレージサーバーに以前のバージョンの NetBackup があります。

推奨処置: ストレージサーバーを最新の NetBackup バージョンにアップグレードします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4041

メッセージ: ユニバーサル共有を作成できませんでした。

説明: ユニバーサル共有を作成できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4042

メッセージ: インスタントアクセスユニバーサル共有の詳細をフェッチできませんでした。

説明: インスタントアクセスユニバーサル共有の詳細をフェッチできませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4043

メッセージ: インスタントアクセスユニバーサル共有の一覧をフェッチできませんでした。(Failed to fetch the instant access universal share list.)

説明: インスタントアクセスユニバーサル共有の一覧をフェッチできませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4044

メッセージ: インスタントアクセスユニバーサル共有を削除できませんでした。(Failed to delete the instant access universal share.)

説明: インスタントアクセスユニバーサル共有を削除できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4045

メッセージ: ユニバーサル共有機能はサポートされていません。(Universal share capability is not supported.)

説明: ユニバーサル共有機能はサポートされていません。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4046

メッセージ: 資産情報のフェッチに失敗しました。(Failed to fetch asset information.)

説明: 資産情報のフェッチに失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4047

メッセージ: ストレージプラットフォーム Web サービスへの ping に失敗しました。(Failed to ping Storage Platform Web Service.)

説明: ストレージプラットフォーム Web サービスへの ping に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4048

メッセージ: インスタント同期 VM の作成に失敗しました。(Failed to create the instant sync VM.)

説明: インスタント同期 VM の作成に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4049

メッセージ: インスタント同期 VM の詳細をフェッチできませんでした。(Failed to fetch instant sync VM details.)

説明: インスタント同期 VM の詳細をフェッチできませんでした。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4050

メッセージ: インスタントアクセスの構成に失敗しました。(Failed to configure instant access.)

説明: インスタントアクセスの構成に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4105

メッセージ: ファイルハッシュの検索の作成に失敗しました。(Failed to create file hash search.)

説明: NetBackup が構成済みファイルハッシュサーバーでファイルハッシュ検索を作成できませんでした。この状態コードは、プライマリサーバーがファイルハッシュサーバーへのファイルハッシュ検索要求の送信に失敗した場合、または検索の作成時にファイルハッシュサーバーが予期しないエラーを返した場合に返されます。これは、ファイルハッシュサーバーが利用できない、誤って設定されている、または検索要求を処理できない場合に発生する可能性があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. プライマリサーバーで、次のコマンドを実行してファイルハッシュサーバーを構成または再構成します。

   ```
   nbfhsmgr -config file_hash_server_hostname
   ```

2. 構成されたファイルハッシュサーバーがオンラインで、プライマリサーバーからアクセスできることを確認します。
3. ファイルハッシュサーバーでファイルハッシュサービスを再度開始し、操作を再試行します。
4. アクティビティモニター Web UI で、失敗したファイルハッシュ検索ジョブを開き、ジョブの詳細と進捗ログで原因となっているエラーメッセージを確認します。
5. NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc)、プライマリサーバーの nbwebservice ログおよびファイルハッシュサーバーの関連するログに、ファイルハッシュ検索要求に関連したエラーがないか確認します。
6. 構成または接続の問題を解決した後、ファイルハッシュ検索操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4200

メッセージ: 操作に失敗しました: スナップショットのロックを獲得できません。

説明: スナップショットはストレージユニットへのリストア、参照、コピーなどの別の操作によってアクセス中です。

推奨処置: スナップショットが別の操作によって使われなくなってから、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4201

メッセージ: スナップショット方式の構成が間違っているか、スナップショット方式がバックアップ対象エントリの保護に対応していません (Incorrect snapshot method configuration or snapshot method not compatible for protecting backup selection entries)

説明: ポリシーが不正なスナップショット方式を使っているか、このスナップショット方式の前提条件が正しく構成されていません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 該当する場合は、スナップショット方式に必要とされる正しいストレージアレイのクレデンシャルが NetBackup で構成されている。
- スナップショット方式に必要なソフトウェアがクライアント上で正しく構成されている。
- バックアップ選択項目 (たとえば、ファイルシステム) のエントリを保護するスナップショット方式を選択できます。
- バックアップ選択項目で指定されたエントリはポリシーで構成されたスナップショット方式に対応しています。

スナップショット方式の構成について詳しくは、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4202

メッセージ: 無効または互換性のないストレージが構成されました (Invalid or incompatible storage unit configured)

説明: このポリシーに無効または不正なストレージの宛先が構成されました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ポリシーに使われたストレージの宛先に互換性がある。たとえば、スナップショット方式 OST_FIM は、ストレージの宛先として構成した SLP 上のみで機能します。
- スナップショット方式に提供された構成パラメータが正しい。たとえば、スナップショットのリソースが正しく、構成されたスナップショット方式の構成パラメータが正しいことを検証します。
- バックアップ選択項目 (たとえば、ファイルシステム) のエントリを保護するスナップショット方式を選択できます。
  スナップショット方式の構成について詳しくは、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4203

メッセージ: バックアップ選択項目ファイルリストが無効かサポートされていません (Invalid or unsupported backup selection filelist)

説明: 構成されたスナップショット方式のバックアップ選択項目で互換性のないエントリが見つかりました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- バックアップ選択項目にあるエントリはスナップショット方式で保護することができます。たとえば、HP EVA ディスクの最上部に作成されたファイルシステムは IBM 用のスナップショット方式を使って保護できません。
- ボリュームは NAS ボリュームに指定されたパスにマウントされます (NFS マウントポイントまたは CIFS 共有)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4204

メッセージ: 互換性のないクライアントが見つかりました (Incompatible client found)

説明: クライアント上に無効なユーザーまたは互換性のないクライアントが見つかりました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントサービスに登録されたものと同じドメインユーザーでクライアントにログインしている。
- 一次クライアントおよびターゲットまたはリモートクライアントに互換性がある。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4205

メッセージ: 不正なクレデンシャルが見つかったか、クレデンシャルが見つかりませんでした (Incorrect or no credentials found)

説明: NetBackup が構成されたスナップショット方式をサポートするソフトウェアを見つけられないか、無効なクレデンシャルが指定されています。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NDMP ポリシーを作成するか、NAS データムーバーを構成した場合、NDMP ホストが正しいクレデンシャルで設定されていることを確認してください。
- ディスクアレイホストまたはストレージサーバーのクレデンシャルが正しい。

- サードパーティソフトウェアまたは設定されたスナップショット方式で必要とされるサポートソフトウェアがクライアントにインストールされている。
  スナップショット方式について詳しくは、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4206

メッセージ: 認証エラーが発生しました。NetBackup Client Service is running as Local System, this is likely incorrect.)

説明: アクセス可能なバックアップ対象がなく、NetBackup Client Service がローカルシステムとして実行されています。これらの条件は、ストレージサーバーにアクセスする資格情報がない可能性を示しています。

推奨処置: ストレージサーバーにアクセスできる正しいクレデンシャルを使用するため、Windows のサービスの NetBackup Client Service を更新してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4207

メッセージ: スナップショットのメタデータまたは状態ファイルをフェッチできませんでした (Could not fetch snapshot metadata or state files)

説明: NetBackup クライアントが必要とするスナップショットメタデータが不明か、NetBackup マスターサーバーからフェッチできません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントが NetBackup マスターと通信できる。
- NetBackup クライアント上の状態ファイルの場所に書き込みアクセス許可がある。
  NetBackup 状態ファイルは通常、NetBackup クライアント上の次の場所にあります。
  Windows: `C:¥Program Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥online_util¥fi_cntl¥`
  UNIX: `/usr/openv/netbackup/online_util/fi_cntl`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4208

メッセージ: スナップショットメタデータまたは状態ファイルを送信できませんでした (Could not send snapshot metadata or statefiles)

説明: クライアントが作成するスナップショットメタデータは、マスターサーバー上では転送できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントが NetBackup マスターと通信できる。
- NetBackup クライアント上の状態ファイルの場所に書き込みアクセス許可がある。NetBackup 状態ファイルは通常、NetBackup クライアント上の次の場所にあります。
  Windows: `C:¥Program Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥db¥snapshot¥<client>`
  UNIX: `/usr/openv/netbackup/db/snapshot/<client>`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4209

メッセージ: スナップショットメタデータまたは状態ファイルを作成できません (Snapshot metadata or statefiles cannot be created)

説明: スナップショットメタデータを作成できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ログに、メタデータの内容の作成を制限するこのエラーに先行するエラーが含まれている。
- NetBackup クライアント上の状態ファイルの場所に書き込みアクセス許可がある。NetBackup 状態ファイルは通常、NetBackup クライアント上の次の場所にあります。
  Windows: `C:¥Program Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥db¥snapshot¥<client>`
  UNIX: `/usr/openv/netbackup/db/snapshot/<client>`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4210

メッセージ: スナップショットメタデータの内容が不正か、内容が見つかりません (Incorrect or no content found in snapshot metadata)

説明: スナップショット状態ファイルの内容が不正または無効です。

推奨処置: 指定された状態ファイルがホストにあることを検証します。NetBackup 状態ファイルは、通常、次の NetBackup クライアントディレクトリにあります。

- Windows: `C:¥Program Files¥Cohesity NetBackup¥NetBackup¥online_util¥fi_cntl¥`

- UNIX: `/usr/openv/netbackup/online_util/fi_cntl`

支援が必要な場合は、Cohesity NetBackupサポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4211

メッセージ: スナップショットにアクセスできません。または、無効です (Snapshot not accessible or invalid snapshot)

説明: スナップショットにアクセスできません。ターゲットデバイスは複数のホストバスアダプタ (HBA) にマップされる場合があります。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup クライアントとストレージ管理ホストアレイ間の接続はそのままになっている。
- ホスト固有のアクセス権がストレージアレイで有効になっている。
- スナップショットがストレージアレイまたはファイラにある。
- スナップショットターゲットデバイスが複数の HBA にマップされていない。マップされている場合は、HBA の 1 つのマップを解除してから続行します。マルチパスソフトウェアを必要とするデバイスに対して複数のパスをサポートします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4212

メッセージ: スナップショットの再作成に失敗しました (Recreation of snapshot failed)

説明: スナップショットを再作成できません。このエラーは Windows プラットフォームでのスナップショットのリストア中に発生することがあります。

推奨処置: 操作のリストアフローが成功しているかを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4213

メッセージ: スナップショットのインポートに失敗しました (Snapshot import failed)

説明: スナップショットのインポート操作が失敗したか、スナップショット I/O スタックの構築と有効化に失敗しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- クライアント上でスナップショットデバイスにアクセスできる。
- クライアントにスナップショット I/O スタックを構築するのに必要なすべてのソフトウェアがある。これは、保護する必要があったエンティティを持つプライマリクライアントの I/O スタックと同等です。
- NetBackup クライアントとマスターサーバー間の通信がそのままである。
- コピーバックリストアのターゲットデバイスが複数の HBA にマップされていない。マップされている場合は、HBA の 1 つのマップを解除してから続行します。1 つのデバイスに対して複数のパスをサポートするにはマルチパスソフトウェアが必要です。
- iSCSI のセッションがノードとターゲットの間で確立されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4214

メッセージ: スナップショットのマウントに失敗しました (Snapshot mount failed)

説明: スナップショットをマウントできないか、スナップショットの後続の操作のセットを実行できません。NetBackup ジョブを完了するには、たとえば、該当する場合はスナップショットからのバックアップ、インデックス、リストアなど、スナップショットを次の操作セットにアクセスできるようにする必要があります。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 指定したスナップショットをマウントするために必要なファイルシステム形式を使用できる。
- 必要なアクセス許可はクライアント上にあり、スナップショットの読み込みや検索ができる。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4215

メッセージ: スナップショットの削除に失敗しました (Snapshot deletion failed)

説明: このエラーの原因として考えられるものは、次のとおりです。

- クラウドプロバイダのクレデンシャルが更新されていません。
- クラウドプロバイダのスナップショットの制限を超過しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 適切なプラグインが適切なクレデンシャルを使用して Web UI に構成されていることを確認します。クレデンシャルが変更された場合は、Web UI から確実に更新します。

- クラウドプロバイダのスナップショットの制限が十分であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4216

メッセージ: スナップショットのクリーンアップに失敗しました (Snapshot cleanup failed)

説明: スナップショットを作成するさまざまなサポートピースをクリーンアップできません。

推奨処置: ファイルを削除するアクセス許可を有効にしたかを検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4217

メッセージ: スナップショットリストアに失敗しました (Snapshot restore failed)

説明: スナップショットからデータをリストアできません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- スナップショットがある。
- リストアディレクトリまたはフォルダのファイルを上書きまたは作成するのに十分なアクセス許可がある。
- NetBackup とストレージアレイファイラ間の通信がそのままになっている。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4218

メッセージ: スナップショットのデポートに失敗しました (Snapshot deport failed)

説明: 要求されたスナップショットを NetBackup クライアントからデポートまたはマスクできません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- スナップショットがある。
- NetBackup とストレージアレイファイラ間の通信がそのままになっている。
- ストレージサーバーに必要なクレデンシャルが NetBackup に指定されている。
- サードパーティソフトウェアに必要なソフトウェアおよびライセンスが構成されている。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4219

メッセージ: コマンド操作が失敗しました: サードパーティコマンドまたは API 実行に失敗しました (Command operation failed: Third party command or API execution failed)

説明: サードパーティコマンドまたは API の実行に失敗しました。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- NetBackup ログから、失敗したコマンドまたは API を特定します。
- これらのコマンドを実行するのに必要なアクセス許可があることを確認します。
- 可能な場合は、手動でコマンドを実行し、エラーについてのより詳細な情報を収集します。
- 構成を確認し、失敗したコマンドまたは API の原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4220

メッセージ: コマンド操作が失敗しました: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました (Command operation failed: System command or API execution failed)

説明: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup ログから、失敗したコマンドまたは API を特定します。
- コマンドの実行の結果として報告されたエラーに基づいて修正措置を講じます。
- これらのコマンドを実行するのに必要なアクセス許可があることを確認します。
- 可能な場合は、手動でコマンドを実行し、エラーについてのより詳細な情報を収集します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4221

メッセージ: 無効な、またはサポートされない構成が見つかりました

説明: NetBackup で無効な、またはサポートされない構成が見つかりました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- NetBackup ログから、失敗したエンティティおよびエラーを特定してください。
- 構成が正しくセットアップされているかを判断するため、サポートに関する表を調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4222

メッセージ: 操作に失敗しました: スナップショットを撮るためのポリシーロックを獲得できません (Operation failed: Unable to acquire policy lock to take snapshot)

説明: ポリシーが重複したスナップショットジョブを生成しました。あるスナップショットジョブが特定のポリシーで実行中のときに、同じポリシーが 2 番目のスナップショットジョブを要求しています。

推奨処置: 手動での操作は必要ありません。NetBackup NBPEM (Policy Execution Manager) は、マスターサーバーの［ジョブの再試行の遅延 (Job retry delay)］設定に基づいてジョブを再試行します。このプロパティを表示または設定するには、［ホストプロパティ (Host Properties)］>［マスターサーバー (Master Server)］>［グローバル属性 (Global Attributes)］の順に移動します。重複したスナップショットジョブが実行中でないことを確認してもこのエラーが解消されない場合は、NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4223

メッセージ: 操作は完了していません (Operation not completed)

説明: ユーザーが VM インスタントリカバリ操作を完了するために `nbrestorevm -ir_done` コマンドを実行しましたが、VM は NetBackup ストレージからの動作を続けています。Storage vMotion が実行中またはまだ開始されていないため、操作を完了できません。

推奨処置: Storage vMotion の実行が完了し、VM が NetBackup ストレージから実稼働データストアに移動したことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4224

メッセージ: STS の内部エラーです (STS Internal Error)

説明: 次のいずれかが STS プラグイン内で発生しました。

- クライアントまたはストレージサーバーのシステムメモリ不足。
- ビジー状態のストレージサーバー。
- ストレージサーバーと STS プラグイン間の通信で無効な要求を受信しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4225

メッセージ: ストレージサーバーでクライアントまたはメディアが権限がない操作を試行しました (Unauthorized operation attempted by client or media on storage server)

説明: ストレージサーバーが権限のない要求を受信したか、ホストを識別しませんでした。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 有効なストレージサーバーのクレデンシャルが構成されている。
- クライアントにはベンダーの仕様ごとに必要な権限がある。詳しくは、『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4226

メッセージ: ストレージサーバーとの通信エラーが発生しました。(Communication failure occurred with storage server.)

説明: NetBackup は Snapshot Manager と通信できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 正しい Snapshot Manager が、正しいポート番号で登録されていることを確認します。
- Snapshot Manager ホストの名前またはポート番号が変更された場合は、NetBackup でも更新されていることを確認します。
- Snapshot Manager のホスト名がメディアサーバーからアクセス可能であることを確認します。確認するには、メディアサーバーのブラウザから Snapshot Manager ホストへのログオンを試行します。
- メディアサーバーまたは Snapshot Manager の証明書が無効または欠落しているかどうかを確認します。`/cloudpoint/flexsnap.conf` ファイルに次のエントリを追加することで、Snapshot Manager が証明書の生成をスキップするように構成されている場合、証明書は生成されません。`[client_registration]`

  `skip_certificate_generation = yes`

  証明書を生成するには、次の手順を実行します。

- プライマリサーバーのホスト名が Snapshot Manager からアクセス可能であることを確認します。これを確認するには、Snapshot Manager にログオンし、ポート 1556 と 443 を使用してプライマリサーバーに telnet で接続します。
- 証明書のインストールおよび NetBackup との通信にプライベート名を使用する場合 (`/etc/hosts` を使用して解決が必要) は、次の手順に従います。
  - `/cloudpoint/openv/etc/hosts`ファイルに `/etc/hosts` ファイルと同様のエントリを追加します。
  - Snapshot Manager のインストール時と Snapshot Manager の登録時に同じプライベート名を使用するようにします。

- `/cloudpoint/flexsnap.conf` ファイルから次のエントリを削除します。

  ```
  [client_registration] skip_certificate_generation = yes
  ```

- クラウド作業負荷で Snapshot Manager を再登録します。これは、Web UI の［Snapshot Manager］タブにある［編集 (Edit)］オプションを使用して行います。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4227

メッセージ: STS プラグインエラーが発生しました (STS Plug-in error occurred)

説明: STS プラグインのフレームワークが機能していません。

次のいずれかの状態が発生しています。

- 必要な STS ライブラリをロードまたは初期化できません。
- 無効なプラグイン操作が試みられています。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4228

メッセージ: ストレージサーバーまたはプラグインのバージョンが一致しません (Storage server or plug-in version mismatch)

説明: STS プラグインのフレームワークが互換性のないバージョンのストレージサーバーを認識しました。

推奨処置: クライアントおよびメディアサーバーが、そのバージョンのストレージサーバーをサポートしているかを検証してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4229

メッセージ: ストレージサーバーがリソースまたは機能の不足を検出しました (Insufficient resources or capabilities found by storage server)

説明: ストレージサーバーに十分なリソースまたは利用できる機能がありません。たとえば、ストレージサーバーが管理するストレージに十分な領域がありません。また、適切な機能のライセンスがストレージサーバー上で有効になりません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ストレージサーバーはバックアップ対象から識別されたデバイスを認識する。
- 必要な機能がストレージ上で有効になる。
- 必要な機能ライセンスがストレージに適用される。
- ストレージサーバーは、NetBackup がトリガしたスナップショットに対して十分なストレージ領域を備えている。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4230

メッセージ: ストレージトポロジーが無効か、ストレージサーバーの構成エラーです (Invalid storage topology or storage server configuration error)

説明: 無効な構成が STS プラグイン失敗の原因になっています。このエラーの例としては、無効なトポロジー構成、ストレージ構成、サーバー構成などがあります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ストレージがベンダーの仕様に従って正しく構成されているか検証します。
- 基礎となるストレージがストレージのライフサイクルポリシーで指定されたトポロジーをサポートしているか検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4231

メッセージ: STS の予期しないエラー (STS Unexpected Error)

説明: STS のプラグインが予期しないエラーで失敗しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4232

メッセージ: 検出問い合わせ URI が無効です (Invalid Discovery Query URI)

説明: 検出ポリシーの問い合わせ URI を解析できません。

推奨処置: ポリシーエディタを使用して、URI に構文エラーがないか調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4233

メッセージ: vCloud には BIOS UUID クライアント参照が許可されません (BIOS UUID client reference not allowed for vCloud)

説明: vCloud は一意でないので、BIOS UUID をクライアント参照として使用することは許可されません。

推奨処置: ポリシーには別の形式のクライアント参照 (おそらくはインスタンス UUID) を選択してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4234

メッセージ: VMware サーバーのログインエラー (VMware server login failure)

説明: 設定されたユーザー名、パスワード、およびポートでサーバーへのログインが許可されません。

推奨処置: 指定されたサーバー用に設定されたクレデンシャルを修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4235

メッセージ: vCloud が有効でないときに vCloud キーワードが使用されました (vCloud keyword used when vCloud not enabled)

説明: ポリシーが vCloud 関連キーワードを使用しますが、vCloud サーバークレデンシャルが構成されていません。

推奨処置: vCloud Director ークレデンシャルを構成するか、ポリシーの問い合わせから vCloud 関連のキーワードを削除してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4236

メッセージ: vCloud ポリシーに複数の組織が含まれます (vCloud policy includes multiple organizations)

説明: ポリシーの問い合わせの実行で複数の vCloud 組織から VM が選択され、それがポリシーで有効化されていません。

推奨処置: 単一の組織からの VM のみ選択するようにポリシーの問い合わせを修正するか、複数の組織からの VM を有効化するようにポリシーを変更してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4237

メッセージ: クライアントがポリシーの必要条件を満たしません (Client does not meet policy requirements)

説明: VM が選択されたクライアント参照の要件を満たしていないので、VM をバックアップできません。

推奨処置: 構成されたクライアント参照の要件を満たすように VM を修正するか、別のクライアント参照を使うようにポリシーを変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4238

メッセージ: ポリシーにサーバーのクレデンシャルが構成されていません (No server credentials configured for policy)

説明: 検出ポリシーは、サーバーがポリシーを実行するためにクレデンシャルを必要とします。

推奨処置: 検出ポリシーのタイプに対して、適切なサーバークレデンシャルが入力されていることを検証してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4239

メッセージ: 仮想マシンが見つかりません (Unable to find the virtual machine)

説明: このエラーの原因:

- 仮想マシン名が正しく入力されていない (名前のスペルミスなど)。
- 仮想マシンの識別子タイプがポリシーに対して正しく選択されていない。たとえば、仮想マシンの表示名を入力したが、ポリシーの仮想マシン識別子が仮想マシンのホスト名を示している場合などです。
- 仮想マシンの名前が、変更、削除、または移動している。

推奨処置: 次のことを検証します。

- ポリシーに対して構成された仮想マシン識別子と、ポリシーの仮想マシンに入力した名前(表示名、ホスト名、UUID)が一致している。
- VMware ユーザーインターフェースで仮想マシンを表示できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4240

メッセージ: サポートされていない操作です (Operation not supported)

説明: 考えられる原因は、製品のプログラミングエラーです。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4241

メッセージ: ブロックレベルの増分はこのデバイスではサポートされていません

説明: バックアップポリシーの[VMware]タブでは、[Block Level Incremental バックアップを有効にする (Enable block-level incremental backup)]オプションにチェックマークが付いています。

NetBackup のブロックレベルの増分バックアップ (BLIB) には、VMware CBT (Changed Block Tracking) が必要です。VMware CBT (Changed Block Tracking) をサポートするため、VMware 仮想マシンのハードウェアはバージョン 7 以降であることが必要です。そうしないと、NetBackup のブロックレベルの増分バックアップを使用できません。

推奨処置: 仮想マシンのハードウェアをバージョン 7 以降にアップグレードします (該当する VMware のマニュアルを参照)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4243

メッセージ: VirtualCenter サーバーに接続できません (Unable to connect to VirtualCenter server)

説明: VirtualCenter サーバーに接続できません。このエラーの原因:

- 同じ VirtualCenter サーバーを使用して開始された VM スナップショットジョブが多すぎると、VirtualCenter サーバーの接続の上限を超えます。
- VMware バックアップホストと VirtualCenter サーバー間のネットワーク接続が断続的です。

推奨処置: VM スナップショットジョブが多すぎる場合は、VMware の[リソース制限 (Resource Limit)]を使用して並列実行ジョブを制限します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4245

メッセージ: バックアップ対象のパス名が無効です (Invalid pathname for backup selection)

説明: NetApp クラスタ Data ONTAP の NDMP パス名は、`/vserver_name/vol_name` の形式であることが予期されます。

推奨処置: パス名には IP アドレスを使用できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4246

メッセージ: 要求された操作は部分的に成功しました。(The requested operation was partially successful.)

説明: このエラーの潜在的な原因は次のとおりです。

- すべてのバックアップ対象が選択したすべてのクライアントに適用されるわけではない
- バックアップ対象が無効なボリューム名を参照している
- バックアップ対象がディレクトリを参照している

推奨処置: 次の手順を実行します。

- 各クライアントに個別のポリシーを作成する
- Vserver の正しいボリューム名を指定する
- ボリューム内のディレクトリではなく、ボリューム名を指定する

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4248

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作が内部エラーにより失敗しました (Index from snapshot operation failed with an internal error)

説明: スナップショットからのインデックス操作が内部エラーにより失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを調べてください。インデックスデータベースを作成するために十分な容量がメディアサーバーにあることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4249

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。カタログはすでに存在します (Index from snapshot operation failed, catalog already exists)

説明: 所定のソースイメージに対して作成された完全カタログがすでに存在する場合は、スナップショットからのインデックス操作に失敗します。

推奨処置: 指定したソースイメージに対して既存のカタログがないことを確認してください。詳しくは、NetBackup 管理ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4250

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。子イメージまたはファイル情報を見つけることができません (Index from snapshot operation failed, unable to find child image or file information)

説明: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。インデックス化する必要のあるバックアップ ID の子イメージが見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4251

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。インデックスデータベースへの書き込みに失敗しました。

説明: インデックスデータベースへの書き込み中にメディアサーバーでエラーが発生しました。

推奨処置: 通常、インデックスデータベースは NB_INSTALL_DIR/tmp に作成されます。例: /usr/openv/netbackup/tmp 例: /usr/openv/netbackup/tmpこれは、NetBackup 構成ファイルに SNAPDIFF_DB_PATH を追加することによって上書きできます。インデックスデータベースを作成するために十分な容量がメディアサーバーにあることを確認してください。詳しくは、NetBackup 管理ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4252

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。エントリがバックアップ対象エントリのいずれにも属していません。

説明: インデックス化されるファイルエントリがバックアップ対象エントリのいずれにも属していません。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4253

メッセージ: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。現在および以前のバックアップイメージの SLP バージョンが一致しません。

説明: スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。現在および以前のバックアップイメージの SLP バージョンの不一致があります。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4254

メッセージ: インデックスデータベースを作成するためのパスが無効であるか、見つかりません (Invalid or no path found to create index database)

説明: インデックスデータベースを作成するためのパスが無効であるか、存在しません。このパスは、スナップショット操作からのインデックスにインデックスデータベースを作成するために必要です。

推奨処置: 通常、インデックスデータベースは NB_INSTALL_DIR/tmp に作成されます。例: /usr/openv/netbackup/tmp 例: /usr/openv/netbackup/tmpこれは、NetBackup 構成に SNAPDIFF_DB_PATH を追加することによって上書きできます。定義したパスが存在するかどうか確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4255

メッセージ: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスはユーザーによって無効化されます (Index from snapshot using SnapDiff is disabled by the user)

説明: ユーザーは、NetBackup 構成キー USE_SNAPDIFF で SnapDiff を使ってスナップショット操作からのインデックスを無効化できます。キーの値を 0 に設定すると、SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスが無効化されます。

推奨処置: SnapDiff を使用したスナップショットからのインデックスを有効にするには、bpsetconfig CLI を使用して NetBackup 構成キー USE_SNAPDIFF の値を変更します。このキーの指定可能な値は次のとおりです。

- 0 に設定すると、SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスを実行しません。
- 1 に設定すると、増分スケジュールに対してのみ、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスが有効になります。
- 2 に設定すると、すべてのスケジュール形式に対して、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスが有効になります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4256

メッセージ: スナップショットからのインデックスはバックアップ対象と関連付けられたファイルシステムでサポートされていません (Index from snapshot is not supported for the file system associated with backup selection)

説明: スナップショットからのインデックスがバックアップ対象エントリのいずれかと関連付けられたファイルシステムでサポートされません。

推奨処置: 現時点では、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックス操作は NFS と CIFS ファイルシステムでサポートされます。また、ポリシー形式が NDMP である場合もサポートされます。SnapDiff を使ったスナップショット操作からのインデックスをサ

ポートするファイルシステムを含むバックアップ対象エントリを使ってポリシーを変更してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4257

メッセージ: スナップショットからのインデックスはストレージサーバーでサポートされていません (Index from snapshot is not supported for the storage server)

説明: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスは、スナップショットの作成に使われているストレージサーバーでサポートされません。

推奨処置: SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスがストレージサーバーでサポートされていることを確認してください。サポートされていない場合は、SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスをサポートするストレージサーバーに関連付けられた STU に SLP を変更してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4258

メッセージ: Hyper-V VM スナップショットの取得中に一時的なエラーが発生しました

説明: Hyper-V VSS ライターで一時的なエラーが発生しました。VM が別の競合する操作を実行しているか、移動している可能性があります。バックアップ処理が再試行されると、エラーは再び発生しない可能性があります。

推奨処置: 詳しくは、Hyper-V VMMS のイベントログ (ログ名: Microsoft-Windows-Hyper-V-VMMS/Admin) を確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4259

メッセージ: VMware ルックアップサービスで VirtualCenter ホスト名の検出に失敗しました

説明: vCenter の Platform Services Controller のシステム名は vCenter の NetBackup の仮想マシンのサーバー名に解決できません。

推奨処置: NetBackup の仮想マシンのサーバー名として Platform Services Controller で構成されたシステム名を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4260

メッセージ: SSO ログインエラーが発生しました

説明: VMware シングルサインオンサービスにログオンしようとして、ログインに失敗しました。

推奨処置: NetBackup 仮想マシンサーバーで入力した資格情報がシングルサインオン用に認証されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4261

メッセージ: VMware 内部サーバーエラーが発生しました

説明: このメッセージは一般的な VMware の内部サーバーエラーを示します。このエラーの既知の原因は、vCenter で定義されているタグまたはカテゴリに説明がないことです。

推奨処置: エラーメッセージと関連する VMware ナレッジベースの記事に示されている詳細を参照してください。NetBackup VxUL のログ (`libvcloudsuite`) を確認してください。

関連する VMware ナレッジベースの記事: http://kb.vmware.com/kb/2124204

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4262

メッセージ: VMware vCloud Suite API エラーが発生しました

説明: このメッセージは一般的な VMware API エラーを示します。このエラーの既知の原因として、NetBackup マスターサーバーまたは仮想マシンの自動選択を実行する他のホストが VMware Platform Services Controller にネットワーク接続していない場合が挙げられます。

推奨処置:『vCenter Server 6.0 のデプロイ ガイド』と関連する VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

関連する VMware ナレッジベースの記事: http://kb.vmware.com/kb/2106283

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4263

メッセージ: VMware SOAP API エラーが発生しました

説明: このメッセージは NetBackup が VMware シングルサインオンサービスに接続するように試みたときのエラーを示します。このエラーの既知の原因として、時計の設定が仮想マシンの選択で使われる NetBackup ホストと、vCenter との間で異なっている場合があります。

推奨処置: エラーメッセージと関連する VMware ナレッジベースの記事に示されている詳細を参照してください。NetBackup VxUL のログ (`libvcloudsuite`) を確認してください。

VMware ナレッジベースの記事: http://kb.vmware.com/kb/2125193

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4264

メッセージ: TagView XML の処理中に予想外のエラーが発生しました

説明: このメッセージは VMware タグ情報を含んでいる XML ファイルが破損していることを示します。

推奨処置: 問い合わせのテストからエラーが起こる場合は、操作を再試行します。親 (検出) ジョブが失敗する場合は、失敗しているポリシークライアントのタブで[VMware の選択の問い合わせ結果を再利用する (Reuse VMware selection query results)]の値を 0 にして、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4265

メッセージ: タグをサポートしていない VMware 仮想マシンサーバーが見つかりました

説明: このメッセージは ESX Server がタグをサポートしない仮想マシンサーバーのリストに含まれていることを示しています。

推奨処置: 詳しくは、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4266

メッセージ: タグ API を提供していない VMware 仮想マシンサーバーが見つかりました

説明: このメッセージは 5.1 または 5.5 vCenter が VMware タグ API を提供していない仮想マシンサーバーのリストに含まれていることを示しています。

推奨処置: 詳しくは、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4267

メッセージ: Java ランタイム環境の初期化に失敗しました

説明: このエラーメッセージは、NetBackup が VMware タグ情報にアクセスするために必要な Java ランタイム環境が見つからないことを示します。

推奨処置: NetBackup クライアントインストールに対応するバージョンの NetBackup リモート管理コンソールをインストールしてください。NetBackup リモート管理コンソールのバージョンは NetBackup Client のバージョンと一致する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4268

メッセージ: リソースプールの情報の取得に失敗しました

説明: NetBackup は vSphere からリソースプールのプロパティを取得できませんでした。

推奨処置: リソースプールのパスを調べてください。パスが正しくない場合は、宛先の vCenter サーバーに存在する正しいリソースプールのパスを指定してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4269

メッセージ: 同じ ID を持つ複数の仮想マシンが見つかりました

説明: 同じ表示名を持つ複数の仮想マシンが宛先リソースプールまたは vApp に存在しています。NetBackup は上書きされる必要がある仮想マシンを識別できません。

推奨処置: リストア用の表示名を選択するか、宛先のリソースプールまたは vApp にある仮想マシンの名前を変更してください。同じ表示名を持つ仮想マシンは、宛先リソースプールまたは vApp に 1 つだけ存在できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4270

メッセージ: 仮想マシンのスナップショットがあるため、ポリシーオプションはバックアップの中止を指定します

説明: バックアップされている仮想マシンには既存のスナップショットがあり、バックアップポリシーは NetBackup がこの環境でのバックアップを中止するよう要求します。

推奨処置: スナップショットを削除してバックアップジョブを再起動する、またはポリシーを修正して既存のスナップショットを無視するか削除するようにします。NetBackup は NetBackup によって作成された既存のスナップショットのみを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4271

メッセージ: 仮想マシンのスナップショットの最大数を超えています

説明: NetBackup は、仮想マシンに最大許容数より多いスナップショットが存在するため、既存の仮想マシンのスナップショットを削除できませんでした。

推奨処置: 仮想マシンのスナップショットを削除して、バックアップジョブを再度実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4272

メッセージ: 差分ファイルの最大数を超えています

説明: 仮想マシンのディスクの 1 つに差分ファイルの最大許容数より多いファイルがありました。このため、NetBackup は仮想マシンのスナップショットを作成できませんでした。

推奨処置: 仮想マシンのディスクを統合して、バックアップジョブを再度実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4273

メッセージ: 仮想マシンのスナップショット操作のバックアップまたはリストアホストをロックできません

説明: NetBackup はバックアップまたはリストアホストで仮想マシンのスナップショット操作をシリアル化するよう構成されていました。ただし、NetBackup は、許容された時間内でスナップショットのシリアル化を制御するロックを取得できませんでした。

推奨処置: 他に処理中の仮想マシンのスナップショット操作がないときにバックアップジョブを再開してください。NetBackup がロックを高頻度で取得できない場合は、NetBackup のジョブ構成を必要に応じて調整し、仮想マシンのスナップショットを異なる時間または異なるホストで実行できるようにします。または、スナップショットのシリアル化が必要とされないように、NetBackup を再構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4274

メッセージ: 仮想マシンのスナップショットの削除に失敗しました

説明: NetBackup は仮想マシンのスナップショットを削除できませんでした。

推奨処置: 仮想マシンのスナップショットを手動で削除してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4275

メッセージ: 仮想マシンのディスクを統合できない

説明: NetBackup は仮想マシンのディスクを統合できませんでした。NetBackup は次のようにディスクの統合を試みます。

- 仮想マシンのバックアップの開始時に、仮想マシンのスナップショットが作成される前。
- バックアップが完了に近づく中で、仮想マシンのスナップショットが削除された後。

推奨処置: 仮想マシンのディスクを手動で統合して、ジョブを再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4276

メッセージ: 仮想マシンのディスクの情報を取得できません

説明: NetBackup は仮想マシンのディスクの情報を取得できませんでした。

推奨処置: ジョブの詳細と `bpfis` ログにこのエラーに関連する追加情報がないか確認します。エラーの根本原因となる問題を修正して、ジョブを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4277

メッセージ: 仮想マシンのパスがサポートされていない文字を含んでいます

説明: 仮想マシンのパスに、NetBackup がサポートしない文字が含まれています。

推奨処置: サポートされている文字だけを含むように仮想マシンやフォルダパスの名前を変更してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4278

メッセージ: 仮想マシンの情報を取得できません (Unable to retrieve virtual machine information)

説明: NetBackup は仮想マシンの情報を取得できませんでした。

推奨処置: ジョブの詳細と bpfis ログにこのエラーに関連する追加情報がないか確認します。エラーの根本原因となる問題を修正して、ジョブを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4279

メッセージ: 仮想マシンの vCloud 情報を取得できません (Unable to retrieve virtual machine vCloud information)

説明: NetBackup は仮想マシンの vCloud 情報を取得できませんでした。

推奨処置: ジョブの詳細と bpfis ログにこのエラーに関連する追加情報がないか確認します。エラーの根本原因となる問題を修正して、ジョブを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4280

メッセージ: 仮想マシンは独立ディスクまたは Raw デバイスマッピングディスクのみを含んでいます

説明: 仮想マシンが含んでいたのは独立ディスクとRawデバイスマッピングディスクのみのため、NetBackup で保護するデータはありませんでした。

推奨処置: 仮想マシンをバックアップポリシーの選択から削除する、または追加のディスクを含めるよう仮想マシンを修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4281

メッセージ: 仮想マシンは独立ディスクのみを含んでいます

説明: 仮想マシンが含んでいたのは独立ディスクのみでしたので、NetBackup で保護するデータが見つかりませんでした。

推奨処置: 仮想マシンをバックアップポリシーの選択から削除する、または追加のディスクを含めるよう仮想マシンを修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4282

メッセージ: 仮想マシンは Raw デバイスマッピングディスクのみを含んでいます

説明: 仮想マシンが含んでいたのは Raw デバイスマッピングディスクのみでしたので、NetBackup で保護するデータが見つかりませんでした。

推奨処置: 仮想マシンをバックアップポリシーの選択から削除する、または追加のディスクを含めるよう仮想マシンを修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:4283

メッセージ: ディスク識別子の処理中にエラーが検出されました

説明: NetBackup は同じ UUID を持つ複数の仮想マシンディスクに遭遇しました。

推奨処置: 仮想マシンを修正して、そのディスクの UUID がまったく他のどの仮想マシンの UUID と重複しないようにしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4287

メッセージ: 仮想マシンの NetBackup スナップショットが存在するため、ポリシーオプションはバックアップの中止を指定しています。

説明: 仮想マシンに NetBackup が作成したスナップショットが 1 つ以上存在し、ポリシーの[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)]オプションでバックアップの中止を指定しています。NetBackup が作成したスナップショットの名前は NBU_SNAPSHOT または NBU_RESTORE という文字列で始まります。

RHV を使用している場合、ディスクがロックされた状態では、RHV マネージャから古いスナップショットを削除できません。次のエラーが表示されます。「**仮想マシンの** NetBackup **スナップショットが存在します** (A NetBackup snapshot of the virtual machine exists)」。

既存の NetBackup スナップショットの原因として考えられるものを次に示します。

- 以前のバックアップによるスナップショットが削除されていない(孤立したスナップショット)。通常はバックアップの完了時に NetBackup によってスナップショットが削除されます。
- 2 つのポリシーが仮想マシンのバックアップを同時に作成しようとする。片方のポリシーのバックアップは、もう一方のポリシーが作成したスナップショットを検出します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 孤立したスナップショットを手動で削除します。
  VMware の場合、VMware vSphere インターフェースを使用して仮想マシンのスナップショットを削除できます。Hyper-V の場合、`nbhypervtool.exe` を使用して、WMI バックアップ方式で作成された NetBackup スナップショットを削除できます。`nbhypervtool.exe` について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。
- リソース制限を変更して該当する VMware または Hyper-V のリソースの負荷を減らすことで、孤立したスナップショットが生じる割合を減らします。[リソース制限 (Resource Limit)]ダイアログは、NetBackup 管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)] > [マスターサーバー (Master Servers)]にあります。VMware と Hyper-V の NetBackup ガイドには、利用可能な設定の説明があります。
- NetBackup ポリシースケジュールを変更し、仮想マシンの同時バックアップを回避します。
- VMware のみ: NetBackup ポリシーの[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)]パラメータを別のオプション ([バックアップを続行 (Continue Backup)]など) に変更します。
- RHV のみ: ディスクのロックを解除する手順については、次の記事を参照してください。https://access.redhat.com/solutions/396753 RHV マネージャから古いスナップショットを手動で削除します。
- Nutanix AHV については、Nutanix AHV の管理者ガイドを参照して、VM のスナップショットを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4290

メッセージ: 仮想マシンスナップショットの作成に失敗しました。仮想マシンは別の操作を実行しているためビジー状態です

説明: 仮想マシンがスナップショット作成プロセスと競合する別の操作を実行しているため、仮想マシンスナップショットを作成できません。これは、仮想マシンがストレージの移行またはライブマイグレーションを実行している場合に発生します。

推奨処置: 仮想マシンが競合する操作を完了してから、スナップショットジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4292

メッセージ: 仮想マシンの現在の状態で変更ブロック追跡を有効化できません

説明: 仮想マシンで変更ブロック追跡がまだ有効になっておらず、1 つ以上のスナップショットがある場合、NetBackup はバックアップ時に変更ブロック追跡を有効にできません。このエラーは、QueryChangedDiskAreas API での VMware の制限が原因で発生します。変更ブロック追跡を有効にするには、仮想マシンにスナップショットがあってはなりません。スナップショットがあると、報告される変更されたブロックが不正確になる可能性があります。

推奨処置: vSphere の仮想マシンにあるスナップショットを削除または統合して、NetBackup が変更ブロック追跡を有効にできるようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4293

メッセージ: 無効なクレデンシャルまたはアクセス違反

説明: ホストまたはサーバーへのアクセス時に指定されたクレデンシャルが無効であるか、ホストまたはサーバーへのアクセスが拒否されました。要求された操作を完了できません。

推奨処置: アクセス対象のホストまたはサーバー用の有効なクレデンシャルが設定されていることと、ユーザーが操作を要求するための有効な権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4294

メッセージ: 仮想マシンが切断されています

説明: ESXi ホストが仮想マシンから切断されています。

推奨処置: ESXi ホストの電源をオンにし、vCenter Server エージェント (vpxa) が稼働していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4295

メッセージ: VM の取得に失敗しました。(VM retrieval failed.)

説明: RHV マネージャから RHV VM の詳細または VM のリストを取得できません。

推奨処置: RHV マネージャのクレデンシャルが正しく、RHV マネージャにバックアップホストからアクセスできることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4296

メッセージ: サーバークレデンシャルが構成されていません。(No server credentials configured.)

説明: RHV 仮想化サーバーのクレデンシャルが構成されていません。

推奨処置: RHV 仮想化サーバーのクレデンシャルを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4297

メッセージ: RHV サーバークレデンシャルを取得できません。(Unable to obtain RHV server credentials.)

説明: RHV サーバークレデンシャルを取得できません。

推奨処置: RHV マネージャにバックアップホストからアクセスできること、バックアップホストが NetBackup 管理コンソールで[RHV アクセスホスト (RHV Access Hosts)]に追加されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4298

メッセージ: RHV マネージャのバージョンを取得できません。(Unable to obtain RHV manager version.)

説明: RHV マネージャのバージョンを取得できません。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップとリストアでサポートされる RHV のバージョンを確認します。このエラーは、RHV のバージョンが変わったときに、一部の RHV API の応答の本文が変更されると表示されることがあります。RHV マネージャの名前を 95 文字以下にします。詳しくはログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4299

メッセージ: トポロジービューツリーを取得できません。(Unable to get topology view tree.)

説明: RHV クラスタのトポロジーの詳細を取得できません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4301

メッセージ: このポリシー形式では、シングルファイルリストアはサポートされていません。

説明: シングルファイルリストアは、このポリシーが作成したバックアップからはサポートされません。

推奨処置: ポリシーでシングルファイルリストアオプションを無効にして、バックアップを再実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4302

メッセージ: 現在のホストでは VM を利用できません。この VM が高可用性 VM である場合、別のホストに移動された可能性があります。

説明: 操作が試行されたホスト上に VM が存在しないため、Hyper-V のマシン関連の操作に失敗しました。このエラーは、スナップショット操作が完了する前に VM がクラスタ内の別のホストに移行された場合に発生する可能性があります。

推奨処置: SCVMM を使用して VM を管理している場合、動的最適化によって移行が頻繁にトリガされることがあります。再試行の頻度が高すぎる場合は、VM の最適化処理を正しく設定し、VM の移行を管理します。VM の最適化処理を設定した後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4307

メッセージ: 認証エラー。NetBackup Legacy Network Service がローカルシステムとして実行中です。(Authentication error. NetBackup legacy network service is running as local system.)

説明: NetBackup Legacy Network Service は、ドメインユーザーでログオンして実行する必要があります。

推奨処置: ドメインユーザーとして NetBackup Legacy Network Service にログオンして、再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4308

メッセージ: 認証エラー。NetBackup Client Service および NetBackup Legacy Network Service のユーザーは同じユーザーである必要があります。(Authentication error. The service user for NetBackup client service and NetBackup legacy network service, must be the same.)

説明: NetBackup Client Service と NetBackup Legacy Network Service は、ドメインユーザーでログオンして実行する必要があります。

推奨処置: ドメインユーザーとして NetBackup Client Service および NetBackup Legacy Network Service にログオンして、再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4309

メッセージ: 認証エラー。サービスのユーザーを取得できません。(Authentication error. Unable to retrieve the user for the service.)

説明: サービスのユーザーを取得できません。NetBackup サービスが実行されていないか、他のエラーが発生しています。

推奨処置: すべての NetBackup サービスを再起動して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4310

メッセージ: スナップショット情報を取得できません。

説明: VSO プラグインからデバイスのスナップショット情報を取得できませんでした。

推奨処置: SAN デバイスのスナップショットを取得中に、内部エラーが発生しました。NetBackup でスナップショット関連の情報を適切に保存できません。bpfis ログを確認して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4311

メッセージ: リストア対象に基づくデバイスリストが、ストレージアレイで検出されたデバイスの一貫性グループと一致しません。ロールバックリストアは一貫性グループのデバイスのデータに影響する可能性があります。

説明: 現在のグループと、現在のスナップショットがある少なくとも 1 つの一貫性グループとの間で不一致が検出されました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ストレージアレイにログオンし、一貫性グループの不整合を修正します。
- リストア処理に進むには、バックアップ、アーカイブおよびリストア GUI で利用できる、[ストレージアレイの一貫性グループの状態が破壊される場合でも強制的にロールバックする (Force rollback even if it destroys the consistency group's state on the storage array)]オプションを使用するか、bprestore コマンドで -force_group_rollback オプションを使用します。このロールバックオプションについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4312

メッセージ: /etc/fstab ファイルに UUID または LABEL 形式のバックアップ対象のエントリが含まれているため、ジョブが完了しませんでした。

説明: この問題は、スナップショットからのバックアップ操作にローカルホストまたはプライマリホストが使用される場合に、Linux で VSO FIM を使用するポリシーで発生します。/etc/fstab ファイルに次の構成のエントリがある場合は、ジョブを完了できません。

- ポリシーのバックアップ対象がマウントポイントとして入力されている場合。
- マウントされる対象デバイスは、ファイルシステムの UUID や LABEL など、ファイルシステムレベルの識別子として入力されます。

推奨処置: プライマリホストの /etc/fstab ファイルの説明に記載された構成を使用する場合は、ポリシーのバックアップホストとして代替クライアントを使用する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4313

メッセージ: /etc/fstab ファイルに UUID または LABEL 形式のバックアップ対象のエントリが含まれているため、ロールバックリストアが完了しませんでした。

説明: この問題は、ロールバックリストアがプライマリホストで実行される場合に、Linux で VSO FIM を使用するポリシーで発生します。/etc/fstab ファイルに次の構成のエントリがある場合は、ジョブを完了できません。

- ポリシーのバックアップ対象がマウントポイントとして入力されている場合。
- マウントされる対象デバイスは、ファイルシステムの UUID や LABEL など、ファイルシステムレベルの識別子として入力されます。

推奨処置: プライマリホストの /etc/fstab ファイルの説明に記載された構成を使用する場合は、ポリシーのバックアップ対象エントリを /etc/fstab から一時的に削除する必要があります。エントリを削除した後、ロールバックリストアを再試行します。ロールバックリストアが成功したら、/etc/fstab ファイルにエントリを追加して戻します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4315

メッセージ: オンプレミスのスナップショットはレプリケートできません。(Cannot replicate the on-premises snapshot.)

説明: オンプレミスアレイにあるストレージボリュームのスナップショットのレプリケーション操作が失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4500

メッセージ: インポートするイメージの数が制限を超えています。(The number of images to be imported is more than the limit.)

説明: 一度にインポートするイメージの数は 64 個までにする必要があります。

推奨処置: インポートするイメージの数を 64 個以下に減らします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4501

メッセージ: イメージのインポートで誤ったメディア ID が使用されています。(Incorrect media ID is used while importing the image.)

説明: イメージのインポートで使用されているメディア ID が正しくありません。

推奨処置: イメージをインポートするときは正しいメディア ID を使用します。情報を取得するには `bpmedialist` コマンドを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4502

メッセージ: マスターサーバーまたはメディアサーバーに関する情報が無効です。(Invalid information about the master or the media server.)

説明: バックアップイメージのマスターサーバーまたはメディアサーバーの名前がイメージのインポートで使用されている名前とは異なる名前になっています。

推奨処置: イメージのインポートで正しいホスト名を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4503

メッセージ: 現在実行中のジョブ数が、実行中のジョブ数の上限を超えています。

説明: アクティブなインポートジョブの数が制限を超えています。デフォルト値は 16 です。

推奨処置: インポートジョブが完了するまで待機してから、新しいインポートジョブが開始されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4504

メッセージ: インポートするイメージの数は 0 です。(The number of images to import is zero.)

説明: インポートするイメージの数は 0 です。

推奨処置: インポートするイメージの数を増やします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4505

メッセージ: 入力されたクライアント名とバックアップ ID のクライアント名が不整合です。(Input client name is inconsistent with client name in backup ID.)

説明: クライアント名がバックアップ ID の名前と一致しません。

推奨処置: イメージをインポートまたはリカバリしたときに、正しいクライアント名とバックアップ ID を使用したことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4506

メッセージ: クラウドストレージからのイメージの取得に失敗しました。(Failed to get images from cloud storage.)

説明: NetBackup がクラウドバックアップイメージを一覧表示しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4507

メッセージ: MSDP メタデータの再ロードに失敗しました。(Failed to reload MSDP metadata.)

説明: NetBackup がイメージをインポートしようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4508

メッセージ: AWS からの AMI ID の取得に失敗しました。(Failed to get AMI IDs from AWS.)

説明: NetBackup がアマゾンウェブサービスから AMI ID を取得しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: アマゾンウェブサービスへのネットワーク接続を確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4509

メッセージ: クラウドの状態の DR を取得できませんでした。(Failed to get DR in cloud status.)

説明: NetBackup がクラウド状態のディザスタリカバリを取得しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4510

メッセージ: クラウド DR LSU 名が指定されていません。(Cloud DR LSU name is not specified.)

説明: クラウド DR 用の複数の論理ストレージユニット (LSU) が NetBackup サーバーで検出されました。RESTful API の要求に、ターゲットクラウド LSU 名が指定されていません。

推奨処置: RESTful API の要求で、クラウド DR の LSU 名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4511

メッセージ: 指定されたクラウド DR LSU 名は存在しません。(Specified cloud DR LSU name does not exist.)

説明: RESTful API の要求で指定されたクラウド LSU 名が NetBackup サーバーに存在しません。

推奨処置: RESTful API の要求で正しい LSU 名を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4512

メッセージ: クラウド DR LSU が存在しません。(No cloud DR LSU is present.)

説明: NetBackup サーバーに構成されているクラウド DR LSU がありません。

推奨処置: NetBackup サーバーにクラウド DR LSU を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4513

メッセージ: 入力する LSU 名は文字列である必要があります。(Input LSU name must be a string.)

説明: RESTful API のポスト本文の入力 LSU 名が、正しい形式の JSON 文字列ではありません。

推奨処置: RESTful API のポスト本文で、LSU の名前を正しい JSON 形式の文字列で設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4514

メッセージ: ストレージサーバーの取得に失敗しました。(Failed to get storage servers.)

説明: NetBackup がストレージサーバー情報を取得しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4515

メッセージ: ストレージサーバー名が指定されていません。(Storage server name is not specified.)

説明: 複数のストレージサーバーが NetBackup サーバーで検出されましたが、RESTful API の要求でターゲットストレージサーバー名が指定されていません。

推奨処置: RESTful API の要求で、クラウド DR のストレージサーバー名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4516

メッセージ: 指定されたストレージサーバー名は存在しません。(Specified storage server name does not exist.)

説明: RESTful API の要求で指定されたストレージサーバー名が NetBackup サーバーに存在しません。

推奨処置: RESTful API の要求で正しいストレージサーバー名を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4517

メッセージ: ストレージサーバーが存在しません。

説明: NetBackup にストレージサーバーが構成されていません。

推奨処置: NetBackup にストレージサーバーを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4518

メッセージ: 入力するストレージサーバー名は文字列である必要があります。(Input storage server name must be a string.)

説明: RESTful API のポスト本文の入力ストレージサーバー名が、正しい形式の JSON 文字列ではありません。

推奨処置: RESTful API のポスト本文で、ストレージサーバーの名前を正しい JSON 形式の文字列で設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4519

メッセージ: アクティブなインポートジョブ数の取得に失敗しました。

説明: NetBackup が NetBackup インポートジョブの状態を取得しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4520

メッセージ: この操作は現在のクラウドプロバイダではサポートされていません。(This operation is not supported on current cloud provider.)

説明: 要求された操作はクラウドプロバイダでサポートされていません。

推奨処置: 要求を確認し、クラウドプロバイダでサポートされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4521

メッセージ: 要求された作業負荷に対してこの操作はサポートされていません。(This operation is not supported on requested workload.)

説明: 要求された作業負荷に対して要求された操作はサポートされていません。

推奨処置: 要求された作業負荷が RESTful API でサポートされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4604

メッセージ: ライセンスキーを削除するために必要な権限がありません。(You do not have the required permissions to delete the license key.)

説明: ライセンスファイルを削除する権限が不十分です。

推奨処置: ライセンスファイルの削除操作のための十分な権限があることを確認します。ライセンスファイルの削除操作のための十分な権限があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4605

メッセージ: ライセンスキーを削除できません。(The license key cannot be deleted.)

説明: NetBackup 関連のエラーではないため、ライセンスを削除できません。この問題の原因となり得る他のエラーの例:

- ライセンスが見つかりません。
- ファイルパスが存在しません。
- 前回の有効なライセンス。

推奨処置: OS ベースのエラーを確認し、適切な処理を実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4606

メッセージ: 指定した資格 ID は存在しません。(The specified entitlement ID does not exist.)

説明: 指定した ID のライセンスに対する GET または DELETE 操作が、ライセンスが NetBackup にないために失敗しました。

推奨処置: 指定した ID が正しいことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4607

メッセージ: 指定した操作を NetBackup 資格で実行できません。(The specified operation on the NetBackup entitlement cannot be carried out.)

説明: NetBackup の内部エラーが原因で、資格に関する操作が失敗します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- RESTful API の応答に記載されているエラーの詳細を確認し、必要な修正処置を実行します。
- 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4608

メッセージ: 指定した資格 ID を持つライセンスは NetBackup にすでに存在します。(License with the specified entitlement ID already exists in NetBackup.)

説明: ライセンスファイルに記載されている entitlement-id を持つライセンスがすでに NetBackup に存在するため、ライセンスの ADD 操作が失敗します。

推奨処置: 必要に応じて既存のライセンスを削除し、NetBackup に再度追加します。ライセンスを追加する必要がない場合、処理は必要ありません。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4609

メッセージ: 指定したライセンスファイルが破損しています。(The specified license file is corrupted.)

説明: 指定されたライセンスファイル (クレデンシャルを含む) が破損しているため、資格に対する ADD 操作が失敗します。

推奨処置: Cohesity ライセンシングポータルからダウンロードしたライセンスファイルを使用して、NetBackup ソフトウェアに追加する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4610

メッセージ: NetBackup に資格が存在しません。(The entitlements do not exist in NetBackup.)

説明: NetBackup にライセンスが存在しないため、資格に対する GETALL 操作が失敗します。

推奨処置: NetBackup に少なくとも 1 つのライセンスがあることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4611

メッセージ: 別のエディションのライセンスがすでにある場合は、新しいライセンスを追加できません。(Cannot add new license when existing license of different edition is present.)

説明: エディションが異なるライセンスが混在することはできません。

推奨処置: 異なるエディションのライセンスが同時に追加されていないことを確認します。永続ライセンスをサブスクリプションライセンスに追加できないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4612

メッセージ: 期限切れのライセンスは追加できません。(The expired license cannot be added.)

説明: 別のエディションの有効なライセンスがすでに存在します。ライセンスが競合する場合、新しいライセンスを追加して競合するライセンスを削除すると、アクティブなライセンスが削除され、期限切れのライセンスが追加されます。その場合、ユーザーには有効なライセンスがありません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

新しいライセンスを追加する前に、ライセンスの期限が切れていないことを確認し、ライセンスを更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4700

メッセージ: リストアされたディスクをターゲット VM に接続できません。(Unable to attach restored disks to target VM.)

説明: リストアされたディスクをターゲット VM に接続できません。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップとリストアでサポートされる RHV、VMware、または Nutanix AHV のバージョンを確認します。詳しくは `bpVMutil` ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4701

メッセージ: VM の仮想マシン構成を取得できません。(Unable to get virtual machine configuration for VM.)

説明: 仮想マシンサーバーまたは RHV マネージャから仮想マシンの詳細を取得できません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4702

メッセージ: 既存の VM の削除がエラーで失敗しました。(Delete of existing VM failed with error.)

説明: エラーにより、既存の VM を削除できません。

推奨処置: VM の電源がオフになっていることを確認します。可能な場合は、VM を手動で削除してからリストア操作を再試行します。bpVMutil のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4703

メッセージ: 仮想マシンの作成に失敗しました。リストアを続行できません。(Virtual machine creation failed, cannot proceed with restore.)

説明: リストア操作で仮想マシンを作成できません。リストアジョブは中止されます。

推奨処置: VM の作成に利用可能なリソースが RHV、VMware、または Nutanix AHV サーバーに十分にあることを確認します。詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4704

メッセージ: 指定のディスクでの仮想マシンの作成に失敗しました。(Failed to create virtual machine with specified disks.)

説明: 指定したディスクで仮想マシンを作成できません。

推奨処置: ディスクの作成に利用可能なリソースが RHV サーバーに十分にあることを確認します。bpVMutil のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4705

メッセージ: 仮想ディスクの構成の取得に失敗しました。(Unable to retrieve virtual disk configuration.)

説明: 仮想ディスクの詳細を取得できません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4706

メッセージ: 不正な仮想ディスクの構成が取得されました。(Incorrect virtual disk configuration retrieved.)

説明: 受け取った仮想ディスクの詳細が正しくありません。

推奨処置: rename ファイルでのディスクの指定が仕様に準拠した正しい構文になっていることを確認します。bpVMutil のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4707

メッセージ: リストアされたネットワークをターゲット VM に接続できません。(Unable to attach restored networks to target VM.)

説明: リストアされたネットワークインターフェースをターゲット VM に接続できません。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップまたはリストアでサポートされる RHV、VMware、または Nutanix AHV のバージョンを確認します。詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4708

メッセージ: リストアされたタグをターゲット VM に接続できません。(Unable to attach restored tags to target VM.)

説明: リストアされたタグをターゲット VM に接続できません。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップまたはリストアでサポートされる RHV、VMware、または Nutanix AHV のバージョンを確認します。詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトに

アクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4709

メッセージ: ターゲット VM で高可用性オプションを設定できません。(Unable to set high availability option on target VM.)

説明: ターゲット VM で高可用性オプションを設定できません。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップまたはリストアでサポートされる RHV、VMware、または Nutanix AHV のバージョンを確認します。詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4710

メッセージ: VM のタグ情報の取得に失敗しました。(Failed to get VM Tags Information.)

説明: VM のタグについての詳細を取得できません。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップまたはリストアでサポートされる RHV、VMware、または Nutanix AHV のバージョンを確認します。詳しくは bpVMutil ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4711

メッセージ: CURL でエラーが発生しました。(CURL encountered an error.) ジョブの完了に使用できるメモリまたはリソースが不足しています。(Insufficient memory or inadequate resources available to complete the job.)

説明: CURL でエラーが発生しました。ジョブの完了に使用できるメモリまたはリソースが不足しています。(Insufficient memory or inadequate resources available to complete the job.)

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4712

メッセージ: リソース名が空です。(Resource name is empty.)

説明: VM の表示名が空です。

推奨処置: 適切な VM の表示名を入力します。bpVMutil のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4713

メッセージ: リソース名にサポートされていない文字が含まれています。(Resource name contains unsupported characters.)

説明: VM の表示名に NetBackup でサポートされていない文字が含まれています。

推奨処置: サポートされている文字を VM の表示名で使用します。bpVMutil のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4714

メッセージ: リソース名の長さがサポートされている最大長を超えています。(Resource name length exceeds supported maximum length.)

説明: VM の表示名の長さが NetBackup でサポートされている最大長を超えています。

推奨処置: VM の表示名の長さがサポートされる文字数以内であることを確認します。bpVMutil のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4715

メッセージ: リカバリ前チェックに失敗しました。(Pre-recovery check failure.)

説明: リカバリ前チェックに失敗しました。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4716

メッセージ: サポートされていない Hypervisor タイプです。(Unsupported hypervisor type.)

説明: サポートされていない Hypervisor タイプです。

推奨処置: 詳しくは `bpVMutil` ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4718

メッセージ: API 要求パラメータが無効です。(Invalid API request parameter.)

説明: API 要求パラメータが無効です。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4719

メッセージ: 仮想ディスクのメタデータを読み取りおよび解釈できません。(Unable to read and understand virtual disk metadata.)

説明: VM に接続されている Qcow2 または RAW ディスクのヘッダーを解釈できません。ディスクが破損しているか、NetBackup でサポートされていない別のフォーマットである可能性があります。

推奨処置: VM に接続されているディスクの形式を確認し、NetBackup でサポートされているディスクフォーマットであることを確認します。VM に接続されているディスクが VM 内で正しく認識されることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4720

メッセージ: 暗号化された仮想ディスクはサポートされていません。(Encrypted Virtual Disk is not supported.)

説明: 暗号化された仮想ディスクはサポートされていません。

推奨処置: NetBackup での RHV、VMware、または Nutanix AHV の VM のバックアップでサポートされるオプションのリストを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4721

メッセージ: 圧縮された仮想ディスクはサポートされていません。(Compressed Virtual Disk is not supported.)

説明: 圧縮された仮想ディスクはサポートされていません。

推奨処置: NetBackup での RHV、VMware、または Nutanix AHV の VM のバックアップでサポートされるオプションのリストを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4722

メッセージ: 仮想ディスクからの読み取りに失敗しました。(Failed to read from Virtual Disk.)

説明: 仮想ディスクから読み取れません。

推奨処置: バックアップ操作を再試行します。vxms のログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4723

メッセージ: 仮想ディスクへの書き込みに失敗しました。(Failed to write into Virtual Disk.)

説明: 仮想ディスクに書き込めません。

推奨処置: リストア操作を再試行します。vxms のログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4724

メッセージ: ディスク転送情報が無効です。(Invalid Disk Transfer Info.)

説明: ディスク転送情報が無効です。

推奨処置: このエラーについて詳しくは vxms のログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4725

メッセージ: 内部エラーが発生しました。(An internal error occurred.)

説明: 内部サービスの 1 つが応答に失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行します。vxms または vfms のログで詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4726

メッセージ: 指定した VM のスナップショットの作成に失敗しました。

説明: 指定した VM のスナップショットを作成できません。

推奨処置: バックアップを開始する前に、VM がロック解除されていることを確認します。一時的なユーザーのスナップショットを作成して、RHV プラットフォームに問題がないことを確認します。vxms のログを確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

CDP バックアップジョブを実行する前に、nbcctd サービスに問題がない場合を確認します。詳しくは、アクティビティモニターのジョブの詳細、またはCDP ゲートウェイの bpfis ログと nbcctd ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4727

メッセージ: VM のスナップショット情報のフェッチに失敗しました。(Failed to fetch VM snapshot information.)

説明: 仮想化サーバーからVMのスナップショットに関する情報を取得できません。スナップショットの情報がないため、VMをバックアップできません。

推奨処置: 仮想化サーバーのイベントまたはログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Webサイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4728

メッセージ: 指定したディスクを開けませんでした。(Failed to open the specified disk.)

説明: アップロードまたはダウンロードでディスク転送を開始できませんでした。

推奨処置: バックアップ操作の場合は、バックアップの開始前に VM ディスクがロック解除されていることを確認します。必要に応じて RHV、VMware、または Nutanix AHV のドキュメントに従ってディスクまたは VM をロック解除し、バックアップを再試行します。リストア操作の場合は、vxms ログで詳細を確認してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Webサイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4729

メッセージ: 指定したディスクの読み取りに失敗しました。(Failed to read the specified disk.)

説明: RHV、VMware、またはNutanix AHVからのディスクデータのダウンロードに失敗したか、ダウンロードしたデータの NetBackup での読み込みに失敗しました。

推奨処置: このエラーについて詳しくは vxms のログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Webサイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4730

メッセージ: 指定したディスクを閉じることができませんでした。(Failed to close the specified disk.)

説明: アップロードまたはダウンロードでディスク転送を完了できませんでした。

推奨処置: 仮想化サーバーのイベントまたはログでエラーの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4731

メッセージ: 無効なレスポンスを受け取りました。(Received invalid response.)

説明: 一部の API 呼び出しで RHV サーバーから無効な応答を受け取りました。

推奨処置: NetBackup でのバックアップとリストアでサポートされる RHV のバージョンを確認します。ログで詳細を確認し、バックアップ操作またはリストア操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4732

メッセージ: HTTP レスポンスの解析中にエラーが発生しました。(Error in parsing the HTTP response.)

説明: RHV サーバーから受け取った HTTP レスポンスの解析でエラーが発生しました。

推奨処置: NetBackup での VM のバックアップとリストアでサポートされる RHV、VMware、または Nutanix AHV のバージョンを確認します。このエラーは、バージョンが変わったときに、一部の API の応答の本文が変更されると表示されることがあります。詳しくは ログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4733

メッセージ: VM がロック状態のため、操作に失敗しました。(Operation failed due to locked status of VM.)

説明: NetBackup で作成された VM のスナップショットが RHV でロックされています。一定の待機時間が経過しても、NetBackup でスナップショットの状態を取得できません。

推奨処置: バックアップ操作を再試行します。VM のスナップショットの作成操作が RHV サーバーで正しく開始されたことを確認します。RHV 管理コンソールから VM のスナップショットを手動で作成できるか試します。スナップショットの作成操作が応答しない場合は、RHV のサポートにお問い合わせください。スナップショットが正常に作成された場合は、バックアップ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4734

メッセージ: VM のカタログメタデータの更新に失敗しました。(Failed to update catalog metadata of VM.)

説明: VM のカタログメタデータを更新できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4735

メッセージ: VM のストレージの詳細の読み込みに失敗しました。(Failed to read storage details of VM.)

説明: RHV API を使用して RHV サーバーからストレージドメインの詳細を取得できませんでした。

推奨処置: バックアップ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4736

メッセージ: VM の電源状態の設定に失敗しました。(Failed to set power state of VM.)

説明: VM の電源状態を設定できません。

推奨処置: VM を手動でオンにできるか試します。`bpVMutil` のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4737

メッセージ: VM を作成できません。VM はすでに存在します。(Cannot create VM, VM already exists.)

説明: 同じ名前の VM がすでに存在するため、VM を作成できません。

推奨処置: VM に別の名前を使用するか、既存の VM を削除するか、別の Hypervisor で VM を作成します。`bpVMutil` のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4739

メッセージ: 指定された VM にはディスクが接続されていません。(No disks are attached to the specified VM.)

説明: ディスクが接続されていない VM を保護しようとしました。

推奨処置: VM を保護するときは、VM に少なくとも 1 つはディスクが接続されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4740

メッセージ: カタログエントリの解析に失敗しました。(Failed to parse catalog entry.)

説明: カタログエントリを解析できません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4741

メッセージ: アクセスは禁止されています。(Access forbidden.)

説明: RHV、VMware、または Nutanix AHV の API へのアクセスが許可されていません。仮想化サーバーは、NetBackup から作成された REST API 呼び出しを承認できません。

推奨処置: バックアップまたはリストアで仮想化サーバーのクレデンシャルが変更されていないことを確認します。仮想化サーバーのクレデンシャルが変更されている場合は、NetBackup でクレデンシャルを修正 (または削除して再度追加) します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4743

メッセージ: 無効な HTTP メソッド。(Invalid HTTP method.)

説明: HTTP 要求で無効な HTTP メソッドが使用されています。

推奨処置: `vxms` のログで詳細を確認します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4744

メッセージ: HTTP 要求の作成に失敗しました。(Failed to make HTTP request.)

説明: HTTP 要求を実行できません。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4745

メッセージ: RHV サーバーからディスクをダウンロードする際に使用する署名チケットの取得に失敗しました。(Failed to get the signed ticket to download the disk from the RHV server.) ディスクはロック状態である可能性があります。(Failed to get the signed ticket to download the disk from the RHV server. The disk might be in locked state.)

説明: RHV サーバーからディスクをダウンロードする際に使用する署名チケットを取得できません。ディスクはロック状態である可能性があります。

推奨処置: バックアップする VM のディスクがロック状態でないことを確認します。ロックされている場合は、RHV のドキュメントを参照してロックを解除してからバックアップ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4746

メッセージ: Qcow2 ディスクに未整列のページテーブルのエントリがあります。(Encountered unaligned page table entry in the Qcow2 disk.)ディスクを修復して操作を再試行してください。

説明: Qcow2 ディスクが破損しています。

推奨処置: Qcow2 ディスクに予期しない配列のページテーブルエントリがあります。ディスクが接続されている VM が稼動しており、VM のすべてのディスクに VM から適切にアクセスできることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4747

メッセージ: ストレージドメイン形式が未定義です。(Storage domain type is undefined.) ディスクの作成に失敗しました。(Disk creation failed)

説明: リストア先のストレージドメイン形式がサポートされていません。

推奨処置: NetBackup での RHV VM のリストアでサポートされるストレージドメイン形式のリストを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4748

メッセージ: VM を取得できません。(Unable to retrieve the VM.)

説明: 仮想化サーバーから VM の詳細または VM のリストを取得できません。

推奨処置: 仮想化サーバーのクレデンシャルが正しく、仮想化サーバーにバックアップホストからアクセスできることを確認します。`bpVMutil` のログで詳細を確認し、必要に応じてCohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4749

メッセージ: サーバークレデンシャルが構成されていません。(No server credentials configured.)

説明: 仮想化サーバーのクレデンシャルが構成されていません。

推奨処置: 仮想化サーバーのクレデンシャルを NetBackup に追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4750

メッセージ: サーバークレデンシャルを取得できません。(Unable to obtain server credentials.)

説明: 仮想化サーバーのクレデンシャルを取得できません。

推奨処置: 仮想化サーバーのクレデンシャルが NetBackup 管理コンソールの[仮想マシンサーバー (Virtual Machine Servers)]ダイアログボックスで追加されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4751

メッセージ: 指定した VM のスナップショットの削除に失敗しました。(Failed to delete the snapshot of the specified VM.)

説明: 指定した VM のスナップショットの削除に失敗しました。

推奨処置: NetBackup で作成された VM のスナップショットを仮想化サーバーで手動で削除します。VM をバックアップするバックアップジョブが実行されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4755

メッセージ: サーバーのバージョンを取得できません。(Unable to obtain server version.)

説明: NetBackup は、指定されたホストのバージョン情報を取得しませんでした。

推奨処置: 提供されたホストの詳細 (ホスト名、IP アドレス、ポート番号) が正しいことを確認します。また、ホストが有効で動作していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4769

メッセージ: コンテナのリストを取得できません。(Unable to retrieve the list of containers.)

説明: 仮想化サーバーからコンテナのリストを取得できません。

推奨処置: 仮想化サーバーに正しいクレデンシャルを入力していること、仮想化サーバーにアクセスできることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4770

メッセージ: 有効なプライマリ VM 識別子を入力します。NetBackup はこの VM 識別子を使用して仮想マシンを選択し、バックアップします。(Enter a valid primary VM identifier, NetBackup uses this VM identifier to select and backup virtual machines.)

説明: 仮想マシンを選択してバックアップするには、プライマリ VM 識別子が必要です。

推奨処置: バックアップ操作を開始する前に、プライマリ VM 識別子を入力して VM を選択してバックアップします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4771

メッセージ: VM サーバーの仮想マシンで IO タッピングの開始に失敗しました。(Failed to stop IO tapping for the virtual machine on the VM server.)

説明: VM に対して IOTAPPING が開始された時、不明なエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、CDP ゲートウェイの bpVMutil ログと ESX ホストの CIM サービスログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4772

メッセージ: VM サーバーの仮想マシンで IO タッピングの開始に無効な要求を受信しました。(Invalid request received to start IO tapping for the virtual machine on the VM server.)

説明: VM サブスクリプションの入力 JSON を解析したときに、不明なエラーが発生しました。

推奨処置: bpVMutil が受信した入力 JSON が正しいか検証します。詳しくは、CDP ゲートウェイの bpVMutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4773

メッセージ: 仮想マシンのホスト情報の取得に失敗しました。(Failed to retrieve the virtual machine host information.)

説明: vCenter から ESX ホスト情報を取得できません。

推奨処置: vCenter と ESX ホストに問題がないことを確認します。詳しくは、CDP ゲートウェイの bpVMutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4774

メッセージ: VM サーバーサービスとの通信またはサービスの操作に失敗しました。(Failed to interact or operate with the VM server service(s).)

説明: ESX で実行されている CIM サービスと通信できません。

推奨処置: ESX で実行中の CIM サービスに問題がないことを確認します。詳しくは、CDP ゲートウェイの bpVMutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4775

メッセージ: VM サーバーの仮想マシンで IO タッピングの停止に無効な要求を受信しました。(Invalid request received to stop IO tapping for the virtual machine on the VM server.)

説明: VM のサブスクライブが解除されて、入力した JSON の解析時に予期しないエラーが発生します。

推奨処置: bpVMutil が受信した入力 JSON が正しいか検証します。詳しくは、CDP ゲートウェイの bpVMutil ログを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4776

メッセージ: VM サーバーの仮想マシンで IO タッピングの停止に失敗しました。(Failed to stop IO tapping for the virtual machine on the VM server.)

説明: VM に対して IOTAPPING が停止された時、不明なエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、CDP ゲートウェイの bpVMutil ログと ESX ホストの CIM サービスログを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4777

メッセージ: 仮想マシンの 1 つ以上の仮想ディスクからストレージポリシーが設定解除されていません。(Storage policy is not detached from one or more virtual disks of virtual machine.)

説明: ストレージポリシーが VM の 1 つ以上のディスクに接続されている場合、保護計画サブスクリプションの削除は失敗します。

推奨処置: VM のすべてのディスクのストレージポリシーを設定解除し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4778

メッセージ: IO タッピングに登録するように指定された仮想マシンの電源状態がオンではありません。(Power state of specified virtual machine to be registered for IO tapping is not on.)

説明: VM がオフになっている場合、保護計画のサブスクリプションは失敗します。

推奨処置: 保護する VM をオンにし、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4779

メッセージ: サポートされていない ESXi バージョンです。(Unsupported ESXi version.)

説明: ESXi バージョンが 6.7 より前のバージョンです。CDP 機能では、使用されているバージョンがサポートされていません。

推奨処置: CDP 機能では ESXi バージョン 6.7 以上を使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4780

メッセージ: Cohesity IO フィルタのバージョンの取得または解析に失敗しました。(Failed to retrieve or parse the version of Veritas IO filter.)

説明: 1 つ以上の VM が CDP 保護計画にサブスクライブされている場合、ESXi サーバーの CIM サーバーサービスは応答しません。

推奨処置: ESXi Server で CIM サーバーサービスを再起動し、CDP 保護計画への VM のサブスクリプションを再試行します。ESXi Server の CIM サーバーサービスは、ESXi の[構成 (Configuration)]、[サービス (Services)]セクションにあります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4781

メッセージ: サポートされていないベリタス IO フィルタバージョンです。(Unsupported Veritas IO filter version.)

説明: VAIO VIB のバージョンがサポートされていません。

推奨処置: VAIO VIB の 4.0 以上のバージョンにインストールまたはアップグレードします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4782

メッセージ: IO タッピングに登録される仮想マシンの 1 つ以上の仮想ディスクにストレージポリシーが設定されていません。(Storage policy is not attached to one or more virtual disks of virtual machine to be registered for IO tapping.)

説明: ストレージポリシーが VM の 1 つ以上のディスクに接続されていない場合、保護計画サブスクリプションは失敗します。

推奨処置: VM のすべてのディスクにストレージポリシーを接続して再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4783

メッセージ: Cohesity IO フィルタで別の操作が進行中のため、操作が取り消されました。(The operation was canceled because another operation is in progress for the Veritas IO filter.)

説明: この問題は、一括サブスクリプションまたはサブスクリプション解除の操作中に発生します。VAIO CIM サービスへのポスト要求はシリアル化され、VAIO 要求が 300 時間以内に完了しない場合、このエラーが発生します。

推奨処置: 5 個以下のバッチで VM をサブスクライブまたはサブスクライブ解除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4784

メッセージ: 仮想マシンはすでにいくつかのゲートウェイへの IO タッピングに登録されています。(Virtual machine is already registered for IO tapping to some gateway.)

説明: VM はすでに他のいくつかのゲートウェイへの IO タッピングに登録されています。

推奨処置: 別の CDP ゲートウェイによってこの VM が保護されます。以前のゲートウェイから VM のサブスクライブを解除し、新しい CDP ゲートウェイをサブスクライブする必要がある場合があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4785

メッセージ: バックアップホストまたはリカバリホストの iSCSI イニシエータが実行されていないか、接続または認証できません。(iSCSI initiator on the backup or the recovery host is either not running or unable to connect and or authenticate.)

説明: バックアップに iSCSI イニシエータサービスがインストールされていない、実行されていない、有効になっていないか、接続中または認証中に問題が発生しました。

推奨処置: バックアップまたはリカバリホストで iSCSI イニシエータサービスがインストールされ、実行中または有効化されていることを確認します。Windows または UNIX プラットフォームでの iSCSI イニシエータサービスのインストールと有効化について詳しくは、『NetBackup Web UI AHV 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4786

メッセージ: AHV クラスタで iSCSI の外部データサービスの IP が設定されていません。(External data service IP for iSCSI is not set on the AHV cluster.)

説明: クラスタストレージへのアクセスを提供するため、ボリュームは iSCSI データサービスの IP アドレスを使用してターゲットを検出し、これによりクライアントの外部 iSCSI 構成を簡素化します。この iSCSI データサービスの IP アドレスは、iSCSI ターゲット検出ポータルおよび初期接続ポイントとして機能します。

推奨処置: Nutanix 社が推奨するとおり、iSCSI データ転送を行うには、データサービスの IP アドレスを設定する必要があります。構成方法: Nutanix AHV Cluster Prism コンソールにログオンして、[設定 (Settings)]、[クラスタの詳細 (Select Details)]、[iSCSI データサービス IP の設定 (Set iSCSI Data Services IP)]の順に選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4787

メッセージ: AHV ホストのリストを取得できません。(Unable to retrieve the list of AHV hosts.)

説明: 仮想サーバーから Nutanix AHV ホストのリストを取得できません。

推奨処置: 仮想サーバーの正しいクレデンシャルを入力していること、仮想サーバーが利用可能でアクセスできることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4788

メッセージ: データ整合性を検証できません。(Unable to verify data integrity.)

説明: バックアップするデータの整合性を 600 秒以内に検証できません。

推奨処置: CDP ホストの `bp.conf` ファイルに含まれる `CDP_DATA_CHECKSUM_VERIFICATION_TIMEOUT` の値を増やします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4789

メッセージ: Hypervisor タイプが無効です。(Invalid Hypervisor type.)

説明: STU に関連付けられているメディアサーバーが NetBackup 9.1 より古いバージョンです。そのため、スナップショットジョブで Hypervisor 形式を検出できません。

推奨処置: STU に関連付けられているメディアサーバーはバージョン NetBackup 9.1 以上である必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4790

メッセージ: 試用版バックアップは、リモートホストの NetBackup バージョンではサポートされません。

説明: 10.0 より古いバージョンの NetBackup がインストールされたメディアサーバーに対して試用版バックアップが実行されました。

推奨処置: 試用版バックアップを実行するには、メディアサーバーの最新バージョンが 10.0 以降であることを確認します。メディアサーバーのバージョンが 10.0 よりも古い場合は、そのメディアサーバーをアップグレードする必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup 状態コード: 4793

メッセージ: ネットワークインターフェースのリストアは、元のリストア先でのみサポートされます。ネットワークインターフェースの削除を選択して、再試行してください。

説明: 代替リストアの場合、ネットワークインターフェースはリストアできません。

推奨処置: [ネットワークインターフェースのリストア (Network interface restore)]オプションは、代替リストアの場合はサポートされません。[ネットワークインターフェースの削除 (Remove network interface)]オプションを選択して、再びリストアを開始してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup 状態コード: 4794

メッセージ: クラスタの詳細を取得できません。

説明: 検出時に、クラスタの詳細を Web サービスから取得できません。

推奨処置: バックアップホストが NetBackup プライマリサーバーと通信できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup 状態コード: 4795

メッセージ: AHV クラスタ用の Prism Central が見つかりません。

説明: AHV クラスタ用に構成されている Prism Central が見つかりませんでした。

推奨処置: AHV クラスタ用に正しい Prism Central が構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 4900

メッセージ: NetBackup UI Compatibility Service が実行されていません。(The NetBackup UI Compatibility Service is not running.)

説明: NetBackup UI Compatibility Service が実行されていません。

推奨処置: サポートが必要な場合、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5100

メッセージ: ロボットインベントリファイルを作成できません。(Unable to create the robot inventory file.)

説明:

この問題は、次のシナリオで発生する可能性があります。

- ファイルへの権限の設定に失敗しました。
- ファイルへのコンテンツの書き込みに失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ファイルが作成されていない場合は、システムに利用可能な十分な領域があることを確認します。
- ファイルに対する権限を NetBackup で正しく設定できなかった場合は、ファイル権限が正しくない可能性があります。フォルダまたはファイルにアクセスするために必要な権限があることを確認します。ファイルまたはフォルダを選択し、右クリックして[プロパティ (Properties)]を選択します。次に、[セキュリティ (Security)]タブを選択し、ユーザーアカウントに必要な権限があることを確認します。
- NetBackup がファイルへのコンテンツの書き込みに失敗した場合は、ファイルに対する書き込み権限を有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード 5101

メッセージ: ロボットインベントリの応答にヘッダーがありません。(The robot inventory response does not contain headers.)

説明: API はロボットインベントリの操作用です。このエラーは、ロボットの内容の表示、ロボットの内容の比較、ボリューム構成の更新のプレビュー表示、ボリューム構成の更新の 4 つの主要な操作によって生成される可能性があります。

NBSL 層の応答に想定されるヘッダー行が含まれていないと、Web サービス層はこのエラーを生成します。

推奨処置: このエラーが発生した場合は、必要に応じて次の操作を実行してください。

- 断続的な問題が原因で問題が発生している場合は、操作を再試行します。
- `nbsl` ログと `webservice` ログを収集し、明らかな例外やエラーがないかどうかを探します。
- 問題が解決しない場合は、ログを収集し、そのリストを NetBackup 構成とエラーのシナリオの情報と併せて、Cohesity Technical Supportに提出してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5400

メッセージ: バックアップエラー - 要求したオブジェクトはデータベースにありませんでした (Backup error - None of the requested objects were found in the database)

説明: バックアップ対象リストに、データベースで見つかったオブジェクトが含まれていません。オブジェクトはデータファイルまたは表領域のいずれかです。

推奨処置: バックアップ対象リストを確認します。データベースの一部であるオブジェクトを追加するか、ポリシーからデータベースインスタンスを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5401

メッセージ: バックアップエラー - FRA (Fast Recovery Area の略で高速リカバリ領域の意味) を要求しましたが、データベースにありませんでした (Backup error - FRA (Fast Recovery Area) was requested, but it was not found in the database)

説明: バックアップ要求は FRA に対するものでしたが、FRA はデータベース内にありませんでした。

推奨処置: FRA 領域をデータベースに追加するか、ポリシーからデータベースインスタンスを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5402

メッセージ: OS 認証エラー - データベースに接続できませんでした。OS のクレデンシャルをチェックしてください。(OS Authentication error - Could not connect to the database. Please check the OS credentials.)

説明: 提供されたオペレーティングシステムのクレデンシャルを使ってデータベースへの接続が確立できません。

外部クレデンシャルを使用すると、次のエラーが表示される場合があります。

- ECMS サーバーのサービスが停止したとき、または ECMS サーバーとの接続性に何らかの問題がある場合。
- CyberArk でパスワードを変更しても更新されていない場合。これは、パスワードの同期に時間がかかるためです。
  「Credential Provider の構成ファイル」を参照してください。

推奨処置: クレデンシャルが正しく設定されることを確認します。Windows で、プロセスレベルトークンの置換が必要な場合があります。最初に、[スタート]、[コントロールパネル]、[管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー]の順に選択します。次に左ペインの[ローカルポリシー]を展開し、[ユーザー権利の割り当て]をクリックし、右ペインの[プロセスレベルトークンの置き換え]をダブルクリックします。クライアントポリシーを実行するユーザーを追加します。サーバーを再起動してこの権限を有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5403

メッセージ: Oracle 認証エラー - データベースに接続できませんでした。(Oracle Authentication error - Could not connect to the database.)Oracle のクレデンシャルを確認してください

説明: 提供された Oracle データベースのクレデンシャルを使ってデータベースへの接続を確立できません。

推奨処置: クレデンシャルが正しく設定されることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5404

メッセージ: ASM 検証エラー - ASM には PROXY バックアップはサポートされません (ASM validation error - PROXY backup is not supported for ASM)

説明: PROXY 形式のバックアップのバックアップ要求でした。自動ストレージ管理 (ASM) が見つかりました。ASM ではプロキシバックアップはサポートされていません。

推奨処置: データベースを ASM 以外のストレージに移動するか、ポリシーからデータベースインスタンスを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5405

メッセージ: リカバリカタログ認証エラー - リカバリカタログに接続できませんでした。(Recovery Catalog Authentication error - Could not connect to the Recovery Catalog.)リカバリカタログのクレデンシャルを確認してください。

説明: 提供されたリカバリカタログのクレデンシャルを使ってリカバリカタログデータベースへの接続を確立できません。

推奨処置: リカバリカタログのクレデンシャルが正しく設定されることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5406

メッセージ: アーカイブログのみのバックアップを要求しましたが、データベースが ARCHIVELOG モードではありません (Archive log only backup requested, but database is not in ARCHIVELOG Mode)

説明: 要求された操作では、データベースアーカイブログモードを ARCHIVELOG モードまたは MANUAL モードに設定する必要があります。

推奨処置: データベースアーカイブログモードが ARCHIVELOG または MANUAL に正しく設定されたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5407

メッセージ: データベースが要求したアクションを実行する状態にありません (オープンになっている必要があります) (Database is in the wrong state (must be OPEN) for the requested action)。

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- 要求された操作では、データベースが OPEN モードである必要があります。
- ターゲットコンテナデータベースが読み書きモードで開いていない場合、PDB クローンは失敗します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データベースのモードが OPEN に設定されていることを確認します。可能な Oracle コマンドは、startup、startup opens read only、または startup open です。
- PDB クローンの開始前に、ターゲットコンテナデータベースを読み書きモードで開きます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5408

メッセージ: OS 認証エラー - クレデンシャルを見つけられませんでした。このインスタンスがインスタンスグループに含まれる場合、グループにこの OS タイプに一致するクレデンシャルがあることを確認してください (OS Authentication error - Could not find credentials. If this instance is part of an instance group, make sure that the group has the credentials that match this OS Type)

説明: インスタンスに接続するために必要なクレデンシャルを見つけることができません。

推奨処置: インスタンスが UNIX クライアント上にある場合は、そのインスタンスグループが UNIX クレデンシャルを含んでいることを確かめてください。インスタンスが Windows クライアント上にある場合は、そのインスタンスグループが Windows クレデンシャルを含んでいることを確かめてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5409

メッセージ: このクライアントプラットフォームではクローンの作成がサポートされません

説明: このクライアントで動作するプラットフォームは、ガイド付きリカバリのクローン操作をサポートしません。

推奨処置: クローン作成機能のサポート対象プラットフォームについて詳しくは、NetBackup リリースノートまたは次の URL にある NetBackup マスター互換性リストを参照してください。

http://www.netbackup.com/compatibility

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5410

メッセージ: このクライアントプラットフォームでは Oracle インテリジェントポリシーがサポートされません

説明: このクライアントで動作するプラットフォームは Oracle インテリジェントポリシー機能をサポートしません。

推奨処置: この機能のサポート対象プラットフォームについて詳しくは、NetBackup リリースノートまたは次の URL にある NetBackup マスター互換性リストを参照してください。

http://www.netbackup.com/compatibility

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5411

メッセージ: NOARCHIVELOG モードでデータベースのホットバックアップを行うことはできません (Cannot do a hot backup of a database in NOARCHIVELOG mode)

説明: 要求された操作では、データベースのアーカイブログモードを ARCHIVELOG モードに設定する必要があります。

推奨処置: データベースのアーカイブログモードが ARCHIVELOG に正しく設定されているか、[オフライン (コールド) データベースバックアップ (Offline (cold) database backup)]に変更されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5412

メッセージ: データベースがアーカイブログバックアップを実行する状態にありません (OPEN または MOUNTED である必要があります) (Database is in the wrong state (must be OPEN or MOUNTED) for an Archive Log Backup)

説明: Oracle のポリシーはアーカイブログのバックアップを要求していますが、データベースは OPEN または MOUNTED 状態にありません。

推奨処置: データベースを OPEN または MOUNTED 状態にして、バックアップを再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5413

メッセージ: データベースが FRA バックアップを実行する状態にありません (OPEN または MOUNTED である必要があります) (Database is in the wrong state (must be OPEN or MOUNTED) for an FRA backup)

説明: Oracle のポリシーは FRA (高速リカバリ領域) バックアップを要求していますが、データベースが OPEN または MOUNTED 状態にありません。

推奨処置: データベースを OPEN または MOUNTED 状態にして、バックアップを再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5414

メッセージ: 要求された操作は、このクライアントバージョンではサポートされません。(The requested operation is not supported with this client version.)

説明: 要求した操作は、この NetBackup Client Service バージョンではサポートされていません。

推奨処置: この操作を有効にするには、NetBackup Client Service をアップグレードします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5415

メッセージ: 読み取り専用のスタンバイデータベースをシャットダウンできません (Cannot shutdown read only standby database)

説明: NetBackup は読み取り専用モードのスタンバイデータベースでコールドバックアップを実行しません。

推奨処置: ポリシーの[Oracle]タブでコールドデータベースバックアップオプションを選択しないでください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5416

メッセージ: Oracle は TNS の接続識別子を解決できません (Oracle cannot resolve the TNS connection identifier)

説明: Oracle が TNS 接続 ID を解決できないため、NetBackup はどのデータベースに接続するかを判断できません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- 正しい TNS 識別子
- 正しく設定された tnsnames.ora ファイル。
- TNS_ADMIN 環境変数の正しいパス。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5417

メッセージ: NFS サーバーがアプライアンスかどうかを確認する際にエラーが発生しました。(An error has occurred checking if the NFS server is an appliance.)

説明: NetBackup では、データベースバックアップの共有がアプライアンスにあるかどうかを検証できません。

推奨処置: データベースバックアップの共有が NetBackup アプライアンスからエクスポートされるかどうかを検証してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5418

メッセージ: NFS サーバーはアプライアンスではありません。(The NFS server is not an appliance.)

説明: データベースバックアップの共有がアプライアンスにありません。

推奨処置: データベースバックアップの共有が NetBackup アプライアンスからエクスポートされるかどうかを検証してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5419

メッセージ: データベースバックアップ共有ディレクトリは、このアプライアンスでは利用できません。(The database backup share directory is not available on the appliance.)

説明: NetBackup で、アプライアンス上のデータベースバックアップの共有ディレクトリにアクセスできません。

推奨処置: NetBackup アプライアンス上にデータベースバックアップの共有ディレクトリが存在していることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5420

メッセージ: このクライアントプラットフォームでは、[データベース全体 - データファイルコピーの共有 (Whole Database - Datafile Copy Share)]の選択はサポートされていません。(Whole Database - Datafile Copy Share selection is not supported for this client platform.)

説明: このプラットフォームで Snapshot Client はサポートされていないので、[データベース全体 - データファイルコピーの共有 (Whole Database - Datafile Copy Share)]の選択はサポートできません。

推奨処置: 別の方法を使用してデータベースをバックアップしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5421

メッセージ: 要求されたプラグ可能なデータベースは見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースの特定のリストの要求でした。プラグ可能なデータベースのこのリストはデータベースで検証されましたが、データベース内に要求されたプラグ可能なデータベースは見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニターで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されるプラグ可能なデータベースが正しいものであり、要求されたプラグ可能なデータベースにあることを確認します。ポリシーでプラグ可能データベースのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5422

メッセージ: 部分的な成功 - 1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースは見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースの特定のリストの要求でした。このプラグ可能データベースのリストがデータベースで検証されたときに、1 つ以上の要求されたプラグ可能データベースがそのデータベースで見つかりませんでした。検出されたデータベースはバックアップされました。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニターで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されているプラグ可能データベースのリストが正しいことと、要求されたデータベースにあることを確認します。ポリシーでプラグ可能データベースのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5423

メッセージ: 要求されたプラグ可能なデータベース内に要求された表領域は見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースと表領域の特定のリストに対するものでした。これらのリストはデータベースで検証されましたが、要求されたプラグ可能なデータベース内に要求された表領域は見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニターで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定される表領域のリストが正しいものであり、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。プラグ可能なデータベースまたは表領域がコマンドラインを使って指定さ

れた場合は、それらのスペルを確認してください。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5424

メッセージ: 部分的な成功 - 1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースには要求された表領域が含まれていませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求はプラグ可能データベースと表領域の特定のリストに対するものでした。これらのリストはデータベースで検証されましたが、1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースが要求された表領域を含んでいませんでした。プラグ可能データベースで見つかった表領域はバックアップされました。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニターで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定される表領域のリストが正しいものであり、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。プラグ可能なデータベースまたは表領域がコマンドラインを使って指定された場合は、それらのスペルを確認してください。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5425

メッセージ: 要求されたプラグ可能なデータベース内に要求されたデータファイルは見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求は、プラグ可能データベースとデータファイルの特定のリストの要求でした。これらのリストがデータベースで検証されたときに、1 つ以上の要求されたデータファイルが要求されたプラグ可能データベースで見つかりませんでした。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニターで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されているデータファイルのリストが正しいことと、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースまたはデータファイルを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5426

メッセージ: 部分的な成功 - 1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースには要求されたデータファイルが含まれていませんでした。

説明: データベースのバックアップ要求は、プラグ可能データベースとデータファイルの特定のリストの要求でした。これらのリストはデータベースで検証されましたが、1 つ以上の要求されたプラグ可能なデータベースが要求されたデータファイルを含んでいませんでした。プラグ可能データベースで見つかったデータファイルはバックアップされました。

推奨処置: 詳しくは、関連ジョブの詳細な状態をアクティビティモニターで確認してください。Oracle インテリジェントポリシーで指定されているデータファイルのリストが正しいことと、要求されたプラグ可能データベースにあることを確認します。必要に応じてポリシーのリストを更新します。コマンドラインを使ってプラグ可能データベースまたはデータファイルを指定した場合は、スペルを確認します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5427

メッセージ: 部分的な成功 - 複数のエラーが発生する場合、詳しくは[ジョブの詳細]の[状態の詳細]タブを参照して、ログを確認してください。

説明: 要求が処理される間に、複数のエラーが発生しました。いくつかの項目は正常に処理されました。データベースオブジェクト(プラグ可能データベース、表領域、データファイル)が正常で、バックアップに含まれています。

推奨処置: エラーについて詳しくはアクティビティモニターの関連ジョブの詳細な状態を確認してください。エラーに応じて、ポリシーに対して適切な変更を行なってください。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5428

メッセージ: データベースのバックアップ共有は見つかりませんでした。

説明: データベースのバックアップの共有がバックアップ中に見つかりませんでした。

推奨処置: アプライアンスのデータベースのバックアップ共有を構成してから、データベースのベンダーのツールを使って共有にファイルをバックアップします。NetBackup はエラーの後にこのジョブを再試行しません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5429

メッセージ: データベースのバックアップ共有で、新しいファイルやインスタンスまたはデータベースに関連するファイルは見つかりませんでした。

説明: 新しいファイルや、インスタンスまたは (OIP で構成された) データベースと関連しているファイルが、データベースバックアップ共有に見つかりませんでした。

推奨処置: ポリシーが実行される前にバックアップがデータベースのバックアップの共有にあることを確かめてください。ポリシーに増分スケジュールが含まれている場合、データベースバックアップ共有に新しいファイルが含まれていることを確認します。NetBackup はエラーの後にこのジョブを再試行しません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:5430

メッセージ: プラグ可能なデータベースのコールドバックアップを実行するには、データベースが ARCHIVELOG モードである必要があります。

説明: プラグ可能なデータベースのコールドバックアップが要求されました。この構成は Oracle によってサポートされる環境ではありません。プラグ可能なデータベースのコールドバックアップを実行するには、データベースが ARCHIVELOG モードである必要があります。

推奨処置: データベースを ARCHIVELOG モードに変更するか、バックアップ要求をコールドバックアップからホットバックアップに変更します。更新が完了したら、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5431

メッセージ: 要求した操作は NetBackup アプライアンスの応答を得ていません。

説明: 要求した操作に対して、設定したタイムアウト時間内に NetBackup アプライアンスから応答がありませんでした。

推奨処置: デフォルトのタイムアウトは 60 秒に設定されています。NetBackup マスターサーバーで新しいタイムアウトを設定してください。マスターサーバーでタイムアウトを設定したら、NetBackup アプライアンスがアクティブであることを確認して、操作を再試行してください。

- Windows の場合:
  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥NetBackup¥CurrentVersion¥Config で、秒単位の値を指定した APPLIANCE_TIMEOUT という DWORD エントリを追加する

- UNIX の場合: bp.conf ファイルの APPLIANCE_TIMEOUT 設定を変更する

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5432

メッセージ: 要求した NetBackup アプライアンスの操作が正常に完了しません。

説明: NetBackup が NetBackup アプライアンスに要求を送信しましたが、要求した操作が正常に完了しませんでした。

推奨処置: NetBackup アプライアンスのエラーメッセージログまたは『NetBackup アプライアンストラブルシューティングガイド』を確認するか、NetBackup アプライアンス管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5433

メッセージ: NetBackup の要求が、NetBackup アプライアンスの通信の問題のために完了しません。

説明: NetBackup は NetBackup アプライアンスと通信できません。この問題はネットワークの問題が発生したか、NetBackup アプライアンスがオンラインではないために発生します。

推奨処置: NetBackup アプライアンスのエラーメッセージログまたは『NetBackup アプライアンストラブルシューティングガイド』を確認するか、NetBackup アプライアンス管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5434

メッセージ: NetBackup アプライアンスの ID を検証できません。

説明: NetBackup は NetBackup アプライアンスの ID を検証できません。

推奨処置: NetBackup アプライアンスのエラーメッセージログまたは『NetBackup アプライアンストラブルシューティングガイド』を確認するか、NetBackup アプライアンス管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5435

メッセージ: リカバリポイントの操作 (-create、-delete、または -list) はマスターサーバーで開始する必要があります。

説明: NetBackup クライアントには、この nborair -create、-delete、-list コマンドオプションを使用する権限がありません。これらのオプションは、マスターサーバーで root ユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Windows の場合) のアクセス権で実行します。

推奨処置: マスターサーバーで nborair -create、-delete、-list コマンドオプションを実行する場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。NetBackup 管理者は、マスターサーバーで root ユーザー (UNIX の場合) または管理者 (Windows の場合) のアクセス権が必要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5436

メッセージ: リカバリポイントが見つかりませんでした。

説明: 選択した NetBackup アプライアンスでリカバリポイントが見つかりませんでした。

推奨処置: リカバリポイントが作成されていることを確認します。リカバリポイントがない場合は、リカバリポイントを作成して、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5437

メッセージ: 部分的に成功 - 1 つ以上のデータベース共有からのリカバリポイントが見つかりませんでした。

説明: NetBackup は 1 つ以上のデータベース共有でリカバリポイントの検出に失敗しました。

推奨処置: エラーについて詳しくは、NetBackup のデバッグログ (bprd、nboarir) を確認してください。また、NetBackup アプライアンスのデバッグログも参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5438

メッセージ: 要求したエクスポートパス情報が見つかりません。

説明: NetBackup は要求されたエクスポートパスの情報の検出に失敗しました。

推奨処置: すべてのリカバリポイントを一覧表示して、要求したエクスポートパスの /recovery ポイントが利用可能であるかどうかを確認します。エラーについて詳しくは、NetBackup のデバッグログ (bprd、nboairr) を確認してください。また、NetBackup アプライアンスのデバッグログも参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5439

メッセージ: 検証が正常に完了しません。リカバリポイントが、指定したバックアップ ID から作成されませんでした。

説明: 指定したパスでマウントされたリカバリポイントは、指定したバックアップ ID から作成されませんでした。

推奨処置: 要求したマウントパスが正しいことを確認します。リカバリポイント作成プロセスで要求したバックアップ ID が正しいことも確認します。リカバリポイント作成プロセスでの正しいバックアップ ID を NetBackup 管理者に確認し、正しいエクスポートマウントパスをシステム管理者に確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5440

メッセージ: 要求した環境変数が設定されていません。

説明: Windows で検証操作を行う場合は、環境変数 ORACLE_HOME を設定する必要があります。

推奨処置: 必須の環境変数 ORACLE_HOME に適切な値を設定して、検証操作を再び実行する必要があります。詳しくは NetBackup のデバッグログ (nborair) を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5441

メッセージ: Oracle Direct NFS ファイルを開こうとしましたが、失敗しました。

説明: NetBackup は Oracle Direct NFS ファイルを開こうとしましたが失敗しました。

推奨処置: NetBackup は Windows で検証操作を実行するときに、設定したエクスポートパスに関連付けられたマウントパスを Oracle Direct NFS ファイルから取得します。環境変数 ORACLE_HOME に正しい値が設定されていることを確認します。詳しくはNetBackup のデバッグログ (nborair) を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5442

メッセージ: NFS マウントパスからデバイス情報を取得しようとしましたが、失敗しました。

説明: NFS サーバーとエクスポートパスの詳細を取得しようとしましたが失敗しました。

推奨処置: 入力したマウントパスが正しく、このパスが正しくマウントされていること (UNIX)、または Oracle Direct NFS ファイルのエントリが正しいこと (Windows) を確認します。詳しくは NetBackup のデバッグログ (`nborair`) を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5443

メッセージ: Oracle インスタントリカバリにバックアップ ID を使用できません。

説明: 指定したバックアップ ID にはインスタントリカバリに使用できるスナップショットがありません。

推奨処置: インスタントリカバリに使用するイメージを表示するには、`nborair` コマンドに `-list_images` オプションを指定して、別のバックアップ ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5444

メッセージ: NetBackup アプライアンスの資格情報の取得に失敗しました。

説明: NetBackup は NetBackup アプライアンスの資格情報を見つけられません。

推奨処置: NetBackup アプライアンスのエラーメッセージログまたは『NetBackup アプライアンストラブルシューティングガイド』を確認するか、NetBackup アプライアンス管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5445

メッセージ: Oracle インスタントリカバリの共有を、バックアップ操作で使用できません。

説明: Copilot インスタントリカバリの共有は、バックアップ操作で使用できません

推奨処置: Copilot インスタントリカバリの共有を、バックアップポリシーで使用できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5446

メッセージ: 部分的に成功 - 1 つ以上の要求された共有のバックアップに失敗しました。

説明: エラーまたはサポートされない構成のために、NetBackup は 1 つ以上の共有のバックアップに失敗しました。

推奨処置: バックアップジョブの状態の詳細と bpdbsbora デバッグログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5447

メッセージ: IP アドレスからアプライアンスのホスト名を解決できませんでした。

説明: アプライアンスは、アプライアンスの IP アドレスで NetBackup に構成されています。

推奨処置: NetBackup サーバーリストまたはメディアサーバーリストを更新し、アプライアンスのホスト名を使用するようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5448

メッセージ: アプライアンスがクライアントのサーバーリストのサーバーに一致しませんでした。

説明: アプライアンスの IP アドレスがクライアントのサーバーリスト内のどのエントリとも一致しません。

推奨処置: アプライアンスのホスト名をクライアントのサーバーリストに追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5449

メッセージ: スクリプトが実行を承認されていません。

説明: ポリシーに記載されているスクリプトが、デフォルトの場所または承認を受けた場所に格納されていませんでした。

推奨処置: スクリプトをデフォルトの場所に移動するか、nbsetconfig コマンドまたは bpsetconfig コマンドを使って承認を受けた場所としてパスを追加します。UNIX の場合、デフォルトの格納場所は /usr/openv/netbackup/ext/db_ext です。Windows の場合、デフォルトの格納場所は *install_path*¥netbackup¥dbext です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5450

メッセージ: このクライアント上で実行を承認されたスクリプトまたはパスがありません。

説明: このクライアントでは、DB_SCRIPT_PATH=none を設定してスクリプトの実行を禁止しています。

推奨処置: 当該クライアントに none が設定されている理由をクライアントの管理者に問い合わせます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5451

メッセージ: スクリプトがリモートの場所にあります。

説明: スクリプトがリモートネットワーク上の場所にあるため、実行できません。

推奨処置: スクリプトを実行が承認されているローカルの場所に移動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5452

メッセージ: 実行するスクリプトにアクセスできません。

説明: スクリプトが存在しないか、NetBackup Client Service からアクセスできません。

推奨処置: スクリプトとその場所がローカルシステム上にあり、NetBackup がスクリプトにアクセスできることを確認します。Windows クライアントの場合は、NetBackup Client Service を実行しているユーザーがスクリプトの read と execute のアクセス権を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5453

メッセージ: 検出されたデータベース ID またはデータベース固有名が、想定または指定された ID または名前と一致しませんでした。(The discovered Database ID or Database Unique Name did not match the ID or Name that was expected or provided.)

説明: RMAN スクリプトの生成中に、NetBackup によってデータベースのランタイムチェックが実行されます。NetBackup は、NetBackup が接続されている実際の RAC データベースではないデータベースをバックアップしようとしました。

推奨処置: 登録されている RAC データベースにすべての正しい情報が含まれていることを確認します。スキャン名、サービス名、ポート、DBID、一意の名前、提供されているその他すべてを確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5454

メッセージ: クライアントは、指定された RAC クラスタの一部ではありません。(The client is not part of the specified RAC cluster.)

説明: このコマンドを実行するには、現在のクライアントが RAC クラスタに含まれている必要があります。

推奨処置: RAC クラスタの一部であるクライアントからコマンドを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5455

メッセージ: Oracle バックアップは開始されませんでした。

説明: NetBackup は、Oracle バックアップを開始するための標準以外の方法で失敗しました。

推奨処置: データベースおよびファイルシステムが通常の状態になっていることを確認します。メモリの制約、ロックされたファイル、不正なプロセス、またはバックアップを妨げる可能性があるその他の問題がないことを確認します。可能な場合は、エラーログを確認します。システムが正常に機能していることを確認したら、Oracle バックアップを再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5456

メッセージ: Oracle RAC インスタンスが接続されていません。

説明: NetBackup は、バックアップ内のすべての Oracle RAC インスタンスに接続しようとしましたが、正常に接続されませんでした。

推奨処置: 次のことを確認した後、バックアップを再試行します。

- 1 つ以上の Oracle RAC インスタンスが起動して実行中であり、接続可能であることを確認します。
- NetBackup で Oracle RAC インスタンスへの接続に使用されているクレデンシャルが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5457

メッセージ: データベースにバックアップモードのデータファイルは含められません。(Database must not contain any data files that are in backup mode.)

説明: OIP RMAN ベースの NetBackup の保護では、データファイルにバックアップモードを適用したり解除したりする必要はありません。ファイルをバックアップモードにしたままにすると、RMAN バックアップ時に次の警告が生成されますが、操作は失敗しません。

```
RMAN-06554: WARNING: file string is in backup modeCause: A file which
 is being backed up or copied is in backup mode.
RMAN will back up the file anyway, but files do not need to be put
into backup mode before backing them up with RMAN.

Action: Use the ALTER TABLESPACE ... END BACKUP statement, at the
target database server, to take the files out of backup mode.

Oracle Support Document 2016401.1
(RMAN-06554: WARNING: file x is in backup mode)
```

ARCHIVELOG モードが有効になっている場合は、データファイルをバックアップモードのままにすることで、そのデータファイルのトランザクションがアーカイブログにオフロードされます。これらのアーカイブログはサイズが極端に増大し、システムが不安定になる可能性があります。特定の時点でリストアが想定されている場合、アーカイブログのバックアップが一度も作成されていないと、データ損失が発生する可能性があります。

推奨処置: Oracle データファイルがバックアップモードになっていることが検出された場合、NetBackup ではジョブが失敗します。影響を受けたデータファイルのバックアップモードを解除し、バックアップを再実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5458

メッセージ: メタデータの収集とバックアップに失敗しました。

説明: バックアップ処理の最後に Oracle メタデータと正確なライセンス情報を収集してバックアップしようとしましたが失敗しました。

推奨処置: クライアント (Oracle サーバー) で `bpdbsbora` と `dbclient` のログを調べて、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5459

メッセージ: Oracle テンプレートおよび DB2 テンプレートはサポートされていません。

説明: NetBackup では、Oracle テンプレートまたは DB2 テンプレートを使用したポリシーはサポートされていません。テンプレートの使用は、NetBackup 10.0 で非推奨になりました。

推奨処置: 次の方法で、テンプレートを Oracle インテリジェントポリシー (OIP)、Oracle 用のスクリプト、DB2 用のスクリプトのいずれかに変換する必要があります。

Oracle テンプレート:

- Oracle バックアップ:
  - NetBackup 管理コンソールまたは NetBackup Web UI を使用して、ポリシーとテンプレートを Oracle インテリジェントポリシー (OIP) に変換します。これが推奨されるオプションです。
  - テンプレートを RMAN バックアップスクリプトに変換します。ポリシーのテンプレートをこの新しいバックアップスクリプトに置き換えます。
- Oracle リストア:
  - テンプレートを RMAN リストアスクリプトに変換します。

DB2 テンプレート:

- DB2 バックアップ
  - バックアップテンプレートを DB2 バックアップスクリプトに変換します。ポリシーのテンプレートをこの新しいバックアップスクリプトに置き換えます。
- DB2 リストア:
  - テンプレートを DB2 リストアスクリプトに変換します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5461

メッセージ: NFS 共有にデータファイルのコピーが見つかりませんでした。

説明: Oracle Copilot の[データベース全体 - データファイルコピーの共有 (Whole Database - Datafile Copy Share)]バックアップ中に、NetBackup では NFS 共有にデータファイルが一切見つかりませんでした。

推奨処置: RMAN のクロスチェックを実行する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5462

メッセージ: Oracle クローン操作が失敗しました。(The Oracle clone operation was unsuccessful.)

説明: 要求された Oracle クローン操作は、操作中のある時点で失敗しました。

推奨処置: ジョブの詳細を確認して、失敗の詳細を確認します。また、クライアント (Oracle サーバー) と NBARS (NetBackup プライマリサーバー) の bphdb、bpdbsbora、dbclient のログで詳細を確認することもできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5464

メッセージ: バックアップ中にデータベースでデータの破損が検出されました。(Data corruption was detected in the database during backup.)

説明: Oracle または Microsoft SQL Server データベースのバックアップ中に、NetBackup がデータベース内の破損を検出しました。その結果、バックアップ操作が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- データベースの破損を確認します。
  破損が確認された場合は、問題がないことがわかっている最新のバックアップからデータベースをリストアします。
- データベースをリストアする前にバックアップの整合性を検証します。
- 破損の根本原因を調査し、定期的なバックアップや整合性チェックなどの予防措置を実施します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5500

メッセージ: オブジェクトをリカバリするためのターゲットの宛先が指定されていません。(Target destination was not provided to recover the object.)

説明: ターゲットの宛先がリカバリ API で指定されていません。

推奨処置: `cloudObjectStoreRecoveryDestination` をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5501

メッセージ: バケット名を指定する必要があります。(Bucket name must be specified.)

説明: バケット名が、リカバリ API で指定されていません。

推奨処置: リカバリ API にターゲットバケット名を追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5502

メッセージ: プロバイダ名を指定する必要があります。(Provider name must be specified.)

説明: プロバイダ名が、リカバリ API で指定されませんでした。

推奨処置: プロバイダ名をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5503

メッセージ: クラウドオブジェクトストアアカウントを指定する必要があります。(Cloud object store account must be specified.)

説明: クラウドオブジェクトストアアカウントがリカバリ API で指定されませんでした。

推奨処置: クラウドオブジェクトストアアカウント名をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5504

メッセージ: `Object/Blobs` の形式を指定する必要があります。(Object/Blobs type must be specified.)

説明: `Object/Blobs` の形式が、リカバリ API で指定されませんでした。

推奨処置: 有効な`Object/Blobs` の形式をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5505

メッセージ: リカバリ要求の一部としてリカバリ形式を指定する必要があります。(Recovery type must be specified as part of recovery request.)

説明: リカバリ形式が、リカバリ API で指定されませんでした。

推奨処置: 有効なリカバリ形式をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5506

メッセージ: リカバリ`Object/Blobs` を指定する必要があります。(Recovery Object/Blobs must be specified.)

説明: `Object/Blobs` が、リカバリ API で指定されませんでした。`includeAll` が false の場合は必須です。

推奨処置: リカバリ`Object/Blobs` を追加します (`includeAll` が false の場合)。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象

製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5507

メッセージ: リカバリ`Object/Blobs` ソースが指定されていません。(Recovery Object/Blobs source not provided.)

説明: リカバリ`Object/Blobs` ソースが、リカバリ API で指定されませんでした。

推奨処置: `Object/Blobs` ソースをリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5508

メッセージ: 宛先の詳細がリカバリ要求の一部として指定されていません。(No destination details provided as part of recovery request.)

説明: リカバリ先の詳細がリカバリ API で指定されませんでした。

推奨処置: リカバリ先の詳細をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5509

メッセージ: 指定したリカバリ形式は無効です。(Specified recovery type is not valid.)

説明: 指定されたリカバリ形式が、リカバリ API で有効ではありません。

推奨処置: 有効なリカバリ形式をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5510

メッセージ: 指定したプロバイダは無効です。(Specified provider is not valid.)

説明: 指定したプロバイダが、リカバリ API で有効ではありません。

推奨処置: 有効なプロバイダ名をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5511

メッセージ: 指定した`Object/Blobs` の値は無効です。(The specified Object/Blobs value is invalid.)

説明: 指定した `Object/Blobs` 値が、リカバリ API で有効ではありません。

推奨処置: 有効な `Object/Blobs` 値をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5512

メッセージ: 指定された接頭辞を持つオブジェクトを取得できません。(Cannot retrieve any objects with the specified prefix.)

説明: リカバリ API で、指定した接頭辞を持つ一致オブジェクトが見つかりません。

推奨処置: 有効な接頭辞をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5513

メッセージ: 無効な宛先バケット名が指定されました。(Invalid destination bucket name provided.)

説明: 指定した宛先バケットが、リカバリ API で有効ではありません。

推奨処置: 有効なバケットをリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5514

メッセージ: 指定された宛先`object/Prefix`の名前が無効です。(Specified destination object/Prefix name is not valid.)

説明: 指定した宛先`object/Prefix`の名前が、リカバリ API で有効ではありません。

推奨処置: 有効な`object/Prefix`の名前をリカバリ API に追加します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に NetBackup リカバリ API を検索します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5517

メッセージ: リカバリホストの NetBackup のバージョンまたはオペレーティングシステムのいずれかが、最小要件を満たしていません。

説明: このエラーは、メディアサーバーの NetBackup のバージョンとオペレーティングシステムが最小要件を満たしていない場合に発生します。クラウドオブジェクトストア保護の機能クレデンシャルの検証、バックアップ、およびリカバリは、次に示すメディアサーバーとオペレーティングシステムの組み合わせでのみサポートされます。

- NetBackup 10.1 以降と RHEL メディアサーバー。
- NetBackup 11.0.0.1 以降と SUSE メディアサーバー。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup メディアサーバーのオペレーティングシステムとバージョンを確認します。
  - メディアサーバーが RHEL である場合は、NetBackup バージョン 10.1 以降を使用する必要があります。
  - メディアサーバーが SUSE である場合は、NetBackup バージョン 11.0.0.1 以降を使用する必要があります。
- 構成がこれらの要件を満たしていない場合は、NetBackup メディアサーバーをアップグレードするか、サポートされているオペレーティングシステムにメディアサーバーを移行します。

- 必要な変更を行った後、クラウドオブジェクトストアのクレデンシャルを再度構成し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5532

メッセージ: ストレージユニット情報を取得できません。(Cannot retrieve storage unit information.)

説明: NetBackup がストレージユニットに関する情報を取得できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ストレージユニットが起動して実行中であることを確認します。
- ストレージユニットが構成されているメディアサーバーを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5533

メッセージ: ストレージユニット「ANY」は、クラウドオブジェクトストアの動的マルチストリーミングではサポートされていません。(The storage unit ANY is not supported for Cloud object store dynamic multistreaming.)

説明: 動的マルチストリーミングポリシーは、[ポリシーストレージ (Policy storage)]オプションの[ANY]をサポートしません。

推奨処置: 特定の[ポリシーストレージ (Policy storage)]オプションを選択します。オプション[ANY]は選択しないでください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5534

メッセージ: 入力が無効なためバックアップを完了できません。

説明: 無効な API 要求または応答により、バックアップが失敗しました。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5535

メッセージ: バックアップ操作の停止に失敗しました。

説明: NetBackup がバックアップ後のクリーンアップ操作を実行できません。このエラーの原因について詳しくは、[アクティビティモニター (Activity monitor)]を参照してください。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認します。バックアップイメージが作成されており、リカバリ可能であることを確認します。NetBackup は、自動的に古いデータをクリーンアップします。バックアップイメージが作成されており、リカバリ可能である場合、これ以外の操作は必要ありません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5536

メッセージ: SQLite データベースを開けませんでした。

説明: 接続の問題または権限が不十分であるため、一時データベースを開くことができません。

推奨処置: 一時データベースにアクセス可能で、NetBackup ユーザーが必要な権限を持っていることを確認します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5537

メッセージ: ダウンロードのステージングパスに、誤った読み取りまたは書き込み権限が指定されています。

説明: 一時的なステージングパスに対する読み取りまたは書き込み権限が正しくないため、バックアップ操作が失敗しました。指定したパスに対する読み取り、書き込み、実行権限を NetBackup ユーザーが持っている必要があります。

推奨処置: NetBackup ユーザーが正しい読み込みおよび書き込み権限を持っていることを確認し、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5538

メッセージ: ダウンロードステージングパスに誤った所有権が指定されています。

説明: 一時的なステージング場所のディレクトリ所有権が正しくないため、バックアップが失敗しました。サービスユーザーまたはルートユーザーを使用して NetBackup をインストールした場合は、そのユーザーがステージング領域フォルダの所有権を持っている必要があります。

推奨処置: 一時的なステージング領域の NetBackup ユーザーに正しい所有権を指定します。指定されたフォルダに対する読み取り、書き込み、実行権限を NetBackup ユーザーが持っている必要があります。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5540

メッセージ: ステージング領域が容量に近づいているため、バックアップパフォーマンスが遅くなっています。

説明: バックアップに指定されたステージング場所にほとんど空き領域がありません。指定された場所が容量に近づくと、バックアップパフォーマンスが遅くなります。

推奨処置: ステージング場所で利用可能なストレージ領域の量を増やします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5541

メッセージ: 指定されたステージング場所の領域が不十分です。

説明: ステージング場所の領域が不十分であるため、操作が失敗しました。

推奨処置: ステージング場所に十分な領域があることを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5542

メッセージ: ハートビートの待機サービスがタイムアウトしました。

説明: 待機サービスがタイムアウトしたため、NetBackup がバックアップ処理を監視できません。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5543

メッセージ: クラウドオブジェクトストアのバックアップで内部エラーが発生しました。

説明: バックアップで内部エラーが発生しました。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5544

メッセージ: 最新のログオブジェクトのフェッチ中にエラーが発生したため、バックアップに失敗しました。(Backup failed as error occurred while fetching latest log object.)

説明: このエラーは、ログオブジェクトの取得中に発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5545

メッセージ: NetBackup はログオブジェクトからレコードを解析できないため、バックアップに失敗しました。(Backup failed as NetBackup cannot parse records from the log object.)

説明: このエラーはログレコードの解析中に発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity monitor)]でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5546

メッセージ: ソースバケットからバケットログ記録情報を取得できませんでした。(Cannot retrieve the bucket logging information from the source bucket.)

説明: このエラーは、クラウドプロバイダからログ情報を取得するときに発生します。

推奨処置: 構成でエラーの原因を確認し、適切な訂正処理を実行します。その後、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5547

メッセージ: マーカーが無効であるか、マーカーデータの読み取り、書き込み、または抽出中にエラーが発生したため、バックアップに失敗しました。(Backup failed due to an invalid marker, or error(s) in reading, writing, or extracting marker data.)

説明: これは、マーカーまたはマーカーデータの読み取り、書き込み、または抽出中に発生する可能性があります。

推奨処置: バケットのログ記録が有効になっていることを確認し、ポリシーがターゲットバケットに正しく設定されていることを確認して、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5548

メッセージ: クラウドオブジェクトプロパティのフェッチ中にエラーが発生しました。(An error occurred while fetching cloud object properties.)

説明: このエラーは、マーカーのオブジェクトプロパティの取得中に発生します。

推奨処置: 構成を確認し、問題を解決して、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5549

メッセージ: バケットログ記録情報は検証できません。(Cannot validate bucket logging information.)

説明: これは次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- パーティション接頭辞が見つからないか、誤って設定されているため、検証に失敗しました。バケットログ記録を正しい日付パーティションの接頭辞で構成します。
- ターゲットバケットを取得できません。
- サポートされていない `LoggingType` 属性。
- ターゲット接頭辞がない、または無効です。
- `PartitionDateSource` 属性を取得できません。

推奨処置: 構成を確認して、バックアップ操作を再試行します。構成は次のようになります。

- 各ソースバケットには一意の接頭辞が必要です。接頭辞は空にできません。
- `LoggingType` 属性は *Journal* である必要があります。
- `TargetObjectKeyFormat` 属性を *PartitionedPrefix* として設定します。
- `PartitionDateSource` 属性を *EventTime* として設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5576

メッセージ: ストレージユニット UI の[最大並列実行ジョブ数]オプションをポリシーで指定されている最大ストリーム数以上の値に設定する必要があります。(The 'Maximum concurrent jobs' option in the storage unit UI should be set to a value that is greater than or equal to the maximum number of streams specified in the policy.)

説明: カタログバックアップのポリシー構成が無効です。ストレージユニットに指定された並列実行ジョブの最大数は、ポリシーで指定された最大ストリーム数以上にする必要があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

ストレージユニット UI の[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]オプションがポリシーで指定されている最大ストリーム数以上の値に設定されていることを確認します。問題が解決しない場合は、次の手順を実行します。

- [最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]オプションを最大ストリーム数以上の値に設定します。
- ポリシーのバックアップを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5577

メッセージ: 指定されたフィールドまたはオブジェクトは解析できません。(Cannot parse the specified field or object.)

説明: これは、オブジェクトの解析中に発生する可能性があります。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity Monitor)]で、失敗の正確な原因を確認します。問題を解決し、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5578

メッセージ: 指定されたフィールドまたはオブジェクトについては、NetBackup データベースからイメージ情報を取得できません。(Cannot retrieve the image info from NetBackup database for the specified field or object.)

説明: このエラーは、NetBackup データベースにイメージデータが存在しない場合に発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity Monitor)]で、データが存在しない正確な原因を確認します。問題を解決し、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5579

メッセージ: このバケットについては、オブジェクトの変更追跡を検討するのではなく、オブジェクトのリストにフォールバックして変更を検出するようポリシーで指定されています。(Falling back to object listing for change detection, not considering object change tracking for this bucket, specified in the policy.)

説明: この問題は次の理由で発生する可能性があります。

- マーカーが空または無効です。これは、以前のバックアップイメージが見つからない場合、またはこれが最初の完全バックアップの場合に発生する可能性があります。
- ストリーム数は前回のバックアップ以降に変更されました。
- バケットのログ記録の構成が変更されました。
- 前回のバックアップの `tracklog` が見つかりません。
- スケジュールで強制再スキャンが選択されています。

推奨処置: この問題に対する回避策はありません。これらのすべての理由から、NetBackup は変更検出にオブジェクトのリストを使用します。NetBackup は、以降のバックアップのオブジェクト変更追跡に戻ります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5580

メッセージ: 動的マルチストリームでは、指定されたストレージユニットグループのフェールオーバー戦略とクラウドオブジェクトストアポリシーに互換性がありません。(The specified failover strategy for the storage unit group is incompatible with the Cloud object store policy, with dynamic multistreaming.)

説明: これは、ストレージユニットグループにクラウドオブジェクトストアポリシーとの互換性がない場合に発生します。

推奨処置: クラウドオブジェクトストアポリシーと互換性があるストレージユニットグループを使用します。

ストレージユニットの選択を変更する方法

1. NetBackup の UI で、左側の[ストレージ (Storage)]をクリックし、[ストレージユニット (Storage units)]をクリックします。[ストレージユニットグループ (Storage unit groups)]タブをクリックします。
2. [追加 (Add)]をクリックして新しいストレージユニットを追加するか、既存のストレージユニットを編集します。
3. [ストレージユニットの選択 (Storage unit selection)]オプションで、必要に応じて[優先 (Prioritized)]、[ラウンドロビン (Round Robin)]、または[メディアサーバーの負荷分散 (Media Server Load Balancing)]のいずれかのオプションを選択します。

バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5581

メッセージ: 失敗したオブジェクトファイルは解析できません。(Cannot parse the failed object file.)

説明: これは、オブジェクトファイルの解析に失敗した場合に発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity Monitor)]で、失敗の正確な原因を確認します。問題を解決し、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5582

メッセージ: イメージハンドルを取得できません。(Cannot retrieve image handle.)

説明: これは、NetBackup が LibVdb ハンドルを取得できない場合に発生します。

推奨処置: [アクティビティモニター (Activity Monitor)]で、失敗の正確な原因を確認します。問題を解決し、バックアップを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5583

メッセージ: クラウドサービスプロバイダから取得されたマーカーが空です。(Empty marker received from the cloud service provider.)

説明: オブジェクトの一覧表示またはページ分割操作中にクラウドサービスプロバイダが空のマーカーを返しました。この問題は、一覧表示プロセスで予期しない応答または不整合が発生したことを示している場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 操作を再試行して、一時的な問題 (一時的なクラウドサービスの停止またはパフォーマンスの低下、クラウドプロバイダの API スロットルまたはレート制限、ネットワーク中断、部分的な応答、TLS/SSL リネゴシエーションエラーなど) を除外します。
- クラウドプロバイダとの接続性および互換性を確認します。
- プロバイダ固有のログまたは API の動作を確認し、マーカーが正しく処理されていることを確認します。
- 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5626

メッセージ: ソースマスターサーバーとターゲットマスターサーバー両方のアップグレード後に、両方のサーバー上で信頼関係を更新する必要があります。信頼できるマスターサーバーに関連する構成は、信頼関係を更新するまで変更できません。

説明: リモートマスターサーバーの信頼関係の実装は、バージョン 8.1 以降でターゲット型自動イメージレプリケーション (A.I.R.) について変更されました。ソースマスターサーバーとターゲットマスターサーバーの両方を 8.1 より前のバージョンから 8.1 以降のバージョンにアップグレードした後に、両方のマスターサーバー間の信頼関係を更新する必要があります。信頼関係を更新しないと、ソースマスターサーバー上でのストレージライフサイクルポリシーの作成と修正を行えません。

推奨処置: ソースとターゲット両方のマスターサーバーで、次のいずれかのコマンドを実行します。

ユーザークレデンシャルを使用する場合は次のコマンドを実行します。パスワードの入力を求められます。

```
nbseccmd -setuptrustedmaster -update -masterserver
master_server_name -remotemasterserver remote_master_server
-domainname domain_name -username username -fpfile filename
```

認証トークンを使用する場合は次のコマンドを実行します。トークンの入力を求められます。

```
nbseccmd -setuptrustedmaster -update -masterserver
master_server_name -remotemasterserver remote_master_server
-domainname domain_name -fpfile filename
```

応答ファイルを使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
nbseccmd -setuptrustedmaster -update -info answer_file
```

nbseccmd コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5631

メッセージ: ソースマスターサーバーは NetBackup CA が署名した証明書、ターゲットマスターサーバーは外部 CA が署名した証明書を使用します。ターゲットマスターサーバーと互換性がある外部証明書をソースマスターサーバーで構成してください。(The source master server uses a NetBackup CA-signed certificate and the target master server uses an external CA-signed certificate. Configure an external certificate on the source master server, which should be compatible with the target master server.)

説明: 信頼設定操作を正常に行うため、ソースマスターサーバーとターゲットマスターサーバーは、互いに互換性のある外部証明書を使用する必要があります。

推奨処置: ターゲットマスターサーバーと互換性があるソースマスターサーバーで外部証明書を構成したことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5761

メッセージ: Windows ソケットライブラリの初期化に失敗しました (Failed to initialize Windows Socket library)

説明: Windows の NetBackup で、Microsoft Windows のソケット通信ライブラリの初期化でエラーが発生しました。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5762

メッセージ: ピアは NetBackup マスターまたはメディアサーバーではありません (Peer is not a NetBackup Master or Media Server)

説明: NetBackup ホストは、NetBackup サーバーを認識できない場合にこのコードを返します。

推奨処置: 要求された NetBackup サーバーが、この状態コードを返した NetBackup ホストが認識しているマスターサーバーであることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5763

メッセージ: ソケット通信中にエラーが発生しました (Encountered error during socket communication)

説明: ログアシスタントのプロセスでは、マスターサーバーまたは NetBackup ホストでの操作時にソケット通信障害が発生します。

推奨処置: 他の操作で NetBackup が正しく機能している場合、このエラーの解決には Cohesity Technical Support のサポートが必要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5764

メッセージ: 実行を指定したコマンドは無効か、許可されません (Command specified for execution is invalid or not allowed)

説明: ログアシスタントのプロセスでは、NetBackup ホストでこのエラーが発生します。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5765

メッセージ: 指定したコマンドの実行に失敗しました (CreateProcess または exec) (Failed to execute specified command (CreateProcess or exec))

説明: ログアシスタントのプロセスでは、要求された処理の実行中に NetBackup ホストでこのエラーが発生します。このエラーは、システムリソースまたは製品の欠陥を示している可能性があります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5766

メッセージ: 指定したコマンドの実行に失敗しました (fork) (Failed to execute specified command (fork))

説明: ログアシスタントのプロセスでは、要求された処理の実行中に NetBackup ホストでこのエラーが発生します。このエラーはホストのシステムリソースの問題を示している可能性があります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5767

メッセージ: 子プロセスの終了コードを取得できませんでした (Failed to get exit code of child process)

説明: ログアシスタントのプロセスで、要求された操作の実行中に子プロセスの終了状態を取得できない場合に NetBackup ホスト上でこのエラーが発生します。このエラーの考えられる 1 つの原因は手動介入です。

推奨処置: このエラーが手動介入の結果でない場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5768

メッセージ: 実行したコマンドの完全出力を読み込めませんでした (Failed to read complete output of executed command)

説明: マスターサーバーのログアシスタントのプロセスと NetBackup ホスト間にソケット接続問題があります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5769

メッセージ: 子プロセスの終了コードを読み込めませんでした (Failed to read exit code of child process)

説明: 要求された操作を実行中に子プロセスの終了状態を取得できない場合に、UNIX/Linux の NetBackup ホストにあるログアシスタントのプロセスにより返されます。このエラーの考えられる 1 つの原因は手動介入です。

推奨処置: このエラーが手動介入の結果でない場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5770

メッセージ: クラスタ構成の取得に失敗しました (Failed to get cluster configuration)

説明: この状態コードは発生しません。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5771

メッセージ: リモートコマンドから受け取った出力の書き込みに失敗しました (Failed to write output received from remote command)

説明: ソケット接続問題はマスターサーバーのログアシスタントのプロセス間にあります。

推奨処置: このエラーが手動介入の結果でない場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5772

メッセージ: 統合ログ構成ファイルの読み込みに失敗しました (Failed to read unified logging configuration file)

説明: VxUL 構成ファイルが不明または形式不良です。

推奨処置: 指定された NetBackup ホスト上のエラーメッセージとともに記載された VxUL 構成ファイルの有無と形式を確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5773

メッセージ: プライマリサーバーの仮想名を取得できませんでした (Failed to get virtual name of primary server)

説明: この状態コードは発生しません。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5774

メッセージ: 指定したログは無効です (Specified logs are not valid)

説明: 製品に不具合がある可能性があります。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5775

メッセージ: 無効なオプションを指定しました (Invalid option specified)

説明: 製品に不具合がある可能性があります。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5776

メッセージ: 新しいプロセスの量産に失敗しました (Failed to spawn new process)

説明: 製品に不具合がある可能性があります。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5777

メッセージ: プライマリサーバーのステージングディレクトリを作成できませんでした (Failed to create staging directory on primary server)

説明: ログアシスタントは、マスターサーバーに指定のステージングディレクトリを作成できませんでした。

推奨処置: 指定されたパスがすでに存在することを確認してください。存在しない場合は、手動で作成してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5778

メッセージ: ログアシスタントデータベースの読み込みに失敗しました (Failed to read Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントがデータベースファイルのパスと内容を読み込めません。

推奨処置: ログアシスタントデータベースファイルのアクセス権を確認してください。

```
UNIX: /usr/openv/var/global/logasst.db

Windows: <Install Path>¥NetBackup¥var¥global¥logasst.db
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5779

メッセージ: ログアシスタントデータベースのロックに失敗しました (Failed to lock Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5780

メッセージ: データベースファイル処理の非継承フラグを設定できませんでした (Failed to set non-inherit flag on database file handle)

説明: このエラーは Windows でのみ発生します。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5781

メッセージ: ログアシスタントデータベースの保存を準備できませんでした (Failed to prepare to save Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5782

メッセージ: ログアシスタントデータベースの書き込みを開始できませんでした (Failed to start to write Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5783

メッセージ: ログアシスタントデータベースの保存に失敗しました (Failed to save Logging Assistant database)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5784

メッセージ: Readme または進捗ファイルにアクセスまたは書き込みできません (Failed to access or write the readme or progress file)

説明: Readme または進捗ファイルの読み込みまたは書き込みを行う親ディレクトリが不明かアクセス権がありません。

推奨処置: 指定されたパスを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5786

メッセージ: ログアシスタントのレコードが存在しません (Logging Assistant record does not exist)

説明: 別の GUI インスタンスによりログアシスタントのレコードが削除されました。

推奨処置: ログアシスタント GUI を更新し、レコードが削除されているかを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5787

メッセージ: ログアシスタントレコードがすでに存在します (Logging Assistant record already exists)

説明: なし

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5788

メッセージ: ログアシスタントレコードのデバッグログを設定していません (Debug logging has not been set up for Logging Assistant record)

説明: ログアシスタント GUI が同期していません。

推奨処置: ログアシスタント GUI のビューを更新し、再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5789

メッセージ: ジョブの詳細を取得する `bpdbjobs` 出力を解釈できませんでした (Failed to interpret bpdbjobs output for job detail)

説明: ログアシスタントで、[ジョブ (Jobs)]データベースからフェッチした情報が解釈されました。ログアシスタントは、デバッグログを事前に選択して、[ジョブ (Jobs)]データベースに基づいて設定することができません。

推奨処置: 設定するデバッグログを手動で選択したください。ジョブ分析の不具合の調査のため、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5790

メッセージ: PureDisk 構成設定を Windows レジストリからフェッチできませんでした (Failed to fetch PureDisk configuration setting from Windows registry)

説明: NetBackup は PureDisk の構成情報を読み込むことができません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5794

メッセージ: デバッグログのプレビュー用サイズを計算できませんでした (Failed to calculate debug logs size for preview)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5796

メッセージ: ログアシスタントエージェントはプライマリサーバーにソケット送信で書き込めませんでした (Logging Assistant agent encountered failure writing on socket to primary server)

説明: マスターサーバーのログアシスタントのプロセスと NetBackup ホスト間にソケット接続問題があります。

推奨処置: ログアシスタント処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5798

メッセージ: bpmount を使用してプライマリサーバーのディスクボリュームを一覧表示できませんでした (Failed to list disk volumes on primary server using `bpmount`)

説明: このエラーは、空きディスク容量の情報のフェッチ中に、ログアシスタントが Windows のパーティションを列挙する際に発生します。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。この状態でも、手動で空き領域情報を確立し、ログの収集などの意図した処理を開始できる場合があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5799

メッセージ: ボリュームポイントまたはマウントポイントのディスク容量情報を取得できませんでした (Failed to get disk space information of volumes or mount points)

説明: ログアシスタントは空きディスク容量情報のフェッチを試みます。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。この状態でも、手動で空き領域情報を確立し、ログの収集などの意図した処理を開始できる場合があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5800

メッセージ: ジョブの詳細をフェッチする `bpdbjobs` を実行できませんでした (Failed to execute bpdbjobs to fetch job details)

説明: ログアシスタントに不具合がある可能性があります。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5801

メッセージ: ジョブの詳細をフェッチできませんでした。(Failed to fetch job details.) ジョブの有無を確認してください。(Failed to fetch job details. Check if job exists)

説明: ジョブ分析の指定されたジョブ ID は、設定するデバッグログがジョブデータベースに存在しないことを示しています。

推奨処置: 指定されたジョブ ID が存在する場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5803

メッセージ: PureDisk 構成ファイルの変更に失敗しました (Failed to modify PureDisk configuration file)

説明: なし

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5804

メッセージ: Java GUI 構成ファイル (`Debug.properties`) の変更に失敗しました (Failed to modify Java GUI configuration file (Debug.properties))

説明: なし

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5805

メッセージ: リモートホスト NetBackup バージョンはログアシスタントでサポートされていません (Remote host NetBackup version not supported by the Logging Assistant)

説明: ログアシスタントは、NetBackup 7.7 以上を実行するホスト上でのデバッグログの設定 (およびデバッグログの収集) をサポートします。

推奨処置: なし

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5806

メッセージ: PureDisk 構成ファイル (`pdregistry.cfg`) の予期しないコンテンツ (Unexpected contents of PureDisk configuration file (pdregistry.cfg))

説明: なし

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5807

メッセージ: リモートホストから nbcplogs/nbsu 出力ファイルをコピーできませんでした (Failed to copy nbcplogs/nbsu output file from remote host)

説明: ログアシスタントは、bpcd に接続して NetBackup ホストから nbcplogs および nbsu 出力ファイルをコピーします。

推奨処置: マスターサーバーからの bpcd への接続が bptestbpcd を使用して設定できることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5808

メッセージ: ログレベルを変更する PBX 構成の読み込みに失敗しました (Failed to load PBX configuration to change log level)

説明: PBX 構成ファイルが不明または形式不良の可能性があります。

推奨処置: PBX 構成ファイルの有無と形式、およびエラーメッセージを指定された NetBackup ホストで確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5809

メッセージ: 指定した PBX デバッグログレベルは無効です (Invalid PBX Debug Log Level specified)

説明: PBX ログレベルが無効です。

推奨処置: PBX ログレベルを適切な値に設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5811

メッセージ: ログの収集に使う一時ディレクトリが存在しません (Temporary directory to use for logs collection does not exist)

説明: ログアシスタントは、nbcplogs または nbsu 出力を収集する NetBackup ホストで一時ディレクトリを作成できませんでした。

推奨処置: NetBackup ホストのディレクトリのアクセス権を確認してください。また、指定された一時ディレクトリの親ディレクトリが存在することも確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5812

メッセージ: nbcplogs がエラーを出して終了しました (nbcplogs exited with error)

説明: この状態コードは発生しません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5813

メッセージ: nbcplogs がログを収集しませんでした (nbcplogs did not collect any logs)

説明: なし

推奨処置: ホストのデバッグログが収集可能かを確認してください。ログアシスタントのレコードに関連するデバッグログがホストに存在する場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5814

メッセージ: nbsu がエラーを出して終了しました (nbsu exited with error)

説明: なし

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5815

メッセージ: ログアシスタントレコードに対して進行中のアクティビティはありません (No activity for the Logging Assistant record is in progress)

説明: ログアシスタント GUI が同期していません。

推奨処置: ログアシスタント GUI を更新して再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5816

メッセージ: デバッグログの収集操作を中止しました (Collect debug logs operation cancelled)

説明: デバッグログの収集が停止されました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5817

メッセージ: 収集を行う `nbsu` 操作を中止しました。(Collect nbsu operation canceled.)

説明: `nbsu` 操作がキャンセルされました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5819

メッセージ: 中止操作が要求されました (Cancel operation requested)

説明: 操作のキャンセル要求が失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5820

メッセージ: クリーンアップに有効なログアシスタントの一時ディレクトリではありません (Not a valid Logging Assistant temporary directory for clean-up)

説明: 指定したログアシスタントの一時ディレクトリが無効です。

推奨処置: 有効なログアシスタントの一時ディレクトリを入力し、操作を再試行します。問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5821

メッセージ: ポリシーの詳細の取得に失敗しました (Failed to get policy details)

説明: 設定するデバッグログを提案するため、ログアシスタントは分析用に提出されるジョブ ID に関連付けられたポリシー情報をフェッチします。しかし、ポリシーが存在しません。

推奨処置: 関連付けられたポリシーが存在する場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5902

メッセージ: 証明書の指紋を生成できませんでした。

説明: CA 証明書がトラストストアにない可能性があります。

推奨処置: `nbcertcmd -getCACertificate` コマンドを実行して CA 証明書の生成を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5903

メッセージ: CA 証明書を検証できませんでした。

説明: ホスト上にある CA 証明書を使用して要求を実行することができません。通信しようとしている NetBackup ホストと信頼関係が確立されていません。CA 証明書がホスト証明書データベースのトラストストアにないか、トラストストアに同じ名前 (通常は、`localhost.localdomain` のような汎用的な名前) の証明書が 2 つ以上あります。Web サービスの証明書が期限切れの可能性もあります。

推奨処置: NetBackup ホストは、CA を信頼する必要があります。`nbcertcmd -listCACertDetails` コマンドで CA 証明書がトラストストアに追加されたかどうかを確認します。`nbcertcmd -getCACertificate` コマンドを実行して、トラストストアに証明書を追加します。

トラストストアに同じ (汎用的な) 名前を持つ複数の証明書がある場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5904

メッセージ: 内部エラーです。

説明: 内部サービスの 1 つが応答に失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5905

メッセージ: ホスト ID が無効です。

説明: マスターサーバーが、指定したホスト ID を認識しません。

推奨処置: `nbcertcmd -listCertDetails` コマンドを使用して指定したホスト ID について確認します。指定した NetBackup ホストが複数の NetBackup ドメインの一部である場合は、指定の NetBackup ドメインに対応する正しいホスト ID を指定していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5906

メッセージ: トークンが無効です。

説明: 生成されたトークンが無効です。

推奨処置: 操作をやり直します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5907

メッセージ: 不明なリソースが要求されました。

説明: 表示しようとしているか、関連する操作を実行しようとしている証明書が存在しません。

推奨処置: 提供した証明書の詳細を検証します。詳細にはシリアル番号、ホスト ID、ホスト名が含まれます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5908

メッセージ: 不明なエラーが発生しました。

説明: 証明書の生成、更新、または取得の操作が失敗しました。

推奨処置: `nbcert` ログのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5909

メッセージ: このトークン値のトークンが存在しません。

説明: 指定したトークンの値が正しくありません。

推奨処置: 正しいトークン値を指定して、操作を再実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5910

メッセージ: ホスト名が指定されていません。

説明: 操作は、必要な情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5913

メッセージ: 同じ名前のトークンがすでに存在します。

説明: 新しいトークンを作成するために使っているトークン名はすでに存在します。

推奨処置: 新しい名前を指定して、トークンを再作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5914

メッセージ: セキュリティサービスを利用できません。

説明: NetBackup Web サービスが接続不能であるか、マスターサーバーで実行されていません。

推奨処置: 操作を実行しているホストのネットワーク接続を確認します。NetBackup Web サービスの状態を修正するために NetBackup の管理者に問い合わせてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5915

メッセージ: 要求がタイムアウトしました。(Request timed out.)

説明: NetBackup Web サービスに対する要求が、ネットワークタイムアウトのために失敗しました。

推奨処置: 操作を実行しているホストのネットワーク接続を確認します。NetBackup Web サービスの状態を修正するために NetBackup の管理者に問い合わせてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5916

メッセージ: トークン名が指定されていません。

説明: ユーザーが要求でトークン名を指定していなかったため、要求からトークン情報を取得する操作に失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5917

メッセージ: 再発行トークンの使用回数を 1 より大きくできません。

説明: 再発行トークンを複数回使用するトークンにはできません。

推奨処置: 複数回使用するトークンは、ホストに関連付けられません。再発行トークンを複数回使用するトークンにはできません。適切な処理を実行して、必要なトークンを生成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5918

メッセージ: トークンの最大使用回数には 1 から 99999 の有効な範囲内の値を指定する必要があります。

説明: トークンは 1 回から 99,999 回まで使用できます。選択した最大使用回数が許容される使用数を超えています。

推奨処置: 有効な使用回数を選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5919

メッセージ: このトークンに指定した有効期間が有効ではありません。指定できる最大の有効期間は 999 日です。

説明: トークンの有効期間は 1 日から 999 日までに設定できます。指定した有効期間が、可能な有効期間を超えています。

推奨処置: 有効な期間を選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5920

メッセージ: 指定したトークンに別のホスト名が関連付けられています。

説明: 指定したトークンは、要求元のホストに関連付けられていません。

推奨処置: 正しいトークンを使用していることを確認します。指定した NetBackup ホストが複数の NetBackup ドメインに関連付けられている場合は、適切な NetBackup ドメインに対応するトークンを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5921

メッセージ: 指定したトークンに別のホスト ID が関連付けられています。

説明: 指定したトークンは、ホストに関連付けられていません。

推奨処置: 正しいトークンを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5922

メッセージ: 再発行トークンにホスト名を関連付けることができません。

説明: ホスト ID とホスト名の両方を使用してトークンを生成することはできません。

推奨処置: ホスト ID かホスト名のどちらかを使用してトークンの再生成を行ってください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5925

メッセージ: 必要なデータがありません。

説明: 証明書の生成または更新が要求されていますが、その要求とともに送信された証明書署名要求 (CSR) ファイルが空です。

推奨処置: 指定したすべての必要な入力内容が正しいことを確認して、操作を再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5926

メッセージ: 証明書の署名要求が無効です。

説明: 要求ファイルに署名した証明書が、想定した形式になっていません。

推奨処置: 証明書要求ファイルを再生成して、操作を再実行し、転送中にデータが変更していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5927

メッセージ: 指定したファイルを開けませんでした。

説明: 指定したファイルが存在しないか、ファイルにアクセスする権限がありません。

推奨処置: 有効なファイル名を使用してファイルを開くか、権限を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5929

メッセージ: 証明書が有効状態でないため、更新できません。

説明: 証明書には有効、無効化済み、期限切れの 3 つの状態があります。無効化済みの証明書を更新することはできません。

推奨処置: 修正処置を実行した後に、証明書の再発行要求を送信します。同じクレデンシャル (鍵ペア) を使用する場合は、再発行トークンを使用して新しい証明書を生成することができます。次のコマンドを使うことができます。

```
nbcertcmd -getCertificate
```

クレデンシャルを変更する計画がある場合のワークフローについて詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』を参照してください

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5930

メッセージ: 要求を認可できませんでした。

説明: マスターサーバーはクライアント証明書を検証できません。この問題の考えられる原因は次のとおりです。

- クライアント証明書が期限切れです。`nbcertcmd -listCertDetails` または `nbcertcmd -listCertDetails -cluster` コマンドを実行して確認できます。
- クライアント鍵ペアが変更され、ホストが別のマスターサーバーから証明書を取得または更新されています。
- ホストの証明書が無効になっています。
- Web の認証トークンが NetBackup Web アプリケーションの操作 (`nbcertcmd`) で必要です。ユーザーが認証されていない場合、このエラーが表示される場合があります。

推奨処置: 再発行トークンを `nbcertcmd -getCertificate` コマンドで使用します。ユーザーが認証されていない場合は、`bpnbat -login -logintype WEB` コマンドを使用して Web 認証トークンを取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5931

メッセージ: ホスト ID が空です。

説明: 証明書の無効化要求で、ホスト ID が見つかりません。

推奨処置: 要求を再送信します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5932

メッセージ: トークン使用数が設定されていません。

説明: 使用回数を 0 に設定して認証トークンを生成しようとしました。

推奨処置: 有効なパラメータでトークンを生成します。許容される数は、1 から 99,999 までです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5933

メッセージ: 最大トークン使用数の上限に達しました。

説明: 認証トークンには、固定の使用回数があります。使用回数が許容される使用回数を超えている場合、トークンを使用することはできません。

推奨処置: 新しいトークンを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5934

メッセージ: トークンが期限切れになりました。

説明: トークンの有効期間が最大限度に到達して、期限切れになりました。このトークンは使用できなくなりました。

推奨処置: 新しいトークンを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5936

メッセージ: 指定したトークン名が有効な形式ではありません。

説明: トークンに指定した名前に、無効な文字が含まれています。

推奨処置: 有効なトークン名を指定します。有効な文字は、A-Z、a-z、0-9、_ です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5938

メッセージ: 無効化の理由コードが無効です。

説明: NetBackup は、1 から 5 までの無効化の理由コードのみをサポートします。

推奨処置: 有効な理由コードを指定して、証明書の無効化を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5939

メッセージ: この無効化の理由コードはサーバーでサポートされません。

説明: NetBackup は、1 から 5 までの無効化の理由コードのみをサポートします。

推奨処置: 有効な理由コードを指定して、証明書の無効化を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5940

メッセージ: 再発行トークンは必須です。再発行トークンを入力してください。

説明: 証明書の再発行では、特定のホスト ID に関連付けられている再発行トークンが必要です。

推奨処置: 必要なホストの再発行トークンを生成してから、証明書の再実行を要求します。次のコマンド (または NetBackup 管理コンソール) を使用して再発行トークンを生成します。

```
nbcertcmd -createToken -name name_of_token -reissue
[-host host_name | -hostId host_id]
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5941

メッセージ: ホスト ID にホストが関連付けられていません。

説明: 指定したホスト ID がマスターサーバーでは不明です。

推奨処置: 指定したホスト ID が指定したマスターサーバーに対応することを検証します。指定した NetBackup ホストで nbcertcmd -listCertDetails コマンドを使用して、指定したマスターサーバーに対応するホスト ID を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5942

メッセージ: ローカル証明書ストアから証明書を読み取れませんでした。

説明: 証明書がローカル証明書ストアに追加されなかったか、消失または破損している可能性があります。指定の NetBackup ホストで管理者権限がない可能性もあります。また、NetBackup CA が署名した証明書が通信に使用されている場合にもこのエラーが発生することがあります。外部 CA が署名した証明書の場合、外部証明書が消失または破損している可能性があります。

推奨処置: 指定の NetBackup ホストで管理者権限があるかどうかを確認します。必要な権限がある場合は、-force オプションを nbcertcmd -getCertificate コマンドで使用して既存の証明書を再生成します。マスターサーバーで指定した証明書配備のセキュリティレベルに応じて、このコマンドにトークンを指定する必要がある可能性があります。

外部 CA が署名した証明書が通信に使用されている場合、その証明書が消失または破損している可能性があります。次の操作を試行してください。

- bp.conf/registry で ECA_CERT_PATH キーに指定されている外部証明書が消失または破損している可能性があります。指定された証明書のパスの形式が正しいことを確認します。ECA_CERT_PATH 構成オプションに設定されている値を確認し、必要なアクセス許可があり、アクセス可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5943

メッセージ: 書き込み用ファイルに対するロックを取得できません。

説明: ファイルのアップデート中にエラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5944

メッセージ: ホストのエイリアスリストに複数のホスト名が含まれています。

説明: 証明書署名要求に複数のホスト名が含まれていますが、サポートされるのは 1 つのホスト名のみです。

推奨処置: 証明書署名要求に 1 つのホスト名を指定して、マスターサーバーに要求を再送信します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5945

メッセージ: ホストのエイリアスが指定されていません。

説明: 証明書署名要求にホスト名が含まれていません。

推奨処置: 証明書署名要求にホスト名を指定して、マスターサーバーに要求を再送信します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5946

メッセージ: トークンは必須です。トークンを入力してください。

説明: マスターサーバーの証明書配備のセキュリティレベルでは、指定したホストへの証明書の自動配備をサポートしません。

推奨処置: 認証トークンを生成し、`nbcertcmd -getCertificate` コマンドを実行して証明書を要求します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5947

メッセージ: ホストがサーバーに登録されていません。

説明: 指定したホストが見つかりませんでした。

推奨処置: 正しいホスト名を指定するか、有効な認証トークンを使って操作を再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5948

メッセージ: ローカル証明書ストアに証明書を書き込めませんでした。

説明: 指定した NetBackup ホストで、ローカルの証明書ストアに証明書を追加するための管理者権限がない可能性があります。

推奨処置: 指定の NetBackup ホストで管理者権限があるかどうかを確認します。必要な権限がある場合は、操作をやり直します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5949

メッセージ: 証明書が存在しません。

説明: NetBackup ホストに指定したサーバーの証明書が存在しません。

推奨処置: 適切な証明書が配備されていることを確認します。証明書を配備する方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5950

メッセージ: 証明書はすでに存在します。

説明: 要求元の NetBackup ホストで、指定したサーバーの証明書がすでに存在します。

推奨処置: 必要に応じて、`nbcertcmd -getCertificate -force` コマンドを使用して既存の証明書を上書きします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5953

メッセージ: 証明書配備レベルが無効です。

説明: 設定しようとしている証明書配備レベルが無効です。

推奨処置: 0 から 2 の証明書配備レベルを選択して、証明書配備レベルを設定するコマンドを再実行します。証明書配備レベルについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5954

メッセージ: ホスト名を要求しているホストの IP アドレスに解決できませんでした。

説明: マスターサーバーは、証明書を要求している NetBackup ホストのピア IP アドレスに対してホスト名を解決できません。

推奨処置: マスターサーバーがピア IP アドレスに対してホスト名を解決できるように、ネットワーク構成を検証し、修正します。または、証明書を配備するために認証トークンを使用することができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5955

メッセージ: ホスト名がプライマリサーバーに認識されていません。(The host name is not known to the primary server.)

説明: ホスト名が既知のホストのリストにありません。

推奨処置: 次の場所のいずれかにホストのエントリが存在することを確認します: サーバーの構成リスト、EMM データベース、1 つ以上のカタログイメージ (6 カ月以内のもの)、ポリシーにリストされているクライアント、またはクライアント DB エントリ。または、証明書を配備するために認証トークンを使用することができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5956

メッセージ: プライマリサーバーの既存の証明書配備レベルではこの操作は許可されません。(The existing certificate deployment level on the primary server does not allow this operation.)

説明: ホストに設定された証明書配備のセキュリティレベルでは、ホスト ID ベースのセキュリティ証明書を配備したり、CA 証明書を検証なしでトラストストアに追加したりできません。

推奨処置: ホスト ID ベースの証明書を取得しているときにこのエラーメッセージが表示された場合は、必ず有効な認証トークンを `-getCertificate` オプションで使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5957

メッセージ: プライマリサーバーは CA に接続できません。(The primary server is unable to connect to the CA.)

説明: プライマリサーバーが NetBackup AT ブローカーに接続できません。

推奨処置: プライマリサーバーで NetBackup AT ブローカーの状態を確認します。必要に応じて、サービスを再起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5958

メッセージ: プライマリサーバーは CA 証明書にアクセスできません。(The primary server is unable to access the CA certificate.)

説明: プライマリサーバーの Web サービスのユーザーに、CA 証明書にアクセスするための必要な権限がありません。

推奨処置: Web サービスのユーザーが、プライマリサーバーで CA 証明書を読み込むために必要な権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5959

メッセージ: Web サービスユーザーの NetBackup AT クレデンシャルが無効です。

説明: Web サービスのユーザーの AT クレデンシャルが無効または期限切れです。

推奨処置: マスターサーバーの Web サービスを停止し、`nbcertconfig -u -user` *`webservice_user`* コマンドを実行して Web サービスを再起動します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5960

メッセージ: プライマリサーバーの NetBackup AT 構成を初期化できませんでした。(NetBackup AT configuration on the primary server could not be initialized.)

説明: AT 構成の初期化が失敗したか、Web サービスのユーザーにその証明書ストアにアクセスするための必要な権限がありません。

推奨処置: Web サービスのユーザーが、プライマリサーバーで証明書ストアにアクセスするために必要な権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5962

メッセージ: ホスト名が証明書内の既存の名前と一致しません。

説明: ホスト ID の証明書の更新が、ホスト名が変更されたホストに対して試行されています。

推奨処置: NetBackup ホストの管理者が、名前が新しくなった指定のホストの証明書を取得しようとしている場合は、次の手順を実行します。

1. NetBackup ホストの管理者は、NetBackup 管理者に対して、`-host host_name | -hostId host_id` オプションを使用してホストの証明書を無効にするよう依頼してください。NetBackup 管理者は次のコマンドを使うことができます。

   ```
   nbcertcmd -revokeCertificate -reasonCode value
   -host old_host_name | -hostId host_id
   ```

2. NetBackup ホストの管理者は、NetBackup 管理者に対して、特定のホスト用の再発行トークンを生成するよう依頼してください。NetBackup 管理者は次のコマンドを使うことができます。

   ```
   nbcertcmd -createToken -name token_name -reissue
   -host old_host_name | -hostId host_id
   ```

3. NetBackup ホストの管理者が再発行トークンを受け取ると、次のコマンドを使用できます (操作を求めるメッセージが表示されたら、受け取ったトークンを指定します)。

   ```
   nbcertcmd -getCertificate -token -force
   ```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5963

メッセージ: エンティティが存在しません。

説明: ユーザーが特定のコマンドを使用するときに存在しないエンティティを参照しています。利用可能なエンティティは認証トークンまたはホスト ID ベースの証明書のいずれかです。ユーザーが間違ったトークン名でトークンを参照しているか、または不正なシリアル番号で証明書を参照している可能性があります。

推奨処置: コマンドで指定した引数値が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5964

メッセージ: データ変換エラーです。

説明: データの処理中に内部エラーが発生しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5965

メッセージ: この再発行トークンに関連付けられたホスト ID は別のホストに割り当てられています。このホストのホストIDを再利用する前に、ホストIDに関連付けられている既存の証明書を無効にして、このホスト名をホスト ID にマッピングします。

説明: ユーザーが再発行トークンを使用して `nbcertcmd -getCertificate` コマンドを指定しました。ユーザーは、サーバーで登録されている名前と異なるホスト名のホストに対して、ホスト ID を再発行しようとしています。ホストが名前変更され、その識別情報がNetBackupドメインで保持されることを確認する場合、ユーザーは既存のホスト名で既存の証明書を無効にする必要があります。

推奨処置: ユーザーは現在の証明書を既存のホスト名で無効にしてからでないと、新しいホスト名を使って証明書を要求するための再発行トークンを使用できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5966

メッセージ: ホストには有効な証明書があります。ホストとそのホスト ID との関連付けを解除するには、まず証明書を無効にする必要があります。

説明: ユーザーは既存のホストを分離しようとしていますが、そのホストに有効な証明書があります。この場合、証明書を無効化したホストのみが既存のホスト ID から分離可能であるとして、サーバーは分離の要求を拒否します。

推奨処置: ユーザーはこのホストの証明書を無効化する必要があります。無効化した後にのみ、関連付けられたホスト ID から分離したものとしてホストをマーク付けします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5967

メッセージ: ファイルはすでに存在します。

説明: ユーザーが操作を実行するために特定のファイル名を指定しましたが、そのファイルは指定した場所にすでに存在します。

推奨処置: ユーザーは既存のファイルを名前変更、移動、削除するか、新しいファイル名を提出できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5968

メッセージ: 証明書の署名要求の作成中にホスト情報を取得できませんでした。

説明: 指定したホストに対する証明書の署名要求を作成しているときに、ホスト名、ホストエイリアス、ホスト鍵ペアなどの特定の情報がホストから取得されます。nbcertcmd コマンドは、この情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 次の解決策を試みてください。

- 現在の操作を再試行します。
- システムを再起動して現在の操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5969

メッセージ: NetBackup Web 管理コンソールサービスからのレスポンスを解析できませんでした。

説明: 現在の操作の実行中に NetBackup Web 管理コンソールサービスから受け取った応答が不明または不正な形式です。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5970

メッセージ: サーバー時間をフェッチできませんでした。

説明: 現在のサーバー時間をフェッチすることができませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5971

メッセージ: トークンにサポートされていない文字が含まれています。

説明: トークンファイルで渡されたトークン値にサポートされていない文字が含まれています。NetBackup では、トークン値の一部として使える文字は A-Z、a-z、0-9 のみです。

推奨処置: トークンファイルで渡されたトークン値を調べて、有効な文字 (A-Z、a-z、0-9) が使われていることを確認します。ファイルのエンコード形式が ANSI であることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5972

メッセージ: 証明書を無効化できませんでした。すでに失効したか期限が切れています。

説明: すでに失効している証明書や期限切れの証明書を無効化しようとしても許可されません。

推奨処置: 有効な証明書を指定して、証明書の無効化を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5973

メッセージ: トークンタイプが無効です。

説明: トークンを作成するには、有効なトークンタイプを指定する必要があります。

推奨処置: 次のトークンタイプのいずれかを指定します。

- 0 - デフォルトトークン
- 1 - 再発行トークン

トークンタイプを指定しないと、デフォルトのトークンタイプ (0) が自動的に選択されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5974

メッセージ: 指定されたトークンにはホスト ID が必要です。

説明: 再発行トークンを作成するには、対応するホスト ID が必要です。

推奨処置: トークンを作成するホストのホスト ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5976

メッセージ: パスフレーズは 8 ～ 20 文字で指定する必要があります。

説明: 指定したパスフレーズの長さは、許容範囲外です。

推奨処置: パスフレーズは 8 ～ 20 文字で指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5977

メッセージ: 新しいパスフレーズは必ず、古いパスワードとは異なるものにします。

説明: 指定されたパスフレーズは、既存のものと同じです。

推奨処置: 既存のものとは異なるパスフレーズを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5978

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) とセキュリティレベルの更新に失敗しました。(Failed to refresh the certificate revocation list (CRL) and security level.)

説明: このエラーは、次の原因で発生する場合があります。

- 推奨処置: HTTP 要求で、CRL の取得に失敗した
- ディスク上に CRL を保存できなかった
- HTTP 要求でセキュリティレベルの取得に失敗した
- CRL およびセキュリティレベルの情報で `certmapinfo.json` を更新するのに失敗した
- DMZ 内のクライアントがメディアサーバーで HTTP トンネルに接続できなかったため、CRL の取得に失敗した

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーの NetBackup サーバーで、`nbwebservice` の統合ログ (OID 466 と 484) を調べる

- メディアサーバーで、pbx (OID 103)、nbpxytnl (OID 490)、nbpxyhelper (OID 486) のログを調べます。pbx は次のディレクトリに記録されます。
  Windows の場合: *install_path*¥VxPBX¥log
  UNIX の場合: /opt/VRTSpbx/log
- 以下がオンラインであることを確認します。
  - NetBackup マスターサーバー
  - NetBackup Web 管理コンソールサービス (nbwmc)
  - NetBackup リレーショナルデータベース (NBDB)
- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5979

メッセージ**:** 証明書の証明書失効リスト (CRL) が無効です。(The certificate revocation list (CRL) in the certificate is invalid.)

説明**:** このエラーは、次の原因で発生する場合があります。

- 説明**:** ホストが HTTP 要求で証明書を要求したときに CRL の取得に失敗した。
- CRL が空か、CRL の形式が無効。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べるこれらのログを使用して、Web サービスで発生する問題をトラブルシューティングできます。
- マスターサーバーで、nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) を確認する。
- マスターサーバーでサービスを再起動する。ホストで次のコマンドを再試行して、CRL を取得する。

```
./nbcertcmd -getCrl
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5980

メッセージ**:** 証明書のセキュリティレベルが無効です。

説明**:** ホストが HTTP 要求で証明書のセキュリティレベルの取得に失敗しました。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーの NetBackup サーバーで、nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) を調べる
- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる
- 次のホストのコマンドを実行して、CRL とセキュリティレベルをフェッチします。

  ```
  ./nbcertcmd -getCrl
  ```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5982

メッセージ**:** 証明書失効リスト (CRL) を使用できません。(The certificate revocation list (CRL) is unavailable.)

説明**:** NetBackup CA が署名した証明書が通信に使用されている場合、次の理由によりこのエラーが発生することがあります。

- (シナリオ 1) NetBackup Web サービスがまだ CRL を生成していない。NetBackup Web サービスは、起動時に新しい CRL を生成しようとします。CRL が生成されていない場合、次のいずれかを意味します。CRL を作成中であるか、CRL 生成に問題があります。
- (シナリオ 2) 現在のドメイン用にキャッシュされた CRL がホストにない。

外部 CA が署名した証明書が通信に使用されている場合。

- (シナリオ 3) NetBackup が正しい CRL パスで構成されていない、または証明書に有効な CRL 配布ポイント (CDP) が含まれていない。
- (シナリオ 4) NetBackup CRL キャッシュにキャッシュされた CRL がホストにない。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

シナリオ 1 の場合、次を行います。

- コマンドまたは操作を再試行します。
- nbatd がマスターサーバーで実行していることを確認し、操作を再試行します。
- マスターサーバー上でサービスを再起動し、操作を再試行します。
- マスターサーバーで、NetBackup サーバーの nbwebservice の統合ログ (すべての OID) を調べます。
- マスターサーバーと、エラーが発生したホストで、nbatd の統合ログ (OID 18) を調べます。

シナリオ 2 の場合、次を行います。

- マスターサーバーで次のコマンドを実行して、操作を再試行します。

  ```
  ./nbcertcmd -getCrl -server master server name
  ```

- 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べる
- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる
- (シナリオ 3) NetBackup が正しい CRL パスで構成されていない、または証明書に有効な CDP が含まれていない。
  - ECA_CRL_PATH の設定が NetBackup 構成ファイルで指定されている場合は、次を確認します。
    - ECA_CRL_PATH に正しい CRL ディレクトリのパスが設定されている。
    - CRL ディレクトリに、(ECA_CRL_CHECK 設定に従って) すべての必要な証明書の発行者の CRL が含まれている。
    - CRL が PEM または DER 形式である。
    - CRL の期限が切れていない。
    - CRL の最終更新日が将来の日付ではない。
  - CDP を使用し、該当する場合は、次の操作を行います。
    - あらゆる理由の無効化の情報を含む CRL を指す、1 つ以上の CDP (HTTP または HTTPS プロトコルを使用) が証明書にあることを確認する。
    - CDP の URL がアクセス可能である。
- (シナリオ 4) NetBackup CRL キャッシュにキャッシュされた CRL がホストにない。
  - NetBackup 構成ファイルで ECA_CRL_PATH 設定が指定されている場合、通信するすべてのホストで次のコマンドを実行し、操作を再試行します。

    ```
    ./nbcertcmd -updateCRLCache
    ```

  - bpclntcmd が実行中の場合は終了させて (bpclntcmd -terminate)、この操作を再試行します。
    - VERBOSE と ENABLE_NBCURL_VERBOSE (0|1) を設定します。
    - bpclntcmd のログを調べます。
  - 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べる
  - エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5983

メッセージ: ホスト証明書は無効化されています。

説明: ホスト証明書が証明書取り消しリスト (CRL) に存在しますが、無効になっています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生したホストの NetBackup サーバーで nbcertcmd のレガシーログを調べます。
- 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べます。
- エラーが発生して証明書が無効になった場合は該当ホストの証明書を再発行します。
- 意図的に証明書が無効になった場合はセキュリティ違反の操作が試行された可能性があります。
- セキュリティ管理者に連絡します。
- ホストの証明書を再発行するには、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5986

メッセージ: ホストをプライマリサーバーとして検証できなかったため、ホストの証明書要求が拒否されました。(Certificate request for host was rejected as the host could not be validated as a primary server.)

説明: nbcertcmd -getCertificate コマンドでマスターサーバー固有のパラメータが送信されましたが、マスターサーバー以外のホストの証明書が要求されました。

推奨処置: マスターサーバー以外のホストに証明書を配備する際は、マスターサーバー固有のパラメータを送信しないように注意してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5987

メッセージ: NetBackup プライマリサーバーのホスト ID をフェッチできませんでした。(Could not fetch the host ID of the NetBackup primary server.) プライマリサーバーに証明書がない可能性があります。(The primary server may not have the certificate.)

説明: マスターサーバーに証明書がないか、マスターサーバー上の NetBackup Service Layer (NBSL) が停止しています。

推奨処置: 以下のことを必ず行います。

- マスターサーバーで NBSL を実行する

- NBSL をマスターサーバーで実行する場合は、マスターサーバーにホスト ID ベースの証明書が配備されていることを確認する
- ホスト ID ベースの証明書を配備しても、引き続きこのエラーが発生する場合は、「マスターサーバーのホスト名変更の問題を解決する」の手順を参照してください。

マスターサーバーのホスト名変更の問題を解決する

このエラーは、以下のいずれかの状況で、マスターサーバーのホスト名を完全修飾ドメイン名 (FQDN) から短縮名 (またはその逆) に変更した場合に発生する可能性があります。

- 災害後の NetBackup のインストール
- NetBackup 構成ファイル (UNIX または Windows レジストリの `bp.conf` ファイル) の手動更新

次の例では、NetBackup を短縮名のマスターサーバーにインストールして、カタログバックアップを実行しています。災害後に、NetBackup をディザスタリカバリモードでマスターサーバーにインストールしますが、このときに FQDN を使用します。ただし、マスターサーバー (またはディザスタリカバリパッケージ) の識別情報は短縮名でリストアされます。そのため、クライアント証明書の再発行や自動更新、およびクライアントへの新しい証明書の配備を行うとエラーになります。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. マスターサーバーにログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。

   UNIX の場合:

   ```
   /usr/openv/netbackup/bin/nbcertcmd -ping
   ```

   Windows の場合:

   ```
   Install_path¥NetBackup¥bin¥nbcertcmd -ping
   ```

   - コマンドが正常に実行された場合は、次の手順に進みます。
   - 既存の状態コード 8509 (指定したサーバー名が Web サービス証明書内に見つかりませんでした) で失敗した場合は、次のテクニカルノートに記載されている手順を実行します。
     https://support.cohesity.com/s/article/article-100034092
     次の手順に進みます。
3. マスターサーバーで、NetBackup Web 管理コンソールサービスを停止して、起動します。次の NetBackup コマンドを使用します。

   UNIX の場合:

   ```
   /usr/openv/netbackup/bin/nbwmc -terminate
   ```

   ```
   /usr/openv/netbackup/bin/nbwmc -start
   ```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥nbwmc.exe -stop -srvname "NetBackup
Web Management Console"

install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥nbwmc.exe -start -srvname
"NetBackup Web Management Console"
```

4. マスターサーバーでユーザーログインを実行します。次のコマンドを使用します。

```
install_path/netbackup/bin/bpnbat -login -loginType WEB
```

次に例を示します。

```
install_path¥netbackup¥bin¥bpnbat -login -loginType WEB
      Authentication Broker [abc.example.com is default]:
      Authentication port [0 is default]:
      Authentication type (NIS, NISPLUS, WINDOWS, vx, unixpwd,
ldap) [WINDOWS is default]:
      Domain [abc.example.com is default]:
      Login Name [administrator is default]:
      Password:
      Operation completed successfully.
```

5. マスターサーバーの Client_Name キーの値に注意してください。クラスタ化されたマスターサーバーの場合は、Cluster_Name キーの値に注意します。これは次の場所にあります。

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/bp.conf`

Windows の場合:
`HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥NetBackup¥CurrentVersion¥Config`

この値には FQDN または短縮名のどちらでも指定できます。たとえば、`abc.example.com` などを使用できます。

6. マスターサーバーのホスト ID に注意します。この値を取得するには、次のコマンドを使用します。

```
install_path/netbackup/bin/nbcertcmd -listCertDetails
```

クラスタ化されたマスターサーバーを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
install_path¥netbackup¥bin¥nbcertcmd -listCertDetails -cluster
```

このコマンドは複数のレコードを返すことがあります (1 つしかレコードが返されない場合は、そのレコードに指定されたホスト ID を選択)。

- 手順 5 で取得したホスト名が FQDN である場合は、[発行者 (Issued By)]エントリが短縮名と一致するレコードを選択します。

- 手順 5 で取得したホスト名が短縮名である場合は、[発行者 (Issued By)]エントリが FQDN と一致するレコードを選択します。

次に例を示します。

```
install_path¥netbackup¥bin¥nbcertcmd -listCertDetails

Master Server : abc
Host ID : xxxxxx-4201-4c6a-xxxx-xxxxx
Issued By : /CN=broker/OU=root@abc/O=vx
Serial Number : 0x62e108c90000000c
Expiry Date : Aug 21 08:42:54 2018 GMT
SHA1 Fingerprint : 50:89:AE:66:12:9A:29:4A:66:E9:DB:71:37:
  C7:EA:94:8C:C6:0C:A0


Master Server : xyz
Host ID : yyyyyy-4785-4252-yyyy-yyyyy
Issued By : /CN=broker/OU=root@xyz.master1.com/O=vx
Serial Number : 0x6ede87a70000000a
Expiry Date : Aug 21 09:52:13 2018 GMT
SHA1 Fingerprint : FE:08:C2:09:AC:5D:82:57:7A:96:5C:C1:4A:
  E6:EC:CA:CC:99:09:D2

Operation completed successfully.
```

この例では、2 つのレコードが返されます。1 つ目のレコードでは、[発行者 (Issued By)]フィールドで指定した発行者の名前が、手順 5 で取得した client_name の短縮名と一致しています。1 つ目のレコードに表示されるホスト ID を選択します。

7. ホスト ID からホスト名へのマッピングを追加します。手順 6 で取得したマスターサーバーのホスト ID を、手順 5 で取得したホスト名にマッピングします。

次のコマンドを使用します。

```
install_path/netbackup/bin/admincmd/nbhostmgmt -a -i host_ID -hm
host_name
```

次に例を示します。

```
install_path/netbackup/bin/admincmd/nbhostmgmt -a -i
  xxxxxx-4201-4c6a-xxxx-xxxxx -hm abc.example.com

abc.example.com is successfully mapped to
xxxxxx-4201-4c6a-xxxx-xxxxx.
```

NetBackup 管理コンソールを使用して、このホスト ID からホスト名へのマッピングを追加することもできます。[セキュリティ管理 (Security Management)] > [ホスト管理 (Host Management)] > [ホスト (Hosts)]タブを使用します。

8. 次のコマンドを使用して、マスターサーバーのホスト ID ベースの証明書を更新します。

   install_path/netbackup/bin/nbcertcmd -renewCertificate

   クラスタ化されたマスターサーバーの場合は、次のコマンドを使用します。

   install_path¥netbackup¥bin¥nbcertcmd -renewCertificate -cluster

9. クライアントで証明書の配備を続行します。これは、再発行証明書の配備、証明書の自動更新、または新しい証明書の配備のいずれかになります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5988

メッセージ: ホスト名がホスト ID からホスト名へのマッピングのリストに含まれていません。

説明: 要求元のホスト名がそれぞれのホスト ID とマッピングされていません。

推奨処置: ホスト名を関連するホスト ID にマップします。NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理]、[ホスト管理]、[ホスト]タブまたは nbhostmgmt コマンドを使用してマッピングを追加します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5989

メッセージ: 証明書がこのホストに対してすでに発行されているため、再発行トークンは必須です。既存の証明書が有効な場合は無効にし、このホスト名を関連するホスト ID にマップしてください。

説明: インストールと再インストール中に使用されるホスト名が異なっています。ただし、ホスト名は同じホスト ID に関連付けられています。これは、以前使用したホスト名が shortname で今使用しているのが FQDN のとき、またはその逆のときに発生する場合があります。NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理]、[ホスト管理]、[ホスト]タブの順に移動するまたは nbhostmgmt コマンドを使用してホストレコードを識別し、ホスト ID を使用して再発行トークンを生成する必要があります。またホストのクライアント名が前述のリストの 1 つと一致することを確認することもできます。

推奨処置: この新しい名前を使って証明書を配備するには、既存のホスト ID の再発行トークンを指定する必要があります。新しいホスト名を使用して再インストールを正しく行うには、次の操作を必ず行います。

- ホストに有効な証明書がある場合は無効化します。
- 関連するホスト ID にホスト名をマッピングします。NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理]、[ホスト管理]、[ホスト]タブまたは nbhostmgmt コマンドを使用してマッピングを追加します。
- ホストのクライアント名と発行済みホスト ID に関連付けられているプライマリホスト名が一致するようにします。

メモ: 別のホストにある既存のホスト ID からホスト名へのマッピングと一致する名前のホストに証明書を配備する場合は、既存のホスト ID からホスト名へのマッピングを削除して操作を再試行するか、ホストデータベースに新しいホストを追加します。

ホストの追加方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5990

メッセージ**:** 指定したホスト ID からホスト名へのマッピングが複数のホストで共有され、証明書の自動再発行のパラメータが 2 つ以上のホストに設定されています。

説明**:** ホスト ID からホスト名へのマッピングを共有する複数のホストに対して、証明書の自動再発行のパラメータが設定されています。この場合、NetBackup は証明書を再発行する必要があるホストを判別できません。したがって、証明書を配置することはできません。

推奨処置**:** 共有マッピングの場合は、証明書の自動再発行のパラメータが、必要なホストにのみ設定されていることを確認します。他のホストについては、次のコマンドを実行してパラメータをリセットできます。

```
nbhostmgmt -allowautoReissueCert -autoReissue 0
```

または、NetBackup 管理コンソールを使うこともできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5991

メッセージ**:** 指定したホストが存在しないか、証明書の自動再発行のパラメータがホストに設定されていません。

説明: NetBackup が、指定したホストで証明書を再発行するためには、それが有効なホストであり、そのホストに対して証明書の自動再発行のパラメータを設定する必要があります。

推奨処置: 指定したホストが存在すること、およびホストに対して証明書の自動再発行のパラメータが設定されていることを確認します。リカバリするホストが存在しない場合は、そのホストに対して[リストア準備 (Prepare to Restore)]のワークフローを再度開始します。ホストに対して証明書の自動再発行のパラメータを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
nbhostmgmt -allowautoReissueCert -autoReissue 1
```

または、NetBackup 管理コンソールを使うこともできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5992

メッセージ: ホスト情報を更新できないため、証明書要求に失敗しました。

説明: NetBackup は、ホストの情報を更新できません。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5993

メッセージ: 証明書はこのホストで有効ではありません。

説明: 配備する証明書がホストに関連付けられていない可能性があります。

推奨処置: 同じホストに対して証明書が発行されていることを確認し、操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5994

メッセージ: 指定した指紋は CA 証明書の指紋と一致しません。

説明: 指定した指紋がトラストストアにある CA 証明書の指紋と一致しません。

推奨処置: 適切な指紋を指定したことを確認し、操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、`nbcertcmd -removeCACertificate` コマンドを使用してローカルのトラストストアから CA 証明書を削除し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5995

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。登録する証明書に関連付けられたホスト ID は別のホストに割り当てられています。(The certificate enrollment failed. The host ID that is associated with the certificate to be enrolled is assigned to another host.)

説明: 登録する証明書が、指定されたホストに関連付けられておらず、別のホストと関連付けられています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- ホストにすでに登録または発行されている証明書を指定します。
- NetBackup データベースにある証明書のサブジェクト名を追加または更新 (削除してから追加) します。次を実行します。
  - `nbcertcmd -deleteECACertEntry` コマンドを実行して、既存のホストと証明書との関連付けを削除します。
  - `nbcertcmd -createECACertEntry` コマンドを実行して、証明書を既存のホストに関連付けます。コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5996

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。要求に証明書が含まれていないか、証明書が破損しています。(The certificate enrollment failed. The request does not contain the certificate or the certificate is corrupted.)

説明: 登録が失敗したために証明書が壊れた可能性があります。

推奨処置: 指定した証明書が有効であることを確認します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5997

メッセージ: ホスト証明書を登録できません。(The host certificate cannot be registered.) 証明書の拡張キー用途のフィールドに、クライアント認証とサーバー認証の属性を含める必要があります。

説明: 登録するサードパーティの証明書では、正常に登録するために、拡張キー用途のフィールドに、クライアント認証とサーバー認証の属性が必要です。

推奨処置: 登録するサードパーティの証明書の拡張キー用途のフィールドに、クライアント認証とサーバー認証の属性があることを確認します。必要に応じて次の操作を実行します。

- 次のコマンドを実行します。

  ```
  openssl x509 -in certificatepath -text -noout -purpose
  ```

  - 証明書にクライアント認証とサーバー認証の両方の属性が含まれる場合は、次の出力が表示されます。

    ```
    Certificate purposes:
    SSL client: Yes
    SSL server: Yes
    ```

    サードパーティの証明書の登録を再試行します。

  - 1 つまたは両方の属性が不足している場合は、問題を解決するためにセキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5998

メッセージ: 証明書がこのプライマリサーバーに登録されていません。(The certificate is not enrolled with this primary server.)

説明: 外部 CA によって発行されたホスト証明書がプライマリサーバーに登録されていません。

推奨処置: `nbcertcmd -enrollcertificate` コマンドを使用して、プライマリサーバーにホスト証明書を登録します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 5999

メッセージ: 外部証明書の秘密鍵は暗号化されていますが、パスフレーズが指定されていません。(The private key of the external certificate is encrypted, but the passphrase is not provided.)

説明: 外部証明書の秘密鍵はパスフレーズで暗号化されています。ただし、パスフレーズファイルのパスが `ECA_KEY_PASSPHRASEFILE` 構成オプション (UNIX または Windows レジストリの `bp.conf` ファイル内) で指定されていません。

推奨処置: パスフレーズファイルのパスが ECA_KEY_PASSPHRASEFILE 構成オプションで指定されていることを確認します。NetBackup 構成オプションについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6000

メッセージ: 指定されたパスは許可されていません。(The provided path is not allowed.)

説明: 提供されたパスにアクセスできない場合は NetBackup ホストにこのコードが表示されます。

推奨処置: NetBackup のデフォルトパスを使用してログ記録を続行するか、ファイルオプションの名前を変更 (たとえば、user_ops フォルダを使用) することを推奨します。設定で NetBackup のデフォルトパスを使用できない場合は、NetBackup 構成にカスタムパスを追加する必要があります。カスタムパスを追加する方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「NetBackup サーバーおよびクライアントの BPCD_ALLOWED_PATH オプション」のセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6026

メッセージ: 指定したホスト ID の外部証明書アーティファクトが見つかりませんでした。

説明: 指定されたホスト ID に関連付けられている外部証明書アーティファクトが見つかりません。これは、通常、指定したホストの ECA アーティファクトをユーザーがまだアップロードしていないか、削除されたことを示しています。

推奨処置: ECA アーティファクトをアップロードして続行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6027

メッセージ: 指定したホスト ID がターゲットホストの ID と一致しないため、要求した操作は実行できません。

説明: 要求に含まれるホスト ID が現在操作されているホスト ID と一致しないため、操作がブロックされました。これは、設定が間違っている、または権限のない要求である場合に発生することがあります。

推奨処置: ログで要求の詳細を確認し、権限のあるホストを使用して操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6028

メッセージ: ECA ローテーション操作が完了するまで、ECA アーティファクトの削除はブロックされます。

説明: ローテーション操作の進行中は、システムによって ECA アーティファクトの削除が制限されます。この制限により、ローテーションワークフローを正常に完了させ、アーティファクトが中途半端に削除されないようにすることができます。

推奨処置: 進行中の ECA ローテーション操作を完了させます。成功すると、アーティファクトは自動的に削除されます。操作に失敗した場合は、手動で削除を再試行できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6029

メッセージ: アップロードされた ECA 証明書には、すでに構成されたものとは異なるサブジェクト名が付けられています。(The uploaded ECA certificate has a different subject name than the one that's already configured.)

説明: アップロードされた ECA 証明書のサブジェクト名が、そのホストに対して構成されている想定されたサブジェクトと異なります。

推奨処置: アップロードされた証明書のサブジェクト名が、そのホストに対して構成されている想定されたサブジェクトと一致していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6030

メッセージ: NetBackup が既存のトラストストアを読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。

説明: API 入力にトラストストアが指定されておらず、プライマリサーバーのファイルシステムにもありません。

推奨処置: API 入力にトラストストアファイルを含め、API を再実行して ECA アーティファクトをアップロードします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6031

メッセージ: 指定したホスト ID の ECA アーティファクトはすでにアップロードされています。

説明: 指定したホスト ID に対して一連の ECA アーティファクトがすでに存在します。既存のアーティファクトを削除せずに再度アップロードしようとすると、重複を回避するために、このエラーが発生します。

推奨処置: 再度アップロードする前に、指定したホスト ID に関連付けられている既存の ECA アーティファクトを削除します。さらに、新しいアップロードを開始する前に、以前にアップロードされたアーティファクトの消費をホストが完了するのを待つことができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6032

メッセージ: このホストは ECA 証明書を使用するように構成されていないため、ECA アーティファクトをアップロードできません。

説明: このホストは ECA で構成されていません。この API は、ECA が構成されており、それを更新する必要があるホストにのみ使用できます。

推奨処置: この API は、ECA が構成されているホストにのみ使用してください。ECA がまだ構成されていない場合は、外部証明書を設定し、この API を使用して更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6071

メッセージ: Cohesity Alta View のクレデンシャルが無効です。(Credentials of the Veritas Alta View are not valid.)

説明: Cohesity Alta View のクレデンシャルが無効です。

推奨処置: 登録トークンが期限切れになりました。ユーザーは、Cohesity Alta View から登録ファイルを再度ダウンロードし、再登録する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6072

メッセージ: Cohesity Alta View への接続の試行中に内部サーバーエラーが発生しました。(An internal server error has occurred attempting to connect to the Veritas Alta View.)

説明: Cohesity Alta View への接続の試行中に内部サーバーエラーが発生しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6073

メッセージ: Cohesity Alta View への接続に失敗しました。(Failed to connect to the Veritas Alta View.)

説明: Cohesity Alta View への接続に失敗しました。

推奨処置: Cohesity Alta View は、NetBackup プライマリサーバーがポート 443 にインストールされているドメインから到達可能である必要があります。接続が確立されていることを確認して、再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6074

メッセージ: 現在の NetBackup プライマリサーバーと Cohesity Alta View プラットフォーム間で永続的な接続の確立に失敗しました。(Failed to establish a persistent connection between the current NetBackup primary server and the Veritas Alta View platform.)

説明: 現在の NetBackup プライマリサーバーと Cohesity Alta View プラットフォーム間で永続的な接続の確立に失敗しました。

推奨処置: Cohesity Alta View UI からドメインを削除し、登録プロセスを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6075

メッセージ: Cohesity Alta View プラットフォームを使用した現在の NetBackup プライマリサーバーの構成に失敗しました。(Failed to configure the current NetBackup primary server with the Veritas Alta View platform.)

説明: Cohesity Alta View プラットフォームを使用した現在の NetBackup プライマリサーバーの構成に失敗しました。

推奨処置: Cohesity Alta View サーバーとの接続の確立に失敗しました。エラー発生の考えられる原因については、次のリストを確認してください。

- SSL ハンドシェークが Cohesity Alta View プラットフォームとの間で実行されたときに、内部サーバーエラーが発生しました。

- Cohesity Alta View サーバーに到達できません。
- プロキシサーバーに到達できません。

操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6078

メッセージ: Cohesity Alta View はすでに構成されているため構成できません。(Unable to configure Veritas Alta View, as it is already configured.)

説明: Cohesity Alta View はすでに構成されているため構成できません。

推奨処置: プライマリサーバーは、Cohesity Alta View サーバーにすでに登録されています。Cohesity Alta View からプライマリサーバーを登録解除してから、登録を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6079

メッセージ: プロキシサーバーが存在しません。(Proxy server does not exist.)

説明: プロキシサーバーが存在しません。

推奨処置: Cohesity Alta View で登録を再試行します。NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6080

メッセージ: WebSocket 接続の削除に失敗しました。(Failed to delete the WebSocket connection.)

説明: WebSocket 接続の削除に失敗しました。

推奨処置: Cohesity Alta View の構成ファイルは手動でクリーンアップする必要があります。DELETE Cohesity Alta View Server API を使用します。詳しくは、SORT Web サイト (https://sort.veritas.com/netbackup/) に移動し、[サポート対象製品 (Supported Products)]で[NetBackup]を選択します。次に、NetBackup Alta View API を検索します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6082

メッセージ: Cohesity Alta View のデータ収集状態の取得に失敗しました。(Failed to get the data collection status for Veritas Alta View.)

説明: Cohesity Alta View のデータ収集状態の取得に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6083

メッセージ: Cohesity Alta View のデータ収集状態の更新に失敗しました。(Failed to update the data collection status for Veritas Alta View.)

説明: Cohesity Alta View のデータ収集状態の更新に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6084

メッセージ: NetBackup プライマリサーバーのサーバー情報の取得に失敗しました。(Failed to get the server information for the NetBackup primary server.)

説明: NetBackup プライマリサーバーのサーバー情報の取得に失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログを確認して、エラーの原因を特定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup 状態コード: 6085

メッセージ: プロキシサーバーに到達できません。設定されたプロキシサーバーの詳細が無効です。

説明: プロキシサーバーに到達できません。設定されたプロキシサーバーの詳細が無効です。

推奨処置: プロキシサーバーがネットワーク上で到達可能であることを確認し、Alta View サーバー通信に設定されているプロキシサーバーの詳細が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6100

メッセージ: 接続ソケットを Private Branch Exchange に転送できませんでした。(Failed to forward connection socket to the Private Branch Exchange.)

説明: NAT 環境では、Private Branch Exchange の負荷が大きい場合、新しい接続の受け入れを拒否する場合があります。

推奨処置: Private Branch Exchange またはサブスクライバのプロセスログで詳細を確認します。しばらく経ってから、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6101

メッセージ: サブスクライバのプロセスで内部エラーが発生しました。(An internal error has occurred during the subscriber process.)

説明: 内部エラーのため、サブスクライバのプロセスが Message Queue Broker のメッセージを処理できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6102

メッセージ: サブスクライバと Message Queue Broker のプロセスを接続するソケットは閉じています。(A socket that connects the subscriber and the message queue broker processes is closed.)

説明: サブスクライバと Message Queue Broker プロセス間の既存の接続は閉じています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- サブスクライバのログを確認します。
- サーバーで Message Queue Broker プロセスが実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6103

メッセージ: パブリッシャと Message Queue Broker のプロセスを接続するソケットは閉じています。(A socket that connects the publisher and the message queue broker processes is closed.)

説明: パブリッシャと Message Queue Broker プロセス間の既存の接続が閉じています。

推奨処置: Message Queue Broker にメッセージを発行するプロセスのログで、詳細なログを確認します。マスターサーバーで Message Queue Broker が実行中であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6104

メッセージ: パブリッシャのプロセスが Message Queue Broker にメッセージを発行できません。(The publisher process cannot publish messages to the message queue broker.)

説明: パブリッシャのプロセスが Message Queue Broker に接続されていますが、メッセージを発行できません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- リモートクライアントのサブスクライバプロセスのログで、詳細を確認します。
- リモートクライアントが起動して実行中であることを確認します。
- リモートクライアントでサブスクライバサービスが実行中であることを確認します。
- サブスクライバサービスに、マスターと通信するための有効な証明書があることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6105

メッセージ: パブリッシャまたはサブスクライバのプロセスが、発行されたメッセージの通知を受信しません。(The publisher and or subscriber process does not receive an acknowledgment for the published message.)

説明: Message Queue Broker プロセスは、メッセージが送信または受信された後、パブリッシャまたはサブスクライバプロセスに通知を送信できません。

推奨処置: サブスクライバが Message Queue Broker に接続されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6106

メッセージ: JSON 形式で発行するメッセージの構築に失敗しました。(Failed to build a message that is to be published in a JSON format.)

説明: 必要な形式でのメッセージの構築に失敗しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6107

メッセージ: Message Queue Broker が送信した JSON メッセージの解析に失敗しました。(Failed to parse the JSON message that the message queue broker has sent.)

説明: JSON メッセージの解析に失敗しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6108

メッセージ: Message Queue Broker のメッセージ形式はサポートされていません。(The message type of the message queue broker is not supported.)

説明: Message Queue Broker のメッセージ形式はサポートされていません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6109

メッセージ: JSON 応答内の Message Queue Broker の詳細が無効です。(Message queue broker details in the JSON response are not valid.)

説明: JSON 応答内の Message Queue Broker の詳細が無効です。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6405

メッセージ: 指定したパスがローカルディスクに存在しません。(Specified path does not exist on the local disk.)

説明: ターゲットホストのステージング場所にネットワークパスを指定することはできません。

推奨処置: ローカルディスクにあるターゲットホストのステージング場所を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6172

メッセージ: サインイン試行が管理者によって拒否されました。(Your sign in attempt was denied by the administrator.)

説明: NetBackup のリスクエンジンは、システムの異常を検出してアラートを送信します。これにより、セキュリティの脅威が発生する前に対処することが可能になります。NetBackup サーバーが異常なサインインを検出するように構成されており、NetBackup サーバーで異常なサインインが検出された場合、ログオン要求に対してマルチパーソン認証チケットが作成されます。このメッセージは、NetBackup 管理者がユーザーの NetBackup へのログオン試行を拒否した場合に表示されます。

推奨処置: この問題を解決するには、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6173

メッセージ: サインイン要求チケットの有効期限が切れています。(The ticket for your sign in request has expired.)

説明: NetBackup のリスクエンジンは、システムの異常を検出してアラートを送信します。これにより、セキュリティの脅威が発生する前に対処することが可能になります。NetBackup サーバーが異常なサインインを検出するように構成されており、NetBackup サーバーで異常なサインインが検出された場合、ログオン要求に対してマルチパーソン認証チケットが作成されます。このメッセージは、マルチパーソン認証チケットの期限が切れた場合に表示されます。考えられる原因として、サインイン要求が管理者によって時間内に承認されなかったことが考えられます。

推奨処置: 承認者がシステムに存在するかどうかを判断します。存在する場合は、再度サインインして新しいマルチパーソン認証チケットを生成します。NetBackup 管理者が要求を承認すると、正常にログオンできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6174

メッセージ: セキュリティ上の理由から、サインイン要求が拒否されました。(Sign-in request was denied for security reasons.)

説明: NetBackup のリスクエンジンは、システムの異常を検出してアラートを送信します。これにより、セキュリティの脅威が発生する前に対処することが可能になります。NetBackup サーバーが異常なサインインを検出するように構成されており、NetBackup サーバーで異常なサインインが検出された場合、ログオン要求に対してマルチパーソン認証チケットが作成されます。

推奨処置: プライマリの信頼操作を完了しようとしたときにこのメッセージを受信した場合は、nbseccmd を使用して操作を完了できます。詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6175

メッセージ: サインイン要求が失敗しました。(The sign in request failed.)

説明: NetBackup のリスクエンジンは、システムの異常を検出してアラートを送信します。これにより、セキュリティの脅威が発生する前に対処することが可能になります。NetBackup サーバーが異常なサインインを検出するように構成されており、NetBackup サーバーで異常なサインインが検出された場合、ログオン要求に対してマルチパーソン認証チケットが作成されます。システムエラーが原因でサインイン要求が失敗したときに、このメッセージが表示されます。

推奨処置: NetBackup Web サービスのログでエラーを確認し、ログオンを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6176

メッセージ: サインイン要求のキャンセルに失敗しました。(Failed to cancel the sign in request.)

説明: NetBackup のリスクエンジンは、システムの異常を検出してアラートを送信します。これにより、セキュリティの脅威が発生する前に対処することが可能になります。NetBackup サーバーが異常なサインインを検出するように構成されており、NetBackup サーバーで異常なサインインが検出された場合、ログオン要求に対してマルチパーソン認証チケットが作成されます。このマルチパーソン認証チケットをキャンセルできます。このメッセージは、マルチパーソン認証の取り消しが失敗した場合に表示されます。

推奨処置: このエラーメッセージは無視してもかまいません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6406

メッセージ: ターゲットホストへの WMI 接続に失敗しました。(WMI connection to the target host is failed.)

説明: リカバリホストからターゲットホストへの WMI 接続に失敗しました。

推奨処置: 以下の理由により、接続に失敗した可能性があります。

- WMI および DCOM サービスに接続するには、リモート WMI サービスに接続するために必要な権限がユーザーに付与されている必要があります。
- ファイアウォールを通過する WMI トラフィックを許可するために、ファイアウォールの例外が設定されています。
- GPO/ソフトウェア制限ポリシーまたはウイルス対策ソフトウェアによってアクセスが遮断されています。
- ターゲットホストがアクセス可能であることを確認します。指定したターゲットホストのクレデンシャルを検証します。
- ターゲットホストとドメインの信頼関係が維持されていることを確認します。ドメイン間で通信する場合は、異なるドメイン間に双方向の信頼関係が存在します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6416

メッセージ: 指定されたファイルがリモートサーバーで見つかりません。(Unable to find the specified file on the remote server.)

説明: 指定されたステージング場所がターゲットホストに存在しません。

推奨処置: ターゲットホストに指定したステージング場所が存在することを確認するか、別の有効なステージング場所を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6423

メッセージ: ディレクトリと同じ名前のファイルが存在します。(File exists with same name as the directory.)

説明: ステージング場所として指定されたディレクトリパスと同じ名前のファイルがターゲットホストにすでに存在します。

推奨処置: リモートホストで、ステージング場所と同じ名前とパスのファイルがすでに存在するかどうかを確認します。そのようなファイルが存在する場合は、そのファイルの名前を変更または削除するか、または代替ステージング場所を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6430

メッセージ: ユーザーの管理者権限の検証に失敗しました。(Failed to validate administrative privileges for the user.)

説明: ターゲットホストのユーザーに、ファイルとフォルダのエージェントレスリストア操作を続行する管理者権限がありません。

推奨処置: 指定されたクレデンシャルには、ターゲットホストでファイルまたはフォルダのエージェントレスリストアを実行するために必要な権限がありません。Windows ターゲットホストの場合、ローカル管理者グループに属するクレデンシャルを使用する必要があります。UNIX ターゲットホストの場合、ALL 権限を持つ root または sudo アカウントであるクレデンシャルを使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6431

メッセージ: Windows API を使用したネットワークリソースへの接続に失敗しました。(Failed to connect a network resource using windows API.)

説明: ファイルとフォルダのエージェントレスリストアを実行するために、リカバリホストからターゲットホストの管理共有にアクセスできません。

推奨処置: ファイルとフォルダのエージェントレスリストア操作の一環として、ユーザーが指定したクレデンシャルを使用して、ターゲットホスト上のリカバリホストから SMB 管理共有が作成されます。このエラーは、エージェントレスリストアのターゲットホストに Windows OS がインストールされており、リカバリホストからターゲットホストの管理共有にアクセスできない場合に表示されます。ターゲットホストで次の項目を確認します。

- ファイアウォールの例外が正しく設定されている。
- ファイルとプリンタの共有が有効になっている。
- GPO/ソフトウェア制限ポリシーまたはウイルス対策ソフトウェアによってアクセスが遮断されていない。
- 有効なクレデンシャルでターゲットホストにアクセスできる。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6435

メッセージ: ターゲットホストでユーザーのホームディレクトリを取得できません。カスタムのステージング場所を指定してください。(Unable to retrieve user's home directory on the target host. Specify the custom staging location.)

説明: ユーザーのデフォルトのステージング場所 (ホームディレクトリ) が、ターゲットホストで取得できません。有効なステージング場所のパスを入力する必要があります。

推奨処置: ユーザーのデフォルトのステージング場所 (ホームディレクトリ) が、ターゲットホストで取得できません。有効なステージング場所を指定して、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6437

メッセージ: ホストとの SSH セッションの確立に失敗しました。(Failed to establish SSH session with host.)

説明: ホストとの SSH セッションの確立に失敗しました。

推奨処置: 次のすべての条件を満たしたことを確認してから、操作を再試行します。

- `aes256-ctr` が通信の暗号としてサポートされていること。リカバリホストとターゲットホストの両方でこの暗号がサポートされていること。
- リカバリホストとターゲットホストの両方で、`hmac-sha2-256`、`hmac-sha2-512` のいずれかの HMAC プロトコルがサポートされていること。
- ホストキーの生成方法が、次のいずれかであること。
  - `ECDSA_SHA2_NISTP256`
  - `ECDSA_SHA2_NISTP384`
  - `ECDSA_SHA2_NISTP521`
  - `SSH_RSA`
  - `SSH_DSS`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6438

メッセージ: ホストの SSH 鍵指紋の検証に失敗しました。(Failed to verify SSH key fingerprint of host.)

説明: 指定されたターゲットホストの SSH 鍵指紋が正しくありません。

推奨処置: ターゲットホストの SSH 鍵指紋を確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6440

メッセージ: 指定されたユーザー名またはパスワードでのホストの認証に失敗しました。(Failed to authenticate the host with provided user name or password.)

説明: 指定されたユーザー名とパスワードを使用したターゲットホストの認証が失敗します。

推奨処置: ターゲットホストのユーザー名とパスワードを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6441

メッセージ: 指定された SSH 鍵でのホストの認証に失敗しました。(Failed to authenticate the host with specified SSH key.)

説明: 指定された SSH 秘密鍵を使用したターゲットホストでの認証が失敗します。

推奨処置: ターゲットホストの SSH 秘密鍵と、キーのパスフレーズ (SSH 秘密鍵の生成に使用した場合) を確認して、再試行します。対応する公開鍵がターゲットホストの `/root/.ssh` フォルダの `authorized_keys` ファイルに存在する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6459

メッセージ: 一致する SSH 鍵指紋のホストキー方式がターゲットホストで見つかりません。(Matching SSH key fingerprint host key method was not found on target host.)

説明: 指定した SSH 鍵指紋のホストキー方式がターゲットホストで見つかりません。

推奨処置: 次のいずれかを確認します。

- 指定した SSH 鍵指紋のサポート対象のホストキー方式がターゲットホストで利用できることを確認します。
- ターゲットホストで構成されているホストキー方式の SSH 指紋を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6530

メッセージ: サーバーで SharePoint Web サービスを開始できません

説明: NetBackup SharePoint GRT Web サービス `Veritas.NetBackup.SPServiceHost.exe` はフロントエンドサーバーで開始できません。

推奨処置: SharePoint GRT Web サービス `Veritas.NetBackup.SPServiceHost.exe` は、デフォルトでは NetBackup クライアントに配備し、SharePoint 2016 バックアップのリストア時にのみ開始します。リストアが完了したら、Web サービスを停止します。

SharePoint 2016 をフロントエンドサーバーに正しくインストールしていることを確認します。`Veritas.NetBackup.SPServiceHost.exe` サービスは、コマンドラインで手動で開始することもできます。サービスはリストア時に開始してリストアが完了したら停止します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6531

メッセージ: クライアントに対するオペレーティングシステムのユーザー/パスワードの検証が失敗しました

説明: SharePoint 資格情報が見つからないか、または SharePoint 管理者権限で NetBackup クライアントサービスを実行していません。

推奨処置: 参照、バックアップ、リストアに使用するすべてのノードで SharePoint 資格情報を設定します。

『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の「NetBackup for SharePoint 用 NetBackup Client Service のログオンアカウントの構成」を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6600

メッセージ: BigData ポリシージョブが失敗しました。有効なクレデンシャルを入力し、アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの正しいエントリを指定したことを確認して検証してください。

説明: このエラーは、BigData ポリシーの検証で問題があるときに発生します。

推奨処置: 有効なクレデンシャルを入力したこと、アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの正しいエントリを指定したことを調べて検証し、ネットワーク接続性の問題を解決してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6601

メッセージ: 1 つ以上の入力パラメータまたは引数が無効です。

説明: 入力パラメータまたは引数は、次の理由で無効になる場合があります。

- アプリケーションサーバーまたはバックアップホストに不正な値が指定されているか、値が指定されていない。
- NetBackup がアプリケーションサーバーまたはバックアップホストに到達できない。
- NetBackup がジョブを完了するためのオブジェクトを見つけられない。
- 現在、適切なプラグインを利用できない。

推奨処置: 有効なクレデンシャルを入力し、アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの正しいエントリを指定したことを確認して検証してください。BigData フレームワークライブラリがコンピュータに正しくインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6602

メッセージ: ジョブの実行に使用できるメモリまたはリソースが不足しています。

説明: このエラーは次の理由で発生します。

- システムへのメモリ割り当てが不十分。
- システムで利用可能なリソースが不十分。

推奨処置: 十分なメモリがシステムに割り当てられており、システムで十分なリソースが利用可能なことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6603

メッセージ: 操作を完了できません。システム権限がないため、サーバーへのアクセスが拒否されました。

説明: ユーザーには、操作の実行に必要な権限がありません。

推奨処置: アプリケーションサーバーにアクセスしてバックアップを完了したり操作をリストアするために必要な権限がユーザーにあることを調べます。関連するアクセスリストにバックアップホストを追加したことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6604

メッセージ: 操作の完了に失敗しました。サーバー上で開いているオブジェクトの数が上限に到達しました。

説明: アプリケーションサーバーで複数の並列実行ジョブを実行しています。

推奨処置: 開くことのできるオブジェクト数の上限を増やします。開くことのできるオブジェクト数の上限を増やすには、適切なプラグインサポートガイドを参照してください。別の方法としては、ファイルを開くとき設定をバックアップホストで調べることができます。たとえば、UNIX システム上では `ulimit -n` です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6605

メッセージ: サーバーリソースがビジー状態のため、要求を処理できません。

説明: サーバーリソースがビジー状態または利用不可のいずれかで、これによりジョブが失敗します。

推奨処置: 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6606

メッセージ: 操作の完了に失敗しました。オブジェクトはすでに存在します。

説明: ファイルシステムのフォルダまたは仮想マシンがすでに存在します。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 同じ名前を持つ 1 つ以上の仮想マシンが存在する場合は、いずれかの仮想マシンを名前変更するか削除して対応できます。
- 詳しくは、NetBackup ログ (`bpbkar` ログまたは `nbappdiscv` ログ) を調べてください。
- さらに、関連する状態ファイルを削除することもできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6607

メッセージ: NetBackup のバージョンが BigData フレームワークライブラリのバージョンと一致しません。

説明: NetBackup と BigData フレームワークライブラリにバージョンの不一致があります。

推奨処置: NetBackup と BigData フレームワークライブラリが正しくインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6608

メッセージ: NetBackup のバージョンがプラグインライブラリのバージョンと一致しません。

説明: NetBackup と BigData アプリケーションのプラグインライブラリにバージョンの不一致があります。

推奨処置: NetBackup および関連するプラグインライブラリが正しくインストールされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6609

メッセージ: オブジェクトが無効なため、NetBackup プラグインは操作を完了できません。

説明: このエラーは、次の理由で発生する場合があります。

- アプリケーションの種類が指定されていないか、値が空です。
- 操作を完了するための適切なプラグインが使用できない場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの正しいエントリを入力したことを確認して検証してください。
- 操作を正常に完了するための正しいプラグインをインストールしたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6610

メッセージ: NetBackup プロセスで内部エラーが発生しました。

説明: NetBackup プロセスで内部エラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup デバッグログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6612

メッセージ: サーバーリソースがビジー状態または使用不可のため、要求を処理できません。操作を再試行します。

説明: アプリケーションサーバーまたはバックアップホストがビジー状態か使用不可です。

推奨処置: 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6614

メッセージ: 操作の完了に失敗しました。

説明: ジョブの進行中に、アプリケーションサーバーまたはバックアップホストが突然シャットダウンまたはクラッシュします。

推奨処置: システムが起動し動作を再開した後に、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6616

メッセージ: この操作形式は現在サポートされていません。

説明: このエラーは、次の理由で発生する場合があります。

- 選択されたスケジュール形式がサポートされない。
- アプリケーションサーバーが操作をサポートしない。たとえば、スナップショット操作は特定のディレクトリでサポートされない場合があります。

推奨処置: 完了しようとするバックアップ方式または操作がプラグインでサポートされることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6617

メッセージ: システムコールが失敗しました。

説明: アプリケーションサーバーまたはオペレーティングシステムで内部エラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、システムログまたはオペレーティングシステムログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6618

メッセージ: NetBackup は、操作の完了に必要なファイルを見つけられません。

説明: バックアップする必要があるファイルが見つからないか、ファイルへのアクセス権が変更されています。

推奨処置: ファイルの場所を確認します。バックアップジョブ中にファイルが削除されたかどうかを調べます。必要なアクセス権限がファイルにあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6619

メッセージ: ネットワーク接続の問題により、エラーが発生しました。

説明: ネットワークの問題により、ソケット読み込みエラーが発生しました。

推奨処置: ネットワーク接続性の問題を解決するには、システムログを調べて再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6620

メッセージ: サーバーの接続数が上限に到達しました。

説明: サーバーは、開くことのできる接続数の上限に達しました。

推奨処置: 開くことのできるオブジェクト数の上限を増やします。開くことのできるオブジェクト数の上限を増やすには、適切なプラグインサポートガイドを参照してください。別の方法としては、ファイルを開くとき設定をバックアップホストで調べることができます。たとえば、UNIX システム上では `ulimit -n` です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6621

メッセージ: ネットワークプロトコルがサポートされていないため、エラーが発生しました。

説明: アプリケーションサーバーとの通信に使用しているプロトコルがサポートされていない可能性があります。

推奨処置: ネットワーク接続性の問題を検証し解決してください。ネットワーク接続性の問題を解決するには、システムログを調べて再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6622

メッセージ: NetBackup プロセスで内部エラーが発生しました。(An internal error has occurred in the NetBackup process.)

説明: NetBackup プロセスで内部エラーが生成されました。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup のログを確認してください。

- OpenStack の作業負荷の場合、イメージサービス名を `glance` に更新します。OpenStack コンソールで、次のコマンドを実行します。

  ```
  openstack service set --name glance name or ID of image service
  ```

- Hadoop の作業負荷の場合は、`hadoop.conf` の JSON ファイル形式が有効であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6623

メッセージ: アプリケーションサーバーまたはバックアップホストへの接続に失敗しました。サーバーが停止しているか、サーバーにアクセスできません。

説明: このエラーは、次の理由で発生する場合があります。

- アプリケーションサーバーが停止しているか、サーバーにアクセスできません。
- アプリケーションサーバーは、バックアップホストとの接続を確立できませんでした。

推奨処置: ネットワーク接続性の問題を検証し解決してください。アプリケーションサーバーとバックアップホストが動作中であることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6625

メッセージ: バックアップホストは、操作を実行する権限がないか、アプリケーションサーバーとの接続を確立できません。

説明: このエラーは、次の理由で発生する場合があります。

- バックアップホストに、操作を完了する権限がない。
- バックアップホストが、アプリケーションサーバーとの接続を確立できない。
- バックアップホストが、関連するアクセスリストに追加されていない。

推奨処置: 次を確認します。

- バックアップホストに、必要な権限がある。
- バックアップホストとアプリケーションサーバー間のファイアウォールの問題が解決されている。
- バックアップホストが、関連するアクセスリストに追加されている。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6626

メッセージ: サーバー名が無効です。

説明: アプリケーションサーバーの名前が不正または無効です。

推奨処置: アプリケーションサーバーの正しい名前を指定していることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6628

メッセージ: ドメインネームサービス (DNS) のエラーにより、ネットワーク接続を確立できません。

説明: DNS 内にエラーが発生しました。

推奨処置: ネットワーク接続性の問題または DNS の問題を検証し解決してください。ネットワーク接続性の問題を解決するには、システムログを調べて再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6629

メッセージ: 操作を完了できません。ユーザーまたはサーバーの認可に失敗しました。

説明: ユーザーまたはサーバーには、操作を実行する権限がありません。

推奨処置: ユーザーに必要な権限があり、サーバー (アプリケーションサーバーまたはバックアップホスト) が関連するアクセスリストに追加されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6630

メッセージ: サーバーリソースがビジー状態または使用不可のため、要求を処理できません。操作を再試行します。

説明: 同じファイルまたはオブジェクトに対して並列実行リストアジョブが進行中の場合に、このエラーが発生することがあります。

推奨処置: ある 1 つのファイルまたはオブジェクトのリストアは必ず単一のジョブで実行するようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6631

メッセージ: システムで利用可能なストレージが不足しています。

説明: アプリケーションサーバーまたはバックアップホストには、操作を実行するのに十分なストレージがありません。

推奨処置: システムで利用可能なストレージが十分あることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6633

メッセージ: 操作を完了できません。システム権限がないため、オブジェクトへのアクセスが拒否されました。

説明: 操作の実行に必要な権限がありません。

推奨処置: ファイルまたはオブジェクトへの読み取りおよび書き込みアクセス権を所有していることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6634

メッセージ: ファイルまたはオブジェクトが見つかりません。

説明: ファイルまたはオブジェクトが無効、または存在しません。

推奨処置: ファイルまたはオブジェクトが指定の場所にあるか調べてください。操作を実行するには有効なエントリを入力してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6635

メッセージ: サーバーのバージョンが、要求された操作をサポートしていません。

説明: アプリケーションサーバーのバージョンは、現時点では要求された操作をサポートしていません。

推奨処置: サーバーのバージョンが、要求された操作をサポートしていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6640

メッセージ: NetBackup プロセスのバージョンが BigData フレームワークライブラリのバージョンと一致しません。

説明: NetBackup とそのフレームワークライブラリにバージョンの不一致があります。

推奨処置: NetBackup とそのフレームワークライブラリが正しくインストールされていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6641

メッセージ: 関連するライブラリが使用不可であるか、アクセスできません。

説明: プラグインライブラリは、指定の場所で使用できないか、必要なアクセス権限が付与されていません。

推奨処置: NetBackup とそのフレームワークライブラリが正しくインストールされており、関連するアクセス権限が付与されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6642

メッセージ: 関連するライブラリが使用不可であるか、プラグインが要求された操作をサポートしていません。

説明: このエラーは次の理由で発生します。

- NetBackup がプラグインから特定の記号を検索できません。
- プラグインのバージョンが、オペレーティングシステムまたは要求された操作をサポートしません。

推奨処置: この問題を解決するには、欠落している記号について NetBackup ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6643

メッセージ: NetBackup プロセスで内部エラーが発生しました。

説明: プラグインは、バックアップジョブまたはリストアジョブの最中に応答を停止しました。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6644

メッセージ: NetBackup プロセスで内部エラーが発生しました。

説明: このエラーは、NetBackup プロセスの内部エラーです。

推奨処置: 詳しくは、システムログまたはオペレーティングシステムのログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6646

メッセージ: サーバーと通信できません。

説明: アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの不正なクレデンシャルまたは無効な入力が指定されました。

推奨処置: アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの有効なクレデンシャルを入力し正しいエントリを指定した (ホスト名やポート番号など) ことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6647

メッセージ: ディレクトリまたはパスを作成できないか、アクセスできません。

説明: NetBackup がディレクトリまたはパスをマウントできないか、これらにアクセスできません。

推奨処置: アプリケーションサーバーにより、バックアップホストがファイルまたはディレクトリにアクセスして操作を実行できることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6649

メッセージ: 関連するライブラリが使用不可であるか、アクセスできません。

説明: プラグインライブラリは、指定の場所で使用できないか、必要な権限が付与されていません。

推奨処置: NetBackup とそのフレームワークライブラリが正しくインストールされており、関連するアクセス権限が付与されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6650

メッセージ: 関連するライブラリが使用不可であるか、プラグインが要求された操作をサポートしていません。

説明: このエラーは次の理由で発生します。

- NetBackup がプラグインから特定の記号を検索できません。
- プラグインのバージョンが、オペレーティングシステムまたは要求された操作をサポートしません。

推奨処置: この問題を解決するには、欠落している記号について NetBackup ログを調べてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6652

メッセージ: 操作の完了に失敗しました。このバージョンのプラグインは要求された操作をサポートしていない可能性があります。

説明: プラグインライブラリは、要求された操作をサポートしません。

推奨処置: プラグインのバージョンが、要求された操作をサポートしていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6653

メッセージ: 選択されたスケジュール形式は現在サポートされていません。

説明: 現在、プラグインは選択したスケジュール形式をサポートしていません。

推奨処置: BigData ポリシーを作成するとき、選択したスケジュール形式がプラグインでサポートされることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6654

メッセージ: サーバーのクレデンシャルを取得できません。

説明: アプリケーションサーバーまたはバックアップホストへのアクセスに、無効なクレデンシャルが指定されました。

BigData ポリシーを作成するときに、無効な文字を含むまたは不正なパラメータ値が指定されました。

推奨処置: 有効なクレデンシャルを入力し、アプリケーションサーバーまたはバックアップホストの正しいエントリを指定したことを確認してください。

BigData ポリシーの作成

- Hadoop: `Application_Type`パラメータを設定するときに、大文字は使用できません。正しい形式の例:

  ```
  Application_Type=hadoop
  ```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6655

メッセージ: 仮想マシンが存在しません。

説明: 仮想マシンの表示名を誤って指定しました。

推奨処置: 仮想マシンの有効な名前を入力してください。仮想マシンの表示名では大文字と小文字が区別され、空白と特定の特殊文字は使用できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6656

メッセージ: 無効なクレデンシャルです。確認して正しいクレデンシャルを入力してください。

説明: このエラーは、無効な作業負荷クレデンシャルを入力すると発生します。

推奨処置: 確認し、作業負荷の有効なクレデンシャルを再入力します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6657

メッセージ: 接続しようとしているサーバーが応答していません。

説明: このエラーは、接続しようとしているアプリケーションサーバーが応答しないときに発生します。

推奨処置: アプリケーションサーバーが稼働していることを確認し、サーバーに再接続します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6658

メッセージ: バックアップに失敗しました。スナップショットを作成できませんでした。

説明: このエラーは、BigData 作業負荷について、発見が失敗した場合に発生します。

推奨処置: バックアップホストの `nbaapidiscv` ログに示されたエラーを参照し、問題を解決します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6659

メッセージ: バックアップに失敗しました。作業負荷ファイルを作成できませんでした。

説明: このエラーは、作業負荷プラグインが、バックアップホストに作業負荷ファイルを作成できない場合に発生します。

推奨処置: バックアップホストの nbaapidiscv ログに示されたエラーを参照し、問題を解決します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6661

メッセージ: 構成パラメータが見つかりません。

説明: 次の原因により問題が発生した可能性があります。

- 必要な azurestack 構成パラメータが、tpconfig コマンドで指定されたマスターサーバー上の .json クレデンシャルファイルの中に見つからなかった。
- 必要な Cassandra 構成パラメータが、バックアップホスト上の cassandra.conf ファイルの中に見つからなかった。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- tpconfig *application_server_conf*コマンドオプションで指定されたクレデンシャルファイル内の azurestack 構成の内容を確認します。不足している構成パラメータに基づいて、クレデンシャルファイルで指定された構成を変更し、マスターサーバーの tpconfig エントリを更新します。
- Cassandra 実稼働クラスタの内容と、cassandra.conf 構成ファイルの DSS クラスタの詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6662

メッセージ: 構成ファイルが見つかりません。

説明: クレデンシャルファイルが、/usr/openv/tmp/azurestack のバックアップホスト上で検出されませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

1. /usr/openv/var/global ディレクトリがマスターサーバーでホワイトリストに追加されていることを確認します。bpgetconfig コマンドを実行します。

2. *application_server_name*.conf クレデンシャルファイルが、マスターサーバー上の /usr/openv/var/global ディレクトリにあることを確認します。
3. クレデンシャルファイルがマスターサーバー上の /usr/openv/var/global ディレクトリにない場合は、マスターサーバー上の任意の場所に任意の名前を付けて (azurestackserver.conf など)、azurestack の構成を含めて .json クレデンシャルファイルを作成します。
4. tpconfig add コマンドを使用して、このファイル名を追加します。tpconfig エントリを追加した後に、ファイルが application_server_name.conf という名前で /usr/openv/var/global ディレクトリにあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6663

メッセージ: リモートサーバーとのセキュアシェル接続を確立できませんでした。(Failed to establish a Secure Shell connection with the remote server.)

説明: アプリケーションサーバーのクレデンシャルまたは指紋が正しくない場合は、リモートサーバーとのセキュアシェル (SSH) 接続を作成できません。

推奨処置: アプリケーションサーバーの有効なクレデンシャルを入力したことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6664

メッセージ: JSON オブジェクトをロードできません。

説明: JSON オブジェクトをロードできません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

Cassandra データベースのバックアップまたはリストアを行うときは、必要に応じて次を実行します。

- 実稼働ホストのユーザーパスワードが正しいことを確認します。
- DSS ホストのユーザーパスワードが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6665

メッセージ: URL の構築でエラーが発生しました。(There was an error constructing the URL.)

説明: URL の構築でエラーが発生しました。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6666

メッセージ: MongoDB プロセスがホストで実行されていません。(The MongoDB processes are not running on the host.)

説明: MongoDB サーバーで MongoDB プロセス (`mongod` または `mongos`) が実行されているかどうかがリカバリ前チェックで検証されます。プロセスが見つからない場合、チェックに失敗し、リカバリは開始されません。

推奨処置: MongoDB データベースをバックアップまたはリカバリするには、MongoDB クラスタが実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6667

メッセージ: `mongod` プロセスがホストで実行されていません。(The mongod process is not running on the host.)

説明: MongoDB サーバーで MongoDB プロセス (`mongod`) が実行されているかどうかがリカバリ前チェックで検証されます。プロセスが見つからない場合、リカバリ前チェックに失敗し、リカバリは開始されません。

推奨処置: MongoDB データベースをリカバリするには、`mongod` プロセスが実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6668

メッセージ: `mongos` プロセスがホストで実行されていません。(The mongos process is not running on the host.)

説明: MongoDB サーバーで MongoDB プロセス (mongos) が実行されているかどうかがリカバリ前チェックで検証されます。プロセスが見つからない場合、リカバリ前チェックに失敗し、リカバリは開始されません。

推奨処置: MongoDB データベースをリカバリするには、mongos プロセスが実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6669

メッセージ: MongoDB クラスタのトポロジーをキャプチャできません。(Unable to capture the topology of the MongoDB cluster.)

説明: リカバリ前チェックで、MongoDB クラスタのライブトポロジーをキャプチャできません。

推奨処置: MongoDB の正しいクレデンシャルを使用していること、MongoDB クラスタが実行されていることを確認します。MongoDB のシャードが構成サーバーに接続されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6670

メッセージ: バランサの状態をキャプチャできません。(Unable to capture balancer state.)

説明: リカバリ前チェックで、MongoDB クラスタのバランサの状態をキャプチャできません。

推奨処置: MongoDB の正しいクレデンシャルを使用していること、MongoDB クラスタが実行されていることを確認します。MongoDB のシャードが構成サーバーに接続されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6671

メッセージ: データベースが見つかりません。(Unable to find database.)

説明: リカバリ前チェックで、問い合わせ操作を実行する管理データベースが見つかりません。

推奨処置: MongoDB クラスタが実行されていて、管理データベースにアクセスできることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6672

メッセージ: データベースサーバーのシャットダウンに失敗しました。(Failed to shutdown database server.)

説明: リカバリ前チェックで、問い合わせ操作を実行する管理データベースが見つかりません。

推奨処置: MongoDB クラスタが実行されていて、管理データベースにアクセスできることを確認します。MongoDB の正しいクレデンシャルを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6673

メッセージ: リカバリ前の操作の実行に失敗しました。(Failed to perform pre-recovery operation.)

説明: リカバリ前チェックに失敗し、リカバリ処理が中止されました。

推奨処置: MongoDB データベースをリカバリするには、MongoDB クラスタが実行されていることを確認します。MongoDB クラスタが実行されていて、管理データベースにアクセスできることを確認します。MongoDB の正しいクレデンシャルを使用していることを確認します。詳しくは、`mdbserver` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6674

メッセージ: データパスのクリーニングに失敗しました。(Failed to clean the data paths.)

説明: MongoDB データパスをクリーニングできません。この問題により、既存のデータがリカバリされたデータで上書きされ、データベースに不整合が生じることがあります。

推奨処置: MongoDB プロセスの実行に使用しているデータパスが正しいことを確認します。詳しくは、`mdbserver` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6675

メッセージ: データパスが存在しません。(Data path does not exist.)

説明: リカバリ前チェックで、データパスが見つかりません。

推奨処置: MongoDB プロセスの実行に使用しているデータパスが正しいことを確認します。詳しくは、mdbserver のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6676

メッセージ: MongoDB プロセスがサーバーで実行されているため、操作を完了できません。(Unable to complete the operation because the MongoDB processes are running on the server)

説明: リカバリ後のチェックで、MongoDB プロセスがサーバーで実行されており、MongoDB クラスタのリカバリを実行できないことが検出されました。

推奨処置: MongoDB クラスタのリカバリが完了する前に MongoDB プロセスが生成されていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6677

メッセージ: MongoDB クラスタにシャードを追加できません。(Unable to add a shard to the MongoDB cluster.)

説明: リカバリ後の操作で、必要なシャードが MongoDB クラスタに追加されませんでした。

推奨処置: 構成サーバーで mongos プロセスが実行されていることを確認します。MongoDB の正しいクレデンシャルを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6678

メッセージ: シャードの開始に失敗しました。(Failed to initiate the shard.)

説明: リカバリ後の操作で、シャードが開始されませんでした。MongoDB クラスタにシャードを追加できません。

推奨処置: 構成サーバーで mongod プロセスが実行されていることを確認します。MongoDB の正しいクレデンシャルを使用していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6679

メッセージ: リカバリ後の操作の実行に失敗しました。(Failed to perform post-recovery operation.)

説明: リカバリ後のチェックに失敗し、リカバリ処理が中止されました。

推奨処置: エラーについて詳しくは、Cohesity `mdbserver` または MongoDB のログを参照してください。問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6680

メッセージ: MongoDB クラスタをリカバリできません。(Unable to recover the MongoDB cluster.)

説明: リカバリ後の操作で、MongoDB クラスタを起動できません。

推奨処置: 詳しくは、`mdbserver` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6681

メッセージ: 同じ名前の複数のオブジェクトが見つかりました。(Multiple objects with same name found.)

説明: このエラーは、OpenStack に同じ表示名のインスタンスが複数ある場合に、それらのいずれかがバックアップ対象として指定されると発生します。

推奨処置: インスタンスの表示名が一意であることを確認し、ポリシーを再構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6682

メッセージ: ホストが見つかりません。(Host not found.)

説明: インスタンスの名前または ID が間違っているか、OpenStack に存在しません。

推奨処置: インスタンスの名前または ID を確認し、ポリシーを再構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6683

メッセージ: インスタンススナップショットの作成に失敗しました。(Failed to create instance snapshot.)

説明: バックアップ操作でインスタンススナップショットが作成されませんでした。

推奨処置: OpenStack のログを確認し、インスタンススナップショットが作成可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6684

メッセージ: ボリュームスナップショットの作成に失敗しました。(Failed to create volume snapshot.)

説明: バックアップ操作でボリュームスナップショットが作成されませんでした。

推奨処置: OpenStack のログを確認し、ボリュームスナップショットが作成可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6685

メッセージ: ボリュームの作成が無効な状態です。(Volume creation is in an invalid state.)

説明: OpenStack でボリューム作成操作の完了状態が「active」と表示されていないとバックアップは失敗します。

推奨処置: OpenStack のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6686

メッセージ: ボリュームの詳細の取得に失敗しました。(Failed to retrieve volume details.)

説明: バックアップまたはリストアで、スナップショットのボリュームの詳細を取得できません。

推奨処置: OpenStack のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6687

メッセージ: ボリュームスナップショットの作成が無効な状態です。

説明: OpenStack で完了状態が `available` と表示されていないとボリュームスナップショットの作成は失敗します。

推奨処置: OpenStack のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6688

メッセージ: ボリュームスナップショットの詳細の取得に失敗しました。(Failed to retrieve volume snapshot details.)

説明: バックアップまたはリストアで、ボリュームスナップショットの詳細を取得できません。

推奨処置: OpenStack のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6689

メッセージ: MongoDB トポロジーが最後のバックアップ以降に変更されています。(MongoDB topology has changed since the last backup.) 完全バックアップを作成する必要があります。

説明: 増分バックアップ中に NetBackup トポロジーが検出され、以前にバックアップされたトポロジーと比較されます。MongoDB のトポロジーが変更された場合 (たとえば、新しいシャードの追加や既存のシャードの削除など)、NetBackup は増分バックアップに失敗します。

推奨処置: トポロジーが変更された場合は完全バックアップを実行します。完全バックアップが正常に完了した後、増分バックアップを実行できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6690

メッセージ: MongoDB 名前変更ファイルがないか、無効です。(The MongoDB rename file is either missing or invalid.)

説明: NetBackup が次の理由によりリストアに失敗します。

- MongoDB 名前変更ファイルの内容の構文が正しくない場合

- 単一の MongoDB インスタンス `host:port` が、複数の変更エントリの一部として複数の `host:port` にリダイレクトされます。

推奨処置: 名前変更ファイルのエントリの構文を確認します。代替アプリケーションサーバーにリカバリする場合は、変更エントリで代替アプリケーションサーバーが `ALT_APPLICATION_SERVER=Host:Port` という形式で指定されていることを確認してください。また、単一インスタンス `host:port` が複数の `host:port` にリダイレクトされていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6691

メッセージ: MongoDB リストア指定ファイルを作成できません。(Unable to create MongoDB restore specification file.)

説明: リストア指定ファイルが作成されていない場合、またはバックアップホスト (宛先クライアント) に転送されていない場合、NetBackup はリストアジョブの開始に失敗します。

推奨処置: バックアップホスト (宛先クライアント) が NetBackup マスターサーバーから到達可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6692

メッセージ: MongoDB リストア指定ファイルを読み取って処理できません。(Unable to read and process the MongoDB restore specification file.)

説明: バックアップホスト (宛先クライアント) がリストア指定ファイルを読み取って処理できない場合、NetBackup はリストアジョブの開始に失敗します。

推奨処置: NetBackup バックアップホスト (宛先クライアント) に適切なアクセス権があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6693

メッセージ: MongoDB 構成ファイルを読み取って処理できません。(Unable to read and process the MongoDB configuration file.)

説明: バックアップホスト (宛先クライアント) が MongoDB 構成ファイル (`mongodb.conf`) を読み取って処理できない場合、NetBackup はリストアジョブの開始に失敗します。

推奨処置: NetBackup バックアップホスト (宛先クライアント) に適切なアクセス権があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6694

メッセージ: MongoDB のバックアップは、論理ボリューム管理ベースのボリュームでのみサポートされています。(Backup of MongoDB is supported only on Logical Volume Management based volumes.)

説明: データベースディレクトリが論理ボリュームにマウントされていない場合、NetBackup の MongoDB バックアップジョブは失敗します。

推奨処置: データベースディレクトリを論理ボリュームにマウントしていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6695

メッセージ: VxFS ボリュームでの MongoDB のバックアップはサポートされていません。(Backup of MongoDB on VxFS volumes is not supported.)

説明: データベースディレクトリが VxFS ボリュームにマウントされている場合、NetBackup の MongoDB バックアップジョブは失敗します。NetBackup は論理ボリューム管理ベースのボリュームのみをサポートしています。

推奨処置: データベースディレクトリを論理ボリュームにマウントしていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6696

メッセージ: 1 台のマシン上の同じまたは異なる MongoDB インスタンスでの同時バックアップ操作はサポートされていません。(Simultaneous backup operations on same or different MongoDB instances on a machine are not supported.) 操作が異なる時間に実行されるようにスケジュールを再設定してください。

説明: NetBackup は、同じマシン上の MongoDB インスタンスをバックアップする同時バックアップ操作に失敗します。

推奨処置: 同じマシン上の複数のインスタンスのバックアップを異なる時間に実行するように、スケジュールを再設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6697

メッセージ: サポート対象ボリュームの最大数に達しました。(Maximum number of supported volumes has been reached.)

説明: OpenStack インスタンスのバックアップ中に、インスタンスに関連付けられているボリュームもバックアップされます。関連付けられたボリュームの合計数が 32 を超えた場合、バックアップは失敗します。

推奨処置: サポートされている接続ボリュームの最大数は 32 です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6698

メッセージ: サポート対象セキュリティグループの最大数を超えました。(Maximum number of supported security groups exceeded.)

説明: サポートされている OpenStack セキュリティグループの最大数に達しました。現在、NetBackup では OpenStack バックアップ時に最大 32 のセキュリティグループがサポートされています。

推奨処置: サポートされているセキュリティグループの最大数は 32 です。セキュリティグループの数を調整し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6699

メッセージ: サポート対象接続ボリュームの最大数を超えました。(Maximum number of supported attached volumes exceeded.)

説明: サポートされている OpenStack 拡張接続ボリュームの最大数に達しました。現在、NetBackup では OpenStack バックアップ時に最大 32 の拡張接続ボリュームがサポートされています。

推奨処置: サポートされている拡張接続ボリュームの最大数は 32 です。接続ボリュームの数を調整し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6700

メッセージ: サポート対象ネットワークインターフェースの最大数に達しました。(Maximum number of supported network interfaces reached.)

説明: サポート対象 OpenStack ネットワークインターフェースの最大数に達しました。現在、NetBackup では OpenStack インスタンスのバックアップ中に最大 100 のネットワークインターフェースバックアップがサポートされています。

推奨処置: サポート対象ネットワークインターフェースの最大数は 100 です。ネットワークインターフェースの数を調整し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6701

メッセージ: デバイスを開けません。(Unable to open the device.)

説明: OpenStack のバックアップ処理中に、バックアップ対象のボリュームがバックアップホストに接続されます。このエラーは、バックアップホストとボリュームの接続操作が失敗したことを示します。

推奨処置: ストレージシステムが良好な状態であることを確認します。また、バックアップホストとバックアップ対象インスタンスが同じ Hypervisor 上にあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6702

メッセージ: 認証トークンを取得できません。(Unable to obtain the authentication token.)

説明: OpenStack のバックアップ処理中に、OpenStack 内のオブジェクトにアクセスするための認証トークンが生成されます。このエラーは、このユーザーコンテキストのトークン生成が失敗したことを示します。

推奨処置: トークンは、ユーザー名、ユーザーパスワード、ユーザードメイン名、プロジェクト名、およびプロジェクトドメイン名の組み合わせを使用して生成されます。これらの値が**クレデンシャル**ファイルに正しく記載されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6703

メッセージ: フレーバーのディスクサイズが 0 で、イメージからブートするインスタンスのバックアップはサポートされていません。(Backup of an instance with flavor disk size 0 and booting from image is not supported.)

説明: ディスクサイズが 0 のフレーバーで、イメージからブートする OpenStack インスタンスは、OpenStack がサポートする有効な組み合わせではありません。NetBackup はこの種類のインスタンスのバックアップ操作をサポートしていません。

推奨処置: NetBackup が、ディスクサイズが 0 のフレーバーを使用してイメージからブートするインスタンスをバックアップしようとしていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6704

メッセージ: 1 つのレプリカセットで複数の MongoDB ノードをリストアすることは無効です。(Restoring multiple MongoDB nodes on one replica set is invalid.)

説明: リストア対象としてレプリカセット内の複数のノードが選択されているため、リストア操作が失敗します。

推奨処置: 1 つのノードのみレプリカセットでリストアできます。リストアのリダイレクトを選択し、レプリカセットの 1 つのノードを指定するようにパスを編集します。役割の変更によって異なるノードからバックアップを実行した場合は、すべてのノードが宛先クラスタの 1 つのノードにリストアされるように選択します。この操作は、リストアのワークフローで代替リストアオプションを選択して実行する必要があります。リストアワークフローで代替リストアオプションを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6705

メッセージ: アービターノードの MongoDB データをリストアすることは無効です。

説明: リストア操作のために選択された宛先ノードがアービターであるため、リストア操作が失敗します。アービターノードへのリストアはサポートされていません。

推奨処置: 宛先 MongoDB クラスタでアービターになっていない宛先の MongoDB クラスタで、別のノードを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6706

メッセージ: 検出したシャードはドレイン状態のため、バックアップを続行できません。

説明: シャードがドレイン状態のときは、バックアップを実行できません。

推奨処置: シャードがドレイン状態ではないときにバックアップ操作を再試行します。シャードの状態を変更する方法については、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6707

メッセージ: サポート対象外の MongoDB ストレージエンジンが検出されました。

説明: NetBackup は、MongoDB に対するバックアップとリストアに Wired Tiger ストレージエンジンのみをサポートします。

推奨処置: ストレージエンジンを Wired Tiger に変更し、操作を再送信します。ストレージエンジンの変更方法については、MongoDB のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6708

メッセージ: コマンド出力を解析できません。

説明: Mongo コマンドの出力の解析に失敗したか、Mongo コマンドからの出力を取得できませんでした。

推奨処置: コマンドの状態とそのエラーについて詳しくは、`mdbserver` ログを参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6709

メッセージ: コマンドを実行できません。

説明: バックアップおよびリストア操作中に、NetBackup は複数の Mongo コマンドを実行します。これらのコマンドの 1 つが失敗しました。

この問題は、Cassandra データベースとの通信が中断された場合に発生する可能性があります。

推奨処置: 複数の作業負荷にこのエラーが表示される場合があります。特定の作業負荷で次の情報を確認してください。

MongoDB のバックアップまたはリストアを実行する場合は、次の内容を確認します。

- `mdbserver` ログを参照してエラーコードを特定し、それに基づいてエラーの原因を『MongoDB 管理者ガイド』で確認します。MongoDB バージョン 4.4 以降で増分バックアップを実行する場合は、`mongodump` ユーティリティがインストールされていることを確認します。インストール後に操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

- 証明書ベースの認証を有効にすると、差分増分バックアップが失敗する場合があります。エラーコードとコマンドについて詳しくは、mdbserver のログを参照してください。mdbserver ログに mongodump コマンドエラーが示された場合は、MongoDB ホストで mongodump コマンドを手動で実行し、エラーを確認してください。mongodump コマンドが X509 証明書関連の接続エラーで失敗した場合は、MongoDB のマニュアルに従い、subjectAltName プロパティを使用して MongoDB サーバー証明書を更新し、これらのエラーを修正する必要があります。その後、差分増分バックアップを再試行してください。

Cassandra データベースのバックアップまたはリストアを行うときは、必要に応じて次を実行します。

- 実稼働ノードの SSH セッションを確認します。CBR ノードは、SSH を使用して実稼働ノードに接続できる必要があります。
- CBR ノードが実行中で、アクセス可能であることを確認します。
- nbcbr プロセスが実行中であることを確認します。プロセスが起動していない場合は、Cassandra クラスタノードの Cassandra 構成ファイルで指定されたフォルダを手動で消去し、バックアップ操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6710

メッセージ: データベースのパスに Wired Tiger ログファイルがあるためリカバリの事前チェックに失敗しました。

説明: 宛先で Wired Tiger ログファイルが検出されましたが、上書きオプションが選択されていません。このシナリオではリカバリエラーが発生する可能性があるため、リカバリ前の操作は失敗します。

推奨処置: リストアワークフローの上書きオプションを選択して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6711

メッセージ: MongoDB 構成ファイルをバックアップできません。

説明: バックアップ操作では、MongoDB 構成ファイルもバックアップされます。アクセスの問題により、バックアップ操作で MongoDB 構成ファイルのバックアップが行われない可能性があります。

推奨処置: 詳しくは mdbserver のログを確認してください。

必要に応じて次の操作を実行します。

- MongoDB 構成ファイルのアクセス制御を確認します。このノードの tpconfig に指定されているホストユーザーに、MongoDB 構成ファイルの読み込みに必要なすべての権限を付与します。
- tpconfig に指定されているスナップショットディレクトリに対するアクセス制御権限を確認します。このノードの tpconfig に指定されているホストユーザーに、スナップショットマウントディレクトリへの書き込み権限を許可します。

操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6712

メッセージ: 以前のバックアップの操作ログが見つかりません。

説明: 増分バックアップの間に、NetBackup は以前のバックアップの oplog を確認します。NetBackup は、この情報が oplog ファイルに存在しない場合、増分バックアップに失敗します。これは、増分バックアップのベースとなる以前のバックアップの情報がないためです。この状況は、MongoDB トポロジーが変更された場合にも発生することがあります (例: 新しいシャードの追加)。

推奨処置: スケジュール形式を「完全」に変更し、バックアップを再試行して、問題なく完了したことを確認します。完全バックアップの後で、増分バックアップのスケジュールを設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6713

メッセージ: 操作ログのロールオーバーが検出されました。

説明: 増分バックアップの間に、NetBackup は以前のバックアップの oplog を確認します。NetBackup は、この情報が oplog ファイルに存在しない場合、増分バックアップに失敗します。これは、増分バックアップのベースとなる以前のバックアップの情報がないためです。操作ログがロールオーバーしたことが検出されました。

推奨処置: スケジュール形式を「完全」に変更し、バックアップを再試行します。完全バックアップの後で、増分バックアップのスケジュールを設定します。増分バックアップの頻度を増やすか、操作ログのサイズを大きくして、操作ログが次回の増分バックアップの前にロールバックしないようにします。この手順は、データの MongoDB とリカバリポイントの目標に対して実行される平均操作数に基づいて実行する必要があります。操作のログサイズを変更する方法については、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6714

メッセージ: 収集の反復中にエラーが発生しました。

説明: 増分バックアップの間に、NetBackup は以前のバックアップの `oplog` を確認します。NetBackup は、MongoDB データベースからこの情報をフェッチできない場合、増分バックアップに失敗します。

推奨処置: エラーの詳細を確認するには、`mdbserver` ログを参照してください。完全バックアップを実行し、それが成功した後で増分バックアップのスケジュールを設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6715

メッセージ: 操作ログの検証エラーです。

説明: 増分バックアップの間に、NetBackup は以前のバックアップの `oplog` を確認します。NetBackup は、MongoDB データベースからこの情報をフェッチできない場合、増分バックアップに失敗します。

推奨処置: エラーの詳細を確認するには、`mdbserver` ログを参照してください。完全バックアップを実行し、それが成功した後で増分バックアップのスケジュールを設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6716

メッセージ: 操作ログ保存情報ファイルで I/O 操作が失敗しました。(Failed I/O operation on operation log store info file.)

説明: リカバリ操作中に、NetBackup は操作ログの適用中にエラーを検出しました。

推奨処置: 問題のトラブルシューティングを行うには、`nbaapireq_handler` ログと `mdbserver` ログを確認します。操作ログの削除でエラーが発生した場合は、これらを手動で削除して MongoDB インスタンスを起動して実行します。操作ログのパスの検索中にエラーが発生した場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスします。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6717

メッセージ: リストアされた操作ログファイル用に無効な削除パスが渡されました。操作ログファイルは削除されていません。

説明: リストア操作のログファイルを削除するために、無効なパスが渡されました。

推奨処置: 詳しくは mdbserver のログを参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6718

メッセージ: 操作ログをリプレイできません。

説明: NetBackup で、リカバリ処理中の操作ログのリプレイについてエラーが発生しました。このエラーにより、MongoDB インスタンスが起動して実行されている場合でも、リカバリ操作が失敗します。

推奨処置: MongoDB バージョン 4.4 以降で増分リカバリを実行する場合は、mongorestore ユーティリティがインストールされていることを確認します。インストール後に、操作ログを手動で適用します。mdbserver ログからリストアされた操作ログを参照し、手動でリストアします。mongorestore コマンドのパラメータについて詳しくは、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6719

メッセージ: NetBackup リプレイ操作ログの役割をユーザーから取り消せません。

説明: NetBackup の再生操作のログの役割を取り消そうとしたときに NetBackup でエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは mdbserver のログを確認してください。

次のコマンドを実行して、ユーザーの NetBackupリプレイ操作のログの役割を手動で無効にします。"db.getSiblingDB('admin').revokeRolesFromUser('{user info}',[{'role':'netbackup-replayoplogs', 'db':'admin'}])

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6720

メッセージ: NetBackup リプレイ操作ログの役割を破棄できません。

説明: NetBackup のリプレイ操作のログの役割を破棄しようとしたときに NetBackup でエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは mdbserver のログを確認してください。

次のコマンドを実行して、管理者ユーザーの役割を手動で削除します。"db.getSiblingDB('admin').dropRole('netbackup-replayoplogs')

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6721

メッセージ: 操作ログをリプレイできません。また、NetBackup リプレイ操作ログの役割の取り消しと NetBackup リプレイ操作ログの役割の破棄に失敗しました。

説明: NetBackup のリプレイ操作ログの役割の取り消しと破棄を試行したときに、NetBackup でエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは mdbserver のログを確認してください。

次の手順を実行します。

- 次のコマンドを実行して、ユーザーの NetBackup リプレイ操作のログの役割を手動で無効にします。"db.getSiblingDB('admin').revokeRolesFromUser('{user info}',[{'role':'netbackup-replayoplogs', 'db':'admin'}])"。
- 次のコマンドを実行して、管理者ユーザーの役割を手動で削除します。"db.getSiblingDB('admin').dropRole('netbackup-replayoplogs')

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6722

メッセージ: 操作ログをリプレイできません。また、NetBackup リプレイ操作ログの役割を無効化できませんでした。

説明: NetBackup でリカバリ処理中にリプレイされた操作ログでエラーが発生したため、NetBackup のリプレイ操作のログの役割を無効化できませんでした。このエラーにより、MongoDB インスタンスが起動して実行されている場合でも、リカバリ操作が失敗します。

推奨処置: 操作ログを手動で適用します。mdbserver ログからリストアされた操作ログを参照し、手動でリストアします。mongorestore コマンドのパラメータについて詳しくは、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

次のコマンドを実行して、ユーザーの NetBackup リプレイ操作のログの役割を手動で無効にします。"db.getSiblingDB('admin').revokeRolesFromUser('{user info}',[{'role':'netbackup-replayoplogs', 'db':'admin'}])

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6723

メッセージ: 操作ログをリプレイできません。また、NetBackup リプレイ操作ログの役割を削除できませんでした。

説明: NetBackup でリカバリ処理中にリプレイされた操作ログでエラーが発生したため、NetBackup のリプレイ操作のログの役割を削除できませんでした。このエラーにより、MongoDB インスタンスが起動して実行されている場合でも、リカバリ操作が失敗します。

推奨処置: 操作ログを手動で適用します。mdbserver ログからリストアされた操作ログを参照し、手動でリストアします。mongorestore コマンドのパラメータについて詳しくは、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

次のコマンドを実行して、管理者ユーザーの役割を手動で削除します。"db.getSiblingDB('admin').dropRole('netbackup-replayoplogs')

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6724

メッセージ: リストアするノード数が無効です。

説明: リストア対象としてレプリカセット内の複数のノードが選択されているため、リストア操作が失敗します。

推奨処置: 1 つのノードのみレプリカセットでリストアできます。役割の変更によって異なるノードからバックアップを実行した場合は、すべてのノードが宛先 MongoDB クラスタの 1 つのノードにリストアされるように選択します。リストアワークフローで代替リストアオプションを使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6725

メッセージ: MongoDB レプリカセットの情報が見つかりません。

説明: NetBackup は、MongoDB からレプリカセットの詳細をフェッチできません。処理が失敗しました。

推奨処置: 詳しくは mdbserver のログを参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6726

メッセージ: 宛先クライアントとして選択されたバックアップホストが無効またはアクセスできないか、必要なプラグインがクライアントで見つかりません。

説明: NetBackup は、有効なバックアップホストを見つけられませんでした。

推奨処置: 適切なバックアップホストが宛先として選択されていることを確認してください。また、MongoDB プラグインがバックアップホストにインストールされていることを確認してから、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6727

メッセージ: リモートホストへのファイルの転送に失敗しました。

説明: NetBackup は、リモートマシンへのファイルのコピーに失敗しました。

推奨処置: NetBackup クライアントと MongoDB ノード間の接続を確認します。詳しくは、nbapidiscv および nbaapire_handler のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6728

メッセージ: 無効なバックアップホストがポリシーで使用されています。

説明: ポリシーに記載されているバックアップホストが無効です。

推奨処置: ポリシーを更新して、適切なバックアップホストを指定します。適切なプラグインがバックアップホストにインストールされていることを確認してから、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6729

メッセージ: パッケージリポジトリからシンクライアントをダウンロードできません。

説明: NetBackup は、マスターサーバーからシンクライアントをダウンロードできませんでした。

推奨処置: `MongoDB_tc` パッケージが NetBackup マスターサーバーに追加されていることを確認します。`nbrepo --add` コマンドを使用してシンクライアントを追加する方法については、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。関連する MongoDB ノードオペレーティングシステムのシンクライアントパッケージを追加するか、マスターに RHEL と SUSE の両方のシンクライアントを追加します。その後、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6730

メッセージ: 選択したスケジュール形式は現在、機能の互換性のバージョン 4.2 以降の共有クラスタではサポートされていません。(The selected schedule type is currently not supported for the sharded cluster that has Feature Compatibility Version 4.2 or later.)

説明: NetBackup は、機能の互換性のバージョン 4.2 以降がインストールされたシャードクラスタの差分増分バックアップをサポートしません。

推奨処置: バージョン 4.2 を使用してシャード MongoDB クラスタで増分バックアップを実行する場合は、『MongoDB 管理者ガイド』を参照して、MongoDB の機能の互換性のバージョンを 4.0 に変更します。完全バックアップの後に増分バックアップを実行して、操作を再試行します。機能の互換性のバージョンを変更しない場合は、この MongoDB インスタンスの完全バックアップのみを実行するようにスケジュール形式を変更します。MongoDB バージョン 4.4 以降がインストールされているシャードクラスタでは、増分バックアップはサポートされません。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6731

メッセージ: 認証形式が証明書ベースのすべての必須パラメータが指定されていません。

説明: MongoDB 認証形式に基づいて、MongoDB ノードの `tpconfig` に関連するすべてのパラメータは設定されていません。

推奨処置: MongoDB クラスタの `tpconfig` ですべての認証の詳細を指定していることを確認し、必要なすべてのパラメータを指定していることを確認します。必要なパラメータついて詳しくは、『NetBackup for MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6732

メッセージ: 必要なすべてのパラメータを指定していることを確認します。

説明: MongoDB 認証形式に基づいて、MongoDB ノードの `tpconfig` に関連するすべてのパラメータは設定されていません。

推奨処置: MongoDB クラスタの `tpconfig` ですべての認証の詳細を指定していることを確認します。必要なパラメータついて詳しくは、『NetBackup MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6733

メッセージ: NetBackup は、指定された MongoDB クラスタのバージョンの保護をサポートしていません。(NetBackup does not support protection of the given MongoDB cluster version.)

説明: MongoDB のバージョンがサポートされていません。

推奨処置: サポートされている MongoDB のバージョンを確認するには、お使いの NetBackup クライアントバージョンの『NetBackup Enterprise Server and Server OS Software Compatibility List』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6734

メッセージ: MongoDB のバージョンを取得できません。

説明: MongoDB のバージョンの取得に失敗しました。

推奨処置: MongoDB クラスタが起動して実行中であることを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6735

メッセージ: 機能の互換性のバージョンを取得できません。

説明: MongoDB 機能の互換性のバージョンを取得できません。

推奨処置: MongoDB クラスタが起動して実行中であることを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6736

メッセージ: ソースとターゲットのクラスタには、証明書ベースの認証と同じ通信モードが必要です。

説明: バックアップクラスタの認証形式とリストアクラスタの認証形式は同じである必要があります。

推奨処置: リストアクラスタの認証形式を、バックアップクラスタの認証形式と一致するように変更し、リストアを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6737

メッセージ: MongoDB クラスタのバランサーを停止できません。

説明: NetBackup は MongoDB クラスタのバランサーを停止できません。

推奨処置: 詳しくは `mdbserver` のログを参照してください。エラーについて詳しくは、Mongo ログを参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6738

メッセージ: MongoDB クラスタのバランサーを開始できません。

説明: NetBackup は MongoDB クラスタのバランサーを開始できません。

推奨処置: 詳しくは `mdbserver` のログを参照してください。エラーについて詳しくは、Mongo ログを参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6739

メッセージ: 外部のソース構成ファイルの値を使用して、クラスタが作成されます。NetBackup は現在この MongoDB 構成をサポートしていません。

説明: サポートされていない MongoDB の構成。

推奨処置: NetBackup は外部ソースの構成ファイルをサポートしていません。ローカル構成ファイルを使用するように MongoDB 構成を変更して、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6740

メッセージ: MongoDB クラスタの MongoDB バージョンまたは機能の互換性のバージョンのいずれかが変更されました。

説明: 完全バックアップの実行後に、MongoDB 構成が変更されました。

推奨処置: 完全バックアップを実行すると、増分バックアップが機能します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6741

メッセージ: ボリュームのクォータを超えています。(The quota is exceeded for volumes.)

説明: この問題は、バックアップまたはリストア操作中に OpenStack ボリュームのクォータを超過した場合に発生します。

推奨処置: バックアップ操作またはリストア操作中に、必要な新しいボリュームの作成に十分に対応できるだけの OpenStack ボリュームクォータがあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6742

メッセージ: インスタンスのクォータを超えています。(The quota is exceeded for instances.)

説明: この問題は、インスタンスデータのリストア中に OpenStack インスタンスのクォータを超過した場合に発生します。

推奨処置: リストア操作中に、必要な新しいインスタンスの作成に十分に対応できるだけの OpenStack インスタンスクォータがあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6743

メッセージ: インスタンス名の取得に失敗しました。(Failed to get the instance name.)

説明: バックアップ操作中に、インスタンス名の取得に失敗しました。

推奨処置: バックアップを成功させるには、OpenStack インスタンスがテナントに存在するか、インスタンス名が空白でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6744

メッセージ: バックアップホストのホスト名が空です。(The host name on the backup host is empty.)

説明: この問題は、NetBackup がバックアップホストのホスト名を取得できない場合に発生します。

推奨処置: バックアップホストのホスト名が用に正しく構成されていることを確認し、バックアップホストの `/tmp` フォルダが実行権付きでマウントされていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6745

メッセージ: MongoDB インスタンスへの接続に失敗しました。(Failed to connect to MongoDB instance.)

説明: 簡易認証方法を使用したリカバリ操作中に、NetBackup が MongoDB インスタンスへの接続に失敗しました。

この問題は、次の場合に発生する可能性があります。

- ネットワーク接続の問題が原因で NetBackup は失敗することがあります。
- このエラーは、MongoDB インスタンスのターゲットまたは `ALT_APPLICATION_SERVER` がアービターの場合にも発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- MongoDB インスタンスに接続していることを確認します。
- MongoDB インスタンスのターゲットまたは `ALT_APPLICATION_SERVER` がアービターである場合は、アービターではない MongoDB インスタンスに変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6746

メッセージ: バックアップホストがアプリケーションサーバーの解決に失敗したため、接続を確立できません。(Connection cannot be established because the backup host failed to resolve the application server.)

説明: バックアップホストがアプリケーションサーバーのホスト名を解決できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アプリケーションサーバーの正しいホスト名を入力していることを確認してください。
- アプリケーションサーバーからバックアップホストに ping を実行し、バックアップホストからアプリケーションサーバーにも ping を試します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6747

メッセージ: バックアップホストが、アプリケーションサーバーとの接続を確立できません。(The backup host cannot establish a connection to the application server.)

説明: バックアップホストがアプリケーションサーバーとの接続を確立できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- アプリケーションサーバーの正しいホスト名を指定していることを確認してください。
- アプリケーションサーバーからバックアップホストに ping を実行し、バックアップホストからアプリケーションサーバーにも ping を試します。
- `tpconfig` または `hadoop.conf` を使用して、ポートが正しく更新されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6748

メッセージ: SSL または TLS 通信で問題が発生しました。(A problem has occurred with the SSL or the TLS communication.)

説明: SSL または TLS 通信で問題が発生しました。

推奨処置: SSL または TLS 通信に指定した証明書のファイル形式、パス、権限が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6749

メッセージ: 無効なクライアント証明書が原因で SSL または TLS 通信でエラーが発生しました。(Failed in SSL or TLS communication due to an invalid client certificate.)

説明: このエラーは次の場合に発生する可能性があります。

- 指定したパスに証明書が存在しません。
- 証明書が破損しているか、アクセス不能です。

推奨処置: 証明書がアクセス可能であり、指定したパスが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6750

メッセージ: アプリケーションサーバーの検証に失敗しました。(Failed to verify the application server.)

説明: バックアップホストがアプリケーションサーバーを検証しようとしたときに問題を検出しました。リモートサーバーの SSL 証明書または SSH MD5 指紋が正しくありません。

推奨処置: SSL または TLS 通信に指定した証明書のファイル形式、パス、権限が正しいことを確認します。また、証明書が失効していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6751

メッセージ: SSL CA 証明書の読み取りに失敗しました。(Failed to read the SSL CA certificate.)

説明: 考えられる原因は、次のとおりです。

- どの認証局ともまだ信頼関係が確立されていません。
- アプリケーションサーバーとの接続を確立するための信頼できる認証局のリストを取得できません。

推奨処置: 証明書と CRL ファイルが正しい形式で、トラストストアファイルと CRL ファイルが破損していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6752

メッセージ: 証明書が不明な認証局によって発行されています。(An unknown Certificate Authority issued the certificate.)

説明: ホストは、証明書を発行した認証局を信頼していません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 必要なサーバーの CA 証明書をフェッチして、操作を再実行します。
- 操作を再試行してすべてのエラーログ情報を保存します。問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6753

メッセージ: アプリケーションサーバーのクロックとバックアップホストのクロックが同期されていることを確認してください。(Ensure that the application server clock and the backup host clocks are synchronized.)

説明: アプリケーションサーバーへの接続を検証したときに無効な証明書が検出されました。

推奨処置: バックアップホストのクロックが指定したアプリケーションサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じてアプリケーションサーバーの時刻を修正し、操作を再実行してすべてのエラーログ情報を保存します。問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6754

メッセージ: セキュリティ証明書の有効期限が切れています。(The security certificate has expired.)

説明: アプリケーションサーバーへの接続を検証したときに期限切れの証明書が検出されました。

推奨処置: バックアップホストのクロックが指定したアプリケーションサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じてアプリケーションホストの時刻を修正し、操作を再実行してすべてのエラーログ情報を保存します。問題が解決しない場合は、

support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6755

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) を使用できません。(The certificate revocation list (CRL) is unavailable.)

説明: ホストの CRL キャッシュに証明書失効リスト (CRL) がキャッシュされていません。

推奨処置: `ECA_CRL_PATH` の設定が `bp.conf` 構成ファイルで指定されている場合、次を確認します。

- `ECA_CRL_PATH` に正しい証明書失効リスト (CRL) ディレクトリのパスが設定されている。
- CRL ディレクトリにすべての必要な証明書の発行者の CRL が含まれている。
- CRL が PEM 形式である。
- CRL の期限が切れていない。
- CRL の最終更新日が将来の日付ではない。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6756

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) が期限切れです。(The certificate revocation list (CRL) has expired.)

説明: CRL のソースコピーが期限切れです。

推奨処置: 期限が切れていない CRL を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6757

メッセージ: セキュリティ証明書が失効しています。(The security certificate is revoked.)

説明: アプリケーションサーバーに指定されたセキュリティ証明書が失効しています。

推奨処置: アプリケーションサーバーに指定されたセキュリティ証明書が失効していないことを確認します。また、証明書が失効していないのに引き続きこのエラーが発生する場

合は、CRL キャッシュで証明書失効リスト (CRL) が更新されているかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6758

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の署名を復号できません。(Unable to decrypt the certificate revocation list (CRL) signature.)

説明: CRL の署名の実際の値を特定できません。

推奨処置: OpenSSL verify コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。

必要に応じて次を実行します。

- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6759

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の署名でエラーが発生しました。(Certificate revocation list (CRL) signature failure.)

説明: CRL の署名が無効です。

推奨処置: OpenSSL verify コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。

必要に応じて次を実行します。

- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6760

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) がまだ有効ではありません。(The certificate revocation list (CRL) is not yet valid.)

説明: CRL の前回の更新日時が現在の時間よりも後になっています。

推奨処置: システム時間を確認するか、有効な CRL を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6761

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の最終更新日が有効な形式ではありません。(The certificate revocation list (CRL) last update date is not in a valid format.)

説明: CRL の最終更新日フィールドの時間が無効です。

推奨処置: OpenSSL コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6762

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の次回更新日が有効な形式ではありません。(The certificate revocation list (CRL) next update date is not in a valid format.)

説明: CRL の次回更新日フィールドの時間が無効です。

推奨処置: OpenSSL コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6763

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の発行者の証明書を取得できません。(Unable to retrieve the certificate revocation list (CRL) issuer certificate.)

説明: CRL の検証で CRL の発行者の証明書が見つかりません。

推奨処置: OpenSSL verify コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。

必要に応じて次を実行します。

- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6764

メッセージ: キーの用途に証明書失効リスト (CRL) の署名が含まれていません。(Key usage does not include certificate revocation list (CRL) signing.)

説明: 秘密鍵の key usage フィールドに、CRL の署名に秘密鍵を使用しないように示されています。

推奨処置: OpenSSL verify コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。

必要に応じて次を実行します。

- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6765

メッセージ: 重要な証明書失効リスト (CRL) に無効なファイル拡張子が含まれています。(Critical certificate revocation list (CRL) contains invalid file extensions.)

説明: CRL のファイル拡張子のいくつかが存在していないか無効です。

推奨処置: OpenSSL コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6766

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) のスコープが異なります。無効化の理由すべてを対象とする必要があります。(The certificate revocation list (CRL) scope is different, it must cover all revocation reasons.)

説明: 想定される CRL の理由と ALL reason のフィールドが CRL にありません。

推奨処置: OpenSSL コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6767

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) のパスの検証でエラーが発生しました。(Certificate revocation list (CRL) path validation error.)

説明: CRL のパスの検証でエラーが発生しました。

推奨処置: OpenSSL verify コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。

必要に応じて次を実行します。

- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6768

メッセージ: アプリケーションサーバー証明書の検証に失敗しました。(Failed to verify the application server certificate.)

説明: アプリケーションサーバー証明書の検証に失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、すべてのエラーログ情報を保存して support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6772

メッセージ: アプリケーションサーバーとの通信にサポートされていないプロトコルが使用されました。(An unsupported protocol was used to communicate with the application server.)

説明: アプリケーションサーバーとの通信にサポートされていないプロトコルが使用されました。

推奨処置: アプリケーションサーバーとの通信に使用されているプロトコルを確認します。アプリケーションサーバーで HTTP が使用されている場合は、tpconfig または hadoop.conf を使用して、ポートが正しく更新されていることを確認します。

bp.conf ファイル内で次のファイルを更新します。

- ECA_TRUST_STORE_PATH
- ECA_CRL_PATH
- HADOOP_SECURE_CONNECT_ENABLED
- HADOOP_CRL_CHECK

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6773

メッセージ: 発行者の証明書を取得できません。(Unable to retrieve the issuer certificate.)

説明: 信頼できる証明書ではない可能性があるため、発行者の証明書が見つかりません。

推奨処置: 証明書のファイル形式、パス、権限、パスワードが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6774

メッセージ: 信頼できる証明書の一覧に自己署名証明書が見つかりません。(A self-signed certificate cannot be found in the list of trusted certificates.)

説明: 指定された信頼できる証明書の一覧に自己署名証明書が見つかりません。

推奨処置: 証明書のファイル形式、パス、権限、パスワードが正しいことを確認します。ホスト証明書の内容が、ECA_TRUST_STORE_PATH で指定された証明書の一部であるかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6775

メッセージ: 最初の証明書を検証できません。(Unable to verify the first certificate.)

説明: チェーンに 1 つの証明書のみが含まれ、自己署名ではないため、署名を検証できません。

推奨処置: 証明書のファイル形式、パス、権限、パスワードが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6776

メッセージ: バックアップホストの NetBackup バージョンと MongoDB ホストのオペレーティングシステムに必要な VxUpdate パッケージが見つかりません。(Cannot locate the required VxUpdate package for the NetBackup version of the backup host and the operating system of the MongoDB host.)

説明: MongoDB のバックアップおよびリカバリの操作中に、NetBackup は、NetBackup マスターサーバーのパッケージリポジトリで必要な VxUpdate パッケージを検出できませんでした。必要なパッケージは、バックアップホストの NetBackup バージョンおよび MongoDB ホストのオペレーティングシステムと対応している必要があります。

推奨処置: NetBackup マスターサーバーで、MongoDB シンクライアントに必要な VxUpdate パッケージを追加したことを確認します。`nbrepo --add` コマンドを使用してシンクライアントを追加する方法については、『MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。バックアップホストの NetBackup バージョンおよび MongoDB ホストのオペレーティングシステムと対応しているシンクライアントパッケージを追加します。その後、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6777

メッセージ: 部分的に成功 - 管理対象ディスクのスナップショットのアクセス URI を解析できませんでした。(Partial success - failed to parse access URI for managed disk snapshot.)

説明: 管理対象ディスクのスナップショットのエクスポート操作の一部として戻されたアクセス URI が、スナップショットをエクスポートする HTTP レスポンスの本文に存在しません。管理対象ディスクへのアクセス権を付与する REST API の一部として、空のアクセス URI が戻されます。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの `bp.conf` ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。`nbaapidiscv` ログと `bpbkar` ログを確認します。
- `CURL_VERBOSE = true` を `/usr/openv/var/global/azurestack.conf` に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

アクセス権の付与について詳しくは、
https://docs.microsoft.com/ja-jp/rest/api/compute/disks/grantaccess を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6778

メッセージ: 部分的に成功 - ディスクスナップショットのエクスポートに失敗しました。(Partial success - disk snapshot export failed.)

説明: 管理対象ディスクのスナップショットをページ BLOB としてエクスポートできませんでした。管理対象ディスクへのアクセス権を付与する REST API で、200 または 202 とは別に HTTP エラーコードが戻されました。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの `bp.conf` ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。`nbaapidiscv` ログと `bpbkar` ログを確認します。
- `CURL_VERBOSE = true` を `/usr/openv/var/global/azurestack.conf` に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

アクセス権の付与について詳しくは、
https://docs.microsoft.com/ja-jp/rest/api/compute/disks/grantaccess を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6779

メッセージ: 部分的に成功 - ディスクスナップショットのエクスポートのキャンセルに失敗しました。(Partial success - the disk snapshot cancel export failed.)

説明: 管理対象ディスクのスナップショットのエクスポートをキャンセルできませんでした。管理対象ディスクへのアクセスを無効化する REST API で、200 または 202 とは別に HTTP エラーコードが戻されました。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの `bp.conf` ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。`nbaapidiscv` ログと `bpbkar` ログを確認します。

- CURL_VERBOSE = true を /usr/openv/var/global/azurestack.conf に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

ディスクへのアクセスの無効化について詳しくは、https://docs.microsoft.com/ja-jp/rest/api/compute/disks/revokeaccess を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6780

メッセージ: 部分的に成功 - 管理対象ディスクのスナップショットの削除に失敗しました。(Partial success - failed to delete the managed disk snapshot.)

説明: 管理対象ディスクのスナップショットの削除に失敗しました。管理対象ディスクのスナップショットを削除する REST API が、200、202、または 204 とは別のエラーで失敗しました。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの bp.conf ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。nbaapidiscv ログと bpbkar ログを確認します。
- CURL_VERBOSE = true を /usr/openv/var/global/azurestack.conf に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

スナップショットの削除について詳しくは、https://docs.microsoft.com/ja-jp/rest/api/compute/snapshots/delete を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6781

メッセージ: 部分的に成功 - ディスクスナップショットがエクスポートされたときに無効なアクセス URI が戻されました。(Partial success - invalid access URI returned when disk snapshot was exported.)

説明: 管理対象ディスクのスナップショットのエクスポート操作の一部として、無効なアクセス URI が戻されました。このエラーは、空のアクセス URI で管理対象ディスクのスナップショットにアクセスしようとした場合に発生します。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの bp.conf ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。nbaapidiscv ログと bpbkar ログを確認します。
- CURL_VERBOSE = true を /usr/openv/var/global/azurestack.conf に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6782

メッセージ: 部分的に成功 - ディスク操作用にオブジェクトを開けませんでした。(Partial success - the open object for disk operation failed.)

説明: エクスポートされた管理対象ディスクのスナップショットのストリームとしてページ BLOB を読み取れませんでした。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの bp.conf ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。nbaapidiscv ログと bpbkar ログを確認します。
- CURL_VERBOSE = true を /usr/openv/var/global/azurestack.conf に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6783

メッセージ: 部分的に成功 - ディスクスナップショットの BLOB の取得に失敗しました。(Partial success - Failed to obtain the disk snapshot blob.)

説明: スナップショット用に作成された、Azure Stack のページ BLOB 参照を取得できません。

推奨処置: このコードは、部分的に成功したバックアップジョブが原因で表示されます。

必要に応じて次を実行します。

- バックアップホストとメディアサーバーの bp.conf ファイルで詳細ログレベルを 5 に上げて、操作を再試行します。nbaapidiscv ログと bpbkar ログを確認します。
- CURL_VERBOSE = true を /usr/openv/var/global/azurestack.conf に追加して、操作を再試行します。失敗した REST API の要求と応答の本文を確認します。

Get Blob 操作について詳しくは、https://docs.microsoft.com/ja-jp/rest/api/storageservices/get-blob を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6784

メッセージ: 非同期操作で不明な失敗が戻されました。(The asynchronous operation returned an unknown failure.)

説明: 一部の Azure Stack REST 操作は、すぐに操作を完了できないため、非同期で実行されます。

リソースを作成、更新、または削除 (`PUT`、`PATCH`、`DELETE`) する操作では、通常 `provisioningState` 値が戻されます。操作が完了すると、`succeeded`、`failed`、`canceled`、`inprogress` のいずれかの値が戻されます。

推奨処置: 非同期操作が失敗した場合、または HTTP レスポンスの一部としてキャンセルエラーが戻された場合、バックアップ操作は再試行されます。

2 つの異なる方法で、非同期操作の状態を監視できます。元の要求から戻されたヘッダー値を調べることで、問題を修正するための正しい方法を判断できます。主に、次を確認します。

- `Azure-AsyncOperation` - 操作の進行状態を確認するための URL。操作によってこの値が戻された場合、これを使用して操作の状態を追跡します。
- `Retry-After` - 非同期操作の状態を確認するまでに待機する秒数。

非同期操作について詳しくは、https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-resource-manager/management/async-operations を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6785

メッセージ: 非同期操作が進行中です。(The asynchronous operation is in progress.)

説明: 一部の Azure Stack REST 操作は、すぐに操作を完了できないため、非同期で実行されます。

リソースを作成、更新、または削除 (`PUT`、`PATCH`、`DELETE`) する操作では、通常 `provisioningState` 値が戻されます。操作が完了すると、`succeeded`、`failed`、`canceled`、`inprogress` のいずれかの値が戻されます。

推奨処置: 非同期操作が失敗した場合、または HTTP レスポンスの一部としてキャンセルエラーが戻された場合、バックアップ操作は再試行されます。

2 つの異なる方法で、非同期操作の状態を監視できます。元の要求から戻されたヘッダー値を調べることで、問題を修正するための正しい方法を判断できます。主に、次を確認します。

- `Azure-AsyncOperation` - 操作の進行状態を確認するための URL。操作によってこの値が戻された場合、これを使用して操作の状態を追跡します。
- `Retry-After` - 非同期操作の状態を確認するまでに待機する秒数。

非同期操作について詳しくは、
https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-resource-manager/management/async-operations
を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6786

メッセージ: 非同期操作に失敗しました。(The asynchronous operation failed.)

説明: 一部の Azure Stack REST 操作は、すぐに操作を完了できないため、非同期で実行されます。

リソースを作成、更新、または削除 (`PUT`、`PATCH`、`DELETE`) する操作では、通常 `provisioningState` 値が戻されます。操作が完了すると、`succeeded`、`failed`、`canceled`、`inprogress` のいずれかの値が戻されます。

推奨処置: 非同期操作が失敗した場合、または HTTP レスポンスの一部としてキャンセルエラーが戻された場合、バックアップ操作は再試行されます。

2 つの異なる方法で、非同期操作の状態を監視できます。元の要求から戻されたヘッダー値を調べることで、問題を修正するための正しい方法を判断できます。主に、次を確認します。

- `Azure-AsyncOperation` - 操作の進行状態を確認するための URL。操作によってこの値が戻された場合、これを使用して操作の状態を追跡します。
- `Retry-After` - 非同期操作の状態を確認するまでに待機する秒数。

非同期操作について詳しくは、
https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-resource-manager/management/async-operations
を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6787

メッセージ: 非同期操作がキャンセルされました。(The asynchronous operation was canceled.)

説明: 一部の Azure Stack REST 操作は、すぐに操作を完了できないため、非同期で実行されます。

リソースを作成、更新、または削除 (PUT、PATCH、DELETE) する操作では、通常 provisioningState 値が戻されます。操作が完了すると、succeeded、failed、canceled、inprogress のいずれかの値が戻されます。

推奨処置: 非同期操作が失敗した場合、または HTTP レスポンスの一部としてキャンセルエラーが戻された場合、バックアップ操作は再試行されます。

2 つの異なる方法で、非同期操作の状態を監視できます。元の要求から戻されたヘッダー値を調べることで、問題を修正するための正しい方法を判断できます。主に、次を確認します。

- Azure-AsyncOperation - 操作の進行状態を確認するための URL。操作によってこの値が戻された場合、これを使用して操作の状態を追跡します。
- Retry-After - 非同期操作の状態を確認するまでに待機する秒数。

非同期操作について詳しくは、https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-resource-manager/management/async-operations を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6788

メッセージ: 非同期操作で不明なエラーが戻されました。(The asynchronous operation returned an unknown error.)

説明: 一部の Azure Stack REST 操作は、すぐに操作を完了できないため、非同期で実行されます。

リソースを作成、更新、または削除 (PUT、PATCH、DELETE) する操作では、通常 provisioningState 値が戻されます。操作が完了すると、succeeded、failed、canceled、inprogress のいずれかの値が戻されます。

推奨処置: 非同期操作が失敗した場合、または HTTP レスポンスの一部としてキャンセルエラーが戻された場合、バックアップ操作は再試行されます。

2 つの異なる方法で、非同期操作の状態を監視できます。元の要求から戻されたヘッダー値を調べることで、問題を修正するための正しい方法を判断できます。主に、次を確認します。

- Azure-AsyncOperation - 操作の進行状態を確認するための URL。操作によってこの値が戻された場合、これを使用して操作の状態を追跡します。
- Retry-After - 非同期操作の状態を確認するまでに待機する秒数。

非同期操作について詳しくは、
https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-resource-manager/management/async-operations
を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6789

メッセージ: 指定したリソースに対して構成が無効です。(The configuration is invalid for the specified resource.)

説明: リストア操作に指定した構成が、Azure Stack での VM の作成に必要な、有効な形式ではありません。

推奨処置: tar ログファイルを参照して、正確なエラーメッセージとリストア場所を確認してください。

必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- ［元の位置にすべてをリストア (Restore everything to it's original location)］オプションを使用して、元の場所へのリストアを実行します。
  - エラーメッセージで指定された、VM のバックアップ操作中の構成が、Azure Stack で利用可能であることを確認します。
- ［すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))］オプションを使用して、代替の場所へのリストアを実行します。
  - 管理対象ディスクの名前変更エントリに、有効なストレージアカウントの種類の値を指定します。この手順は、管理対象ディスクの VM リストアでのみ必要です。
  - リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されているディスクリソースグループ名を指定します。管理対象ディスクの名前変更エントリにこの情報を追加します。この手順は、管理対象ディスクの VM リストアでのみ必要です。
  - サブスクリプション ID の名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack で構成されているサブスクリプション ID の正確な値を指定します。
  - `RgName` 名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されているリソースグループ名を指定します。
  - `Nsg` 名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されているネットワークセキュリティグループを指定します。ネットワークセキュリティグループのリソースグループが VM リソースグループと異なる場合は、`Nsg` 名前変更エントリに、
    `Nsg=<ResourceGroup_Name>/<NetworkSecurityGroup_Name>` のように指定する必要があります。

- Vnet 名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されている仮想ネットワークを指定します。Vnet のリソースグループが VM リソースグループと異なる場合は、Vnet 名前変更エントリに、Vnet=<ResourceGroup_Name>/<virtual_network_Name> のように指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6791

メッセージ: ディスクの作成に失敗しました。(Failed to create disk.)

説明: 管理対象ディスク VM のリストア操作中に、管理対象外の VHD BLOB を管理対象ディスクに変換できません。失敗の原因としては、操作クォータの超過が考えられます。

推奨処置: [すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))]オプションを使用してリストアを実行する場合は、tar ログファイルで HTTP レスポンスまたはログメッセージを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6792

メッセージ: ストレージアカウントを見つけることができません。(Unable to find a storage account.)

説明: ストレージアカウントが名前変更ファイルまたは構成ファイルで指定されていません。これは管理対象および管理対象外ディスクの VM リストアに必要です。

推奨処置: tar ログファイルを参照して、リストア場所に関する正確なエラーメッセージを確認してください。

必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- [元の位置にすべてをリストア (Restore everything to it's original location)]オプションを使用して、元の場所へのリストアを実行します。
  - VM のバックアップ中に指定したストレージアカウントが、対応する管理対象外および管理対象 VM のリストア中に利用可能であることを確認します。
  - 管理対象のディスク VM をリストアする場合、元のリストア場所に存在するステージングストレージアカウントを、azurestack.conf ファイル内の azurestack に指定する必要があります。

- ［すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))］オプションを使用して、代替の場所へのリストアを実行します。
  - 管理対象ディスクの VM リストアの場合は、Azure Stack に一時的な VHD を作成するサブスクリプション ID に、設定したステージングストレージアカウントを指定します。名前変更ファイルまたは `azurestack.conf` ファイルを使用します。
  - 管理対象外ディスクの VM リストアの場合は、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に、設定したストレージアカウントを指定します。VHD BLOB 名前変更エントリには名前変更ファイルを使用します。
  - 管理対象および管理対象外 VM のリストアに指定されているストレージアカウントで、HTTP オプションが有効になっていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6793

メッセージ: VM のリカバリに失敗しました。(Failed to recover the VM.)

説明: リストア操作中に、VM のリカバリが Azure Stack で失敗しました。

この問題の考えられる原因は次のとおりです。

- VM のサイズが有効な形式ではない
- 操作クォータを超えた
- VM 名が Azure Stack にすでに存在する
- 管理対象ディスクの VM リストアのみ:
  - 管理対象外の VHD BLOB を管理対象ディスクに変換中に、ディスクの作成に失敗した
  - 操作クォータが超過した

推奨処置: tar ログファイルを参照して、正確なエラーメッセージを確認してください。正確なエラーの原因については、tar ログファイルの HTTP レスポンスメッセージを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6794

メッセージ: リソースの作成に失敗しました。(Failed to create the resource.)

説明: リストア操作中に、Azure Stack での VM の作成に指定されているリソースの作成に失敗しました。

推奨処置: tar ログファイルを参照して、リストア場所に関する正確なエラーメッセージを確認してください。

必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- ［元の位置にすべてをリストア (Restore everything to it's original location)］オプションを使用して、元の場所へのリストアを実行します。
  - リストア操作時に、VM のバックアップ中に指定されたすべての構成済みリソースが利用可能であることを確認します。
  - Azure Stack で操作クォータが十分であることを確認します。パブリック IP アドレスのオプションがリストア時に選択される場合、パブリック IP アドレスを作成するのに十分なクォータが必要です。
- ［すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))］オプションを使用して、代替の場所へのリストアを実行します。
  - `Vnet` 名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されている仮想ネットワークを指定します。
  - `Nsg` 名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されているネットワークセキュリティグループを指定します。
  - サブネットの名前変更エントリに、リストア先の Azure Stack のサブスクリプション ID に構成されているサブネットを指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6795

メッセージ: 無効なバックアップ対象がポリシーで指定されています。(An invalid backup selection is specified in the policy.)

説明: バックアップ対象が、ポリシーで指定した資産またはインテリジェントグループと一致しません。

推奨処置: サポート対象の資産を含むインテリジェントグループを使用してポリシーを作成するか、サポート対象の資産を手動でポリシーに追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6797

メッセージ: リソースが見つかりません。(Unable to find the resource.)

説明: リストア操作に指定した、Azure Stack に VM を作成するために必要なリソースが見つかりません。

推奨処置: [すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))]オプションを使用して、代替の場所へのリストアを実行します。

リストアの実行後、tar ログファイルを参照して、正確なエラーメッセージを確認してください。リストア操作用のターゲットサブスクリプション ID の場所に、仮想ネットワーク、ネットワークセキュリティグループ、またはサブネットが Azure Stack で設定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6798

メッセージ: MongoDB ホストでシンクライアント向けに利用可能なポートが見つかりません。(Unable to find an available port on MongoDB host for the thin client.)

説明: NetBackup は、バックアップまたはリストア操作中に、シンクライアントプロセスをバインドするために利用可能なポートを MongoDB ホストで見つけられませんでした。この問題は、MongoDB ホストで他の NetBackup MongoDB のバックアップ操作またはリストア操作が実行されている場合に発生する可能性があります。これらの操作は同時に実行され、NetBackup マスターサーバー上の `mongodb.conf` ファイルで指定されたポート範囲をすべて使用しています。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- `mongodb.conf` ファイルまたは `tpconfig` グローバル設定で指定されているポート範囲が MongoDB ホストで利用可能であることを確認します。ポート範囲は、`mdbserver_port` と `mdbserver_port_range` を使用して設定されます。
- 次の場合は、`mdbserver_port_range` の値を高く調整して、ポート番号の範囲を増やします。
  - このホストで NetBackup のバックアップ操作またはリストア操作が並列で実行されている
  - このホストで複数の MongoDB インスタンスが実行されている

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6800

メッセージ: 指定したキーサイズの新しい NetBackup CA を移行用に設定できません。

説明: NetBackup セキュリティサービスは新しい CA を作成できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6801

メッセージ: 移行用に新しく設定した NetBackup CA をアクティブ化できません。

説明: NetBackup セキュリティサービスは新しい CA をアクティブ化できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6802

メッセージ: NetBackup CA の移行を完了できません。

説明: NetBackup セキュリティサービスは CA の移行を完了できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6803

メッセージ: 指定した指紋の NetBackup CA を廃止できません。

説明: NetBackup は、CA を廃止して NetBackup データベースで保持できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サ

イトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6804

メッセージ: キーサイズが無効です。(The key size is not valid.) 非 FIPS モードでは、NetBackup は 2048、3072、4096、8192 ビットのキーサイズをサポートしています。FIPS モードでは、NetBackup は 2048、3072 ビットのキーサイズをサポートしています。

説明: NetBackup は、指定されたキーサイズをサポートしていません。

推奨処置: NetBackup がサポートする次のキーサイズのいずれかを使用します。

- 非 FIPS モードでは、2048、3072、4096、8192 ビットのキーサイズをサポートしています。
- FIPS モードでは、2048、3072 ビットのキーサイズをサポートしています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6805

メッセージ: NetBackup CA の移行が開始されていません。(The migration of NetBackup CA is not initiated.)

説明: この操作は、CA の移行が進行中のときにのみ実行されます。

推奨処置: NetBackup CA の移行が進行中で、適切なフェーズにあるときにこの操作を実行します。CA 移行フェーズについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6806

メッセージ: 指定した指紋の NetBackup CA は存在しません。

説明: NetBackup CA を廃止するために指定された CA の指紋は、NetBackup ドメインで認識されません。

推奨処置: `RESTful API GET /security/certificate-authorities` を使用するか、`nbseccmd -nbcalist` コマンドを使用して、NetBackup がサポートするすべての認証局のリストを取得し、それらの指紋を表示します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6807

メッセージ: 指定した指紋の NetBackup CA を廃止できません。NetBackup CA を廃止するには、状態が ABANDONED になるようにします。

説明: NetBackup CA は、状態が ABANDONED の場合に廃止できます。

推奨処置: RESTful GET /security/certificate-authorities を使用するか、nbseccmd -nbcalist コマンドを使用して、NetBackup がサポートする認証局のリストを取得し、ABANDONED の状態の認証局を表示します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6808

メッセージ: 信頼バージョンが存在しません。(The trust version does not exist.)

説明: 証明書の信頼バージョンが NetBackup データベースに存在しません。

推奨処置: データベースから信頼バージョンを表示するには、/security/trust-versions API にアクセスします。証明書の信頼バージョンが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6809

メッセージ: 指定した証明書の NetBackup CA は存在しません。

説明: CA 移行の状態の取得中に、必要な CA が NetBackup データベースに存在しません。

推奨処置: nbseccmd -nbcaMigrate -syncMigrationDB -reason <reason> コマンドを実行して、NetBackup データベースサービスと NetBackup セキュリティサービスを同期します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6810

メッセージ: NetBackup CA の移行の概略を取得できません。(The NetBackup CA migration summary cannot be retrieved.)

説明: NetBackup CA の移行プロセスの詳細を取得できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6811

メッセージ: NetBackup CA の移行が開始されましたが、CA の移行状態が不正です。(The NetBackup CA migration is initiated; however, the CA migration status is incorrect.) 想定される CA 移行状態: `INITIATED`。

説明: 新しい NetBackup CA の設定が開始されても、誤った CA 移行の状態が表示されます。想定される CA 移行状態: `INITIATED`。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6812

メッセージ: 必要な CA 証明書がトラストストアにないホストの一覧を取得できませんでした。(Failed to retrieve the list of hosts that do not have the required CA certificates in their trust stores.)

説明: 証明書がトラストストアにないホストは取得できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6813

メッセージ: NetBackup CA の移行の有効化フェーズが開始されます。(The activation phase of the NetBackup CA migration is to be started. The CA migration status should be INITIATED.) CA の移行状態は、INITIATED になります。

説明: NetBackup CA の移行のアクティブ化は、現在の移行の状態が INITIATED のときに実行されます。

推奨処置: NetBackup CA がアクティブになる前に、NetBackup CA の移行の状態が INITIATED になるようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6814

メッセージ: NetBackup CA の移行のアクティブ化フェーズが完了しましたが、CA の移行状態が不正です。(The activation phase of the NetBackup CA migration is complete, however the CA migration status is incorrect.) 想定される CA 移行状態: ACTIVATED。

説明: 新しく設定された NetBackup CA はアクティブ化されましたが、誤った CA 移行の状態が表示されます。想定される CA 移行状態: ACTIVATED。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6815

メッセージ: NetBackup CA の移行の完了フェーズが開始されて、CA 移行の状態は ACTIVATED になります。(The completion phase of the NetBackup CA migration is started so the CA migration status should be ACTIVATED.)

説明: 現在の移行の状態が ACTIVATED でないため、NetBackup CA の移行は完了できません。

推奨処置: NetBackup CA の移行が完了する前に、現在の NetBackup CA の移行の状態が ACTIVATED になるようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6816

メッセージ: NetBackup CA の移行が完了されましたが、CA の移行状態が不正です。(The NetBackup CA migration is complete, however the CA migration status is incorrect.) 想定される CA 移行状態: NO_MIGRATION。

説明: NetBackup CA の移行が完了されましたが、不正な CA の移行状態が表示されます。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6817

メッセージ: 必要な CA 証明書がトラストストアにないホストが 1 つ以上あります。(One or more hosts do not have the required CA certificates in their trust stores.) これらのホストとの通信は切断される可能性があります。この検証をスキップするには、-force オプションを使用してコマンドを再実行してください。

説明: 一部のホストの最新の証明書がトラストストアに存在しないため、NetBackup CA の移行をアクティブ化できません。NetBackup CA を使用してドメイン内のすべてのホスト間で信頼関係が確立されると、NetBackup CA の移行がアクティブ化されます。信頼関係は、NetBackup 8.2.1 以降のホストに対して自動的に確立されます。8.2.1 より前のバージョンのホストがある場合は、手動アクティブ化の手順を完了する必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup CA 移行をアクティブ化する前に、NetBackup CA がドメイン内のすべてのホストのトラストストアに存在することを確認します。信頼は、NetBackup 8.2.1 以降のホストに対して自動的に確立され、RESTful API GET /security/certificate-authorities/hosts-pending-trust-propagation または nbseccmd -nbcamigrate -hostspendingtrustpropagation コマンドを使用して検証できます。NetBackup 8.2 以前のホストの信頼の伝播を手動で確認します。ホストのトラストストアに存在する必要がある CA のリストは、RESTful API GET /security/cacert を使用して一覧表示できます。
- この検証をスキップするには、-force オプションを使用してコマンドを再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6818

メッセージ: 新しく設定した NetBackup CA のアクティブ化は成功しますが、NetBackup は CA の移行の概略を取得できません。(Activating the newly set up NetBackup CA is successful, but NetBackup cannot retrieve the CA migration summary.)

説明: 新しく設定した NetBackup CA のアクティブ化は成功しますが、NetBackup は CA の移行の概略を取得できません。

推奨処置: しばらくしてから `nbseccmd -nbcaMigrate -summary` コマンドを実行して、CA 移行の概要を表示します。想定される NetBackup CA 移行状態は `ACTIVATED` です。別の状態が表示された場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6819

メッセージ: CA 移行データベースは、現在の NetBackup CA 証明書の詳細では更新できません。(The CA migration database cannot be updated with the current NetBackup CA certificate details.)

説明: NetBackup セキュリティサービスの NetBackup CA の詳細を NetBackup データベースと同期できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6820

メッセージ: 証明書の更新が必要なホストのリストの取得に失敗しました。

説明: 新しい NetBackup CA による証明書への署名が必要なホストは取得できません。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが起動していることを確認し、しばらくしてから操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6821

メッセージ: 1 つ以上のホストで、新しい CA での証明書の更新が保留されています。これらのホストとの通信は切断される可能性があります。この検証をスキップするには、-force オプションを使用してコマンドを再実行してください。

説明: NetBackup CA の移行を完了できません。有効な NetBackup CA は、少数のホストに対して、ホスト名ベースまたはホスト ID ベースの署名された証明書を持っていません。ドメイン内のすべての NetBackup ホストに、有効な NetBackup CA によって署名された証明書がある場合、NetBackup CA 移行は完了しているはずです。NetBackup 8.2.1 以降のホストの場合、新しく設定された NetBackup CA がアクティブ化された後、証明書が自動的に更新されます。それより前のホストの場合は、手動の手順を実行する必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- ドメイン内のすべての NetBackup ホストで、有効な NetBackup CA によって署名された証明書があり、`RESTful API GET /config/hosts-pending-renewal` または `nbseccmd -nbcamigrate -hostspendingrenewal` コマンドを使用して検証できることを確認します。NetBackup 8.2 以前のホストの証明書を手動で確認します。
- この検証をスキップするには、`-force` オプションを使用してコマンドを再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6822

メッセージ: 現在移行がアクティブ化されているため、新しい NetBackup CA の移行を開始できません。(New NetBackup CA migration cannot be initiated because the migration is currently activated.)

説明: 現在、NetBackup CA の移行がアクティブ化されているため、新しい NetBackup CA の設定を開始できません。

推奨処置: 現在の NetBackup CA の移行を完了し、新しい移行を開始します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6823

メッセージ: 移行の完了後は NetBackup CA の移行の概略を取得できません。(The NetBackup CA migration summary cannot be retrieved after the completion of migration.)

説明: 新しい NetBackup CA の設定は正常に完了しましたが、NetBackup は CA の移行の概略を取得できません。

推奨処置: しばらくしてから nbseccmd -nbcaMigrate -summary コマンドを実行して、CA 移行の概要を表示します。想定される NetBackup CA 移行状態は NO_MIGRATION です。別の状態が表示された場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6824

メッセージ: 移行の開始後は NetBackup CA の移行の概略を取得できません。(The NetBackup CA migration summary cannot be retrieved after initiating the migration.)

説明: NetBackup CA の移行は開始されましたが、NetBackup は CA の移行の概略を取得できません。

推奨処置: しばらくしてから nbseccmd -nbcaMigrate -summary コマンドを実行して、CA 移行の概要を表示します。想定される NetBackup CA 移行状態は INITIATED です。別の状態が表示された場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6831

メッセージ: 指定されたクレデンシャル名またはクレデンシャル ID にマップされているクレデンシャル ID はありません。(None of the credential IDs map with the given credential name or ID.)

説明: 指定されたクレデンシャル名または ID が無効です。

推奨処置: 指定されたクレデンシャル名でクレデンシャルを構成するか、すでに構成されているクレデンシャル ID または名前を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6832

メッセージ: 指定されたクレデンシャル名またはクレデンシャル ID に複数のクレデンシャル ID がマップされています。(Multiple credential IDs map with the given credential name or ID.)

説明: 指定されたクレデンシャル名に複数のクレデンシャル ID がマップされています。

推奨処置: 一意のクレデンシャル名を使用してクレデンシャルを構成し、その後の操作にこのクレデンシャルを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6833

メッセージ: 1 つ以上のクレデンシャル構成チェックが失敗しました。(One or more credential configuration checks failed.)

説明: 1 つ以上のチェックが必要な条件を満たしていないため、クレデンシャルの構成または更新の試行が失敗しました。警告は致命的ではないものと見なされ、構成は先に進みます。

推奨処置: クレデンシャルの構成に対して次の事前チェックが正常に実行されたこと、または更新操作が成功することを確認します。

これらのチェックはクレデンシャルの構成操作が試行されている間に実行されます。

- 証明書パスが有効
- トラストストアのパスが有効
- 秘密鍵のパスが有効
- 証明書チェーン内の証明書が読み取り可能
- トラストストア内の証明書が読み取り可能
- 秘密鍵が読み取り可能
- **一般名**フィールドが空ではない
- 証明書の期限が切れていない
- 証明書が現在有効
- 秘密鍵が証明書と一致している
- CRL ディレクトリが CRL ファイルで構成されている。このチェックはオプションです。これは、`ECA_CRL_PATH` が CRL ディレクトリのパスを使用して構成されている場合に実行されます。
- CRL 検査レベルが有効。このチェックはオプションです。これは、`ECA_CRL_PATH` が CRL ディレクトリのパスを使用して構成されており、CRL チェックレベルが `Disable` 以外の場合に実行されます。
- CRL パスが有効。このチェックはオプションです。これは、`ECA_CRL_PATH` が CRL ディレクトリのパスを使用して構成されており、CRL チェックレベルが `Disable` 以外の場合に実行されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 6882

メッセージ: NetBackup 認証局の証明書の削除は許可されていません。(Deletion of a NetBackup Certificate Authority certificate is not allowed.)

説明: 指定した証明書は、純粋な NBCA (NetBackup 認証局) モードで動作するホストに属します。NBCA 証明書の削除は、次に示すインスタンスでのみ許可されます。

- ホストが ECA 証明書を使用して登録されている場合は、メディアサーバーまたはクライアントの NBCA 証明書を削除できます。
- NetBackupドメインが ECA モードで構成されている場合は、プライマリサーバーの NBCA 証明書を削除できます。

推奨処置: NBCA 証明書の削除を試行する前に、ECA 証明書がホストに登録されていることを確認します。プライマリサーバーの NBCA 証明書の削除を試行する前に、ドメインが純粋な ECA モードであることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7100

メッセージ: 入力データにマニフェストファイルがありません。(The manifest file is not in the input data.) マニフェストファイルが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the manifest file is available.)

説明: このエラーメッセージは、提供された入力パスがマニフェストファイルにない場合に表示されます。

推奨処置: 入力データにマニフェストファイルが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7101

メッセージ: 複数のマニフェストファイルが入力データ内に存在します。(Multiple manifest files exist in input data.) 入力データには、マニフェストファイルが 1 つだけになるようにしてください。(Ensure that only one manifest file exists in the input data.)

説明: このエラーメッセージは、提供された入力パスに、複数のマニフェストファイルに含まれている場合に表示されます。

推奨処置: 入力データ内の複数のマニフェストファイルを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7102

メッセージ: マニフェストファイルの形式が不正です。(The manifest file format is incorrect.) 形式を変更して再試行してください。(Change the format and try again.)

説明: このエラーメッセージは、提供された入力パス内のマニフェストファイルの形式が正しくない場合に表示されます。

推奨処置: マニフェストファイルの形式を確認し、Sheltered Harbor 仕様に従って修正する必要があればしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7103

メッセージ: アカウントデータファイルが見つかりません。(Account data files are missing.) ファイルが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the files are available.)

説明: このエラーメッセージは、マニフェストに記載されているアカウントデータファイルが、提供された入力パスで利用できない場合に表示されます。

推奨処置: アカウントデータファイルが入力データに存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7104

メッセージ: ハッシュファイルが見つかりません。(Hash files are missing.) ファイルが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the files are available.)

説明: このエラーメッセージは、提供された入力パスに、ハッシュファイルが存在しない場合に表示されます。

推奨処置: ハッシュファイルが入力データに存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7105

メッセージ: 入力データの整合性検証が失敗しました。(Input data integrity validation has failed.) データが正しいことを確認してください。(Ensure that the data is correct.)

説明: このエラーメッセージは、入力ファイルの検証が失敗した場合に表示されます。

推奨処置: 入力データ内の入力ファイルが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7106

メッセージ: ファイル名形式が命名規則に従っていません。(The filename format is not as per naming convention.)ファイル名の形式を修正して、再試行します。(Provide the name in the correct format.)

説明: このエラーメッセージは、ファイル名の形式が、Sheltered Harbor が指定する命名規則に従わない場合に表示されます。

推奨処置: 提供された入力ファイルが、Sheltered Harbor 仕様に従って正しいことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7107

メッセージ: 無効な zip ファイルです。(Invalid zip file.) 操作をもう一度試してください。(Try the operation again.)

説明: このエラーメッセージは、zip ファイルが無効な場合に表示されます。

推奨処置: 指定された入力データの形式が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7108

メッセージ: データのリストアに指定したディレクトリパスに、ファイルまたはフォルダが含まれています。(The directory path that is specified for data restoration contains files or folders.) ディレクトリパスから既存のコンテンツを削除して再試行してください。(Remove the existing contents from the directory path and try again.)

説明: このエラーメッセージは、データのリストア操作に指定したディレクトリパスに、ファイルまたはフォルダが含まれている場合に表示されます。

推奨処置: データのリストア時に、リストアされたデータのストレージパスとして指定されたディレクトリにあるファイルやフォルダを削除または移動します。リストア操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7109

メッセージ: 入力データパスが存在しません。(Input data path does not exist.) 正しいパスを指定して再試行してください。(Provide the correct path and try again.)

説明: このエラーメッセージは、入力パスが提供されたファイルパスに含まれていない場合に表示されます。

推奨処置: 指定した入力パスがバックアップ時に存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7110

メッセージ: 指定したディレクトリパスは無効です。(The specified directory path is not valid.)

説明: このエラーメッセージは、リストアまたはバックアップ操作に無効なパス名が指定された場合に表示されます。

推奨処置: 有効なパス名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7112

メッセージ: `nbcryptocmd` ユーティリティの呼び出しがタイムアウトしました。(A call to the nbcryptocmd utility has timed out.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、`nbcryptocmd` ユーティリティがタイムアウトしたときに表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、`nbcryptocmd` ユーティリティのタイムアウトは 30 分です。タイムアウトを増やすには、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7113

メッセージ: ライセンス検証に失敗しました。(The license validation failed.)

説明: このエラーメッセージは、指定されたライセンスファイルパラメータの検証が、ソリューションに埋め込まれたライセンスパラメータで失敗した場合に表示されます。

推奨処置: 指定されたライセンスパラメータが、Sheltered Harbor 仕様に従って正しいことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7114

メッセージ: ライセンスが期限切れです。(The license has expired.)

説明: このエラーメッセージは、指定された Sheltered Harbor のライセンスが期限切れになると表示されます。

推奨処置: Sheltered Harbor から新しいライセンスを取得し、Sheltered Harbor が提供する新しいライセンスパラメータでライセンスファイルを更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7115

メッセージ: 指定したファイルの拡張子はサポートされていません。(The extension of the specified file is not supported.) ファイルの拡張子は `.json` である必要があります。(The file should have .json extension.)

説明: このエラーメッセージは、ファイル拡張子が `.json` でない場合に表示されます。

推奨処置: `.json` 拡張子を持つ有効な JSON ファイルを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7116

メッセージ: 転送ストレージパスの作成に失敗しました。(Failed to create the transfer storage path.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、指定された転送ストレージパスが存在せず、NetBackup Sheltered Harbor ソリューションが新しい転送ストレージパスを作成できない場合に表示されます。

推奨処置: 指定した転送ストレージパスが存在することを確認します。または、権限が正しいことを確認し、転送ストレージパスを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7117

メッセージ: ファイルが存在しません。(File does not exist.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、指定したファイルが指定した場所に存在しない場合に表示されます。

推奨処置: 指定した場所に指定したファイルが存在することを確認します。ファイルについて詳しくは、nbshvault ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7118

メッセージ: JSON の形式が無効です。(The JSON format is invalid.) 正しい形式で入力して再試行してください。(Enter the correct format and try again.)

説明: このエラーメッセージは、JSON ファイルの形式が正しくない場合に表示されます。

推奨処置: JSON ファイルの形式が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7119

メッセージ: 暗号化のマテリアルファイルの形式が不正です。(The cryptographic material file format is incorrect.) サポートが必要な場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。(Contact your NetBackup administrator for assistance.)

説明: このエラーメッセージは、暗号化のマテリアルファイルが、Sheltered Harbor が提供する形式と比較して正しくない場合に表示されます。

推奨処置: 暗号化のマテリアルファイルが、Sheltered Harbor の仕様に従って正しい形式であることを確認してください。詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7120

メッセージ: セキュアエンベロープファイルの形式が不正です。(The secure envelope file format is incorrect.) サポートが必要な場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。(Contact your NetBackup administrator for assistance.)

説明: このエラーメッセージは、セキュアエンベロープファイルが、Sheltered Harbor が提供する形式と比較して正しくない場合に表示されます。

推奨処置: セキュアエンベロープファイルが、Sheltered Harbor の仕様に従って正しい形式であることを確認してください。詳しくは、NetBackup 管理者までお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7121

メッセージ: データベーステーブルが見つかりません。(Database tables are missing.) すべてのテーブルが利用可能であることを確認してください。(Ensure that all the tables are available.)

説明: このエラーメッセージは、データベーステーブルが存在しない場合に表示されます。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7122

メッセージ: データベースエラーが発生しました。(Database Error occurred.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、データベース内のレコードの読み込みまたは更新が失敗した場合に表示されます。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7123

メッセージ: Sheltered Harbor コンプライアンスソリューションが構成されていません。(The Sheltered Harbor compliance solution is not configured.)`--configure` オプションを使用してソリューションを構成してください。(Configure the solution using the --configure option.)

説明: このエラーメッセージは、コンプライアンスソリューションが `--configure` コマンドオプションを使用して構成されていない場合に表示されます。

推奨処置: `--configure` オプションを使用してコンプライアンスソリューションを構成する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7125

メッセージ: プラットフォームがサポートされていません。(The platform is not supported.)

説明: このエラーメッセージは、NetBackup サーバーがサポートしないプラットフォームで NetBackup Sheltered Harbor ソリューションを実行した場合に表示されます。

推奨処置: NetBackup サーバープラットフォームで `nbshvault` ユーティリティを実行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7126

メッセージ: 分離リカバリ環境 (IRE) にあるイメージのデータ Vault 処理はまだ進行中です。(Data vaulting of the image in isolated recovery environment (IRE) is still in progress.) 後で再試行してください。(Retry at a later time.)

説明: このエラーメッセージは、分離リカバリ環境にあるイメージのデータ Vault 処理がまだ進行中の場合に表示されます。

推奨処置: 現在の操作が `--attest` オプションを使用して終了した後、データの Vault 処理を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7127

メッセージ: ファイルパスの NetBackup バージョンが無効です。(The NetBackup version in the file path is not valid.)NetBackup が正常にインストールされたことを確認してください。(Ensure that the NetBackup installation was successful.)

説明: このエラーは、Linux のバージョンエラーに関連する問題がある場合に発生します。

推奨処置: NetBackup が正しくインストールされていることを確認します。詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7128

メッセージ: バックアップイメージ ID が不明です。(The backup image ID is missing.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、bpbackup コマンドの実行後に bpclimagelist 出力にバックアップイメージ ID が含まれない場合に表示されます。

推奨処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7129

メッセージ: 機関 ID がマニフェストファイルデータと一致しません。(The institution ID does not match the manifest file data.) 正しい機関 ID を使用して再試行してください。(Use the correct institution ID and try again.)

説明: このエラーメッセージは、機関 ID がマニフェストファイルデータと一致しない場合に表示されます。

推奨処置: 正しい機関 ID を使用して再試行する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7130

メッセージ: NetBackup の以前のバージョンが使用されています。(You are using an earlier version of NetBackup.) 最新バージョンにアップグレードしてください。(Upgrade to the latest version.)

説明: このエラーメッセージは、NetBackup バージョンが正しいバージョンでない場合に表示されます。

推奨処置: 10.1 以降の NetBackup バージョンを実行する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7131

メッセージ: 登録レスポンス json が適切な形式ではありません。(Registration response json is not in proper format.) 正しい形式で入力して再試行してください。(Enter the correct format and try again.)

説明: このエラーメッセージは、登録 JSON レスポンスが無効な場合に表示されます。この問題は、Sheltered Harbor API が有効な JSON 形式でレスポンスを返さない場合に発生する可能性があります。

推奨処置: Sheltered Harbor のバックアップワークフローを再試行します。問題が解決しない場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7132

メッセージ: セキュアエンベロープが見つかりませんでした。(Secure envelope was not found.) セキュアエンベロープが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the secure envelope is available.)

説明: このエラーメッセージは、セキュアエンベロープが転送ストレージ内で見つからない場合に表示されます。

推奨処置: 転送ストレージにセキュアエンベロープが見つからない場合は、入力データを再確認し、バックアップ操作を再度実行できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7133

メッセージ: セキュアエンベロープにパラメータが見つかりません。(Parameter is missing in secure envelope.) パラメータが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the parameter is available.)

説明: このエラーメッセージは、セキュアエンベロープ内にパラメータがない場合に表示されます。

推奨処置: 転送ストレージパス内に JSON ファイルパラメータがない場合、ファイルパラメータを再確認し、バックアップ操作を再度実行できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7134

メッセージ: 構成証明のレスポンス json が適切な形式ではありません。(Attestation response json not in proper format.) 正しい形式で入力して再試行してください。(Enter the correct format and try again.)

説明: このエラーメッセージは、構成証明のレスポンスが無効な場合に表示されます。

推奨処置: ソリューションが登録され、Ethereum 秘密鍵が適切な形式で作成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7135

メッセージ: JSON 入力データが、対応する JSON スキーマと一致しません。(The JSON input data does not match the respective JSON schema.) 正しい形式で入力してください。(Enter the correct format.)

説明: このエラーメッセージは、JSON スキーマがそれぞれの JSON スキーマファイルと一致しない場合に表示されます。詳しくは、nbshvault ログファイルを確認してください。

推奨処置: 指定した JSON ファイル形式が、JSON スキーマに従って正しいことを確認します。JSON ファイル形式が正しくない場合は、形式を修正する必要があります。詳しくは、nbshvault ログファイルを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7136

メッセージ: 金融機関の登録メッセージのポストに失敗しました。(Registration message posting of financial institution failed.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、Sheltered Harbor 登録 API への呼び出しが失敗した場合に表示されます。

推奨処置: nbshvault が実行されている NetBackup クライアントから Sheltered Harbor 登録 API に到達可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7137

メッセージ: 構成証明メッセージのポストに失敗しました。(Attestation message posting failed.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、Sheltered Harbor 構成証明 API への呼び出しが失敗した場合に表示されます。

推奨処置: nbshvault が実行されている NetBackup クライアントから Sheltered Harbor 構成証明 API に到達可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7138

メッセージ: 保留中の構成証明は見つかりません。(No pending attestation found.)

説明: このメッセージは、保留中の構成証明が見つからない場合に表示されます。

推奨処置: 操作を再試行し、問題が解決しない場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7139

メッセージ: 鍵ファイルの読み取りに失敗しました。(Failed to read key file.) 鍵ファイルが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the key file is available.)

説明: このエラーメッセージは、NetBackup Sheltered Harbor ソリューションが、Ethereum 秘密鍵ファイルの読み取りに失敗した場合に表示されます。

推奨処置: Ethereum 秘密鍵が作成される `var/nbshvault/cert` ファイルに対する読み取りアクセス権限があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7140

メッセージ: 鍵ファイルが存在しません。(Key file does not exist.) 鍵ファイルが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the key file is available.)

説明: このエラーメッセージは、鍵ファイルが存在しない場合に表示されます。

推奨処置: `<Institution_ID_keys >` JSON ファイルなどの Ether 秘密鍵が `var/nbshvault/cert/` ディレクトリで利用可能であることを確認します。機関が登録されていない場合、`--register` オプションを使用して登録します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7141

メッセージ: 秘密鍵が存在しません。(Private key does not exist.) 秘密鍵が利用可能であることを確認してください。(Ensure that the private key is available.)

説明: このエラーメッセージは、秘密鍵ファイルが存在しない場合に表示されます。

推奨処置: `ether_pri_key` が、`var/nbshvault/cert/<institution ID_keys>.json` ファイルに存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7142

メッセージ: リカバリストレージパスが存在しません。(Recovery storage path does not exist.) 正しいリカバリストレージパスを指定してください。(Provide the correct recovery storage path.)

説明: このエラーメッセージは、リカバリストレージが存在しない場合に表示されます。

推奨処置: 指定したリカバリストレージパスが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7143

メッセージ: リストア済みデータストレージパスの作成に失敗しました。(Failed to create restored data storage path.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、リストア済みデータストレージパスを作成できない場合に表示されます。

推奨処置: リストア済みデータストレージパスが存在することを確認し、作成権限アクセスを持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7144

メッセージ: アーカイブボリュームが存在しません。(Archive volume is not present.) アーカイブボリュームが利用可能であることを確認してください。(Ensure that the archive volume is available.)

説明: このエラーメッセージは、アーカイブボリュームが存在しない場合に表示されます。

推奨処置: アーカイブボリュームが存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7146

メッセージ: 圧縮済みボリュームの抽出に失敗しました。(Failed to extract compressed volume.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、圧縮済みボリュームの抽出に失敗すると表示されます。

推奨処置: 暗号化された圧縮済みボリュームが正しくリストアされていることを確認します。データを再度リストアし、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7147

メッセージ: 終了コードが無効です。(The exit code is not valid.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、終了コードが無効な場合に表示されます。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7148

メッセージ: リストア済みデータストレージパスにアクセスできません。(Unable to access restored data storage path.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、リストア済みデータストレージパスが制限されている場合に表示されます。

推奨処置: リストア済みデータストレージパスへの読み取りおよび書き込みアクセス権があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7149

メッセージ: -path オプションが --generate-template に存在しません。(The -path option is not present in the --generate-template.) -path オプションを使用して正しいパスを指定してください。(Provide the correct path using the -path option.)

説明: このエラーメッセージは、-path オプションが --generate-template に存在しない場合に表示されます。

推奨処置: テンプレートの生成には必ず --generate-template -path <path> オプションを使用してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7151

メッセージ: NetBackup 構成ファイルを読み取れません。(The NetBackup configuration file cannot be read.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、NetBackup 構成ファイルを読み込めない場合に表示されます。

推奨処置: var/nbshvault/config フォルダへの読み取りおよび書き込みアクセス権があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7152

メッセージ: テンプレートの生成に失敗しました。(Failed to generate the template.) 詳しくはログファイルを確認してください。(Check the log file for more information.)

説明: このエラーメッセージは、テンプレートの生成に失敗した場合に表示されます。

推奨処置: --path オプションで指定したパスへの読み取りおよび書き込みアクセス権があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7153

メッセージ: 不明なエラーです。(Unknown error.)

説明: このエラーメッセージは、ソリューションから未処理のエラーが返される場合に表示されます。

推奨処置: 詳細なエラーメッセージを表示するには、nbshvault のログを確認する必要があります。詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7154

メッセージ: NetBackup 構成ファイルからのインストールディレクトリの読み取りに失敗しました。(Failed to read the installation directory from the NetBackup configuration file.) 詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。(For more details, contact your NetBackup Administrator.)

説明: このエラーメッセージは、ソリューションが Windows レジストリから NetBackup インストールパスの取得に失敗した場合に表示されます。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7155

メッセージ: Sheltered Harbor コンプライアンスの構成中に有効な KMS がありません。(No KMS is enabled during the Sheltered Harbor compliance configuration.)

説明: このエラーメッセージは、Sheltered Harbor コンプライアンスの構成中に KMS 設定が有効になっていない場合に表示されます。

推奨処置: KMS 構成が有効になっていない場合は、--configure オプションを使用して、Sheltered Harbor コンプライアンスの構成を更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7156

メッセージ: アーカイブの生成がタイムアウトしました。(Archive generation has timed out.)

説明: このエラーメッセージは、アーカイブ生成がタイムアウトした場合に表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、アーカイブ生成のタイムアウトは 30 分です。タイムアウト値を増やすには、configure.json ファイルの archive_generation のタイムアウトオプションを変更し、このファイルを使用してソリューションを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7157

メッセージ: アーカイブリポジトリのバックアップがタイムアウトしました。(Archive repository backup has timed out.)

説明: このエラーメッセージは、アーカイブリポジトリのバックアップがタイムアウトした場合に表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、アーカイブリポジトリのタイムアウトは 30 分です。タイムアウト値を増やすには、`configure.json` ファイルの `archive_repository` のタイムアウトオプションを変更し、このファイルを使用してソリューションを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7158

メッセージ: Vault 処理の構成証明がタイムアウトしました。(Vaulting attestation has timed out.)

説明: このエラーメッセージは、Vault 処理の構成証明がタイムアウトした場合に表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、Vault 処理の構成証明のタイムアウトは 30 分です。タイムアウト値を増やすには、`configure.json` ファイルの `vaulting_attestation` のタイムアウトを変更し、このファイルを使用してソリューションを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7159

メッセージ: 日単位のバックアップワークフロープロセスがタイムアウトしました。(Daily backup workflow process has timed out.)

説明: このエラーメッセージは、日単位のバックアップワークフロープロセスがタイムアウトした場合に表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、日単位のバックアップワークフロープロセスのタイムアウトは 120 分です。タイムアウト値を増やすには、`configure.json` ファイルの `daily_backup_process` のタイムアウトを変更し、このファイルを使用してソリューションを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7160

メッセージ: リストアワークフロープロセスがタイムアウトしました。(Restore workflow process has timed out.)

説明: このエラーメッセージは、リストアワークフロープロセスがタイムアウトした場合に表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、リストアワークフロープロセスのタイムアウトは 120 分です。タイムアウト値を増やすには、`configure.json` ファイルの `restore_process` のタイムアウトを変更し、このファイルを使用してソリューションを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7161

メッセージ: エアギャップイメージレプリケーションがタイムアウトしました。(Air gap image replication has timed out.)

説明: このエラーメッセージは、エアギャップイメージレプリケーションがタイムアウトした場合に表示されます。

推奨処置: デフォルトでは、リストアワークフロープロセスのタイムアウトは 30 分です。タイムアウト値を増やすには、`configure.json` ファイルの `air_gap_timeout` のタイムアウトを変更し、このファイルを使用してソリューションを構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7162

メッセージ: 構成証明の秘密鍵サイズが正しくありません。(The attestation private key size is not correct.)

説明: このエラーメッセージは、構成証明の秘密鍵の不正なサイズが指定されると表示されます。

推奨処置: 構成証明の秘密鍵のサイズは 256 ビットである必要があります。機関 ID がすでに Sheltered Harbor に登録されている場合は、`--import-key` オプションを使用して登録時に使用した秘密鍵をインポートして再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7163

メッセージ: 機関 ID が不正です。(The institution ID is incorrect.)

説明: このエラーメッセージは、入力した機関 ID が正しくない場合に表示されます。

推奨処置: Sheltered Harbor によって提供される 10 桁の機関 ID を使用する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7164

メッセージ: 登録キーが不正です。(The registration key is incorrect.) 正しい登録キーが指定されていることを確認してください。(Ensure that the correct registration key is provided.)

説明: このエラーメッセージは、入力された登録キーが無効な場合に表示されます。

推奨処置: Sheltered Harbor によって提供される有効な登録キーを使用する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7165

メッセージ: 内部エラーが発生しました。(An internal error occurred.)`nbcryptocmd` ログを確認してください。(Check the nbcryptocmd logs.)

説明: クラウド KMS 操作 (暗号化、復号、署名、検証など) が不明なエラーで失敗すると、`nbshvault` はこの状態コードを返します。

推奨処置: `nbcryptocmd` ログを確認して、問題を診断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7166

メッセージ: クラウド KMS への接続中に認証が失敗しました。(Authentication failed while connecting to the cloud KMS.)

説明: `nbcryptocmd` とクラウド KMS 間の安全な通信が失敗すると、`nbshvault` はこのエラーを返します。

推奨処置: `nbshvault` のクラウド KMS 構成パラメータを確認し、それらが正しいかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7167

メッセージ: クラウド KMS の操作が失敗しました。(The cloud KMS operation failed.)nbcryptocmd ログを確認してください。(Check the nbcryptocmd logs.)

説明: KMS 操作 (暗号化、復号、署名、検証など) が不正な要求などの既知の問題で失敗すると、nbshvault はこの状態コードを返します。

推奨処置: nbcryptocmd ログを確認して、問題を診断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7168

メッセージ: 同じ操作の別インスタンスが進行中です。(Another instance of the same operation is in progress.) 後で再試行してください。(Retry at a later time.)

説明: このエラーメッセージは、同じ機関 ID を使用して同じプロセスを複数回実行すると表示されます。

推奨処置: 最初の実行中のプロセスが完了するまで待機してから、操作を再試行する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7200

メッセージ: リモートホストでの nbinstallagent の実行に失敗しました。

説明: リモートホスト上で nbinstallagent コマンドを実行できませんでした。

推奨処置: 次の場所にあるメディアサーバーの管理ログを確認します。

- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥logs¥admin¥root*.log
- UNIX および Linux の場合:
  /usr/openv/netbackup/logs/admin/root*.log

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7201

メッセージ: ファイル名が指定されていません。

説明: file_name パラメータが空です。

推奨処置: 次の場所にある Job Manager のログを確認し、file_name オプションが空でないことを確認します。

- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥logs¥nbjm
- UNIX および Linux の場合:
  /usr/openv/logs/nbjm

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7202

メッセージ: リモートホストから NetBackup のバージョンを取得できません。

説明: リモートホストの NetBackup バージョンを取得できませんでした。

推奨処置: bpcd サービスがリモートホストで実行中であり、メディアサーバーに接続できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7203

メッセージ: リモートホストからプラットフォームの情報を取得できません。

説明: リモートホストのオペレーティングシステム情報を取得できませんでした。

推奨処置: bpcd サービスがリモートホストで実行中であり、メディアサーバーに接続できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7204

メッセージ: リモートホスト名が指定されていません。

説明: ホスト名パラメータが空です。

推奨処置: 次の場所にある Job Manager のログを確認し、hostname オプションが空でないことを確認します。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥nbjm

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/logs/nbjm

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7205

メッセージ: リモートホストから NetBackup のインストールディレクトリを取得できません。(Unable to retrieve NetBackup install directory from the remote host.)

説明: リモートホストの NetBackup のインストールディレクトリを取得できませんでした。

推奨処置: bpcd サービスがリモートホストで実行中であり、メディアサーバーに接続できることを確認します。NetBackup が正しくインストールされていることを確認します。最近のバックアップが正常に実行されたことを確認します。テストバックアップを実行します。アップグレード中の NetBackup のバージョンがサポートされていることを確認します。詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7206

メッセージ: リモートホストへのファイルの転送に失敗しました。

説明: メディアサーバーのプロセスがリモートホストにファイルをコピーできません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- bpcd サービスがリモートホストで実行中であり、メディアサーバーに接続できることを確認します。
- NetBackup が正しくインストールされていることを確認します。
- 最近のバックアップが正常に実行されたことを確認します。
- テストバックアップを実行します。
- アップグレード中の NetBackup のバージョンがサポートされていることを確認します。
- 転送ファイルが存在し、適切な権限を持っていることを確認します。
  - サーバーの admin ログとターゲットホストの nbinstallagent ログを確認して、転送されるファイルを識別します。
  - ファイルが想定される場所に存在し、ソースと転送先の場所に適切な権限が付与されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7207

メッセージ: クライアントからデータを受信できません。

説明: リモートホストから nbinstallagent コマンドの出力を取得できませんでした。

この問題は、NetBackup の事前チェックまたはアップグレードプロセスが予想より長くかかるか、完了しない場合に発生する可能性があります。デフォルトでは、事前チェック操作とクライアントのアップグレード操作の完了には 30 分、メディアサーバーのアップグレード操作の完了には 45 分が付与されています。

推奨処置: 次の場所にあるメディアサーバーの admin ログと、クライアントの nbinstallagent ログを確認します。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥admin¥root*.log

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/admin/root*.log

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs¥nbinstallagent

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/nbinstallagent

ターゲットホストとステージングホスト間の接続を検証します。ステージングホストは、配備操作で指定されたマスターサーバーまたはメディアサーバーである場合があります。

TIMEOUT_SECONDS オプションを定義すると、7207 をジョブの状態として報告する前に VxUpdate がプロセスが完了するまで待機する時間を構成できます。次の値はマスターサーバー の NetBackup 構成で定義できます。

VXUPDATE_CLIENT_READ_TIMEOUT_SECONDS	この値は、事前チェック操作とクライアントのアップグレード操作に許容される時間 (秒) を制御します。デフォルト値は 1800 (30 分) です。最短 600 (10 分)、または最長 3600 (60 分) まで設定できます。
VXUPDATE_SERVER_READ_TIMEOUT_SECONDS	この値は、サーバーのアップグレード操作に許容される時間 (秒) を制御します。デフォルト値は 2700 (45 分) です。最短 600 (10 分)、または最長 5400 (90 分) まで設定できます。

bpsetconfig コマンドを使用してマスターサーバーの NetBackup 構成に値を追加する方法について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7208

メッセージ: 必要なファイルを開けません。

説明: サポートファイルはあるが、開くことができません。

推奨処置: nbmtrans メディアサーバープロセスを実行しているユーザーに、NetBackup ディレクトリ内のファイルを読み取る権限があることを確認します。ユーザーには、次のディレクトリに対する読み取り権限が必要です。

- NetBackup tmp
  Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥Temp
  UNIX および Linux の場合: /usr/openv/tmp
- NetBackup bin
  Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥bin
  UNIX および Linux: /usr/openv/netbackup/bin
- NetBackup repo
  Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥repo
  UNIX および Linux の場合: /usr/openv/var/global/repo

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7209

メッセージ: 配備パッケージがキャッシュメディアサーバーに見つからない、または無効です。

説明: パッケージがメディアサーバーキャッシュに存在しないか、パッケージは存在するものの無効です。つまり、NetBackup が確認を行えません。

推奨処置: マスターサーバー上のパッケージリポジトリにパッケージが存在することを確認します。エラー処理プロセスの一環として、VxUpdate は無効または破損したパッケージを削除し、有効なパッケージに置換しようとします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7210

メッセージ: 指定されたファイルに書き込めません。

説明: 指定されたファイルに書き込めませんでした。

推奨処置: ディレクトリに正しい権限があることを確認します。NetBackup は、ターゲットファイルに対する書き込み権と実行権を必要とします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7211

メッセージ: NetBackup のバージョンを示す文字列を変換できませんでした。

説明: リモートホストから NetBackup バージョンをフォーマットできませんでした。

推奨処置: リモートホストから返されたバージョン文字列が正しくフォーマットされていません。リモートホストに接続し、NetBackup が正しくインストールされていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7212

メッセージ: `nbinstallagent` コマンドが空の引数で実行されました。

説明: `nbinstallagent` コマンドのパラメータが空です。

推奨処置: 次の場所にある Job Manager のログを確認し、`execute_nbinstallagent` に正しい引数があることを確認します。

Windows の場合: *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nbjm`

UNIX の場合: `/usr/openv/logs/nbjm`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7213

メッセージ: リモートホストのプラットフォームを特定できません。

説明: ターゲットホストの NetBackup `bpcd` プロセスから、サポートされていないプラットフォーム文字列が戻されました。

推奨処置: リモートホストに、サポート対象バージョンの NetBackup があることを確認します。

NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーから *`<install_path>`*`/netbackup/bin/admincmd/bptestbpcd -client <target host name> -verbose` を実行します。このコマンドが返す `PLATFORM` キーを確認します。`PLATFORM` キー値が次のリストに含まれていない場合、このターゲットホストはアップグレードできません。

- win_x64
- linuxR_x86_2.6.18
- linuxR_x86_2.6.32

- linuxR_x86_3.10.0
- linuxR_x86_4.18.0
- linuxS_x86_2.6.16
- linuxS_x86_3.0.76
- linuxS_x86_4.4.73
- plinuxR_3.10.0
- plinuxR_4.18.0
- plinuxS_4.4.21
- plinuxS_5.3.18
- zlinuxR_2.6.18
- zlinuxR_2.6.32
- zlinuxR_3.10.0
- zlinuxR_4.18.0
- zlinuxS_3.0.76
- zlinuxS_4.4.73
- zlinuxS_5.3.18
- rs6000_71
- solaris10
- solaris_x86_10_64

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7214

メッセージ**:** 指定されたファイルのコピーに失敗しました。

説明**:** 指定されたファイルをコピーできません。

推奨処置**:** ディレクトリに正しい権限があることを確認します。NetBackup には次の権限が必要です。

- ソースファイルに対する読み取り権
- ソースディレクトリに対する読み取り権と実行権
- ターゲットディレクトリに対する実行権と書き込み権

ファイルのコピー先に十分な空きディスク容量があることを確認します。

詳しくは、次の場所にあるマスターサーバーの nbrepo ログとステージングサーバーの admin ログを参照してください。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs。

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7215

メッセージ: VxUpdate パッケージの stat に失敗しました

説明: 入力パッケージファイルが有効な sja ファイルではありません。

推奨処置: パッケージが Cohesity ソースから派生しており、改ざんも破損もしていないことを確認します。詳しくは、マスターサーバーの nbrepo ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7216

メッセージ: パッケージ名が VxUpdate パッケージ名の標準に準拠していません。

説明: sja パッケージの名前が、想定した形式になっていません。

推奨処置: パッケージ名が変更されていないことを確認します。詳しくは nbrepo ログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7217

メッセージ: パッケージリポジトリの場所が存在しません。

説明: リポジトリが所定の場所にありません。

推奨処置: リポジトリディレクトリが次の場所にあることを確認します。

Windows の場合: *install_path*¥var¥global¥repo

UNIX の場合: /usr/openv/var/global/repo

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7218

メッセージ: パッケージはすでにパッケージリポジトリに存在しています。

説明: 指定したパッケージは、リポジトリに存在します。

推奨処置: 追加するパッケージがまだ追加されていないことを確認します。このパッケージを置換するには、まず `nbrepo -d` コマンドを使用してそのパッケージを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7219

メッセージ: パッケージ ID が無効です。

説明: リポジトリ内のどのパッケージにも対応しないパッケージ識別子をユーザーが指定しました。

推奨処置: パッケージ ID は正の整数でなければなりません。`nbrepo -l` コマンドを使用して、パッケージ ID が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7220

メッセージ: 配備パッケージがパッケージリポジトリに見つかりませんでした。

説明: このパッケージはリポジトリに存在しません。

推奨処置: `nbrepo -l` コマンドを使用して、現在リポジトリにあるパッケージを一覧表示します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7221

メッセージ: パッケージの削除操作が中止されました。

説明: ユーザーが削除処理を確認しませんでした。

推奨処置: パッケージを削除するには、ユーザーが削除を確認する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7222

メッセージ: パッケージが見つかりませんでした。

説明: インストールまたは実行中の NetBackup パッケージ、またはそれに含まれるサポートファイルが、想定される場所に存在しません。

推奨処置: パッケージがリポジトリに存在することを確認します。インストール中のパッケージが元の形式から変更されていないことを確認します。

VMware または Nutanix AHV エージェントレスリストアの実行時に次の問題が発生することがあります。

- 必要な VxUpdate パッケージがマスターサーバーで見つかりません。(Required VxUpdate package was not found on the master server.)
  仮想マシンのエージェントレスリカバリを実行するすべてのプラットフォーム用の VxUpdate パッケージを用意します。このエラーメッセージに関する追加の情報については、bpVMutil ログを確認してください。

配備中または MongoDB ジョブ中にエラーが発生した場合は、次を確認してください。

- 配備ジョブの場合、nbrepo、admin、nbinstallagent のログでこのエラーメッセージに関する追加情報を確認します。
- MongoDB ジョブの場合、mongoDB ログでこのエラーメッセージに関する追加情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7223

メッセージ: 要求された操作はサポートされていません。

説明: サポートされていない製品またはプラットフォームに対する操作が試行されました。

推奨処置: VxUpdate についてサポートされている操作とプラットフォームについて詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7224

メッセージ: 必要なファイルまたはディレクトリを作成できませんでした。

説明: 要求の処理に必要な一時ファイルまたはフォルダを作成できません。

推奨処置: 特定のファイルとパスが、ターゲットホストの nbinstallagent ログファイルまたはステージングホストの admin ログで報告されます。nbinstallagent バイナリは、一

時ファイルとフォルダを、NetBackup tmp ディレクトリと NetBackup bin ディレクトリの両方に作成できる必要があります。

nbmtrans バイナリは、NetBackup repo ディレクトリにファイルを作成できる必要があります。

次の場所を参照してください。

- Windows の場合:

  install_path¥NetBackup¥Temp

  install_path¥NetBackup¥bin

  install_path¥NetBackup¥var¥global¥repo

- UNIX の場合:

  /usr/openv/tmp

  /usr/openv/netbackup/bin

  /usr/openv/var/global/repo

nbinstallagent および nbmtrans コマンドを実行するユーザーに、これらのディレクトリでファイルやフォルダを作成する権限があることを確認します。これらのディレクトリに十分なディスク容量があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7225

メッセージ: 指定されたファイルまたはディレクトリが見つかりませんでした。

説明: 追加、インストール、または実行される NetBackup パッケージ、それに含まれるサポートファイル、または NetBackup ファイルが、想定される場所に存在しません。

推奨処置: 指定した場所にファイルが存在することを確認します。インストール中のパッケージが元の形式から変更されていないことを確認します。NetBackup のインストールフォルダが破損していないことを確認します。

問題があるファイルと想定される場所について詳しくは、nbinstallagent、nbrepo、および admin ログファイルを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7226

メッセージ: サポートコマンドが失敗しました。

説明: nbinstallagent バイナリが、正常に実行できないコマンドを呼び出しました。

推奨処置: nbinstallagent バイナリは、各種操作をサポートする一環として、次を含む多数のコマンドを実行します。

- nbcheck.exe (NetBackup プリインストール環境チェッカー)
- NetBackup EEB インストーラ
- goodies フォルダにある、NetBackup の versioninfo コマンド
- UNIX のネイティブパッケージコマンド: rpm、installp、pkgadd、swinstall
- setup.exe: NetBackup Windows セットアップユーティリティ
- gunzip: UNIX tar 圧縮ユーティリティ

nbinstallagent ロジックは、実行に失敗した具体的なコマンドを報告します。このエラーは、コマンド自体を正しく実行できないことを示します。これは、コマンドは正常に実行できるがエラーが返される場合とは異なります。原因として、権限の問題、およびファイルやフォルダが予期せずリモートホストからなくなったことが考えられます。ターゲットホストの nbinstallagent ログファイルを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7227

メッセージ: nbinstallagent ログファイルを開けません。

説明: nbinstallagent バイナリが書き込み用のログファイルを開けません。

推奨処置: nbinstallagent バイナリを実行するユーザーに、NetBackup のログフォルダへの書き込み権があることを確認します。システムに十分なディスク容量があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7228

メッセージ: ターゲットパッケージのインストールに失敗しました。

説明: nbinstallagent バイナリがパッケージをインストールしようとしましたが、パッケージのインストーラからエラーが報告されました。

推奨処置: ターゲットパッケージのインストールログを確認します。

UNIX 用の NetBackup パッケージをインストールする場合、インストールログは /usr/openv/tmp にあります。

Windows 用の NetBackup パッケージをインストールする場合、インストールログは %ALLUSERSPROFILE%¥Cohesity¥NetBackup¥InstallLogs にあります。

EEB のインストール、および EEB のインストール時に得られるログについての追加情報は、関連する記事を参照してください。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100019405

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7229

メッセージ: 自己更新プロセスの一部として宛先パスに nbinstallagent をコピーできませんでした。

説明: 自己更新プロセスの一環として、nbinstallagentが自身を NetBackup の bin ディレクトリから NetBackup の temp ディレクトリ (またはその逆) にコピーできませんでした。

推奨処置: nbinstallagent を実行するユーザーに、NetBackup ディレクトリへの書き込み権があることを確認します。システムに十分なディスク容量があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7230

メッセージ: 新しいパスから nbinstallagent を実行できませんでした。

説明: 自己更新プロセスの一環として、nbinstallagent が NetBackup の bin ディレクトリまたは temp ディレクトリの新しい場所から自身を実行できませんでした。

推奨処置: nbinstallagent バイナリを実行するユーザーに、NetBackup ディレクトリ内のファイルを実行する権限があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7231

メッセージ: 必要なレジストリキーを開けませんでした。

説明: NetBackup のレジストリキーを開いて読み取ることができません。

推奨処置: バイナリを実行するユーザーに管理者権限があることを確認してください。HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥NetBackup にある NetBackup のレジストリ情報が破損または欠落していないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7232

メッセージ: レジストリ値を問い合わせできませんでした。

説明: NetBackup のレジストリ値を読み取ることができません。

推奨処置: nbinstallagent および nbhostdbcmd バイナリを実行するユーザーに、管理者権限があることを確認します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥NetBackup にある NetBackup のレジストリ情報が破損または欠落していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7233

メッセージ: パスを NetBackup ディレクトリに解決できませんでした。

説明: NetBackup の標準ディレクトリへのパスを解決できません。

推奨処置: nbinstallagent バイナリを実行するユーザーに、NetBackup のアプリケーションフォルダに対する読み取り権があることを確認します。NetBackup のアプリケーションフォルダが破損または欠落していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7234

メッセージ: nbinstallagent バイナリの構成ファイルを削除できませんでした。

説明: nbinstallagent 構成ファイルの古いインスタンスを削除できません。

推奨処置: nbinstallagent バイナリを実行するユーザーに、NetBackup のアプリケーションフォルダに対する書き込み権があることを確認します。nbinstallagent の構成情報は、NetBackup の tmp ディレクトリにあり、名前は nbinstallagent_conffile です。

tmp ディレクトリの場所:

- Windows の場合:

  install_path¥NetBackup¥Temp

- UNIX の場合:

  /usr/openv/tmp

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7235

メッセージ**:** パッケージを開けないか、パッケージの抽出に失敗しました。

説明**:** 次の理由を確認します。

- 事前チェック、ステージ、またはインストール操作の場合:

  インストールまたは実行中の NetBackup パッケージ、またはそれに含まれるサポートファイルを開いたり抽出したりすることはできません。

- EEB のアンインストール操作の場合:
  インストールエージェントの `nbinstallagent` がホスト上の EEB アンインストールディレクトリをパッチインベントリ (pack.summary/`History.log`) および NetBackup パックディレクトリにある EEB レイアウトから解決できませんでした。
  この問題は、次の理由で発生する場合があります。
  - パッケージ名の EEB バージョンが無効です。
  - パッチフォルダ、`pack.summary` ファイル (UNIX の場合)、または `History.log` ファイル (Windows の場合) が存在しません。
  - 解決済みの EEB パスが存在しません。

推奨処置**:** 次の手順を実行します。

- 事前チェック、ステージ、またはインストール操作の場合:
  操作できない具体的なファイルは、`nbinstallagent` または `nbrepo log` ファイルで報告されます。パッケージが正しい場所に存在することを確認します。インストール中のパッケージが元の形式から変更されていないことを確認します。`nbinstallagent` バイナリを実行するユーザーに、NetBackup のアプリケーションフォルダに対する読み取り権と書き込み権があることを確認します。システムに十分なディスク容量があることを確認します。

- EEB のアンインストール操作の場合:
  この問題は、状態コード 7312 により発生します。次の行がないか `nbinstallagent` ログを確認します。
  行 `"Error returned from get_package_and_resolve_properties(). Status code[7312]."` の前の `"Error returned from resolve_eeb_uninstall_path_from_pack_summary: error code [N]"`
  ここで、*N* は状態コード 7312 と 7235 にマッピングされる前の実際のエラーです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7236

メッセージ: パッケージの署名が無効です。

説明: ターゲットパッケージの署名が無効です。

推奨処置: パッケージが正式な Cohesity ソースから派生しており、改ざんも操作も行われていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7237

メッセージ: 公開鍵が想定される場所に見つかりませんでした。

説明: VxUpdate パッケージの署名を検証するために必要な公開鍵が想定される場所にありません。

推奨処置: 公開鍵のデフォルトの場所は次のとおりです。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥VxUpdate¥pubkey.pem

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/var/global/vxupdate/pubkey.pem

このファイルは、NetBackup Client と NetBackup サーバー 8.1.2 以降のパッケージに含まれています。nbinstallagent、nbrepo、bpvmutil バイナリを実行するユーザーに、NetBackup のアプリケーションフォルダに対する読み取り権があることを確認します。NetBackup のアプリケーションフォルダが破損または欠落していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7238

メッセージ: Windows ソケットの初期化に失敗しました。

説明: nbinstallagent バイナリが Windows ソケットライブラリを初期化しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: このエラーは、ソケットまたはリモートホストのネットワークの問題であることを示しています。詳しくは、次の場所にある WSAStartup() の MSDN ドキュメントを参照してください。

https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/api/winsock/nf-winsock-wsastartup

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7239

メッセージ: Windows ソケットの初期化の待機中にタイムアウトを超過しました。

説明: Windows でソケットの初期化がタイムアウトになりました。

推奨処置: nbinstallagent バイナリは、ソケットの初期化が完了するまで最大 2 分間待機します。このエラーは、ソケットまたはリモートホストのネットワークの問題です。詳しくは、次の場所にある WSAStartup() の MSDN ドキュメントを参照してください。

https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/api/winsock/nf-winsock-wsastartup

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7240

メッセージ: Winsock のバージョンがサポートされていません。

説明: リモートホスト上の Windows ソケットライブラリのバージョンはサポートされていません。

推奨処置: このエラーは、ソケットまたはリモートホストのネットワークの問題です。サポート対象外のバージョンの Windows で VxUpdate を使用しようとすると発生する可能性があります。詳しくは、WSAStartup() に関する MSDN ドキュメントを参照してください。特に、次の場所にある WSAVERNOTSUPPORTED 戻りコードを参照してください。

https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/api/winsock/nf-winsock-wsastartup

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7241

メッセージ: ソケットを初期化できませんでした。

説明: nbinstallagent バイナリが出力ソケットの初期化に失敗しました。

推奨処置: このエラーは、標準出力ソケットの設定へのアクセスまたは変更を行うためのオペレーティングシステムの機能が失敗した場合に発生します。nbinstallagent ログファイルは、失敗した特定のオペレーティングシステム呼び出しと、OS 固有のエラーコードを報告します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7242

メッセージ: パッケージのリポジトリへの追加が失敗しました。(Failed to add package to the repository.)

説明: VxUpdate パッケージをリポジトリに追加しようとしましたが、予期せず失敗しました。

推奨処置: nbwebservice ログで関連するメッセージと詳細を確認します。パッケージ (.sja ファイル) が破損しておらず、正当なソースから取得されていることを確認します。適切な権限を持つユーザーが VxUpdate 操作を実行したことを確認します。NetBackup アプリケーションフォルダが存在するドライブまたはボリュームに十分なディスク容量があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7243

メッセージ: システムから一時ファイルを削除できません。

説明: VxUpdate の一時ファイルを NetBackup の tmp フォルダから削除しようとして失敗しました。

推奨処置: nbinstallagent バイナリは、実行の最初と最後で temp ファイルをクリーンアップしようとします。nbinstallagent を実行するユーザーに、NetBackup のアプリケーションフォルダに対する読み取り権と書き込み権があることを確認します。他のシステムプロセスが、NetBackup ファイルへのハンドルを保持していないことを確認します。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥Temp

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/tmp

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7245

メッセージ: サポートされていない自己更新操作が試行されました。

説明: 自己更新をサポートしない nbinstallagent バイナリのインスタンスの更新が要求されました。nbinstallagent バイナリの自己更新プロセスは、コマンドラインから手動で実行しないでください。

推奨処置: NetBackup のアプリケーションフォルダがクリーンな状態であることを確認します。nbinstallagent が、前の操作で一時ファイルをクリーンアップできない場合、残りの一時ファイルを削除できないことが原因でこのエラーが発生している可能性があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7246

メッセージ: サポートされていないレジストリの問い合わせが試行されました。

説明: nbinstallagent バイナリが、サポートされていないレジストリ値の型を問い合わせようとしました。

推奨処置: このエラーは、NetBackup レジストリ値が元の型から別の型に変更された場合に発生します。たとえば、ユーザーが HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥NetBackup¥CurrentVersion¥INSTALLDIR を REG_SZ 型 (文字列) から REG_DWORD (整数) に変更した場合です。NetBackup のレジストリが変更または破損していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7247

メッセージ: コマンド出力をキャプチャするためのパイプを開けませんでした。

説明: 呼び出されたコマンドからの出力をキャプチャするためのパイプを開けません。

推奨処置: nbinstallagent または nbhostdbcmd バイナリを実行するユーザーに管理者権限があることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7248

メッセージ: バージョン情報を取得する NetBackup コマンドが存在しません。

説明: NetBackup versioninfo コマンドが想定される場所にありません。

推奨処置: versioninfo コマンドのデフォルトの場所は次のとおりです。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥bin¥goodies¥versioninfo.exe

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/bin/goodies/support/versioninfo

NetBackup のアプリケーションフォルダが変更または破損していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7249

メッセージ: 読み込みのためのプロセスを開けませんでした。

説明: nbinstallagent バイナリは、NetBackup プロセスの停止または再起動試行の一環としてプロセスを開くことができません。

推奨処置: nbinstallagent は、NetBackup プロセスが実行中であることを検出しましたが、それを開いてさらに処理できません。nbinstallagent バイナリを実行するユーザーに、管理者権限があることを確認します。既存の NetBackup プロセスが、想定されるユーザーアカウントで実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7250

メッセージ: プロセスの状態を判断できません。

説明: nbinstallagent または nbhostdbcmd バイナリはコマンドの実行を完了できません。

推奨処置: nbinstallagent または nbhostdbcmd バイナリを実行するユーザーに管理者権限があることを確認してください。既存の NetBackup プロセスが、想定されるユーザーアカウントで実行されていることを確認します。nbinstallagent および nbhostdbcmd ログファイルを確認して、実行されたコマンドとその出力を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7251

メッセージ: プロセスを停止できません。

説明: nbinstallagent バイナリが、NetBackup プロセスの停止または再起動の試行を完了できません。

推奨処置: 特定の NetBackup プロセスを終了できません。nbinstallagent ログファイルは、特定のプロセスを報告します。nbinstallagent バイナリを実行するユーザーに、管理者権限があることを確認します。既存の NetBackup プロセスが、想定されるユーザーアカウントで実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7252

メッセージ: パッケージを抽出しようとしましたが失敗しました。

説明: ファイルを抽出しようとしましたが失敗しました。この問題は通常は VxUpdate sja パッケージですが、特定のパッケージに含まれる圧縮された .tar ファイルまたは .gz ファイルの場合もあります。

推奨処置: 問題は nbinstallagent と nbrepo の両方で発生する可能性があります。関連するログファイルで問題のあるファイルの名前と他の情報を確認します。ユーザーに、マスターサーバーおよびターゲットホストの NetBackup アプリケーションフォルダに対する書き込み権があることを確認します。マスターサーバーおよびターゲットに十分なディスク容量があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7253

メッセージ: パッケージは空です。

説明: ターゲット VxUpdate sja ファイルに内容がありません。

推奨処置: パッケージが Cohesity ソースから派生しており、改ざんも破損もしていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7254

メッセージ: 処理中のデータは不正にフォーマットされています。

説明: VxUpdate 事前チェッカーパッケージには、VxUpdate クライアントの sja ファイルのサイズを報告する package_sizes という名前の補足ファイルが含まれています。

推奨処置: 事前チェッカーは、ディスク容量の確認の一環としてこのサイズを使用します。この特定の状態コードは、package_sizes ファイルの内容が予期しない形式であることを示します。事前チェッカーパッケージが Cohesity ソースから派生しており、改ざんも破損もしていないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7255

メッセージ: サポートコマンドの出力が予期しない形式でした。

説明: 呼び出されたコマンドからの出力が、予期しない形式になっています。

推奨処置: nbinstallagent ログを確認して、想定外の出力を生成したコマンドを判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7256

メッセージ: 現在の作業ディレクトリのパスを取得できませんでした。

説明: nbinstallagent が起動を試みたときに内部エラーが発生しました。

推奨処置: リモートホストについて、次の場所にある nbinstallagent のログを収集します。

Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥logs

UNIX および Linux の場合: /usr/openv/netbackup/logs

すべてのログを保存し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7258

メッセージ: ローカルホストのセキュリティ証明書の状態を判断できませんでした。(Could not determine the state of security certificates on the local host.)

説明: VxUpdate エージェントは、ローカルホストのセキュリティ証明書の状態を評価できません。この情報の解決に使用された NetBackup コマンドが完了しなかったか、予期しない状態が返されました。

推奨処置: 実行された正確なコマンドラインのコピー、返された状態、出力を nbinstallagent ログで確認してください。特定のエラーについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7259

メッセージ: 配備ポリシーの外部 CA 証明書に対する構成の指定がこのホストでは無効です。

説明: NetBackup は、配備ポリシーからの関連する値 (または nbinstallcmd コマンドが指定する値) を使用してローカルホスト上で有効な外部 CA 証明書を見つけられません。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、nbcertcmdtool ログを調べてください。nbinstallagent ログは nbcertcmdtool コマンドライン引数と出力を報告します。

- Windows の場合、nbcertcmdtool ログは通常のインストールログの場所 (デフォルトは %ALLUSERSPROFILE%¥NetBackup¥InstallLogs) にあります。コマンドの実行ごとに個別のファイルが作成され、確認するファイルの先頭には ExternalCertificateOp が付きます。
- UNIX の場合、これらは /usr/openv/tmp/ にあり、名前の先頭には install_commands が付きます。PID が追加され、たとえば、ファイル名は /usr/openv/tmp/install_commands.47832 になります。

詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

配備ポリシー (または nbinstallcmd コマンドライン) で定義されている外部 CA 証明書の値を確認し、これらの値がターゲットホストに適用されることを確認してください。実行されている NetBackup コマンドのレコードの nbinstallagent ログを確認して、外部 CA 証明書を解決します。外部 CA 証明書で使用する NetBackup 環境を構成する方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7260

メッセージ: JSON 文字列を解析できず、外部証明書の値を取得できませんでした。

説明: VxUpdate の操作中に、外部 CA 証明書の値を転送または変換する際にエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、メディアサーバー (またはメディアサーバーが使用されていない場合はマスターサーバー) で admin ログを確認してください。そこで参照されている JSON で、一般的な違反 (空白を含むパス、過剰な引用符、英語以外の文字) を確認します。ポリシー値でサポートされている文字について詳しくは、NetBackup のマニュアルを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7261

メッセージ: JSON 文字列をロードできませんでした。

説明: VxUpdate の操作中に、外部 CA 証明書の値を転送または変換する際にエラーが発生しました。

推奨処置: 詳しくは、メディアサーバー (またはメディアサーバーが使用されていない場合はマスターサーバー) で admin ログを確認してください。そこで参照されている JSON で、一般的な違反 (空白を含むパス、過剰な引用符、英語以外の文字) を確認します。ポリシー値でサポートされている文字について詳しくは、NetBackup のマニュアルを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7262

メッセージ: マスターサーバーで構成されている CA 証明書の種類を判断できませんでした。(Could not determine the CA certificate type that is configured on the master server.)

説明: マスターサーバーがサポートする CA 証明書の種類の解決で、VxUpdate エージェントのエラーが発生しました。この情報の解決に使用される NetBackup コマンドが完了しなかったか、予期しない状態が返されました。

推奨処置: マスターサーバーとクライアントが正常に通信していることを確認してください。実行された正確なコマンドラインのコピー、返された状態、出力を nbinstallagent ログで確認してください。特定のエラーについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7263

メッセージ: 操作を完了するには利用可能なディスク容量が不十分です。

説明: マスターサーバーの NetBackup パッケージリポジトリがあるディスクのディスク容量が不十分です。ディスクには少なくとも 1% の空きディスク容量が必要です。

推奨処置: NetBackup パッケージリポジトリがあるディスクの空き容量を増やし、操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7264

メッセージ: パッケージのリリースバージョンはサポートされていません。(Package release version is not supported.)

説明: NetBackup マスターサーバーのリリースレベルは、この VxUpdate SJA パッケージバージョンの使用をサポートしていません。

推奨処置: ご使用の環境に合わせて適切な VxUpdate SJA パッケージをダウンロードしたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7265

メッセージ: パッケージの種類が無効です。(Package type is invalid)

説明: NetBackup マスターサーバーのリリースレベルは、この VxUpdate SJA パッケージの使用をサポートしていません。

推奨処置: ご使用の環境に合わせて適切な VxUpdate SJA パッケージをダウンロードしたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7266

メッセージ: パッケージのオペレーティングシステムはサポートされていません。(Package operating system is not supported.)

説明: NetBackup マスターサーバーのリリースレベルは、この VxUpdate SJA パッケージの使用をサポートしていません。

推奨処置: ご使用の環境に合わせて適切な VxUpdate SJA パッケージをダウンロードしたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7267

メッセージ: パッケージの EEB バージョンはサポートされていません。(Package EEB version is not supported.)

説明: NetBackup マスターサーバーのリリースレベルは、この VxUpdate SJA パッケージの使用をサポートしていません。

推奨処置: ご使用の環境に合わせて適切な VxUpdate SJA パッケージをダウンロードしたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7268

メッセージ: EEB のインストールはサポートされていません。

説明: クライアントシステムにサーバー EEB をインストールしようとしました。

推奨処置: クライアントシステムにはサーバー EEB をインストールできません。ターゲットホストがクライアントであり、インストールされる EEB の種類がクライアント EEB であること

を確認します。詳しくは、適切なインストールについて EEB のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7269

メッセージ: ターゲットホストに有効な NetBackup ジョブが見つかりました。(Found active NetBackup jobs on the target host.)

説明: ターゲットメディアサーバーに実行中またはキューに登録された NetBackup ジョブがありました。ターゲットメディアサーバー上の VxUpdate ジョブは中止されました。

推奨処置: アクティビティモニターを確認して、ターゲットメディアサーバーで実行中のジョブを判断します。ターゲットメディアサーバーでジョブが完了するまで待機して、VxUpdate ジョブを再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7270

メッセージ: ホストに既存のセキュリティ証明書はありません。(There are no existing security certificates on the host.)

説明: 配備ジョブは、既存の証明書を使用するように指定されています。NetBackup マスターサーバーは、外部 CA (ECA) のみを使用するように構成されています。ターゲットホストで外部セキュリティ証明書が構成されていません。この状況は、8.0 より前のターゲットホストがセキュリティ証明書なしでマスターサーバーとの通信を許可されている場合に発生します。アップグレードの続行が許可されている場合、ターゲットホストはマスターサーバーと通信できません。

推奨処置: 配備ジョブで、[可能な場合は既存の証明書を使用します (Use existing certificates when possible)]オプションを選択する代わりに、ECA 値を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7271

メッセージ: `nbcertcmdtool` ユーティリティの初期化に失敗しました。

説明: `nbcertcmdtool` の解凍または実行中に問題が発生したため、マスターまたはターゲットホストのセキュリティ構成を評価できません。

推奨処置: VxUpdate パッケージが破損していないことを確認してください。古い nbcertcmdtool ファイルが残っていないかどうか、ターゲットホストの NetBackup temp ディレクトリを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7272

メッセージ: インストール前チェックに失敗しました。

説明: NetBackup インストール前チェッカーが実行されなかったか、重大なエラーを検出しました。

推奨処置: nbinstallagent ログを確認して、nbcheck の実行で問題が発生したかどうかを判断します。問題が発生していない場合は、nbcheck の出力を確認して、失敗したチェックを特定します。インストールが失敗する原因となるのは、重要なチェックのみです。インストール前チェッカーが表示する状態を修正して、ジョブを再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7273

メッセージ: 既存のセキュリティ構成は無効です。

説明: マスターサーバーに設定されているセキュリティモードが無効です。有効なモードは、NBCA のみ、ECA のみ、NBCA + ECA です。

推奨処置: マスターサーバーが想定されるモードになっていることを確認します。コマンド *<install_path>*/netbackup/bin/nbcertcmd -getSecConfig -caUsage を実行すると、モードが表示されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7274

メッセージ: このパッケージの上位バージョンがすでにインストールされています。(A higher version of this package is already installed.)

説明: ターゲットマシンに、インストールするように要求された VxUpdate のバージョン以降のパッケージが存在します。ダウングレードはサポートされていません。

推奨処置: VxUpdate 操作が必要かどうかを確認します。ほとんどの場合、新しいパッケージバージョンが推奨されます。必要に応じて、新しいパッケージである既存のパッケージをターゲットマシンからアンインストールし、VxUpdate 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7275

メッセージ: ネイティブのパッケージマネージャコマンドが失敗しました。

説明: 場合によっては、VxUpdate で NetBackup パッケージを追加または削除する必要があります。このエラーは、これらのコマンドの実行に問題がある場合に発生します。ジョブの詳細に、問題が発生したパッケージ名が含まれています。

推奨処置: `nbinstallagent` ログを確認して、パッケージの追加または削除で問題が発生したかどうかを判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7276

メッセージ: NetBackup プロセスを開始できません。

説明: VxUpdate の配備操作に続いて、NetBackup プロセスが開始されます。このエラーは、これらのプロセスのいずれかが起動に失敗した場合に発生します。

推奨処置: ターゲットホストにログオンし、`bp.start_all` (UNIX の場合) または `bpup` (Windows の場合) を使用して手動でプロセスを開始します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7277

メッセージ: ホストの NetBackup 構成は無効か破損しています。(The NetBackup configuration on the host is invalid or corrupt.)

説明: `nbinstallagent` は、ターゲットシステムのコンピュータの役割 (マスター、メディア、またはクライアント) を判断できません。

推奨処置: ターゲットホストが Windows の場合は、`SOFTWARE¥Veritas¥NetBackup¥CurrentVersion¥Install Type` キーを調べます。

ターゲットホストが UNIX の場合は、`bpclntcmd -is_server <target host>` を実行して、クライアントかサーバーかを判断します。サーバーである場合は、`bpclntcmd -is_master_server <target host>` を実行して、ターゲットホストがマスターサーバーかメディアサーバーかを判断します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7278

メッセージ: NetBackup のインストール状態をリモートホストから取得できませんでした。(Failed to get the NetBackup install status from the remote host.)

説明: NetBackup プライマリまたはメディアサーバーの NetBackup `nbmtrans` プロセスで、vxUpdate のリモート状態ファイル `vxupdate_status.install` を読み込む際に問題が発生しました。アップグレード時間が予想より長くなると、この問題が発生する可能性があります。ジョブの状態レポートでこのエラーが報告された場合でも、アップグレードは成功している可能性があります。

推奨処置: アップグレードが成功したかどうかを判断するには、ターゲットホストのインストールログを確認します。失敗していた場合は、`nbinstallagent` ログを確認して失敗の原因を判断します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7279

メッセージ: ホスト形式とパッケージの種類が一致しません。

説明: クライアントパッケージのサーバーへの配備またはその逆の配備が試みられました。

推奨処置: 問題を修正するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ホストの形式と互換性がある別のパッケージを指定します。
- 指定したホストをパッケージと互換性がある形式に変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7281

メッセージ: コマンドラインの長さが長すぎます。

説明: VxUpdate の許可されたコマンドラインの最大長 8092 を超えています。

推奨処置: ほとんどの場合、このメッセージは、`SERVER` および `MEDIA_SERVER` リストが大きいことと、これらのサーバーの指定を必要とする内部コマンドをコマンドラインで指定すると発生します。bp.conf ファイル (または Windows レジストリ) のターゲットホストのサーバーリストをフィルタ処理またはトリミングし、`SERVER` と `MEDIA_SERVER` のリストの小さなグループを使用してプロセスを実行することを検討してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7282

メッセージ: 既存のインストール済みパッケージの状態をシステムに問い合わせられませんでした。

説明: ネイティブパッケージコマンドはホストのソフトウェアの状態を判断できません。

推奨処置: プラットフォーム固有のパッケージマネージャのマニュアルを参照してください。ネイティブパッケージングシステムがすべてのターゲットホストで健全な状態であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7283

メッセージ: 配備オプションを解析できませんでした。

説明: VxUpdate で、指定された配備オプションを判断できませんでした。

推奨処置: NetBackup が配備オプションを適切に渡すことを確認します: NetBackup Job Manager (nbjm) から NetBackup メディアサーバーへのトランスポート (nbmtrans)。手動で入力した配備オプションを確認して、構文が正しいかどうかを判断します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7284

メッセージ: 1 つ以上のパッケージファイルパスが承認されませんでした。

説明: 1 つ以上のパッケージファイルパスが無効です。ファイルパスが空であるか、sja 拡張子が付加されていないか、ファイルが存在しない可能性があります。

推奨処置: ファイルパスが存在し、sja 拡張子が付加されていることを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7285

メッセージ: conf ファイルの javagui_jre フィールドの値が見つかりませんでした。

説明: VxUpdate は、NetBackup クライアントまたはサーバーの更新を試行しましたが、javagui_jre フィールドが nbinstallagent_conffile に見つかりません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7286

メッセージ: `nbjavajre` パッケージを正常に抽出して検証できませんでした。

説明: `nbjavajre.sja` パッケージの抽出と検証に失敗しました。

推奨処置: パッケージが正式なソースから派生しており、改ざんも操作も行われていないことを確認してください。ターゲットホストでパッケージを抽出するのに十分なディスク容量があることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7287

メッセージ: `conf` ファイルに指定されている `javagui_jre` 値が正しくありません。有効な値は、`include`、`exclude`、または `match` です。

説明: VxUpdate 内の `nbinstallagent_conffile` の `javagui_jre` フィールドの値が正しくありません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7288

メッセージ: レジストリ情報を問い合わせできませんでした。

説明: Windows 呼び出し `RegQueryInfoKey` が失敗しました。

推奨処置: レジストリキー `SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall` が存在し、破損していないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7289

メッセージ: インストールした NetBackup パッケージリストは最大可能文字数を超えています。

説明: nbhostdbcmd コマンドは、ホストにインストールされている NetBackup パッケージのリストを DB に永続化しようとします。リストが最大長 (2048 文字) を超えています。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7290

メッセージ: VxUpdate プラットフォーム名は最大可能文字数を超えています。

説明: nbhostdbcmd コマンドは、ホストの VxUpdate プラットフォーム名を DB に永続化しようとします。指定した名前が最大長 (32 文字) を超えています。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7291

メッセージ: VxUpdate プラットフォームの定義が有効ではありません。

説明: VxUpdate プラットフォームの識別子が、許可されている識別子の範囲内にありません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7292

メッセージ: VxUpdate プラットフォームの定義が見つかりません。

説明: VxUpdate プラットフォームの識別子が見つかりませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7293

メッセージ: このバージョンレベルのホストには、このパッケージは無効です。

説明: メンテナンスリリースのバージョンが、ホストに現在存在する NetBackup のリリースバージョンと互換性がありません。メンテナンスリリースは、NetBackup のバージョンが同じリリースラインのホストのみに適用できます。

例:

- 8.3 (8.3.0) がインストールされているホストには、メンテナンスリリース 8.3.0.1 を適用できますが、8.2.1 または 9.0 がインストールされているホストには適用できません。

推奨処置: ターゲットホストの NetBackup のバージョンと互換性があるメンテナンスリリースを使用して、操作を再試行します。同じリリースラインの NetBackup のメンテナンスリリースバージョンを使用する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7294

メッセージ: 目的のリリースのエージェントプロセスが想定したとおりに実行されませんでした。目的の NetBackup リリースレベルと、このホストのプラットフォームおよび OS レベルに互換性があることを確認してください。(The destination release's agent process did not execute as expected. Confirm that the destination NetBackup release level is compatible with the platform and OS level of this host.)

説明: ターゲットホストで実行された VxUpdate プロセスで実行時に予期しないエラーが発生しました。多くの場合、この問題はシステムライブラリが見つからないことが原因です。システムライブラリの不足は、ターゲットの製品やパッケージがターゲットホストのオペレーティングシステムやプラットフォームをサポートしていないことを示唆している可能性があります。

推奨処置: NetBackup ソフトウェア互換性リストを参照して、ターゲットホストがオペレーティングシステムとプラットフォームの要件を満たしていることを確認します。オペレーティングシステムとそのライブラリが正しくインストールされていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7295

メッセージ: アップグレード後に、このホストはマスターサーバーと通信できなくなります。(This host is unable to communicate with the primary server following the upgrade.)

説明: VxUpdate は、アップグレードを続行すると、後でホストがマスターサーバーと通信できなくなると判断しました。この判断は、次の NetBackup セキュリティ要件に基づいています。

- 既存のリリースバージョンと宛先リリースバージョン。
- ホスト上にある既存のセキュリティ構成の状態。
- VxUpdate 操作に指定されているセキュリティ関連の仕様。

推奨処置: 最新の NetBackup リリースで安全な通信を構成する方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。セキュリティモードによっては、VxUpdate を使用して構成できます。その他のセキュリティモードでは、VxUpdate 以外の操作が必要です。

VxUpdate で強制的にアップグレードを続行する場合は、bpsetconfig またはその他のユーティリティを使用して、ターゲットホストの NetBackup 構成に IGNORE_VXUPDATE_PREUPGRADE_COMMUNICATION_CHECK 値を追加します。この値を 1 に設定します。次回の VxUpdate 操作では、アップグレード後の通信に関する懸念事項が報告されますが、アップグレードは続行されます。この方法を使用するとリスクを伴い、インストールで複数の問題が発生する可能性があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7296

メッセージ: ホストをオフラインにできませんでした。(Could not take the host offline.)

説明: VxUpdate は、VxUpdate の実行中にホストで NetBackup アクティビティが開始されないように、ターゲットメディアサーバーをオフラインにしようとしました。ホストをオフラインにしようとしたところ、予期しないエラーが発生しました。

推奨処置: ターゲットメディアサーバーで現在 NetBackup がアクティブである場合 (バックアップまたはリストアの実行中など)、そのアクティビティが終了するまで待機してから、VxUpdate を試行することをお勧めします。

すぐに介入する必要がある場合は、NetBackup プロセスユーティリティを使用して、NetBackup プロセスを報告すると、停止または一時停止できる可能性があります。『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の bp.kill_all、bpdown、bpps、nbstop、vmoprcmd のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7297

メッセージ: 配備パッケージファイルの削除に失敗しました。

説明: リポジトリから配備パッケージファイルを削除しようして失敗しました。

推奨処置: nbrepo バイナリを実行するユーザーに削除権限があることを確認してください。ファイルが使用中でないこと、またはファイルにロックが設定されていないことを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7298

メッセージ: 指定されたファイルは存在しますが、一部の NetBackup プロセスがファイルにアクセスできません。

説明: NetBackup のコアプロセスに、指定したファイルに対するアクセスまたは操作に必要な権限がありません。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

- /usr/openv/temp や <*INSTALLDIR*>¥NetBackup¥Temp など、NetBackup のコアプロセスが使用できる場所にファイルを移動します。
- UNIX プラットフォームではシステムの chmod コマンド、Windows では nbserviceusercmd コマンドを使用して、ターゲットファイルまたはフォルダの権限を変更し、NetBackup のコアプロセスがアクセスできるようにします。
- ターゲットファイルまたはフォルダへのアクセス権を持つユーザーのアカウントで、実行する NetBackup デーモンとサービスを変更します。この操作を実行すると、セキュリティに影響が及ぶことに注意してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7299

メッセージ: ターゲットホストにライブラリ `libnsl.so.1` が存在しません。(The library libnsl.so.1 is not present on the target host.)

説明: ターゲットホストにライブラリ `libnsl.so.1` が存在しません。NetBackup にライブラリが必要です。

推奨処置: ターゲットホストに `libnsl.so.1` ライブラリをインストールし、VxUpdate 操作を再実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7300

メッセージ: ターゲットパッケージのアンインストールに失敗しました。(Uninstall of the target package was unsuccessful.)

説明: ターゲットパッケージのアンインストールに失敗しました。

推奨処置: このアンインストールに正しいターゲットパッケージを使用していることを確認します。使用した正常なインストールパッケージに対応するアンインストールパッケージを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7301

メッセージ: Windows ホストに、必要な Visual C++ ランタイムライブラリがインストールされていません。(The Windows host does not have the required Visual C++ run-time libraries installed.)

説明: Windows 用の NetBackup 10.4 以降は、Visual Studio 2022 コンパイラと Windows 11 SDK を使用して構築されています。NetBackup を実行するには、互換性のある Visual C++ ランタイムライブラリが Windows コンピュータにインストールされている必要があります。

推奨処置: Windows コンピュータに Visual C++ ランタイムライブラリ 14.36.32532 以降をインストールして、操作を再試行します。Visual C++ ランタイムライブラリについて詳しくは、Microsoft 社の Web サイトで Visual C++ ファイルの再配布に関する情報を検索してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7302

メッセージ: パッケージファイルの転送要求はすでに進行中です。(A transfer request is already in progress for a package file.)

説明: 一度に 1 つのパッケージ転送のみが許可されます。既存の転送がすでに進行中であるため、パッケージの転送要求が拒否されました。

推奨処置: 既存のパッケージ転送が完了するまで待機してから、新しいパッケージ転送を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7303

メッセージ: 指定したファイルの移動に失敗しました。(Failed to move the specified file.)

説明: 場合により、VxUpdate はパッケージ (.sja ファイル) を NetBackup のアプリケーションフォルダ内の場所に移動しようとします。パッケージファイルの移動を試行しましたが予期せず失敗しました。

推奨処置: 関連するログメッセージを確認して、ソースと宛先のファイルパスを識別します。それらのディレクトリに対して正しい権限があることを確認します。適切な権限を持つユーザーが VxUpdate 操作を試行したことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7304

メッセージ: アップロードされたファイル名が、データベース内のパッケージ名と一致しません。(Uploaded file name does not match the package name in database.)

説明: パッケージの転送が完了しましたが、転送された .sja ファイルのファイル名が予想される値と一致しませんでした。

推奨処置: パッケージ (.sja ファイル) が破損しておらず、正当なソースから取得されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7305

メッセージ: 転送が開始されましたが、完了する前に無効になったか破棄されました。(The transfer was started but became inactive or was abandoned before completion.)

説明: パッケージ転送がアイドル状態になりました。

推奨処置: このエラーの原因となる既知の問題には、ソースホストとプライマリサーバー間の接続の問題、ソースホストのネットワークサービスのエラー、プライマリサーバーの NetBackup サービスのエラーなどがあります。ソースホストとプライマリサーバー間の接続が正常であることを確認します。転送を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7306

メッセージ: パッケージファイルをアップロードできませんでした。(Package file has failed to upload.)

説明: パッケージの転送が予期せず失敗しました。

推奨処置: このエラーの原因となる既知の問題には、ソースホストとプライマリサーバー間の接続の問題、ソースホストのネットワークサービスのエラー、プライマリサーバーの NetBackup サービスのエラーなどがあります。ソースホストとプライマリサーバー間の接続が正常であることを確認します。転送を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7307

メッセージ: パッケージの追加操作の実行中にパッケージを削除できません。(Cannot delete package while package add operation is running.)

説明: VxUpdate リポジトリへのパッケージの追加には、数分かかる場合があります。NetBackup では、VxUpdate リポジトリでパッケージの削除と追加を同時に実行することはサポートされていません。パッケージ転送のコンテキストでは、転送が完了した後に、VxUpdate リポジトリにパッケージの追加が試行されることに注意します。

推奨処置: パッケージ追加の試行が完了するまで待機してから、削除操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7311

メッセージ: パッケージの EEB バージョンが無効です。(The EEB version in the package is invalid.)

説明: `nbinstallagent` バイナリが EEB パッケージに対して操作を実行しようとしましたが、パッケージの EEB バージョンが想定された形式ではありません。EEB のバージョンは、*Etrack 番号.リビジョン* (例: 4190452.1) という形式である必要があります。

ET (Etrack) 番号とリビジョンは、先頭にゼロがない、空でない数字の文字列である必要があります。

推奨処置: EEB パッケージ名が正しいことを確認します。次の行とまったく同じ行がないか、nbinstallagent ログディレクトリおよびインストールエージェントログを確認します。

```
invalid eeb_version format, invalid format for ET number, or invalid
format for EEB revision
```

それに失敗した規則が示されています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7312

メッセージ: パッケージ名からの EEB アンインストールパスの解決に失敗しました。(Failed to resolve EEB uninstall path from the package name.)

説明: インストールエージェントの nbinstallagent がホスト上の EEB アンインストールディレクトリをパッチインベントリ (pack.summary/History.log) および NetBackup パックディレクトリにある EEB レイアウトから解決できませんでした。

説明: 理由は次のいずれかである可能性があります。

- パッケージ名の EEB バージョンが無効である可能性があります。
- パッチフォルダ、pack.summary ファイル (UNIX の場合)、または History.log ファイル (Windows の場合) が存在しません。
- 解決済みの EEB パスが存在しません。

推奨処置: 次の行がないか nbinstallagent ログを確認します。

```
"Error returned from resolve_eeb_uninstall_path_from_pack_summary:
error code [N]"
```

ここで、「N」は実際のエラーです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7313

メッセージ: パッケージリポジトリに VxUpdate インフラストラクチャコンポーネントがありません。(The VxUpdate infrastructure component is missing from the package repository.)

説明: パッケージリポジトリに VxUpdate インフラストラクチャコンポーネントがありません。指定された対処方法を実施した後、影響を受けた EEB 操作を再試行できます。

推奨処置: VxUpdate に進む前に、手動でインフラストラクチャパッケージを入手、コピー、および抽出します。

1 プライマリサーバーの NetBackup のバージョンに対応したリリースイメージ (DVD) から正しいインフラストラクチャパッケージを入手します。

RedHat Enterprise Linux の場合:

NetBackup_11.2_LinuxR_x86_64/linuxR_x86/anb/nbinfra.tar.gz

SUSE Linux Enterprise Server の場合:

NetBackup_11.2_LinuxS_x86_64/linuxS_x86/anb/nbinfra.tar.gz

Windows の場合:

NetBackup_11.2_Win/x64/nbinfra.zip

2 インフラストラクチャパッケージ [nbinfra.tar.gz または nbinfra.zip] を一時ディレクトリにコピーします。

Linux の場合: /usr/openv/tmp/nbinfra/

Windows の場合: *Install_Path*¥NetBackup¥Temp¥nbinfra¥

3 サポート対象のすべてのプラットフォームの nbinfra_*VXUPDATE_PLATFORM_OS*.sja が含まれたパッケージを抽出します。

NetBackup パッケージリポジトリの場所にすべてのプラットフォームの SJA をコピーします。

Linux の場合: /usr/openv/var/global/repo

Windows の場合: *Install_Path*¥NetBackup¥var¥global¥repo

4 repo ディレクトリが serviceUser:bin により所有されており、抽出されたすべての .sja ファイルが serviceUser:serviceGrp により所有されていることを確認します。

5 抽出後、NetBackup Web UI を使用して、VxUpdate 配備ワークフロー (EEB のアンインストール) を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7314

メッセージ: この EEB パッケージには、その他にも複数のリビジョンが存在します。その他のリビジョンをアンインストールし、再試行してください。(Multiple other revisions of this EEB package are present. Uninstall the other revisions and then retry.)

説明: ターゲットマシンに、インストールしようとした EEB の VxUpdate の複数のリビジョンが存在します。これらの複数のリビジョンは、指定された EEB の VxUpdate のインストールと競合します。

推奨処置: マシンでは、同じ EEB の複数のリビジョンを同時にインストールすることは想定されていません。ターゲットマシンの EEB の状態を慎重に確認します。既存の EEB リビジョンを管理またはアンインストールする方法については、EEB インストーラのマニュアルを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7400

メッセージ: 同じ名前および同じ種類のストレージサーバーがすでに存在します。(Storage server with the same name and type already exists.)

説明: 指定した名前でストレージサーバーを作成できませんでした。

推奨処置: 別のストレージサーバー名を使用します。追加のトラブルシューティング情報については、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7401

メッセージ: ストレージサーバーの作成に失敗しました。(Failed to create storage server.)

説明: 指定した構成でストレージサーバーを作成できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7402

メッセージ: ストレージサーバーのプロパティの取得に失敗しました。(Failed to get storage server properties.)

説明: ストレージサーバーのプロパティの取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7403

メッセージ: ストレージサーバーの更新に失敗しました。(Failed to update storage server.)

説明: 指定した構成でストレージサーバーを更新できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7404

メッセージ: ストレージサーバーの削除に失敗しました。(Failed to delete storage server.)

説明: 指定した ID のストレージサーバーを削除できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7405

メッセージ: ストレージサーバーの削除に失敗しました。(Failed to remove the storage server.)

説明: 指定した識別子のストレージサーバーを削除できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7406

メッセージ: 要求したデータには、次の無効または不明なフィールドが含まれています。(Requested data has the following invalid or missing fields)

説明: 入力に無効または不明なフィールドが含まれているため処理できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で errorDetails を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7407

メッセージ: 同じ名前のディスクプールがすでに存在します。(Disk pool with the same name already exists.)

説明: 指定した名前のディスクプールが NetBackup に存在するため作成できませんでした。

推奨処置: 別のディスクプール名を使用します。依然として問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7408

メッセージ: ディスクプールの取得に失敗しました。(Failed to get disk pool.)

説明: ディスクプールの構成の取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で errorDetails を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7409

メッセージ: ディスクプールの更新に失敗しました。(Failed to update disk pool.)

説明: 指定した構成でディスクプールを更新できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で errorDetails を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7410

メッセージ: ディスクプールの削除に失敗しました。(Failed to delete disk pool.)

説明: 指定した識別子のディスクプールを削除できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7411

メッセージ: 同じ名前のストレージユニットがすでに存在します。(Storage unit with the same name already exists.)

説明: 指定した名前でストレージユニットを作成できませんでした。

推奨処置: 別のストレージユニット名で試します。依然として問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7412

メッセージ: ストレージユニットの作成に失敗しました。(Failed to create storage unit.)

説明: 指定した入力内容でストレージユニットを作成できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7413

メッセージ: ストレージユニットの取得に失敗しました。(Failed to get storage unit.)

説明: ストレージユニットの詳細のフェッチに失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7414

メッセージ: ストレージユニットの更新に失敗しました。(Failed to update storage unit.)

説明: 指定した構成でストレージユニットを更新できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7415

メッセージ: ストレージユニットの削除に失敗しました。(Failed to delete storage unit.)

説明: 指定した識別子のストレージユニットを削除できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7416

メッセージ: サービス方式が実装されていません。(Service method unimplemented.)

説明: 指定した入力でサポートされていない API 方式です。

推奨処置: API のドキュメントでサポート対象の方式を確認します。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7417

メッセージ: ストレージ API の管理機能が無効になっています。(Storage API Management feature is disabled.)

説明: ストレージ API の管理機能が無効になっています。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7418

メッセージ: ターゲットストレージサーバーでアクセスが拒否されました。(Access denied on target storage server.)

説明: ターゲットストレージサーバーの指定した処理の実行に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7419

メッセージ: ストレージサーバーへのレプリケーションターゲットの追加に失敗しました。(Failed to add replication target to the storage server.)

説明: ストレージサーバーへのレプリケーションターゲットの追加に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7420

メッセージ: レプリケーション関係がすでに存在します。(Replication relationship already exists.)

説明: 要求したエンティティのレプリケーション関係がすでに存在します。

推奨処置: 指定した入力にエラーがないかどうかを確認します。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7421

メッセージ: ストレージサーバーの構成プロパティの取得に失敗しました。(Failed to get storage server configuration properties.)

説明: ストレージサーバーの構成プロパティの取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7422

メッセージ: ディスクプールの作成に失敗しました。(Failed to create disk pool.)

説明: 指定した入力内容でディスクプールを作成できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7423

メッセージ: ディスクボリュームの作成に失敗しました。(Failed to create disk volume.)

説明: 指定した入力内容でディスクボリュームを作成できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7424

メッセージ: ディスクボリュームの取得に失敗しました。(Failed to get disk volume.)

説明: ディスクボリュームの詳細のフェッチに失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7425

メッセージ: レプリケーションターゲットの取得に失敗しました。(Failed to get replication targets.)

説明: レプリケーションターゲットの取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7426

メッセージ: レプリケーション関係の詳細の取得に失敗しました。(Failed to get the replication relationship details.)

説明: レプリケーション関係の情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7427

メッセージ: ユニバーサル共有を作成できませんでした。(Failed to create universal share.)

説明: NetBackup は、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) で、指定されたユニバーサル共有を作成できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7428

メッセージ: ユニバーサル共有を更新できませんでした。(Failed to update universal share.)

説明: NetBackup は、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) で、指定されたユニバーサル共有を更新できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7429

メッセージ: ユニバーサル共有の詳細をフェッチできませんでした。(Failed to fetch the universal share details.)

説明: NetBackup は、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) から、指定されたユニバーサル共有の詳細を取得できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7430

メッセージ: ユニバーサル共有を削除できませんでした。(Failed to delete universal share.)

説明: NetBackup は、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) で、指定されたユニバーサル共有を削除できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7431

メッセージ: ユニバーサル共有の一覧をフェッチできませんでした。(Failed to fetch the universal share list.)

説明: NetBackup は、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) で、すべてのユニバーサル共有の一覧を取得できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7432

メッセージ: ディスクボリュームにレプリケーションターゲットを追加できませんでした。(Failed to add replication target on disk volume.)

説明: NetBackup は、ディスクボリュームにレプリケーションターゲットを追加できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7433

メッセージ: ディスクボリュームのレプリケーションターゲットを削除できませんでした。(Failed to delete replication target on disk volume.)

説明: NetBackup は、ディスクボリュームのレプリケーションターゲットを削除できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7434

メッセージ: ディスクボリュームのレプリケーションターゲットの詳細を取得できませんでした。(Failed to get replication target details of disk volume.)

説明: NetBackup は、ディスクボリュームのレプリケーションターゲットの詳細を取得しませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7435

メッセージ: ディスクボリュームの詳細の更新に失敗しました。(Failed to update disk volume details.)

説明: NetBackup は、ディスクボリュームの詳細の更新に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7436

メッセージ: クラウドバケットを一覧表示できませんでした。

説明: NetBackup はストレージサーバーでのクラウドバケットを一覧表示できませんでした。

推奨処置: 別のオプションを選択して、操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7437

メッセージ: クラウドバケットの作成に失敗しました。

説明: NetBackup はストレージサーバーでのクラウドバケットの作成に失敗しました。

推奨処置: 別のオプションを選択して、操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical

Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7450

メッセージ: databaseName フィールドを指定する必要があります。(The databaseName field must be specified.)

説明: 代替リカバリオプションの databaseName フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: databaseName フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。databaseName フィールドにデータベース名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7451

メッセージ: instanceName フィールドを指定する必要があります。(The instanceName field must be specified.)

説明: 代替リカバリオプションの instanceName フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: instanceName フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。instanceName フィールドにインスタンス名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7452

メッセージ: consistencyCheck フィールドを指定する必要があります。(The consistencyCheck field must be specified.)

説明: リカバリオプションの consistencyCheck フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: consistencyCheck フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。consistencyCheck フィールドにインスタンス名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7453

メッセージ: consistencyCheck フィールドは、NONE,、FULLINCLUDINGINDICES、FULLEXCLUDINGINDICES、CHECKCATALOG、PHYSICALCHECKONLY のいずれかの値にする必要があります。(The consistencyCheck field must be one of these values: NONE,FULLINCLUDINGINDICES, FULLEXCLUDINGINDICES, CHECKCATALOG, or PHYSICALCHECKONLY.)

説明: リカバリオプションの consistencyCheck フィールドには、特定の値の組み合わせを 1 つのみ入力できます。

推奨処置: consistencyCheck フィールドが指定されている場合は、有効な値を入力していることを確認します。有効な consistencyCheck の値は、NONE,、FULLINCLUDINGINDICES、FULLEXCLUDINGINDICES、CHECKCATALOG、PHYSICALCHECKONLYです。consistencyCheck フィールドに有効な値を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7454

メッセージ: maxTransferSize フィールドに値を指定する必要があります。(The maxTransferSize field must be specified.)

説明: リカバリオプションの maxTransferSize フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: maxTransferSize フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。有効な転送サイズは、64K、128K、256K、1M、2M、または 4M です。maxTransferSize フィールドに有効な転送サイズを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7455

メッセージ: maxTransferSize フィールドは、64K、128K、256K、1M、2M、4M のいずれかの値にする必要があります。(The maxTransferSize field must be one of these values: 64K, 128K, 256K, 1M, 2M, or 4M.)

説明: リカバリオプションの maxTransferSize フィールドには、特定の値の組み合わせを 1 つのみ入力できます。

推奨処置: maxTransferSize フィールドが指定されている場合は、有効な値を入力していることを確認します。有効な転送サイズは、64K、128K、256K、1M、2M、または 4M です。maxTransferSize フィールドに有効な転送サイズを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7456

メッセージ: numBuffs フィールドは 1 から 32 までの値である必要があります。(The numBuffs field must be between 1 to 32.)

説明: リカバリオプションの numBuffs フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: numBuffs フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。numBuffs フィールドに有効なバッファ数を指定します。有効な値の範囲は 1 から 32 までです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7457

メッセージ: recoveredState フィールドを指定する必要があります。(The recoveredState field must be specified.)

説明: リカバリオプションの recoveredState フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: recoveredState フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。recoveredState フィールドに有効なリカバリ状態を指定します。有効なリカバリ状態は、Recovered、NotRecovered、または Standby です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7458

メッセージ: recoveredState フィールドは、Recovered、NotRecovered、Standby のいずれかの値にする必要があります。(The recoveredState field must be one of these values: Recovered, NotRecovered, or Standby.)

説明: リカバリオプションの recoveredState フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: recoveredState フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。recoveredState フィールドに有効なリカバリ状態を指定します。有効なリカバリ状態は、Recovered、NotRecovered、または Standby です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7459

メッセージ: `traceLevel` フィールドを指定する必要があります。(The traceLevel field must be specified.)

説明: リカバリオプションの `traceLevel` フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: `traceLevel` フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。`traceLevel` フィールドに、有効なトレースレベルを指定します。有効なトレースレベルは、`Minimum`、`Medium`、または `Maximum` です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7460

メッセージ: `traceLevel` フィールドは、`Minimum`、`Medium`、`Maximum` のいずれかの値にする必要があります。(The traceLevel field must be one of these values: Minimum, Medium, or Maximum.)

説明: リカバリオプションの `traceLevel` フィールドには、特定の値の組み合わせを 1 つのみ入力できます。

推奨処置: `traceLevel` フィールドが指定されている場合は、有効な値を入力していることを確認します。有効なトレースレベルは、`Minimum`、`Medium`、または `Maximum` です。`traceLevel` フィールドに、有効なトレースレベルを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7461

メッセージ: `trxLogRecoveryOptions` フィールドのオプションを 1 つのみ指定する必要があります。(Exactly one option in trxLogRecoveryOptions must be specified.)

説明: トランザクションログのリカバリオプションには 5 つのフィールドがあり、そのうちの 1 つのみを指定できます。

推奨処置: いずれか 1 つのオプションのみが指定されていることを確認します。トランザクションログのリカバリオプションを 1 つのみ指定します。リカバリオプションのサブセットは、たとえば `toPointInTime`、`toTrxLogMark`、`toTrxLogMarkButAfter`、`beforeTrxLogMark`、`beforeTrxLogMarkButAfter` で構成されます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7462

メッセージ: toPointInTime フィールドを指定する必要があります。(The toPointInTime field must be specified.)

説明: トランザクションログのリカバリオプションの toPointInTime フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: inPointInTime フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。toPointInTime フィールドに時間を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7463

メッセージ: toTrxLogMark フィールドを指定する必要があります。(The toTrxLogMark field must be specified.)

説明: トランザクションログのリカバリオプションの toTrxLogMark フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: toTrxLogMark フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。toTrxLogMark フィールドにログマークを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7464

メッセージ: toTrxLogMarkButAfter フィールドを指定する必要があります。(The toTrxLogMarkButAfter field must be specified.)

説明: トランザクションログのリカバリオプションの toTrxLogMarkButAfter フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: toTrxLogMarkButAfter フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。toTrxLogMarkButAfter フィールドに時間とログマークを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7465

メッセージ: beforeTrxLogMark フィールドを指定する必要があります。(The beforeTrxLogMark field must be specified.)

説明: トランザクションログのリカバリオプションの beforeTrxLogMark フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: beforeTrxLogMark フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。beforeTrxLogMark フィールドにログマークを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7466

メッセージ: beforeTrxLogMarkButAfter フィールドを指定する必要があります。(The beforeTrxLogMarkButAfter field must be specified.)

説明: トランザクションログのリカバリオプションの beforeTrxLogMarkButAfter フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: beforeTrxLogMarkButAfter フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。beforeTrxLogMarkButAfter フィールドに時間とログマークを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7467

メッセージ: standbyPath フィールドを指定する必要があります。(The standbyPath field must be specified.)

説明: リカバリオプションの standbyPath フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: standbyPath フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。standbyPath フィールドに完全修飾パスを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7468

メッセージ: standbyPath フィールドは有効なファイルである必要があります。(The standbyPath field must be a valid file.)

説明: リカバリオプションの standbyPath フィールドは有効なファイルにする必要があります。

推奨処置: standbyPath フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。standbyPath フィールドに完全修飾パスを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7469

メッセージ: 「trxLogRecoveryOptions」を指定できません。(The trxLogRecoveryOptions can't be specified.)

説明: trxLogRecoveryOptions は完全バックアップまたは増分バックアップの ID には指定できません。

推奨処置: trxLogRecoveryOptions オプションが指定されている場合は、トランザクションログバックアップの ID が関連付けられていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7472

メッセージ: データベースのリカバリを開始できませんでした。

説明: NetBackup はデータベースのリカバリを開始できませんでした。

この問題は次のことが原因で発生することがあります。

- EMM サーバーを起動できません。
- Microsoft SQL Server のリカバリに不適切なリカバリオプションが提供されました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- EMM サーバーのサービスの再起動を試行します。
- Microsoft SQL Server 用に提供されたリカバリオプションを確認し、問題を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7473

メッセージ: ターゲットサーバーでインスタンスのクレデンシャルを認証できませんでした。(Failed to authenticate instance credentials on the target server.)

説明: リカバリ中に、NetBackup はターゲットサーバーでインスタンスのクレデンシャルを認証できませんでした。

推奨処置: ターゲットサーバーで使用されていたクレデンシャルを確認します。問題を修正して、リカバリを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7476

メッセージ: アクティブなディスクプールの詳細の取得に失敗しました。(Failed to get active disk pools details.)

説明: NetBackup で、アクティブなディスクプールの詳細の取得を試行したときに、データベース問い合わせレベルのエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- エラーの追加情報について詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。
- ログレベルを上げて操作を再試行します。
- エラーが発生した時点からの Web サービスのログを収集して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。Web サービスのログは、`/usr/openv/netbackup/logs/nbwebservice` または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nbwebservice` にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7477

メッセージ: アクティブで暗号化されたディスクプールの詳細の取得に失敗しました。(Failed to get active and encrypted disk pools details.)

説明: NetBackup で、アクティブで暗号化されたディスクプールの詳細の取得を試行したときに、データベース問い合わせレベルのエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- エラーの追加情報について詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。
- ログレベルを上げて操作を再試行します。
- エラーが発生した時点からの Web サービスのログを収集して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。Web サービスのログは、`/usr/openv/netbackup/logs/nbwebservice` または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nbwebservice` にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7600

メッセージ: 原因不明の内部エラーが発生しました。

説明: vnetd プロキシプロセスで内部エラーが発生しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7601

メッセージ: サービスを PBX に登録できませんでした。

説明: vnetd HTTP トンネルプロセスは、Private Branch Exchange サービスへの登録に失敗し、着信接続を受け入れられません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- pbx_exchange サービスが実行中であることを確認します。実行中でない場合は、サービスを開始します。
- 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7603

メッセージ: PBX の初期化に失敗しました。

説明: vnetd HTTP トンネルプロセスは Private Branch Exchange クライアントライブラリの初期化に失敗し、着信接続を受け入れられません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7604

メッセージ: リアクタでの PBX アクセプタの登録に失敗しました。

説明: vnetd HTTP トンネルプロセスで内部エラーが発生し、着信接続を受け入れられません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7607

メッセージ: ソケットの非ブロッキングモード設定に失敗しました。

説明: vnetd プロキシがソケットの非ブロッキングモードを設定できません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7609

メッセージ: リアクタイベントハンドラ操作の実行に失敗しました。

説明: vnetd プロキシで内部エラーが発生し、イベント通知に登録できませんでした。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7610

メッセージ: 指定されたオブジェクトの解析に失敗しました。(Failed to parse the specified object.)

説明: vnetd プロキシは、要求の詳細情報を含んでいるオブジェクトを解析できませんでした。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7611

メッセージ: 接続プロトコルエラーが発生しました。

説明: vnetd プロキシでエンドポイント間の通信プロトコルエラーが発生しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7612

メッセージ: 予想外のプロトコルイベントが発生しました。

説明: vnetd プロキシ間でプロトコルエラーが発生しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7613

メッセージ: ホストのルックアップが失敗しました

説明: vnetdプロキシは、この接続のソースホストまたはターゲットホストのいずれかで接続バインドを完了できませんでした。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7614

メッセージ: ホストで有効なソース-ターゲットバインドがありません。

説明: vnetd プロキシは、この接続のソースホストとターゲットホストの間で無効なバインドを検出しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7617

メッセージ: JSON 変換エラーが発生しました。

説明: vnetd プロキシは、JSON オブジェクトを文字列に変換できませんでした。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7618

メッセージ: JSON キーを見つけるのに失敗しました。

説明: vnetd プロキシは JSON キーを取得できませんでした。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7619

メッセージ: 指定したステートマシンはまだ有効です。

説明: vnetd プロキシステートマシンはビジー状態です。要求は処理を待機します。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7622

メッセージ: 入力 I/O が必要です。

説明: vnetd プロキシでは、進行中の I/O 操作を満たすためにピアプロセスへのソケット入力が必要です。

推奨処置: 通常の状況で、このメッセージが vnetd プロキシのログに表示される場合があります。ユーザー操作は必要ありません。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7623

メッセージ: 出力 I/O が必要です。

説明: NetBackup プロセスでは、進行中の I/O 操作を満たすためにピアプロセスへのソケット出力が必要です。

推奨処置: 通常の状況で、このメッセージが NetBackup プロセスのログに表示される場合があります。ユーザー操作は必要ありません。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7624

メッセージ: SSL ソケットの承認に失敗しました。

説明: NetBackup プロセスは、リモートホストの vnetd プロキシとの SSL ハンドシェークを完了できませんでした。

推奨処置: エラーメッセージの詳細を調べて、SSL ハンドシェークが失敗した原因を判断します。このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- ローカルホストまたはリモートホストのホスト証明書の欠落、期限切れ、または失効。NetBackup CA の場合は、ホストにホスト ID ベースの有効な証明書があることを確認します。外部 CA の場合は、外部証明書構成ファイルで外部証明書とキーストアのパスが正しく設定されていることを確認します。暗号化されたキーストアを使用するようにホストが構成されている場合は、証明書の秘密鍵の正しいパスフレーズが ECA_KEY_PASSPHRASEFILE 構成オプションで指定されていることを確認します。
- ローカルホストまたはリモートホストでの過度のクロックスキュー。クロックスキューについて詳しくは、NetBackup『 セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- ローカルホストまたはリモートホストで NetBackup SECURE_PROXY_CIPHER_LIST 構成オプションを使用する場合、暗号文字列エントリが無効である可能性があります。暗号文字列がホスト間で互換であることを確認します。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7625

メッセージ: SSL ソケットの接続に失敗しました。

説明: NetBackup プロセスは、リモートホストの vnetd プロキシとの SSL ハンドシェークを完了できませんでした。

推奨処置: エラーメッセージの詳細を調べて、SSL ハンドシェークが失敗した原因を判断します。このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- ローカルホストまたはリモートホストのホスト証明書の欠落、期限切れ、または失効。NetBackup CA の場合は、ホストにホスト ID ベースの有効な証明書があることを確認します。外部 CA の場合は、外部証明書構成ファイルで外部証明書とキーストアのパスが正しく設定されていることを確認します。暗号化されたキーストアを使用するようにホストが構成されている場合は、証明書の秘密鍵の正しいパスフレーズが ECA_KEY_PASSPHRASEFILE 構成オプションで指定されていることを確認します。
- ローカルホストまたはリモートホストでの過度のクロックスキュー。クロックスキューについて詳しくは、NetBackup『 セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

- ローカルホストまたはリモートホストで NetBackup SECURE_PROXY_CIPHER_LIST 構成オプションを使用する場合、暗号文字列エントリが無効である可能性があります。暗号文字列がホスト間で互換であることを確認します。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7627

メッセージ: SSL の初期化に失敗しました。

説明: NetBackup プロセスは SSL 環境の初期化を完了できませんでした。

VMware の場合、機能 VIRTUALIZATION_HOSTS_SECURE_CONNECT_ENABLED が有効で、仮想化サーバーの CA 証明書が ECA の構成済みトラストストアに追加されていない、または ECA トラストストアが正しく構成されていない場合に、このエラーが発生する場合があります。

推奨処置: エラーメッセージの詳細を調べて、SSL ハンドシェークが失敗した原因を判断します。このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- ホスト証明書の欠落、期限切れ、または失効。NetBackup CA の場合は、ホストにホスト ID ベースの有効な証明書があることを確認します。外部 CA の場合は、外部証明書構成ファイルで外部証明書とキーストアのパスが正しく設定されていることを確認します。暗号化されたキーストアを使用するようにホストが構成されている場合、証明書の秘密鍵の正しいパスフレーズが ECA_KEY_PASSPHRASEFILE 構成オプションで指定されていることを確認します。
- ホストの過度のクロックスキュー。クロックスキューについて詳しくは、NetBackup『セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- NetBackup SECURE_PROXY_CIPHER_LIST 構成オプションを使用する場合、暗号文字列エントリが無効である可能性があります。暗号文字列が許可される OpenSSL 文字列であることを確認します。
- VMware の場合:
  - VIRTUALIZATION_HOSTS_SECURE_CONNECT_ENABLED オプションが有効な場合、証明書と CRL の配置を確認する必要があります。VMware 仮想化サーバー (vCenter、ESX、ESXi) の証明書と CRL が、ECA の構成済みトラストストアと CRL パスにそれぞれ追加されていることを確認します。
  - 証明書と CRL ファイルが正しい形式で、トラストストアファイルと CRL ファイルが破損していないことを確認します。
  - 仮想化サーバーでサポートされるのは、ファイルベースのトラストストアと Windows トラストストアの PEM 証明書形式のみです。P7b または DER 形式のファイルベースのトラストストアは、サポートされません。この機能が有効な場合、証明書

ECA ストアは、Windows 証明書ストアかファイルベースの PEM 形式ストアである必要があります。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7628

メッセージ: VxSS の初期化に失敗しました。

説明: vnetd プロキシは VxSS 環境の初期化を完了できませんでした。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7631

メッセージ: 証明書のパスの検索に失敗しました。

説明: NetBackup プロセスは、ホスト ID 証明書のパスを見つけられませんでした。

推奨処置: NetBackup CA の場合は、ホストにホスト ID ベースの有効な証明書があることを確認します。外部 CA の場合は、ホストに有効な外部 CA が署名した証明書があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7632

メッセージ: プロトコルの健全性検査に失敗しました。

説明: ソケットで想定されるプロトコルを受信しなかったため、vnetd プロキシプロトコル検査は失敗しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7633

メッセージ: ステートマシンが完了する前に終了しました。

説明: vnetd プロキシは、完了する前に内部状態を終了しました。

推奨処置: 通常の状況で、このメッセージが vnetd プロキシのログに表示される場合があります。ユーザー操作は必要ありません。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7634

メッセージ: ユーザーの UNIX ドメインソケットリスナーの設定に失敗しました。

説明: vnetd プロキシプロセスは、リスナー UNIX ドメインソケットの初期化に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、状態メッセージを確認してください。必要なファイルを作成する権限をプロセスが持っていないか、またはディスクボリュームに空きがなくなっている可能性があります。状態および /usr/openv/var/proxy.d (Linux) または *install_path*¥NetBackup¥var¥proxy.d (Windows) の内容を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7635

メッセージ: ローカルのアクセプタ作成に失敗しました。

説明: vnetd プロキシプロセスは、アクセプタソケットの初期化に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、状態メッセージを確認してください。listen ポートの競合、または proxy.d ディレクトリやその内容に許可または空き容量の問題がある可能性があります。ディレクトリは /usr/openv/var または *install_path*¥NetBackup¥var にあります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7636

メッセージ: リモートプロセスからソケットをインポートできませんでした。

説明: vnetd プロキシプロセスは、別の NetBackup プロセスからのソケットのインポートに失敗しました。

推奨処置: このエラーは一時的な問題で、ファイル記述子を一時的に使用できないことが原因と考えられます。したがって、操作を再試行してください。その他の根本原因については、nbpxyhelper ログを確認するか、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7637

メッセージ: リモートプロセスにソケットをエクスポートできませんでした。

説明: vnetd プロキシプロセスは、別の NetBackup プロセスへのソケットのエクスポートに失敗しました。

推奨処置: このエラーは一時的な問題で、ファイル記述子を一時的に使用できないことが原因と考えられます。したがって、操作を再試行してください。その他の根本原因については、nbpxyhelper ログを確認するか、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7638

メッセージ: ソケットペアの作成に失敗しました。

説明: vnetd プロキシプロセスは、内部パイプの作成に失敗しました。

推奨処置: このエラーは一時的な問題で、ファイル記述子または TCP ポートを一時的に使用できないことが原因と考えられます。したがって、操作を再試行してください。その他の根本原因については、nbpxyhelper ログを確認するか、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7639

メッセージ: ピア名マッピングの作成に失敗しました。

説明: vnetd プロキシは、ピアマッピングファイル内の情報の設定に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、状態メッセージを確認してください。必要なファイルを作成する権限をプロセスが持っていないか、またはディスクボリュームに空きがなくなっている可能性があります。状態および /usr/openv/cache/proxy.d (Linux) または *install_path*¥NetBackup¥cache¥proxy.d (Windows) の内容を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7640

メッセージ: ピアが接続を閉じました。

説明: ピアが vnetd プロキシ接続を閉じました。

推奨処置: 通常の状況で、このメッセージが vnetd プロキシのログに表示される場合があります。ユーザー操作は必要ありません。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

詳しくは、https://support.cohesity.com/s/article/article-100039945 の技術情報の記事を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7641

メッセージ: 安全にハンドシェークする一般的なルート CA が見つかりませんでした。

説明: NetBackup プロセスは、共通のルート認証局が見つからないため、リモートホストの vnetd プロキシとの SSL ハンドシェークを開始できません。

推奨処置: 各 NetBackup プロセスがアドバタイズしたルート CA の詳細をエラーメッセージで調べます。次に示すのはこのエラーの考えられる原因です。

- 推奨処置: ローカルホストまたはリモートホストのホスト証明書の欠落、期限切れ、または失効。NetBackup CA の場合は、ホストにホスト ID ベースの有効な証明書があることを確認します。外部 CA の場合は、外部証明書構成ファイルで外部証明書とキーストアのパスが正しく設定されていることを確認します。暗号化されたキーストアを使用するようにホストが構成されている場合は、証明書の秘密鍵の正しいパスフレーズが ECA_KEY_PASSPHRASEFILE 構成オプションで指定されていることを確認します。
- 推奨処置: ホストが同じ NetBackup ドメインのメンバーではない。NetBackup CA の場合は、両方のホストに、必要なマスターサーバーによって発行されたホスト ID ベースの証明書があることを確認します。外部 CA の場合は、両方のホストに、必要なマスターサーバーに登録された外部証明書があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7642

メッセージ: Java GUI セッショントークンの検証に失敗しました。

説明: vnetd プロキシは、NetBackup 管理コンソールから受信したセッショントークンを検証できません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. NetBackup 管理コンソールを起動したユーザーの認証を確認します。

   『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』で、NetBackup ユーザーの認可について」を参照してください。

2. NetBackup 管理コンソールを閉じます。

3. NetBackup 管理コンソールの新しいインスタンスを起動し、[アクティビティモニター (Activity Monitor)]を開きます。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7643

メッセージ: ホストの検証を実行できないため、接続を確立できません。

説明: ホストの検証中に内部エラーが発生しました。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7645

メッセージ: 証明書情報から名前を取得できませんでした。

説明: NetBackup プロセスは、リモートホスト証明書から必要な情報を抽出できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7647

メッセージ: プロキシピアがプロキシプロトコルに準拠していません。

説明: `vnetd` プロキシは、そのピアが `vnetd` プロキシであることを検証できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7648

メッセージ: ホストの検証が失敗したため、接続を確立できません。

説明: ホストの検証が正常に実行されませんでした。

推奨処置: NetBackup マスターサーバー名とホスト名が正しく設定されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7649

メッセージ: キャッシュから取得されたデータが有効な形式ではありません。

説明: キャッシュから取得されたホストの検証情報は、有効な形式ではありません。

推奨処置: ピアホストのキャッシュエントリを削除し、操作を再試行してください。`bpclntcmd -clear_host_cache` を使用します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7650

メッセージ: サーバーから取得されたデータが有効な形式ではありません。

説明: マスターサーバーから取得されたホストの検証情報は、有効な形式ではありません。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7651

メッセージ: 監査理由を処理できませんでした。

説明: `X-NetBackup-Audit-Reason` HTTP ヘッダーを復号できません。ヘッダーが正しくエンコードされていない可能性があります。非 ASCII 文字は UTF-8 文字列を使用して暗号化する必要があります。

推奨処置: 非 ASCII 文字を表す適切な UTF-8 文字列を使用して `X-NetBackup-Audit-Reason` HTTP ヘッダーを暗号化してから、HTTP Web サービス要求を再送信します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7652

メッセージ: 安全な通信のプロキシを使用できません。

説明: 安全な通信のプロキシのプロセス vnetd が実行されていないか、ホスト間接続の保護に利用できません。

推奨処置: vnetd プロセスとそのプロキシが実行されていることを確認してください。Windows の場合は、[タスクマネージャー]の[プロセス]タブ ([コマンドライン]列の表示が必要) を使用できます。UNIX と Linux の場合は、次のように NetBackup bpps コマンドを使用できます。

```
$ bpps
…output shortened…
root  13577  1  0 Aug27 ?  00:00:04 /usr/openv/netbackup/bin/vnetd -standalone
root  13606  1  0 Aug27 ?  00:01:55 /usr/openv/netbackup/bin/vnetd -proxy inbound_proxy

 -number 0
root  13608  1  0 Aug27 ?  00:00:06 /usr/openv/netbackup/bin/vnetd -proxy outbound_proxy

 -number 0
```

実行中の vnetd プロセスまたはプロキシに応じて、次を実行します。

- vnetd プロセス (-standalone) を実行していない場合は起動します。
- vnetd プロセスが実行中の場合は、vnetd のデバッグログで、vnetd がプロキシのプロセスを起動しようとしていることを確認します。
- vnetd プロセスがプロキシのプロセスを起動しようとしている場合は、nbpxyhelper のデバッグログで、プロキシのプロセスが接続を待機しない理由を確認します。

問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7653

メッセージ: ピア証明書は無効化されています

メモ: NetBackup 管理コンソールにログオンしているときに別のエラーメッセージとともにスローされ、ログインできなくなります。

説明: ホスト証明書が CRL に存在しますが、無効になっています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生して証明書が無効になった場合は該当ホストの証明書を再発行します。
- 意図的に証明書が無効になった場合はセキュリティ違反の操作が試行された可能性があります。
- セキュリティ管理者に連絡します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7654

メッセージ: 証明書失効リストが無効です

メモ: NetBackup 管理コンソールにログオンしているときに別のエラーメッセージとともにスローされ、ログインできなくなります。

説明: 証明書失効リスト (CRL) の形式が無効であるため、CRL を使用してホストの証明書の失効状態を確認することができません。

推奨処置: CRL が無効なホストで、管理者として次のコマンドを実行して新たな CRL を取得します。

UNIX の場合:

```
/usr/openv/netbackup/bin/nbcertcmd -getCRL
```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥bin¥nbcertcmd -getCRL
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7655

メッセージ: 証明書失効リストの署名が不正です

メモ: NetBackup 管理コンソールにログオンしているときに別のエラーメッセージとともにスローされ、ログインできなくなります。

説明: 証明書失効リスト (CRL) の署名がマスターサーバーの CA の公開鍵に一致しません。ホスト証明書の失効状態を CRL を使用して確認できません。

推奨処置: CRL が置き換えられている可能性があります。署名が不正な CRL があるホストで、管理者として次のコマンドを実行し、新たな CRL を取得します。

UNIX の場合:

```
/usr/openv/netbackup/bin/nbcertcmd -getCRL
```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥bin¥nbcertcmd -getCRL
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7656

メッセージ: 証明書失効リストの期限が切れています

メモ: NetBackup 管理コンソールにログオンしているときに別のエラーメッセージとともにスローされ、ログインできなくなります。

説明: 証明書失効リスト (CRL) の期限が切れているため、CRL を使用してホスト証明書の失効状態を確認できません。CRL は 7 日間より古くなっています。

推奨処置: CRL が無効なホストで、管理者として次のコマンドを実行して新たな CRL を取得します。

UNIX の場合:

```
/usr/openv/netbackup/bin/nbcertcmd -getCRL
```

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥bin¥nbcertcmd -getCRL
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7657

メッセージ: アクセプタのサービス形式を識別できません

説明: `vnetd` プロキシはアクセプタソケットのサービス形式を判断できませんでした。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7658

メッセージ: ターゲットホストでホストの検証を実行できないため、接続を確立できません。

説明: 接続を設定する際に、リモートホストで内部エラーが発生しました。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7659

メッセージ: ターゲットホストでホストの検証が失敗したため、接続を確立できません。

説明: 接続を設定する際に、リモートホストでホストの検証に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup マスターサーバー名や他のホスト名がリモートホストで正しく設定されていることを確認する。
- このホストの保留中のマッピング要求が承認されたことを確認するか、NetBackup 管理コンソールで[セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ設定 (Global Security Settings)]、[安全な通信 (Secure Communication)]、[NetBackup ホスト ID をホスト名に自動的にマッピングする (Automatically map NetBackup host ID to host names)]オプションの順に選択する。
- NetBackupを最近インストールまたはアップグレードした場合は、セキュリティ証明書がすべてのホストに正しく配備されていることを確認する。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7660

メッセージ: ピアプロキシは証明書プロトコルの使用可能な証明書を見つけることができません

説明: ピアホスト上の `vnetd` プロキシは、利用可能な証明書を見つけて証明書プロトコルを完了できませんでした。

推奨処置: 証明書がプロキシピアホスト上で正常に配備されたことを確認します。証明書が正常に配備された後に問題が発生する場合は、すべてのエラーログ情報を保存し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7662

メッセージ: 外部証明書は自動的に登録できません。(The external certificate cannot be automatically enrolled.) (The peer host's external certificate must be already enrolled.)

説明: ホストの外部証明書の自動登録を行うには、通信するどちらかのホストが外部証明書にすでに登録されている必要があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. `nbcertcmd -listEnrollmentStatus` コマンドを使用して、通信するホストの登録状態を確認します。どちらのホストも登録されていない場合は、`nbcertcmd -enrollCertificate` コマンドを使用して、どちらかのホスト (可能であれば NetBackup サーバー) を手動で登録します。
2. 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7663

メッセージ: 一致するマスターサーバー名が NetBackup 構成ファイルで利用できません。このサーバー名は外部証明書を自動登録する際に必要です。(The matching master server name is not available in the configuration file, which is required for the automatic enrollment of the external certificate.)

説明: 外部証明書の自動登録を行うには、NetBackup 構成ファイルのいずれかのサーバー名が NetBackup の Web サーバー外部証明書のいずれかのサブジェクトの別名と一致している必要があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. マスターサーバー名が対応するホストの NetBackup 構成ファイルにサーバーエントリとして追加されていることを確認します。
2. サーバーエントリがある場合は、NetBackup の Web サーバー外部証明書の `subjectAltName` 拡張を確認します。その後、NetBackup 構成ファイルのサーバーエントリを正しいサーバー名に更新します。
3. NetBackup 構成には正しいサーバーエントリが登録されていて、`subjectAltName` 拡張に必要なホスト名が登録されていない場合は、セキュリティ管理者にお問い合わせください。`subjetAltName` 拡張が正しい外部証明書を取得する必要があります。

4. 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7720

メッセージ: NetBackup ホストの外部証明書は構成されていないため削除できません。(External certificate is not configured for the NetBackup host, therefore it cannot be removed.)

説明: NetBackup ホストに対して証明書が構成されていないため、コマンドラインを使用して証明書を削除することはできません。

推奨処置: この操作を実行する前に、外部証明書が構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7721

メッセージ: NetBackup Web UI の外部証明書は構成されていないため削除できません。(External certificate is not configured for the NetBackup web UI, therefore it cannot be removed.)

説明: NetBackup Web UI に対して証明書が構成されていないため、コマンドラインを使用して証明書を削除することはできません。

推奨処置: この操作を実行する前に、外部証明書が構成されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7722

メッセージ: 指定された証明書を削除した場合、NetBackup のホスト通信は失敗します。(NetBackup host communication fails if you remove the given certificate.)

説明: ホストの通信には、NetBackup 証明書または外部証明書のいずれかが必要です。

推奨処置: NetBackup 証明書または外部証明書のいずれかがホストの通信に存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7723

メッセージ: 証明書を削除した場合、NetBackup Web UI との通信は失敗します。(Communication with the NetBackup web UI fails if you remove the certificate.)

説明: Web UI の NetBackup 証明書または外部証明書のいずれかが通信に必要です。

推奨処置: Web UI の NetBackup 証明書または外部証明書のいずれかが通信用に存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7724

メッセージ: 証明書を削除できません。(The certificate cannot be removed.)

説明: NetBackup Web サーバーの構成中に内部エラーが発生しました。

推奨処置: オペレーティングシステムに基づいてエラーが発生した時点以降のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

- `/usr/openv/wmc/webserver/logs/` または *`install_path`*`¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥` ディレクトリから、`configureWebServerCerts.log` を収集します。
- `/usr/openv/netbackup/logs/nbwebservice` または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nbwebservice` ディレクトリから `*.log` を収集します。
- `/usr/openv/netbackup/bin/admincmd` または *`install_path`*`¥NetBackup¥bin¥admincmd` ディレクトリから、`nbauditreport` コマンドを使用して監査レコードを収集します。
- `/usr/openv/netbackup/logs/nblibcurlcmd` または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nblibcurlcmd` ディレクトリから `*.log` を収集します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7725

メッセージ: 証明書のリストを取得できません。(List of certificates cannot be retrieved.)

説明: NetBackup で証明書の読み込み中に内部エラーが発生しました。

推奨処置: オペレーティングシステムに基づいてエラーが発生した時点以降のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

- /usr/openv/wmc/webserver/logs/ または *install_path*¥Veritas¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥ ディレクトリから、configureWebServerCerts.log を収集します。
- /usr/openv/netbackup/logs/nbwebservice または *install_path*¥Veritas¥NetBackup¥logs¥nbwebservice ディレクトリから *.log を収集します。
- /usr/openv/netbackup/bin/admincmd または *install_path*¥Veritas¥NetBackup¥bin¥admincmd ディレクトリから、nbauditreport コマンドを使用して監査レコードを収集します。
- /usr/openv/netbackup/logs/nblibcurlcmd または *install_path*¥Veritas¥NetBackup¥logs¥nblibcurlcmd ディレクトリから *.log を収集します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7726

メッセージ**:** 証明書 ID が無効です。(The certificate ID is not valid.)

説明**:** 証明書の構成中または削除時に指定された証明書 ID が無効です。

推奨処置**:** 次に示す処理のいずれかを実行する場合は、有効な証明書 ID を指定する必要があります。

1. NetBackup の証明書を構成または削除します。
2. NetBackup ホストの外部証明書を構成または削除します。
3. NetBackup Web UI 用に外部証明書を構成または削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7727

メッセージ**:** NetBackup CA が発行した証明書を NetBackup API を使用して削除することはできません。(The NetBackup CA-issued certificates cannot be deleted using NetBackup APIs.)

説明**:** この操作は、API では実行できません。

推奨処置**:** configureWebServerCerts -removeNBCert コマンドを使用して証明書を削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7728

メッセージ: ECA 構成の入力ファイルが無効です。(The input file of ECA configuration is not valid.)

説明: 証明書の詳細が必要な形式ではないか、無効です。

推奨処置: 入力ファイルが必要な形式であることを確認します。NetBackup **のインストールディレクトリ**/var/global/wsl/credentials フォルダの権限を確認します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログを保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7729

メッセージ: 指定された CRL チェックレベルの値が無効です。(The specified CRL check level value is not valid.)

説明: CRL チェックレベルは、許可された値のいずれかである必要があります。

推奨処置: 次の CRL チェックレベルのいずれかを指定します: CHAIN、LEAF、または DISABLE。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7730

メッセージ: 秘密鍵を追加できません。(The private key cannot be added.)

説明: 外部証明書の詳細が必要な形式でないか、その形式が FIPS モードでサポートされていない可能性があります。

推奨処置: 外部証明書パラメータ (証明書チェーン、秘密鍵、トラストストア) が正しい形式であることを確認します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログを保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7731

メッセージ: トラストストアバンドルを追加できません。(The trust bundle cannot be added.)

説明: 外部証明書の詳細が必要な形式でない可能性があります。

推奨処置: 外部証明書パラメータ (証明書チェーン、秘密鍵、トラストストア) が正しい形式であることを確認します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログを保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7732

メッセージ: NetBackup CA が発行した証明書を NetBackup API を使用して追加することはできません。(The NetBackup CA-issued certificates cannot be added using NetBackup APIs.)

説明: この操作は、API では実行できません。

推奨処置: `configureWebServerCerts -addNBCert` コマンドを使用して証明書を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7733

メッセージ: NetBackup Web UI の外部証明書を削除できません。(External certificate of the NetBackup web UI cannot be removed.)

説明: NetBackup で、NetBackup Web UI の外部証明書の削除を試行したときに内部エラーが発生しました。

推奨処置: オペレーティングシステムに基づいてエラーが発生した時点以降のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

- `/usr/openv/wmc/webserver/logs/` または *`install_path`*`¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥` ディレクトリから、`configureWebServerCerts.log` を収集します。
- `/usr/openv/netbackup/logs/nbwebservice` または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nbwebservice` ディレクトリから `*.log` を収集します。
- `/usr/openv/netbackup/bin/admincmd` または *`install_path`*`¥NetBackup¥bin¥admincmd` ディレクトリから、`nbauditreport` コマンドを使用して監査レコードを収集します。
- `/usr/openv/netbackup/logs/nblibcurlcmd` または *`install_path`*`¥NetBackup¥logs¥nblibcurlcmd` ディレクトリから `*.log` を収集します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7734

メッセージ: NetBackup ホストの外部証明書を削除できません。(External certificate of the NetBackup host cannot be removed.)

説明: NetBackup で、NetBackup ホストの外部証明書の削除を試行したときに内部エラーが発生しました。

推奨処置: オペレーティングシステムに基づいてエラーが発生した時点以降のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

- /usr/openv/wmc/webserver/logs/ または *install_path*¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥ ディレクトリから、configureWebServerCerts.log を収集します。
- /usr/openv/netbackup/logs/nbwebservice または *install_path*¥NetBackup¥logs¥nbwebservice ディレクトリから *.log を収集します。
- /usr/openv/netbackup/bin/admincmd または *install_path*¥NetBackup¥bin¥admincmd ディレクトリから、nbauditreport コマンドを使用して監査レコードを収集します。
- /usr/openv/netbackup/logs/nblibcurlcmd または *install_path*¥NetBackup¥logs¥nblibcurlcmd ディレクトリから *.log を収集します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7750

メッセージ: ダッシュボードセキュリティ状態の要求または送信されるデータが無効です。(The dashboard security status request or the data that is sent is not valid.)

説明: セキュリティ構成要求をフェッチしようとしましたが、失敗しました。要求またはデータが無効です。

推奨処置: 有効な要求とデータを使用して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7751

メッセージ: セキュリティ状態の要求を処理できません。

説明: このエラーは、要求の処理中に予期しない内部エラーが発生した場合に、NetBackup セキュリティダッシュボード API から報告される場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- エラーの追加情報について詳しくは、NetBackup のトラブルシューティングガイドを参照してください。
- ログレベルを上げて操作を再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7752

メッセージ: Alta View ユーザーが操作を実行する必要があります。(The Alta View user should perform the operation.)

説明: Alta View ユーザーは、セキュリティベースライン情報を保存します。変更できるのは Alta View ユーザーのみです。

推奨処置: Alta View から操作を実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7800

メッセージ: すべての ID プロバイダの詳細を表示できません。(Unable to display the details for all identity providers)

説明: Web サービスは、データベースと通信して、必要なレコードを取得できません。

推奨処置: 操作を再試行するか、データベース接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7801

メッセージ: 指定された名前の ID プロバイダの詳細を表示できません。

説明: Web サービスは、データベースと通信して、必要なレコードを取得できません。

推奨処置: 操作を再試行するか、データベース接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7802

メッセージ: ID プロバイダの追加に失敗しました。(Unable to display the details for the identity provider with the specified name.)

説明: Web サービスは、データベースと通信して、指定したレコードを追加できません。

推奨処置: 操作を再試行するか、データベース接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7803

メッセージ: IDP 構成に無効な引数または詳細が含まれています。

説明: IDP 構成に無効な引数または詳細が含まれています。問題として、引数の数が正しくない、値が正しくない、またはメタデータの内容が正しくないことが考えられます。

推奨処置: すべての引数値を確認して、それらが正しいことを確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7804

メッセージ: ID プロバイダの構成の削除に失敗しました。(Failed to delete the configuration for the identity provider.)

説明: Web サービスは、データベースと通信して、指定した ID のレコードを削除できません。

推奨処置: 操作を再試行するか、データベース接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7805

メッセージ: 指定された名前を持つ構成済みの ID プロバイダの詳細を更新できませんでした。

説明: Web サービスは、データベースと通信して、指定した名前のレコードを更新できません。

推奨処置: 操作を再試行するか、データベース接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7806

メッセージ: 指定された名前の IDP 構成はすでに存在します。

説明: 同じ名前の別の IDP 構成の追加が試行されました。

推奨処置: 使用したIDP構成名を確認し、別の名前を使用してIDP構成を追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7807

メッセージ: 指定された名前の IDP 構成は存在しません。

説明: 正しくない、または存在しない名前の IDP 構成の更新または表示が試行されました。

推奨処置: 正しい IDP 構成名または既存の IDP 構成名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7808

メッセージ: 空または NULL の名前が指定されました。

説明: 操作で空または NULL の名前が指定されました。

推奨処置: 空でない名前またはNULL以外の名前を指定します。操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7809

メッセージ: 無効な IDP 構成名が指定されました。名前には次の文字のみを含められます: a-z、a-z、0-9、-、_。

説明: このコードは、名前にこのカテゴリ (a-z、A-Z、0-9、-、_) 以外の文字が含まれている場合に表示されます。

推奨処置: このカテゴリ (a-z、A-Z、0-9、-、_) の文字を使用した名前を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7810

メッセージ: サービスプロバイダのメタデータの取得に失敗しました。

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- IDP メタデータ XML ファイルに不適切な IDP メタデータコンテンツがあります。
- Java キーストアファイルまたは Java キーストアパスワードファイルがありません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- メタデータファイルを確認し、正しい IDP メタデータコンテンツを提供します。
- Java キーストアを生成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7811

メッセージ: 有効になっている IDP 構成がすでに存在するときに、新しいまたは既存の IDP 構成を有効化しようとしました。

説明: 有効になっている IDP 構成がすでに存在するときに、新しいまたは既存の IDP 構成を有効化しようとしました。

推奨処置: 有効な IDP を無効にしてから、必要な操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7812

メッセージ: 少なくとも 1 つの IDP 構成を有効にする必要があります。

説明: このコードは通知メッセージです。IDP 構成が有効になっていない場合、[シングルサインオン (Single sign-on)]ボタンはサインイン画面に表示されません。

推奨処置: IDP の構成を確認し、少なくとも 1 つの構成を有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7813

メッセージ: ID プロバイダの更新ペイロードで、enable フィールドまたは metadata フィールドが存在しません。指定された名前を持つ構成済みの ID プロバイダの詳細を更新するには、このいずれかのフィールドが必要です。

説明: IDP の構成を更新しようとしましたが、次の必須フィールドの 1 つが含まれていませんでした。

- CLI フィールド: `-e` (enable)
- CLI フィールド: `-mxp` (metadata)
- API ペイロードフィールド: `enable`
- API ペイロードフィールド: `idpMetadata`

指定された名前を持つ構成済みの ID プロバイダの詳細を更新するには、このいずれかのフィールドが必要です。

推奨処置: CLI を使用するか、更新 API ペイロードの `enable` フィールドまたは `idpMetadata` フィールドを使用して、`-e` (enable) フィールドまたは `-mxp` (metadata) フィールドの値を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7814

メッセージ: 指定されたファイルが、予想されている形式ではありません。

説明: メタデータファイルが正しい `.xml` 形式ではありません。

推奨処置: メタデータファイルが正しい `.xml` 形式であることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7815

メッセージ: IDP サーバーへのリダイレクトに失敗しました。

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- IDP メタデータ XML ファイルに不適切な IDP メタデータコンテンツがあります。
- Java キーストアファイルまたは Java キーストアパスワードファイルがありません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- メタデータファイルを確認し、正しい IDP メタデータコンテンツを提供します。
- Java キーストアを生成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7850

メッセージ: インスタントアクセスのエラーのため、マウントを作成できません。(Unable to create mount due to an error in Instant Access.)

説明: NetBackup は、指定したバックアップイメージに対してインスタントアクセスマウントを作成できません。

推奨処置: インスタントアクセス用の BYO が完了し、インスタントアクセスが正しく機能することを確認します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7851

メッセージ: インスタントアクセスのエラーのため、マウントの状態を確認できません。(Unable to check status of the mount due to an error in Instant Access.)

説明: この問題は、マウントが非アクティブになった場合、またはマウントの状態チェックが失敗した場合に発生します。

推奨処置: インスタントアクセス用の BYO が完了し、インスタントアクセスが正しく機能することを確認します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7852

メッセージ: 作業負荷は、マルウェア検出についてはサポートされていません。(Workload is not supported for malware detection.)

説明: バックアップイメージの作業負荷が、標準または Windows の作業負荷ではありません。

推奨処置: マルウェア検出では、標準および Windows の作業負荷のみがサポートされます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7853

メッセージ: イメージの詳細をカタログから取得できません。(Unable to get details of the image from the catalog.)

説明: バックアップイメージの詳細をカタログから取得できません。

推奨処置: バックアップイメージがカタログに存在し、期限切れでないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7854

メッセージ: 指定されたスキャンホストプールは無効です。(Specified scan host pool is invalid.)

説明: 要求に無効なスキャンホストプール ID が含まれていました。

推奨処置: 有効なスキャンホストプールを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7855

メッセージ: 作業リストを作成できません。(Unable to create a worklist.)

説明: スキャンからバックアップイメージのリストを作成できません。

推奨処置: NetBackup サービスが実行中であることを確認します。また、データベースが利用可能であることも確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7856

メッセージ: `backupId` が無効です。(Invalid backupId.)

説明: すべてのバックアップイメージがスキップされると、オンデマンドスキャンは次のいずれかの理由でエラーを返します。

- バックアップイメージでホストプールのスキャンがすでに進行中である。
- バックアップイメージに IA 対応コピーがない。
- バックアップイメージに、ストレージサーバーに関連付けられている有効なメディアサーバーがない。例: NetBackup バージョン 9.1.2 以降の Linux メディアサーバー。

推奨処置: 必要に応じて次の事項を確認します。

- バックアップイメージでホストプールのスキャンがすでに進行中かどうか。
- バックアップイメージにインスタントアクセス対応コピーがあるかどうか。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- メディアサーバーには Linux および NetBackup バージョン 9.1.2 以降が必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7857

メッセージ: 要求でスキャンホストプールが指定されていません。(Scan host pool is not provided in the request.)

説明: 要求でスキャンホストプールが指定されていません。

推奨処置: 有効なスキャンホストプールを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7858

メッセージ: 要求でマルウェアツールが指定されていません。(Malware tool is not specified in the request.)

説明: 要求でマルウェアツールが指定されていません。

推奨処置: 有効なマルウェアツールを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7859

メッセージ: 要求でスキャンホスト名が指定されていません。(Scan host name is not specified in the request.)

説明: スキャンホスト名が指定されていません。

推奨処置: 一意のスキャンホスト名を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7860

メッセージ: 要求でスキャンホストプール名が指定されていません。(Scan host pool name is not specified in the request.)

説明: 新しいスキャンホストプールが作成されたときに、スキャンホストプール名が指定されませんでした。

推奨処置: 新しいスキャンホストプールの作成時に、一意のスキャンホストプール名を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7861

メッセージ: 要求で共有タイプが指定されていません。(Share type is not specified in the request.)

説明: 指定した共有タイプが要求にありません。

推奨処置: 有効な共有タイプを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7862

メッセージ: 指定されたマルウェアツールが無効です。(Specified malware tool is invalid.)

説明: 要求で指定されているマルウェアツールが無効です。

推奨処置: 有効なマルウェアツールを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7863

メッセージ: 指定されたスキャンホストは無効です。(Specified scan host is invalid.)

説明: 要求で指定されたスキャンホスト ID が無効です。

推奨処置: 有効なスキャンホスト ID を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7864

メッセージ: スキャンホスト名がデータベースにすでに存在するため、スキャンホストを作成できません。(The scan host cannot be created because the scan host name already exists in the database.)

説明: 同じ名前のスキャンホストがすでに存在します。

推奨処置: 一意のスキャンホスト名を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7865

メッセージ: スキャンホストプール名がデータベースにすでに存在するため、スキャンホストプールを作成できません。(The scan host pool cannot be created because the scan host pool name already exists in the database.)

説明: 同じ名前のスキャンホストプールが NetBackup にすでに存在します。

推奨処置: 一意のスキャンホストプール名を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7866

メッセージ: 指定されたマルウェアツールが存在しません。(The specified malware tool does not exist.)

説明: 要求で指定されたマルウェアツール ID が、サポート対象のマルウェアツールリストにありません。

推奨処置: サポート対象のマルウェアツールリストから、有効なマルウェアツール ID を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7867

メッセージ: マルウェアツール名がデータベースにすでに存在するため、マルウェアツールを作成できません。(The malware tool cannot be created because the malware tool name already exists in the database.)

説明: 要求で指定されているマルウェアツールがすでにシステムに追加されています。

推奨処置: マルウェアツール名は一意であることが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7868

メッセージ: 指定されたスキャンホストが存在しません。(The specified scan host does not exist.)

説明: 指定されたスキャンホストが存在しません。

推奨処置: 有効なスキャンホストを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7869

メッセージ: 指定されたスキャンホストプールが存在しません。(The specified scan host pool does not exist.)

説明: スキャンホストプールが存在しません。

推奨処置: 有効なスキャンホストプールを指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7870

メッセージ: 指定されたスキャン結果が存在しません。(The specified scan result does not exist.)

説明: 要求で指定されたスキャン結果がシステムに存在しません。

推奨処置: スキャン結果はシステムに存在する必要があります。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7871

メッセージ: スキャン結果の要求が無効です。(Invalid scan result request.)

説明: 指定された要求が無効です。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7872

メッセージ: 指定されたスキャンホストプールについてスキャンホストが見つかりません。(No scan host was found for the specified scan host pool.)

説明: スキャンホストプールに関連付けられているスキャンホストがありません。

推奨処置: スキャンホストをスキャンホストプールと関連付ける必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7873

メッセージ: インスタントアクセスのエラーのため、マウントを削除できません。(Unable to delete the mount due to an error in Instant Access.)

説明: バックアップイメージに関連付けられたマウントを削除できません。

推奨処置: インスタントアクセスが機能し、バックアップイメージがマウントされていることを確認します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7874

メッセージ: カタログクライアントごとにバックアップイメージを更新できません。(Unable to update the backup image by catalog client.)

説明: カタログのバックアップイメージのマルウェアスキャン結果を更新できません。

推奨処置: バックアップイメージがカタログに存在し、そのイメージが期限切れでないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7875

メッセージ: `worklistId` が無効です。(Invalid worklist id.)

説明: 要求に無効な `worklistId` があります。

推奨処置: 要求に有効な `worklistId` なタグ付けされていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7876

メッセージ: スキャンホストのクレデンシャルが無効です。(Invalid scan host credentials.)

説明: スキャンホストに無効なクレデンシャルが関連付けられています。

推奨処置: スキャンホストプールに SMB 共有がある場合は、スキャンホストに関連付けられているクレデンシャルに Active Directory の詳細が指定されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7877

メッセージ: イメージカタログに無効なメディアサーバーがあります。(Invalid media server in image catalog.)

説明: この問題は、次のいずれかが原因で発生する可能性があります。

- 利用可能な Linux メディアサーバーがない。
- Linux メディアサーバーに NetBackup バージョン 9.1.2 以降がインストールされていない。
- サポート対象のメディアサーバーのいずれかがスキャン時に利用できない。
- メディアサーバーの詳細を取得できない。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- メディアサーバーをバージョン 9.1.2 以降にアップグレードします。
- メディアサーバーの OS が Linux かどうかを確認します。
- サポート対象のメディアサーバーが利用可能で、マスターサーバーに接続されているかどうかを確認します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7878

メッセージ: メディアサーバーでスキャンを開始できません。(Unable to initiate the scan on media server.)

説明: メディアサーバーでのスキャンの開始に問題があります。

推奨処置: メディアサーバーでスキャンを初期化できません。メディアサーバーが起動しており、接続に問題がないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7879

メッセージ: 選択されたスキャンホストプールで、有効なスキャンホストは見つかりませんでした。(No active scan host was found in the selected scan host pool.)

説明: 追加されたスキャンホストが、選択したスキャンホストプールで有効になっていません。

推奨処置: スキャンホストプールと関連付けられたスキャンホストを有効にする必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7880

メッセージ: スキャンホストのクレデンシャルに権限を割り当てることができません。(Unable to assign permissions on scan host credentials.)

説明: スキャンホストのクレデンシャルについて CMS に接続するための権限をメディアサーバーに割り当てることができません。

推奨処置: サポート対象のメディアサーバーが利用可能であることを確認した後、スキャンを再度開始します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7881

メッセージ: 指定されたスキャンホストプールとスキャンホストマッピングが存在しません。(The specified scan host pool and scan host mapping does not exist.)

説明: 指定したスキャンホストが、指定したスキャンホストプールに関連付けられていません。

推奨処置: 有効なスキャンホストとスキャンホストプール ID を指定する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7882

メッセージ: 指定されたメディアサーバーはサポートされていません。(Specified media server is not supported.)

説明: メディアサーバーがサポートされていません。

推奨処置: サポート対象のバージョンにメディアサーバーをアップグレードします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7883

メッセージ: 指定されたメディアサーバーは使用できません。(Specified media server is not available.)

説明: この問題は、指定したバックアップイメージに対し、サポート対象のメディアサーバーがスキャンホストでのスキャン開始に利用できない場合に発生します。

推奨処置: サポート対象のメディアサーバーが利用可能であることを確認してから、スキャンを再度開始します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7884

メッセージ: ストレージサーバーが存在しません。(Storage server does not exist.)

説明: ストレージサーバーが利用できないか、存在しません。

推奨処置: ストレージサーバーが利用可能であるか、存在することを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7885

メッセージ: スキャン結果データが制限を超えています。(Scan result data limit exceeds.)

説明: エクスポートされたファイルが 200 MB の制限を超えています。

推奨処置: 感染ファイルが多すぎて 1 ファイルにエクスポートできません (上限は 200 MB)。スキャンログで、感染ファイルの詳細な一覧を確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7886

メッセージ: スキャン結果 ID が無効です。(Invalid scan result ID.)

説明: NetBackup から無効なスキャン結果 ID が返されました。

推奨処置: 無効なスキャン結果 ID によって、スキャンジョブのキャンセルが行われたことを確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7887

メッセージ: 指定した X-Trigger-Method ヘッダーが無効です。(Specified X-Trigger-Method header is invalid.)

説明: 入力されたヘッダーに、AUTOMATIC または MANUAL 以外の値が含まれています。

推奨処置: AUTOMATIC または MANUALを含む有効なヘッダーを入力してください。値を入力しないと、デフォルト値の MANUAL が使用されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7888

メッセージ: 大量の感染ファイルです。(Large number of infected files.)

説明: 選択したスキャン結果に含まれる感染ファイルが多すぎます。この結果をエクスポートまたは表示することはできません。

推奨処置: 結果をエクスポートまたは表示できないため、スキャンログで、選択したスキャン結果の感染ファイルに関する詳細な一覧を確認する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7889

メッセージ: 選択した時間範囲の感染ファイルが多すぎます。(Too many infected files in the selected time range.)

説明: 選択したリカバリ時間範囲に含まれる感染ファイルが多すぎます。

推奨処置: スキャンログで、選択した日付範囲に含まれる、バックアップイメージの感染ファイル一覧を確認してください。感染ファイルの数を減らすため、日付範囲を変更するか、リカバリファイルやリカバリフォルダを選択し直してください。操作を再試行します。

次のいずれかを実行することもできます。

- クリーンファイルを選択的にリカバリするために使用できる[マルウェアに感染したファイルのリカバリを許可 (Allow recovery of files impacted by malware)]オプションを選択します。
- リカバリからそのバックアップイメージを除外します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7890

メッセージ: スキャンホストプールを削除できません。(Unable to delete the scan host pool.)

説明: スキャンホストプールは現在 1 つ以上のスキャンジョブで使用されているため、スキャンホストプールを削除できません。

推奨処置: スキャン結果ページで、バックアップイメージをスキャンするためにこのスキャンホストプールに関連付けられているスキャンホストを使用しているスキャンジョブを特定します。スキャンジョブが終了するまで待ってから再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7891

メッセージ: スキャンホストを削除できません。(Unable to delete the scan host.)

説明: バックアップイメージをスキャンするためにこのスキャンホストが 1 つ以上のスキャンジョブによって選択されているため、スキャンホストを削除できません。

推奨処置: スキャン結果ページで、バックアップイメージをスキャンするために選択したスキャンホストを使用しているスキャンジョブを特定します。スキャンジョブが終了するまで待ってから再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7892

メッセージ: スキャンホストプールからスキャンホストを削除できません。(Unable to remove the scan host from a scan host pool.)

説明: マルウェアスキャンジョブが、バックアップイメージをスキャンするためにスキャンホストプールからこのスキャンホストを選択したため、スキャンホストをスキャンホストプールから削除できません。

推奨処置: スキャン結果ページで、バックアップイメージをスキャンするために選択したスキャンホストを使用しているスキャンジョブを特定します。スキャンジョブが完了するまで待機し、スキャンホストプールからスキャンホストを再度削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7893

メッセージ: 指定されたスキャン結果のスキャンプロセスが見つかりませんでした。(No scan process was found for the specified scan result.)

説明: NetBackup では、指定したスキャン結果のスキャンプロセスが見つかりませんでした。

推奨処置: スキャン結果 ID を確認して、正しいスキャンプロセスの情報を取得します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7894

メッセージ: マルウェアスキャンジョブのキャンセルに失敗しました。(Failed to cancel malware scan job.)

説明: スキャン結果 ID のエラーのため、マルウェアスキャンジョブが完了しませんでした。

推奨処置: 正しいスキャン結果 ID があることを確認し、正しいスキャン結果 ID を使用してキャンセル操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7895

メッセージ: 並列スキャンの数は、1 から 10 の範囲にする必要があります。(The no of parallel scans should be in the range from 1 to 10.)

説明: 無効な数の並列スキャンが入力されました。

推奨処置: 有効な数の並列スキャンを入力する必要があります。並列スキャンの有効な範囲は 1 から 10 です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7896

メッセージ: 要求されたスキャンホストは、既存のスキャンプールにマッピングされています。(The requested scan host is mapped with an existing scan pool.)

説明: このメッセージは、1 つ以上のスキャンホストプールに関連付けられているスキャンホストを削除しようとすると表示されます。

推奨処置: 関連付けられているすべてのスキャンホストプールから選択したスキャンホストを削除し、削除を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7897

メッセージ: 要求されたスキャンホストは、既存のスキャン結果に関連付けられています。(The requested scan host is associated with an existing scan result.)

説明: このメッセージは、1 つ以上のスキャン結果にマッピングされているスキャンホストを削除しようとすると表示されます。

推奨処置: スキャン結果をクリーンアップするには、クリーンアップ期間を調整して、スキャンホストの削除を再試行します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7898

メッセージ: スキャンおよびリカバリ要求の処理中にエラーが発生しました。(Error in processing scan and recover request.)

説明: スキャンが失敗したか、リカバリ要求の開始に失敗しました。

推奨処置: アクティビティモニターのジョブの詳細でエラーを確認し、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7899

メッセージ: 要求されたリカバリオプションは無効です。(The requested recovery options are invalid.)

説明: 無効なリカバリ要求が指定されています。

推奨処置: リカバリ要求を検証して再試行する必要があります。詳しくは `webservice` のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7900

メッセージ: リカバリ要求を開始できません。(Unable to initiate recovery request.)

説明: スキャンに成功した後、マルウェアジョブのリカバリの開始に失敗しました。

推奨処置: リカバリ要求を検証して再試行する必要があります。詳しくは webservice のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7901

メッセージ: 指定されたマルウェアジョブが存在しません。(The specified malware job does not exist.)

説明: 指定されたマルウェアジョブの ID が無効か、存在しません。

推奨処置: リカバリ要求を検証して再試行する必要があります。詳しくは webservice のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7902

メッセージ: マルウェアジョブが完了したため、ジョブのキャンセルに失敗しました。(Failed to cancel malware job as job completed.)

説明: ジョブはすでに完了状態にあるため、マルウェアジョブをキャンセルできません。

推奨処置: 完了したマルウェアジョブは取り消すことができません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7903

メッセージ: スキャンおよびリカバリジョブを作成できません。(Unable to create a scan and a recovery job.)

説明: リカバリ要求前のスキャンのアクティビティモニタースキャンジョブの作成に失敗しました。

推奨処置: webservice のログを確認し、再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7905

メッセージ: マルウェアジョブを作成できません。(Unable to create malware job.)

説明: リカバリ要求の前に、指定したスキャンのマルウェアスキャンジョブを作成できませんでした。

推奨処置: webservice のログを確認し、再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7907

メッセージ: 選択した日付範囲にスキャンとリカバリ対象のバックアップイメージが多すぎます。(Too many backup images for scan and recover in selected date range.)

説明: リカバリ時スキャンの開始日から終了日までの間に 100 個を超えるイメージが見つかりました。

推奨処置: リカバリ用に選択したバックアップイメージの開始日または終了日を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7910

メッセージ: スキャンジョブを完了できません (Not able to complete scan job)

説明: ユーザーは 1 つ以上のイメージを選択してスキャンを開始できます。1 つの要求の一部として選択されたすべてのイメージのスキャンを追跡するために、1 つのアクティビティモニタージョブが作成されます。スキャンのいずれかが失敗すると、アクティビティモニタージョブはこのエラーで失敗します。

推奨処置: アクティビティモニターのジョブの詳細でエラーを確認し、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7911

メッセージ: 作業負荷は、マルウェアテストスキャンについてはサポートされていません。(Workload is not supported for malware test scan.)

説明: テストスキャンのために選択されるバックアップイメージが Standard ポリシー形式ではありません。

推奨処置: テストスキャンの Standard ポリシー形式のバックアップイメージを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7912

メッセージ: 指定したバックアップコピーがインスタントアクセスに対応していません。(Provided backup copy is not Instant Access capable.)

説明: テストスキャン用に選択したバックアップイメージコピーが、インスタントアクセス対応ではありません。

推奨処置: インスタントアクセス対応のバックアップイメージまたはコピーを選択します。たとえば、MSDP ストレージのバックアップイメージです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7913

メッセージ: 指定されたスキャンホストでスキャンを開始できません。(Not able to initiate scan on given scan host.)

説明: プライマリサーバーがメディアにスキャン要求を正常に送信できません。

推奨処置: アクティビティモニターのジョブの詳細でエラーを確認し、ジョブを再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7914

メッセージ: スキャン結果を削除できません。(Unable to delete scan result.)

説明: 次のいずれかの理由により、スキャン結果を削除できません。

- 選択したスキャン結果が別の要求によって削除されました。
- スキャン結果が存在しなくなりました。
- スキャン結果の状態が、失敗またはキャンセル以外の状態です。

推奨処置: Web UI を更新し、スキャン結果が失敗またはキャンセルの状態であるかどうかを判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7915

メッセージ: キャンセルするスキャン結果が多すぎます。(Too many scan results to cancel.)

説明: 一度にキャンセルできるスキャン結果は 20 件のみです。

推奨処置: キャンセルするスキャン結果の数を 20 件以下に減らします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7927

メッセージ: 指定されたスキャンツールが存在しません。(The specified scan tool does not exist.)

説明: NetBackup は、計算ホストとして使用されるクライアントではスキャンツールを見つけることができません。

推奨処置: 関連するスキャンツールをインストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7928

メッセージ: 要求されたバックアップイメージにスキャン対象のファイルエントロピーの異常は含まれていません。(The requested backup image does not contain any file entropy anomalies to be scanned.)

説明: 要求されたバックアップイメージで異常ファイルが見つかりませんでした。異常スキャンを実行してください。

推奨処置: プライマリサーバーの Web UI で、[検出とレポート (Detection and reporting)]、[異常検出 (Anomaly detection)]、[バックアップの異常 (Backup anomalie)]の順に選択します。指定したイメージに [イメージエントロピー (Image entropy)]の[異常の種類 (Anomaly type)]がない場合は、イメージで異常スキャンを実行できません。

推奨処置: 詳しくは、『 NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』の異常検出に関するセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7929

メッセージ: この操作のための計算ホストを取得できません。(Unable to retrieve the compute host for this operation.)

説明: スキャン対象として選択されたホスト構成を取得できません。ホストにインストールされた NetBackup クライアントと通信できません。

推奨処置: NetBackup プライマリサーバーとクライアントが通信できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7930

メッセージ: 指定された計算ホストは無効です。(Specified compute host is invalid.)

説明: 計算ホストのホスト形式が無効です。有効な計算ホストは、NetBackup 11.2.0.1 以上の Linux クライアントです。

推奨処置: 有効な計算ホストを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7932

メッセージ: 計算ホスト名が無効です。(Invalid compute host name.)

説明: ホスト名が正しくないか、存在しません。

推奨処置: 計算ホストである正しいクライアントのホスト名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7934

メッセージ: 指定された計算ホストが存在しません。(The specified compute host does not exist.)

説明: NetBackup は計算ホストとの接続を確立できません。

推奨処置: NetBackup プライマリサーバーとクライアントが通信できることを確認するか、計算ホストが削除されているかどうかを判断します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7935

メッセージ: 指定したストレージサーバーが利用できません。(The specified storage server is not available.)

説明: NetBackup マスターサーバーで構成されているストレージサーバー情報を見つけることができません。

推奨処置: ストレージサーバーがプライマリサーバーで正しく構成されていて、インスタントアクセス (IA) が可能であるかどうかを判断します。NetBackup がサポートする IA 対応のストレージサーバーの種類を確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 7937

メッセージ: スキャン結果を削除できません。(Unable to delete scan result.)

説明: 削除できるのは、失敗したかキャンセルされたスキャン結果のみです。

推奨処置: 失敗またはキャンセルされたスキャン結果を削除する場合に選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8000

メッセージ: ユーザーには要求された操作を実行する権限がありません。

説明: ユーザーは要求された操作を実行する権限を持っていません。

推奨処置: 要求された操作を実行するには、ルートユーザー、管理者であるか、役割に基づくアクセス制御 (RBAC) を通じて適切な権限が付与されている必要があります。NetBackup システム管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8001

メッセージ: JSON Web トークンが有効期限切れです

説明: ユーザーのログインセッションに関連付けられている JWT トークンの有効期限が切れています。

推奨処置: ユーザーは再度ログオンする必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8002

メッセージ: JWT トークンが無効です (JWT Token is invalid)

説明: ユーザーのログインセッションに関連付けられている JWT トークンが有効ではありません。

推奨処置: ユーザーは再度ログオンする必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8009

メッセージ: 指定した権限が JSON Web トークンに存在しません

説明: 要求された操作の実行がユーザーに許可されていません。

推奨処置: ユーザーは、NetBackup セキュリティ管理者に連絡して、NetBackup Web ユーザーインターフェースの RBAC 権限を要求する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8016

メッセージ: アクセスルールに構成されている役割に基づくアクセス制御リソースは削除できません。

説明: 削除しようとした役割またはオブジェクトグループは、アクセスルールで構成されています。

推奨処置: 役割またはオブジェクトグループを削除する前に、関連付けられているすべてのアクセスルールからそれらを削除する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8018

メッセージ: ID を空にすることはできません。有効なユーザーまたはグループを入力してください。

説明: API が空の ID 入力値を受け取りました。

推奨処置: API は、ユーザーまたはグループを識別および検証するため、空でない入力値を求めます。ID 入力値が空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8019

メッセージ: ID の形式が無効です。ドメインを指定するときは、ユーザープリンシパル名 (UPN) 形式またはダウンレベルのログオン名形式を使用します。

説明: API が、想定された形式ではない ID 入力値を受け取りました。

推奨処置: ユーザーまたはグループを識別および検証するため、API には特定の形式の入力値が必要です。ID 入力値が、次のいずれかの形式であることを確認します。

- *username@DOMAIN*
- *DOMAIN¥username*
- *groupname@DOMAIN*
- *DOMAIN¥groupname*
- *username*
- *groupname*

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8021

メッセージ: ユーザーまたはグループを検証できません。(Unable to validate the user or group.)

説明: LDAPドメインが構成されていないため、ユーザーまたはグループを検証できません。

推奨処置: `vssat addldapdomain` コマンドを使用して、LDAP ドメインを構成します。詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8051

メッセージ: 完全リカバリバックアップが見つかりません。(FULL recovery backup not found.)

説明: 増分バックアップを実行しようとすると、NetBackup が前回の完全バックアップを確認します。完全バックアップイメージが見つからない場合にこのエラーが表示されます。

推奨処置: 最初に完全バックアップを開始またはスケジュール設定する必要があります。その後、増分バックアップを実行またはスケジュール設定できます。この増分バックアップの後、イメージをリカバリできます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8053

メッセージ: リカバリオブジェクトの資産タイプがシナリオタイプと一致しません (Asset type for recovery object does not match with scenario type)

説明: assetType の値が、ペイロードのインスタンスバックアップイメージの INSTANCE ではありません。

推奨処置: ペイロードで assetType の値を INSTANCE に設定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8054

メッセージ: 不明なホストサーバーです。(Unknown host server.)

説明: リカバリ用に指定されたターゲットホストが無効であるか、アクセスできません。

推奨処置: ターゲットホストが有効な NetBackup クライアントホストであることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8055

メッセージ: ファイル名の変更中にエラーが発生しました。(Error while renaming file.)

説明: リカバリファイルパスの名前を変更中にエラーが発生しました。

推奨処置: 指定されたパスに非 ASCII 文字が含まれていないことを確認します。

Cohesity Technical Supportに問い合わせる場合は、リカバリホストにある tar ログが必要です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8056

メッセージ: インスタンスリカバリのデータベース名が無効な入力です。(Database name is invalid input for instance recovery.)

説明: データベース名はインスタンスバックアップイメージリカバリのペイロードに含まれます。

推奨処置: ペイロードからデータベース名を削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8100

メッセージ: vCloud の組織名は空白にできません。(The vCloud organization name cannot be blank.)

説明: vCloud の組織名が空白で、リカバリ前チェックが完了しました。

推奨処置: vCloud の組織名が追加されていることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8101

メッセージ: vCloud の組織仮想データセンター名は空白にできません。(The vCloud organization virtual datacenter name cannot be blank.)

説明: vCloud 組織の仮想データセンター名が空白で、リカバリ前チェックが完了しました。

推奨処置: vCloud 組織の仮想データセンター名が追加されていることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8102

メッセージ: vCloud の vApp 名は空白にできません。(The vCloud vApp name cannot be blank.)

説明: vCloud vApp の名前が空白で、リカバリ前チェックが完了しました。

推奨処置: vCloud vApp の名前が追加されていることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8103

メッセージ: vCloud のカタログ名は空白にできません。(The vCloud catalog name cannot be blank.)

説明: vCloud のカタログ名が空白で、リカバリ前チェックが完了しました。

推奨処置: vCloud のカタログ名が追加されていることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8104

メッセージ: vCloud カタログの vApp テンプレート名は空白にできません。(The vCloud catalog vApp template name cannot be blank.)

説明: vCloud カタログの vApp テンプレート名が空白で、リカバリ前チェックが完了しました。

推奨処置: vCloud カタログの vApp テンプレート名が追加されていることを確認します。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8105

メッセージ: リカバリエラー戦略に対し、有効な値を指定してください。(Specify a valid value for the recovery failure strategy.)

説明: リカバリ要求の開始時に、リカバリエラー戦略に対して無効な値が指定されました。

推奨処置: リカバリエラー戦略のタイプとして有効な値 (`Fail Fast`、`Proceed Ahead`、または `Retry`) を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8106

メッセージ: 再試行回数に有効な値を指定してください。(Specify a valid value for the retry count.)

説明: リカバリ要求の開始時に、Retry エラーのリストア戦略のタイプに対して無効な再試行回数の値が指定されました。

推奨処置: Retry 戦略タイプが選択されている場合は、有効な再試行回数を指定します。Retry の有効な回数の範囲は 2 から 5 です。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8107

メッセージ: リカバリエラー戦略機能が、Kubernetes 作業負荷で無効です。(The recovery failure strategy feature is disabled on the Kubernetes workload.)

説明: このコードは、K8s_workload_V3 の切り替えが無効で、リカバリ処理中にリストアエラー戦略が渡されると返されます。

推奨処置: AIR、複製、リストアのエラー戦略の機能切り替えを有効にします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8200

メッセージ: KMIP 内部エラーです。

説明: この問題は、nbkmiputil または libnbkmip の内部ライブラリエラーです。

推奨処置: nbkmiputil のレガシーログを確認して、問題の原因を特定します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8201

メッセージ: 外部 KMS サーバーへの接続に失敗しました。(Failed to connect to the external KMS server.)

説明: 外部 KMS サーバーとの最初の TCP/IP 接続を完了できません。

推奨処置: 外部 KMS サーバー名または IP アドレスが間違っている可能性があります。マスターサーバーと外部 KMS サーバー間のネットワーク接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8203

メッセージ: 外部 KMS サーバーに接続するための SSL コンテキストの初期化に失敗しました。(Failed to initialize SSL context to connect to the external KMS server.)

説明: NetBackup は、EKMS サーバーへの最初の接続後に SSL コンテキストを初期化できません。この問題は、証明書と秘密鍵の間に不一致があるか、または特定のコンピュータのメモリ不足である可能性があります。

推奨処置: 秘密鍵と証明書に不一致があるかどうかを確認します。メモリ不足エラーがあるかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8204

メッセージ: 外部 KMS サーバーとの SSL 接続の確立に失敗しました。(Failed to establish SSL connection with the external KMS server.)

説明: EKMS サーバーと SSL コンテキストの初期接続への最初の接続後、EKMS サーバーとの SSL 接続を確立できません。

この問題は、次の状況で発生する可能性があります。

- 証明書が無効であるか、期限切れになっている場合。
- 秘密鍵のパスフレーズが有効ではない。
- トラストストア CA で証明書を検証できない。

推奨処置: EKMS サーバーへの接続に使用するクレデンシャル (秘密鍵、証明書、CA 証明書、秘密鍵のパスフレーズ) を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8205

メッセージ: 接続がタイムアウトしたため、外部 KMS サーバーとの SSL 接続の確立に失敗しました。

説明: EKMS サーバーへの最初の接続後、外部 KMS サーバーとの TLS または SSL 接続は、規定の時間内に完了できません。TLS ハンドシェイクが指定された接続タイムアウト値よりも長くかかるため、SSL 接続がタイムアウトになります。

推奨処置: 接続のタイムアウト値を長くします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8207

メッセージ: 外部 KMS サーバーに対する KMIP 要求が失敗しました。(The KMIP request to external KMS server failed.)

説明: TCP/IP SSL 接続で SSL の読み取りまたは書き込みが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- サーバーとの接続を確認します。
- `nbkmiputil` コマンドを実行して、操作を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8208

メッセージ: 外部 KMS サーバーに対する KMIP 要求がタイムアウトしました。

説明: KMIP 要求にタイムアウト値よりも長い時間がかかりました。

推奨処置: 要求のタイムアウト値を長くします。EKMS CLI またはその他のネットワークツールを使用して、サーバーの応答を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8209

メッセージ: KMIP 項目が見つかりません。(The KMIP item cannot be found.)

説明: KMIP 入力要求中にキー ID が検出されませんでした。

推奨処置: EKMS CLI またはその他のネットワークツールを使用して、EKMS サーバーに KMIP アイテムが存在するかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8211

メッセージ: ホスト名が一致しないため、SSL の検証に失敗しました。

説明: KMS サーバー証明書の `SAN` および `CN` のフィールドに、KMIP クライアントが接続されているホスト名と一致するホスト名が含まれていません。ピアホストの検証に失敗しました。

推奨処置: 接続しているホスト名が KMS サーバー証明書の `SAN` または `CN` のフィールドにあることを確認します。ホスト名が存在しない場合は、サーバー証明書を修正するか、

EKMS_VERIFY_HOST=0 フラグを bp.conf ファイルで設定してピアホストの検証を省略します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8212

メッセージ: IP アドレスが一致しないため、SSL の検証に失敗しました。

説明: KMS サーバー証明書の SAN および CN のフィールドに、KMIP クライアントが接続されている IP アドレスと一致する IP アドレスが含まれていません。ピアホストの検証に失敗しました。

推奨処置: 接続しているホスト名の IP アドレスが KMS サーバー証明書の SAN または CN のフィールドにあることを確認します。ホスト名の IP アドレスが存在しない場合は、サーバー証明書を修正するか、EKMS_VERIFY_HOST=0 フラグを bp.conf ファイルで設定してピアホストの検証を省略します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8216

メッセージ: KMIP バージョンがサポートされていません。(The KMIP version is not supported.)

説明: KMIP プロトコルバージョンの KMIP サーバーとクライアントが一致していません。

推奨処置: KMIP プロトコルバージョンの KMIP サーバーとクライアントが一致していません。サポートされている KMIP バージョンについては、Cohesityのソフトウェア互換性リストまたは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8217

メッセージ: 操作の実行中に、外部 KMS サーバーでエラーが発生しました。

説明: 要求した操作の実行中に、外部 KMS サーバーでエラーが発生しました。このエラーは EKMS サーバー側から生成されます。追加のメッセージが提供された場合は、外部 KMS サーバーのマニュアルを参照してください。

推奨処置: EKMS CLI またはその他のネットワークツールを使用して、同じ操作を実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8220

メッセージ: アクセス権が拒否されました。(The permission is denied.)

説明: ユーザーは KMIP 操作を実行するための適切な権限を持っていません。

推奨処置: 証明書が EKMS サーバーに接続するために使用されている EKMS サーバーのユーザー権限を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8221

メッセージ: KMIP オブジェクトがアーカイブされました。(The KMIP object is archived.)

説明: KMIP オブジェクトがアーカイブされました。

推奨処置: EKMS サーバーツールを使用して操作を実行する前に、KMIP オブジェクトをアーカイブからリカバリする必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8224

メッセージ: NetBackup は、外部 KMS サーバーがサポートしているどの KMIP のバージョンをサポートしていません。

説明: NetBackup は、外部 KMS サーバーがサポートしているどの KMIP のバージョンをサポートしていません。NetBackup は、KMIP バージョン 1.0、1.1、1.2、1.3、1.4 をサポートします。

推奨処置: 外部 KMS サーバーが、NetBackup でサポートされる KMIP バージョンのいずれかをサポートしているかどうかを確認し、それを使用するように外部 KMS サーバーの設定を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8226

メッセージ: KMIP 操作は試行されていません。(The KMIP operation is not attempted.)

説明: 前提条件の操作が失敗したか実行されていない場合、KMIP 操作は実行されません。

推奨処置: 前提条件の操作をデバッグまたはトラブルシューティングし、再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8227

メッセージ: NetBackup キーが見つかりませんでした。(No NetBackup keys are found.)

説明: 外部 KMS サーバーは、NetBackup キーとして修飾されたキーを持っていません (カスタム属性名 `x-application` は `NetBackup` に設定されています)。

推奨処置: カスタム属性 `x-application=NetBackup` を使用して NetBackup (大文字と小文字を区別) キーとして修飾されたキーが定義されているかどうかを EKMS サーバーで確認します。ユーザー権限を確認し、ユーザーが権限に従ってキーを検索する権限を持っていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8228

メッセージ: CRL チェックの実行に失敗しました。

説明: CRL を CDP からダウンロードできない、または証明書チェーンが検証されていないため、CRL の確認を実行できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の事項を確認します。

- CRL と EKMS サーバー証明書が同じ CA からのものであることを確認します。
- `ECA_CRL_PATH` が NetBackup 構成に設定されていることを確認します。パスが存在する場合は、EKMS サーバー証明書 CRL があることを確認します。
- ECA_CRL_PATH が設定されていない場合は、EKMS サーバー証明書に CDP が定義されていることを確認します。
- CDP が定義されている場合は、CDP サーバーが到達可能であることを確認します。
- CDP サーバーに到達可能な場合は、ダウンローダー `vnetd` サービスが起動して実行中であることを確認します。
- KMS 構成時に CRL 検査レベルが定義されていない場合、デフォルトの CRL 検査レベルは `LEAF` になります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8229

メッセージ: 外部 KMS サーバー証明書が失効しています。(The external KMS server certificate is revoked.)

説明: 外部 KMS サーバー証明書が失効しています。

推奨処置: EKMS サーバーの失効していない証明書を使用するか、CRL チェックを無効にできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8234

メッセージ: SSL コンテキストで証明書の設定に失敗しました。

説明: NetBackup は、指定された証明書で SSL コンテキストを初期化できませんでした。証明書の形式がサポートされていません。

推奨処置: PEM エンコードされた証明書を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8235

メッセージ: SSL コンテキストで CA 証明書の設定に失敗しました。

説明: NetBackup は、指定された CA 証明書で SSL コンテキストを初期化できませんでした。CA 証明書の形式はサポートされていません。

推奨処置: PEM エンコードされた CA 証明書を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8236

メッセージ: SSL コンテキストで秘密鍵の設定に失敗しました。

説明: NetBackup は、指定された秘密鍵で SSL コンテキストを初期化できませんでした。秘密鍵のエンコード形式がサポートされていないか、指定した証明書と一致しません。

推奨処置: PEM エンコードされた秘密鍵を使用します。`openssl` ユーティリティを使用して、提供された証明書とキーが一致することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8237

メッセージ: 外部 KMS サーバーから取得したキーは暗号化に使用できません。(The keys that were retrieved from the external KMS server are not usable for encryption.)

説明: 外部 KMS サーバーから取得された対称キーは、次の理由により暗号化には使用できません。

- キーの暗号化の使用状況マスクは暗号化用に設定されていません。
- キーのプロセスの開始日が将来になっています。
- 保護停止日が現在の時刻より先になっています。
- 時間および日付が、NetBackup マスターサーバーと外部 KMS サーバー間で一致しません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- キーの暗号化の使用状況マスクを暗号化用に設定します。
- プロセスの開始日を修正します。
- 保護の停止日を修正します。
- 時間や日付が、NetBackup マスターサーバーと外部 KMS サーバー間で一致していないかどうかを確認します。一致しない場合は、時刻と日付を修正します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8238

メッセージ: 外部 KMS サーバーから取得したキーは復号に使用できません。(The keys that were retrieved from the external KMS server are not usable for decryption.)

説明: 外部 KMS サーバーから取得した対称キーは、次の理由により復号には使用できません。

- キーの状態が許可された状態 (有効化、危殆化、または無効化) 以外です。
- キーの暗号化の使用状況マスクは復号用に設定されていません。
- キーのプロセスの開始日が将来になっています。
- 時間および日付が、NetBackup マスターサーバーと外部 KMS サーバー間で一致しません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- キーの暗号化の使用状況マスクを復号用に設定します。
- プロセスの開始日を修正します。

- 時間や日付が、NetBackup マスターサーバーと外部 KMS サーバー間で一致していないかどうかを確認します。一致しない場合は、時刻と日付を修正します。
- キー使用法チェックをバイパスするには、フラグ EKMS_DISABLE_KEY_USAGE_CHECK=1 を bp.conf で設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8240

メッセージ: KMIP オブジェクトはすでに存在します。

説明: KMIP オブジェクトはすでに存在します。

推奨処置: KMIP オブジェクトは、オブジェクトが作成されるときに一意の名前を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8250

メッセージ: NetBackup ジョブを作成できません。

説明: NetBackup ジョブを作成できません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8251

メッセージ: NetBackup ジョブの更新に失敗しました。

説明: NetBackup ジョブを更新できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8252

メッセージ: サポート対象外のポリシー形式です。

説明: このポリシー形式はサポートされていません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8253

メッセージ: 要求されたリソースをリストアできません。

説明: 要求されたリソースをリストアできません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8300

メッセージ: 移動中のグローバルデータの暗号化は NetBackup ドメイン内で適用されていますが、クライアントまたはバックアップホストが 9.1 より古いバージョンのため、有効にできません。(The global data-in-transit encryption is enforced in the NetBackup domain, but it cannot be enabled as the client or the backup host version is older than 9.1.)

説明: 移動中のデータの暗号化は、NetBackup バージョン 9.1 以降でサポートされています。移動中のデータの暗号化がドメインに適用され、9.1 より古いバージョンを実行するクライアントまたはバックアップホストが操作に関与している場合、バックアップまたはリストアは失敗します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 移動中のデータの暗号化をサポートするバージョンに NetBackup のクライアントまたはバックアップホストをアップグレードします。
- セキュリティ管理者に問い合わせて、移動中のデータの暗号化のグローバル設定を PREFERRED_ON または PREFERRED_OFF に変更します。
  移動中のデータの暗号化は、9.1 より古いバージョンを実行するホストとの通信中は無効になる点に注意してください。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8301

メッセージ: 移動中のグローバルデータの暗号化は NetBackup ドメイン内で適用されていますが、メディアサーバーが 9.1 より古いバージョンのため、有効にできません。(The global data-in-transit encryption is enforced in the NetBackup domain, but it cannot be enabled as the media server version is older than 9.1.)

説明: 移動中のデータの暗号化は、NetBackup バージョン 9.1 以降でサポートされています。移動中のデータの暗号化がドメインに適用され、9.1 より古いバージョンを実行するメディアサーバーが操作に関与している場合、複数の NetBackup 操作は失敗します。これらの操作には、バックアップ、リストア、複製、インポートなどが含まれます。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

- 移動中のデータの暗号化をサポートするバージョンに NetBackup メディアサーバーをアップグレードします。
- NetBackup 操作を実行するため、移動中のデータの暗号化をサポートするメディアサーバーを選択するように構成を変更します。
- セキュリティ管理者に問い合わせて、移動中のデータの暗号化のグローバル設定を `PREFERRED_ON` または `PREFERRED_OFF` に変更します。
  移動中のデータの暗号化は、9.1 より古いバージョンがあるホストとの通信中は無効になる点に注意してください。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8302

メッセージ: バックアップイメージの移動中のデータの暗号化属性を更新できません。(The data-in-transit encryption attribute of the backup image cannot be updated.)

説明: 移動中のデータの暗号化がバックアップ操作で有効になっている場合、バックアップイメージの移動中のデータの属性を更新して移動中のデータの暗号化状態を反映することはできません。この要件のため、バックアップは失敗します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. プライマリサーバーで bpdbm サービスが実行中であること、およびメディアサーバーとプライマリサーバーが接続されていることを確認します。
2. 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。Cohesity Technical Support に問い合わせる場合は、問題のトラブルシューティングに役立つメディアサーバーの bpbrm ログを用意する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8303

メッセージ: ジョブの移動中のデータの暗号化属性を更新できません。

説明: 移動中のデータの暗号化が操作で有効になっている場合、ジョブの移動中のデータの属性を更新して移動中のデータの暗号化状態を反映することはできません。この要件により、バックアップ、リストア、複製、インポートなどの複数の NetBackup 操作は失敗します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. プライマリサーバーで bpjobd サービスが実行中であること、およびメディアサーバーとプライマリサーバーが接続されていることを確認します。
2. 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。Cohesity Technical Support に問い合わせる場合は、問題のトラブルシューティングに役立つメディアサーバーのログとプライマリサーバーのログを用意する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8304

メッセージ: 移動中のデータの暗号化のグローバル設定をフェッチできません。(The global data-in-transit encryption setting cannot be fetched.)

説明: 移動中のデータの暗号化のグローバル設定をプライマリサーバーで実行中の bpcd サービスからフェッチできません。通信ができないため、バックアップ、リストア、複製、インポートなどの複数の NetBackup 操作は失敗します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. プライマリサーバーで bpcd サービスが実行中であることを確認します。

2. 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。Cohesity Technical Support に問い合わせる場合は、問題のトラブルシューティングに役立つ次のプライマリサーバーのログを用意する必要があります。

   - nbwebservice
   - nbjm
   - bprd
   - bpcd

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8305

メッセージ: クライアントの移動中のデータの暗号化設定をフェッチできません。(The data-in-transit encryption setting of the client cannot be fetched.)

説明: クライアントの移動中のデータの暗号化設定をクライアントで実行中の bpcd サービスからフェッチできません。通信できないため、バックアップまたはリストアは失敗します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. bpcd サービスがクライアントで実行されていることを確認します。
2. 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。Cohesity Technical Support に問い合わせる場合は、問題のトラブルシューティングに役立つメディアサーバーの bpbrm ログとクライアントの bpcd ログを用意する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8306

メッセージ: バックアップイメージの移動中のデータの暗号化 (DTE) モードが On に設定されているため、NetBackup はデータの暗号化を試行していますが、メディアサーバーが 9.1 より前のバージョンです。

説明: リストア、複製、インポート、検証などの二次操作に使用されるバックアップイメージで、移動中のデータの暗号化 (DTE) モードが有効になっています。そのため、NetBackup はデータの暗号化を試行します。ただし、メディアサーバーが 9.1 より古いバージョンなため、この操作は失敗します。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

1. 移動中のデータの暗号化をサポートするバージョンに NetBackup メディアサーバーをアップグレードします。
2. NetBackup 操作を実行するため、移動中のデータの暗号化をサポートするメディアサーバーを選択するように構成を変更します。
3. 次のコマンドを使用して、指定したバックアップイメージの移動中のデータの暗号化 (DTE) モードを `Off` に変更します。

```
bpimage -update -image_dtemode Off -id <backup_id>
```

4. プライマリサーバーまたはメディアサーバーの NetBackup 構成ファイルで `DTE_IGNORE_IMAGE_MODE = WHERE_UNSUPPORTED` を設定します。

オプション 3 とオプション 4 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8307

メッセージ: グローバル DTE (移動中のデータの暗号化) は NetBackup ドメイン内で適用されていますが、クライアントまたはバックアップホストで DTE 設定が無効になっています。(The global data-in-transit encryption (DTE) is enforced in the NetBackup domain, but the DTE setting is disabled on the client or the backup host.)

説明: 移動中のデータの暗号化はドメイン内で適用されていますが、移動中のデータの暗号化設定がクライアントまたはバックアップホストで無効になっており、グローバル設定と競合しています。この問題のため、バックアップまたはリストアは失敗します。

メモ: 9.1 の NetBackup クライアントでは、移動中のデータの暗号化モード (`DTE_CLIENT_MODE` オプション) が明示的に設定されていない場合、オフと見なされます。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

- 移動中のデータの暗号化をクライアントまたはバックアップホストに適用する場合は、そのクライアントまたはバックアップホストの移動中のデータの暗号化を有効にします。`bp.conf` 構成ファイルの `DTE_CLIENT_MODE` オプションを `On` に設定して、暗号化を有効にします。

- 移動中のデータの暗号化が特定のクライアントまたはバックアップホストでオフになる場合は、次を実行します。
  - ドメインの移動中のデータの暗号化を PREFERRED_ON に設定します。

オプション 2 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8308

メッセージ: バックアップイメージの移動中のデータの暗号化 (DTE) モードが「On」に設定されているため、NetBackup はデータの暗号化を試行しますが、クライアントが 9.1 より古いバージョンです。(The data-in-transit encryption (DTE) mode of the backup image is set to 'On', therefore NetBackup tries to encrypt the data but the client version is older than 9.1.)

説明: NetBackup の操作に使用されるバックアップイメージで移動中のデータの暗号化 (DTE) モードが有効になっています。したがって、NetBackup はデータの暗号化を試行します。ただし、クライアントが 9.1 より古いバージョンなため、リストアは失敗します。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

1. 移動中のデータの暗号化をサポートするバージョンに NetBackup クライアントをアップグレードします。
2. 次のコマンドを使用して、指定したバックアップイメージの移動中のデータの暗号化 (DTE) モードを Off に変更します。

```
bpimage -update -image_dtemode Off -id <backup_id>
```

3. プライマリサーバーの NetBackup 構成ファイルで DTE_IGNORE_IMAGE_MODE = WHERE_UNSUPPORTED を設定します。

オプション 2 とオプション 3 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8310

メッセージ: クライアントでは移動中のデータの暗号化 (DTE) の設定が有効になっていますが、メディアサーバーでは無効になっています。

説明: クライアントホストでは移動中のデータの暗号化設定が有効になっていますが、メディアサーバーの DTE 設定では無効になっています。この問題のため、バックアップまたはリストアは失敗します。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

1. NetBackup 操作を実行するため、移動中のデータの暗号化をサポートするメディアサーバーを選択するように NetBackup 構成を変更します。
2. 指定した操作を処理するメディアサーバーでは、移動中のデータの暗号化設定を有効にする必要があります。次のコマンドを使用して、指定したメディアサーバーのメディアサーバー DTE 設定を on に変更します。

```
nbseccmd -setsecurityconfig -dtemediamode on -mediaserver
<media_server_name>
```

3. NetBackup 操作を処理するメディアサーバーで移動中のデータの暗号化を無効にする必要がある場合は、以下の構成が設定されていることを確認します。
   - グローバル DTE モードが、PREFERRED_OFF または PREFERRED_ON のいずれかであること。
   - DTE クライアントモード設定が、OFF または AUTOMATIC のいずれかであること。

オプション 3 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8311

メッセージ: グローバル DTE (移動中のデータの暗号化) が NetBackup ドメインで適用されていますが、メディアサーバーでは DTE 設定が無効です。

説明: 移動中のデータの暗号化がドメインで適用されていますが、メディアサーバーホストの移動中のデータの暗号化設定が無効になっています。この問題により、バックアップ、リストア、複製、インポートなどの複数の NetBackup 操作は失敗します。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

1. NetBackup 操作を実行するため、移動中のデータの暗号化をサポートするメディアサーバーを選択するように NetBackup 構成を変更します。
2. 二次操作を処理するメディアサーバーでは、移動中のデータの暗号化設定を有効にする必要があります。次のコマンドを使用して、指定したメディアサーバーのメディアサーバー DTE 設定を on に変更します。

```
nbseccmd -setsecurityconfig -dtemediamode on -mediaserver
<media_server_name>
```

3. NetBackup 操作を処理するメディアサーバーで移動中のデータの暗号化を無効にする必要がある場合は、以下の構成が設定されていることを確認します。
   - グローバル DTE モードが、PREFERRED_OFF または PREFERRED_ON のいずれかであること。
   - DTE クライアントモード設定が、OFF または AUTOMATIC のいずれかであること。

オプション 3 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8312

メッセージ: バックアップイメージでは移動中のデータの暗号化 (DTE) モードが On に設定されていますが、メディアサーバーでは DTE 設定が無効になっています。

説明: リストア、複製、インポート、検証などの二次操作に使用されるバックアップイメージで、DTE モードが有効になっています。ただし、メディアサーバーホストの DTE 設定は無効です。この問題により、バックアップ、リストア、複製、インポートなどの複数の NetBackup 操作は失敗します。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

1. NetBackup 操作を実行するため、移動中のデータの暗号化をサポートするメディアサーバーを選択するように NetBackup 構成を変更します。
2. 二次操作を処理するメディアサーバーでは、移動中のデータの暗号化設定を有効にする必要があります。次のコマンドを使用して、指定したメディアサーバーのメディアサーバー DTE 設定を on に変更します。

```
nbseccmd -setsecurityconfig -dtemediamode on
```

```
-mediaserver <media_server_name>
```

3. バックアップを処理するメディアサーバーで移動中のデータの暗号化を無効にする必要がある場合は、次のコマンドを使用して、バックアップイメージの移動中のデータ暗号化 (DTE) モードを Off に変更します。

```
bpimage -update -image_dtemode Off -id <backup_id>
```

メモ: このオプションはインポートフェーズ 1 には適用されません。

4. プライマリサーバーまたはメディアサーバーの NetBackup 構成ファイルで DTE_IGNORE_IMAGE_MODE = ALWAYS を設定します (インポートフェーズ 1 の場合)。

オプション 3 とオプション 4 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8313

メッセージ: バックアップイメージでは移動中のデータの暗号化 (DTE) モードが On に設定されていますが、クライアントでは DTE 設定が無効になっています。

説明: リストアに使用されるバックアップイメージでは移動中のデータの暗号化 (DTE モード) が有効になっていますが、クライアントでは DTE 設定が無効になっています。この問題のため、リストアは失敗します。

推奨処置: 必要に応じて、以下のいずれかの操作を実行します。

1. 移動中のデータの暗号化をクライアントに適用する場合は、bp.conf 構成ファイルの DTE_CLIENT_MODE オプションを On に設定することで、そのクライアントの移動中のデータの暗号化を有効にします。
2. 特定のクライアントについて移動中のデータの暗号化を無効にする必要がある場合は、次のコマンドを使用して、バックアップイメージの移動中のデータ暗号化 (DTE) モードを Off に変更します。

```
bpimage -update -image_dtemode Off -id <backup_id>
```

3. プライマリサーバーの NetBackup 構成ファイルで DTE_IGNORE_IMAGE_MODE = ALWAYS を設定します。

オプション 2 とオプション 3 については、ジョブの実行中は DTE は無効になります。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』にある「移動中のデータの暗号化の構成」のセクションを参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8314

メッセージ: メディアはバックアップ操作の準備ができていません。(The media is not yet ready for the backup operation.)

説明: バックアップ操作を要求されたメディアが、準備できていなかビジー状態です。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8315

メッセージ: メディアサーバーがバックアップ操作を完了していません。

説明: メディアサーバーが他のジョブでビジー状態か、オフライン状態です。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8316

メッセージ: TLS 通信に必要な事前共有キーを取得できませんでした。(Failed to retrieve the pre-shared key which is required for TLS communication.)

説明: ホスト間の TLS ハンドシェークに必要な事前共有キーを取得するときにエラーが発生しました。この問題により、バックアップ、リストア、複製などの複数の NetBackup 操作は失敗します。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8350

メッセージ: バックアップジョブが失敗しました。(The backup job failed.) 部分的に成功したバックアップが失敗するように、保護計画が構成されています。(The protection plan is configured to fail partially successful backups.)

説明: 部分的に成功したバックアップが失敗するように保護計画が構成されている場合、バックアップジョブは失敗します。

推奨処置: ジョブの詳細をレビューして、失敗したリソースを確認します。失敗したリソースを含むバックアップを保持する場合は、この機能を無効にすることを検討してください。保護計画を構成する際に、[バックアップオプション (Backup options)]タブで[いずれかのリソースの保護に失敗した場合、バックアップジョブを失敗にします (Fail a backup job, if any of the resources fail to get protected)]オプションのチェックをはずします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8351

メッセージ: Kubernetes Operator サービスが停止しています。(Kubernetes Operator Service is down.)

説明: 操作を実行するには、クラスタで Kubernetes NetBackup オペレータが実行されている必要があります。

推奨処置: 配備の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。`helm list -n <namespace in which you have deployed the K8s NB operator>`

クラスタに Kubernetes NetBackup オペレータが配備されている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8352

メッセージ: 資産グループに有効なクラスタがありません。

説明: NetBackup で、無効なクラスタ (クラスタが削除されているなど) が含まれている資産グループのバックアップが試行されました。

推奨処置: バックアップを実行するには、有効なクラスタまたは削除されていないクラスタが含まれている資産グループを選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8401

メッセージ: `PrimaryServer <PrimaryServer-name>` の `namespace <namespace-name>` で `service <service-name>` を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the service in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: `PrimaryServer` のロードバランササービスを作成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `service` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。
- Azure Kubernetes クラスタに初めて NetBackup を配備する場合は、次のコマンドを使用して環境 CR を削除できます。
  - `kubectl delete -f <environment.yaml>` を実行し、`kubectl apply -f <environment.yaml>` を実行して再度作成します。

  NetBackup 環境とそのリソースが削除され、再作成されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8402

メッセージ: `PrimaryServer <PrimaryServer-name>` の `namespace <namespace-name>` から `service <service-name>` をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the service from the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 既存のロードバランサの `PrimaryServer` サービスを取得中にエラーが発生したか、サービスがクラスタから削除された可能性があります。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- 次のコマンドを使用して、指定した *namespace* でサービスが作成されているかどうかを確認します。
  `kubectl get service <service-name> -n <namespace>`
- `service` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8403

メッセージ: 予期しないラベルが付けられたサービスが名前空間ですでに利用可能であるため、`PrimaryServer <PrimaryServer-name>` の `namespace <namespace-name>` での `service <service-name>` の作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the service in the namespace for the PrimaryServer because the service is already available in the namespace with an unexpected label.)

説明: `service` のラベルが一致しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用してサービスを削除します。
  `kubectl delete service <service-name> -n <namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `service` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8404

メッセージ: 予期しないセレクタが付けられたサービスが `namespace` ですでに利用可能であるため、`PrimaryServer <PrimaryServer-name>` の `namespace <namespace>` での `service <service-name>` の作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the service in the namespace for the PrimaryServer because the service is already available in the namespace with an unexpected selector.)

説明: `service` のセレクタが一致しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して `service` を削除します。
  `kubectl delete service <service-name> -n <namespace>`
  NetBackup オペレータがサービスを再作成します。
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `service` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8405

メッセージ: `PrimaryServer <PrimaryServer-name>` の `namespace <namespace-name>` で `ConfigMap <ConfigMap-name>` を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the ConfigMap in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 指定した namespace で ConfigMap の作成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- ConfigMap について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/configuration/configmap/) を参照してください。
- Azure Kubernetes クラスタに初めて NetBackup を配備する場合は、次のコマンドを使用して環境 CR を削除できます。
  - `kubectl delete -f <environment.yaml>` を実行し、`kubectl apply -f <environment.yaml>` を実行して再度作成します。
    NetBackup 環境とそのリソースが削除され、再作成されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8406

メッセージ: PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* で ConfigMap *<ConfigMap-name>* をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the ConfigMap in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 既存の PrimaryServer ConfigMap を取得中にエラーが発生したか、ConfigMap がクラスタから削除された可能性があります。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- 次のコマンドを使用して、指定した名前空間で ConfigMap が利用可能かどうかを確認します。

```
kubectl get configmap <configmap-name> -n <namespace>
```

- ConfigMap について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/configuration/configmap/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8407

メッセージ: ConfigMap が名前空間にすでに存在するため、PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* での ConfigMap *<ConfigMap-name>* の作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the ConfigMap in the namespace for the PrimaryServer because the ConfigMap is already present in the namespace.)

説明: 同じ名前の別の ConfigMap が、指定した namespace にすでに存在します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  ```
  kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n
  <netbackup-operator-namespace>
  ```
- namespace にある同じ名前の既存の ConfigMap を削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8408

メッセージ: PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* で PVC *<PVC-name>* を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating PVC in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 指定したクラスタに永続ボリューム要求 (PVC) を作成できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  ```
  kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n
  <netbackup-operator-namespace>
  ```
- CR YAML で、storageClassName と PVC のストレージ容量が正しいかどうかを確認します。同じ名前の PVC が namespace ですでに利用可能な場合は、コマンド kubectl get pvc *<pvc-name>* -n *<namespace>* を使用してストレージ容量を確認します。

ストレージ容量は、CR 仕様に記載されているストレージ容量と同じか上回っている必要があります。

- 次のコマンドを使用して、CR で提供された `storageClassName` がクラスタで利用可能かどうかを確認します。

  ```
  kubectl get storageclass
  ```

- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `PVC` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/storage/persistent-volumes/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8409

メッセージ: `PrimaryServer <PrimaryServer-name>` の `namespace <namespace-name>` で `PVC <PVC-name>` をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the PVC in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 指定したクラスタで永続ボリューム要求 (`PVC`) を取得できません。削除された可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。

  ```
  kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>
  ```

- 次のコマンドを使用して、`PVC` が `namespace` で利用可能かどうかを確認します。

  ```
  kubectl get pvc <pvc-name> -n <namespace>
  ```

  `PVC` を利用できない場合は、次のコマンドを使用して環境 YAML を再度適用します。

  ```
  kubectl apply -f <environment.yaml>
  ```

- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `PVC` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/storage/persistent-volumes/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8410

メッセージ: PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* で PVC *<PVC-name>* を更新中にエラーが発生しました。(Error in updating PVC in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 指定したクラスタで PVC を更新できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- CR に記載されている新しい PVC のストレージ容量が現在のストレージ容量より大きいことを確認します。容量は縮小できません。この場合、正しいサイズの CR YAML を更新し、次のコマンドを使用して CR YAML を再度適用します。
  `kubectl apply -f <environment.yaml>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- PVC について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/storage/persistent-volumes/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8411

メッセージ: PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* で StatefulSet *<sts-name>* を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the StatefulSet in the namespace for the PrimaryServer.)

説明: PrimaryServer の StatefulSet を作成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

- statefulset について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。
- namespace に必要な secrets が存在するかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8412

メッセージ: PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* から StatefulSet *<sts-name>* をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the StatefulSet from the namespace for the PrimaryServer.)

説明: 既存の PrimaryServer StatefulSet を取得中にエラーが発生したか、StatefulSet がクラスタから削除された可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- statefulset について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。
- Azure Kubernetes クラスタに初めて NetBackup を配備する場合は、次のコマンドを使用して環境 CR を削除できます。
  `kubectl delete -f <environment.yaml>` を実行し、`kubectl apply -f <environment.yaml>` を実行して再度作成します。
  NetBackup 環境とそのリソースが削除され、再作成されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8413

メッセージ: 予期しないラベルが付けられた StatefulSet が namespace ですでに利用可能であるため、PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace

<namespace-name> での StatefulSet *<sts-name>* の作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the StatefulSet in the namespace for the PrimaryServer because the StatefulSet is already available in the namespace with an unexpected label.)

説明: StatefulSet のラベルが一致しません。以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、既存の statefulset を削除します。
  `kubectl delete statefulset <statefulset-name> -n <namespace>`
  オペレータが statefulset を再作成します。
- statefulset について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8414

メッセージ: 予期しないセレクタが付けられた StatefulSet が namespace ですでに利用可能であるため、PrimaryServer *<PrimaryServer-name>* の namespace *<namespace-name>* での StatefulSet *<sts-name>* の作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the StatefulSet in the namespace for the PrimaryServer because the StatefulSet is already available in the namespace with an unexpected selector.)

説明: StatefulSet のセレクタが一致しません。以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、既存の statefulset を削除します。
  `kubectl delete statefulset <statefulset-name> -n <namespace>`
  オペレータが statefulset を再作成します。

- `statefulset` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8415

メッセージ: `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace-name>` で `service <service-name>` を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the service in the namespace for the MediaServer.)

説明: `MediaServer` のロードバランササービスを作成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `service` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。
- この問題が解決しない場合は、次の手順を実行します。
  - 環境 CR を編集し、メディアサーバーのレプリカを減らします。メディアレプリカについてロードバランササービスが作成された際の、前回成功した数になるように、メディアセクションのレプリカ数を変更します。次に、次のコマンドを使用して変更を適用します。
    `kubectl apply -f <environment.yaml>`
    - 例: メディアレプリカ数を 3 に設定すると、サービスは 2 つのメディアサーバーレプリカについてのみ正常に作成されます。ただし、3 番目のメディアサーバーについてはサービスの作成時にエラーが発生します。レプリカ数を 2 に変更する必要があります。
    - 最初のメディアレプリカのサービスの作成でエラーが発生した場合は、レプリカ数を 0 に変更します。

- 次のコマンドを使用して、指定したレプリカ数に合わせてメディアレプリカサービスが減っているかどうかを確認します。

  `kubectl get service <service-name> -n <namespace>`

- 環境 CR を編集し、メディアレプリカの数を元の数に戻して変更を適用します。サービスがそれぞれのメディアサーバーに対して作成されるかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8416

メッセージ: `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace-name>` から `service <service-name>` をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the service from the namespace for the MediaServer.)

説明: 既存の `MediaServer` サービスを取得中にエラーが発生したか、`service` がクラスタから削除された可能性があります。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。

  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`

- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

- 次のコマンドを使用して、指定した名前空間でサービスが利用可能かどうかを確認します。

  `kubectl get service <service-name> -n <namespace>`

- サービスについて詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8417

メッセージ: `Service <service-name>` が `MediaServer <MediaServer-name>` の `namespace <namespace>` ですでに利用可能で、予期しないラベルが付けられています。(Service already available in the namespace for the MediaServer with unexpected labels.)

説明: `service` のラベルが一致しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用してサービスを削除します。
  `kubectl delete service <service-name> -n <namespace>`
  オペレータが `service` を再作成します。
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `service` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8418

メッセージ: `Service <service-name>` が `MediaServer <MediaServer-name>` の `namespace <namespace>` ですでに利用可能で、予期しないセレクタが付けられています。(Service already available in the namespace for the MediaServer with unexpected selectors.)

説明: `service` のセレクタが一致しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用してサービスを削除します。
  `kubectl delete service <service-name> -n <namespace>`
  オペレータが `service` を再作成します。
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

- service について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8419

メッセージ: MediaServer *<MediaServer -name>* の namespace *<namespace-name>* で ConfigMap *<ConfigMap-name>* を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the ConfigMap in the namespace for the MediaServer.)

説明: 指定した namespace で ConfigMap を作成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- service について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/services-networking/service/) を参照してください。
  - Azure Kubernetes クラスタに NetBackup を初めて配備する場合は、環境 CR YAML の mediaServers セクションを削除することでメディア CR を削除できます。次の手順で mediaServer データを再利用するには、そのデータを保存する必要があります。
  - 以前に削除した mediaServers セクションを追加して environment.yaml を更新することで MediaServer CR を再作成し、次のコマンドを使用して変更を適用します。
    `kubectl apply -f <environment.yaml>`
    NetBackup 環境とそのリソースが削除され、再作成されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8420

メッセージ: MediaServer *<MediaServer -name>* の namespace *<namespace-name>* で ConfigMap *<ConfigMap-name>* をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the ConfigMap in the namespace for the MediaServer.)

説明: 既存の MediaServer configmap を取得中にエラーが発生したか、configmap がクラスタに存在しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- 次のコマンドを使用して、指定した namespace で configmap が利用可能かどうかを確認します。
  `kubectl get configmap <configmap-name> -n <namespace>`
- configmap について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/configuration/configmap/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8421

メッセージ: MediaServer *<MediaServer -name>* の namespace *<namespace-name>* で ConfigMap *<ConfigMap-name>* を更新中にエラーが発生しました。(Error in updating ConfigMap in the namespace for the MediaServer.)

説明: ConfigMap を指定した namespace で更新できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- configmap について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/configuration/configmap/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8422

メッセージ: `ConfigMap <ConfigMap-name>` が `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace-name>` ですでに利用可能で、予期しないラベルが付けられています。(ConfigMap is already available in the namespace for the MediaServer with unexpected labels.)

説明: 既存の `ConfigMap` で使用されているラベルの一部が一致しません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- `configmap` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/configuration/configmap/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8423

メッセージ: `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace-name>` で `StatefulSet <sts-name>` を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the StatefulSet in the namespace for the MediaServer.)

説明: `MediaServer` の `StatefulSet` を作成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタ構成を確認し、NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `statefulset` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8424

メッセージ: `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace-name>` から `StatefulSet <sts-name>` をフェッチ中にエラーが発生しました。(Error in fetching the StatefulSet from the namespace for the MediaServer.)

説明: 既存の `MediaServer StatefulSet` を取得中にエラーが発生したか、`StatefulSet` がクラスタから削除されました。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- クラスタに問題がないかを確認し、構成が正しいことを確認します。NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `statefulset` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。
- 設定が新規配備で、バックアップジョブとリカバリジョブが構成されていない場合:
  - `environment.yaml` の `mediaServers` セクションを削除することで CR を削除し (ユーザーは次の手順で再利用するために `mediaServer` データを保存する必要がある)、次のコマンドを使用して変更を適用します。
    `kubectl apply -f <environment.yaml>`
  - 以前に削除した `MediaServer` セクションを追加して `environment.yaml` を更新することで `MediaServer` CR を再作成し、次のコマンドを使用して変更を適用します。
    `kubectl apply -f <environment.yaml>`
    NetBackup 環境とそのリソースが削除され、再作成されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8425

メッセージ: `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace-name>` で `StatefulSet <sts-name>` を更新中にエラーが発生しました。(Error in updating StatefulSet in the namespace for the MediaServer.)

説明: 既存の `MediaServer StatefulSet` を更新できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 環境 CR のメディアサーバーセクションのレプリカ数が、以前に使用されたレプリカ数より大きいかどうかを確認します。
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- `statefulset` について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8426

メッセージ: `StatefulSet <Statefulset-name>` が `MediaServer <MediaServer>` の `namespace <namespace>` ですでに利用可能で、予期しないラベルが付けられています。(StatefulSet already available in the namespace for the MediaServer with unexpected labels.)

説明: `StatefulSet` のラベルが一致しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、既存の `statefulset` を削除します。
  `kubectl delete statefulset <statefulset-name> -n <namespace>`
  オペレータが `statefulset` を再作成します。

- statefulset について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8427

メッセージ: StatefulSet *<Statefilset-name>* が MediaServer *<MediaServer>* の namespace *<namespace>* ですでに利用可能で、予期しないセレクタが付けられています。(StatefulSet already available in the namespace for the MediaServer with unexpected selectors.)

説明: StatefulSet のセレクタが一致しません。NetBackup 配備の以前のアンインストールでクリーンアップが正しく行われていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、既存の statefulset を削除します。
  `kubectl delete statefulset <statefulset-name> -n <namespace>`
- statefulset について詳しくは、Kubernetes のマニュアル (https://kubernetes.io/docs/concepts/workloads/controllers/statefulset/) を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8428

メッセージ: プライマリサービスのインスタンスを取得できませんでした。(Failed to get an instance of the Primary service.)

説明: メディアサーバーリソースがプライマリサービスインスタンスを取得できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、指定した名前空間でプライマリロードバランササービスが利用可能かどうかを確認します。

```
kubectl get service <service-name> -n <namespace>
```

- クラスタの構成が正しいことを確認します。NetBackup 配備について求められる前提条件を満たしていることを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8429

メッセージ: プライマリサーバーのロードバランササービスの詳細を取得できませんでした。(Failed to get the load balancer service details of the primary server.)

説明: メディアサーバーリソースがプライマリロードバランササービスの詳細を取得できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。

```
kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n
<netbackup-operator-namespace>
```

- サービスのフェッチに問題がある可能性があります。RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8430

メッセージ: プライマリサーバーが起動していない可能性があるため、プライマリサーバーへの接続に失敗しました。(Failed to connect to the primary server because the primary server may not have started.)

説明: メディアサーバーリソースがプライマリサーバーから詳細を取得できません。プライマリサーバーの詳細へのアクセスに問題があるか、プライマリサーバーが起動していない可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。

```
kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n
<netbackup-operator-namespace>
```

- クラスタネットワークが正しく構成されていることを確認します。ロードバランササービスがポッドへの要求を正しくルーティングしていない可能性があります。
- `PrimaryServer` ポッドが準備完了状態 (1/1) であることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8431

メッセージ: `namespace <namespace>` にあるプライマリサーバーの認証 `secret <secret-name>` を取得できませんでした。(Failed to get primary server's authentication secret in the namespace.)

説明: NetBackup 管理者ユーザーのクレデンシャルを含むプライマリサーバー `secret` にアクセスできません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、`PrimaryServer` CR が配備されている `namespace` でそれぞれの `secret` が利用可能であることを確認します。
  `kubectl get secret <secret-name> -n <namespace>`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8432

メッセージ: プライマリサーバーから CA 証明書の指紋またはトークンを取得できませんでした。(Failed to get the CA certificate fingerprint or token from the primary server.)

説明: プライマリサーバーとメディアサーバーが接続できません。メディアサーバーはプライマリサーバーからトークンの CA 証明書の指紋を取得できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- `PrimaryServer` のクレデンシャルが期限切れになっている可能性があります。次の調整ループまで待機してください (追加で 5 分待機)。
- 次のコマンドを使用して、プライマリサーバーポッドを検索し、`PrimaryServer` ポッドの準備完了状態 (1/1) を確認します。
  `kubectl get pod -n <namespace>`
  プライマリポッドが準備完了状態でない場合は、次のコマンドを使用して健全性の精査イベントを確認します。

```
kubectl describe <primary-pod-name> -n
<netbackup-environment-namespace>
```

- 健全性の精査に関する情報について詳しくは、『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8433

メッセージ: `MediaServer <MediaServer -name>` の `namespace <namespace>` でプライマリサーバーの `bp.conf` を更新中にエラーが発生しました。(Error in updating the bp.conf of the primary server in the namespace for the MediaServer.)

説明: プライマリサーバーの `bp.conf` にメディアホストエントリを追加できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  ```
  kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n
  <netbackup-operator-namespace>
  ```
- `secret` にあるプライマリサーバーのクレデンシャルが期限切れではないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8434

メッセージ: プライマリサーバーのカスタムリソースの `iplist` に指定できる IP は 1 つのみです。(Only one IP can be provided in iplist of the Custom Resource for a primary server.)

説明: 環境 CR YAML のプライマリセクションにある `iplist` に指定できるのは 1 つのエントリのみです。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 環境 CR YAML のプライマリセクションにある `networkLoadBalancer` で、`ipList` に記載されるエントリの数は 1 であることが必要です。
  それ以外の場合は、環境 CR で次のいずれかの項目を編集し、プライマリセクションの `ipList` にあるエントリ数が 1 になるようにします。
  - 次のコマンドを使用して環境 CR を編集し、保存します。
    ```
    kubectl edit environments.netbackup.veritas.com
    <netbackup-environment-name> -n <environmentCR-namespace>
    ```

- 次のコマンドを使用して、環境 CR YAML を編集し、変更内容を適用します。
  `kubectl apply -f <environment.yaml>`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8435

メッセージ: カスタムリソースの `ipList` に指定されている IP アドレスの数はレプリカの数以上である必要があります。(Number of IP addresses provided in iplist of Custom Resource must not be less than the replica count.)

説明: 環境 CR YAML にある `mediaServers` セクションの `ipList` に記載されている IP アドレスの数は、同じセクションに記載されているメディアレプリカ数以上である必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 環境 CR のメディアセクションの `networkLoadBalancer` で、`ipList` に記載されている IP アドレスの数を確認します。この数は、同じセクションに記載されているメディアレプリカ数と同じか上回っている必要があります。
  それ以外の場合は、環境 CR を編集し、`mediaServers` セクションの `ipList` にあるエントリ数がメディアレプリカ数と同じか上回るようにします。次のいずれかの項目で環境 CR を編集します。
  - 次のコマンドを使用して環境 CR を編集し、保存します。
    `kubectl edit environments.netbackup.veritas.com <netbackup-environment-name> -n <environmentCR-namespace>`
  - 次のコマンドを使用して、環境 CR YAML を編集し、変更内容を適用します。
    `kubectl apply -f <environment.yaml>`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8436

メッセージ: メディアサーバーのカスタムリソースの spec で、`ResourceNamePrefix` に文字列「`primary`」を含めることはできません。(ResourceNamePrefix in spec of custom resource of the media server must not contain the string 'primary'.)

説明: 環境 CR の `mediaServers` セクションでは、`ResourceNamePrefix` 値に `primary` 部分文字列を含めることはできません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 環境 CR の `mediaServers` セクションにある `resourceNamePrefix` に、`primary` 部分文字列が含まれていないことを確認します。

primary 部分文字列が含まれている場合は、次のいずれかの手順で環境 CR を編集し、mediaServers セクションの resourceNamePrefix を更新します。

- 次のコマンドを使用して環境 CR を編集し、保存します。
  kubectl edit environments.netbackup.veritas.com *<netbackup-environment-name>* -n *<environmentCR-namespace>*
- 次のコマンドを使用して、環境 CR YAML を編集し、変更内容を適用します。
  kubectl apply -f *<environment.yaml>*

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8437

メッセージ: プライマリサーバーのカスタムリソースの spec で、ResourceNamePrefix に文字列「media」を含めることはできません。(ResourceNamePrefix in spec of custom resource of the primary server must not contain the string 'media'.)

説明: CR YAML のプライマリサーバー仕様で、ResourceNamePrefix 値に media 部分文字列が含まれています。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 環境 CR のプライマリセクションにある resourceNamePrefix に、media 部分文字列が含まれていないことを確認します。
  それ以外の場合は、次のいずれかの手順で環境 CR を編集し、プライマリセクションの resourceNamePrefix を更新します。
  - 次のコマンドを使用して環境 CR を編集し、保存します。
    kubectl edit environments.netbackup.veritas.com *<netbackup-environment-name>* -n *<environmentCR-namespace>*
  - 次のコマンドを使用して、環境 CR YAML を編集し、変更内容を適用します。
    kubectl apply -f *<environment.yaml>*

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8438

メッセージ: 外部 IP が service *<service-name>* に割り当てられていません。(External IP is not assigned to service.)

説明: ロードバランササービスの場合、外部 IP アドレスは割り当てられません。外部 IP アドレスは、クラスタ外からアプリケーションにアクセスするために使用されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、サービスイベントで詳細なメッセージを確認します。
  `kubectl describe <service-name> -n <namespace>`
- 環境 CR YAML のプライマリサーバーまたはメディアサーバーのセクションにある `resourcePrefixName` は一意であることが必要です。一意でない場合は、YAML の対応するセクションを更新し、環境 CR を削除して再度適用します。
- 指定した IP アドレスとホスト名の FQDN がすでに作成されていることを確認します。また、環境 CR YAML のプライマリサーバーとメディアサーバーのセクションにある `networkLoadBalancer` の `ipList` に記載されている場合は、それらが正しく使用されていることを確認します。詳しくは、『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』にあるロードバランササービスのセクションを参照してください。
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8439

メッセージ: `<Primary/Media Server> <Primary/Media Server Name>` の名前空間 `<namespace>` で `Job <Config-check-job-Name>` を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the Job in the namespace for the Primary/Media Server.)

説明: CR 仕様が `configCheckMode = default` または `configCheckMode = dryrun` の場合、config-checker ジョブはプライマリサーバーまたはメディアサーバーを配備する前に実行されます。この config-checker ジョブはクラスタで作成されていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- `Job` の RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- 新しい配備でこの問題が発生した場合は、次の手順を実行します。
  - `primaryServer` CR に問題がある場合は、次の手順を実行します。
    次のコマンドを使用して環境 CR を削除します: `kubectl delete -f <environment.yaml>`
    次のコマンドを使用して環境を再配備します: `kubectl apply -f <environment.yaml>`

- mediaServer CR に問題がある場合は、environment.yaml の mediaServers セクションを削除することで CR を削除します。mediaServers データを保存しておき、再配置時に使用できるようにします。次のコマンドを使用して変更を適用します: kubectl apply -f *<environment.yaml>*
  mediaServer の削除後、以前に削除した mediaServers データで environment.yaml を更新します。次のコマンドを使用して再配備します: kubectl apply -f <environment.yaml>

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8440

メッセージ: Config-checker が失敗したか、構成要件が満たされていませんでした。(Config-checker failed or the configuration requirements were not met.)

説明: 一部のプラットフォーム構成チェックで Config-checker が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  kubectl logs *<netbackup-operator-pod-name>* netbackup-operator -n *<netbackup-operator-namespace>*
- 構成チェックが失敗した場合は、有効な解決方法でチェックを修正します。Config-checker の他の詳細については、『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8441

メッセージ: Config-checker のログを取得できませんでした。(Failed to get Config-checker logs.)

説明: Config-checker のログの取得に問題があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  kubectl logs *<netbackup-operator-pod-name>* netbackup-operator -n *<netbackup-operator-namespace>*
- 次のコマンドを使用して、Config-checker ポッドのログで詳細なメッセージを確認します。
  kubectl logs *<config-checker-pod-name>* -n *<operator-namespace>*

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8442

メッセージ: Config-checker がタイムアウト制限を超えました。(Config-checker exceeded the timeout limit.)

説明: このエラーは、config-checker ポッドが 5 分以上保留状態のままになっている場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- ノードが、クラスタ内のポッドをそれぞれのラベルでスケジュール設定できることを確認します。
- 次のコマンドを使用して、config-checker ポッドのイベントを確認します。
  `kubectl describe <config-checker-pod-name> -n <operator-namespace>`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8443

メッセージ: `namespace <namespace>` の `secret <secret-name>` のユーザー名またはパスワードが正しくありません。(Incorrect username or password in the secret in namespace.)

説明: この問題は次のシナリオで発生します。

- プライマリサーバーが、指定されたプライマリサーバーの入力 (メディアサーバー CR のプライマリサーバー名や `secret` 名など) に基づいて認証される場合。
- プライマリサーバーの配備で使用される `secret` 名とメディアサーバー CR で指定される名前が一致しない場合。この名前は、次のコマンドを使用して確認できます。
  `kubectl describe PrimaryServer <primary-server-cr-name> -n <namespace>` と `kubectl describe MediaServer <media-server-cr-name> -n <namespace>`
- プライマリサーバーで使用される `secret` のユーザー名とパスワードは、メディアサーバー CR の `secret` にあるユーザー名とパスワードと同じである必要があります。

推奨処置: `secret` で定義され、`PrimaryServer` CR で使用されるユーザー名とパスワードが、`MediaServer` CR で使用される `secret` と同じであることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8444

メッセージ: `namespace <namespace>` で `role <custom role>` を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the role in the namespace.)

説明: 制限付き権限でカスタム役割を作成する際に問題が発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- Kubernetes のマニュアルの「RBAC 認可を使用する | Kubernetes」で `role` の説明を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8445

メッセージ: `namespace <namespace>` で `role <custom role>` を取得中にエラーが発生しました。(Error in retrieving the role in the namespace.)

説明: 制限付き権限でカスタム役割を取得する際に問題が発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- 次のコマンドを使用して、指定した名前空間で役割が利用可能かどうかを確認します。
  `kubectl get role <role-name> -n <namespace>`
- Kubernetes のマニュアルの「RBAC 認可を使用する | Kubernetes」で `role` の説明を確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8446

メッセージ: カスタムリソースの指定で提供された固定 `IP address <IP-address>` の形式が正しくありません。(Invalid format for static IP address provided in custom resource specification.)

説明: `networkLoadBalancer` の `ipList` で指定された IP アドレスが正しくありません。環境 CR YAML の `primaryServers` または `mediaServers` セクションの IP アドレスが正しい形式ではありません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 環境 CR の `primaryServers` または `mediaServers` セクションで指定されている IP アドレスの形式が有効であることを確認します。
  - IP アドレスの形式が正しくない場合は、次のいずれかの手順で環境 CR を編集し、それぞれのセクションで IP アドレス形式を更新します。
    - 次のコマンドを使用して、環境 CR を編集し、保存します。
      `kubectl edit environments.netbackup.veritas.com <netbackup-environment-name> -n <environmentCR-namespace>`
    - 次のコマンドを使用して、環境 CR YAML を編集し、変更内容を適用します。
      `kubectl apply -f <environment.yaml>`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8453

メッセージ: *<Primary>* *<Primary>* の名前空間 *<namespace>* でジョブ *<Migration-job-Name>* を作成中にエラーが発生しました。(Error in creating the job <Migration-job-Name> in the namespace <namespace> for the <Primary> <Primary>.)

説明: 移行ジョブは、プライマリ配備の前かつ `configChecker` の後で、`environment.yaml` ファイルのストレージクラス名が変更されると実行されます。この移行ジョブはクラスタでは作成されていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup オペレータのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n<netbackup-operator-namespace>`
- ジョブの RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment for Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- プライマリサーバー CR に問題がある場合は、次の手順を実行します。

- 次のコマンドを使用して環境 CR を削除します: `kubectl delete -f <environment.yaml>`
- 次のコマンドを使用して環境を再配備します: `kubectl apply -f <environment.yaml>`

- データの移行中にこの問題が発生した場合は、次の手順を実行します。
  - 次のコマンドを使用して、移行ポッドのログで詳細を確認します: `kubectl logs <catalog-or-log-migration-job-name> -n <netbackup-environment-namespace>`
  - NetBackup オペレータポッドに次のいずれかのメッセージが表示される場合:
    名前を変更する PVC を取得中にエラーが発生しました。(Error while getting PVC for renaming.)
    古い PVC を削除中にエラーが発生しました。(Error while deleting old PVC.)
    古い PVC にパッチを適用中にエラーが発生しました。(Error while patching old PVC.)
    ログ PVC の名前を変更中にエラーが発生しました。(Error while renaming logs PVC.)
    カタログ PVC の名前を変更中にエラーが発生しました。(Error while renaming catalog PVC.)
    次の手順を実行します。
    - ファイルを手動でコピーまたは無視するか、次の手順に進みます。
    - 次のように PVC のボリューム名とストレージクラスを保存します。

      ```
      kubectl describe pvc <azure-disk- or-files-pvc-name>
      -n <netbackup-environment-namespace>
      ```

    - 古い Azure ディスクまたはファイル PVC を削除し、新しい Azure ファイル PVC の名前を、古い Azure ディスクまたはファイル PVC の名前に次のように変更します。

      ```
      kubectl delete pvc <azure-disk-or-files-pvc-name>
      -n <netbackup-environment-namespace>
      kubectl patch pv <saved_volume_name> --type json
      -p '[{"op": "remove", "path": "/spec/claimRef"}]'
      ```

    - 前の手順を完了した後、PV が利用可能であることを確認します。
    - 次のように、古い PV で新しい Azure ファイル PVC を作成します。

      ```
      apiVersion: v1
      kind: PersistentVolumeClaim
      ```

```
metadata:
  name: <old_pvc_name>
  namespace: <old_pvc_namespace>
spec:
  accessModes:
    - ReadWriteMany
  volumeName: <saved_volume_name>
  storageClassName: <saved_storage_class_name>
  resources:
    requests:
      storage: 100Gi #previous files size
```

- 精査 `/opt/veritas/vxapp-manage/nb-health enable` を有効にします。
- 次のように、レプリカ数を 1 に設定するか、`environment.yaml` ファイルを再適用します。
  `kubectl scale --replicas=1 <STS name> -n <netbackup-environment-namespace>` を実行するか、`environment.yaml` ファイルを再適用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8454

メッセージ**:** 移行が失敗したか、構成要件が満たされていませんでした。(Migration failed or the configuration requirements were not met.)

説明**:** 一部のプラットフォーム構成チェックで移行が失敗しました。

推奨処置**:** 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup Operator のログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、失敗したデータ移行の際に作成された Azure ファイルを含む、新しい PVC を削除します。
  `kubectl delete pvc <pvc_name> -n <netbackup-environment-namespace>`

`environment.yaml` ファイルを再適用して、データ移行を再び開始します。移行に関するその他の詳細について詳しくは、『NetBackup Deployment for Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8455

メッセージ: 移行ログの取得に失敗しました。(Failed to get migration logs.)

説明: 移行ログの取得に問題があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup Operator のログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、移行ポッドのログで詳細なメッセージを確認します。
  `kubectl logs <migration-pod-name> -n <operator-namespace>`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8456

メッセージ: 移行がタイムアウト制限を超えました。(Migration exceeded the time-out limit.)

説明: このエラーは、移行ポッドが 5 分以上保留状態のままになっている場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup Operator のログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- ノードが、クラスタ内のポッドをそれぞれのラベルでスケジュール設定できることを確認します。
- 次のコマンドを使用して、移行ポッドのイベントを確認します。
  `kubectl describe <migration-pod-name> -n <operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、失敗したデータ移行で作成された Azure ファイルを含む、新しい PVC を削除します。
  `kubectl delete pvc <pvc_name> -n <netbackup-environment-namespace>`

`environment.yaml` ファイルを再適用して、データ移行を再び開始します。移行に関するその他の詳細について詳しくは、『NetBackup Deployment for Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8459

メッセージ**:** MigrationStatus: 転送に失敗しました。(MigrationStatus: Transfer Failed.)

説明**:** rsync ですべてのファイルの転送に失敗しました。

推奨処置**:** 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、移行ポッドのログで詳細を確認します。
  `kubectl logs <catalog-or-log-migration-job-name> -n <netbackup-environment-namespace>`
- ファイルを手動でコピーまたは無視するか、次の手順に進みます。
- 次のように PVC のボリューム名とストレージクラスを保存します。

  ```
  kubectl describe pvc <azure-disk- or-files-pvc-name>
  -n <netbackup-environment-namespace>
  ```

- 古い Azure ディスクまたはファイル PVC を削除し、新しい Azure ファイル PVC の名前を、古い Azure ディスクまたはファイル PVC の名前に次のように変更します。

  ```
  kubectl delete pvc <azure-disk-or-files-pvc-name>
  -n <netbackup-environment-namespace>
  kubectl patch pv <saved_volume_name> --type json
  -p '[{"op": "remove", "path": "/spec/claimRef"}]'
  ```

- 前の手順を完了した後、PV が利用可能であることを確認します。
- 次のように、古い PV で新しい Azure ファイル PVC を作成します。

  ```
  apiVersion: v1
  kind: PersistentVolumeClaim
  metadata:
    name: <old_pvc_name>
    namespace: <old_pvc_namespace>
  spec:
    accessModes:
      - ReadWriteMany
    volumeName: <saved_volume_name>
    storageClassName: <saved_storage_class_name>
    resources:
      requests:
        storage: 100Gi #previous files size
  ```

- 精査 `/opt/veritas/vxapp-manage/nb-health enable` を有効にします。

- 次のように、レプリカ数を 1 に設定するか、environment.yaml ファイルを再適用します。

  kubectl scale --replicas=1 *<STS name>* -n *<netbackup-environment-namespace>* を実行するか、environment.yaml ファイルを再適用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8460

メッセージ: MigrationStatus: 検証に失敗しました (Verification Failed)

説明: ファイル転送後に検証に失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、移行ポッドのログで詳細を確認します。

  kubectl logs *<catalog-or-log-migration-job-name>* -n *<netbackup-environment-namespace>*

- ファイルを手動でコピーまたは無視するか、次の手順に進みます。
- 次のように PVC のボリューム名とストレージクラスを保存します。

  kubectl describe pvc *<azure-disk- or-files-pvc-name>* -n *<netbackup-environment-namespace>*

- 古い Azure ディスクまたはファイル PVC を削除し、新しい Azure ファイル PVC の名前を、古い Azure ディスクまたはファイル PVC の名前に次のように変更します。

  kubectl delete pvc *<azure-disk-or-files-pvc-name>* -n *<netbackup-environment-namespace>*
  kubectl patch pv *<saved_volume_name>* --type json -p '[{"op": "remove", "path": "/spec/claimRef"}]'

- 前の手順を完了した後、PV が利用可能であることを確認します。
- 次のように、古い PV で新しい Azure ファイル PVC を作成します。

```
apiVersion: v1
kind: PersistentVolumeClaim
metadata:
  name: <old_pvc_name>
  namespace: <old_pvc_namespace>
spec:
  accessModes:
```

```
  - ReadWriteMany
volumeName: <saved_volume_name>
storageClassName: <saved_storage_class_name>
resources:
  requests:
    storage: 100Gi #previous files size
```

- 精査 `/opt/veritas/vxapp-manage/nb-health enable` を有効にします。
- 次のように、レプリカ数を 1 に設定するか、`environment.yaml` ファイルを再適用します。

  `kubectl scale --replicas=1 <STS name> -n <netbackup-environment-namespace>` を実行するか、`environment.yaml` ファイルを再適用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8469

メッセージ**:** 名前空間 `namespace <netbackup-environment-namespace>` で PVC の名前を `<old-pvc-name>` から `<new-pvc-name>` に変更する際にエラーが発生しました。(Error in renaming the PVC <old-pvc-name> to <new-pvc-name> in the namespace '%s'.)

説明**:** 指定したクラスタで、永続ボリューム要求 (PVC) の名前を変更できません。

推奨処置**:** 必要に応じて次を実行します。

- 次のコマンドを使用して、NetBackup Operator のログで詳細を確認します。

  `kubectl logs <netbackup-operator-pod-name> netbackup-operator -n <netbackup-operator-namespace>`
- 次のコマンドを使用して、CR で提供された `storageClassName` がクラスタで利用可能かどうかを確認します。

  `kubectl get storageclass`
- RBAC 権限が正しいことを確認します。『NetBackup Deployment on Azure Kubernetes Cluster (AKS) Administrator's Guide』を参照してください。
- PVC について詳しくは、Kubernetes のマニュアルを参照してください。
- 次の手順を使用して手動で名前を変更します。
  - 次のように PVC のボリューム名とストレージクラスを保存します。

    ```
    kubectl describe pvc <azure-disk- or-files-pvc-name>
    -n < netbackup-environment-namespace >
    ```

- 古い Azure ディスクまたはファイル PVC を削除します。

```
kubectl delete pvc <azure-disk-or-files-pvc-name>
-n <netbackup-environment-namespace>
kubectl patch pv <saved_volume_name> --type json
-p '[{"op": "remove", "path": "/spec/claimRef"}]'
```

- 前の手順を完了した後、PV が利用可能であることを確認します。
- 次のように、古い PV で新しい Azure ファイル PVC を作成します。

```
apiVersion: v1
kind: PersistentVolumeClaim
metadata:
  name: <old_pvc_name>
  namespace: <old_pvc_namespace>
spec:
  accessModes:
    - ReadWriteMany
  volumeName: <saved_volume_name>
  storageClassName: <saved_storage_class_name>
  resources:
    requests:
      storage: 100Gi #previous files size
```

- 精査 `/opt/veritas/vxapp-manage/nb-health enable` を有効にします。
- 次のように、レプリカ数を 1 に設定するか、`environment.yaml` ファイルを再適用します。
  `kubectl scale --replicas=1 <STS name> -n <netbackup-environment-namespace>` を実行するか、`environment.yaml` ファイルを再適用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8500

メッセージ: Web サービスとの接続が確立されませんでした。(Connection with the web service was not established)

説明: Web サービスとの接続を確立できませんでした。

推奨処置: NetBackup Web 管理コンソールが実行中であることを確認してください。実行中でない場合、`nbwmc -start` コマンドで起動します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8503

メッセージ: CURL から不明なエラーが戻されました。(CURL has returned an unknown error.)

説明: ホスト <master server> に NetBackup ホスト ID ベースのセキュリティ証明書がインストールされていません。安全な接続を確立するには、証明書が必須です。

推奨処置: このエラーコードについて詳しくは、https://support.cohesity.com/s/article/article-100034053 の技術情報の記事を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8504

メッセージ: Web サービスの証明書が不明な認証局によって発行されています。

説明: Web サービスによって提示された証明書が、ホストが信頼していない CA によって発行されています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 必要なサーバーの CA 証明書をフェッチして、操作を再実行します。
- マスターサーバーで、NetBackup CA が署名した証明書または外部 CA が署名した証明書 (いずれか適用可能な証明書) の使用が有効になっていることを確認します。

問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8505

メッセージ: ホストのクロックとマスターサーバーのクロックが同期されていることを確認してください。

説明: Web サービスへの接続の検証中に、まだ有効になっていない証明書が見つかりました。

推奨処置: ホストのクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8506

メッセージ: 証明書が期限切れになりました。

説明: Web サービスへの接続の検証中に期限切れの証明書が見つかりました。

推奨処置: ホストのクロックが指定したサーバーと同期しているかを確認します。必要に応じて、ホストの時刻を修正して操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8507

メッセージ: 証明書を検証できませんでした。

説明: ホストで証明書を検証することができませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8508

メッセージ: 信頼できる認証局のリストをフェッチできません。(List of trusted Certificate Authorities cannot be fetched.)

説明: 考えられる原因は、次のとおりです。

- どの認証局ともまだ信頼関係が確立されていません。
- RHV サーバーとの接続を確立するための信頼できる認証局のリストを取得できません。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `nbcertcmd -listCACertDetails` コマンドを使用して、トラストストアに CA 証明書が追加されていることを確認します。`nbcertcmd -getCACertificate -server` *`master_server_name`* コマンドを実行して、トラストストアに必要な証明書を追加します。
- RHV:

- VIRTUALIZATION_HOSTS_SECURE_CONNECT_ENABLED オプションが有効な場合、証明書と CRL の配置を確認する必要があります。RHV 仮想化サーバーの証明書と CRL が、ECA の構成済みトラストストアと CRL パスにそれぞれ追加されていることを確認します。
- 証明書と CRL ファイルが正しい形式で、トラストストアファイルと CRL ファイルが破損していないことを確認します。
- 仮想化サーバーでサポートされるのは、ファイルベースのトラストストアと Windows トラストストアの PEM 証明書形式のみです。P7b または DER 形式のファイルベースのトラストストアは、サポートされません。この機能が有効な場合、証明書 ECA ストアは、Windows 証明書ストアかファイルベースの PEM 形式ストアである必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8509

メッセージ: 指定したサーバー名が Web サービス証明書内に見つかりませんでした。

説明: 指定したサーバー名は、Web サービスが提供する証明書に示されているどのホスト名とも一致しません。

推奨処置: サーバーの証明書に示されている名前のいずれかを使用して操作を再実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8510

メッセージ: Web サーバー証明書の検証が失敗しました

説明: Web サービスによって提示された証明書をホストで検証できませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8511

メッセージ: ローカル証明書またはキーストアのロードに失敗しました。

説明: このエラーは次の場合に発生する可能性があります。

- 証明書またはキーストアは、指定されたパスでは利用できません。

- 証明書またはキーストアが破損しているか、アクセス不能です。
- 秘密鍵が暗号化され、パスフレーズファイルのパスが指定されていません。
- 秘密鍵が暗号化され、パスフレーズファイルに含まれているパスフレーズが間違っています。

推奨処置: 証明書とキーストアがアクセス可能であり、それらのパスが正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8512

メッセージ: 証明書情報の取得に失敗しました。(Failed to retrieve the certificate information.)

説明: NetBackup は、証明書情報を読み込めません。

推奨処置: 指定された証明書のトラストストアファイルが正しい形式であること、および必要なホスト証明書がファイル内に存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8516

メッセージ: SSL ハンドシェイクエラーが発生しました。

説明: NetBackup で SSL 通信ハンドシェイク中に問題が発生しました。

推奨処置: リモートホストで構成されている暗号が、ホストの暗号リストに含まれていることを確認します。また、使用されている TLS バージョンをリモートホストがサポートしていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8517

メッセージ: 指定された SSL 暗号は使用できません。(The specified SSL cipher cannot be used.)

説明: SSL 通信用に指定した暗号リストが設定されている間に、NetBackup で問題が発生しました。

推奨処置: 仮想化サーバーで構成されている暗号がホストの暗号リストに含まれていることを確認してください。また、指定した暗号リストが正しい形式であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8604

メッセージ**:** ホストの証明書を検証できません。(Unable to validate the certificate for host.)

説明**:** RHV サーバーの証明書を検証できません。

推奨処置**:** 必要に応じて次の操作を実行します。

RHV:

- VIRTUALIZATION_HOSTS_SECURE_CONNECT_ENABLED オプションが有効な場合、証明書と CRL の配置を確認する必要があります。RHV 仮想化サーバーの証明書と CRL が、ECA の構成済みトラストストアと CRL パスにそれぞれ追加されていることを確認します。
- 証明書と CRL ファイルが正しい形式で、トラストストアファイルと CRL ファイルが破損していないことを確認します。
- 仮想化サーバーでサポートされるのは、ファイルベースのトラストストアと Windows トラストストアの PEM 証明書形式のみです。P7b または DER 形式のファイルベースのトラストストアは、サポートされません。この機能が有効な場合、証明書 ECA ストアは、Windows 証明書ストアかファイルベースの PEM 形式ストアである必要があります。

Sheltered Harbor ソリューションの場合:

- Sheltered Harbor のソリューション構成で、正しい CA 証明書ファイルが提供されていることを確認します。次のコマンドを使用して、Sheltered Harbor ソリューションの設定を確認できます。
  UNIX の場合:

  ```
  /usr/openv/netbackup/bin/nbshvault --show-config
  ```

  Windows の場合:

  ```
  install_path¥NetBackup¥bin¥nbshvault --show-config
  ```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8611

メッセージ**:** URI で参照するリモートオブジェクトへの接続を開くことができませんでした (Failed to open the connection to the remote object that is referred to by the URI)

説明: ホスト名やポートなどの指定された情報が正しくないか、サーバーにアクセスできないため、サーバーへの接続が失敗します。

推奨処置: ホスト名またはポートが有効であるかどうかを確認して、サーバーとの接続を確立します。また、サーバーに接続できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8617

メッセージ: ホストとの通信は安全ではありませんが許可されているため、接続されたままになっています。

説明: ピアホストが NetBackup 8.0 以前であり、安全でない通信を許可するようにセキュリティが設定されています。この設定では、NetBackup 8.0 以前を実行しているホストとの通信が安全でなくても許可されます。

推奨処置: ホストを NetBackup バージョン 8.0 以降にアップグレードすると安全に通信できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8618

メッセージ: ホスト ID からホスト名へのマッピングが承認されていないため、接続が切断されています。

説明: 別のホストへの接続に使用するホスト名がそれぞれのホスト ID にマッピングされていないため、接続が確立されていません。

推奨処置: NetBackup 管理者は、指定されたホストの関連ホスト ID からホスト名へのマッピングをすべて承認する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8619

メッセージ: ホスト ID からホスト名へのマッピングが自動的に承認されているため、接続されたままになっています。

説明: ホスト ID からホスト名へのマッピングを自動的に承認するようにセキュリティが設定されているため、ホスト間の接続が確立されています。

推奨処置: 処置は不要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8620

メッセージ: ホストとの通信が安全でないため許可されず、接続が切断されています。

説明: ピアホストが NetBackup 8.0 以前であり、このようなホストとの通信をオフにするようにセキュリティが設定されているため、接続は確立されません。

推奨処置: ホストを NetBackup バージョン 8.0 以降にアップグレードすると安全に通信できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8621

メッセージ: ホストが NetBackup 8.0 以前の可能性があるため、接続が切断されています。

説明: 以前の通信状態では、ピアホストは安全に通信できると示されていましたが、NetBackup 8.0 以前にダウングレードしたようなので、接続は確立されていません。

推奨処置: ピアホストのアップグレード後に、旧リリースにダウングレードしているかどうかを確認します。ダウングレードしている場合、指定したホストは安全ではないとNetBackup 管理者がマーク付けしている可能性があります。

ダウングレードしていない場合は、別のホストがピアホストを偽装しようとしています。ネットワークツールを使用して、偽装しようとしているホストを見つけて対応策を行うことができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8622

メッセージ: ホスト ID からホスト名へのマッピングで競合が検出されたため、接続は切断されています。

説明: ピアホストのホスト ID がマスターサーバーに認識されているホスト ID と一致しないため、接続できません。このエラーは、次の状況のいずれかで発生する場合があります。

- クラスタ設定で、アクティブノードが停止して非アクティブノードがアクティブになっている。新しいアクティブノードのホスト ID と仮想名間のマッピングが存在しない
- 特定の NetBackup ドメインで 2 つ以上のホストのホスト名が同じである。
- 不明なホストがピアホストを偽装しようとしている

推奨処置: 環境で複数のホスト ID が同じホスト名に関連付けられている場合、NetBackup 管理者はマッピングを確認して承認する必要があります。

不明なホストがピアホストを偽装しようとしている場合は、利用可能なネットワークツールを使用して該当ホストを検出し、対応策を行うことができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8623

メッセージ: ホストの接続形式を特定できませんでした。

説明: 内部エラーです。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8625

メッセージ: 要求の処理にサーバーを使用できません。後で再試行してください。

説明: この NetBackup 状態コードは HTTP 状態コード 503 と一緒に表示されます。この状態は、以下の説明のいずれかを示します。

- NetBackup Web サーバーが全容量を使用して実行されているため、要求を処理できない。応答時間が数ミリ秒に設定されているため、要求が失敗する。
- 特定の要求に対し、NetBackup ドメインサービスからの応答を取得する前に、NetBackup Web サーバーがタイムアウトした。NetBackup Web サービスが `nbsl`、`nbaudit`、`nbemm` などのドメインサービスと通信している。これらのサービスとの接続に問題があると、この状態コードが表示されます。応答時間が長く (約 10 分間)、この状態コードが表示された場合は、この状況であると判断できます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サービスが正しく起動し実行中であることを確認します。
- 関連する NetBackup サービスが起動しているのに依然としてこのエラーコードが表示される場合は、Web サーバーの負荷が高くなっています。数秒後に操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8629

メッセージ: NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書のハッシュエントリが、NetBackup 構成データベースに見つかりませんでした。

説明: NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書のハッシュエントリが、NetBackup 構成データベースに見つかりませんでした。

推奨処置: トラブルシューティングの手順に従って、NetBackup Appliance 向けの NetBackup マスターサーバーに SSL 証明書をインストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8630

メッセージ: NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書レコードが NetBackup 構成データベースに見つかりませんでした。

説明: NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書レコードが NetBackup 構成データベースに見つかりませんでした。

推奨処置: トラブルシューティングの手順に従って、NetBackup Appliance 向けの NetBackup マスターサーバーに SSL 証明書をインストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8631

メッセージ: 現在のホスト ID からホスト名へのマッピングが、NetBackup 構成データベースの NetBackup Deduplication Web サーバーのホスト名と競合しています。NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書レコードを更新してください。

説明: 現在のホスト ID からホスト名へのマッピングが、NetBackup 構成データベースの NetBackup Deduplication Web サーバーのホスト名と競合しています。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 現在の NetBackup ホスト ID からホスト名へのマッピングが、MSDP の SSL 証明書の NetBackup データベースレコードに格納されているホスト名とは異なるホスト名を返しています。NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書レコードを更新します。
- トラブルシューティングの手順に従って、NetBackup アプライアンス向けの NetBackup マスターサーバーに SSL 証明書をインストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8632

メッセージ: NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書が、NetBackup Deduplication サーバーのトラストストアに見つかりませんでした。

説明: NetBackup Deduplication Web サーバーの SSL 証明書が、NetBackup Deduplication サーバーのトラストストアに見つかりませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- MSDP の SSL 証明書の NetBackup データベースレコードがありますが、証明書がトラストストアに見つかりませんでした。トラストストアに、証明書があることを確認します。
- トラブルシューティングの手順に従って、NetBackup アプライアンス向けの NetBackup マスターサーバーに SSL 証明書をインストールします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8633

メッセージ: 指定された SSL 証明書のハッシュが、NetBackup Deduplication Web サーバーで取得した SSL 証明書と一致しませんでした。

説明: 指定された SSL 証明書のハッシュが、NetBackup Deduplication Web サーバーで取得した SSL 証明書と一致しませんでした。

推奨処置: 指定された SHA-512 SSL 証明書のハッシュが、NetBackup Appliance ホスト上の Web サーバー (`nginx`) が示す証明書向けであることを確認します。このホストは、特定のホスト ID でマスターサーバーに認識されています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8634

メッセージ: キー名が重複しています。

説明: キーストアに同じ名前のキーがすでに存在します。

推奨処置: ファイル `.credential_keystore` と `credjkskey` の所有権と権限を確認します。必要に応じて、ユーザーアカウント `nbwebsvc` の読み取り権限を許可します。その後、操作を再試行します。

`.credential_keystore` のパスは次のとおりです。

- UNIX の場合:
  `/usr/openv/var/global/wsl/credentials/.credential_keystore`

- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥wsl¥credentials¥.credential_keystore

credjskey (クレデンシャルキーストアのパスワードを保持するファイル) へのパスは、次のとおりです。

- UNIX の場合: /usr/openv/var/global/credjkskey
- Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥credjkskey

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8635

メッセージ: キーストアにキーを格納するときにエラーが発生しました。

説明: キーストアにキーを格納する際に問題が発生しました。

推奨処置: ファイル .credential_keystore と credjkskey の所有権と権限を確認します。必要に応じて、ユーザーアカウント nbwebsvc の読み取り権限を許可します。その後、操作を再試行します。

.credential_keystore のパスは次のとおりです。

- UNIX の場合:
  /usr/openv/var/global/wsl/credentials/.credential_keystore
- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥wsl¥credentials¥.credential_keystore

credjskey (クレデンシャルキーストアのパスワードを保持するファイル) へのパスは、次のとおりです。

- UNIX の場合: /usr/openv/var/global/credjkskey
- Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥credjkskey

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8636

メッセージ: キーストアのロードでエラーが発生しました。

説明: キーストアのロードに問題が発生しました。

推奨処置: ファイル .credential_keystore と credjkskey の所有権と権限を確認します。必要に応じて、ユーザーアカウント nbwebsvc の読み取り権限を許可します。その後、操作を再試行します。

.credential_keystore のパスは次のとおりです。

- UNIX の場合:
  /usr/openv/var/global/wsl/credentials/.credential_keystore
- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥wsl¥credentials¥.credential_keystore

credjskey (クレデンシャルキーストアのパスワードを保持するファイル) へのパスは、次のとおりです。

- UNIX の場合: /usr/openv/var/global/credjkskey
- Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥credjkskey

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8638

メッセージ: 暗号を使用した操作中にエラーが発生しました。

説明: 暗号のエラーが発生しました。

推奨処置: NetBackup Java Runtime Environment (JRE) のセキュリティプロバイダがインストールされていることを確認します。その後、NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc または nbwmc) を再起動し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8639

メッセージ: 暗号化キーでエラーが発生しました。

説明: 暗号化キーでエラーが発生しました。

推奨処置: NetBackup Java Runtime Environment (JRE) のセキュリティプロバイダがインストールされていることを確認します。その後、NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc または nbwmc) を再起動し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8640

メッセージ: キータグを使用した暗号化でエラーが発生しました。

説明: キータグのエラーが発生しました。

推奨処置: ファイル .credential_keystore と credjkskey の所有権と権限を確認します。必要に応じて、ユーザーアカウント nbwebsvc の読み取り権限を許可します。その後、操作を再試行します。

.credential_keystore のパスは次のとおりです。

- UNIX の場合:
  /usr/openv/var/global/wsl/credentials/.credential_keystore
- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥wsl¥credentials¥.credential_keystore

credjskey (クレデンシャルキーストアのパスワードを保持するファイル) へのパスは、次のとおりです。

- UNIX の場合: /usr/openv/var/global/credjkskey
- Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥credjkskey

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8641

メッセージ: 暗号化マネージャでエラーが発生しました。

説明: 暗号化マネージャでエラーが発生しました。

推奨処置: NetBackup Java Runtime Environment (JRE) のセキュリティプロバイダがインストールされていることを確認します。その後、NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc または nbwmc) を再起動し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8642

メッセージ: キーストアを使用した暗号化でエラーが発生しました。

説明: キーストアを使用した暗号化エラーが発生しました。

推奨処置: ファイル .credential_keystore と credjkskey の所有権と権限を確認します。必要に応じて、ユーザーアカウント nbwebsvc の読み取り権限を許可します。その後、操作を再試行します。

.credential_keystore のパスは次のとおりです。

- UNIX の場合:
  /usr/openv/var/global/wsl/credentials/.credential_keystore

- Windows の場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥wsl¥credentials¥.credential_keystore

credjskey (クレデンシャルキーストアのパスワードを保持するファイル) へのパスは、次のとおりです。

- UNIX の場合: /usr/openv/var/global/credjkskey
- Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥credjkskey

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8656

メッセージ: SAML 証明書はすでに存在します。(The SAML certificate already exists.)

説明: SAML 証明書とキーストアがすでに存在するため、これらの生成はスキップされます。

推奨処置: SAML 証明書とキーストアを再生成する場合は、nbidpcmd CLI コマンドを指定して -f オプションを送信し、証明書とキーストアを強制的に再生成します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8657

メッセージ: SAML キーストアを生成できません。(The SAML keystore cannot be generated.)

説明: 次のいずれかのエラーが発生しました。

- NetBackup が発行した SAML 証明書とキーストアの生成中にエラーが発生しました。
- 外部 CA が発行した SAML キーストアの生成中にエラーが発生しました。次のいずれかがあてはまる可能性があります。
  - -uECA フラグが指定されていますが、マスターサーバーで ECA が構成されておらず、必要な ECA の構成済みキーストアとパスキーファイルが存在しません。
  - 証明書チェーンまたは秘密鍵ファイルが指定されていません。証明書チェーンまたは秘密鍵ファイルが指定されている場合は、ファイルが存在しないか、正しい形式でないか、破損しています。

推奨処置: 必要に応じて、次の処理を実行します。

- NetBackup が発行した SAML 証明書とキーストアの場合は、既存の SAML 証明書またはキーストアを削除して再生成します。

- 外部 CA が発行した SAML キーストアの構成については、必要に応じて次を確認します。
  - NetBackup の ECA 構成を再利用する場合は、マスターサーバーで ECA が構成されて、ECA キーストアとパスキーファイルが次のパスに存在することを確認します。
    - Windows の場合:
      ECA クレデンシャルのディレクトリパス:
      `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥externalcacreds`
      ECA キーストアのパス: `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥externalcacreds¥nbwebservice.bcfks`
      ECA キーストアパスキーのパス:
      `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥externalcacreds`
    - UNIX の場合:
      ECA クレデンシャルのディレクトリパス:
      `usr/openv/var/global/wsl/credentials/externalcacreds`
      ECA キーストアのパス:
      `usr/openv/var/global/wsl/credentials/externalcacreds/nbwebservice.bcfks`
      ECA キーストアパスキーのパス:
      `usr/openv/var/global/wsl/credentials/externalcacreds/jkskey`
- 外部 CA が発行した証明書と秘密鍵ファイルが指定されている場合は、指定したパスが正しく、指定したファイルが PEM 形式であることを確認します。ファイルが破損していないことを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8658

メッセージ**:** SAML キーストアを削除できません。(The SAML keystore cannot be deleted.)

説明**:** SAML 証明書とキーストアを正常に削除できません。

推奨処置**:** 次のパスに存在する SAML 証明書とキーストアファイルを削除するために必要な権限がユーザーに付与されていることを確認します。

- NetBackup が発行した SAML 証明書とキーストアファイル:
  - Windows の場合:
    SAML クレデンシャルのディレクトリパス:
    `install_path¥var¥global¥vxss¥samlcreds`
    SAML キーストアのパス:
    `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥nbwebsaml.bcfks`

SAML キーストアパスキーのパス: `install_path¥var¥global¥samljkskey`

- UNIX の場合:
  SAML クレデンシャルのディレクトリパス:
  `usr/openv/var/global/vxss/samlcreds`
  SAML キーストアのパス:
  `usr/openv/var/global/wsl/credentials/nbwebsaml.bcfks`
  SAML キーストアパスキーのパス: `usr/openv/var/global/samljkskey`

- 外部 CA が発行した SAML キーストア:
  - Windows の場合:
    SAML クレデンシャルのディレクトリパス:
    `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥samlecacreds`
    SAML キーストアのパス:
    `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥samlecacreds¥nbwebsaml.bcfks`
    SAML キーストアパスキーのパス:
    `install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥samlecacreds¥jkskey`
  - UNIX の場合:
    SAML クレデンシャルのディレクトリパス:
    `usr/openv/var/global/wsl/credentials/samlecacreds`
    SAML キーストアのパス:
    `usr/openv/var/global/wsl/credentials/samlecacreds/nbwebsaml.bcfks`
    SAML キーストアパスキーのパス:
    `usr/openv/var/global/wsl/credentials/samlecacreds/jkskey`

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8676

メッセージ: アクセスコードが適切ではありません。

説明: 指定されたアクセスコードが承認ワークフローに従っていません。

推奨処置: 適切なアクセスコードと承認ワークフローを使用したことを確認してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8677

メッセージ: アクセスコードの有効期限が切れました。

説明: CLI セッションのアクセスコードの有効期限が切れました。

推奨処置: `bpnbat -login -loginType webUI` コマンドを実行して新しいアクセスコードを取得します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8678

メッセージ: アクセスコードの要求が拒否されました。

説明: セキュリティ管理者がアクセスコードを拒否しました。

推奨処置: セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8679

メッセージ: アクセスコード要求はすでに承認されています。

説明: セキュリティ管理者はすでにこのアクセスコード要求を承認しています。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8680

メッセージ: アクセスコード要求の承認が保留中になっています。

説明: セキュリティ管理者がアクセスコード要求を承認していません。

推奨処置: セキュリティ管理者に問い合わせて、アクセスコードを確認するよう依頼してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8700

メッセージ: 内部エラーが発生したため、ホストデータベースの Web サービスを利用できません。

説明: Web サービスで、サーバー側のシステムの不明な問題が発生した可能性があります。この問題は、Cohesity Technical Supportによる詳細な調査が必要な可能性があります。

推奨処置: NetBackup エラーログを調べて、他のエラーメッセージを確認します。さらに、エラーの原因を判断するために (マスターサーバー上で) この Web サービスのデバッグログを参照できます。

または、Cohesity Technical Supportに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8701

メッセージ: ホストが存在しません。

説明: このエラーは、フェッチする対象のホストが存在しないときに発生します。これは次のいずれかの原因で発生する可能性があります。

- フェッチしようとしているホスト名が存在しません。
- フェッチしようとしているホスト ID が存在しません。

推奨処置: アクセスしようとしているホストが既知の NetBackup ホストではない可能性があります。NetBackup 8.0 以降、ホストは NetBackup 8.0 マスターサーバーと通信すると自動的に追加されます。

または、Cohesity Technical Supportに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8702

メッセージ: ホストデータベースにホスト名がすでに存在するため、ホストを作成できません。

説明: このエラーは次のいずれかの原因で発生します。

- 作成しようとしているホスト名が、すでにホストデータベース内に存在しています。
- 作成しようとしているホスト ID が、すでにホストデータベース内に存在しています。

推奨処置: 異なるホストが同じ名前またはエイリアスを持っている問題を解決するには、ネットワークホスト名を検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8703

メッセージ: ホストデータベースにホスト ID からホスト名へのマッピングがすでに存在するため、ホストを作成できません。

説明: 大文字と小文字を区別しない名前の比較の結果、ホスト名がデータベース内にすでに存在するエイリアス名と競合しています。応答ヘッダーの場所フィールドで既存のホストまたはエイリアスのホスト ID を検索できます。

推奨処置: 異なるホストが同じ名前またはエイリアスを持っている問題を解決するには、ネットワークホスト名を検証します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8704

メッセージ: ホストデータベースを更新するときに競合が発生しました。操作を再試行してください。

説明: このエラーはユーザーがホストデータベースを同時に作成または変更しようとすると発生します。

推奨処置: 問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8705

メッセージ: 指定されたホストは NetBackup クライアントホストではないため廃止できません。(The specified host is not a NetBackup client host and therefore it cannot be decommissioned.)

説明: Web UI、コマンドライン、または API を介して NetBackup ホストを廃止しようとすると、NetBackup の状態コード 8705 で失敗します。このエラーは、指定したホストの役割がクライアントホストのみではない場合に発生します。メディアサーバー、アプライアンス、リモートプライマリ、リモートメディア、WORM ストレージの役割などの、追加の役割と機能を持っています。最初に、これらの追加の役割と機能をホストから削除する必要があります。これらの役割が削除されると、ホストはクライアントのみの役割に戻ります。その後、ホストを廃止して NetBackup ドメインから削除できるようになります。

推奨処置: 表示されているテクニカルノートの情報を使用して、エラーの原因と、エラーを解決するための適切な処理を判断します。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100073398

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8706

メッセージ: 入力要求に必須フィールドがありません。

説明: 指定のフィールドに値を入力することは、操作を完了するために必須です。

推奨処置: 必須フィールドに有効な値を入力して、再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8707

メッセージ: Web サービスでホスト ID を更新できません。

説明: このエラーは、ホスト ID を修正しようとした場合に発生します。ホスト ID は NetBackup ホストの固有の識別子であるため、更新できません。

推奨処置: 残りの操作を完了するために、ホスト ID を入力要求から削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8708

メッセージ: 入力要求内の指定した属性に対する制約違反が検出されました。

説明: このエラーメッセージは、エラーがある入力パラメータを指摘し、パラメータに対して失敗した制約を表示します。たとえば、入力パラメータの入力値は文字列であるのに整数を入力した場合が該当します。

推奨処置: 入力パラメータに対して有効な値を入力して、再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8709

メッセージ: ターゲットのファイルまたはディレクトリはすでに存在します。

説明: ホストの遠隔測定データがサーバー上にすでに存在します。

推奨処置: 処置は不要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8710

メッセージ: ホストのディスク容量が不十分であるため、ファイルをアップロードできません。

説明: サーバーに遠隔測定ファイルを格納するのに十分なディスク容量がない可能性があります。

推奨処置: 問題を解決するには、*var*/global パスのマスターサーバー上に空き容量を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8711

メッセージ: 遠隔測定データのアップロード先に指定されているフォルダが存在しません。

説明: このエラーは、遠隔測定データのアップロード先フォルダが存在しないことを示します。

推奨処置: Cohesity Technical Supportに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8712

メッセージ: ファイルのアップロードに失敗しました。

説明: 遠隔測定ファイルのアップロード中にエラーが発生しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportに連絡して、該当するログを送付してください。必要なログの完全なリストおよび構成情報を参照できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8713

メッセージ: ファイルのアップロードに失敗しました。入力ファイルを空にすることはできません。

説明: 入力ファイルが空のため、遠隔測定データをアップロードできません。

推奨処置: 遠隔測定用の入力ファイルが正しいことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8714

メッセージ: マッピングはすでに共有されているため、未共有としてマーク付けできません。

説明: すでに共有されているホスト ID からホスト名へのマッピングは、未共有としてマーク付けできません。

推奨処置: 共有済みのマッピングエントリを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8715

メッセージ: マッピングで競合が検出されました。ホスト名は、すでに別のホストとマッピングされています。

説明: 競合しているため、マッピングを追加できません。ホスト名は、すでに別のホストとマッピングされています。

推奨処置: 競合するマッピングを解決するには、次のいずれかの操作を行います。

- 競合するマッピングを共有としてマーク付けし、承認できるようにする
- 競合するマッピングを削除する

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8716

メッセージ: マッピングは空のため、追加できません。

説明: ホスト ID からホスト名へのマッピングが空の場合は追加できません。

推奨処置: ホスト ID からホスト名への有効なマッピングを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8717

メッセージ: 入力パラメータのいずれかが無効なため、操作に失敗しました。

説明: 入力パラメータのいずれかが無効です。

推奨処置: 有効な入力パラメータを指定してください。詳しくは、NetBackup ログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8718

メッセージ: これはホスト ID のプライマリホスト名であるため、マッピングを削除できません。

説明: プライマリホスト名とホスト ID がマッピングされている場合、ホスト IDからホスト名へのマッピングは削除できません。

推奨処置: ホスト ID とマッピングされているプライマリホスト名は削除しないでください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8719

メッセージ: 競合するマッピングは、共有マッピングでないため承認できません。

説明: 競合するマッピングは、共有されている場合にのみ承認できます。

推奨処置: 競合するマッピングを解決するには、次のいずれかの操作を行います。

- 競合するマッピングを共有としてマーク付けし、承認できるようにする
- 競合するマッピングを削除する

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8720

メッセージ: ホスト ID が存在しません。

説明: マスターサーバーが、指定したホスト ID を認識しません。

推奨処置: `nbcertcmd -listCertDetails` コマンドを使用して指定したホスト ID について確認します。指定した NetBackup ホストが複数の NetBackup ドメインの一部である場合は、指定の NetBackup ドメインに対応する正しいホスト ID を指定していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8722

メッセージ: 指定した名前が最大長 (1024 文字) を超えています。ホスト ID からホスト名へのマッピングに有効な名前を入力してください。

説明: ホスト ID からホスト名へのマッピングには最大 1024 文字入力できます。

推奨処置: 入力したマッピング名が 1024 文字を超えていないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8723

メッセージ: 指定したコメントが許容される最大長を超えています。

説明: 最大 2048 バイトのコメントを入力できます。

推奨処置: 指定するコメントが 2048 バイトを超えていないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8724

メッセージ: ホスト ID からホスト名へのマッピングは単一のホストと関連付けられているため、共有マッピングとして構成できません。

説明: 複数のホスト (クラスタ内や複数ドメインの場合など) で共有するホスト ID からホスト名へのマッピングのみを共有マッピングとして構成してください。

推奨処置: 追加するホスト ID からホスト名へのマッピングは単一のホストと関連付けられているため、共有として構成されません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8725

メッセージ: 要求に、件名とホスト ID を指定しないでください。

説明: 操作要求に、不要なホスト ID が含まれていました。

推奨処置: 外部 CA が発行した証明書を使用する操作を実行する場合は、ホスト ID を指定しないでください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8727

メッセージ: 外部 CA が署名した証明書はホストの通信に使用できません。

説明: 外部 CA が発行した証明書の使用が無効になっています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- ご使用のホスト用に NetBackup CA が発行した証明書を使用します。
- 外部 CA が発行した証明書の使用を有効にするには、マスターサーバーで設定を変更します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8728

メッセージ: NetBackup CA の証明書は、当該ドメインでホストとの通信に使用できないため、証明書操作が失敗しました。

説明: NetBackup CA が発行したホスト ID ベースの証明書の使用が無効になっています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- ご使用のホスト用に外部 CA が発行した証明書を使用します。
- マスターサーバーの構成を変更して NetBackup 証明書の使用を有効にします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8729

メッセージ: 指定したサブジェクトの外部証明書は利用できません。(No external certificates with the specified subject are available.)

説明: 外部証明書のサブジェクト名とホスト ID との関連付けをリセットしたり、NetBackup データベースから削除したりできません。サブジェクト名は、データベース内に存在しません。

推奨処置: NetBackup Web UI (外部証明書のリストビュー) または `nbhostmgmt` コマンドを使用してサブジェクト名を取得します。サブジェクト名は、削除操作またはリセット操作を実行するために使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8730

メッセージ: 指定したサブジェクトの外部証明書はすでに利用できます。(External certificate with the specified subject is already available.)

説明: リセットするサブジェクト名が別のホストに関連付けられている可能性があります。

推奨処置: サブジェクト名が別のホストに関連付けられている場合は、次のいずれかの処理を試行します。

- nbcertcmd -deleteECACertEntry コマンドを使用して、データベースから既存のエントリを削除します。
- 別のサブジェクト名を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8731

メッセージ: 証明書のサブジェクト名が有効な形式ではありません。(The subject name of the certificate is not in the valid format.)

説明: リセットまたはデータベースから削除するサブジェクト名が RFC 2253 形式ではありません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- OpenSSL または vxsslcmd API を使用してサブジェクト名を指定する場合は、RFC 2253 形式であることを確認します。次のコマンドを使用します。
  - *Install_Path*/goodies/vxsslcmd x509 -noout -in input certificate file -subject -nameopt RFC2253 **または** openssl x509 -noout -in input certificate file -subject -nameopt RFC2253
- NetBackup Web UI (外部証明書のリストビュー) または nbhostmgmt コマンドを使用してサブジェクト名を取得します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8732

メッセージ: ホスト ID に関連付けられている指定したサブジェクト名のエントリは、NetBackup データベースにすでに存在します。(An entry for the specified subject name that is associated with a host ID already exists in the database.)

説明: 指定されたサブジェクト名とホスト ID の関連付けはすでに NetBackup データベースにあります。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- netbackup/security/external-certificates API を使用して、既存のサブジェクト名とホスト ID の関連付けを更新します。
- nbcertcmd -deleteECACertEntry コマンドを使用して (または API を介して)、既存のサブジェクト名からホスト ID に対するエントリをデータベースから削除します。次に、createECACertEntry コマンドを使用して新しいエントリを作成します。
- 新しいサブジェクト名を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8733

メッセージ: サブジェクト名に関連付けられている指定したホスト ID のエントリは、NetBackup データベースにすでに存在します。(An entry for the specified host ID associated with the subject name already exists in the NetBackup database.)

説明: 指定したホスト ID はサブジェクト名にすでに関連付けられています。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- `netbackup/security/external-certificates` API を使用して、既存のサブジェクト名とホスト ID の関連付けを更新します。
- 指定したホスト ID に対して設定されたサブジェクト名を取得します。`nbcertcmd -deleteECACertEntry` コマンドを使用して (または API を介して)、既存のサブジェクト名からホスト ID に対するエントリをデータベースから削除します。次に、`createECACertEntry` コマンドを使用して新しいエントリを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8739

メッセージ: ホスト ID からホスト名のマッピングは追加できません。(The host ID-to-host name mapping cannot be added.) 自動マッピングは、NAT クライアントで無効です。(Automatic mapping is disabled for NAT clients.)

説明: NAT クライアントでは、接続に代替名を使用できません。ホスト ID からホスト名の自動マッピングは、NAT クライアントでは無効です。

推奨処置: NetBackup Web UI または NetBackup 管理コンソールを使用して、必要なホスト ID からホスト名のマッピングを追加します。あるいは、`nbhostmgmt` コマンドを使用して必要な名前のマッピングを追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8740

メッセージ: マスターサーバーの情報をフェッチできませんでした。

説明: NetBackup Web UI への接続の試行時に、NBSL サービスが停止している可能性があります。

推奨処置: 次を確認します。

- 適切なライセンスキーを使用している。
- NBSL サービスが起動され実行中である。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8743

メッセージ: 指定したホストはすでに廃止されています。(The specified host is already decommissioned.)

説明: 指定したホストは以前に廃止されました。

推奨処置: この要求は無効です。ホストはすでに廃止されており、再び廃止することはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8744

メッセージ: プライマリサーバーは廃止できません。(Primary servers cannot be decommissioned.)

説明: 指定したホストはプライマリサーバーであり、プライマリサーバーは廃止できません。廃止できるのは NetBackup クライアントのみです。

推奨処置: この要求は無効です。指定したホストはプライマリサーバーであり、プライマリサーバーは廃止できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8745

メッセージ: 指定したホストは不明なサーバーです。(The specified host is an unknown server.)

説明: NetBackup は指定されたホストを既知のサーバーとして認識しません。廃止できるのは NetBackup クライアントのみです。

推奨処置: この要求は無効です。指定されたホストは NetBackup に既知ではないため、廃止できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8747

メッセージ: 保護対象のホストは廃止できません。(Protected hosts cannot be decommissioned.)

説明: 指定したホストが 1 つ以上のポリシーまたは保護計画に存在します。NetBackup のポリシーまたは保護計画に存在するホストは廃止できません。

推奨処置: 関連付けられているポリシーまたは保護計画からホストを削除します。ホストが、ポリシーまたは保護計画で使用されているバックアップホストプールの一部であるかどうかを判断します。存在する場合は、指定したホストをバックアップホストプールから削除し、その後ホストを廃止します。または、`force` オプションを使用してホストを廃止します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8748

メッセージ: 指定されたホストの 1 つ以上のイメージが NetBackup カタログに存在します。(One or more images for the specified host exist in the NetBackup catalog.)

説明: 指定したホストの NetBackup カタログに 1 つ以上のバックアップイメージが存在します。指定した操作は、NetBackup カタログに存在する有効なバックアップイメージで完了できません。

推奨処置: 指定したホストに存在するイメージを削除します。`force` オプションを使用すると、このエラーを無視できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8749

メッセージ: 指定されたホストには、ポリシー、保護計画、またはイメージが関連付けられています。(Policies, protection plans, or images are associated with the specified host.)

説明: 指定したホストに、1 つ以上のポリシー、保護計画、またはイメージが関連付けられています。これらの項目のいずれかがホストに関連付けられている場合、指定した操作は完了できません。

推奨処置: 関連付けられたポリシーまたは保護計画からホストを削除し、関連するイメージを期限切れにしてから、ホストを廃止します。または、`force` オプションを使用してホストを廃止します。

関連付けられているポリシーまたは保護計画からホストを削除します。指定したホストが、ポリシーまたは保護計画で使用されているバックアップホストプールの一部であるかどう

かを判断します。存在する場合は、ホストをバックアップホストプールから削除し、その後ホストを廃止します。関連付けられたイメージを期限切れにしてから、ホストを廃止します。または、force オプションを使用してホストを廃止します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8753

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。ホスト名が証明書に含まれている必要があります。(The certificate enrollment failed. The host name should be part of the certificate.)

説明: 証明書の登録に使用されるホスト名が NetBackup データベース内にあります。しかし、証明書のサブジェクト名にホスト名がありません。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- ホスト名が、証明書のサブジェクト名の一部であることを確認します。
- NetBackup データベースにある証明書のサブジェクト名を追加または更新 (削除してから追加) します。nbcertcmd -createECACertEntry コマンドと nbcertcmd -deleteECACertEntry コマンドを使用します。コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8754

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。ホスト名はプライマリ名である必要があります。(The certificate enrollment failed. The host name should be a primary name.)

説明: 登録に使用されているホスト名が、このホストまたは他のホストの、ホスト ID とホスト名のマッピングになっている可能性があります。このホストのプライマリ名、つまりNetBackup 構成ファイルの CLIENT_NAME で定義されている内容と同じであることが必要です。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 証明書の登録時にホストのプライマリ名を使用します。
- NetBackup データベースにある証明書のサブジェクト名を追加または更新 (削除してから追加) します。nbcertcmd -deleteECACertEntry コマンドを使用し、次に nbcertcmd -createECACertEntry コマンドを使用します。コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8755

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。ホスト名が証明書に含まれ、プライマリ名である必要があります。(The certificate enrollment failed. The host name should be part of the certificate and it should be a primary name.)

説明: 登録に使用されているホスト名が、証明書のサブジェクト代替名の一部ではありません。また、ホスト名が、このホストまたは他のホストの、ホスト ID とホスト名のマッピングになっている可能性があります。このホストのプライマリ名、つまり NetBackup 構成ファイルの CLIENT_NAME で定義されている内容と同じであることが必要です。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 証明書の登録時にホストのプライマリ名を使用し、ホスト名が、証明書のサブジェクト代替名の一部であることを確認します。
- NetBackup データベースにある証明書のサブジェクト名を追加または更新 (削除してから追加) します。nbcertcmd -deleteECACertEntry コマンドを使用し、次に nbcertcmd -createECACertEntry コマンドを使用します。コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8756

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。ホスト名は異なるサブジェクト名の証明書ですでに登録されています。(The certificate enrollment failed. The host name is already enrolled with a certificate with a different subject name.)

説明: 証明書はこのホストにすでに登録されていますが、ホストが異なる証明書で登録しようとしています。

推奨処置: NetBackup データベースにある証明書のサブジェクト名を追加または更新 (削除してから追加) します。次を実行します。

1. nbcertcmd -deleteECACertEntry コマンドを実行して、既存のホストと証明書との関連付けを削除します。
2. nbcertcmd -createECACertEntry コマンドを実行して、新しい証明書を既存のホストに関連付けます。

コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8757

メッセージ: NetBackup Web サーバーの認証局の用途情報を取得できませんでした。(Failed to retrieve the Certificate Authority usage information of the NetBackup web server.)

説明: Web サーバーがサポートする認証局に関する情報をシステムが取得できません。

推奨処置: Web サーバーの認証局の用途情報の取得を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8759

メッセージ: 登録に使用する証明書はまだ有効ではありません。(The certificate to be used for enrollment is not yet valid.)

説明: 登録する証明書がまだ有効ではないため、証明書の登録が失敗しました。

推奨処置: 証明書の `notBefore` パラメータで指定されている時間を確認します。将来の時間の場合は、有効な別の外部証明書の登録を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8760

メッセージ: 登録に使用する証明書は期限切れです。(The certificate to be used for enrollment is expired.)

説明: 登録する証明書が期限切れのため、証明書の登録が失敗しました。

推奨処置: 証明書の `notAfter` パラメータで指定されている時間を確認します。過去の時間の場合は、有効な別の外部証明書の登録を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8761

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。証明書は無効化されています。(The certificate enrollment failed. The certificate is revoked.)

説明: 外部証明書が無効化された状態です。

推奨処置: セキュリティ管理者に問い合わせて、有効な新しい外部証明書を取得します。新しい外部証明書の登録を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8762

メッセージ: 外部証明書の秘密鍵は暗号化されていますが、パスフレーズが空白です。(The private key of the external certificate is encrypted, but the passphrase is blank.)

説明: パスフレーズファイルに有効なパスフレーズが含まれていません。

推奨処置: `ECA_KEY_PASSPHRASEFILE` 構成オプションの 1 行目に、パスフレーズが定義されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8763

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。同じ省略名の別のホストが NetBackup データベースに存在します。(The certificate enrollment failed. Another host with the same short name exists in the NetBackup database.)

説明: 有効なホスト名を指定する必要があります。

推奨処置: 次のいずれかを試行します。

- ホストの正しい `CLIENT_NAME` を指定します。`nbhostmgmt -list` コマンドを使用してクライアント名を取得し、操作を再試行します。
- 外部証明書を登録するホストと、マスターサーバーで利用可能なホストが異なる場合は、`nbhostmgmt -addhost` コマンドを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8764

メッセージ: 証明書または証明書パスが無効です。(The certificate or the certificate path is not valid.)

説明: このエラーは、次のいずれかのシナリオで発生する場合があります。

- 証明書が無効である。
- 指定した証明書ファイルのパスが存在しない。
- 指定したファイルパスが、証明書ファイルの完全なパスではない。ディレクトリ名である可能性がある。

推奨処置: 証明書と証明書ファイルのパスが有効であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8765

メッセージ: このマスターサーバーに対して構成されているセキュリティ証明書がホストにありません。(The host does not have any security certificate configured with respect to this master server.)

説明: 次のいずれかの証明書がホストにありません。

- マスターサーバーから生成済みおよび配備済みの NetBackup CA が署名した証明書
- マスターサーバーに登録されている外部 CA が署名した証明書

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. NetBackup 証明書 (またはホスト ID ベースの証明書) を生成して配備します。
   - `nbcertcmd -getCertificate` コマンドを実行します。
2. 外部証明書を登録します。
   - `nbcertcmd -enrollCertificate` コマンドを実行します。

証明書の配備とその登録プロセスについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8766

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。一般名 (CN) が証明書に存在しません。(The certificate enrollment failed. The common name (CN) is not present in the certificate.)

説明: このエラーは、次のシナリオで発生します。

- NetBackup ホストデータベースにホストが登録されていないか、証明書に一般名がないか、証明書のサブジェクトの別名にホスト名がない。

推奨処置: 次のいずれかを実行します。

- 証明書にホストの一般名を追加します。
- 証明書のサブジェクトの別名にホスト名を追加します。
- 記載されている順序で、次の手順を実行します。

- nbhostmgmt -addhost コマンドを使用して、ホストデータベースにホストを追加します。
- nbcertcmd -createECACertEntry コマンドを使用して、NetBackup データベースに証明書のサブジェクトの別名を追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8767

メッセージ: 証明書の登録に失敗しました。証明書内の発行者と指定された発行者が一致しません。(The certificate enrollment failed. The issuer in the certificate and the one that you have provided do not match.)

説明: 指定したサブジェクト名の証明書はトラストストアにありますが、発行者名が指定した名前と一致していません。

推奨処置: 証明書の発行者名を正しく指定していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8768

メッセージ: 指定された証明書ストアがローカルマシンに存在しません。(The specified certificate store does not exist on the local machine.)

説明: 指定した証明書ストアが HKEY_LOCAL_MACHINE 証明書ストアに含まれていません。

推奨処置: 次を確認します。

- 証明書ストア名を正しく指定している
- 指定した証明書ストアが HKEY_LOCAL_MACHINE 証明書ストアに含まれている

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8769

メッセージ: 証明書のパスが無効です。ストア名、発行者、またはサブジェクトに特殊文字が含まれている場合、二重引用符で囲んでください。(Certificate path is invalid. If your store name, issuer, or subject contains any special characters, ensure that they are included in double quotes.)

説明: 証明書パスが無効です。

推奨処置: 次の手順を実行してください。

1. 証明書ストア名または証明書のサブジェクト名が空でないことを確認します。
2. 証明書の発行者名が空白の場合は、証明書パスが <store name>¥¥<subject> のように指定されていることを確認します。
3. ストア名、発行者名、またはサブジェクト名に特殊文字が含まれている場合は、二重引用符を使用してこれらのパラメータを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8770

メッセージ: 指定したパスで証明書が見つかりません。(The certificate cannot be found at the specified path.)

説明: 指定したパスで証明書が見つかりませんでした。

推奨処置: 指定した証明書パスが正しく、証明書が指定したパスに存在することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8771

メッセージ: 指定したサブジェクト名の証明書が見つかりません。(The certificate with the given subject name cannot be found.)

説明: 指定したサブジェクト名の証明書が、指定した証明書ストアで利用できません。

推奨処置: 次の手順を実行してください。

1. 証明書のサブジェクト名が正しく指定されていることを確認します。
2. 指定した証明書が証明書ストアに含まれていることを確認します。
3. サブジェクト名としてホスト名を使用している場合は、サブジェクト名が $hostname と記述されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8772

メッセージ: Windows 証明書ストアを開くことができません。(The Windows certificate store cannot be opened.)

説明: 証明書パスに指定されている Windows 証明書ストアが見つかりませんでした。

推奨処置: 次を確認します。

- 証明書ストア名を正しく指定している
- 指定した証明書ストアが**ローカルマシン**証明書ストアに含まれている

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8773

メッセージ**:** 証明書の有効期間が現在より後に開始するため、証明書は無効です。(The certificate is not valid as the certificate validity period starts in the future.)

説明**:** 使用する証明書はまだ有効ではありません。有効期間が現在より後の日付です。

推奨処置**:** 証明書の日付を確認します。現在有効な証明書を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8774

メッセージ**:** Windows 証明書ストアを閉じることができません。

説明**:** 指定した証明書ストアは別のプロセスで使用されている可能性があります。

推奨処置**:** 数分間待ってから、再び証明書の登録を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8775

メッセージ**:** ホスト名を取得できません。(The host name cannot be retrieved.)

説明**:** ホスト名が設定されていません。

推奨処置**:** ホスト名を設定していることを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8776

メッセージ**:** NetBackup は使用されているアルゴリズムをサポートしていません。アルゴリズムについて詳しくはログを参照してください。(does not support the algorithm used, see logs for more information regarding the algorithm.)

説明**:** NetBackup は、この公開鍵が暗号化に使用しているこの鍵アルゴリズムをサポートしていません。

推奨処置: NetBackup がサポートするアルゴリズムを使用して暗号化された証明書を使用します。『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8777

メッセージ: 不明なエラーのため、証明書を登録できません。(The certificate cannot be enrolled because of an unknown error.)

説明: 不明なエラーのため、証明書を登録できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8778

メッセージ: Windows 証明書ストアから、指定された証明書を取得できませんでした。(Failed to get the specified certificate from Windows certificate store.)

説明: 指定された Windows 証明書ストアを取得できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8779

メッセージ: ECA 健全性チェックに失敗しました。

説明: `nbcertcmd -ecaHealthCheck` コマンドを使用すると、指定した外部証明書固有の構成が検証され、成功と失敗を含むすべての検証に関するレポートが表示されます。

推奨処置: 失敗した検証には、それぞれ検証 ID が関連付けられています。エラーごとに固有の理由がある場合があり、特定のトラブルシューティング手順を実行できます。`ecaHealthCheck` コマンドの検証のリストを次に示します。

検証 ID: `USER_INPUT_CERT_PATH_VALIDATION`

- 原因:
  - 証明書のパスが空です。
  - 指定したパス `filename` のファイルにアクセスできません。
- 推奨処置:

- 証明書のパスが空でないことを確認します。
- 対応するユーザーにファイルのRead権限があることを確認します。

検証 ID: USER_INPUT_CERTIFICATES_VALIDATION

- 原因:
  - 証明書ファイルの読み取りエラーです。
- 推奨処置:
  - 証明書ファイルに証明書が含まれていることを確認します。
  - 証明書ファイルの形式が NetBackup でサポートされていることを確認します。サポートされている証明書の形式は、PEM、P7BPEM、P7BDER です。

検証 ID: USER_INPUT_PRIVATE_KEY_PATH_VALIDATION

- 原因:
  - 秘密鍵のパスが空です。
  - 指定したパス filename のファイルにアクセスできません。
- 推奨処置:
  - 秘密鍵のパスが空でないことを確認します。
  - 対応するユーザーにファイルのRead権限があることを確認します。

検証 ID: USER_INPUT_PRIVATE_KEY_READ_VALIDATION

- 原因:
  - 秘密鍵の読み取りエラー: ファイルの読み取りに失敗しました。
  - 秘密鍵の読み取りエラー: 外部証明書の秘密鍵が暗号化されていますが、*passphrase* が指定されていません。
  - 秘密鍵の読み取りエラー: 外部証明書の秘密鍵が暗号化されていますが、*passphrase* が空白です。
- 推奨処置:
  - 秘密鍵の形式または鍵アルゴリズムの形式が NetBackup でサポートされていることを確認します。サポートされている鍵の形式は、PEM と DER です。
  - 秘密鍵が暗号化されている場合は、ECA_KEY_PASSPHRASEFILE または -passphraseFile の値に passphrase ファイルパス位置が指定されていることを確認します。
  - 秘密鍵が暗号化されていて passphrase ファイルが指定されている場合は、passphrase が空でなく、その *passphrase* が正しいことを確認します。

検証 ID: USER_INPUT_TRUST_STORE_PATH_VALIDATION

- 原因:
  - トラストストアのパスが空です。
  - 指定したパス filename のファイルにアクセスできません。
- 推奨処置:
  - トラストストアのパスが空でないことを確認します。
  - 対応するユーザーにファイルのRead権限があることを確認します。

検証 ID: USER_INPUT_TRUST_STORE_VALIDATION

- 原因:
  - トラストストアのパスの読み取りエラーです。
- 推奨処置:
  - トラストストアの証明書ファイルに信頼できる証明書が含まれていることを確認します。
  - 証明書ファイルの形式が NetBackup でサポートされていることを確認します。サポートされている証明書の形式は、PEM、P7BPEM、P7BDER です。

検証 ID: CERTIFICATES_KEYS_ACCESS_VALIDATION

- 原因:
  - Windows の場合: NetBackup サービスが証明書、トラストストア、または秘密鍵を読み取れません。
  - UNIX の場合: NetBackup サービスユーザーが証明書、トラストストア、または秘密鍵を読み取れません。
- 推奨処置:
  - Windows の場合:
    - ローカルサービスが証明書、トラストストア、または秘密鍵へのアクセスを拒否されていないかを確認します。
    - NetBackup サービスが証明書、トラストストア、または秘密鍵へのアクセス権を持っていることを確認します。
    - icacls コマンドを実行して、NetBackup サービスまたはローカルサービスに読み取り権限が付与されていることを確認します。例:

```
icacls <file>
...
<file> NT SERVICE¥NetBackup Audit Manager:(R)
...
```

メモ: この注意は、Windows システムにのみ適用されます。

ローカルサービスまたは NetBackup サービスが、拒否または許可の権限 (またはその両方) が付与されたグループのメンバーである場合、このチェックはグループメンバーには適用できません。検証チェックでは権限は検出されません。

- UNIX の場合:
  - NetBackup サービスユーザーが証明書、秘密鍵、パスフレーズファイルにアクセス権を持っていることを確認します。

検証 ID: `LEAF_CERTIFICATE_ENHANCED_KEY_USAGE_VALIDATION`

- 原因:
  - 必要な拡張キー用途が、指定した証明書では利用できません。
- 推奨処置:
  - 次のコマンドを実行します。
    - Windows の場合:
      - *install_path*¥bin¥goodies¥vxsslcmd.exe x509 -text -in *end_entity_certificate*
    - UNIX の場合:
      - *install_path*/bin/goodies/vxsslcmd x509 -text -in *end_entity_certificate*
  - 証明書に X509v3 キー用途の拡張がある場合は、次のようなキーの用途が含まれている必要があります。
    - Web サーバー証明書の場合: デジタル署名またはキーの暗号化のうち少なくとも 1 つが存在する必要があります。
    - NetBackup ホスト証明書の場合: デジタル署名の用途が存在する必要があります。キーの暗号化は存在しないこともあります。
    - Web サーバーおよび NetBackup ホストの両方で使用する証明書の場合: デジタル署名の用途が存在する必要があります。キーの暗号化は存在しないこともあります。
    - 証明書には、ここで指定した用途以外のキー用途も記載されている場合があります。これらの追加の用途は無視されます。
  - X509v3 キー用途の拡張は、critical または non-critical のいずれかにできます。
  - X509v3 キー用途の拡張を備えていない証明書は、NetBackup でも使用できます。

- 証明書に X509v3 キー用途の拡張がある場合は、次のようなキーの用途が含まれている必要があります。
  - Web サーバー証明書の場合: TLS Web サーバー認証。
  - NetBackup ホスト証明書の場合: TLS Web サーバー認証、TLS Web クライアント認証。
  - Web サーバーおよび NetBackup ホストの両方で使用する証明書の場合: TLS Web サーバー認証、TLS Web クライアント認証。
  - 証明書には、ここで指定した用途以外のキー用途も記載されている場合があります。これらの追加の用途は無視されます。
- X509v3 キー用途の拡張は、critical または non-critical のいずれかにすることができます。
- X509v3 キー用途の拡張を備えていない証明書は、NetBackup でも使用できます。
- 証明書がこの「推奨処置」セクションに記載されている要件を満たしていない場合は、証明書のプロバイダにお問い合わせのうえ、新しい証明書を取得してください。

検証 ID: `CERTIFICATE_SUBJECT_DN_LENGTH_VALIDATION`

- 原因:
  - `subject name` が 255 文字を超えています。
- 推奨処置:
  - 255 文字を超える `subject name` はサポートされません。外部証明書のプロバイダにお問い合わせください。

検証 ID: `CERTIFICATE_SAN_HOSTNAME_VALIDATION`

- 原因:
  - 証明書のサブジェクトの別名フィールドが空ではなく、フィールドに `hostname` がありません。
- 推奨処置:
  - 証明書のサブジェクトの別名が空ではない場合は、ホスト名が含まれていることを確認します。
  - サブジェクトの別名を表示するには、次のコマンドを実行します。
    - `vxsslcmd x509 -text -in` *`end_entity_certificate_file`*
      - X509v3 サブジェクトの別名: DNS: `host FQDN` DNS: `host name`

検証 ID: `PRIVATE_KEY_VALIDATION`

- 原因:
  - 秘密鍵が証明書と一致しません。
- 推奨処置:
  - 証明書とそれに対応する秘密鍵が指定されていることを確認します。

検証 ID: `CERTIFICATE_SUBJECT_DN_ASCII_VALIDATION`

- 原因:
  - 証明書の `Subject: subject name` に ASCII 以外の文字が見つかりました。
- 推奨処置:
  - ASCII の 7 ビット文字以外の文字を含む証明書のサブジェクト名はサポートされません。外部証明書のプロバイダにお問い合わせください。

検証 ID: `CERTIFICATE_CHAIN_VALIDATION_AGAINST_TRUST_STORE`

- 原因:
  - 証明書チェーンの検証は、多くの理由により失敗する場合があります。表示される唯一の一般的な文は、「**証明書チェーンの検証に失敗しました** (`The certificate chain verification failed`)」です。残りのエラーは、`openssl` が返す内容とともに表示されます。
- 推奨処置:
  - 指定したサブジェクト名の証明書が指定したトラストストアにあることを確認します。
  - `openssl` のエラーを確認し、エラーテキストに従って修正します。

検証 ID: `CERTIFICATE_CN_EMPTINESS_VALIDATION`

- 原因:
  - 証明書の一般名フィールドが空です。
- 推奨処置:
  - 証明書の一般名が空でないことを確認します。外部証明書のプロバイダにお問い合わせください。
  - 検証のために次のコマンドを実行します。
    - `vxsslcmd x509 -subject -in certificate_file`
    - サブジェクトの CN の値が空でないことを確認します。

検証 ID: `CERTIFICATES_ORDER`

- 原因:

- 証明書 subject name の署名を現在の証明書 subject name の公開鍵で検証できません。

- 推奨処置:
  - PEM 形式の証明書を使用する場合は、証明書ファイルで最初にリーフ証明書があり、その発行者、リーフの発行者の発行者などのように続いていることを確認します。

検証 ID: CERTIFICATE_CHAIN_EXPIRY_VALIDATION

- 原因:
  - サブジェクト subject name の証明書が期限切れになっています。
- 推奨処置:
  - 証明書を更新するか、現在有効な証明書を使用します。
  - 確認するには次のコマンドを実行します。
    - vxsslcmd x509 -dates -in *certificate_file*
      出力:

      notBefore=*date before which certificate is not valid*
      notAfter=*date after which certificate is not valid*

検証 ID: CERTIFICATE_CHAIN_CURRENT_ACTIVE_VALIDATION

- 原因:
  - サブジェクト subject name の証明書がまだアクティブになっていません。
- 推奨処置:
  - 現在有効な証明書を使用します。
  - 確認するには次のコマンドを実行します。
    - vxsslcmd x509 -dates -in *certificate_file*
      出力:

      notBefore=*date before which certificate is not valid*
      notAfter=*date after which certificate is not valid*

検証 ID: WINDOWS_CERTIFICATE_STORE_PRIVATE_KEY_VALIDATION

- 重大度: 失敗または警告
- 原因:

- NetBackup の設定で MANAGE_WIN_CERT_STORE_PRIVATE_KEY が[無効 (Disabled)]に設定されていて、NetBackup サービスが秘密鍵にアクセスすることを許可されている場合に警告が表示されます。
- NetBackup の設定で MANAGE_WIN_CERT_STORE_PRIVATE_KEY が[無効 (Disabled)]に設定されていて、NetBackup サービスが秘密鍵にアクセスすることを許可されていない場合、検証は失敗します。
- 暗号サービスプロバイダ (CSP) またはキーストレージプロバイダ (KSP) がセキュリティ記述子をサポートしていないと、検証は失敗します。

- 推奨処置:
  - MANAGE_WIN_CERT_STORE_PRIVATE_KEY を[自動 (Automatic)]に設定して、特権のある NetBackup サービスが特権を持たない NetBackup サービスの秘密鍵に対する読み取り権限を更新できるようにします。
  - 検証が失敗した場合は、NetBackup サービスに秘密鍵にアクセスするための権限を付与します。コマンド nbcertcmd -setwincertprivkeypermissions -force を実行できます。
  - 検証で警告が返された場合は、秘密鍵にアクセスするための読み取り権限を NetBackup サービスが持っていることを確認します。権限は、証明書の更新やディザスタリカバリのような特定の操作中にリセットされます。
  - 暗号サービスプロバイダ (CSP) またはキーストレージプロバイダ (KSP) がセキュリティ記述子をサポートしていないために検証が失敗した場合は、セキュリティ記述子をサポートするプロバイダを使用します。
    詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup サービスがローカルサービスアカウントのコンテキストで実行されている場合の Windows 証明書ストアの制限事項」のセクションを参照してください。

検証 ID: USER_INPUT_WIN_CERT_PATH_VALIDATION

- 原因:
  - 指定したサブジェクト名の証明書が見つかりません。
- 推奨処置:
  - Windows 証明書ストアの証明書のパスが正しく指定されていて、証明書が指定された証明書ストアに存在することを確認します。『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup での外部 CA のサポート」を参照してください。

検証 ID: CERTIFICATE_SAN_CN_HOSTNAME_VALIDATION

- 原因:
  - 証明書のサブジェクトの別名フィールドが空で、一般名フィールドにホスト名 hostname がありません。

- 推奨処置:
  - 証明書のサブジェクトの別名が空の場合は、一般名フィールドにホスト名が含まれていることを確認します。
  - サブジェクトの別名を表示するには、次のコマンドを実行します。
    - `vxsslcmd x509 -text -in end_entity_certificate_file`
    - X509v3 サブジェクトの別名: DNS: `host FQDN` DNS: `host name`
  - 一般名を表示するには、次のコマンドを実行します。
    - `vxsslcmd x509 -text -in end_entity_certificate_file`
    - X509v3 サブジェクトの別名: DNS: `host FQDN` DNS: `host name`

検証 ID: `USER_INPUT_WIN_CERT_VALIDATION`

- 原因:
  - 指定した証明書ストアを開けません。
  - 証明書の発行者が見つかりません。
  - 指定したサブジェクトの証明書が見つかりません。
  - コンピュータのホスト名をフェッチできません。[特殊なキーワード`$hostname` とともに使用]
  - 証明書がまだ有効ではありません。
  - 証明書が期限切れです。
  - 証明書の秘密鍵が見つかりません。
  - 必要な用途 (クライアント認証およびサーバー認証) が証明書にありません。
- 推奨処置: (次の処置は Windows 証明書ストアで実行します)
  - 証明書のパスの形式が正しい (`store-name¥issuer-name¥subject`) ことを確認します。
  - 証明書の `Valid from` フィールドを確認します。現在の日付範囲の値 (日付) である必要があります。
  - 証明書の `Valid to` フィールドを確認します。現在の日付範囲の値 (日付) である必要があります。
  - エンドエンティティ証明書に対応する秘密鍵があることを確認します。
  - `Enhanced Key Usage` フィールドに `Server Authentication (1.3.6.1.5.5.7.3.1)` および `Client Authentication (1.3.6.1.5.5.7.3.2)` が含まれていることを確認します。すべての用途も受け入れられます。

検証 ID: USER_INPUT_CRL_PATH_VALIDATION

- 原因:
  - CRL のパスにアクセスできません。
  - CRL のパスが空です。
  - CRL のパスに 0 KB のファイルしかありません。
- 推奨処置:
  - CRL のパスが正しく、空でないことを確認します。

検証 ID: USER_INPUT_CRL_PATH_CONTAINS_CRLS

- 原因:
  - CRL のパスに CRL ファイルがありません。
- 推奨処置:
  - CRL のパスが正しく、空でないことを確認します。

検証 ID: CRL_FILES_ACCESS_VALIDATION

- 原因:
  - Windows の場合: NetBackup サービスは CRL ファイルを読み取れません。
  - UNIX の場合: NetBackup サービスユーザーは CRL ファイルを読み取れません。
- 推奨処置:
  - Windows の場合:
    - ローカルサービスが CRL ファイルへのアクセスを拒否されていないか確認します。
    - NetBackup サービスが CRL ファイルへのアクセス権を持っていることを確認します。
    - icacls コマンドを実行して、NetBackup サービスまたはローカルサービスに読み取り権限が付与されていることを確認します。例:

```
icacls <file>
...
<file> NT SERVICE¥NetBackup Audit Manager:(R)
...
```

メモ: この注意は、Windows システムにのみ適用されます。

ローカルサービスまたは NetBackup サービスが、拒否または許可の権限 (またはその両方) が付与されたグループのメンバーである場合、このチェックはグループメンバーには適用できません。検証チェックでは権限は検出されません。

- UNIX の場合: サービスユーザーが CRL ファイルへのアクセス権を持っていることを確認します。

検証 ID: `CRL_CDP_URL_VALIDATION`

- 原因:
  - 証明書の CRL 配布ポイントに有効な URL がありません。NetBackup では、HTTP または HTTPS の URL のみサポートされます。
- 推奨処置:
  - CRL 配布ポイントに有効な URL が含まれていることを確認します。

検証 ID: `ALL_CRLS_READABLE`

- 原因:
  - 利用可能な CRL ファイルを読み取れないか、CRL が無効です。
- 推奨処置:
  - CRL のパスで有効な CRL を利用できることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8787

メッセージ**:** 外部証明書の指定された秘密鍵は FIPS 準拠ではありません。(The specified private key of the external certificate is not FIPS-compliant.)

説明**:** ホストで FIPS モードは有効ですが、外部証明書の指定された秘密鍵は FIPS 準拠ではありません。

推奨処置**:** 外部証明書の秘密鍵が FIPS 準拠のアルゴリズムを使用して生成されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8788

メッセージ: 暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしていません。(The Cryptographic Service Provider or key storage provider does not support security descriptors.)

説明: 暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダによっては、特定の暗号化操作をサポートしていない場合があります。たとえば、すべてのプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしているわけではありません。ローカルサービスアカウントで NetBackup の権限のないサービスが実行されている場合、外部 CA の登録時に、NetBackup は秘密鍵の権限を更新します。NetBackup の構成の ECA_CERT_PATH 値で指定した証明書に対応するプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしていない場合、このエラーが発生します。

推奨処置: セキュリティ記述子をサポートしている暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダを使用します。または、ローカルシステムか管理者アカウントを使用して、NetBackup の権限のないサービスを実行します。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8789

メッセージ: Windows 証明書ストア内の証明書に対応する秘密鍵を取得できませんでした。(Failed to acquire private key corresponding to certificate in Windows certificate store.)

説明: NetBackup の構成の ECA_CERT_PATH で指定した証明書に秘密鍵が関連付けられていないか、ユーザーにその秘密鍵を読み取る権限がありません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. 秘密鍵が関連付けられている証明書を使用します。
2. ユーザーに秘密鍵を読み取る権限があるかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8790

メッセージ: Windows 証明書ストアにある証明書に対応する秘密鍵のセキュリティ記述子の更新に失敗しました。(Failed to update security descriptor of private key corresponding to certificate in Windows certificate store.)

説明: 暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダによっては、特定の暗号化操作をサポートしていない場合があります。たとえば、すべてのプロバイダがセキュリ

ティ記述子をサポートしているわけではありません。ローカルサービスアカウントで NetBackup の権限のないサービスが実行されている場合、外部 CA の登録時に、NetBackup は秘密鍵の権限を更新します。NetBackup の構成の ECA_CERT_PATH 値で指定した証明書に対応するプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしていない場合、このエラーが発生する可能性があります。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. ユーザーに秘密鍵のセキュリティ記述子を更新する権限があるかどうかを確認します。
2. 暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしているかどうかを確認します。セキュリティ記述子をサポートしているプロバイダを使用するか、ローカルシステムまたは管理者アカウントを使用して NetBackup の権限のないサービスを実行します。

   詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8791

メッセージ: Windows 証明書ストアにある証明書に対応する秘密鍵のセキュリティ記述子の読み取りに失敗しました。(Failed to read the security descriptor of private key corresponding to certificate in Windows certificate store.)

説明: 暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダによっては、特定の暗号化操作をサポートしていない場合があります。たとえば、すべてのプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしているわけではありません。ローカルサービスアカウントでサービスが実行されている場合、外部 CA の登録時に、NetBackup は秘密鍵の権限を更新します。NetBackup の構成の ECA_CERT_PATH 値で指定した証明書に対応するプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしていない場合、このエラーが発生します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. 秘密鍵のセキュリティ記述子を読み取るユーザーに、読み取る権限があるかどうかを確認します。
2. 暗号サービスプロバイダまたはキーストレージプロバイダがセキュリティ記述子をサポートしているかどうかを確認します。セキュリティ記述子をサポートしているプロバイダを使用するか、ローカルシステムまたは管理者アカウントを使用して NetBackup の権限のないサービスを実行します。

   詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8792

メッセージ: Windows 証明書ストア内の秘密鍵または証明書の属性の設定に失敗しました。(Failed to set the attributes of the private key or certificate inside Windows certificate store.)

説明: NetBackup の構成の ECA_CERT_PATH 値に対応する証明書または証明書の秘密鍵の属性を更新できません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. 証明書が有効かどうかを確認します。
2. ユーザーに秘密鍵の属性を書き込む権限があるかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8793

メッセージ: Windows 証明書ストア内の秘密鍵または証明書の属性の読み取りに失敗しました。(Failed to read the attributes from the private key or certificate inside Windows certificate store.)

説明: NetBackup の構成の ECA_CERT_PATH 値に対応する証明書または証明書の秘密鍵の属性を読み取れません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. 証明書が有効かどうかを確認します。
2. ユーザーに秘密鍵の属性を読み取る権限があるかどうかを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8794

メッセージ: NetBackup で、Windows 証明書ストア内の証明書に対応する秘密鍵の管理が有効になっていません。NetBackup の構成を確認してください。(NetBackup is not enabled to manage the private key corresponding to certificate in the Windows certificate store. Check NetBackup configuration.)

説明: NetBackup の構成で秘密鍵の権限の変更が禁止されています。

推奨処置: NetBackup の構成で MANAGE_WIN_CERT_STORE_PRIVATE_KEY の値を Automatic に変更します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8798

メッセージ: FIPS モードが有効なため、ホストの証明書を検証できません。

説明: NetBackup Web 管理コンソールサービス (nbwmc) には、次のような他の製品やサブシステムと通信するワークフローが多数あります。

- メディアサーバー重複排除プール (MSDP)
- Cohesity Resiliency Platform (VRP)
- WebSocket サーバー
- 他の NetBackup ドメインからの信頼できるプライマリサーバー (NetBackup 自動イメージレプリケーション)
- Snapshot Manager

これらの通信は HTTPS ベースであるため、リモートエンティティの SSL ハンドシェークと証明書チェーンの検証が行われます。これらの通信では、まずリモートエンティティから CA 証明書の詳細をフェッチする API を呼び出し、エンドユーザーに指紋などの証明書の詳細を表示します。エンドユーザーが証明書を受け入れると、証明書の詳細が NetBackup の適切なトラストストアに保存されます。これらの保存された CA 証明書は、リモートエンティティの ID を検証するために、後続の API ワークフローで使用されます。

リモートエンティティの CA 証明書をフェッチするための API は、ピア証明書を検証しません。NetBackup には、SSL ハンドシェーク中にピアを検証する事前構成のトラストストアがありません。操作を続行する前に、NetBackup ではユーザーにこのような CA 証明書を信頼するか拒否するかを確認します。ただし、プライマリサーバーで FIPS が有効になっている場合は、ブートストラップの呼び出し (リモートエンティティの CA 証明書をフェッチして、ユーザーに信頼するか拒否するかを確認する) はできません。FIPS を適用するには、SSL ハンドシェーク中にリモートエンティティが提示するサーバー証明書の検証が必要です。つまり、プライマリサーバーが FIPS モードで実行されている場合、これらの API は機能しなくなります。

FIPS モードが有効になっている場合に機能しない API のリスト:

- `GET /config/remote-master-server-cacerts/{remoteMasterServer}`
- `POST /config/servers/wssendpoints/validateurl`
- `POST /config/servers/wssendpoints/validatehost`

  この API は、ペイロードで証明書が渡されていない場合は機能しません。NetBackup が FIPS モードで実行されている場合でも、証明書が渡されていなければ、API は別のエラーを返します。
- `GET /resiliency/servers/{resiliencyManager}/cacerts`
- `POST /config/servers/msdp-servers`

バージョン 8.3 から 9.0 までの、旧バージョンの新しい MSDP サーバーが追加された場合にのみ適用されます。NetBackup 10.0 以降のバージョンにも、FIPS を有効にした状態で適用されます。

推奨処置: この問題を解決するため、次の場所にある FIPS 準拠の一時的なトラストストアが NetBackup 10.0 に導入されました。

install_path/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks

NetBackup プライマリサーバーが FIPS モードで実行されている場合、管理者は、このトラストストアでリモートエンティティの CA 証明書がすでに利用可能になっていることを確認する必要があります。この確認は、リモートエンティティの CA 証明書をフェッチするために API を呼び出す前に実行する必要があります。NetBackup Web サービス API のワークフローでは、このトラストストアを使用して、NetBackup が通信するリモートエンティティの ID を確認します。

NetBackup 管理者に問い合わせて、サーバーの真正性を検証するため、トラストストアにターゲットサーバーの CA 証明書を追加するよう依頼してください。

メモ: FIPS モードで実行するように構成されている NetBackup プライマリサーバーで、次の手順を実行する必要があります。

プライマリサーバーで利用可能な `keytool` コマンドを使用して、CA 証明書をトラストストア *install_path*/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks にインポートできます。このトラストストアは、唯一の FIPS 完全準拠ストア形式である BCFKS 形式のトラストストアであるため、`-providerclass` と `-providerpath` のオプションが必要です。

リモートエンティティの CA 証明書は、PEM エンコード形式のファイルである必要があります。CA 証明書は、FIPS モードで実行されている NetBackup プライマリサーバーにコピーする必要があります。

リモートエンティティの CA 証明書を PEM 形式ファイルにエクスポートする手順は異なる場合があります。情報を取得する方法の 1 つとして、次の `keytool` コマンドを使用できます。NetBackup 管理者は、NetBackup を統合する予定の製品またはサブシステムのマニュアルを参照する必要があります。たとえば、NetBackup で VRP サーバーを追加する場合、VRP サーバーの CA 証明書を PEM 形式で取得するための手順は、VRP のマニュアルで参照できます。

次の `keytool` コマンドを使用して、CA 証明書を *install_path*/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks にインポートします。

Windows の場合:

```
install_path¥java¥jre¥bin¥keytool -storetype BCFKS
-providerpath install_path¥wmc¥webserver¥lib¥ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
```

```
-importcert -trustcacerts -file <CA certificate file (PEM encoded) path>
-keystore install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥cacerts.bcfks
-storepass <password from the install_path¥var¥global¥jkskey file>
-alias <alias name of the trusted certificate entry to be added>
```

UNIX の場合:

```
/usr/openv/java/jre/bin/keytool -storetype BCFKS
-providerpath /usr/openv/wmc/webserver/lib/ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-importcert -trustcacerts -file <CA certificate file (PEM encoded) path>
-keystore install_path/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks
-storepass <password from the /usr/openv/var/global/jkskey file>
-alias <alias name of the trusted certificate entry to be added>
```

NetBackup では、ブートストラップ呼び出しが実行された後は、これらの CA 証明書を必要としません (以降の API 呼び出しでは、これらの CA 証明書エントリが入力された別のトラストストアを使用します)。Cohesity では、NetBackup でリモートエンティティを構成したら、エントリをクリーンアップすることをお勧めします。一時キーストアからエントリを削除するには:

Windows の場合:

```
install_path¥java¥jre¥bin¥keytool -storetype BCFKS
-providerpath install_path¥wmc¥webserver¥lib¥ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-importcert -trustcacerts -file <CA certificate file (PEM encoded) path>
-keystore install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥cacerts.bcfks
-storepass <password from the install_path¥var¥global¥jkskey file>
-delete -alias <alias of the entry to be deleted>
```

UNIX の場合:

```
/usr/openv/java/jre/bin/keytool -storetype BCFKS
-providerpath /usr/openv/wmc/webserver/lib/ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-keystore /usr/openv/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks
-storepass <password from the /usr/openv/var/global/jkskey file> -delete
-alias <alias of the entry to be deleted>
```

信頼できるプライマリサーバーを構成するには、次の手順を実行します。

信頼できるプライマリサーバーを構成するには

1 宛先プライマリサーバーで次の操作を実行します。

keytool コマンドを使用して、BCFKS 形式のトラストストアから CA 証明書をエクスポートします。

```
/usr/openv/java/jre/bin/keytool -storetype BCFKS
-providerpath /usr/openv/wmc/lib/ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-exportcert -alias <alias of the cert to be exported>
-keystore <BCFKS format trust store> -storepass <store password> -rfc
-file <destination PEM file in which this CA certificate will be exported>
```

例:

Windows の場合:

```
install_path¥jre¥bin¥keytool
-providerpath install_path¥wmc¥lib¥ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-storetype BCFKS -export -alias nbwmc -rfc
-file <file name of the CA cert PEM>
-keystore install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥nbwebservice.bcfks
-storepass <password from install_path¥var¥global¥jkskey>
```

UNIX の場合:

```
/usr/openv/java/jre/bin/keytool -providerpath /usr/openv/wmc/lib/ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-storetype BCFKS -export -alias nbwmc -rfc
-file /usr/openv/var/global /wsl/credentials/nbwmc.pem
-keystore /usr/openv/var/global/wsl/credentials/nbwebservice.bcfks
-storepass <password from /usr/openv/var/global/jkskey>
```

2 手順 1 のコマンドの実行の一部として作成された PEM ファイルを、宛先プライマリサーバーからソースプライマリサーバーにコピーします。

3 ソースプライマリサーバーで、PEM ファイルから CA 証明書を *install_path*/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks にインポートします。

Windows の場合:

```
install_path¥java¥jre¥bin¥keytool -storetype BCFKS
-providerpath install_path¥wmc¥webserver¥lib¥ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-importcert -trustcacerts -file <CA certificate file (PEM encoded) path>
-keystore install_path¥var¥global¥wsl¥credentials¥cacerts.bcfks
-storepass <password from the install_path¥var¥global¥jkskey file>
-alias <alias name of the trusted certificate entry to be added>
```

UNIX の場合:

```
/usr/openv/java/jre/bin/keytool -storetype BCFKS
-providerpath /usr/openv/wmc/webserver/lib/ccj.jar
-providerclass com.safelogic.cryptocomply.jcajce.provider.CryptoComplyFipsProvider
-importcert -trustcacerts -file <CA certificate file (PEM encoded) path>
-keystore install_path/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks
-storepass <password from the /usr/openv/var/global/jkskey file>
-alias <alias name of the trusted certificate entry to be added>
```

4 (該当する場合) ソースプライマリサーバーの CA 証明書を宛先プライマリサーバーにインポートするには、手順 1、2、3 に従う必要があります。手順 1 では、宛先プライマリサーバーがソースになり、ソースが宛先になります。この変更により、両方のプライマリサーバーの CA 証明書が *install_path*/var/global/wsl/credentials/cacerts.bcfks で利用可能になります。

リモートエンティティに JKS 形式のキーストアがある場合は、次のコマンドを使用して PEM 形式の CA 証明書をエクスポートできます。

keytool コマンドを使用した、JKS 形式のトラストストアからの CA 証明書のエクスポート:

```
/usr/openv/java/jre/bin/keytool -exportcert
-alias <alias of the cert to be exported>
-keystore <trust store path>
-storepass <store password> -rfc
-file <destination PEM file in which this CA certificate will be exported>
```

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8799

メッセージ: 証明書の署名アルゴリズムを検証できませんでした。(The validation of the certificate signing algorithm failed.)

説明: このエラーは、非推奨アルゴリズム (`md5WithRSAEncryption`) を使用して証明書が署名されたことを示します。

推奨処置: 非推奨アルゴリズムを使用して署名された証明書を生成して発行するには、認証局にお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8800

メッセージ: EMM との通信に失敗しました。

説明: NetBackup は、`nbemm` との通信を必要とする要求を試みましたが、`nbemm` での通信は失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `nbemm` サービスが実行されていることを確認します。
- `nbemm` または NetBackup Web Management Console (`nbwmc`) を再起動して要求を再試行します。
- `nbemmm` (OID 111) サービスと NetBackup Web サービスについて NetBackup マスターサーバーの統合ログファイルを調べます。統合ログは、`/usr/openv/logs` (UNIX の場合) または `install_path¥NetBackup¥logs` (Windows の場合) に書き込まれます。
  Web サービスとそれらのログに対するトラブルシューティングについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』と、『NetBackup ログリファレンスガイド』を参照してください。
- 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8813

メッセージ: 「policy」という名前のプロパティを使用してポリシー属性を指定する必要があります。(Policy attributes must be specified using the property named 'policy'.)

説明: このエラーは、ポリシー API に対する JSON ペイロードの入力値に、必須の「policy」プロパティが見つからない場合に発生します。

推奨処置: JSON ペイロードの「policy」プロパティに、任意のスケジュール、クライアント、バックアップ対象などのポリシー属性を指定してください。ポリシー API の JSON スキーマについて詳しくは、NetBackup REST API のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8814

メッセージ: 有効な Hyper-V マシン名を入力してください。

説明: NetBackup は、Hyper-V サーバーとの通信が必要な要求を試みましたが、Hyper-V サーバーとの通信が失敗しました。

推奨処置: Hyper-V サーバーに NetBackup クライアントがインストールされていること、および NetBackup マスターサーバーが Hyper-V サーバーと通信できることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8816

メッセージ: URL の ID が要求本文の ID と一致していません。(The ID in the URL does not match the ID in the body.)

説明: URL の ID が要求本文の ID と一致していません。

推奨処置: 要求 URL の ID が要求の本文内の ID と一致することを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8817

メッセージ: 指定したクレデンシャル名はすでに存在します。(The credential name that you provided already exists.)

説明: 作成しようとしたクレデンシャル名はクレデンシャルデータベースにすでに存在します。

推奨処置: 要求の本文に、別の有効なクレデンシャル名を入力します。文字の間に空白を入れないでください。256 文字を超える名前は使用できません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8818

メッセージ: ポリシー名が無効です。(Invalid policy name.)

説明: ポリシー名に無効な文字が含まれている可能性があり、NetBackup の命名規則に従っていません。

推奨処置: 命名規則に従って有効なポリシー名を入力します。アルファベット (ASCII の A から Z と a から z)、数字 (0 から 9)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、アンダースコア (_)、ピリオド (.) のみを使用します。マイナス記号 (-) とピリオド (.) は、最初と最後の文字には使用しないでください。文字の間に空白を入れないでください。

ポリシー名について詳しくは、次の情報を参照してください。

- 命名規則について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- サポートナレッジベースの記事 100016372 にもポリシーの命名に関する情報があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8819

メッセージ: スケジュール名が無効です。(Invalid schedule name.)

説明: スケジュール名に無効な文字が含まれている可能性があり、NetBackup の命名規則に従っていません。

推奨処置: 命名規則に従って有効なポリシー名を入力します。アルファベット (ASCII の A から Z と a から z)、数字 (0 から 9)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、アンダースコア (_)、ピリオド (.) のみを使用します。マイナス記号 (-) とピリオド (.) は、最初と最後の文字には使用しないでください。文字の間に空白を入れないでください。

命名規則について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8820

メッセージ: すべてのメディアサーバーの詳細を取得できませんでした。

説明: すべての構成されたメディアサーバーの詳細を取得できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8821

メッセージ: 指定されたメディアサーバーの詳細を取得できませんでした。(Failed to retrieve the details of the specified media server.)

説明: 指定されたメディアサーバーの詳細を取得できませんでした。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8822

メッセージ: 信頼できるマスターサーバーの追加に失敗しました。

説明: 信頼関係を設定するためのリモートマスターサーバーの追加に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード:8823

メッセージ: 信頼できるマスターサーバーの更新に失敗しました。

説明: 指定された構成情報での信頼できるマスターサーバーの更新に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8824

メッセージ: 信頼できるマスターサーバーの詳細の取得に失敗しました。

説明: 指定された信頼できるマスターサーバーの情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8825

メッセージ: リモートプライマリサーバーの詳細の取得に失敗しました。(Failed to retrieve the remote primary server details.)

説明: 指定されたリモートプライマリサーバーの情報の取得に失敗しました。

推奨処置: 詳しくは、JSON の出力で `errorDetails` を参照してください。操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8836

メッセージ: 指定されたメディアサーバーの詳細を更新できませんでした。

説明: 指定されたメディアサーバーのメディアサーバー構成の更新に失敗しました。

推奨処置: 次のことを検証します。

- メディアサーバーがマスターサーバーに認識されてること。
- 対象のメディアサーバーにマスターサーバーからアクセスできること。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8837

メッセージ: 指定されたメディアサーバーでは、この DTE 構成はサポートされていません。

説明: メディアサーバーの DTE 構成は、指定されたサーバーではサポートされていません。

推奨処置: 次のことを検証します。

- メディアサーバーがマスターサーバーに認識されていること
- NetBackup 10.0 リリース以降のメディアサーバーであること
- 対象のメディアサーバーにマスターサーバーからアクセスできること

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8842

メッセージ: プロキシサーバーの詳細の保存に失敗しました。(Failed to save the proxy server details.)

説明: このエラーは、次の API を使用してプロキシサーバーの詳細を作成または更新しようとすると表示されます。

`https://{NetbackupUrl}/netbackup/config/proxy-servers`

このエラーが表示された場合は、データを保存できません。

推奨処置: 次の手順を実行してください。

1. POST API (`https://{NetbackupUrl}/netbackup/config/proxy-servers`) を呼び出して、プロキシサーバーを作成します。
2. 適切な構文を使用して API を作成して要求を検証しますが、実行時にエラーを示す無効なデータを使用します。
3. API レスポンスにエラーが表示されていることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8900

メッセージ: 指定するホスト名は単一のホスト ID と関連付けられている必要があります。

説明: このエラーは、マッピングで追加または削除するホスト名が複数のホスト ID と関連付けられている場合に発生します。

推奨処置: マッピングで追加または削除するホスト名が単一のホスト ID と関連付けられていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8901

メッセージ: 指定したマッピング名が存在しません。

説明: このエラーは、フェッチするマッピング名が存在しない場合に発生します。

推奨処置: 有効なマッピング名を指定して再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8902

メッセージ: 指定したホストのマッピングが存在しません。

説明: 指定したホストまたはホストのマッピングが存在しません。

推奨処置: 有効なホスト名を指定して再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8903

メッセージ: ホスト名が、ホスト ID とホスト名のマッピングリストに含まれていません。(The host name does not exist in the host ID to host name mapping list.)

説明: この操作を完了するには、ホスト ID からホスト名へのマッピングリストに存在する入力パラメータにホスト名を指定する必要があります。

推奨処置: ホスト ID からホスト名へのマッピングリストに存在するホスト名を使用します。または、`nbhostmgmt -add` コマンドを使用して、指定したホスト名をマッピングリストに追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8904

メッセージ: ディザスタリカバリの進行中は、ホストデータベース操作はブロックされます。

説明: ディザスタリカバリ中、NetBackup データベースの状態が変化します。このため、このデータベースへの更新はブロックされ、カタログリカバリが完了し、NetBackup サービスが再起動された後に再試行されます。ディザスタリカバリが開始される前に、カタログリカバリ API によって、環境変数 `NB_DR_IN_PROGRESS` が自動的に `1` に設定されます。この変数は、プロセスの完了後に `0` にリセットされます。ただし、この変数が正常にリセットされず、ディザスタリカバリの完了後にホストデータベースへの更新がブロックされることがあります。

推奨処置: 環境変数 `NB_DR_IN_PROGRESS` を手動で `0` にリセットします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8951

メッセージ: NetBackup API のバージョンが無効です。(The NetBackup API version is invalid.)

説明: API の要求に、content-type ヘッダーに指定されている無効なバージョンが含まれています。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8952

メッセージ: 要求承認ヘッダーで指定されたメディア形式で、応答を生成できません。(A response cannot be generated in the media type specified by the request accept header.)

説明: API 要求に無効な NetBackup API バージョンが含まれているか、この要求によって特定されたリソースが、要求承認ヘッダーで指定されたメディア形式で応答を生成できません。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8953

メッセージ: 要求の content-type ヘッダーで指定されたコンテンツ形式は、要求された方法の要求されたリソースでサポートされていません。(The content type specified by the request content-type header is not supported by the requested resource for the requested method.)

説明: API 要求に無効な NetBackup API バージョンが含まれているか、要求エンティティの形式が、要求された方法の要求されたリソースでサポートされていません。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8954

メッセージ: フィルタ基準が無効です。

説明: API の要求に、無効なフィルタ基準が含まれています。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8955

メッセージ: 無効な API 要求が発生しました。(An invalid API request is encountered.)

説明: API 要求で、要求本文に 1 つ以上の無効なパラメータとパラメータ値 (またはそのいずれか) が含まれています。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8956

メッセージ: 複数の認証ヘッダーは許可されていません。

説明: API 要求に、複数の認証ヘッダーが含まれています。API の要求を実行するには、1 つの認証ヘッダーのみが必要です。

推奨処置: 余分な認証ヘッダーを削除して再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8957

メッセージ: HTTP メソッドはサポートされていません。(The HTTP method is not supported.)

説明: API 要求で指定した HTTP メソッドが無効です。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8958

メッセージ: データベースシステムエラーが発生しました。(A database system error occurred.)

説明: データベース関連のエラーにより、NetBackup Web サービスが失敗しました。このエラーは、データ整合性違反、データアクセスエラー、データベース接続エラー、データベースクエリー構文エラー、その他の関連するエラーなど、さまざまな問題が原因で発生する可能性があります。Microsoft SQL ソースファイルのリカバリポイント API の呼び出し時に nbwebservice と DBM の間の通信で問題が発生しました。

推奨処置: Microsoft SQL ソースファイルの呼び出しにリカバリポイント API を使用した場合は、API のすべての入力を確認して再試行します。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8959

メッセージ: 複数の監査理由ヘッダーは許可されていません。(Multiple audit reason headers are not allowed.)

説明: 要求で複数の監査理由ヘッダーが指定されています。監査理由ヘッダーは 1 つだけ許可されます。

推奨処置: 監査理由ヘッダーを 1 つ選択し、その他のヘッダーを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8960

メッセージ: X-NetBackup-Audit-Reason ヘッダーが適切に URL エンコードされていません。(The X-NetBackup-Audit-Reason header is not properly URL-encoded.)

説明: HTTP 仕様ではヘッダー値に ISO-8859-1 文字のみが許可されているため、この値を URL エンコードする必要があります。

推奨処置: 監査理由が正しくパーセントエンコードされていることを確認します。ISO-8859-1 文字のみが許可されています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8962

メッセージ: 要求された操作が失敗しました。(Requested operation failed.)

説明: 操作の正常な完了を妨げる内部エラーが発生しました。

推奨処置: このエラーについて詳しくは、webserver と nbwebservice のログを調べます。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。詳しくは、『NetBackup API リファレンスガイド』を参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 8963

メッセージ: NetBackup Web サーバーに接続するために指定されたホスト名が、NetBackup Web サーバー証明書に存在しません。(The host name that you have specified to connect to the NetBackup web server is not present in the NetBackup web server certificate.)

説明: クライアントがNetBackup Web **管理コンソール**サービス用に構成されている証明書に存在しないマスターサーバーのホスト名を使用すると、NetBackup Web **管理コンソール** (nbwmc) サービスでこのエラーが表示されます。クライアントの例としては、NetBackup 管理コンソール、Web UI、NetBackup Web API にアクセスするサードパーティ製アプリケーションなどが挙げられます。

このエラーは、NetBackup Web UI または NetBackup 管理コンソールに接続するときに表示されます。このエラーは、接続がマスターサーバーの IP アドレスを使用しており、その IP アドレスが、NetBackup Web **管理コンソール**サービス用に構成されている証明書に存在しない場合に発生します。

NetBackup vCenter プラグインでこのエラーが表示される場合があります。この問題は、プラグインに追加するマスターサーバーが NetBackup Web **管理コンソール**サービスに既知のホスト名を使用していない場合に発生します。

推奨処置: 追加のホスト名または IP アドレス (サーバー証明書に存在するアドレス以外) を使用して NetBackup Web **管理コンソール**機能にアクセスする場合は、次の手順を参照してください。

メモ: この設定は、マスターサーバーでのみ利用可能です。allowedlist.properties には、クライアントから接続するために使用されるマスターサーバーのすべての追加の名前 (ホスト名、IP アドレス) が必要です。クライアントの例としては、NetBackup 管理コンソール、Web UI、任意の Rest クライアント、またはその他の NetBackup クライアントなどが挙げられます。

追加のホスト名または IP アドレスを使用した NetBackup Web 管理コンソール機能へのアクセス

1. ファイル VAR_GLOBAL/wsl/config/allowedlist.properties を作成します。

   例:

   Windows の場合:
   <install_path>¥NetBackup¥var¥global¥wsl¥config¥allowedlist.properties

   UNIX の場合: /usr/openv/var/global/wsl/config/allowedlist.properties

2. Web サービスアカウントのユーザーにこのファイルに対する読み取り権限があることを確認します。

   例: UNIX システムでは、このファイルに対する必要な権限を確認する方法の 1 つとして、chmod a+r /usr/openv/var/global/wsl/config/allowedlist.properties があります。

3. 有効な host.headers と x.forwarded.host.headers ヘッダー値を必要に応じて追加します。

4. ファイルを保存します。

5. NetBackup Web **管理コンソール**サービスを再起動します。

   Windows システムでは、NetBackup Web **管理コンソール**サービスは Windows Service Control Manager から再起動できます。

   UNIX システムの場合は /usr/openv/netbackup/bin/nbwmc stop && /usr/openv/netbackup/bin/nbwmc start です。

次に allowedlist.properties ファイルの例を示します。

```
#Sample Properties File#
#Properties file to allow additional valid HOST and X-FORWARDED-HOST
 header values
#Fri Apr 23 16:14:42 CDT 2021
host.headers=master_server_additional_name_1,master_server_additional_name_2,
master_server_additional_ip_1,master_server_additional_ip_2
x.forwarded.host.headers=master_server_additional_name_1,
master_server_additional_name_2 ,master_server_additional_ip_1,
master_server_additional_ip_2
```

host.headers キーには、ホスト名と IP アドレスのカンマ区切りの文字列値があります。これは HOST 要求ヘッダーに対して有効であると見なされる必要があります。

x.forwarded.host.headers キーには、ホスト名と IP アドレスのカンマ区切りの文字列値があります。これは X-FORWARDED-HOST ヘッダーに対して有効であると見なされる必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9032

メッセージ: 仮想マシンに接続できませんでした。(Could not connect to the virtual machine.)

説明: 仮想マシンが停止しているか、Snapshot Manager が仮想マシンに接続できません。

推奨処置: 仮想マシンが稼働しているかどうか、または Snapshot Manager が仮想マシンと通信できるかどうかを確認します。Snapshot Manager のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9050

メッセージ: 一致するレポートが見つかりませんでした。

説明: URI に指定されたレポート ID のレポートが存在しません。

推奨処置: レポート ID が `GET /netbackup/reports` 応答にあるかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9051

メッセージ: 要求に指定したフィルタは無効です。

説明: 要求の本文を介して渡されたフィルタ文字列が有効ではありません。

推奨処置: 要求の本文を介して渡されたフィルタ文字列が有効かどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9052

メッセージ: レポート要求が無効です。

説明: 要求の本文が有効ではありません。

推奨処置: 要求の本文が有効であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9053

メッセージ: 無効なジョブレポート形式が見つかりました。

説明: レポート形式が有効ではありません。

推奨処置: レポート形式が `GET /netbackup/reports` 応答にあるかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9101

メッセージ: ファイルのロックに失敗しました。(Failed to lock the file.)

説明: このエラーは次の原因で発生する場合があります。

- 権限エラーにより、NetBackup でロックファイルを作成できない
- ファイルが別のプロセスでロックされている

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 実行しようとした操作のログを調べる
- エラーが発生したホストで、`nbcertcmd` のレガシーログを調べる
- 通信するすべてのホストで、`nbpxyhelper` の統合ログ (OID 486) を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9102

メッセージ: ファイルのロック解除に失敗しました。(Failed to unlock the file.)

説明: NetBackup は、編集するためにファイルのロックを解除しようとしましたが、解除できませんでした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 実行しようとした操作のログを調べる
- NetBackup サーバーで `nbcertcmd` のレガシーログを調べる

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9103

メッセージ: Web サービスからの予期しない応答です。

説明: このエラーは次の原因で発生する場合があります。

- クライアントがマスターサーバーからの HTTP 応答の解析に失敗した
- クライアントが旧バージョンのマスターサーバーに Web サービスを要求した

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- 旧バージョンのマスターサーバーをアップグレードする
- マスターサーバーで、NetBackup サーバーの `nbwebservice` の統合ログ (すべての OID) を調べる
- エラーが発生したホストで、`nbcertcmd` のレガシーログを調べる
- 通信するすべてのホストで、`nbpxyhelper` の統合ログ (OID 486) を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9104

メッセージ: 証明書の検証に失敗しました。(The certificate verification failed.)

説明: 公開鍵基盤 (PKI) のアーティファクトが無効です。PKI のアーティファクトには、CA 証明書、証明書の秘密鍵、秘密鍵ファイルのパスフレーズが含まれます。

推奨処置: OpenSSL コマンドを使用して PKI のアーティファクトを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9108

メッセージ: `vnetd` サービスへの接続に失敗しました。(Failed to connect to the vnetd service.)

説明: このエラーは、アプリケーションから NetBackup ネットワークデーモン (`vnetd`) への接続に失敗した場合に発生します。

推奨処置: 次の手順を実行します。

1. NetBackup ホストで `vnetd` プロセスが実行されていることを確認します。
2. 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9126

メッセージ: リモートサーバーの証明書が無効か存在しません。(The remote server's certificate is not valid or doesn't exist.)

説明: リモートサーバーの証明書が無効か存在しません。このエラーは、複数の問題が原因で発生する場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

次の表に、問題とその修正に必要な関連する処理を示します。

- アクティビティモニターの[ジョブの詳細 (Job details)]に表示される nbcs/bpfis/bppfi レベルのエラーメッセージを確認します。詳しくは、コンポーネントログを参照してください。
- Snapshot Manager とプラグインの構成に関する nbwebservice/nbemm レベルのエラーメッセージを確認します。詳しくは、コンポーネントログを参照してください。

表 1-7 SSL 証明書の問題または接続の問題が原因で失敗した操作。

メッセージ	推奨処置
証明書の CRL を取得できません。ECA_CRL_PATH を構成している場合は、有効な CRL がその場所に存在することを確認してください。CRL の URL に Snapshot Manager からアクセスできるかどうかを確認してください。(Unable to retrieve the certificate CRL. If you have configured the ECA_CRL_PATH, ensure that valid CRLs are present at the location. Confirm that the CRL URL is accessible from the Snapshot Manager.)	最新の CRL を ECA_CRL_PATH パスにコピーするか、それぞれのホスト証明書の CRL 配布ポイントの URL に Snapshot Manager からアクセスできることを確認します。
証明書失効リスト (CRL) が期限切れです。最新の CRL で ECA_CRL_PATH が更新されていることを確認してください。(The certificate revocation list (CRL) is expired. Ensure that the ECA_CRL_PATH is updated with the latest CRL.)	最新の CRL が ECA_CRL_PATH のパスにアップロードされていることを確認します。 Snapshot Manager ホストで次のコマンドを使用して、Snapshot Manager CRL キャッシュを手動で更新できます。 `flexsnap_configure renew --token` *`token`*
証明書失効リスト (CRL) がまだ有効ではありません。(The certificate revocation list (CRL) is not yet valid.)	Snapshot Manager のシステム時刻を確認するか、有効な CRL を指定します。

メッセージ	推奨処置
証明書失効リスト (CRL) の最終更新日が有効な形式ではありません。(The date of last update of the certificate revocation list (CRL) is not in a valid format.)	OpenSSL コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
証明書失効リスト (CRL) の次回更新日が有効な形式ではありません。(The date of next update of the certificate revocation list (CRL) is not in a valid format.)	OpenSSL コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
cURL エラーにより操作が失敗しました。(The operation has failed with a cURL error.)	再び操作を実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。
証明書は無効化されています。(The certificate is revoked.)	チェーン内の証明書のいずれかが失効していないかを確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。 Snapshot Manager 証明書を更新するには、Snapshot Manager ホストで次のコマンドを実行します。 NBCA の場合: `flexsnap_configure renew --hostnames FQDN --token` *`token`* `--force` ECA の場合: `flexsnap_configure renew --hostnames FQDN --ca` *`ca_file_path`* `--key` *`key_file_path`* `--chain` *`chain_file_path`* 詳しくは、状態コード 9318 を参照してください。

メッセージ	推奨処置
証明書が期限切れです。(The certificate has expired.)	(NBCA には該当しません) 証明書の有効期限を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。 ECA の場合は、次のコマンドを使用して、Snapshot Manager ホストで Snapshot Manager 証明書を手動で更新します。 `flexsnap_configure renew --hostnames FQDN --ca ca_file_path --key key_file_path --chain chain_file_path` NBCA の場合、Snapshot Manager 証明書は有効期限の 90 日以内に自動的に更新されます。 詳しくは、状態コード 8506 を参照してください。

プライマリサーバーと Snapshot Manager 間の SSL 証明書または接続の問題についてより詳しい情報を確認するには、他の NetBackup エラーコードまたはメッセージも参照できます。ネットワークの問題がある場合は、`netstat` または同様のネットワーク診断ツールを使用して解決します。Snapshot Manager に対して発行された証明書の状態は、`flexsnap_configure serverinfo` を使用して検証でき、実行中のコンテナの状態は、`flexsnap_configure status` を使用して検証できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9128

メッセージ: トラックログファイルからのバックアップ ID の取得に失敗しました。(Failed to obtain the backup ID from the track log file.)

説明: トラックジャーナルのヘッダーセクションにはバックアップ ID が含まれています。トラックジャーナルが破損している、またはヘッダーにバックアップ ID がない場合に、この問題が発生する可能性があります。

推奨処置:

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. クライアント上の適切なトラックジャーナルフォルダの名前を変更します。

```
install_path¥NetBackup
¥track¥<media_server>¥<storage_server>¥<client>¥<policy>
```

2. 新しく完全バックアップを実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9129

メッセージ: 秘密鍵ファイルをロードできません。(The private key file cannot be loaded.)

説明: OpenSSL 関数 `SSL_CTX_use_PrivateKey_file` の呼び出しに失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9130

メッセージ: 秘密鍵ファイルを検証できません。(The private key file cannot be validated.)

説明: OpenSSL 関数 `SSL_CTX_check_private_key` の呼び出しに失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9131

メッセージ: SSL ハンドシェークが失敗しました。(The SSL handshake failed.)

説明: OpenSSL 関数 `SSL_do_handshake` の呼び出しに失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9132

メッセージ: NetBackup サービスがホストで実行されていないため、ホストに接続できません。

説明: サーバーからクライアントに接続できませんでした。

推奨処置: 次のサービスがホストで実行中であることを確認します。

- PBX サービス
- NetBackup サービス

問題が継続する場合は、『NetBackup トラブルシューティングガイド』の「ネットワーク通信の問題の解決」に関する項を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9134

メッセージ: パスフレーズの取得に失敗しました。(Failed to retrieve the passphrase.)

説明: 秘密鍵の復号に必要なパスフレーズを読み取ることができません。パスフレーズファイルがない、アクセスできない、変更された、または破損しています。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- パスフレーズファイルがキーストアの場所にあり、正しい権限を持っていることを確認します。ファイルはあるものの、適切な権限がない場合は、権限を手動で調整し、操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを `keystore` ディレクトリから削除します。構成に応じて、`keystore` ディレクトリは *`install_dir`*`/var/vxss/credentials/keystore`、*`install_dir`*`/var/global/vxss/credentials/keystore`、*`install_path`*`¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore`、または *`install_path`*`¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore` ディレクトリです。
  - ホストが登録されているすべてのサーバーについて、`reissueToken` オプションを指定した `nbcertcmd -getCertificate` を実行し、操作を再試行します。
  - 問題が解決しない場合は、`nbcert`、`nbpxyhelper`、`nbwebservice` のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9135

メッセージ: NetBackup クライアントが暗号化に弱い暗号を使用しているか、暗号化がレガシータイプです。(The NetBackup client uses a weak cipher for encryption, or the encryption is of the legacy type.)

説明: 保存データの暗号化が有効で、NetBackup クライアントが DES、RC2、RC4、BF などの弱い暗号で構成されている場合、またはレガシーの暗号化を使用している場合、バックアップジョブは失敗し、エラーが表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

AES のような強力な暗号では、STANDARD 形式の暗号化方式を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9136

メッセージ: パスフレーズキーのローテーションに失敗しました。(Rotation of the passphrase key failed.)

説明: パスフレーズキーをローテーションする操作が失敗しました。このエラーは、暗号化に使用される現在のパスフレーズキーをシステムが置換できないことを意味します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- パスフレーズキーファイルがキーストアの場所にあり、正しい権限があることを確認します。ファイルはあるものの、適切な権限がない場合は、権限を手動で調整し、操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを `keystore` ディレクトリから削除します。構成に応じて、`keystore` ディレクトリは *`install_dir`*`/var/vxss/credentials/keystore`、*`install_dir`*`/var/global/vxss/credentials/keystore`、*`install_path`*`¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore`、または *`install_path`*`¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore` ディレクトリです。
  - ホストが登録されているすべてのサーバーについて、`reissueToken` オプションを指定した `nbcertcmd -getCertificate` を実行し、操作を再試行します。
  - 問題が解決しない場合は、`nbcert`、`nbpxyhelper`、`nbwebservice` のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9139

メッセージ: バックアップファイルはキーストアにすでにあります。(Backup files already present in keystore.)

説明: パスフレーズのローテーション処理中に生成されたパスフレーズバックアップファイルがシステム内にあるということは、前回のローテーション操作でエラーが発生しているこ

とを示します。これらのファイルは、ローテーションが成功したときに消去されているはずです。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- keystore フォルダにある、接尾辞が _bkup のバックアップファイルを削除して、操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9140

メッセージ: ディレクトリが空です。(Directory is empty.)

説明: keystore ディレクトリに秘密鍵ファイルが含まれていません。このエラーコードは、ホストに対して有効な NBCA 証明書が発行されていないことを示します。環境が ECA のみのセットアップかどうかを確認します。

推奨処置: nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9141

メッセージ: キーストアが不整合な状態になっています。(Keystore is in inconsistent state.)

説明: NetBackup は、パスフレーズ操作のローテーション中にこのエラーコードを返します。NetBackup は、次に示すシナリオでこのエラーを受け取ります。

- 秘密鍵、パスフレーズ、パスフレーズキーファイルがないか、アクセスできません。
- 秘密鍵、パスフレーズ、パスフレーズキーのバックアップがあります。これは、これらのファイルが関与する前回の操作でエラーが発生していることを示します。
- NetBackup は、利用可能なパスフレーズファイルを使用して秘密鍵ファイルを復号することができません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 秘密鍵、パスフレーズ、パスフレーズキーファイルが keystore の場所にあり、正しいサービスユーザー権限があることを確認します。ファイルはあるものの、適切な権限がない場合は、権限を手動で調整し、操作を再試行します。

- バックアップファイルがある場合は、_bkup 接尾辞が付いたバックアップファイルをクリーンアップして、操作を再試行します。
- それ以外の場合:
  - 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを keystore ディレクトリから削除します。構成に応じて、keystore ディレクトリは *install_dir*/var/vxss/credentials/keystore、*install_dir*/var/global/vxss/credentials/keystore、*install_path*¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore、または *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore ディレクトリです。
    - ホストが登録されているすべてのサーバーについて、reissueToken オプションを指定した nbcertcmd -getCertificate を実行し、操作を再試行します。
    - 問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9142

メッセージ**:** ファイルが存在しません。(File does not exist.)

説明**:** バックアップファイルが、指定された場所にありません。

推奨処置**:** nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9143

メッセージ**:** パスフレーズのローテーションに失敗しました。(Rotation of the passphrase failed.)

説明**:** パスフレーズをローテーションする操作が失敗しました。このエラーは、暗号化に使用される現在のパスフレーズをシステムが置換できないことを意味します。

推奨処置**:** 必要に応じて次を実行します。

- パスフレーズファイルがキーストアの場所にあり、正しい権限を持っていることを確認します。ファイルはあるものの、適切な権限がない場合は、権限を手動で調整し、操作を再試行します。

- 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを keystore ディレクトリから削除します。構成に応じて、keystore ディレクトリは *install_dir*/var/vxss/credentials/keystore、*install_dir*/var/global/vxss/credentials/keystore、*install_path*¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore、または *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore ディレクトリです。
  - ホストが登録されているすべてのサーバーについて、reissueToken オプションを指定した nbcertcmd -getCertificate を実行し、操作を再試行します。
  - 問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9144

メッセージ: パスフレーズのローテーションと後続のリストアに失敗しました。(Rotation of the passphrase and the subsequent restore failed.)

説明: パスフレーズのローテーションには、現在のパスフレーズを新しいパスフレーズに置き換え、秘密鍵を再暗号化することが伴います。NetBackup は、秘密鍵とパスフレーズファイルのバックアップを作成します。これらのバックアップは、ローテーション操作が失敗するとリストアされます。このエラーは、これらのバックアップファイルのリストアが失敗したことを示します。

推奨処置: nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9145

メッセージ: 指定したタグがパスフレーズキーファイルにありません。(The given tag does not exist in the passphrase key file.)

説明: 指定したタグのキーレコードが、パスフレーズキーファイルにありません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを keystore ディレクトリから削除します。構成に応じて、keystore ディレクトリは *install_dir*/var/vxss/credentials/keystore、*install_dir*/var/global/vxss/credentials/keystore、

install_path¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore、または *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore ディレクトリです。

- ホストが登録されているすべてのサーバーについて、reissueToken オプションを指定した nbcertcmd -getCertificate を実行し、操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9146

メッセージ: パスフレーズキーファイルにコンテンツがありません。(The passphrase key file does not have any contents.)

説明: パスフレーズキーファイルが空で、キーレコードが含まれていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを keystore ディレクトリから削除します。構成に応じて、keystore ディレクトリは *install_dir*/var/vxss/credentials/keystore、*install_dir*/var/global/vxss/credentials/keystore、*install_path*¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore、または *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore ディレクトリです。
  - ホストが登録されているすべてのサーバーについて、reissueToken オプションを指定した nbcertcmd -getCertificate を実行し、操作を再試行します。
  - 問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9147

メッセージ: 暗号化タグを作成できませんでした。(Failed to create encryption tag.)

説明: タグの長さが無効なため、タグの作成操作が失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9148

メッセージ: 暗号化キーを作成できませんでした。(Failed to create encryption key.)

説明: キーの長さが無効なため、キーの作成操作が失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行します。問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9149

メッセージ: パスフレーズキーファイルを作成できませんでした。(Failed to create passphrase key file.)

説明: パスフレーズキーファイルを作成してキーレコードを追加しようとしましたが失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- パスフレーズキーファイルまたはディレクトリがキーストアの場所にあり、正しい権限があることを確認します。ファイルはあるものの、適切な権限がない場合は、権限を手動で調整し、操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、隠しファイルを含むすべてのファイルを keystore ディレクトリから削除します。構成に応じて、keystore ディレクトリは *install_dir*/var/vxss/credentials/keystore、*install_dir*/var/global/vxss/credentials/keystore、*install_path*¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore、または *install_path*¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore ディレクトリです。
  - ホストが登録されているすべてのサーバーについて、reissueToken オプションを指定した nbcertcmd -getCertificate を実行し、操作を再試行します。
  - 問題が解決しない場合は、nbcert、nbpxyhelper、nbwebservice のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9150

メッセージ: キーストアの暗号化状態が正しくないため、パスフレーズのローテーションに失敗しました。(Failed to rotate passphrase due to the incorrect encryption state of the keystore.)

説明: この操作では暗号化された秘密鍵が必要ですが、現在、キーストア内の秘密鍵は暗号化されていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ホストが登録されているすべてのサーバーについて、`reissueToken` オプションを指定した `nbcertcmd -getCertificate` を実行し、操作を再試行します。
- 問題が解決しない場合は、`nbcert`、`nbpxyhelper`、`nbwebservice` のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9151

メッセージ: 内部エラーが発生しました。(An internal error occurred.)

説明: 内部エラーは、暗号テキストに無効なキーストアタイプが含まれていることを示しています。

推奨処置: `nbcert`、`nbpxyhelper`、`nbwebservice` のログを収集し、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9152

メッセージ: ユーザーには keystore ディレクトリにアクセスする権限がありません。(The user does not have permission to access the keystore directory.)

説明: 権限が不十分なため、ファイルまたはフォルダへのアクセスが拒否されます。構成に応じて、`keystore` ディレクトリは *`install_dir`*`/var/vxss/credentials/keystore`、*`install_dir`*`/var/global/vxss/credentials/keystore`、*`install_path`*`¥NetBackup¥var¥vxss¥credentials¥keystore`、または *`install_path`*`¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥credentials¥keystore` ディレクトリです。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- ファイルまたはフォルダの権限を確認します。

- 必要に応じて、サービスユーザーに読み取り、書き込み、およびアクセスの権限を付与します。
- 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9201

メッセージ: サービスユーザーはコンテキストを別のユーザーに切り替えられません。(The service user cannot switch the context to another user.)

説明: このエラーは、次の理由でポリシーの保存時に発生します。

- UNIX マスターサーバーが、root 以外のサービスアカウントを使用するように構成されている場合。
- root 以外のサービスアカウントのログオンの詳細を指定した場合は、このエラーが発生します。
  たとえば、`service_user` が abc で、ルートユーザーおよびルートユーザー以外に指定されたログオンの詳細が pqr の場合は、このエラーが発生します。

このポリシーがあらかじめ構成されていた場合、カタログバックアップは失敗してこのエラーが表示されます。

推奨処置: カタログバックアップポリシーのログオンの詳細を更新または削除します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9202

メッセージ: サービスユーザーアカウントには指定されたパスへの書き込み権限がありません。(The service user account does not have the write permissions on the specified path.)

説明: プライマリサーバーがサービスアカウントを使用するように構成されている場合は、NetBackup のインストールディレクトリ以外にファイルやフォルダを作成しようとすると、NetBackup の操作が失敗する可能性があります。

推奨処置: 指定したユーザーパスに対する書き込み権限がサービスアカウントに付与されていることを確認します。

たとえば、カタログバックアップポリシーで指定されたディザスタリカバリパッケージのパスに対する書き込み権限がサービスユーザーアカウントに付与されていない場合、カタログバックアップは失敗してこのエラーが表示されます。

サービスユーザーアカウントが DR パスとその内容への書き込みアクセス権を持たない場合にも、カタログリカバリはこのエラーで失敗します。

次のコマンドを実行して、サービスのユーザーアカウントにディザスタリカバリパスへの書き込みアクセス権を付与する必要があります。

- Windows の場合:

```
ICACLS "<DR_Path>" /grant:r
"*S-1-5-80-623693008-3165178162-2673590941-1612452212-3346329012:(OI)(CI)F"
```

このコマンドの例で、
S-1-5-80-623693008-3165178162-2673590941-1612452212-3346329012 は NetBackup データベースマネージャサービス (bpdbm) のサービス SID です。

- UNIX の場合:

```
chown -R <service_user_name> <DR_Path>
```

chown コマンドを実行した後、su コマンドを使用して、サービスユーザーが指定したパスに書き込み可能であることを確認します。

```
su <service_user_name> -c "touch <DR_path>/test.txt"
```

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9250

メッセージ**:** ターゲットホストとソースホストのホスト ID が一致しません。(Host IDs of the target and the source hosts do not match.)

説明**:** 受信した certinfo のホスト ID が、certmapinfo.json ファイルに存在する既存のホスト ID エントリと一致しません。

推奨処置**:** 必要に応じて次を実行します。

NBCA の場合:

- フェッチする証明書に、同じホストに対して生成された再発行トークンが使用されていることを確認します。
- 再発行トークンが正しい場合は、問題の原因となった特定のエントリを削除し、そのプライマリサーバーから証明書を再度フェッチします。
- 詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「ホスト ID ベースの証明書の再発行について」の項を参照してください。

ECA の場合:

- この問題は、登録に使用した証明書が他のホストにすでに登録されている場合に報告されることがあります。登録に使用した証明書が現在のホストに関連付けられてい

ることを確認します。問題の原因となった特定のエントリを検索して削除し、証明書を再度登録してください。

- 詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup での外部 CA のサポート」の項を参照してください。

操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9251

メッセージ: ターゲットマスターサーバーとソースマスターサーバーのホスト ID が一致しません。(Host IDs of the target and the source master servers do not match.)

説明: 受信した発行者のホスト ID が、`certmapinfo.json` ファイルにある、その発行者の既存のホスト ID エントリと一致しません。

推奨処置: 問題の原因となっているプライマリホスト ID のエントリを手動で削除し、操作を再度実行します。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup での外部 CA のサポート」の項を参照してください。

問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9252

メッセージ: ソースホスト ID またはターゲットホスト ID のいずれかが null です。(Either the source host ID or the target host ID is null.)

説明: 受信した `certinfo` のホスト ID、または `certmapinfo.json` ファイルにある既存の `certinfo` が空です。

推奨処置: 問題の原因となっている、ホスト ID が null のエントリを手動で削除し、操作を再度実行します。

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup での外部 CA のサポート」の項を参照してください。

問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9253

メッセージ: JSON アレイの削除に失敗しました。(Removing JSON array failed.)

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- `certmapinfo.json` ファイルの指定されたインデックスにエントリがない。
- ファイルの書き込み権限が無効になっている。

推奨処置: ファイルの書き込み権限を確認してください。問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9270

メッセージ: SpanFS サーバーのクレデンシャルの取得に失敗しました。

説明: NetBackup が SpanFS サーバーの認証トークンまたは CA バンドルを取得しようとしたときにエラーが発生しました。このエラーは、NetBackup が新しい認証トークンまたは更新された認証トークンを取得するときに発生する可能性があります。

エラーの原因として、次のようなものがあります。

- 認証トークンを必要とするジョブがアクティブな状態でなくなりました。
- 認証トークンを要求したピアが、指定したジョブに関連付けられていません。
- NetBackup が `nbemm` から SpanFS サーバーの認証トークンまたは CA バンドルを取得しようとしたときにエラーが発生しました。

推奨処置: プライマリサーバーの `nbemm` ログとメディアサーバーの `bptm` ログにエラーがないか確認します。Cohesity Technical Support Web サイトを検索し、エラーの原因を判断します。さらにサポートが必要な場合は、`nbemm` および `bptm` ログを収集し、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup 状態コード: 9271

メッセージ: SpanFS サーバーの信頼できる証明書の取得に失敗しました。

説明: このエラーは、構成中または SpanFS クレデンシャルの更新中、NetBackup が SpanFS サーバーから信頼できる証明書を取得できない場合に発生します。これにより、NetBackup と SpanFS サーバー間に安全な接続を確立できなくなります。

このエラーの原因として、無効な証明書形式、破損した証明書、失われているか不完全な証明書の詳細のために、NetBackup が証明書を解析できなかったことが考えられます。

推奨処置: 信頼できる証明書の自動的な取得が失敗した場合は、REST API または `tpconfig` コマンドを使用して、SpanFS サーバーを手動で構成または更新します。

SpanFS サーバーを構成または更新するには、SpanFS CA 証明書が必要です。

SpanFS CA 証明書を取得するには、記事を参照してください。

REST API の使用

SpanFS サーバーを設定するには、`POST API '/netbackup/storage/storage-server'` エンドポイントを使用します。

SpanFS サーバーのクレデンシャルを更新するには、`PATCH API '/netbackup/storage/storage-server'` エンドポイントを使用します。

tpconfig CLI の使用

SpanFS サーバーを構成する方法

1 クラスタの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用して、SpanFS 形式のストレージサーバーを作成します。

```
/usr/openv/netbackup/bin/admincmd/nbdevconfig -creatests
-storage_server cluster_FQDN -stype SpanFS -media_server
media_server
```

2 SpanFS サーバーのクレデンシャルを追加します。

```
/usr/openv/volmgr/bin/tpconfig -add -storage_server server_name
-stype SpanFS -sts_user_id user_ID [-password password] [-st
storage_type] [-ca_file_path SpanFS_CA_certificate_path]
```

SpanFS サーバーのクレデンシャルを更新する方法

- `/usr/openv/volmgr/bin/tpconfig -update -storage_server server_name -stype SpanFS -sts_user_id user_ID [ password password] [ -ca_file_path SpanFS_CA_certificate_path]`

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9300

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) のエンコードに失敗しました。(Failed to encode the certificate revocation list (CRL).)

説明: CRL を PEM または DER にエンコードしようとしたら、NetBackup で OpenSSL の問題が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーの NetBackup サーバーで、nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) を調べる
- 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べます。
- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる
- NetBackup SSL ライブラリを使用していることを確認する
- Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9301

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) のデコードに失敗しました。

説明: このエラーは次の原因で発生する場合があります。

- PEM または DER でエンコードされた CRL が形式不良または空
- ホストが HTTP 要求により CRL をフェッチしようとしたら、マスターサーバーが無効な CRL を返した
- NetBackup が PEM または DER でエンコードされた CRL をデコードしようとしたら、OpenSSL の問題が発生した

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- マスターサーバーの NetBackup サーバーで、nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) を調べる
- 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べる
- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる
- 次のコマンドを実行して、該当するドメインの新しい CRL を取得する:

  ```
  ./nbcertcmd -getCrl [-server master server name]
  ```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9302

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) を古いバージョンに交換しようとしています。(Attempted to replace the certificate revocation list (CRL) with an older version.)

説明: NetBackup が現在の CRL よりも古い CRL を書き出そうとしました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる
- 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9303

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) をフェッチする Web サービス要求に失敗しました。(The web service request to fetch the certificate revocation list (CRL) failed.)

説明: このエラーは次の原因で発生する場合があります。

- CRL を取得する HTTP 要求で、成功 (200) の状態コードが返されなかった
- HTTP 要求がタイムアウトした。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- エラーが発生したホストで、nbcertcmd のレガシーログを調べる
- マスターサーバーの NetBackup サーバーで、nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) を調べる
- 次の項目について確認します。
  - マスターサーバーがオンラインであること
  - Web サービス (nbwmc) がオンラインであること

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9304

メッセージ: HTTP 要求が完了していません。後でもう一度確認してください。(The HTTP request is not complete; it should be checked again later.)

説明: CRL またはセキュリティレベルを取得する HTTP 要求が完了していません。後でもう一度確認する必要があります。

推奨処置: nbcertcmd のレガシーログと、NetBackup サーバーの nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) を調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9305

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) とセキュリティレベルの更新は、一部しか成功しませんでした。(An attempt to refresh the certificate revocation list (CRL) and security level was partially successful.)

説明: `nbcertcmd` は、CRL を更新するときに次の手順を実行します。

1. HTTP 要求を送信して CRL を取得する。
2. CRL を配備する。
3. HTTP 要求を送信してセキュリティレベルを取得する。
4. セキュリティレベルを配備する。

このエラーは、この操作の実行時に次の原因で発生することがあります。

- ホストは CRL を取得したが CRL の配備に失敗した、またはセキュリティレベルの取得または配備に失敗した。
- ホストはセキュリティレベルを取得したがセキュリティレベルの配備に失敗した、または CRL の取得または配備に失敗した。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- `nbcertcmd` のレガシーログを調べる。
- CRL およびセキュリティレベルを取得する HTTP 要求が成功したことを確認する。NetBackup サーバーの `nbwebservice` の統合ログ (OID 466 と 484) に HTTP 要求エラーがないかどうかを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9306

メッセージ: セキュリティレベルを取得する HTTP 要求が失敗しました。(The HTTP request for fetching the security level failed.)

説明: このエラーは次の原因で発生する場合があります。

- セキュリティレベルを取得する HTTP 要求で、成功 (200) の状態コードが返されなかった。
- HTTP 要求がタイムアウトした。
- 不明な理由により HTTP 要求が失敗した。

メモ: すべてのサーバーの HTTP 要求が失敗した場合にのみ、このエラーコードが返されます。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- nbcertcmd のレガシーログと NetBackup サーバーの nbwebservice 統合ログ (OID 466 と 484) を調べます。
- 次の項目について確認します。
  - マスターサーバーがオンラインであること
  - Web サービス (nbwmc) がオンラインであること

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9307

メッセージ: CRL を取得する HTTP 要求が失敗しました。(The HTTP request to fetch the CRL failed.)エラーの原因は不明です。

説明: CRL HTTP 要求エラーの原因が不明の場合に、このエラーコードが返されます。

推奨処置: NetBackup ホストで nbcertcmd のレガシーログを調べます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9308

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の読み込みに失敗しました。(Failed to read the certificate revocation list (CRL).)

説明: CRL が存在しないか、読み込み時に問題が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup CA が署名した証明書が通信に使用されている場合: 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べる。
- nbcertcmd のレガシーログを調べる。
- Windows サーバーの場合は、次のディレクトリが存在することを確認します。

  install_path¥NetBackup¥var¥vxss¥crl

  クラスタ化されたマスターサーバーの場合:

  install_path¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥crl
- UNIX サーバーの場合は、次のディレクトリが存在することを確認します。

/usr/openv/var/vxss/crl
クラスタ化されたマスターサーバーの場合:
/usr/openv/var/global/vxss/crl

- Windows サーバーの場合は、certmapinfo.json ファイルで crlPath の値が CRL の有効なパスを参照していることを確認します。
  install_path¥NetBackup¥var¥vxss¥certmapinfo.json
  クラスタ化されたマスターサーバーの場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥certmapinfo.json
- UNIX サーバーの場合は、certmapinfo.json ファイルで crlPath の値が CRL の有効なパスを参照していることを確認します。
  /usr/openv/var/vxss/certmapinfo.json
  クラスタ化されたマスターサーバーの場合:
  /usr/openv/var/global/vxss/certmapinfo.json
- マスターサーバーで次のコマンドを実行します。
  ./nbcertcmd -getCRL -server *master_server_name*

外部 CA が署名した証明書が通信に使用されている場合:

- 通信するすべてのホストで、nbpxyhelper の統合ログ (OID 486) を調べる
- nbcertcmd のレガシーログを調べる。
- Windows サーバーの場合は、次のディレクトリが存在することを確認します。
  install_path¥NetBackup¥var¥vxss¥crl
- UNIX サーバーの場合は、次のディレクトリが存在することを確認します。
  /usr/openv/var/vxss/crl
- 前述のディレクトリに、(ECA_CRL_CHECK 設定に従って) 必要なすべての有効な CRL が含まれているかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9309

メッセージ: 証明書失効リスト (CRL) の書き込みに失敗しました。(Failed to write the certificate revocation list (CRL).)

説明: CRL ファイルを書き込む際に問題が発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次の操作を実行します。

- NetBackup サーバーで nbwebservice の統合ログ (OID 466 と 484) および nbcertcmd のレガシーログを調べます。
- Windows サーバーの場合は、次のディレクトリが存在することを確認します。
  install_path¥NetBackup¥var¥vxss¥crl
  クラスタ化されたマスターサーバーの場合:
  install_path¥NetBackup¥var¥global¥vxss¥crl
- UNIX サーバーの場合は、次のディレクトリが存在することを確認します。
  /usr/openv/var/vxss/crl
  クラスタ化されたマスターサーバーの場合:
  /usr/openv/var/global/vxss/crl

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9310

メッセージ: 指定した発行者の CRL が CRL キャッシュで見つかりませんでした。(The CRL for the specified issuer could not be found in the CRL cache.)

説明: 指定した発行者の CRL を CRL キャッシュで利用できません。

推奨処置: CRL キャッシュからクリーンアップする正しい CRL 発行者の SHA-1 ハッシュを指定します。CRL キャッシュのパスは /usr/openv/var/vxss/crl です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9311

メッセージ: 指定した発行者の CRL を CRL キャッシュからクリーンアップできませんでした。(Failed to clean up the CRL for the specified issuer from the CRL cache.)

説明: CRL キャッシュから必要な CRL をクリーンアップできません。

推奨処置: 他のプロセスが CRL ファイルをロックしている可能性があります。操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9312

メッセージ: 期限切れの CRL を CRL キャッシュからクリーンアップできませんでした。(Failed to clean up the expired CRLs from the CRL cache.)

説明: 期限切れの CRL を CRL キャッシュからクリーンアップできません。

推奨処置: 他のプロセスが CRL ファイルをロックしている可能性があります。操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9313

メッセージ: 期限切れの一部の CRL を CRL キャッシュからクリーンアップできませんでした。(Failed to clean up some of the expired CRLs from the CRL cache.)

説明: 期限切れの一部の CRL をクリーンアップできません。

推奨処置: 他のプロセスが CRL ファイルをロックしている可能性があります。操作を再試行してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9314

メッセージ: CRL が期限切れです。(The CRL is expired.)

説明: CRL のソースコピーが期限切れです。

推奨処置: 期限切れでない CRL を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9315

メッセージ: CRL キャッシュの一部の CRL の更新に失敗しました。(Failed to update some of the CRLs in the CRL cache.)

説明: 次のいずれかの理由で失敗した可能性があります。

- CRL が有効期限切れである。
- CRL が使用する形式が無効である (`.PEM` と `.DER` 以外の形式を使用している)。
- CRL が、キャッシュされたコピーより古い。

推奨処置: 次を確認します。

- CRL が有効期限切れになっていない。
- CRL が有効な形式を使用している。
- CRL が更新され、次にキャッシュされたコピーが更新される。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9316

メッセージ: CRL キャッシュの CRL の更新に失敗しました。(Failed to update the CRLs in the CRL cache.)

説明: 次のいずれかの理由で失敗した可能性があります。

- CRL が有効期限切れである。
- CRL が使用する形式が無効である (.PEM と .DER 以外の形式を使用している)。
- CRL が、ソースコピーより古い。

推奨処置: 次を確認します。

- CRL が有効期限切れになっていない。
- CRL が有効な形式を使用している。
- CRL が更新され、次にキャッシュされたコピーが更新される。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9317

メッセージ: CRL の確認が無効になっています。(The CRL check is disabled.)

説明: NetBackup 構成ファイル (UNIX または Windows レジストリの bp.conf) の ECA_CRL_CHECK 構成オプションが DISABLE に設定されています。

推奨処置: ECA_CRL_CHECK 構成オプションが、LEAF または CHAIN に設定されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9318

メッセージ: 証明書は無効化されています。

説明: 証明書は無効化されています。

推奨処置: 証明書が失効していないのに引き続きこのエラーが発生する場合は、CRL キャッシュで CRL が更新されているかどうかを確認します。問題が解決しない場合は、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9319

メッセージ: 証明書は無効化されていません。

説明: 証明書は無効化されていません。

推奨処置: 証明書が失効しても引き続きこのメッセージが表示される場合は、CRL キャッシュで CRL が更新されているかどうかを確認します。問題が解決しない場合は、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9324

メッセージ: CRL キャッシュを更新できません。ECA_CRL_PATH 構成オプションが有効な CRL ディレクトリパスに設定されていません。(The CRL cache cannot be updated. The ECA_CRL_PATH configuration option is not set to a valid CRL directory path.)

説明: ECA_CRL_PATH 構成オプションが有効な CRL ディレクトリパスに設定されていません。

推奨処置: ECA_CRL_PATH 構成オプションに、正しいディレクトリパスを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9325

メッセージ: CRL キャッシュを更新できません。ECA_CRL_PATH 構成オプションに設定されているディレクトリの CRL を利用できません。(The CRL cache cannot be updated. CRLs are not available in the directory that is set for the ECA_CRL_PATH configuration option.)

説明: ECA_CRL_PATH 構成オプションに設定されているディレクトリの CRL を利用できません。

推奨処置: ECA_CRL_PATH 構成オプションの有効な CRL ファイルを含む、有効な CRL ディレクトリパスを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9326

メッセージ: CRL は差分 CRL です。(The CRL is delta CRL.)

説明: ECA_CRL_PATH または CRL 配布ポイント (CDP) に存在する CRL は、差分 CRL です。

推奨処置: NetBackup は差分 CRL をサポートしていません。ECA_CRL_PATH または CDP には、完全な CRL を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9327

メッセージ: 証明書の CRL を取得できません。(Unable to retrieve CRL for the certificate.)

説明: 証明書の CRL が見つかりません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- `ECA_CRL_CHECK` 構成オプション (`CHAIN` または `LEAF`) に基づいて、証明書の発行者の CRL キャッシュに CRL が存在するかどうかを確認します。キャッシュに CRL が存在しない場合は次の操作を行います。
  - `ECA_CRL_PATH` 構成オプションが構成されている場合は、`nbcertcmd -updatecrlcache` コマンドを実行します。
  - CDP が有効になっている場合は、`bpclntcmd crldownloader` のログを確認します。

トラブルシューティングの情報について詳しくは、p.802 の「NetBackup の状態コード: 5982」を参照してください。を参照してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9328

メッセージ: CRL の署名を復号できません。(Unable to decrypt the CRL signature.)

説明: CRL の署名の実際の値を特定できません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ファイルベース証明書の場合:
  - `openssl verify` コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。
- Windows 証明書ストアの場合:

- 証明書をエクスポートし、openssl verify または certUtil コマンドを実行します。

- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、Cohesity の NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9329

メッセージ: CRL の署名エラー。(CRL signature failure.)

説明: CRL の署名が無効です。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ファイルベース証明書の場合:
  - openssl verify コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。
- Windows 証明書ストアの場合:
  - 証明書をエクスポートし、openssl verify または certUtil コマンドを実行します。
- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、Cohesity の NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9330

メッセージ: CRL はまだ有効ではありません。(The CRL is not yet valid.)

説明: CRL の前回の更新日時が現在の時間よりも後になっています。

推奨処置: システム時間を確認するか、有効な CRL を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9331

メッセージ: CRL の最終更新日は有効な形式ではありません。(The CRL last update date is not in a valid format.)

説明: CRL の最終更新日フィールドの時間が無効です。

推奨処置: `openssl` コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9332

メッセージ: CRL の次回更新日は有効な形式ではありません。(The CRL next update date is not in a valid format.)

説明: CRL の次回更新日フィールドの時間が無効です。

推奨処置: `openssl` コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9333

メッセージ: CRL の発行者の証明書を取得できません。(Unable to retrieve the CRL issuer certificate.)

説明: CRL の検証で CRL の発行者の証明書が見つかりません。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ファイルベース証明書の場合:
  - `openssl verify` コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。
- Windows 証明書ストアの場合:
  - 証明書をエクスポートし、`openssl verify` または `certUtil` コマンドを実行します。
- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、Cohesity の NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9334

メッセージ: キーの用途に CRL の署名が含まれていません。(Key usage does not include CRL signing.)

説明: 秘密鍵の `key usage` フィールドに、この秘密鍵は CRL の署名に使用しないように示されています。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ファイルベース証明書の場合:
  - `openssl verify` コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。
- Windows 証明書ストアの場合:
  - 証明書をエクスポートし、`openssl verify` または `certUtil` コマンドを実行します。
- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、Cohesity の NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9335

メッセージ: クリティカル CRL 拡張子が有効ではありません。(Critical CRL extension is not valid.)

説明: CRL のクリティカル拡張子のいくつかが存在していないか無効です。

推奨処置: `openssl` コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9336

メッセージ: CRL 範囲が異なっています。無効化の理由すべてを対象とする必要があります。(The CRL scope is different, it should cover all revocation reasons.)

説明: 想定される CRL の理由と `ALL reason` のフィールドが CRL にありません。

推奨処置: `openssl` コマンドを使用して CRL を確認するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9337

メッセージ: CRL のパスの検証エラー。(CRL path validation error.)

説明: CRL のパスの検証でエラーが発生しました。

推奨処置: 次の手順を実行します。

- ファイルベース証明書の場合:
  - `openssl verify` コマンドを使用して、CRL で証明書を確認します。
- Windows 証明書ストアの場合:
  - 証明書をエクスポートし、`openssl verify` または `certUtil` コマンドを実行します。
- 検証に失敗する場合は、OpenSSL のドキュメントを参照するか、セキュリティ管理者にお問い合わせください。
- 検証には成功するが問題が解決しない場合は、Cohesity の NetBackup サポートにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9338

メッセージ: サーバーの CRL の期限が切れています。(The CRL on the server is expired.)

説明: クライアント証明書の発行者の CRL がサーバーで期限切れになっています。

推奨処置: クライアント証明書の発行者の有効な CRL を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9339

メッセージ: サーバーで CRL が利用できません。(The CRL is not available on the server.)

説明: クライアント証明書の発行者の CRL がサーバーで利用できません。

推奨処置: サーバーホストでクライアント証明書の発行者の有効な CRL を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9340

メッセージ: CRL サーバーの内部エラーです。(CRL server internal error.)

説明: サーバー側で CRL のエラーが発生しました。

推奨処置: サーバーで CRL の構成を確認するか、NetBackup『セキュリティおよび暗号化ガイド』の「外部 CA の証明書失効リストについて」のセクションを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9350

メッセージ: API キーが無効です。(The API key is not valid.)

説明: NetBackup RESTful API にアクセスする際に使用する API キーが壊れているか、期限切れか、存在しない可能性があります。

推奨処置: 有効な API キーを使用して NetBackup API にアクセスします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9351

メッセージ: API キーを生成できません。(The API key cannot be generated.)

説明: API キーを生成できません。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9352

メッセージ: 予期しない API キーエラーが発生しました。(An unexpected API key error occurred.)

説明: API キーの作成時または更新時に予期しないエラーが発生しました。

推奨処置: Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9353

メッセージ: 指定したユーザーの API キーはすでに存在します。(An API key for the given user already exists.)

説明: 指定したユーザーの API キーはすでに存在します。

推奨処置: 指定したユーザーの既存の API キーを削除して、API キーを再作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9354

メッセージ: 指定した API キーは存在しません。(The specified API key does not exist.)

説明: 指定した API キーが存在しないため、アクセスまたは更新できません。

推奨処置: 次を確認します。

- 指定した API キーが削除されていない
- 指定した API キータグが正しい

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9355

メッセージ: API キーが期限切れです。(The API key has expired.)

説明: 指定した API キーは期限切れのため、更新できません。

推奨処置: 次の処理を実行してください。

- 期限切れの API キーを削除する
- 指定したユーザーに新しい API キーを作成する

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9356

メッセージ: URL の API キータグは、ペイロードの ID と一致する必要があります。(The API key tag in the URL should match the ID from the payload.)

説明: URL の API キータグが、ペイロードに指定されている ID とは異なります。

推奨処置: ペイロードの ID と同じ API キータグを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9357

メッセージ: API キーの有効期限は 9999-12-31 23:59:59 +00:00 以前にする必要があります。(The API key expiration date must not be later than 9999-12-31 23:59:59 +00:00.)

説明: API キーの有効期限は 9999-12-31 23:59:59 +00:00 以前にする必要があります。

推奨処置: API キーの正しい有効期限を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9380

メッセージ: マルチパーソン認証要求または送信されたデータが有効ではありません。

説明: マルチパーソン認証要求を実行しようとしましたが失敗しました。要求またはデータが無効です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

有効な要求とデータを使用して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9381

メッセージ: マルチパーソン認証要求を処理できません。

説明:このエラーは、要求の処理中に予期しない内部エラーが発生した場合にNetBackup マルチパーソン認証 API によって報告される場合があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup の[問題 (Problems)]レポートで、エラーに関する追加情報を確認します。
- ログ記録レベルを上げます。操作を再試行して、デバッグログの結果を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9382

メッセージ: この操作にはマルチパーソン認証が設定されているため、操作は失敗しました。(The operation has failed because it is configured for multi-person authorization.)

説明: プライマリサーバーでの操作に対してマルチパーソン認証が有効になっている場合、その操作は Web UI、API、または nbcmdrun コマンドを使用した場合にのみ許可されます。ユーザーが NetBackup 管理コンソールまたは nbcmdrun コマンド以外のコマンドを使用して操作を実行しようとすると、このエラーが表示されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup Web UI を使用して操作を実行します。
- nbcmdrun コマンドを使用します。nbcmdrun コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。
- マルチパーソン認証から除外するには、NetBackup セキュリティ管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9383

メッセージ: 日付が、01/01/1970 から現在の日付までの許可された範囲内にありません。(The date is not within the allowed range that is between 01/01/1970 and the current date.)

説明: 日付は、1970 年 1 月 1 日から、API /security/mpa-tickets/report の実行時点の現在の日付の間である必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

1970 年 1 月 1 日から現在の日付までの有効な日付を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9384

メッセージ: 指定された ID のマルチパーソン認証チケットが見つかりません。

説明: 指定したチケット ID が無効である可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

有効なチケット ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9385

メッセージ: マルチパーソン認証チケットの現在の状態が有効ではありません。

説明: マルチパーソン認証チケットの現在の状態が有効ではないため更新できません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

マルチパーソンチケットの現在の状態を確認し、操作を呼び出す前に修正措置を取ります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9386

メッセージ: マルチパーソン認証チケットを更新する権限がありません。

説明: チケットの申請者または承認者でない場合は、チケットの更新やコメントの追加はできません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

必要な権限については、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9387

メッセージ: 指定された操作についてマルチパーソン認証チケットが作成されました。(A multiperson authorization ticket is created for the given operation.)

説明: 操作に対してプライマリサーバーでマルチパーソン認証が有効になっている場合、NetBackup のマルチパーソン認証の承認者による承認を求めるチケットが生成されます。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup Web UI を使用して、関連付けられているマルチパーソン認証チケットが承認されているかどうかを確認します。チケットの承認を受けるには、NetBackup 管理者または NetBackup のマルチパーソン認証の承認者にお問い合わせください。
- 関連付けられているユーザーに対してチケットが生成されないようにするには、NetBackup セキュリティ管理者に問い合わせて、マルチパーソン認証プロセスからユーザーを除外するように依頼します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9388

メッセージ: 期限切れになるイメージの上限に達しました。(The maximum limit of the images to be expired is reached.)

説明: MPA (マルチパーソン認証) が有効な場合、ユーザーは bpexpdate コマンドの -bidfile オプションを使用して一度に最大で 30,000 個のイメージを期限切れにできます。

推奨処置: 各ファイルに 30,000 個を超えるエントリが含まれていないように、bidfile を複数のファイルに分割します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9389

メッセージ: 同じエンティティに保留中のチケットがあるため操作が失敗しました。(The operation has failed because there is a pending ticket for the same entity.)

説明: 同じオブジェクトに対してマルチパーソン認証チケットが[保留中 (PENDING)]状態ですでに存在するため、操作が失敗しました。一度に許可されるのは、1 つのエンティティに対して 1 つの非読み取り処理 (作成、更新、削除など) のみです。以前に同じエンティティに対して要求が行われたため、マルチパーソン認証チケットが作成されて[保留中 (PENDING)]状態になっています。

推奨処置: 同じエンティティで別の操作を要求する前に、現在の要求が解決されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9391

メッセージ: マルチパーソン認証チケットを表示する権限がありません。(You do not have the permissions to view the multi-person authorization ticket.)

説明: 要求元には、要求元の処理の代わりに作成されなかったマルチパーソン認証チケット情報をフェッチするための適切な RBAC 権限がありません。

推奨処置: 要求元に、他のユーザーの処理の代わりに作成されたマルチパーソン認証チケット情報をフェッチするための適切な RBAC 権限があることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9392

メッセージ: このマルチパーソン認証チケットに関連付けられている認証データを検証できません。

説明: NetBackup CA の移行は、マルチパーソン認証チケットの作成後に開始されます。したがって、認証データを検証できないため、認証データが有効でなくなります。

推奨処置: 有効な認証データで新しいマルチパーソン認証チケットが作成されるように、必要な操作を再度実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9400

メッセージ: OData json が形式不良です。

説明: このメッセージは内部エラーを表します。

推奨処置: 適切な NetBackup ログ (エラーが発生したプロセスのログと Web サービスのログを含む) と一緒にバグレポートを送信してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9401

メッセージ: OData フィルタ基準が無効です。

説明: OData フィルタを解析できない場合は、このエラーが返されます。

推奨処置: 有効な OData フィルタを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9402

メッセージ: OData オペレータはサポートされていません。

説明: OData フィルタで使用された OData オペレータはサポート対象外です。

推奨処置: OData フィルタでは、有効な OData オペレータを使用します。OData のサポートについて詳しくは、次の記事を参照してください。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100043320

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9403

メッセージ: OData エンティティデータモデル (EDM) 形式はサポートされていません。

説明: OData フィルタで使用された OData エンティティモデル (EDM) 形式はサポート対象外です。

推奨処置: OData フィルタでは、サポート対象の OData エンティティモデル (EDM) 形式を使用します。次の記事を参照してください。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100043320

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9404

メッセージ: OData オペレータまたはメソッドの演算数が無効です。

説明: OData フィルタで指定された演算数は無効です。

推奨処置: OData フィルタの有効な演算数を使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9405

メッセージ: OData 方式はサポートされていません。

説明: OData フィルタで使用されたメソッドはサポート対象外です。

推奨処置: OData フィルタのサポート対象メソッドを使用します。次の記事を参照してください。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100043320

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9480

メッセージ: 指定された ID のユーザープロファイルが見つかりません。(The user profile with the given ID cannot be found.)

説明: 指定された ID のユーザープロファイル情報をフェッチする要求が失敗したか、見つかりません。

推奨処置: RESTful API を使用する場合は、正しい ID が指定されていることを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9481

メッセージ: ユーザープロファイルの要求を処理できません。(The user profile request cannot be processed.)

説明: 内部エラーが原因で、ユーザープロファイルの要求を処理できません。

推奨処置: Web サービスのログを収集して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9482

メッセージ: ユーザーには、指定された ID でユーザープロファイルにアクセスする権限がありません。(The user does not have permission to access the user profile with specified ID.)

説明: 要求元には、指定された ID でユーザープロファイル情報をフェッチするために必要な RBAC 権限がありません。指定した ID は他のユーザーに属しています。

推奨処置: 他のユーザーのユーザープロファイル情報をフェッチするために必要なRBAC権限が、要求元にあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9483

メッセージ: ユーザーには、指定された ID でユーザープロファイルを更新する権限がありません。(The user does not have permission to update the user profile with specified ID.)

説明: 要求元には、指定された ID でユーザープロファイル情報を更新するために必要な RBAC 権限がありません。指定した ID は他のユーザーに属しています。

推奨処置: 他のユーザーのユーザープロファイル情報を更新するために必要な RBAC 権限が、要求元にあることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9484

メッセージ: 指定されたユーザープロファイル ID が、要求 URL とペイロードで一致しません。(The user profile ID specified in request URL and payload does not match.)

説明: 指定した ID に対するユーザープロファイル情報の更新要求で、要求 URL または本文のいずれかで ID が誤って指定されています。

推奨処置: API を使用して、指定した ID を持つユーザーのプロファイルを更新する場合は、要求の URL と本文に同じ ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9490

メッセージ: AD サーバーまたは LDAP サーバーを一覧表示できませんでした。

説明: 内部エラーのため、AD サーバーまたは LDAP サーバーを一覧表示できません。

推奨処置: 操作を再試行し、次のディレクトリのログで詳細を確認します。

Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥logs¥nbatd`

UNIX の場合: `/usr/openv/logs/nbatd`

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9491

メッセージ: AD サーバーまたは LDAP サーバーを追加できませんでした。

説明: 内部エラーのため、AD サーバーまたは LDAP サーバーを追加できません。

推奨処置: 操作を再試行し、次のディレクトリのログで詳細を確認します。

Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥logs¥nbatd`

UNIX の場合: `/usr/openv/logs/nbatd`

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9492

メッセージ: AD サーバーまたは LDAP サーバーを削除できませんでした。

説明: 内部エラーのため、AD サーバーまたは LDAP サーバーを削除できません。

推奨処置: 操作を再試行し、次のディレクトリのログで詳細を確認します。

Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥logs¥nbatd`

UNIX の場合: `/usr/openv/logs/nbatd`

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトを参照してください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9509

メッセージ: テンプレートを使用して電子メールの本文を作成できませんでした。(Failed to create email body using the template.)

説明: 内部エラーのため、マルチパーソン認証に関連する電子メールを送信できませんでした。

推奨処置: Web サービスのログを収集して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9550

メッセージ: NetBackup OpenStack VM の再試行回数の制限を超えました。(Retry attempts were exhausted for NetBackup OpenStack VM.)

説明: NetBackup から NBOSVM への通信に対する再試行回数の制限を超えました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup ホストと NBOSVM サーバー間の適切な接続を確認します。
- NBOSVM で必要なポートが開き、NetBackup ホストにアクセスできることを確認します。

- NBOSVM サーバーが NetBackup に正しく登録されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9551

メッセージ: NetBackup OpenStack VM の操作中に内部サーバーエラーが発生しました。(An internal server error has occurred during NetBackup OpenStack VM operation.)

説明: NetBackup for OpenStack VM の内部サーバーエラー。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup アクティビティモニターの詳細なエラーメッセージを参照してください。
- すべての NBOSVM ノードで次のサービスの状態を確認します。
  - `nbosjm-policies`
  - `nbosjm-api`
  - `nbosjm-scheduler`
  - `nbosjm-cron`
- 詳しくは、`nbosjm` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9552

メッセージ: NetBackup OpenStack VM 認証が失敗しました。(NetBackup OpenStack VM authentication failed.)

説明: 認証の問題のため、NBOSVM への NetBackup の要求が失敗しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NBOSVM サーバーが NetBackup に正しく登録されていることを確認します。
- NetBackup アクティビティモニターの詳細なエラーメッセージを参照してください。
- 詳しくは、`nbosjm` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9553

メッセージ: NetBackup OpenStack VM バックアップ API が失敗しました。(NetBackup OpenStack VM backup API failed.)

説明: このエラーは、OpenStack VM スナップショットまたはディスクの NetBackup ユニバーサル共有へのデータ移動操作が失敗した場合に発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup アクティビティモニターの詳細なエラーメッセージを参照してください。
- ターゲット MSDP サーバーとユニバーサル共有ホストで十分なディスク容量が利用可能であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9554

メッセージ: スナップショットのメタデータが無効です。(Invalid snapshot metadata.)

説明: NetBackup for OpenStack VM スナップショット API が無効なスナップショットメタデータ応答を返しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

詳しくは、nbosjm のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9555

メッセージ: NetBackup 状態ファイルの生成に失敗しました。(Failed to generate the NetBackup state file.)

説明: NetBackup for OpenStack の *NBUDataXml/VMObjInfoXml* ファイルの生成中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- NetBackup アクティビティモニターの詳細なエラーメッセージを参照してください。
- 詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9556

メッセージ: スナップショット ID のフェッチに失敗しました。(Failed to fetch the snapshot ID.)

説明: NBUDataXml 状態ファイルから OpenStack インスタンススナップショット ID をフェッチ中にエラーが発生しました。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

詳しくは、ncfnbcs のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9600

メッセージ: 資産グループを削除できません

説明: 資産グループは、1 つ以上の保護計画に属しているため削除できません。

推奨処置: 所属する保護計画から資産グループを削除します。次に、資産グループの削除を再度試します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9616

メッセージ: 移行処理が進行中です。(The migration process is in progress. The provided data may be inconsistent and incomplete.) 指定されたデータは不整合および未完了である可能性があります。

説明: 移行プロセスが進行中で、指定されたデータは不整合および未完了である可能性があります。

推奨処置: 移行処理には時間がかかる場合があります。移行が完了するまで待機してから、処理を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9700

メッセージ: サブスクリプションを作成できません。この資産は同じ保護計画の対象になっています。(Unable to create subscription. The asset is covered by the same protection plan.)

説明: 指定した資産の保護計画のサブスクリプションが存在します。同じ保護計画には資産を再度サブスクライブできません。

推奨処置: 異なる保護計画に同じ資産をサブスクライブします。指定した資産 ID または保護計画 ID が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9701

メッセージ: 保護計画によって現在資産が保護されているため、操作を完了できません。(Cannot complete the operation because the protection plan currently protects an asset.)

説明: 資産を含む保護計画の更新または削除を試行すると発生します。

推奨処置: この保護計画にサブスクライブしているすべての資産をサブスクライブ解除して再試行します。また、指定した資産 ID または保護計画 ID が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9702

メッセージ: スケジュールの保持期間は、スケジュールの間隔以下になります。このスケジュールの問題により、一部のデータが保護されない可能性があります。(The schedule retention is smaller than or equal to the schedule frequency. This schedule issue may cause some data to be unprotected.)

説明: データが保護されない状態を避けるため、スケジュールの保持期間はスケジュールの間隔より長くする必要があります。

推奨処置: 保持期間が間隔より長くなるように、保護計画のスケジュールを編集します。その後、保護計画の作成を再び試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9703

メッセージ: スケジュールにはバックアップ処理時間帯が必要です。重複は許可されません。

説明: 保護計画に含まれるすべてのスケジュールでバックアップ処理時間帯が同じである必要があります。バックアップ処理時間帯では、時間の重複がないようにする必要があります。

推奨処置: 各スケジュールのバックアップ処理時間帯が同じであることを確認します。重複がある場合は修正します。その後、保護計画の作成を再び試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9704

メッセージ: 複製の保持期間はスケジュールの間隔よりも長く設定する必要があります。(The duplication retention period must be greater than the schedule frequency.)

説明: データが保護されない状態を避けるため、複製 (または長期保持) されたコピーの保持期間は、スケジュールの間隔より長くする必要があります。

推奨処置: 保持期間がスケジュールの間隔より長くなるように、複製のスケジュールを編集します。その後、保護計画の作成を再び試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9705

メッセージ: PATCH 要求は、保護計画の説明またはストレージの詳細の更新にのみ使用できます。

説明: PATCH 要求は、保護計画の間隔、保持、またはバックアップ処理時間帯の更新を許可しません。

推奨処置: PATCH 要求に、説明またはストレージの詳細の更新のみが含まれていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9706

メッセージ: 同じ名前の保護計画がすでに存在します。(A protection plan already exists with the same name.)

説明: 保護計画の名前はすでに使用されています。

推奨処置: 保護計画の名前は一意でなければならず、繰り返すことはできません。保護計画に別の名前を使用して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9708

メッセージ: スケジュールには、バックアップストレージと複製ストレージのオプションを指定する必要があります。レプリケーションには、ターゲットマスターサーバーとターゲット

SLP を指定する必要があります。すべてのスケジュールのストレージオプションをすべて同じにする必要があります。

説明: 保護計画スケジュールと保護計画ストレージオプションで指定された操作 (LTR、レプリケーション、バックアップ、スナップショットストレージ) の間で不一致が発生しました。

推奨処置: ストレージオプションについて、すべてのスケジュールで一貫性があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9709

メッセージ: スナップショットストレージの保護計画には、複製、レプリケーション、ストレージのオプションを設定しないでください。(Protection plan for snapshot storage must not have any duplication, replication, or storage options.)

説明: スナップショットストレージの保護計画 (Snapshot Manager など) には、NetBackup ストレージユニットは必要ありません。レプリケーションや複製もサポートしません。

推奨処置: スナップショットストレージに複製、レプリケーション、ストレージオプションを指定せずに保護計画を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9710

メッセージ: テープは保護計画でサポートされるストレージオプションではありません。

説明: テープは保護計画でサポートされるストレージオプションではありません。

推奨処置: サポートされるストレージタイプで保護計画を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9711

メッセージ: ベーシックディスクは、SLP 構成の一部としてサポートされていません。(Basic disk is not supported as part of SLP configuration.)

説明: ベーシックディスクは、SLP 構成または保護計画構成の一部としてサポートされていません。

推奨処置: サポートされるストレージタイプで保護計画を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9712

メッセージ: 更新プロセスまたは作成プロセスが完了しませんでした。無効な作業負荷の種類です。

説明: 無効な種類の作業負荷を指定しているため、保護計画の更新または作成に失敗しました。

推奨処置: 適切な種類の作業負荷を設定し、再び保護計画の更新または作成を試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9713

メッセージ: サブスクリプションを作成できません。スケジュールリストが見つかりません。

説明: 保護計画のスケジュール情報の読み取りに失敗しました。

推奨処置: スケジュールを設定して保護計画を作成していることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9714

メッセージ: サブスクリプションを作成できません。資産の検証に失敗しました。

説明: 資産 ID やグループ ID が無効、または権限が不十分なため、サブスクリプションに対する GET 要求が失敗しました。

推奨処置: 保護計画にサブスクライブしたグループまたは資産が存在することを確認します。資産またはグループに対する適切な権限を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9715

メッセージ: 指定された ID の資産または資産グループの詳細が見つかりませんでした。(Could not find asset or asset group details for the given ID.)

説明: 指定された資産 ID または資産グループ ID が無効です。

推奨処置: 有効な資産 ID または資産グループ ID を指定し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9716

メッセージ: サブスクリプションを作成できません。クラウド資産プロバイダで生成された ID が無効です。(Unable to create subscription. Cloud Asset provider generated ID is invalid.)

説明: クラウド資産に指定されている、プロバイダによって生成された ID が無効です。

推奨処置: 有効なクラウド資産を指定し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9717

メッセージ: サブスクリプションを作成できません。資産のインスタンス UUID が見つかりませんでした.

説明: 資産のインスタンス UUID が無効です。

推奨処置: 資産の有効なインスタンス UUID を指定し、処理を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9718

メッセージ: サブスクリプションを作成できません。無効な選択の種類が指定されました。

説明: 無効な選択の種類が指定されました。資産グループがクラウドストレージ用にサポートされていないため、`subscriptionCreate` 要求が正常に完了しませんでした。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9719

メッセージ: レプリケーションの保持期間はスケジュールの間隔よりも長く設定する必要があります。(The replication retention period must be greater than the schedule frequency.)

説明: データが保護されない状態を避けるため、レプリケート(または長期保持)された複製の保持期間は、スケジュールの間隔より長くする必要があります。

推奨処置: 保持期間がスケジュールの間隔より長くなるように、レプリケーションのスケジュールを編集します。その後、保護計画の作成を再び試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9720

メッセージ: スケジュールの保護計画を追加または削除できません。(Cannot add or delete a schedule protection plan.) また、各スケジュールにストレージ属性を指定する必要があります。(Also, each schedule must specify storage attributes.)

説明: 要求に、次のいずれかが含まれていません。

- 既存の保護計画と同じ数のスケジュール
- 必要な操作 (バックアップ、レプリケーション、LTR) のためのストレージユニット

推奨処置: 選択された各操作 (バックアップ、レプリケーション、LTR) について、有効なストレージユニットが含まれているかどうかを確認します。バックアップ、レプリケーション、LTR 用の有効なオプションを含むように保護計画のストレージオプションを調整します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9722

メッセージ: リクエスト URL と本文の ID は同じにする必要があります。(ID must be same in the request URL and the body.)

説明: 保護計画を更新するには、URL と本文の保護計画 ID を同じにする必要があります。

推奨処置: URL と本文に同じ保護 ID を使用していることを確認します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9723

メッセージ: VMware 資産をスナップショットストレージの保護計画に、またはクラウド資産をスナップショットストレージ以外の保護計画にサブスクライブできません。(Cannot subscribe VMware asset to snapshot storage protection plan or cloud asset to non-snapshot storage protection plan.)

説明: 指定した保護計画に、資産をサブスクライブできません。

推奨処置: VMware 資産をスナップショットストレージ以外の保護計画にサブスクライブするか、クラウド資産をスナップショットストレージ (クラウド) の保護計画にサブスクライブします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9724

メッセージ: 指定された ID の保護計画が見つかりません。(Unable to find the protection plan for the given ID.)

説明: 保護計画 ID が無効か、その ID の保護計画がありません。

推奨処置: 保護計画 ID を確認し、有効な保護計画 ID を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9725

メッセージ: 保護計画はポリシーが使用する SLP 操作をサポートしていません。(The protection plan does not support the SLP operation that the policy uses.)

説明: 保護計画はポリシーに指定されている SLP 操作をサポートしていないため、保護計画へのポリシーの変換に失敗しました。

推奨処置: ポリシーでサポートされている SLP 操作を使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9726

メッセージ: 保護計画はスケジュール内の複数のコピーをサポートしていません。(The protection plan does not support multiple copies within a schedule.)

説明: 保護計画は複数のコピーを含むスケジュールをサポートしていないため、保護計画へのポリシーの変換に失敗しました。

推奨処置: ポリシーのスケジュールには単一のコピーを使用します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9731

メッセージ: 指定された ID のサブスクリプションが見つかりません。(Unable to find subscription for given ID.)

説明: 指定された保護計画 ID が無効なため、サブスクリプションが見つかりません。

推奨処置: 有効な保護計画 ID を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9732

メッセージ: クラウドスナップショットレプリケーションの保持期間はスケジュールの間隔よりも長く設定する必要があります。(The cloud snapshot replication retention period must be greater than the schedule frequency.)

説明: スケジュールに指定した間隔よりも短い保持期間がクラウドスナップショットレプリケーションに指定されています。

推奨処置: クラウドスナップショットレプリケーションの保持期間を調整するか、スケジュールに指定した間隔を調整します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9733

メッセージ: 複数ターゲットのクラウドスナップショットレプリケーションはサポートされていません。(Multi-target cloud snapshot replication is not supported.)

説明: クラウドレプリケーションは、単一のレプリケーションターゲットをサポートします。複数の異なるレプリケーションターゲットは許可されていません。

推奨処置: クラウドレプリケーションに設定されているレプリケーションターゲットと同じターゲットを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9734

メッセージ: クラウドレプリケーションは指定された作業負荷の種類と互換性がありません。(The cloud replication is not compatible with specified workload type.)

説明: クラウドレプリケーションは、クラウドの作業負荷の種類のみと互換性があります。

推奨処置: 作業負荷の種類としてクラウドを設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9735

メッセージ: 資産を既存の保護計画に追加するには、資産の作業負荷の種類が同じである必要があります。(The assets must be the same workload type to add them to an existing protection plan.)

説明: 保護計画で保護できるのは、作業負荷の種類が同じ資産または資産グループだけです。

推奨処置: 作業負荷の種類が一致する保護計画に資産または資産グループをサブスクライブします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9736

メッセージ: 間隔を基準としたスケジュールには間隔を指定し、カレンダーを基準としたスケジュールには `includeDates` を指定する必要があります。(Frequency must be specified for frequency-based schedules and includeDates must be specified for calendar-based schedules.) これらのフィールドは同時に指定できません。(These fields cannot be specified simultaneously.)

説明: 保護計画のスケジュールには、間隔を基準としたスケジュールとカレンダーを基準としたスケジュールがあります。間隔を基準としたスケジュールには `frequencySeconds` 属性を使用します。カレンダーを基準としたスケジュールには `includeDates` 属性を使用します。

推奨処置: 保護計画やサブスクリプションを作成または変更するときは、`frequencySeconds` 属性と `includeDates` 属性のどちらか一方のみを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9737

メッセージ: カレンダーを基準としたスケジュールにはスケジュール形式を指定する必要があります。(Schedule type must be specified for calendar-based schedules.)

説明: 保護計画のカレンダーを基準としたスケジュールでは、スケジュール形式を明示的に指定する必要があります (例: `FULL`、`DIFFERENTIAL_INCREMENTAL`、`CUMULATIVE_INCREMENTAL`、`TRANSACTION_LOG`)。スケジュール形式は、間隔を基準としたスケジュールでは省略できますが、カレンダーを基準としたスケジュールについては省略できません。

推奨処置: カレンダーを基準としたスケジュールに対しては、作業負荷に応じた適切なスケジュール形式を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9738

メッセージ: サブスクリプションの編集はクラウド作業負荷の種類で許可されていません。(Subscription edit is not allowed for Cloud workload type.)

説明: 作業負荷の種類が `Cloud` の保護計画ではすべてのサブスクリプションについての NetBackup ポリシーが共有されるため、`Cloud` の保護計画のサブスクリプションはカスタマイズできません。

推奨処置: `workloadTypeCloud` の保護計画に対しては、`allowSubscriptionEdit` 属性を `false` に設定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9739

メッセージ: 保護計画またはサブスクリプションの `PUT` には `POST` と同じ入力を指定する必要があります。(PUT protection plan or subscription must provide the same inputs as POST.) スケジュールとポリシーの属性の両方を指定する必要があります。(Both schedules and policy attributes must be supplied.)

説明: `PUT` は、保護計画またはサブスクリプションを変更します。`schedules` と `policyDefinition` を含むすべての必須フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: `PUT /servicecatalog/slos/{sloId}/subscriptions/{subId}` または `PUT /servicecatalog/slos/{sloId}` のすべての必須フィールドを指定します。`schedules`と `policyDefinition` は必須フィールドです。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9740

メッセージ: この保護計画の NetBackup 8.2 以降へのアップグレードでエラーが発生しました。

説明: NetBackup 8.2 の保護計画には、以前のバージョンと比較して次のような違いがあります。

- `WorkloadType` フィールドがすべての保護計画で必須になりました。
- NetBackup のポリシーの属性を保護計画の定義で指定できるようになりました。

- NetBackup のスケジュール形式 (［完全 (Full)］や［差分増分 (Differential incremental)］など) を保護計画の定義で指定できるようになりました。
- 資産を保護計画にサブスクライブするときに資産固有のカスタマイズを指定できるようになりました。

推奨処置: サブスクリプションの作成または削除は、保護計画が 8.2.1 の保護計画から変換されるまでは機能しません。通常、この変換は自動的に行われます。数分待ってから、操作を再試行します。変換が正常に完了しなかった場合、URL を修正して保護計画の詳細を取得することで、この処理をすぐにトリガできます。NetBackup Web UI で、URL を次のように変更します。

```
https://<master_server>:1556/webui/protection-plans/{sloId}
```

NetBackup ポリシーやストレージライフサイクルポリシー (SLP) を作成する際の断続的な問題が原因でエラーが発生した場合は、再試行すると成功することがあります。

それ以外の場合は、以前の保護計画は使用できない可能性があります。その場合も、サブスクライブしている資産の既存の保護はアクティブになり、バックアップジョブも実行されます。新しい保護計画を作成し、その新しい保護計画にサブスクリプションを移行することを検討してください。以前の `ProtectionPlan` の定義は NetBackup データベースに残ります。以前の保護計画の定義の取得については、Cohesity Technical Support にお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9741

メッセージ: 保護計画の更新が部分的に成功しました。(The protection plan updates partially succeeded.)

説明: SLP のストレージユニットの更新が致命的エラーで失敗し、保護計画で使用されるSLP で不整合が生じる可能性があります。バックアップは引き続き実行されますが、正しいストレージにバックアップされない可能性があります。

推奨処置: バックアップ管理者に問い合わせて、SLP で作成されたジョブで正しいストレージユニットに書き込まれることを確認します。`GET PP API` を実行して正しい状態を取得します。正しいストレージ情報を使用して更新操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9743

メッセージ: 複数のトランザクションログのスケジュールが見つかりました。

説明: トランザクションログスケジュールは、1 つのみ許可されています。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Support Web サイトにアクセスしてください。Cohesity Technical Support Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9744

メッセージ: このユーザーに委任されていない 1 つ以上の構成エントリがサブスクリプションに含まれています。

説明: エラーのペイロードには、サブスクリプションペイロードに対応する、許可されていない構成パスのセットが含まれています。

推奨処置: エラーペイロードの内容に基づいて、サブスクライブしているユーザーに委任されていない構成エントリを識別します。これらのエントリをサブスクリプションのペイロードから削除して、要求を再試行します。サブスクライバが、変更されていない保護計画を使用できない場合、その保護計画で追加のサブスクリプションのカスタマイズ機能の委任を要求することがあります。どの委任ルールにも必要な属性が含まれていない場合、PROTECTION_PLAN 名前空間で CREATE 操作を行う管理者は、適切な保護のカスタマイズを使用して保護計画を作成する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9745

メッセージ: サブスクリプションでは継承された保護計画スケジュールを削除できません。

説明: サブスクリプションは、保護計画から継承されたスケジュールを削除できない場合があります。

推奨処置: スケジュールをカスタマイズする場合は、保護計画からのすべてのスケジュールがスケジュールペイロードに表示されることを確認します。スケジュールをカスタマイズしない場合は、ペイロードのスケジュールセクションを含めないでください。サブスクライバが保護計画から継承されたスケジュールを使用できない場合、PROTECTION_PLAN 名前空間で CREATE 操作を行う管理者は適切なスケジュールを使用して保護計画を作成する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9746

メッセージ: サブスクリプションではスケジュールを追加できません。(A subscription cannot add schedules.)

説明: サブスクリプションは、保護計画にスケジュールを追加できない場合があります。

推奨処置: サブスクライバが保護計画から継承されたスケジュールを使用できない場合、PROTECTION_PLAN名前空間で CREATE 操作を行う管理者は適切なスケジュールを使用して保護計画を作成する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9747

メッセージ: 1 つ以上のサブスクリプションスケジュールで、編集する保護計画スケジュールの識別に必要な scheduleName フィールドが指定されていません。

説明: サブスクリプションスケジュールの編集と上書きでは、各スケジュールの scheduleName フィールドを指定する必要があります。これにより、編集済みのスケジュールが保護計画から継承されたスケジュールにリンクされます。

推奨処置: サブスクリプションスケジュールのペイロードを確認し、すべての scheduleName フィールドに、編集が適用されるスケジュールの名前が入力されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9748

メッセージ: 不正なポリシーオプションのため、Microsoft SQL Server 可用性グループを保護計画でサブスクライブまたはバックアップできません。

説明: [可用性データベースのバックアッププリファレンス (Availability Database Backup Preference)]オプションが選択されていないか、または保護計画の[可用性データベースをスキップする (Skip Availability Databases)]オプションと組み合わせて選択されています。

推奨処置: 保護計画の[可用性データベースのバックアッププリファレンス (Availability Database Backup Preference)]設定オプションを選択します。このオプションと組み合わせて、[プライマリレプリカを保護する (Protect primary replica)]オプションまたは[優先レプリカを保護する (Protect preferred replica)]オプションを選択できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9749

メッセージ: 不正なポリシーオプションのため、Microsoft SQL Server 可用性グループデータベースを保護計画でサブスクライブまたはバックアップできません。

説明: 保護計画で[可用性データベースのバックアッププリファレンス (Availability Database Backup Preference)]オプションと[可用性データベースをスキップする (Skip Availability Databases)]オプションが両方選択されています。

推奨処置: 保護計画で、次のいずれかのオプションを実行します。

- 保護計画の[可用性データベースのバックアッププリファレンス (Availability Database Backup Preference)]設定オプションを選択解除します。
- 保護計画の[可用性データベースのバックアッププリファレンス (Availability Database Backup Preference)]オプションと[プライマリレプリカを保護する (Protect primary replica)]オプションを選択します。
- 保護計画の[可用性データベースのバックアッププリファレンス (Availability Database Backup Preference)]オプションと[優先レプリカを保護する (Protect preferred replica)]オプションを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9751

メッセージ: クラウドプロバイダの種類が無効なため、更新プロセスまたは作成プロセスが完了しませんでした。(The update or create process did not complete due to an invalid cloud provider type.)

説明: 無効な種類のクラウドプロバイダを指定しているため、保護計画の更新または作成に失敗しました。

推奨処置: 適切な種類のクラウドプロバイダを設定し、再び保護計画の更新または作成を試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9752

メッセージ: クラウド資産を既存の保護計画に追加するには、クラウドプロバイダの種類が同じである必要があります。(The cloud assets must be the same cloud provider type to add them to an existing protection plan.)

説明: 保護計画で保護できるのは、クラウドプロバイダの種類が同じ資産または資産グループだけです。

推奨処置: クラウドプロバイダの種類が一致する保護計画に資産または資産グループをサブスクライブします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9760

メッセージ: ディスクの除外オプションが有効な保護計画は、クラウド VM 形式の資産にのみ適用できます。

説明: この問題は、ディスクの除外オプション付きの保護計画を VM (ホスト形式の資産) 以外の資産に適用しようとすると発生します。

推奨処置: ディスクの除外オプション付きの保護計画は、VM (ホスト形式) 資産にのみ適用してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9764

メッセージ: スナップショットからのバックアップ操作は NetBackup メディアサーバー 10.0 以降のバージョンでサポートされています。

説明: SLO の作成中、10.0 より古いバージョンの NetBackup がインストールされたメディアサーバー上のストレージユニットではスナップショット操作によるバックアップが選択されます。

推奨処置: スナップショット操作によるバックアップを実行するには、メディアサーバーの最新バージョンが 10.0 以降であることを確認します。メディアサーバーのバージョンが 10.0 よりも古い場合は、そのメディアサーバーをアップグレードする必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9765

メッセージ: この保護計画を使用して、クラウド PaaS 資産のみをサブスクライブおよびバックアップできます。(You can subscribe or back up only cloud PaaS assets using a protection plan with primary backup operation.)

説明: PaaS 資産用に作成された保護計画は、PaaS 資産にのみサブスクライブできます。

推奨処置: PaaS 資産にのみ PaaS 保護計画をサブスクライブします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9766

メッセージ: バックアップストレージを伴う保護計画は、レプリケーション、スナップショットからのバックアップ、クラウドのインデックス操作をサポートしません。(Protection plan with

backup storage is not supported with provided operations like replication, backup from snapshot, and cloud index.)

説明: バックアップストレージユニットを伴う保護計画は、レプリケーション、スナップショットからのバックアップ、クラウドのインデックス操作などをサポートしません。

推奨処置: バックアップストレージユニットを伴う保護計画または複製が有効な保護計画を作成します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9767

メッセージ: バックアップストレージユニットのないスケジュールは、指定したポリシー属性をサポートしません。(Schedules having no backup storage unit does not support provided policy attributes.)

説明: バックアップストレージユニットのない保護計画は、ステージングストレージパスや PaaS 保護フラグのような PaaS 固有のポリシー属性をサポートしません。

推奨処置: ステージングストレージパス PaaS 保護フラグがある保護計画では、スケジュールにバックアップストレージが構成されている必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9768

メッセージ: バックアップストレージユニットがあるスケジュールでは、PaaS 保護が有効になっており、明確なステージングストレージパスがあることが必要です。(Schedules having backup storage units must have PaaS protection enabled with an explicit staging storage path.)

説明: バックアップストレージユニットがあるスケジュールでは、PaaS 保護が有効になっており、明確なステージングストレージパスがあることが必要です。

推奨処置: スケジュールのバックアップストレージに加え、ステージングストレージパスと PaaS 保護フラグを指定して、PaaS 保護が有効な保護計画を作成します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9769

メッセージ: 保護計画で唯一サポートされるストレージオプションは、MSDP インスタントアクセスが有効なストレージです。(MSDP instant access enabled storage is the only supported storage option for a protection plan.)

説明: 保護計画には、インスタントアクセスが有効な MSDP ストレージが必要です。

推奨処置: 保護計画で、インスタントアクセスが有効な MSDP ストレージを指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9770

メッセージ: 資産/親資産にクレデンシャルを関連付けて、PaaS 保護計画にサブスクライブします。(Associate credentials with the asset or the parent asset to subscribe it to a PaaS protection plan.)

説明: 資産またはその親にはクレデンシャルが必要です。

推奨処置: [クレデンシャルの管理 (Credential management)]オプションを使用して、資産またはその親にクレデンシャルを追加します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9771

メッセージ: Windows を実行しているプライマリサーバーでは、表示名にマルチバイト文字が使用されている PaaS 資産はサポートされないため、保護計画に PaaS 資産をサブスクライブできません。(Cannot subscribe the PaaS assets with multi-byte characters in the display names to the protection plan because they are not supported on the primary servers running Windows.)

説明: Windows プラットフォームで実行しているプライマリサーバーは、表示名にマルチバイトまたは英語以外の文字を含む PaaS 資産を保護計画にサブスクライブできません。

推奨処置: 表示名にマルチバイトまたは英語以外の文字を含む PaaS 資産は、Linux プライマリサーバーを使用してバックアップおよびリストアする必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9773

メッセージ: ストレージサーバーのバージョンはサポートされていません。(The storage server version is not supported.) サポートされるバージョンは 10.1 以降です。(Minimum supported version is 10.1.)

説明: ストレージサーバーは NetBackup バージョン 10.1 以降である必要があります。

推奨処置: NetBackup バージョン 10.1 以降のストレージサーバーを選択します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9778

メッセージ: 差分増分バックアップをサポートする保護計画に PaaS 資産をサブスクライブできません。(Cannot subscribe the PaaS asset to the protection plan that supports differential incremental backup.)

説明: 選択した PaaS 資産は差分増分バックアップをサポートしません。

推奨処置: DBPaaS 資産が差分増分バックアップをサポートしていることを確認します。DBPaaS 資産がサポートしない場合は、差分増分スケジュール形式がない保護計画を作成する必要があります。その後、新しい保護計画に資産をサブスクライブします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9781

メッセージ: OpenStack 保護計画で無効なポリシー属性が指定されています。(Invalid policy attributes provided for the OpenStack protection plan.)

説明: OpenStack 保護計画が無効なポリシー属性で構成されています。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

有効なポリシー属性を使用して OpenStack 保護計画を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9783

メッセージ: バックアップストレージユニットが構成されているスケジュールは、OpenStack 保護計画でサポートされません。(Schedules that have the backup storage units configured are not supported for the OpenStack protection plan.)

説明: OpenStack 保護計画で構成されたスケジュールは、バックアップストレージユニットが構成されているためサポートされません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

バックアップストレージユニットがないスケジュールを使用して、OpenStack 保護計画を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9784

メッセージ: ストレージユニットがあるスケジュールには、ステージングストレージパスとマウントパスが必要です。(Schedules that have the storage units must have the staging storage path and mount path.)

説明: ストレージユニットは構成されているが、ステージングストレージパスまたはマウントパスがないスケジュールで OpenStack 保護計画が構成されています。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ストレージユニットは構成されているが、ステージングストレージパスまたはマウントパスがないスケジュールで OpenStack 保護計画が構成されています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9785

メッセージ: OpenStack 保護は、SMB プロトコルを使用したユニバーサル共有ではサポートされていません。(OpenStack protection is not supported for universal share with SMB protocol.)

説明: OpenStack 保護計画が、SMB プロトコルを使用したユニバーサル共有で構成されています。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

サポート対象のユニバーサル共有のみを使用してOpenStack保護計画を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9786

メッセージ: 指定されたステージングパスは、選択したバックアップストレージにマウントされていません。(The provided staging path is not mounted on the selected backup storage.)

説明: OpenStack 保護計画の作成時に指定したステージングパスが、選択したバックアップストレージにマウントされていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- OpenStack 保護計画の作成時に指定したステージングパスが、選択したバックアップストレージにマウントされていることを確認します。
- バックアップストレージがユニバーサル共有ホストリストに含まれることを確認します。
- バックアップストレージに、ステージングパスにアクセスしてそれ自体をマウントするために必要な権限があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9787

メッセージ: 指定されたマウントパスが、ステージングストレージパスと一致しません。(The provided mount path does not match with the staging storage path.)

説明: OpenStack 保護計画のマウントパスがストレージパスと一致しません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

有効なマウントパスとステージングストレージパスを使用して OpenStack 保護計画を構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9788

メッセージ: OpenStack でサポートされていないストレージサーバーのバージョンです。(Unsupported storage server version for OpenStack.)

説明: 構成されたストレージサーバーのバージョンはサポートされていません。サポートされる最小バージョンは 11.2.0.1 です。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

ストレージサーバーのバージョンが 11.2.0.1 以降であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9789

メッセージ: アーカイブ REDO ログバックアップをサポートする保護計画に PaaS 資産をサブスクライブできません。(Cannot subscribe the PaaS asset to the protection plan that supports Archive redo logs backup.)

説明: PaaS 資産はアーカイブ REDO ログのバックアップをサポートしません。

推奨処置: 保護計画に資産をサブスクライブするには、保護計画からアーカイブ REDO ログスケジュールを削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9794

メッセージ: 選択した PaaS 資産をこの保護計画にサブスクライブできません。この資産が、増分バックアップスケジュールを使用した保護計画にすでにサブスクライブされているためです。(Cannot subscribe the selected PaaS assets to this protection plan, as the assets are already subscribed to a protection plan with an incremental backup schedule.)

説明: AWS RDS Oracle 資産では、増分バックアップスケジュールを使用した保護計画への複数のサブスクリプションは許可されません。

推奨処置: 増分バックアップスケジュールを使用して、以前にサブスクライブした保護計画から資産を削除します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9795

メッセージ: この保護計画は、頻度が 24 時間よりも短いアーカイブログバックアップの種類を保護できないため、この計画にサブスクライブできません。(Cannot subscribe to this protection plan as this plan cannot protect archive log backup type with a frequency of less than 24 hours.)

説明: AWS RDS Oracle PaaS 資産のアーカイブログバックアップ形式を持つ保護計画のバックアップ間隔は、24 時間未満である必要があります。

推奨処置: バックアップ間隔が 24 時間未満のアーカイブログバックアップ形式の保護計画を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9796

メッセージ: 差分増分とアーカイブ REDO ログのバックアップが保護計画でサポートされているため、計画に PaaS 資産をサブスクライブできません。(Cannot subscribe the PaaS asset to the protection plan as the plan supports differential incremental and archive redo logs backup.)

説明: PaaS 資産は差分増分またはアーカイブ REDO ログスケジュールをサポートしません。

推奨処置: 完全バックアップスケジュールを使用して保護計画を作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9800

メッセージ: Snapshot Manager が構成されていません。(Snapshot Manager is not configured.)

説明: Snapshot Manager が構成されていません。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールから、または tpconfig CLI を使用して、Snapshot Manager を構成します。

Snapshot Manager がすでに構成されている場合は、登録エントリが NetBackup データベースにあることを確認します。NetBackup 管理コンソールを使うか、tpconfig ユーティリティを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9801

メッセージ: Snapshot Manager のログインに失敗しました。(Snapshot Manager login failed.)

説明: このエラーは、次の状況で発生します。

- Snapshot Manager のクレデンシャルが変更された。
- Snapshot Manager が停止しているか、ネットワークの問題により利用できない。

推奨処置: 原因に応じて、次のいずれかのタスクを実行します。

- NetBackup でクレデンシャルとポート番号を更新します。
- Snapshot Manager が起動しており、NetBackup マスターサーバーからアクセス可能なネットワーク上にあることを確認します。
  確認するには、マスターサーバーのブラウザから Snapshot Manager ホストにログオンします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9802

メッセージ: Snapshot Manager からサポート対象プラグインリストを取得できませんでした。(Failed to retrieve the supported plug-in list from the Snapshot Manager.)

説明: このエラーは、プラグインの構成時に、指定した Snapshot Manager に対するサポート対象プラグインのリストが表示されないと発生します。

推奨処置: Snapshot Manager との接続が確立されているかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9803

メッセージ: NetBackup のサポート対象プラグインリストを取得できませんでした。(Failed to retrieve the NetBackup supported plug-in list.)

説明: 指定した Snapshot Manager に対する NetBackup でサポートされるプラグインのリストが表示されません。

推奨処置: マスターサーバーとの接続を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9804

メッセージ: プラグインがクラウドプロバイダに対して構成されていません。(The plug-in is not configured for the cloud provider.)

説明: プラグインがクラウドプロバイダに対して構成されていません。

推奨処置: 必要なプラグインを NetBackup で構成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9805

メッセージ: 指定された構成インスタンスが見つかりませんでした。

説明: プラグインの構成インスタンスの詳細が NetBackup データベースに存在しません。

推奨処置: 適切なインスタンス ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9806

メッセージ: 構成の詳細が同じ構成インスタンスがすでに存在します。(A configuration instance with the same configuration details already exists.)

説明: 構成インスタンスの重複は許容されません。

推奨処置: 同じ構成インスタンスを使用するか、詳細が異なる新しい構成インスタンスを作成します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9807

メッセージ: 内部サーバーエラーが発生しました。(Internal server error.)

説明: Snapshot Manager の問題です。

推奨処置: Snapshot Manager のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9808

メッセージ: プラグインタイプがサポートされていません。(The plug-in type is not supported.)

説明: 構成するプラグインが NetBackup でサポートされていません。

推奨処置: プラグインが NetBackup のサポート対象プラグインリストにあることを確認します。サポート対象プラグインについて詳しくは、Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT) で確認できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9809

メッセージ: プラグインインスタンス名はすでに存在します。

説明: 指定された構成インスタンスの名前または識別子は、既存の構成インスタンスに使用されています。

推奨処置: 別の識別子を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9810

メッセージ: Snapshot Manager でプラグインインスタンスを構成できませんでした。(Failed to configure the plug-in instance in Snapshot Manager.)

説明: このエラーは、次の状況で発生します。

- クラウドプロバイダ構成の属性値が正しくない。

- NetBackup によって呼び出される、Snapshot Manager の構成プラグインの REST API (`cloudpoint/api/v5/agents/{agent.id}/plugins/{provider}/configs/`) にエラーがある。
- Snapshot Manager の構成プラグインの API が呼び出されたときに、NetBackup サーバーで予期しないエラーが発生した。

推奨処置: NetBackup マスターサーバーの `nbemm` のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9811

メッセージ: NetBackup でプラグインインスタンスを登録できませんでした。(Failed to register the plug-in instance in NetBackup.)

説明: `CloudPoint_plugin.conf` にアクセスできません。

推奨処置: `CloudPoint_plugin.conf` にアクセスできることを確認して操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9812

メッセージ: 構成済みプラグインインスタンスを Snapshot Manager から取得できませんでした。(Failed to retrieve the configured plug-in instance from Snapshot Manager.)

説明: このエラーは、NetBackup への Snapshot Manager の登録時に、Snapshot Manager で構成されているプラグインが NetBackup に取り込まれないと発生します。

推奨処置: 既存のクレデンシャルを使用して Snapshot Manager を更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9813

メッセージ: NetBackup から構成済みのプラグインインスタンスを取得できませんでした。(Failed to retrieve the configured plug-in instance from CloudPoint.)

説明: NetBackup で構成されているプラグインが表示されません。

推奨処置: 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9814

メッセージ: 指定された構成済みプラグインのインスタンスタイプが、NetBackup のインスタンスタイプエントリと一致しません。(The instance type for the specified configured plug-in does not match with the instance type entry in NetBackup.)

説明: このエラーは、プラグインの更新時に、インスタンスタイプが NetBackup のインスタンスタイプエントリと一致しないと発生します。

推奨処置: インスタンスタイプエントリを確認し、プラグインを再度更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9815

メッセージ: Snapshot Manager で構成済みプラグインインスタンスを変更できませんでした。(Failed to modify the configured plug-in instance in Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager で更新操作が失敗しました。

推奨処置: Snapshot Manager のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9816

メッセージ: 構成済みプラグインインスタンスを Snapshot Manager から取得できませんでした。(Failed to retrieve the configured plug-in instance from Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager で構成されているプラグインのリストが NetBackup に表示されません。

推奨処置: Snapshot Manager が起動していることを確認するか、Snapshot Manager のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9818

メッセージ: 指定されたプラグインインスタンスが構成された Snapshot Manager が利用できません。(Snapshot Manager on which the specified plug-in instance was configured is not available.)

説明: 構成済みのプラグインをホストする Snapshot Manager が利用できません。

推奨処置: プラグインインスタンスをホストする Snapshot Manager が、NetBackup に登録されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9819

メッセージ: 指定されたプラグインタイプのプラグインインスタンスが構成された Snapshot Manager を利用できません。(A Snapshot Manager on which plug-in instances with specified plug-in type are configured is not available.)

説明: 特定のプロバイダの種類のプラグインインスタンスが、複数の Snapshot Manager で構成されており、Snapshot Manager の 1 つが利用できません。

推奨処置: プラグインインスタンスを含む Snapshot Manager が、すべて NetBackup に登録されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9820

メッセージ: プラグインインスタンスを無効にできませんでした。(Failed to disable the plug-in instance.)

説明: NetBackup でプラグインを無効にできません。

推奨処置: `CloudPoint_plugin.conf` が更新されているかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9821

メッセージ: 指定されたプラグインインスタンスが Snapshot Manager に存在しません。(Specified plug-in instance does not exist on the Snapshot Manager.)

説明: 構成インスタンスが削除されているか、Snapshot Manager で利用できません。

推奨処置: 操作を再試行してすべてのエラー情報を保存します。問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9822

メッセージ: プラグインインスタンスはすでに Snapshot Manager に存在しています。(Plug-in instance already exists in the Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager では、重複して設定することはできません。

推奨処置: 構成属性を変更します。たとえば、Amazon AWS プラグイン構成の場合は、同じアクセスキーを持つ既存の AWS プラグイン構成のいずれかに、指定した領域が含まれていないことを確認します。領域がプラグインですでに指定されている場合、その資産はすでに保護されています。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9823

メッセージ: プラグインの認証に失敗しました。(Plug-in authentication failed.) クレデンシャルが無効です。(Credentials are invalid.)

説明: プラグインのクレデンシャルが無効です。

推奨処置: クレデンシャルが正しいことを確認し、操作を再試行します。

AWS に配備されている Snapshot Manager インスタンスにリンクされているアカウントの優先領域を有効にしていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9830

メッセージ: サポートされていない操作です。(Operation not supported.) 関連付けられた Snapshot Manager は古いバージョンを使用しています。(The associated Snapshot Manager is using an older version.)

説明: Snapshot Manager のバージョンがサポート対象外のバージョンにあるため、NetBackup プライマリサーバーのバージョンと同じ、サポート対象のバージョンにアップグレードする必要があります。

推奨処置: Snapshot Manager サーバーを、NetBackup プライマリサーバーのバージョンと同じ、サポート対象のバージョンにアップグレードします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9833

メッセージ: NetBackup が仮想マシンに接続できません。(NetBackup cannot connect to the virtual machine.)

説明: Snapshot Manager は接続されていますが、NetBackup に問題があります。

推奨処置: NetBackup の nbwebservice と nbemm のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9834

メッセージ: 指定した資産が Snapshot Manager データベースで見つかりません。(The specified asset is not found in the Snapshot Manager database.)

説明: NetBackup Web UI には削除済みの資産も表示されます。一度検出された資産はデータベースからは削除されません。

推奨処置: 削除済みの資産を確認するには、前回の検出時刻を参照します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9835

メッセージ: アプリケーションの構成操作に失敗しました。(Application configuration operation failed.)

説明: 仮想マシンの状態が[**接続状態** (Connected)]になった後はホストアプリケーションを構成できません。

推奨処置: NetBackup の nbwebservice と nbemm のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9836

メッセージ: アプリケーションは Snapshot Manager ですでに構成されています。(Application already configured on the Snapshot Manager.)

説明: アプリケーションがすでに構成されています。

推奨処置: 操作をスキップします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9837

メッセージ: NetBackup からのアプリケーションの構成操作に失敗しました。(Configure application operation has failed from NetBackup.)

説明: NetBackup で操作を実行できませんでした。

推奨処置: NetBackup の `nbwebservice` と `nbemm` のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9838

メッセージ: 指定された操作は、現在使用中の Snapshot Manager ライセンスではサポートされません。(The specified operation is not supported with the current Snapshot Manager license in use.)

説明: 現在使用中の Snapshot Manager ライセンスでは必要な権限が提供されません。

推奨処置: 適切な権限があるライセンスを適用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9839

メッセージ: `origiasset` は削除されています。(The origiasset is deleted.) 資産のスナップショットのみを利用できます。(Only snapshot of the asset is available.)

説明: 資産は削除されていますが、スナップショットを利用してリカバリできます。

推奨処置: スナップショットから資産をリカバリします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9841

メッセージ: 関連付けられた Snapshot Manager と Snapshot Manager ホスト名が一致しません。(The Snapshot Manager host name does not match with the associated Snapshot Manager.)

説明: 指定した Snapshot Manager ホスト名に対応するプラグインエントリが `CloudPoint_plugin.conf` にありません。

推奨処置: Snapshot Manager ホスト名が正しく構成されているかどうかを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9842

メッセージ: 仮想マシンはすでに接続されています。(The virtual machine is already connected.)

説明: 仮想マシンはすでに接続されており、アプリケーションの構成に進むことができます。

推奨処置: 仮想マシンはすでに接続されており、アプリケーションの構成に進むことができます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9843

メッセージ: 仮想マシンの詳細を取得できません。(Unable to retrieve virtual machine details.)

説明: Snapshot Manager は操作を完了できません。

推奨処置: Snapshot Manager のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9844

メッセージ: アプリケーションの詳細を取得できません。(Unable to retrieve the application details.)

説明: Snapshot Manager は操作を完了できません。

推奨処置: Snapshot Manager のログを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9845

メッセージ: Windows ホストでスナップショットエージェントの配備に失敗しました。(Failed to deploy the snapshot agent on the Windows host.)

説明: Windows では、この操作を Web UI や API で実行できません。

推奨処置: Windows ホストを手動で配備します。『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』の Snapshot Manager のドキュメントを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9846

メッセージ: データベースの資産情報の更新に失敗しました。(Failed to update the asset information in the database.)

説明: NetBackup 資産データベースコンポーネントで AssetDB を更新できませんでした。詳しくは nbwebservice のログを確認してください。

推奨処置: nbwebservice を再起動し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9847

メッセージ: クラウド資産タイプの取得に失敗しました。(Failed to retrieve cloud asset type.)

説明: NetBackup でのリストア操作で、クラウド資産タイプを取得できませんでした。

推奨処置: 操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9848

メッセージ: クラウド資産タイプが無効です。(Invalid Cloud asset type.)

説明: NetBackup でのリストア操作で、クラウド資産タイプを特定できませんでした。

推奨処置: ncfnbcs のログを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9849

メッセージ: 仮想マシンのクレデンシャルが無効です。(Invalid virtual machine credentials.)

説明: VM 接続操作で指定された仮想マシンのクレデンシャルが無効です。

推奨処置: 仮想マシンのクレデンシャルを確認し、正しいクレデンシャルを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9850

メッセージ: 指定されたアプリケーションはホストのオペレーティングシステムでサポートされていません。(The specified application is not supported with the host's operating system.)

説明: アプリケーションがホストで使用されているオペレーティングシステムでサポートされていません。

推奨処置: Snapshot Manager ホストのオペレーティングシステムを確認し、NetBackup 互換性リストと照合してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9851

メッセージ: NetBackup に直接構成したプラグインの場合、元のインスタンス名と指定したプラグイン ID は同じにする必要があります。(For plug-ins configured directly with NetBackup, the original instance name and specified plug-in ID must be same.)

説明: NetBackup で直接構成した (事前構成のプラグインでない) プラグインを更新するときは、元のインスタンス名と指定したプラグイン ID が一致している必要があります。

推奨処置: ID が異なる場合は、ID 以外のパラメータのみを更新できます。NetBackup では ID の更新はサポートされていません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9853

メッセージ: 無効なコピー形式です。(Invalid copy type.)

説明: 使用しているイメージコピー形式が無効です。サポートされるコピー形式は、スナップショットとレプリケーションです。

推奨処置: 問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9854

メッセージ: クラウドスナップショットレプリケーションに失敗しました。(Cloud snapshot replication failed.)

説明: この問題は次のことが原因で発生することがあります。

- クラウドスナップショットレプリケーションジョブに失敗しました。
- EC2 インスタンスのスナップショットコピーを他の領域にレプリケートするときは、レプリケーション元とレプリケーション先の領域で鍵ペアの名前が同じである必要があります。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- EC2 のコピーをレプリケートする場合は、レプリケーション先の領域で新しい鍵ペアを作成します。レプリケーション元の領域の鍵ペアと一貫性がある鍵ペアを作成する必要があります。
- メディアサーバーの `ncfnbcs` のログで詳細を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9855

メッセージ: スナップショットのエクスポートが失敗しました。

説明: スナップショットのインポート中にスナップショットがアレイから正常にエクスポートされませんでした。

スナップショットのインポートを実行する際にクラウドバックアップを作成した場合、スナップショットが仮想マシンのディスクから正常にエクスポートされませんでした。

推奨処置: クライアントまたは代替クライアントの `bpfis` のログで詳細を確認します。

クラウドバックアップの場合、メディアサーバーの `NCFNBCS` ログで関連情報を確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9856

メッセージ: Snapshot Manager からの JSON レスポンスの解析に失敗しました。(Failed to parse JSON response from Snapshot Manager.)

説明: 操作の詳細の解析に失敗しました。このエラーは、クラウドスナップショットの作成、リストア、削除、またはスナップショットレプリケーションの操作によって発生する場合があります。

推奨処置: クラウドからの特定の操作のコピーを、手動でクリーンアップします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9857

メッセージ: スナップショットのインデックス付けの開始に失敗しました。

説明: クラウドスナップショットのインデックス付けジョブを開始できません。

推奨処置: メディアサーバーの `ncfnbcs` ログと Snapshot Manager のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9858

メッセージ: NetBackup Snapshot Manager の追加に失敗しました。(Failed to add NetBackup Snapshot Manager.)

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- Snapshot Manager のバージョンがサポートされていない可能性があります。互換性リストを参照してください。
- NetBackup および Snapshot Manager のネットワーク接続に問題がある可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- Snapshot Manager とのネットワーク接続を確認します。
- `netstat` または同様のネットワーク診断ツールを使用して、ネットワークの問題を解決します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9859

メッセージ: マウントパスの取得に失敗しました。

説明: マウントパスフィールドのポピュレート中にスナップショット作成エラーが発生しました。

推奨処置: スナップショット操作を再試行します。それでも失敗する場合は、Snapshot Manager のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9860

メッセージ: クラウド FS マウントパスが無効です。

説明: マウントパスフィールドのポピュレート中にスナップショット作成エラーが発生しました。

推奨処置: ターゲットホストでマウントされているファイルシステムのパスを確認し、スナップショット操作を再度開始します。それでも失敗する場合は、Snapshot Manager のログを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9861

メッセージ: Snapshot Manager は NetBackup マスターサーバーにすでに追加されています。(Snapshot Manager is already added to a NetBackup master server.)

説明: Snapshot Manager は、1 つの NetBackup マスターサーバーにのみ追加できます。

推奨処置: 新しい Snapshot Manager を配備して追加します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9862

メッセージ: Snapshot Manager の CA 証明書を取得できませんでした。(Failed to get CA certificate for Snapshot Manager.)

説明: NetBackup および Snapshot Manager のネットワーク接続に問題がある可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- Snapshot Manager とのネットワーク接続を確認します。
- `netstat` または同様のネットワーク診断ツールを使用して、ネットワークの問題を解決します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9863

メッセージ: Snapshot Manager の CA 証明書を保存できませんでした。(Failed to save CA certificate for Snapshot Manager.)

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- NetBackup 証明書ストア (`/usr/openv/var/global/cloudpoint`) に証明書を追加するのに適切な権限がありません。

- 証明書の解析に失敗しました。
- NetBackup サービスユーザーが NetBackup 証明書ストア (`/usr/openv/var/global/cloudpoint`) を所有していないため、ユーザーにこのパスの権限が付与されていません。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- NetBackup 証明書ストア (`/usr/openv/var/global/cloudpoint`) に対する適切な権限を確認します。
- `/config/snapshot-mgmt-servers-cacerts/{snapshotMgmtServer}/ports/{port}` API を使用して Snapshot Manager 証明書の形式を確認します。
- `pem` 形式のみがサポートされます。
- `tpconfig` コマンドを使用して、Snapshot Manager の構成を追加または変更します。ルートユーザーとして `tpconfig` コマンドを実行します。この操作により、ルート証明書のパスまたはファイルの所有権を NetBackup サービスユーザーに再割り当てできます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9865

メッセージ: Snapshot Manager と関連付けるには、NetBackup メディアサーバープラットフォームを Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux Enterprise Server、または Microsoft Windows のいずれかにする必要があります。(NetBackup media server platform should be either Red Hat Enterprise Linux, SUSE Linux Enterprise Server, or Microsoft Windows to be associated with a Snapshot Manager.)

説明: クラウドジョブの場合は、SUSE Linux Enterprise Server、Microsoft Windows、RHEL のみがサポート対象のメディアサーバーのプラットフォームです。

クラウドジョブの場合は、SUSE Linux Enterprise Server、Microsoft Windows、RHEL のみがサポート対象のメディアサーバーのプラットフォームです。

推奨処置: Snapshot Manager とメディアサーバーを関連付けるには、SUSE Linux Enterprise Server、Microsoft Windows、RHEL プラットフォームのみを使用します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9866

メッセージ: Snapshot Manager に提供された NetBackup ホストの証明書が有効になっていないか、存在しません。(The NetBackup host certificate that is provided to Snapshot Manager is not valid or does not exist.)

説明: Snapshot Manager に提供された NetBackup ホストの証明書が有効でないか、存在しないか、無効になっています。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- アクティビティモニターの[ジョブの詳細 (Job details)]に表示される nbcs/bpfis/bppfi レベルのエラーメッセージを確認します。詳しくは、コンポーネントログを参照してください。
- Snapshot Manager とプラグインの構成に関する nbwebservice/nbemm レベルのエラーメッセージを確認します。詳しくは、コンポーネントログを参照してください。
- 以前に指定したログに表示される NetBackup エラーコードまたはメッセージを確認します。これらのログは、プライマリサーバーと Snapshot Manager 間の実際の SSL 証明書の問題または接続性の問題に関する追加の洞察を提供できます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9867

メッセージ: ECA_TRUST_STORE_PATH オプションが構成されていない、証明書のパスにアクセスできない、または証明書が存在しません。(The ECA_TRUST_STORE_PATH option is not configured, or the certificate path is not accessible or doesn't exist.)

説明: ECA_TRUST_STORE_PATH オプションは、bp.conf ファイルで構成されていません。サードパーティの CA 証明書を使用して Snapshot Manager が構成されているか、ECA_TRUST_STORE_PATH に記載されている証明書のパスにアクセスできません。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- ECA_TRUST_STORE_PATH が正しく構成されているかどうかを確認します。
- 証明書のパスのすべてのアクセス権が正しいことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9868

メッセージ: Snapshot Manager の API バージョンの取得に失敗しました。(Failed to get API version for Snapshot Manager.)

説明: NetBackup および Snapshot Manager のネットワーク接続に問題がある可能性があります。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- Snapshot Manager とのネットワーク接続と、接続に使用した Snapshot Manager のクレデンシャルを確認します。

- netstat または同様のネットワーク診断ツールを使用して、ネットワークの問題を解決します。
- [サーバーを編集 (Edit Server)]オプションを使用して、Snapshot Manager のクレデンシャルを更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9869

メッセージ: Snapshot Manager の配備の概略を取得できませんでした。(Failed to get Deployment Summary for Snapshot Manager.)

説明: この問題の原因になる可能性がある事柄は次のとおりです。

- Snapshot Manager、NetBackup、クラウドプロバイダのネットワーク接続。
- Snapshot Manager がクラウドにある場合の、Snapshot Manager からクラウドへのネットワーク接続に関する問題。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- Snapshot Manager、NetBackup、およびクラウドプロバイダとのネットワーク接続を確認します。
- netstat または同様のネットワーク診断ツールを使用して、ネットワークの問題を解決します。
- [サーバーを編集 (Edit Server)]オプションを使用して、Snapshot Manager のクレデンシャルを確認および更新します。
- クラウドプロバイダのクレデンシャルまたはシークレットキーを確認して更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9870

メッセージ: Snapshot Manager のバージョンの取得に失敗しました。(Failed to get version for Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager と NetBackup の間にネットワーク接続の問題があります。

推奨処置: 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。

- Snapshot Manager と NetBackup のネットワーク接続を確認します。
- netstat または同様のネットワーク診断ツールを使用して、ネットワークの問題を解決します。

- ［サーバーを編集 (Edit Server)］オプションを使用して、Snapshot Manager のクレデンシャルを確認および更新します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9871

メッセージ: サポートされていない操作です。(Operation not supported.) 指定されたメディアサーバーは、NetBackup バージョン 8.3 以降でなければなりません。

説明: NetBackup マスターサーバー 8.3 は、クラウドジョブの Snapshot Manager とジョブ配布の関連付けに NetBackup メディアサーバー 8.3 を使用します。

推奨処置: Snapshot Manager と関連付けるには、NetBackup バージョン 8.3 以降のメディアサーバーを選択します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9872

メッセージ: Snapshot Manager のオンホストのエージェントトークンの詳細を取得できません。(Unable to retrieve the Snapshot Manager on-host agent token details.)

説明: オンホストのエージェントとの通信を確立するために使用される Snapshot Manager からトークンを取得できませんでした。

Snapshot Manager サービスが実行されていない可能性があります。

推奨処置: `nbwebservice` と Snapshot Manager のログを参照し、すべての Snapshot Manager サービスが実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9873

メッセージ: Snapshot Manager は無効です。(The Snapshot Manager is disabled.)

説明: 選択した構成に関連付けられている Snapshot Manager が無効です。

推奨処置: 無効な Snapshot Manager に関連する根本的なメンテナンスの問題を確認します。メンテナンスの問題がある場合は、これらの問題を解決する必要があります。

メンテナンスに問題がない場合は、次の手順を実行します。

1. NetBackup Web UI にログオンします。
2. 左側で［クラウド (Cloud)］をクリックし、［Snapshot Manager］タブを選択します。

3 適切な Snapshot Manager を選択します。

4 右側の［処理 (Actions)］メニューで［有効化 (Enable)］オプションをクリックします。

5 検出プロセスがトリガされ、正常に完了したことを確認します。

6 Snapshot Manager が有効になった後、操作を再度実行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9874

メッセージ: このスナップショットはインデックス付けされません。インデックス付けされていないスナップショットに対する GRT 操作はサポートされません。

説明: インデックス付けされていないスナップショットに対して GRT 操作を実行できません。

推奨処置: インデックス付けされているリカバリポイントを選択して、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9876

メッセージ: Snapshot Manager からの VM の切断に失敗しました。(Failed to disconnect VM from Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager から仮想マシンの接続を切断できませんでした。

推奨処置: `nbwebservice` と Snapshot Manager のログを参照してください。すべての Snapshot Manager サービスが実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9877

メッセージ: Snapshot Manager からのアプリケーションの削除に失敗しました。(Failed to remove application from the Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager からのアプリケーションの削除に失敗しました。

推奨処置: `nbwebservice` と Snapshot Manager のログを参照してください。すべての Snapshot Manager サービスが実行中であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9878

メッセージ: アプリケーション API の構成後に検出が実行されていないため、アプリケーション API の構成解除に失敗しました。(The Unconfigure application API failed due to a discovery was not performed after the application API was configured.)

説明: アプリケーションの `configid` が NetBackup および Snapshot Manager と同期されていないことが原因でアプリケーションの設定後に検出が実行されなかったため、アプリケーションの削除に失敗しました。

推奨処置: 手動で Snapshot Manager の検出を開始するか、スケジュールされた検出操作が完了するまで待機します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9879

メッセージ: アプリケーションに有効なスナップショットが存在するため、アプリケーションの構成解除に失敗しました。(Failed to unconfigure the application as it has active snapshots.)

説明: アプリケーションに有効なスナップショットが存在するため、Snapshot Manager からのアプリケーションの削除に失敗しました。

推奨処置: `nbwebservice` と Snapshot Manager のログを参照し、すべての Snapshot Manager サービスが実行されていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9882

メッセージ: ボリュームのリストア操作中にディスク選択ファイルを作成できませんでした。(Failed to create disks selection file during volume restore operation.)

説明: 内部エラーが発生したため、ディスク選択情報を一時ファイルに保存できませんでした。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが実行されていることを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9883

メッセージ: ボリュームのリストア操作中にディスク選択情報を取得できませんでした。(Failed to retrieve disks selection information during volume restore operation.)

説明: 内部エラーが発生したため、IO チャネルを介したディスク選択のフェッチに失敗しました。

推奨処置: すべての NetBackup サービスが実行されていることを確認し、操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9884

メッセージ: Snapshot Manager サーバーが、指定されたプラグインインスタンスに対して、指定されたクラウドドメインを取得できません。(Snapshot Manager server fails to retrieve the specified cloud domains, against the specified plug-in instance.)

説明: NetBackup で構成されているクラウドプラグインのクラウドドメインを表示できませんでした。

推奨処置: NetBackup サービスおよび Snapshot Manager サーバーのコンテナが実行中であることを確認します。NetBackup プライマリサーバー、Snapshot Manager サーバー、クラウドサービスプロバイダ間の接続を確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード 9885

メッセージ: Snapshot Manager サーバーが、指定されたプラグインインスタンスに対して、指定されたクラウドドメインの種類の情報を取得できません。(Snapshot Manager server fails to retrieve the specified cloud domain type information, against the specified plug-in instance.)

説明: 指定されたクラウドプラグインの指定されたクラウドドメインの種類である `azurecloud` または `awscloud` を取得できません。

推奨処置: NetBackup サービスおよび Snapshot Manager サーバーのコンテナが実行中であることを確認します。NetBackup プライマリサーバー、Snapshot Manager サーバー、クラウドサービスプロバイダ間の接続を確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9886

メッセージ: Snapshot Manager サーバーが、指定されたプラグインインスタンスに対して、指定されたクラウドドメイン属性を取得できません。(Snapshot Manager server fails to retrieve the specified cloud domain attributes, against the specified plug-in instance.)

説明: 指定したクラウドドメイン属性 (`Tenant Id`、`Subscription Id`、`Subscription Name`、`Resource Groups`、`Account Id`、`Role Name` など) を取得できません。

推奨処置: NetBackup サービスおよび Snapshot Manager コンテナが実行中であることを確認します。NetBackup プライマリサーバー、Snapshot Manager サーバー、クラウドサービスプロバイダ間の接続を確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9888

メッセージ: Snapshot Manager から Snapshot Manager の拡張機能にアクセスできません。(Cannot access Snapshot Manager extensions from the Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager から Snapshot Manager の拡張機能にアクセスできません。

推奨処置: NetBackup サービスおよび Snapshot Manager コンテナが実行中であることを確認します。NetBackup マスターサーバー、Snapshot Manager、クラウドサービスプロバイダ間の接続を確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9890

メッセージ: NetBackup サーバーで Snapshot Manager の機能を更新できませんでした。(Failed to update capability of Snapshot Manager in NetBackup server.)

説明: NetBackup サーバーで Snapshot Manager の機能を更新できませんでした。

推奨処置: NetBackup サービスおよび Snapshot Manager が実行中であることを確認します。NetBackup マスターサーバー、Snapshot Manager、クラウドサービスプロバイダ間の接続を確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9891

メッセージ: Snapshot Manager から Snapshot Manager の拡張機能を更新できませんでした。(Failed to update Snapshot Manager extensions from Snapshot Manager.)

説明: Snapshot Manager から Snapshot Manager の拡張機能を更新できませんでした。

推奨処置: NetBackup サービスおよび Snapshot Manager コンテナが実行中であることを確認します。NetBackup マスターサーバー、Snapshot Manager、クラウドサービスプロバイダ間の接続を確認します。操作を再試行します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9894

メッセージ: エージェントのプラグインの詳細を取得できません。

説明: Snapshot Manager から特定のエージェントのプラグインの詳細を取得できません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9895

メッセージ: プラグインの構成の詳細を取得できません。

説明: Snapshot Manager から特定のプラグインの構成の詳細を取得できません。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity のサポートサイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9896

メッセージ: 証明書の生成に失敗したため、NetBackup Snapshot Manager の追加に失敗しました。(Failed to add NetBackup Snapshot Manager due to certificate generation failure.)

説明: 証明書の生成はさまざまな理由で失敗する場合があります。

証明書の生成エラーの例:

- クラウドにある Snapshot Manager が、オンプレミスのファイアウォール内にある NetBackup に接続できない場合があります。
- プライマリサーバーと Snapshot Manager コンテナはプライマリサーバーの DNS を解決できません。
- Snapshot Manager と NetBackup サーバーのクロック時間は同期されないため、生成された証明書は無効です。
- Snapshot Manager のホスト名がメディアサーバーとしてすでに登録されているかどうかを判断します。

推奨処置: 表示されるエラーに応じて、次の処理を 1 つ以上実行します。

- NetBackup の `nbemm` ログを確認して、エラーを具体的に特定します。
- Snapshot Manager とのネットワーク接続を確認します
- `netstat` または同様のネットワーク診断ツールを使用して、ネットワークの問題を解決します。
- `nbcertcmdtool` が、NetBackup プライマリサーバーで実行されている Web サービスに接続して NetBackup 証明書を生成できるかを判断します。
- `ntpdate` コマンドを使用して、NetBackup プライマリサーバーと Snapshot Manager のクロック時間を同期します。
- Docker と Snapshot Manager のホストエントリで DNS エントリを更新します。DNS エントリで `/cloudpoint/openv/etc/hosts` ファイルを更新します。同じ場所にあるメディアサーバーと Snapshot Manager を登録する際は、異なるネットワークカード、IP アドレス、またはホスト名を使用してください。また、メディアサーバーと Snapshot Manager が同じ場所にあり、メディアサーバーがポート 443 を使用している場合、Snapshot Manager はカスタムの SSL ポートを使用する必要があります。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9897

メッセージ: ルート証明書のパスまたはファイルの所有権をサービスユーザーに再割り当てできませんでした。

説明: この問題は、NetBackup サービスユーザーが NetBackup 証明書ストア (`/usr/openv/var/global/cloudpoint`) を所有していないためにこのパスの権限が付与されていないことが原因で発生します。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

- tpconfig コマンドを使用して、Snapshot Manager の構成を追加または変更します。ルートユーザーとして tpconfig コマンドを実行します。この操作により、ルート証明書のパスまたはファイルの所有権を NetBackup サービスユーザーに再割り当てできます。
- NetBackup証明書ストア (/usr/openv/var/global/cloudpoint) の所有権と権限を確認して、NetBackup サービスユーザーに再割り当てします。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9901

メッセージ: 「backupId」の構文が無効です

説明: 'backupId' 識別子に無効な構文があります。

推奨処置: 'backupId' に、testclient_1054264097 などの有効な構文があることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9902

メッセージ: リカバリ要求が指定されていません

説明: 要求の本文が見つかりませんでした。

推奨処置: リカバリ要求の本文を空にすることはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9903

メッセージ: 「vmDisplayName」の文字数は、80 文字以下にしてください

説明: 仮想マシンの表示名が 80 文字を超えることはできません。

推奨処置: 'vmDisplayName' が 80 文字を超えていないことを確認してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9904

メッセージ: 「defaultDiskProvisioning」の値が無効です

説明: 'defaultDiskProvisioning' 識別子の値は、thin、thick-lazy-zeroed、または thick-eager-zeroed にする必要があります。

推奨処置: 'defaultDiskProvisioning' 識別子の値は、thin、thick-lazy-zeroed、または thick-eager-zeroed のいずれかにする必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9905

メッセージ: リカバリ要求で指定された「type」が無効です

説明: リカバリ要求で指定された 'type' 識別子が無効です。

推奨処置: リカバリ要求の 'type' 識別子は、「recoveryRequest」に設定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9906

メッセージ: 「transportMode」の構文が無効です

説明: 'transportMode' 識別子に無効な構文があります。

推奨処置: 'transportMode' 識別子は、コロンで区切った小文字の値で指定する必要があります (例: hotadd:nbd:nbdssl:san)。指定したモードの順序には意味があります。NetBackup は、リカバリが成功するまで、順番に各モードを試します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9907

メッセージ: リカバリ要求では「recoveryPoint」を指定する必要があります

説明: リカバリ要求では 'recoveryPoint' 識別子を指定する必要があります。これは空白にできません。

推奨処置: 'recoveryPoint' 識別子はリカバリ操作に必須です。そのため、リカバリ要求に指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9909

メッセージ: 必要なすべてのイメージのフェッチに失敗しました。

説明: チェーン内の 1 つ以上のイメージが期限切れになっているため、指定されたリカバリポイントのイメージの完全なチェーンをフェッチできません。

推奨処置: リカバリポイントの情報を確認し、有効かつ完全なイメージのセットが存在するリカバリポイントを使用してください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9910

メッセージ: 「datacenter」は空白にできません

説明: `'datacenter'` 識別子にはデータセンターの値を含める必要があります。

推奨処置: `'datacenter'` 識別子のデータセンター値を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9911

メッセージ: 「vmxDatastore」は空白にできません

説明: `'vmxDatastore'` 識別子には vmx データストア形式を含める必要があります。

推奨処置: `'vmxDatastore'` 識別子には vmx データストア形式を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9912

メッセージ: 「diskMediaServer」は空白にできません

説明: `'diskMediaServer'` 識別子はリカバリを実行するために使用して空白にすることはできません。

推奨処置: `'diskMediaServer'` 識別子にディスクメディアサーバーを指定する必要があります。たとえば、`"diskMediaServer" : "media-server.example.com"` のようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9913

メッセージ: 「defaultDiskProvisioning」は空白にできません

説明: リカバリ中に作成されたすべての仮想ディスクに使用される 'defaultDiskProvisioning' 識別子に値が指定されませんでした。

推奨処置: 'defaultDiskProvisioning' 識別子の値を指定する必要があります。有効な値は、thin、thick-lazy-zeroed、または thick-eager-zeroed です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9914

メッセージ: 「esxiServer」は空白にできません

説明: 'esxiServer' 識別子にサーバー名が指定されませんでした。

推奨処置: 'esxiServer' 識別子にサーバー名を指定する必要があります。たとえば、"esxiServer" : "esx-server.example.com" のようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9915

メッセージ: 「vmFolder」は空白にできません

説明: 'vmFolder' 識別子に VM フォルダの名前が指定されませんでした。

推奨処置: 'vmFolder' 識別子に VM フォルダの名前を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9916

メッセージ: 「network」は空白にできません ('network' must not be blank)

説明: 'network' 識別子に仮想マシンネットワークの名前が指定されませんでした。

推奨処置: 'network' 識別子に仮想マシンネットワークの名前を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9917

メッセージ: 「recoveryHost」は空白にできません ('recoveryHost' must not be blank)

説明: `'recoveryHost'` 識別子にリカバリホスト名が指定されませんでした。

推奨処置: `'recoveryHost'` 識別子にリカバリホスト名を指定する必要があります。たとえば、`"recoveryHost" : "recovery-proxy.example.com"` のようにします。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9918

メッセージ: 「resourcePoolOrVapp」は空白にできません ('resourcePoolOrVapp' must not be blank)

説明: `'resourcePoolOrVapp'` 識別子に、リソースプール宛先または vApp のパス名が指定されませんでした。

推奨処置: `'resourcePoolOrVapp'` 識別子にリソースプール宛先または vApp のパス名を指定する必要があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9919

メッセージ: 「transportMode」は空白にできません ('transportMode' must not be blank)

説明: `'transportMode'` 識別子にトランスポートモードの組み合わせが指定されませんでした。

推奨処置: リカバリの実行に使用するトランスポートモードの組み合わせを指定する必要があります。文字列はコロンで区切った小文字の値で指定する必要があります (例: `hotadd:nbd:nbdssl:san`)。指定したモードの順序には意味があります。NetBackup は、リカバリが成功するまで、指定した順序で各モードを試します。どのモードも成功しなかった場合、リカバリは失敗します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9920

メッセージ: 「vCenter」は空白にできません

説明: `'vCenter'` 識別子に vCenter Server 名が指定されませんでした。

推奨処置: vCenter Server 名を指定する必要があります (例: `"vCenter" : "vcenter-server.example.com"`)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9921

メッセージ: 「datacenter」の値は「/」から始まる必要があります。

説明: 「datacenter」パスはスラッシュ (/) で始める必要があります。

推奨処置: 「datacenter」パスはスラッシュ (/) で始める必要があります (例: `"datacenter" : "/example-DC"`)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9922

メッセージ: 「vmFolder」の値は「/」から始まる必要があります。

説明: 「vmFolder」パスはスラッシュ (/) で始める必要があります。

推奨処置: 「vmFolder」パスの先頭にスラッシュ (/) を指定する必要があります (例: `"vmFolder":"/example-DC/vm"`)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9923

メッセージ: 「resourcePoolOrVapp」の値は「/」から始まる必要があります。

説明: 「resourcePoolOrVapp」パスの先頭にスラッシュ (/) が指定されていませんでした。

推奨処置: 「resourcePoolOrVapp」パスの先頭にスラッシュ (/) を指定する必要があります (例: `"resourcePoolOrVapp" : "/example-DC/host/esx.example.com/Resources/example-res-pool"`)。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9926

メッセージ: 入力 JSON が無効です

説明: JSON の入力が無効です。要求された JSON 形式を確認してください。

推奨処置: JSON 要求に無効な構文があります。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9928

メッセージ: 作業負荷が指定されていません

説明: リカバリ API のエンドポイントで作業負荷が指定されていません。

推奨処置: リカバリ API のエンドポイントで次の形式の作業負荷を指定します。

`/recovery/workloads/workload/scenarios/scenario/recover`

たとえば、`/recovery/workloads/vmware/scenarios/full-vm/recover` です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9929

メッセージ: 無効な作業負荷が指定されています

説明: URL に指定された作業負荷はサポートされません。

推奨処置: リカバリ要求の URL に正しい作業負荷を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9930

メッセージ: シナリオが指定されていません

説明: リカバリ API のエンドポイントでシナリオが指定されていません。

推奨処置: リカバリ API のエンドポイントで次の形式のシナリオを指定します。

`/recovery/workloads/workload/scenarios/scenario/recover`

たとえば、`/recovery/workloads/vmware/scenarios/full-vm/recover` です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9931

メッセージ: 無効なシナリオが指定されています

説明: URL に指定されたシナリオはサポートされません。

推奨処置: リカバリ要求の URL に正しいシナリオを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9934

メッセージ: 「filter」に指定する終了日付の値は、開始日付の値より小さくすることはできません

説明: 「filter」に指定した終了日が開始日より前になっています。

推奨処置: 「filter」に、開始日より後の終了日を指定します。次の例を参照してください。

```
"filter" : "backupTime ge '2017-11-20T23:20:50Z' and backupTime le '2018-12-20T23:20:50Z'"
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9935

メッセージ: 「filter」に指定する日時の値には、有効な ISO 8601 形式を使用する必要があります

説明: 「filter」に指定された日時の値が、有効な ISO 8601 形式ではありません。

推奨処置: 有効な ISO 8601 形式を使用して、「filter」に日時の値を指定します。ISO 8601 形式について詳しくは、ISO 8601 形式の説明を参照してください。有効な ISO 8601 形式については、次の例を参照してください。

```
"filter" : "backupTime ge '2017-11-20T23:20:50Z' and backupTime le '2018-12-20T23:20:50Z'"
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9936

メッセージ: 「filter」に指定する日時の値には、現在より後の値を使用することはできません

説明: 「filter」に指定した日時の値が、現在の時刻より後になっています。

推奨処置: 現在の時刻より前の日時の値を「filter」に指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9937

メッセージ: リカバリ要求では「backupId」または「client」のいずれかを指定する必要があります

説明: リカバリ要求では「backupId」または「client」を指定する必要があります。

推奨処置: リカバリ要求に「backupId」または「client」を指定します。リカバリ要求には、「backupId」または「client」の名前が必要です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9938

メッセージ: 「client」または「filter」と、「backupId」を同時に指定することはできません

説明: 「backupId」に「client」または「filter」が同時に指定されました。

推奨処置: 「backupId」には、「client」または「filter」を同時に指定しないでください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9939

メッセージ: 「filter」の構文が無効です

説明: 「filter」フィールドに無効な構文があります。

推奨処置: 有効なOdata 構文を使用して「filter」フィールドを指定します。次の例を参照してください。

```
"filter" : "backupTime ge '2017-11-20T23:20:50Z' and backupTime le '2018-12-20T23:20:50Z'"
```

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9940

メッセージ: 「sourceAsset」または「filter」と、「backupId」を同時に指定することはできません

説明: 「backupId」に「sourceAsset」または「filter」が同時に指定されました。

推奨処置: 「sourceAsset」または「filter」なしで「backupId」を指定します。リカバリ要求が受け付けるのは「backupId」のみです。「sourceAsset」または「filter」を同時に指定することはできません。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9941

メッセージ: リカバリ要求では「attributes」を指定する必要があります

説明: リカバリ要求に「attributes」が指定されませんでした。

推奨処置: リカバリ要求に「attributes」を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9942

メッセージ: リカバリ要求では「backupId」または「sourceAsset」のいずれかを指定する必要があります

説明: リカバリ要求に「backupId」または「sourceAsset」が指定されませんでした。

推奨処置: リカバリ要求に「backupId」または「sourceAssetId」を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9944

メッセージ: リカバリを実行するために必要な一致するバックアップイメージが見つかりません

説明: リカバリを実行するための、一致するバックアップイメージが見つかりませんでした。

推奨処置: クライアントが存在することを確認し、存在する場合はそれが少なくとも 1 回バックアップされたことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9946

メッセージ: 「filter」に無効なフィールドが指定されています

説明: 「filter」に無効なフィールドが指定されました。

推奨処置: 指定されたフィールドで「filter」が許可されていることを確認します。許可されているフィルタ操作について詳しくは、API のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9947

メッセージ: フィールドに無効な比較オペレータが指定されています

説明: 指定されたフィールドでは、指定した比較オペレータが許可されません。

推奨処置: 指定した比較オペレータがフィールドでサポートされていることを確認します。サポート対象の各フィールドで許可されているオペレータについて詳しくは、API のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9948

メッセージ: 「filter」ではグループ化オペレータは許可されていません

説明: 「filter」ではグループ化オペレータは許可されていません。

推奨処置: 「filter」ではグループ化オペレータは許可されていません。許可されているフィルタ操作について詳しくは、API のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9949

メッセージ: 「filter」に無効な論理オペレータが指定されています

説明: 「filter」では論理オペレータは許可されていません。

推奨処置: 「filter」では論理オペレータは許可されていません。許可されているフィルタ操作について詳しくは、API のマニュアルを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9968

メッセージ: リカバリ要求の一部としてリカバリオブジェクトが指定されていません。(No recovery object specified as part of the recovery request.)

説明: リカバリ要求の `recoveryObject` フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: `recoveryObject` フィールドが指定されており、空でないことを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9969

メッセージ: 無効なリカバリオブジェクトが指定されました。(Invalid recovery object specified.)

説明: `recoveryObject` フィールドの値が無効か、形式が不正です。

推奨処置: `recoveryObject` の値がオブジェクトであり、必要なすべてのフィールド (`credentials` と `assetId`) が含まれていることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9970

メッセージ: リカバリ要求の結果の取得に失敗しました。(Failed to get the result of the recovery request.)

説明: Web サービスが `NBARS` に接続できない場合、リカバリを実行できません。

推奨処置: NetBackup サービスが実行されており、要求の構文が適切であることを確認します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9971

メッセージ: `recoveryPoint` フィールドを指定する必要があります。(The recoveryPoint field must be specified.)

説明: この操作により、完全にデータベースをリカバリする場合は、リカバリポイントの `recoveryPoint` フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: `recoveryPoint` フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。また、URL の完全なデータベースのリカバリを行うことを確認します。`recoveryPoint` フィールドにリカバリポイントを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9972

メッセージ: `assetId` フィールドを指定する必要があります。(The assetId field must be specified.)

説明: リカバリオブジェクトの `assetId` フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: assetId フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。assetId フィールドに資産 ID を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9973

メッセージ: domain フィールドを指定する必要があります。(The domain field must be specified.)

説明: リカバリオブジェクトの domain フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: domain フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。domain フィールドに domain を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9974

メッセージ: user フィールドを指定する必要があります。(The user field must be specified.)

説明: リカバリオブジェクトの user フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: user フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。user フィールドにユーザー名を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9975

メッセージ: password フィールドを指定する必要があります。(The password field must be specified.)

説明: リカバリオブジェクトの password フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: password フィールドが指定されており、空の文字列でないことを確認します。password フィールドにパスワードを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9976

メッセージ: alternateFileLocation フィールドのオプションを 1 つのみ指定する必要があります。(Exactly one option in the alternateFileLocation field must be specified.)

説明: 代替ファイル場所のオプションには、2 つのフィールドがあります (代替リカバリオプションのサブセットの例: renameAllFilesToSameLocation、renameEachFileToDifferentLocation)。指定できるのは、これらのオプションのいずれか 1 つのみです。

推奨処置: いずれか 1 つのオプションのみが指定されていることを確認します。alternateFileLocation フィールドに、代替ファイル場所のオプションを 1 つのみ指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9977

メッセージ: renameAllFilesToSameLocation フィールドを指定する必要があります。(The renameAllFilesToSameLocation field must be specified.)

説明: 代替ファイル場所のオプションの renameAllFilesToSameLocation フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: renameAllFilesToSameLocation フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。renameAllFilesToSameLocation フィールドに、すべてのファイルのリストア先を指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9978

メッセージ: renameEachFileToDifferentLocation フィールドを指定する必要があります。(The renameEachFileToDifferentLocation field must be specified.)

説明: 代替ファイル場所のオプションの renameEachFileToDifferentLocation フィールドは必ずしも指定する必要はありませんが、指定する場合は空白にはできません。

推奨処置: renameEachFileToDifferentLocation フィールドが指定されている場合は、リスト項目のいずれのフィールドも空の文字列でないことを確認します。renameEachFileToDifferentLocation フィールドに、ファイル名と代替パスのリストを指定します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9979

メッセージ: restorePriority フィールドを指定する必要があります。(The restorePriority field must be specified.)

説明: リカバリジョブオプションの restorePriority フィールドを指定する必要があります。

推奨処置: restorePriority フィールドが指定されている場合は、このフィールドが空の文字列でないことを確認します。restorePriority フィールドに、有効なリストアの優先度を指定します。有効な値は 0 から 99999 です。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9980

メッセージ: 代替リストアを行うには、destinationAssetId パラメータが必要です。(The destinationAssetId parameter is required for alternate restore.)

説明: ALTERNATE の種類のリカバリに対して、宛先の資産 ID の値が指定されていません。

推奨処置: 宛先の資産 ID を指定し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9981

メッセージ: 指定されているパラメータ「destinationAssetId」は、元の場所にリストアする場合には無効です。(Invalid parameter destinationAssetId provided for restore to original location.)

説明: 宛先の資産 ID パラメータは元の場所にリストアする場合は必要ありません。

推奨処置: 宛先の資産 ID パラメータを削除し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9982

メッセージ: イメージコピーのリカバリ要求に無効な値が含まれています。(Recovery request contains an invalid value for the image copy.) 1 から 10 の値を指定してください。(Provide a value between 1 to 10.)

説明: イメージコピーの値が範囲外です。

推奨処置: イメージコピーの値を 1 から 10 の範囲で指定します。プライマリコピーについては、値は指定せず、この手順をスキップしてください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9983

メッセージ: リカバリ要求で無効な資産 ID が指定されました。(Invalid asset ID specified in the recovery request.)

説明: データベースをリカバリするには、有効な資産 ID が必要です。

推奨処置: 資産 ID が正しいことを確認します。この問題が解決しない場合は、Cohesity Technical Supportに追加のトラブルシューティング情報をお問い合わせください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9984

メッセージ: 指定されているパラメータ「`destinationAssetId`」は、ロールバックリカバリには無効です。(Invalid parameter destinationAssetId provided for rollback recovery.)

説明: 指定されているパラメータ「`destinationAssetId`」は、ロールバックリカバリには無効です。

推奨処置: 宛先の資産 ID パラメータを削除し、操作を再試行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9986

メッセージ: GRT 要求の入力の検証に失敗しました。(Input validation of GRT request failed.)

説明: この問題は、GRT リストア要求ペイロードに入力された次のいずれかの入力が原因で発生します。

- 入力のリストア済みファイルリストが NULL または空です。
- リストアのバックアップ ID が無効です。
- 属性キーが指定されていません。
- リカバリポイントキーは指定されていません。

推奨処置: 詳しくは、NetBackup クラウドファイルフォルダのリストア要求 API のマニュアルとサンプルペイロードを参照してください。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9990

メッセージ: ターゲットホストのステージング場所のパスに ASCII 以外の文字が含まれています。(The target host staging location path contains non-ASCII characters.)

説明: ターゲットホストのステージング場所のパスは ASCII 文字のみをサポートしています。

推奨処置: ACSII 文字を使用して、ターゲットホストのステージング場所を指定します。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9991

メッセージ: `backupId`、`sourceAsset`、`filter`を、`providerRecoveryPointId`と同時に指定することはできません。

説明: リカバリポイントを検証できません。

推奨処置: `providerRecoveryPointId`が指定されている場合、API 呼び出しで `backupId`、`sourceAssetId`、`filter`を指定することはできません。このオプションはプロバイダによって生成されたリカバリポイントにのみ適用されます。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9992

メッセージ: リソースが見つからないため、リカバリを実行できません。

説明: 要求されたリソースが見つからないため、リカバリ操作の実行に失敗しました。

推奨処置: 操作を再試行しても問題が解決しない場合は、support.cohesity.com にアクセスしてください。Cohesity Technical Support の Web サイトでは、この問題のトラブルシューティングについての追加情報を提供しています。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9993

メッセージ: 操作が制限されているため、リカバリを実行できません。

説明: リカバリを実行するための適切な権限がユーザーに付与されていません。

推奨処置: 要求された操作を実行するには、ルートユーザーまたは管理者であるか、RBAC を通じて適切な権限が付与されている必要があります。NetBackup システム管理者にお問い合わせください。

この状態コードに関する Cohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を確認するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9997

メッセージ: スナップショットとインデックスからのバックアップは、Azure ディスクの暗号化が有効な仮想マシンではサポートされていません。(Backup from snapshot and indexing is not supported for Azure disk encryption enabled virtual machine.)

説明: Azure では、Azure ディスクの暗号化が有効な仮想マシンに対するスナップショットとインデックスからのバックアップはサポートされていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

Azure ディスクの暗号化が有効な仮想マシンでは、スナップショットとリストアのみがサポートされます。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup の状態コード: 9998

メッセージ: スナップショットは、Azure ディスクの暗号化が有効なボリュームではサポートされていません。(Snapshot is not supported for Azure disk encryption-enabled volume.)

説明: Azure では、Azure ディスクの暗号化が有効なボリュームに対するスナップショットはサポートされていません。

推奨処置: 必要に応じて次を実行します。

単一のボリュームスナップショットはサポートされません。仮想マシン全体のスナップショットを実行します。

この状態コードに関するCohesity Technical Support Web サイトのテクニカルノートとその他の情報を表示するには、ここをクリックしてください。

NetBackup KMS の状態コード

NetBackup キーマネージメントサービス (KMS) の状態コード (番号順) の完全なリストを次に示します。

メモ: エラーメッセージ内の「%」記号は、特定のコマンドを実行したときに表示される場合があるエラー文字列のプレースホルダです。

各コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

NetBackup KMS の状態コード: 1

メッセージ: ORB の初期化に失敗しました

説明: 内部エラー

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 2

メッセージ: 新しいキーグループの作成に失敗しました

説明: 同じ名前のキーグループがすでに存在するか、キーグループ名がサポートされていません。

推奨処置: 異なる名前を使って別のキーグループを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 3

メッセージ: 新しいキーの作成に失敗しました

説明: キーがすでに存在するか、キー名がサポートされていません

推奨処置: 有効なグループ名を指定するか、異なる名前で別のキーを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 4

メッセージ: キーグループの詳細の変更に失敗しました (Failed to modify Key Group details)

説明: 変更は、次の理由により失敗する場合があります。

- キーグループが存在しない。
- 指定した名前のキーグループがすでに存在する。

推奨処置: 有効なキーグループ名を指定するか、異なる名前で別のキーグループを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 5

メッセージ: キーの詳細の変更に失敗しました

説明: キーが存在しません。指定した名前がすでに存在します。

推奨処置: 有効なキー名を指定するか、異なる名前で別のキーを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 6

メッセージ: キーグループの削除に失敗しました

説明: 削除できるのは空のキーグループだけです。

推奨処置: そのグループからすべてのキーを削除してから、そのキーグループを削除してみてください。必要な場合は、空でない場合でもキーグループを強制的に削除できます。`-force` オプションを使って、キーグループを削除します。

NetBackup KMS の状態コード: 7

メッセージ: キーグループの詳細のフェッチに失敗しました

説明: 必要なキーグループがデータベースに存在しません。

推奨処置: 有効なキーグループ名を指定し、再試行してください。

NetBackup KMS の状態コード: 8

メッセージ: キーの詳細のフェッチに失敗しました

説明: 必要なキーがデータベースに存在しません。

推奨処置: 有効なキー名を入力してください。

NetBackup KMS の状態コード: 9

メッセージ: キーストアの統計のフェッチに失敗しました

説明: この失敗には次の原因が考えられます。

- キーストア(KMS データベース)が存在しない
- KMS サービスが停止している

推奨処置: KMS データベース(キーストア)を作成します。KMS サービスを再起動します。

NetBackup KMS の状態コード: 10

メッセージ: ホストマスターキーの変更に失敗しました

説明: パスフレーズまたは ID が正しくありません。

推奨処置: 正しい ID とパスフレーズを指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 11

メッセージ: キーの保護キーの変更に失敗しました

説明: パスフレーズまたは ID が正しくありません。

推奨処置: 正しい ID とパスフレーズを指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 12

メッセージ: OBV の ORB での登録に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 13

メッセージ: 要求でタイムアウトが発生しました。NBSL サービスが停止している可能性があります。

説明: タイムアウトは次の理由により発生する場合があります。

- ユーザーに必要な権限がない
- NBSL サービスが停止している

推奨処置: NBSL サービスを再起動してください。

NetBackup KMS の状態コード: 14

メッセージ: NBSL とのセッションの確立に失敗しました

説明: サービスが NBSL とのセッションを確立できません。NBSL セッションへの無効な参照です。

推奨処置: NBSL サービスを再起動してください。

NetBackup KMS の状態コード: 15

メッセージ: ModifiableFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります。

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 16

メッセージ: ModifiableFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 17

メッセージ: QueryableFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 18

メッセージ: QueryableFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 19

メッセージ: ControlFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります。

説明: 一部の KMS API を呼び出すことができません。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 20

メッセージ: ControlFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 21

メッセージ: EximFacet インスタンスの取得に失敗しました。KMS サービスが停止している可能性があります。

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 22

メッセージ: EximFacet インスタンスの制限に失敗しました

説明: 内部エラー。

推奨処置: KMS サービスを再起動してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 23

メッセージ: 新しいキーグループが正常に作成されました

説明: 新しいキーグループが正常に作成されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 24

メッセージ: 新しいキーが正常に作成されました

説明: 新しいキーが正常に作成されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 25

メッセージ: キーグループの詳細が正常に更新されました

説明: キーグループの詳細が正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 26

メッセージ: キーの詳細が正常に更新されました

説明: キーの詳細が正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 27

メッセージ: キーグループが正常に削除されました

説明: キーグループが正常に削除されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 28

メッセージ: キーグループが見つかりませんでした

説明: 指定した名前のキーグループがないか、そのようなキーグループが存在しません。

推奨処置: 必要なキーグループを作成するか、正しい名前でキーグループを一覧表示してください。

NetBackup KMS の状態コード: 29

メッセージ: キーが見つかりませんでした

説明: 一覧表示するキーがデータベースにありません。

推奨処置: 最初に、必要なキーを作成してください。

NetBackup KMS の状態コード: 30

メッセージ: ホストマスターキーが正常に更新されました

説明: ホストマスターキーが正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 31

メッセージ: キーの保護キーが正常に更新されました

説明: キーの保護キーが正常に更新されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 32

メッセージ: 抜けているか、または重複したオプション: %s

説明: オプションが欠落しているか、重複しています。

推奨処置: 欠落しているオプションを使用または追加するか、重複したオプションを削除してください。

すべての NetBackup コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

NetBackup KMS の状態コード: 33

メッセージ: すべてのオプションは相互排他的です

説明: 使ったオプションは相互排他的です。

推奨処置: 単一のオプションを使ってください。

NetBackup KMS の状態コード: 34

メッセージ: %s および %s オプションは相互排他的です

説明: %s と %s オプションは相互排他的です。

推奨処置: 単一のオプションを使ってください。

NetBackup KMS の状態コード: 35

メッセージ: オプションまたは値が無効です: %s

説明: このコンテキスト(コマンド)では、オプション %s は有効ではありません。

推奨処置: このコンテキスト(コマンド)に有効なオプションを指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 36

メッセージ: 不明なオプションが使用されています

説明: 使ったオプションが有効ではありません。

推奨処置: オプションの値を確認するか(スペルミスの可能性もあります)、有効な値を指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 37

メッセージ: %s の値が無効です: %s

説明: 暗号値が有効ではありません。

推奨処置: 有効な値を指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 38

メッセージ: %s の値が無効です: %s

説明: 状態値が有効ではありません。

推奨処置: 有効な値を指定してください。

NetBackup KMS の状態コード: 39

メッセージ: 操作が無効です

説明: 無効なコマンドを使いました。

推奨処置: 『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を確認してください。

NetBackup KMS の状態コード: 40

メッセージ: キーグループの詳細の取得に失敗しました

説明: 指定した名前のキーグループが KMS データベースに存在しません。

推奨処置: そのキーグループが KMS データベースに存在するかどうかを確認してください。

NetBackup KMS の状態コード: 41

メッセージ: ホストマスターキー ID の取得に失敗しました

説明: ホストマスターキーには、KMS データを暗号化して保護する暗号化キーが含まれます。

推奨処置: 有効なキーストアファイルがあることを確認してください。

NetBackup KMS の状態コード: 42

メッセージ: キーの保護キー ID の取得に失敗しました

説明: 保護キーは、キーを暗号化するために使われます。この操作は、キーストアが初期化されている場合または初期化されていない場合に呼び出される場合があります。この呼び出しが正常に実行されるには、有効なキーストアファイルが必要です。

推奨処置: 有効なキーストアファイルがあることを確認してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに問い合わせてください。

NetBackup KMS の状態コード: 44

メッセージ: KMS サービスマネージャインスタンスの取得に失敗しました

説明: 次の理由で、KMS サービスマネージャに接続できません。

- KMS サービスマネージャがビジー状態
- KMS サービスマネージャが再起動した
- KMS サービスマネージャが停止している

推奨処置: 数分後に再試行してください。KMS サービスが停止している場合は、サービスを再起動してください。

NetBackup KMS の状態コード: 45

メッセージ: キーストアの静止に失敗しました

説明: 静止では、キーストアがバックアップの読み取り専用モードに設定されます。

推奨処置: 数分後に再試行してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 46

メッセージ: キーストアの静止解除に失敗しました

説明: 静止では、キーストアがバックアップの読み取り専用モードに設定されます。静止解除の操作では通常の状態にリストアされます。

推奨処置: 数分後に再試行してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 47

メッセージ: キーストアの静止状態の取得に失敗しました

説明: キーストアの静止操作に失敗しました。

推奨処置: 数分後に再試行してください。問題が解決しない場合は、NetBackup サポートに連絡し、解決に役立つ関連資料を送付してください。

NetBackup KMS の状態コード: 48

メッセージ: キーストアが正常に静止しました

説明: 要求された操作では、問題は検出されませんでした。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 49

メッセージ: キーストアが正常に静止解除されました

説明: 要求された操作では、問題は検出されませんでした。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 50

メッセージ: 認識されているタグでのキーのリカバリに失敗しました

説明: 指定したタグを使って、キーをリカバリできません。単一の KMS データベースは同じタグの 2 つのキーを持つことができません。キー(指定したタグを持つ)がデータベースにすでにデータベースに存在する可能性があります。

推奨処置: 既存のキーを削除し、要件に応じてキーをリカバリするか、キーのリカバリ操作をキャンセルしてください。

NetBackup KMS の状態コード: 51

メッセージ: キーが正常にリカバリされました

説明: 必要なキーが正常にリカバリされました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 52

メッセージ: キーの削除に失敗しました

説明: キーの削除に失敗しました。正しいキー(`-keyname`)とキーグループ(`-kgname`)の組み合わせを指定しなかった可能性があります。

推奨処置: 正しいキーとキーグループの組み合わせを指定していることを確認してから、キーの削除を再試行してください。

NetBackup KMS の状態コード: 53

メッセージ: キーが正常に削除されました

説明: キーが正常に削除されました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 54

メッセージ: 認証に失敗しました。NBAC クレデンシャルを確認してください

説明: ユーザーに必要な権限がない可能性があります。

推奨処置: この NBAC 操作に対して正しいアクセス権を持つアカウントを使ってください。ユーザーを適切な NBAC グループに追加してから、再試行することもできます。

NetBackup KMS の状態コード: 55

メッセージ: この操作でのアクセスが拒否されました。NBAC 権限を確認してください

説明: ユーザーに必要な権限がない可能性があります。

推奨処置: この NBAC 操作に対して正しいアクセス権を持つアカウントを使ってください。ユーザーを適切な NBAC グループに追加してから、再試行することもできます。

NetBackup KMS の状態コード: 56

メッセージ: 認証に失敗しました。NBAC クレデンシャルを確認してください

説明: ユーザーに必要な権限がない可能性があります。

推奨処置:

NetBackup KMS の状態コード: 57

メッセージ: 変更対象がありません

説明: ユーザーコマンドでオプションの無効な組み合わせが使われています。

推奨処置: コマンドのオプションの組み合わせを検証してください。

NetBackup KMS の状態コード: 58

メッセージ: キーストアを正常にエクスポートしました

説明: キーストアが正常にエクスポートされました。

推奨処置: 必要な操作はありません。

NetBackup KMS の状態コード: 59

メッセージ: キーストアのエクスポートに失敗しました

説明: 次の理由でエラーが発生します。

- キーリストファイルを開けない
- キーストアファイルをエクスポートできない
- 指定したファイルがすでに存在する
- セキュアキーストアファイルを開けない
- セキュアキーストアファイルに書き込めない

推奨処置: エクスポートしたファイルの保存先の権限を調べてください。ファイルがすでに存在する場合は、異なる名前を使ってエクスポートしてください。

NetBackup KMS の状態コード: 60

メッセージ: キーストアファイルを正常にインポートしました

説明: キーストアファイルが正常にインポートされました。

推奨処置: 処置は必要ありません。

NetBackup KMS の状態コード: 61

メッセージ: キーストアファイルを KMS データベースにインポートできませんでした

説明: 次の理由により、キーストアのインポートが失敗します。

- セキュアキーストアファイルを開くことができない
- セキュアキーストアファイルの内容を読み取るときにエラーが発生した (不正な形式)
- キーストアファイルのインポートに失敗しました。

インポート時に、[-preserve_kgname] オプションを使ってキーグループをインポートする場合、そのグループが KMS にすでに存在すると、操作全体が失敗します。

NetBackup KMS には、100 キーグループという制限が存在します。各グループには、30 キーという制限が存在します。100 を超えるキーグループをインポートすると、操作が失敗します。

推奨処置: シナリオに応じて、次の処理を実行します。

- 有効なキーストアファイルが存在することを確認します。
- 既存のキーグループを削除または名前変更するか、[-preserve_kgname] オプションを除外して、インポート操作を再実行する必要があります。
- 不要な既存のキーグループを削除して、インポート操作を再実行する必要があります。

NetBackup KMS の状態コード: 62

メッセージ: ファイルの読み取りに失敗しました。(Failed to read file.) (Failed to read file.) 形式を確認して、再試行してください。

説明: ファイルの形式が不正であったため、読み取り操作が失敗しました。

推奨処置: 形式を確認して、再試行してください。

NetBackup KMS の状態コード: 63

メッセージ: キーをリカバリするには Salt 値を指定する必要があります

説明: 7.7 以降の場合、新しいキーを作成すると salt が常に生成されます。キーをリカバリする場合は、対応する同一の salt 値を指定する必要があります。

推奨処置: リカバリでは、削除したキー (NetBackup 7.7 以降のバージョンで作成したキーの場合) の salt 値を指定する必要があります。

NetBackup KMS の状態コード: 1287

メッセージ: 無効な文字が名前に含まれています。%s¥n --有効な文字セットは次のとおりです: A-Z、a-z、0-9、_、-、:、. および空白 --名前の最初は A-Z、a-z、0-9 のいずれかの文字にしてください

説明: 指定した名前でサポートされていない文字が検出されたか、名前が許可された形式ではありません。

推奨処置: 正しい形式で名前を指定してください。

2

Media Manager の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- Media Manager の状態コード

Media Manager の状態コード

これらの状態コードは、多くのメディアおよびデバイスの管理コマンドの終了状態やコマンドの出力、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェース、およびシステムログやデバッグログに表示されます。

Media Manager の状態コード 1

メッセージ: 要求が完了しました (request completed)

説明: 要求された操作が完了しました。この操作は、特定のタスクを構成する複数の関連操作の一部であった可能性があります。

推奨処置: なし

Media Manager の状態コード 2

メッセージ: システムエラー (system error)

説明: システムコールが失敗しました。この状態コードは、対応する状態コードが存在しない、一般的なシステムコールが失敗した場合に使用されます。

推奨処置:

- コマンドまたはインターフェースに出力されたその他のエラーメッセージを確認して、失敗したシステムコールを特定します。

- システムアプリケーションログで、エラーメッセージおよび警告メッセージを確認します。
- システムの仮想メモリが不足していないことを確認します。仮想メモリに問題がある場合、使用していないアプリケーションを終了するか、仮想メモリの量を増やします。

  Windows で仮想メモリを増やすには、示されている順で次の操作を行います。

  - [コントロール パネル]を表示します。
  - [システム]をダブルクリックします。
  - [パフォーマンス]タブで、[仮想メモリ]の設定値を増やします。
- すべての製品バイナリが適切にインストールされていることを確認します。
- vmps を実行して、予想外のメディアおよびデバイスの管理プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されます。停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなど、さらに深刻な問題を表す場合があります。

Media Manager の状態コード 3

メッセージ: ユーザー ID はスーパーユーザーではありませんでした (user ID was not superuser)

説明: root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を所有しないユーザーまたはプロセスによって、プロセスが起動されました。

推奨処置: 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに、root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 4

メッセージ: コマンドの使用方法が無効 (invalid command usage)

説明: 不適切なオプションを指定してメディアおよびデバイスの管理コマンドが実行されたか、製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 該当するコマンドの使用方法の説明を確認して、新しいプロセスを起動するために送信されたパラメータと比較します。
- すべてのメディアおよびデバイスの管理バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 5

メッセージ: デーモンのリソースがビジーです (daemon resources are busy)

説明: リソースがビジー状態のため、要求された操作を処理できません。

推奨処置: 要求された操作で使用されるすべてのリソースの状態を確認します。ロボットのインベントリ要求の場合、インベントリ操作が適切な時間内に完了することを確認します。

Media Manager の状態コード 6

メッセージ: プロトコル要求が無効 (invalid protocol request)

説明: ロボットプロセスまたはオペレータ要求プロセスに、無効な要求が送信されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のコンポーネント (vmd、nbemm、ローカルホストやリモートホストのロボットプロセスなど) を特定します。その後、すべてのメディアとデバイスの管理バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 7

メッセージ: デーモンが終了しました (daemon terminated)

説明: プロセスが動作中でないか、イベントやシグナルによって、または認証されたユーザーやプロセスからの要求の直接的な結果としてプロセスが終了しています (または終了しました)。

推奨処置: 対象の製品コンポーネントが必要であるにもかかわらず終了されている場合、対象のホストでデーモンまたはサービスを再起動します。

Media Manager の状態コード 8

メッセージ: 無効なメディア ID (invalid media ID)

説明: メディア関連の操作を実行するプロセスで、空のメディア ID または不適切な形式のメディア ID が検出されました。または、要求されたとおりに操作できないメディア ID が渡されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 要求した位置のメディア ID が空でないことを確認します。
- 指定したメディア ID に、有効な文字 (英数字、ピリオド (.)、プラス記号 (+) およびアンダースコア (_)) だけが含まれていることを確認します。ハイフン (-) も有効な文字ですが、バーコードの先頭には使用できません。
- ライブラリからのメディアの取り出しを指定した場合、メディアが EMM データベースに存在し、適切なロボット番号に関連付けられていることを確認します。
- メディア ID の長さが 1 文字から 6 文字であることを確認します。
- 有効なメディアおよびシードを指定していることを確認します。
- 操作が ACS ロボットのインベントリ要求である場合、`robtest` ユーティリティを使用して、問い合わせボリュームリストおよび問い合わせクリーニングボリュームリストの両方で、ACS インターフェースによってクリーニングメディア ID が戻されることを確認します。

Media Manager の状態コード 9

メッセージ: 無効なメディア形式 (invalid media type)

説明: メディア関連の操作を実行するプロセスで、検出されたメディア形式の識別子が、不明であるか、存在しないかまたは互換性がありません。

推奨処置:

- ロボット形式 ACS のロボットインベントリを実行する場合、ロボット制御ソフトウェアから戻されるベンダーのメディア形式が、インストールされている NetBackup のバージョンでサポートおよび認識されていることを確認します。
- コマンドラインインターフェースを直接使用する場合、`vmadd(1m)` コマンドラインのマニュアルに従って、有効なメディア形式を渡していることを確認します。
- クリーニングメディアだけに有効な操作を、クリーニングテープに対応しないメディア ID に要求していないことを確認します。
- すべてのバーコード規則のメディア形式が有効なメディア形式であるか、デフォルトのメディア形式であることを示す序数 0 (ゼロ) であることを確認します。

Media Manager の状態コード 10

メッセージ: 無効なバーコード (invalid barcode)

説明: プロセスがメディア関連の操作を実行したときに、不明なバーコード、消失したバーコード、非互換なバーコードのいずれかがありました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 要求した位置のバーコードが空でないことを確認します。
- 指定したバーコードに有効な文字のみが含まれていることを確認します。有効な文字は英数字、ピリオド (.)、プラス記号 (+)、アンダースコア (_) です。ハイフン (-) も有効な文字ですが、メディア IDの先頭には使用できません。
- バーコードの文字数がそのロボット形式で利用できる最大数を超えていないことを確認します。
- すべてのバーコード規則のバーコードタグが、有効なサポート対象のバーコード形式のサブセットであることを確認します。

Media Manager の状態コード 11

メッセージ: 無効な説明 (invalid description)

説明: ボリューム説明の長さが ASCII 文字で 25 文字を超えたか、印字不可能な (unprintable) 文字が含まれています。

推奨処置: ボリュームレコードまたはバーコード規則レコードを追加または変更する場合、説明フィールドの内容が 25 文字以下の印刷可能な ASCII 文字であることを確認します。

Media Manager の状態コード 12

メッセージ: 無効なロボット形式 (invalid robot type)

説明: 要求された操作で、指定されたロボット形式またはボリュームのロボット形式が異なります。現在の構成で操作を実行するために必要なロボット形式と異なっています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームのメディア形式がサポートされているロボット形式を指定します。
- EMM データベースを調べて、指定したロボット形式が、指定したロボット番号を持つすべてのボリュームのロボット形式と一致することを確認します。

- 要求された操作にロボット形式が必要な場合、ロボット形式を指定していることを確認します。

Media Manager の状態コード 13

メッセージ: 無効なロボット番号 (invalid robot number)

説明: ロボット番号が指定されていないか、または指定可能な範囲内にありません。

推奨処置:

- ロボット番号を 0 から 32767 の範囲で指定します。
- vmphyinv を実行中の場合、グローバルデバイスデータベースが更新されていないか、または指定したロボット番号が構成されていない可能性があります。

Media Manager の状態コード 14

メッセージ: 無効なロボットホスト (invalid robot host)

説明: 要求された操作で、ロボット制御ホストが次のようになっています。

- 指定されていません。
- 指定されたロボット形式に対して有効ではありません。
- 使用可能な形式ではありません。
- ロボット制御ホスト名の長さが許容範囲を超えています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 可能な場合、そのような要求がサポートされている他のユーザーインターフェースを使用して、要求された操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 15

メッセージ: 無効なボリュームグループ (invalid volgroup)

説明:

要求された操作で、ボリュームグループが次のようになっています。

- 指定されていない
- 使用可能な形式でない
- ボリュームグループ名の長さが許容範囲を超えている

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 必要な場合、ボリュームグループを指定して、次のことを確認します。
  - ASCII 文字で 25 文字以下である
  - 空白が含まれていない
  - 印字不可能な文字が含まれていない

Media Manager の状態コード 16

メッセージ: 無効なロボット coord1 (invalid robot coord1)

説明: 要求された操作で、ロボットスロット番号が存在していないか、範囲外です。または、ボリュームが有効なロボットライブラリスロットに存在しない場合に、ボリュームグループの位置情報を移動しようとしました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 必要な場合、指定したロボット形式で指定可能な範囲内で、スロット番号 (ロボット座標 1) を指定します。

Media Manager の状態コード 18

メッセージ: 要求されたメモリを割り当てることができません (cannot allocate requested memory)

説明: システムメモリの割り当てが失敗しました。このエラーは、利用可能なシステムメモリが不足している場合に発生します。システムの物理メモリおよび仮想メモリが不足して、プロセスの現在の負荷を処理できない可能性があります。

推奨処置: 多くのメモリを消費する不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

Media Manager の状態コード 19

メッセージ: 無効なデータベースホスト (invalid database host)

説明: 要求された操作で、データベースホストが存在しないか、無効です。または、要求の送信先ホストで実行されているバージョンの製品で、要求された操作がサポートされていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 要求された操作がサポートされているバージョンの nbemm (NetBackup Enterprise Media Manager) またはオペレータ要求デーモン (またはプロセス) を実行している有効な EMM データベースホストを指定します。

Media Manager の状態コード 20

メッセージ: プロトコルエラー (protocol error)

説明: メッセージ通信 (ハンドシェーク) が正しくありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。空白を使用できないフィールドに、空白が使用されていないことを確認します。

Media Manager の状態コード 21

メッセージ: デーモンロックファイルを取得できません (cannot obtain daemon lockfile)

説明: vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) またはオペレータ要求デーモン (またはサービス) が、内部ソフトウェアロックを取得できません。

推奨処置: ロックファイル /usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc¥vmd.lock (Windows の場合) およびロックファイルが含まれるディレクトリの存在および権限を確認します。次のディレクトリまたはフォルダを作成し、必要に応じて権限を調整して、vmd がロックを取得できるようにします。/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock (UNIX と Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc¥vmd.lock (Windows の場合)。

Media Manager の状態コード 22

メッセージ: <CatalogBackup> プールでは、プール形式の変更を実行できません (pool type change is not allowed for <CatalogBackup> pool)

説明: デフォルトの CatalogBackup プールに対してカタログバックアップ属性の削除が試行されました。

推奨処置: この操作で適切なプール名が使用されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 23

メッセージ: データベースサーバーが停止しています (database server is down)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、基礎となるデータベースサーバーから応答がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このエラーは、コールドカタログバックアップの実行中に発生する場合があります。この操作の完了後、要求を再試行します。

Media Manager の状態コード 25

メッセージ: データベースディレクトリの作成に失敗しました (failed making the database directory)

説明: アップグレード時に で作業ディレクトリを作成できません。Explanation:nbpushdata

推奨処置: ディレクトリ `/usr/openv/tmp` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥tmp (Windows の場合) を作成できない理由を判断します。nbpushdata が実行されたアカウントを確認します。そのアカウントをデータベースフォルダの [セキュリティ] プロパティと比較します。

Media Manager の状態コード 26

メッセージ: データベースを開くための処理に失敗しました (database open operation failed)

説明: データベースファイルを開くことができません。

推奨処置:

/usr/openv/var/global ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥NetBackup¥var¥global フォルダ (Windows の場合) 内で次のファイルの存在および権限を確認します。

- external_robotics.txt
- external_densities.txt
- external_drivetypes.txt
- external_mediatypes.txt

Media Manager の状態コード 27

メッセージ: データベースのレコード読み込み操作に失敗しました (database read record operation failed)

説明: nbpushdata による EMM データベースレコードの読み込み中に、読み込みエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースが破損している可能性があります。保存されているバージョンまたはカタログバックアップから、以前の EMM データベースのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 28

メッセージ: データベースの読み込み操作が読み込んだバイト数が少なすぎます (database read operation read too few bytes)

説明: nbpushdata による EMM データベースレコードの読み込み中に、予想外に小さいレコードが検出されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースが破損している可能性があります。保存されているバージョンまたはカタログバックアップから、以前の EMM データベースのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 32

メッセージ: データベースのレコード書き込み操作に失敗しました (database write record operation failed)

説明: nbpushdata による EMM データベースレコードの書き込み中に、エラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 34

メッセージ: メディア ID が、データベース内で一意ではありません (media ID not unique in database)

説明: 追加または変更された EMM データベース内のボリュームエントリに、メディア ID が指定されました。これは、すでに EMM データベース内に存在する他のボリュームのメディア ID と同じメディア ID です。EMM データベース内のすべてのボリュームは、一意のメディア ID を持つ必要があります。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームを EMM データベースに追加するときは、一意のメディア ID を指定します。
- vmphyinv を実行中の場合、同じメディア ID を持つ複数のメディアがテープライブラリ内に存在している可能性があります。

Media Manager の状態コード 35

メッセージ: ボリュームは、データベース内に存在しません (volume does not exist in database)

説明: 要求された操作で、検索条件と一致するボリュームエントリが、ボリューム問い合わせから戻されませんでした。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- ロボットまたは一連のスタンドアロンドライブ用に構成されている EMM サーバーと一致する EMM サーバーで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。`tpconfig -d` を実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。
- ボリューム問い合わせで一致するボリュームが検出されるように、ボリューム構成またはデバイス構成の更新、適切な EMM サーバーの指定、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を行います。
- `vmphyinv` を実行中の場合、検索条件を満たすメディアが存在しません。そのため、`vmphyinv` によるテープライブラリのインベントリを実行できない可能性があります。

Media Manager の状態コード 36

メッセージ: バーコードが、データベース内で一意ではありません (barcode not unique in database)

説明: EMM データベースで追加または変更されたボリュームエントリで指定したバーコードが、すでにデータベース内にあるボリュームのバーコードと重複しています。EMM データベース内のすべてのボリュームには一意のバーコードがある必要があります。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- バーコードによるボリュームレコードの問い合わせまたはソートを行い、重複したバーコードがあるボリュームエントリを識別します。

Media Manager の状態コード 37

メッセージ: ロボットボリュームの位置はすでに使用されています (robotic volume position is already in use)

説明: 追加または変更された EMM データベース内のボリュームエントリに、データベース内に存在するボリュームのロボット座標と同じロボット座標が指定されました。(ロボット座標には、スロット番号またはスロット番号とプラッタ側が含まれます)。EMM データベース内のすべてのボリュームは、一意のロボット座標を持つ必要があります。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- スロット番号によってボリュームレコードの問い合わせまたはソートを行い、同じロボット座標を持つボリュームエントリを特定します。
- ロボットライブラリ内のボリュームの格納位置に対応する適切なロボット座標が反映されない場合、既存のボリュームエントリを変更 (ボリュームの更新または移動) するか、削除します。ボリュームが現在ドライブ内に存在する場合でも、EMM データベースにボリュームのホームスロットを反映する必要があります。

Media Manager の状態コード 39

メッセージ: ネットワークプロトコルエラー (network protocol error)

説明: ソケットからのデータの読み込みが失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、プロトコルエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 接続先のサーバーが稼働中であることを確認します。

Media Manager の状態コード 40

メッセージ: 予期しないデータを受け取りました (unexpected data received)

説明: メッセージ通信 (ハンドシェーク) が正しくありません。

推奨処置:

- すべてのサーバー上で実行されているソフトウェアのバージョンが、適切であることを確認します。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、プロトコルエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。
- 空白を使用できないフィールドに、空白が使用されていないことを確認します。

Media Manager の状態コード 41

メッセージ: ネーミングモードで無効なメディア ID (invalid media ID for naming mode)

説明: 最初のメディア ID およびメディア ID 形式を使用した複数ボリュームの追加要求が失敗しました。これは、指定されたメディア ID が、提供されているメディア ID の命名規則に適合しないためです。

推奨処置: 選択した形式と一致する最初のメディア ID を指定します。たとえば、メディア ID 形式が 2 つの文字と 4 つの数字であるとします。この場合、最初のメディア ID で末尾の 4 文字は、0 から 9 の範囲の数字である必要があります。代わりに、指定する最初のメディア ID と一致するメディア ID 形式を選択することも可能です。

Media Manager の状態コード 42

メッセージ: ロボットソフトウェアのデーモンに接続できません (cannot connect to robotic software daemon)

説明: ロボットソフトウェアデーモンまたはロボットソフトウェアプロセスへの接続を確立できません。このエラーは、あるプロセスから、実行中でないロボットプロセスへの接続が試行された場合に発生します。また、ネットワークまたはサーバーの負荷が大きいために応答時間が長くなる場合にも発生します。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット形式、およびロボット要求のロボットホストや操作が行われているボリュームのロボットホストフィールドを参照して、ロボットプロセスを特定します。
- ロボット制御に使用されるロボットプロセスが有効であることを確認します。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「メディアおよびデバイス管理のコンポーネント」を参照してください。
  必要に応じてロボットプロセスを起動します。
- TLD の各ロボットにロボット制御ホストが 1 つだけ構成されていることを確認します。また、ボリューム構成内のすべてのボリュームのロボットホストがその構成されたロボット制御ホストに一致することを確認します。
- 必要に応じて、ボリュームを変更するか、デバイスの構成内のロボットを再構成します。
- ロボット制御ホストのシステムログを調べて、ロボットプロセスへの接続が試行されているときにロボットプロセスが要求を処理しているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 43

メッセージ: ロボットソフトウェアのデーモンへの送信に失敗しました (failed sending to robotic software daemon)

説明: ロボットソフトウェアデーモンまたはロボットソフトウェアプロセスのソケットへのデータの書き込みが失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット形式、およびロボット要求のロボットホストや操作が行われているボリュームのロボットホストフィールドを参照して、ロボットプロセスを特定します。ロボット制御に使用されるロボットプロセスが有効であり、要求を処理していることを確認します。
- デバイスの構成を確認して、ロボット制御ホストを特定します。TLD の各ロボットにロボット制御ホストが 1 つだけ構成されている必要があります。ボリューム構成内のすべてのボリュームのロボットホストがその構成されたロボット制御ホストに一致する必要があります。
- ロボット制御ホストのシステムログを調べて、ロボットプロセスとの通信が試行されているときにロボットプロセスが要求を処理しているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 44

メッセージ: ロボットソフトウェアのデーモンからの受信に失敗しました (failed receiving from robotic software daemon)

説明: ロボットソフトウェアデーモンまたはロボットソフトウェアプロセスのソケットからのデータの読み込みに失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット形式、およびロボット要求のロボットホストや操作が行われているボリュームのロボットホストフィールドを参照して、対象のロボットプロセスを特定します。ロボット制御に使用されるロボットプロセスが有効であり、要求を処理していることを確認します。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「メディアおよびデバイス管理のコンポーネント」を参照してください。
- デバイスの構成を確認して、ロボット制御ホストを特定します。TLD の各ロボットにロボット制御ホストが 1 つだけ構成されている必要があります。ボリューム構成内のすべてのボリュームのロボットホストがその構成されたロボット制御ホストに一致する必要があります。

- ロボット制御ホストのシステムログを調べて、ロボットプロセスとの通信が試行されているときにロボットプロセスが要求を処理しているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 45

メッセージ: 端末特性の変更に失敗しました (failed changing terminal characteristics)

説明: 端末入力モードを cooked や raw へ変更しようとしたとき、システムコールが失敗しました。

推奨処置: ユーザーインターフェースの出力で、失敗したシステムコールに関連するシステムエラーを調べます。その後、オペレーティングシステムのベンダーの推奨事項に従ってトラブルシューティングを行います。

Media Manager の状態コード 46

メッセージ: ロボットソフトウェアデーモンからの予期しないデータです (unexpected data from robotic software daemon)

説明: プロセスとロボットソフトウェアデーモン (またはロボットソフトウェアプロセス) の間のメッセージ通信 (ハンドシェーク) が失敗しました。

推奨処置:

- すべてのサーバー上で実行されているソフトウェアのバージョンが、適切であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。
- 空白を使用できないフィールドに、空白が使用されていないことを確認します。
- ロボット制御ホストのシステムログで、ロボットソフトウェアによって記録されたエラーを確認します。

Media Manager の状態コード 47

メッセージ: 変更されたエントリはありません (no entries changed)

説明: 要求された操作が完了しましたが、ボリュームの構成ファイルまたは Media Manager の構成ファイルが変更されませんでした。管理者が提案された変更を続行するのでなく操作を終了した可能性、または追加された構成エントリが構成ファイルにすでに含まれていた可能性があります。

推奨処置:

- 変更操作が管理者によって中断された場合、処置は必要ありません。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 48

メッセージ: 削除されたエントリはありません (no entries deleted)

説明: ボリュームを削除する操作が完了しました。ボリューム構成は変更されませんでした。

推奨処置:

- 削除を要求したボリュームが実際には削除されていない場合を除き、処置は必要ありません。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 49

メッセージ: 挿入されたエントリはありません (no entries inserted)

説明: ボリュームを挿入する操作が完了しました。ボリューム構成にボリュームが追加されませんでした。

推奨処置:

- 挿入を要求したボリュームが挿入されていない場合を除き、処置は必要ありません。
- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 50

メッセージ: 無効なエントリ変更要求です (invalid change-entry request)

説明: ボリューム情報の変更の無効な要求が、EMM サーバーの vmd に送信されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 該当するコマンドの使用方法の説明を確認して、新しいプロセスを起動するために送信されたパラメータと比較します。

Media Manager の状態コード 51

メッセージ: このロボット形式を自動取り出しできません (cannot auto-eject this robot type)

説明: メディアの取り出しによるボリューム位置情報の変更要求が vmd に送信されましたが、このボリュームのロボット形式ではメディアの自動取り出しがサポートされていません (vmd は、UNIX と Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリューム位置情報の変更要求が、互換性がない、以前のバージョンのソフトウェアが実行されているシステム上の vmd に送信されていないことを確認します。(ボリューム位置情報の変更要求は、新しくリリースされたバージョンのソフトウェアでサポートされるロボット形式の取り出しを含む要求です。)

Media Manager の状態コード 52

メッセージ: このロボット形式を自動取り込みできません (cannot auto-inject this robot type)

説明: メディアの取り込みによるボリューム位置情報の変更要求が vmd に送信されましたが、このボリュームのロボット形式ではメディアの自動取り込みがサポートされていません (vmd は、UNIX と Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- ボリューム位置情報の変更要求が、互換性がない、以前のバージョンのソフトウェアが実行されているシステム上の vmd に送信されていないことを確認します。(ボリューム位置情報の変更要求は、新しくリリースされたバージョンのソフトウェアでサポートされるロボット形式の取り込みを含む要求です。)

Media Manager の状態コード 53

メッセージ: ボリューム移動モードが無効 (invalid volume move mode)

説明: ロボット関連の要求で、関連する一部のソフトウェアコンポーネントでサポートされていないメディア移動オプションが指定されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボット要求が、その特定の要求がサポートされているソフトウェアのバージョンが実行されているシステムに送信されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 54

メッセージ: ロボット番号とロボット形式が一致しません (robot number and robot type mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、ボリュームに関連付けられたロボット番号はすでに使用中です。同じロボット番号で異なるロボット形式がロボット内の他のボリュームに関連付けられています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースの各物理ロボットで、ロボット番号が一意であることを確認します。ロボットを削除してから再度追加します。ロボット番号が重複して使用されている場合、一意のロボット番号を使用します。メディア管理インターフェースを使用して、ボリューム構成内のすべてのボリュームで現在使用されているロボット番号を識別します。コマンドラインインターフェースを使用する場合、要求に関連するロボット番号に対して適切なロボット形式を指定します。

Media Manager の状態コード 55

メッセージ: ロボット番号とボリュームグループが一致しません (robot number and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するロボット番号およびボリュームグループが、ボリュームグループの要件と矛盾します。ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じロボット番号を持つことを含め、同じ位置情報を持つ必要があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したロボット番号とボリュームグループが、矛盾しないことを確認します。ボリュームグループ内のボリュームが特定のロボット番号を持つ場合、異なるロボット番号を持つボリュームをボリュームグループに追加することはできません。あるロボットボリュームグループから他のロボットボリュームグループに、ボリュームを直接移動することはできません。これは、操作の途中でロボット番号に矛盾が発生する(変更されるボリュームエントリと変更されないボリュームエントリが存在する) ためです。要求で異なるボリュームグループを選択するか、ボリュームグループを自動的に選択するようにします。ボリュームグループの選択は、使用している特定のインターフェースによって異なります。

Media Manager の状態コード 57

メッセージ: ボリュームグループの自動生成エラー (error auto-generating volume group)

説明: ボリュームグループ名の自動生成を使用した、ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、利用可能な組み合わせがすべて使用されているため、一意のボリュームグループ名を生成できません。

推奨処置: 対象のロボット番号内のボリュームグループにボリュームを統合して、新しいボリュームグループを自動的に生成できるようにするか、使用したい特定のボリュームグループ名を指定します。

Media Manager の状態コード 58

メッセージ: デーモンがソケットを取得できません (daemon cannot obtain socket)

説明: vmd はソケットにバインドできません。vmdUNIX および Linux の場合は NetBackup Volume Manager デーモン、Windows の場合は NetBackup Volume Manager サービスです。vmd が構成されているポート番号にバインドしようとすると、システムコールが

失敗します。このシステムコールは、通常、vmd デーモンまたはサービスの起動の前に別のプロセスがポートを取得したことによって失敗します。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。
- 他のプロセスがポートを使用している場合、他のシステムコマンドを実行してそのプロセスを判別します。その結果に基づいて、サービスのファイルまたはマッピングのポート番号を変更するか、ポートを取得しているプロセスを停止します。
- UNIX および Linux のみ: `kill` コマンドを実行して `vmd` を停止すると、このエラーが発生することがあります。`vmd` を停止するには、コマンドライン要求 `vmctrldbm -t` を使用することをお勧めします。`kill` コマンドを実行してこのプロセスを停止すると、次にプロセスが再起動されたときに、割り当てられていたポートにバインドされない場合があります。ソケットの問題が発生した場合、デーモンのデバッグログには次のような行が含まれます。

  ```
  unable to obtain bound socket, Address already in use (125)
  ```

Media Manager の状態コード 59

メッセージ: デーモンが接続の承認に失敗しました (daemon failed accepting connection)

説明: システムコールのエラーのため、 が新しい接続を受け入れることができません。(は、UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンおよび Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。)Explanation:vmdvmd

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバッグログからシステムコールの失敗を特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。

Media Manager の状態コード 60

メッセージ: このホストで操作を実行できません (cannot perform operation on this host)

説明: 要求された操作は、特定のホストでは機能しません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- ロボットインベントリの更新は、ロボット制御およびドライブが構成されているホストでのみ開始してください。

Media Manager の状態コード 61

メッセージ: ロボット番号とロボットホストが一致しません (robot number and robot host mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加、ボリューム構成内のボリュームの変更、またはロボットインベントリの更新が要求されました。同じロボット内の他のボリューム (同じロボット番号を持つボリュームとして定義される) のロボットホストと異なるロボットホストが指定されました。特定のロボット番号 (たとえば、0) を持つ EMM データベース内のすべてのボリュームは、同じロボットホスト名を持つ必要があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットが構成されているすべてのホストで、大文字と小文字の区別も含め、同じホスト名になるようにデバイス構成にロボットホストを指定します。その後、要求を再発行します。または、ボリュームグループを移動することによって、すべてのボリュームをロボットボリュームグループからスタンドアロンに論理的に移動し、その後ロボット内に戻します。ロボット構成で使用するホスト名として、ロボットホストを指定します。その後、要求を再発行します。

Media Manager の状態コード 62

メッセージ: パイプへの入力のリダイレクトに失敗しました (failed redirecting input to pipe)

説明: システムパイプを作成できません。

推奨処置: インターフェースの出力でシステムエラーを特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。

Media Manager の状態コード 63

メッセージ: 子プロセスはシグナルによって強制終了されました。(child process killed by signal)

説明: 予想外のシグナルによって、ロボットインベントリの更新処理が停止されました。

推奨処置: インターフェースの出力およびデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 64

メッセージ: 待機する子プロセスがありません (no child process to wait for)

説明: メディア管理インターフェースが子プロセスの完了を待機していましたが、待機している子プロセスが存在しないことが検出されました。

推奨処置:

- インターフェースの出力およびデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行 (または別のメディア管理インターフェースを使用して試行) し、ログを調べます。

Media Manager の状態コード 65

メッセージ: ボリュームグループは存在しません (volume group does not exist)

説明: 要求の処理中に、EMM データベース内の既存のボリュームエントリでボリュームグループを検出できません。

推奨処置:

- インターフェースの出力およびデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディア管理インターフェースを使用して、EMM データベースのデータ整合性または一貫性の問題を確認します。ボリュームエントリを削除または移動して、ボリュームグループの問題を修正します。

Media Manager の状態コード 67

メッセージ: 終了状態を送信できません (unable to send exit status)

説明: vmd は要求された操作の状態を要求元に送信できません。vmd は UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンおよび Windows の NetBackup Volume Manager サービスです。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバッグログで送信または書き込みシステムコールの失敗を特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。
- reqlib のデバッグログを有効にして、操作を再試行し、デバッグログおよびアプリケーションインターフェースの出力を調べて、要求を送信するコマンドまたはアプリケーションインターフェースが途中で異常終了されているかどうかを確認します。

Media Manager の状態コード 68

メッセージ: ボリュームグループにボリュームが多すぎます (too many volumes in volume group)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリュームの変更が要求されましたが、使用可能な最大ボリューム数に達しました。ボリューム数の制限は、特定のロボット形式で使用可能なボリューム数に基づいています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームが EMM データベースで定義されているかどうかを確認します。ロボット内に存在しない可能性があるスロット番号 0 (ゼロ) に関連付けられたボリュームが、EMM データベースで定義されている可能性があります。ロボットインベントリを実行します。ロボットの内容レポートを表示し、開始スロット番号を調べます。開始スロット番号が 1 で、ロボットのスロット 0 (ゼロ) に定義されているボリュームが存在する場合、ボリュームエントリを削除するか、またはスタンドアロンに移動して利用可能な残りのメディアスロットを使用できるようにします。

Media Manager の状態コード 69

メッセージ: vmd への要求の送信に失敗しました (failed sending request to vmd)

説明: サーバープロセスへの初期接続は正常に実行されましたが、要求を vmd または oprd に送信できません (vmd は、UNIX と Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービスで、oprd はオペレータ要求デーモンまたはプロセスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmd または oprd プロセスが、要求元から接続を受信した後も継続して実行されていたかどうかを確認します。netstat -a または同等のソケット診断ユーティリティを実行します。サーバーの処理がハングアップしていないか、次を確認します:
  - サーバー側システムのデーモンのデバッグログ
  - vmd または oprd の処理の状態

Media Manager の状態コード 70

メッセージ: vmd に接続できません [ホスト ホスト名上]

説明: vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) または oprd (オペレータ要求デーモンまたはプロセス) への接続時に、タイムアウトが発生しました。この問題は、接続が試行されたときにサーバープロセスが実行されていない場合に発生します。ネットワークまたはサーバーの負荷が大きいために応答時間が長くなる場合にも発生することがあります。

推奨処置:

- vmd が接続を受信するホスト上で、デーモンまたはサービスが実行中であることを確認します。(ホストは、Media Manager ホスト、デバイスホストまたは EMM サーバーです)。デーモンまたはサービスが実行されていない場合、これらを起動します。Windows では、vmd は NetBackup Volume Manager サービスです。
- vmdをすでに実行している場合は、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 構成で正しいホスト名が定義されていることを確認します。
- services ファイルを確認します。UNIX および Linux の場合、/etc/services ファイル (NIS を使用する場合は NIS サービス) に vmd サービスのエントリが存在することを確認します。(vmd サービスは常に oprd を起動します)。Windows の場

合、%systemroot%¥system32¥drivers¥etc¥services ファイルに vmd の正しいエントリが存在することを確認します。また、services ファイル内の vmd のポート番号が、ポート番号構成と一致することも確認します。ポート番号は、vmd(1M) のマニュアルページに記載されています。

- オペレーティングシステムのすべてのパッチまたは Service Pack がインストールされていることを確認します。
- Media Manager 構成のチューニングを確認して、vmd に対する負荷が vmd の要求処理能力を超えていないかどうかを調べます。vm.conf ファイルの、負荷を増加させるエントリを調べます。パフォーマンスが問題である場合、より高いパフォーマンスのサーバー上およびファイルシステム上に EMM データベースを配置することを検討します。ボリューム構成内のボリューム数を削減するには、インベントリフィルタリングがサポートされているロボット形式に対してインベントリフィルタリングを使用します。
- ipcs -a などのユーティリティを調べて、共有メモリが適切に機能していることを確認します。共有メモリに接続できないために、oprd プロセスが応答しないこともあります。

Media Manager の状態コード 71

メッセージ: vmd への送信に失敗しました (failed sending to vmd)

説明: vmd ソケットへのデータの書き込みが失敗しました。vmd は、NetBackup Volume Manager デーモン (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) です。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmd を実行中のシステムを特定します。システムは通常、Media Manager ホストまたは EMM サーバーと呼ばれ、一部のユーザーインターフェースではローカルシステムがデフォルトになります。このエラーは、ネットワークの高負荷、オペレーティングシステムのパッチや Service Pack の不備、vmd プロセスの予想外のエラーが原因で発生することがあります。

Media Manager の状態コード 72

メッセージ: vmd からの受信に失敗しました (failed receiving from vmd)

説明: vmd ソケットからのデータの読み込みが失敗しました。vmd は、NetBackup Volume Manager デーモン (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) です。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと reqlib のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmd を実行中のシステムを特定します。システムは通常、Media Manager ホストまたは EMM サーバーと呼ばれ、一部のユーザーインターフェースではローカルシステムがデフォルトになります。このエラーは、ネットワークの高負荷、オペレーティングシステムのパッチや Service Pack の不備、vmd プロセスの予想外のエラーが原因で発生することがあります。また、要求した操作が指定した期間内に完了しなかったため、ソケットの読み込みが失敗した可能性もあります。vmd に対する要求には、ロボットプロセスと vmd の相互操作の影響を受けるものもあるため、ロボット制御ホストのシステムログでエラーを確認します。

Media Manager の状態コード 73

メッセージ: 無効な問い合わせ形式 (invalid query type)

説明: 無効なボリュームを問い合わせる要求が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- Media Manager およびユーザーインターフェースのすべてのバイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 74

メッセージ: 無効なクリーニング数 (invalid number of cleanings)

説明: ボリューム構成内の 1 つ以上のボリュームで、残りのクリーニング数を変更するように要求されました。指定された値が許容範囲内にありません。バーコード規則の[マウントまたはクリーニング数 (Number of Mounts or Cleanings)]フィールドでクリーニング数の値が無効なこともあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 0 から 2,147,483,647 の範囲でクリーニング数の値を指定します。

Media Manager の状態コード 75

メッセージ: 形式の変更が無効です (invalid change type)

説明: 無効なボリューム変更要求が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- Media Manager およびユーザーインターフェースのすべてのバイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

Media Manager の状態コード 76

メッセージ: ホスト名を取得できません (cannot get host name)

説明: ローカルホスト名の取得中に、システムコール `gethostname(3C)` が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバッグログからシステムコールの失敗を特定して、オペレーティングシステムの機能のうち、この失敗に関連するものについて調べます。`hostname` システムコマンドを実行して、コマンドの動作が適切であることを確認します。

Media Manager の状態コード 78

メッセージ: データベースにバーコードが存在しません (barcode does not exist in database)

説明: バーコードの要求による問い合わせボリュームは指定したバーコードや、バーコードとメディア形式があるボリュームエントリを返しませんでした。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。tpconfig -d コマンドを実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。適切な EMM サーバーを現在のサーバー (管理中のサーバー) として選択します。ボリューム問い合わせで一致するボリュームが検出されるように、必要に応じてボリューム構成またはデバイス構成の更新、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を行います。正しいスロット場所にあるメディアの場合、ボリューム構成のバーコードフィールドがロボットライブラリのバーコードリーダーで解釈される実際のバーコードと一致するように、バーコードの更新要求または再スキャンを実行します。

Media Manager の状態コード 79

メッセージ: 指定されたロボットは vmd に認識されません (specified robot is unknown to vmd)

説明: 位置情報からボリュームの問い合わせが要求されました。指定されたロボット番号、ロボット形式およびロボットホストと一致するボリュームが、対象のボリューム構成で検出されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。tpconfig -d コマンドを実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。適切な EMM サーバーを現在のサーバー (管理中のサーバー) として選択します。ボリュームの位置情報の問い合わせで一致するボリュームが検出されるように、必要に応じてボリューム構成またはデバイス構成の更新、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を行います。

Media Manager の状態コード 80

メッセージ: エラーが存在するために、データベースを更新できません (cannot update database due to existing errors)

説明: 既存のエラーが原因で、vmphyinv コマンドによって EMM データベースを更新できません。考えられるエラーは、次のとおりです。

- テープヘッダーから読み込まれたメディア ID と同じメディア ID を持ち、異なるロボットに属する Media Manager ボリュームレコードが存在する。
- 割り当てられたボリュームレコードのメディア形式、メディア GUID またはボリュームプールを変更する必要がある。
- バーコードの競合が検出され、vmphyinv を実行するには既存のボリュームレコードのバーコードを変更する必要がある。

推奨処置: vmphyinv コマンドを実行すると、エラーのリストが生成されます。ユーティリティを再度実行する前に、出力を確認してこれらすべてのエラーを解決します。

Media Manager の状態コード 81

メッセージ: ロボット形式とボリュームグループが一致しません (robot type and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリューム位置情報の変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するロボット形式およびボリュームグループが、ボリュームグループの要件と矛盾します。ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じロボット形式を持つことを含め、同じ位置情報を持つ必要があります。要求された操作が、特別な名前が付けられていないボリュームグループである「---」をロボットの位置情報に関連付けようとした可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したロボットの位置情報およびボリュームグループが、指定したボリュームグループに存在する、ボリューム構成内の他のボリュームと矛盾しないことを確認します。特別な名前が付けられていないボリュームグループのボリュームをロボットの位置情報に移動する場合、新しいボリュームグループまたは自動生成されたボリュームグループに移動させてください。要求で異なるボリュームグループを選択するか、ボリュームグループを自動的に選択するようにします。ボリュームグループの選択は、使用している特定のインターフェースによって異なります。

Media Manager の状態コード 82

メッセージ: ロボットホストとボリュームグループが一致しません (robot host and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリューム位置情報の変更が要求されましたが、ボリュームグループ内のすべてのボリュームは、同じ位置情報を持つ必要があります。同じロボットホストを持つことも含まれます。ここで、同じロボットホストとは、大文字と小文字の区別も含め、同じロボットホスト名を持つロボットホストです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したロボットの位置情報およびボリュームグループが、指定したボリュームグループに存在する、ボリューム構成内の他のボリュームと矛盾しないことを確認します。ロボットホストにボリュームを追加する場合、異なる形式のロボットホスト名を使用しないでください。たとえば、acme は acme.symantec.com とは異なります。ボリュームグループ内の他のボリュームで使用されているホスト名と同じホスト名を使用します。ボリュームグループ内のボリュームのロボットホストを変更する必要がある場合、1 回のボリュームグループの移動要求 (特定のメディア管理インターフェースのみで利用可能) によってボリュームグループをスタンドアロンの場所に移動します。次に、ボリュームグループをロボットの位置情報に戻します。新しいボリュームグループに関連付ける、目的のロボット制御ホストを指定します。

Media Manager の状態コード 83

メッセージ: デバイスの管理エラー (device management error)

説明: vmphyinv の実行中にいずれかのデバイス管理エラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 84

メッセージ: このマシンはデータベースホストではありません (this machine is not the database host)

説明: ローカルホスト以外のホストで、vmd の起動が要求されました。vmd は、NetBackup Volume Manager デーモン (UNIX および Linux の場合) または NetBackup Volume Manager サービス (Windows の場合) です。

デフォルト以外の vmd のポート番号、またはサポートされていないオプションの使用は、vmd を起動するインターフェースで参照するホストおよびポートに影響する場合があります。

推奨処置:

- vmd を実行する必要があるホストにログオンし、そのホストで vmd を起動してローカルホストのみで vmd を開始します。UNIX および Linux の場合、/usr/openv/volmgr/bin/vmd [-v] を実行します。Windows の場合、[管理ツール]の[サービス]で NetBackup Volume Manager サービスを起動します。
- 問題に関する詳しい説明については、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーの詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ポート番号が一貫していることを確認します。

Media Manager の状態コード 85

メッセージ: Volume デーモンの fork に失敗しました (volume daemon fork failed)

説明: システムからのエラーのため、Media Manager のデーモンまたはサービスが子プロセスを作成できません。多くの場合、これは、システムリソースの可用性に基づく一時的なエラーです。

推奨処置:

- 後でサービスを再起動するか、プロセス数を制限している、システムの問題を調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 86

メッセージ: 一時出力ファイルを開けませんでした (failed opening tmp output file)

説明: vm.conf ファイルまたは一時作業ファイルを開くことができません。

推奨処置: UNIX および Linux の場合、/usr/openv/volmgr/misc ディレクトリ、/tmp ディレクトリおよび /usr/openv/volmgr/vm.conf ファイルの存在および権限を確認します。Windows の場合、*install_path*¥Volmgr¥vm.conf ファイルが存在することと[セキュリティ]プロパティを確認します。

Media Manager の状態コード 87

メッセージ: 一時出力ファイルのリダイレクトに失敗しました (failed redirecting tmp output file)

説明: インターフェースの出力先を一時ファイルからプロセスの標準出力へ変更中に、システムコール dup2 (3C) が失敗しました。

推奨処置: 開いた状態のファイル数のリソース制限に関連するオペレーティングシステムの機能を調べます。プロセスに、関係のないシグナルによる割り込みが発生していないことを確認します。

Media Manager の状態コード 88

メッセージ: 子プロセスの開始に失敗しました (failed initiating child process)

説明: コマンドを実行できません。このエラーは、コマンドの権限で実行が許可されていない場合またはメモリやスワップ領域などのシステムリソースが不足している場合に発生することがあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmcheckxxx、vmupdate および oprd のバイナリの権限および (Windows の場合) インストールされた rdevmi のバイナリの権限を確認します。

Media Manager の状態コード 89

メッセージ: 別のデーモンがすでに存在しています (another daemon already exists)

説明: vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) を開始しましたが、vmd はすでに実行されていることがデーモンまたはサービスのロックファイルから検出されました。

推奨処置: vmd がすでに実行されているかどうかを確認します。実行中の vmd デーモンまたはサービスを停止してから、別の vmd デーモンまたはサービスを起動します。vmctrldbm -t を実行して、実行中の vmd を停止します。Windows の場合、システムのサービスインターフェースを使用します。デーモンまたはサービスが異常終了した場合、ロックファイルを削除します。ロックファイルは、/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock

(UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc¥vmd.lock (Windows の場合) です。その後、vmd を再起動します。

Media Manager の状態コード 90

メッセージ: ボリュームプールが無効 (invalid volume pool)

説明: ボリュームの追加、ボリュームのボリュームプールの変更、バーコード規則の追加、バーコード規則の変更のいずれかが要求されました。要求された変更に関連するボリュームプール名またはボリュームプール番号が、ボリュームプールの要件と矛盾します。

これらの要件は、次のとおりです。

- スクラッチプール内のボリュームは、他のプールに移動されるまで割り当てることができません。
- ボリュームプール番号は、負の値にはしないでください。
- ボリュームプール名は、1 文字から 20 文字の印字可能な ASCII 文字で構成されている必要があります。空白は使用できません。
- メディア形式のクリーニングを指定するバーコード規則のエントリに対して有効なプールは None ボリュームプールのみです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したボリュームプールが、前述の要件に違反していないことを確認します。vmpool コマンドを実行して、プールの情報を表示します。vmrule コマンドを使用してバーコード規則の情報を表示します。データベースが不整合な場合や壊れている場合には、必要に応じてボリュームプールやバーコード規則を追加または変更して不整合を修正します。

Media Manager の状態コード 92

メッセージ: 割り当てられたボリュームを削除できません (cannot delete assigned volume)

説明: ボリュームの削除が要求されましたが、ボリュームは現在割り当て済みです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 割り当て済みのボリュームは削除できません。ボリューム上に重要なデータが存在しない場合、適切なアプリケーションインターフェース (NetBackup では `bpexpdate`) を使用してメディアの割り当てを解除します。その後、ボリュームの削除要求を再試行します。

Media Manager の状態コード 93

メッセージ: ボリュームはすでに割り当てられています (volume is already assigned)

説明: ボリュームの割り当てが要求されましたが、ボリュームはすでに割り当てられています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すでに割り当てられているボリュームを手動で割り当てないでください。ボリュームがすでに NetBackup カタログバックアップに割り当てられている場合だけ、NetBackup カタログバックアップにそのボリュームを割り当てることができます。すべてのロボットのメディアすべてで末尾の 6 文字に一意のバーコードを常に使用するか、メディア ID 生成規則を使用して、ロボットインベントリの更新で一意のメディア ID が生成されるようにします。

Media Manager の状態コード 94

メッセージ: ボリュームは、指定されたプールに存在しません (volume is not in specified pool)

説明: 指定されたボリュームプールからのボリュームの割り当てが要求されました。そのボリュームは異なるボリュームプール内に存在します。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ボリュームを手動で割り当てる場合、ボリュームに関連付けられたボリュームプールを指定します。すべてのロボットのメディアすべてで末尾の 6 文字に一意のバーコードを常に使用するか、メディア ID 生成規則を使用して、ロボットインベントリの更新で一意のメディア ID が生成されるようにします。

Media Manager の状態コード 95

メッセージ: メディア ID は指定されたメディア形式ではありません (media ID is not the specified media type)

説明: 指定されたメディア形式のボリュームの割り当てまたは追加が要求されました。そのボリュームまたは物理的に類似したボリュームとメディア形式が異なります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットインベントリを更新してボリューム構成を変更する場合は、カートリッジの形式が物理的に同じであるすべてのボリュームが、1 つのメディア形式 (HCART など) にマッピングされていることを確認します。これにより、ロボットライブラリ内のすべてのメディアが互換性のあるドライブ形式のドライブにマウントされます。
- ボリュームを手動で割り当てる場合も、ボリュームに関連付けられたメディア形式を指定します。必ず、すべてのロボットのメディアすべてで、末尾の 6 文字に一意のバーコードを使用します。ロボットインベントリを更新するときに一意のメディア ID が生成されるように、メディア ID 生成規則を使用することもできます。

Media Manager の状態コード 96

メッセージ: oprd が異常な状態を戻しました (oprd returned abnormal status)

説明: `oprd` サービス (オペレータ要求デーモンまたはプロセス) の要求で、異常な状態が返されました。

推奨処置:

- Windows で、デバイスを自動構成するか、NetBackup Device Manager サービスを GUI またはコマンドラインインターフェースから開始するときに、システムのサービス構成でサービスが有効になっていることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 通常、特定のホストで発生するデバイス管理に関連するエラーは、オペレータ要求デーモンやプロセスのエラー、およびリモートデバイス管理のエラーとともに発生します。`oprd` を起動または実行しているホストのデバッグログおよびシステムログやアプリケーションログで、エラーを確認します。多くの場合、このホストは対象のデバイスホストまたはスキャンホストです。

  `oprd` によって処理されて失敗した可能性がある要求には、次のものが含まれます。

- ドライブの停止、起動またはリセット
- ドライブコメントの変更
- マウント要求の拒否または再送信
- ドライブの割り当て
- ltid の起動または停止
- ltid の状態の取得
- ドライブ状態の表示
- 保留中の操作の管理
- NDMP 属性の設定
- デバイスの構成
- ドライブのクリーニング
- ホストのバージョン情報とデバイス構成情報の取得
- 共有ドライブのスキャン

Media Manager の状態コード 97

メッセージ: 規則が規則データベースに存在しません (rule does not exist in rule database)

説明: バーコード規則の変更または削除が要求されましたが、指定したバーコードタグを持つバーコード規則が見つかりません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM データベースにある設定済みのバーコード規則のリストを表示します。変更要求や削除要求、またはターゲットホスト上の指定したバーコードタグを調整します。要求を再試行するとバーコード規則が見つかります。

Media Manager の状態コード 101

メッセージ: メディア形式とボリュームグループが一致していません (media type and volume group mismatch)

説明: ボリューム構成へのボリュームの追加またはボリューム構成内のボリューム位置情報の変更が要求されましたが、ボリューム構成の変更に関連するメディア形式およびボ

リュームグループが、ボリュームグループの要件を満たしていません。ボリュームグループ内のボリュームすべてが同じメディア形式であることを含め、位置情報が同じである必要があります。データに使用されるメディア形式および関連するクリーニングメディア形式は、ボリュームグループの制限により、同じであると見なされます。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 指定したメディア形式およびボリュームグループが、指定したボリュームグループに存在する、ボリューム構成内の他のボリュームと矛盾しないことを確認します。要求で異なるボリュームグループを選択するか、ボリュームグループを自動的に選択するようにします。ボリュームグループの選択は、使用しているインターフェースによって異なります。

Media Manager の状態コード 102

メッセージ: 無効なプールデータベースエントリ (invalid pool database entry)

説明: ボリュームプールデータベースが破損しています。インストールされている製品バイナリと互換性のないレコードがデータベース内に含まれています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `vmpool` を実行して、ボリュームプールデータベースの整合性を調べます。デーモンのデバッグログファイルに、プールレコード内に存在すると予想されるフィールド数および検出されたフィールド数が表示されます。プールデータベースを手動で修正できない場合、プールデータベースの保存されているバージョンのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 104

メッセージ: プールデータベースへの追加に失敗しました (failed appending to pool database)

説明: ボリュームプール構成のボリュームプールの追加、変更、または削除を要求しましたが、ボリュームプールのデータベースファイルにプールレコードを追加することはできません。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 以下で、データベースの書き込み権限および書き込み可能なファイルシステム領域を調べます。
  - UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/volmgr/database/poolDB`
  - Windows の場合: *install_path*`¥Volmgr¥database¥poolDB`

Media Manager の状態コード 105

メッセージ: プール名が、プールデータベース内で一意ではありません (poolname is not unique in pool database)

説明: ボリュームプール構成へのボリュームプールの追加が要求されましたが、指定されたプール名が既存のボリュームプール名と同じです。

推奨処置: ボリュームプールの追加要求では、対象の EMM データベースホストでまだ使用されていないボリュームプール名を指定します。

Media Manager の状態コード 109

メッセージ: プールがプールデータベースに存在しません (pool does not exist in pool database)

説明: 要求された操作で、指定されたボリュームプールがボリュームプール構成内で検出されませんでした。このエラーコードを戻す可能性がある要求は、次のとおりです。

- ボリュームプールの追加、変更、削除または問い合わせ
- バーコード規則の追加または変更
- ボリュームの追加または変更
- スクラッチボリュームの問い合わせ
- ロボットインベントリのレポートまたは更新

推奨処置:

- デーモンおよび `reqlib` のデバッグログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM サーバーで、ボリュームが適切に構成されていることを確認します。`tpconfig -d` コマンドを実行して、構成されている EMM サーバーのリストを表示します。対象のデバイスの適切な EMM サーバーであるホストと同じサーバーを現在のサーバー (管理対象サーバー) として選択します。

- 要求した操作によって、要求したボリュームプールを検出できるように、必要に応じてボリューム構成またはデバイス構成の更新、ボリュームのプロパティの変更、または検索条件の調整を行います。EMM データベースとボリュームプールデータベース間の不一致を調べて、必要に応じて以前の状態からこれらのデータベースのリストアおよび修復を行います。

Media Manager の状態コード 110

メッセージ: プールは使用中です (pool is in use)

説明: メディアプールの操作はメディアプールが使用中であるため失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ファイルシステムとボリュームプールデータベースの整合性を次のように調べます。
  - UNIX および Linux の場合: `/usr/openv/volmgr/database/poolDB`
  - Windows の場合: *install_path*¥Volmgr¥database¥poolDB
- メディアプールがバーコードルールなど他の表によって使用中ではないことを確認します。

Media Manager の状態コード 111

メッセージ: 指定されたプールは空ではありません (the specified pool is not empty)

説明: ボリュームプールの削除が要求されましたが、プールが空でないか、指定したボリュームプールに現在も関連付けられているボリュームが存在するかどうかを判別できませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディア管理インターフェースを使用して、削除するように指定したプールに関連付けられているボリュームを問い合わせます。ボリュームプール内のすべてのボリュームが他のプールに再度関連付けられたことを確認してから、ボリュームプールの削除を試行します。ボリュームのボリュームプールを変更するには、ボリュームの変更操作を行います。

Media Manager の状態コード 112

メッセージ: プールのリストにプールがありません (no pools in the pool list)

説明: ボリュームプールリストが空です。

推奨処置: ボリュームプールリストには、少なくとも None、NetBackup、カタログバックアップおよび DataStore の 4 つのプールが存在する必要があります。EMM データベースの整合性を調べます。カタログバックアップから EMM データベースのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 113

メッセージ: 無効な期限切れ日付 (invalid expiration date)

説明: ボリューム構成内の 1 つ以上のボリュームに対してメディア期限切れの日付の変更が要求されましたが、指定された日付が無効です。

推奨処置:

メディアの期限切れの日付を変更するときは、メディア管理インターフェースのマニュアルで指定された形式で日付を指定します。

Media Manager の状態コード 114

メッセージ: 無効な最大マウント数 (invalid maximum mounts)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームに対して、書き込みアクセスを使用してボリュームをマウントできる回数の制限を変更するように要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。バーコード規則の[マウントまたはクリーニング数 (Number of Mounts or Cleanings)]フィールドで最大マウント数の値が無効なこともあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 最大マウント数の値を、0 から 2,147,483,647 の範囲で指定します。

Media Manager の状態コード 115

メッセージ: ボリュームは、期限切れ日付を過ぎています (volume has passed expiration date)

説明: ボリュームの割り当てが要求されましたが、ボリュームは現在のシステム日付に対して期限切れの日付に達しています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 物理メディアの有効期間を延長する場合、ボリュームの期限切れの日付を現在のシステム日時以降の日付に変更します。または、期限が切れたメディアを有効期間が残っている他のメディアと交換します。システム日時を確認し、必要に応じて再設定します。

Media Manager の状態コード 116

メッセージ: ボリュームは、最大マウント数を超えています (volume has exceeded maximum mounts)

説明: ボリュームの割り当てが要求されました。ボリュームのマウント数が、ボリュームに対して実行可能な最大マウント数を超えました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 物理メディアの有効期間を延長する場合、ボリュームの最大マウント数を増やすか、最大マウント数を無制限に設定します。または、期限切れの日付に達したメディアを有効期間が残っている他のメディアと交換します。

Media Manager の状態コード 117

メッセージ: クリーニングカートリッジでは許可されない操作です (operation not allowed on cleaning cartridge)

説明: ボリュームの期限切れの日付または最大マウント数の変更が要求されました。ボリュームがクリーニングカートリッジであるため、操作が許可されません。

推奨処置:

- ボリュームがクリーニングカートリッジである場合、残りのクリーニング数の変更など、クリーニングカートリッジに対して有効な操作を実行します。
- ボリュームのメディア形式を判断できない場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 対象のボリュームがクリーニングテープとして不適切に構成されている場合、そのクリーニングボリュームを削除します。その後、適切なメディア形式の新しいボリュームを定義するオプションを使用してボリューム構成を更新します。

Media Manager の状態コード 118

メッセージ: デフォルトボリュームプールの 1 つを削除できません (cannot delete one of the default volume pools)

説明: 事前定義された特別なボリュームプールのいずれかの削除が試行されましたが、None、NetBackup、Catalog Backup および DataStore ボリュームプールは、ボリュームプール構成内のデフォルトのボリュームプールであるため、削除できません。

推奨処置: None、NetBackup、カタログバックアップおよび DataStore ボリュームプールの削除を試行しないでください。

Media Manager の状態コード 119

メッセージ: 規則データベースエントリが無効 (invalid rule database entry)

説明: バーコード規則のデータベースは破損しています。インストールされている製品バイナリと互換性のないレコードがデータベース内に含まれています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `vmrule` を実行して、バーコードルールデータベースの整合性を調べます。デーモンのデバッグログファイルに、バーコード規則レコード内に存在すると予想されるフィールド数および検出されたフィールド数が表示されます。バーコード規則データベースを手動で修正できない場合、バーコード規則データベースの保存されているバージョンのリストアを行います。

Media Manager の状態コード 121

メッセージ: 規則データベースへの追加に失敗しました (failed appending to rule database)

説明: バーコード規則の追加、変更、削除のいずれかが要求されました。バーコード規則レコードをバーコード規則データベースファイルに追加できません。

推奨処置: デーモンのデバッグログで、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 122

メッセージ: バーコードタグが、規則のデータベース内で一意ではありません (barcode tag is not unique in rule database)

説明: バーコード規則の追加が要求されました。指定したバーコードタグは既存のバーコード規則のタグと重複しています。

推奨処置: バーコード規則の追加要求では、まだ使われていないバーコードタグを指定します。

Media Manager の状態コード 126

メッセージ: vmd に接続する認可が行われていません (not authorized to connect to vmd)

説明: vmd からサービスを要求するユーザーが認証または認可されていません。または 2 つのシステムが相互に認証しようとすると問題が発生します。

推奨処置:

- NetBackup のセキュリティについて詳しくは、『vmd セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
  vmd のセキュリティは、NetBackup の認証または認可と、当該 NBU ドメインのマスターサーバーの bp.conf/Host Properties で定義されているメディアサーバーエントリに基づいています。
- デバッグログファイルで、認証または認可の問題についての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 認証構成を変更して、vmd のセキュリティ構成を修正します。

  メモ: ソースと宛先の両方のマシンが 1 つの NBU ドメイン内にあることを確認します。

- 構成ではなく、認証に問題がある可能性がある場合、次のように実行します。
  - 問題があるシステムの methods_allow.txt ファイルを調べて、認証が有効であることを確認します。ファイルの場所は、次のとおりです。
    Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥auth
    UNIX と Linux の場合: /usr/openv/var/auth

- 認証に問題があるシステムの methods_allow.txt ファイルから、認証されていないリモートホストを削除します。
  たとえば、ホスト A およびホスト B に問題がある場合、ホスト B のファイルからホスト A を削除し、ホスト A のファイルからホスト B を削除します。
  操作を再試行します。問題が解決しない場合、接続の問題は認証に関連しません。
- 削除したホストを再度追加して、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 127

メッセージ: 一意のメディア ID を生成できません (unable to generate a unique media ID)

説明: ロボットインベントリの更新またはメディア ID シードを使用した、ボリューム構成へのボリュームの追加が要求されましたが、[use seed]オプションが指定されていないか、利用可能なメディア ID の組み合わせがすべて使用されているため、一意のメディア ID が生成されませんでした。

推奨処置: ロボットインベントリを更新する場合は、ロボットライブラリ内のメディアすべてに読み込み可能なバーコードラベルが付いていることを確認するか、バーコードが付いていないメディアのメディア ID を自動的に生成するシード値を設定して更新を要求します。シード値を指定してボリュームを追加する場合、すでに使用されているメディア ID の文字の組み合わせ以外の組み合わせを許可するシード値を設定します。読み込み可能なバーコードがない可能性があるメディアに関連付けられたスロットを識別するには、コマンドの出力を調べます。

Media Manager の状態コード 129

メッセージ: 無効なドライブ名 (invalid drive name)

説明: EMM/DA に共有ドライブが要求されましたが、ドライブ名が認識されませんでした。

推奨処置:

- デーモンおよび reqlib のデバッグログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ドライブ名の長さが 1 文字から 48 文字の ASCII 文字であることを確認します。特殊文字である、ピリオド (.)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-) およびアンダースコア (_) は使用できます。
- すべてのサーバー上で実行されているソフトウェアのバージョンが、適切であることを確認します。

Media Manager の状態コード 130

メッセージ: 要求されたドライブはすでに予約されています (requested drive is already reserved)

説明: EMM/DA で共有ドライブの予約が要求されましたが、そのドライブはすでに他のホスト用に予約されています。

このエラーは通常、次のいずれかの原因によってドライブリソースがオーバーサブスクライブされると発生します。

- ドライブの同じプールに別のスケジューラやアプリケーションがアクセスしている。
- ハードウェアやメディアのエラーのため、ジョブに割り当てられたドライブが利用できない。

推奨処置:

- システムログおよびアプリケーション (bptm) のデバッグログで、ハードウェアまたはメディアのエラーによりドライブが利用できない状態になっていないかを確認します。
- ドライブの予約の問題について詳しくは、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べてください。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 131

メッセージ: 要求されたドライブはホストに対して登録されていません (requested drive is not registered for host)

説明: EMM サーバーに共有ドライブの予約が要求されましたが、そのドライブは要求元のホストによって登録されませんでした。ただし、他のドライブはそのホストによって登録されています。

これは、同じ名前を持つ 2 つの異なるホストが EMM サーバーを使用して異なるドライブリストを登録し、その一方のホストがドライブの予約を要求した場合に発生することがある異常な状態です(vm.conf ファイルの SSO_HOST_NAME エントリによってローカルホスト名が上書きされた場合、ホスト名が同じになります)。

推奨処置: ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、一意の (重複していない) 文字列を使用します。

Media Manager の状態コード 132

メッセージ: 要求されたドライブは現在登録されていません (requested drive is not currently registered)

説明: EMM サーバーに共有ドライブの予約または解放が要求されましたが、要求元のホストも他のホストもドライブを登録していませんでした。

推奨処置: これは、異常な状態です。EMM サーバーが停止して、再起動するときに発生することがあります。このエラーが発生すると、要求元のホストが EMM サーバーを使用してドライブを再登録するため、この状態は自動的に処理されます。

Media Manager の状態コード 133

メッセージ: 要求されたドライブは、ホストによって予約されていません (requested drive is not reserved by host)

説明: EMM サーバーに共有ドライブの解放が要求されましたが、そのドライブは要求元のホストによって予約されておらず、他のホストによって予約されていました。

これは、異常な状態です。以下の例のように、ネットワークの問題が発生したり、プロセスが一時停止した場合に発生する可能性があります。

- ホスト A が共有ドライブを予約します。
- ホスト A が一時的に利用できない状態になり、他のホストと通信できなくなります。
- ホスト B は、予約しているホスト (ホスト A) は利用できないと判断します。そのため、ホスト A が無効であることを宣言するように EMM/DA に要求します。
- 他のホスト (ホスト B やホスト C など) でドライブを予約します。
- 最初にドライブを予約していたホストによって、ドライブの解放が試行されます。

推奨処置: 通信の問題の原因であるネットワークまたはプロセスの問題を修正します。ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、重複していない一意の文字列を使用していることを確認します。

Media Manager の状態コード 134

メッセージ: 要求されたドライブは現在予約されていません (requested drive is not currently reserved)

説明: EMM/DA に共有ドライブの解放が要求されましたが、ドライブはどのホストにも予約されていませんでした。

これは、異常な状態です。以下の例のように、ネットワークの問題が発生したり、プロセスが一時停止した場合に発生する可能性があります。

- ホスト A が共有ドライブを予約します。
- ホスト A が一時的に利用できない状態になり、他のホストと通信できなくなります。
- ホスト B は、予約しているホスト (ホスト A) は利用できないと判断します。そのため、ホスト A が無効であることを宣言するように EMM/DA に要求します。
- 最初にドライブを予約していたホストによって、ドライブの解放が試行されます。

推奨処置: 通信の問題の原因であるネットワークまたはプロセスの問題を修正します。ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、重複していない一意の文字列を使用していることを確認します。

Media Manager の状態コード 135

メッセージ: 要求されたホストは現在登録されていません (requested host is not currently registered)

説明: 共有ドライブの予約や解放、またはホストに対する無効化の指定が EMM/DA に要求されましたが、ドライブの予約や解放を行うホストまたは無効として指定されるホストが、EMM/DA を使用して登録されていません。

これは、次の状況で発生する異常な状態です。

- EMM サーバーが停止され、再起動された場合。このエラーが発生すると、要求元のホストが EMM サーバーを使用してドライブを再登録するため、この状態は自動的に処理されます。
- ホストの登録が EMM サーバーを使用して解除されていて、そのホストが無効であることを他のホストが宣言している場合。

推奨処置: ホストが無効であると宣言されている場合、ホストを有効にする必要があるかどうかを判断します。根本的なネットワークの問題を修正するか、ltid (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を再起動します。

Media Manager の状態コード 136

メッセージ: 無効なホスト名 (invalid host name)

説明: Media Manager 構成にデバイスホストが追加された、または EMM サーバーに要求が行われましたが、ホスト名が指定可能な長さを超えていました。

推奨処置: ホスト名を ASCII 文字で 256 文字以下に収めます。

Media Manager の状態コード 137

メッセージ: oprd 要求はリモートホストではサポートされていません (oprd request is not supported on the remote host)

説明: オペレータ要求プロセスに、無効な要求が送信されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 対象のホストを特定します。そのホストのすべての Media Manager バイナリが、構成に含まれる他のホストと互換性があるバージョンであることを確認します。必要に応じて、ソフトウェアを更新します。

Media Manager の状態コード 138

メッセージ: メディアの生成規則はすでに存在しています (media generation rule already exists)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、すでに存在する MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則の追加が試行されました。同じ規則を再度追加することはできません。

推奨処置: MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則のリストを再度調べます。

次のマニュアルで、MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則について説明しています。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の「vm.conf 構成ファイルについて」を参照してください。

Media Manager の状態コード 139

メッセージ: メディアの生成規則は存在しません (media generation rule does not exist)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、存在しない MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則の削除が試行されました。

推奨処置: MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則のリストを再度調べます。

次のマニュアルで、MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則について説明しています。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の「vm.conf 構成ファイルについて」を参照してください。

Media Manager の状態コード 140

メッセージ: 無効なメディア生成規則 (invalid media generation rule)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、不適切な MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則の追加が試行されました。

推奨処置: MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則が適切に構成されていることを確認します。

次のマニュアルで、MEDIA_ID_BARCODE_CHARS 規則について説明しています。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の「vm.conf 構成ファイルについて」を参照してください。

Media Manager の状態コード 141

メッセージ: 無効なマウント数 (invalid number of mounts)

説明: ボリュームがマウントされた回数の変更が要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 0 から 2,147,483,647 の範囲でマウント数の値を指定します。

Media Manager の状態コード 142

メッセージ: 無効なオフサイトの場所です (invalid off-site location)

説明: ボリュームのオフサイトの場所が ASCII 文字で 25 文字を超える長さか、印字不可能な文字が含まれています。

推奨処置: ボリュームレコードを追加または変更する場合、オフサイト場所フィールドには印字可能な文字だけが含まれ、ASCII 文字で 25 文字以下であることを確認します。

Media Manager の状態コード 143

メッセージ: 無効なオフサイトの送信日付です (invalid off-site sent date)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームの、オフサイトへの送付日付の変更が要求されましたが、指定された日付が無効です。

推奨処置: オフサイトへの送信日を変更する場合は、メディア管理インターフェースのマニュアルで指定された形式で日付を指定します。

Media Manager の状態コード 144

メッセージ: 無効なオフサイトの返却日です (invalid off-site return date)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームの、オフサイトからの返却日の変更が要求されましたが、指定された日付が無効です。

推奨処置: オフサイトからの返却日を変更する場合は、メディア管理インターフェースのマニュアルで指定された形式で日付を指定します。

Media Manager の状態コード 145

メッセージ: 要求されたドライブは、ホストによってすでに予約されています (requested drive is already reserved by host)

説明: EMM/DA に共有ドライブの予約が要求されましたが、そのドライブは要求元のホストにすでに予約されています。

これは、異常な状態です。同じ名前を持つ 2 つの異なるホストが、EMM/DA を使用して同じドライブ名を登録した場合に起こる可能性があります。(vm.conf ファイル内の SSO_HOST_NAME エントリがローカルホスト名を上書きすると、同じホスト名が発生します。) この場合、いずれかのホストにドライブが予約されており、もう一方のホストが同じドライブを予約しようとしています。

推奨処置: ホスト名および構成ファイルの SSO_HOST_NAME エントリに、重複していない一意の文字列を使用します。

Media Manager の状態コード 146

メッセージ: データベースのバージョンに互換性がありません (incompatible database version)

説明: 要求元のプロセスまたは vmd で、無効または不明なデータベースや通信プロトコルが検出されました。このエラーの影響を受ける可能性があるデータストアは、ボリューム、ボリュームプール、バーコードルール、グローバルデバイスデータベース、共有ドライブ情報です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のコンポーネント (vmd およびデーモンやサービス、ローカルホストやリモートホストのユーザーインターフェースなど) を特定します。すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。どの要求で無効なバージョンが検出されたかによって、データベースが破損しているかどうかを判断します。適切なインターフェースを使用して、エラー状態に関連する情報を問い合わせます。

Media Manager の状態コード 147

メッセージ: 無効なオフサイトのスロットです (invalid off-site slot)

説明: ボリュームのオフサイトスロット場所の変更が要求されましたが、指定可能な範囲の値が指定されていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 0 から 2,147,483,647 の範囲で、オフサイトスロットの値を指定します。

Media Manager の状態コード 148

メッセージ: 無効なオフサイトのセッション ID です (invalid off-site session ID)

説明: ボリュームのオフサイトセッション ID の変更が要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 0 から 2,147,483,647 の範囲で、オフサイトセッション ID の値を指定します。

Media Manager の状態コード 149

メッセージ: 現在のバージョンはこの構成をサポートしていません (current version does not support this configuration)

説明: ライセンスが与えられていない機能への参照が試行されたため、要求を実行できません。たとえば、ライセンスが与えられた製品で無効なメディア形式を使用したボリュームの追加要求などです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- インストールされているライセンスキーのリストを表示して、参照している機能が、現在インストールされているライセンスキーでサポートされていることを確認します。外部オブジェクトの形式を定義しているデータベースが、適切で、破損していないことを確認します。これらのデータベースファイルは、`/usr/openv/var/global` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *`install_path`*`¥NetBackup¥var¥global` フォルダ (Windows の場合) に存在する、次のファイルです。
  - `external_densities.txt`

- external_drivetypes.txt
- external_mediatypes.txt
- external_robotics.txt

Media Manager の状態コード 150

メッセージ: このホストを最大許容数を超えて登録しています (registering this host would exceed the maximum allowed)

説明: EMM/DA が、現在登録されていないホストから共有ドライブの登録要求を受信しましたが、この EMM/DA で登録できるホストの最大数に達しています。現在、EMM/DA で登録できるホストの最大数は 255 です。

推奨処置:

- SSO 構成のホスト数を 255 以下に制限します。
- メディアおよびデバイスの管理ドメインを複数のドメインに分割して、すべてのドメインにおいて共有ドライブを登録するホストを 255 以下にします。

Media Manager の状態コード 152

メッセージ: グローバルデバイスデータベースレコードが見つかりません (global device database record not found)

説明: グローバルデバイスデータベースレコードの更新が要求されましたが、指定されたレコードがグローバルデバイスデータベースで検出されませんでした。この状態は、グローバルデバイスデータベースホストの変更後にデバイスの構成が変更された場合に発生します。

推奨処置: レコードが存在しないためにレコードを更新する要求が失敗した場合、不足しているレコードの追加が要求されます。処置は必要ありません。

Media Manager の状態コード 153

メッセージ: デバイスエントリがグローバルデバイスデータベースで一意ではありません (device entry is not unique in global device database)

説明: グローバルデバイスデータベースのレコードの追加が要求されましたが、既存のレコードと同じレコードが指定されています。この状態は、2 つのプロセスが、同じホスト上でデバイス構成を同時に更新した場合に発生します。

推奨処置:

- 単一ソースから変更するように、デバイス構成の変更を調整します。
- サーバー (データベース) 側のグローバルデバイスデータベースの変更状況については、デーモンのデバッグログファイルで、詳細なエラーメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 155

メッセージ: グローバルデバイスデータベースの追加操作に失敗しました (global device database append operation failed)

説明: デバイス構成の変更が要求されましたが、グローバルデバイスデータベースレコードをグローバルデバイスデータベースファイルに書き込むことができません。

推奨処置:

デーモンのデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 160

メッセージ: グローバルデバイスデータベースのデバイス形式が無効です (the global device database device type is invalid)

説明: デバイス構成の変更要求で、無効なデバイス形式が検出されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 対象のホストを特定します。そのホストのすべての Media Manager バイナリが、構成に含まれる他のホストと互換性があるバージョンであることを確認します。必要に応じて、ソフトウェアを更新します。

Media Manager の状態コード 162

メッセージ: グローバルデバイスデータベースのデバイス名が無効です (the global device database device name is invalid)

説明: デバイス構成の変更要求で、検出されたデバイス名が無効であるか、存在しません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 対象のホストを特定します。そのホストのすべての Media Manager バイナリが、構成に含まれる他のホストと互換性があるバージョンであることを確認します。必要に応じて、ソフトウェアを更新します。

Media Manager の状態コード 163

メッセージ: 要求された操作は失敗しました (the operation requested has failed)

説明: 要求された操作が失敗しました。原因は特定できません。

推奨処置: このエラーは多くの原因によって発生します。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 164

メッセージ: ロボットデーモンが無効なボリューム GUID を戻しました (the robotic daemon returned an invalid volume GUID)

説明: RSM API から無効な RSM GUID が戻されました。(RSM は Microsoft リムーバブル記憶域マネージャです。GUID はグローバル一意識別子です。)

推奨処置:

- システムのアプリケーションログ、リムーバブルストレージシステムインターフェースおよびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーに関する詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。デーモンのデバッグログファイルから、無効な RSM GUID を持つメディア ID を特定します。
- ソフトウェアコンポーネント間に互換性があることを確認します。

Media Manager の状態コード 165

メッセージ: 評価期間が終了しました。

説明: NetBackup の評価期間が終了しました。

推奨処置: ライセンス製品版の NetBackup を入手します。ライセンスの情報については、NetBackup の営業部門またはパートナー企業ご相談窓口までお問い合わせください。

Media Manager の状態コード 166

メッセージ: メディアアクセスポートは利用できません (media access port not available)

説明: ロボットライブラリの中または外へのボリュームの物理的な移動が要求されましたが、メディアアクセスポートが利用できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 移動要求が、互換性のない、以前のバージョンのソフトウェアが実行されているシステムのロボット制御デーモンまたはロボット制御プロセスに送信されていないことを確認します。
- 対象のロボット制御デーモンまたはロボット制御プロセスが、正常に動作していることを確認します。

Media Manager の状態コード 167

メッセージ: データベース内で ADAMM GUID が一意ではありません (ADAMM GUID is not unique in the database)

説明: 追加または変更された EMM データベース内のボリュームエントリに、ADAMM GUID が指定されました。これは、すでに EMM データベース内に存在する他のボリュームの ADAMM GUID と同じ ADAMM GUID です。EMM データベース内のすべてのボリュームには、一意または NULL の ADAMM GUID が必要です(ADAMM は Advanced Device and Media Management、GUID はグローバル一意識別子です)。

推奨処置:

- コマンドの出力 (存在する場合) およびデーモンと `reqlib` のデバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デーモンのデバッグログファイルから、追加または変更されるボリュームエントリと競合する ADAMM GUID が存在するボリュームを判断します。

Media Manager の状態コード 168

メッセージ: データベースに ADAMM GUID が存在しません (ADAMM GUID does not exist in database)

説明: 指定した ADAMM (Advanced Device and Media Management) の GUID を EMM データベースに問い合わせましたが、指定した条件と一致するボリュームが検出されませんでした。(GUID はグローバル一意識別子です。)

推奨処置: ADAMM GUID がデータベースに存在しないメディアに対して vmphyinv を実行します。

Media Manager の状態コード 169

メッセージ: 内部データベースアクセスの失敗 (internal database access failure)

説明: 7.7 より前のバージョンの NetBackup サーバーからドライブ状態を更新中に EMM に問題が発生しました。

推奨処置: 以下の処理を行います。

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- tpconfig -d または vmquery -a コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

Media Manager の状態コード 171

メッセージ: スクラッチプールはすでに定義されています (a scratch pool is already defined)

説明: 他のスクラッチプールがすでに存在するため、新しいスクラッチプールを定義できません。

推奨処置: すでに定義されているスクラッチプールを使用するか、現在のスクラッチプールを削除して新しいスクラッチプールを作成します。

Media Manager の状態コード 172

メッセージ: プールがスクラッチプールとして定義されていません (pool not defined as a scratch pool)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースによって、スクラッチプールとして定義されていないスクラッチプールの削除 (設定解除) が試行されました。

推奨処置: スクラッチプールを削除するには、vmpool コマンドを実行します。この場合、unset_scratch オプションで指定したプール名が正しいスクラッチプール名であることを確認します。

Media Manager の状態コード 173

メッセージ: スクラッチプール名が無効です (invalid scratch pool name)

説明: ユーザーまたは NetBackup メディア管理インターフェースが、NetBackup、DataStore または None プールを、スクラッチプールとして指定しようとしました。NetBackup、DataStore および None プールは、スクラッチプールとして指定できません。

推奨処置: 異なる名前のスクラッチプールを作成します。

Media Manager の状態コード 175

メッセージ: デバイステストの状態ファイルを開けません (unable to open the device test state file)

説明: プロセスが状態ファイルを開くことができません。他のプロセスによってファイルがロックされている可能性があります。

推奨処置: 状態ファイルを再度開きます。状態ファイルを開けない場合は、ファイルの削除が必要なことがあります。ファイルを削除すると、以前に実行したテストは消失します。

Media Manager の状態コード 176

メッセージ: デバイステストデータベースのレコードが見つかりません (unable to find any records in the device test database)

説明: 状態ファイルは存在しますが、空です。このエラーは、以前にテストが実行されていないことを示します。

推奨処置: 特にありません。

Media Manager の状態コード 177

メッセージ: 要求は、メディアおよびデバイスの管理ドメインサーバーでのみ実行できます (request can only be performed on the Media and Device Management Domain Server)

説明: この要求を実行したホストは、データベースホストとして割り当てられないように制限されています。管理者がホストをブロックして、EMM サーバーとして割り当てられるホストを制限します。

推奨処置:

- 適切な EMM サーバーが指定されていることを確認します (コマンドラインで `-h` オプションを使用します)。データベースホストが指定されていない場合、コンソールでは現在管理中のホストが使用され、コマンドラインではデフォルトでローカルホストが使用されます。

- この構成に責任を持つ管理者に連絡して、このホストがデータベースホストとして割り当てられないように意図的に制限されているかどうかを確認します。意図的に制限されていない場合、ホストの vm.conf ファイルで NOT_DATABASE_HOST フラグを削除します。デーモンを停止して再起動せずにフラグを削除するには、
  vmquery -h <hostname> -remove_not_db_host コマンドを実行します。
  デーモンを停止して再起動せずにこのエントリをホストに追加するには、vmquery -h <hostname> -add_not_db_host コマンドを実行します。

Media Manager の状態コード 181

メッセージ: ロボットデーモンに接続する認可が行われていません (not authorized to connect to robotic daemon)

説明: ロボットデーモンからサービスを要求するユーザーが認証または認可されていません。または 2 つのシステムが相互に認証しようとすると問題が発生します。

推奨処置:

- Media Manager のセキュリティについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
  Media Manager のセキュリティは、NetBackup の認証または認可と、当該 NBU ドメインのマスターサーバーの bp.conf/Host Properties で定義されているメディアサーバーエントリに基づいています。
- デバッグログファイルで、認証および認可の問題についての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- vmd の認可が失敗しているかどうかを判断します。デバッグログファイルで Media Manager の状態コード 126 ([vmd に接続する認可が行われていません (not authorized to connect to vmd)]) を調べます。
- 認証構成および ENABLE_ROBOT_AUTH エントリを変更して、Media Manager のセキュリティの構成を修正します。

  メモ: ソースと宛先の両方のマシンが 1 つの NBU ドメイン内にあることを確認します。

- 構成ではなく、認証に問題がある可能性がある場合、次のように実行します。
  - 問題があるシステムの methods_allow.txt ファイルを調べて、認証が有効であることを確認します。ファイルの場所は、次のとおりです。
    Windows の場合: *install_path*¥NetBackup¥var¥auth
    UNIX と Linux の場合: /usr/openv/var/auth

- 認証に問題があるシステムの methods_allow.txt ファイルから、認証されていないリモートホストを削除して、操作を再試行します。
  たとえば、ホスト A およびホスト B に問題がある場合、ホスト B のファイルからホスト A を削除し、ホスト A のファイルからホスト B を削除します。
  問題が解決しない場合、エラーの原因は、認証に関連しない接続の問題です。
  削除した名前を追加して、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 182

メッセージ: デバイステストの状態ファイルが存在しません (device test state file does not exist)

説明: 状態ファイルが存在しません。原因として、以前にテストが実行されていない可能性があります。

推奨処置: 状態ファイルが消失している場合、以前に実行されたすべてのテストも消失しています。再度テストを実行することをお勧めします。

Media Manager の状態コード 185

メッセージ: ロボットライブラリに空きがありません。MAP 内にメディアが残っている可能性があります。(the robotic library is full and may still have media in its map)

説明: ロボットインベントリの更新中に、ユーザーが empty_map オプションの使用を試みました。MAP に、ライブラリで使用可能な容量よりも大きい容量のメディアが含まれています。この場合、インベントリの更新は成功しますが、empty_map は部分的にしか成功しません。MAP に残っているメディアは変更されず、EMM データベースに追加されません。

推奨処置: MAP に残ったままでライブラリに移動されていないメディアがあることを確認すること以外に、ユーザーが行う必要のある処置はありません。

Media Manager の状態コード 186

メッセージ: コンテナ ID が無効です (invalid container ID)

説明: NetBackup Vault のコンテナ ID に無効な文字が使用されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 無効な文字が含まれていないコンテナ ID を使用して、操作を再試行します。

Media Manager の状態コード 187

メッセージ: VxSS の認証に失敗しました (VxSS authentication failed)

説明: ソケット接続の両者が相互に認証できません。

推奨処置:

- Veritas Product Authentication Service がインストールされ、構成されていることを確認してください。
  インストール手順について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド 』を参照してください。
- `bpnbat -WhoAmI` コマンドを実行して表示される有効期限を確認し、両者に有効な証明書があることを確認します。例:

```
bpnbat -WhoAmI
Name: JDOG
Domain: MYCOMPANY
Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
Expiry Date: Sep 19 12:51:55 2009 GMT
Authentication method: Microsoft Windows
Operation completed successfully.
```

- 有効期限は 2009 年 9 月 19 日であることがわかります。12:51:55 GMT を過ぎるとこのクレデンシャルは無効になり、新しいクレデンシャルが必要になります。
- NetBackup 管理コンソールで実行している場合、コンソールを閉じて再度開きます。可能な場合、コンソールでは、現在ログインしている識別情報のクレデンシャルが自動的に取得されます。デフォルトでは、これらの証明書は 24 時間有効です。次に、クレデンシャルを 24 時間から 30 日 (2592000 秒) に延長する方法について例を示します。
- `# vssat setexpiryintervals -p <plugin_name> -t <user> -e 2592000`
- 両方のパーティの証明書で同じブローカーが使用されているか、または同じルートブローカーの子であるか、あるいは両方のパーティ間に信頼関係が確立されていることを確認します。
  ブローカーの階層およびブローカー間に信頼関係を確立する方法に関する詳細情報が利用可能です。
  詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。
- 対象となる物理システムの間で、接続が可能であることを確認します。マシン間に一般的なソケット (`ping`、`telnet` など) を接続できない場合、この問題は、NetBackup とは関連のないネットワーク内の問題が原因である可能性があります。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - `/home/username`

- /usr/openv/netbackup/logs
- /tmp

Media Manager の状態コード 188

メッセージ: VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明: 操作の試行のために使用したユーザー識別情報には、その操作の実行に必要な権限がありません。

推奨処置:

- デフォルトのグループを使用している場合、ユーザーが実行しようとしている操作が、そのグループにとって適切であることを確認します。たとえば、NBU_Operators のメンバーは、ポリシー情報を変更できません。ポリシー情報を変更する権限は、管理者の役割に限定されています。
- システムに十分なスワップ領域があり、次のディレクトリに空きがあることを確認します。
  - /home/username
  - /usr/openv/netbackup/logs
  - /tmp
- 独自の定義済みグループおよびアクセス権を使用している場合、まず、操作を関連付けるオブジェクトを判断します。その後、その操作に関連する権限を追加します。たとえば、ドライブの起動および停止の操作を必要とするユーザーが現在その権限を所有していないとします。この場合は、ユーザーが適切な認可グループに属することを確認します。
  必要に応じて、[グループの権限 (Group Permissions)]タブで、グループがドライブオブジェクトに対する起動および停止権限を所有していることを確認します。また、必要に応じて、NetBackup の詳細度レベルを上げて、失敗した要求に必要とされるオブジェクトおよび権限を特定できます。デバッグログの該当する行に、次のようなメッセージが表示されます。

```
17:19:27.653 [904.872] <2> GetAzinfo: Peer Cred Info.
Name: JMIZZLE
Domain: MYCOMPANY
Expiry: Sep 24 21:45:32 2003 GMT
Issued by: /CN=broker/OU=root@machine1.mycompany.com/O=vx
 AuthType: 1
17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5082:
Function: VssAzAuthorize. Object
NBU_RES_Drives
17:19:37.077 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5083:
Function: VssAzAuthorize. Permissions Up
```

```
17:19:40.171 [904.872] <2> VssAzAuthorize: vss_az.cpp.5166:
Function: VssAzAuthorize. 20 Permission denied.
```

この例では、ユーザー JMIZZLE は、ドライブオブジェクトに対して起動権限が必要な操作を実行しようとしています。問題を診断するには、JMIZZLE が属するグループを調べて、該当するグループが起動権限を所有していることを確認する必要があります。(起動権限は、ドライブに対する操作権限セットに含まれています。)

Media Manager の状態コード 189

メッセージ: Enterprise Media Manager への接続の初期化に失敗しました (failed to initialize a connection to the Enterprise Media Manager)

説明: EMM サーバーへの接続の初期化要求が失敗したか、接続はすでに初期化されていました。

推奨処置:

- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

Media Manager の状態コード 190

メッセージ: デバイスアロケータに送信された要求が失敗しました。(the request sent to the Device Allocator has failed.)

説明: DA (EMM サーバー) でのドライブの予約または解放要求が失敗しました。

推奨処置:

- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。
- DA のドライブ予約要求の場合、ドライブが他のホストに予約されていないことを確認します。

- DA のドライブ解放要求の場合、DA に解放を要求するホストによってドライブが DA に予約されており、まだ解放されていないことを確認します。

Media Manager の状態コード 191

メッセージ: EMM 引数が無効です (invalid EMM argument)

説明: EMM サーバーへの呼び出しに無効な引数が指定されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 192

メッセージ: 不明な EMM エラーコード (unknown EMM error code)

説明: EMM サーバーから不明なエラーが戻されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 193

メッセージ: 一般的な EMM SQL エラー (generic EMM SQL error)

説明: EMM サーバーで、基礎となるデータベースからのエラーが受信されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

Media Manager の状態コード 194

メッセージ: EMM データベースレコードが見つかりません (EMM DB record not found)

説明: NetBackup のアップグレード時に、必要なホストが正しい順序でアップグレードされませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 『NetBackup インストールガイド』に記載されているとおり、適切な順序でアップグレードしていることを確認します。

Media Manager の状態コード 195

メッセージ: CORBA 通信エラー (CORBA communication error)

説明: EMM サーバーとの通信の試行中に問題が発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- VxPBX (Private Branch Exchange) が新しい要求を処理していることを確認します。
- EMM サーバーが新しい要求を処理していることを確認します。

Media Manager の状態コード 196

メッセージ: EMM データベースエラー (EMM database error)

説明: EMM サーバーによって戻されたエラーが、呼び出し元のプログラムに認識されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- EMM サーバーが新しい要求を処理していることを確認します。

Media Manager の状態コード 198

メッセージ: プールがカタログバックアッププールとして定義されていません (pool not defined as a catalog backup pool)

説明: カタログバックアップ属性が設定されていないプールに対して、カタログバックアップ属性の削除が試行されました。

推奨処置: この操作で適切なプール名が使用されていることを確認します。

Media Manager の状態コード 199

メッセージ: メディアは使用できるように割り当てられています (the media is allocated for use)

説明: 使用中のメディアに対する変更が要求されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアを使用していないときに、操作を再試行します。

3

デバイス構成の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- デバイス構成の状態コード

デバイス構成の状態コード

デバイス構成の状態コードは、tpconfig コマンドや tpautoconf コマンドの終了状態とコマンド出力、およびシステムログやデバッグログに表示されます。また、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェースや、vmoprcmd コマンドなど、tpconfig および tpautoconf を呼び出すプログラムによってもこれらのコードが表示されます。

デバイス構成の状態コード 0

メッセージ: 成功 (Success)

説明: 要求された操作が正常に完了しました。

推奨処置: なし

デバイス構成の状態コード 1

メッセージ: コマンドを実行できません。アクセス権が拒否されました (Cannot execute command, permission denied)

説明: root 権限 (UNIX および Linux) または管理者権限 (Windows) がないユーザーまたはプロセスが処理を開始したか、EMM サーバー名を設定できません。

推奨処置:

- 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、デバイスの構成要求を再発行します。
- 次の手順を実行して、共通の EMM サーバー名を設定します。

- 他のホストで `tpautoconf -get_gdbhost` を実行します。
- 次のように指定して、EMM サーバー名を設定します。

  ```
  tpautoconf -set_gdbhost host_name
  ```

  ここで、*host_name* は、`tpautoconf -get_gdbhost` によって戻されるホスト名です。

デバイス構成の状態コード 2

メッセージ: device_mappings ファイルのライセンス情報が無効です (The device_mappings file has invalid license info)

説明:

`/usr/openv/share/device_mappings.txt` (UNIX と Linux の場合) または *install_path*`¥VERITAS¥NetBackup¥share¥device_mappings.txt` (Windows の場合) のいずれかのファイルに、次のような問題があります。

- ファイルが存在しません。
- ファイルは、異なるバージョンの NetBackup 用のファイルです。ファイルのヘッダーを参照して、どのバージョン用のファイルかを調べることができます。
- ファイルのライセンスダイジェストが破損しています。

推奨処置: 次の Cohesity Technical Support Web サイトから最新のデバイスマッピングファイルをダウンロードします。

デバイス構成の状態コード 3

メッセージ: ホスト名を取得できませんでした (Could not get host name)

説明: このホストのホスト名の検索が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ホスト名が解決可能であることを確認します。

デバイス構成の状態コード 7

メッセージ: ロボットの SCSI ポート番号が無効 (Invalid SCSI port number for the robot)

説明: ロボットの SCSI ポート番号の追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI ポート番号が無効です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 適切な SCSI ポート番号をロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI ポート番号を取得します。

デバイス構成の状態コード 8

メッセージ: ロボットの SCSI バス番号が無効 (Invalid SCSI bus number for the robot)

説明: ロボットの SCSI バス番号の追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI バス番号が無効です。

推奨処置: 適切な SCSI バス番号をロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI バス番号を取得します。

デバイス構成の状態コード 9

メッセージ: ロボットの SCSI ターゲットが無効 (Invalid SCSI target for the robot)

説明: ロボットの SCSI ターゲットの追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI ターゲットが無効です。

推奨処置: 適切な SCSI ターゲットをロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI ターゲットを取得します。

デバイス構成の状態コード 10

メッセージ: ロボットの SCSI 論理ユニット番号が無効 (Invalid SCSI logical unit number for the robot)

説明: ロボットの SCSI 論理ユニット番号の追加または変更が要求されましたが、指定された SCSI 論理ユニット番号が無効です。

推奨処置: 適切な SCSI 論理ユニット番号をロボットに指定します。デバイスの構成ウィザードを使用してデバイスの検出を行うか、必要に応じて Windows のレジストリを確認して、SCSI 論理ユニット番号を取得します。

デバイス構成の状態コード 11

メッセージ: 使用方法が無効 (Invalid Usage)

説明: Media Manager デバイス構成コマンド (tpconfig または tpautoconf) のいずれかを不適切なオプションを指定して実行したか、製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 想定される使用方法について、tpconfig または tpautoconf の使用方法を確認して、新しいプロセスを開始するために送信されているパラメータと比較します。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス構成の状態コード 13

メッセージ: ドライブまたはロボットの構成ファイルの読み込みに失敗しました (Failed reading drive or robot config file)

説明: デバイス構成の表示が要求されましたが、EMM データベースからの読み込み中にエラーが発生しました。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- nbemm が実行中であることを確認します。デバイス構成を表示して、データベースが破損していないかどうかを判断します。カタログバックアップから、保存されているデータベースのコピーをリストアするか、カタログバックアップを削除して、必要に応じてデバイス構成を再作成します。

デバイス構成の状態コード 14

メッセージ: 無効なドライブインデックス (Invalid drive index)

説明: ドライブ構成エントリの追加、更新または表示が要求されましたが、指定されたドライブインデックスは、構成されているドライブに関連付けられていません。

推奨処置:

- デバイス構成を表示して、有効なドライブのリストを取得します。複数のソースから同時にデバイス構成を変更しないでください。
- 詳しくは、デーモンのデバッグログ、およびコマンドやインターフェースの出力で、エラーに関する詳細なメッセージを確認してください。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 15

メッセージ: 無効なロボット番号 (Invalid robot number)

説明: デバイス構成の変更要求で、指定されたロボット番号が指定可能な範囲内にないか、ロボット番号が現在構成されているロボットに対応していないか、またはロボットデータベースが破損しています。

推奨処置:

- ロボット番号を 0 から 32767 の範囲で指定します。
- 現在デバイス構成に含まれているデバイスで、すべてのデバイス構成の変更または削除を実行していることを確認します。
- nbemm が実行中であることを確認します。カタログバックアップから、保存されているロボットデータベースのリストアを行うか、データベースを削除し、必要なロボット構成情報を再作成します。

デバイス構成の状態コード 16

メッセージ: デバイスに送信された SCSI 照会が失敗しました (A SCSI inquiry sent to the device has failed)

説明: SCSI ロボットライブラリまたはドライブの追加または更新要求で、Media Manager によるデバイスのシリアル番号の取得および文字列の問い合わせができません。Media Manager は、デバイスに SCSI 問い合わせコマンドを送信してこの情報を取得します。このエラーは、SCSI を使用して NetBackup がデバイスと通信できないことを示します。

推奨処置:

- デバイスが物理的に接続されていることを確認します。
- デバイスを認識するようにオペレーティングシステムが構成されていて、オペレーティングシステムからデバイスを参照できることを確認します。
- 他のプロセスがデバイスを使用しておらず、デバイスがオフラインでないことを確認します。

デバイス構成の状態コード 17

メッセージ: このロボット形式は複数のメディア形式をサポートしません (This robot type does not support multiple media types)

説明: 異なるドライブ形式のドライブがロボットライブラリに構成されているため、ロボットドライブの追加または更新の試行に失敗しました。(NetBackup ロボットライブラリの形式によっては、複数のメディア形式はサポートされていません。)

複数のメディアをサポートする NetBackup ロボットライブラリ形式について詳しくは、『NetBackup リリースノート』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

推奨処置:

- このロボットライブラリのすべてのドライブを同じドライブ形式で構成します。
- 現在 NetBackup サーバーを使用しており、複数のメディア形式をサポートするロボットライブラリが必要な場合は、Cohesityに連絡して NetBackup Enterprise Server をご購入ください。

デバイス構成の状態コード 18

メッセージ: 無効なロボット形式 (Invalid robot type)

説明: デバイス構成の変更要求で、指定したロボット形式が無効か、指定したロボット番号に関連付けられたロボットのロボット形式が一致しません。

推奨処置:

- 構成されたロボットをデバイス構成で確認して、更新するデバイス構成情報に適用可能な、適切なロボット形式を指定します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス構成の状態コード 19

メッセージ: 無効なデバイスパス名 (Invalid device path name)

説明: デバイス構成の変更要求で、指定されたデバイスパスまたはデバイス名が無効です。

推奨処置:

- 無効なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用します。ウィザードによってデバイスパスおよびデバイス名が自動的に構成されるようにします。
- Windows ホストの場合、オペレーティングシステムの構成またはレジストリでデバイス名を確認して、NetBackup のオンラインヘルプで `tpconfig` コマンドを参照してください。UNIX ホストおよび Linux ホストについては、次のマニュアルで説明しています。『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。
  UNIX および Linux ホストに接続されたドライブでは、非巻き戻しデバイスファイルを常に使用します。指定したデバイスパスが、文字型特殊ファイルとして存在することを確認します。コマンドまたはユーザーインターフェースの出力で、エラーの詳細を確認します。

デバイス構成の状態コード 21

メッセージ: ロボット番号はすでに使用されています (Robot number is already in use)

説明: デバイス構成へのロボットの追加要求で、指定されたロボット番号が他のロボットですでに使用されていることが検出されました。

推奨処置: すべてのデバイスホストのデバイス構成で、構成されているロボットを確認して、まだ使用されていないロボット番号を指定します。次のコマンドを実行すると、EMM データベース内のすべてのデバイスが表示されます。

```
tpconfig -emm_dev_list
```

デバイス構成の状態コード 22

メッセージ: デバイスパスはすでに使用されています (Device path is already in use)

説明: デバイス構成へのロボット情報の追加要求または変更要求で、指定したロボットデバイスパスが他の構成済みロボットで使用されています。

推奨処置:

- すでに使用中のデバイスパスを構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用します。ウィザードで、デバイスパスおよびデバイス名を自動的に構成します。
- `tpconfig -d` コマンドまたはデバイス構成インターフェースを使用してデバイス構成を表示し、すでに構成済みのロボット情報を参照します。Windows ホストでは、複数の方法 (チェンジャ名またはポート、バス、ターゲット、LUN) でロボットを構成できます。オペレーティングシステムの構成またはレジストリでチェンジャ名および関連する SCSI パスを確認します。コマンドまたはユーザーインターフェースの出力で、エラーの詳細を確認します。

デバイス構成の状態コード 24

メッセージ: 不完全なロボット情報 (Incomplete robot information)

説明: デバイス構成の変更要求で、必要なロボット情報の一部が指定されませんでした。

推奨処置: コマンドの使用方法を確認し、必要なロボット情報をすべて指定して要求を再発行します。

デバイス構成の状態コード 25

メッセージ: ロボットドライブ番号はこのロボットに使用されています (Robot drive number in use for this robot)

説明: デバイス構成の変更要求で、ロボットの指定されたドライブアドレスが、デバイス構成内の他のドライブで使用されています。

推奨処置: ロボットのドライブアドレスは、多くのロボット形式ではロボットドライブ番号です。ACS ロボットでは、ACS/LSM/PANEL/DRIVE 座標です。特定のデバイス構成内の 1 つのロボットに存在する 2 つのドライブが、同じドライブアドレスを持つことはできません。ドライブアドレスを調整する必要がある場合、ドライブの一方を削除するか、使用されていないドライブアドレスを一時的に使用します。たとえば、あるロボットにロボットドライブ番号 1 および 2 の 2 台のドライブが存在し、それらのドライブ番号を交換する必要があるとします。この場合、いずれかのドライブを一時的にロボットドライブ番号 3 に変更します。その後、もう一方のドライブを使用されていないロボットドライブ番号 (1 または 2) に変更します。最後に、最初のドライブを空いているロボットドライブアドレス (1 または 2) に変更します。

デバイス構成の状態コード 27

メッセージ: ロボットのドライブ形式が無効 (Invalid drive type for the robot)

説明: ロボット内へのドライブの構成要求で、ドライブ形式が、選択されたロボット形式に対して無効です。

推奨処置: 以下のマニュアルでロボット属性に関する表を確認して、特定のロボット形式に有効なメディア形式を判断します。

『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。

ドライブ形式は、示されているメディア形式に直接対応します。サポート対象のデバイスを構成して、ドライブ形式とロボット形式の無効な組み合わせを要求することがないようにします。

デバイス構成の状態コード 28

メッセージ: このロボット形式では無効なロボットドライブ番号です (Invalid robot drive number for the robot type)

説明: ロボット内へのドライブの構成要求で、ロボットドライブ番号が、選択されたロボット形式に対して無効です。

推奨処置: ロボットドライブ番号 (ACS ロボットの場合、ACS ドライブ識別子のセット) は、ロボット形式に基づいて一定の範囲に制限されています。これらの制限は、サポートされているデバイスリストに基づいています。無効なロボットドライブ番号は、ドライブ番号が許容範囲内にないことを意味します。ロボットハードウェアがサポートされていて、ロボットライブラリのサポートに必要なパッチがインストールされていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 29

メッセージ: ドライブインデックスは、別のドライブが使用しています (Drive index is in use by another drive)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求で、要求されたドライブインデックスが、対象のデバイスホストで使用されています。

推奨処置:

- すでに使用中のドライブインデックスを構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用します。ウィザードによってドライブインデックスが自動的に構成されるようにします。
- ドライブインデックスを指定できるデバイス構成インターフェースを使用する場合は、`tpconfig -d` コマンドを実行して、対象のデバイスホストですでに使用されているドライブインデックスを判断します。その後、まだ使用されていないドライブインデックスを指定します。

デバイス構成の状態コード 30

メッセージ: ロボット番号は別のロボットによって使用されています (Robot number is in use by another robot)

説明: デバイス構成へのロボットドライブの追加要求または更新要求で、指定したロボット番号とロボット形式が、異なるロボット形式の既存のロボットに関連付けられています。

推奨処置: 対象のデバイスホストのデバイス構成を確認して、構成されているロボットを識別します。ドライブの構成要求で、ドライブを含むロボットに関連するロボット番号およびロボット形式を指定します。

デバイス構成の状態コード 31

メッセージ: ロボット番号が存在しません (Robot number does not exist)

説明: デバイス構成へのドライブやロボットの追加要求または更新要求で、指定したロボット番号およびロボット形式が、対象のデバイスホストで構成されたロボットに関連付けられていません。

推奨処置: 対象のデバイスホストのデバイス構成を確認して、構成されているロボットを識別します。ロボットドライブとして構成するすべてのドライブには、そのデバイスホストで事前にロボットを構成する必要があります。リモートホストでロボット制御を行う共有ロボットライブラリには、ロボット制御を行うリモートホストを参照する論理ロボットエントリが必要です。最初にロボットをデバイス構成に追加します。次にドライブを追加します。ドライブをロボット内に定義します。ロボットがすでに構成されている場合、ドライブまたはロボット構成要求で、適切なロボット番号およびロボット形式を指定します。

デバイス構成の状態コード 33

メッセージ: ロボット形式をローカルで制御する必要があります (Robot type must be controlled locally)

説明: デバイス構成へのロボットの追加または更新要求で、リモート制御ホストをサポートしていないライブラリ形式に対してリモート制御ホストが指定されました。

推奨処置:

- 正しいロボット形式を構成していることを確認します。
- ローカルデバイスパスを使用してローカル制御のデバイスを構成します。

デバイス構成の状態コード 34

メッセージ: ドライブ名は、別のドライブがすでに使用しています (Drive name is already in use by another drive)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求または更新要求で、要求されたドライブパスが、対象のデバイスホストで使用されています。

推奨処置:

- すでに使用中のパスを構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用します。ウィザードによってドライブパスが自動的に構成されるようにします。
- 構成を変更する前に、デバイス構成インターフェースを使用して既存のドライブ構成を確認するか、`tpconfig -d`コマンドを実行して対象のデバイスホストですでに使用されているドライブパスを判断します。その後、まだ使用されていないドライブパスを指定します。

デバイス構成の状態コード 35

メッセージ: ドライブ名は存在しません (Drive name does not exist)

説明: デバイス構成でドライブを更新または削除する要求で、指定したドライブ名のドライブが対象のデバイスホストで検出されませんでした。

推奨処置: 対象のデバイスホストのデバイス構成を確認して、構成されているドライブを識別します。ドライブ構成を変更または削除する場合、構成されているとおりのドライブ名を指定します。大文字と小文字を区別して使用していることを確認します。

デバイス構成の状態コード 36

メッセージ: <NONE>

説明: デバイス構成の変更要求で、エラーが発生しました。エラーについての詳細なメッセージは、コマンドまたはユーティリティインターフェースの出力に表示されています。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログ、およびコマンドやインターフェースの出力で、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバイス構成要求を再試行し、ログを調べます。

デバイス構成の状態コード 37

メッセージ: 共有ドライブサポートで位置情報を認可されていません (Residence is not licensed for shared drive support)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求または更新要求で、ドライブが共有ドライブとして指定されましたが、そのドライブのドライブ形式またはドライブに関連付けられたロボットのロボット形式で共有ドライブがサポートされていません。

推奨処置: サポートされているデバイス構成については、Cohesity Technical Support Web サイトと製品のマニュアルを確認してください。

デバイス構成の状態コード 38

メッセージ: 現在のバージョンはリモートデバイスホストをサポートしていません (Current version does not support remote device host)

説明: EMM サーバーの変更要求で、指定されたホストがローカルホストではありません。現在のソフトウェアのライセンスでは、リモートホストは使用できません。

推奨処置: 製品マニュアルで、サポート対象のデバイス構成を確認します。追加のソフトウェアライセンスを取得してリモートホストを構成するか、構成要求でローカルホスト名だけを指定します。

デバイス構成の状態コード 39

メッセージ: このドライブを最大許容数を超えて追加しています (Adding this drive would exceed the maximum allowed)

説明: デバイス構成へのドライブの追加要求で、対象のホストで、ライセンスによって制限された最大ドライブ数に達しました。

推奨処置: 製品マニュアルで、サポート対象のデバイス構成を確認します。より多くのドライブを構成できる追加のソフトウェアライセンスを取得するか、現在のライセンスで構成可能なドライブ数のみを構成します。

デバイス構成の状態コード 40

メッセージ: このデバイスを最大許容数を超えて追加しています (Adding this device would exceed the maximum allowed)

説明: デバイス構成へのロボットの追加要求で、対象のホストで、ライセンスによって制限された最大ロボット数に達しました。

推奨処置: 製品マニュアルで、サポート対象のデバイス構成を確認します。より多くのロボットを構成できる追加のソフトウェアライセンスを取得するか、現在のライセンスで構成可能なロボット数のみを構成します。

デバイス構成の状態コード 41

メッセージ: 端末モードを変更できません (Cannot change terminal mode)

説明: 端末入力モードを cooked や raw へ変更しようとしたとき、システムコールが失敗しました。

推奨処置: ユーザーインターフェースの出力で、失敗したシステムコールに関連するシステムエラーを調べます。その後、オペレーティングシステムのベンダーの推奨事項に従ってトラブルシューティングします。

デバイス構成の状態コード 42

メッセージ: その他の作業リポジトリを作成できません (Cannot create miscellaneous working repository)

説明: デバイス構成要求で、所定の作業ディレクトリまたはフォルダが存在せず、また、作成できません。

推奨処置: `/usr/openv/volmgr/misc` (UNIX および Linux の場合) または *`install_path`*`¥volmgr¥misc` (Windows の場合) を作成できない理由を判断します。Windows の場合、NetBackup Volume Manager サービスおよびデバイスの構成インターフェースが実行されているアカウントを確認します。そのアカウントを database フォルダの[セキュリティ]プロパティと比較します。UNIX および Linux の場合、ユーザーま

たはデバイスの構成インターフェースの呼び出し元が、misc ディレクトリを作成する権限を所有するユーザーおよびグループであるかどうかを判断します。

デバイス構成の状態コード 44

メッセージ: デバイスを検出できません。(Cannot discover devices.) 詳しくは『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。

説明: デバイスの検出でロックファイルの取得または検証に失敗したか、EMM サーバーに問題があります。

推奨処置:

- デーモンのデバッグログ、およびコマンドやインターフェースの出力で、システムエラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 操作を再試行し、ログを調べます。次のいずれかの状態が発生している可能性があります。
  - ロックファイルの問題: デバイス検出プロセスでは、`/usr/openv/volmgr/misc` ディレクトリ (UNIX と Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc ディレクトリ (Windows の場合) に `tpac.lock` という名前のロックファイルが設定されます。これによって、特定のホストで実行される検出のインスタンスが確実に 1 つだけになります。その後、構成を更新する前にデバイス検出プロセスによってロックファイルが確認されます。
    - ロックファイルを取得できない場合
      ロックファイルが他の検出プロセスで保持されている可能性があります。この場合、次のエラーが表示されます。

      ```
      another tpautoconf is already running
      ```

      標準の OS プロセスツール (UNIX および Linux では `ps`、Windows ではタスクマネージャ) を使用して、他の `tpautoconf` プロセスが実行されているかどうかを判断します。実行されていない場合、ロックファイルを削除して、デバイスの検出を再度実行します。別の `tpautoconf` プロセスが実行されている場合、そのプロセスが終了するまで待機し、その後、再試行します。
    - ロックファイルの確認に失敗した場合
      デバイスの検出に時間がかかる場合、インターフェースにタイムアウトが発生するか、またはユーザーによってそのプロセスが取り消されることがあります。タイムアウトまたはプロセスのキャンセルによって、ロックファイルが削除されます。これによって、デバイス検出プロセスによるデバイス構成の変更は続行されなくなります。このような状況が発生した場合、検出プロセスを再度実行します。

デバイス構成の状態コード 48

メッセージ: RSM はサポートされていません (RSM is not supported)

説明: デバイス構成の変更要求で、RSM (Microsoft リムーバブル記憶域マネージャ) ロボット形式が指定されましたが、RSM ロボット形式はサポートされていません。

推奨処置: サポートされている Media Manager ロボット形式を使用します。

デバイス構成の状態コード 49

メッセージ: グローバルデバイスデータベースのホスト名が無効です (The global device database host name is invalid)

説明: デバイス構成要求で、EMM サーバー名を取得できません。

EMM サーバー名は、bp.conf ファイル (または Windows レジストリ) を読み込むための内部要求を介して取得されます。この要求は、EMMSERVER エントリが設定されていないと失敗する場合があります。

推奨処置: デバイスホストで `tpautoconf -get_gdbhost` を実行して、EMM サーバー名を取得します。必要に応じてを実行して、EMM サーバー名を設定します。tpautoconf -set_gdbhost

デバイス構成の状態コード 51

メッセージ: これらの SCSI 座標に互換性のあるデバイスが登録されていません (No compatible device is registered at these SCSI coordinates)

説明: デバイス構成へのロボット情報やドライブ情報の追加要求または変更要求で、指定した SCSI 座標がシステムレジストリ内のデバイスに対応しませんでした。この状態コードは、Windows システムだけに適用されます。

推奨処置: SCSI 座標 (ポート、バス、ターゲットおよび LUN) を手動で指定しないようにするには、デバイスの構成ウィザードを使用します。デバイスの検出がサポートされているプラットフォームでこのウィザードを実行して、完全に自動でデバイス構成要求を行います。または、メディアおよびデバイスの管理インターフェースを使用して、システムレジストリ内のデバイスを表示および選択します。SCSI 座標を手動で構成する場合、指定した座標にデバイスが存在することをオペレーティングシステムのレジストリで確認します。

デバイス構成の状態コード 52

メッセージ: デバイス名が無効です。デバイスから応答がありませんでした。(The device name is not valid, no device responded)

説明: デバイス構成へのロボット情報やドライブ情報の追加要求または変更要求で、指定したデバイス名のデバイスがシステムレジストリで検出されませんでした。このエラーコードは、Windows システムだけに適用されます。

推奨処置: デバイス名を手動で指定しないようにするには、デバイスの構成ウィザードを使用します。ウィザードによって (デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで) デバイス構成要求が完全に自動化されるようにします。または、メディアおよびデバイスの管理インターフェースを使用して、システムレジストリ内のデバイスを表示および選択します。デバイスを手動で構成する場合は、オペレーティングシステムのレジストリで、指定した座標にデバイスが存在することを確認します。

デバイス構成の状態コード 53

メッセージ: Shared Storage Option (SSO) のライセンスがありません (Shared Storage Option (SSO) is not licensed)

説明:ドライブへのパスの追加に失敗しました。SSO のライセンスがインストールされていないためです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このドライブのパスが構成されているすべてのサーバーと、この操作を実行するサーバーに、SSO の有効なライセンスがインストールされていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 55

メッセージ: 無効な NDMP ホスト名です (Invalid NDMP host name)

説明: 無効なホスト名が指定されたか、ホスト名が指定されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -dnh` を実行して、ホストが構成されていることを確認します。
- `tpautoconf -list_snapvault_volumes` コマンドの使用方法を確認します。

デバイス管理の状態コード 56

メッセージ: 無効な NDMP ユーザー名です (Invalid NDMP user name)

説明: 無効なユーザー名が指定されたか、ユーザー名が指定されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -dnh` コマンドを実行して、ホストが構成されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 57

メッセージ: 内部 NDMP エラー (Internal NDMP error)

説明: NDMP デバイスでエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpautoconf -probe` コマンドの使用方法を確認します。
- NDMP ファイラに接続されているデバイスのシリアル番号の取得および文字列の問い合わせの際に、エラーが発生しました。デバイスがファイラに適切に接続されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 58

メッセージ: NDMP でホストの検証に失敗しました (NDMP failed to verify host)

説明: NDMP の検証機能の使用中にエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpautoconf -verify` コマンドの使用方法を確認します。
- デバイスがファイラに適切に接続されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 59

メッセージ: NDMP がプラットフォームにインストールされていません (NDMP is not installed on platform)

説明: NDMP オプションがこのサーバーにインストールされていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NDMP オプションが適切にインストールされており、ライセンスを取得済みであることを確認します。
- 対象のプラットフォームで NDMP がサポートされていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 60

メッセージ: 無効な NDMP パスワード (Invalid NDMP password)

説明: 無効な NDMP パスワードが指定されたか、パスワードが指定されていません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- パスワードがメディアサーバーとファイラの両方に対して適切であることを確認します。
- パスワードが、コマンドまたは[NDMP ホスト (NDMP Host)]ダイアログボックスで正しく指定されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 61

メッセージ: NDMP ホストが存在します。変更オプションを使用してください。(NDMP host exists, use change option)

説明: EMM データベースにファイラがすでに存在するため、ファイラの追加に失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig` には、`-add` オプションではなく `-update` オプションを使用します。

デバイス構成の状態コード 62

メッセージ: NDMP ホストが存在しません (NDMP host does not exist)

説明: EMM データベースに NDMP ホストが存在しません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig` コマンドの `-add -nh` オプションを使用して、NDMP ホストを追加します。

デバイス構成の状態コード 63

メッセージ: NDMP 要求が失敗しました (NDMP request failed)

説明: NDMP セッションの作成に失敗したか、または NDMP メッセージの送信に失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NAS ファイラのライセンス、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンおよびネットワークの接続を確認します。

デバイス構成の状態コード 64

メッセージ: 無効な NDMP デバイス (Invalid NDMP device)

説明: 無効な NDMP デバイスが指定されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 65

メッセージ: NDMP ロボットが存在します。変更オプションを使用してください。(NDMP robot exists, use change option)

説明: 現在、EMM データベースにロボットが存在しています。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールまたは tpconfig -update -robot コマンドを使用して、ロボット構成を変更します。

デバイス構成の状態コード 66

メッセージ: NDMP ロボットが存在しません (NDMP robot does not exist)

説明: 存在しないロボットの更新が要求されました。

推奨処置: NetBackup 管理コンソールまたは tpconfig -update -robot コマンドを使用して、適切なロボットを追加します。

デバイス構成の状態コード 67

メッセージ: NDMP ホストに接続できません。ホスト名を確認してください (Unable to connect to NDMP host verify host name)

説明: NAS ホストへのネットワーク接続に失敗しました。

推奨処置:

- tpautoconf -verify コマンドを実行して、ホスト名、ユーザー名およびパスワードを確認します。
- ping コマンドを実行して、ネットワークアクセスを確認します。

デバイス構成の状態コード 68

メッセージ: NDMP メッセージを処理できません (Unable to process NDMP message)

説明: NDMP メッセージの処理中に、予期しないエラーが発生しました。

推奨処置: デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 69

メッセージ: NDMP ホストが接続されていません (NDMP host not connected)

説明: NDMP ホストで NDMP メッセージを処理できません。

推奨処置: デバッグログで、エラーの詳細を確認します。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 70

メッセージ: NDMP セッションを作成できません (Unable to create NDMP session)

説明: NAS ファイラへの NDMP 接続のオープン中に、エラーが発生しました。

推奨処置:

- デバッグログで、エラーの詳細を調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpautoconf -verify` コマンドを実行して、ホスト名、ユーザー名およびパスワードを確認します。
- `ping` コマンドを実行して、ネットワークアクセスを確認します。

デバイス構成の状態コード 71

メッセージ: NDMP get_host_info に失敗しました (NDMP get_host_info failed)

説明: NAS ホストで、ndmp_get_host_info プロトコル要求を適切に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 72

メッセージ: NDMP get_server_info に失敗しました (NDMP get_server_info failed)

説明: NAS ホストで、get_server_info プロトコル要求を正常に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 73

メッセージ: サポートされていない NDMP バージョンです (Unsupported NDMP version)

説明: NetBackup では、NDMP V2、V3 および V4 のテープデバイスがサポートされています。デバイスの自動構成では、V3 および V4 だけがサポートされています。

推奨処置:

- デバッグログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- NDMP バージョンを切り替える方法については、NAS ベンダーが提供するマニュアルを参照してください。

デバイス構成の状態コード 74

メッセージ: NDMP の認可エラーです。ユーザー名およびパスワードを確認してください。(NDMP authorization error, verify username/password)

説明: NetBackup は、NAS ホストでユーザー名またはパスワードの認証に失敗しました。

推奨処置: `tpautoconf -verify` コマンドを実行して、ユーザー名およびパスワードを確認します。

デバイス構成の状態コード 75

メッセージ: NDMP config_get_mover_type に失敗しました (NDMP config_get_mover_type failed)

説明: NAS ホストで、config_get_mover_type プロトコル要求を正常に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 76

メッセージ: NDMP config_get_connection_type に失敗しました (NDMP config_get_connection_type failed)

説明: NAS ホストで、config_get_connection_type プロトコル要求を正常に処理できませんでした。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス構成の状態コード 77

メッセージ: EMM サーバーに接続できません (Unable to connect to the EMM server)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、EMM サーバーに到達していないか、通信が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 78

メッセージ: EMM サーバーが要求の処理に失敗しました (The EMM server failed to process the request)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、EMM サーバーに到達していないか、通信が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `pbx_exchange` および `nbemm` が実行中であることを確認します。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 79

メッセージ: このプロセスにメモリを割り当てることができません (Unable to allocate memory for this process)

説明: メモリ割り当て要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 十分なメモリが利用可能であることを確認します。

デバイス構成の状態コード 81

メッセージ: これはドライブパスの操作です。-drpath オプションを使用してください。(This is a drive path operation, use the -drpath option)

説明: `tpconfig` コマンドの `-drpath` オプションを使用せずに、パスの操作が実行されました。このエラーは、`tpconfig -update -drive` を使用してドライブのパスを変更しようとすると発生する場合があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig` コマンドの適切な使用方法を確認して、使用するコマンドを `tpconfig -update -drpath` に変更します。

デバイス構成の状態コード 82

メッセージ: ドライブ名規則の追加要求が失敗しました (Add Drive Name Rule request failed)

説明: ドライブ名規則の追加要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 追加される規則はすでに存在します。
- 指定されたホストは EMM データベースに存在しません。`nbemmcmd -addhost` コマンドを実行して、ホストを EMM データベースに追加します。

デバイス構成の状態コード 83

メッセージ: ドライブ名規則の更新要求が失敗しました (Update Drive Name Rule request failed)

説明: ドライブ名規則の更新が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 更新される規則は存在しません。ドライブ名規則が正しく入力されていることを確認してください。
- 指定されたホストには、ローカルドライブ名規則が構成されていません。ドライブ名規則を構成してください。

デバイス構成の状態コード 84

メッセージ: ドライブ名規則の削除要求が失敗しました (Delete Drive Name Rule request failed)

説明: ドライブ名規則の削除要求が失敗しました。グローバルドライブ名規則の追加または削除はできません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
- 指定されたホストには、ローカルドライブ名規則が存在しません。

デバイス構成の状態コード 85

メッセージ: ドライブ名規則のリスト作成要求が失敗しました (List Drive Name Rule request failed)

説明: 特定のホストまたは一連のホストに対するドライブ名規則のリストを作成できませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ホストが EMM データベースで認識されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 86

メッセージ: ドライブ名規則が無効です (Invalid Drive Name Rule)

説明: ドライブ名規則が指定されていないか、無効な文字が含まれています。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ドライブ名についての次の規則を確認します。
  - ダッシュで始めることはできません。
  - 48 文字を超えて指定することはできません。
  - 文字フィールドには、英数字、プラス記号 (+)、ダッシュ (-)、ピリオド (.) およびアンダースコア (_) だけ使用できます。
- 無効なフィールド名が指定されています。コマンドの使用方法を確認してください。

デバイス構成の状態コード 87

メッセージ: システムエラー (System Error)

説明: オペレーティングシステムのエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 十分なメモリが利用可能であることを確認します。
- Windows ネットワークが適切に構成されていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 88

メッセージ: 無効なホスト (Invalid host)

説明: EMM データベースで認識されていないホストへの、デバイスの追加が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `nbemmcmd -addhost` コマンドを実行して、ホストを EMM データベースに追加します。

デバイス構成の状態コード 89

メッセージ: ドライブ名規則が最大長である 48 文字を超えました。(Drive name rule has exceeded its maximum length of 48 characters)

説明: 指定されたドライブ名規則が長すぎます。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 短い規則を選択します。

デバイス構成の状態コード 90

メッセージ: 別のデバイス構成がすでに進行中です (Another device configuration is already in progress)

説明: デバイスの構成ウィザードまたは tpautoconf のインスタンスはすでに実行中です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 現在のインスタンスの完了後に、操作を再試行します。
- デバイス構成のキャッシュのロックが孤立している可能性があります。nbemmcmd コマンドを実行してロックを解除し、操作を再試行します。

デバイス構成の状態コード 91

メッセージ: ドライブのシリアル番号がデバイスデータベース内にすでに存在します。(The drive serial number already exists in the device database.)

説明: 重複したシリアル番号のドライブの追加が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 追加するドライブに一意のシリアル番号が割り当てられていることを確認します。

デバイス構成の状態コード 92

メッセージ: VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明: 必要な権限を所有していないユーザーによって、操作が試行されました。

推奨処置:

- ユーザーが、この操作の実行に必要な権限を所有していることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)]で、認証セキュリティおよび認可セキュリティの設定が正しいことを確認します。
  Cohesity Product Authentication Service と Authorization Service の使用方法については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

デバイス構成の状態コード 93

メッセージ: データベースサーバーが停止しています (Database server is down)

説明: EMM サーバーに要求が行われましたが、基礎となるデータベースサーバーから応答がありません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このエラーは、コールドカタログバックアップの実行中に発生する場合があります。この操作の完了後、要求を再試行します。

デバイス構成の状態コード 95

メッセージ: 要求された操作は、指定されたディスク形式では無効です (The requested operation is not valid for the specified Disk Type)

説明: 構成したストレージデバイスがディスクストレージデバイスではありません。

推奨処置: 適切なストレージデバイスを選択します。

デバイス構成の状態コード 96

メッセージ: NetBackup には、指定されたディスクアレイホストは構成されていません (The specified Disk Array Host is not configured in NetBackup)

説明: この操作を実行する前に、まず NetBackup ホスト構成にこのディスクアレイホストを追加する必要があります。ホストを表示するには、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で コマンドを参照してください。nbemmcmd -listhostshttps://support.cohesity.com/s/article/article-100040135

推奨処置:

- 既存のホストのクレデンシャルを更新しようとしたときに、このホストが NetBackup に存在していませんでした。tpconfig または nbemmcmd コマンドを実行してホストを再度追加する必要があります。
- 入力したディスクアレイホストの名前が NetBackup コンピュータ構成のコンピュータエイリアスと一致しません。nbemmcmd コマンドを実行して、ディスクアレイのコンピュータエイリアスリストに完全修飾アレイホスト名 (または入力した名前) を追加します。

デバイス構成の状態コード 97

メッセージ: ディスクアレイ構成に有効なライセンスキーがありません (No valid license key for Disk Array configuration)

説明: ディスクアレイのスナップショットサポートはライセンスが必要な機能です。NetBackup でディスクアレイのクレデンシャルを構成できるようにするには、Snapshot Client のライセンスキーをインストールする必要があります。

推奨処置: Snapshot Client のライセンスキーをインストールします。

デバイス構成の状態コード 98

メッセージ: OpenStorage 機能はライセンスされていません (OpenStorage feature is not licensed)

説明: NetBackup OpenStorage のライセンスキーがないと、OpenStorage サーバーのクレデンシャルを追加できません。

推奨処置: OpenStorage 機能が有効なライセンスキーをインストールします。

デバイス構成の状態コード 99

メッセージ: クレデンシャルがすでに存在します (Credentials already exist)

説明: 追加しようとしたクレデンシャルがホストにすでに存在します。

推奨処置: 既存のクレデンシャルを削除してから、新しいクレデンシャルを追加します。

デバイス構成の状態コード 100

メッセージ: NetBackup Snapshot Client はライセンスされていません (Snapshot Client not licensed)

説明: NetBackup Snapshot Client のライセンスキーがないと、この形式のホストのクレデンシャルを追加できません。このライセンスが必要なホスト形式は、ディスクアレイマネージャサーバーと仮想マシンサーバーです。

推奨処置: NetBackup Snapshot Client のライセンスキーをインストールします。

デバイス構成の状態コード 101

メッセージ: 認可エラー。ユーザー名/パスワードを確認してください (authorization error, verify username/password)

説明: 指定されたユーザー名とパスワードの組み合わせでの認可に失敗しました。

推奨処置: 指定した値を確認し、入力ミスがないかどうかを調べます。

4

デバイス管理の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- デバイス管理の状態コード

デバイス管理の状態コード

これらの状態コードは、ltid、tpclean、tpreq と tpunmount コマンドの終了状態やコマンド出力、およびシステムログやデバッグログに表示されます。また、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェースや vmoprcmd コマンドなど、これらのコマンドを呼び出すプログラムによってもこれらのコードが表示されます。

デバイス管理の状態コード 1

メッセージ: 無効なドライブ形式/密度 (Invalid Drive Type/Density)

説明: tpreq の -d パラメータに無効な密度が指定されました。

推奨処置: tpreq のマニュアルページ (コマンドの説明) で、有効な密度のリストを確認します。有効な密度を使用して、マウント要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 2

メッセージ: 現在ドライブは割り当てられています (Drive is currently assigned)

説明: ドライブを指定して要求が行われましたが、そのドライブは割り当て済みです。

推奨処置: vmoprcmd -d コマンドまたは他の方法を使用してドライブの状態を表示し、ドライブおよびその割り当て状態のリストを参照します。要求を後で実行するか、最初にドライブの割り当てを解除 (ドライブのアプリケーションアクティビティを停止し、tpunmount を使用してメディアをマウント解除するか、ドライブをリセット) します。不適切なドライブを

指定している場合、要求を再送信します。使用しているインターフェースに適したドライブ名またはインデックスを指定します。

デバイス管理の状態コード 3

メッセージ: オペレータメッセージの送信エラー (Error in Sending Operator Message)

説明: プロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの ltid に操作メッセージを送信しようとしました (ltid は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 4

メッセージ: オペレータメッセージの受信エラー (Error in Receiving Operator Message)

説明: プロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの ltid からメッセージを受信しようとしました (ltid は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。ltid が、デバイスまたはその他のコンポーネントとの通信中に停止しているかどうかを調べます。

デバイス管理の状態コード 5

メッセージ: デーモンメッセージの送信エラー (Error in Sending Daemon Message)

説明: ltid が、既存の内部メッセージキューを使用してロボットデーモンまたはロボットプロセスに内部プロセス通信メッセージを送信しようとしました。(ltid は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。ローカルデバイスホストのロボットデーモンまたはロボットプロセスが、デバイスまたはその他のコンポーネントとの通信中に停止しているかどうかを調べます。

デバイス管理の状態コード 6

メッセージ: デーモンメッセージの受信エラー (Error in Receiving Daemon Message)

説明: ltid が、既存の内部メッセージキューを使用してロボットプロセスへの内部プロセス通信メッセージを受信または処理しようとしました。(ltid は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソース不足またはソフトウェアコンポーネントの不一致が原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 7

メッセージ: ユーザーメッセージの送信エラー (Error in Sending User Message)

説明: ltid はプロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの ltid にユーザーメッセージを送信しようとしました。(ltid は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。

メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 8

メッセージ: ユーザーメッセージの受信エラー (Error in Receiving User Message)

説明: プロセス間通信に使用される既存の内部メッセージキューの `ltid` からユーザーメッセージを受信しようとしました (`ltid` は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。メッセージ通信中にエラーが発生しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソースが不足していることが原因です。Windows では、内部システムに登録されているイベントを開くことができない場合にもこのエラーが発生することがあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 10

メッセージ: IPC シーケンスエラー (IPC sequence error)

説明: 内部プロセス通信メッセージのシーケンスエラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス管理の状態コード 12

メッセージ: 無効なオペレータ (Invalid Operator)

説明: オペレータの内部リストを取得できません。

推奨処置: このエラーは、予想外の内部エラーです。`ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止してから再起動します。

デバイス管理の状態コード 13

メッセージ: IPC SHMGET コールのエラー (Error in IPC SHMGET call)

説明: `ltid` によって保持されている共有メモリのセグメントに関連付けられた共有メモリの識別子を、プロセスが取得できませんでした (`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX および Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 14

メッセージ: IPC SHMAT コールのエラー (Error in IPC SHMAT call)

説明: プロセスで `ltid` によって保持されている共有メモリのセグメントを追加できませんでした (`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 15

メッセージ: ドライブは停止しています (The drive is DOWN)

説明: 論理的に停止状態に構成されているドライブで、ドライブへのメディアのマウントまたは共有ドライブの予約が試行されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- アプリケーションログファイル (bptm ログなど) を調べて、ドライブが停止状態に構成されている理由を確認します。
- ドライブ、ドライブパスおよびメディアの整合性を確認します。

デバイス管理の状態コード 16

メッセージ: 指定のマウントインデックスについて、マウントの保留はありません (No mount pending for given mount index)

説明: 保留中のマウント要求に関する情報の取得が試行されましたが、保留中のマウント要求が検出されませんでした。

推奨処置: デバイスモニターのインターフェースを使用するか、アプリケーションログを参照して、要求が完了したか、取り消されたかを確認します。保留中のマウント要求に関する情報を取得する要求は、マウント要求が継続中である場合だけ有効です。

デバイス管理の状態コード 17

メッセージ: ドライブは、保留中の要求された密度をサポートしません (Drive does not support pending request density)

説明: 選択されたドライブのドライブ形式は、要求された密度に適合しません。

推奨処置:

- ドライブの選択を、自動決定にします。
- ドライブを手動で選択する場合、デバイス構成および有効な密度の表 (tpreq のマニュアルページまたはコマンドの説明で参照可能) を確認します。その後、要求する密度に適合するドライブを指定します。

デバイス管理の状態コード 19

メッセージ: 管理者ユーザーのみが、要求された操作を実行できます (Only the administrative user can perform the requested operation)

説明: `ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) の停止が試行されました。または `tpclean` コマンドの呼び出しが試行されましたが、ユーザーが root (UNIX および Linux の場合) または管理者 (Windows の場合) ではありませんでした。

推奨処置: 必要に応じて、ユーザーまたはプロセスに、root 権限 (UNIX および Linux の場合) または管理者権限 (Windows の場合) を付与し、操作を再試行します。

デバイス管理の状態コード 20

メッセージ: テープを割り当てた状態で、device デーモンを停止できません (Cannot stop device daemon with tapes assigned)

説明: `ltid` を停止しようとしましたが、現在メディアはマウントされ割り当てられています (`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置: メディアを参照するすべてのジョブを停止し、すべてのメディアのマウントを解除してから、すべてのアプリケーションで Media Manager の使用を停止した後、`ltid` を停止します。アプリケーションのインターフェースを使用してメディアのマウントを解除できない場合、`/usr/openv/volmgr/misc` ディレクトリまたは *`install_path`*`¥Volmgr¥misc` フォルダ内の `.ltisymlinks` ファイルの存在および権限を確認します。`tpunmount` *`filename`* を `.ltisymlinks` ファイル内の各行に対して開始します。ここで、***filename*** には、ファイルの行の内容を指定します。たとえば、UNIX および Linux の場合、コマンドは次のようになります。

```
tpunmount /usr/openv/netbackup/db/media/tpreq/A00001
```

デバイス管理の状態コード 21

メッセージ: ドライブが準備できていないか、または動作不良です (The drive is not ready or inoperable)

説明: マウント要求でドライブが選択されましたが、ドライブにメディアをロードする準備ができていません。

推奨処置: ドライブの準備が完了するまで待機して、保留中のマウント要求にドライブを手動で割り当てます。

デバイス管理の状態コード 22

メッセージ: IPC エラー: デーモンは実行されていない可能性があります (IPC Error: Daemon may not be running)

説明: ltid への要求を処理できません (ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。ltid が実行されていない可能性があります。ltid が実行されている場合、そのプロセスのロックファイルが削除された可能性があります。また、メッセージキューがシステムで正しく機能していない可能性があります。

推奨処置:

- ltid が実行されていない場合、ltid を起動して、操作を再試行します。UNIX および Linux では /usr/openv/volmgr/bin/ltid を実行し、Windows では NetBackup Device Manager サービスを起動します。
- ltid がすでに実行されている場合、ロックファイルとロックファイルのディレクトリ (UNIX および Linux の場合は /usr/openv/volmgr/misc/.ltipid、Windows の場合は *install_path*¥ Volmgr¥misc¥.ltipid) の存在および権限を確認します。ltid が実行されている場合は、そのプロセスを終了します。ltid が、ロックを取得できるように、ロックファイルのディレクトリまたはフォルダを作成し、必要に応じて権限を調整します。
- UNIX および Linux の場合、msgget のマニュアルページを確認し、システムメッセージキューのトラブルシューティング方法についての推奨処置を検索します。

デバイス管理の状態コード 23

メッセージ: 無効なドライブ番号 (Invalid Drive Number)

説明: ドライブを指定して要求が行われましたが、要求されたドライブが、有効な構成内で検出されません。

推奨処置: デバイス構成を最後に変更した後で ltid が停止され、再起動されたことを確認します (ltid は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。(tpconfig -d または他の方法を使用して) デバイス構成を表示し、有効なドライブのリストを参照します。使用しているインターフェースに適したドライブ名またはインデックスを指定します。

デバイス管理の状態コード 24

メッセージ: 要求されたドライブを予約できません (Requested drive cannot be reserved)

説明: 共有ドライブの予約が試行されましたが、ドライブの予約要求が失敗しました。この状態コードは、SSO 機能の内部実装に関連しています。SCSI RESERVE/RELEASE には関連していません。

推奨処置: これは、共有ドライブで予想される状況で、自動的に再試行されます。問題が解決しない場合は、EMM サーバーが要求を処理していること、および現在ドライブを使用していないホストにドライブが予約済みとして表示されていないことを確認します。

デバイス管理の状態コード 25

メッセージ: ファイル名は存在しません (File name does not exist)

説明: 論理テープファイルまたはヘルプファイルが検出されません。多くの場合、この状態は、このユーザーに存在しない論理テープファイルを指定して `tpunmount` コマンドが実行されたことが原因です。

推奨処置: 指定したファイルパスに論理テープファイルが存在することを確認します。指定するファイルパスは、テープのマウントを要求したときに使用したパスと、大文字と小文字の区別も含め、完全に一致する必要があります。正しいファイルパスを使用して、要求を再送信します。要求を保留中のエラーメッセージがオペレータに表示されているときにこの状態が発生した場合
は、`/usr/openv/volmgr/help/robots/`*`robot_type`*`/`*`help_file name`* (UNIX および Linux) または *`install_path`*`¥Volmgr¥Help¥Robots¥`*`robot_type`*`¥`*`help_file_name`* (Windows) にヘルプファイルがあるかどうかを確認します。

デバイス管理の状態コード 26

メッセージ: ボリュームプールのホストが検証されていないために、要求が終了しました (Request terminated because the host was not validated for volume pool)

説明: マウント要求が開始されたホストからメディアへのアクセスが拒否されています。そのメディア ID が含まれるボリュームプールに対して定義されている権限が原因です。

推奨処置:

- `vmpool -listall -b` を実行して、マウント要求が発行されたホストで、要求したボリュームプールについての情報を問い合わせます。マウント要求が発行されたホスト名を取得するには、システムログを確認します。このホスト名は、`hostname(1)` システムコマンドによって戻される名前です。
- `vmpool`、またはボリュームプールホストの属性をサポートする他のユーザーインターフェースを使用して、ボリュームプールホスト名のセキュリティを変更します。または、ボリュームに関連付けられたボリュームプールを変更します (そのボリュームが割り当てられていない場合)。あるいは、対象のボリュームプール内のメディアを使用できるホストにログオンします。その後、マウント要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 27

メッセージ: メディア ID が期限切れのため、要求が終了しました (Request terminated because media ID is expired)

説明: 書き込み権限を使用して要求されたメディアの期限がすでに切れているため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: 読み取り専用の操作が必要な場合、読み取り専用アクセスでマウント要求を行うメディアを要求します。サイトのポリシーに基づいて、メディアを交換するか、有効期限日を現在以降の日付に変更します。メディア管理インターフェースを使用すると、メディアの期限切れの日付を参照および変更できます。システム日時を確認し、必要に応じて修正します。

デバイス管理の状態コード 28

メッセージ: MsgGet のエラー (Error in MsgGet)

説明: `ltid` は内部メッセージ通信に使用されたメッセージキュー識別子の取得を試行しました。(`ltid` は UNIX および Linux の場合は Media Manager device デーモン、Windows の場合は NetBackup Device Manager サービスです)。システムエラーが発生したため、要求が失敗しました。多くの場合、このエラーは、メッセージキュー用のシステムリソース不足またはソフトウェアコンポーネントの不一致が原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 30

メッセージ: メディア ID が最大マウント件数を超えるため、要求が終了しました (Request terminated because media ID will exceed maximum mount count)

説明: 要求されたメディアがそのメディアに関連付けられた最大マウント数に達したため、マウント要求がキャンセルされました。

推奨処置: サイトのポリシーに基づいて、メディアを交換するか、最大マウント数の値を増加します。メディア管理インターフェースを使用すると、メディアで実行可能な最大マウント数を参照および変更できます。メディアの今までの使用状況を考慮して、メディアのマウント数が適切な値に設定されていることを確認します。必要に応じて、`vmchange` を実行して値を修正します。

デバイス管理の状態コード 32

メッセージ: セマフォの取得エラー (Error in getting semaphore)

説明: ltid は共有メモリへのアクセスの調停に使用されるセマフォを取得しようとしました。(ltid は UNIX および Linux の場合は Media Manager device デーモン、Windows の場合は NetBackup Device Manager サービスです)。システムエラーが発生したため、要求が失敗しました。多くの場合、このエラーは、セマフォ用のシステムリソース不足またはソフトウェアコンポーネントの不一致が原因です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 33

メッセージ: セマフォ操作エラー (Error in SEMAPHORE operation)

説明: ltid によって保持されているリソースに関連するセマフォ操作 (ロックやロック解除など) を、プロセスが実行できませんでした (ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

デバイス管理の状態コード 35

メッセージ: メディアが利用できないために要求が終了しました (ドライブが停止している、不適切な場所に配置されている、書き込み保護されている、またはマウントできない) (Request terminated because media is unavailable (in DOWN drive, misplaced, write protected or unmountable))

説明: 要求されたメディアが利用できないため、マウント要求が取り消されました。メディアが、停止状態のドライブ内に存在するか、不適切な場所に配置されているか、書き込み禁止であるか、またはマウントができない可能性があります。このメッセージの他の原因

として、有効クリーニング数が残っていないクリーニングテープを使用している可能性があります。

推奨処置: ロボットインベントリを実行するかまたは手動で、ロボットライブラリ内のメディアの内容をボリューム構成と比較します。必要に応じて構成を更新します。メディアの物理的な場所を判断します。論理的に停止状態のドライブ内でメディアが検出された場合、ドライブ、ドライブパスおよびメディアの整合性を確認します。メディアが、誤って構成されたクリーニングテープでないことを確認します。メディアがライブラリ内に存在しない場合、メディアをロボットライブラリに移動して、ボリューム構成を更新します。書き込み禁止であるためにエラーが発生した場合、カートリッジのタブを移動して書き込み可能にするか、読み取り専用アクセスでメディアを要求します。

クリーニングテープに有効クリーニング数が残っていないことが問題である場合は、クリーニングテープを交換します。

デバイス管理の状態コード 36

メッセージ: 別プロセスからの tpunmount コールにより、要求が終了しました (Request terminated by tpunmount call from another process)

説明: ボリューム構成内に含まれる 1 つ以上のボリュームに対して、書き込みアクセスを使用してボリュームをマウントできる回数の制限を変更するように要求されましたが、指定された値が許容範囲内にありませんでした。また、バーコードルールのマウント数およびクリーニング数フィールド内の最大マウント数の値が、無効な数である場合もあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 最大マウント数の値を、0 から 2,147,483,647 の範囲内で指定します。

デバイス管理の状態コード 37

メッセージ: ドライブが NDMP に割り当てられていないか、または誤った NDMP クライアントで割り当てられています (Drive being assigned is either not NDMP or on the wrong NDMP client)

説明: NDMP クライアントへの接続が構成されているドライブに対してマウントが要求されましたが、要求が取り消されました。これは、要求されたドライブ以外のドライブに手動で要求が割り当てられたためです。割り当てられたドライブは NDMP ドライブではないか、または異なるクライアントに構成された NDMP ドライブです。

推奨処置: デバイス構成を表示して、特定の NDMP クライアントへの接続が構成されているドライブを判断します。構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動された

ことを確認します。要求を再発行して、要求された NDMP クライアントに接続されているドライブに要求を割り当てます。

デバイス構成の状態コード 38

メッセージ: ドライブ用の文字型デバイス名が文字型デバイスではありません (Character device name for drive is not a character device)

説明: テープのマウント要求の場合、構成されているテープドライブのクローズ時非巻き戻しデバイスファイルが文字型特殊デバイスでなく、NDMP などの既知の形式でもありませんでした。(NDMP は文字型特殊ファイルである必要はありません。)

推奨処置:

- 無効なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用します。ウィザードによって、テープドライブに対してパスおよびデバイス名が自動的に構成されるようにします。
- 常に、非巻き戻しテープデバイスファイルを使用します。テープドライブの場合、認識されている、ドライブ名の構文 (NDMP 用の構文など) を使用します。指定したデバイスパスが、文字型特殊ファイルとして存在することを確認します。コマンドまたはユーザーインターフェースの出力で、エラーの詳細を確認します。
『NetBackup デバイス構成ガイド』を参照してください。

デバイス管理の状態コード 39

メッセージ: パラメータが無効です (Parameter is invalid)

説明: 無効な引数を使用したことによって、tpclean コマンドが呼び出されました。または内部機能で、必要なデータへの参照が存在していません。

推奨処置:

- クリーニング操作が要求された場合、tpclean の使用方法の説明を確認し、指定されたパラメータと比較します。
- インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 40

メッセージ: ファイル名はすでに存在します (File name already exists)

説明: テープのマウント要求で、要求に関連付けられているファイル名がすでに存在するか、ファイル名がすでに他のマウント要求に関連付けられています。

推奨処置: 異なるファイル名を使用して、要求を再送信します。既存のファイルと対応しないファイル名を指定します。または、実行中の可能性がある他のマウント要求で使用されていないファイル名を指定します。

デバイス管理の状態コード 41

メッセージ: 不明なドライブ名 (Unknown drive name)

説明: ドライブを指定して要求が行われましたが、指定されたドライブが、有効な構成内で検出されません。この状態コードは、デバイスファイルが破損したり存在しない場合、デバイスファイルを開いたり読み込むことができない場合、またはデバイスが構成されていない場合に発生することがあります。

推奨処置:

- デバイス構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します。(`ltid` は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。(`tpconfig -d` コマンドまたは他の方法を使用して) デバイス構成を表示し、有効なドライブのリストを参照します。使用しているインターフェースに適したドライブ名またはインデックスを指定します。
- EMM データベースの整合性を確認します。デバイス構成を表示して、次の手順を実行します。
  - データベースが破損していないかどうかを判断します。
  - カタログバックアップから、保存されているデータベースファイルのリストアを行うか、デバイスを削除してからデバイス構成を再作成します。

デバイス管理の状態コード 42

メッセージ: tpreq アクセスモードが不正です (Incorrect tpreq access mode)

説明: テープのマウント要求で、指定されたアクセスモードが無効です。Windows ホストで、管理者権限を所有しないユーザーが NetBackup Device Manager サービスに要求を行いました。

推奨処置: `tpreq` を実行する場合、読み取りアクセスモード用の引数 `r` または書き込みアクセスモード用の引数 `w` を指定するか、デフォルトのアクセスモード (読み取り) を使用します。Windows で NetBackup Device Manager サービスが必要な要求を行う場合、管理者権限を所有するアカウントで実行します。

デバイス管理の状態コード 44

メッセージ: ファイルを作成する権限がありません (You do not have permission to create the file)

説明: テープのマウント要求で、ディレクトリまたはフォルダの権限が原因で、要求に関連付けられているファイル名を作成できません。

推奨処置: 指定したファイルパスで、ファイルの存在を確認します。ファイルが存在する場合、ファイルを削除するか (ファイルが不要な場合)、代替ファイルパスを指定して要求を再送信します。その場所にファイルが存在しない場合、マウント要求を発行したユーザーまたはアプリケーションプロセスの、ディレクトリまたはフォルダに対する読み込みアクセス権限および書き込みアクセス権限を確認します。

デバイス管理の状態コード 46

メッセージ: テープを書き込み可能にする必要があります (Tape needs to be write enabled)

説明: テープのマウント要求で、アクセスモードが書き込みアクセスに指定されましたが、物理メディアが書き込み禁止になっています。

推奨処置: 物理メディアの書き込み禁止の設定を書き込みアクセスが可能な設定 (ロック解除) に変更するか、読み取り専用アクセスで要求を再送信します。tpreq を使用して読み取り専用アクセスを要求するには、読み取りアクセスモード用の引数 r を指定するか、デフォルトのアクセスモード (読み込み) を使用します。

デバイス管理の状態コード 47

メッセージ: 共有ドライブ用のスキャンホストを確立できません (Unable to establish scan host for shared drive)

説明: 共有ドライブの状態を変更する要求で、ドライブのスキャンホストへの接続を確立できませんでした。

推奨処置:

- ドライブのスキャンホストとして機能しているホストを判断します。これを行うには、vmoprcmd の出力または NetBackup 管理コンソールのデバイスモニターを確認します。
- vmd (UNIX および Linux の NetBackup Volume Manager デーモンまたは Windows の NetBackup Volume Manager サービス) が、スキャンホストで実行されていることを確認します。スキャンホストのデバッグログおよびシステムログで、エラーに関連するメッセージを調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 要求が取り消された理由の詳細は、スキャンホストのデーモンのデバッグログで取得できます。問題を修正し、必要に応じて要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 48

メッセージ: ホストは、この共有ドライブ用のスキャンホストではありません (Host is not the scan host for this shared drive)

説明: ドライブの割り当て要求、予約要求またはスキャン要求で、対象のデバイスホストがドライブのスキャンホストではないと判断されました。要求は拒否されました (要求元から再試行されます)。

推奨処置:

- 通知されたエラーが問題の原因である場合、関連するホストの通信、構成およびシステムの問題を調べます。これらを調べるには、vmoprcmd 出力または NetBackup 管理コンソールのデバイスモニターを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- Media Manager 構成を変更して、スキャンホストを割り当てる際のスキャンアビリティの優先度を構成します。保持する必要があるネットワーク接続を減らし、より多くの負荷を処理できるホストに、より大きいシステム負荷がかかるように構成します。

デバイス管理の状態コード 49

メッセージ: テープファイルパスは、255 文字の最大長を超えています (Tape file path exceeds 255 character maximum)

説明: テープのマウント要求で、要求に関連付けられたファイル名が 255 文字を超えました。

推奨処置: テープのマウントを要求するときは、ファイル名の長さが ASCII 文字で 255 文字を超えないことを確認します。マウント要求がアプリケーションから発行された場合、アプリケーションの変更を要求して短いファイル名を使用します。または、ファイル名が制限を超えないような製品をディレクトリまたはフォルダにインストールします。

デバイス管理の状態コード 50

メッセージ: 指定のマウントインデックスには保留中の処理はありません (No action pending for given mount index)

説明: マウント要求の保留中の操作を取得するように要求されましたが、要求に関連付けられた既知の保留中の操作が存在しませんでした。

推奨処置: デバイスモニターのインターフェースを使用して、保留中の操作が存在する要求を表示します。要求 (割り当て、拒否、表示、再送信など) は、保留中の操作が存在する要求だけで実行します。

デバイス管理の状態コード 52

メッセージ: この形式のロボットは定義されていません (No robot is defined of this type)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスと、ltid の間の内部通信で、想定される形式のロボットが有効に構成されていません (ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置: 実行中のロボットプロセスを表示して、以前の構成からのプロセスが実行中かどうかを確認します。プロセスが実行中の場合、プロセスを停止します。インストールされているソフトウェアコンポーネントを調べて、すべてのコンポーネントが互換性のあるバージョンであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 53

メッセージ: 要求がキューに投入されました (キャンセルするとメッセージが消去されます) (Request has been queued (Cancel to clear message))

説明: ドライブリソースが使用中であるため、マウント要求またはドライブ関連操作がキューに投入されました。

推奨処置: ドライブリソースが利用可能になるまで待機するか、必要に応じて、保留中のマウント要求を取り消します。

デバイス管理の状態コード 55

メッセージ: オペレータがマウント要求を拒否しました (Operator denied mount request)

説明: オペレータによってマウント要求が拒否されました。

推奨処置: このエラーは、ユーザーまたはアプリケーションのマウント要求が管理者またはオペレータによってキャンセルされた場合に発生します。要求が取り消される理由は、メディアが存在しない、メディアが不正である、他の、より優先度が高い要求でドライブリソースを取得する必要がある、など様々です。詳しくは、管理者またはオペレータに確認してください。

デバイス管理の状態コード 56

メッセージ: マウントがキャンセルされました。Device デーモンを終了しています (Mount canceled, device daemon is terminating)

説明: 管理者が ltid (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止したため、保留中のマウント要求が取り消されました。

推奨処置: ltid が再起動されるまで待機してから、要求を再送信します。必要に応じて、管理者に確認してデーモンまたはサービスの可用性を判断します。

デバイス管理の状態コード 58

メッセージ: デバイスがロボットではありません。クリーニングを実行できません (The device is not robotic, cannot perform cleaning)

説明: ドライブの自動クリーニングが試行されましたが、ドライブはロボットライブラリ内に存在しません。

推奨処置: 必要な場合、クリーニングテープを挿入し、スタンドアロンドライブをクリーニングします。共有ドライブ以外のドライブの場合、tpclean、またはクリーニング関連操作がサポートされている他のユーザーインターフェースを使用して、クリーニング統計を更新します。

デバイス管理の状態コード 59

メッセージ: デバイスのロボットで、クリーニングテープが定義されていません。または有効クリーニング数が 0 です (No cleaning tape is defined in the device's robot or 0 cleanings remaining)

説明: ドライブの自動クリーニングを試行しましたが、使用可能なクリーニングメディアが存在しないか、クリーニングテープの残りのクリーニング回数が 0 (ゼロ) です。

推奨処置:

- 個別のクリーニングカートリッジを使用してクリーニングを行うことができるすべてのドライブ形式のロボットライブラリに、クリーニングメディアが追加されていることを確認します。
- ロボットライブラリの EMM データベース内に含まれるクリーニングメディアの残りのクリーニング数が正の数であることを確認します。クリーニングテープを交換するか、カウントが 0 (ゼロ) に達する前にクリーニングメディアのクリーニング数を増やします。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス管理の状態コード 60

メッセージ: ロボットデーモンおよび/またはロボットハードウェアが利用可能ではありません (Robot daemon and/or robotic hardware is not available)

説明: ロボットが構成されていないか、操作に利用できません。特に、ロボットドライブの自動クリーニングが試行されましたが、ロボットが定義されていないか、ロボットが利用で

きません。または、共有ドライブリストの初期化が試行されましたが、必要な構成済みのロボットなしで、ドライブがロボットドライブとして構成されていました。

推奨処置: デバイス構成を表示して、ドライブとロボット構成情報に一貫性があることを確認します。システムログファイルを調べて、ロボットおよびロボットソフトウェアの動作状態を確認します。ロボットの動作状態の詳細が必要な場合、詳細レベルを上げます。まず `vm.conf` ファイルに VERBOSE (詳細) オプションを追加します。その後、`ltid` (device デーモンまたは NetBackup Device Manager サービス) を再起動します。

デバイス管理の状態コード 61

メッセージ: デバイスまたはロボットスロットにメディアが見つかりません。確認してください (No media found in device or robot slot, please verify)

説明: メディアのマウント要求で、指定された期間が経過する前に、対象の場所でメディアが検出されませんでした。

推奨処置: 要求を再送信し、指定された期間が経過する前に、対象のドライブにメディアをマウントします。デバイス構成を調べて、適切なドライブ名が構成されていること、およびデバイス構成を最後に変更した後に device デーモン `ltid` が再起動されたことを確認します。

デバイス管理の状態コード 62

メッセージ: マウント要求に対して、ライブラリのドライブが利用できません (Drive not available in library for mount request)

説明: 利用可能なドライブが存在しないため、マウント要求が取り消されました。互換性のあるすべてのドライブが停止状態であるか、他の有効なマウント要求のためにオーバーサブスクライブされている可能性があります。

推奨処置: デバイスの可用性およびドライブリソースを要求するアプリケーションのスケジュールとドライブ使用状況を調べます。場合によっては、後で互換性のあるドライブリソースが利用可能になったときに要求を再発行できるように、マウント要求が取り消される場合もあります。

デバイス管理の状態コード 63

メッセージ: マウント要求が無効なため、要求が終了しました (Request terminated because mount requests are disabled)

説明: 要求を実行できないため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

要求が取り消された理由の詳細は、システムログ、コマンドの出力またはデバイスモニターのインターフェースから取得できます。問題を修正し、必要に応じて要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 64

メッセージ: ロボット制御されたデバイスを割り当てることができません (Cannot assign a robotically controlled device)

説明: マウント要求を実行するために特定のデバイスの割り当てが手動で試行されましたが、選択されたデバイスはロボットライブラリ内に構成されています。

推奨処置: 要求をスタンドアロンドライブに割り当てるか、ロボットドライブ内でのマウント要求の割り当てを自動割り当てにします。

デバイス管理の状態コード 65

メッセージ: 指定したボリュームプールが無効です (Invalid volume pool specified)

説明: マウント要求で、指定されたメディアプールが無効です。

推奨処置: ASCII 文字で長さが 20 文字以下のボリュームプール名を指定して、要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 66

メッセージ: ボリュームプールの不一致のため、要求が終了しました (Request terminated because of volume pool mismatch)

説明: `tpreq` コマンドで指定されたボリュームプールが、Media Manager 構成内のメディア ID のボリュームプールと一致しませんでした。

推奨処置: メディア管理インターフェースを使用して、マウントするメディアのボリュームプール名を取得します。その後、適切なプール名を指定してマウント要求を再送信します。

デバイス管理の状態コード 69

メッセージ: メディアがマウントできないため、要求が終了しました (Request terminated because media is unmountable)

説明: 要求されたメディアをマウントできないため、マウント要求が取り消されました。少なくとも 2 つの異なるドライブで、要求されたメディアをマウントできないことが検出されました。

推奨処置:

- ドライブ、ドライブパスおよびメディアの整合性を確認します。
- メディアが、誤って構成されたクリーニングテープでないことを確認します。

デバイス管理の状態コード 70

メッセージ: メディアが書き込み保護されているため、要求が終了しました (Request terminated because media is write protected)

説明: 書き込みアクセスで要求されたメディアが書き込み可能でないため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: 物理メディアカートリッジを調べて、書き込み禁止が有効かどうかを確認します。メディアに書き込みアクセスを行う必要がある場合、メディアの書き込み禁止を無効に設定します。

読み取り専用アクセスを行う必要がある場合、書き込み禁止を有効のままにします。要求を行うアプリケーションで必要な管理要求 (メディアを一時停止することなど) を行い、メディアに読み取りアクセスだけが要求されていることを確認します。

コマンドラインインターフェースを介してメディアを要求している場合、tpreq のマニュアルページまたはコマンドの説明で、メディアのアクセスモードを指定する方法を参照してください。tpreq コマンドは次のマニュアルで説明されています。

『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

デバイス管理の状態コード 71

メッセージ: メディアがクリーニングテープであるため、要求が終了しました (Request terminated because media is a cleaning tape)

説明: ドライブのメディアがクリーニングテープであるため、マウント要求が取り消されました。

推奨処置: Media Manager の EMM データベースが最新のものであることを確認します。ライブラリにクリーニングメディアが存在する場合、適切なクリーニングメディア形式を Media Manager の EMM データベースのクリーニングメディアに割り当てます。

デバイス管理の状態コード 72

メッセージ: EMM のライブラリコールに失敗しました (EMM library call failed)

説明: EMM へのデータの読み込みまたは書き込み要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- pbx_exchange が実行中であることを確認します。

- tpconfig -d または vmquery -a コマンドを実行して、EMM サーバーが実行されており、新しい接続を受け入れていることを確認します。

デバイス管理の状態コード 73

メッセージ: テープを割り当てた状態で、device デーモンを停止しています (Stopping device daemon with tapes assigned)

説明: オペレータによって ltid の停止が要求されましたが、テープがまだ使用中です。

推奨処置: なし。これは助言的なメッセージであり、処置は必要ありません。

デバイス管理の状態コード 74

メッセージ: ロボット操作に失敗しました (Robot operation failed)

説明: bptm によるテープのマウントのために、ロボット操作が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットハードウェアが機能していることを確認します。

デバイス管理の状態コード 75

メッセージ: LTI システムエラー (LTI system error)

説明: システムエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- tpclean 操作が試行されましたが、Windows ネットワークが適切に構成されていませんでした。
- ltid の停止の試行中に、malloc システムコールが失敗しました。

デバイス管理の状態コード 76

メッセージ: ロボット/LTI プロトコルエラー (Robot/LTI protocol error)

説明: ltid とロボットデーモン間の通信で、プロトコルエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ltid、bptm およびロボットデーモンが、互換性のある NetBackup レベルであることを確認します。

デバイス管理の状態コード 77

メッセージ: VxSS によってアクセスが拒否されました (VxSS access denied)

説明: 必要な権限を所有していないユーザーによって、tpclean が試行されました。

推奨処置:

- ログオンしているユーザーが、この操作に必要な権限を所有していることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)]で、VxSS の設定が正しいことを確認します。
詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

デバイス管理の状態コード 78

メッセージ: EMM サーバーに接続できません (Unable to connect to the EMM server)

説明: EMM の情報の取得または更新に失敗しました。

推奨処置:

- NetBackup 構成に正しい EMM サーバー名が設定されていることを確認します。
- このエラーが発生したメディアサーバーが EMM サーバーの NetBackup 構成に設定されていることを確認します。
- EMM サーバーで EMM が実行中であることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

デバイス管理の状態コード 79

メッセージ: Job Manager からジョブ ID を取得できません (Can not retrieve Job ID from Job Manager)

説明: tpreq、tpclean または tpunmount コマンドで、NetBackup Job Manager からのジョブ ID の取得の試行中にエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- マスターサーバー上で NetBackup Job Manager が実行中であるかどうかを検証します。

デバイス管理の状態コード 80

メッセージ: Job Manager がエラーを戻しました。アクティビティモニターを参照してください (Job Manager returned error: see activity monitor)

説明: tpunmount コマンドで、NetBackup Job Manager との通信中にエラーが発生しました。この問題の詳細が、このジョブのアクティビティモニターエントリに表示されている場合があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- マスターサーバー上で NetBackup Job Manager が実行中であるかどうかを検証します。
- tpunmount コマンドに指定した引数が正しいことを確認します。

デバイス管理の状態コード 81

メッセージ: 後で再試行してください (Retry later)

説明: EMM によって制御されているリソースの使用が試行されましたが、これらのリソースが利用できませんでした。

推奨処置: 後でコマンドを再試行します。

デバイス管理の状態コード 82

メッセージ: 利用可能なドライブはありません (No drive available)

説明: ドライブの使用が試行されましたが、指定されたドライブが利用できませんでした。

推奨処置:

- 対象のメディアサーバーでドライブが停止していないことを確認します。
- ドライブが検出されたメディアサーバーが動作していることを確認します。
- 別のドライブでコマンドを再試行します。

デバイス管理の状態コード 83

メッセージ: メディアがデータベースに存在しません (Media does not exist in database)

説明: 要求されたメディア ID が EMM データベースで見つかりませんでした。

推奨処置:

- 要求されたメディア ID が正しく入力されていることを確認します。
- 別のメディア ID を使用して再試行します。

デバイス管理の状態コード 84

メッセージ: 操作ではエラーは発生していません。サイドバンドデータのみです (No Error on operation, sideband data only)

説明: これは単なる通知メッセージです。

推奨処置: ユーザーによる処置は必要ありません。

5

ロボットの状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- ロボットの状態コード

ロボットの状態コード

これらの状態コードは、ロボットデーモンまたはロボットプロセスによって発行されます。また、これらは vmchange コマンドや、メディアおよびデバイスの管理ユーザーインターフェースなど、ロボット操作を呼び出すプログラムによっても発行されます。

ロボットの状態コード 200

メッセージ: STATUS_SUCCESS

説明: ロボット操作が正常に完了しました。

推奨処置: なし

ロボットの状態コード 201

メッセージ: ロボットパスを開けません (Unable to open robotic path)

説明:

次のいずれかの原因で、ロボットライブラリデバイスを開くことができません。

- デバイスの構成内のロボットのデバイス、パスまたはライブラリ名が無効。
- 構成済みのロボットデバイスが存在しない。
- 文字型特殊ファイル形式でない UNIX および Linux デバイスファイルなど、ロボットデバイスが不適切。
- ロボットデーモンまたはロボットプロセスのロックファイルを開くことができなかったか、ロックが取得済み。

- デバイスまたは API インターフェース (NDMP など) を介したオープン操作が失敗した。

推奨処置:

- ロボットテストユーティリティの動作中にはロボットデバイスがロックされるため、実行されている可能性があるすべてのロボットテストユーティリティを停止します。
- ロボット構成マニュアルに示されている推奨構成で、ロボットを構成していることを確認します。
- ロボットテストユーティリティを使用して、ロボットデバイスの状態を確認し、終了したらテストユーティリティを閉じます。
- ロックファイル `/usr/openv/volmgr/misc/vmd.lock` (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc¥vmd.lock (Windows の場合) およびロックファイルが含まれるディレクトリの存在および権限を確認します。ロボットデーモンまたはロボットプロセスがロックファイルを使用できるように、ディレクトリまたはフォルダを作成し、必要に応じて権限を調整します。`ltid` (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止してから再起動します。

ロボットの状態コード 202

メッセージ: ロボットデバイスを検知できません (Unable to sense robotic device)

説明:

ロボットライブラリデバイスの要素を検出できません。次の原因の可能性があります。

- SCSI コマンドモードの検出、モードの選択または (スロット、ドライブ、トランスポート、I/E 要素の) 要素状態の読み込みが失敗した。
- API 制御のネットワークライブラリのインベントリ要求が失敗した。
- ロボットデーモンまたはロボットプロセスによって、ロボットデータベースファイルを初期化できない。

推奨処置:

- ロボット構成マニュアルに示されている推奨構成で、ロボットを構成していることを確認します。
- ロボットテストユーティリティを使用して、ロボットデバイスの状態を確認し、終了したらテストユーティリティを閉じます。
- 一時ロボットデータベースおよび一時データベースの `/usr/openv/volmgr/misc/robotic_db` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *install_path*¥Volmgr¥misc¥robotic_db フォルダ (Windows の場合) の存在および権限を確認します。これらのディレクトリまたはフォルダを作成し、ロボットデーモンまたはロボットプロセスがディレクトリまたはフォルダを作成または使用できる

ように、必要に応じて権限を調整します。ltid (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止してから再起動します。

ロボットの状態コード 203

メッセージ: ロボットコマンドを待機している間のタイムアウト (Timeout waiting for robotic command)

説明: 指定した期間が経過するまでに状態が返されなかったため、ロボット操作でタイムアウトが発生しました。

推奨処置:

- ロボットテストユーティリティの動作中にはロボットデバイスがロックされ、他の要求がブロックされるため、すべてのロボットテストユーティリティを停止します。
- ハードウェアに対する過剰な再試行によって、ロボットコマンドの完了が遅れていないかどうかを確認します。
- ロボットデバイスが機能しているかどうかを確認します。ロボットテストユーティリティを使用してコマンドをデバイスに送信し、応答があることを確認します。vmps を実行して、予想外の Media Manager プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されますが、停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなど、さらに深刻な問題を表す場合があります。

ロボットの状態コード 204

メッセージ: ロボットを初期化できません (Unable to initialize robot)

説明: ロボットを初期化できません。これは、様々な状況で使用される一般的な状態コードです。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットを初期化できない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 205

メッセージ: ロボットマウントの失敗 (Robotic mount failure)

説明: ロボットはメディアをマウントできません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアをマウントできない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 206

メッセージ: ロボットディスマウントの失敗 (Robotic dismount failure)

説明: ロボットはメディアのマウントを解除できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアのマウントを解除できない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 207

メッセージ: コマンドコードが無効 (Invalid command code)

説明: 不適切なオプションを指定して、サポートされていないロボット操作が要求されました。または、ロボット操作で、互換性のないデバイスインターフェースが使用されました。製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がない可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべての Media Manager バイナリおよびユーザーインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 208

メッセージ: 要求されたスロットは空です (Requested slot is empty)

説明: 指定されたスロット内でメディアが検出されませんでした。ボリュームに関連付けられたロボットライブラリの物理的な内容とボリューム構成に一貫性がない可能性があります。

推奨処置: メディアのコンテナまたはホルダーが不適切な場所に配置されている場合、適切な場所に取り付けます。適切に調整されていない場合は、再調整します。メディアが上下逆になっている場合、正しい側を上にしてメディアをスロットに配置します。要求されたスロットが、内部的な使用のためにロボットライブラリによって予約されているかどうかを確認します。ロボットライブラリ内の問題を物理的に修正するか、メディア管理インターフェースを使用してボリューム構成を修正します。

ロボットの状態コード 209

メッセージ: ドライブを開けません (Unable to open drive)

説明: ドライブを開けません。ドライブ構成が不適切であるか、ドライブが論理的に停止している可能性があります。また、ドライブにメディアを配置した後、ドライブの準備が完了していない場合もあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 不適切に構成されたクリーニングメディア、またはドライブのクリーニング操作の影響を確認します。不適切なメディアが原因で、メディアがドライブ内に配置されてもドライブが準備未完了のままになっていないかどうかを確認します。
- ドライブを開く場合に発生する問題の一般的な原因である、不適切なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用して、デバイスパスおよびデバイス名を自動的に構成します。ドライブをオープンできない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 210

メッセージ: ドライブを SCSI アンロードできません (Unable to SCSI unload drive)

説明: ドライブをアンロードできません。ドライブ構成が不適切であるか、ドライブが論理的に停止している可能性があります。また、ドライブにメディアを配置した後、ドライブの準備が完了していない場合もあります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- 不適切に構成されたクリーニングメディア、またはドライブのクリーニング操作の影響を確認します。不良メディアが、ドライブのアンロードを実行できない原因になっていないかどうかを確認します。ドライブのアンロードに関する問題の一般的な原因である、不適切なデバイスパスおよびデバイス名を構成しないようにするには、デバイスの検出がサポートされているプラットフォームで、デバイスの構成ウィザードを使用して、デバイスパスおよびデバイス名を自動的に構成します。ドライブのアンロードを実行できない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。

ロボットの状態コード 211

メッセージ: プロセスはシグナルによって強制終了されました (Process killed by signal)

説明: 予想外のシグナルまたはイベントによって、ロボット操作が取り消されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットコマンドが取り消されたかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 212

メッセージ: プロセスは親プロセスによって強制終了されました (Process killed by parent)

説明: 次のいずれかの原因により、ロボット操作がキャンセルされました。

- 指定した期間が経過するまでに状態が返されなかった
- デバイスの再開が必要な通信エラーまたはハードウェアエラーが発生した

推奨処置:

- ロボットテストユーティリティの動作中にはロボットデバイスがロックされ、他の要求がブロックされるため、すべてのロボットテストユーティリティを停止します。
- ロボットデバイスが現在も機能しているかどうかを確認します。
- 過剰なハードウェア構成または通信の問題によって、ロボットコマンドの完了が遅れていないかどうかを確認します。
- ロボットテストユーティリティを使用してコマンドをデバイスに送信し、応答があることを確認します。vmps を実行して、予想外の Media Manager プロセスが実行中でない

ことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されますが、停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなどの問題を表す場合があります。

ロボットの状態コード 213

メッセージ: ドライブは、ロボット内に存在しません (Drive does not exist in robot)

説明: 対象のドライブがロボットライブラリ内で検出されませんでした。ドライブ構成が不適切である可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットテストユーティリティから実行可能なロボットライブラリ問い合わせなどの方法を使用して、ドライブのリストを取得します。ドライブのリストを、デバイス構成と比較します。デバイス構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します。`ltid` は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です。

ロボットの状態コード 214

メッセージ: ロボット番号が存在しません (Robot number does not exist)

説明: 対象のロボットライブラリが、有効なデバイス構成内で検出されませんでした。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- デバイス構成を最後に変更した後で `ltid` が停止され、再起動されたことを確認します (`ltid` は、Media Manager device デーモン (UNIX および Linux) または NetBackup Device Manager サービス (Windows) です)。ロボットライブラリにコマンドを実行するときは、デバイス構成に含まれている、有効なロボットライブラリだけを指定します。

ロボットの状態コード 215

メッセージ: 他のドライブまたは未構成のドライブのテープが要求されました (Requested tape in other or non-configured drive)

説明: 対象のメディアが、対象のドライブ以外のドライブで検出されました。

通常、要求されたメディアは一時的に利用できなくなります。また、管理者またはオペレータによる操作が行われるまで、メディアを利用できないこともあります。

推奨処置:

- メディアがすぐに必要な場合、コマンドの出力 (存在する場合)、デバッグログおよびシステムログで、対象のメディアに関連するメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットライブラリ内のメディアを使用する複数のアプリケーション間の競合を確認します。メディアが永続的に他のドライブに残されたままとならないように、ドライブとドライブパスの整合性を確認します。

ロボットの状態コード 216

メッセージ: キャビネットのドアが開いています (Door is open on cabinet)

説明: ロボットライブラリのドアが開いています。

推奨処置: ロボットライブラリのドアを閉めて、ロボット要求を再発行します。ドアが開いているときと閉じているときのロボットテストユーティリティコマンドの結果を比較して、ドアラッチ機構が機能しているかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 217

メッセージ: 要求されたスロットには、すでにカートリッジがあります (Requested slot already has cartridge)

説明: 要求されたスロットにすでにカートリッジが存在するか、スロットがカートリッジに関連付けられています。

推奨処置: 取り込み要求または取り出し要求で、メディアがすでに存在するスロットを指定していないことを確認します。ドライブ内のメディアを調べて、メディアのホームスロット場所が、取り込まれるメディアで使用されるように指定されていないことを確認します。

ロボットの状態コード 218

メッセージ: メディアアクセスポートからスロットへ移動できません (Cannot move from media access port to slot)

説明: メディアの取り込みを行うロボット操作で、取り込みに失敗したことを示す状態が戻されました。

推奨処置:

- ロボットライブラリにメディアアクセスポートが存在するかどうかを確認します (確認するには、ロボットテストユーティリティを使用します)。管理者またはオペレータによって、取り込み操作が取り消されたかどうかを調べます。

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットの状態コード 219

メッセージ: スロットからメディアアクセスポートへ移動できません (Cannot move from slot to media access port)

説明: メディアの取り出しを行うロボット操作で、取り出しに失敗したことを示す状態が戻されました。

推奨処置:

- ロボットライブラリにメディアアクセスポートが存在するかどうかを確認します (確認するには、ロボットテストユーティリティを使用します)。管理者またはオペレータが取り出し操作をキャンセルしたかどうかを調べます。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットの状態コード 220

メッセージ: メディアアクセスポートにメディアがありません (Media access port does not contain media)

説明: メディアの取り込みを行うロボット操作で、メディアアクセスポートにカートリッジまたはメディアが存在しないことを示す状態が戻されました。オペレータまたは管理者が、メディアアクセスポートに取り込み用のメディアを配置していない可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべてのオペレータおよび管理者の取り込み操作および取り出し操作を調整します。

ロボットの状態コード 221

メッセージ: メディアアクセスポートにはすでにメディアがあります (Media access port already contains media)

説明: メディアの取り出しを行うロボット操作で、メディアアクセスポートに 1 つ以上のカートリッジが存在することを示す状態が戻されました。前回 (または以前) の取り出し操作で、オペレータまたは管理者が、メディアアクセスポートからメディアを取りはずさなかった可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
- すべてのオペレータおよび管理者の間で、取り込み操作および取り出し操作を調整します。取り出し操作の前に、メディアアクセスポートにメディアが存在しないことを確認します。

ロボットの状態コード 222

メッセージ: ロボットアームには、アドレス可能なホルダーがありません (Robotic arm has no addressable holder)

説明: ロボットを構成する部分にホルダーが存在しないか、ホルダーが使用できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- 物理的なハードウェアの状態を調べ、必要に応じて、ストレージの構成部分、ドライブの構成部分およびトランスポートの構成部分のホルダー状態を修正します。その後、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 223

メッセージ: ロボットはビジーです。操作を実行できません (Robot busy, cannot perform operation)

説明: ロボットで他の操作が実行されており、ビジー状態です。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで現在の外部ベースの要求 (ロボットインベントリ要求、メディアの取り込みや取り出し要求など) が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 224

メッセージ: 制御デーモン接続エラーまたはプロトコルエラー (Control daemon connect or protocol error)

説明: ロボットコンポーネントとその他のコンポーネントの間で、プロトコルエラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアをマウントできない原因である特定のエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。
- ベンダーおよびオペレーティングシステムソフトウェアのロボットインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 225

メッセージ: ロボットハードウェアエラーまたは通信エラー (Robot hardware or communication error)

説明: ロボットコンポーネントとその他のコンポーネントの間で、ハードウェアエラーまたは通信エラーが発生しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- メディアをマウントできない原因であるエラーに関連するシステムログのメッセージを調べます。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。ベンダーおよびオペレーティングシステムのハードウェアとソフトウェアのロボットインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 226

メッセージ: 要求されたスロットには、誤ったテープがあります (Requested slot contains the wrong tape)

説明: 要求されたスロット内のメディアが、スロット内に存在すると想定されたメディアと異なります。要求されたボリュームに関連付けられたスロットに関連付けられたロボットライブラリの物理的な内容とボリューム構成に一貫性がありません。

推奨処置: いずれかのメディア管理インターフェースを使用して、ボリューム構成またはロボットライブラリ内のメディア配置を調整する必要があります。影響を受けるスロットについて EMM データベースの調整が最後に行われてから、バーコードが変更されたかどうか、またはメディアが変更されたかどうかを判断します。バーコードだけが変更され、メディアが変更されていない場合、影響を受けるすべてのボリュームにバーコードの更新要求を発行します。メディアが変更された場合、メディア管理インターフェースを使用して、ロボットインベントリの更新を実行します。これによって EMM データベースが更新され、メディアの場所が反映されます。

ロボットの状態コード 228

メッセージ: 要求されたスロットは、ロボット内に存在しません (Requested slot does not exist in robot)

説明: 要求に関連付けられたスロットが、ロボットに対して無効です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットインベントリの［内容 (Contents)］レポートを発行して、ロボットに対して有効なスロット範囲を判断します。ボリューム構成を調べて、ボリュームレコードで有効なスロットだけが参照されていることを確認します。特に、スロットの開始番号および終了番号に注意してください。必要に応じてボリューム構成を更新するか、ロボット操作に対して有効なスロット範囲だけを要求します。

ロボットの状態コード 229

メッセージ: 要求された操作は、ロボットによってサポートされていません (Requested operation is not supported by the robot)

説明: ロボット操作が、この操作をサポートしていないロボットコンポーネントに送信されたか、操作で要求されたオプションがサポートされていません。製品のコンポーネント間またはバージョン間に互換性がない可能性があります。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- すべての Media Manager バイナリおよびユーザーインターフェースが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットの状態コード 230

メッセージ: ロボット操作中にシステムエラーが発生しました (System error occurred during robot operation)

説明: ロボット操作でシステムエラーが発生しました。この状態コードは、ロボットデーモンまたはロボットプロセスの一般的なシステムコールが失敗した場合に使用されます。

推奨処置:

- コマンドまたはインターフェースに出力されたその他のエラーメッセージを確認して、失敗したシステムコールを特定します。コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- システムアプリケーションログで、エラーメッセージおよび警告メッセージを確認します。
- システムの仮想メモリが不足していないことを確認します。仮想メモリに問題がある場合、使用していないアプリケーションをシャットダウンするか、仮想メモリの量を増やします。Windows で仮想メモリを増やすには、[コントロールパネル]を表示して[システム]をダブルクリックし、[パフォーマンス]タブで[仮想メモリ]の設定値を増やします。
- すべての製品バイナリが適切にインストールされていることを確認します。
- `vmps` を実行して、予想外の Media Manager プロセスが実行中でないことを確認します。いくつかのプロセスが実行中であることが予想されますが、停止されないプロセスは、システムコールのハングアップなどの問題を表す場合があります。

ロボットの状態コード 232

メッセージ: ボリュームがライブラリに見つかりません (Volume not found in library)

説明: 要求されたメディアがロボットライブラリ内で検出されませんでした。メディアが取り出されているか、なんらかの理由でアクセスできません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- ロボットインベントリの[内容 (Contents)]レポートを発行して、ロボットライブラリ内に存在するメディアのリストを取得します。Media Manager の構成ファイルでインベントリフィルタが有効になっているかどうかを確認します。ロボットデーモンまたはロボットプロセスから戻されるメディアリストの内容は、インベントリフィルタによって影響を受けるためです。必要に応じて、ロボットテストユーティリティ、またはオペレーティングシステムやベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を確認します。メディアがロボットライブラリ内に存在しない場合、ボリューム構成を更新して、メディアを検索し、必要に応じて、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 233

メッセージ: ボリュームはライブラリにありますが、ドライブドメインにはありません (Volume is in library, but not in drive domain)

説明: メディアがロボットライブラリ内で検出されましたが、ロボット内に構成されているドライブにアクセスできないライブラリドメインに存在します。

推奨処置: ロボットインベントリの[内容 (Contents)]レポートを発行して、ロボットライブラリ内に存在するメディアのリストを取得します。デバイス構成を調べて、ドライブアドレスがメディアの適切なドメインに対応することを確認します。必要に応じてデバイスの構成を修正して、`ltid` (UNIX および Linux の device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を再起動します。必要に応じて、ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ボリューム構成を更新して、必要に応じてメディアをロボットライブラリ内に物理的に移動し、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 234

メッセージ: ロボットが、リソースへのアクセスを拒否しました (Robot denied access to the resource)

説明: メディアがロボットライブラリ内で検出されましたが、設定されているセキュリティポリシーによってアクセスが拒否されています。

推奨処置: ロボットインベントリの[内容 (Contents)]レポートを発行して、ロボットライブラリ内に存在するメディアのリストを取得します。必要に応じてベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ボリューム構成内のメディアを削除するか、適切な場合、ベンダーの管理インターフェースを介してボリュームをアクセス可能にします。必要に応じてボリューム構成を更新し、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 235

メッセージ: バーコードラベルを読み込めません (Barcode label is unreadable)

説明: メディアがロボットライブラリ内で検出されましたが、バーコードラベルを読み込むことができません。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を確認します。ラベルを修正するか、適切な場合、メディアを交換します。必要に応じてボリューム構成を更新し、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 236

メッセージ: ロボットはメディアを不適切な場所に配置しました (Robot has misplaced the media)

説明: 要求されたメディアは、ロボットライブラリを管理するベンダーソフトウェアで認識されましたが、誤って配置されています。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を検証します。ロボットライブラリ内でメディアを検索します。メディアがロボットライブラリ内に存在しない場合、ボリューム構成を更新して、メディアを検索し、必要に応じて、要求を再送信します。

ロボットの状態コード 237

メッセージ: ボリュームは使用中です (Volume is in use)

説明: メディアが使用中です。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの状態を確認します。メディアを使用している可能性があるアプリケーションを判断します。メディアが使用されていない場合、メディアのマウントを解除します。必要な場合、メディアが利用可能になるまで待機します。

ロボットの状態コード 238

メッセージ: 要求されたドライブはオフラインドメインにあります (Requested drive is in an offline domain)

説明: マウント要求で、対象のドライブが、オフライン状態のロボットライブラリドメインに存在します。

推奨処置: ロボットライブラリドメイン (ACS ライブラリストレージモジュール) をオンライン状態に戻します。または、ドメインをオンライン状態に戻せるようになるまで、そのドメインでのドライブの使用を見送ります。

ロボットの状態コード 239

メッセージ: 要求されたボリュームはオフラインドメインにあります (Requested volume is in an offline domain)

説明: マウント要求で、対象のボリュームが、オフライン状態またはオフライン保留状態のロボットライブラリドメインに存在します。

推奨処置: ロボットライブラリドメイン (ACS ライブラリストレージモジュール) をオンライン状態に戻します。または、ドメインをオンライン状態に戻せるようになるまで、そのドメインでのメディアの使用を見送ります。

ロボットの状態コード 240

メッセージ: メモリ割り当て試行がロボットデーモンで失敗しました (A memory allocation attempt failed in the robotic daemon)

説明: ロボット制御デーモンによるメモリの割り当てに失敗しました。このエラーは、メディアサーバーのメモリに重大な問題が発生していることを示す場合があります。

推奨処置: すべての NetBackup Media Manager デーモンを停止します。オペレーティングシステムのメモリ管理ツールのマニュアルを参照して、残りのプロセスのうち、メモリを消費しているプロセスを判断し、そのプロセスを停止します。NetBackup Media Manager デーモンを再起動します。多くのメモリを消費する不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。必要に応じて、スワップ領域または物理メモリを追加します。

ロボットの状態コード 242

メッセージ: ロボットメディアアクセスポートが存在しません (Robot media access port does not exist)

説明: 要求されたメディアアクセスポートでは、対象のメディアは使用できません。

推奨処置: ロボットテストユーティリティまたはベンダーの管理インターフェースを使用して、メディアの場所に基づいてメディアアクセスポートのアドレスを検証します。有効なメディアアクセスポートを選択するか、メディアアクセスポートの自動選択を実行して、ロボット操作を再試行します。

ロボットの状態コード 243

メッセージ: メディアアクセスポート状態ファイルを開くことや、作成することができません (Cannot open/create the media access port status file)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスで、database ディレクトリまたは database フォルダに状態ファイルを作成できないか、状態ファイルを開けません。

推奨処置: `/usr/openv/volmgr/database` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *`install_path`*`¥Volmgr¥database` フォルダ (Windows の場合) 内で、ロボットの状態ファイルを作成できない理由または開けない理由を調べます。Windows の場合、NetBackup Device Manager サービス (およびロボットプロセス) を実行しているアカウ

ントを確認します。そのアカウントを データベースフォルダの[セキュリティ]プロパティと比較します。

ロボットの状態コード 244

メッセージ: 取り出しコマンドがユーザーによって中断されました (The eject command was aborted by the user)

説明: 管理者またはオペレータによって、メディアの取り出し要求が取り消されました。

推奨処置: このエラーは、取り出し要求が管理者またはオペレータによって取り消された場合に発生します。要求は、メディアが存在しないまたは不正である、他の要求でメディアアクセスポートの使用を許可する必要がある、後でこの操作を実行するなどの理由でキャンセルされることがあります。詳しくは、管理者またはオペレータに確認してください。

ロボットの状態コード 245

メッセージ: 物理ドライブは利用できません (Physical drive is not available)

説明: 物理ドライブリソースを要求に利用できないため、ロボットのマウント操作を完了できませんでした。多くの場合、このエラーは、Storagenet 6000 Storage Domain Manager (SN6000) などの、仮想化されたリソースに基づいた環境が原因です。

SN6000 では、テープドライブが仮想化されます。SN6000 の構成には、ドライブ要求に利用可能な物理ドライブ (または同等のリソース) 数より多くの論理ドライブが含まれる場合があります。また、ハードウェア障害が発生したため、論理ドライブ数と物理ドライブ数の関係が変化する場合もあります。NetBackup のスケジュール設定アルゴリズムおよびドライブ割り当てアルゴリズムでは、論理ドライブの可用性だけが判断されます。NetBackup では、構成されているすべての有効な論理ドライブの使用が試行されます。必要な論理ドライブ数が利用可能な物理ドライブ数を超えると、NetBackup ジョブが開始されるときに、ドライブリソースが不足する場合があります。ジョブはスケジューラのキューに投入されずに実行されるため、ACS テープのマウント要求が発行されるまでリソースの問題は発生しません。

推奨処置:

- 物理ドライブリソースが利用できない場合にマウント要求を再待機するには、Shared Storage Option (SSO) ライセンスをインストールします。
- 同時に使用できるドライブ数には制限があります。同一の物理ドライブに接続された異なるストレージユニットの使用時間が重複しないようにバックアップ処理時間帯を構成します。また、すべてのドライブがビジー状態であるためにジョブで物理ドライブを使用できないときに、ジョブが失敗しないようにするには、メディアのマウントタイムアウトを大きくします。

ロボットの状態コード 246

メッセージ: 利用可能な取り込み先スロットが見つかりませんでした (Failed to find an available slot to inject to)

説明: 空きがないライブラリへのボリュームの取り込みが失敗しました。このエラーは、ライブラリの空きがないときだけ発生します。空きがないとは、すべてのストレージの構成部分にメディアが含まれるか、現在ドライブにマウントされているメディアが割り当てられていることを意味します。複数のメディア形式がサポートされているライブラリでは、各ストレージの構成部分に割り当てることができるメディア形式が制限される場合があります。この場合、ライブラリ内のいくつかのストレージの構成部分に空き領域があっても、このエラーが発生することがあります。これは、空のストレージの構成部分と取り込むメディアのメディア形式が一致しない場合、そのメディア形式に対してライブラリの空きがなくなっているためです。

推奨処置: メディアアクセスポートからメディアを取り外します。次に、ボリューム構成を更新して、ロボットのインベントリを再度実行します。

ロボットの状態コード 249

メッセージ: ボリュームはホームスロットにあります (Volume is in home slot)

説明: 現在、ボリュームがホームスロット内に存在し、取り出し準備が完了しています。

推奨処置: なし

ロボットの状態コード 250

メッセージ: メディアアクセスポートは利用可能です (Media access port is available)

説明: メディアアクセスポートで取り込みまたは取り出しが可能です。

推奨処置: 取り込みまたは取り出し操作を開始します。

ロボットの状態コード 251

メッセージ: メディアアクセスポートは利用できません (Media access port is unavailable)

説明: メディアアクセスポートで取り込みまたは取り出しの準備ができていません。

推奨処置: ロボットのメディアアクセスポートに残っているすべてのメディアを手動で取り外します。この状態が継続する場合、ロボットのコンソールでエラーを確認します。

ロボットの状態コード 252

メッセージ: メディアアクセスポートは取り込みモードです (Media access port is in inject mode)

説明: メディアアクセスポートは、取り込みには使用できますが、取り出しには利用できません。

推奨処置: 取り込み操作を完了します。

ロボットの状態コード 253

メッセージ: メディアアクセスポートは取り出しモードです (Media access port is in eject mode)

説明: メディアアクセスポートは、取り出しには使用できますが、取り込みには利用できません。

推奨処置: 取り出し操作を完了します。

ロボットの状態コード 254

メッセージ: ロボットはビジー状態です。インベントリ操作が進行中です。(Robot busy, inventory operation in progress)

説明: ロボットでインベントリが実行されており、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットでインベントリ処理が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 255

メッセージ: ロボットはビジー状態です。取り込み操作が進行中です。(Robot busy, inject operation in progress)

説明: ロボットで取り込み操作が実行されており、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで取り込み操作が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 256

メッセージ: ロボットはビジー状態です。複数の取り出し操作が進行中です。(Robot busy, multiple eject operation in progress)

説明: 複数の取り出しを実行中のため、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで複数の取り出し操作が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 257

メッセージ: ロボットはビジー状態です。複数の取り込み操作が進行中です。(Robot busy, multiple inject operation in progress)

説明: 複数の取り込みを実行中のため、ロボットを利用できません。要求された操作に必要なリソースが使用中です。

推奨処置: ロボットで複数の取り込み操作が完了するまで待機してから、新しい要求を開始します。ベンダーまたはオペレーティングシステムの管理インターフェースおよび管理ログを確認して、ロボットリソースがビジー状態であるかどうかを確認します。

ロボットの状態コード 258

メッセージ: メディアのクリーニング中またはドライブ内の不明なメディア (Cleaning/unknown media in drive)

説明: ドライブ内でクリーニングメディアが検出されたため、テープのマウント要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ドライブのクリーニングが完了したら、操作を再試行します。

ロボットの状態コード 259

メッセージ: VxSS で認可されていません (Not authorized by VxSS)

説明: 権限を所有していないユーザーによって、ロボットデーモンへの要求が行われました。

推奨処置:

- ユーザーが、この操作の実行に必要な権限を所有していることを確認します。
- NetBackup 管理コンソールの[ホストプロパティ (Host Properties)]で、認証セキュリティおよび認可セキュリティの設定が正しいことを確認します。Cohesity Product Authentication Service と Authorization Service の使用方法について詳しくは、次の場所にある情報を参照できます。
  詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

ロボットの状態コード 260

メッセージ: ロボットはビジー状態です。ロボットの診断が進行中です。(Robot busy, robot diagnostics in progress)

説明: 要求されたロボットで、ロボットの診断を実行中です。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- ロボットの診断サイクルが完了したら、操作を再試行します。

ロボットの状態コード 261

メッセージ: EMM エラー (EMM error)

説明: EMM へのデータの読み込みまたは書き込み要求が失敗しました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- `tpconfig -d` または `vmquery -a` コマンドを実行して、EMM サーバーがコマンドの処理を実行中であることを確認します。

ロボットの状態コード 262

メッセージ: 構成が変更されたため、ロボットデーモンおよび ltid を再起動する必要があります (Configuration has changed, robot daemons and ltid need restarting)

説明: ロボットデーモンのデータのランタイムキャッシュに反映されていないデバイスの構成が変更されました。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- このシステム上またはロボット制御ホストシステム上で、`ltid` およびロボットを再起動します。

6

ロボットのエラーコード

この章では以下の項目について説明しています。

- ロボットのエラーコード

ロボットのエラーコード

これらの状態コードは、コマンドラインからロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動され、エラーが発生した場合に返されます。

ロボットエラーの状態コード 1

メッセージ: デーモンを起動するには、ROOT である必要があります (You must be ROOT to start daemon)

説明: root 以外のユーザーによって、ロボットデーモンが起動されました。この状態コードは、UNIX および Linux システムのみに適用されます。

推奨処置: root ユーザーとしてログインしてから、ロボットデーモンを起動します。ロボットデーモンは、`ltid` (device デーモン) によって必要に応じて自動的に起動されるようにすることも可能です。

ロボットエラーの状態コード 2

メッセージ: LTI デーモンは実行されていない可能性があります (LTI Daemon may not be running)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスを起動するときに、`ltid` メッセージキューへの接続が失敗しました。このエラーは、`ltid` (device デーモンまたは NetBackup Device Manager サービス) が実行されていない可能性があることを示します。

推奨処置:

- ltid を起動して共有メモリを初期化し、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが機能するようにします。
- 問題が解決しない場合、コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 3

メッセージ: 共有メモリの取得エラー (Error in getting shared memory)

説明: ltid によって保持されている共有メモリのセグメントに関連付けられた共有メモリの識別子を、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが取得できませんでした (ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、ipcs -a コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 4

メッセージ: 共有メモリのアタッチエラー (Error in attaching the shared memory)

説明: ltid によって保持されている共有メモリのセグメントを、ロボットデーモンまたはロボットプロセスがアタッチできませんでした (ltid は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 5

メッセージ: プロセス ID の取得エラー (Error in getting process ID)

説明: システムコールの失敗のため、ロボットデーモンまたはロボットプロセスが自身のプロセス識別子を取得できませんでした。

推奨処置: プロセスによる自身のプロセス識別子の取得について、オペレーティングシステムの機能を調べます。

ロボットエラーの状態コード 6

メッセージ: ロボットにはデバイスが構成されていません (No devices are configured on the robot)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動されましたが、ロボットにドライブが構成されていません。

推奨処置: ロボットデーモンまたはロボットプロセスは、管理対象のドライブが構成されていないと、実行されない場合があります。関連付けられているロボット内に、1 つ以上のドライブを追加するか、再構成します。その後、`ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止し、再起動します。

ロボットエラーの状態コード 7

メッセージ: ロボットは構成されていません (No robots are configured)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動されましたが、関連付けられているロボット形式のロボットが構成されていません。

推奨処置: ロボットデーモンまたはロボットプロセスは、関連するロボット形式のロボットが構成されていないと実行されません。ロボットを追加または再構成し、`ltid` (UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービス) を停止して、再起動します。

ロボットエラーの状態コード 8

メッセージ: 利用可能なメモリはありません (No memory available)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスに、メモリを割り当てることができませんでした。このエラーは、利用可能なシステムメモリが不足している場合に発生します。このエラーは、プロセスが多すぎるか、物理メモリや仮想メモリが不足していることが原因で、システムに過大な負荷が生じたために発生することがあります。

推奨処置: 不要なプロセスを停止して、メモリを解放します。スワップ領域または物理メモリを追加します。

ロボットエラーの状態コード 9

メッセージ: セマフォ操作エラー (Error in SEMAPHORE operation)

説明: `ltid` によって保持されているリソースに関連するセマフォ操作 (ロックやロック解除など) を、プロセスが実行できませんでした (`ltid` は、UNIX および Linux の Media Manager device デーモンまたは Windows の NetBackup Device Manager サービスです)。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- UNIX サーバーおよび Linux サーバーの場合、`ipcs -a` コマンドの出力を収集し、現在使用中のリソースを調べます。

ロボットエラーの状態コード 10

メッセージ: fork の失敗が発生しました (Fork failure occurred)

説明: システムエラーのため、ロボットデーモンまたはロボットプロセスで子プロセスを作成できません。多くの場合、これは、システムリソースの可用性に基づく一時的なエラーです (UNIX および Linux サーバーだけに適用されます)。

推奨処置:

- 後で device デーモンを再起動して、プロセス数を制限しているシステムの問題を調べます。
- システムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- device デーモンを再起動してから操作を再試行し、システムログファイルを調べます。

ロボットエラーの状態コード 11

メッセージ: システムエラーが発生しました (System error occurred)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスでシステムエラーが発生しました。

推奨処置: コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。

『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットエラーの状態コード 12

メッセージ: 子プロセスの作成中の使用方法エラー (Usage error in creating child process)

説明: ロボットソフトウェアコンポーネント間に互換性がないため、ロボットデーモンまたはロボットプロセスで子プロセスを作成できません。

推奨処置:

- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。
- すべての Media Manager バイナリが、互換性のあるバージョンであることを確認します。

ロボットエラーの状態コード 13

メッセージ: EMM エラー (EMM error)

説明: ロボットデーモンで、EMM との通信に問題が発生しました。

推奨処置:

- `nbemm` が実行中であり、要求に応答していることを確認します。
- コマンドの出力、デバッグログおよびシステムログで、エラーについての詳細なメッセージを調べます。
  『NetBackup ログリファレンスガイド』の「Media Manager のデバッグログレベルを上位に設定する」を参照してください。

ロボットエラーの状態コード 14

メッセージ: 実行するには、管理者である必要があります (You must be an administrator to execute)

説明: 管理者権限を所有しないユーザーアカウントから、ロボットプロセスが起動されました (Windows システムだけに適用されます)。

推奨処置: 必要に応じて、NetBackup Device Manager サービスによって自動的にロボットデーモンを起動できるようにします。このサービスが、管理者権限を所有するユーザーアカウントから起動されたことを確認します。

ロボットエラーの状態コード 16

メッセージ: デバイスが複数のドメインで見つかりました (Devices located in multiple domains)

説明: ロボットデーモンまたはロボットプロセスで、無効なデバイスの構成が検出されました。この構成では、異なるドメインのドライブが 1 つの論理ロボットによって制御されています。

推奨処置: `tpconfig -d` またはデバイスの構成インターフェースを使用してデバイス構成を表示し、すでに構成されているロボット情報およびドライブ情報を参照します。ドライブアドレスが物理ドメインをまたがらないことを確認します。1 つのドメインからのメディアを使用するドライブは、同じロボット内だけに構成できます。ドメインには、1 つの物理ライブラリ、またはカートリッジ交換装置やパススルー機構によって接続されている複数のライブラリを含める必要があります。

ロボットエラーの状態コード 17

メッセージ: ロボットデーモンのライセンスがありません (Robotic daemon not licensed)

説明: 必要な現行の製品ライセンスなしにロボットデーモンまたはロボットプロセスが起動されました。または、必要なデータベースファイルが存在していないか、破損しています。

推奨処置:

- 製品のマニュアルで、サポートされているデバイス構成を確認します。
- 追加のソフトウェアライセンスを取得して関連付けられているロボット形式のロボットを構成します。または、構成を現在のライセンス交付されているロボット形式に制限します。`/usr/openv/share` ディレクトリ (UNIX および Linux の場合) または *`install_path`*`¥NetBackup¥share` *フォルダ (Windows の場合) 内で* `external_robotics.txt` ファイルの存在および権限を確認します。

7

セキュリティサービスの状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- セキュリティサービスの状態コード

セキュリティサービスの状態コード

bpnbat 認証デーモン (NetBackup) または nbatd Web サービス (NetBackup) でユーザーを認証してユーザーの証明書またはセッショントークンを取得するときに、セキュリティサービスの状態コードが、nbwmc コマンドの終了状態とコマンド出力に表示されます。

セキュリティサービスの状態コード 93

メッセージ: Web 認証に失敗しました。(Web authentication failed.)

説明: Web 認証が失敗しました。

推奨処置: ユーザー名、ドメイン名、ドメイン形式、パスワードのいずれかが正しくありません。ユーザー認証の権限を確認します。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 94

メッセージ: AT 認証と Web 認証の両方が失敗しました。(Both AT authentication and Web authentication failed.)

説明: NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションの認証に失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) と NetBackup 認証デーモン (nbatd) の両方が実行中であることを確認します。ユーザー名、ドメイン名、

ドメイン形式、パスワードのいずれかが正しくありません。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 95

メッセージ: AT 認証は成功し、Web 認証は失敗しました。(AT authentication successful, web authentication failed.)

説明: ログイン形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと NetBackup Web アプリケーションの両方のログインが実行されます。ただし、NetBackup Web アプリケーションの認証は失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認します。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 96

メッセージ: Web 認証は成功し、AT 認証は失敗しました。(Web authentication successful, AT authentication failed.)

説明: ログイン形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと NetBackup Web アプリケーションの両方のログインが実行されます。ただし、NetBackup AT ブローカーの認証は失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup 認証デーモン (nbatd) が実行中であることを確認します。さらに診断するには bpnbat のログを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 97

メッセージ: Web ログアウトに失敗しました。(Web logout failed.)

説明: NetBackup Web アプリケーションに対するログアウト操作が失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 98

メッセージ: Web ログアウトは成功しましたが、AT ログアウトは失敗しました。(Web logout was successful, but the AT logout failed.)

説明: ログアウト形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションの両方のログアウトが実行されます。ただし、NetBackup 認証ブローカーのログアウトは失敗しました。

推奨処置: 操作を再実行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

セキュリティサービスの状態コード 99

メッセージ: AT ログアウトは成功しましたが、Web ログアウトは失敗しました。(AT logout was successful, but the web logout failed.)

説明: ログアウト形式が指定されていないときは、NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションの両方のログアウトが実行されます。ただし、NetBackup Web アプリケーションのログアウトは失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 100

メッセージ: AT ログアウトと Web ログアウトの両方に失敗しました。(Both the AT and the web logout failed.)

説明: NetBackup AT ブローカーと Web アプリケーションのログアウトに失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認して、操作を再試行します。

セキュリティサービスの状態コード 101

メッセージ: CA 証明書が存在しないか、無効です。(The CA certificate is not present or is invalid.)

説明: ローカルのトラストストアからの CA 証明書を使用して NetBackup Web 認証サービスの証明書を検証できなかったため NetBackup Web ログインまたはログアウトは失敗しました。

推奨処置: `nbcertcmd -getCACertificate` コマンドを実行して新しい CA 証明書を取得して再試行します。`nbcertcmd -listCACertDetails` コマンドを実行してローカルのトラストストアにある CA 証明書を一覧表示することもできます。マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認して、操作を再試行します。

セキュリティサービスの状態コード 102

メッセージ: NetBackup Web 認証サービスに接続できません。

説明: NetBackup の Web ログインまたはログアウトは、NetBackup が Web 認証サービスに接続できないために失敗しました。

推奨処置: マスターサーバー上で NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であることを確認します。

セキュリティサービスの状態コード 103

メッセージ: NetBackup Web 認証サービスに情報を送信できません。(Unable to send information to the NetBackup web authentication service.)

説明: NetBackup の Web ログインまたはログアウトは、NetBackup が NetBackup Web 認証サービスに情報を送信できないために失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であるか確認して、必要に応じて再起動します。

セキュリティサービスの状態コード 104

メッセージ: NetBackup Web 認証サービスから情報を読み込めません。(Unable to read information from the NetBackup web authentication service.)

説明: NetBackup の Web ログインまたはログアウトは、NetBackup が NetBackup Web 認証サービスからトークン情報を読み取れないために失敗しました。

推奨処置: NetBackup Web サービス (nbwmc) が実行中であるか確認して、必要に応じて再起動します。

セキュリティサービスの状態コード 105

メッセージ: 現在のホストでユーザー認証の詳細を取得できません。

説明: NetBackup の Web ログインからのユーザー認証の詳細を現在のホストで取得することができません。

推奨処置: bpnbat -login コマンドでログインを再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

セキュリティサービスの状態コード 106

メッセージ: 認証が成功しましたが、現在のホストにユーザーの詳細を保存できません。

説明: NetBackup Web ログイン認証は成功しましたが、ユーザーの詳細は現在のホストに保存されませんでした。

推奨処置: bpnbat -login コマンドでログインを再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

セキュリティサービスの状態コード 107

メッセージ: ログインしたユーザーの詳細の取得に失敗しました。クレデンシャルが期限切れか利用できません。

説明: `bpnbat -whoami` コマンドは AT のクレデンシャルと Web トークンが見つからない場合にこのエラーを返します。

推奨処置: `bpnbat -login` コマンドでログインを再試行します。問題が継続する場合は、すべてのエラーログ情報を保存して、Cohesity Technical Supportにお問い合わせください。

8

NetBackup アラート通知の状態コード

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup アラート通知の状態コード

NetBackup アラート通知の状態コード

このセクションには、NetBackup のアラート通知の状態コードが含まれています。

NetBackup 管理者には、環境内のチケットシステム経由で送信される重大なエラーが通知されます。アラートはジョブの失敗に特有の状態コードに基づいて生成され、チケットシステムに送信されます。NetBackup 管理者は、これらのアラートをチケットシステムのユーザーインターフェースのインシデントとして表示できます。

NetBackup は、ServiceNow、Remedy、HPSM (HP Service Manager) などのインバウンド電子メールサービスに基づくチケットシステムをサポートします。

次の表は、アラートを生成し、それらをチケットシステムに送信する NetBackup の状態コードを示しています。

メモ: アラートは、リストされている状態コードについて生成されます。対象となるジョブタイプは、バックアップ、スナップショット、スナップショットレプリケーション、スナップショットからのインデックス、スナップショットからのバックアップのみです。

表 8-1 NetBackup アラート通知の状態コード

状態コード	エラーメッセージ
1	要求された操作は部分的に成功しました

状態コード	エラーメッセージ
2	要求されたファイルのバックアップは実行されませんでした (none of the requested files were backed up)
6	バックアップは、要求されたファイルのバックアップに失敗しました (the backup failed to back up the requested files)
9	必要な拡張機能パッケージがインストールされていないか、または正しく構成されていません (a necessary extension package is not installed or not configured properly)
10	割り当てに失敗しました (allocation failed)
11	システムコールに失敗しました (system call failed)
12	ファイルを開けませんでした
13	ファイルの読み取りに失敗しました (file read failed)
14	ファイルの書き込みに失敗しました (file write failed)
20	コマンドのパラメータが無効です
21	ソケットを開けませんでした (socket open failed)
23	ソケットの読み込みに失敗しました
24	ソケットの書き込みに失敗しました。
25	Cannot connect on socket
26	クライアント/サーバーの組み合わせに失敗しました。
27	子プロセスはシグナルによって強制終了されました。(child process killed by signal)
28	プロセスを fork しようとして失敗しました (failed trying to fork a process)
29	コマンドを実行しようとして失敗しました (Failed trying to exec a command)
35	要求されたディレクトリを作成できません (cannot make required directory)
36	メモリを割り当てようとして失敗しました (failed trying to allocate memory)
37	無効なサーバーによって操作が要求されました (operation requested by an invalid server)
39	クライアント名が一致しません (client name mismatch)
40	ネットワークの接続が解除されました。
41	ネットワークの接続でタイムアウトが発生しました (network connection timed out)

状態コード	エラーメッセージ
42	ネットワークの読み込みに失敗しました (network read failed)
44	ネットワークの書き込みに失敗しました (network write failed)
46	サーバーはアクセスが許可されていません (server not allowed access)
47	ホストはアクセスできません (host is unreachable)
48	クライアントのホスト名が見つかりませんでした (client hostname could not be found)
49	クライアントは起動しませんでした (client did not start)
50	クライアントのプロセスは異常終了しました (client process aborted)
52	Media Manager のボリュームのマウントを待機中にタイムアウトが発生しました (timed out waiting for media manager to mount volume)
54	クライアントへの接続中にタイムアウトが発生しました (timed out connecting to client)
58	クライアント % に接続できません
59	クライアントへのアクセスが拒否されました。(access to the client was not allowed)
61	VNETD プロキシでエラーが発生しました
63	プロセスは、シグナルによって強制終了されました (process was killed by a signal)
67	クライアントバックアップが、ファイルリストの読み込みに失敗しました (client backup failed to read the file list)
69	ファイルリストの指定が無効です (invalid filelist specification)
71	ファイルリストにファイルが存在しません (none of the files in the file list exist)
72	クライアント形式は、構成データベース内で正しくありません (the client type is incorrect in the configuration database)
74	クライアントは `bpstart_notify` の完了を待機中にタイムアウトしました (Client timed out waiting for bpstart_notify to complete)
83	メディアのオープンエラー
84	メディアの書き込みエラー
85	メディアの読み込みエラー (media read error)
86	メディアの配置エラー (media position error)
87	メディアのクローズエラー (media close error)

状態コード	エラーメッセージ
89	共有メモリの設定中に問題が発生しました (problems encountered during setup of shared memory)
90	Media Manager はバックアップイメージ用データを受信しませんでした (media manager received no data for backup image)
93	Media Manager がドライブ内で誤ったテープを見つけました (media manager found wrong tape in drive)
96	バックアップに新しいメディアを割り当てることができません。ストレージユニットに利用可能なメディアがありません (unable to allocate new media for backup, storage unit has none available)。
98	メディア要求 (tpreq) エラー (Error requesting media (tpreq))
103	初期化中にエラーが発生しました。構成ファイルを確認してください (error occurred during initialization, check configuration file)
112	ファイルリストでファイルが指定されていません (no files specified in the file list)
114	実装されていないエラーコード
129	ディスクストレージユニットに空きがありません (Disk storage unit is full)
130	システムエラーが発生しました (System error occurred)
142	ファイル名は存在しません (File does not exist)
154	ストレージユニットの特徴が要求と一致しません (storage unit characteristics mismatched to request)
155	ディスクに空きがありません (disk is full)
156	スナップショットエラーが発生しました (Snapshot error encountered)
158	デーモンロックファイルのアクセスに失敗しました (failed accessing daemon lock file)
159	ライセンスを受けた使用範囲を超えています (licensed use has been exceeded)
174	Media Manager - システムエラーが発生しました (media manager - system error occurred)
190	選択条件に一致するイメージまたはメディアが見つかりません (found no images or media matching the selection criteria)
191	正常に処理されたイメージはありませんでした (no images were successfully processed)

状態コード	エラーメッセージ
196	バックアップ処理時間帯でないため、クライアントバックアップが試行されませんでした (client backup was not attempted because backup window closed)
198	このクライアント用に要求された形式のスケジュールを含む有効なポリシーが存在しません (no active policies contain schedules of the requested type for this client)
200	スケジューラでは実行する予定のバックアップが見つかりませんでした (scheduler found no backups due to run)
213	利用可能なストレージユニットがありません (no storage units available for use)
219	必要なストレージユニットが利用できません (the required storage unit is unavailable)
227	エンティティが見つかりませんでした。
232	プロトコルエラーが発生しました (a protocol error has occurred)
233	想定しない EOF が発生しました (premature eof encountered)
636	入力ソケットからの読み取りに失敗しました (read from input socket failed)
800	リソース要求が失敗しました (resource request failed)
806	この mpx グループは結合できません (this mpx group is unjoinable)
811	リソース要求元との通信に失敗しました (failed to communicate with resource requester)
818	保持レベルの不一致 (retention level mismatch)
1002	検出で、失敗したクライアントが見つかりました (discovery detected a failed client)
1542	既存のスナップショットは有効でなくなったため、以降の操作でマウントできません (An existing snapshot is no longer valid and cannot be mounted for subsequent operations)
2000	バックアップに新しいメディアを割り当てることができません。ストレージユニットに利用可能なメディアがありません (unable to allocate new media for backup, storage unit has none available)。
2001	このジョブで利用可能なドライブがありません (No drives are available for this job)
2002	STU 識別子形式が無効です (Invalid STU identifier type)
2003	ドライブが割り当てられていません (Drive is not allocated.)
2004	ドライブがすでに割り当てられています (Drive is already allocated)

状態コード	エラーメッセージ
2005	MDS はメディアサーバーから無効なメッセージを受信しました (MDS has received an invalid message from a media server)
2006	NDMP クレデンシャルが EMM で定義されていません (NDMP credentials are not defined in EMM)
2007	ストレージユニットには要求されたジョブと互換性がありません (Storage unit is not compatible with requesting job)
2008	互換性のあるすべてのドライブパスが停止しています (All compatible drive paths are down)
2009	互換性のあるすべてのドライブパスが停止していますが、メディアは利用可能です (All compatible drive paths are down but media is available)
2010	ジョブ形式は無効です (Job type is invalid)
2011	メディアサーバーでシステムエラーが報告されました (The media server reported a system error)
2012	メディアは EMM で競合しています (Media has conflicts in EMM)
2013	エラーレコードの挿入に失敗しました (Error record insert failed)
2014	メディアは割り当てられていません (Media is not assigned)
2015	メディアが期限切れです (Media is expired)
2016	メディアが別のサーバーに割り当てられています (Media is assigned to another server)
2017	メディアをドライブからマウント解除する必要があります (Media needs to be unmounted from a drive)
2018	クリーニング数が無効です (Number of cleanings is invalid)
2019	ローカルシステムに構成されていないドライブ内にメディアが存在します (Media is in a drive that is not configured on the local system)
2020	ロボットライブラリがサーバーで停止しています (Robotic library is down on server)
2021	割り当てレコードの挿入に失敗しました (Allocation record insert failed)
2022	割り当て状態レコードの挿入に失敗しました (Allocation status record insert failed)
2023	割り当て識別子は EMM に認識されていません (Allocation identifier is not known to EMM)
2024	割り当て要求の更新に失敗しました (Allocation request update failed)

状態コード	エラーメッセージ
2025	割り当て要求の削除に失敗しました (Allocation request delete failed)
2026	割り当て状態要求の削除に失敗しました (Allocation status request delete failed)
2027	メディアサーバーが動作していません (Media server is not active)
2028	メディアが予約されています (Media is reserved)
2029	EMM データベースが不整合です (EMM database is inconsistent)
2030	ディスク領域が不十分であるか、高水準点を超過します (Insufficient disk space or high water mark would be exceeded)
2031	メディアが EMM で定義されていません (Media is not defined in EMM)
2032	EMM によると、メディアは使用中です (Media is in use according to EMM)
2033	メディアが不適切な場所に配置されています (Media has been misplaced)
2034	後で割り当て要求を再試行してください (Retry the allocation request later)
2035	要求は保留にする必要があります (Request needs to pend)
2036	ドライブは、起動しているロボットライブラリ内にあります (Drive is in a robotic library that is up)
2037	ドライブの準備ができていません (Drive is not ready)
2038	ドライブにロードされたメディアは書き込み可能ではありません (Media loaded in drive is not write-enabled)
2039	SCSI 予約の競合が検出されました (SCSI reservation conflict detected)
2040	ストレージユニットの最大ジョブ数に達しました (Maximum job count has been reached for the storage unit)
2041	ストレージユニットが停止しています (Storage unit is down)
2042	密度の不一致が検出されました (Density mismatch detected)
2043	要求されたスロットは空です (Requested slot is empty)
2044	メディアは別のアプリケーションに割り当てられています (Media is assigned to another application)
2045	最大ジョブ数が 1 より小さいため、ストレージユニットが無効です (Storage unit is disabled since max job count is less than 1)
2046	メディアをマウントできません (Media is unmountable)

状態コード	エラーメッセージ
2047	メディアは書き込み保護されています (Media is write protected)
2048	メディアは ACS ロボットライブラリによって使用されています (Media is in use by the ACS robotic library)
2049	メディアは ACS ロボットライブラリ内で見つかりませんでした (Media not found in the ACS robotic library)
2050	ACS メディアには、読み込み不可能な外部ラベルがあります (ACS media has an unreadable external label)
2051	ACS メディアはドライブのドメイン内にはありません (ACS media is not in the drive's domain)
2052	ACS ライブラリストレージモジュール (LSM) はオフラインです (An ACS Library Storage Module (LSM) is offline)
2053	メディアはアクセスできないドライブに存在します (Media is in an inaccessible drive)
2054	メディアは、現在停止状態のドライブ内にあります (Media is in a drive that is currently in a DOWN state)
2055	ACS 物理ドライブは利用できません (ACS physical drive is not available)
2056	マウント要求に使用したファイル名はすでに存在しています (The file name used for the mount request already exists)
2057	ドライブのスキャンホストは動作していません (The scan host of the drive is not active)
2058	デバイスを使用する前に、LTID をメディアサーバー上で再起動する必要があります (LTID needs to be restarted on media servers before the device can be used)
2059	ロボットライブラリは利用できません (The robotic library is not available)
2060	メディアは、巻き戻すか、またはドライブからマウント解除する必要があります (Media needs to be rewound or unmounted from a drive)
2061	ホストは、クラスタのアクティブノードではありません (The host is not an active node of a cluster)
2062	ストレージユニットで抑制されたジョブ数に達しました (Throttled job count has been reached for the storage unit)
2063	サーバーには、リモートクライアントオプションのライセンスがありません (Server is not licensed for Remote Client Option)

状態コード	エラーメッセージ
2064	ジョブ履歴によると、利用可能なメディアはありません (Job history indicates that no media is available)
2065	ジョブ履歴によると、利用可能なドライブはありません (Job history indicates that no drives are available)
2066	ディスクプールが見つかりません (Disk pool not found)
2067	ディスクボリュームが見つかりません (Disk volume not found)
2068	ディスクボリュームのマウントポイントが見つか (Disk volume mount point not found)
2069	ディスクボリュームのマウントポイントレコードの挿入に失敗しました (Disk volume mount point record insert failed)
2070	指定されたマウントパスは、割り当てられた領域に適合しません (The specified mount path will not fit in the allocated space)
2071	要求に対してストレージサーバーが見つかりません (Unable to find any storage servers for the request)
2072	静的なマウントポイントの無効な操作 (Invalid operation on static mount point)
2073	ディスクプールが停止しています (Disk pool is down)
2074	ディスクボリュームが停止しています (Disk Volume is Down)
2075	ファイバートランスポートリソースが利用できません (Fibre Transport resources are not available)
2076	DSM によって、予期しないエラーが戻されました (DSM returned an unexpected error)
2077	DSM はすでにボリュームをマウントしています (DSM has already mounted the volume)
2078	ディスクボリュームの最大マウント数を超えています (The maximum number of mounts for the disk volume have been exceeded)
2079	DSM は、ボリュームに無効なファイルシステムがマウントされていることを検出しました (DSM has detected that an invalid filesystem is mounted on the volume)
2080	ディスクボリュームに最大ライター数が指定されていません (Disk volume has no max writers count)
2081	ディスクボリュームに最大リーダー数が指定されていません (Disk volume has no max readers count)

状態コード	エラーメッセージ
2082	ドライブは、利用可能としてマークされている必要があります (The drive needs to be marked as available)
2083	メディア親和性グループが EMM で定義されていません (The media affinity group is not defined in EMM)
2084	メディア親和性グループレコードの挿入に失敗しました (Media affinity group record insert failed)
2085	ディスクボリュームは利用できません (Disk volume is not available)
2086	ディスクボリュームは、同じジョブの複数のコピーに使用できません (Disk volume cannot be used for more than one copy in the same job)
2087	メディアの割り当てによって、部分的に使用されているメディアの最大数の制限を超えます (Media allocation would exceed maximum partially full media limit)
2088	クリーニングメディアが利用できません (Cleaning media is not available)
2089	FT クライアントは実行されていません (FT client is not running)
2090	FT クライアントには構成されたデバイスが存在しません (FT client has no devices configured)
2091	FT クライアントのデバイスはオフラインです (FT client devices are offline)
2092	クライアント用の FT サーバーのデバイスはオフラインです (FT server devices for client are offline)
2093	このクライアント用の FT サーバーが実行されていません (No FT servers for this client are running)
2094	STU でライフサイクルバックアップを実行できません (STU cannot run Lifecycle backups)
2095	STU で VMware バックアップを実行できません (STU cannot run VMware backup)
2096	NDMP 処理では複数のインラインコピーはサポートされません (NDMP operation does not support multiple inline copies)
2097	ストレージユニットグループが EMM 構成に存在しません (Storage unit group does not exist in EMM configuration)
2098	メディアプールはこのジョブに使用できません (Media pool is not eligible for this job)
2099	必要なドライブまたはドライブパスが構成されていません (Required drive or drive path is not configured)

状態コード	エラーメッセージ
2100	テープメディアのマウントの最大数を超えています (Maximum number of mounts has been exceeded for tape media)
2101	メディアサーバーが EMM データベースに見つかりません (Media server not found in EMM database)
2102	複数のストレージユニットにまたがって使用することはできません (Storage unit does not support spanning)
2103	メディアサーバーが一致していません (Media server mismatch)
2104	ストレージユニットは利用できません (Storage units are not available)
2105	レプリケーションジョブに要求されたストレージユニットはレプリケーション対応ではありません (Storage unit requested for replication job is not replication capable)
2106	ディスクストレージサーバーが停止しています (Disk storage server is down)
2107	[要求されたメディアサーバーにクレデンシャルがないか、ストレージサーバー用に構成されていません (Requested media server does not have credentials or is not configured for the storage server)]
2108	要求された NDMP マシンにクレデンシャルがないか、NetBackup で構成されていません
2109	要求されたファイバートランスポートのクライアントマシンが NetBackup の構成で見つかりません
2110	要求されたマシンが NetBackup で構成されていません
2111	すべてのストレージユニットはオンデマンドのみで構成されているため、ストレージユニットを要求するジョブの対象になりません (All storage units are configured with On Demand Only and are not eligible for jobs requesting ANY storage unit)
2112	NetBackup メディアサーバーのバージョンが操作には古すぎます
2113	vserver 用に無効なクレデンシャルが追加されているか、ディスクアレイクレデンシャルが追加されていません
2505	データベースに接続できません。
4200	操作に失敗しました: スナップショットのロックを獲得できません。
4201	不正なスナップショット方式の構成か、バックアップ選択エントリの保護と互換性がないスナップショット方式 (Authentication error occurred)
4202	無効または互換性のないストレージが構成されました (Invalid or incompatible storage unit configured)

状態コード	エラーメッセージ
4203	バックアップ対象ファイルリストに無効な、またはサポートされないエントリが見つかりました
4204	互換性のないクライアントが見つかりました (Incompatible client found)
4205	不正なクレデンシャルが見つかったか、クレデンシャルが見つかりませんでした (Incorrect or no credentials found)
4206	認証エラーが発生しました。NetBackup Client Service がローカルシステムとして動作しています。これは不正な可能性があります。(Authentication error occurred. NetBackup Client Service is running as Local System, this is likely incorrect.)
4207	スナップショットのメタデータまたは状態ファイルをフェッチできませんでした (Could not fetch snapshot metadata or state files)
4208	スナップショットのメタデータまたは状態ファイルをフェッチできませんでした (Could not fetch snapshot metadata or state files)
4209	スナップショットメタデータまたは状態ファイルを作成できません (Snapshot metadata or statefiles cannot be created)
4210	スナップショットメタデータの内容が不正か、内容が見つかりません (Incorrect or no content found in snapshot metadata)
4211	アクセスできないスナップショット、または無効なスナップショット (Snapshot not accessible or invalid snapshot)
4212	スナップショットの再作成に失敗しました (Recreation of snapshot failed)
4213	スナップショットのインポートに失敗しました (Snapshot import failed)
4214	スナップショットのマウントに失敗しました (Snapshot mount failed)
4215	スナップショットの削除に失敗しました (Snapshot deletion failed)
4216	スナップショットのクリーンアップに失敗しました (Snapshot cleanup failed)
4218	スナップショットのデポートに失敗しました (Snapshot deport failed)
4219	コマンド操作が失敗しました: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました (Command operation failed: System command or API execution failed)
4220	コマンド操作が失敗しました: システムコマンドまたは API の実行に失敗しました (Command operation failed: System command or API execution failed)
4221	無効な、またはサポートされない構成が見つかりました
4222	操作に失敗しました: スナップショットを撮るためのポリシーロックを獲得できません (Operation failed: Unable to acquire policy lock to take snapshot)

状態コード	エラーメッセージ
4223	操作は完了していません (Operation not completed)
4224	STS の内部エラーです (STS Internal Error)
4225	ストレージサーバーでクライアントまたはメディアが権限がない操作を試行しました (Unauthorized operation attempted by client or media on storage server)
4226	ストレージサーバーとの通信エラーが発生しました (Communication failure occurred with storage server)
4227	STS プラグインエラーが発生しました (STS Plug-in error occurred)
4228	ストレージサーバーまたはプラグインのバージョンが一致しません (Storage server or plug-in version mismatch)
4229	ストレージサーバーがリソースまたは機能の不足を検出しました (Insufficient resources or capabilities found by storage server)
4230	ストレージトポロジーが無効か、ストレージサーバーの構成エラーです (Invalid storage topology or storage server configuration error)
4231	STS の予期しないエラー (STS Unexpected Error)
4232	検出問い合わせ URI が無効です (Invalid Discovery Query URI)
4233	vCloud には BIOS UUID クライアント参照が許可されません (BIOS UUID client reference not allowed for vCloud)
4234	VMware サーバーのログインエラー (VMware server login failure)
4235	vCloud が有効でないときに vCloud キーワードが使用されました (vCloud keyword used when vCloud not enabled)
4236	vCloud ポリシーに複数の組織が含まれます (vCloud policy includes multiple organizations)
4237	クライアントがポリシーの必要条件を満たしません (Client does not meet policy requirements)
4238	ポリシーにサーバーのクレデンシャルが構成されていません (No server credentials configured for policy)
4239	仮想マシンが見つかりません (Unable to find the virtual machine)
4240	サポートされていない操作です (Operation not supported)
4241	ブロックレベルの増分はこのデバイスではサポートされていません

状態コード	エラーメッセージ
4243	VirtualCenter サーバーに接続できません (Unable to connect to VirtualCenter server)
4245	バックアップ対象の無効なパス名です
4246	要求された操作は部分的に成功しました。
4248	スナップショット操作からのインデックスが内部エラーにより失敗しました
4249	スナップショット操作からのインデックスが失敗しました。カタログがすでに存在します
4250	スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。子イメージまたはファイル情報を見つけることができません
4251	スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。インデックスデータベースへの書き込みに失敗しました。
4252	スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。エントリがバックアップ対象エントリのいずれにも属していません。
4253	スナップショットからのインデックス操作に失敗しました。現在および以前のバックアップイメージの SLP バージョンが一致しません。
4254	インデックスデータベースを作成するためのパスが無効であるか、見つかりません
4255	SnapDiff を使ったスナップショットからのインデックスはユーザーによって無効化されます
4256	スナップショットからのインデックスはバックアップ対象と関連付けられたファイルシステムでサポートされていません
4257	スナップショットからのインデックスはストレージサーバーでサポートされていません
4258	Hyper-V VM スナップショットの取得中に一時的なエラーが発生しました.
4259	VMware ルックアップサービスで VirtualCenter ホスト名の検出に失敗しました
4260	SSO ログインエラーが発生しました
4261	VMware 内部サーバーエラーが発生しました
4262	VMware vCloud Suite API エラーが発生しました
4263	VMware SOAP API エラーが発生しました
4264	TagView XML の処理中に予想外のエラーが発生しました
4265	タグをサポートしていない VMware 仮想マシンサーバーが見つかりました

状態コード	エラーメッセージ
4266	タグ API を提供していない VMware 仮想マシンサーバーが見つかりました
4267	Java ランタイム環境の初期化に失敗しました
4268	リソースプールの情報の取得に失敗しました
4269	同じ ID を持つ複数の仮想マシンが見つかりました
4271	仮想マシンのスナップショットの最大数を超えています
4272	差分ファイルの最大数を超えています
4273	仮想マシンのスナップショット操作のバックアップまたはリストアホストをロックできません
4274	仮想マシンのスナップショットの削除に失敗しました
4275	仮想マシンのディスクを統合できない
4276	仮想マシンのディスクの情報を取得できません
4277	仮想マシンのパスがサポートされていない文字を含んでいます
4278	仮想マシンの情報を取得できません (Unable to retrieve virtual machine information)
4279	仮想マシンの vCloud 情報を取得できません (Unable to retrieve virtual machine vCloud information)
4280	仮想マシンは独立ディスクまたは Raw デバイスマッピングディスクのみを含んでいます
4281	仮想マシンは独立ディスクのみを含んでいます
4282	仮想マシンは Raw デバイスマッピングディスクのみを含んでいます
4283	ディスク識別子の処理中にエラーが検出されました
4290	仮想マシンスナップショットの作成に失敗しました。仮想マシンは別の操作を実行しているためビジー状態です
4292	仮想マシンの現在の状態で変更ブロック追跡を有効化できません
4293	無効なクレデンシャルまたはアクセス違反
4294	仮想マシンが切断されています
5402	OS 認証エラー - データベースに接続できませんでした。OS のクレデンシャルをチェックしてください。(OS Authentication error - Could not connect to the database. Please check the OS credentials.)

状態コード	エラーメッセージ
5449	スクリプトが実行を承認されていません。
7600	原因不明の内部エラーが発生しました。
7601	サービスを PBX に登録できませんでした。
7603	PBX の初期化に失敗しました。
7604	リアクタでの PBX アクセプタの登録に失敗しました。
7607	ソケットの非ブロッキングモード設定に失敗しました。
7609	リアクタイベントハンドラ操作の実行に失敗しました。
7610	指定されたオブジェクトの解析に失敗しました。
7611	接続プロトコルエラーが発生しました。
7612	予想外のプロトコルイベントが発生しました。
7613	ホストのルックアップが失敗しました
7614	ホストで有効なソース-ターゲットバインドがありません。
7617	JSON 変換エラーが発生しました。
7618	JSON キーを見つけるのに失敗しました。
7619	指定したステートマシンはまだ有効です。
7622	入力 I/O が必要です。
7623	出力 I/O が必要です。
7624	SSL ソケットの承認に失敗しました。
7625	SSL ソケットの接続に失敗しました。
7627	SSL の初期化に失敗しました。
7628	VxSS の初期化に失敗しました。
7631	証明書のパスの検索に失敗しました。
7632	プロトコルの健全性検査に失敗しました。
7633	ステートマシンが完了する前に終了しました。
7634	ユーザーの UNIX ドメインソケットリスナーの設定に失敗しました。
7635	ローカルのアクセプタ作成に失敗しました。

状態コード	エラーメッセージ
7636	リモートプロセスからソケットをインポートできませんでした。
7637	リモートプロセスにソケットをエクスポートできませんでした。
7638	ソケットペアの作成に失敗しました。
7639	ピア名マッピングの作成に失敗しました。
7640	ピアが接続を閉じました。
7641	安全にハンドシェークする一般的なルート CA が見つかりませんでした。
7642	Java GUI セッショントークンの検証に失敗しました。
7643	ホストの検証を実行できないため、接続を確立できません。
7645	証明書情報から名前を取得できませんでした。
7647	プロキシピアがプロキシプロトコルに準拠していません。
7648	ホストの検証が失敗したため、接続を確立できません。
7649	キャッシュから取得されたデータの形式が無効です。
7650	サーバーから取得されたデータの形式が無効です。
7651	監査理由を処理できませんでした。
7652	安全な通信のプロキシを使用できません。
7653	ピア証明書は無効化されています
7654	証明書失効リストが無効です
7655	証明書失効リストの署名が不正です
7656	証明書失効リストの期限が切れています
7657	アクセプタのサービス形式を識別できません
7658	ターゲットホストでホストの検証を実行できないため、接続を確立できません。
7659	ターゲットホストでホストの検証が失敗したため、接続を確立できません。
7660	ピアプロキシは証明書プロトコルの使用可能な証明書を見つけることができません
8500	Web サービスとの接続が確立されませんでした。
8506	証明書が期限切れになりました。